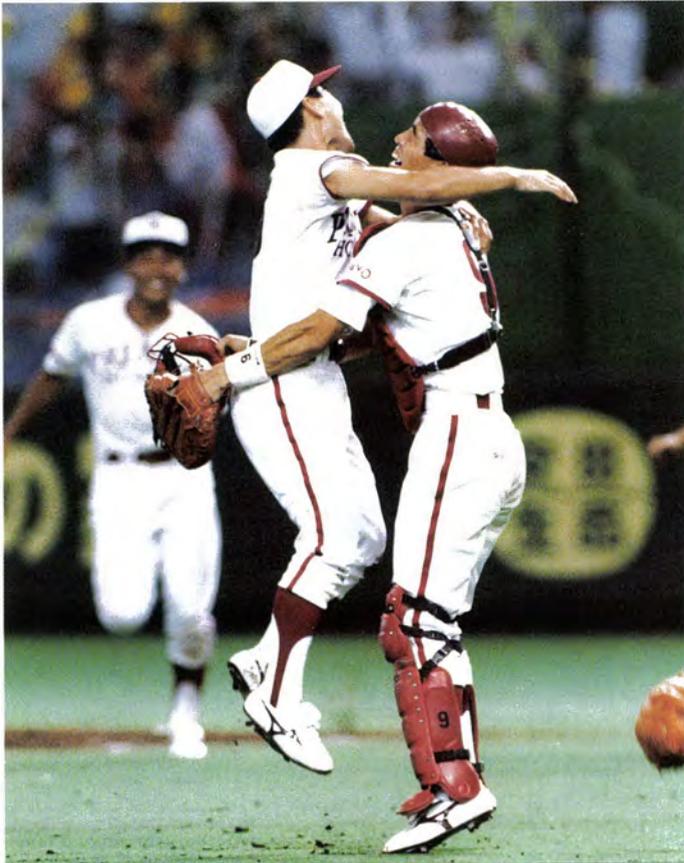


都市対抗野球大会60年史

日本野球連盟
毎日新聞社



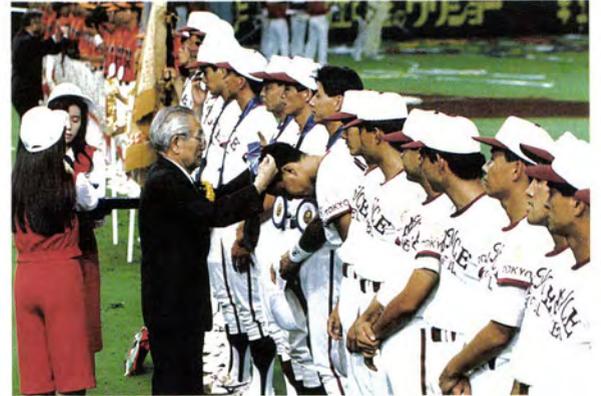
第60回記念大会の開会式、前年度優勝の東芝（川崎市）をはじめ32代表が一斉にホームに行進



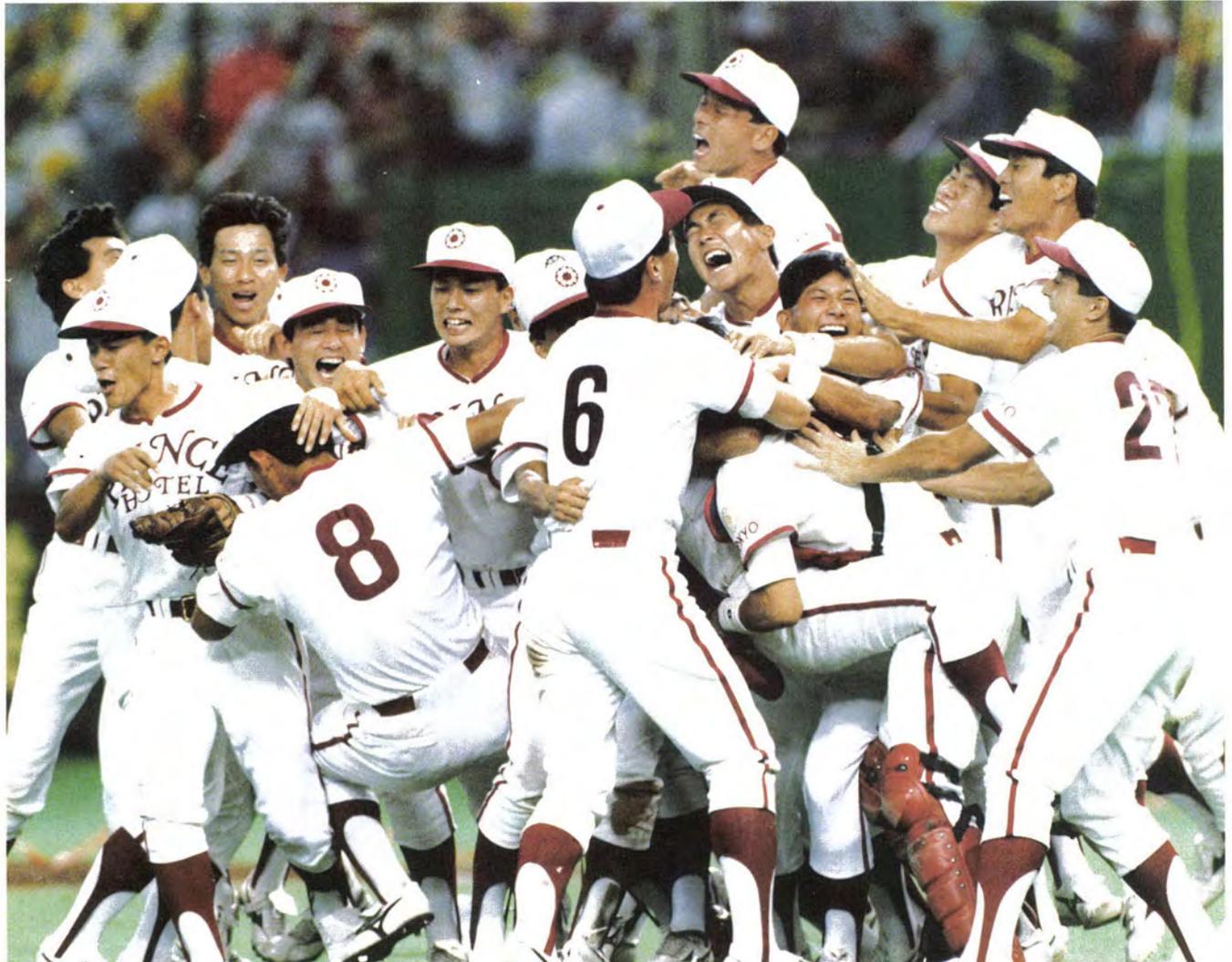
白老町を破り優勝した瞬間、抱き合って喜ぶプリンスホテルの橋本投手と瀬戸山捕手



創部11年目、悲願の初優勝を果たし場内一周のプリンスホテル・ナイン



武田会長から優勝メダルを首にかけてもらうプリンスホテルの選手たち



初優勝の喜びを爆発させ、全員がマウンド付近に集って抱き合う東京都・プリンスホテル・ナイン



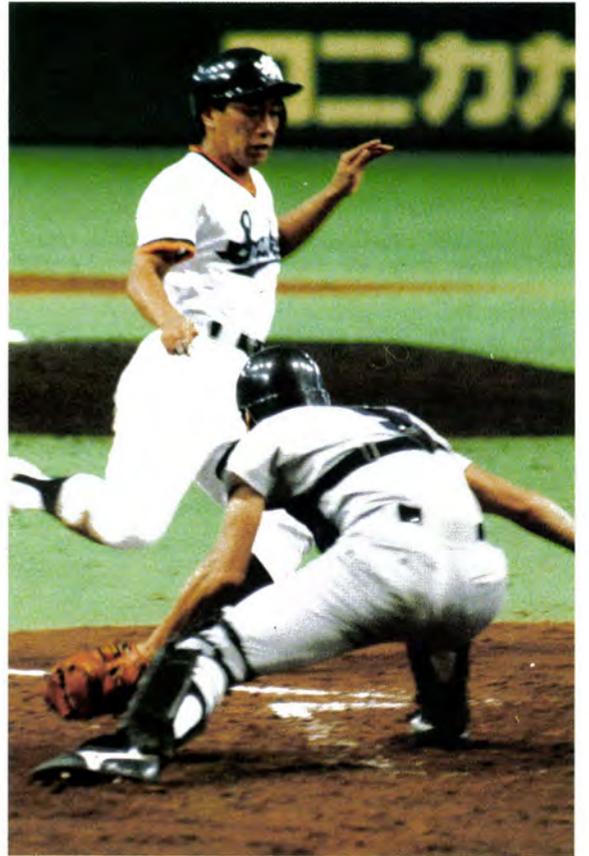
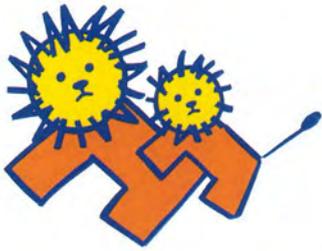
プリンスホテル石山監督を歓喜の胴上げ (上)



5色の紙テープを投げ優勝を喜ぶ応援団 (左)

準優勝に輝く白老・大昭和北海道ナイン (下)





(左上) 浜松市対加古川市。9
回加古川は中村謙の安打で二塁
の陽がホームを突いたがアウト

(左中) 白老町対堺市。1回表
白老は無死一・二塁で酒井が野
茂から先制3ラン。喜ぶサイン

(左下) 門真市対横浜市。延長
10回、二死一・三塁で横浜・増
永投手が痛恨の暴投。打者桑本

(上) 堺市対東京。5回堺は一
死一・三塁に樋口の左横飛で三
塁から松井先選。捕手・黒岩

(右) 東京都対門真市。好投の
松下・潮崎投手に苦んだプリン
スホテルは延長13回一死満塁
に瀬戸山がスクイズ(上)。三塁
から今井が決勝のホームイン





レオタード姿で魅了する門真市・松下電器のチアリーダー



江戸っ子気質をまき散らしイナセな姿で応援する東京都・熊谷組の女子リーダー



カラフルな衣装とユニークな振り付けの踊りでスタンドをわかせた東京都・プリンスホテル



キビキビした動作で拍手をさそった横浜市・日本石油のチアガール



あざやかなラインダンスを披露した白老町・大昭和製紙北海道

黒いドレスでシックなダンス。健康美あふれるチアリーダー。オシャレな門真市松下電器



若さいっぱいの横須賀市・日産自動車（左）
はち切れんばかりの藤沢市・いすゞ自動車

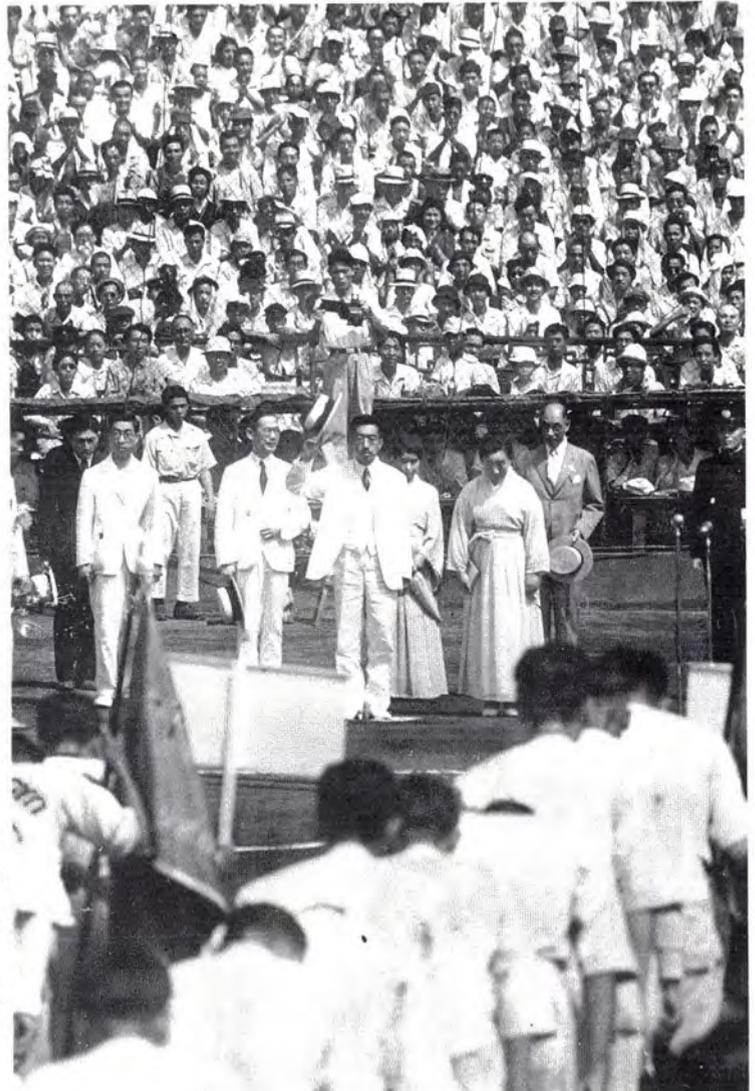


(左) 長崎おくんち祭りに登場する
蛇踊りをスタンドいっぱい披露し
た長崎市・三菱重工長崎

(左下) トリコロールの旗で華麗な
応援をみせた豊田市・トヨタ自動車

(右下) 千葉市・川崎製鉄千葉のチ
アリーダーによる人間ピラミッド





天覧試合

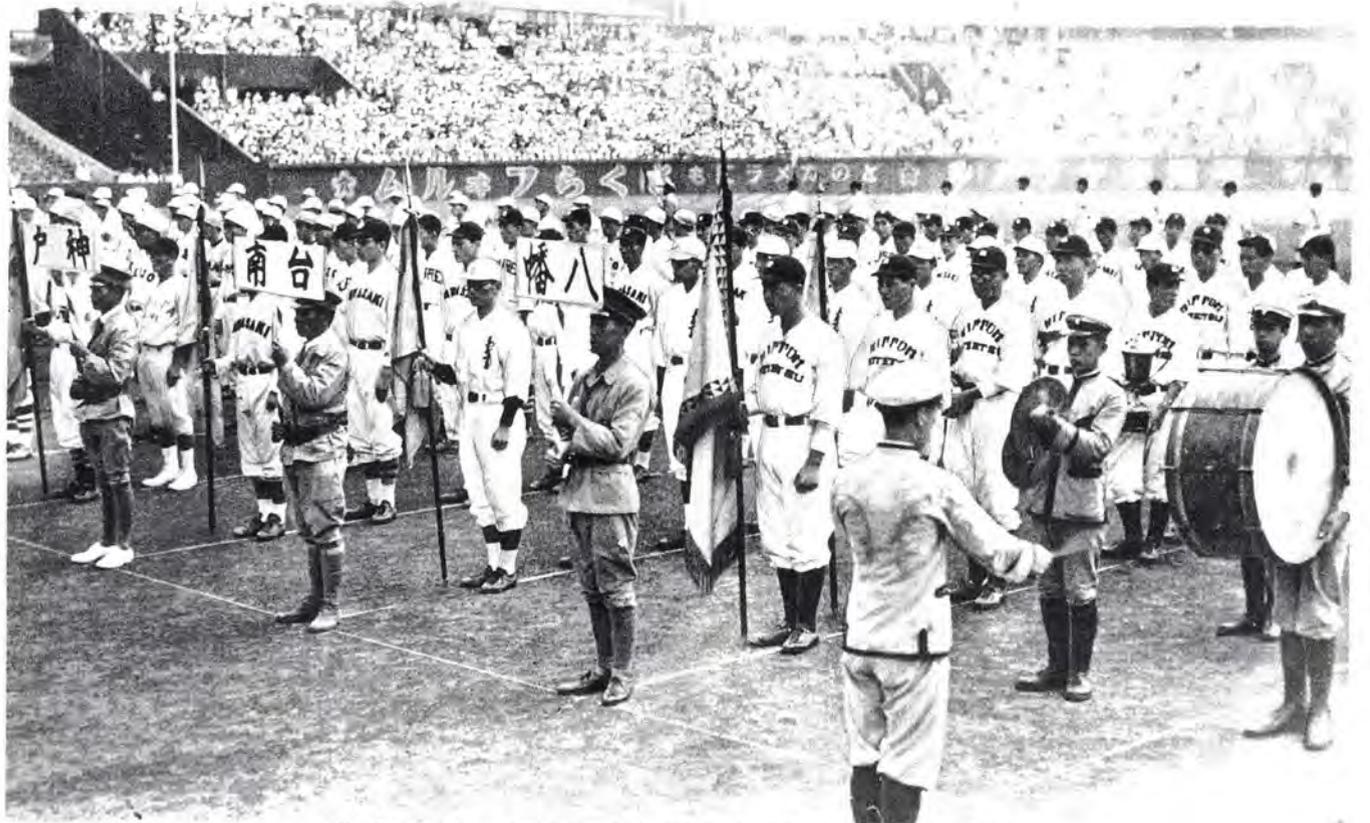
天皇、皇后両陛下（現昭和天皇、皇太后）は第18回大会（昭和22年）と第40回大会（昭和44年）の2回にわたって、都市対抗野球大会をご観戦になった。40回大会では両陛下がロイヤル・ボックスにおすわりになって準々決勝の大阪市・日本生命対太田市・富士重工業戦をご覧になった（上）戦後の動乱期だった18回大会のときは両陛下がグラウンドにお立ちになり、天皇陛下は帽子を振ってスタンドの歓声に応えられ（左）全選手が整列する前で選手宣誓を受けられた（右）そのあと第1試合の岐阜市・大日本土木対豊岡町・豊岡物産戦をご覧になった



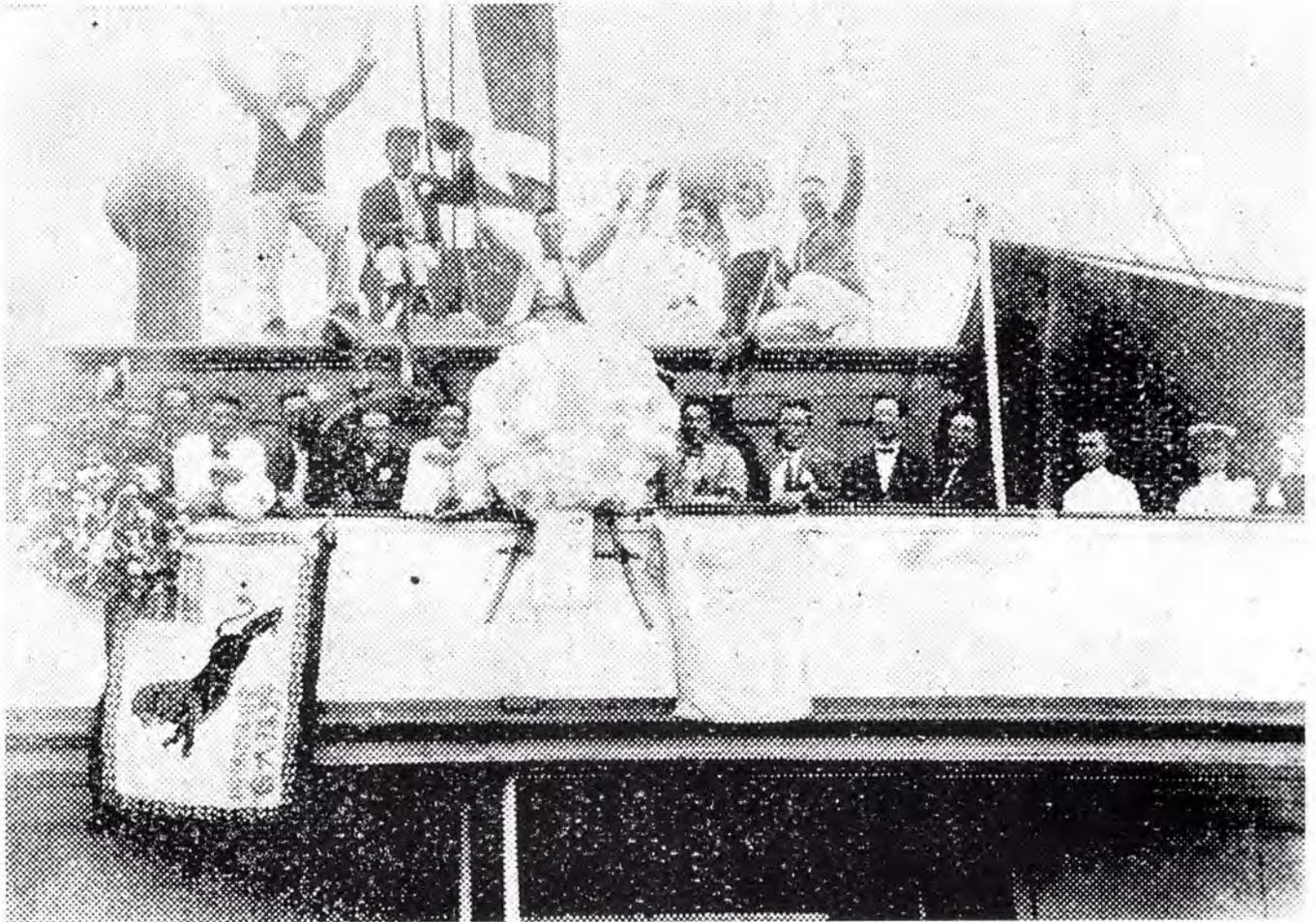
神宮球場で始まった第1回大会では、西久保・東京市長が始球式。後方は小西得郎審判



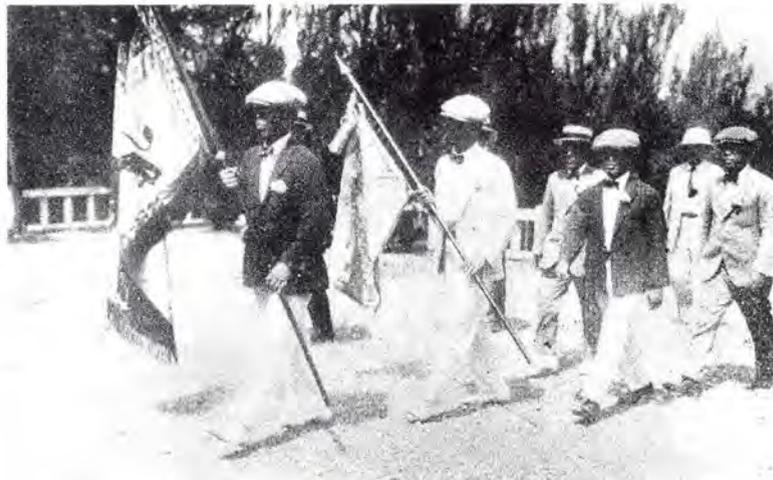
第4回大会で長野が京都を破った瞬間、スタンドの長野勢応援団は総立ちとなって喜んだ



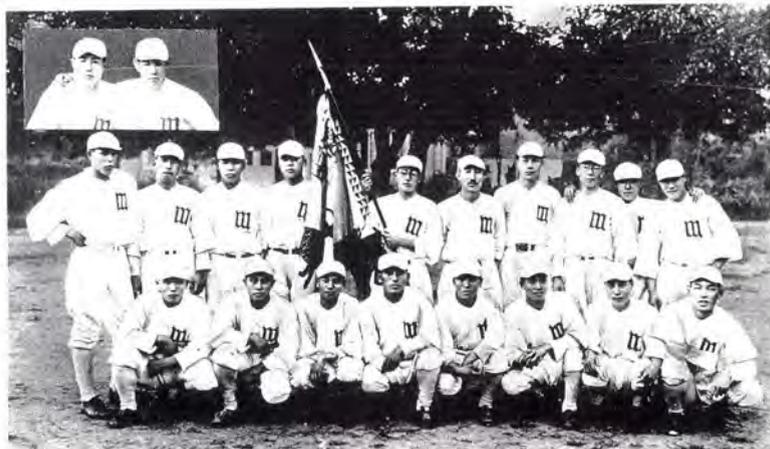
第12回大会の入場式。当時の満州、朝鮮、台湾各地の外地チームも参加、大いに活躍した



第2回大会で優勝した大連実業団チームは、船首に黒獅子旗をかかきつけて船で大連への帰途についた



黒獅子旗を先頭に大連市内をパレードする大連実業団



第1回大会で輝く王座についた大連湾州倶楽部ナイン



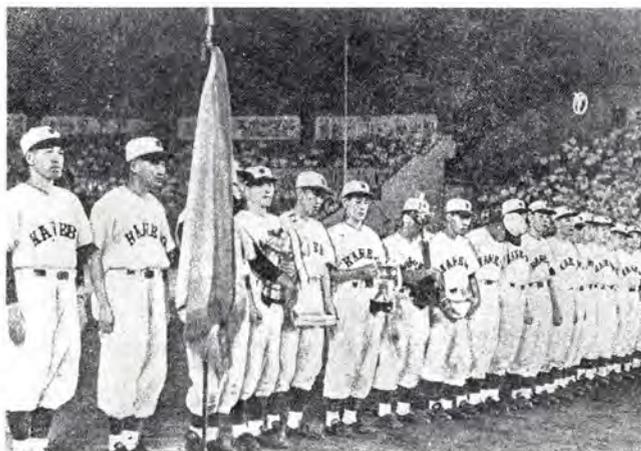
第5回大会。2年連続優勝を果たし場内一周の東京倶楽部ナイン



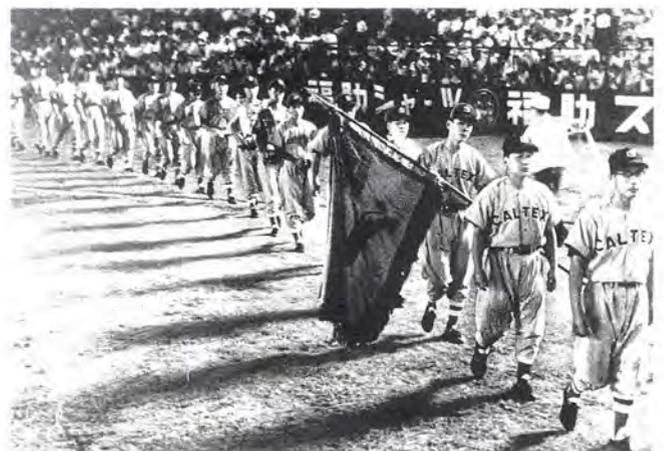
第20回大会。初優勝した別府市・星野組は黒獅子旗を先頭に場内一周



第21回大会。初優勝した大阪市の全鐘紡。3連覇の黄金時代を築く



第26回大会。4度目の優勝を成しとげた大阪市・全鐘紡ナイン



第29回大会。2度目の優勝を果たし、黒獅子旗を掲げて場内一周の横浜・日本石油



第37回大会。3度目の優勝に輝く東京都・熊谷組。先頭は橋戸賞の古田監督兼二塁手



第41回。17年ぶり2度目の優勝を飾った富士市・大昭和製紙



第42回大会。応援団に黒獅子旗をかざし喜びのあいさつをする姫路市・新日鉄広畑

第47回大会。2度目の優勝を果たした川崎市・日本鋼管は内藤主将を先頭に場内一周（下）
 第49回大会。川崎快戦を制して初優勝した東芝は鈴木監督を喜びの胴上げ（右）
 第50回大会。劇的な逆転で熊谷組を破り初優勝に狂喜する広島市・三菱重工広島（右下）

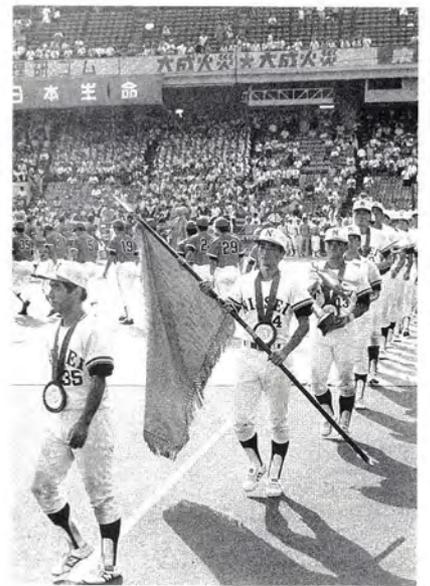




第53回大会。初優勝した和歌山市・住友金属



第55回大会。初優勝した横須賀市・日産自動車



第56回大会。初優勝した大阪市・日本生命



第58回大会。15年ぶり2度目の優勝の浜松市・ヤマハ。抱き合って喜ぶ選手たち



都市対抗の名物男。投げてよし、打ってよしの渡辺大陸投手



神宮をわかせた伝統のヒーロー。東京倶楽部の宮武三郎投手



小さな大投手をうたわれた大連湾州倶楽部
浜崎眞二投手(左)全大阪初優勝の原動力
となった鉄腕・伊達正男投手(上)大連事
業団のエースとして異彩を放った谷口(岩
瀬)五郎投手(右上)東京・藤倉の黄金時
代を築きあげた土井寿蔵投手(右下)



東京市・藤倉電線の2連覇の大黒柱、橋戸賞を受けた吉田正男投手



第14回大会で強烈なデビュー。前年優勝の東京・藤倉電線を倒した撫順市・満鉄倶楽部の川崎徳次投手

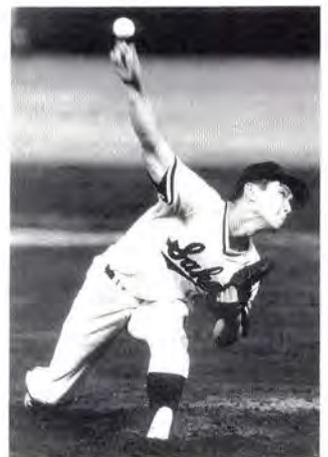


「火の玉投手」といわれ、快速球で別府市・星野組を優勝に導いた荒巻淳投手(上)第25回大会で高砂戦にノーヒットノーランを演じた川崎トキコ・岡本教平投手(右上)第28回大会で史上初の完全試合を記録した二瀬町・日鉄二瀬の村上峻介投手(右中)若きエース、横浜市・日本石油の平松政次投手(右下)



史上初の決勝引き分け再試合を制して喜ぶ富士市・大塚環の安田猛投手(左上)高砂市・鐘淵化学で活躍した谷村智博投手(左中)川崎市・東芝のマウンドを死守した黒紙義弘投手(中上)ルーキーで新日鉄広畑の優勝に貢献した三沢淳投手(右上)20年連続出場の金字塔をうちたてた鈴木政明投手(中左)7色の変化球をもつ川崎市・日本鋼管の古屋智史投手(右下)

第60回大会を代表する投手。
左から潮崎哲也(門真市・松下電器)
与田剛(東京都・NTT東京)
野茂英雄(堺市・新日鉄堺)





都市対抗を彩った思い出の秀打者、好打者たち。その一端をみよう。
戦前のホームラン王は八幡製鉄の大岡虎雄（左上）戦後の本塁打者は大昭和北七海道の高梨英夫（右中）と日本楽器の武居邦生（右下）だ。ミスター都市対抗をうたわれ、チャンスに絶対的バットングをみせた熊谷組・古田昌幸（右上）。日本鋼管の前川善裕（左中）もいたし、全日本で活躍したプリンスホテル・中島輝士も忘れられない。



応援風景



NHKのテレビ小説「おはなはん」が登場した鹿児島市・鹿児島鉄道局



ミナト横浜のムードがいっぱい。横浜市・日本石油のバトンガール



長さ10数mに及ぶ大蛇がなげり歩いた岩国市・東洋紡



華やかな応援合戦はスタンドを彩る。男らしさを発散するのは、おなじみ熊谷組のハシゴ乗り(右) 昭和40年代のはじめには大人気のトランジスタ・ラジオにちなんで、松下電器は小柄な女子社員で「トランジスタ・ガールズ」を編成した(左上) スタンドに涼風を送ったのは七瀬銀行のスズラン娘(右上) 日本通運もみごとな脚線美のラインダンスを披露してスタンドを大いにわかせた



国有鉄道が分割民営化される直前、最後の国鉄チームとして出場した国鉄名古屋は職員が整服装で応援、スタンドの注目を集めた(左上) NHKのテレビ小説、大団ドラマは応援にもすぐ取り入れられ、大垣市・西濃運輸は斉藤道三(右上) 太田市・富士重工業は新田義貞(左下)も繰り出した。浜松名物お合楽器が恒例とするラップ(右中) 電電東京のリズミカルな踊り(右下)は息がそろっている。が、応援で最もパンチ力のあったのが、オール常磐のフラダンス。当時は試合そっちのけで見た(左中)





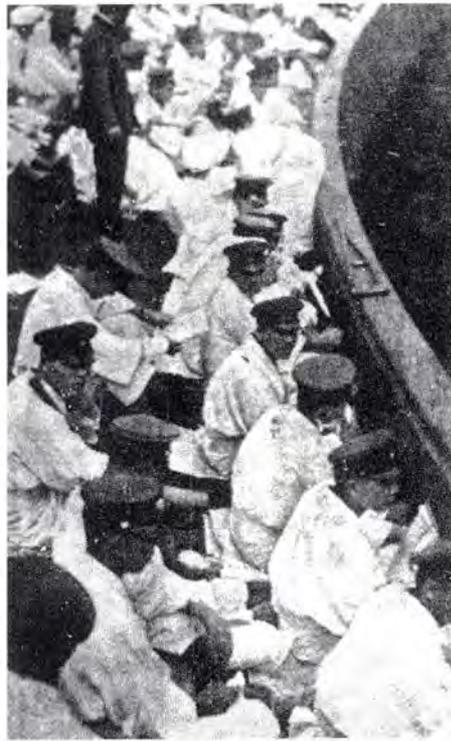
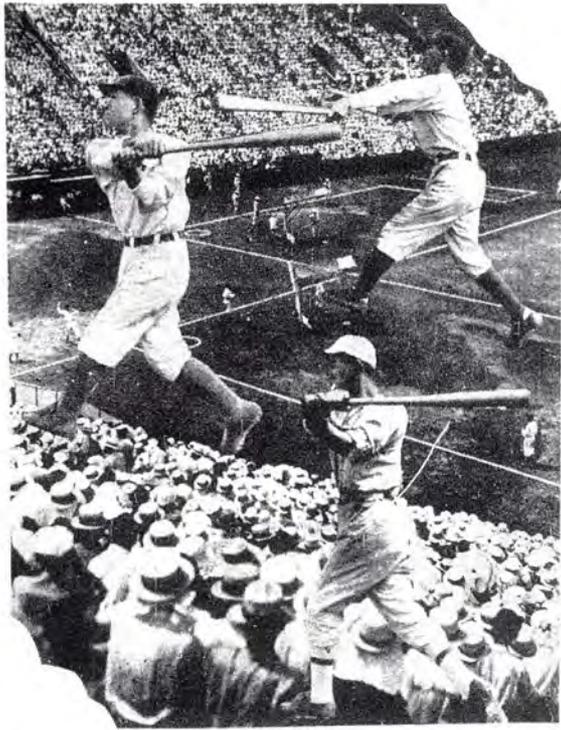
カンカン踊りで応援する大阪市・日本熱学



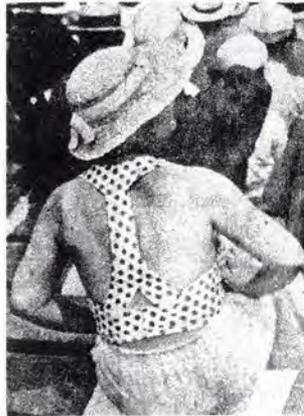
尾張名古屋は城でもつ、とばかり三菱名古屋は金のチャチホコが登場



浜松祭りのハッピー姿で盛りあがる河合楽器の応援ぶり



歴史とともに歩いてきた都市対抗は社会の反映でもあった。戦前は戦いで傷ついた白衣の傷病兵がスタンドで観戦（右上）モガの風調で若い女性ファンも増加した（中段）都市対抗人気に大阪の牧野、三原、八幡の大岡らは連日のように新聞に取りあげられて（左上）グラビアを飾り、そして第4回大会で東京倶楽部が初優勝すると、日本酒の広告に取りあげられた。野球ファン藤原義江さん（右下）らスターも毎日姿をみせた





ファンと応援団で超満員になった後楽園球場のナイトゲーム（第43回大会）



戦時中は武運長久を祈り、黙とうが行われた



元気いっぱいの女性ファン。思わずヤッター!

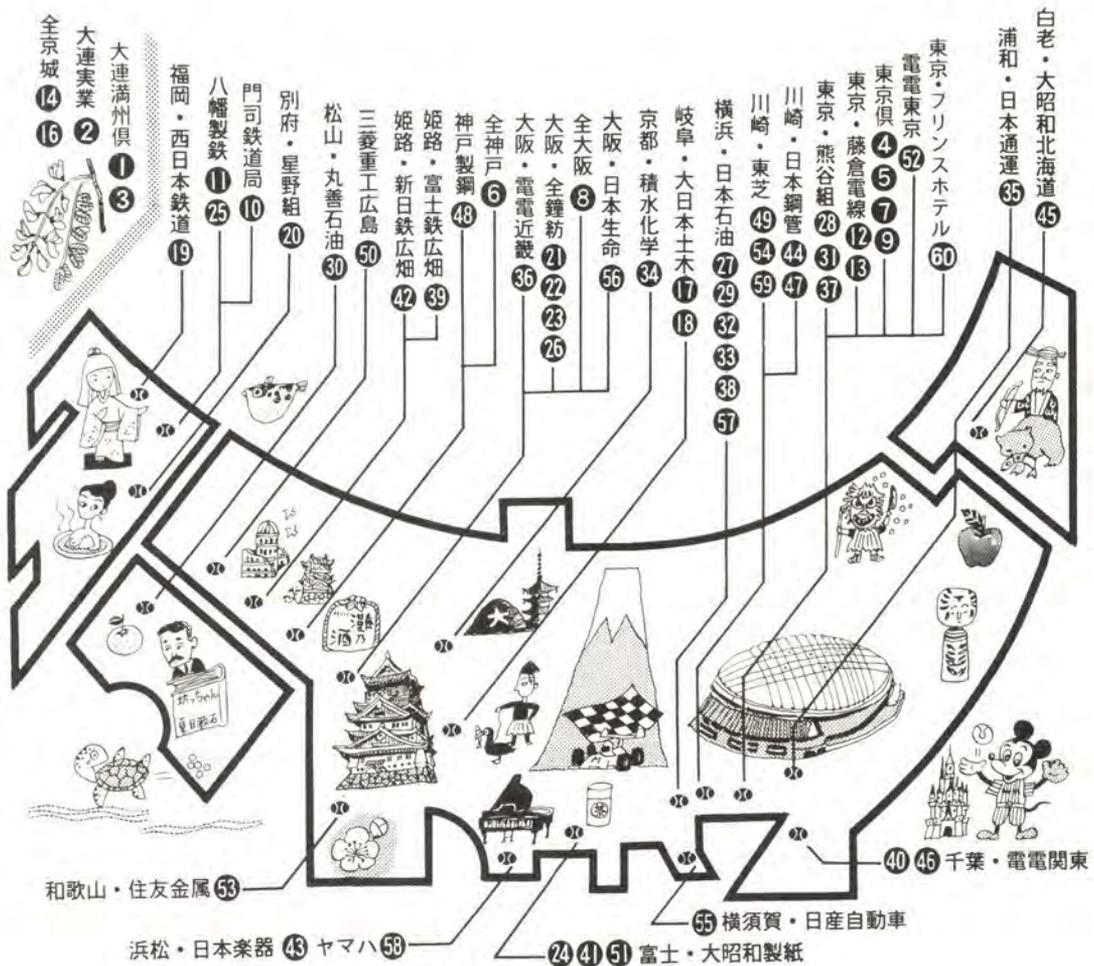


炎天下の熱戦に裸のファン。東京ドームでは今は昔の物語



優勝チーム一覧

(白ヌキ数字は大会回数・15回大会は中止)





ごあいさつ

日本野球連盟会長

武田 豊

昭和2年（1927年）、神宮の森に、全国から12チームが集まり誕生した都市対抗野球大会が、昭和から平成に元号が変わった平成元年（1989年）、輝く第60回大会を迎えることができましたのは、大きな喜びであります。

一口に60回と申しましても、決して平坦な道ばかりではありませんでした。戦火の拡大により予選が行われただけで本大会が中止されたり、不幸な戦争による中断など、多くの困難もありました。

しかし、終戦直後の昭和21年（1946年）夏にはいち早く復活、戦後の荒廃のなかにもかかわらず再開大会が開催されました。暗い社会に投じた光明であり、日本の復興にも大きな役割を果たしたものであります。幾多の障害を乗り越え、戦前のクラブチーム全盛から、企業中心への転換はありましたが、いつの時代にも地元都市と密接に結びつき、社会の巨大なエネルギーとして、回を追うごとに隆盛となりました。後楽園から東京ドームに移った第59回大会では、史上最高の76万余人の観客がスタンドを埋めつくしました。

これはひとえに、歴代役員、関係各位の献身的なご努力と、グラウンドで力いっぱいプレーを披露する選手諸君のたゆまざる研鑽、そして常にあたたかい応援を続けてく

ださるファンの方々のおかげと、深く感謝する次第であります。

私が日ごろ申し上げていることでありますが、我々が創造性を発揮し、日々充実した生活を送るためには、まず何よりも強靱な体力と気力に裏付けられた活力と意志力を必要とします。実りある明日を切り拓き、明るい社会を築きあげるなかで、スポーツ界、野球界の果たす役割は計り知れません。ここに社会人による都市対抗野球大会の意義があると申せましょう。

振り返ってみますと、都市対抗野球連盟が日本社会人野球協会に成長、さらに日本野球連盟に発展し組織も充実いたしました。

ロサンゼルス、ソウルのオリンピックでは公開競技だった野球が、1992年のバルセロナから正式種目となります。わが国においても、アマチュア野球界がこぞって手を携えつつ、都市対抗野球大会の一層の向上をはかることが、国民のご期待に応える道であります。

今後も皆さま方のあたたかいご支援とご協力をお願い申しあげ、ごあいさつといたします。



ごあいさつ

毎日新聞社代表取締役社長
渡邊 襄

都市対抗野球大会は、平成元年（1989年）という新しい年代の始まりとともに、第60回記念大会を迎えました。

第1回大会は昭和2年（1927年）8月でした。当時、野球は大変な人気でしたが、プロ野球はまだなく、熱狂的ファンを持つ東京六大学や中等野球（今の高校野球）の名選手の姿を再び見たい、という声が盛り上がっていました。この気運を察した東京日日新聞社（毎日新聞社の前身）が「米大リーグのように都市を背景にした大会を開こう」と全国の実業団、クラブチームに呼びかけ、12チームを集めて開催したものです。試合は熱戦に次ぐ熱戦、スタンドは渴望久しかった野球ファンで超満員になりました。

以来、62年の歳月を経過しました。戦火の拡大で、地区予選が終わったあと、本大会が中止になったこともありました。昭和18年から20年までの3年間は、大会中断のやむなきに至りました。しかし、野球への情熱は衰えることがありませんでした。終戦の翌年、昭和21年5月には、早くも200余のチームが再結成され、練習を開始した、と毎日新聞は伝えています。同年8月、選手それぞれ米持参の16チームが後樂園球場に集まり、第17回大会を開いています。そのあとは途切れることなく、人間でいえば還暦の60回大

会を迎えることができました。

私は日ごろから、都市対抗野球ほど、レベルが高くて、面白い野球はほかにないと思っています。年に1度、し烈な地区予選を勝ち抜いたチームがぶつかり合います。トーナメント方式のため、どんなに力があっても、負ければ球場を去らねばなりません。終盤の攻防は期待と不安で見る者の胸を締めつけます。応援合戦は華やかで楽しく、特色の一つになっています。こうした条件の中、ベンチ、選手、スタンド一体となった闘志が数々の名勝負や熱いドラマを生みました。パルセロナ五輪から野球が正式種目になるので、新たにオリンピックへの登龍門としての要素が加わります。

出場「都市」の地方自治体や市民、ファンのみなさんのご声援が大会を盛り上げてきました。クラブチームや企業チームの熱意と、審判の方々をはじめ関係者のご尽力が大会を支えてまいりました。長年にわたるご支援に心から感謝いたします。

ここに「60年史」を刊行し、歴史を振り返るとともに、輝かしい未来を切り拓く礎にしたいと決意を新たにしている次第です。

都市対抗 優勝都市・チーム	1
ごあいさつ 日本野球連盟会長 武田 豊	2
ごあいさつ 毎日新聞社社長 渡邊 襄	3
第1回大会 興奮 陶酔・黒獅子旗の誕生	6
都市対抗の思い出 日本野球連盟副会長 山本 英一郎	9
第2回大会 また大連勢! 東京の夢砕く	10
戦争中の大会のあれこれ 日本野球連盟副会長 松井 徳三	13
第3回大会 3年連続 大旗は海越え	14
クラブチームの一層の発展を 北海道連盟会長 中原 哲男	17
第4回大会 地元東京 悲願の優勝	18
久慈先輩に頂いた鹿皮ジャンパー 東北連盟会長 長沢 正夫	21
第5回大会 6大学の花形揃え連覇	22
裏方の都市対抗 関東連盟理事長 東保 秀喜	25
第6回大会 準優勝讃え白獅子旗誕生	26
第7回大会 初のMVPは東京の真野	30
第8回大会 雌伏7年 大阪雄叫び	34
第9回大会 満州含め予選制スタート	38
第10回大会 門鉄が企業チーム初V	42
大感激の初出場 中部連盟会長 河合 滋	47
第11回大会 暗い時代へ…2チーム欠場	48
第12回大会 神宮の森から後楽園へ	52
第13回大会 大陸の戦火拡大 相次ぐ欠場	56
第14回大会 全京城 悲願の初優勝	60
第15回大会 無念 ついに本大会中止	64
都市対抗の一層の盛況を 四国連盟会長 稻原 幸雄	64
悲喜交々の都市対抗 東海北陸連盟理事長 服部 力	65
第16回大会 “外地”参加最後の大会	66
都市対抗のヒーロー 松尾俊治	70
第17回大会 平和復活! 野球への情熱	72
第18回大会 本塁打も飛んだ初の天覧試合	76
40回で2度の感激 近畿連盟副会長 五十嵐 義臣	81
第19回大会 大会隆盛 初陣も9チーム	82
感無量の長い掛け合い 中国連盟会長 池田 立人	87
第20回大会 協会発足 祝砲27アーチ	88
3度の全国優勝 九州連盟会長 水野 勲	93
第21回大会 補強制度でパワーアップ	94
戦後球界に「世界への道」を開いたマッカーサー元帥の側近たち 加藤 毅康	99
第22回大会 企業が本腰 初顔実に12チーム	100
幻のツーランホームー 日本石油 建内 保興	105
第23回大会 全鐘紡 史上初の3連覇	106
都市対抗野球に敬意と感謝 大昭和製紙 斎藤 了英	111
第24回大会 優勝チームはハワイ遠征	112
戦前、戦後の都市対抗に参加して 全鐘紡 牧野 直隆	117
第25回大会 記念大会に最多の25チーム	118
第26回大会 全鐘紡4度目! 大会タイ	124
第27回大会 東日本勢17年ぶりの大旗	130

第28回大会	5戦無失点の完全優勝	136
第29回大会	奇跡の逆転で横浜波乗り	144
忘れ難い東京倶楽部を破っての優勝	全大阪 伊達 正男	151
第30回大会	初めて四国へ黒獅子旗	152
第31回大会	初出場わずか1チームだけ	160
第32回大会	予選で次々と強豪敗退	168
第33回大会	連覇の横浜 5試合零封	176
第34回大会	伏兵京都市が逆転V	184
第35回大会	五輪の年 記念大会に32チーム	192
第36回大会	8強に西日本勢7チーム	200
第37回大会	3連続サヨナラ勝ちで黒獅子旗	208
第38回大会	最多V支えた快腕19歳 平松	216
第39回大会	実力均衡 14試合が1点差	224
第40回大会	華やかにナイター開会式	232
鮮明に思い出す都市対抗	全藤倉 吉田 正男	241
第41回大会	決勝 大会初の引き分け再試合	242
第42回大会	1年生バッテリーに小野賞	250
第43回大会	常連チーム続々初戦敗退	258
第44回大会	首都圏ドーナツ型4強決戦	266
第45回大会	大旗初めて津軽海峡渡る	274
第46回大会	3賞独占 18歳ルーキー・丹	282
第47回大会	人工芝にマスコットガール登場	290
第48回大会	神戸市に45年ぶりに黒獅子旗	298
第49回大会	川崎決戦 東芝に初の栄冠	306
第50回大会	金属バット!本塁打62本も	314
第51回大会	8強に東日本勢7チーム	322
第52回大会	雌伏…15回目で電電東京初V	330
第53回大会	頂点へ甲子園連覇バッテリー	338
第54回大会	史上初 親子二代の橋戸賞	346
第55回大会	打った打った!本塁打78本	354
第56回大会	出場31回 ついに黒獅子旗	362
第57回大会	決勝に出れば優勝!6回目	370
第58回大会	最後の後楽園 別れの砲音95発	378
第59回大会	ドーム元年満員札止め	386
第60回大会	プリンスついにキングになった	394
都市対抗は私の人生だ	熊谷組 古田 昌幸	404
日本社会人野球協会発足のころ	岩崎 恒	405
私と都市対抗野球	鈴木 美嶺	406
黒獅子旗“奇談”		407
橋戸賞 久慈賞 小野賞 若獅子賞 応援団コンクール 受賞者一覧		408
大会表彰者		410
10年連続出場選手一覧		414
60回の決勝戦記録		415
都市対抗記録		416
球宴 人物マップ		418
都道府県別出場チーム一覧		綴込

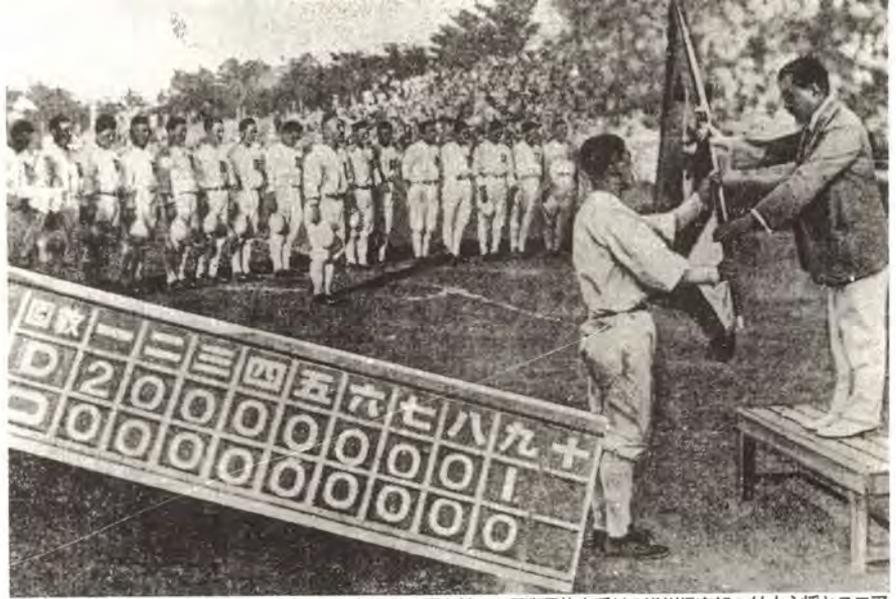
大連市 (満州倶楽部)

2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大阪市 (全大阪)

【大連市】	打安点振球	【大阪市】	打安点振球
⑨ 木原	4 1 0 0 0 1	⑧ 二出川	4 0 0 1 0
③ 原田	4 0 0 1 0	⑥ 加藤	4 0 0 0 0
⑧ 水足	4 0 0 1 0	③ 三永	4 0 0 1 0
⑦ 氷片	4 1 2 0 0	① 永井	3 1 0 0 1
② 神室	4 0 0 0 0	④ 西井	3 0 0 0 0
⑤ 岡井	4 2 0 1 0	⑤ 西川	3 0 0 1 0
⑥ 中井	2 0 0 1 0	⑨ 中山	3 0 0 1 0
⑤ 南井	4 1 1 1 0	⑦ 藤尾	2 0 0 1 1
① 中井	4 0 0 1 0	⑦ 藤尾	3 0 0 1 0
④ 壺	4 0 0 1 0	② 三田村	3 0 0 1 0
	34 5 3 6 1		29 1 0 6 2
犠併残盗失	2 1 7 0 4	犠併残盗失	1 0 5 3 5
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
児玉	9 32 1 6 2 0	永井	9 37 5 6 1 1

▽2時間10分



第1回大会に堂々の優勝を果たし、東京日日新聞社の岡主幹から黒獅子旗を受ける満州倶楽部の竹中主将とスコア

快投児玉が1安打完封

大連は1回、木原が初球を狙い打って一・二塁間を破った。正田はバント失敗のあと強振、遊ゴロとなったが確失に恵まれて一・二塁。さらに捕逸もあって二・三塁とチャンスを広げ一死後氷室が中前に快打して2者を迎え入れた。永井は先頭打者に安打され、味方のミスもあって、立ちあがりいつもの落ちつきがなく強打の氷室に初球、2球目と外角同じコースでストライクを取りにいき、適時打を浴びた。

大連・児玉は速球とカーブの制球力で大阪打線を抑えた。大阪は2回敵失に四球と盗塁をからめ、無死一・三塁と絶好機をつつたが、三田村のスライズが空振りして三塁走者が狭殺され、児玉の力投に後続を断たれたのが痛かった。大阪は4回にも敵失と永井の右前安打で一死一・三塁とした。平井の右前に飛



第1回大会を制した満州倶楽部の中沢監督(右)

んだ打球は当然安打と思われる当たりだったが、大連の右翼手・木原は前進した前進、最後はスライディング・キャッチして、一塁に送球、併殺に仕止めた超美技が試合を決めた。

大連は9回、中井が右前打。バントで送ると、児玉が中前にはじき返す適時打を放ちトドメを刺した。

成功喜ぶ橋戸さん

第1回大会はドラマチックな好試合の連続で、予想以上の人気となった。“都市対抗生みの親”ともいえる橋戸碩鉄氏は、東京日日

新聞に次のような総評を掲載、成功を喜んだ。

12都市対抗とうたったものの、その内容は果たしてどんなものか。目の肥えた東都のファンの前に立って、おくれを取るようなことはあるまいか。戸山ヶ原あたりで日曜日ごとに戦っているチームと大差ないものではあるまいか。今にして思えば、甚だ失礼の至りであるが、私は直接この計画を成就するに当たりながらも、以上の如きは杞憂はあった。

しかるに幕が開き、大阪対横浜の試合を見ると、前者は名投手・永井君を陣頭に押し立て、横浜は明大で培われた長友君を以てこれに対抗せしめ、堂々たる戦いぶりファンをうならせた。

東京対仙台の一戦も至極おもしろく、大連対京城戦に経ては、六大学リーグ戦以上のセンセーションをまき起したといっても過言ではなかった。

第1回にしてこの充実、この盛況をみせたのであるから、今後益々向上発展を遂げるに相違ない。毎年8月上旬における一大年中行事としてファンを熱狂させるであろう。

チーム、ファン、主催者の三部合奏が今後一糸乱れざる階調を持して展開せんことを球界のために祈る。

海渡るとも悲しむなかれ

第1回大会で輝く優勝を果たした大連満州倶楽部・中沢不二雄監督が開会式で、満員のファンにむかって行った演説は人々の胸をうった。「仁侠ある江戸っ子ファンよ、男気の江戸っ子ファンよ。黒獅子旗取らざる、黒獅子旗海を渡るとも悲しむなかれ。玄海灘を過ぎ、南満の地にへんぼんとひるがえるとき、在満40万同胞の感激はいかばかりや」。

戦後プロ野球のリーグが分裂したとき、パ・リーグの会長をつとめた豪快な野球人だったが、この挨拶は面目躍如。



開会式の模様を報じた昭和2年8月4日付けの新聞

松岡洋右さんの卓見

大連・大阪決勝戦にネット裏に現われ、その熱戦ぶりを身じろぎをみせずに見守ったのが松岡洋右・新満鉄副社長(のち外相)。

一投一打に大歓声をあげるファンを目のあたりにして、「千万の外交官が外国をウロウロするより、このような野球チームが渡米して奮闘した方が、どれほどいいかわからぬ」の感想。

自身が外交官であっただけに、日米における野球の発展と、その国際性を見抜いたのはさすが。

M E M O

◇1ゲーム最多安打15 準決勝の大連・満州倶楽部対札幌ワゴナー戦で大連が記録した。

◇大会第1号本塁打 大会第2日の第1試合、東京倶楽部対仙台鉄道局戦の3回一死一塁で、東京・三宅大輔二塁手が、仙台・菅原投手から、右中間をゴロで破るランニング本塁打を放って記録した。

1 回戦

横浜市 (全横浜)	
0 0 1 0 0 0 0 1 0	2
0 0 0 3 0 0 0 0 X	3
大阪市 (全大阪)	

【横浜市】	打安	【大阪市】	打安
⑨ 飯田	40	⑥ 浜崎	40
⑦ 木村	42	④ 尾井	40
⑧ 瀨青	41	① 藤永	43
⑤ 三野	41	③ 長三	40
② 浜丸	41	⑨ 三山	41
③ 田丸	20	⑤ 西三	41
③ 小山	20	⑦ 山七	32
⑥ 岩井	30	⑧ 里中	32
④ 山本	10	② 三村	30
H 岡部	00		339
4 共	30	振球機盗失残併	
① 佐美	21	4 0 0 1 2 6 0	
④ 宇加	10		
4 6 藤田	10		
H 細田	10		
	337	▽二塁打 浜野 永井	
振球機盗失残併	7 3 1 1 1 8 0	三木 三村	▽1時間42分

1 回戦

東京市 (東京倶楽部)	
0 0 2 0 0 0 0 0 3	5
0 0 0 0 0 0 0 3 0	3
仙台市 (仙台鉄道局)	

【東京市】	打安	【仙台市】	打安
⑧ 高藤	52	⑧ 大岡	51
④ 三宅	21	⑥ 根来	51
4 6 村垣	31	③ 三輪	30
4 松村	00	⑨ 花井	32
④ 4 福山	21	① 三菅	20
⑥ 4 侯野	51	⑦ 菅原	30
③ ⑤ 山侯	31	⑤ 畑	31
① ② 新柳	41	② 小坂	41
⑨ 柳	40	④ 菊地	00
⑦ 荒井	41		326
	3610	振球機盗失残併	
振球機盗失残併	4 1 0 1 3 5 0	8 3 3 0 0 8 0	
		▽本塁打 三宅(菅原)	
		▽二塁打 荒井 小坂	
		▽1時間50分	

1 回戦

京城市 (竜山鉄道局)	
0 0 3 0 0 0 0 1 3	7
2 2 0 0 0 0 0 4	8
大連市 (満洲倶楽部)	

【京城市】	打安	【大連市】	打安
④ 西村	44	⑨ 木原	31
⑧ 今岡	53	③ 足水	31
⑥ 関	41	⑦ 室神	31
⑨ 網干	21	⑧ 水二	41
③ 益	41	② 片中	41
③ 児島	41	⑤ 二片	41
⑦ 小幡	31	① 石井	20
② ① 後永	40	H 関川	00
1 藤木	00	H 上政	20
1 藤下	00	H 宗南	11
⑤ 熊代	20	④ 城	31
	3211	振球機盗失残併	
振球機盗失残併	6 6 3 2 3 7 0	2 5 4 1 2 5 0	
		▽三塁打 西村 疋田	
		▽二塁打 水室 関	
		網干益	▽2時間35分

1 回戦

名古屋市 (名古屋鉄道局)	
0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 1	3
0 0 0 0 0 1 0 0 1 0 0	2
福岡市 (九州鉄道)	

【名古屋市】	打安	【福岡市】	打安
⑥ 藤原	51	⑧ 原田	51
⑤ 浦	40	③ 川木	52
③ 三齊	40	⑨ 青木	40
⑨ 高山	51	⑤ 富生	40
⑦ 山本	10	⑦ 久安	52
⑧ 牧野	00	① 安田	41
④ 藤原	41	④ 花井	41
② 喜多	30	⑥ 土田	40
① 武田	41	② 泰	40
	375		408
振球機盗失残併	119 2 4 4 10 0	振球機盗失残併	6 0 1 2 1 6 0
		▽三塁打 高須 藤原好	
		▽二塁打 小川 花田 山本	▽2時間10分

準々決勝

門司市 (門司鉄道局)	
1 0 1 0 1 0 0 4 1	8
0 0 0 0 0 0 0 1 0	1
呉市 (全呉)	

【門司市】	打安	【呉市】	打安
⑧ 神川	30	③ 浜本	41
⑥ 浦田	42	② 泥木	10
③ 三有	42	⑤ 上安	30
⑨ 久有	31	⑧ 藤迫	40
① 久有	50	⑦ 才阿	41
⑤ 西岡	51	④ 野波	41
② 西岡	52	⑨ 1 井	30
④ 杉井	51	⑥ 野波	30
⑦ 安井	42	① 栞	31
	3811	⑨ 栞	00
振球機盗失残併	1 5 2 4 1 10 1	振球機盗失残併	325
		6 2 1 0 6 7 2	
		▽三塁打 藤村 児玉	
		▽1時間50分	

準々決勝

札幌市 (ワゴナー)	
1 0 0 0 0 0 0 0 2	3
2 0 0 0 0 0 0 0 0	2
神戸市 (全神戸)	

【札幌市】	打安	【神戸市】	打安
⑤ 安藤	10	⑦ 柳川	20
5 藤子	30	⑤ 田川	30
④ 金児	30	④ 政田	40
② 朝妻	30	① 高小	41
③ 朝妻	31	⑨ 小友	40
① 朝妻	41	⑥ 小友	30
⑨ 朝妻	41	② 小友	31
H 朝妻	10	③ 長谷	20
⑥ 加中	40	⑧ 川	31
⑦ 朝妻	20		283
7 朝妻	21	振球機盗失残併	
⑧ 齊藤	31	4 3 1 1 6 3 1	
	324	▽二塁打 矢村	
振球機盗失残併	5 3 2 2 3 7 2	▽1時間16分	

準々決勝

大阪市 (全大阪)	
0 0 0 0 0 0 0 3 0	3
0 0 0 0 1 0 0 0 0	1
東京市 (東京倶楽部)	

【大阪市】	打安	【東京市】	打安
⑧ 二出川	51	⑦ 荒井	40
⑥ 加藤	51	④ 崎	40
① 永井	21	⑥ 山崎	41
③ 永長	30	⑨ 河山	20
⑨ 三富	32	⑨ 新田	10
④ 三富	21	③ 1 新田	30
⑤ 浜藤	30	H 野田	10
H 藤山	00	① 3 野田	30
② 藤山	00	⑤ 田	20
⑦ 三田	30	② 藤	20
7 高浜	20	⑧ 藤	32
7 西里	20		293
	306	振球機盗失残併	
振球機盗失残併	2 6 2 0 1 8 0	10 3 1 2 3 5 2	
		▽二塁打 山崎	
		▽2時間5分	

準々決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)	
0 0 0 0 0 0 0 1 0	1
1 0 1 0 1 2 1 0 X	6
大連市 (満洲倶楽部)	

【名古屋市】	打安	【大連市】	打安
⑥ 藤原	42	⑨ 川	31
⑤ 浦	31	③ 緑	41
③ 三齊	40	⑧ 田	42
⑨ 高山	40	⑧ 神	00
⑦ 山本	41	⑦ 8 室	41
⑧ 牧野	42	② 7 水	41
④ 藤原	40	⑤ 5 中	32
② 喜多	30	④ 4 室	40
① 武田	30	① 1 井	40
	336	⑥ 8 山	40
振球機盗失残併	4 1 0 1 3 6 0	⑧ 城	348
		振球機盗失残併	5 2 1 3 1 7 0
		▽三塁打 片岡	
		▽二塁打 疋田 水室	
		▽1時間43分	

準決勝

大阪市 (全大阪)	
0 2 2 0 3 0 1 1 0	9
0 0 0 0 0 0 0 2 0	2
門司市 (門司鉄道局)	

【大阪市】	打安	【門司市】	打安
⑧ 二出川	52	⑧ 神川	40
⑥ 藤木	50	⑥ 浦田	42
③ 加藤	54	③ 三有	40
① 三西	31	① 3 有	21
⑦ 1 西	10	⑨ 5 1 有	00
④ ⑦ 墨平	41	⑤ 1 3 有	00
⑦ 藤栗	11	① 5 5 有	31
⑦ 7 藤栗	10	② 1 5 3 有	40
⑤ 5 山	32	④ 2 2 有	21
② ② 山	10	⑦ ⑦ 有	30
⑤ ⑤ 山	10		20
② ② 山	41		285
⑨ ⑨ 山	40	振球機盗失残併	
	3712	5 9 0 2 3 6 0	
振球機盗失残併	4 2 4 4 1 7 1		
		▽三塁打 西川 山中	
		三田村 二出川	▽2時間15分

準決勝

札幌市 (ワゴナー)	
0 0 0 0 0 0 0 0 2	2
1 0 2 5 7 1 0 0 X	16
大連市 (満洲倶楽部)	

【札幌市】	打安	【大連市】	打安
② 尼島	40	⑨ 3 木	61
⑤ 6 朝妻	30	③ 3 原	33
③ 朝妻	30	⑧ 9 政	21
① 9 朝妻	40	⑧ 8 7 神	32
⑨ 朝妻	20	⑦ 7 室	32
5 加中	20	⑦ 7 水	32
⑥ 1 加中	42	② 2 伊	10
④ 4 金	20	② 2 片	32
H 安	10	② 2 坂	10
⑦ 7 朝妻	20	⑤ 5 城	10
⑧ 朝妻	20	① 1 井	41
	40	④ 4 石	31
	332	⑥ 6 井	40
振球機盗失残併	8 4 1 2 9 9 0	⑥ 6 中	10
			4215
		振球機盗失残併	
		1 5 1 4 4 8 0	
		▽三塁打 疋田 片岡	
		緑川	▽1時間45分
		▽二塁打 二神	

満洲倶楽部の中沢監督 (昭和2年)



都市対抗野球の思い出

日本野球連盟副会長 山本英一郎



都市対抗の永い歴史をふり返ってみて、脳裏に深く刻まれていることは、鐘紡の3年連続優勝の偉業と、日本石油が6回の最多優勝の栄誉に輝いたことである。

その日石が5度目の優勝をなした翌年の昭和43年、第39回大会の準決勝で河合楽器と対戦して、あわや放棄試合にもなりかねない事件が起きたことが一番強く印象に残っている。

試合は3対1で7回まで河合のリードで進み、予断を許さない白熱した好ゲームだった。8回、日石の攻撃で一死後、安打で出塁の枝松道輝君を塁上において、4番の秋元国武君が左中間スタンドの奥深く豪快なホームランを打ちこんだ。これで3対3の同点になり、後楽園球場が沸きに沸いた。とその直後、秋元選手が二塁ベースを踏まなかったとのアピールが河合の内野手からなされた。二塁塁審の西大立目永君は打球を追っていて触塁を見ていないから、一塁塁審の菅太一君がこのアピールを正当と認めてアウトが宣告された。さあ大変なことになった。“幻のホームラン”となり、得点は1点どまりとなり3対2で河合のリードのままとなった。

勿論直ちに日石の北崎健二監督が抗議して二塁への触塁は正確であり、従って判定の訂正を求めた。4人の審判員が協議の結果、一塁塁審の判定を支持して日石の抗議を退けた。しかし日石は判定を不服として抗議が延々とつづき、56分も費やされた。

当時私は審判委員長職にあつたので、重大な事態の推移を三塁側の控室でじっと見守っていた。やがて日石チームは全員がダックアウトを引揚げて、球場の玄関口に向い、バスに乗り込む事態になった。私は走って玄関に廻り、時の日石野球部長である建内保興氏（現在の日本石油会長）を呼び止めた。そして別室に招じ入れて、2人だけで事態収拾について話合った。

建内さんはホームランの正当性を述べられるし、私は一旦下された審判員の判定を支持する旨を話し、平行線となったのは当然である。私は再度、すべてのスポーツは審判員に判定を委すのがルールなのだから、不満があっても従

って欲しいこと、更に重大なことはもしこのまま日石が試合を放棄すると、アマチュア野球規則によりチームに何らかの罰則が適用されることになる。そうしたら名門である日石チームを一時的にせよ失うことになり、大変な汚点を残すので是非とも避けたいと心をこめて説明した。

2、3分が経過しただろうか、建内さんが私にタバコを所望された。そのとき私は内心ホッとした。建内さんは中学、高校と野球選手を経験されたので、充分野球の規則も熟知されている立派なスポーツマンであったから。私は次にでてくる言葉を緊張して待っていた。やがて『君が追いかけてこなかったら、サッサッと引揚げていたよ。マネジャーの渡辺政司を呼んでくれ』と言われ、渡辺君にバスの中にいる北崎監督を呼ぶように指示された。そして4人が揃ったら建内さんが『北崎、しょうがねえぞ。試合を続行しよう。まだ負けたわけではない』と言葉短く、しかも論ずように話された。

試合が再開されたが結果は日石がそのまま2対3で涙をのんだ。ここまでの情景は私も今まで誰にも話していなかった。建内さんと私2人だけの腹藝であったと思う。20年がたった今、静かにふり返ってみて、60年の歴史を誇る都市対抗の中でも、本当にきわどい場面であったと思っている。そして更に誇りに思っていることを申しあげよう。

あのような険悪な空気の56分間、両軍スタンドの応援団は過激な行動をとる者もなく、整然と応援歌の交換をくり返し、また一般ファンも1人としてグラウンドになだれこむ者もいなかったことである。見事な指揮統制に感謝するばかりで、特に判定に不服であった日石応援団には唯々敬服いたしました。

それから後に、建内さんとお会いする度に野球の話題になると“幻のホームラン”がでた。私は秋元君が二塁を踏んでいたのか、いないのかは今でも判らない。神様だけが知っているだろうとお話した。いづれにしても過去5回の優勝が建内部長在任中の栄誉であったその人が、この事態に試合続行の苦しい決断をなされたことに対し、今改めて感謝申し上げたいと思います。

決勝

東京市 (東京倶楽部)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	0	x	1	
大連市 (大連実業団)									

【東京市】	打安点振球	【大連市】	打安点振球
⑦ 齊藤	4 0 0 0 1 0	⑦ 中川	4 0 0 0 0 0
⑥ 林	4 0 0 0 0 0	⑥ 武橋	4 0 0 0 1 0
④ 山崎	4 0 0 0 1 0	⑤ 高橋	4 2 0 0 1 0
⑧ 河合	3 1 0 1 0 0	③ 本山	3 1 0 1 1 1
⑤ 永三	2 0 0 0 0 0	⑨ 福中	4 0 0 0 0 0
③ 田村	3 1 0 0 0 0	⑧ 島井	3 0 0 0 0 0
② 青木	2 0 0 0 0 0	② 武岩	3 1 0 0 0 0
⑨ 野田	3 0 0 1 0 0	① 岩瀬	3 0 0 0 0 0
① 新田	3 1 0 0 0 0		
	28 3 0 4 0		31 6 1 3 1
犠併残盗失	2 0 3 0 1	犠併残盗失	0 0 7 1 0
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
新田 8	326 3 1 1	岩瀬 9	303 4 0 0
▽1時間38分			

投げた打った、岩瀬大車輪

大連実業団・岩瀬の剛、東京倶楽部・新田の柔。両投手の対照的なピッチングで、投手戦のまま試合は終盤を迎えた。

岩瀬は速球と威力のある鋭いシュートで東京打線を抑え、新田は練習不足をおこなう頭脳の投球をみせ、緩急自在のカーブとシュートを武器に、ボールになる球をうまく使った。

6回まで東京3安打、大連は2安打。ともに三塁まで進めなかった。

7回、大連は先頭の山本が二ゴロ失で一塁に生き、二死となったが武井が左前打して一・二塁。打者は8番ながら、3回にも快打している岩瀬。新田苦心のピッチングは、1、2球がきわどくコースをはずれ、カウント0-2となった。次打者が監督を兼ねるベテランの安藤だったこともあってか、新田は勝負に出、第3球は外角寄りにはいってくる速球。待ちかまえた岩瀬のバットにはじかれた打球は左前に飛び、強肩の左翼手・斉藤の懸命のバックホームもわずかに及ばず、大連が貴重な1点をあげた。

東京も1番から始まった9回、必死の攻撃をみせたが、斉藤の中前に抜けそうな痛打は、遊撃手・宮武の好守に刺され、林の打球も一塁手・山本が追いつき、カバーの岩瀬に送る美技で1点を守り切った。

打力では抜群といわれた東京を3安打に封じた岩瀬の快投はみごとだった。

雨で開幕5日延び

雨にたたられた大会だった。開幕の予定された8月1日が雨、その後も降り続き第1日を迎えたのが5日。この間大連チームは、「ジメジメして気がくさる」と気分転換のため、宿舎を代わったほどだった。

これ以上待てないと小雨のなか5日午前10時20分陸軍戸山学校軍楽隊の演奏する行進曲に乗って選手入場、開会式が行われ、市来東京市長の始球式で第1試合の東京倶楽部対函

本社・岡田社長から黒獅子旗を受ける大連・安藤主持

館大洋倶楽部がプレーボール。

しかし2回終了した段階で、またも雨が激しくなり中断。ちょっと雨があがるとグラウンドにガソリンをまいて火をつけるなど、懸命の整備を続け、午後2時25分再開と、裏方さんの奮闘ぶりは大変だった。

一部地区で予選制

この大会から完全な形ではなかったが、地方によっては大会に出場する“予選”が行われた。

最も激しかったのが、第1回大会で優勝した大連満洲倶楽部の大連と九州。

大連には満洲俱と並んで大連実業団と、人気を二分する強豪チームがあった。両チームの対戦は、「大連の早慶戦」と呼ばれたほどだったが、実業団は「満洲俱が優勝したのなら」と闘志を燃やし、7月上旬の対抗戦で2戦2勝。どちらを代表にするか大議論となったが、「大連の最強チームを送るべきだ」の正当論が制して実業団が代表となり、みごと優勝した。

九州も第1回大会に推薦されなかった八幡製鉄が「けしからん」と納まらず、ちょっとした騒ぎになった。このときは橋戸頑鉄氏が「来年は予選をするから」と説得したいきさつがあっただけに、出場した門司鉄道局、福岡九州鉄道に対する八幡の意地はすごく、門鉄、九鉄を連破して代表となった。その夜八幡の町は提灯行列で埋まった。

大連猛攻20安打23得点

準々決勝の対全横浜で、大会記録の23得点、20安打をマークした大連実業団。1回にトップの中川が安打すると5安打を集中、横浜のミスもあって一挙6点。2回にも加点したうえ、4回には山本の三塁打、安藤の二塁打を含む5安打に三四球をからめてまたも6点、5回にも7安打を集めて7点と大量点を奪う猛攻。

横浜も4投手を次々に繰り出して防いだ



黒獅子旗を中心にして喜ぶ優勝した大連実業団ナイン

が、火のついた大連打線を鎮めることができなかった。

大連はエースの岩瀬を一塁にまわし、山本、安藤両投手が投げたが、横浜打線はわずか3安打。1時間57分の試合の大部分は大連の攻撃に使われた。

上州武士の負けじ魂

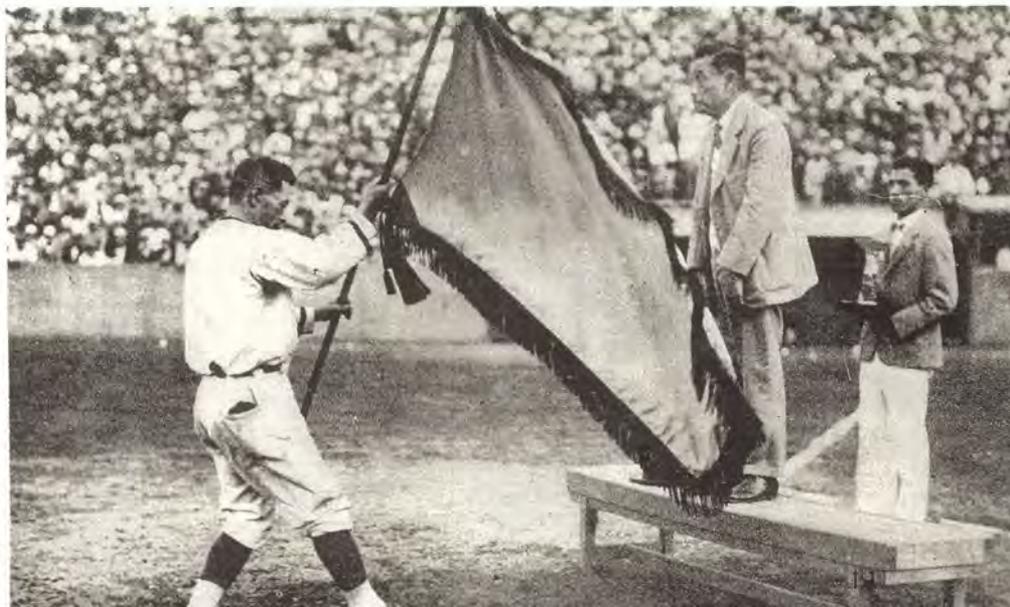
強豪・京城殖産銀行に1回戦で敗れたとはいえ、高崎・高陽倶楽部の戦いぶりは見事だった。

無名選手を鍛えあげ、素晴らしいチームワークで京城と戦った高崎は先取点を奪われながら3回には永野、片岡の二塁打、春日の右中間三塁打と長打を連発して逆転し、5回同点とされたものの、その裏前田が適時打して再びリード。

6回も無死三塁とチャンスをつくった。永野の右飛でホームをついた宮野が、右翼手・那須の好返球にタッチアウトになったのが痛く、これが試合の流れを変え、8回に3点を奪われたが、高原、角谷両投手が交互にマウンドに登った京城に対し、高崎は片岡が1人で投げ抜き、4安打だけ。戦評を担当した小野三千磨さんは「個々の技に特筆すべきところはないが、打つに守るに上州武士の気概をいかんなく発揮した」と賞め讃えた。

MEMO

◇1チーム最多得点、最多安打 準々決勝の大連実業団対全横浜戦で大連は23得点(横浜0)、20安打(横浜3)を記録。



1 回戦

東京市 (東京倶楽部)									
1	0	0	1	0	1	0	0	0	3
0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
函館市 (大洋倶楽部)									

【東京市】	打安	【函館市】	打安
⑧ 齋藤	5 1	⑨ 築地	3 1
⑥ 林	4 1	⑦ 地野	1 0
⑤ 永野	4 0	⑥ 滝野	4 0
② 河野	3 2	② 久慈	4 1
② 山岡	2 0	③ 永種	3 0
③ 山岡	4 1	⑧ 田山	4 2
⑦ 青山	4 2	⑤ 岡川	3 0
④ 石山	2 0	④ 松本	0 0
④ 山崎	1 0	① 橋	2 1
① 新田	4 0	① 4	4 0
	33 7		28 5
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
4 2 3 0 0 8 1		1 5 2 2 2 7 0	
▽二塁打 青木			
▽4時間25分 (雨天中断も含む)			

1 回戦

京城市 (京城殖産銀行)									
1	0	0	0	1	0	0	3	0	5
0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
高崎市 (高陽倶楽部)									

【京城市】	打安	【高崎市】	打安
④ 坂井	5 1	⑥ 藤原	5 1
⑧ 早須	5 1	③ 後藤	3 1
② 早須	4 1	④ 大山	4 0
③ 那須	4 1	H 本軍	1 0
⑨ 那須	4 0	⑧ 山本	3 0
⑦ 1 角	4 0	⑨ 前田	4 1
⑤ 小武	4 0	⑦ 江野	4 1
⑥ 高	2 0	⑤ 宮野	4 1
	36 4	② 片岡	4 3
		① 1	4 3
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
5 2 0 3 2 6 1		6 3 0 0 7 9 1	
▽三塁打 春日		▽二塁打 永野 片岡 後藤	
1時間40分			

1 回戦

松本市 (松本機関庫)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	2	0	1	×	5
名古屋市 (名古屋鉄道局)									

【松本市】	打安	【名古屋市】	打安
⑧ 岡村	4 1	④ 藤原	2 0
③ 土山	3 0	⑥ 藤原	3 1
⑦ 山南	4 0	⑤ 高須	4 1
④ 川南	3 0	⑦ 山本	4 1
⑨ 山清	4 1	⑧ 武野	3 1
⑤ 清水	3 0	② 多野	3 0
⑥ 田中	3 1	③ 野村	2 0
② 谷口	3 1	③ 洪中	2 1
	31 4	⑤ 島野	2 0
		⑨ 北野	1 0
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
9 1 1 0 5 6 1		2 3 2 1 3 6 1	
▽三塁打 山本		▽二塁打 高須	
1時間40分			

1 回戦

神戸市 (全神戸)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	2	0	0	2	×	7
大連市 (大連実業団)									

【神戸市】	打安	【大連市】	打安
⑤ 金政	4 2	⑦ 中宮	3 0
④ 柳田	4 1	⑥ 武橋	5 2
① 8 今北	4 0	⑤ 高山	5 2
⑦ 橋本	3 0	③ 本山	3 1
⑧ 八巻	2 0	⑨ 山島	3 1
① 加田	1 0	⑧ 福中	4 1
② 横山	3 1	② 武岩	4 1
⑨ 泉	3 0	① 4 安藤	3 1
③ 丹	3 1		
⑥ 友滝	3 0		
	30 5		33 10
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
5 1 0 0 1 4 0		2 5 1 3 0 8 0	
▽二塁打 宮武		▽1時間50分	

1 回戦

横浜市 (全横浜)									
0	0	3	1	1	0	0	0	0	4
0	4	0	0	0	1	0	0	0	0
呉市 (全呉)									

【横浜市】	打安	【呉市】	打安
⑧ 瀬木	2 1	④ 浜本	4 0
⑨ 木下	4 0	⑤ 上野	5 1
④ 岡田	4 0	⑧ 藤野	4 0
④ 紀田	1 0	⑨ 野本	6 2
③ 細田	4 0	⑥ 野本	6 2
H 飯村	0 0	③ 中本	3 1
③ 中野	1 1	② 安山	4 1
② 浜野	4 0	① 山見	4 0
⑦ 青木	5 2		4 1
⑤ 松本	6 2		1 0
① 海上	0 0		4 1 8
① 岩崎	2 0	振球権盗失残併	
① 崎部	3 0	2 6 4 4 7 1 3 1	
⑥ 岡部	3 0		
	39 6		
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
13 1 2 2 5 5 1 1 0			
▽三塁打 藤野 瀬木		▽2時間55分	

準々決勝

仙台市 (仙台鉄道局)									
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
0	0	4	0	3	2	0	2	×	11
大阪市 (全大阪)									

【仙台市】	打安	【大阪市】	打安
⑧ 大岡	4 0	⑧ 岡田	4 3
⑨ 岩守	3 0	⑨ 出川	2 1
③ 1 守	1 0	② 川田	1 0
④ 梁	4 0	② 西田	4 2
④ 菅	4 1	③ 三田	1 0
⑦ 根	2 1	② 村木	5 2
⑥ 森	2 0	⑥ 木村	4 0
② 佐	3 1	⑦ 江	2 1
⑤ 佐	2 0	⑦ 7 里	2 0
	1 0	④ 尾	3 3
	3 1	⑤ 藤	4 0
	29 4	① 藤	5 1
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
2 2 1 1 2 4 1		3 7 1 3	
▽二塁打 三木		▽1時間40分	

準々決勝

東京市 (東京倶楽部)									
3	1	1	0	0	3	0	0	0	8
0	1	1	0	1	0	2	0	0	5
八幡市 (八幡製鉄)									

【東京市】	打安	【八幡市】	打安
⑧ 7 齋藤	5 2	⑧ 清川	4 0
⑥ 林	5 1	③ 前吉	4 0
④ 1 山河	4 3	⑨ 岡坂	3 1
③ 合田	5 1	⑦ 友木	4 2
⑤ 永村	5 1	④ 長白	4 2
③ 青山	5 2	⑤ 花田	4 3
⑦ 山岡	4 1	② 西田	5 1
⑧ 水野	0 0	① 西田	1 1
② 沢野	2 1	⑥ 稻垣	2 0
① 野井	1 0		4 1
④ 石井	1 0		3 1 1
	37 1 2	振球権盗失残併	
振球権盗失残併		1 4 2 2 1 9 0	
3 2 3 2 2 7 1			
▽三塁打 長友		▽二塁打 河合	
1時間14分			

準々決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)									
0	0	2	0	0	1	0	0	0	3
1	0	0	4	0	0	3	0	×	8
京城市 (京城殖産銀行)									

【名古屋市】	打安	【京城市】	打安
④ 藤原	3 1	④ 坂井	4 1
⑥ 藤原	4 0	⑧ 早須	4 1
⑨ 高須	3 1	② 早須	3 0
③ 1 3 洪	4 0	③ 那須	3 0
⑦ 山本	3 0	⑨ 那須	4 0
⑧ 牧野	3 1	① 7 角	3 2
① 3 1 武	4 0	⑤ 上野	4 1
② 喜多	3 0	⑥ 田智	4 0
⑤ 島	2 0	⑦ 1 高	4 2
H 北野	1 0		3 3 7
	30 3	振球権盗失残併	
振球権盗失残併		8 4 2 2 6 7 0	
4 4 2 0 4 6 0			
▽二塁打 角谷		▽2時間	

準々決勝

横浜市 (全横浜)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	0	6	7	1	0	1	×	23
大連市 (大連実業団)									

【横浜市】	打安	【大連市】	打安
⑧ 瀬木	4 0	⑦ 中宮	7 3
⑨ 木田	4 1	④ 武橋	6 1
④ 5 野	4 1	⑤ 高山	5 1
⑦ 青野	2 0	① 4 福	6 4
⑤ 6 松	3 0	⑨ 8 池	2 2
③ 3 細	3 0	⑧ 9 8 中	3 1
① 1 小	2 0	② 9 清	5 2
① 1 小	1 0	③ 2 武	1 0
① 1 小	0 0	④ 1 安	4 2
⑥ 小	2 0		4 2
④ 紀	1 1		4 6 2 0
	2 0	振球権盗失残併	
	29 3	3 6 1 5 1 6 0	
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
8 0 1 1 5 3 1		8 0 1 1 5 3 1	
▽三塁打 山本 池永		▽二塁打 安藤 2 津田 高橋	
1時間57分		1時間57分	

準決勝

東京市 (東京倶楽部)									
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
京城市 (京城殖産銀行)									

【東京市】	打安	【京城市】	打安
⑦ 齋藤	4 1	④ 坂井	4 0
⑥ 林	4 1	⑧ 早須	3 0
④ 山河	3 0	② 早須	4 1
⑨ 8 山	4 2	③ 那須	5 2
⑤ 永	5 1	⑦ 9 角	4 2
③ 3 青	2 0	⑦ 7 小	3 0
⑨ 9 山	1 1	H 野	1 0
⑧ 3 山	4 0	⑤ 5 智	4 0
② 2 水	4 0	⑥ 6 原	4 0
① 1 新	4 1	① 1 高	4 1
	35 7		36 6
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
6 2 4 0 2 6 1		8 5 2 2 3 9 1	
▽二塁打 河合		▽2時間35分	

準決勝

大阪市 (全大阪)									
2	3	0	0	0	1	0	0	0	6
0	0	2	0	0	1	0	1	2	7
大連市 (大連実業団)									

【大阪市】	打安	【大連市】	打安
⑧ 岡田	3 1	⑦ 中宮	5 1
⑨ 出川	5 1	⑥ 武橋	4 0
② 梅田	5 1	⑤ 高山	2 1
③ 3 長	3 0	③ 1 3 福	5 2
⑥ 6 高	2 0	⑧ 8 中	4 1
⑦ 7 高	5 2	② 2 武	4 0
④ 4 藤	4 0	H 井	1 0
⑤ 5 藤	5 1	H 平	0 0
① 1 鶴	3 1	② 2 津	0 0
	3 0	① 3 1 3 1 安	4 2
	38 7	④ 4 岩	3 0
振球権盗失残併		振球権盗失残併	
6 4 1 2 8 7 0		1 0 5 4 6 6 1	
		▽本塁打 安江 (山本) 三塁打 安江 岩 瀬	
		▽二塁打 山本	
		2時間25分	



戦争中の大会のあれこれ

日本野球連盟副会長 松井徳三



私が初めて都市対抗の本大会に出場できたのは、第11回大会（昭和12年）で、神宮球場での最後の大会であった。私は全名古屋チームの三塁手。相手は横浜のコロムビアで、6-2で敗れたが、コロムビアの鈴木投手（法政出）のよくコントロールされたボールに魅せられことと、この試合の最中に私の長男が生まれたこともあって、記憶に残る初出場であった。

翌年の第12回大会から舞台が後樂園球場に移ったが、幸いにこの大会にも私は全名古屋の一員として出場できたから、神宮球場での最後の大会と、後樂園球場での初の大会とに出場した珍しい記録を持つことができた。珍しい記録と言えば、第16回大会で私が投手として、大阪代表チーム相手に作ることになる。

その前、第13回大会には、私が主将の東邦瓦斯が東海代表となって、初めて本大会に出場。入場式のプラカードを見て、スタンドのファンが、「東邦瓦斯は名古屋のガス会社か」と言っていたそうである。その初陣の東邦瓦斯は三富投手をもつ太田雄飛に3-1で敗れたが、一塁側スタンドを埋めた太田雄飛の大応援団に圧倒された口惜しい思い出がある。東邦瓦斯は第15回大会にも代表チームになったが、本大会が中止、無念の思いをした。

さて翌16回大会（昭和17年）は、第二次世界大戦が拡大

激化する中で開催された。この大会にも名古屋市代表になった東邦瓦斯の1回戦の相手は神戸市（川崎重工）で優勝候補の一角。が、試合はやってみないと判らないもので、6-3で東邦瓦斯が勝った。この試合、球審の判定がきびしく、ストライクゾーンが極端に狭いので、両軍投手は大弱り。名古屋の投手の私が6個、神戸の小泉、河村の両投手が12個の四球を出した記録が残っている。バッターは、こうなると第1ストライクは打たず、くさいボールも知らぬ顔。試合時間が3時間半ぐらいで、終わった時は本当にぐったりしてしまった。ところが次の大阪市（大同製鋼）とのゲームに、前述した珍しい記録ができたのだから野球は面白い。名古屋の投手は私。大阪は鈴木（旧性田上）。試合は松木謙次郎一塁手のテキサス安打で3対1で大阪が勝ったが、試合時間何と1時間9分、大会最短時間試合だった。この記録はいまもって破られていない。けだし珍記録とも言えるのではあるまいか。有力な選手が軍隊にとられて、ベンチにいる選手層が薄く、代打にも事欠いていたことと、名古屋のチームが第1戦の勝利の後、会社の招待宴で鯨を食い過ぎて下痢気味の選手が多く、早打ちしたことも原因のひとつだったかもしれない。尚この試合の球審は天知俊一さんであった。

決勝

大連市 (満洲倶楽部)	1	1	1	0	0	0	2	0	0	5
名古屋市 (名古屋鉄道局)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【大連市】	打安点振球	【名古屋市】	打安点振球
④ 沢原	5 0 1 1 0	④ 藤原	4 2 0 0 0
⑨ 永木	4 0 0 0 0	⑨ 北野	2 0 0 1 0
⑥ 長片	4 1 0 0 0	⑨ 舟高	2 0 0 0 0
② 岡崎	3 2 0 0 2	⑤ 須野	4 0 0 1 0
⑦ 浜吉	4 1 1 0 1	⑧ 野村	1 0 0 0 2
⑤ 宗正	3 0 2 0 1	⑦ 清多	2 0 0 1 0
⑧ 緑川	2 0 0 0 0	① 野田	3 0 0 0 0
③ 吉富	3 1 0 1 0	③ 野村	2 0 0 0 0
① 尾玉	2 0 0 0 1	H 3 藤原	1 0 0 0 0
	32 5 4 2 6	H 6 内山	1 0 0 0 1
			26 2 0 3 3

犠併残盗失	3 2 9 1 1	犠併残盗失	1 0 3 1 5
投手回	30 2 3 3 0	投手回	4 1 5 2 6 2
二塁打	吉富 片岡	時間	37分

円熟児玉に名鉄局打線沈黙

大会前の下馬評どおり、大連満洲倶楽部が力を発揮したのに対し、高崎高陽、門鉄局をはつらつとした元気いっぱいプレーで連破してきた名古屋鉄道局は、やはり初の決勝戦の重圧からか、持てる力を出せなかった。3



2度目の優勝を果たした満洲倶楽部に黒獅子旗の授与

連投の下手投げ、エース清田は力投したものの、平常心を欠いたバックにミスが続出したのは気の毒だ。先攻の大連はトップの永沢が敵失に恵まれて出塁すると、すかさずバントで送り、3番長沢の右前打で一・三塁。片岡敬遠の満塁策をとった清田だが、吉野に四球を与えて押し出し点。2回にも大連は吉富の二塁打から一死三塁とし永沢の二ゴロがまたも敵失を誘って追加点。3回には敵失に四球をからめ、5番浜崎の右前適時打で加点した。

名鉄局も1回トップの藤原好が中前に快打し反撃開始かと思われたが、バントが小飛球となって失敗。3回またも藤原好が中前打、二盗に成功したものの後続がなかった。

第1回大会の優勝投手の児玉は円熟のピッ



第1回大会以来、2年ぶり出場の名門鉄道局ナイン。全京都、全神戸の強豪を連破し、堂々とベスト4に進出

チングをみせ4回以降は名鉄局に安打を許さなかった。四球、失策で出した走者をいずれも内角に絶妙にコントロールされた速球で内野ゴロ併殺に仕止め、名鉄局打線につけ入るスキを与えなかった。

東上禁止で涙の棄権

朝鮮予選に優勝したのは第2回大会出場の京城殖産銀行を破った京城府庁。だが、大会直前になって府庁幹部から「東上禁止」の命令が出され涙を飲んで棄権した。

当時の朝鮮野球連盟と朝鮮体育協会が急提協議、実業団野球連盟に加盟していたチームのベスト9を中心に全京城チームを編成した。それまで立場の違いもあって、各チームの意見が対立していたが、ここに初めての「合同」が成立、第6回大会(昭和7年)以降、第16回大会(昭和17年)まで全京城が編成されて出場した。時代を反映したできごとの一端でもあった。

空から大会を祝う

全国的な盛り上がりで人気のマトとなった大会。8月3日午前9時から神宮球場で行われた開会式に初めて東京日日新聞社(現毎日新聞社)の飛行機が飛来、浜口首相の「東京



2年ぶり2度目の優勝を果たし、黒獅子旗を中心にグラウンドでファンの歓声に応える満洲倶楽部ナイン

日日、大阪毎日両新聞社の主催にかかる第3回全日本都市対抗野球大会の開催を祝し、出場選手諸君の健闘を祈る」のメッセージを投下、スタンドを埋めつくしたファンの大拍手を浴びた。

MEMO

◇1ゲーム個人最多安打6 1回戦の大連満洲倶楽部対全横浜戦で大連の長沢新平遊撃手は6打席、大会最多の6安打を記録。6連続安打も新記録。

◇1ゲームチーム最多盗塁12 1回戦の全京城対札幌鉄道局戦で、京城は12盗塁を記録した。京城は20安打を放ったが、これはタイ記録。



第1回大会以来3年連続出場の大連ナイン

1回戦

大連市 (満州倶楽部)	
1 0 1 0 0 2 1 9 0	14
3 0 0 0 2 0 0 0 0	5
横浜市 (全横浜)	

【大連市】	打安	【横浜市】	打安
⑤ 吉野	4 0	⑥ 岡部	3 0
③ 足長	6 0	⑦ 門下	1 0
⑥ 沢岡	6 6	④ 寺野	3 0
② 川原	6 5	⑤ 河野	4 2
⑦ 緑木	3 1	③ 宇野	3 0
⑧ 宗政	4 0	① 田木	3 0
⑧ 宗政	3 0	⑦ 田木	4 1
① 宗政	0 0	⑧ 木田	3 1
① 宗政	3 1	② 永村	3 0
④ 宗政	5 2	⑨ 吉中	3 1
	4015	⑨ 吉中	1 0
振球機盗失残併		振球機盗失残併	315
3 133 4 2 15 1		8 6 0 1 3 5 0	
▽三塁打 河野		▽二塁打 片岡	
河野 長沢	▽2時間10分		

1回戦

仙台市 (仙台鉄道局)	
0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
0 2 0 0 0 0 0 0 0	2
高崎市 (高陽倶楽部)	

【仙台市】	打安	【高崎市】	打安
⑧ 大岡	3 0	⑦ 黒田	4 1
④ 岡島	3 1	④ 藤倉	4 0
⑥ 佐藤	4 2	① 浅倉	4 1
② 三梁	4 0	③ 春前	4 1
① 三梁	4 2	⑥ 前山	4 2
③ 岩鈴	3 0	② 山本	3 2
⑦ 加森	2 0	② 野原	3 0
⑦ 加森	1 0	⑤ 原上	2 0
⑤ 加森	3 0	⑧ 西上	3 1
	315		318
振球機盗失残併		振球機盗失残併	410 1 1 6 1
10 1 2 2 0 7 1			
▽本塁打 山本弟		▽三塁打 浅倉	
▽二塁打 黒田	▽1時間35分		

1回戦

神戸市 (全神戸)	
0 0 2 4 0 1 5 0 3	15
0 0 1 0 0 1 0 0 3	5
呉市 (全呉)	

【神戸市】	打安	【呉市】	打安
⑨ 金森	1 0	④ 浜本	5 0
⑨ 金森	1 1	⑧ 上玉	3 1
⑧ 高今	2 2	③ 藤村	5 3
⑧ 高今	2 1	① 藤村	5 2
⑦ 島津	6 4	⑤ 藤村	3 0
④ 島津	6 0	⑤ 藤村	1 1
② 島津	5 2	② 藤村	2 0
② 島津	2 0	⑦ 藤村	3 1
③ 島津	3 2	⑦ 藤村	3 1
⑤ 島津	5 3	⑦ 藤村	1 1
⑤ 島津	4 1	⑦ 藤村	4 0
① 島津	4 1	⑥ 藤村	3 0
	4117	⑥ 藤村	1 0
振球機盗失残併		振球機盗失残併	3910
2 6 2 6 5 7 0		6 3 0 1 2 10 1	
▽三塁打 金政		▽二塁打 森口 島津	
▽1時間55分			

1回戦

大阪市 (全大阪)	
6 2 2 0 0 0 1 1 0	12
0 4 0 0 0 1 0 0 2	7
長野市 (長野保線)	

【大阪市】	打安	【長野市】	打安
⑨ 長谷川	5 0	③ 宮野	4 0
⑤ 井田	4 3	⑤ 野村	5 1
② 井田	6 2	⑧ 奥村	4 0
⑧ 中川	6 3	② 奥村	3 2
③ 三木	2 0	① 井田	4 1
② 三木	1 0	⑦ 井田	2 1
④ 藤田	2 2	④ 井田	3 0
⑥ 藤田	3 1	④ 井田	3 0
① 藤田	5 0	⑤ 中野	0 0
⑨ 藤田	0 0	⑤ 中野	0 0
⑦ 藤田	3 0	⑨ 中野	4 2
⑦ 藤田	1 0		337
① 藤田	0 0		
	3811		
振球機盗失残併		振球機盗失残併	1 3 2 1 4 4 2
119 2 4 4 10 0			
▽三塁打 中川		▽二塁打 渡辺	
中川	▽2時間		

1回戦

札幌市 (札幌鉄道局)	
2 0 1 0 1 0 0 0 0	4
3 4 0 1 2 6 6 0 0	22
京城市 (全京城)	

【札幌市】	打安	【京城市】	打安
⑧ 田上	2 1	④ 阪井	0 0
⑦ 小島	3 1	⑤ 武村	4 0
④ 小島	4 2	④ 西村	6 3
③ 小島	4 0	⑨ 渡邊	6 3
⑨ 小島	4 2	① 渡邊	4 4
⑥ 小島	4 0	⑨ 渡邊	0 0
⑤ 小島	4 1	⑧ 渡邊	3 2
② 小島	2 0	⑧ 渡邊	1 0
② 小島	1 0	③ 渡邊	5 2
① 小島	2 0	③ 渡邊	0 0
① 小島	1 0	⑦ 渡邊	6 2
	317	⑦ 渡邊	3 0
振球機盗失残併		振球機盗失残併	4520
6 8 1 0 4 9 1		4 1 1 1 2 1 1 1 0	
▽本塁打 松本		▽二塁打 渡辺	
東島 2 水谷 松本 岩田	▽2時間30分		

1回戦

京都市 (全京都)	
0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
0 1 0 0 0 1 1 2 0	5
門司市 (門司鉄道局)	

【京都市】	打安	【門司市】	打安
⑧ 岡田	4 0	④ 浦井	4 2
⑤ 岡田	2 0	⑧ 浦井	3 0
⑨ 岡田	2 0	⑨ 浦井	4 1
⑦ 岡田	4 1	⑥ 浦井	4 2
⑨ 岡田	4 0	③ 浦井	2 1
④ 岡田	3 1	⑤ 浦井	3 2
⑥ 岡田	3 0	⑦ 浦井	2 1
③ 岡田	2 0	① 浦井	4 0
③ 岡田	1 0	② 浦井	4 0
② 岡田	3 0		309
① 岡田	2 2		
	304	振球機盗失残併	5 2 4 3 3 7 1
振球機盗失残併			
6 1 0 1 2 4 0			
▽三塁打 青柳		▽二塁打 三浦 四元	
▽二塁打 青柳	▽2時間30分		

準々決勝

東京市 (東京倶楽部)	
1 0 0 0 0 0 0 0 2	3
0 0 0 0 0 0 2 0 2	4
京城市 (全京城)	

【東京市】	打安	【京城市】	打安
⑦ 高橋	3 1	④ 阪井	5 2
⑥ 高橋	4 1	⑤ 武村	3 1
④ 高橋	4 1	⑨ 渡邊	3 2
⑨ 高橋	4 0	① 渡邊	4 2
③ 高橋	3 0	⑧ 渡邊	4 1
② 高橋	1 1	② 渡邊	4 1
R 高橋	0 0	③ 渡邊	3 0
② 高橋	4 2	⑦ 渡邊	2 0
⑧ 高橋	4 2	⑥ 渡邊	3 0
⑤ 高橋	3 0		319
① 高橋	2 1	振球機盗失残併	4 7 3 4 3 1 1 1
① 高橋	2 0	▽三塁打 新田	
② 高橋	2 0	片田	▽2時間5分
③ 高橋	1 0		
	337		
振球機盗失残併			
8 2 0 3 1 5 1			

準々決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)	
0 0 0 0 3 0 4 1 0	8
1 0 0 0 0 0 0 0 3	4
高崎市 (高陽倶楽部)	

【名古屋市】	打安	【高崎市】	打安
④ 藤原	4 1	⑦ 黒田	4 1
⑨ 藤原	5 1	④ 野村	5 2
⑦ 藤原	5 0	① 野村	3 1
⑤ 藤原	2 0	⑤ 野村	4 1
⑧ 藤原	3 0	⑥ 野村	4 0
① 藤原	3 0	⑨ 野村	4 1
② 藤原	4 0	② 野村	4 1
③ 藤原	2 0	⑤ 野村	2 0
⑥ 藤原	3 1	① 野村	5 0
	313	① 野村	1 1
振球機盗失残併		振球機盗失残併	3410
4 10 1 0 2 7 0		5 3 2 2 4 8 1	
▽二塁打 佐藤		▽1時間57分	
岡田			

準々決勝

大阪市 (全大阪)	
1 0 3 3 0 0 0 1 1	9
0 0 0 0 0 3 3 0 4	10
大連市 (満州倶楽部)	

【大阪市】	打安	【大連市】	打安
⑨ 長谷川	4 2	⑤ 吉野	5 1
④ 井田	3 0	④ 沢岡	4 2
② 井田	5 1	⑥ 沢岡	5 2
⑧ 井田	4 2	② 沢岡	4 1
③ 井田	5 2	⑦ 沢岡	1 0
⑤ 井田	3 1	⑨ 沢岡	4 1
⑥ 井田	5 0	⑧ 沢岡	4 0
⑥ 井田	3 0	⑧ 沢岡	0 0
⑤ 井田	0 0	① 沢岡	0 0
⑦ 井田	3 0	⑦ 沢岡	3 0
H 井田	0 0	③ 沢岡	4 2
R 井田	0 0		349
7 井田	0 0	振球機盗失残併	2 7 2 7 2 7 1
	358		
振球機盗失残併			
7 11 0 3 2 10 0		▽二塁打 中川 片岡	
▽本塁打 足田 (鶴田)		▽二塁打 中川 片岡	
▽本塁打 永沢		長沢	▽2時間45分

準々決勝

神戸市 (全神戸)	
0 0 0 2 0 0 0 1 0	3
0 0 0 4 0 0 0 4 0	8
門司市 (門司鉄道局)	

【神戸市】	打安	【門司市】	打安
⑨ 金井	3 1	④ 三浦	4 1
② 金井	3 0	⑤ 三浦	4 2
⑦ 金井	1 1	⑨ 三浦	4 2
⑦ 金井	3 0	⑥ 三浦	4 1
① 金井	1 0	③ 三浦	4 1
⑧ 金井	3 1	⑦ 三浦	4 1
④ 金井	3 0	② 三浦	3 1
③ 金井	3 1	① 三浦	4 0
⑤ 金井	4 0	⑧ 三浦	4 1
⑥ 金井	4 3		3510
① 金井	3 1	振球機盗失残併	2 0 1 0 0 4 1
② 金井	0 0		
H 金井	1 0		
	328		
振球機盗失残併			
2 2 2 2 3 6 0		▽二塁打 口井 2	
▽本塁打 森口 (山口)		▽二塁打 口井 2	
四元	▽1時間29分		

準決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)	
0 0 4 3 0 0 2 0 0	9
1 1 0 0 0 0 1 0 3	3
門司市 (門司鉄道局)	

【名古屋市】	打安	【門司市】	打安
④ 藤原	5 2	④ 浦井	5 1
⑨ 藤原	3 0	⑧ 浦井	4 1
⑤ 藤原	5 4	⑨ 浦井	5 1
② 藤原	4 0	⑥ 浦井	4 1
⑧ 藤原	5 2	③ 浦井	4 1
① 藤原	5 1	⑤ 浦井	3 1
⑦ 藤原	5 3	⑦ 浦井	4 2
③ 藤原	4 2	① 浦井	2 0
③ 藤原	1 0	② 浦井	2 1
⑥ 藤原	4 0	② 浦井	2 0
	4114	② 浦井	1 0
振球機盗失残併		H 浦井	1 1
2 2 2 5 2 9 2		R 浦井	0 0
			3710
▽三塁打 藤原好		振球機盗失残併	7 2 0 4 4 9 0
元		▽二塁打 水庫 林	
山本	▽1時間57分		

準決勝

大連市 (満州倶楽部)	
3 0 0 3 0 0 1 1 0	8
0 0 0 2 2 0 0 0 0	4
京城市 (全京城)	

【大連市】	打安	【京城市】	打安
⑤ 吉野	4 2	④ 阪井	4 1
③ 吉野	4 2	⑤ 武村	4 2
⑥ 吉野	5 2	⑨ 渡邊	4 2
② 吉野	5 0	① 渡邊	5 3
⑦ 吉野	3 1	⑧ 渡邊	4 1
⑨ 吉野	3 1	② 渡邊	4 1
⑧ 吉野	5 1	③ 渡邊	4 1
① 吉野	1 0	⑦ 渡邊	3 1
① 吉野	0 0	H 渡邊	1 0
⑨ 吉野	2 0	R 渡邊	0 0
④ 吉野	5 2		3814
	3711	振球機盗失残併	4 4 2 0 4 13 0
振球機盗失残併			
7 6 2 4 1 10 0		▽二塁打 松本	
▽三塁打 岩田		長沢	▽2時間41分
吉野			

クラブチームの一層の発展を

北海道連盟会長 中原哲男



60回を迎えた都市対抗の歴史を改めて振り返ると、いろいろなチームの変遷、往年の名選手、監督、役員などの顔が次に浮かび、実に感慨深いものがある。

戦前の都市対抗は、北海道でも全国と同様にクラブチームが主体だった。明治40年創部の歴史を誇る函館大洋倶楽部をはじめ、小樽協会、札幌スターズ、オール旭川、帯広協会などがしきりに競っていたし、樺太（サハリン）からはオールと豊原などが参加していた。

それぞれの地域には、チームを支え、応援する熱心なファンが多勢いた。また、特に実力を誇った函館大洋、小樽協会などは、それぞれ地元経済界の財政的なバックアップもいただいてチーム作りが行われていたようだ。

今日、クラブチームにやや衰退の気配がみられるのはさびしい限りだ。

企業チームが続々と登場したのは戦後のこと。戦後の復興気運が一段と高まる中で、各企業は対内的には社内の志気高揚、対外的には企業の宣伝効果を狙って野球に力を入れたわけだが、その後の推移を見て、スポーツの世界では、あまり企業利益のみを偏重しないよう自制する必要があるという感じを強くする。

北海道は、昭和24年、15チームで北海道連盟を結成した。私の勤め先の北海道拓殖銀行では、翌25年に創部したが、当時は多少、野球の心得のある者を行内からかり集めたチームで、出ると負け、出ると負けて、随分とくやしい思いをしたことを今も覚えている。

北海道連盟の加盟チームが最多となったのは昭和33年。24チームを数えたが、うち10チームは炭鉱チームで、今これらはすべて無い。時代の移り変りを感じる。炭鉱の他に、三井東洋高圧（砂川市）や、55年の第51回大会で初出場ながら準優勝した札幌トヨベツト（札幌市）など、懐しいチームも少なくない。

60回の歴史を振り返ると、34回大会では富士鉄室蘭（現・新日鉄室蘭）が準優勝しているし、45回大会は大昭和製紙北海道が、千藤和久（拓銀）、柳俊之（電電北海道）の両エースをおしたてて、黒獅子旗の津軽海峡超えが実現した。北海道連盟も大いに意気あがったものだ。

翌46回と60回には大昭和、47回は拓銀がそれぞれ準優勝している。

各チームが競い合って北海道野球のレベルアップに努力することは当然だが、私は特に、歴史的に都市対抗の本流ともいべきクラブチームが、財政面、あるいは練習上の隘路を克服して一層の発展を遂げるよう望んで止まない。

同時に私は、アマチュアリズムを大切にすることをこの機会に改めて求めたいと思う。都市対抗の参加チームが、プロ野球のファームのようにみられたのでは困る。

多くの選手たちは、野球と仕事をしばらく両立させたあと、やがて仕事に専心する時期がくる。選手は企業内でも社会人としても大きく成長していただきたい。若い日に培ったチームプレーの精神を発揮して、仕事でも大いに頑張っている姿をみるのも、またとなくうれしいことである。

（現在、同行相談役）

決勝

京都市 (東京倶楽部)												
1	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
名古屋市 (名古屋鉄道局)												

【京都市】	打安	振球	【名古屋市】	打安	振球
⑦ 斎藤	5	20	⑦ 藤原	5	11
⑥ 横水	3	00	④ 中野	3	20
⑤ 上丹	3	03	⑧ 牧三	2	00
② 伊丹	5	00	⑤ 武浦	4	11
⑧ 片井	4	22	③ 清田	4	32
① 3 永井	5	22	① 3 清田	3	00
④ 山手	4	00	② 喜多	4	00
③ 手塚	1	11	⑥ 多村	2	00
① 高橋	4	00	⑨ 山部	1	10
⑨ 銭村	4	32	⑨ 小部	3	00
	38	101		31	84
	4	3		4	4
犠併残盗失	3	1	犠併残盗失	0	0
	1	1		0	5
投手	1	6	投手	1	9
永井	8	20	武田	7	4
高橋	8	11	田	3	5
三壘打	8	45	武田	7	3
銭村	2	53	田	3	6
▽三壘打	2	▽1	時間	55分	

名鉄局 武田は5回以降、シュートをうまく使って強打の東京打線を無安打に封じたが、序盤の失点が大き過ぎた。

負傷おして熱投18才

鹿児島鉄道局と全神戸の試合は大会史上最長の延長17回。3時間30分の大熱戦で、延長戦になってからの点の取り合いがファンをしばれさせた。その中で光輝いたのが敗れたとはいえ、負傷を押して投げ抜いた鹿児島の18歳、森永慶彦投手。

「コントロールが悪かったので気を引き締めて投げたけど、5回に右中指のメメがつぶれ、三角に皮がむけて、押えが利かなくなったのがつらかった。」とふり返る。

武器はシュートだったが、指が痛いため、外角へのスローボールを多投したという。全神戸が木村、森口の両投手をたがひ違いにマウンドに送ったのに、森永はたった1人で全神戸に立ち向かった。



両手指の白帯も痛々しい鹿児島・森永投手

名鉄局、悔しい序盤の失点

決勝進出までの両チームの打率は名古屋鉄道局3割4分7厘、東京倶楽部3割6厘。挙げた得点はそれぞれ25点と26点。1回戦から打力で勝ち進んできた。



優勝した東京倶楽部。左から石井主将、新田、永田、河合、山崎、中林、山岡、水上、片田、青木、永井らの面々

東京は1回、無死一・三塁に水上の中飛で先取点をあげたが、名鉄局もその裏中島の右前打と四球でつくった一死一・二塁に三浦が左前適時打。捕手の悪送球もあって2点を奪い逆転した。しかし、スキのない東京打線は2回、敵失を口火に、手塚、銭村の短長打などで4点をあげ、名鉄局・清田を攻略、代った武田にも永井の適時打などで2点を加え、一挙6点をあげた。3連投の清田は下手からの技巧派だったが、東京打線は右へ左へコースにさからわず打ち返すバッティングをみせた。

東京はさらに3回にも2安打と四球の満塁に水上の押し出し四球、片田の適時打などで3点を加え試合を決めた。

あきらめない名鉄局は3回二死二・三塁に武田が右前適時打して2点を返し、4回にも藤原が右翼線にはじき返し1点をあげたが、その後は2番手の高橋に3安打散発に押し切られた。

10回には一塁に滑り込んだときスパイクさされ、足をひきずりながらのピッチング。15回は火の出るような打球を左腹に受け、すぐにひろって一塁に刺したあと、ヨロヨロと2・3歩あとずさって倒れた。ファンも「かわいそうだけど、もうだめだ」と目を閉じ、それまでの熱気がうそのように、グラウンドは静けさにつつまれた。その時、突然として立ちあがった森永は右手をあげて「だいじょうぶ」。敵味方の区別なく、森永をたたえる大歓声がわき起った。「全く夢中で、痛みはよく覚えていない。スタンドからの声援が耳に入ると、ふしぎに元気が出た」と笑った。ともにゆずらない試合に、ネット裏で観戦していた堀内文次郎中將は「両雄の 高さ競うや 雲の峰」の一句をもらった。

「こちらJOAK…」

JOAKの電波に乗って、初めて全国中継

が行われた。当時JOAKの野球アナウンサーは、松内則三アナただ1人。初日から最終日までの6日間、ぶっ通しでマイクの前にすわった。第2日の鹿児島鉄道局対全神戸は延長17回、午後1時から4時30分まで、3時間30分に及ぶ息づまる接戦で、松内アナはすっかりのどをこわしてしましたが、「休んでファンの方々に申しわけない」と最後まで頑張りを通した。快晴続きで連日猛暑の大会だっただけに、松内アナの顔には疲労の色が濃かったが、「疲れはあるけど、ここで放送を止めるわけにはいかない。都市対抗は初めての放送だが、チームも観衆も大衆的で私も大きな興味がある。アナウンサーなんて苦しい商売じゃないですよ。苦しいのは炎天下にさらされている熱心なファンだけです」とサラリと言っけてのけた。



初めて行われた中継放送。炎天下で熱弁の松内アナ

1回戦

京都市 (東京倶楽部)												
2	0	0	1	0	0	0	0	1	6	0	0	10
0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
台北市 (台北交通団)												

【京都市】	打安	【台北市】	打安
⑦ 斎藤	3	⑧ 田中	2
⑥ 横水	6	⑧ 才木	3
⑤ 上丹	4	⑥ 堀	4
② 伊丹	7	③ 9 本多	5
⑧ 片井	6	① 3 1 渡	5
① 3 永井	4	④ 4 浅	2
④ 山手	2	② 2 尾	3
③ 手塚	1	② 2 鈴	3
① 高橋	3	① 9 田	4
⑨ 銭村	0	① 1 山	0
H	0	⑤ 5 安	0
5	0	⑤ 9 武	3
1	0	⑤ 5 大	1
1	2	⑤ 5 内	4
⑧ 片田	5	⑦ 7	0
	42		36
	13		8
振球	3	振球	3
犠併残盗失	1	犠併残盗失	1
銭村	8	渡辺	1
▽三壘打	2	鈴木	2
	▽1	時間	25分

1 回戦

下関市 (林業商店)

1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
0	1	1	0	0	0	1	1	×	2

大阪市 (全大阪)

【下関市】	打安	【大阪市】	打安
⑦	竹永	⑨	戸七
④	中田	⑦	田里
⑤	田本	④	崎田
②	藤本	②	梅藤
③	藤本	⑥	佐藤
⑧	藤本	③	三宗
⑨	藤本	⑧	浜藤
①	藤本	⑤	中野
⑥	藤本	④	鶴田
⑧	藤本	①	三田
	27.4		29.7

振球機盗失残併 2 3 7 2 3 8 0

▽三塁打 戸田 前田
佐藤▽二塁打
▽1時間40分

1 回戦

横浜市 (全横浜)

0	0	0	0	0	1	2	1	0	4
0	0	0	0	0	0	5	0	×	5

高崎市 (高陽俱樂部)

【横浜市】	打安	【高崎市】	打安
⑧	中木	⑧	春片
④	島下	③	日岡
④	原田	①	倉島
⑥	稲垣	②	浅中
⑦	宇野	⑨	山前
①	青嶋	⑥	山中
⑤	河野	④	関野
③	浜野	⑤	宮田
②	渡辺	⑦	野島
⑨	吉田		34.8

振球機盗失残併 10 2 0 1 3 8 0

▽三塁打 中島 (横)
▽2時間15分

1 回戦

仙台市 (仙台鉄道局)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	3	0	0	2	4	0	×	10

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【仙台市】	打安	【名古屋市】	打安
④	菊地	⑦	藤原
⑥	長鈴	④	原野
⑨	鈴木	⑧	中野
③	鈴木	⑤	三浦
H	梁	③	武清
①	梁	①	清原
⑧	大森	⑥	柴喜
⑦	森板	②	喜多
①	守野	⑨	小山
⑦	岩崎		30.10
②	岩崎		
⑤	岩崎		
H	岩崎		

振球機盗失残併 9 3 0 4 1 9 1

▽三塁打 藤原 牧野 小山▽2時間

1 回戦

神戸市 (全神戸)

0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	9	
2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	8

鹿児島市 (鹿児島鉄道局)

【神戸市】	打安	【鹿児島市】	打安
②	金井	⑥	宮口
④	政岡	⑧	志和
⑨	森本	⑦	相良
③	森本	②	鎮山
③	森本	⑤	中山
①	森本	④	山中
⑦	森本	③	四本
⑤	森本	③	元永
6	森本	①	森永
⑥	森本	⑨	山口
③	森本		56.16
⑧	森本		

振球機盗失残併 4 8 4 6 5 1 1 1

▽本塁打 中村 (木村) 森口 橋本
▽二塁打 森口▽3時間30分

1 回戦

函館市 (太洋俱樂部)

3	0	0	1	0	0	0	0	0	4
0	5	1	0	0	0	0	0	×	6

大連市 (満州俱樂部)

【函館市】	打安	【大連市】	打安
⑧	菅川	⑤	吉川
⑦	田地	⑨	野川
⑨	久藤	⑧	田岡
②	久藤	②	田岡
⑤	遠藤	③	田岡
③	水高	⑥	田岡
④	高成	⑦	田岡
①	高成	④	田岡
⑨	高成		26.7
②	高成		
⑥	森		

振球機盗失残併 3 0 5 0 2 8 1

▽三塁打 緑川 吉野 高須▽二塁打 高山
▽1時間40分

1 回戦

京都市 (全京都)

1	0	1	4	0	0	0	0	0	6
2	1	1	4	1	0	0	0	×	9

長野市 (長野保線)

【京都市】	打安	【長野市】	打安
④	川越	⑤	浅野
⑨	横次	⑧	野山
⑨	奥村	⑥	山村
③	大貫	②	田田
②	孫	①	田田
⑤	柴田	④	麻川
⑧	横内	⑨	池田
⑦	藤内	⑦	津波
⑥	藤内	③	三宮
①	藤内		27.9
⑤	藤内		
H	藤内		

振球機盗失残併 1 4 2 5 1 6 0

▽三塁打 横次 池田 川瀬▽二塁打 大貫 奥村 三ツ井▽1時間45分

準々決勝

平塚市 (平塚鉄道俱樂部)

0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
0	1	0	3	0	2	0	0	×	6

東京市 (東京俱樂部)

【平塚市】	打安	【東京市】	打安
④	沖西	⑦	斎藤
⑧	西田	⑥	藤上
③	吉田	④	藤上
①	黒平	②	伊山
⑤	黒平	④	伊山
⑥	黒平	⑤	小河
⑦	黒平	⑨	小河
②	黒平	⑨	銭村
⑨	黒平	⑧	銭村
	29.5	①	高橋
		③	高橋

振球機盗失残併 7 4 1 2 4 6 0

▽本塁打 吉田 (高橋) 藤上
▽1時間50分

準々決勝

大阪市 (全大阪)

4	0	0	0	0	5	0	0	3	12
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

高崎市 (高陽俱樂部)

【大阪市】	打安	【高崎市】	打安
⑦	里田	⑧	春日
⑤	七島	③	片浅
④	崎尾	①	浅中
④	藤尾	②	中山
⑥	藤尾	⑥	前山
③	藤尾	⑦	西田
③	藤尾	②	西田
2	藤尾	④	関野
②	藤尾	⑤	関野
①	藤尾	⑤	関野
①	藤尾		34.6
⑨	藤尾		

振球機盗失残併 5 6 2 0 5 6 0

▽二塁打 島田 梅田 黒田▽2時間5分

準々決勝

神戸市 (全神戸)

0	1	0	1	3	1	0	0	0	6
0	6	2	0	1	2	0	1	×	12

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【神戸市】	打安	【名古屋市】	打安
④	金生	⑦	藤原
⑦	政岡	③	原田
⑦	高辻	①	野田
H	高辻	⑧	野田
⑤	高橋	⑧	野田
⑥	高橋	⑧	野田
①	高橋	⑤	野田
③	高橋	⑤	野田
③	高橋	①	野田
⑨	高橋	⑥	野田
⑧	高橋	②	野田
②	高橋	④	野田

振球機盗失残併 5 3 1 3 3 6 1

▽本塁打 片岡 (武田) 武田 (木村)
▽三塁打 小山 武田▽2時間10分

準々決勝

長野市 (長野保線)

3	0	0	0	0	0	0	3	5	11
5	4	0	0	1	5	0	1	×	16

大連市 (満州俱樂部)

【長野市】	打安	【大連市】	打安
⑤	浅野	⑤	吉野
⑧	野山	⑨	野川
⑨	山村	⑧	田岡
⑥	田田	②	田岡
②	田田	③	田岡
④	麻川	⑥	田岡
①	池田	⑦	田岡
⑨	津波	①	田岡
⑦	三宮	H	田岡
③	宮水	④	田岡
H	宮水		41.12

振球機盗失残併 0 9 3 1 7 15 1

▽三塁打 疋田 吉野▽二塁打 片岡 川瀬 池田▽2時間5分

準決勝

大阪市 (全大阪)

0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
0	0	8	0	0	0	0	2	×	10

東京市 (東京俱樂部)

【大阪市】	打安	【東京市】	打安
⑨	戸田	⑦	斎藤
⑧	藤尾	④	藤上
⑦	藤尾	②	藤上
⑥	藤尾	⑤	伊山
H	藤尾	③	伊山
6	藤尾	⑨	伊山
①	藤尾	⑧	伊山
④	藤尾	③	伊山
③	藤尾	⑥	伊山
5	藤尾	①	伊山
⑤	藤尾		36.10
②	藤尾		
①	藤尾		
②	藤尾		
⑧	藤尾		
9	藤尾		

振球機盗失残併 3 3 1 2 5 10 1

▽三塁打 片田
▽1時間55分

準決勝

大連市 (満州俱樂部)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	0	0	1	0	0	×	3

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【大連市】	打安	【名古屋市】	打安
⑤	吉野	⑦	藤原
③	野田	④	原田
③	野田	⑧	野田
⑧	野田	⑤	野田
②	野田	③	野田
⑥	野田	③	野田
⑨	野田	⑥	野田
⑦	野田	②	野田
④	野田	⑨	野田
H	野田		28.6
①	野田		
H	野田		

振球機盗失残併 3 2 0 1 2 9 1

▽三塁打 藤原
▽1時間35分(雨天中断も含む)

久慈先輩に頂いた鹿皮ジャンパー

東北連盟会長 長沢正夫



久慈次郎さんが函館オーシャン監督当時は、よく盛岡へ立ち寄り吾々盛岡中学後輩の指導をして下さいましたが、その度に小生の兄雄二と夜を徹して酒を飲み交わす無二の親友でありました。当時としては手に入らない鹿皮のジャンパーを頂戴、私は大事に愛用して居りましたが、昭和20年10月ソ連に抑留された時に没収されてしまいました。盛岡市の先人記念館へ久慈さんの遺品として飾るべき物で誠に残念に思っています。この記念館は盛岡市出身の政治、文化、スポーツ人等を忍ぶもので、スポーツ人では久慈さんが記念館入りして居ります。

昭和24年の第20回都市対抗野球東北予選は盛岡市営球場で開催されたが、私はソ連の抑留から帰って3年目。審判員及び大会運営委員として大張り切り。審判を終って役員控室(当時の球場管理人吉田七太郎氏宅)へ行ってみると、本部派遣の小野三千磨さん、弓館小鱈さん、それに東北連盟会長の阿部来太郎さんら堂々たる権威者ばかり。とても傍へは寄り付けそうもなく、その中で小野さんは純白の水にレモンを入れ、これが一番だと言われチビリチビリやられて居るあのお姿、又いつもなごやかな風格の弓館さん、今でも彷彿として思い出されます。特に弓館さんは毎日下駄ばきで球場へ御出勤なさっていたのには恐れ入った次第でした。

盛岡市営球場で行われた昭和29年第25回都市対抗野球東北予選準決勝、盛岡鉄道局対盛岡実業戦も忘れられない試合のひとつだ。

第1試合は大熱戦末、前年度優勝の釜石製鉄が常磐炭礦を4-3で破り、第2試合に入る時は、午後4時を廻っていた。雨も降ったり止んだりという悪い条件の中でのプレ

ーボール。6回までは盛岡実業が水沢駒形から補強の岩本義行らの活躍で7-4とリードしていた。しかし、7回裏盛鉄は一挙に5点を入れて逆転。8回に入ったが雨は強くなり、暗くなって試合続行はむずかしくなった。大会本部、審判団協議の結果、日没コールドゲームで盛鉄の勝ちとし、宣告しようとしたところ、納まらない盛岡実業からの強行な抗議。盛鉄にタイムが多く、これは故意の遅延行為と見るべきで、この試合は無効だと主張した。しかし規則に従った決定で、その旨を告げると、今度はスタンドに陣取った応援の観衆が騒ぎだした。電燈もない闇のなか。スタンドから石や棒などが投げ込まれ、騒ぎに興奮してファンもグラウンドに乱入する。万策つきて警察機動隊の出動を要請、やっと納めることができた。

そんな中で、岩本氏だけはベンチにどっかりとすわり、物事ひとつ言わず、毅然たる態度で終始されていたのは印象的だった。

当時は審判員の雨コートもなく、全身ビショ濡れとなり、あと味の悪い思いで家に帰り夕食をとったのは、はや深夜。翌日は決勝にそなえ、朝5時からグラウンド整備に出勤し、審判を勤めたのも、若い時代の思い出で。

東北の都市対抗野球は、戦前は仙台鉄道局の一人舞台であったが、戦後は東北大会で新日鉄釜石が16回、盛岡鉄道局が6回優勝と、岩手勢2チームが軸となって切磋琢磨、レベルアップに貢献した。だが、盛岡鉄道局は既に解散、新日鉄釜石も60回記念大会を待たずに休部となってしまった。栄枯盛衰とはよくいわれているが、東北の地に黒獅子旗をどのチームが持ってきてくれるか。それが私の夢で、今後に期待したい。

決勝

横浜市 (全横浜)	0 0 3 2 0 0 1 0 0	6
	0 0 1 2 5 0 0 4 X	12
東京市 (東京倶楽部)		

横浜市	打安点振球	【東京市】	打安点振球
⑦ 寺門	2 0 0 2 1	⑨ 7 銭村	3 2 1 0 2
1 富川	2 0 0 1 0	R 7 村	0 0 0 0 0
⑧ 瀨木	3 0 1 1 2	⑦ 7 原	4 0 0 1 0
③ 7 多	5 1 0 1 0	1 1	1 1 2 0 0
⑥ 6 杉	4 1 2 0 1	③ 1 3 宮	3 1 1 1 2
① 3 鈴	4 0 0 2 1	3 3	0 0 0 0 0
R 中	0 0 0 0 0	① 3 9 永	5 4 1 0 0
⑤ 5 黒	5 2 1 0 0	⑧ 8 片	5 2 1 1 0
② 2 島	4 1 0 0 0	⑥ 6 林	4 2 2 0 0
⑨ 9 唐	2 1 0 0 2	② 2 伊	2 0 0 0 0
④ 4 山	3 1 1 0 1	H 2 伊	0 0 0 0 1
	34 7 5 7 8	⑤ 5 村	4 1 2 0 0
		④ 4 横	3 0 0 0 1
			3613104 6

横浜残盗失	0 2 9 5 3
投手回	4 2/3 24 8 0 1 6
鈴木	3 1/3 19 5 4 5 3
富士川	3 1/3 19 5 4 5 3

横浜残盗失	1 0 7 8 3
投手回	3 1/3 17 5 4 2 2
永宮	3 1/3 16 2 3 5 1
中村	2 2/3 9 0 0 1 0
永井	2 2/3 9 0 0 1 0
銭村	2 2/3 9 0 0 1 0
黒田	2 2/3 9 0 0 1 0

▽本塁打 宮武(鈴木)▽二塁打 永井2 銭村 黒田
▽2時間31分

東京打線、底力で逆転

強打線の東京倶楽部が3番宮武の左翼芝生席への本塁打などで全横浜に逆転勝ち、都市対抗2連覇を成しとげた。

先手をとったのは横浜。東京先発の永井を攻め、3回連安打で無死一・三塁とし、東京守備陣の意表をつく重盗でまず1点、さらに敵失と杉谷の中前打で計3点を先取した。4回にも2安打と四球で一死満塁とし永井をKO、代った宮武から内野ゴロと四死球で2点を加えた。



剛球鉾打で大活躍した東京倶楽部の宮武三郎選手

東京は4回、宮武の本塁打などで2点を返し2点差とし、5回に一気の逆転。

二死一・二塁に永井、片田、林が連続タイムリー、四球をはさんで村川も中前に打ち返し5点を挙げた。横浜は7回、黒田の二塁打で1点を返したが、東京は8回、3四球と2安打、それに盗塁、バントなど機動力を生かした攻撃で4点を奪いトドメを刺した。

強打線の東京は、リードされてもあせることなく、じっくりと攻めた試合ぶりが大量点に結びついた。横浜の鈴木、富士川両投手も力投をみせたが、東京打線の底力がそれを上まわった。



若冠20才の強烈デビュー。優勝候補の満州倶楽部を倒し、宿舎で曹潮監督のねぎらいを受ける大岡虎雄投手(右)

労働スポーツの花

八幡製鉄・大岡虎雄投手がすばらしいデビューを飾った。生粋の九州っ子。豊岡中学を卒業して八幡製鉄に就職、中央球界ではまったく無名の20歳の青年だ。

八幡は第2回大会について2度目の出場だが、大岡にとっては初の晴れ舞台。初戦で、第1回、第3回大会に優勝した大連満州倶楽部と対戦した。186㌢、80㌢の筋骨隆々とした大岡は、この強豪に少しもひるむことなく立ちむかい、2回には自ら右前打して田中の適時打で先制のホームを踏んだ。4回にもチャンスを広げる安打を放ち、貴重な追加点に結びつけた。

投げては重い速球を武器に、4回、満州切っ手の強打者片岡に本塁打を浴びはしたが、5回以降は全く危ない気ないピッチングで大連打線を抑え切り、その若武者ぶりはファンの大喝采を浴びた。「苦しかったけど、夢中で投げました」と、力で押すピッチングと同じように歯切れよい受け答えだったが、女房役の花田春美捕手は「一心同体。絶えず練習を続けて、あくまで突き進む。それが八幡の意気です。大岡も最後まで気力十分で、ちっとも心配しなかった」とほめたたえた。後年は天分の打撃力を発揮、大打者に成長した大岡だったが、初舞台の勇姿はファンの胸に焼きつき「神宮球場に咲いた労働スポーツの花」とたたえられた。

若槻首相メッセージ

開会式で披露された次のような若槻首相のメッセージは、都市対抗野球が日本最高のイベントになったことを示している。

「国民的運動競技の中心を成す野球は団体競技として深い意義を有し、本大会はその範囲、陣容、技術において、我が野球界の権威というべきもの。しかも赫々烈日の下、堂々覇を争うは日本男子の本懐これに過ぎず、諸

君は相共に運動精神を尊重し、フェアプレーを終始され、本大会の使命を完うされんことを希望する」。



2年連続優勝を果たし、黒獅子旗を受ける石井主将

選手に初の傷害保険

都市対抗に出場、試合中にけがをした選手に対する傷害保険が初めてかけられた。主催者の東京日日新聞が、東京火災保険株式会社と契約したもので、225人の選手の保険金は22万5千円だった。

1回戦

呉市 (全呉)	0 0 0 0 0 0 0 0 1	1
	0 0 0 0 1 0 0 1 X	2
東京市 (東京倶楽部)		

【呉市】	打安	【東京市】	打安
⑤ 4 木	4 1	⑧ 8 水	4 2
④ 4 田	3 0	⑤ 5 原	2 1
H 6 中	1 0	② 2 村	4 0
⑥ 6 野	4 1	⑦ 7 伊	3 0
① 1 寺	3 0	⑨ 9 矢	3 1
⑧ 8 追	2 0	③ 3 永	3 0
⑨ 9 上	3 0	⑥ 6 鷲	3 1
⑦ 7 山	3 0	① 1 林	3 0
② 2 村	3 0	④ 4 中	3 1
③ 3 安	3 0	④ 4 横	2 8 6
	29 2		

振球機盗失残併	6 2 1 1 2 4 1
振球機盗失残併	0 3 1 1 2 6 0
▽三塁打	横沢▽二塁打 水原 木村
▽1時間	27分

1 回戦

京城市 (竜山鉄道局)
0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2
1 3 0 0 0 3 5 0 X | 12
台北市 (台北交通団)

【京城市】 打安
西村清 4 0
平井田 4 2
永生乃 4 1
生桜白 4 2
麻石井 4 1
大根石 3 0
瀬安口 0 0
西村春 1 0
振球機盗失残併 3613

振球機盗失残併 4 5 0 1 4 8 1
▽三塁打 内山▽二塁打 渡辺 2 生乃
内山 黒田 本多 浅尾 瀬口▽1時間56分

1 回戦

大阪市 (全大阪)
2 2 0 0 0 0 1 3 0 | 8
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
富山市 (富山紡績)

【大阪市】 打安
長谷川 4 3
戸里 5 4
七梅 0 0
水田 5 0
中上 5 1
浜川 4 2
米立 2 0
立川 1 1
黒田 5 1
三村 3 1
振球機盗失残併 3813

振球機盗失残併 3 7 0 2 1 1 0 0
▽三塁打 戸田 2▽二塁打 中川 戸田
▽1時間54分

1 回戦

八幡市 (八幡製鉄)
0 1 0 1 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
大連市 (満洲倶楽部)

【八幡市】 打安
清高 4 1
橋坂 2 0
小坂 3 1
大馬 4 2
前田 2 0
田花 2 1
白木 4 0
振球機盗失残併 305

振球機盗失残併 5 4 2 1 3 7 3
▽本塁打 片岡 (大岡)
▽2時間5分

1 回戦

神戸市 (全神戸)
0 0 6 1 0 0 0 0 0 | 7
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
京都市 (全京都)

【神戸市】 打安
川崎 6 1
金横 0 0
横高 3 0
橋高 5 2
高泉 2 0
三小 4 2
木林 1 1
片岡 4 1
森加 5 1
柳藤 4 2
振球機盗失残併 4011

振球機盗失残併 5 5 1 2 3 1 2 0
▽1時間52分

1 回戦

横浜市 (全横浜)
1 0 0 7 1 1 0 3 0 | 13
0 0 0 0 1 3 0 0 0 | 4
高崎市 (高陽倶楽部)

【横浜市】 打安
寺門 2 2
富士川 2 0
唐沢 3 0
津瀬 1 0
瀬多 6 3
黒杉 5 3
中山 5 3
島博 3 0
之内 4 1
振球機盗失残併 4015

振球機盗失残併 1 6 1 1 3 1 6 0
▽本塁打 山本栄 (多瀬)▽三塁打 瀬木
多瀬 杉谷▽二塁打 多瀬 唐沢▽2時間1分

1 回戦

函館市 (太洋倶楽部)
0 1 0 0 0 0 1 2 0 | 4
1 2 0 0 0 2 0 0 X | 5
名古屋市 (名古屋鉄道局)

【函館市】 打安
笹川 5 0
森弟 4 0
速永 1 0
久慈 4 1
高久 4 2
高奥 4 0
奥浅 4 3
高瀬 0 0
高種 2 0
振球機盗失残併 337

振球機盗失残併 7 4 2 3 1 8 0
▽2時間8分

準々決勝

仙台市 (仙台鉄道局)
0 0 0 0 0 3 0 1 0 | 4
0 2 1 0 0 3 2 0 X | 8
東京市 (東京倶楽部)

【仙台市】 打安
菊地 5 2
岡取 3 0
大長 3 0
梁沢 4 0
沢十 4 3
五風 4 1
相見 1 0
岩久 1 1
若岩 3 0
伊保 3 0
瀧江 2 0
振球機盗失残併 328

振球機盗失残併 8 7 1 0 2 9 0
▽二塁打 片田 2 菊地 矢島 沢瀬 2
岩崎▽2時間8分

準々決勝

大阪市 (全大阪)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 2 2 0 2 0 0 X | 6
台北市 (台北交通団)

【大阪市】 打安
米谷 3 0
長川 2 0
戸川 2 0
中長 2 1
水浜 2 2
藤梅 2 1
里田 2 0
七鶴 2 0
黒田 1 0
谷田 1 0
振球機盗失残併 304

振球機盗失残併 6 4 0 1 6 6 0
▽三塁打 中村 田中
長浜▽二塁打 黒田
(台)▽1時間59分

準々決勝

神戸市 (全神戸)
0 0 0 1 0 1 1 1 1 | 5
0 3 0 5 1 0 2 0 X | 11
八幡市 (八幡製鉄)

【神戸市】 打安
川崎 5 2
泉谷 4 1
橋本 5 1
高本 4 1
三森 5 2
片岡 3 1
木村 2 0
横尾 1 0
尾加 1 0
小金 1 0
振球機盗失残併 3610

振球機盗失残併 2 7 1 1 5 1 2 1
▽三塁打 坂戸 高田
加藤 田中 橋本▽1時間58分

準々決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 2 0 0 0 1 0 X | 3
横浜市 (全横浜)

【名古屋市】 打安
服部 4 1
藤原 3 0
藤野 4 0
武野 4 0
三浦 4 1
清部 4 1
服部 3 1
水中 2 0
喜多 1 0
振球機盗失残併 325

振球機盗失残併 4 1 0 1 5 6 0
▽二塁打 服部孝▽1時間47分

準決勝

東京市 (東京倶楽部)
0 0 2 0 0 0 3 0 4 | 9
0 1 0 0 1 0 1 2 0 | 5
台北市 (台北交通団)

【東京市】 打安
水原 4 0
矢宮 4 2
宮永 4 2
水齋 0 0
片尾 0 0
林田 3 2
伊丹 4 1
今伊 3 1
森村 0 0
H 1 1
R 0 0
2 0 0
5 4 1
振球機盗失残併 3613

振球機盗失残併 0 6 3 2 2 9 0
▽三塁打 永井
▽二塁打 渡辺 森
▽2時間4分

準決勝

八幡市 (八幡製鉄)
1 0 2 0 0 0 0 0 0 | 3
1 0 0 4 4 0 0 0 X | 9
横浜市 (全横浜)

【八幡市】 打安
清高 4 2
小坂 4 0
大馬 3 1
前田 4 2
藤井 4 0
長井 1 0
田中 1 0
花白 3 0
振球機盗失残併 326

振球機盗失残併 6 1 0 1 2 3 0
▽三塁打 杉谷
▽2時間6分

裏方の都市対抗野球

関東連盟理事長 東保秀喜



都市対抗野球の裏方を務めて今年で35年になります。黒獅子旗も還暦を迎えましたが、私も64才になった。第26回大会から60回の記念大会まで、その間大会を通しての様々な思い出、それが私の野球人生とも言えます。毎日新聞社に入社して事業部の野球担当になってから裏方稼業に入り、いまもおその裏方を務めてる。28年ごろの協会の偉方は大学で花形プレイヤーだった人達の集まりで、事務局長が小川正太郎、常務理事には牧野直隆（現高野連会長）をはじめ中村峯雄、井口新次郎、川瀬進、本田竹蔵、村瀬保雄氏らそうそうたる顔ぶれでした。そんな中で私はいま思えば何であんなことという失敗をくり返し、よく怒られたものです。

当時の大会本部は若い者が泊り込む。天気の良い時はのんびりできたが雨だと大変だ。審判員、チーム関係者から弁当屋さんまで、関係各方面に中止か決行かの連絡。それを手ぎわよく処理する。一方的な問い合わせに納得する答えを返す、それができるまで4、5年かかりました。その雨で忘れられないことがある。球場から300mと離れない所に大会本部があった。その日は前夜から強い雨が降り続き、朝になってもあがらない。今日は駄目だなと思って、小川さんの部屋に「これでは中止ですね」と伝えにいった。とたん「バカ者、ここは降っても球場はあがっているかも知れないぞ、球場の状況を見た上で報告しろ」と大きな雷を落された。あの教訓がそれ以後の私の大会運営に対するいろいろな面に大きく役立つことになりました。もう1人の先生は後楽園球場支配人の吉井滋氏でした。1日4試合を消化する都市対抗には「雷雨の襲来」や「延長戦の連続」これが大きな悩みだ。雷雨でグラウンドは最悪の状態、

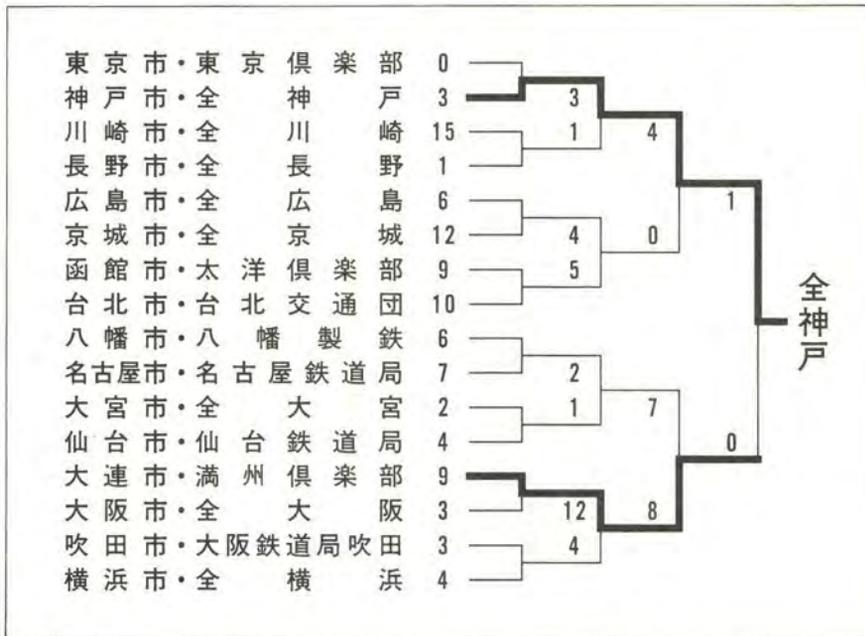
試合を再開するには整備に2、3時間を必要とする。雨はあがっているのでスタンドのお客さんは早くやれと騒ぐ。そんな時吉井さんは率先してグラウンドに出、球場部総出で砂を入れ、修復に全力をあげた。このす早い作業で、観衆の気分がどれだけ和らいたか。助言と協力に感謝します。

35、36年ごろから全盛期に比べとファンの減少傾向が目立ち始め、スポーツ紙などで「曲り角に来た社会人野球」などの活字が出はじめた。そんな時協会幹部から何か打開策はないかと相談された。そこで私は大会の特色であり、夏の風物詩となっている応援合戦、これを応援団コンクールとして競わせ、会社関係者に試合とともに応援に対する関心を高めさせ、社員動員に一役買わせてはどうですかと進言した。当時の野球界のアマ規定は厳しく、野球以外の催物を主催することは相当の勇気を伴い、石頭の多かった幹部としては、よくぞ実施に踏み切ったものだと思った。こんな経過で生まれたコンクールもチーム会社応援団の絶大な協力で今日の隆盛を見ました。そのほかでは40回大会の夜の開会式。試合のない入場行進だけの開会式、これの開催には相当苦勞しました。第2部として歌手による芸能大会、賛否両論の中での開催。試合もなく入場式だけで人が集まるか心配ごとはたくさんあったが、まああの成績で終り人影のなくなった球場でほっとした裏方の喜びを味わいました。

第18回大会につづき第40回大会に天皇后両陛下(当時)の御臨場を賜りました。記念大会として特筆すべきことでわれわれ関係者は感銘いたしました。また真夏の夜空にオレンジボールによるホームラン競争も忘れられない思い出です。

第6回大会

1932年(昭和7年)8月4日-8月9日・神宮球場
優勝=神戸市・全神戸



準優勝称え白獅子旗誕生

参加チームが1チームふえて、16チームが神宮球場に集合した。これまでは優勝チームだけが、「黒獅子旗」を手にしていたが、この大会からは準優勝チームも「白獅子旗」が贈られることになった。

大会前は下馬評もあがらなかった伏兵・全



初優勝を飾った全神戸・加藤主将に本社・奥村会長から黒獅子旗が贈られた

神戸がミラクル木村秀一投手(関学出)の妙技で奇跡の優勝を果たし、大連市、東京市の2都市にしかひるがえったことのなかった黒獅子旗が初めて関西の地にもたらされた。

神戸は大会初日の第1試合で強豪東京倶楽部と対戦した。東京は都市対抗2連覇を果たし、さらに田部武雄(明大出)、楠見幸信(慶大出)を加えた豪華なメンバーで戦力は充実。3連覇は目前のようにみられていた。

ところが神戸・木村投手はたんねんにコースをつく、絶妙なコントロールで東京打線をほろろうした。東京・中村峰雄投手(明大出)も神戸打線を抑え、試合は淡々と進んだ。東京は6回、田部三塁手、楠見左翼手が連安打したが、田部が三塁を狙って刺され、さらに投手の悪けん制で楠見が三進したが、横沢二塁手とのスクイズはファールとなり失敗。永井一塁手の大飛球も梶上初一中堅手(慶大出)が背走よく好捕、得点できなかった。神戸は7回二死一・二塁と初めてのチャンスに木村投手がつまりながら右前打して1点、8回にも二死満塁に橋本三塁手が一塁手頭上をフラフラと越える2点適時打を放った。東京は8回の一死三塁もスクイズ失敗で本塁噴死、9回にも一死一・二塁としたが及ばなかった。木村投手は準々決勝でも、1回戦で19安打15点を挙げた全川崎を3安打1点に抑え、準決勝でも渡辺大陸投手(明大出)と投げ合い、堂々と台北交通団を完封した。大連満州倶楽部との決勝は、左腕 浜崎真二投手(慶大出)に抑えられ、防戦一方だったが、たった1度のチャンスに39歳の主将、加藤吉兵衛遊撃手(早大出)がスクイズを決め、決勝点をあげた。

全神戸と木村投手に話題の集中した大会だったが、1回戦で台北に7回まで10-2とリードされながら8回1点、9回には6点を返してあわやとつめ寄った函館大洋倶楽部。9回表に2点を奪われたものにもかかわらず、その裏3点を奪って土壇場で大阪鉄道局吹田に逆転勝ちした全横浜の試合ぶり。また武田可一、清田重雄投手、喜多村保捕手を軸に牧野栄一中堅手、藤原吉三郎左翼手、服部幸太郎二塁手ら、中学卒業者を練習で鍛えあげ、好チームをつくって準決勝では大連を苦しめ抜いた名古屋鉄道局など、ファンの胸をうつ熱戦が多かった。

決勝

大連 (満州倶楽部)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 0 0 X | 1

神戸 (全神戸)

【大連市】	打安点振球	【神戸市】	打安点振球
③ 小池	5 0 0 0 0 0	⑧ 梶上	4 0 0 0 0 0
④ 永沢	4 3 0 0 0 0	④ 大橋	3 0 0 0 0 0
① 浜崎	3 1 0 0 0 0	⑦ 町田	2 0 0 0 0 1
② 片岡	4 0 0 0 0 0	⑤ 橋本	3 0 0 0 0 0
⑧ 高須	3 0 0 0 0 0	③ 宮崎	3 0 0 0 1 0
⑨ 桜井	4 1 0 0 0 0	⑨ 谷口	0 0 0 0 0 0
⑦ 和田	3 0 0 1 0 0	② 柴田	3 2 0 1 0 0
H 橋本	1 0 0 0 0 0	③ 森口	2 0 0 0 0 1
⑤ 藤原	4 1 0 0 0 0	① 森木	2 0 0 0 1 0
⑥ 藤原	4 3 0 0 0 0	⑥ 加藤	2 0 1 1 1 0
	35 9 0 1 0		24 2 1 4 2

横浜残盗失	横浜残盗失	投手	回	打安振球責
2 0 1 0 0 0	2 1 3 1 2	木村	9	3 7 9 1 0 0
		手		
		回		
		打安振球責		
		28 2 4 2 1		

▽1時間38分

ミラクル木村投げ勝つ

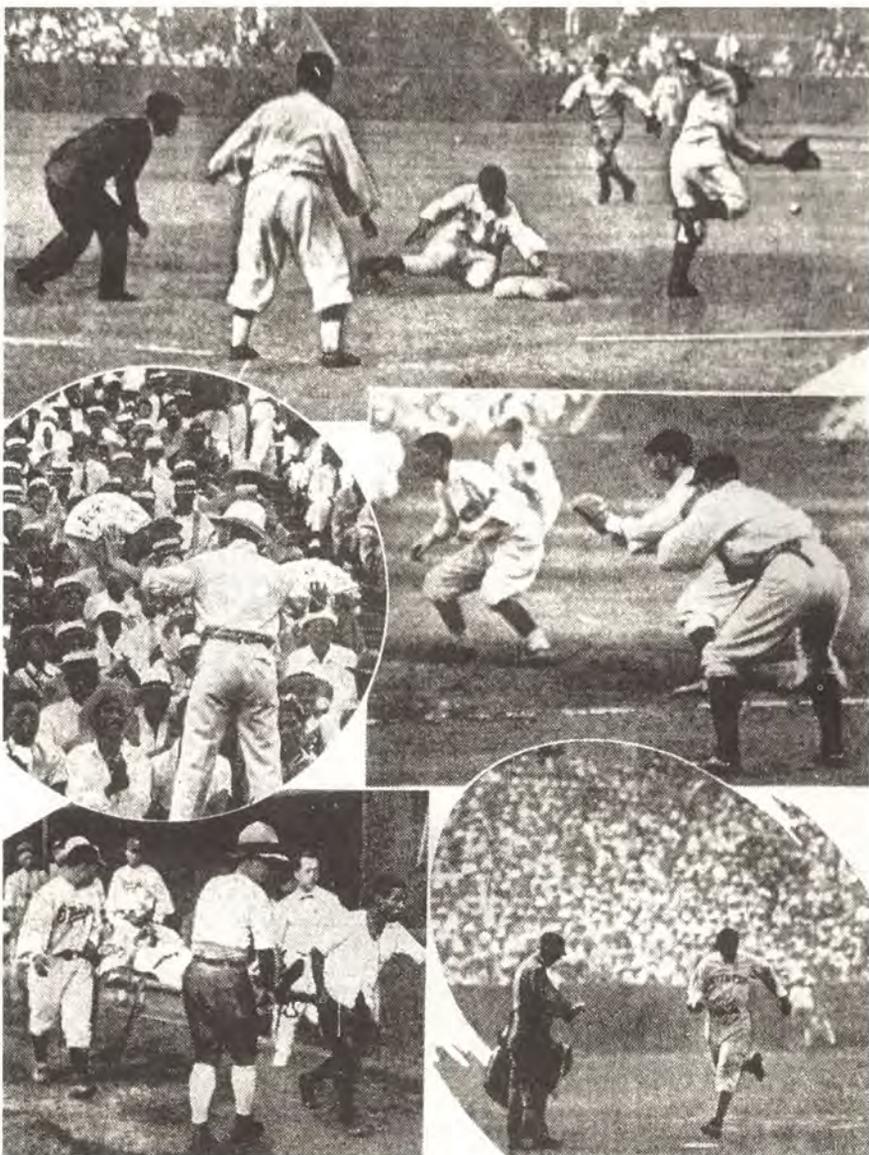
神戸のミラクル投手・木村と大連の左腕・浜崎の投げ合いとなった。木村はていねいにコーナーをついて4回まで3安打を許しながら後続を断ち、浜崎は内角への落差のあるカーブで神戸打線を抑え2回小柴に左前打されただけ。

しかし5回神戸は小柴がこの日2本目の安打を中前に打ち、森口も四球で出て無死一・二塁と初めてのチャンスをつくった。投手の木村がバントで送ると主将の老雄、加藤は0-2のカウントから投前スクイズ。見事に決まって先取点をあげた。



台北交通団のエースとして活躍した岡院・渡辺投手

大連も6回、先頭の浜崎が中前打したものの、強気の攻めは木村の術中にはまって無得点。そして8回、永沢が左前打、打順は中軸を迎えた。浜崎の投前バントは一塁手の落球を誘って無死一・二塁の絶好の反撃機。しかも打者は4番片岡。片岡の打球は遊撃、二塁、中



熱闘グラフィック。(上) 名古屋・八幡戦で名古屋・藤原三塁に滑り込む。(下右) 八幡・大岡、本塁打して生還

堅を結ぶ三角形のちょうどまんなかにかつ飛んだ。遊撃・加藤がやっと追いついたものの、これを落球。走者はインフィールド・フライと思って走らず、その間にボールは、三塁、二塁と送球され一瞬に併殺でチャンスをつぶした。

大連は9回にも2安打で一死一・二塁としながら、木村の懸命な投球にうちとられ、9安打を放ったものの、2安打の神戸に敗れ去った。

打者139人に失点1

すい星のように現われて優勝投手になった全神戸・木村秀一投手。スピードがあるわけではなく、カーブはアウトドロップで速く鋭いものと、ゆるく大きく落ちるものの2種類だが、精密機械のような制球力が身上。ハーフスピードの速球を投げるコースも千変万化だ。

4試合全部を完投して3完封。打者139人に22安打を許し、5三振、9四球だったが、失点はわずかに1。腰をしずめて投げるフォームで打者としてはタイミングがとりやすく、外野飛球45だった。

ロサンゼルス・オリンピックの年で日本勢の活躍はすばらしく、水陸で世界記録が出たが、小野三千磨氏は、「レコード破りの今大会」という総評のなかで「野球界はじまって以来、これほどのピッチングを示した人はいないだろうし、今後も出ないであろうし、木村投手自身もこのような大投球をこれからも示すことはできないであろう」と驚きを綴っている。

2安打に抑えながら

当時「インドロップ」と呼ばれた落差の大きなカーブを右打者の内角に投げ込み、決勝で神戸打線をわずか2安打に抑えながら敗れた大連・浜崎投手。5回一死二・三塁にスローボールを投げ、加藤にスクイズを決められて決勝の1点を奪われた場面をふり返り「プレートにスパイクがひっかかって思い切って投げることができなかった」。

これを逃さず、投手右にころがしたベテラン加藤も立派だったが大連にとっては、まさに不運な1球といえた。



奇跡の優勝を果たした全神戸のミラクル・木村投手のピッチング

1回戦

東京市 (東京倶楽部)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 1 2 X | 3

神戸市 (全神戸)

【東京市】	打安	【神戸市】	打安
⑦ 楠見	4 1	⑧ 梶上	3 1
④ 横角	3 0	④ 金政	2 0
H 4 1	1 0	⑨ 泉谷	1 1
③ R 関	0 0	⑦ 田口	2 0
⑧ 永井	3 1	⑨ 4 3 森	3 0
⑨ 片田	0 0	③ 宮崎	3 0
① H 中	4 0	④ 大橋	0 0
⑤ H 5 齋	3 1	⑤ ① 木	3 1
H 2 村	2 0	② ② 柴	2 1
H 伊	0 0	⑥ ⑥ 藤	3 0
⑤ 1 4 田	1 0		25 5
	3 0		
	1 0		
	2 0		
	1 0		
	0 0		
	3 2		
	31 5		

振球機盗失残併
2 3 0 6 0 7 1

▽二塁打 永井
▽1時間59分

1回戦

長野市 (全長野)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
3 1 4 1 2 0 4 0 X | 15

川崎市 (全川崎)

【長野市】	打安	【川崎市】	打安
⑥ 河高	4 1	④ 吉相	4 1
⑦ 野山	3 1	⑥ 門田	5 4
⑨ 小宮	4 0	⑧ 津井	4 1
① 3 麻	4 0	⑨ 藤井	6 4
② 池田	3 0	③ 高橋	6 4
⑤ 宮沢	3 1	⑦ 須藤	4 2
③ 高遠	0 0	① ① 木	3 0
① 1 舟	2 0	② ② 井	1 1
④ 小沼	3 0	⑤ ⑤ 藤	3 1
⑧ 落合	2 0	② ② 高	1 0
⑧ 立原	1 0	⑤ ⑤ 西	4 1
	29 3		41 9

振球機盗失残併
4 0 2 0 3 3 1

振球機盗失残併
1 7 3 3 2 12 1

▽本塁打 藤井繁(麻田)▽二塁打 藤井繁
寺門 高橋▽1時間36分

1回戦

大宮市 (全大宮)

0 0 0 0 0 0 0 1 1 | 2
0 0 1 0 0 0 1 2 X | 4

仙台市 (仙台鉄道局)

【大宮市】	打安	【仙台市】	打安
④ 金丸	5 0	④ 菊地	3 1
③ 藤井	3 0	⑤ 保沢	4 0
⑥ 宮武	4 0	⑥ 長沢	4 1
⑦ 野口	4 2	③ ⑦ 梁	3 1
⑤ 1 野	4 0	④ ④ 沢	4 1
② ② 太	4 2	② ② 岩	4 1
⑨ ⑨ 東	2 0	① ① 守	4 2
⑨ 吉水	2 1	① ① 京	2 1
① 5 吉	2 1	① ① 桑	1 1
⑤ 高野	0 0	⑧ ⑧ 大	3 0
⑧ 平井	2 1		32 9
	32 7		

振球機盗失残併
9 5 0 1 0 8 0

振球機盗失残併
4 2 0 1 1 6 2

▽三塁打 桑江▽二塁打 菊地 梁取 吉水
▽1時間43分

1回戦

大阪市 (全大阪)

0 0 0 0 1 2 0 0 0 | 3
5 0 0 2 1 0 0 1 X | 9

大連市 (満洲倶楽部)

【大阪市】	打安	【大連市】	打安
⑤ 福長	4 1	⑤ 小池	3 2
⑦ 谷川	4 2	⑥ 永沢	4 0
④ 杉谷	4 1	① ① 崎	4 1
⑧ 杉中	3 0	② ② 岡	4 0
④ ④ 水	3 0	⑧ ⑧ 須	4 2
② ② 梅	3 0	⑨ ⑨ 井	3 1
③ ③ 塩	4 0	⑦ ⑦ 田	3 1
① ① 宅	2 0	① ① 口	1 1
① ① 西	2 0	③ ③ 本	4 1
⑨ ⑨ 三	2 0	⑥ ⑥ 柴	4 1
⑨ ⑨ 七	1 0		34 10
	32 4		

振球機盗失残併
1 3 0 3 6 5 2

振球機盗失残併
6 5 1 1 2 7 0

▽三塁打 桜井 杉谷▽二塁打 山口
▽1時間52分

街頭に戦績速報所

J OAKの実況中継は全国のファンの耳を引きつけていたが、東京市内には「戦績速報所」がつくられ、試合経過を知らせた。ラジオ放送を聞くため、ラジオ店前で店内から流れる中継に耳をそば立てるファンが多かったこともあって、大きなラジオ店前が速報所となった。このほか、神田小川町の美津農運動具店や、新宿角筈の専売局前など、人の集まるところにつくられ、大人気となった。

神戸のヒーロー絶賛

優勝候補の最右翼とみられた東京倶楽部は1回戦で敗退となったが、東京日日新聞でこの試合の概評を担当した井口新次郎記者は「当代球界の精鋭を網羅し、その豪壮なるメンバーは比類をみない東京軍も神戸・木村投手の終始一貫した完投にあえなく一敗地に敗れ、一方の巨星は地に墜ちた」と書き出し「木村投手の東京を零敗に屠った好投は、全くのヒーローであった。とにかく敵に得点を与えども、得点すべき打力に欠けてははとうすることもできなかった。結局打力に劣っている東京の敗戦は当然であった」と強打・東京を抑えた木村の好投をたたえた。

八
幡

熔鑪
の精華

鬼に鐵棒
の大岡投手

自信を包む
ウス笑ひ

1回戦

名古屋市 (名古屋鉄道局)

6 0 0 1 0 0 0 0 0 | 7

0 0 5 0 0 0 0 0 1 | 6

八幡市 (八幡製鉄)

【名古屋市】	打安	【八幡市】	打安
⑥	服部 3	⑧	清 5
⑨	部 5	⑨	高 5
⑧	松 4	⑤	坂 3
③	牧 3	①	大 4
①	松 3	②	馬 3
⑦	下 4	⑥	中 4
②	野 4	⑦	山 1
④	木 3	H	花 1
⑤	田 3	②	前 0
5	原 3	③	井 0
	村 4	1	川 3
	幸 1	④	井 3
	羽 2		塚 1
	島 2		藤 3
	中 32.5		
振球機盗失残併	8 1 1 1 7 2 1 0 0	振球機盗失残併	7 5 2 0 4 9 2
▽本塁打	大岡 (武田)	▽三壘打	中村
▽二壘打	服部幸 武田	▽二時間	40分

1回戦

京城市 (全京城)

1 0 1 0 0 0 0 4 6 | 12

0 0 0 0 5 0 0 1 0 | 6

広島市 (全広島)

【京城市】	打安	【広島市】	打安
③	柳 5	⑤	矢 2
④	西 5	⑦	野 4
⑦	李 3	⑧	堂 4
⑨	松 4	⑧	西 4
⑤	本 5	⑥	小 5
⑧	川 5	③	川 5
⑥	井 4	H	島 5
6	井 5	①	山 5
②	木 4	H	本 4
2	村 1	②	村 4
2	佐 1	④	野 2
①	威 1		部 4
1	田 1		肥 2
H	本 0		
1	原 1		
H	野 1		
1	小 1		
	野 1		
	吉 1		
振球機盗失残併	3 1 1 3 3 2 1 0 1	振球機盗失残併	6 8 0 1 4 1 1 0
▽三壘打	長谷川	▽二壘打	西堂 山本
▽二壘打	桜井	▽二時間	35分

1回戦

函館市 (大洋倶楽部)

0 0 0 0 0 0 2 1 6 | 9

3 0 0 1 1 0 5 0 X | 10

台北市 (台北交通団)

【函館市】	打安	【台北市】	打安
⑧	笠 4	⑧	木 5
⑨	川 4	④	留 0
⑦	達 5	④	井 0
③	三 5	④	田 3
②	水 3	③	中 5
⑥	沢 5	②	邊 5
⑤	慈 3	H	田 5
5	森 5	①	波 5
⑥	高 2	①	渡 5
⑤	飯 2	⑦	田 3
⑨	山 2	①	油 4
⑥	田 3	⑤	川 3
5	倉 3	⑥	井 3
①	野 3	②	島 2
9	坂 0	H	山 2
H	上 1	R	島 2
④	野 4	①	本 1
	瀨 4.3		
振球機盗失残併	5 3 0 3 2 9 0	振球機盗失残併	2 4 1 0 5 8 0
▽本塁打	田子 (奥野)	▽三壘打	田中
▽二壘打	永沢 田中	▽二時間	森
▽一時間	56分		

1回戦

吹田市 (大阪鉄道局吹田)

0 0 0 0 0 0 1 2 | 3

0 0 0 0 0 0 1 0 3 | 4

横浜市 (全横浜)

【吹田市】	打安	【横浜市】	打安
⑥	塩 3	⑧	三 3
⑧	宗 3	⑨	上 5
④	政 4	②	沢 5
⑤	崎 4	④	野 5
⑨	藤 2	①	田 4
③	本 2	⑦	川 4
3	瀬 0	⑥	田 4
⑦	島 4	H	野 3
②	岡 3	R	野 0
①	本 3	③	田 0
	辺 3.0		
振球機盗失残併	5 4 1 0 1 6 0	振球機盗失残併	4 3 0 2 2 1 0 1
▽三壘打	山本	▽二壘打	川崎 三上
▽二時間	5分		

準々決勝

川崎市 (全川崎)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

1 0 0 2 0 0 0 0 X | 3

神戸市 (全神戸)

【川崎市】	打安	【神戸市】	打安
④	吉 4	⑧	梶 3
⑥	富 0	⑨	上 2
⑧	津 4	⑦	谷 4
⑨	藤 4	⑤	田 4
③	井 4	①	本 3
⑦	繁 3	③	村 4
H	高 1	④	口 4
①	須 1	②	政 2
H	藤 3	⑥	柴 3
②	鈴 1		
⑤	西 1		
	広 4		
	松 2		
	寺 2		
	30.3		
振球機盗失残併	2 5 0 2 4 7 2	振球機盗失残併	4 4 3 0 2 6 2
▽二壘打	加藤 藤井	▽一時間	30分

準々決勝

台北市 (台北交通団)

0 0 0 3 0 1 0 0 1 | 5

0 0 3 0 0 0 0 0 1 | 4

京城市 (全京城)

【台北市】	打安	【京城市】	打安
⑧	才 2	④	柳 3
8	本 2	③	乃 2
⑤	多 1	⑦	西 1
③	山 5	④	千 2
①	田 4	⑨	生 2
②	中 5	7	西 1
①	邊 5	⑤	李 1
③	田 3	⑤	本 4
⑦	渡 4	⑧	松 4
④	油 4	⑥	長 4
⑥	川 1	②	谷 4
⑨	内 2	H	井 4
		R	木 3
		①	村 3
			石 1
			武 0
			田 0
			田 1
			1.0
振球機盗失残併	3 7 3 0 1 1 5 0	振球機盗失残併	2 4 0 2 1 6 0
▽三壘打	田子 長谷川	▽二壘打	松本
▽二時間	15分		

準々決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)

0 0 0 0 2 0 0 0 0 | 2

1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

仙台市 (仙台鉄道局)

【名古屋市】	打安	【仙台市】	打安
⑥	服部 4	④	菊 4
⑨	部 4	⑧	地 2
⑧	松 4	H	岡 2
③	牧 3	7	永 1
①	野 3	⑥	大 1
④	田 3	③	鈴 3
②	幸 4	③	皆 3
⑤	村 1	H	長 4
5	羽 1	⑦	梁 4
7	島 1	②	沢 4
	原 4.1	⑨	岩 4
	34.4	①	守 3
振球機盗失残併	3 4 1 1 0 1 0 0	振球機盗失残併	3 2 2 1 4 5 0
▽一時間	55分		

準々決勝

横浜市 (全横浜)

0 0 2 0 0 0 2 0 0 | 4

5 0 2 0 0 2 1 2 X | 12

大連市 (満州倶楽部)

【横浜市】	打安	【大連市】	打安
⑧	三 5	⑤	池 4
⑨	唐 4	④	小 4
③	1 3 富 3	①	水 3
②	5 黒 4	②	永 5
①	3 多 4	⑧	浜 5
2	高 0	⑨	片 5
⑦	見 0	7	須 5
⑥	田 3	①	井 5
⑤	勢 4	③	田 4
H	高 4	⑥	高 5
5	宇 2		梅 5
1	真 2		和 5
H	小 1		山 5
1	西 0		本 4
④	岡 1		原 5
	河 4		
	35.7		
振球機盗失残併	4 2 0 0 3 6 0	振球機盗失残併	7 4 1 1 1 9 0
▽三壘打	桜井	▽二壘打	和田 永沢
▽二時間	6分		

準決勝

台北市 (台北交通団)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

0 0 0 0 0 0 2 2 X | 4

神戸市 (全神戸)

【台北市】	打安	【神戸市】	打安
⑧	才 4	⑧	梶 4
⑤	山 4	④	大 3
③	4 黑 3	⑦	上 4
②	2 田 4	⑤	橋 4
①	3 渡 4	③	本 4
⑦	1 波 4	⑨	田 2
④	3 油 4	③	本 2
1	1 川 1	②	崎 2
3	1 内 0	①	谷 3
⑥	3 島 3	H	柴 3
⑨	河 1	⑥	小 3
9	本 2		木 2
	32.5		加 2
振球機盗失残併	0 1 0 0 2 6 1	振球機盗失残併	1 1 3 3 0 7 0
▽一時間	45分		

準決勝

名古屋市 (名古屋鉄道局)

3 2 1 0 0 0 0 1 0 | 7

3 2 0 1 0 1 1 0 X | 8

大連市 (満州倶楽部)

【名古屋市】	打安	【大連市】	打安
⑥	服部 6	⑤	小 3
⑦	藤 4	④	永 5
⑧	原 4	①	水 2
③	3 松 3	②	沢 3
①	9 3 松 3	⑧	岡 3
⑦	1 武 3	⑨	須 5
②	田 1	7	井 4
⑨	3 下 1	⑦	田 3
9	金 2	H	高 1
9	北 2	③	和 5
④	服部 4	⑥	梅 5
②	喜 4		本 5
⑤	鳥 5		原 1
	37.2		36.0
振球機盗失残併	7 8 1 2 5 1 2 1	振球機盗失残併	6 9 0 1 1 1 3 0
▽三壘打	片岡	▽二壘打	武田
▽二時間	25分		

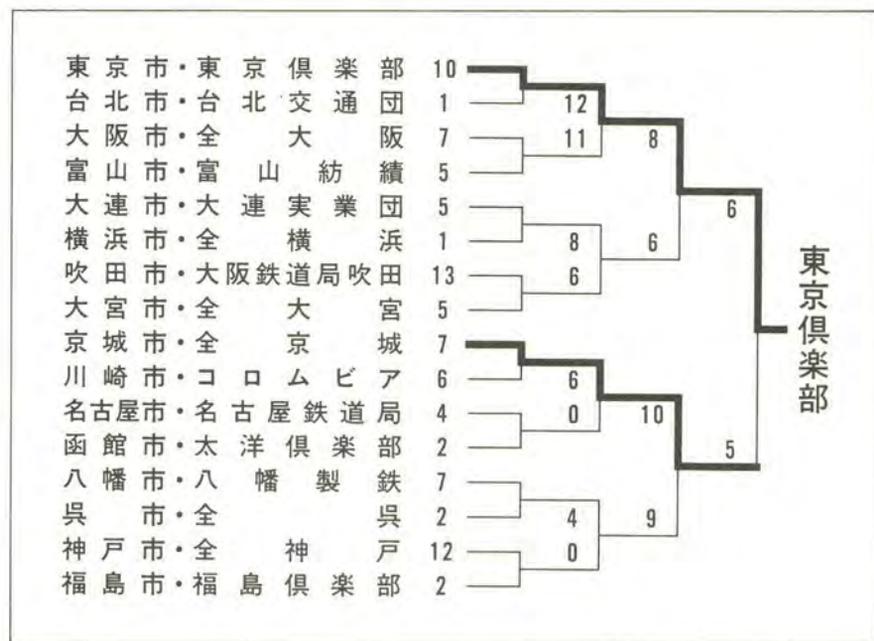


全神戸チーム。前列左から、宮崎、大橋、高田、泉谷、清根、金政、町田、梶上、後列、柳田、森口、加藤、橋本、木村、小柴の各選手

第7回大会

1933年(昭和8年)8月4日-8月11日・神宮球場

優勝=東京市・東京倶楽部(2年ぶり3回目)



から、力強くはね返し、逆転に成功した底力はさすがだった。

準々決勝の全大阪は鉄腕 伊達正男投手(早大出)が加わり、その打撃は中堅・弘世正方(早大出)、二塁・川瀬進(慶大出)、左翼・望月忠造(横浜高商)、投手・伊達、一塁・塩見力(横浜高商)、捕手・岡田貴一(慶大出)、三塁・水上義信(早大出)、遊撃・米沢徹(明大出)、右翼・西川東平(慶大出)と東京に劣らない陣容だった。東京の先発は宮武三郎投手(慶大出)で、早慶戦で神宮をわかせた両エースの対決にファンは大喜びだった。しかしともに不調で途中降板。7-0とリードした大阪を東京が猛追。5回に6点を返し、7回に3点を奪って逆転。大阪も粘り強く8回4点を挙げて再逆転したが、東京もその裏同点とし、ファン熱狂のなかで延長11回、東京は銭村辰巳(明大出)の幸運な遊撃不規則安打でサヨナラ勝ちした。準決勝の対大連実業団戦でも、岩瀬(谷口)五郎投手(早大出)を打ち込みながら2度にわたって追いつかれ、またも延長戦。11回東京は一死二塁で宮武が適時打、さらに片田宣道(立大出)の三塁打とスクイズで3点を奪い、その裏大連の攻撃を1点に抑え決勝に進んだ。

全京城との決勝は京城・李栄敏投手の速球に抑えられ、9回表を終って5-2。その裏の攻撃も二死者なし。ところが矢島紘安左翼手(早大出)の左前打と四球で一・二塁とし、宮武、片田の適時打で同点とし延長戦。10回には荷田久徳遊撃手(法大出)の安打からチャンスをつくりサヨナラ勝ちした。

作家の久米正雄氏は「ことしの都市対抗ほどおもしろい大会はなかった。年々この大会は充実してくる。東京、大阪、大連、八幡、京城のごとく、六大学以上に大粒で立派な力量を持った点、都市対抗こそ、真に日本の野球のオリンパスといえる」とほめた。都市対抗史上に残る名勝負の続出した大会といえた。

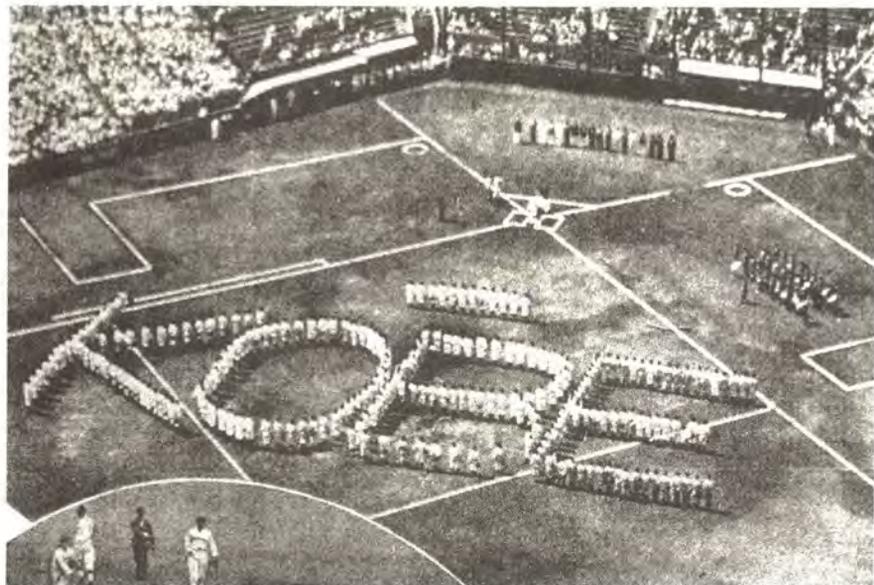
この大会から個人表彰制度が設けられ最優秀賞は優勝した東京倶楽部・真野春美二塁手に贈られ、次の各選手が表彰された。

▽本塁打賞=大岡三塁手(八幡) 松本右翼手(京城) 各1本
▽打撃賞=野原遊撃手(大連) 13打数8安打、打率6割1分5厘
▽生還打賞=矢島左翼手(東京) 9

初のMVPは東京・真野

東京倶楽部が苦戦を重ねながら、持てる打力を発揮して2年ぶり3回目の優勝を飾った。

渡辺大陸投手(明大出)を擁した台北交通団と当り、「大象と巨鯨の対決」といわれた1回戦こそ、早々と渡辺投手を打ち崩し快勝したが、準々決勝からは全部延長戦。敗北を覚悟するような大ピンチに何度もさらされた



開会式で人文字が登場。前年優勝の全神戸をたたえて、入場行進の選手によりグラウンドにKOBEを描いた

決勝

京城市 (全京城)	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	5
東京市 (東京倶楽部)	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1	6

【京城市】	打安点振球	【東京市】	野	打安点振球
⑧ 中山	4 1 1 0 2	④ 真矢	野島	6 1 0 0 0
⑦ 李	6 3 1 0 0	⑦ 森	矢藤	5 2 0 1 0
⑥ 浅松	4 0 0 1 2	⑨ 永宮	藤	0 0 0 0 0
⑤ 鈴保	5 3 2 1 0	⑩ 井武	森	1 0 0 0 0
④ 藤	4 0 0 1 1	⑪ 横片	井	3 0 0 0 2
③ 勝	3 1 0 0 2	⑫ 沢田	武	5 1 1 0 0
② 小笠原	2 0 0 0 0	⑬ 河合	沢	0 0 0 0 0
横併残盗失	3 3 1 0 5 4 1 2	⑭ 中村	田	5 2 2 0 0
4 0 1 4 1 3		⑮ 手塚	村	1 0 0 0 1
		⑯ 角田	田	1 0 0 0 2
投手	回	⑰ 伊藤	藤	5 3 0 0 0
李	9 1/3	⑱ 関村	田	0 0 0 0 0
関	1/3	⑲ 関村	川	2 1 1 0 1
	4 1 0 1 0	⑳ 鏡	川	1 0 0 0 0
		㉑ 鏡	尾	1 0 0 0 0
				4 0 1 0 4 2 7
▽三塁打 中島		横併残盗失		0 2 1 3 0 0
▽2時間44分		投手	回	4 0 2 3 6 1 6 4
		中村	6	2 6 4 3 6 1

延長10回東京サヨナラ

ともに苦しみ抜いて決勝に進出した全京城と東京倶楽部。東京が9回に3点を奪って同点に追いつき、延長10回サヨナラ勝ちを収めた。



本社・高石主幹から黒獅子旗を受ける東京・林主将

京城は疲労の残る東京のエース宮武を攻め、1回3四球の二死満塁に鈴木が2点タイムリー。2回にも中島の三塁打を含む3安打で2点を加えた。

東京も2回菊田の中前打に敵失で2点を返したが、京城の攻撃に防戦一方。中盤は宮武を継いだ中村がしのぎ、反撃を待ったが、京城の横手投げ、李の速球に打線は沈黙した。京城は8回李の中前打で1点を加え3点差にしたが、それからの東京の攻撃がすばらしかった。土壇場の9回二死無走者から矢島が左前打、永井四球で一・二塁とし宮武が期待通り中前タイムリー、片田は右翼へ2点適時打を放ち一気に同点とした。

こうなると追う者の強み。10回には先頭の

菊田が中前打。京城は李に代え関をマウンドに送ったが伊藤四球。一死後真野も中前打して満塁とし、代打・森の三ゴロは浮き足立った三塁手の失策を誘い、決勝点をあげた。

さすが強打東京の集中攻撃とはいえたが、京城としては9回1点を奪われたあとの二死二・三塁に当たっている片田を敬遠、次の投手の中村と勝負する策もあったのに、片田と勝負、同点打を喫したのがくやまれた。

東西対決は超早慶戦

大阪・伊達、東京・宮武両投手が投げ合った全大阪対東京倶楽部の準々決勝は「超早慶戦」としてファンを喜ばせた。しかし両エースとも気負いが先立ったのか、ともに途中でKO降板となった。

大阪は1回安打と敵失でつくった二死一・三塁に伊達が右中間三塁打してまず2点、3

回にも1点を加え、4回には安打と四球などで一死満塁とし、望月が左中間に2点タイムリー、宮武を退けた。

一方伊達も乱調で4回まで安打こそ1本だが、5四球を連発、毎回塁上をにぎわせていた。東京は5回、またも連続四球で一・二塁としたあと矢島が右前適時打、二死後宮武が初球を右翼フェンス直撃の三塁打で6点をあげ伊達をKOした。

大阪・水上、東京・中村両2番手投手が投げ、東京は6回に1点を入れて7-7の同点。大阪は伊達をまたマウンドに戻したが、7回東京は宮武、中村の安打で3点のリードを奪った。

大阪も負けずに8回一死一・三塁に川瀬が左中間三塁打、さらに望月、塩見長短打で4点を挙げ逆転した。スタンドの大歓声のなか東京はその裏矢島の右前タイムリーで再び試合を振り出しに戻し、結局延長11回東京は真



2年ぶり3回目の優勝を成しとげた東京倶楽部の誇る宮武三郎投手のピッチング。後方は三宅投手

1回戦

台北市 (台北交通団)

001000000 | 1
130200400 | 10

東京市 (東京倶楽部)

【台北市】	打安	【東京市】	打安
⑨	杉屋 41	⑥	真野 22
⑧	友中 42	⑦	島田 22
⑦	田中 30	⑧	片井 42
⑥	渡辺 30	⑨	水角 43
⑤	三山 40	⑩	河野 30
④	黒内 41	⑪	尾村 20
③	山田 10	⑫	角中 51
②	岡山 30	⑬	村塚 51
①	川島 42	⑭	塚手 21
0	三浦 32	⑮	横 20
0	338	0	3212

振球権盗失残併 1201472
▽三塁打 矢島▽二塁打 永井 真野
▽2時間5分

1回戦

大阪市 (全大阪)

241000000 | 7
011001200 | 5

富山市 (富山紡績)

【大阪市】	打安	【富山市】	打安
⑧	弘世 41	④	大木 51
⑨	西川 41	⑤	青野 10
⑧	長谷川 20	⑥	佐野 20
⑦	望月 61	⑦	渡辺 50
⑥	伊達 42	⑧	角野 41
⑤	塩田 31	⑨	大井 31
④	岡上 31	⑩	網高 31
③	水野 30	⑪	高森 41
②	上野 10	⑫	島 31
①	宅 00	0	348
0	三米 41	0	5601481
0	川瀬 30	0	378

振球権盗失残併 612040151
▽三塁打 大島▽二塁打 塩見 岡田 大井 網家
▽2時間30分

1回戦

大宮市 (全大宮)

1300000001 | 5
301800100 | 13

吹田市 (大阪鉄道局吹田)

【大宮市】	打安	【吹田市】	打安
⑧	横沢 52	⑥	塩谷 53
④	岩瀬 42	⑦	川崎 43
⑤	土野 52	⑧	谷口 41
⑦	野口 52	⑨	崎田 43
②	太田 51	⑩	本井 50
①	吉野 32	⑪	坂宗 40
③	藤井 41	⑫	今本 54
⑨	吉水 10	⑬	岡本 41
⑥	白井 51	⑭	渡上 10
0	横沢 20	⑮	西川 00
0	3913	0	4117

振球権盗失残併 141222122
▽三塁打 今田▽二塁打 横沢四 土田 本多 西川▽2時間10分

1回戦

横浜市 (全横浜)

000000100 | 1
130100000 | 5

大連市 (大連実業団)

【横浜市】	打安	【大連市】	打安
⑧	内山 30	⑦	中川 41
H	青木 10	⑧	原田 43
⑧	野村 00	⑨	木村 42
③	瀬木 41	⑩	吉田 40
⑦	宇田 42	⑪	吉田 30
⑥	宇野 40	⑫	玉井 31
②	相富 41	⑬	岩瀬 41
①	富士 42	⑭	安藤 30
⑨	加藤 00	⑮	藤尾 10
H	勢島 30	0	20
④	中植 10	0	327
H	柴 30	0	2322280
⑤	加納 30	0	2322280
H	梅 10	0	367

振球権盗失残併 14001380
▽三塁打 野原 相見
▽二塁打 松木
▽1時間50分

東京対台北戦。1回東京・真野は片田の遊ゴロで三塁からホームを突くがタッチアウト



準々決勝

八幡市 (八幡製鉄)

010000111 | 4
000000000 | 0

神戸市 (全神戸)

【八幡市】	打安	【神戸市】	打安
⑧	清徳 10	⑨	林谷 30
⑨	高橋 30	⑩	小泉 10
④	阪大 41	⑪	清本 41
⑤	岡田 42	⑫	清本 41
③	大加 30	⑬	森本 41
⑥	馬場 42	⑭	森本 20
⑦	中村 52	⑮	三輪 10
②	花田 21	⑯	堀長 32
①	安田 40	⑰	生高 10
0	328	⑱	高浜 10

振球権盗失残併 110312141
▽本塁打 大岡(木村)▽三塁打 中村
▽2時間3分

準々決勝

京城市 (全京城)

002000004 | 6
000000000 | 0

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【京城市】	打安	【名古屋市】	打安
⑧	中山 30	⑥	服部 41
④	島谷 41	⑦	原田 10
⑦	李 51	⑧	藤内 10
③	浅原 33	⑨	渡辺 00
⑨	本木 40	⑩	渡武 30
⑤	田本 20	⑪	森 10
⑥	木田 41	⑫	伊原 40
①	保吉 30	⑬	藤原 10
②	関 11	⑭	服部 30
0	小笠原 31	⑮	青木 00
0	348	⑯	堀 21

振球権盗失残併 8701381
▽三塁打 浅原
▽二塁打 山谷
▽2時間16分

準々決勝

大阪市 (全大阪)

20140004000 | 11
00006131001 | 12

東京市 (東京倶楽部)

【大阪市】	打安	【東京市】	打安
⑧	弘世 62	⑥	真野 32
④	望月 32	⑦	島田 52
⑦	伊達 63	⑧	森 30
①	伊達 42	⑨	森 10
③	塩田 31	⑩	村井 11
②	岡上 50	⑪	永宮 31
⑤	水米 50	⑫	武藤 42
⑥	上沢 62	⑬	尾合 00
⑨	西川 10	⑭	村田 10
9	長谷川 40	⑮	中角 00
0	4312	⑯	村手 51

振球権盗失残併 28433110
▽三塁打 伊達 宮武 川瀬▽二塁打 弘世 望月 銭村
▽3時間35分

振球権盗失残併 715116131

準々決勝

吹田市 (大阪鉄道局吹田)

00000105 | 6
30000041 | 8

大連市 (大連実業団)

【吹田市】	打安	【大連市】	打安
⑥	塩島 60	⑥	野原 41
⑦	谷田 43	⑦	原井 41
④	崎川 11	⑧	木田 40
④	荒本 11	⑨	田中 41
④	井田 40	⑩	吉松 41
①	本宗 20	⑪	松岩 42
③	藤本 50	⑫	安藤 30
3	菅 20	⑬	藤安 42
3	菅 00	⑭	藤安 30
3	菅 10	⑮	中川 348
H	松井 11	0	1214351
②	下上 40	0	378
H	上野 11	0	108154130
⑤	渡西 51	0	▽二塁打 松下 ▽2時間5分

振球権盗失残併 1214351
▽二塁打 松下
▽2時間5分

準決勝

八幡市 (八幡製鉄)

200222001 | 9
23030011 | 10

京城市 (全京城)

【八幡市】	打安	【京城市】	打安
⑧	清徳 30	④	中山 31
8	中山 21	⑤	島谷 53
④	阪本 10	⑥	李 62
⑤	角地 32	⑦	浅原 30
1	馬場 41	⑧	藤内 31
⑥	大田 21	⑨	渡武 53
⑤	岡田 41	⑩	森 52
⑦	中村 42	⑪	伊原 21
②	花田 30	⑫	藤原 00
H	安田 00	⑬	服部 00
④	安田 21	⑭	青木 00
⑨	高木 41	⑮	堀 21
H	松本 00	⑯	小笠原 21

振球権盗失残併 215031110
▽本塁打 松本(角地)▽三塁打 李 末松
▽二塁打 角地▽2時間54分

準決勝

東京市 (東京倶楽部)

20020010003 | 8
00004001001 | 6

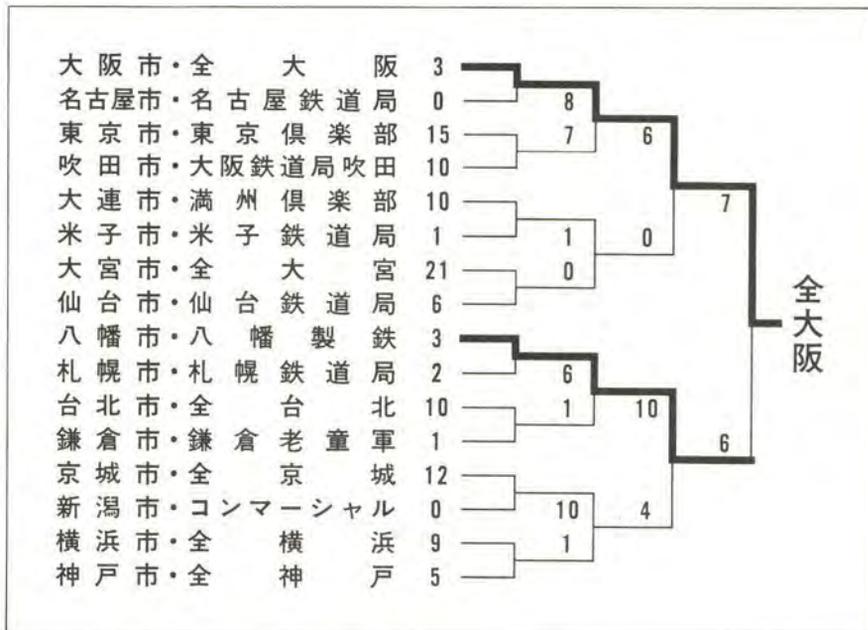
大連市 (大連実業団)

【東京市】	打安	【大連市】	打安
⑨	銭真 62	⑦	中野 50
④	横井 31	⑧	原木 54
④	野村 00	⑨	松尾 42
③	水村 30	⑩	吉田 32
1	永中 10	⑪	藤原 00
①	宮武 41	⑫	岩瀬 00
①	藤尾 00	⑬	藤原 30
R	藤田 00	⑭	藤原 20
③	尾田 64	⑮	藤原 51
⑧	島田 53	⑯	藤原 30
②	田村 62	⑰	藤原 10
⑥	手村 31	⑱	藤原 22
⑤	手村 51	⑳	藤原 00
0	4215	㉑	藤原 30

振球権盗失残併 36461112
振球権盗失残併 2924383
▽三塁打 片田 安藤▽二塁打 手塚 片田 田村 松尾▽2時間57分

第8回大会

1934年(昭和9年)8月5日-8月11日・神宮球場
優勝=大阪市・全大阪



雌伏7年、大阪雄叫び

雌伏7年、全大阪が宿願の初優勝を成し上げた。第1回大会から連続出場、第1回には決勝まで進出しながら夢かなわず、その後も力は評価されているが「黒獅子旗」は遠く、不運に泣いてきた。今大会から三原脩(早大出)牧野直隆(慶大出)両選手が加入し、打っては1・2番、守っては鉄壁の内野守備でチームを締め、剛腕投手の伊達正雄(早大出)



高石主筆から黒獅子旗を受ける全大阪の長谷川主将

一岡田貴佳の(慶大出)のバッテリー、久保田信一遊撃手(明大出)村井竹之助外野手(早大出)らの充実した陣容で東京とともに優勝候補にあげられていた。

1回戦は伊達が名古屋鉄道局を完封、準々決勝で宿敵東京倶楽部と対戦した。

ともに東京六大学リーグの花形プレーヤーや日本球界屈指の名選手を網羅したチームとあって、試合は正午開始にもかかわらず早朝から長蛇の列ができる人気だった。前回大会では延長の末、東京が12-11で勝ったが、今回は前回と逆に東京が3回で7-0と大量リードを奪った。東京 菊谷正一投手(立大出)のピッチングから大阪は苦しいと思われたが、4回に1点を返し、立ち直った伊達が東京打線を抑える一方、打線は7回に三原、牧野の安打などで1点をあげ、8回には目の覚める攻撃をみせた。疲れの出た菊谷から三四球で無死満塁。久保田左前安打、三原も四球で2点を入れ、菊谷に代った辻猛投手(立大出)に牧野が2点適時打を浴びせ、さらに村井の安打で一挙5点、同点とした。勢づいた大阪は9回にも二死二塁から牧野が左前に決勝のタイムリーを放って東京を倒し、雪辱を果たした。

準決勝は大連満州倶楽部の浜崎真二投手(慶大出)を打ち込み、伊達が6安打完封で快勝。強打の大岡虎雄三塁手と伊達一騎討ちと評判になった八幡製鉄との決勝も大接戦の延長の末、競り勝って初の黒獅子旗を手にした。

白獅子旗の八幡の活躍も光り、大連満州倶楽部、全京城となじみ深い、強豪チームがベスト4に顔を揃えるなど充実した大会だった。

作家、久米正雄さんを総監督とする異色チーム「鎌倉老童軍」が出演して話題となった。

最優秀賞は優勝した全大阪の牧野三塁手と準優勝の八幡製鉄・加藤喜作(巳佐久、慶大出)遊撃手が激しく争い、加藤遊撃手が獲得した。本塁打賞は各1本の富田左翼手(大宮)と宇田左翼手(横浜)打撃賞は打率3位まで表彰することになり菊谷投手(東京)7打数5安打、7割1分4厘、宮武投手(東京)7打数4安打、5割7分1厘、尾崎二塁手(京城)11打数6安打、5割4分5厘。生還打賞は京城の藤井右翼手(打点9)が受賞した。

決勝

八幡市 (八幡製鉄)

1 0 0 0 0 1 3 1 0 0 | 6
0 0 1 0 0 3 0 0 2 1 | 7

大阪市 (全大阪)

[八幡市]	打安点振球	[大阪市]	打安点振球
⑥ 加藤	6 3 3 0 0	④ 三原	4 1 2 0 1
⑨ 高橋	5 2 2 2 0	⑤ 原野	4 2 0 0 1
③ 大阪	4 1 1 0 1	⑦ 望月	3 0 0 0 2
R 戸田	0 0 0 0 0	⑧ 村井	5 2 1 0 0
3 吉馬	0 0 0 0 0	① 伊達	4 1 0 0 1
⑤ 馬場	3 0 0 0 2	③ 塩見	5 1 0 0 0
⑦ 中村	5 0 0 0 0	② 田見	5 3 0 0 0
② 花田	5 2 0 0 0	⑨ 長谷川	5 0 1 1 0
① 角地	5 2 0 0 0	⑥ 久保田	3 1 0 0 2
⑧ 清末	3 0 0 0 0		3 8 1 1 4 1 7
④ 横井	4 1 2 6 3 3	残盗失	1 1 1 0 1 5

横井	残盗失	投手	回	打安振球	貴
2	0	10	2	伊達	10
4	6	12	3	伊達	3
5	3	5			
角地	9	4	6	1	1
▽三壘打	加藤	久保田	▽二壘打	末松	2
▽2時間	25分				

三原殊勲のサヨナラ打

全大阪・伊達、八幡製鉄・角地の投げ合い、強打好打の応酬に息づまるシーソーゲームを展開、9回に同点に追いついた大阪が10回三原の殊勲打でサヨナラ勝ちした。

先手を取ったのは八幡。1回先頭の加藤が右越三壘打、大岡の内野ゴロでホームを踏んだ。大阪も3回2四球のあと村井が左前適時打して同点。

両投手とも速球と大きなカーブで力投したが、八幡は6回末松、高橋の長短打で再びリード。大阪も負けずにその裏村井、伊達、塩見が3連打して満塁。一死後長谷川の遊ゴロは、送球を受けた二塁手が併殺を焦って大きくそらし3者が生還、逆転した。



宿舎で悠々の全大阪・伊達投手(右)と田中監督

しかし八幡は7回、花田兄、角地の安打の二死二・三塁から加藤、高橋が連続タイムリー、3点を取り、8回にも加藤の適時打でリードを広げた。大阪は9回先頭の久保田が右越三壘打、三原が中飛を打ちあげ1点差としたあと、牧野が二壘打、望月四球で一・二塁。村井の遊ゴロで望月が二封されたが、三塁を廻りかけた牧野を刺そうと二塁手からの送球が悪く牧野還って土壇場で同点に追いついた。大会初の延長戦となった10回、大阪は二

死一・二塁に三原が三遊間を鋭く破るあざやかなタイムリーを放ち、サヨナラ勝ちとなった。

遠投、遠打、走塁合戦

大会第1日と第2日の試合終了後、アトラクションとして各チームの代表による4種類の競技を行い、ファンを楽しませた。

競技種目は第1日がノックによる遠打(ファンゴー)と遠投。第2日が本塁から一塁までの走塁とダイヤモンド一周の走塁。

なかでも注目されたのはファンゴー。期待された長距離打者の宮武三郎(東京倶楽部、慶大出)、ペーブ山下と呼ばれた山下実(大連満洲倶楽部、慶大出)は棄権したが、1位は大岡虎雄(八幡製鉄)の123.4%、2位渡辺大陸(全台北)の109.8%、3位水谷喜久雄(札幌鉄道局)の97.8%。

遠投では1位が村井竹之助(全大阪)の102.39%、2位中原千彦(八幡製鉄)の98.43%だった。

一塁までの走塁では3秒9の高橋年広(八

幡製鉄)が1位となり、ベース一周走では末松公美(八幡製鉄)が15秒1で1位、高橋年広(八幡製鉄)が15秒3で2位となり、3位は川島昇(鎌倉老童軍)の15秒6。

M E M O

◇第1号満塁本塁打 1回戦の全大宮対仙台鉄道局戦の6回二死満塁に大宮の3番・富田平三外野手は仙台・長瀬投手から中堅右を破る痛打を放ち、これがランニング本塁打となって、大会初の満塁本塁打を記録した。

◇1イニング13、ゲーム21の最多得点 1回戦の全大宮対仙台鉄道局の6回、大宮は高田の満塁本塁打を含む4安打と8四球、敵失などで13得点を挙げた。この試合で全大宮は21点を奪い、これも最多得点となった。

◇1試合最多四球19 1回戦の大阪鉄道局吹田対東京倶楽部戦で大阪は宮武三郎、菊谷正一両投手から19四球を得た。宮武10、菊谷9四球だった。



早慶戦3連投の人気男。1回戦から全4試合を完投して全大阪初優勝の原動力となった伊達正男投手



休養。八幡の(左から)角地投手、徳光監督、大岡選手

鎌倉文士のチーム

異色チーム「鎌倉老童軍」が出場した。作家・久米正雄さんら、鎌倉文士の野球好きが高じて、選手を集め、久米さんが総監督を務めるチーム。

東京倶楽部、全大阪などで活躍した雨宮(旧姓水上)義信投手(早大出)を中心に、米沢徹二塁手(明大出)三浦芳郎(慶大出)萩原兼顕外野手(法大出)西村成敏内野手(早大出)ら、“かつての名選手”が顔を並べた。

その当時東海予選区で川崎コロムビアを破って出場した。

第1回大会で大連満洲倶楽部を優勝に導いた中沢不二雄氏はすでに引退、東京日日新聞に観戦記を載せていたが、「久米(正雄)さんや大仏(次郎)さんが、口の野球から腕の野球へと躍進の氣勢をあげているのに、私は口と筆の野球に転落して、スタンドから静かに野球を見ているのは、感無量と申さねばならない」。

1回戦で強豪の全台北と対戦、5回に1点を挙げて同点と、そこまでは互角だったが、やはり“老童”。結局スタミナ切れもあって敗退した。

まさに不動9人野球

優勝した全大阪は1回戦の名古屋鉄道局だけは右翼手が交代して10人の選手が出場したもの、2回戦以降は不動のメンバーで9人野球を通した。



決勝を伝える写真グラフ。上は全大阪・三原の打撃

全大阪のヒーロー。右は伊達、左から牧野、岡田選手



1回戦

吹田市 (大阪鉄道局吹田)	10
1 0 0 4 1 0 2 0 2	10
2 0 2 3 0 2 2 4 ×	15
東京市 (東京倶楽部)	

【吹田市】	打安	【東京市】	打安
⑤ 塩谷	4 1	⑧ 榎	2 0
⑦ 福本	4 1	① 菊	3 2
① 出野	4 2	④ 郷	3 2
⑧ 出野	3 0	③ 関	1 0
④ 荒井	4 1	⑨ 片	5 2
② 井上	2 0	③ 永	4 1
② 今田	1 0	① 宮	6 4
③ 今田	1 0	⑦ 松	2 0
③ 竹野	3 1	⑦ 井	3 1
⑥ 今田	1 0	⑤ 武	5 1
⑦ 原	1 0	② 井	3 0
⑨ 山本	1 0	② 角	2 1
① 熊代	1 0	⑥ 伊	3 1
	2 0	⑥ 野	3 1
	32 6		42 16
振球機盗失残併	5 19 0 2 4 14 0	振球機盗失残併	3 6 2 2 2 11 0
▽三塁打	本郷	▽二塁打	角田 2
	福田 宮脇 永井	▽2時間	45分

1回戦

大阪市 (全大阪)	3
0 0 1 0 0 0 0 2 0	3
0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
名古屋市 (名古屋鉄道局)	

【大阪市】	打安	【名古屋市】	打安
④ 三原	4 0	⑨ 青木	3 2
⑤ 牧野	3 2	④ 木瀬	4 0
⑦ 望月	3 1	⑧ 内武	4 0
⑧ 村井	4 0	② 田原	4 1
① 伊達	5 0	① 武伊	4 1
③ 塩見	3 1	⑥ 堀	3 1
② 岡田	4 0	③ 森	3 0
⑥ 久保	1 1	⑦ 中	2 0
⑨ 島田	2 0	⑦ 竹	1 0
⑨ 長谷川	2 0	⑤ 内	2 0
	31 5	⑤ 井	1 0
	31 5		29 4
振球機盗失残併	3 9 0 2 0 10 0	振球機盗失残併	7 2 1 0 2 5 1
▽三塁打	牧野	▽1時間	55分

1回戦

大宮市 (全大宮)	21
0 1 0 0 5 13 0 2 0	21
1 0 1 0 0 1 1 2 0	6
仙台市 (仙台鉄道局)	

【大宮市】	打安	【仙台市】	打安
⑧ 楠見	3 1	⑥ 長	5 1
⑨ 小林	1 1	① 瀬	5 2
⑥ 小金	4 2	④ 保	5 2
⑦ 田中	4 1	⑨ 上	5 2
⑨ 小成	1 0	③ 沢	2 2
⑨ 成伊	2 2	③ 川	2 1
⑦ 伊南	2 0	⑧ 藤	5 1
① 笠原	4 1	⑦ 皆	4 1
③ 村越	1 0	② 沢	2 0
③ 土田	3 0	⑦ 鈴	1 0
⑤ 星野	3 1	② 村	2 0
⑤ 山本	3 0	⑦ 本	1 0
② 根岸	3 1	① 富	2 0
② 秋山	2 1	① 畑	0 0
④ 松本	2 1	⑤ 武	2 1
	3 0	⑤ 岩	4 1
	39 11		39 12
振球機盗失残併	3 14 0 3 5 0	振球機盗失残併	1 2 0 0 6 8 2
▽本塁打	富田(長瀬)	▽二塁打	南 沢藤
		▽2時間	15分

1 回戦

米子市 (米子鉄道局)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
1 1 0 5 2 1 0 0 X | 10

大連市 (満洲俱樂部)

Table with 4 columns: 【米子市】打安, 【大連市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 2 6 1 0 3 7 4
▽三塁打 本多 宇佐美 二塁打 高須
山下 岡村 1時間45分

1 回戦

八幡市 (八幡製鉄)

1 1 0 0 0 0 1 0 0 | 3
0 0 1 0 0 0 1 0 0 | 2

札幌市 (札幌鉄道局)

Table with 4 columns: 【八幡市】打安, 【札幌市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 2 8 1 2 1 1 1 2
▽2時間15分

1 回戦

鎌倉市 (鎌倉老童軍)

0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
1 0 0 0 5 1 2 1 X | 10

台北市 (全台北)

Table with 4 columns: 【鎌倉市】打安, 【台北市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 5 6 1 3 4 9 1
▽三塁打 川島 (鎌) 二塁打 雨宮
▽1時間55分

1 回戦

神戸市 (全神戸)

0 1 0 0 0 2 2 0 0 | 5
0 2 1 2 0 0 0 4 X | 9

横浜市 (全横浜)

Table with 4 columns: 【神戸市】打安, 【横浜市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 1 1 1 1 0 2 1 3 0
▽三塁打 橋本 平之内 二塁打 平之内
黒田 大村 2時間

1 回戦

新潟市 (コンマーシャル)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
3 1 0 6 0 2 0 0 X | 12

京城市 (全京城)

Table with 4 columns: 【新潟市】打安, 【京城市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 1 2 1 0 0 3 4 0
▽三塁打 中村 平井 二塁打 藤井 尾崎
▽1時間45分

準々決勝

大阪市 (全大阪)

0 0 0 1 0 0 1 5 1 | 8
0 5 2 0 0 0 0 0 0 | 7

東京市 (東京俱樂部)

Table with 4 columns: 【大阪市】打安, 【東京市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 5 9 0 2 2 1 3 2
▽二塁打 長谷川 振球機盗失残併
牧野 2時間30分 1 6 0 1 1 8 1

準々決勝

大宮市 (全大宮)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 0 0 X | 1

大連市 (満洲俱樂部)

Table with 4 columns: 【大宮市】打安, 【大連市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 9 2 0 0 2 4 2
▽二塁打 本多 1時間45分

準々決勝

八幡市 (八幡製鉄)

0 0 0 0 0 1 5 0 0 | 6
0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1

台北市 (全台北)

Table with 4 columns: 【八幡市】打安, 【台北市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 2 1 2 1 5 2 1 1 1
▽二塁打 花田兄 1時間55分

準々決勝

京城市 (全京城)

0 0 4 0 2 0 0 3 1 | 10
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

横浜市 (全横浜)

Table with 4 columns: 【京城市】打安, 【横浜市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 7 4 0 2 0 1 1 1
▽本塁打 宇田 (上野) 三塁打 千田 二塁打 黒田 中村 藤井
▽2時間10分

準決勝

大阪市 (全大阪)

2 1 0 0 0 3 0 0 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

大連市 (満洲俱樂部)

Table with 4 columns: 【大阪市】打安, 【大連市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 2 8 2 0 0 1 0 1
▽2時間

準決勝

八幡市 (八幡製鉄)

3 0 0 0 1 1 4 1 0 | 10
0 0 1 0 0 0 3 0 0 | 4

京城市 (全京城)

Table with 4 columns: 【八幡市】打安, 【京城市】打安, and two columns of player names with scores.

振球機盗失残併 4 1 3 1 3 2 1 5 1
▽三塁打 大岡 二塁打 藤井 加藤 振球機盗失残併
▽2時間30分 3 6 0 3 1 0 1

全大阪の優勝を伝える新聞と優勝した全大阪ナイン



決勝

川崎市 (コロムビア)	0
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
0 0 3 0 0 0 0 0 0 X	3
東京市 (東京倶楽部)	

【川崎市】	打安点振球	【東京市】	打安点振球
⑥ 永本	4 0 0 0 0 0	⑥ 真野	3 0 0 0 0 1
④ 西本	4 1 0 0 0 0	③ 永井	4 1 1 1 0 0
③ 吉相	3 0 0 0 0 1	⑧ 榎	4 2 0 0 0 0
⑨ 寺門	2 0 0 0 1 2	① 宮	3 1 0 0 0 1
⑧ 若林	3 1 0 0 0 1	⑨ 武	1 1 0 0 0 1
⑧ 大木	4 0 0 0 0 0	⑦ 田	1 0 0 0 0 1
① 大鈴	0 0 0 0 0 0	⑨ 谷	4 2 2 0 0 0
⑦ 佐藤	4 0 0 0 0 0	⑤ 井	4 0 0 2 0 0
② 佐藤	2 1 0 0 1 1	② 藤	4 1 0 1 0 0
H 紅津	1 0 0 0 0 0	④ 伊	3 0 0 0 0 0
⑤ 横濱	4 1 0 0 0 0	② 林	3 1 8 3 4 4
	31 4 0 2 5		
犠併残盗失	0 0 9 2 1	犠併残盗失	0 0 8 0 1
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
若林	7 3 31 8 4 3 2	宮武	9 3 6 4 2 5 0
鈴木	1 4 0 0 1 0		
▽二塁打	松井 永井 伊藤	▽1時間45分	

東京・宮武が4安打完封

東京倶楽部・宮武、コロムビア・若林の両右腕の対決となったが、宮武が川崎打線を4安打完封した。

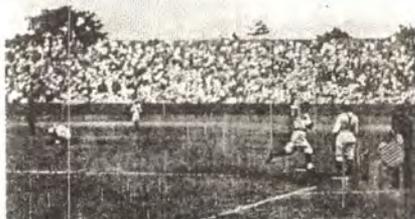
2回の一死二・三塁チャンス逃した東京は3回、一死後真野が四球を選び、若林のけん制を一塁手がそらす間に二進すると、永井が三塁線を痛烈に破る二塁打を放ってまず1点。二死後2四球で満塁とし、松井が中前に2点タイムリー、この回3点を奪った。

チェンジ・オブ・ベースのピッチングで打者をまどわせる若林の外角にくるスローカーブを東京打線が狙い打った攻撃で、東京の若林対策がいきとどいていたともいえる。

宮武は警戒された速球は捨て球に使い、カーブを主体としたピッチングの組み立てで川崎を抑え、1回西本の安打と2四球の一死満塁のピンチを切り抜けると波に乗り、その後、4、7、8回に打たれた安打はいずれも二死から。全く危ない気ない投球だった。

16地区から各1チーム

現在と同じように、各地区にわかれ、完全



東京のサヨナラ勝ちに、マウンドで立く大宮・前川な予選制度がこの大会から採用された。全国16地区から勝ち抜いた1チームずつが参加したが、その予選地区は次のように分けられた。

北海道・樺太、東北、甲信越、関東、東京市、名古屋市、大阪市、神戸市、近畿、中国、四国、九州、台湾、朝鮮、大連市、満州（いずれも当時）。

ネット裏の著名人たち

真夏の東京の風物詩として、すっかり定着、人気を集めている大会だけに、あらゆる階層のファンが連日スタンドにつめかけている。

「日本の恋人」女優の入江たか子さんは、夫君・田村道義氏とネット裏に陣どり、第1回大会以来ずっと応援している東京倶楽部に熱いまなごし。

新派の梅島昇文さんも東京倶楽部ファンで「宮武（三郎）はイヤイヤやっているようなのが欠点だが。今回はいい。東京は投手ばかりでチームができるほどの豪華版だ」と胸を張る。

京城の応援には朝鮮殖産銀行の有賀光豊総裁や名舞姫・雀承喜嬢も姿をみせ、政友会鈴木総裁の令嬢・淳子さんは、友人ともども立ちあがって拍手するなど陽気な応援。「父はスタンドに来るわけには参りませんが、ラジオの放送をじっと聞いています。都市対抗の大ファンなのです」。

貴賓席には皇族6殿下

準決勝の大連対川崎、大宮対東京が行われた8月9日、皇族6殿下が貴賓席で初めて観戦された。

賀陽宮邦寿王、治憲王殿下がまずお着きになり、ついで朝番宮鳩王殿下。さらに北白川



川崎・大阪戦。大阪・川瀬が二塁を狙って刺される

宮永久王、同妃、同多恵子女王の3殿下がお揃いで席に着いた。

球界の長老・内海弘蔵氏が説明に当たったが、邦寿王殿下はスコアブックに記録しながらのご観戦だった。



史上最多、4回目の優勝を果たした東京倶楽部・林主将に黒獅子旗が手渡された



4回目の優勝に輝く地元・東京倶楽部ナインは、黒獅子旗を先頭で場内一周。ファンの歓声に応える

大陸へもラジオ中継

第4回大会から始まったラジオ中継放送は、当時の満州にも広がり、その人気は高かった。当初は1人でマイクの前にすわり続けたJ OAK (NHK) 松内則三アナウンサーのほか、河西三省、山本照の両アナウンサーも参加、3人が交代で放送、名調子でファンを喜ばせた。

松内アナは「ファンの統制がとれ、ヤジなども洗練されて都市対抗が一段と盛んになるのはホクもうれしい。やはり強いチームが勝ち進んで、準決勝、決勝を迎えた今大会のすばらしきは、口でいえないほどです」と喜んでいました。

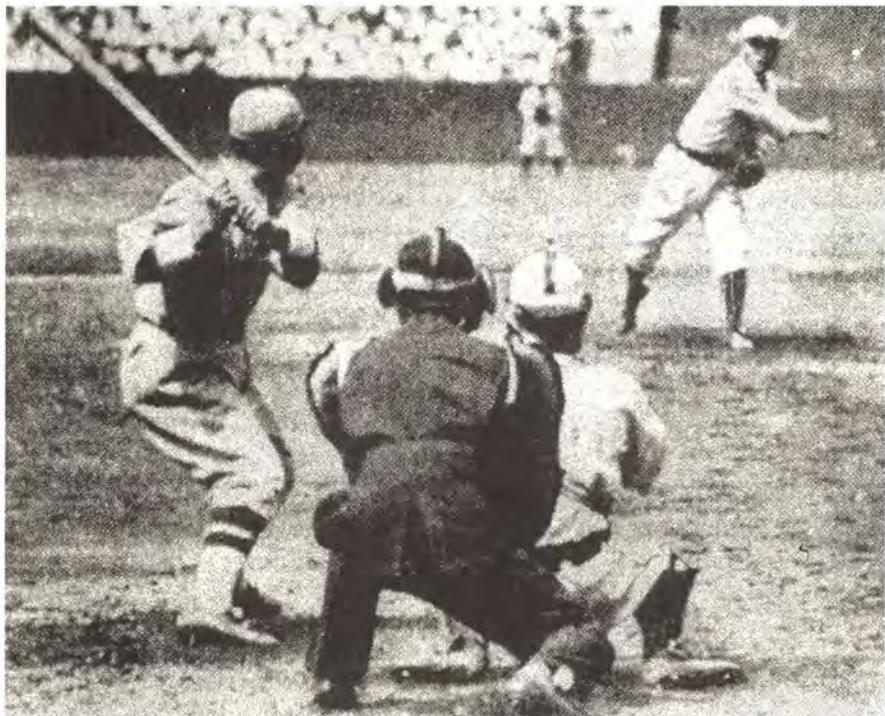
人気沸騰、ダフ屋出た

東京・京城、大宮・名古屋の準々決勝は、

開門が午前11時の予定だったが、朝早くからファンが詰めかけ、球場のまわりは身動きもできないありさまに、1時間半も早く午前9時30分に開門。これまでになかった人出で、渋谷から出るバスは青山四丁目で客が全員降りてガラ空き。渋谷車庫ではダイヤを変更、バスの増発に大わらわだったが、史上初の「ダフ屋」も出現。球場入口付近に「切符売ります」のピラを下げた男が立ち、入場券が手に入らないファンがプレミアムをつけて買おうとその男に殺到した。

MEMO

◇最多優勝4回 東京倶楽部が達成した。東京市は大連市が第1回大会から大連満州倶楽部、大連実業社、大連満州倶楽部で記録した同一都市の優勝回数3も超えた。



東京・京城戦。3回京城の3番打者、李に東京・宮武必死の好球。三塁フライに討ちとった

1回戦

函館市 (大洋倶楽部)

2 0 0 0 0 1 0 1 0 | 4
2 0 3 1 0 1 5 0 X | 12

大阪市 (全大阪)

【函館市】	打安	【大阪市】	打安
⑥ 伊予田	4 1	⑥ 久保田	4 2
④ 柳沢	3 2	④ 川瀬	6 3
⑨ 8 村松	4 1	⑦ 望月	4 2
② 久松	2 1	⑧ 井見	4 2
① 9 植田	3 0	③ 村塩	2 0
⑦ 伏見	2 0	① 浅井	0 0
③ 1 3 1 山崎	4 0	③ 伊達	4 1
8 山崎	0 0	⑤ 川林	3 0
⑧ 3 1 3 山崎	3 1	⑤ 村小	2 1
3 百目	1 0	② 小河	5 2
⑤ 野川	3 0	⑨ 弘世	4 1
H 上	0 0		3814

振球犠盗失残併

2 5 1 4 1 4 0

▽三塁打

伊達▽二塁打 村井 柳沢

▽1時間50分

1回戦

川崎市 (コロムビア)

0 1 0 0 0 0 0 1 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

神戸市 (神戸税関)

【川崎市】	打安	【神戸市】	打安
④ 吉西	5 1	② 岡大	4 1
③ 本永	4 2	⑧ 田石	4 0
⑥ 水門	4 0	⑦ 崎栖	4 0
⑨ 富寺	4 1	③ 長来	4 1
① 若林	3 0	④ 龜山	3 0
⑧ 若林	3 0	⑨ 山田	2 0
⑦ 大佐	4 1	⑥ 前山	3 1
② 紅	3 0	① 藤村	3 0
⑤ 谷沢	3 0	⑤ 加川	2 0

振球犠盗失残併

2 6 0 3 1 1 0 1

▽1時間45分

振球犠盗失残併

4 3 0 1 1 0 5 3

1回戦

仙台市 (仙台鉄道局)

0 0 0 1 1 0 0 0 0 | 2
3 0 0 0 0 0 0 1 X | 4

奉天市 (満鉄倶楽部)

【仙台市】	打安	【奉天市】	打安
⑥ 高橋	3 1	⑦ 針原	3 2
⑤ 今村	5 1	⑨ 香松	4 2
② 藤田	3 0	⑤ 赤島	4 0
③ 藤田	4 0	① 小島	4 0
⑦ 藤田	3 1	② 今橋	4 2
⑨ 藤田	4 1	③ 今橋	4 1
⑧ 藤田	2 1	④ 大阿	4 1
① 藤田	3 0	⑥ 阿山	4 0
④ 藤田	3 0	⑧ 山西	4 1

振球犠盗失残併

4 8 1 4 3 1 1 0

▽二塁打

今市▽2時間

振球犠盗失残併

1 2 0 0 0 8 1

1回戦

米子市 (米子鉄道局)

2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 3 0 1 0 1 1 0 X | 6

大連市 (満州倶楽部)

【米子市】	打安	【大連市】	打安
⑦ 釜田	4 2	⑧ 汐崎	3 0
⑧ 岡村	3 0	⑥ 柴本	3 1
④ 福谷	4 0	④ 高須	4 1
③ 伊谷	4 0	⑦ 高松	3 1
② 伊村	4 0	9 浦	1 0
① 中本	3 0	7 谷	4 1
⑨ 本細	2 0	③ 高橋	4 1
9 細	1 0	① 高十	4 4
⑤ 渡部	3 0	② 宇佐	4 1
⑥ 栴	3 0	⑤ 小池	4 1

振球犠盗失残併

5 0 1 0 1 3 2

▽三塁打

本多▽二塁打 高須▽1時間35分

振球犠盗失残併

4 2 0 5 3 6 0

1回戦

千里山市 (千里山鉄道倶楽部)									
0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
0	2	0	0	3	1	0	0	X	6
京城市 (全京城)									

【千里山市】	打安	【京城市】	打安
⑤ 田中房	3 1	⑧ 中島	3 0
② 中房	5 0	④ 中島	2 1
⑧ 中島	3 1	⑦ 8	5 2
③ 中島	4 0	① 7	5 2
① 7	4 2	⑤ 3	2 0
⑥ 高西	3 2	⑥ 5	4 2
⑨ 高西	2 1	⑥ 6	3 2
⑦ 高西	2 0	② 4	3 0
④ 高西	1 0	② 2	4 2
① 高西	4 1	④ 2	4 1
	318		3512
振球機盗失残併	1 5 2 0 2 8 2	振球機盗失残併	5 3 1 1 1 8 2
▽三塁打	高井	▽三塁打	浅原
▽二塁打	鈴木	▽二塁打	山内

1回戦

台南市 (台南州団)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	1	0	1	0	X	3
東京市 (東京倶楽部)									

【台南市】	打安	【東京市】	打安
⑦ 李	4 0	④ 横野	3 0
⑤ 八野	4 1	⑥ 横野	4 2
⑥ 八野	4 0	③ 永三	1 0
③ 八野	4 1	① 3	2 0
⑨ 八野	2 0	① 3	4 2
② 八野	4 0	⑦ 7	4 2
④ 八野	2 1	⑦ 7	2 0
① 八野	3 1	⑧ 7	1 1
⑧ 八野	3 0	② 5	4 1
	304	② 5	3 2
振球機盗失残併	2 2 1 0 1 6 0	振球機盗失残併	4 5 2 1 1 1 2 1
		▽二塁打	榎 宮武

1回戦

新潟市 (コンマール)									
2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	1	6	2	0	1	3	0	X	13
名古屋市 (名古屋鉄道局)									

【新潟市】	打安	【名古屋市】	打安
① 磯野	5 1	⑦ 木	6 3
⑧ 磯野	5 0	⑦ 木	6 2
② 磯野	3 1	④ 8	5 1
③ 磯野	1 0	③ 9	4 1
⑨ 磯野	4 0	③ 9	3 2
⑦ 磯野	5 0	② 2	4 1
⑤ 磯野	5 0	② 2	0 0
③ 9	4 1	⑥ 6	5 4
⑥ 磯野	2 1	⑤ 8	5 2
⑤ 磯野	1 0	⑤ 8	3 2
④ 磯野	3 1	① 1	1 0
	385		4218
振球機盗失残併	8 4 0 0 5 13 2	振球機盗失残併	4 5 0 5 5 10 0
▽三塁打	堀	▽二塁打	武田 小曾根 2
▽二塁打	堀	▽二塁打	武田 小曾根 2

1回戦

大宮市 (全大宮)								
0	1	0	0	0	0	2	0	3
0	0	0	0	1	0	0	0	1
八幡市 (八幡製鉄)								

【大宮市】	打安	【八幡市】	打安
⑧ 楠見	3 1	⑥ 加藤	2 1
⑦ 楠見	3 1	③ 9	3 0
⑤ 楠見	4 0	⑦ 7	3 0
④ 楠見	4 0	⑦ 7	1 0
③ 楠見	4 1	⑤ 1	0 0
⑨ 楠見	4 1	⑤ 1	3 1
① 楠見	4 0	① 2	1 0
② 楠見	4 0	② 2	4 0
⑥ 楠見	3 0	④ 4	4 0
	334	⑧ 8	1 0
振球機盗失残併	5 3 0 1 0 6 1	振球機盗失残併	3 9 0 4 2 10 0
		▽二塁打	伊藤 (酒井)

準々決勝

川崎市 (コロムビア)									
0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
大阪市 (全大阪)									

【川崎市】	打安	【大阪市】	打安
⑥ 富永	4 1	⑥ 久保	3 1
④ 3	4 2	④ 久保	4 0
⑤ 4	3 0	⑦ 7	4 0
③ 3	2 0	⑧ 8	4 1
⑤ 5	2 0	① 1	4 1
⑨ 9	4 1	⑤ 5	4 1
① 1	4 1	② 2	3 0
⑦ 7	4 1	③ 3	3 1
② 2	3 0	⑨ 9	3 1
⑧ 8	3 1		32 6
振球機盗失残併	1 1 0 1 4 4 3	振球機盗失残併	4 1 0 0 0 4 0
▽三塁打	寺門 富永	▽二塁打	若林
▽二塁打	寺門 富永	▽二塁打	若林

準々決勝

大連市 (満州倶楽部)								
1	0	0	0	2	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0
奉天市 (満鉄倶楽部)								

【大連市】	打安	【奉天市】	打安
⑧ 汐崎	5 2	⑦ 針	4 1
⑥ 柴本	3 0	⑨ 9	4 0
④ 4	4 0	⑤ 5	3 1
⑦ 7	5 1	⑤ 5	0 0
⑨ 9	2 0	① 1	3 0
③ 3	5 0	② 2	3 0
① 1	4 2	③ 3	3 0
② 2	4 0	④ 4	3 0
⑤ 5	3 1	⑥ 6	3 0
	356	⑧ 8	2 2
振球機盗失残併	1 6 1 0 2 12 2	振球機盗失残併	3 1 0 0 5 2 0
▽二塁打	榎 宮武	▽二塁打	榎 宮武

準々決勝

東京市 (東京倶楽部)								
0	3	3	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	1	0	3	1	5
京城市 (全京城)								

【東京市】	打安	【京城市】	打安
⑧ 梶上	4 2	⑧ 山崎	5 2
① 1	0 0	④ 4	3 1
⑥ 6	5 0	⑦ 7	5 3
① 3	5 1	⑨ 9	3 0
③ 9	3 0	H	1 0
8	0 0	⑤ 5	3 1
⑨ 8	3 0	③ 3	1 0
⑦ 7	2 0	① 1	0 0
④ 4	4 1	H	2 0
⑤ 5	4 1	H	1 0
② 2	3 1	⑥ 6	4 1
	336	② 2	2 0
振球機盗失残併	5 7 1 0 2 8 1	振球機盗失残併	4 1 1 1 2 10 1
		▽二塁打	伊藤 宮武 2時間30分

準々決勝

大宮市 (全大宮)										
0	0	0	3	0	0	0	4	0	2	9
0	0	0	2	0	1	2	2	0	0	7
名古屋市 (名古屋鉄道局)										

【大宮市】	打安	【名古屋市】	打安
⑧ 楠見	6 1	⑦ 7	5 0
⑤ 5	3 1	H	1 0
⑤ 5	2 0	④ 4	2 0
① 4	5 2	H	1 0
③ 3	4 2	① 1	2 0
⑨ 9	4 1	① 1	4 2
③ 3	3 1	③ 3	4 2
④ 4	0 0	⑥ 6	5 2
① 1	4 1	② 2	5 1
② 2	5 3	⑤ 5	5 1
⑥ 6	3 1	⑧ 8	3 0
	3913	H	0 0
振球機盗失残併	1 5 2 2 3 7 0	振球機盗失残併	7 9 1 0 4 10 0
		▽三塁打	南 富田 田中
		▽二塁打	伊藤 藤松 中橋 2時間30分

準決勝

川崎市 (コロムビア)								
1	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0
大連市 (満州倶楽部)								

【川崎市】	打安	【大連市】	打安
⑥ 富永	3 2	⑧ 8	4 0
③ 3	3 1	⑥ 6	3 1
④ 4	3 0	④ 4	4 1
⑨ 9	4 1	③ 3	4 1
① 1	4 0	⑨ 9	2 0
⑧ 8	4 0	⑦ 7	2 1
⑦ 7	3 0	① 1	3 0
② 2	3 0	② 2	4 0
⑤ 5	3 0	⑤ 5	3 0
	304		294
振球機盗失残併	6 2 1 1 0 5 0	振球機盗失残併	2 5 1 1 1 8 1
▽二塁打	高橋 富永	▽二塁打	高橋 富永

準決勝

大宮市 (全大宮)									
0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
0	0	0	2	0	1	0	0	1	4
東京市 (東京倶楽部)									

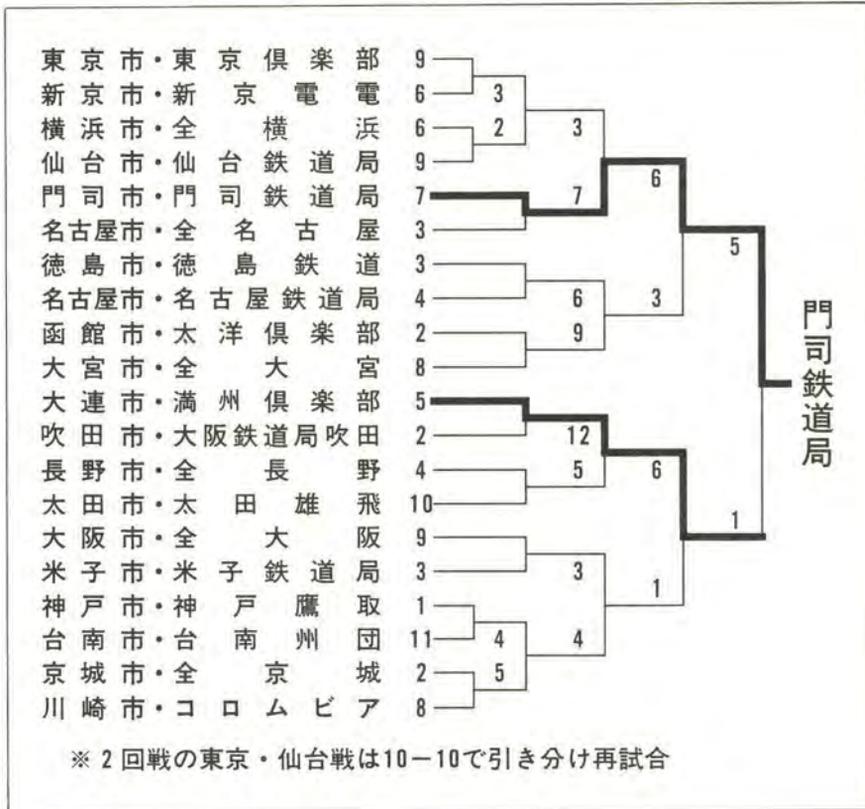
【大宮市】	打安	【東京市】	打安
⑧ 楠見	2 2	⑥ 6	2 2
⑤ 5	3 1	④ 4	4 0
⑦ 7	4 1	H	1 0
④ 4	2 1	⑧ 1	5 1
4	0 0	③ 3	4 2
4 3 4	1 0	④ 4	2 0
③ 4 3	9 8	⑨ 9	2 1
⑨ 9	5 0	⑦ 7	4 2
① 1	4 1	⑤ 5	3 2
② 2	5 3	② 2	1 0
H	1 0	H	1 0
② 2	0 0	H	0 0
⑥ 6	3 0	① 1	1 0
H	0 0	① 1	2 1
⑥ 6	0 0	⑨ 9	0 0
	327		3211
振球機盗失残併	6 8 2 7 0 12 0	振球機盗失残併	5 4 3 1 1 10 1
▽本塁打	宮武 (前川)	▽二塁打	松井 角田



全大宮をひきいて東京を苦しめるなど健闘した藤本定義監督(左)と楠見幸信選手

第10回大会

1936年(昭和11年)8月1日-8月10日・神宮球場
優勝=門司市・門司鉄道局



古屋鉄道局、全大阪の3チームと、大会の功労チームとして大連満州倶楽部、大連実業団、全神戸、仙台鉄道局、全横浜、函館大洋倶楽部が表彰された。大会前の下馬評では東京倶楽部と大連満州倶楽部が2強として注目されたが、門司鉄道局が初優勝した。これまでの優勝は全部クラブチームだったが、企業チームが初めて王座についた今回は、エポックメイキングな大会ともいえた。

門鉄局は第1、第3回大会に出場した古豪だが、その後八幡製鉄に抑えられ7年ぶりの出場。井野川捕手はじめ、関大出身の豊田一枝二塁手、米島満三三塁手が内野を固め、左腕・岡本敏男(熊本工出)土谷勘蔵(徳島商出)両投手を擁し、投打とも充実していた。

2回戦、土谷投手の好投で全名古屋に快勝した門鉄局は準々決勝で東京と対戦した。東京は相変わらず菊谷正一(立大出)上野精三、土井寿蔵(ともに慶大出)の投手陣、真野春美(明大出)らを中心とする強力打線をそろえていた。東京が仙台鉄道局との2回戦で、仙台の左腕・成田投手を打ちうぐみ、史上初の引き分け再試合の苦戦を強いられたこともあって、門司も左腕・岡本を起用、監督・井野川捕手の好リードもあって東京打線を抑え快勝した。続く全大宮戦も南安男投手を打ち崩し決勝へ進出した。決勝は、大阪鉄道局吹田、太田雄飛、コロムビアを一方的に退けてきた大連との対戦。井野川は1、3回に連続三塁打を放って得点を重ね、岡本投手の緩く大きく落ちるカーブをうまく引き出し、大連打線を7安打1点に抑え、優勝の立役者となった。

門鉄が企業チーム初V

第10回大会の記念大会を迎え、東京日日新聞社、大阪毎日新聞社(現毎日新聞社)は「都市対抗野球連盟」を組織した。後に日本社会人野球協会、日本野球連盟に発展していく組織の土台である。

3月23日には、都市対抗生みの親ともいわれた橋戸頑鉄氏(毎日新聞社客員)が58歳で死去、その功績をたたえ、この大会から最高殊勲選手賞を「橋戸賞」とした。第1回受賞者は優勝した門司鉄道局の監督兼4番打者として大活躍した井野川利春捕手(明大出)だった。

この年日本にプロ野球が誕生、宮武三郎(慶大出)若林忠志(法大出)前川三郎(国学院大出)の3大投手ら、たくさんの人たちがプロ入りしたが、都市対抗野球の内容、人気は少しも衰えなかった。

出場チームは最多の20チームとなり8月1日から神宮球場で開幕した。開会式では第1回大会以来、10年連続出場の東京倶楽部、名



3月23日、都市対抗野球生みの親、橋戸頑鉄氏が死去

決勝

大連市 (満洲倶楽部)	0	0	0	0	0	0	1	0	0		1
門司市 (門司鉄道局)	2	0	2	0	0	0	0	1	X		5

[大連市]	打安点振球	[門司市]	打安点振球
④ 今木	4 1 0 0 0 0	⑦ 中田	5 0 0 0 0 0
H 阿梅	1 0 0 0 0 0	④ 島田	4 0 0 0 0 0
⑤ 永高	4 0 0 0 0 0	⑧ 皆川	4 2 0 0 0 0
⑨ 永高	3 0 0 0 0 1	② 井野川	4 2 2 0 0 0
③ 宇佐	3 2 0 1 1 1	⑤ 島守	4 2 2 0 0 0
② 本高	4 0 0 0 0 0	③ 鎮高	3 1 0 0 1 0
⑥ 本高	4 1 0 2 0 0	⑨ 岡本	4 1 0 1 0 0
⑧ 高須	4 3 0 0 0 0	① 木山	3 0 1 0 0 0
① 五十嵐	3 0 0 1 1 1	⑥ 岡本	4 2 0 0 0 0
⑦ 松浦	2 0 0 0 0 0		35105 1 1
H 7 柴原	2 0 0 0 0 0		
	347 0 4 3		

犠併残盗失	犠併残盗失
0 0 9 0 2	1 0 8 0 2
投手 回 打安振球責	投手 回 打安振球責
五十嵐 8 3710 1 1 3	岡本 9 377 4 3 0
▽三塁打 井野川 2 高須	▽二塁打 本田 皆川
高木	▽2時間



攻守2態。上は横浜対仙台戦。6回横浜、唯野ホームを突いてアウト。下は東京対新京戦。新京・小林のホームイン

左の岡本、連打許さず

門司鉄道局は好調の左腕・岡本を立て、大連満洲倶楽部は下手から浮きあがる速球を武器とするエース五十嵐をマウンドに送った。

門司は1回、二死後、皆川が徹失で出塁すると、4番・井野川が中越え、ワンバウンドで芝生席に入る三塁打を放って先制、来島も中前タイムリー、2点をあげた。3回にも皆川の二塁打につづき、井野川が左中間に三塁打。さらに来島、鎮守と4連打を放ち2点を加えた。

岡本は内角に大きく落ちるカーブをうまく使って大連の強打線を抑え、2回先頭の本田に二塁打されたピンチを切り抜けると、楽なベースで投げ続けた。



初優勝を飾り、九州の地に初めて黒獅子旗をはためかせた門司鉄道局ナイン、東京日日新聞社を訪問して優勝報告

大連は7回高須が右前打した二死後、今木の遊ゴロが悪送球を誘って1点を返したものの、門司は8回死球と高木の左中間二塁打で無死二・三塁とし、岡本の左飛でトドメともいえる1点を加えた。

必死の大連も9回高須がこの日3本目の安打で右中間三塁打したが、代打も実らず及ばなかった。

橋戸氏追悼し2試合

大会終了後「橋戸碩鉄氏追悼試合」が8月11日神宮球場で行われた。出場したのは都市対抗でベスト4に進出した門司鉄道局、大連満洲倶楽部、川崎コロムビア、全大宮。

試合に先だち、橋戸氏の遺族で長男の正一郎氏、次男の義雄氏に藤井浩作の故人の胸像が贈呈された。

「追悼試合」は日本球界最初のものだった。

川崎	0	0	0	0	1	0	0	2		3	
門司	1	0	2	0	1	0	0	2	X		6
大連	0	2	0	0	2	0	1	0	0		5
大宮	0	0	0	1	0	1	0	0	1		3

M
E
M
O

◇史上初の引き分け再試合 2回戦の東京倶楽部対仙台鉄道局戦で延長12回10-10で日没、初の引き分け。翌日再試合となって東京が勝った。

◇1ゲーム最多失策 2回戦の東京倶楽部対仙台鉄道局戦は引き分け、再試合となったが東京は史上最多の10失策を記録。内訳は真野遊撃手3、片田右翼手、布谷二塁手、松井一塁手、角田三塁手、窪寺三塁手、関口三塁手、宮脇捕手各1、なお仙台も5失策で、両チーム15失策も史上最多。

◇1ゲーム個人最多四球6 2回戦の東京倶楽部対仙台鉄道局戦で東京・布谷二塁手は仙台・成田投手から7打席6四球を選んだ。

7チームでプロ誕生

当時「職業野球」と呼ばれたプロ野球が日本にも誕生。巨人、阪神、阪急、セネターズ、名古屋、金鯱、大東京の7チームが結成された。都市対抗の花形選手たちも、プロ入りしていったが、8月13日付けの東京日日新聞に、弓館小鱈運動部長は、次のような一文を載せ、プロ野球の出現が都市対抗の権威を少しもそこなうものではないと強調した。

職業野球の出現によって、都市対抗に出場した選手から若干名を抜かれた。その結果、出場チームの威力がそかれ、人気も減ったろうというものがある。あるいは、そうであったかもしれない。しかしそれで一向さしつかえないのである。

もともとこの都市対抗は、従来社会人チームのみに欠けていた全国的総合機関をつくり、平常錬磨した腕を一場に会し、相競うも

のである。したがって若干のスター達が去ったところで、都市対抗の権威を少しも減ずるものではない。出場チームは選ばれた郷土の名誉のため、欲も得ることもなく、ただ意気と熱をもって力戦する。これが都市対抗のありがたいところである。1年1度の試練場たる本大会を狙っての発奮努力こそ都市対抗の意義で、スター選手の去就、そのため起る浮いた人気の消長などは取上げて関するところでない。

予想投票に5万余通

第7回大会から始められた優勝チームの予想投票の懸賞募集は全国的に大人気となり、第10回大会に寄せられたハガキはなんと5万43通。うちの中は560人で抽選の結果、1等5人に銀製カップ、2等30人に選手サイン入りボール、3等100人に銀製メダルが贈られた。



本塁打賞 東京・菊谷投手が対仙台戦で放ち受賞した

打撃賞 仙台・今野三塁手が10打数7安打で受賞した



初優勝した門司鉄道局の菅主将に本社・高石主筆から黒獅子旗の授与。後方に並ぶ右側が門司、左側が大連

1回戦

新京市 (新京電電)												
0	0	0	0	4	0	0	1	1				6
0	0	2	3	0	0	0	4	×				9
東京市 (東京倶楽部)												

【新京市】	打安	【東京市】	打安
⑧ 稲吉	21	⑥ 真野	42
⑦ 田木	50	④ 野谷	31
①9 鈴木	52	⑧ 菊谷	41
③ 小吉	52	⑨ 田川	52
⑤ 行小	42	⑦ 井川	31
④ 大原	30	⑦ 井上	20
② 桑月	31	③ 井上	40
⑨ 田原	20	⑤ 関野	20
H 岩崎	10	⑤ 関野	11
1 岩崎	10	② 須野	41
⑥ 永近	51	① 野井	21
	369	1 野井	21
振球機盗失残併	97223121	振球機盗失残併	3611
▽三塁打	布谷	▽二塁打	関口
▽2時間	5分		

1回戦

横浜市 (全横浜)												
0	0	2	0	0	1	3	0	0				6
0	1	0	6	0	0	1	1	×				9
仙台市 (仙台鉄道局)												

【横浜市】	打安	【仙台市】	打安
⑧ 今井	40	⑥ 小野寺	41
⑦ 高橋	43	⑤ 今野	53
⑤2 黒田	51	⑨ 畑	53
① 宮崎	51	③ 孫田	31
④ 八相	52	② 煤村	50
③ 相見	52	⑧ 鈴木	42
⑨ 唯野	21	⑦ 武田	42
⑥5 岡部	30	① 鈴木	21
② 小野	41	1 成田	10
6 小大	00	④ 本多	30
	3711		3613
振球機盗失残併	6502390	振球機盗失残併	6504381
▽三塁打	畑	▽二塁打	今野
唯野	相見	▽1時間	45分

1回戦

神戸市 (神戸鷹取)												
0	0	0	0	0	0	1	0	0				1
4	0	0	1	0	0	6	0	×				11
台南市 (台南州団)												

【神戸市】	打安	【台南市】	打安
⑧ 高村	42	⑧ 高松	31
⑦ 三津	40	③ 田邊	40
④ 佐野	30	⑤ 久留主	31
H 中村	00	⑥ 菅野	31
4 井上	10	② 杉原	50
4 井上	00	① 杉原	41
①9 飯代	30	⑦ 杉原	31
② 飯代	33	④ 杉原	20
⑤ 多野	30	4 杉原	11
③1 矢野	30	⑨ 杉原	41
⑥ 津村	32		327
⑨ 住友	20	振球機盗失残併	4725060
3.9 伊藤	10		307
振球機盗失残併	9600380	振球機盗失残併	4725060
▽三塁打	島村	▽二塁打	今久留主
西沢3	▽1時間		45分

1回戦

川崎市 (コロムビア)												
1	0	6	0	0	1	0	0	0				8
0	1	1	0	0	0	0	0	0				2
京城市 (全京城)												

【川崎市】	打安	【京城市】	打安
④ 吉相	30	⑧ 中島	20
③ 本本	41	1 中島	20
⑥ 富永	30	H 内光	10
⑧ 寺口	41	⑦ 光武	51
⑤ 寺門	54	①8 李	51
⑦ 熊城	31	⑨ 藤井	40
② 黒崎	50	③ 藤井	31
① 岡部	00	⑤ 早川	42
1 鈴木	41	⑥ 保田	42
⑨ 大亦	20	② 小笠原	41
	338	山	31
振球機盗失残併	31121110	振球機盗失残併	379
▽二塁打	鈴木	▽二塁打	寺門
		▽2時間	25分

2回戦

名古屋市 (全名古屋)									
0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
0	0	0	3	0	0	2	2	2	7
門司市 (門司鉄道局)									

【名古屋市】	打安	【門司市】	打安
⑥ 柳原	4 1	⑦ 中島	5 1
④ 酒井	4 0	④ 島田	4 1
⑧ 春日	4 0	⑧ 豊田	4 1
③ 小島	3 2	② 野川	5 3
③ 小島	2 1	③ 野川	3 1
⑨ 中村	2 1	③ 野川	2 2
⑤ 平野	4 0	⑤ 野川	4 1
② 水野	3 2	⑤ 野川	3 1
① 佐藤	4 1	① 野川	3 0
⑦ 山原	2 0	① 野川	3 1
H 山原	1 0		3612
7 長谷川	1 0		振球機盗失残併
	348		1 5 1 1 0 1 1 0

振球機盗失残併
5 2 0 1 2 6 0
▽三塁打 皆川▽二塁打 井野川 2 鎮守
中島 水野 △1時間35分

2回戦

徳島市 (徳島鉄道)									
0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	2	1	0	0	4
名古屋市 (名古屋鉄道局)									

【徳島市】	打安	【名古屋市】	打安
⑧ 小川	5 0	⑦ 木瀬	3 1
④ 小川	3 0	④ 青広	2 0
⑦ 網師	4 1	⑨ 田田	3 0
② 網師	3 0	③ 内武	4 1
① 網師	4 1	① 森	3 0
⑥ 立本	4 0	⑥ 森	4 0
④ 南	4 0	⑤ 石河	4 1
④ 南	4 2	⑤ 石河	4 1
⑤ 仁木	4 0	R 喜多	0 0
③ 大	4 0	② 喜多	4 0
	354		314

振球機盗失残併
0 1 1 2 3 4 0
振球機盗失残併
2 1 2 3 2 4 1 4 0
▽三塁打 石田▽二塁打 仁木 立本
▽1時間50分

2回戦

大宮市 (全大宮)									
0	0	0	0	0	0	1	0	7	8
0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
函館市 (大洋倶楽部)									

【大宮市】	打安	【函館市】	打安
⑧ 山崎	6 1	④ 川尾	3 1
④ 山崎	3 0	⑤ 小松	3 0
④ 山崎	1 0	⑤ 小松	4 2
⑤ 山崎	3 0	② 久渡	2 1
① 山崎	5 3	③ 久渡	4 1
⑦ 山崎	5 2	⑥ 植	4 1
③ 山崎	5 1	⑨ 植	1 9 1
⑨ 山崎	2 0	① 植	1 9 1
⑨ 山崎	2 0	① 植	1 9 1
⑥ 山崎	3 0	⑦ 山崎	4 1
② 山崎	4 2	H 山崎	3 0
	399		329

振球機盗失残併
2 1 1 0 0 1 1 5 1
振球機盗失残併
2 1 3 1 4 7 1
▽三塁打 小林政▽二塁打 南▽1時間55分

1回戦

吹田市 (大阪鉄道局吹田)									
0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
大連市 (満州倶楽部)									

【吹田市】	打安	【大連市】	打安
⑧ 福田	0 0	⑧ 崎浦	3 1
⑧ 福田	2 0	⑦ 松	1 0
⑤ 福田	3 0	④ 永	4 0
⑤ 福田	1 0	⑨ 永	3 2
④ 福田	2 1	② 永	4 1
⑨ 福田	4 2	③ 永	4 1
③ 福田	4 1	⑥ 永	3 0
⑦ 福田	4 1	⑦ 永	4 1
① 福田	3 1	① 永	3 1
② 福田	4 2	① 永	1 1
⑥ 福田	3 1	⑤ 永	4 1
	309		349

振球機盗失残併
6 5 1 0 2 7 1
振球機盗失残併
3 2 0 1 0 7 1
▽三塁打 汐崎 高橋▽二塁打 今木 和田
渡瀬 2 △1時間55分

都市対抗野球を誕生させた東京日日新聞社客員記者・橋戸頑鐵氏の死去をいたむ新聞報道

橋戸頑鐵氏逝く

本紙に獨創的な球評



日本最初のアメリカンベースボールジャーナリストとして活躍した。早くから野球を愛し、本紙に獨創的な球評を執筆。大正十三年一月に本紙に入社。大正十四年三月に本紙を退職。昭和十三年三月に死去。享年五十八歳。遺族を代表して、本紙に謝意を述べた。

2回戦

長野市 (全長野)									
0	0	0	2	0	0	0	2	0	4
0	0	5	0	4	1	0	×	1	10
太田市 (太田雄飛)									

【長野市】	打安	【太田市】	打安
④ 小沼	3 0	④ 滝原	4 3
④ 小沼	4 1	⑦ 相	5 3
② 小沼	4 1	⑨ 小	5 1
H 小沼	1 0	⑧ 小	5 2
⑤ 小沼	3 3	③ 小	3 0
⑧ 小沼	4 1	① 小	3 1
⑦ 小沼	2 0	⑤ 小	4 2
① 小沼	1 0	② 小	3 0
⑥ 小沼	4 2	⑥ 小	3 1
① 小沼	4 1	H 小	1 0
⑨ 小沼	2 0	6 小	0 0
⑨ 小沼	2 0		3613

振球機盗失残併
3 4 1 1 3 8 1
振球機盗失残併
2 4 0 4 1 6 0
▽三塁打 小見 竹永▽二塁打 奥村 木藤
▽1時間50分

2回戦

米子市 (米子鉄道局)									
0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
4	0	0	2	0	2	1	0	×	9
大阪市 (全大阪)									

【米子市】	打安	【大阪市】	打安
⑦ 釜本	3 0	⑥ 久野	4 1
② 釜本	4 1	⑤ 野	4 1
⑨ 釜本	4 0	② 牧	4 2
① 釜本	3 1	① 伊	4 0
⑧ 釜本	2 0	③ 井	5 4
③ 釜本	4 2	⑦ 望	5 0
⑤ 釜本	4 0	④ 山	2 0
⑥ 釜本	4 0	④ 山	2 0
④ 釜本	4 0	③ 山	1 0
	324	⑧ 山	1 0
		⑨ 山	4 1

振球機盗失残併
5 5 0 3 4 7 0
振球機盗失残併
2 8 0 4 3 1 1 0
▽二塁打 中村 村井 梶田▽1時間35分

2回戦

仙台市 (仙台鉄道局)									
0	0	0	4	0	5	0	1	0	10
3	0	2	1	1	3	0	0	0	10
東京市 (東京倶楽部)									

【仙台市】	打安	【東京市】	打安
⑥ 小野	7 1	⑧ 梶	3 1
⑤ 小野	5 4	① 井	1 0
⑤ 小野	2 0	① 井	3 1
⑨ 小野	6 0	⑦ 井	5 2
③ 小野	7 2	⑥ 井	7 1
② 小野	4 0	⑨ 井	4 1
② 小野	6 3	④ 井	7 3
⑧ 小野	4 0	① 井	1 0
⑦ 小野	4 0	① 井	3 1
⑦ 小野	2 0	③ 井	4 0
① 小野	5 2	⑤ 井	3 0
④ 小野	6 2	② 井	1 0
	5414	⑤ 井	1 0

振球機盗失残併
5 3 1 2 5 1 2 1
振球機盗失残併
5 3 1 2 5 1 2 1
▽本塁打 菊谷 (成田)▽三塁打 片田
▽二塁打 本多 2 鈴木 礼
▽3時間20分



打撃賞 大阪・村井外野手が9打数7安打で受賞した

2 回戦 (再試合)

仙台市 (仙台鉄道局)

2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	3	0	0	0	×	3	

東京市 (東京倶楽部)

【仙台市】	打安	【東京市】	打安
⑥ 小野寺	5 2	⑤ 布 谷	3 0
⑨ 清 野	3 0	⑧ 9 梶	2 1
⑤ 烟	2 1	① 9 上	3 1
③ 煤 孫	4 1	⑨ 菊 片	2 1
② ⑧ 田	3 0	⑦ 1 上	1 1
① ② 鈴	4 0	① 7 井	2 0
⑦ ① 力	3 1	⑦ 7 井	2 1
④ ④ 成	4 3	④ 4 6 真	4 0
	4 0	⑥ 6 閨	1 0
	3 2 8	④ 4 窪	3 0
振球機盗失残併		③ 3 西	3 2
1 5 1 2 1 9 3		② 2 須	2 0
		振球機盗失残併	2 8 7
		3 5 1 0 0 7 0	
▽二塁打 西村 上野		▽三塁打 神戸▽二塁打 宇佐美 鈴木	
力石		▽2時間15分	

2 回戦

台南市 (台南州団)

0	2	0	0	0	0	1	1	4	
0	0	0	2	0	0	0	3	×	5

川崎市 (コロムビア)

【台南市】	打安	【川崎市】	打安
⑧ H	3 0	④ ③ 吉 相	4 1
③ ⑤ 田 久	1 0	④ ③ 西 本	3 0
⑥ ⑤ 菅 野	5 1	⑥ ⑥ 富 永	3 1
⑨ ① 出 菅	4 1	⑤ ⑤ 富 永	4 0
② ⑦ 見 野	3 1	② ⑦ 2 城	4 2
⑦ ⑦ 杉 島	2 0	② ⑦ ② 崎	4 3
H ⑦ 島	4 0	① ② 1 谷	3 1
④ ④ 清 石	3 1	② ② 1 村	3 1
	2 0	⑨ ⑨ 鈴 大	3 0
	1 0		3 0
	4 2		3 2 9
振球機盗失残併		振球機盗失残併	4 1 2 3 6 6 2
6 5 1 5 4 7 2		4 4 1 0 1 4 0	
▽三塁打 寺門▽二塁打 紅谷▽2時間		▽二塁打 黒崎▽1時間45分	

準々決勝

大宮市 (全大宮)

3	0	0	1	1	1	0	0	3	9
3	3	0	0	0	0	0	0	0	6

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【大宮市】	打安	【名古屋市】	打安
⑧ 山 崎	5 0	⑦ 青 木	5 2
④ ⑤ 4 松	2 1	④ ④ 廣 内	5 3
⑤ ⑤ 1 5 矢	5 2	⑨ ⑨ 田 田	5 2
① ④ 1 南	4 1	③ ③ 1 3 武	3 1
⑦ ⑦ 小 林	2 0	① ① 3 1 森	4 1
③ ③ 西 林	4 2	⑥ ⑥ 堀 堀	4 1
⑨ ⑨ 土 田	5 1	⑤ ⑤ 石 田	4 0
⑥ ⑥ 土 金	5 1	⑧ ⑧ 河 合	2 0
② ② 藤 松	5 2	② ② 中 村	2 0
	3 7 1 0	⑧ ⑧ 喜 多	1 0
振球機盗失残併		H ⑧ 服 部	0 0
3 6 2 7 0 9 0		振球機盗失残併	3 5 1 0
▽三塁打 金子		0 3 1 2 3 6 1	
▽2時間20分			

準々決勝

門司市 (門司鉄道局)

2	0	0	0	4	0	1	0	0	7
1	0	1	0	0	0	0	1	0	3

東京市 (東京倶楽部)

【門司市】	打安	【東京市】	打安
⑦ 中 島	5 1	⑤ 布 谷	4 1
④ ④ 5 4 松	3 1	⑦ ⑦ 9 梶	3 0
⑧ ⑧ 1 5 矢	5 3	⑧ ⑧ 菊 上	3 0
② ② 4 1 南	3 0	⑨ ⑨ 片 田	2 0
⑦ ⑦ 小 林	5 0	⑦ ⑦ 7 松	2 0
③ ③ 西 林	4 4	⑥ ⑥ 真 野	5 3
⑨ ⑨ 土 田	4 1	③ ③ ③ 須	2 1
⑥ ⑥ 藤 松	4 1	② ② 2 須	3 0
	3 1	④ ④ 4 窪	1 0
	3 6 1 2	H ④ 4 窪	1 0
振球機盗失残併		① ① 1 上	0 0
1 7 1 1 4 1 0 3		① ① 1 土	2 1
▽二塁打 皆川		振球機盗失残併	3 2 6
鎮守 佐山		4 7 1 0 1 1 0 0	
▽2時間15分			

準々決勝

大連市 (満州倶楽部)

1	5	2	3	0	0	0	0	1	12
1	0	0	0	0	4	0	0	0	5

太田市 (太田雄飛)

【大連市】	打安	【太田市】	打安
④ 今 木	3 0	④ ④ 滝 沢	5 2
⑤ ⑤ 1 5 梅	4 0	⑦ ⑦ 9 相	3 2
⑨ ⑨ 7 永	5 2	⑨ ⑨ 小 神	2 1
③ ③ 高 橋	4 0	⑧ ⑧ 8 鈴	4 1
② ② 宇 佐	5 2	③ ③ ③ 榑	4 2
⑥ ⑥ 本 高	4 1	① ① 5 原	3 0
⑧ ⑧ ⑧ 1 高	2 1	⑤ ⑤ ⑤ 1 尾	1 0
① ① 9 1 五	0 0	② ② ② 1 池	3 0
⑦ ⑦ ⑦ ⑦ 十	4 2	⑥ ⑥ ⑥ ⑥ 浦	4 0
⑤ ⑤ 9 松	2 0		3 0
	2 1	振球機盗失残併	3 2 8
	3 5 9	4 8 1 2 3 9 1	
振球機盗失残併		▽三塁打 神戸▽二塁打 宇佐美 鈴木	
1 1 2 2 2 0 1 0 1		▽2時間15分	

準々決勝

川崎市 (コロムビア)

0	0	0	0	0	4	0	0	4
2	0	1	0	0	0	0	0	3

大阪市 (全大阪)

【川崎市】	打安	【大阪市】	打安
④ ④ 吉 相	3 0	⑥ ⑥ 久 牧	4 0
④ ④ 富 永	1 1	⑤ ⑤ 野 野	3 1
③ ③ ③ 西	3 0	② ② ② 瀨	4 0
⑥ ⑥ ⑥ 富	4 0	⑧ ⑧ ⑧ 村	4 3
⑧ ⑧ ⑧ 富	4 1	⑦ ⑦ ⑦ 望	2 1
⑤ ⑤ ⑤ 富	3 0	① ① ① 伊	4 0
⑦ ⑦ ⑦ 富	2 0	③ ③ ③ 望	3 0
① ① ① 野	1 0	H ④ ④ 望	3 0
② ② ② 野	3 0	⑨ ⑨ ⑨ 望	1 0
① ① ① 野	1 0		4 1
② ② ② 野	2 0	振球機盗失残併	3 2 6
② ② ② 野	2 1	4 5 0 3 3 7 2	
⑨ ⑨ ⑨ 野	2 0	振球機盗失残併	4 4 1 0 1 4 0
	2 0	▽二塁打 黒崎▽1時間45分	

準決勝

大宮市 (全大宮)

0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
0	1	0	0	0	3	2	0	×	6

門司市 (門司鉄道局)

【大宮市】	打安	【門司市】	打安
⑧ 山 崎	3 0	⑦ ⑦ 中 島	5 0
④ ④ ④ 5 4 松	2 0	④ ④ ④ 4 1 中	4 1
⑤ ⑤ ⑤ 1 5 矢	4 1	⑧ ⑧ ⑧ 8 2 中	4 2
① ① ① 4 1 南	5 2	② ② ② 2 2 中	4 0
⑦ ⑦ ⑦ 小 林	3 1	③ ③ ③ 3 3 中	2 0
③ ③ ③ 西 林	1 0	⑤ ⑤ ⑤ 5 5 中	2 0
⑨ ⑨ ⑨ 土 田	3 0	⑨ ⑨ ⑨ 9 9 中	3 2
⑥ ⑥ ⑥ 土 金	0 0	① ① ① 1 1 中	4 1
② ② ② 藤 松	4 1	⑥ ⑥ ⑥ 6 6 中	4 0
	2 0		4 0
	2 0	振球機盗失残併	3 6 6
	1 0	1 2 0 1 2 8 8 0	
	2 0	▽三塁打 南▽2時間15分	

準決勝

大連市 (満州倶楽部)

0	0	0	2	0	0	0	0	4	6
0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

川崎市 (コロムビア)

【大連市】	打安	【川崎市】	打安
④ ④ 今 木	4 1	⑥ ⑥ 富 永	4 1
⑤ ⑤ ⑤ 1 5 梅	4 0	③ ③ ③ 西	4 0
⑨ ⑨ ⑨ 7 永	5 2	⑤ ⑤ ⑤ 富	4 1
③ ③ ③ 高 橋	4 1	⑧ ⑧ ⑧ 富	3 0
⑥ ⑥ ⑥ 本 高	5 1	⑦ ⑦ ⑦ 2 城	2 0
⑧ ⑧ ⑧ ⑧ 1 高	5 2	④ ④ ④ 4 窪	3 0
① ① ① 9 1 五	4 2	② ② ② 2 須	3 1
⑦ ⑦ ⑦ ⑦ 十	5 4	① ① ① 1 上	3 0
H ⑦ ⑦ 十	5 1	⑨ ⑨ ⑨ 9 9 中	3 1
② ② ② 藤 松	4 1 1 4		2 9 4
振球機盗失残併		振球機盗失残併	2 0 1 0 2 2 1
2 2 2 3 2 1 2 0		2 0 1 0 2 2 1	
▽三塁打 本多▽二塁打 松浦▽2時間			



橋戸眞鉄氏をたたえ、最高殊勲選手賞が「橋戸賞」となり、初受賞の門司鉄道局・井野川捕手

大感激の初出場

中部連盟会長 河合 滋



昭和38年7月12日、この日は私にとって生涯忘れることのできない感激の日である。その年の第34回都市対抗野球山静代表決定戦において、当社野球部が優勝し、本大会に初出場する事が決まった日である。

それまで山静2次予選は大昭和、日軽、河合の三つ巴戦になり、容易に勝負がつかなかった。この日は、浜松球場において大昭和と河合の間でやり直し戦が行われる事になっていて、もし大昭和に勝てば、当社の初出場が決定することになっていた。私はこの日会社を休業して全社員が応援に出かけられるようにした。私自身は「社長が応援に行くに負ける」というジンクスをかついで、ゴルフコンペに行くことにした。ゴルフの間ポータブルラジオをかけて、試合の経過を聞きながら一喜一憂した事を憶えている。偶々この日のコンペに優勝し表彰式に出席しようとした時「優勝した」という電話が入って来た。取るものも取りあえず車に飛び乗って野球場に向った。

途中野球場から引きあげてくるチームと出遭い、そのまま引返して市役所へ向った。市役所玄関前で市長さんに報告し、祝辞を戴き、それから急ぎ借り集めたオープンカーに乗って会社までパレードをすることにした。パレード中、熱狂的な市民の祝福には大変感激したものであった。この時の当社チームは最強のものであったと思っている。レギュラーメンバーはエース投手の宮下秀坦君（駒大）、捕手・小島友宏君（駒大）、一塁・久米孝一君（明大）、二塁・一枝修平君（明大）、三塁・佐久間隆君（駒大）、遊撃・渡辺秀夫君（法大）、左翼・堀内嗣郎君（法大）、中堅・谷野彰君（海南高）、右翼・向笠凶至夫君（法大）その他控選手も投手・吉竹徹君以下多士済々であった。それ

に、当時山静からは1チームであったから、大昭和から投手の金沢宏君、外野手・山崎征二君、日軽からは投手・渡辺秀武君、捕手・高田登君、外野手・中田耕平君を補強して、山静3チームの連合軍、大変強力な優勝も狙えるチームであった。1回戦に四国電力を3対2で破り、2回戦では八幡製鉄を7対2で破り、3回戦ではリックカーミシンを14対1で破るなど快進撃した。しかし、準決勝では三塁手の大悪投によって積水化学に5対1で敗れてしまった。初出場、初優勝の力を持ち、そのチャンスもあったが、大変惜しい事をしたと、今でもそう思っている。

山静地区は常勝・大昭和がおり、強豪・日軽がおり、後楽園出場は極めて困難な地区であった。あの当時当社の初出場を評論して「山静の野球界に夜明けが来た」と新聞に書いた野球記者がいた程である。

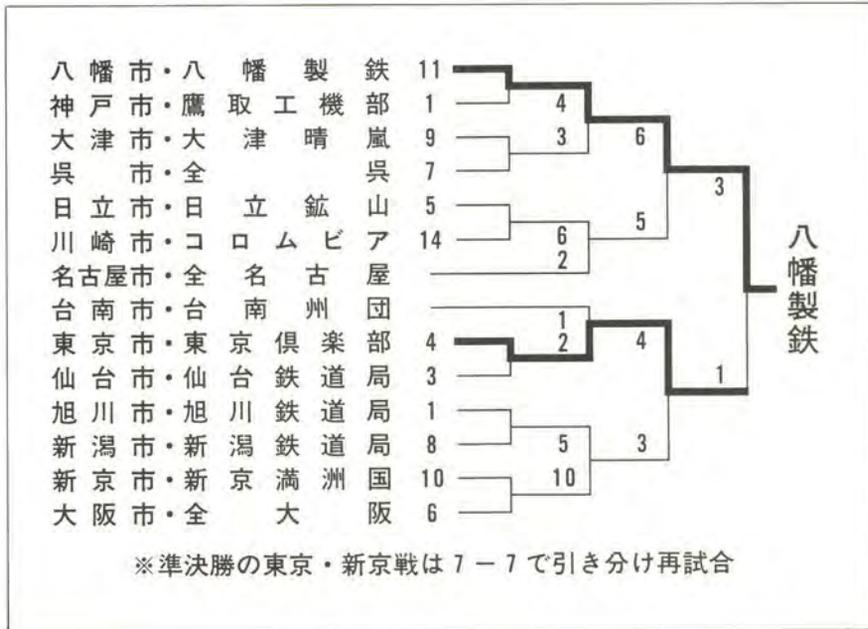
会社も初出場で沸きたっていた。後楽園への応援は会社を挙げて行ったものだ。品川駅着の臨時列車と遠州鉄道のバス、市営バスに分乗して市民を含めて全従業員をいれると何千人になっただろうか。そして試合終了後すぐ浜松に帰り、翌日日中は仕事をして夕刻東京へ出かける。こんな事を繰り返したものであった。あの頃の事を思うと、よく頑張れたものだと思う。応援団席に浜松の風をあげ激練りをし、浜松祭の唱をうたい、チャンスにはチャンス節を歌う。感激の極みであった。

この様な事だから、会社の志気は揚がり、団結を強め、仕事にも大きな成果があがり、野球の企業的意義をしみじみ感じたものである。あれからもう26年。歳月の速さを感じる今日この頃である。

（現在、河合楽器社長）

第11回大会 1937年(昭和12年)8月1日-8月9日・神宮球場

優勝＝八幡市・八幡製鉄



京城が不参加と決まり、14チームによる大会となった。水上義信監督（早大出）ひきいる新京満洲国はそんななかでの初出場だった。

八幡が決勝で東京を破り初優勝をとり、黒獅子旗は2年連続して関門海峡を渡った。門鉄局に一足早く黒獅子旗をかざされ、予選から激しい闘志を燃やした八幡だったが、大会直前に一塁手の鬼塚格三郎主将（明大出）ら、監督や主力選手に招集令状が来て、にわかに加藤喜作助監督（巳佐久＝慶大出）が監督に昇格、大岡虎雄三塁手が新主将に任命され、新入社の塩田義雄投手（立大出）が打力を買われて急造一塁手をつとめるなど、時代を背景にあわただしいものがあった。

1回戦は楽勝したものの、その後は苦戦の連続。大津晴嵐戦では先発の塩田投手が大津打線に食い下られ、8回のピンチをエース角地孫之助投手が断ち切り、やっとの思いの逃げ切り。準決勝の川崎コロムビア戦も角地投手が打たれ1回に3点を取られた。川崎のエースは鈴木茂投手（法大出）。打線も吉相金次郎二塁手（明大出）富永時夫遊撃手（早大出）藤田宗一三塁手（法大出）加納伸三中堅手（明大出）山崎健三左翼手（法大出）ら、東京六大学の花形がずらりと並んでいた。その川崎に八幡はリードされながらひるまず、5回に塩田、角地の短長打で1点を返し、6回には連安打の猪俣秀正中堅手、大岡と四球の高島忠左翼手を塁に置いた一死満塁に塩田が左翼席に打ち込む史上初のスタンド入り満塁本塁打を放って逆転。7回川崎もスクイズなどで同点としたが、八幡はその裏主砲・大岡が中堅席に大本塁打してつき放した。1チーム1試合2本塁打も史上初の快記録だった。

東京倶楽部は韮沢七郎（法大出）、田所武両投手（明大出）勝川正義遊撃手（慶大出）岩本義行右翼手（明大出）らが加わり、やはり候補筆頭の有力チームだった。田所、土井寿蔵投手（慶大出）のリレーで仙台鉄道局、台南州団に競り勝ち、準決勝で初出場の新京と対戦したが延長12回7-7で引き分け。再試合でやっとならぶものの、決勝では死闘で疲れ果てた東京と、1日休養した八幡との差もあり、八幡・角地投手が素晴らしいピッチングで東京打線を3安打1点に抑え、打っても得点に結びつく4打数3安打の大活躍で橋戸賞を受けた。

暗い時代へ…2チーム欠場

第10回の記念大会を終え、出場チーム数は16に戻った。各地の予選で16チームが決まってみると、前年優勝の門司鉄道局は九州地区で宿敵、八幡製鉄に敗れ、10回の連続出場を誇っていた名古屋鉄道局も、同局を倒すため結成された全名古屋に屈して連続出場がとがえた。東京倶楽部、全大坂が11回連続だったのをはじめ、7チームが連続出場。うれしい初出場は旭川鉄道局、新潟鉄道局、日立鉱山、大津晴嵐、新京満洲国の5チーム。全国的なレベルの向上が、予選を一層激しいものにした。

しかし、社会情勢は暗さを増し、7月7日夜、芦溝橋事件が発生。大連満洲倶楽部と全



初優勝の八幡製鉄。門鉄局に続き九州に黒獅子旗を持ち帰り喜ぶ9人

決勝

東京市 (東京倶楽部)										
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
0	1	0	1	0	0	0	1	×	3	
八幡市 (八幡製鉄)										

【東京市】	打安点振球	【八幡市】	打安点振球
④ 眞野	2 1 0 0 2	② 阿部	5 1 0 0 0
⑥ 勝川	2 0 0 1 1	⑧ 猪俣	4 0 0 1 0
⑦ 菊谷	3 0 0 2 1	⑤ 大馬	3 2 0 1 1
⑨ 岩本	3 0 0 0 1	⑥ 馬場	4 0 0 2 0
⑧ 片田	2 0 0 0 1	③ 塩田	3 1 0 0 1
8 齋藤	0 0 0 0 0	⑦ 高島	1 0 0 0 2
⑤ 松井	4 1 0 0 0	③ 高角	4 3 1 0 0
R 小林	0 0 0 0 0	① 正越	3 0 0 0 0
③ 中井	3 1 1 2 0	⑨ 田智	0 0 0 0 1
H 川所	1 0 0 0 0	H 川智	0 0 0 0 0
① 田所	3 0 0 0 0	④ 末松	4 0 1 0 0
H 土井	1 0 0 1 0		3 1 7 2 4 5
② 土別	3 0 0 0 0		
H 三宅	1 0 0 0 0		
機併残盗失	283 166	機併残盗失	2 1 1 1 2
2 2 8 1 5		2 1 1 1 2	
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
田所 8	387 452	角地 9	363 661
▽二壘打	角地▽1時間59分		

八幡・角地、投打に殊勲

準決勝の引き分け再試合で、鶴沢、土井両投手を使い果たした東京は田所が先発。1日休んだ八幡はエース角地がマウンドに立った。



新京応援のため「五色旗」をひるがえすファンたち

角地はスリークォーターからの速球が低めによく決まり、強打者揃いの東京打線を3安打1点に抑え、堂々の完投勝利を飾った。

八幡は2回先頭の塩田が右前に両チームあわせての初安打を放ち、四球と敵失で一死満塁。田所も懸命なピッチングで末松を投ゴロに仕止め、本塁に送球したが、捕手がこれを落球、八幡が先制点を拾った。4回には東京が片田の四球を足がかりに、松井が右前打してチャンスを広げ、中村が左前タイムリー、同点としたが、八幡もその裏、高島が四球を選ぶと角地が左翼二塁打、高島が還って再びリード。さらに8回には、四球の塩田をバントで送り、角地の右前打で一・三塁。代打・越智四球で満塁とし、末松の遊ゴロが敵失を誘って決定的な追加点をあげた。

角地は5回から東京を無安打に抑え、9回の代打攻勢も動ずることなく切り抜けた。力投しただけでなく3安打を放ち、うち2本は得点に結びつくなど、投打の殊勲者だった。



念願の初優勝を果たし、高石本社主筆から黒獅子旗を受け取る八幡製鉄・大岡主将。満員のスタンドから大拍手

初陣新京に感動の旋風

初出場の新京満洲国が大健闘、ファンから拍手を浴びた。

全大阪、東京倶楽部、鎌倉老童軍などから都市対抗に出場、ファンにはおなじみの早大出身、水上義信監督がチームをひきいた。ナインは甲子園の中等学校野球で中京商と25回の死闘を演じた明石中の卒業者らが主力。新京から大連を経由、故郷を出てから1週間かけての上京だった。

1回戦は伊達正男投手を擁し、優勝候補の一角にあげられていた全大阪。新京は3度にわたってリードされながら、その度に粘り強さをみせて追いつき、7回には伊達をK.O、

8回決定的な4点をあげ、大阪を破ると勢をつけ、新潟鉄道局に快勝、準決勝で東京倶楽部と対戦。1回東京が岩本、中村の適時打で3点を先取したが、それからは激しい打ち合い。新京は5回2点をあげて逆転したものの、東京もその裏1点、8回には眞野が同点打して追いつき延長戦。11回新京は二死から佐々木、永尾が連安打、代打・水原が三遊間を破って待望の1点を奪ったが、東京もその裏菊谷の四球と敵失、盗塁をからめて一死二・三塁とすると中村が左飛を打ちあげ、またも同点。結局引き分け再試合となったが、東京日日新聞は「熱球の大饗宴、満場に感激の旋風」と大見出ししてほめたたえた。

台南対東京は大接戦の末、2-1で東京が競り勝ったが観客のスタンドのファンは一投一打に大興奮



通しの指定席券求めて行列

7日間通しの指定席券前売りが行われた。当日券は指定席1円だったが、前売りでは7日間で5円。格安なうえ全試合を同じ席から見られるとあって大人気となった。7月31日の抽選をひかえた7月27、28日の午前11時から発売されたが、東京日日新聞社の前に長い行列ができ、警察官が交通整理に出動したほどだった。

全員中卒、若さのチーム

2年連続出場の神戸鷹取は神戸にある大阪鉄道局鷹取工場のチーム。第6回大会に全神戸が黒獅子旗を持ち帰って以来、ずっと低迷を続けている神戸だが、3年前から神戸税関、生糸検査所、川崎造船など11チームが参加、予選を行っている。

エースの村井（四条曙中）、飯代（村野工）に主力の矢野一塁手（松江中）西沢捕手（姫路商）渡辺外野手（誠々館中）ら、メンバー全員が中学卒業者。平均年齢22歳とひと味違った異色チームだった。



東京対山台戦。2回裏東京は田所の安打で二塁走者の松井ホームにけん命のスライディング、きわどく生還

M E M O

◇スタンド入り満塁本塁打第1号
準決勝の川崎コロムビア対八幡製鉄戦の6回一死満塁に八幡・塩田義雄一塁手（立大出）が、川崎・鈴木茂投手の1-3からの5球目を左翼席に打ち込んで記録した。満塁本塁打は2人目。

◇初の1試合1チーム2本塁打 準決勝の川崎コロムビア対八幡製鉄戦で八幡は6回の一死満塁に塩田義雄一塁手（立大出）が左翼席、7回の二死後大岡虎雄三塁手（豊岡中出）が中堅芝生席に打ち込み達成した。

1回戦

神戸市（鷹取工機部）

0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
1 3 0 5 0 0 2 0 X | 11

八幡市（八幡製鉄）

【神戸市】	村井	打安	【八幡市】	部	打安
⑧	高久	41	⑦	阿部	41
⑤	西沢	40	⑧	猪俣	42
②	西住	41	⑤	大岡	42
⑦	村井	42	⑥	大馬	50
③	村井	40	⑦	高島	31
①	村井	40	③	高田	52
⑥	村井	31	①	角地	52
④	村井	30	⑨	正田	52
⑨	井上	30	④	末松	52
	伊藤	30			
		335			4014

振球権盗失残併 振球権盗失残併
4 0 0 0 4 1 1 0 6 0 1 4 1 1 8
▽三塁打 大岡 高村▽二塁打 阿部 正田
▽1時間45分

1回戦

呉市（全呉）

0 2 0 0 1 0 0 0 4 | 7
0 2 2 2 0 0 0 3 X | 9

大津市（大津晴嵐）

【呉市】	打安	【大津市】	打安
④14	寺田	②藤原	41
⑦	高川	⑧安田	41
7	荒川	⑦松山	52
⑨	松本	⑥岩本	53
⑥	三浦	⑨水本	41
⑤	三石	①小竹	41
H	浅原	④牧田	10
⑧	荒川	④大田	21
②	児野	③坂西	53
2	野村	⑤宮路	41
①4	野村		3814
1	梅田		振球権盗失残併
4	坂本		1 5 1 3 4 1 1 0
③	赤坂		
			346

振球権盗失残併 振球権盗失残併
5 1 1 0 2 2 1 1 0
▽三塁打 坂本 田辺▽二塁打 藤原
松山 浅沼▽2時間10分



1回戦

川崎市 (コロムビア)									
2	0	4	3	1	3	0	1	0	14
0	0	0	0	2	1	0	2	0	5
日上市 (日立鉱山)									

【川崎市】	打安	【日上市】	打安
(4) 吉 相 4 1	(8) 国 方 5 1		
4 4 1 0	(7) 大 野 2 0		
(6) 富 藤 6 2	(6) 大 野 2 0		
(5) 富 藤 4 2	(2) 小 三 4 1		
(8) 加 藤 5 2	(5) 小 三 4 1		
9 井 門 1 0	(4) 小 三 4 1		
9 寺 大 2 0	(1) 小 三 2 0		
8 大 山 0 0	(H) 小 三 1 0		
(7) 大 山 5 0	(3) 富 永 4 1		
(2) 大 山 4 2	(9) 富 永 4 2		
(1) 大 山 5 2	(3) 富 永 4 1		
(3) 大 山 3 1	(9) 富 永 3 4 9		
3 西 黒 1 0			
	振球機盗失残併		
	4112		

振球機盗失残併
410050101
▽二塁打 吉相 藤田 室井 富永(日)
▽1時間56分

1回戦

仙台市 (仙台鉄道局)									
0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
0	2	1	0	1	0	0	0	×	4
東京市 (東京倶楽部)									

【仙台市】	打安	【東京市】	打安
(5) 今 野 3 1	(4) 真 野 4 1		
(2) 村 田 3 1	(6) 勝 川 3 0		
(3) 畑 4 0	(9) 本 田 3 3		
(7) 力 石 4 0	(8) 岩 片 3 0		
(1) 小 野 4 1	(8) 岩 片 0 0		
(8) 鈴 木 3 0	(7) 谷 川 2 1		
(9) 本 奈 2 0	(5) 藤 井 1 0		
9 佐 藤 2 0	(3) 中 田 4 1		
(6) 佐 藤 3 0	(1) 中 田 3 1		
	(1) 中 田 1 0		
	(2) 中 田 4 1		
	振球機盗失残併		
	3701390		

振球機盗失残併
6311252
▽三塁打 岩本 小田野
▽二塁打 岩本
▽1時間35分

1回戦

大阪市 (全大阪)									
1	0	0	0	1	2	2	0	6	
0	0	1	0	0	2	3	4	×	10
新京市 (新京満洲国)									

【大阪市】	打安	【新京市】	打安
(4) 川 瀨 4 0	(4) 水 原 5 2		
4 島 田 1 0	(4) 横 原 0 0		
(8) 7 弘 世 3 0	(8) 原 本 4 1		
(2) 河 村 4 1	(2) 瀨 本 4 2		
(3) 8 伊 村 5 4	(3) 深 井 5 2		
(1) 3 伊 達 5 2	(6) 佐 々 木 2 0		
(9) 福 田 4 2	(1) 柴 田 4 2		
(7) 福 田 3 0	(7) 岩 井 4 4		
(1) 牧 川 1 0	(5) 岩 井 4 1		
(5) 鬼 川 5 1	(9) 高 橋 4 1		
(6) 久 保 2 1			
H 小 林 1 0			
	振球機盗失残併		
	3615		

振球機盗失残併
27123131
▽二塁打 伊達 河津 水原 加藤 高橋
▽2時間25分

1回戦

旭川市 (旭川鉄道局)									
0	0	0	0	0	1	0	0	1	
1	0	1	0	5	0	0	1	×	8
新潟市 (新潟鉄道局)									

【旭川市】	打安	【新潟市】	打安
(6) 豊 岡 4 0	(5) 長 瀬 4 2		
4 坂 根 2 1	(3) 関 和 4 2		
(8) 高 橋 4 1	(4) 根 賀 5 2		
(9) 高 野 4 1	(2) 野 田 5 0		
(3) 高 野 4 0	(9) 小 島 4 1		
(7) 渡 野 4 1	(8) 田 川 4 0		
(1) 木 相 2 0	(7) 川 水 2 1		
(2) 佐 木 3 0	(6) 水 塚 4 1		
(5) 西 村 3 0	(1) 水 塚 4 1		
	振球機盗失残併		
	364		

振球機盗失残併
5401961
▽三塁打 島田
▽二塁打 長瀬
▽1時間25分

準々決勝

川崎市 (コロムビア)									
2	0	0	0	2	0	1	1	0	6
0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
名古屋市 (全名古屋)									

【川崎市】	打安	【名古屋市】	打安
(4) 吉 相 4 0	(6) 辨 原 4 1		
(6) 富 藤 4 0	(3) 酒 井 1 0		
(5) 富 藤 4 1	(7) 酒 井 3 0		
(8) 加 藤 5 0	(7) 8 望 月 4 1		
(9) 加 藤 5 3	(5) 8 望 月 4 2		
(7) 寺 大 4 0	(8) 3 望 月 4 0		
(2) 寺 大 4 1	(9) 望 月 3 0		
(1) 寺 大 4 1	(H) 望 月 1 0		
(3) 寺 大 4 3	(4) 望 月 3 0		
	(1) 望 月 3 1		
	(2) 望 月 3 0		
	振球機盗失残併		
	389		

振球機盗失残併
2213280
▽本塁打 寺門(佐藤)
室井 望月
▽1時間30分

準々決勝

台南市 (台南州団)									
0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
0	2	0	0	0	0	0	0	×	2
東京市 (東京倶楽部)									

【台南市】	打安	【東京市】	打安
(8) 山 出 2 0	(4) 真 野 4 1		
(H) 山 出 1 0	(6) 野 川 2 0		
(3) 山 出 3 2	(9) 本 田 3 1		
(2) 山 出 4 2	(8) 林 小 0 0		
(6) 菅 野 3 0	(8) 小 井 2 0		
(9) 菅 野 2 0	(7) 藤 井 1 0		
9 小 児 1 0	(7) 藤 井 3 0		
(1) 児 玉 4 1	(5) 中 田 3 0		
(7) 児 玉 4 1	(3) 中 田 1 1		
(4) 岩 石 3 0	(1) 中 田 2 0		
(H) 岩 石 0 0	(1) 中 田 2 0		
(5) 清 角 2 0	(2) 中 田 3 1		
	振球機盗失残併		
	296		

振球機盗失残併
4711190
▽三塁打 岩佐
▽二塁打 児玉義
▽2時間

準々決勝

八幡市 (八幡製鉄)									
0	1	0	2	0	0	0	0	1	4
0	0	2	0	0	0	0	1	3	
大津市 (大津晴嵐)									

【八幡市】	打安	【大津市】	打安
(2) 阿 部 5 0	(2) 藤 原 4 2		
(8) 猪 俣 4 1	(8) 山 田 5 1		
(5) 猪 俣 5 1	(7) 松 本 3 0		
(6) 大 馬 4 1	(6) 岩 水 3 2		
(7) 高 角 3 0	(9) 大 水 5 0		
(3) 1 高 角 3 1	(4) 西 田 4 1		
(1) 3 高 角 4 2	(1) 西 田 4 2		
(9) 高 角 4 2	(3) 小 坂 3 1		
(4) 高 角 4 2	(5) 小 坂 4 1		
	振球機盗失残併		
	3610		

振球機盗失残併
2301482
▽三塁打 馬場
正田
▽2時間45分



準々決勝

新潟市 (新潟鉄道局)									
0	2	0	0	0	0	3	0	0	5
2	2	0	4	0	0	2	0	×	10
新京市 (新京満洲国)									

【新潟市】	打安	【新京市】	打安
(5) 長 瀬 4 1	(4) 横 内 4 2		
(3) 八 瀬 3 0	(2) 原 木 4 1		
(1) 八 瀬 2 0	(8) 木 村 3 1		
(4) 八 瀬 4 1	(2) 深 木 1 0		
(2) 小 島 4 0	(3) 深 木 5 1		
(9) 小 島 3 1	(6) 佐 々 木 3 1		
(8) 小 島 4 0	(1) 水 永 0 0		
(7) 小 島 4 1	(7) 永 古 4 0		
(6) 小 島 3 1	(5) 永 古 4 1		
(1) 3 小 島 2 1	(7) 永 古 3 1		
(H) 小 島 0 0	(9) 永 古 3 1		
(3) 小 島 1 0			
	振球機盗失残併		
	346		

振球機盗失残併
2602481
▽二塁打 栗原
▽1時間55分

準決勝

川崎市 (コロムビア)									
3	0	0	0	0	0	2	0	0	5
0	0	0	0	1	4	1	0	×	6
八幡市 (八幡製鉄)									

【川崎市】	打安	【八幡市】	打安
(4) 吉 相 4 1	(2) 阿 部 3 0		
(6) 富 藤 4 1	(8) 猪 俣 4 1		
(5) 富 藤 3 2	(5) 猪 俣 4 2		
(8) 加 藤 5 0	(6) 猪 俣 4 1		
(9) 加 藤 3 1	(7) 猪 俣 2 0		
9 寺 大 4 2	(3) 猪 俣 4 2		
(2) 寺 大 4 1	(1) 猪 俣 4 2		
(1) 寺 大 3 0	(9) 猪 俣 3 0		
(3) 寺 大 2 1	(4) 猪 俣 3 0		
	振球機盗失残併		
	37415180		

振球機盗失残併
37415180
▽本塁打 塩田(鈴木)
▽三塁打 馬場
▽二塁打 室井 西本 角地
山崎
▽2時間

準決勝

新京市 (新京満洲国)									
0	2	0	2	2	0	0	0	0	10
3	0	1	0	1	0	0	1	0	7
東京市 (東京倶楽部)									

【新京市】	打安	【東京市】	打安
(4) 横 内 6 2	(4) 5 真 野 6 2		
(8) 原 本 6 0	(7) 真 野 3 2		
(2) 深 木 6 2	(8) 猪 俣 2 0		
(3) 深 木 6 0	(8) 猪 俣 1 0		
(6) 佐 々 木 6 1	(8) 猪 俣 5 2		
(1) 佐 々 木 5 1	(9) 猪 俣 7 1		
(7) 佐 々 木 3 1	(5) 猪 俣 4 1		
(H) 佐 々 木 1 1	(R) 猪 俣 0 0		
(5) 加 藤 6 2	(5) 猪 俣 2 0		
(9) 7 高 橋 4 1	(4) 猪 俣 6 3		
	振球機盗失残併		
	4911		

振球機盗失残併
68016141
▽三塁打 勝川
▽二塁打 中村
加藤 田所
▽3時間15分

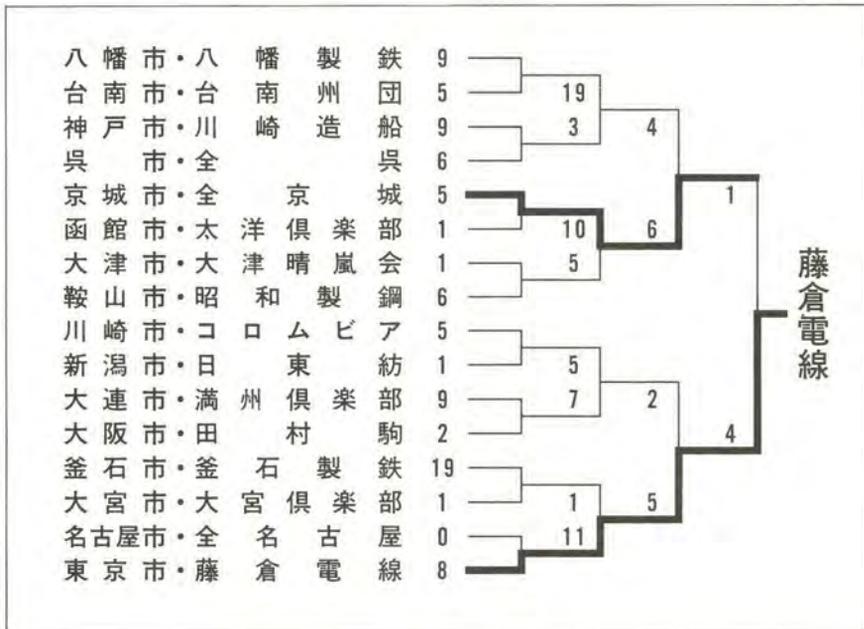
準決勝 (再試合)

東京市 (東京倶楽部)									
0	2	0	0	0	0	2	0	0	4
1	0	0	2	0	0	0	0	0	3
新京市 (新京満洲国)									

【東京市】	打安	【新京市】	打安
(4) 真 野 4 0	(4) 横 内 4 1		
(6) 野 川 3 0	(8) 原 木 4 1		
(9) 本 田 4 1	(2) 木 村 3 2		
(8) 本 田 2 0	(R) 木 村 0 0		
7 川 谷 1 0	(3) 深 木 5 0		
(7) 8 川 谷 3 0	(6) 深 木 3 0		
(5) 松 中 4 1	(H) 水 永 1 1		
(3) 中 村 3 1	(1) 水 永 5 0		
(H) 藤 田 0 0	(5) 永 古 4 2		
3 大 鶴 1 1	(7) 永 古 4 0		
(1) 大 鶴 3 0	(9) 永 古 3 1		
(2) 大 鶴 4 1			
	振球機盗失残併		
	325		

振球機盗失残併
0313350
▽2時間

第12回大会 1938年(昭和13年)8月1日-8月11日・後樂園球場 優勝=東京市・藤倉電線



の東京倶楽部がシーズン前に解散した。出場チームも、クラブチームから企業チームへの移り変わりが激しく、都市対抗もはっきりと創成期に幕を引いた転機の大会と位置づけられよう。

東京倶楽部に代って東京代表になった藤倉電線が初優勝した。第10回大会の門司鉄道局以来、八幡製鉄、そして藤倉と、企業チームが連続して優勝したのを見ても、そのあたりを物語っている。ちなみに、第14回、第16回大会で全京城が優勝したが、全京城は京城の実業団リーグの優勝チームを主体に、優秀選手を補強して編成するチームで、純粋なクラブチームではない。後樂園移行からは企業全盛にはいったといえる。

東京倶楽部の有力メンバーだった土井寿蔵(慶大出) 菊谷正一(立大出)の両投手や真野春美(明大出)は藤倉の社員だったし、新たに恒川道順(明大出) 黒田忠司(立大出)の両内野手も加入、東京ガス、東京市役所などとの予選も危なげなく勝ち抜いた。

藤倉には幸運もあった。第1戦に快勝したあと、釜石製鉄戦は、釜石・沢藤光郎投手に抑えられ、リードされたまま5回を終わったが、そこで降雨ノーゲーム。再試合では大勝した。

準決勝で対戦したのが八幡製鉄とともに大会の2強といわれた大連満州倶楽部。桜井義継捕手、宇佐美浜夫内野手らが揃っていたが土井投手のカーブが冴え、強打線を抑え切り3安打2失点で勝ち進んだ。

連覇を目指す八幡も角地孫之助投手が健在、大岡虎雄三塁手のバットも好調で台南州団、神戸川崎造船を問題にせず勝ち進んだが、準決勝の全京城戦では朴栄敏投手から1回に3点をあげながら2番手徳島忠彦投手の鋭いカーブを打ちあぐんだ。走者を出しながら、得点できなかった京城は土壇場の9回、一気に角地投手を攻略した。中川伴次郎一塁手、秋山光夫右翼手らを中心とする上位打線が活躍、3安打2四球に、ミスが連続した八幡守備陣の乱れもあって大量5点を奪い逆転勝ちした。

第7回大会以来の決勝進出の京城だったが、老練・土井投手のピッチングに得意の集中打を封じられ、またも準優勝に終わった。

橋戸賞は東京の土井投手に贈られた。

神宮の森から後樂園へ

昭和2年の第1回大会以来の舞台だった神宮球場から、小石川・後樂園球場に移った。後樂園は前年の9月11日完成した近代的な設備の整ったスタジアムである。そしてまた第1回大会以来、強豪の名をほしいままにし、神宮の森をわかせた東京六大学の花形選手たちで固め、優勝4回の偉業を成しとげた名門



慶大を卒業、東京・藤倉電線の黄金時代を築きあげた土井投手

決勝

京城市 (全京城)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
東京市 (藤倉電線)	0	0	1	1	0	0	0	2	×	4

【京城市】	打安点振球	【東京市】	打安点振球
④ 増田	5 0 0 1 0	④ 恒川	3 2 2 0 2
③ 中川	3 2 0 0 1	⑨ 野谷	4 1 1 0 0
⑨ 秋山	2 1 0 0 2	⑧ 真菊	5 0 0 0 0
⑧ 広瀬	4 1 1 0 0	⑦ 坂田	3 0 0 0 1
⑦ 菊地	3 2 0 1 0	③ 黒土	4 0 0 0 0
⑤ 高田	4 1 0 0 0	① 井川	3 1 0 0 1
① 東	1 0 0 0 0	② 荒川	2 1 0 0 2
① 徳島	3 0 0 2 0	⑤ 都司	2 1 0 0 2
② 佐藤	4 0 0 0 0	⑥ 市川	1 0 1 0 2
⑥ 梶原	4 1 0 1 0		27 6 4 0 10
	33 8 1 5 3		

横浜残盗失	横浜残盗失
1 1 7 2 2	2 0 10 0 0
投手回打安振球責	投手回打安振球責
東 2 1/3 10 2 0 2 1	土 井 9 37 8 5 3 1
徳島 5 2/3 29 4 0 8 3	

▽二塁打 高田 郡司▽1時間55分

土井巧投、京城を抑える

4連投のベテラン投手、東京・土井に対し、全京城は徹底したウエイティングの作戦に出たが、土井がすばらしいコントロールで要所を締める味のあるピッチングをみせた。

京城は東が先発したが、東京は3回郡司が右翼線二塁打。市川の三ゴロで三進すると、すかさず恒川が中前タイムリー、1点を先取



炎天下で愛国歌を演奏するカンカン帽のブラスバンド

した。京城はすぐにエース徳島をマウンドに送ったが、東京は4回土井が四球を選ぶと、連続4四球となって押し出しで追加点。

京城は5回、梶原が右前打して二盗。中川伴の左前打で一・三塁としたが、中川伴二盗のときに、東京の捕手、投手の好連携で離塁



初優勝した東京・藤倉電線の菊谷主将に本社・高石主筆から黒獅子旗が手渡された

の大きかった三塁走者・梶原が刺され、6回には秋山、菊地の安打でチャンスをつくったが、土井のカーブに抑えられた。

京城は8回、中川伴の安打と四球の無死一・二塁に、広瀬が左前打して1点を返し、さらにバントで一死二・三塁と逆転機をつくったが、土井を攻略できなかった。

東京はその裏、荒川の中前打を足場に無死一・二塁とすると、すかさず送りバントを決め、恒川が三遊間を破って1点。残った一・三塁に真野は大きな中飛を打ちあげ、そつなく2点を挙げて試合を決めた。京城は東京を上回る8安打を放ちながら、土井投手の前に涙を飲んだ。

東京倶楽部が解散

昭和2年の第1回大会以来、東京のアイドルでもあり、最強のクラブチームと自他ともに認められていた東京倶楽部が、シーズンを

M
E
M
O

◇後楽園第1号の満塁本塁打 1回戦の八幡製鉄対台南州団戦で八幡・正田鉄雄左翼手は二死満塁に台南・児玉義投手から左翼席に打ち込んだ。後楽園では初で、大会3本目。

前に解散した。同一チーム最多の優勝4回の金字塔をうち立てた名門クラブ。さまざまな会社に勤務していた選手たちは、都市対抗になると休みをとって集まり練習、大会に臨んでいたのだ。それだけに1年前には「日中戦争」が始まり、出征が日常茶飯事となった当時の社会情勢では休みがとれなくなった。これが解散の原因だったが、全盛を誇っていたクラブチーム衰退の象徴的な現象というべきであった。

舞台移り盛大に開会式

舞台を後楽園球場に移した最初の大会とあって、開会式がにぎやかに行われた。

8月1日午前11時半、専修商業ラッパ楽隊の吹奏する行進曲に乗って、前年度優勝の八幡製鉄が、黒獅子旗を手にした大岡虎雄主将を先頭に入場。16チーム全選手が整列すると爆竹が鳴り、その爆音を合図に花火が炎天に打ちあげられた。

八幡製鉄から黒獅子旗、文部大臣杯、東京市長杯、JOAK(NHK)杯の返還があり、前回準優勝の東京倶楽部に代って藤倉電線から白獅子旗が返還された。

大会会長・高石東京日日新聞社主筆の開会宣言に続き、近衛首相の祝辞、大岡主将の選手宣誓が行われた。



東京・藤倉電線の表彰選手 右から荒川(打撃賞)土井(橋戸賞)恒川(本塁打賞)と美技賞の黒田選手の代理

シード方式を初採用

都市対抗史上初めて組み合わせ抽選にシード方式が採用された。前回優勝の八幡製鉄が1番、準優勝の東京倶楽部に代って出場した藤倉電線が16番。ベスト4だった新京倶楽部に代わる満州代表の鞍山昭和製鋼と川崎コロムビアが8、9に入り、あとは順次各チームが番号を引いた。

内野一般席は50銭

後楽園球場での入場料は、指定席が1円、特別席が70銭、内野一般席が50銭。東京日日新聞の社告では「外野席は外野招待券持参の方に限り入場できます。但し満員の節はお断りしますから、該券を場外、街路などで購入されて入場できなくても本社はいっさい責任を負いません」の注意が明示され、人気の高さをしのばせている。



八幡対台南戦の7回二死満塁のチャンスに八幡製鉄・正田左翼手が左翼席に本塁打。後楽園の満塁本塁打第1号

投打に活躍、橋戸賞

橋戸賞を受けたのは東京・藤倉電線の土井寿蔵投手。4試合全部に登板、決勝を含む3試合を完投し、33イニングで失点わずか3。打っても打率3割6分4厘と優勝の原動力となり、大会顧問、審判員らによる「詮衡委員会」でも満場一致の受賞となった。

MEMO

◇最多連続安打7、1イニング最多安打7 準々決勝の全京城対鞍山昭和製鋼戦、京城は5回二死後秋山光夫右翼手が四球で歩くと、広瀬義明中堅手、菊地左翼手が連続二塁打、高田三塁手も三遊間を破る。鞍山の投手は湯浅から手島に代ったが徳島忠彦投手中前打、佐藤正捕手左前打、梶原遊撃手左前打、増田一二塁手右前打で新記録樹立。



試合前、愛国歌を歌う歌手の波岡惣一郎、能勢妙子



東京対名古屋戦。東京・恒川が二盗に成功する

1回戦

台南市 (台南州団)	1 0 0 1 0 0 2 1 0	5
八幡市 (八幡製鉄)	0 1 0 2 1 0 5 0 X	9

【台南市】	打安	【八幡市】	打安
② 今久留主	3 1	② 阿部	4 0
⑥ 脇黒丸	3 1	⑧ 猪俣	5 2
⑨ 田辺	2 1	⑤ 岡谷	5 3
⑧ 石坂	5 0	③ 大森	4 0
① 児小	4 1	⑥ 馬場	3 1
④ 見小	4 0	⑨ 田地	4 1
③ 中	2 0	① 角正	3 2
⑦ 小	4 1	⑦ 田	2 2
⑤ 池	3 0	④ 植	3 0
	30 5		33 11

振球機盗失残併 振球機盗失残併
 3 8 2 0 2 8 1 6 7 0 2 5 7 3
 ▼本塁打 正田 (児玉) ▼三塁打 塩田
 大岡 ▼二塁打 馬場 正田 猪俣 児玉
 ▼2時間10分

1回戦

神戸市 (川崎造船)	0 2 0 0 0 3 0 0 4	9
呉市 (全呉)	0 0 0 1 1 0 3 0 1	6

【神戸市】	打安	【呉市】	打安
⑦ 吉岡	4 2	⑤ 寺田	3 0
⑨ 仲	3 0	⑦ 高松	5 0
9 山本	0 0	⑨ 栄浦	5 3
② 中村	4 0	⑥ 三浦	3 0
⑧ 小幡	4 1	H 三	1 1
① 3 小	4 2	⑧ 荒川	4 2
④ 小	4 1	③ 吉	2 0
③ 塚	1 0	1 3 1 3	3 0
1 中	2 1	② 橋	2 0
⑥ 三	4 1	① 3 1 3 1	4 1
⑤ 池	4 1	④ 吉	3 0
	34 9		35 7

振球機盗失残併 振球機盗失残併
 2 7 3 2 3 8 1 3 6 1 4 6 9 0
 ▼二塁打 松栄 荒川 中村西 池内 吉岡
 ▼2時間10分

1回戦

函館市 (大洋倶楽部)	0 0 0 1 0 0 0 0 0	1
京城市 (全京城)	0 0 1 1 3 0 0 0 X	5

【函館市】	打安	【京城市】	打安
⑧ 四谷	3 0	④ 増田	3 0
⑤ 伊予	4 2	③ 中川	3 1
③ 植田	4 0	⑨ 山	4 2
⑥ 東山	4 0	⑧ 秋	4 0
① 久	4 0	⑦ 菊	4 1
② 山	3 1	⑤ 高	3 0
⑨ 崎	3 2	① 徳	3 2
④ 相	2 0	② 島	4 1
⑦ 小	3 0	⑥ 藤	3 1
	30 5		31 8

振球機盗失残併 振球機盗失残併
 2 3 0 1 1 4 1 1 4 2 2 2 8 1
 ▼本塁打 徳島 (山崎英) ▼三塁打 秋山
 久慈 ▼1時間40分

1回戦

大津市 (晴嵐会)	0 0 0 0 1 0 0 0 0	1
鞍山市 (昭和製鋼)	1 0 0 0 1 4 0 0 X	6

【大津市】	打安	【鞍山市】	打安
⑧ 安田	3 1	⑥ 海野	4 2
② 藤原	3 0	③ 村	3 1
⑤ 宮路	2 0	④ 中	3 1
⑥ 岩本	4 1	⑧ 手	3 2
④ 1 栗	4 1	⑤ 飯	4 0
⑨ 松	3 0	⑨ 野	3 0
③ 牧	3 1	① 島	2 0
① 4 小	2 1	② 湯	3 1
⑦ 石	3 0	⑦ 渡	4 2
	27 5		29 9

振球機盗失残併 振球機盗失残併
 3 3 2 0 3 4 2 2 7 3 1 1 9 2
 ▼二塁打 辰己 栗山 ▼1時間35分

1回戦

川崎市 (コロムビア)

0	0	0	0	0	0	4	0	1		5
0	0	0	0	0	0	1	0		1	

新潟市 (日東紡)

【川崎市】	打安	【新潟市】	打安
④ 吉西	4 2	⑧ 1 中根	4 0
③ 相本	2 0	⑥ 藤山	3 0
③ 黒崎	2 0	⑨ 8 伊藤	4 2
⑧ 黒加	5 3	⑦ 7 池越	3 0
① 山寺	5 0	⑤ 2 大藤	3 1
⑨ 山寺	4 0	④ 4 中藤	4 1
⑥ 水大	4 0	① 9 藤原	2 0
⑦ 亦大	4 1	④ 3 智智	4 3
② 谷大	3 0	③ 3 石	3 0
⑤ 紅富	3 1		1 0
	367		317

振球権盗失残併 2 7 0 3 2 1 1 1
▽本塁打 加納 (藤田) ▽二塁打 吉相
▽1時間55分

1回戦

大阪市 (田村駒)

0	1	0	1	0	0	0	0	0		2
3	3	2	0	1	0	0	0	×		9

大連市 (満州俱樂部)

【大阪市】	打安	【大連市】	打安
④ 布後	5 0	⑧ 8 崎本	1 1
⑦ 5 村	4 0	④ 4 梅本	3 1
② 志村	4 0	② 2 桜井	4 1
⑦ 8 村	3 0	③ 3 佐美	4 2
① 8 中	4 2	⑥ 6 宇本	3 0
③ 5 中	3 1	⑤ 5 宇本	4 0
① 5 中	4 2	⑨ 9 宇本	4 1
⑨ 石加	3 0	① 1 宇本	4 0
H 石加	0 0	⑦ 7 宇本	3 1
⑥ 酒	3 2		0 0
	337		307

振球権盗失残併 2 4 0 0 6 8 3
▽二塁打 戸川 汐崎 ▽2時間

1回戦

釜石市 (釜石製鉄)

3	0	0	4	5	3	4	0	0		19
0	0	0	0	0	0	0	0	1		1

大宮市 (大宮俱樂部)

【釜石市】	打安	【大宮市】	打安
⑧ 3 杉山	5 1	④ 4 石川	3 1
③ 6 菊地	6 1	⑧ 8 横神	3 0
⑥ 2 金中	6 4	⑦ 7 石川	1 0
⑤ 5 小中	5 0	⑤ 5 大川	4 0
① 9 小中	4 0	⑨ 9 大川	3 1
⑦ 7 中村	3 2	② 2 大川	4 1
④ 4 中村	5 0	③ 3 三山	4 0
⑨ 9 吉田	4 0	① 1 三山	2 0
① 1 菊地	5 2	H 飯塚	0 0
	4310	H 飯塚	0 0
		⑥ 6 大竹	1 0
		⑥ 6 大谷	2 1
		⑥ 6 大谷	0 0
			314

振球権盗失残併 9 7 0 1 2 4 4 2
▽2時間10分

1回戦

名古屋市 (全名古屋)

0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
2	0	0	4	1	1	0	0	×		8

東京市 (藤倉電線)

【名古屋市】	打安	【東京市】	打安
⑥ 6 原	5 2	④ 4 恒川	3 1
⑧ 8 日	4 0	④ 4 野野	0 0
④ 5 春	4 0	⑨ 9 野野	5 2
⑤ 1 松	4 1	⑧ 8 野野	5 1
③ 7 9 望	4 1	⑦ 7 野野	3 1
④ 4 望	1 0	③ 3 野野	4 3
⑨ 9 望	1 0	① 1 野野	4 1
⑦ 7 望	2 0	② 2 野野	4 2
② 2 伊	2 0	⑤ 5 野野	3 1
① 1 伊	4 1	⑥ 6 野野	4 1
	346		3513

振球権盗失残併 4 3 0 0 1 1 0 1
▽三塁打 真野 ▽二塁打 黒田 2 松井
▽1時間35分

準々決勝

八幡市 (八幡製鉄)

1	4	2	4	2	3	3	0	0		19
0	0	2	0	0	0	0	0	1		3

神戸市 (川崎造船)

【八幡市】	打安	【神戸市】	打安
② 2 阿部	4 3	⑦ 7 吉岡	4 2
⑧ 8 猪俣	6 4	④ 4 新	4 0
⑤ 5 岡	7 3	② 2 中	3 2
③ 3 森	6 2	⑧ 8 小	3 1
⑥ 6 馬	2 1	⑨ 9 3 小	4 1
6 6 林	2 0	① 1 3 中	4 0
⑨ 9 角	4 2	③ 3 1 塚	0 0
9 9 新	2 1	① 1 塚	1 1
① 1 新	4 2	9 9 佐	3 0
⑦ 7 正	6 4	⑥ 6 三	3 0
④ 4 植	5 1	⑤ 5 池	2 0
	4823		317

振球権盗失残併 4 1 0 1 2 1 1 3 3
▽本塁打 森谷 (中村西) 大岡 (小泉)
▽三塁打 塩田 正田
▽二塁打 正田 2 新留 馬場 ▽1時間50分

準々決勝

京城市 (全京城)

2	0	0	2	6	0	0	0	0		10
3	1	0	1	0	0	0	0	0		5

鞍山市 (昭和製鋼)

【京城市】	打安	【鞍山市】	打安
④ 4 増中	5 1	⑥ 6 海野	4 2
③ 3 川	2 1	③ 3 中	5 0
⑨ 9 秋	4 1	⑧ 8 1 4 手	3 0
⑧ 8 秋	5 2	④ 4 野	5 1
⑦ 7 秋	5 1	⑤ 5 飯	1 0
⑤ 5 秋	4 1	⑨ 9 飯	4 1
① 1 秋	1 0	② 2 飯	3 0
① 1 秋	4 1	H 飯	0 0
② 2 秋	4 2	② 2 飯	1 0
⑥ 6 秋	4 1	① 1 4 湯	3 0
	3811	⑦ 7 湯	3 0

振球権盗失残併 5 5 0 2 4 6 1
▽本塁打 秋山 (湯浅) ▽三塁打 長野
▽二塁打 広瀬 菊地 山崎 ▽2時間10分

準々決勝

大連市 (満州俱樂部)

2	0	1	0	2	0	0	0	0	2		7
0	2	1	0	0	1	1	0	0	0		5

川崎市 (コロムビア)

【大連市】	打安	【川崎市】	打安
⑧ 8 夕崎	4 1	④ 4 吉西	5 0
④ 4 梅	4 0	③ 3 木本	4 1
② 2 桜	4 2	① 1 西	1 0
③ 3 宇	4 1	⑧ 8 寺	4 3
⑥ 6 宇	4 2	⑨ 9 加	4 0
⑤ 5 本	5 2	① 1 3 加	5 2
⑨ 9 山	5 3	⑦ 7 大	5 1
① 1 山	4 1	⑥ 6 水	4 3
⑦ 7 高	2 0	② 2 H	1 0
② 2 松	3 1	⑤ 5 山	1 0
	3913		3812

振球権盗失残併 1 7 1 1 0 1 0 0
▽二塁打 桜井 宇佐美兄 山元 寺門
▽2時間30分

準々決勝

釜石市 (釜石製鉄)

0	0	0	0	0	0	0	0	1		1
4	3	0	0	2	1	1	0	×		11

東京市 (藤倉電線)

【釜石市】	打安	【東京市】	打安
⑧ 8 杉山	4 0	④ 4 恒川	5 2
③ 3 菊	4 0	⑨ 9 野	6 1
⑥ 6 金	3 0	⑦ 7 谷	3 1
② 2 中	3 0	⑧ 8 坂	4 1
⑤ 5 小	3 0	① 1 土	2 1
① 1 小	3 0	⑦ 7 1 土	1 0
⑦ 7 中	3 1	③ 3 2 黒	3 2
④ 4 中	3 0	⑤ 5 荒	4 4
⑨ 9 沢	3 0	⑥ 6 荒	3 0
	291		4 1

振球権盗失残併 2 0 0 0 6 1 1
▽二塁打 土井 田坂 黒田 荒川
▽1時間45分

準決勝

京城市 (全京城)

0	0	0	0	0	0	0	1	5		6
3	0	0	0	0	0	1	0	0		4

八幡市 (八幡製鉄)

【京城市】	打安	【八幡市】	打安
④ 4 増中	4 1	② 2 阿部	2 0
③ 3 川	5 3	⑧ 8 猪	2 0
⑨ 9 秋	5 1	⑤ 5 新	2 0
⑧ 8 秋	4 1	⑧ 8 大	4 1
⑦ 7 秋	4 0	⑥ 6 森	2 0
⑤ 5 秋	5 1	③ 3 馬	3 1
① 1 秋	0 0	⑨ 9 塚	1 0
① 1 秋	4 0	⑦ 7 塚	4 0
② 2 秋	4 4	① 1 塚	4 0
R 秋	0 0	④ 4 塚	2 0
② 2 秋	0 0	H 塚	1 0
⑥ 6 秋	4 1		2 0
	3912		272

振球権盗失残併 5 3 0 2 3 9 4
▽三塁打 広瀬 ▽二塁打 佐藤 梶原
▽2時間5分

準決勝

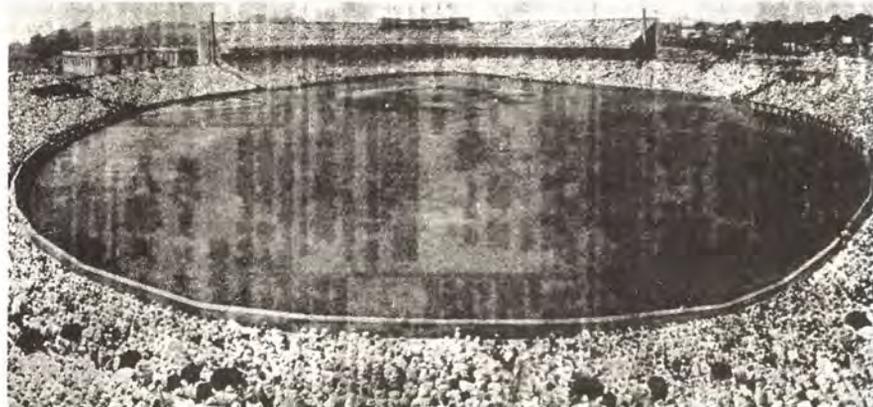
大連市 (満州俱樂部)

1	0	0	0	0	0	0	1		2	
1	0	0	2	0	0	2	0	×		5

東京市 (藤倉電線)

【大連市】	打安	【東京市】	打安
⑧ 8 夕崎	3 0	④ 4 恒川	4 1
④ 4 梅	3 0	⑨ 9 野	4 2
② 2 桜	4 1	⑧ 8 坂	4 2
③ 3 宇	4 1	⑦ 7 谷	4 0
⑥ 6 宇	4 1	① 1 土	4 1
⑤ 5 本	4 0	③ 3 黒	2 1
⑨ 9 山	3 0	② 2 荒	3 2
① 1 山	3 0	⑤ 5 荒	4 2
⑦ 7 高	2 0	⑥ 6 荒	4 1
	303		3312

振球権盗失残併 3 5 0 0 1 6 2
▽本塁打 恒川 (高見) 桜井 (土井)
▽1時間45分



決勝

庄内町 (庄内田村駒)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 2 1 0 X | 3

東京市 (藤倉電線)

【庄内町】	打安点振球	【東京市】	打安点振球
④ 浅井	4 0 0 0 0 0	④ 恒川	4 0 0 0 0 0
⑥ 大久保	4 0 0 0 0 0	⑨ 土井	3 0 0 0 1
③ 大白	3 1 0 0 1	③ 菊谷	2 0 0 0 1
⑤ 石藤	3 0 0 1 1	② 荒川	4 0 0 0 0
⑨ 後瀬	3 1 0 1 1	① 吉田	3 2 1 0 1
⑦ 兼田	2 0 0 1 1	⑥ 松井	3 2 1 0 0
⑧ 谷内	4 1 0 0 0	⑦ 吉松	3 0 0 0 1
① 河内	3 0 0 0 0	⑧ 畑	3 0 0 0 2
② 棚橋	3 0 0 1 0	⑤ 井筒	3 0 1 0 1
犠併残盗失	29 3 0 4 4	犠併残盗失	28 4 3 0 7
投手回	1 0 7 2 1	投手回	2 1 9 2 1
打安振球責	36 4 0 7 3	打安振球責	34 3 4 4 0
投手内	8	投手内	9

▽二塁打 吉田2▽1時間40分

さすが大投手、藤倉・吉田

無名の庄内・河内と、大投手、藤倉・吉田の投げ合いとなったが、5回まで庄内2安打、藤倉1安打の投手戦。河内はアウトドロップを武器に、吉田は剛速球がよくコントロールされていた。しかし、藤倉は6回一死後、吉田が左中間を破る二塁打を放って果敢に三盗に成功、松井の遊撃深い内野安打で均衡を破り、和田、畑四球の満塁機に井筒の遊ゴロでこの回2点をあげた。藤倉はさらに7回、四球の土井をバントで送った二死後、またも吉田が左翼に適時二塁打を打ち1点を追加した。

中盤をビタリと抑えられた庄内は7回、先頭の兼田が四球で歩いたものの、下位打線とあって後続を断たれ、8回二死後白石に左前打が出たがそこまで。吉田に3安打に封じられ、つけ入るスキがなかった。吉田はピッチングだけでなく、打っても、ともに得点に結びつく二塁打と大暴れ。優勝の立役者となった素晴らしい活躍をみせた。

雨にも負けぬ名勝負

準々決勝の神戸全川崎対八幡製鉄戦はファンを感動させる名勝負だった。

2年ぶりの優勝を目指す八幡はエース角地を兵隊にとられたもののチーム力充実、滴を持しての大会だった。

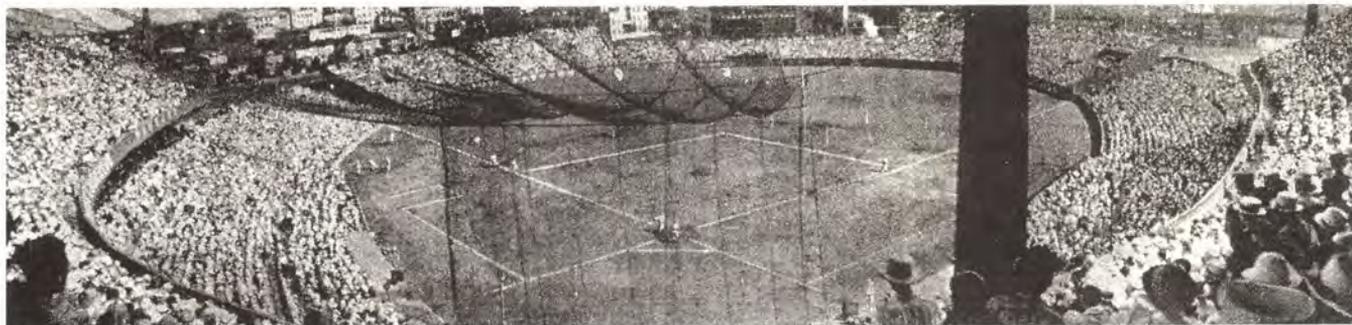
試合開始直前に豪雨となり、1時間遅れてのプレーボールだった。グラウンドの悪さに神戸は泣かされ、八幡は1回悪送球や足をす



神戸対台北戦。大きなうちわを振って応援する神戸・全川崎の応援団(上)と、神戸の3番打者・永田

べらせた野手の転倒など、神戸の乱れにつけ込み4点を奪った。これで試合は一方的になるかと思われたのに、神戸は門脇投手がその後をよく抑え、6回北沢の二塁打を皮切りに八幡・塩田、大崎両投手に5安打を浴びせ、

5点をあげて逆転した。八幡もその裏新留の適時打で1点差と迫ったが、神戸は9回、四球の村井を一塁に置いて北沢が大崎の1-2後の4球目を左翼席に本塁打、3点差とリードを広げた。



新装の後楽園球場に移って2年目。ファンもすっかり定着、人波に埋まったスタンド



京城対川崎戦。7回京城は小川の右前打で二塁から真田ホームを突くが、川崎・寺門の好返球でタッチアウト

富真 (上) 京城川崎
七回裏 京の小川右前
安打、真田三塁まで、
急ぐも、川崎寺門の好返
にタッチアウト。本塁に
名古屋九回裏 大田の安
安打で一塁に出、関本の右
前に出塁、石崎の返球に
タッチアウト

試合の中心は、この二回の攻防にあった。京の攻撃は、二死一・二塁の状態で、小川が右前打で二塁を越え、真田がホームを突く。川崎は寺門が好返球でタッチアウト。七回裏、京の攻撃は、大田が安打で一塁に出、関本が右前に出塁、石崎が返球にタッチアウト。

八幡9回の攻撃も簡単に二死となり、さすがの八幡もここのまでの感があつた。

ところが永田が四球で歩き、敵失で一・二塁とすると4番の森谷は2-3からの好球を左翼席にたたき込み、土壇場で振り出しに戻した。途中雨による50分もの中断があつた試合だが、熱心なファンは全員立ちあがって熱狂。10回八幡は大崎、鈴木が四球で歩いて一死一・二塁。9番の新留が一・二塁間を鋭く抜く殊勲打を放ち大崎を迎え入れてサヨナラ勝ち。古豪の貫禄を示した試合だつた。

連覇の陰に社長の激励

2連勝を果たした藤倉電線の菊谷正一主将は、社長の激励と一致協力の団結がチームに優勝をもたらしたと次のように語った。

「再び黒獅子旗を手にすることができたのは、松本新太郎社長が毎日欠かさずにグラウンドに来て熱心に激励してくれたおかげです。仕事か忙しく、午後4時半からの練習のあと、また職場に戻って残った仕事を続ける毎日で苦しいことに違ひはなかったのですが、全員が団結して何の苦情もなく練習を続けたのが勝利の原因です。八幡に勝ったときは、決勝で勝ったのよりうれしい気持ちでした。結局『団結の力』こそ、全てを支配するものだということが、改めてわかりました。」

M E M O

◇初の全員安打 準々決勝の神戸全川崎対八幡製鉄戦は延長10回八幡のサヨナラ勝ちだったが、神戸は八幡の塩田、大崎両投手から史上初の全員安打を記録した。

◇大会通算最多5本塁打 八幡製鉄・大岡虎雄三塁手が、準決勝の対藤倉電線戦1回、吉田正男投手から左翼席に打ち込んで達成した。



八幡製鉄・大岡選手は大会最多の通算5本塁打を記録



準々決勝の八幡対神戸戦。八幡は延長10回、新留が右翼線安打、二塁から大崎生還、サヨナラ勝ち

1回戦

青森市 (青森林友)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
3 0 0 0 2 0 3 0 X | 8
京都市 (藤倉電線)

【青森市】	打安	【京都市】	打安
④ 千葉	40	④ 恒川	41
⑤ 亀島	30	⑤ 川井	41
⑥ 島瀬	31	⑥ 土井	41
⑦ 瀨川	40	⑦ 菊大	51
⑧ 高瀬	41	⑧ 犬塚	53
⑨ 五代	41	⑨ 荒吉	20
⑩ 菅原	30	⑩ 吉松	21
⑪ 菅松	30	⑪ 皆烟	41
⑫ 小泉	31	⑫ 松皆	53
	314	⑬ 烟田	30
振球機盗失残併		⑭ 和野	10
5 2 1 0 4 7 1		⑮ 高倉	10
		振球機盗失残併	3611
		1 1 0 0 2 2 1 4 0	

▽三塁打 犬塚▽1時間20分

1回戦

長野市 (長野法規)
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 2 1 0 0 0 1 3 X | 7
函館市 (太洋倶楽部)

【長野市】	打安	【函館市】	打安
④ 佐藤	40	④ 伊予	51
⑤ 藤川	40	⑤ 予川	52
⑥ 山沢	41	⑥ 小植	40
⑦ 寺山	20	⑦ 植東	41
⑧ 塚田	30	⑧ 東山	30
⑨ 海野	20	⑨ 山田	41
⑩ 松野	30	⑩ 田田	20
⑪ 加藤	20	⑪ 山久	10
⑫ 山藤	00	⑫ 田久	32
⑬ 山藤	20	⑬ 野谷	10
	261	⑭ 村谷	10
振球機盗失残併		⑮ 山相	00
6 3 1 0 8 2 1		⑯ 相沢	31
		振球機盗失残併	358
		2 2 1 4 3 7 1	

▽1時間20分

1回戦

神戸市 (神戸全川崎)
0 1 0 2 2 1 3 0 0 0 | 9
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
台北市 (全台北团)

【神戸市】	打安	【台北市】	打安
④ 野田	21	④ 日笠	30
⑤ 小水	21	⑤ 橋本	31
⑥ 永井	40	⑥ 本山	40
⑦ 村北	51	⑦ 渡邊	31
⑧ 村北	51	⑧ 桑田	30
⑨ 中井	41	⑨ 桑田	33
⑩ 村西	52	⑩ 桑田	30
⑪ 中村	41	⑪ 吉村	10
⑫ 村中	20	⑫ 村上	00
⑬ 村中	10	⑬ 上持	20
	348	⑭ 村上	30
振球機盗失残併		振球機盗失残併	285
3 1 6 3 6 0 1 7 2		3 1 1 0 5 3 0	
		▽二塁打 野田▽1時間48分	

1回戦

呉市 (全呉)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
1 0 1 3 0 1 1 0 X | 7
大阪市 (太陽レーヨン)

【呉市】	打安	【大阪市】	打安
④ 野上	30	④ 布村	41
⑤ 野上	10	⑤ 谷山	31
⑥ 野上	20	⑥ 山田	41
⑦ 野上	20	⑦ 野川	41
⑧ 野上	21	⑧ 野川	41
⑨ 野上	40	⑨ 野川	40
⑩ 野上	30	⑩ 野川	30
⑪ 野上	30	⑪ 野川	32
⑫ 野上	32	⑫ 野川	40
⑬ 野上	31	⑬ 野川	337
	284	振球機盗失残併	4415070
振球機盗失残併		▽1時間56分	
12 5 1 1 6 6 0			

1回戦

太田市 (太田雄飛)
1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 | 3
1 0 0 0 0 0 0 0 0 1
名古屋市 (東邦瓦斯)

【太田市】	打安	【名古屋市】	打安
④ 福川	40	④ 鈴木	21
⑤ 川羽	30	⑤ 木部	21
⑥ 鳥羽	54	⑥ 松本	300
⑦ 栗原	43	⑦ 久間	400
⑧ 栗原	40	⑧ 横田	40
⑨ 加藤	40	⑨ 横田	300
⑩ 加藤	41	⑩ 横田	100
⑪ 加藤	20	⑪ 横田	200
⑫ 加藤	20	⑫ 横田	300
	328	⑬ 横田	200
振球機盗失残併		振球機盗失残併	262
1 7 4 2 0 1 3 0		6 3 3 0 2 4 0	
		▽二塁打 鈴木 岩本▽1時間54分	

1回戦

川崎市 (コムビア)
0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 1 | 3
京城市 (全京城)

【川崎市】	打安	【京城市】	打安
④ 富士	62	④ 中西	30
⑤ 西門	50	⑤ 島田	60
⑥ 寺納	52	⑥ 山田	50
⑦ 藤井	42	⑦ 山口	51
⑧ 藤井	20	⑧ 田口	51
H 7	20	⑨ 田口	51
⑩ 藤井	41	⑩ 田口	52
⑪ 藤井	00	⑪ 田口	40
⑫ 藤井	40	⑫ 田口	53
⑬ 藤井	40	⑬ 田口	438
⑭ 藤井	51	振球機盗失残併	26241141
	418	4 7 2 5 6 1 2 0	
振球機盗失残併		▽二塁打 高田 2 加納▽2時間35分	
4 7 2 5 6 1 2 0			

準々決勝

函館市 (太洋倶楽部)
0 0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3
1 2 0 0 1 0 0 1 X | 5
京都市 (藤倉電線)

【函館市】	打安	【京都市】	打安
④ 伊予	40	④ 恒川	21
⑤ 小川	41	⑤ 川井	300
⑥ 野野	30	⑥ 土谷	300
⑦ 野野	40	⑦ 谷塚	31
⑧ 野野	10	⑧ 荒吉	300
⑨ 山田	32	⑨ 松井	41
⑩ 山田	41	⑩ 松井	41
⑪ 山田	42	⑪ 松井	40
⑫ 山田	30	⑫ 松井	21
⑬ 山田	30	⑬ 松井	10
⑭ 山田	30	⑭ 松井	10
	336	振球機盗失残併	295
振球機盗失残併		3 1 0 0 1 0 1 0 1	
3 1 0 3 0 4 0		▽二塁打 相沢 犬塚▽1時間35分	
▽二塁打 相沢 犬塚▽1時間35分			

準々決勝

神戸市 (神戸全川崎)
0 0 1 0 0 5 0 0 2 0 | 8
4 0 0 0 0 1 0 0 3 1 | 9
八幡市 (八幡製鉄)

【神戸市】	打安	【八幡市】	打安
④ 野田	63	④ 阿部	50
⑤ 野田	52	⑤ 永大	41
⑥ 野田	61	⑥ 岡岡	40
⑦ 野田	31	⑦ 谷谷	42
⑧ 野田	52	⑧ 馬場	41
⑨ 野田	21	⑨ 馬場	40
⑩ 野田	51	⑩ 馬場	10
⑪ 野田	51	⑪ 馬場	41
⑫ 野田	31	⑫ 馬場	53
	4013	振球機盗失残併	358
振球機盗失残併		9 9 1 0 0 8 2	
3 7 1 0 3 1 0 3		▽本塁打 北沢 (大崎) 森谷 (門脇) 野田 永田	
▽本塁打 北沢 (大崎) 森谷 (門脇) 野田 永田		▽二塁打 森谷 野田	
▽二塁打 森谷 野田		▽2時間20分	
▽2時間20分			

準々決勝

大阪市 (太陽レーヨン)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 2 0 0 0 0 X | 2
庄内町 (庄内田村駒)

【大阪市】	打安	【庄内町】	打安
④ 布村	30	④ 浅井	31
⑤ 谷山	31	⑤ 大保	21
⑥ 山田	31	⑥ 藤石	21
⑦ 山田	40	⑦ 藤石	30
⑧ 山田	30	⑧ 藤石	31
⑨ 山田	30	⑨ 藤石	30
⑩ 山田	40	⑩ 藤石	30
⑪ 山田	31	⑪ 藤石	30
⑫ 山田	32	⑫ 藤石	41
R 末	00	⑬ 藤石	31
⑬ 末	40	振球機盗失残併	275
	305	5 8 0 0 1 9 0	
振球機盗失残併		0 4 2 4 1 8 1	
0 4 2 4 1 8 1		▽二塁打 大久保 河内▽1時間44分	
▽二塁打 大久保 河内▽1時間44分			

準々決勝

京城市 (全京城)
0 0 0 0 0 0 1 5 0 | 6
1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
太田市 (太田雄飛)

【京城市】	打安	【太田市】	打安
④ 中西	50	④ 福川	31
⑤ 山田	20	⑤ 川井	20
⑥ 山田	41	⑥ 鳥羽	30
⑦ 山田	30	⑦ 鳥羽	30
⑧ 山田	41	⑧ 鳥羽	30
⑨ 山田	32	⑨ 鳥羽	40
⑩ 山田	42	⑩ 鳥羽	30
⑪ 山田	30	⑪ 鳥羽	10
⑫ 山田	40	⑫ 鳥羽	10
	326	⑬ 鳥羽	10
振球機盗失残併		⑭ 鳥羽	31
6 5 2 6 4 6 1		⑮ 鳥羽	20
		振球機盗失残併	262
▽2時間15分		3 6 3 0 1 6 0	

準決勝

京城市 (藤倉電線)
0 0 0 1 4 0 0 0 0 0 | 5
2 0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 3
八幡市 (八幡製鉄)

【京城市】	打安	【八幡市】	打安
④ 恒川	40	④ 阿部	30
⑤ 川井	31	⑤ 田岡	42
⑥ 土谷	31	⑥ 岡谷	41
⑦ 土谷	20	⑦ 谷谷	20
⑧ 土谷	20	⑧ 馬場	40
⑨ 土谷	41	⑨ 馬場	30
⑩ 土谷	40	⑩ 馬場	40
⑪ 土谷	20	⑪ 馬場	40
⑫ 土谷	21	⑫ 馬場	31
⑬ 土谷	41	⑬ 馬場	40
	305	振球機盗失残併	314
振球機盗失残併		2 5 1 0 2 7 1	
4 6 2 0 4 6 1		▽本塁打 大岡 (吉田) ▽二塁打 井筒	
▽本塁打 大岡 (吉田) ▽二塁打 井筒		▽1時間54分	
▽1時間54分			

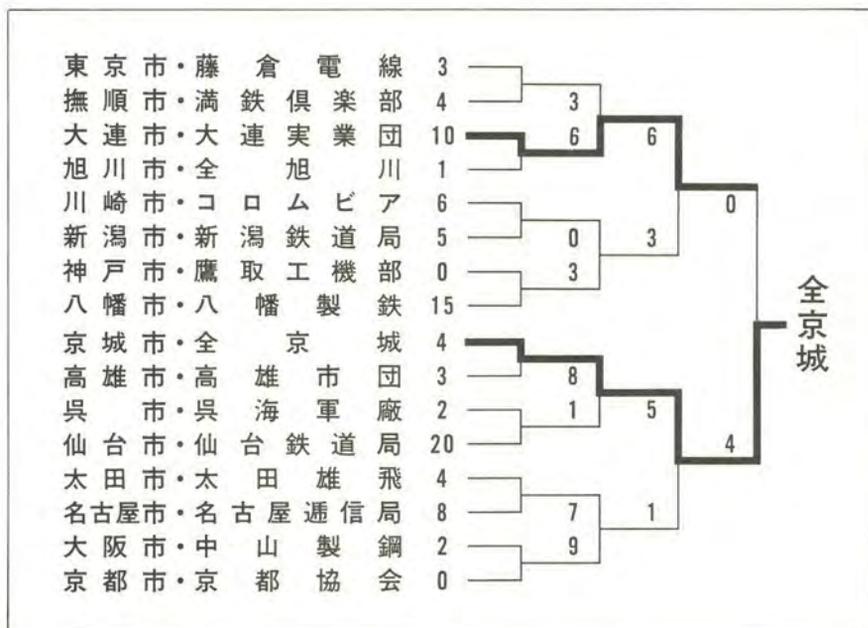
準決勝

庄内町 (庄内田村駒)
4 0 0 1 3 0 0 0 0 0 | 8
1 0 0 0 0 2 0 0 0 0 | 3
京城市 (全京城)

【庄内町】	打安	【京城市】	打安
④ 浅井	51	④ 中西	30
⑤ 井保	42	⑤ 島田	40
⑥ 井保	41	⑥ 山田	20
⑦ 井保	41	⑦ 山田	40
⑧ 井保	41	⑧ 山田	40
⑨ 井保	41	⑨ 山田	40
⑩ 井保	40	⑩ 山田	31
⑪ 井保	40	⑪ 山田	40
⑫ 井保	41	⑫ 山田	00
⑬ 井保	10	⑬ 山田	10
	328	⑭ 山田	30
振球機盗失残併		⑮ 山田	40
3 1 1 3 0 7 1 1 1		振球機盗失残併	321
		1 3 1 3 2 6 2	
▽2時間7分			

第14回大会 1940年(昭和15年)8月5日-8月12日・後樂園球場

優勝=京城市・全京城



点に立った。

大会は波乱で幕を開けた。3連覇も夢でないと評価されていた東京藤倉電線が第1戦で初出場の撫順満鉄倶楽部に敗退したのだ。東京には土井寿蔵(慶大出) 菊谷正一(立大出) 真野春美(明大出)の外野トリオを初め、恒川道順(明大出)らのベテランが揃っていたが、エース吉田正男投手(明大出)が入営したのが響いた。撫順は久留米商を卒業したばかりの19歳の川崎徳次投手が強気のピッチングで東京を抑え、すばらしいデビューを飾った。初日の第3試合で川崎コロムビアの4番打者・山崎健三中堅手が対新潟鉄道局戦の延長11回、大会初のサヨナラ本塁打を放った。左翼ボールを直撃した、当時としては珍しい本塁打だった。

全京城は1回戦の高雄市団に大苦戦を強いられた。エース野村清(武史、明大出)が1、2回に打たれて3点のリードを許した。高雄は清原初男投手(立大出) 桜井寅二捕手(慶大出)を中心によくまとまったチームだったが、京城は3回以降を野村がよく抑え、8回に長打で同点。最後は力尽きた清原から押し出しの四球を選び、サヨナラ勝ちした。これで勢を得て仙台鉄道局、大阪中山製鋼を軽く降して決勝に進出した。

東京を倒した撫順は準々決勝で大連実業団に破れた。若さあふれる川崎投手も終盤に疲れ、8回大連の近藤金光投手(早大出)に試合を決める三塁打を浴びてしまった。大連は準決勝で八幡製鉄と対戦した。万能選手の田部武雄(明大出)が先発としてマウンドに上がり、左腕の近藤を予想した八幡打線を狂わせ、5回まで1点に抑える一方、打っても1番の田部は1回いきなり左翼二塁打を浴びせて、大量4点の口火を切るなど大活躍した。予定通り6回からリリーフした近藤が2点を与えたものの、大岡虎雄三塁手を中心とする強打の八幡の反撃を断ち切り決勝に進んだ。

12年ぶり2度目の優勝を狙う大連実業団。全京城はエース野村が4連投にもかかわらず、大連打線をバントヒット1安打に抑え完封。3度目の正直で“涙の黒獅子旗”を手にした。野村投手は橋戸賞を受賞、殊勲賞は大連・近藤投手に贈られた。

大阪中山製鋼の市田投手(関学高商出)が初の無安打無得点試合を成しとげた。

全京城、悲願の初優勝

全京城が初優勝した。朝鮮のチームは、昭和2年の第1回大会に京城竜山鉄道局が出場して以来、第7回大会、第12回大会に決勝まで進出したものの、ともに東京の東京倶楽部、藤倉電線に抑えられた。雌伏14年、悲願の頂

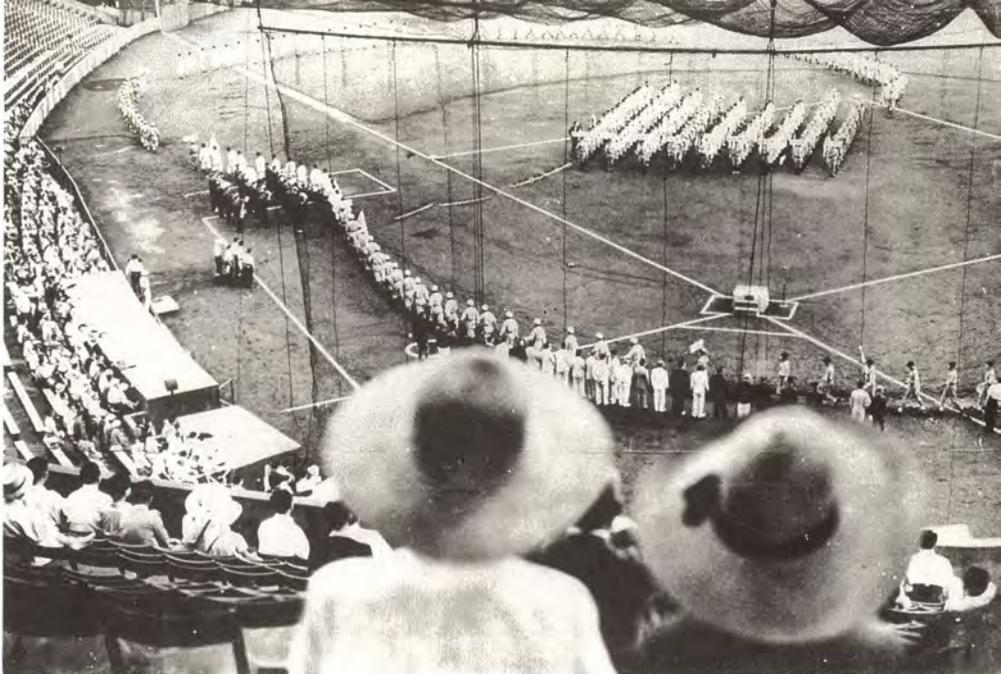


開会式で始球式を行う本社・高石真五郎主宰

大連市 (大連実業団)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京城市 (全京城)	0	0	0	0	1	0	3	0	X											4

【大連市】	打安点振球	【京城市】	打安点振球
① 9 田部	4 0 0 0 0 0	⑥ 6 増田	3 1 1 0 0 0
④ 4 井北	4 0 0 0 0 0	③ 3 村瀬	2 1 0 0 2
⑥ 6 上原	3 0 0 0 1	⑧ 8 川瀬	3 1 2 0 1
⑦ 7 北宮	4 0 0 0 0	⑦ 7 真田	3 0 1 1 0
⑨ 1 近藤	3 0 0 0 0	⑨ 9 呉	3 1 0 0 1
③ 3 浅野	2 0 0 0 1	⑤ 5 門村	4 1 0 2 0
⑤ 5 八松	3 0 0 0 0	② 2 三田	2 0 0 0 2
② 2 岡谷	3 0 0 0 1	④ 4 野村	3 0 0 0 1
⑧ 8 角谷	3 1 0 0 0	① 1 野村	4 2 0 0 0

犠併残盗失	291012		277437
01402		犠併残盗失	
投手回	打安振球責	20802	
田部 4 1/4	196121	投手回	打安振球責
近藤 3 3/4	171251	野村 9	311120
▽三塁打	川瀬▽1時間45分		



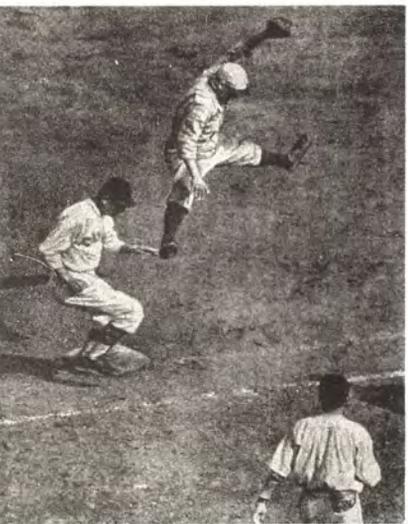
開会式で入場行進する各チームの選手たち

塁に、3番川瀬が右翼線に三塁打。さらに続く真田が投前スクイズを決めて3点を加え、試合を決定的なものとした。

4連投となった野村だが、少しも疲れを感じさせず、横手からすばらしい制球力で鋭い変化球をビシビシ決め大連打戦を抑えた。

大連は3回、先頭の松岡が徹失で出塁。9番の角谷が一塁線に送りバント。これが幸運な内野安打となって無死一・二塁と絶好の先制機をつくったが、トップの田部は送りバントを失敗して投飛。野村は懸命な投球で後続を断った。

野村が許したのはこの安打1本だけで、4回以降は、味方の失策による走者を1人出しただけ。完璧のピッチングで優勝の立役者となった。



川崎対八幡戦。川崎・鈴木が右前打で危くセーフ

野村 4 連投、大連を完封

全京城・野村投手が、強打の大連実業団をわずかに1安打で完封する快投をみせ、堂々の初優勝を果たした。

大連はエース近藤を温存、田部が先発した。京城打線は田部を攻め4回まで毎回安打を放ったが、要所を締める田部のピッチングに得点できなかった。しかし5回、京城は四球と野村の右前打で一死一・二塁とし、トップの



藤倉電線の右から恒川、真野、土井、犬塚、菊谷選手

増田が三塁線を鋭く破る適時打、待望の先取点をあげた。大連は近藤を繰り出したが、京城は7回、敵失と四球でつくれた一死一・二



全京城が初優勝を成しとげ、黒獅子旗を受け取る斉藤主将

M E M O

◇第1号サヨナラ本塁打 川崎市・川崎コムロピアの山崎健三中堅手が1回戦の対新潟市・新潟鉄道局戦の延長11回、土佐内投手から左翼ポールにぶつける本塁打を放ち記録した。

◇大会初のノーヒットノーラン 大阪中山製鋼・市田投手が1回戦の対京都協会戦で達成した。うちわけは内野ゴロ13、内野フライ5、外野フライ5、三振6、四球2、失策3、併殺1だった。

野村投手の快投が続き、1回戦の高雄市団から、仙台鉄道局、中山鐵鋼を倒し、決勝でも大連実業団を破って初優勝した全京城ナイン

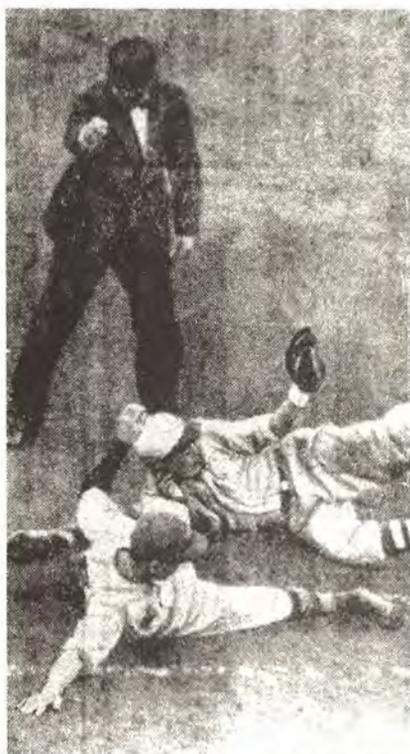


戦時下の黒獅子旗賛歌

中国大陸の戦火が拡大、戦時色が日本を包み込んだ。そのなかでの都市対抗野球大会。「聖戦下の都市対抗に寄す」と次のような歌が登場した。

烈日なんぞ聖戦下
銃後男子の意気揚る
飛べよ 熱球 砂塵の彼方
我に微笑め 黒獅子旗
(都市対抗 都市対抗
我らが都市の名誉をかけて
いざ戦わん 大野球戦)

奮戦なんぞ聖戦下
銃後男子の修練場
肝の太さよ 技の鋭さよ
誇れ我らが大精神



大阪対京城戦。3回京城・門村は一塁でタッチアウト



京城対高雄戦。3回京城の攻撃で三塁走者・増田は打者、真田のとき本盗を試みるが惜しくもアウト。捕手・桜井

サヨナラ！ポール直撃

新潟鉄道局と川崎コロムビアの1回戦は大接戦となった。新潟は8回佐々木の本塁打で逆転したが、川崎も9回山崎の三塁打で同点。

そして11回、9回に同点打を放った山崎が先頭打者として打席に入り、左翼ポールにたたきつける大会第1号サヨナラ本塁打を放って熱戦に終止符をうった。

藤倉まさかの初戦敗退

史上初の3連覇を目指した東京の藤倉電線だったが、開会式直後の第1日第1試合で初出場の撫順満鉄倶楽部に破れ去った。

東京は前回4完投で優勝の原動力となり、橋戸賞に輝いた吉田投手が兵役で入営、投手力に不安はあったが、都市対抗の“常連”選手が顔を並べ、戦力的には候補の一角といわれていた。その東京を相手に力投したのがルーキー・川崎投手。

立ちあがり3点を失った東京は3回、土井の適時打で2点。撫順が4回1点を加えたが、東京は5回恒川の安打などで再び1点差と追いつがったものの、川崎はピンチに内角球をつまらせて、2度の併殺で切り抜けるなど、最後まで速球勝負の強気のピッチングで東京を振り切り、あざやかなデビューを飾った。翌日の新聞は石炭の産地にちなみ「黒ダイヤの凱歌」と川崎をたたえた。

1回戦

撫順市 (満鉄倶楽部)	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
東京市 (藤倉電線)	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

【撫順市】	石	井	打安	【東京市】	恒	川	打安
④	前	山	30	④	土	井	52
⑥	桐	山	30	⑦	菊	谷	41
⑦	倉	林	41	⑧	犬	塚	41
⑤	北	本	30	③	松	井	41
⑧	川	井	41	⑤	大	川	30
①	井	崎	41	⑥	松	岡	41
③	井	下	31	①	安	岡	40
7	小	坂	10	②	皆	本	31
②	伊	藤	41	H	東	野	10
⑨	森	下	41	⑨	真	本	30
			336				357

振球機盗失残併 132 0 1 4 4 2
振球機盗失残併 0 1 1 3 1 7 0
▽二塁打 犬塚▽1時間20分

1回戦

旭川市 (全旭川)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
大連市 (大連実業団)	2	0	4	0	0	1	0	3	×	10	

【旭川市】	西	村	打安	【大連市】	田	部	打安
⑥	広	川	41	④	角	谷	53
③	護	野	40	⑧	北	原	31
④	摩	川	40	⑥	浅	藤	53
①	高	野	30	③	宮	原	41
②	結	城	41	⑦	近	沢	42
⑦	木	保	31	⑨	岩	藤	54
⑤	宮	津	30	②	松	岡	50
H	佐	木	10	①	井	上	20
⑨	後	行	10	⑤			41
9	上	藤	11				3715
H	大	野	10				振球機盗失残併
⑧	進	沢	10				4427391
		藤	30				▽三塁打 浅原
			324				▽1時間42分

振球機盗失残併 3 4 0 1 3 8 0
振球機盗失残併 4 4 2 7 3 9 1

1回戦

新潟市(新潟鉄道局) 3 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 5
2 0 0 0 0 1 1 0 1 0 1 | 6
川崎市(コロムビア)

【新潟市】 打安 【川崎市】 打安
7 浜 名 6 1
4 小 林 6 0
3 鈴 木 2 0
2 島 岡 6 3
1 土 佐 5 2
0 本 間 5 1
9 佐 々 木 4 1
6 平 木 5 0
5 日 下 3 1
9 真 壁 1 0
439 振球機盗失残併 3710

▽本塁打 佐々木(日暮) 山崎(土佐内)
▽三塁打 山崎▽二塁打 日下部
▽2時間20分

1回戦

八幡市(八幡製鉄) 1 2 1 5 1 0 0 0 5 | 15
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
神戸市(鷹取工機部)

【八幡市】 打安 【神戸市】 打安
4 於 久 4 2
9 留 4 1
2 新 阿 5 2
5 岡 5 4
3 小 阿 3 0
6 大 小 馬 酒 3 2
7 酒 井 木 2 0
1 鈴 木 2 0
8 大 増 6 2
3914 振球機盗失残併 354

▽本塁打 馬場(斎藤)▽三塁打 新留
▽二塁打 大岡▽三重殺 神1
▽1時間38分

1回戦

高雄市(高雄市団) 1 2 0 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 1 0 2 1 | 4
京城市(全京城)

【高雄市】 打安 【京城市】 打安
6 吉 見 4 1
2 桜 井 3 0
1 清 原 4 0
3 友 江 4 1
8 松 野 4 0
5 李 4 0
4 野 3 0
9 丸 田 3 1
8 内 江 3 1
324 振球機盗失残併 348

▽二塁打 真田2 吳▽2時間5分

1回戦

呉市(呉海軍廠) 0 0 0 1 1 0 0 0 0 | 2
4 0 2 0 2 4 1 7 × | 20
仙台市(仙台鉄道局)

【呉市】 打安 【仙台市】 打安
6 小 松 3 1
8 上 野 4 1
7 末 田 2 0
3 東 3 1
4 上 田 1 0
4 中 岡 0 0
9 細 工 4 1
5 部 3 0
H 宮 1 0
5 菅 1 0
1 森 川 1 0
9 金子 3 1
265 振球機盗失残併 4012

▽三塁打 富田 竹花 伊吹 平山
▽二塁打 米川 平山 金子▽1時間52分

1回戦

名古屋市(名古屋通信局) 5 0 0 0 0 2 0 0 1 | 8
0 0 2 0 0 0 2 0 0 | 4
太田市(太田雄飛)

【名古屋市】 打安 【太田市】 打安
6 山 小 5 1
4 田 山 4 0
8 郷 沢 4 2
3 前 沢 4 3
9 近 藤 4 1
7 早 水 4 0
5 杉 野 4 1
2 杉 山 4 0
1 杉 林 1 0
H 小 遠 1 0
1 鈴 木 2 1
379 振球機盗失残併 336

▽本塁打 近藤(金井)▽二塁打 杉山
加藤▽1時間53分

1回戦

大阪市(中山製鋼) 0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
京都市(京都協会)

【大阪市】 打安 【京都市】 打安
7 渡 辺 1 0
7 本 米 0 0
4 藤 本 2 0
9 藤 井 3 0
3 筒 井 1 1
8 筒 中 3 0
2 志 大 4 1
1 大 市 4 0
6 角 田 3 0
5 千 吉 4 1
253 振球機盗失残併 270

▽1時間29分

準々決勝

撫順市(満鉄倶楽部) 0 0 0 0 3 0 0 0 0 | 3
1 0 0 1 0 1 0 3 × | 6
大連市(大連実業団)

【撫順市】 打安 【大連市】 打安
4 石 井 3 0
6 前 山 3 0
3 桐 林 4 1
5 倉 本 2 0
8 倉 本 2 1
9 倉 本 2 1
1 倉 本 3 0
7 伊 藤 4 1
293 振球機盗失残併 265

▽三塁打 近藤▽1時間53分

準々決勝

川崎市(コロムビア) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 2 0 0 × | 3
八幡市(八幡製鉄)

【川崎市】 打安 【八幡市】 打安
4 吉 相 3 0
6 田 1 0
8 富 永 4 0
9 寺 門 3 0
8 山 崎 3 0
3 山 崎 3 0
7 藤 本 2 0
7 藤 本 1 0
1 藤 本 3 1
2 藤 本 3 1
5 藤 本 2 0
H 藤 本 1 0
291 振球機盗失残併 308

▽二塁打 馬場▽1時間43分

準々決勝

仙台市(仙台鉄道局) 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
1 1 1 0 2 0 0 3 × | 8
京城市(全京城)

【仙台市】 打安 【京城市】 打安
7 藤 4 1
8 吹 4 0
4 野 4 1
1 花 4 0
3 田 3 0
H 田 1 0
5 川 2 0
9 山 3 0
2 山 3 0
6 坂 3 0
312 振球機盗失残併 297

▽二塁打 川瀬▽1時間40分

準々決勝

名古屋市(名古屋通信局) 0 4 0 0 0 0 0 0 3 | 7
0 0 3 0 0 0 4 2 × | 9
大阪市(中山製鋼)

【名古屋市】 打安 【大阪市】 打安
6 田 2 1
6 小 橋 1 0
4 高 橋 3 0
3 本 藤 4 2
6 近 藤 4 0
9 早 水 5 2
7 早 水 3 1
5 青 木 1 0
2 杉 山 3 1
1 杉 林 1 1
1 小 鈴 3 0
339 振球機盗失残併 278

▽二塁打 小山田 早川 千力▽2時間16分

準決勝

八幡市(八幡製鉄) 0 1 0 0 0 1 1 0 0 | 3
4 0 0 0 2 0 0 0 × | 6
大連市(大連実業団)

【八幡市】 打安 【大連市】 打安
4 於 久 3 1
9 留 3 1
2 新 阿 3 1
5 岡 3 0
3 小 阿 4 0
6 大 小 馬 酒 3 1
7 酒 井 1 0
1 鈴 木 2 0
8 大 増 4 1
305 振球機盗失残併 3210

▽三塁打 馬場▽二塁打 田部 近藤 八百野
▽2時間5分

準決勝

大阪市(中山製鋼) 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
1 2 0 2 0 0 0 0 × | 5
京城市(全京城)

【大阪市】 打安 【京城市】 打安
7 渡 辺 4 1
4 藤 井 4 0
9 藤 井 3 0
R 藤 井 0 0
3 筒 中 4 0
2 志 大 2 0
5 角 田 3 0
6 千 吉 3 1
1 大 市 3 1
8 角 田 3 0
293 振球機盗失残併 3512

▽二塁打 三村 2▽1時間37分

第15回大会 1941年(昭和16年)

無念ついに本大会中止

中国大陸の戦火は増々拡大され世界的に緊張感が高まるなか、記念大会として、これまでの最高の17チームを集めて行われることになった。

各地の予選が行われ、7月20日、太田で行われた関東予選を最後に17代表が決まった。ところがこの直後、集会禁止令が発令となり、中止決定。“幻の大会”となった。この年の12月8日太平洋戦争が始まった。

第2次世界大戦による中断(昭和18年-20年)はあったが、予選が行われたあと、大会が中止されたのは、第60回大会まで、これが唯一のものだった。決定した代表は次の17チームだった。

第15回大会幻の代表

北海道樺太	函館大洋倶楽部
東北	仙台鉄道局
関東	太田雄飛
東京	藤倉電線
横浜甲神静	全古河
信越	日東紡
東海	東邦瓦斯
大阪	中山製鋼
近畿	日鉄広畑
神戸	神戸税関
中四国	呉建築
九州	八幡製鉄
台湾	台南州団
朝鮮	全京城
大連	大連実業団
満州	新京電電
中北支	上海華中鉄道

都市対抗の一層の盛況を

四国連盟会長 稲原幸雄



都市対抗野球大会が発足した、昭和年代のはじめは、東京倶楽部、全大阪、全神戸、大連満州倶楽部など、クラブチームがほとんどで、当時はプロ野球もまだなく、都市対抗野球は、アマチュア球界の最高峰だった。私も全神戸、全横浜の1選手として大会に出場した思い出がある。

大会の人気は高く、入場料は50銭と、当時の物価指数で考えると相当なものだったが、いまと違って野球ファンの方々は、みんなマイポケット・マネーで50銭を支払って入場、神宮球場は人波でうずまり、満員になる盛況を呈していた。

現在の都市対抗出場チームは、ほとんど企業のチームとなったが、これは終戦を境として企業チーム全盛の時代を迎えたわけである。

クラブチーム全盛のころの都市対抗野球にはローカリテイがあり、現代の様相とはいささか趣きを異にしていたよ

うである。

第30回の記念大会に丸善石油が優勝してはじめて四国の地に黒獅子旗を持ち帰ったとき四国中の野球ファンが随喜の涙を流したものだ。あの年はベギー葉山さんの「南国土佐」の歌が大流行したし、夏の甲子園大会では四国の西条高が優勝と四国ブームにわたったのも忘れられない。

東京ドームの出現で多くのファンを集め、大会が一段と盛大になったことは、誠に喜ばしいことである。日本球界で社会人野球の存在は相当なものであり、1992年のオリンピックから、野球が正式種目として登場することになった。わか社会人野球は更に社会の注目を集めることは必至であり、日本野球連盟の責任も大なるものがある。

都市対抗60年の歴史には、名選手の活躍、名勝負が数多くありました。第60回記念大会を契機として一層の大会の盛況を祈ってやまない。

悲喜交々の都市対抗

東海北陸連盟理事長 服部 力



社会人野球に私が選手登録されたのは、昭和23年函館太洋倶楽部からであった。然しこの年常勝太洋倶楽部は、都市対抗予選で小樽協会に敗れ本大会に出場出来なかった。従って大会への初出場は翌24年第20回大会である。以来40年、一時期大学の監督などの期間社会人野球から離れたが、選手として6回、監督として3回、後楽園球場で戦う機会に恵まれた。その後協会、連盟の理事として20余年、現在も東海北陸連盟にあって、強力な代表チームを大会に送り都市対抗の発展を願っております。現役時代大した成績も残していませんが、思い出の多いドラマの中でのプレーを2、3拾ってみますと

なんといっても憧れの後楽園への胸をおどらさせての初出場です。試合では対日本生命戦3回から救援登板。シーソーゲームの乱戦、延長14回同点から1点リード。逃げ込みに入ったその裏勝利を焦り、痛恨の一投。ピンチヒッター、ベテランの小林政嗣さんに二塁打され、逆転サヨナラを喫したあの場面が今でも忘れられません。でも打者としては6回に右翼本塁打(大会83号)を放ったのもよい思い出となっております。昭和27年郷里の三重交通に移ったのですが、野球部創設3年目。都市対抗目指しての3年計画の丁度の年に目標が達成されて第23回大会初出場。しかも黄獅子旗獲得の3位に輝やいた。この予想だにできなかった好成績は“マスコット野球部”の存在を高め、社をあげて

大いに歓喜したものでした。24回大会は岐阜・川島紡績に補強されての出場。対熊谷組戦7回からの救援は延長19回力尽きサヨナラ負けは無念でした。

翌25回記念大会は三重交通2度目の代表となり、緒戦は前年度優勝の対戦大昭和製紙とのオープニングゲームでの対戦。勿論自他共に認める優勝候補の筆頭吉原・大昭和。後楽園球場は立錐の余地ない超満員。こんな中での登板こそ投手冥利につきると力投、大会随一を誇る大型強打線を相手に変化球を駆使して5安打1点に喰止め、5対1の完投勝利は殊の外、嬉しさもひと汐であった。然し準々決勝戦での対川崎トキコ戦、トキコが繰出した3人のピンチ・ヒッターにいずれも本塁打され、代打3本塁打の奇妙な記録をつくられ、後味の悪い経験をもった悲喜交々の記念大会であった。26回大会は東洋紡富田、27回大会は再び岐阜・川島紡績から補強選手として出場、特に27回大会では藤田元司(現巨人監督)投手の日本石油と対戦。8回ピンチに救援登板、不覚にも低投ワイルドピッチで均衡を破る1点を与え敗退したのですがこれが現役最後の試合であっただけに、この敗戦は一層残念至極であった。

現役時代都市対抗大会に度々出場する機会に恵まれ、暴れん坊としての選手生活、青春を燃え盡くした私には都市対抗野球は憧れでもあったし、大きな意義をもった人生の華でもあると思えます。

決勝

京城市 (全京城)

7 0 0 0 3 0 2 0 0 | 12
0 3 0 0 0 0 0 3 0 | 6

大阪市 (大同製鋼)

【京城市】		打安点振球	【大阪市】		打安点振球
⑨	有津	3 1 1 0 2	⑦	尾藤	4 1 1 0 1
④	西田	6 2 1 0 0	⑥	伊藤	5 3 1 1 0
⑤	木原	6 2 0 2 0	⑤	松本	4 0 1 0 1
②	早川	2 1 1 0 2	③	鈴木	4 0 0 0 1
②	早川	1 0 0 0 0	①	⑨ 1 3	4 0 0 1 1
⑥	平山	4 1 2 0 2	②	②	3 0 0 1 1
①	③ 山中	4 1 2 0 1	⑧	⑧ 1 8	2 0 0 0 2
⑤	山中	1 1 0 0 0	⑨	⑨ 8 9	1 0 0 0 2
⑦	金村	6 1 1 0 0	⑨	⑨	1 1 1 0 0
⑧	重村	4 1 1 1 1	④	④	2 1 2 0 2
③	山本	1 0 0 0 0			30 6 6 3 11
①	八島	3 2 1 0 1			
		4 1 1 3 10 3 9			

犠併残盗失
2 1 1 3 7 0

▽二塁打 有津▽2時間

猛打の京城13安打12点

大阪の先発の鈴木は初の決勝とあって固くなり、そこを京城が突いた。1回有津が四球で歩き、西田が安打すると、すかさず重盗を決めて無死二・三塁。動揺した鈴木は早川にも四球を与えたあと、自信を持って投げ込んだ外角球を平山、山中に右前に快打され降板。代った加治屋をも京城は攻め、敵失もあって一挙に7点を奪った。

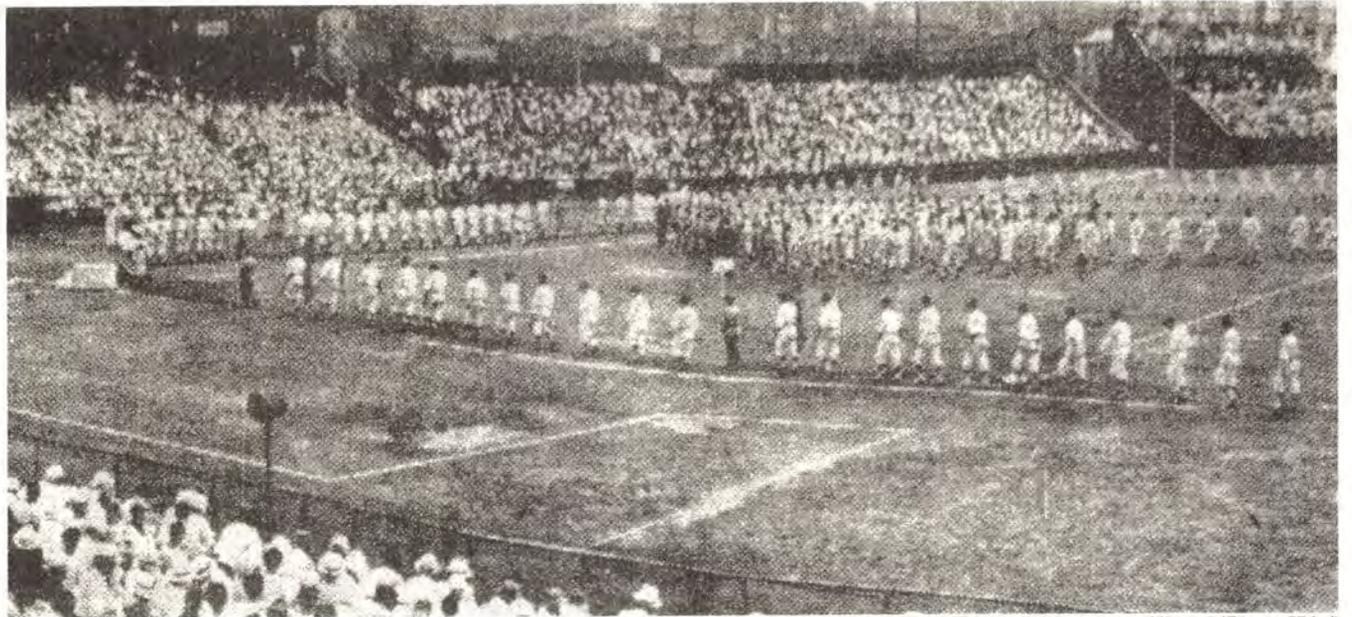
大阪も2回3点を返したが、京城は5回にも四球の重村が盗塁、下手投げの加治屋の球質にすっかり慣れた八島、有津が連安打、さらに木原も快打して3点を加え、再び7点差として試合を決めた。

大阪は11四球を得て、塁上をにぎわせながら、大事なところでひと押しができず、8回やっと深尾、伊藤らの好打で3点を返したものの、試合の大勢には及ばなかった。

決勝を含め、全試合を山中、八島の継投でしのいだ京城だったが、看板の打戦はさすがで、大阪3投手に13安打を浴せ12点。猛打の名をほしいままにした試合だった。



太田対大連戦。6回太田は加藤が安打、安田が二塁からホームを突いたが憤死。捕手・松元



全国からの代表16チームが堂々と入場しての開会式

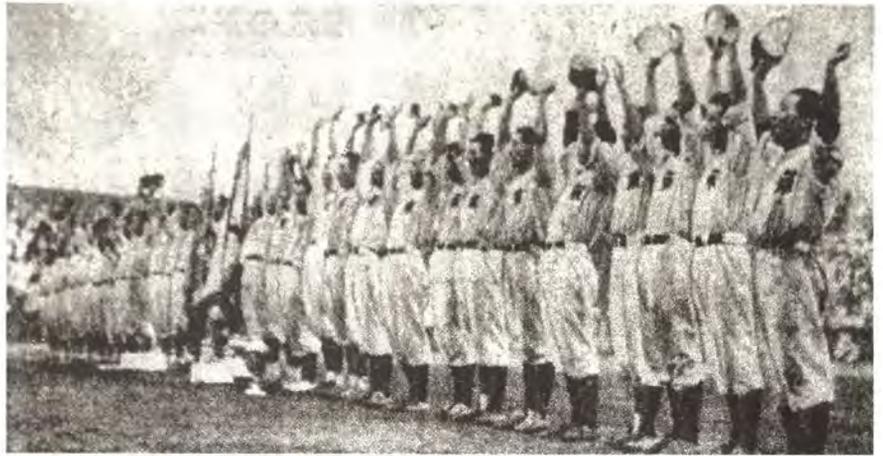
特別席は1円50銭

入場料は、7日間の通し券は前売りで9円10銭。当日売りは特別席1円50銭、内野席80銭、外野券40銭だった。

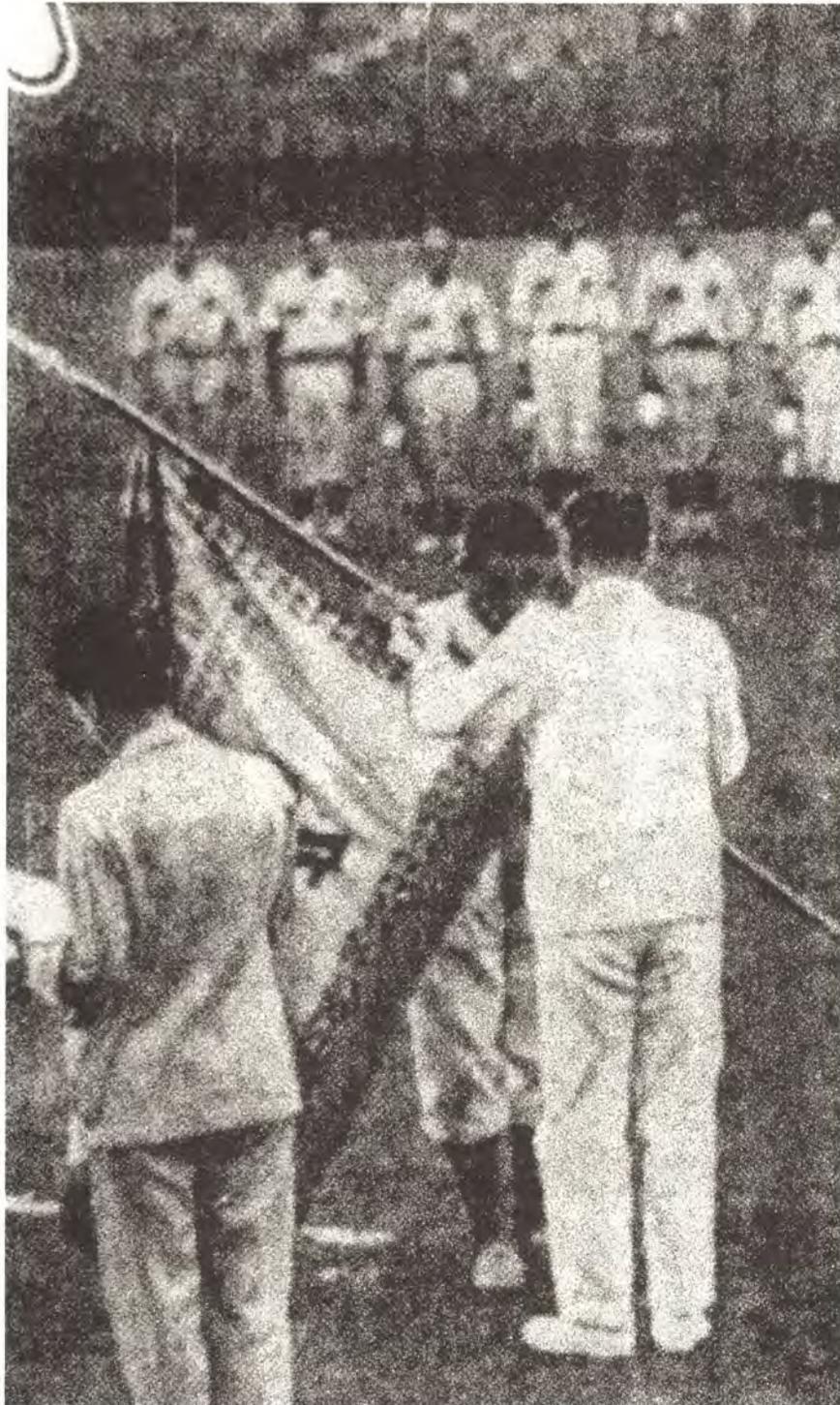
体鍛えろ…観客体操

戦時下の大会とあって、スタンドで観戦するファンも「体を鍛えろ」とばかり、試合と試合との間を利用して「スタンド体操」が行われた。

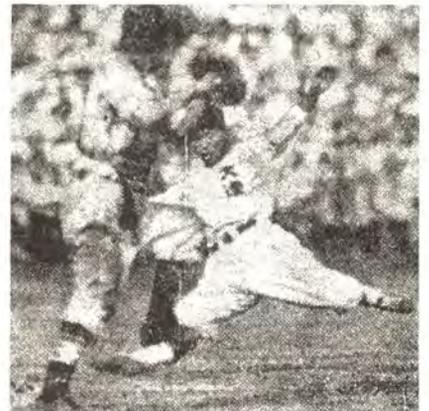
ラジオ体操でなじみの深い江木さんがホームプレートに立ち「体操始め」の号令で、超満員のファンもこれに和したという。



2年ぶり優勝を果たし、黒獅子旗を手にした全京城ナインは、グラウンドに並んだままバンザイして喜んだ



黒獅子旗を受ける全京城・中川主将



大連対新規戦。大連は5回敗失で山下二塁から生還

1回戦

奉天市 (奉天満鉄倶楽部)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
京城市 (全京城)	2 0 0 1 4 1 0 0 X	8

【奉天市】	打安	【京城市】	打安
⑨ 西	尾井 31	⑨ 有	津田 30
⑥ 今	井島 40	④ 西	山田 20
① 寺	島島 42	⑧ 秋	山川 10
③ 小	島木 31	② 早	木原 40
② 鈴	木谷 31	⑤ 山	川原 31
⑤ 西	谷田 31	⑥ 平	山中 31
⑧ 浅	田木 30	① 山	山本 32
④ 荒	木浦 31	③ 八	島本 10
⑦ 松	浦松 30	⑦ 山	山本 40
	297	② 金	20

振球犠盗失残併 3300451 振球犠盗失残併 264
1933261

▽三塁打 山中2▽二塁打 木原▽1時間32分

1回戦

東京市 (東京鉄道局)	0 0 2 0 0 0 5 4 0	11
姫路市 (日鉄広畑)	0 0 0 0 2 0 0 3 0	5

【東京市】	打安	【広畑市】	打安
⑥ 朝	井坂 41	⑧ 住	野川 42
④ 水	坂沢 52	⑦ 東	川井 30
4 内	沢内 00	④ 14	高井 30
⑤ 沼	尾本 20	① 41	永尾 51
⑨ 榎	本本 61	③ 福	川田 40
③ 飯	田野 52	⑨ 福	山川 20
⑦ 星	野野 10	9 川	山田 10
② 深	沢谷 41	⑤ 2	竹田 30
① 古	谷谷 20	② 5	高田 30
1 南	木 10	⑥ 高	寸田 30
⑧ 鈴	伊木 00		313
8 伊	藤木 10		振球犠盗失残併
	317		312314143

振球犠盗失残併 316132101
▽三塁打 朝井 住野▽2時間15分

都市対抗のヒーロー

松尾俊治



60回の球史を誇る夏の都市対抗。その間球史と伝統にふさわしい数々の名勝負、白熱戦がくりひろげられた。そして数多くの名投手、強打者が生まれた。

黒獅子旗をめざして若き血を燃やしたこれらのヒーローたちから夢のベストナインを選んでみた。独断と偏見で戦前チームと戦後チームを

〔戦前〕

初期の都市対抗をわかせた“大投手ビッグ3”は谷口五郎、浜崎眞二、渡辺大陸だ。谷口は第2回大会の優勝投手。決勝である東京倶楽部を左腕からの速球でねじ伏せた。谷口は昭和8年にも大活躍、準決勝で強豪東京倶を苦しめたものの延長戦で涙をのんだ。

浜崎は第3回大会に投手兼左翼手、5番打者で優勝のヒーロー。第6回にもエース、3番で大奮闘して決勝へ進出、全神戸を2安打に抑えながらスクイズで惜敗。第8回にもこの大連の至宝は快投、準決勝の全大阪、伊達正男との一騎打ちは球趣をわかせた。

豪球投手として鳴らした渡辺は第3回から6年連続出場し、都市対抗の名物男となった。第3回は全京城の4番、投手、東京倶には9回裏に球史に残る大逆転劇の立役者。第4回から台北交通団のエース。第5回の準決勝、東京倶・宮武三郎との対決はファンをうならせた。

投手では第1回から第10回まで、兵役に服した第3回を除いて連続出場した名古屋鉄道局の武田可一、全大阪優勝の立役者伊達正男、全藤倉の土井寿蔵らも候補に入るが、やはり前記ビッグ3の方が上。なかでも渡辺は打でも一流、大会通算、53打数、19安打の0.358と攻撃面での活躍を加えてNo.1としたい。

捕手は「神宮時代」人気抜群だった久慈次郎に決定。第2回から9回出場。早大時代から捕手の神様といわれて、函館太洋の4番を打ち、都市対抗の通算打率も0.355と高い。昭和14年8月19日、札幌での試合中、の送球をコマカミに受けて倒れ、永眠した。42才。この久慈の功績と敢闘精神をたたえて、22年から“久慈賞”が設けられている。

一塁手は“不世出の大打者”といわれた宮武三郎に誰も異論はあるまい。昭和6年から都市対抗で猛打をふるい、第5、7、9、回の優勝に貢献した。中堅スタンド入りのホームランは木製バット時代の“都市対抗3大ホームラン”の1本といわれた。本大会の成績は46打数、20安打で4割3分5厘。この打率は通算としては最高のものだ。

戦前、“都市対抗のホームラン王”といわれた八幡製鉄の大岡虎雄は昭和3年から戦後の23年まで“都市対抗の鬼”として活躍、とくに長打力はすさまじく、5本のホームランを打って永く通算最多の記録保持者だった。広い神宮球場時代だけに価値がある。通算も打数101、安打36、0.356の高打率。三塁手で選びたい。

二塁手は9年の全大阪優勝の推進力となった牧野直隆が最有力。現在の高校野球連盟会長だ。この年は16打数、8安打で毎試合快打、とくに決勝の東京戦は同点打、決勝打とひとりで東京を制したようなもの。その後も大阪の主力としてキビキビとした攻守をみせた。また鐘紡の黄金時代を築きあげ“V3”した功績も大きく買って選びたい。

遊撃手は八幡製鉄の名手、加藤巳佐久だ。第6回から連続出場、第8回では全大阪と優勝を争い、延長戦で三原脩（元巨人監督）の一打に敗れたが、準優勝チームながら最優秀選手に選ばれた。いかに攻守にわたって働いたかがわかる。八幡の12年、29年の2度優勝の監督としても手腕を買われる。

外野手は戦前“打撃王”といわれた東京倶楽部の片田宣道、永井武雄の2人は文句なし。片田は第3回から9年連続出場して実に100打数。しかも40安打を放っている。9年間で4度も優勝のヒーロー。永井は片田とともに東京倶のクリーンアップを打ち、8年間で3割をマークした。あと1人は東京倶—全藤倉の土井。13年に橋戸賞をとり、投げないときは右翼手としてしぶとい好打で2連勝の立役者となったからだ。

〔戦後〕

戦後の投手陣の候補を古い順に拾いあげるとまず“火の玉投手”といわれた荒巻淳（星野組）、日石初優勝のヒー

ロー藤田元司（巨人監督）、熊谷組の快腕・島津四郎、社会人のプリンスといわれた日石・平松政次（元大洋）。最近ではパームボールの増岡義教（三菱神戸）、東芝の左腕・黒紙義弘ら。いずれも“橋戸賞”に輝く好投手ばかり。増岡、黒紙の決勝戦での完ぺきなピッチングは忘れられないし、島津の妙投も捨て難い。また荒巻の左腕からの快速球もすばらしかった。藤田も力強い速球を武器に淡々と投げる歯切れのよさは「まさに快刀乱麻を絶つ」の形容がぴったりだった。

このなかから選ぶのは難しいが、デビューが華々しかった平松の印象が一番強烈である。37回大会の初陣では20イニング無失点で早くも“平松旋風”をまき起こし、ベスト4へ。“逆転3ラン”で熊谷組に涙をのむ。

翌38回では5試合に登板、八幡製鉄から、16三振を奪ったのをはじめ毎ゲーム好投して日石5回目優勝の原動力となる。42イニング投げて無四球というコントロールのよさだった。18才で“小野賞”に輝き、19才で“橋戸賞”を受賞したのだ。

捕手は最近では大昭和北海道の村上忠則（日産自動車監督）、日本生命の佐竹政和、少し前のNTT関東佐藤文夫の活躍も忘れられないが30年台に働いた日本鋼管・宮原実、全鐘紡・種田吉富が双璧だ。

種田は28年に鐘紡に入り、すぐ5番を打ち久慈賞に輝く。30年には4度目の優勝の原動力となった。宮原は早大を出たばかりで、鋼管のプレーイングマネージャーとして縦横無尽の活躍をみせた。27年から8年連続出場、その間日石の補強選手として2度優勝に貢献している。

一塁手は“戦後の都市対抗ホームラン王”といわれた大昭和北海道・高梨英夫とヤマハの武居邦生、東芝の武智勇治、プリンスホテルの中島輝士（日本ハム）らの争いだ。このうち中島は全日本の4番としての強打ぶりはきわ立っているものの都市対抗では優勝経験がないため、前記3人とくらべるとポイントが少ない。武智の元気いっぱいの一塁手ぶりも捨て難いが、ここは両スラッガーにしばらくいたい。高梨は9本、武居は11年のアーチを放ち、武居は最多本塁打の記録保持者。優勝も1回経験している。高梨は36年に大昭和の本社チームでユニホームを着てから24年間の選手生活。都市対抗9本、日本選手権5本を含めて生涯本塁打数113本。49年の優勝、50年準優勝という快挙の主役を演じたバットマンだ。

二塁手には“都市対抗男”熊谷組の古田昌幸で異存はあるまい。戦後の“打撃王”枝松道輝（日本石油）、大昭和の闘将・山縣將泰や親子二代“橋戸賞”に輝く宮崎剛（東芝）の好守好打も捨て難いが、古田には及ばない。

古田は本大会に16回出場、都市対抗に生き抜いた。軽妙な守備としぶといバッティングで暴れ回る。とくに41年は

準決勝で逆転の3ランなど“鬼神”の如き働きをみせた。

枝松は8年連続出場、その間優勝が3回、2度打撃賞に輝き、打数114、安打48、打点24、打率4割2分1厘というすばらしい成績だ。勝負強い健棒ぶりはこのベストナインからははずせないで、とくにDHとして残したい。

遊撃手は全鐘紡に補強されて2度橋戸賞に輝く松井実（日本生命）、名手といわれた藤倉の大館盈六、“近畿の用心棒”宮地昭雄（住友金属）それに軽快な好守を誇った熊谷組の森貞周治らが候補。宮地は連続13回出場自チームで出場したのは4回だけであとは補強選手というのは珍しい。それだけ実力派。森貞も9年連続出場で3割をマークしている。だが大館、松井の活躍度の方が上。松井は10回出場し、打数86、安打28の0.326。リリーフ投手としてしばしば見事な火消し役を果たす。その器用さを買って三塁手に回したい。

大館は第18回から連続出場。全藤倉の攻守の中心で第19、20回はベスト4、21回は熊谷組に補強されて準優勝、25回には監督、4番遊撃手として決勝へ進出、“久慈賞”に輝いた。本大会の成績は90打数、27安打、丁度3割。

三塁手は日本鋼管の樋野和寿も忘れられないし、日石初優勝当時の田中徹雄もいたが“橋戸賞”松井に譲る。

外野手は全鐘紡3連勝の主軸となった岩中英和と山村博敏。岩中は第21回から8回連続出場、その間優勝4回、準優勝1回、準々進出3回の足跡。山村はチャンスに強く、長打力があり、通算打率は鐘紡でトップの0.324。それに熊谷組の至宝大沢貞義は絶対にはずせない。監督兼4番で巧妙なりリーフを見せるなど人気者であった。第27回に“久慈賞”、第31回に“小野賞”に輝く“都市対抗男”だ。

最近では日本鋼管の前川善裕を加えねばなるまい。50年から11年連続出場し、優勝1回、準優勝3回（東芝に補強で1回）、とくに59年は“久慈賞”に輝いた。通算成績が124打数、45安打の3割6分3厘の高打率。ホームランも9本打っている。

〔戦前チーム〕

投手 渡辺大陸（台北交通団）
 捕手 久慈次郎（函館大洋）
 一塁手 宮武三郎（東京倶楽部）
 二塁手 牧野直隆（全大阪）
 三塁手 大岡虎雄（八幡製鉄）
 遊撃手 加藤巳佐久（八幡製鉄）
 外野手 片田宣道（東京倶楽部）
 永井武雄（東京倶楽部）
 土井寿藏（藤倉電線）

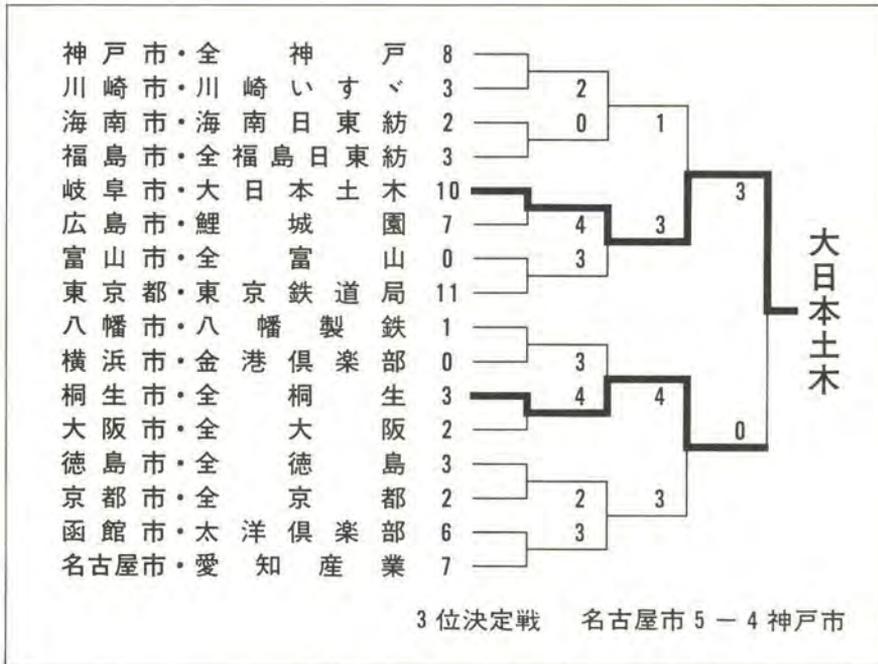
〔戦後チーム〕

投手 平松政次（日本石油）
 捕手 宮原実（日本鋼管）
 一塁手 高梨英夫（大昭和北海道）
 二塁手 古田昌幸（熊谷組）
 三塁手 松井実（日本生命）
 遊撃手 大館盈六（全藤倉）
 外野手 岩中英和（全鐘紡）
 大沢貞義（熊谷組）
 前川善裕（日本鋼管）
 D、H 枝松道輝（日本石油）

（元毎日新聞社運動部記者）

第17回大会

1946年(昭和21年)8月3日-8月9日・後樂園球場
優勝=岐阜市・大日本土木



た。原爆投下の広島で、いち早くチームをつくったが、戦前の「職業野球」で活躍した選手がズラリと並んでいた。広島は1回に3点をあげ、4回にも追加点。しかし岐阜もじつくり広島の岩本信一投手を攻め、8回に追いつき延長戦。10回岐阜が2点を奪うと、広島も2点を返し、スタンドを熱狂させた。そして11回、岐阜は下位打線の活躍で3点をあげ逆転勝ち。5番以下の国枝利通三塁手、中原投手、坪井皎捕手、畑中(豊田)時雄一塁手、伊藤利夫右翼手で14安打を放つ見事な「下位打線」だった。続く東京都の東京鉄道局戦も下位打線が飯田徳治、古谷法夫投手を打ち込み、神戸市・全神戸戦は中原投手が6安打1点で抑えて決勝に進出した。



復活大会で大日本土木を優勝に導き橋戸賞の中原投手

平和…復活！野球への情熱

終戦から1年。戦争の傷あとが生々しく残るなかで復活した第17回大会には、さまざまな困難を乗り越えた16都市の代表が集まった。

戦災で鉄道はズタズタになり、食糧難から米などを携えての上京だったが「野球をやりたい」の情熱と、平和の喜びを感じさせる大会でもあった。

外地からの復員、引きあげ。住むところ、食べ物の不足は、かつての名選手たちが故郷を寄りどころとし、各地に散ったこともあって、どのチームにも有名選手の顔があり、チーム力が均衡、白熱した大会となった。

初めて行われた3位決定戦を含め、16試合行われたうち、延長戦が6試合、1点差ゲームが10試合もあった。

優勝したのは岐阜市・大日本土木。早大出の村瀬保夫監督兼遊撃手を中心に甲子園で優勝した岐阜商のOBで固めたチームだった。エースの中原宏投手は岐阜県出身ながら例外的に享栄商(現享栄高)の卒業だったが、全試合を完投する力投で、戦後初の橋戸賞に輝いた。

岐阜は1回戦で広島市の鯉城園と対戦し

候補とみられた大阪市・全大阪は伊達正男投手、川瀬進捕手、布谷武三三塁手、久保田信一遊撃手、本田竹蔵、本田親喜両外野手ら粒揃いだった。しかし稲川東一郎監督が指揮する桐生中OBの桐生市・全桐生が木暮英路投手、稲川豪一捕手のバッテリーで大阪を2安打に抑え延長の末競り勝ち、大阪は早々と姿を消した。桐生は河村章投手や強打の大岡虎雄、永利勇吉、大道信敏選手らの八幡市・八幡製鉄も倒し、さらに木下卓三投手の名古屋市・愛知産業を降して決勝に勝ちあがった。三輪裕幸投手も好投、1回戦から3試合連続延長戦に競り勝った桐生だったが、初出場同士の岐阜との決勝では、7安打を放ちながら大事な場面で落差のあるドロップを投げ続ける中原投手にかわされてしまった。

3位決定戦は名古屋が神戸を破った。

決勝

岐阜市 (大日本土木)	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
桐生市 (全桐生)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【岐阜市】	打安	【桐生市】	打安
⑥ 村瀬保夫	20	④ 中池皆青	41
④ 村瀬保夫	31	⑦ 中池皆青	40
⑤ 村瀬保夫	20	⑧ 中池皆青	10
⑧ 村瀬保夫	31	③ 大塚鶴雄	41
① 村瀬保夫	30	⑤ 大塚鶴雄	42
② 村瀬保夫	30	② 大塚鶴雄	20
③ 村瀬保夫	31	⑨ 大塚鶴雄	42
⑨ 村瀬保夫	30	① 大塚鶴雄	20
⑦ 村瀬保夫	21	⑨ 大塚鶴雄	10
	244	⑧ 大塚鶴雄	10
		⑧ 大塚鶴雄	41
			317

▽二塁打 青木▽失策 岐阜1桐2
 ▽併殺 岐阜1桐3▽1時間54分



復活した都市対抗野球大会を熱心に見るGHQ民間情報部体育主任のビール少佐 (左)

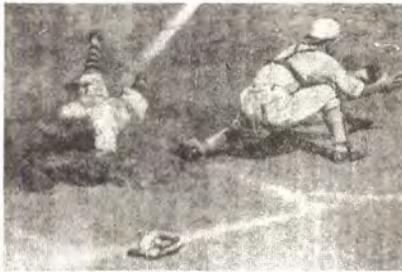
ピンチ救った中原ドロップ

桐生市・全桐生の中軸打者は皆川定之遊撃手、青木正一一塁手、大塚鶴雄三塁手といずれもプロ経験者。一方岐阜市の大日本土木は1番から村瀬保夫遊撃手(早大出)奥村辰一三塁手(中大出)国枝利道三塁手(明大出)加藤春雄中堅手(明大出)や伊藤利夫左翼手(早大出)らが並び、プロ対大学野球の対戦といわれた。

桐生は1回トップの中村が安打。2回にも青木が二塁打と攻めたてたが、中原はピンチになるとドロップの連投で抑えた。岐阜は4回、木暮から国枝、加藤が四球を選び、坪井死球で一死満塁。桐生は三輪がリリーフしたか捕手の失策で2点を失ない、岐阜はさらにスクイズで加点、試合巧者らしく無安打で3点をあげた。

中原は打ち気にはやる桐生打線にボールを多投してかわした。桐生は5回までに7安打を放ち、しかも5盗塁と圧倒的に攻めつけながら、得点に結びつけることができなかった。

ワンチャンスを生かした岐阜は、4安打で桐生を破ったが、村瀬を中心とした堅い守りと常に走者を背負いながら動ずることなく後続打者をうちとった中原のピッチングは見事だった。



桐生対八幡戦。桐生・大塚のホームスチールで決勝点

戦災の窮状乗り越え

太平洋戦争が終わった翌年の昭和21年2月25日付け毎日新聞に、「都市対抗野球が今夏から復活」の社告が掲載された。

「社会情勢は大会開催に困難な面が多いが、このときこそ、社会球人の奮起が望まれ、あらゆる問題を乗り越えて大会を復活する決定を成した。全社会球人がスポーツマンシップを発揮、再建日本の復興に資すると信ずる」の社告だった。この発表で、社会人球界の復興は一気に盛りあがった。5月末日までに結成されたチームは200有余との記事もある。

地区割りは、北海道、東北、関東、東京都、信越、横浜市、甲信静、東海、名古屋市、近畿、京都市、大阪市、神戸市、中国、四国、九州で各地区から1チームの16チーム。

「頑張れ広島市」大声援

原爆投下から1年。廃虚のなかから立ちあがった広島市の鯉城園チームに満員のスタンドからひととき大きな拍手と声援が飛んだ。南京袋で作ったり、作業服改造のユニホームが多いなか、赤と紫のマークとストッキングの派手なユニホーム姿は一段と華やか。鯉城園には、戦前に「職業野球」で活躍していた岩本信一投手、門前真佐人捕手、倉本信護三塁手、濃人渉遊撃手、平樹敏男外野手らがズラリと並んでいた。

GHQが都市対抗絶賛

マッカーサー司令部民間情報部体育主任のジョン・W・ビール少佐が、大会第2日、ネット裏で観戦。「非常にすばらしい大会だ。アメリカにもアマチュア野球はあるが、都市対抗のように全国のチームが一堂に会するものではない。本当のスポーツは利害を離れ純粋なものでなければならない。その意味で本大会は社会人のスポーツ高揚に理想的なものである」と語った。

勸銀が「野球クジ」発行

勸業銀行(現第一勸銀)から、「野球クジ」が発売された。当り券は勝った岐阜の白券で1等は1591番。

賞金は8,160円の大金で、発売枚数、価格はわからないが、その人気のほどがしのばれる。

外野席、女性無料デー

“男女同権”の意向が高まり、女性の社会進出が勢をもってきたが、女性のスポーツ熱高揚の一環として、準々決勝の外野席は女性に無料開放された。ただし満員の時は入場お断りで、女性同伴でも男性は有料とのただし書きがついていた。

ろ過器を置いて水供給

食糧事情だけでなく、水道も完全でない



黒獅子旗なき優勝 初出場初優勝の岐阜・大日本土木・村瀬監督には閉会式で優勝の表彰状だけが贈られた

め、両チームのベンチと一・三塁側の内野スタンドに水道の「無菌衛生ろ水器」が設置された。

旧陸軍が考案した“秘密兵器”で、炎天下の大会だけに悪い水を飲み、選手やファンが「腹下し」でもしたら大変と、製造元の日本特殊工業株式会社が提供した。



東京対富山戦。6回に富山・深島二盗に成功する



横浜対八幡戦。横浜の柿島、島津の二ゴロで二封される



東京対岐阜戦。東京は2回、小林の二ゴロ失で二塁走者沼尾、一気にホームを突くが、好返球に寸前でタッチアウト

拍手の度に終戦の喜び実感

桐生市・全桐生
斎藤 宏外野手



桐生中卒業。予科練に入り人間魚雷の搭乗要員として金華山中で終戦。故郷の桐生に帰り稲川東一郎監督の紡績会社に就職。プロ野球を経て現在広尾スポーツ代表者。

都市対抗野球とリンゴの唄だけが自分の明るさだった。終戦になってすぐ桐生に帰れたのも幸せだったが、桐生中の大先輩の稲川東一郎さんがホームスパンなどをつくる紡績会社を経営していて、そこに使っていただいた。稲川さんを中心に桐生中OBでつくったのが全桐生。

戦後のすさんだ世の中で、野球をやれたことに意義があったし、都市対抗がなければ、どんな人生に変わっていたかわからない。

1回戦で全大阪と当たったが、伊達正男、久保田信一、本田竹蔵さんら、雲の上のような選手がズラリ並んでいて恐ろしかった。本

田さんが打った左翼場外のファールにはど肝を抜かれた。木暮英路投手が頑張って延長で勝ち、大岡虎雄さん健在の八幡製鉄にも延長戦で競り勝った。準決勝の愛知産業戦も延長の木サヨナラ勝ち。全部1点差ゲーム。苦しかったけど連日超満員のなかでの試合だけに充実していたし楽しかった。スタンドから拍手を受けるたびに「戦争が終ってよかった」とつくづく思ったのも忘れられない。

稲川監督はベンチにとっかりすわって、気の弱い打者には、こっそりとコップ酒を飲ませて「思い切って打ってこい」。

決勝の大日本土木戦でぶつかった中原宏さんのドロップはすごかった。4回うちにミスが出て3点を取られたあと、無死一・二塁のチャンスに打席に立った。1球目ドロップ、狙っていたのに空振り。2球目の速球を打った。右翼線に飛んだが、ほんの30センチほど切れてファール。3球目はまたドロップで3球三振。

優勝はできなかったが、桐生市あげての歓迎はすごかった。それにしても、焼けあとのなかからの日本の再建に大きな役割を果たした都市対抗。そこで力いっぱいプレーできたのは生涯の喜びだった。

1回戦

神戸市 (全神戸)

0 0 0 0 6 0 0 0 2 | 8
0 2 0 0 1 0 0 0 0 | 3

川崎市 (川崎いすゞ)

【神戸市】	打安	【川崎市】	打安
⑤ 丸野	4 2	④ 荻田	4 2
④ 丸野	4 2	③ 田原	4 0
⑧ 永野	5 2	⑧ 小高	4 0
⑦ 永野	4 0	⑤ 高橋	2 0
③ 黒田	5 3	⑨ 生谷	3 0
⑥ 中井	5 1	② 清大	3 1
② 中井	4 0	⑦ 家沢	3 1
⑥ 池田	4 1	① 山本	3 1
① 池田	4 0	⑥ 今泉	3 1
	3911		29 6
▽本塁打	清家(川村)	▽三塁打	青池
村井	片山	▽二塁打	鳥丸
▽併殺	神3	川1	▽失策
			神2
			川1
			▽1時間40分

1回戦

海南市 (海南日東紡)

0 0 0 0 0 1 0 0 1 0 0 | 2
0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 1 | 3

福島市 (全福島日東紡)

【海南市】	打安	【福島市】	打安
② 山	5 1	⑥ 宋	5 2
⑥ 地	4 1	④ 高	5 1
⑨ 野	5 2	⑧ 飯	5 1
⑧ 本	5 1	① 八	5 0
⑤ 田	5 1	② 大	5 0
③ 崎	3 0	③ 大	5 1
⑤ 生	3 0	⑤ 大	5 3
⑦ 田	0 0	⑨ 関	5 1
H 本	1 0	⑦ 秋	4 1
⑦ 羽	0 0		4410
④ 田	4 0		
① 川	4 0		
	39 6		
▽三塁打	大津	前田	▽二塁打
山地	▽失策	海5	福3
▽1時間35分			▽併殺
			福1
			関口

1回戦

岐阜市 (大日本土木)

0 0 0 0 0 1 2 2 0 2 3 | 10
3 0 0 1 0 0 1 0 0 2 0 | 7

広島市 (鯉城園)

【岐阜市】	打安	【広島市】	打安
④ 奥	6 1	⑧ 平	1 0
⑦ 村	4 0	⑦ 樹	2 1
⑥ 中	5 0	④ 尾	4 1
⑧ 漸	5 0	⑦ 本	4 3
⑤ 藤	5 3	② 中	6 2
② 加	6 3	⑤ 濃	4 1
① 国	6 4	② 倉	3 0
③ 中	6 3	① 門	2 0
② 坪	3 1	⑨ 柴	1 0
⑨ 畑	3 1	③ 若	5 0
	4615	③ 岩	4 0
		① 浅	3 0
▽三塁打	畑	④ 橋	1 0
枝	中原	① 吉	1 0
中原	▽二塁打	③ 道	0 0
中	枝	④ 高	1 1
門	倉	② 荒	0 0
前	▽失策		41 9
岐2			
岐2			
▽2時間36分			

1回戦

東京都 (東京鉄道局)

3 0 0 4 0 0 0 4 0 | 11
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

富山市 (全富山)

【東京都】	打安	【富山市】	打安
⑥ 朝	4 2	⑥ 寺	4 0
④ 美	6 2	⑦ 堀	3 0
⑨ 濃	4 2	⑦ 桑	0 0
① 3 飯	4 1	H 入	1 0
⑤ 沼	5 1	⑤ 江	4 0
② 深	5 1	② 山	3 1
⑦ 小	5 2	① 上	3 0
③ 岩	3 1	⑨ 浦	3 1
① 南	2 0	③ 柴	3 1
⑧ 鈴	3 0	⑧ 深	1 0
	4112	② 渡	1 0
		④ 高	3 0
			29 3
▽三塁打	沼尾	朝井	▽二塁打
▽失策	東1	富3	▽併殺
			東2
			▽1時間25分

1 回戦

横浜市 (金港倶楽部)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	0	×	1

八幡市 (八幡製鉄)									
【横浜市】	打安	【八幡市】	打安						
⑥	柿島 4 2	⑨	山口 4 0						
③	島津 4 1	④	浦利岡 3 1						
⑧	徳野 3 1	②	三永 2 0						
⑦	野見 5 1	③	大岡 3 0						
⑤	高野 3 0	⑦	岡田 2 0						
⑨	茅野 3 0	⑤	原井 1 1						
⑨	高茅 0 0	⑧	原井 1 1						
②	若岡 4 0	①	石川 3 2						
①	H 3 1	⑥	河村 3 1						
R	0 0		25 5						
④	佐々木 3 0								
	33 6								

1 回戦

大阪市 (全大阪)									
0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
0	0	0	1	0	1	0	0	0	3

桐生市 (全桐生)									
【大阪市】	打安	【桐生市】	打安						
④	布谷 4 0	④	中村 5 1						
⑧	弘本 4 0	⑧	村輪 3 0						
⑦	田親 2 0	H	0 0						
⑨	本竹 4 0	⑧	三下 0 0						
⑤	本津 4 0	⑥	斎皆 4 2						
①	③ 3 1	⑤	大青 5 0						
③	宇伊 2 0	③	大青 2 1						
①	和殿 2 0	②	村木 4 2						
②	H 3 1	⑦	田見 5 2						
H	2 1 0	①	池田 4 2						
②	藤川 0 0	⑨	常 4 1						
⑥	久保 3 0		36 11						
	32 2								

1 回戦

徳島市 (全徳島)									
0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

京都市 (全京都)									
【徳島市】	打安	【京都市】	打安						
⑥	生藤 4 3	⑥	真野 5 1						
⑦	田本 3 0	⑤	野口 4 0						
⑨	島山 4 0	⑦	井上 4 2						
⑧	大屋 5 2	③	中村 4 2						
③	笠山 4 1	⑧	庄村 4 0						
⑤	① 5 2	④	宇野 4 0						
①	林 2 0	②	宇野 3 0						
②	北浜 4 0	①	伊橋 4 0						
④	3 5 8	⑨	東井 4 2						
			36 7						

1 回戦

名古屋市 (愛知産業)									
0	0	2	0	0	4	1	0	0	7
0	0	0	0	0	0	1	5	0	6

函館市 (大洋倶楽部)									
【名古屋市】	打安	【函館市】	打安						
⑤	伊藤 4 0	⑤	田邊 4 2						
⑨	久野 5 1	⑧	伏山 3 0						
③	野尾 5 2	⑦	見崎 5 3						
⑧	木下 5 0	R	0 0						
①	大西 4 2	⑨	辻登 0 0						
④	谷江 4 1	⑥	谷島 5 0						
⑦	祖父 4 0	③	能東 4 0						
②	藤田 3 1	①	永藤 4 1						
⑥	永田 3 1	②	小笠 2 0						
	37 8	H	1 0						
		②	山原 1 1						
		④	伊予 4 0						
			37 10						

▽二塁打 佐藤 山崎▽失策 名 5 函 4

▽2時間

準々決勝

福島市 (全福島日東紡)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	1	0	×	2

神戸市 (全神戸)									
【福島市】	打安	【神戸市】	打安						
⑥	穴高 4 0	⑤	丸野 4 0						
④	橋口 4 1	④	野田 3 2						
⑧	飯島 3 0	⑧	永田 4 2						
①	⑤ 4 0	⑦	黒田 4 0						
⑤	② 4 1	③	黒田 3 0						
②	③ 4 1	②	黒田 2 0						
③	④ 3 0	①	黒田 3 1						
⑨	④ 4 0	⑥	黒田 3 0						
⑦	① 1 1		29 6						
	31 4								

準々決勝

東京都 (東京鉄道局)									
0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
0	1	0	0	0	0	0	3	×	4

岐阜市 (大日本土木)									
【東京都】	打安	【岐阜市】	打安						
⑥	朝美 4 1	④	奥中 2 0						
④	濃賀 4 0	④	村野 1 0						
⑨	加賀 4 0	⑨	中野 2 0						
①	③ 4 0	⑥	尾加 4 1						
⑤	② 3 2	⑧	尾加 2 0						
⑦	⑦ 4 1	⑤	村野 3 1						
②	② 4 1	①	中野 3 1						
③	① 1 0	②	中野 4 2						
H	2 0	③	中野 2 1						
⑧	② 1 0	⑦	中野 3 0						
H	0 0		26 6						
	33 5								

準々決勝

桐生市 (全桐生)									
0	2	1	0	0	0	0	0	1	4
0	0	1	0	0	0	2	0	0	3

八幡市 (八幡製鉄)									
【桐生市】	打安	【八幡市】	打安						
⑧	三輪 3 1	⑨	山口 5 1						
④	中皆 5 1	④	浦利岡 3 1						
③	青大 4 1	②	三永 2 1						
⑤	大田 4 1	③	永大 3 0						
②	大田 4 1	⑤	酒大 4 1						
①	池常 4 1	⑧	酒大 4 0						
⑦	田見 3 2	⑦	酒大 2 0						
⑨	1 1	①	酒大 2 0						
	36 10	⑥	酒大 4 0						
			31 1						

準々決勝

徳島市 (全徳島)									
0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
1	1	0	0	0	0	1	0	×	3

名古屋市 (愛知産業)									
【徳島市】	打安	【名古屋市】	打安						
⑥	生藤 4 0	⑤	伊藤 3 1						
⑦	田本 4 2	⑨	野野 2 0						
⑤	山松 3 1	③	野野 4 1						
⑧	大松 4 0	⑧	野野 4 1						
⑨	大松 2 0	①	野野 4 1						
③	大松 3 0	④	野野 3 1						
①	林 4 1	⑦	野野 2 0						
②	北浜 2 0	②	野野 3 0						
④	川田 2 0	⑥	野野 3 1						
	29 4		28 6						

▽二塁打 谷 永田 伊藤▽失策 徳 4 名 1

▽1時間20分

準決勝

神戸市 (全神戸)									
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
0	0	0	0	0	1	0	2	×	3

岐阜市 (大日本土木)									
【神戸市】	打安	【岐阜市】	打安						
⑤	丸野 4 0	⑥	村野 4 1						
④	丸野 2 1	④	村野 3 0						
⑧	丸野 4 0	⑤	村野 4 2						
⑨	丸野 4 0	⑧	村野 4 1						
③	丸野 4 0	①	村野 3 0						
②	丸野 4 2	②	村野 3 0						
⑦	丸野 3 1	③	村野 3 1						
H	丸野 1 0	⑨	村野 2 0						
⑥	丸野 4 1	⑦	村野 3 2						
	21 1		29 7						

準決勝

名古屋市 (愛知産業)									
0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
0	0	0	0	0	3	0	0	0	4

桐生市 (全桐生)									
【名古屋市】	打安	【桐生市】	打安						
⑤	藤野 5 1	④	中村 4 3						
⑧	藤野 4 0	⑧	村輪 4 1						
⑨	藤野 5 2	⑥	村輪 4 0						
③	藤野 5 1	③	村輪 3 1						
⑦	藤野 5 0	⑨	村輪 4 1						
①	藤野 4 0	②	村輪 4 1						
④	藤野 2 0	①	村輪 3 1						
H	藤野 1 1	⑦	村輪 4 0						
⑤	藤野 0 0	⑧	村輪 4 2						
②	藤野 2 1	⑨	村輪 4 2						
⑥	藤野 4 1		36 10						
	37 7								

三局決定戦

神戸市 (全神戸)									
0	0	1	3	0	0	0	0	0	4
0	1	0	0	3	0	0	0	1	5

名古屋市 (愛知産業)									
【神戸市】	打安	【名古屋市】	打安						
⑤	丸野 2 0	⑨	野田 4 3						
④	丸野 3 2	①	野田 5 2						
⑧	丸野 5 0	③	野田 3 1						
③	丸野 4 0	⑦	野田 4 1						
②	丸野 4 0	④	野田 4 0						
⑥	丸野 3 1	⑧	野田 3 1						
⑨	丸野 4 3	①	野田 2 1						
①	丸野 1 0	⑦	野田 2 0						
⑦	丸野 2 0	②	野田 2 0						
	30 6	⑤	野田 3 1						
		H	35 11						

三局決定戦

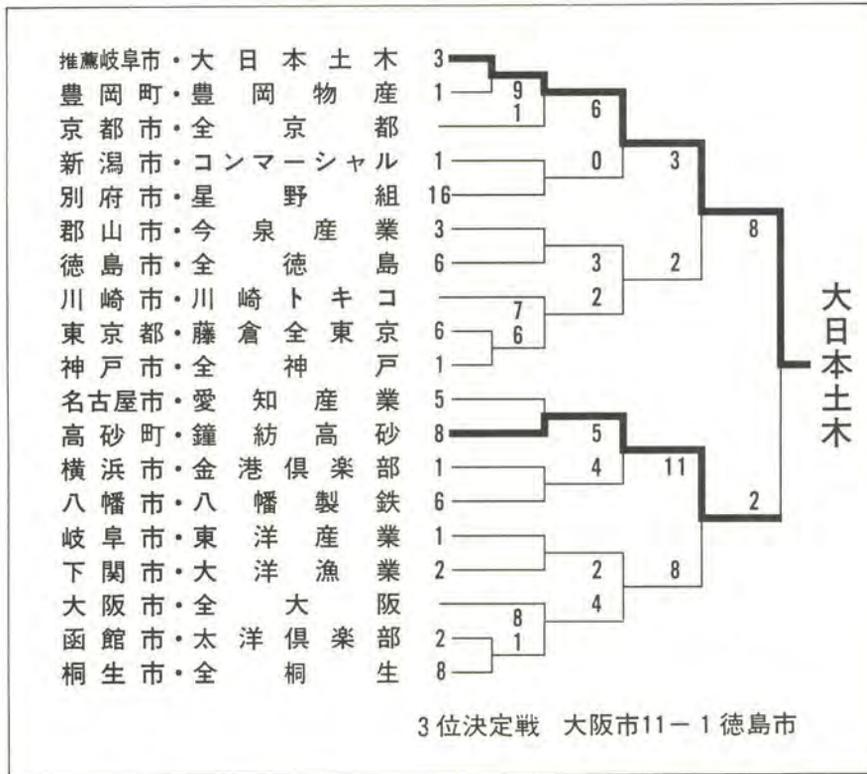
名古屋市 (愛知産業)									
▽本塁打 谷 (小泉)▽三塁打 佐藤									
▽二塁打 久野 永尾▽失策 神 4 名 2									
▽併殺 神 2 名 1▽1時間31分									



復活の開会式では、ボールの中に17の人数を描いた

第18回大会

1947年(昭和22年)8月3日-8月11日・後楽園球場
優勝=岐阜市・大日本土木(2年連続2回目)



取点、7回には9番奥村辰一、二塁手の安打などで一・二塁とし、トップの村瀬が二塁打して2点を加えた。豊岡もその裏、小田野が、中原宏投手の第一球を左翼席に打ち込み初の「天覧本塁打」を放ったが及ばなかった。大日本土木は2回戦でも真野春美監督が指揮する京都市・全京都を西本幸雄一塁手の三塁打による1点だけに抑えて勝ち、準々決勝の相手は荒巻淳投手を擁する別府市・星野組。“火の球投手”といわれた荒巻投手に「スピードに負けるな、強気でむかえ」と、大日本土木の打者は気迫に満ちたバッティングをみせ、加藤春雄中堅手らが積極的に初球を打って6点を奪い、投げては中原宏投手が別府打線を1安打完封した。準決勝の徳島市・全徳島には林義一、薦文也投手らがいたが、村瀬、国枝利通が二塁打を打ち、終始リードを奪って決勝に進んだ。

候補の一角といわれた東京都・藤倉全東京は2回戦で川崎市・川崎トキコと対戦、米久保庄内投手が川崎打線を抑えながら、終盤反撃にあい、南安男(東京鉄道局)吉田正男、岩崎鶴雄投手らが次々とマウンドに登ったが、川崎は9回スクイズで大逆転のサヨナラ勝ち。前回準優勝の桐生市・全桐生も2回戦で大阪市・全大阪の猛打の前に姿を消した。大阪は別当薫、笠原和夫を加え、伊達正男、久保田信一、川瀬進、松井実らのベテランも健在で、江藤正投手、松井淳捕手、戸倉勝城選手らの下関市・大洋漁業をも打ちくだき、準決勝に進んだ。対戦相手は初出場ながら名古屋市・愛知産業、八幡市・八幡製鉄に競り勝ってきた高砂市・鐘紡高砂(後の鐘淵化学)。対八幡戦では延長11回、4番高橋敏中堅手が中翼右に決勝打、サヨナラ勝ちして波に乗っていた。大阪はエース別当投手を温存した作戦が裏目で、1回に5点を奪いながら、高砂の反撃を許し、4回一挙に8点を奪われ敗退した。

決勝は大日本土木が高砂を集中攻撃で破り2年連続の優勝を飾った。

この大会から故久慈次郎氏の功績をたたえ、敢闘賞として久慈賞が設けられ、前回橋戸賞の中原投手が第1号受賞者となった。橋戸賞は村瀬監督兼遊撃手に贈られた。

また3位に黄獅子旗、4位に楯が贈られることになった。

本塁打も飛んだ初の天覧試合

初めて天皇、皇后両陛下(当時)をお迎えて8月3日、開会式が行われた。天皇陛下はグラウンドに降りられ、開会式で前回優勝、推薦出場の大日本土木(岐阜市)村瀬保夫監督兼遊撃手の選手宣誓を受け、第1試合の大日本土木対豊岡町・豊岡物産の試合を最後までご観戦になった。大日本土木はメンバーは変わらず、綿貫惣司監督の豊岡町は、かつての全京城の優勝投手、野村武史投手や山本静雄遊撃手、小田野柏外野手らが揃っていた。大日本土木は、5回坪井皎捕手らの安打で先



スポーツこそ日本復興の原動力——と開会式であいさつをする片山首相

決勝

高砂町 (鐘紡高砂)

0 1 0 0 0 1 0 0 0 | 2
0 0 0 0 2 0 5 1 x | 8

大日本土木 (推薦・岐阜市)

【高砂町】	打安点振球	【岐阜市】	打安点振球
⑥ 尾西	4 2 0 0 0	⑥ 村瀬	3 0 0 0 2
⑨ H	2 0 0 2 0	④ 奥村	3 1 1 1 0
③ 小加	1 1 0 0 0	⑤ 枝原	3 1 2 0 1
⑧ 高藤	0 0 0 0 0	⑧ 加中	4 2 1 0 0
⑦ 深伏	4 0 0 0 0	⑦ 伊藤	4 1 0 0 0
② H	4 1 1 0 0	② 坪井	4 2 0 0 0
④ 田出	4 1 0 0 0	③ 畑中	4 1 0 1 0
① 辻	3 0 0 0 1	⑨ 田中	4 2 1 0 0
	3 1 0 1 0	9 田中文	2 0 0 0 0
	3 1 1 0 0		2 2 1 0 0
	3 2 7 2 4 2		3 3 1 2 6 2 3
投手	打安振球責	投手	打安振球責
辻 8	1 2 2 3 6	原 9	7 4 2 2

▽本塁打 加藤(辻) 高橋(中原) ▽二塁打 奥村 伊藤 ▽失策 高3 岐0 ▽併殺 高2 岐1
▽1時間25分

終盤一気に打線爆発

試合巧者の推薦・大日本土木が、終盤に集中攻撃で一気に試合を決め、粘る高砂市・鐘紡高砂を振り切った。

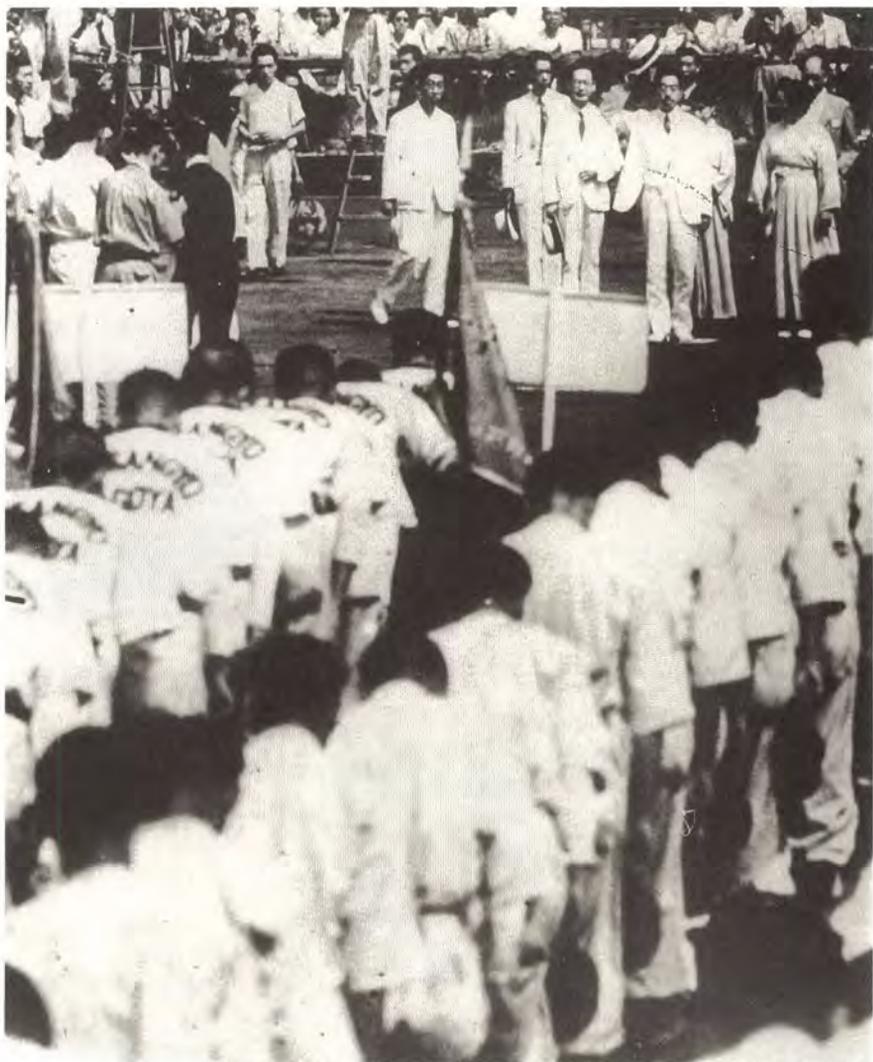
高砂は2回1点を得てなおチャンスだったが、併殺で追加点をあげられず、大日本土木も1、2回の好機を、いずれも併殺で逃した。大日本土木は5回加藤の本塁打、さらに連打で逆転したが、高砂も粘り強く、高橋が左翼本塁打を放って同点とした。

そして7回、大日本土木は、坪井が快打して口火を切ると、畑中、田中文が連安打、村瀬の四球をはさんで奥村が二塁打、国枝中前打とタイムリーを続け、打者9人、5安打の猛撃で5点を奪った。

高砂の投手・辻は延長戦も含め、3試合を完投、4連投のマウンドで終盤はさすがに疲れて球が浮き気味だったが、それを逃がさなかった大日本土木の打線は素晴らしかった。中原も疲れは見られたが、得意の鋭いドロップの切れがよく、速球の威力も最後まで落ちなかった。



両陛下をお迎えした開会式で、参加選手たちは整然と入場行進を行った



初の大観試合両陛下は初めてグラウンドに降りられ、大観衆の万歳に帽子を振られた

両陛下、グラウンドに

天皇、皇后両陛下、三笠宮殿下を初めて都市対抗にお迎えした。

開会式が行われた8月3日午前9時30分、球場正面にお着きになった両陛下は、そのままグラウンドにお立ちになった。全選手が整列、前回優勝の大日本土木・村瀬保夫監督の

選手宣誓を受けられた。

天皇陛下は麦ワラ帽をかぶられ、白い背広、皇后陛下はうすい藤色の宮中服をお召しになっていた。

開会式が終わり、グラウンドから観覧席に移られようとする両陛下に超満員、4万人の大観衆が立ちあがって、期しもせず「万才、万才」の大歓声があがった。

天皇陛下は帽子を振り、皇后陛下は手を振ってファンの歓声にお応えになった。戦争を終わって2年、国民のなかに下り立たれた両陛下だった。

天皇陛下は昭和4年秋の早慶戦を4回までご覧になり、「地方御幸」の折、静岡高校で学生野球の試合にちょっと立ち寄ってご覧になるなどのことはあったが、球場のグラウンドに立たれたのは初めてのことで、第1試合の大日本土木対豊岡物産の試合を最後までご観戦になった。

超満員、2万人入れず

大会第1日につめかけた観衆は超満員の4万人。入場できなかったファンは2万人と当時の新聞は伝えている。

球場前には新聞紙を頭からスッポリかぶつ

て蚊の“攻撃”を防ぎながら徹夜で待った数百人。午前4時過ぎの一番電車が水道橋の駅に着くと、人人人の列が並び、明るくなるころは球場を人の列がとりまいた。

純粹の野球ファン、選手のファン、そして会社関係のファンと3通りのファンが入り乱れるが、このころから会社関係のファンの割合がウナギ昇りになってきた。

ベーブ・ルースの伝言

ベーブ・ルースが8月9日、UP通信社を通じて次のメッセージを送ってきた。

日本で都市対抗野球大会が盛大に行われていると聞き、たいへんうれしい。私が特に言いたいのは、選手もファンも、勝つことばかり考えずに、野球が教えるスポーツマンシップを学ぶよう努めようということだ。最優秀チームに栄光あれ。

MEMO

◇全員安打 高砂市・鐘紡高砂が2回戦の名古屋市・愛知産業戦と準決勝の大阪市・全大阪戦で記録した。全員安打は、第13回大会の八幡市・八幡製鉄について2、3度目だが、1大会で2回全員安打は初めて。

入場料

入場料金はネット裏、特別席券は8日間通しの前売りで240円。

日本復興に計り知れない貢献

岐阜市・大日本土木
奥村辰一 二塁手

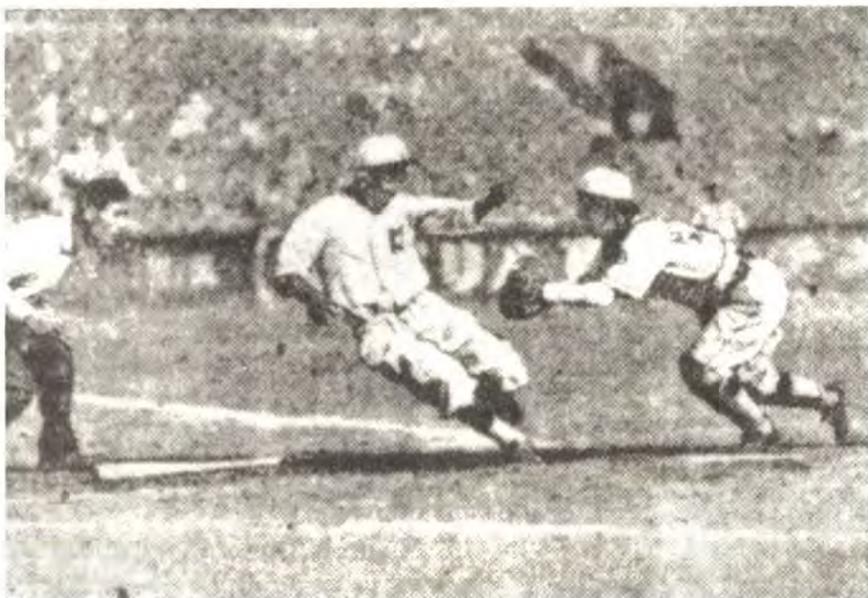


岐阜商、中大から東邦ガスを経て大日本土木入社。第17回大会から好守好打の二塁手として2連覇に貢献した。同社取締役を勤め、現在は関連のニッコウ技研社長。

岐阜商の先輩だった村瀬保雄さんが大日本土木の庶務課長で、終戦後、野球経験者が続々復員、岐阜商OBを中心に野球部を作ったのが昭和21年3月。都市対抗が復活するというので、もううれしくてうれしくて。仕事を終わってから、まっ暗になるまで練習した。

21年のときは富田東洋紡に勝って代表になったが前のユニホームがない。村瀬さんが知人に頼んで労務者の作業服を15着頂き、奥さんが縫い直してユニホームにした。

1つ勝てばいいくらいの調子だったのに勝ち進み、食糧がなくなって岐阜から米やカボ



名古屋対高砂戦。7回高砂は伏見の左前安打で二塁走者、小谷ホームを突くが好返球にタッチアウト

「全東京」やはり「藤倉」

第12回、13回大会で藤倉電線が2連覇を上げて以来、黒獅子旗から遠ざかっている東京は、この大会では予選参加チームから優秀選手を選び「全東京」の最強チームを編成する計画で、予選は7月19日から4日間、早大戸塚球場で行われた。

しかし、やはり藤倉電線は圧倒的に強く、決勝でも中央工業を問題にせず楽勝。結局、南安男投手（東京鉄道局）ら、数人に加え、チーム名は藤倉全東京で出場した。

チヤを送ってもらった。

優勝したとき黒獅子旗が行方不明になっていて旗はもらえなかった。ところが10月になって毎日新聞社の小野三千磨さんが岐阜に持ってきてくださり、本社応接室で授与式が行われ、社長が涙を浮かべて喜んでくれたのが忘れられない。

2回日の大会は、豊岡物産との開幕戦が「天覧試合」。村瀬さんが選手宣誓をしたが、村瀬さんは「陛下の前での大役」と前の晩は眠れなかったそうだ。

うちは中原宏投手のドロップが牙え、負ける気はしなかったが、私にとっては準々決勝の星野組との試合が印象に残っている。火の玉投手といわれた荒巻淳投手に2回左翼フェンス直撃の痛打を浴せて先取点に結びつけ、名投手攻略の口火を切ったのは一生の思い出だ。

それにしても終戦直後、食糧事情も交通網もメチャメチャな社会情勢のなかで、よく大会がやれたと思うし、平和のありがたさをつくづく感じた。大日本土木が優勝したというだけでなく、日本の復興に都市対抗がどれだけ貢献したか、はかり知れないと感謝の気持ちでいっぱいだ。

強打の兄弟は敵・味方

大日本土木と高砂市・鐘紡高砂の決勝で大日本土木の4番打者・加藤春雄中堅手と高砂の3番打者・加藤政一一塁手は実の兄弟。岐阜商の加藤3兄弟と勇名をとどろかせ、まん中



両陛下のご臨幸で開かれた開会式はファンが超満員

の加藤三郎さんは甲子園でも捕手をつとめ、明大に進んだあとは一塁手として強打ぶりをうたわれたが戦死した。3人も岐阜商から明大に進んだが、決勝の“兄弟対決”も珍らしい。

岐阜商といえば天覧試合でこの大日本土木と対戦した豊岡町の野村武史投手も岐阜商出身。岐阜商OBで固めた大日本土木のメンバーはほとんど先輩で、さぞや投げにくかったのでは。



東京対川崎戦。東京の田坂が猛スライディングで二盗



両陛下がご臨席。選手全員が整列する前で、岐阜・大日本土木、村瀬監督が選手宣誓した

片山首相が決勝観戦

大会最終日、大日本土木対高砂市の決勝を片山首相が観戦した。スタンドの割れるような拍手のなか、閉会式でマイクを持った片山首相は「10数年ぶりに野球の試合を見て、その熱戦ぶりに、私も若返った気持ちだ。スポーツは日本再建の原動力である。従来の四畳半式趣味から、この炎天下に繰り広げられた敢闘精神とスポーツ精神こそ、私の政治に通ずるものである」と力強く述べた。



開会式で選手を激励される両陛下

1回戦

大日本土木 (推薦・岐阜市)

0 0 0 0 1 0 2 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

豊岡町 (豊岡物産)

【岐阜市】	打安	【豊岡町】	打安
⑥ 村瀬	3 1	⑨ 横山	3 0
⑤ 中枝	4 0	⑥ 高山	4 0
③ 国枝	3 0	⑤ 高小	4 2
⑧ 加藤	3 2	⑦ 小野	3 0
① 中伊	4 0	③ 野村	3 0
⑦ 伊藤	4 0	① 野村	3 0
② 坪井	4 2	② 野村	3 0
⑨ 田中	3 2	④ 高木	2 0
④ 奥村	4 2	⑧ 高木	3 0
	32 9		28 2

振球犠盗失残併 0 3 0 0 4 3 2 2
▽本塁打 小田野 (中原) ▽二塁打 奥村
村瀬 ▽1時間25分

1回戦

東京都 (藤倉全東京)

0 0 0 0 0 1 5 0 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

神戸市 (全神戸)

【東京都】	打安	【神戸市】	打安
④ 宮田	5 1	④ 滝島	4 1
⑥ 田大	5 3	⑥ 丸村	3 0
⑦ 小勝	5 1	④ H	1 0
③ 林川	4 1	⑧ 中村	3 3
⑦ 小勝	2 0	⑧ 小村	3 1
③ 大勝	0 0	⑧ H	1 0
⑨ 大山	4 1	③ H	4 0
① 吉塚	3 0	② H	3 0
② 塚福	2 1	⑦ H	1 0
⑤ 田越	2 0	⑦ H	2 0
⑤ 田茂	2 1	⑦ 真泉	1 1
	34 9		2 0

振球犠盗失残併 2 4 1 2 3 0 0 0
▽三塁打 宮崎 田坂
永田 ▽二塁打 田坂 2
▽1時間28分

振球犠盗失残併 4 2 2 2

1回戦

桐生市 (全桐生)

1 0 0 0 4 2 1 0 0 | 8
1 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2

函館市 (太洋倶楽部)

【桐生市】	打安	【函館市】	打安
⑥ 川	5 1	⑧ 相澤	3 0
④ 村	3 2	④ R	1 0
⑧ 中	5 1	④ R	0 0
⑦ 村	4 2	⑤ 伊予	2 1
⑤ 木	5 1	④ 折片	4 1
③ 大	4 1	② 佐福	3 1
⑨ 青	3 1	① 山	0 0
⑨ 常	1 0	① H	1 0
① 関	4 2	① 山	0 0
② 三	5 2	③ 山	3 0
	39 13		3 0

振球犠盗失残併 2 4 1 1 3 3 0 3
▽本塁打 佐藤 (三輪) ▽二塁打 中村茂
▽1時間53分

振球犠盗失残併 4 4 4 0

2回戦

新潟市 (コンマーシャル)

0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
2 4 0 1 0 4 4 1 X | 16

別府市 (星野組)

【新潟市】	打安	【別府市】	打安
⑦ 奥田	4 0 0	⑥ 長沢	4 3 4
④ 高柄	4 0 0	⑦ 小野	5 0 1
⑧ 西沢	4 0 0	③ 島利	6 3 1
⑨ 鈴山	4 1 0	② 卷利	6 5 3
③ 鈴山	3 0 0	① 9 井	5 3 1
② 中村	3 1 1	⑤ 酒井	5 2 1
⑤ 柳	3 1 0	④ 永松	6 3 1
① 小伊	2 0 0	⑨ 磯野	2 0 0
① 伊沢	1 0 0	① 野田	2 0 0
⑥ 大高	3 0 0	⑧ 野田	5 2 0
	31 3 1	⑧ 山内	0 0 0

振球犠盗失残併 1 1 3 0 1 4 3 0 462112
▽本塁打 永利 (伊狩) ▽三塁打 永利 長沢
▽二塁打 小島 2 中村 ▽1時間32分

2回戦

郡山市 (今泉産業)

0 2 0 0 0 0 1 0 0 | 3
0 0 0 1 1 3 1 0 X | 6

徳島市 (全徳島)

【郡山市】	打安	【徳島市】	打安
④ 喜秋	5 1 0	⑥ 生田	4 1 1
⑤ 元方	5 3 1	⑦ 本屋	4 2 0
⑥ 島方	4 0 0	③ 笠林	4 2 1
③ 大塚	2 1 0	⑨ 1 林	2 1 1
⑨ 近藤	2 0 0	④ 大平	3 1 2
① 大西	1 0 0	⑧ 藤井	4 0 0
⑦ 大佐	4 1 0	⑤ 大島	4 2 1
⑧ 森下	1 0 0	② 9 鳥	3 1 0
② 池端	4 0 0	① 新居	2 1 0
① 9 前川	2 0 1		3011 6

振球犠盗失残併 3 0 6 2 2 3 3 1
▽三塁打 大塚 笠屋 林 大島 ▽二塁打 秋元 2 ▽1時間22分

2回戦

名古屋市 (愛知産業)

0 1 1 0 1 1 1 0 0 | 5
2 0 0 0 0 0 6 0 X | 8

高砂町 (鐘紡高砂)

【名古屋市】	打安	【高砂町】	打安
④ 田	5 0 0	④ 尾西	4 1 3
③ 永長	5 2 0	③ 加藤	3 2 2
⑦ 尾西	4 3 1	⑦ 高深	4 2 0
⑧ 大樹	2 0 0	⑧ 瀨谷	5 2 0
⑨ 伊藤	4 1 1	⑤ 高見	5 1 1
⑤ 藤江	5 2 1	⑨ 5 尻	5 1 0
② 藤井	2 0 0	② 4 田	4 2 1
② 枝	2 0 0	④ 田	3 2 0
① 高	1 0 0	① 辻	3 1 0
① 原	3 0 0		3614 7
① 祖父	0 0 0		
⑥ 滝	3 1 0		

振球犠盗失残併 2 5 3 0 1 6 6 1
▽本塁打 加藤 (高塚) ▽三塁打 尾西
▽二塁打 田尻 塩出 大西 ▽1時間53分

2 回戦

八幡市 (八幡製鉄)										
0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
横浜市 (金港倶楽部)										

【八幡市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑥ 井上 5	0	⑥ 柿島 4	1
⑨ 山口 5	0	⑤ 島道 3	1
⑤ 山鬼 5	1	③ 大島 4	0
③ 大阿 3	2	④ 小南 4	0
② 荒河 3	2	⑧ 南吉 1	0
⑦ 井村 4	1	① 若佐 3	1
① 荒河 3	1	⑨ 若佐 2	0
④ 河三 3	1	② 宮野 4	1
⑧ 浦田 4	1	⑧ 宮野 3	0
振球犠盗失残併			336 1
▽二塁打			鬼頭 大岡
▽1時間			37分
2 回戦			

岐阜市 (東洋産業)										
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
下関市 (大洋漁業)										

【岐阜市】	打安点	【下関市】	打安点
⑧ 原玉 2	0	⑧ 矢野 2	0
⑤ 高松 3	0	④ 兄倉 4	1
⑦ 山松 4	0	⑨ 倉内 3	1
⑨ 西川 4	2	⑥ 藤橋 3	0
③ 合全 3	0	① 高松 4	2
④ 木大 3	0	③ 青木 4	0
① 大肥 4	0	② 柳野 4	0
⑥ 田山 3	0	⑤ 矢野 2	0
② 杉山 3	0		
振球犠盗失残併			306 1
▽二塁打			江藤 戸倉
▽1時間			27分
2 回戦			

大日本土木 (推薦・岐阜市)										
0	0	0	4	0	4	1	0	0	0	9
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
京都市 (全京都)										

【岐阜市】	打安点	【京都市】	打安点
⑥ 村瀬 5	0	⑤ 林 3	0
③ 畑国 4	1	⑤ 保井 1	0
⑤ 加中 3	1	④ 吉中 4	1
⑧ 藤原 5	2	⑧ 中西 4	1
⑨ 伊坪 2	0	③ 新小 4	2
⑦ 坪田 3	2	⑦ 侯戸 4	1
② 名和 4	1	② 侯戸 3	0
⑨ 田中 0	0	② 田口 4	0
① 田中 3	1	① 瀨瀬 2	1
④ 奥村 4	0	⑥ 瀨瀬 3	1
振球犠盗失残併			337 1
▽二塁打			伊藤 (中井) 西本 畑中
▽1時間			24分
2 回戦			

東京都 (藤倉全東京)										
0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	6
0	0	0	0	0	0	2	1	4	0	7
川崎市 (川崎トキコ)										

【東京都】	打安点	【川崎市】	打安点
④ 宮田 4	1	⑧ 喜井 4	0
⑨ 大小 4	3	⑤ 喜井 5	1
⑥ 館林 3	1	④ 小島 3	1
⑦ 勝川 5	1	② 小林 4	1
③ 大山 3	0	⑦ 手原 3	1
⑨ 大松 4	3	① 木原 3	3
⑧ 畑越 0	0	⑥ 康田 3	0
② 塚田 4	2	③ 牧川 2	0
⑤ 福加 1	0	③ 竹川 2	0
⑤ 加米 3	0	③ 小川 2	1
① 南 3	0		
① 吉田 0	0	振球犠盗失残併	
① 岩崎 0	0	6 5 6 1	
振球犠盗失残併			329 6
▽二塁打			小川 (吉田) 三塁打 田坂
▽1時間			2時間1分
2 回戦			

2 回戦

桐生市 (全桐生)										
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
2	2	1	0	0	0	0	2	1	×	8
大阪市 (全大阪)										

【桐生市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑥ 皆川 4	2	④ 布谷 5	2
④ 中村 2	1	⑦ 鹿野 4	1
⑧ 中村 4	1	⑨ 原当 5	3
⑦ 木暮 4	0	③ 伊和 4	1
⑤ 大関 4	0	① 伊和 4	2
⑨ 大関 1	0	③ 古川 3	1
③ 9 ①	3	⑤ 瀨井 4	1
③ 1 ①	3	⑥ 中井 0	0
③ 1 ①	3	⑤ 松岡 4	1
③ 1 ①	3	② 久保 2	0
③ 1 ①	3		
振球犠盗失残併			3512 7
▽二塁打			伊達 布谷 笠原
▽1時間			28分
2 回戦			

別府市 (星野組)										
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	1	0	2	2	0	×	0	6
大日本土木 (推薦・岐阜市)										

【別府市】	打安点	【岐阜市】	打安点
⑥ 長野 3	1	⑥ 村瀬 4	1
⑧ 沢田 3	0	③ 枝藤 3	0
③ 小島 3	0	⑤ 原藤 4	2
② 小永 2	0	① 加中 4	1
① 9 ①	2	⑦ 伊坪 3	1
④ ④ ①	3	② 坪田 4	2
① ① ①	3	⑨ 田中 2	2
① ① ①	3	⑨ 田中 0	0
① ① ①	3	④ 奥村 4	1
① ① ①	3		
振球犠盗失残併			3210 6
▽二塁打			伊藤 (荒巻) 加藤 (荒巻)
▽1時間			28分
2 回戦			

德島市 (全徳島)										
0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
川崎市 (川崎トキコ)										

【德島市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 生藤 5	1	⑧ 鈴木 2	0
⑦ 本屋 3	1	⑧ 喜井 2	0
③ 笠林 3	1	⑤ 今井 5	2
⑨ ① ①	4	② 長小 4	2
④ ④ ①	4	⑦ 小林 3	2
⑤ ⑤ ①	4	⑦ ⑦ ①	3
① ① ①	3	⑥ 石原 3	0
⑨ ⑨ ①	3	① 鈴木 3	0
② ② ①	4	① 田中 1	0
② ② ①	4	③ 倉田 0	0
② ② ①	4	③ 倉田 3	0
振球犠盗失残併			337 2
▽1時間			35分
2 回戦			

八幡市 (八幡製鉄)										
0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	5
高砂町 (鐘紡高砂)										

【八幡市】	打安点	【高砂町】	打安点
⑥ 井上 4	0	⑥ 尾西 5	0
⑨ 山口 5	2	⑨ 西原 3	0
⑤ 山鬼 4	2	⑨ 古賀 2	0
③ 大阿 4	2	③ 藤橋 3	1
⑦ 井村 5	1	⑦ 瀬井 4	1
① 荒河 1	1	⑦ 瀬井 4	0
④ 河三 4	0	② 田中 3	0
⑧ 浦田 5	1	② 田中 3	0
⑧ 浦田 5	1	① 田中 4	1
振球犠盗失残併			365 2
▽二塁打			辻 高橋 二塁打 加藤
▽1時間			33分
2 回戦			

準々決勝

大阪市 (全大阪)										
0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	4
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
下関市 (大洋漁業)										

【大阪市】	打安点	【下関市】	打安点
④ 布谷 3	2	⑧ 矢野 4	1
⑦ 鹿野 4	1	④ 兄倉 4	1
⑤ 野田 2	0	⑨ 倉内 4	2
⑤ 野田 3	0	⑥ 河江 4	1
⑨ 野田 4	2	① 藤橋 5	1
① 伊和 4	0	③ 高松 5	2
③ 伊和 3	0	② 青木 5	1
③ 伊和 4	2	⑦ 矢野 4	0
② 伊和 4	2		
振球犠盗失残併			3910 2
▽二塁打			戸倉
▽1時間			47分
準々決勝			

大日本土木 (推薦・岐阜市)										
0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
徳島市 (全徳島)										

【岐阜市】	打安点	【徳島市】	打安点
⑥ 村瀬 5	3	⑦ 田本 4	2
④ 枝藤 4	0	⑥ 生藤 5	1
⑤ 枝藤 3	1	⑨ 笠林 3	0
⑧ 加中 4	1	⑨ ① ①	4
① 伊坪 3	0	⑧ 大藤 4	2
③ 伊坪 4	1	⑤ 渡安 4	0
③ 伊坪 4	1	① ① ①	1
③ 伊坪 4	1	② 北新 2	0
③ 伊坪 4	1	② 北新 3	0
振球犠盗失残併			357 2
▽二塁打			村瀬 国枝
▽1時間			31分
準々決勝			

大阪市 (全大阪)										
5	0	1	0	0	2	0	0	0	0	8
2	0	0	0	0	0	1	×	0	0	11
高砂町 (鐘紡高砂)										

【大阪市】	打安点	【高砂町】	打安点
④ 布谷 1	0	⑥ 尾西 4	1
④ 布谷 3	1	⑨ 西原 4	1
⑦ 鹿野 5	1	⑨ 古賀 5	2
⑤ 野田 5	3	⑦ 藤橋 4	2
⑨ 野田 4	3	⑦ 瀬井 4	2
⑧ 野田 5	1	⑤ 伏見 3	1
③ 伊和 4	1	② 田中 3	1
③ 伊和 2	2	② 田中 3	1
① 伊和 2	1	① 田中 4	1
② 伊和 2	0		
⑥ 伊和 4	1	振球犠盗失残併	
振球犠盗失残併			3412 11
▽二塁打			藤田 (辻) 高橋 (松井)
▽1時間			伊達 川瀬 古賀
三位決定戦			

大阪市 (全大阪)										
0	1	0	0	4	0	0	3	3	0	11
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
徳島市 (全徳島)										

【大阪市】	打安点	【徳島市】	打安点
④ 川瀬 5	2	⑥ 生藤 5	0
⑦ 弘三 4	0	⑦ 田本 5	2
⑨ 藤田 1	0	③ 笠林 4	1
⑤ 藤田 5	0	① 林 3	1
⑧ 藤田 4	2	⑨ 渡安 3	0
① 藤田 5	3	⑤ 大藤 4	2
⑧ 藤田 3	1	④ 大藤 2	0
⑤ 藤田 1	1	⑤ 大藤 4	1
③ 藤田 4	1	② 大藤 2	0
③ 藤田 5	1	⑨ 大藤 2	0
⑥ 藤田 3	1	① 大藤 2	1
振球犠盗失残併			358 1
▽二塁打			川瀬 二塁打 笠原 別当
▽1時間			12分
2 回戦			

40回で2度の感激

近畿連盟副会長 五十嵐義臣



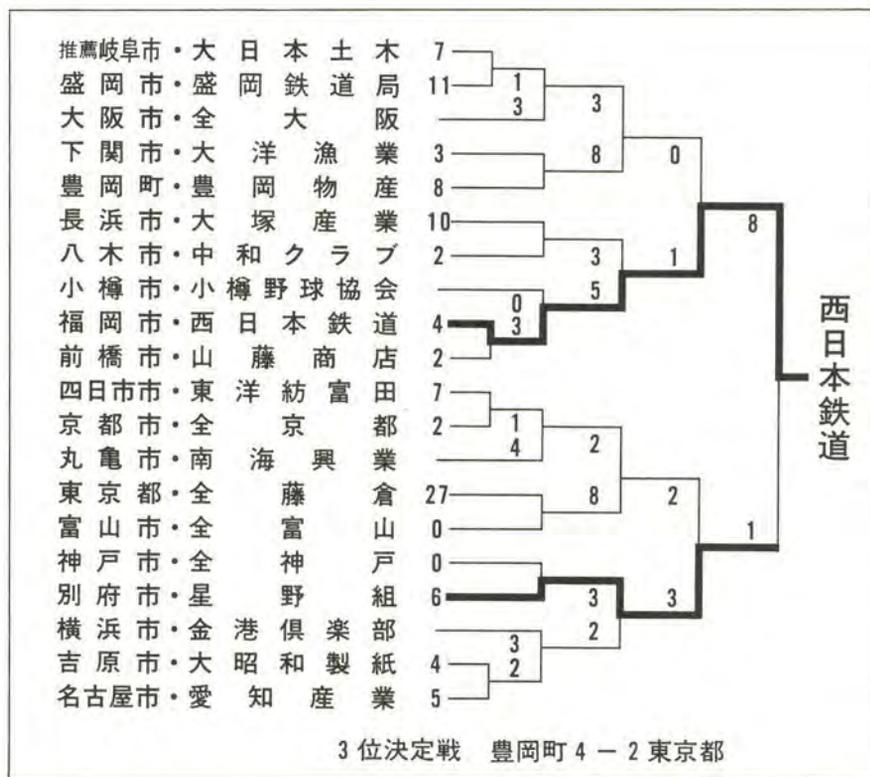
戦前、選手として予選に出場したことはあったが、本大会には出場の経験もなく、戦後昭和21年夏、ビルマから復員してきた時には都市対抗野球が開催されているときいて本当に驚いた。戦禍の跡が生々しく住宅難、食料難、みじめな敗戦の直後に大会が再開されているという事はまさに夢物語としか考えられなかった。会社(京都大丸)に復職、ようやく勤務に馴れ落ち付きを取り戻したところで野球部の復活を計り、復員してきた連中を集め22年春から練習に入った。折から、京都店長として新しく田中正佐氏(京都大学野球部OB)を迎え積極的に突走り、第19回大会の京都市予選に参加したが京都クラブに敗退。翌第20回大会に初出場を果たすことが出来たが、本大会で荒巻投手の星野組に完敗した。田中店長の厳命で強力チームを作ることになり有力選手の補強に全力を盡した。この年選抜野球で甲子園で決勝を争った京都一商、二商から有力メンバーを、三高のエース大西投手も京大進学を止めて入社するなど、第21回大会には相当の自信をもって臨んだ。予選も順調に勝ち、本大会では昨年の初出場と違い東京の各百貨店も応援団を繰り出してくれ、第1戦の川崎トキコ戦に臨んだ。折柄の暑さと両軍投手の乱調から打撃戦となり延長10回15対12で辛勝した。トキコはプレイングマネジャーの稲葉誠治氏(現プリンスホテル野球部長)までマウンドに上る死闘だった。40年近く経た今でも稲葉さんと逢うとこの時の話が出る。第2戦熊本鉄道局には快勝したが、準決勝で全

鐘紡と対戦。高橋君の満塁ホームランで9対6で敗れ決勝進出はならなかったが3位決定線で大昭和製紙に勝って黄獅子旗を獲得した。また新しかった黄獅子旗をなでながら涙ぐんだ記憶をつい昨日のように思い出す。

昭和24年日本社会人野球協会が設立され私も近畿連盟の故・宮原清会長、佐伯達夫副会長のもとで京都府支部長としてお世話をする立場となり既に開催されていた選抜京都大会(現在の大阪大会の前身)等では故人の小野三千磨氏、弓館芳夫氏、井口新次郎氏らの薫とうを受けた。さて私にとって1963年はもっともラッキーな年で忘れる事の出来ない年であった。都市対抗野球大会創設以来、幾多の先人達が果そうとして果し得なかった優勝の夢を積水化学が34回目によりやく果してくれた。過ぐる21回大会で大丸チームを引きつれて黄獅子旗を手にしてから13年ぶりの第2の感激だった。京都市内のパレードを終えて黒獅子旗は京都市役所の正面広場で開かれた市民歓迎会に臨んだ。お祝の言葉を述べるべく壇上に立って竹村主将の手にしっかりと抱かれて真夏の風にたて髪をなびかせる黒獅子旗を見た瞬間、私の口をついて出た言葉は「まぼろしの旗!!京洛の大地にひるがえる」であった。私にとって黒獅子旗は本当にまぼろしの旗であった。あの感激から早20数余年、都市対抗も60回の記念大会を終えた。今一度あの感激をと、ひたすら祈り続けながら、生命ある限り黒獅子旗を追いかける事であろう。

第19回大会 1948年(昭和23年)8月1日-8月9日・後樂園球場

優勝=福岡市・西日本鉄道



樽市戦では武末が4安打完封。大島信雄投手、増山桂一郎遊撃手らの長浜市にも逆転勝ちした。

準決勝は豊岡町・豊岡物産と対戦した。野村武史投手、綿貫惣司、小田野柏選手らで固めた豊岡町は、2回戦で江藤正一・松井淳のバッテリーに戸倉勝城、河内卓司選手らが健在、徳網茂一塁手が加わった下関市・大洋漁業を破り、別当薫、笠原和夫選手らをプロ野球に抜かれた大阪市・全大阪戦でも山村吉隆投手を打ち込み勝ちあがってきた。武末、野村の投手戦となったが、福岡市は3回の一死二・三塁に前川忠男遊撃手がスクイズを決めて、伴勇資捕手が生還、1点をあげ、これを武末が守り切った。三塁まで進んだのはこれ1回だけ。ワンチャンスをものにしたが、豊岡町は三塁を踏めなかった。

一方の準決勝は2回戦で富山市・全富山に29安打27点と記録に残る猛攻をみせた東京都・全藤倉が、早大出身者をズラリと並べた横浜市・金港倶楽部との準々決勝、延長10回スクイズでサヨナラ勝ちした別府市・星野組と対戦。エース荒巻淳投手が負傷欠場した別府市だったが、1回4番の永利勇吉捕手が米久保庄内投手に2ランを浴びせて、試合の主導権を握り、焦った東京都打線を長沢正二投手が4安打2点に抑え逃げ切った。

九州勢同士の決勝は武末投手が別府市を4安打1点に抑え、福岡市が初出場初優勝を飾った。福岡市は1回戦から5試合全部を不動のメンバーで戦った。橋戸貫は福岡市を優勝に導いた宮崎監督に贈られ、久慈賞は別府・永利捕手が受賞した。開、閉会式に米国野球協会(NBC)日本支部委員長でもあった連合軍総司令部経済科学局長のW・F・マーカット少将が来場「都市対抗野球大会を日本のアマチュア野球の代表決定戦たることを正式に承認する」と宣告した。



また晴い世相だったが、ファンはスタンドを埋め熱狂。

大会隆盛、初陣も9チーム

北陸地区が近畿から分離して、全国から20チームが集まった。第10回記念大会以来のチーム数。戦後3回目、都市対抗の人気も高く大会が軌道に乗った証拠でもあった。初出場は小樽市・小樽協会、盛岡市・盛岡鉄道局、前橋市・山藤商店、吉原市・大昭和製紙、四日市市・東洋紡富田、長浜市・大塚産業、八木市・中和クラブ、丸亀市・南海興業、福岡市・西日本鉄道の9チームにのぼった。3連覇を目指した推薦・大日本土木が初戦敗退の波乱の開幕だった。

優勝したのは初陣の福岡市だった。駿足好打好守の宮崎要二塁手が監督。前川忠男遊撃手と内野を締め、上野義秋一塁手、深見安博三塁手、塚本悦郎左翼手らの打線は破壊力十分。下手から浮きあがる速球と変化球の武末悉昌投手がエースだった。

1回戦は対前橋戦。右速球派の石田光彦投手、監督の倉本信護捕手、奥田元遊撃手、網島新八中堅手らが揃っていたが、延長の末、12回に福岡市が2点を奪って勝ち進んだ。小

決勝

別府市 (星野組)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 3 5 0 X | 8

福岡市 (西日本鉄道)

【別府市】	打安	【福岡市】	打安
⑤ 今久留主兄	4 0	④ 宮崎	3 1
⑨ 新留本	4 0	⑥ 崎川	4 0
③ 西本利	3 0	③ 野見	3 0
② 永水大	1 0	⑤ 前上	4 1
⑦ 17大塚	3 0	⑨ 野見	4 1
① 6大長	3 0	⑦ 崎本	3 1
⑧ 71三山	2 1	⑧ 大塚	4 0
⑥ 8三浦	3 1	① 武末	4 1
⑧ 71山本	0 0	② 伴	3 1
④ 今久留主弟	3 2		326
	264		安 4
投手	回 6	手末回	9 安 4
長 沢	6 3	武 壘打	深見 策
大 塚	1 3	別 壘打	併殺 福 1
三 浦	1 0	▽ 1時間	32分

武末粘投、別府を抑える

九州勢同士の対戦で互に手のうちを知りつくし、3回までは淡々と試合が進んだ。そして4回、別府市・星野組は二死二塁に山本が一・二塁間を破る適時打を放ち先取点をあげた。福岡市・西日本鉄道の武末は、無造作にストライクを取りにいった打たれたが、その後はアンダースローからの浮きあがる速球、変化球で別府打線を抑えた。

エース荒巻を負傷で欠いた別府は遊撃を守っていた長沢が先発、目先を変えらるピッチングで福岡を抑えていたが、慣れてきた6回、福岡は伴が四球、宮崎の好バントは内野安打になり、さらに敵失で満塁。一死後4番の深見が三遊間を破り、2者生還して逆転すると大崎も右前にタイムリー。別府は7回から大塚をマウンドにおくつか武末が安打すると、福岡はバントにつぐバントで別府守備陣をかき乱し、効果的な適時打を連らね、一挙に5点をあげて優勝を不動のものとした。強打の別府打線を4安打に抑えた武末の投球が光った。

空腹抱えイモ作りしながら練習

福岡市・西日本鉄道
伴勇資捕手



早大出身。特攻隊で終戦を迎え、21年2月西日本鉄道に入社。チームの要として活躍。プロ野球西鉄を経て柳川商監督、国土館大監督を歴任。現在国土館大教養部教授。

駐留軍がグラウンドを接収するという話があり「会社の野球部が使っているから止めて欲しい」との理由をつくるため、野球部が創設されたのが真相だった。昭和22年のことで、寄せ集めた野球好きが農場でイモをつくり、それを食べながら練習していた。上司の西亦次郎さんが、武末悉昌投手を引っばってきて、チームも形がで、23年に八幡製鉄に勝って都市対抗出場が決まったときはうれしかった。1次予選の決勝の日がストライキ当日とぶつ

かり、組合は「スト破りだから、試合をしてはダメだ」と言ってきたが、若い連中だけに「クビになってもいい」と試合を強行したのが強烈な思い出。

準決勝の豊岡物産との試合が一番苦しかった。野村武史投手がすばらしいピッチングで、技術では野村投手が上だったが、力では武末が勝っていた。武末はそのころ胆のう炎で、痛みをこらえながら投げているのだが、球威十分、受けて打たれる気はしなかった。

決勝は星野組とぶつかったが、エース荒巻淳投手が骨折で投げられないのかわかっていたし、それだけで勝てる気がしていた。当時の荒巻投手の速球とカーブはものすごく、練習試合も5回やっても1回か2回しか勝てなかった。2点取られたら、もうそこまで、のようなピッチングだったので、他の投手なら打てるとみんなが思っていた。

連日超満員のなかでの試合だし、炎天下のプレーを、あんな食糧事情が悪く、腹をすかせ、やせこけた体でよくやれたものだと、今でも感心する。都市対抗の優勝が、私のその後の人生をどれだけ支えてくれたか、はかり知れない。



連合軍のマーカット少将の開会式での始球式



福岡の攻撃の主力、(左から)大崎、宮崎、伴

エース骨折、無念の退場

大会切っの快速球左腕をうたわれた別府市・星野組のエース荒巻淳投手が準々決勝の対横浜市・金港倶楽部戦で骨折、準決勝から欠場した。

荒巻は8回先頭打者として三塁打を放ったが、三塁に滑り込んだとき右鎖骨を痛めた。生還して同点としたあと荒巻は9回を投げ、延長にはいり10回表も投げ切ったが、ここで激痛のため退場。

別府は10回に2安打とスクイズでサヨナラ勝ちしたもの、荒巻は日本医大飯田橋病院で検査の結果、右鎖骨骨折、全治2カ月とわかり入院した。



福岡・西日本鉄道を初優勝に導いた原動力、武末(右)と伴のバッテリー

優勝まで不動のメンバー

優勝した福岡市・西日本鉄道は1回戦から優勝するまでの5試合を交代選手なしの不動のメンバーで戦い勝ち抜いた。大会史上初めて。

福岡市のオーダーは次のとおり。

- ④宮崎 要
- ⑥前川忠男
- ③上野義秋
- ⑤深見安博
- ⑨大崎憲司
- ⑦塚本悦郎
- ⑧戸川須賀夫
- ①武末悉昌
- ②伴 勇資



1番・二塁手として福岡を引っ張り橋戸賞の宮崎監督



下手からの快速球と変化球で大活躍の福岡・武末投手



優勝してマ少将の祝辞を受ける西日本鉄道・宮崎監督

Vチームは世界大会代表

開会式でマーカット少将は「米国野球協会は、世界の主要国で行われている野球の国際大会に、将来日本を参加させることとした。これによって日本は国際アマチュア野球への参加資格を与えられることになり、日本に将来国際的競技出場の道が開かれたことになった」とあいさつ、さらに「本大会の優勝チームを、日本アマチュア野球の代表として正式に承認、世界の代表に与えられるのと同じトロフィーを贈る」と述べた。

大戦後、国際交流を制限されていた日本のスポーツ界にとっては画期的な声明で、大会顧問でもある中沢不二雄氏は「1939年（昭和14年）、米国で野球100年祭が行われたとき、現在行われている全世界アマチュア野球大会が計画され、そのとき委員会から日本にも招待状が来た。しかし事変のため実現しなかった。日本が実際に国際試合に出場できるのは、何年先になるかは分らぬが、その間に国際試

合出場にふさわしい力をつけなければならない」と感激した口ぶりで語った。

マ少将は閉会式にも姿をみせ「優勝したチームは日本の正式のチャンピオンとして、米国野球協会から承認される資格を得られたものであり、優勝までの経過を示す写真は世界各国に配布される全米野球年鑑に掲載される。私は本大会が世界のいかなるアマチュア野球大会に比べても、決してそんな色のないものであることを信じている」と述べ、トロフィーを寄贈するコココーラ会社の東京代表、R・D・スペンサー氏とマーカット少将のサインの入った証明書を福岡市西日本鉄道チームに手渡した。

MEMO

◇1試合最多安打29、最多得点27
東京都・全藤倉は2回戦の対富山市・全富山戦で、富山市の箕浦、吉崎、上原、島田の4投手に29安打を浴せ、27点をあげて達成した。



黒獅子旗をかかえて会社の寮の宿舎にかいせん。近くにある井の頭公園で記念撮影、初優勝に大喜ぶする福岡選手

感無量の長い掛け合い

中国連盟会長 池田立人



戦前の都市対抗、中国地区は全呉、米子鉄道が強く代表となり、戦後間もなく昭和21年には鯉城園、大洋漁業が代表となっている。連盟が発足した昭和24年の20回大会では大洋漁業が中国配電を14対0と一方的に下して後楽園に進出している。この当時は大洋漁業がプロ球団結成前の全盛期だった。大洋漁業、全下関など山口県勢に代って昭和27年の23回大会から岡山県より初めて岡山鉄道局が中国代表の座にすわり、27年、28年、30年の後楽園の本大会に出場、特に昭和28年には準決勝に初めて進出した。

その間各都市では同好者が結成した広島クラブ、松江クラブ、大社クラブなどクラブチームの善戦が目立ち、又山陰勢の米子鉄道、山陰信銀などの健闘も記録にみえる。

なお、後楽園出場の常連、倉敷レイヨンが初めて中国地区代表になったのは32年の28回大会で、このあと34年に一度中国予選が西中国代表（東洋紡岩国）、東中国代表（倉敷レイヨン）の2チームとなり翌35年から38年までは再び中国地区代表は1チームとなり39年からは2代表制が復活。第1、2代表決定戦が中国地区予選を面白くした。43年には初めて1県（岡山県）からクラレ岡山、三菱水島が揃って後楽園へ出た快挙があった。

クラレ岡山は倉レ時代を入れると戦後通算13回中国代表

として本大会最多出場を飾ったことは中国地区社会人野球に活気を与えるとともにその発展に寄与したことは特筆されるべきものであった。

岡鉄局、東洋紡岩国の3回がこれに続いている。そして48回からは広島県勢の台頭が目覚ましく、日本鋼管福山、三菱広島、電電中国などが活躍しているが、特に日本鋼管福山は田村忠義投手の健闘で中国地区のレベルアップに大いに貢献している。

51年には広島マツダが補強選手の活躍で準決勝進出を果たしている。54年は中国地区として大いに喜ぶべきことができ、それは三菱重工広島が補強選手新日鉄光（大町定夫投手）を中心にベテラン勢の大活躍で見事全国初優勝を飾ったことである。特筆大書すべきことであった。

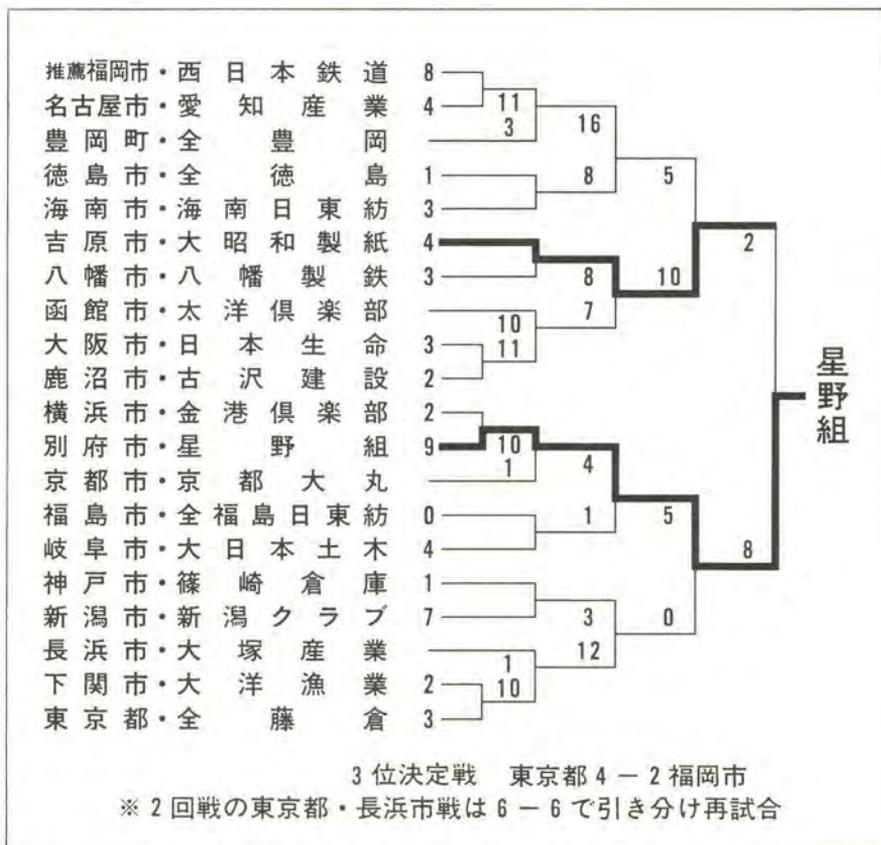
ただ残念なことはその後は各チームとも実力が発揮できず、停滞気味であることは誠に残念で憂慮している。

こうして振り返って見ると都市対抗野球との長い間の掛け合いは感無量なものがあり、色々と思い出も深いものがある。

しかし今後とも都市対抗を通じ中国地区社会人野球を大事に育てていきたいと思っている。

第20回大会 1949年(昭和24年)8月7日~14日・後樂園球場

優勝=別府市・星野組



回函館が服部投手の本塁打で試合を決めたかと思われたが、初出場とはいえ、主力選手は全大阪で経験十分の大阪はその裏、代打攻勢で2点を奪いサヨナラ勝ち。

東京・米久保庄内、長浜・大島信雄両投手が投げ合った試合も、2点をリードされた東京が9回米久保投手の適時二塁打と吉田正男一塁手のスクイズで同点。延長10回東京が相手のミスで1点をあげると、その裏長浜も坂井豊司遊撃手が還って日没引き分け。再試合は東京が長浜・鈴木晃投手を打ち込んだ。

優勝した別府は1回戦で南村不可止、柿島利彦、穎川三隆ら早大勢で固めた横浜市・金港倶楽部を荒巻投手が3安打に抑え、吉村英次郎、山本二郎投手に11安打を浴びせて快勝。準々決勝の岐阜市・大日本土木戦も7安打1点、準決勝で東京を完封、決勝に進んだ。

優勝候補の一角とみられた下関市・大洋漁業は戸倉勝城外野手、河内卓司内野手、徳網



閉会式で黒獅子旗を受ける星野組西本監督

協会発足 “祝砲” 27アーチ

この年の2月16日、毎日新聞東京本社に関係者が集まり、日本社会人野球協会が盛大に発足した。昭和10年に結成された都市対抗野球連盟が発展したもので、初代会長には宮原清氏が就任した。第20回記念大会は、毎日新聞社と日本社会人野球協会の初の共催大会である。

優勝したのは“火の球投手”をうたわれた荒巻淳投手を擁した別府市 星野組だったが、大会最多記録となった27本塁打が乱れ飛ぶなど、猛打の大会で、豪快な打撃戦がファンをわかせた。2回戦の函館市・太平洋倶楽部対大阪市・日本生命戦、東京都・全藤倉対長浜市・大塚産業戦はその典型でもあった。

函館・佐藤平七、服部力、大阪・松井実、片山公三の4投手に大阪は20安打を放ち、函館は17安打で、片岡博国捕手は5安打をマークした。延長12回に1点ずつを取り合い、14

茂捕手らのメンバーを描いていたが、1回戦で敗れ去り、プロ野球経験者が多かった福島市・全福島日東紡、鹿沼市・古沢建設も早々と姿を消した。もう一方の準決勝は前回優勝の福岡市・西日本鉄道と吉原市・大昭和製紙の対戦となった。福岡は武末悉昌投手がプロ入り、大崎憲司投手、伴勇資捕手のバッテリー。新加入の新留国良右翼手が大会新記録の4本塁打を放つ大活躍、宮崎要二塁手兼監督が好采配をみせた。吉原は前回初出場の新鋭だが朝比奈三郎、大道信敏両内野手、浅井礼三外野手らが強打を振るい、やや弱いとみられた投手陣を支えて勝ち進んできた。結局14安打で打ち勝った吉原が決勝に進出したが、荒巻投手に抑えられ、別府の誇る西本幸雄、関口清治、今久留主淳、功兄弟らが13安打を放ち、別府市の初優勝となった。

橋戸貫は投打に活躍した別府・荒巻投手、久慈賞は吉原・大道遊撃手が受賞した。

決勝

吉原市 (大昭和製紙)

0	1	0	0	0	0	1	0	2
0	0	4	0	0	0	4	0	8

別府市 (星野組)

【吉原市】	打安点振球	【別府市】	打安点振球
⑥	大山道	⑥	長沢
⑨	山西兄	⑤	今久留
④	飯浅	③	西本
⑧	久保木	⑧	関小
⑦	朝比奈	⑨	今久留
③	比奈島	④	久荒
③	大小	①	荒東
⑤	小原	②	荒東
①	9	⑦	白川
H	中山		
②	石坂		
④	山西		
	346171		

▽本塁打 大道▽二塁打 関口▽失策 吉3 別2

“火の玉投手”に橋戸賞

橋戸賞受賞の別府市・星野組の荒巻淳投手は1回戦から決勝まで5連投。2回戦の京都市・大丸戦は大差がつき、6回半ばで今久留主功二塁手にマウンドをゆずり、左翼の守りについたが4試合を完投。被安打24、奪三振19。内角低めにズバリと投げ込む速球、食いつくカーブは力があった。

なによりも外角へのシュートで打たせてとるピッチングを身につけた。初めて出場した第18回大会は力にまかせたピッチングで優勝した大日本土木の老練な打者たちに打ち込まれた反省もあってか、大きく成長して、みごとに大輪の花を咲かせた。

入場料

入場料金は前売りによる8日間通しの特別席が960円。当日売りは特別席120円、内野席80円、外野席50円。



星野組初優勝の原動力、橋戸賞を受けた荒巻淳投手

荒巻5連投、大旗獲得

5連投の別府市・星野組の荒巻は疲れもみせず、速球と鋭いカーブで力投、優勝の立役者となった。

2回吉原市・大昭和製紙は久保木の内野安打を足がかりに相手のミスで先取点をあげた。しかし別府は3回、長沢、西本の安打につづき関口が二塁打、さらに二死後今久留主功、荒巻が連安打、4点を奪って一気に逆転。

荒巻の威力十分な投球に吉原は5回、石坂が中前打するまで外野への打球がなかった。

別府はその後も走者を出しながら得点につながらなかったが、7回小俣、今久留主功の連安打でチャンスを広げ、白川、西本が適時打、4点を加え試合を決めた。

吉原は8回、大道が左翼本塁打を放ち1点を返したものの、外野まで飛んだのは、これが3本目。完全に荒巻に抑え込まれてしまった。

MEMO

◇1大会最多本塁打27本 本塁打ラッシュで、27ホームーが記録された。従来記録は第18回大会の12本。

◇1大会個人最多本塁打4 福岡市・西日本鉄道の新留国良右翼手が愛知産業・中村投手、全豊岡の金子投手から各1本、海南日東紡・山崎投手から2本を打って達成。1回戦から準々決勝まで3試合連続と、1試合2ホームーも新記録。

◇初の連続本塁打 2回戦の福岡市・西日本鉄道対豊岡町・豊岡物産戦で福岡市の深見安博三塁手、新留国良右翼手が6回の攻撃とともに外野席に打ち込んで達成した。

◇1試合最多安打37 2回戦の函館市・大洋倶楽部対大阪市・日本生命戦で延長14回、函館17、大阪20安打で記録した。

◇全員安打 準々決勝の東京都・全藤倉対新潟市・新潟クラブ戦で東京が記録。4度目。

壮烈、37安打乱れ飛ぶ

2回戦の函館市 大洋倶楽部と大阪市・日本生命の一戦は球史に残る壮烈な試合だった。

1回函館が2点をあげると、その裏大阪は3点。2回にも函館は4点を奪うなど、前半は打ち合いの展開で5回まで6-6。その後は2点ずつを加え、延長戦にもつれ込んだ。12回、函館は1点を取ったが、大阪もゆずらず、その裏に追いついた。



監督兼務で好采配をみせ、3番打者として20打数6安打7打点。チャンスに好打を放ち初優勝に導いた星野組・西本幸雄一塁手

さらに14回、函館は投手の服部が右翼本塁打、さしもの熱戦もケリがついたかと思われたが、大阪もその裏、藤江の安打からチャンスをつくり、函館内野陣のミスで同点とし、代打の小林が殊勲の適時二塁打を打ち、逆転のサヨナラ勝ち。

函館は2本塁打、3三塁打、3二塁打を含む17安打、大阪も1本塁打、2三塁打、6二塁打を含む20安打。野球の楽しさを満喫させた3時間18分の熱闘だった。

こちらにも熱戦、日没再試合

引き分け再試合となった2回戦の東京都・全藤倉対長浜市・大塚産業戦もファンを熱狂させる大接戦だった。

東京・米久保、長浜・大島両好投手の投げ合いで、投手戦が予想されたが、ともに打線が好調で打ち込んだ。

東京が4回、3点をあげて逆転すると、長浜も小刻みに得点して6回に追いつき7回に逆転。8回には大島が本塁打を打ち、トドメを刺したかと思われたが、東京も土壇場の9回、米久保が二塁打して1点差とし、バントで送ると吉田がスクイズを決めて同点。

その勢で東京は10回、先頭の小林が三塁打、一死一・三塁としながら、清水の投ゴロでホームを突いた小林が刺され、チャンスはつぶれたかと思えた。しかし長浜の捕手の早川が二塁に無用の送球をする間に大松の生還を許し、東京がリード。

だが長浜もその裏二死二塁に、その早川が米久保のカーブを三遊間突破の適時打して追いつき、日没引き分けとなった。

ともに12安打の攻撃で見応えのある打撃戦だった。

2年越しの黒獅子旗

別府市・星野組
西本 幸雄監督兼一塁手



立大出身。戦後全京都から都市対抗に出場。星野組に移りチームのけん引手として優勝。25年プロ入り。大毎、阪急、近鉄の監督として優勝に導く名將の一人。現在解説者。

第20回大会は私たちににとっては、捲土重來の夏であった。というのは前年の第19回大会でも黒獅子旗を狙えたのに果せなかった口惜しい思いがあったからだ。

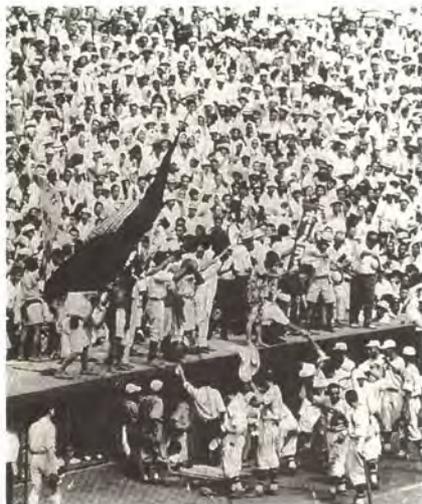
前大会の第6日目、準々決勝で横浜の金港倶楽部と対戦した。1点を追った8回裏のうちの攻撃のときだった。投手の荒巻が長打を打ち、三塁へ猛烈なヘッドスライディング。その瞬間、なんとも形容しがたい音がした。でも荒巻はそのままプレーを続け、同点とし

て延長戦も投げて10回サヨナラ勝ちした。痛さをこらえていた荒巻だが、試合後病院に行くこと右鎖骨骨折で即入院。補強制度などない時代で、エースの欠場は両腕をもちれたも同然。肩の強い遊撃手の長沢をインスタント投手にして決勝までいったのだが、武末のいた同じ九州の西日本鉄道に敗れてしまった。荒巻さえいればの思いが、みんなの胸にあった。

それだけに、この大会は「なんとしても」と全員が一丸となった。回復した荒巻も力むことなく好投して、決勝で大昭和製紙を破り初優勝したときは、2年越しに夢みた黒獅子旗を握って、熱い涙がこぼれたのをいまでも覚えている。

プロ野球界が2リーグに分裂したこともあり、この優勝を最後に私をはじめ 荒巻、今久留主兄弟らが毎日オリオンズにはいり、星野組は解散した。

黒獅子旗を抱えて別府に戻ったときの歓迎ぶりはずごかった。そのころはまだオープンカーなどなく、消防車で別府の市内をパレードしたのも、忘れられないなつかしい思い出である。



準優勝で引きあげる大昭和ナインと超満員の応援団

1回戦

福岡市 (西日本鉄道)

0 1 1 0 2 4 0 0 0 | 8
2 1 0 0 0 0 0 1 0 | 4

名古屋市 (愛知産業)

福岡市	打安点	名古屋市	打安点
④ 宮崎	4 1 0	⑤ 滝野	4 1 0
② 伴	5 1 0	⑧ 久野	3 1 1
⑧ 上野	4 2 0	H 木下	1 1 0
⑤ 野見	4 1 1	⑨ 伊藤	5 0 0
⑨ 深新	5 3 4	⑦ 伊大	4 0 0
⑦ 塚川	5 1 1	④ 大永	4 0 1
③ 本口	3 1 0	⑥ 杉田	4 3 1
③ 水大	2 0 0	② 佐藤	4 3 0
① 水大	4 1 1	① 中村	1 0 0
⑥ 大前	3 0 0	① 谷栗	1 0 0
	3 9 1 7	H 小長	1 0 0
		③ 小長	4 2 0

振球機盗失残併 4 4 1 1 振球機盗失残併 3 6 1 1 3
▽本塁打 新留▽二塁打 上野 川口 新留
▽1時間47分

1回戦

鹿沼市 (古沢建設)

0 0 1 1 0 0 0 0 0 | 2
0 1 0 0 2 0 0 0 X | 3

大阪市 (日本生命)

鹿沼市	打安点	大阪市	打安点
⑥ 奥田	3 0 0	⑦ 武川	3 1 0
② 坂田	4 2 0	④ 藤瀬	4 1 0
⑨ 田部	4 3 1	⑨ 片山	4 1 2
⑦ 武大	4 0 0	⑤ 山口	3 0 0
⑤ 笠塚	4 0 0	③ 藤山	4 1 0
③ 大倉	2 1 1	② 岡井	4 0 0
④ 本本	3 0 0	① 皆村	2 0 0
① 西	3 0 0	⑥ 村山	3 0 0
⑧ 大宮	3 0 0	⑧ 弘世	3 2 1
	3 0 6 2		3 0 6 3

振球機盗失残併 4 1 3 振球機盗失残併 1 2 2
▽二塁打 田部 片山▽1時間29分

1回戦

別府市 (星野組)

0 0 0 0 1 4 1 1 2 | 9
0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2

横浜市 (金港倶楽部)

別府市	打安点	横浜市	打安点
⑥ 長沢	3 1 0	⑥ 柿島	4 0 0
⑤ 今久留	4 0 1	⑦ 芳野	4 1 0
③ 西本	4 0 0	⑧ 野村	4 1 0
⑧ 関本	5 1 0	⑤ 南	2 1 1
⑨ 小保	3 2 0	③ 岡	2 0 0
① 荒巻	4 1 0	3 島田	1 0 0
④ 今久留	5 3 4	H 津村	1 0 0
② 東	5 1 1	⑨ 原本	2 0 0
⑦ 白川	5 2 2	② 岡吉	2 0 0
	3 8 1 1 8	① 山本	2 0 0
		② 川本	1 0 0
		④ 山本	3 0 0
		④ 藤	0 0 0
			2 8 3 1

振球機盗失残併 1 7 2 振球機盗失残併 0 4 2
▽三塁打 東口 今久留主弟 ▽二塁打 小保 関口 今久留主弟2 芳野兄▽1時間49分

1回戦

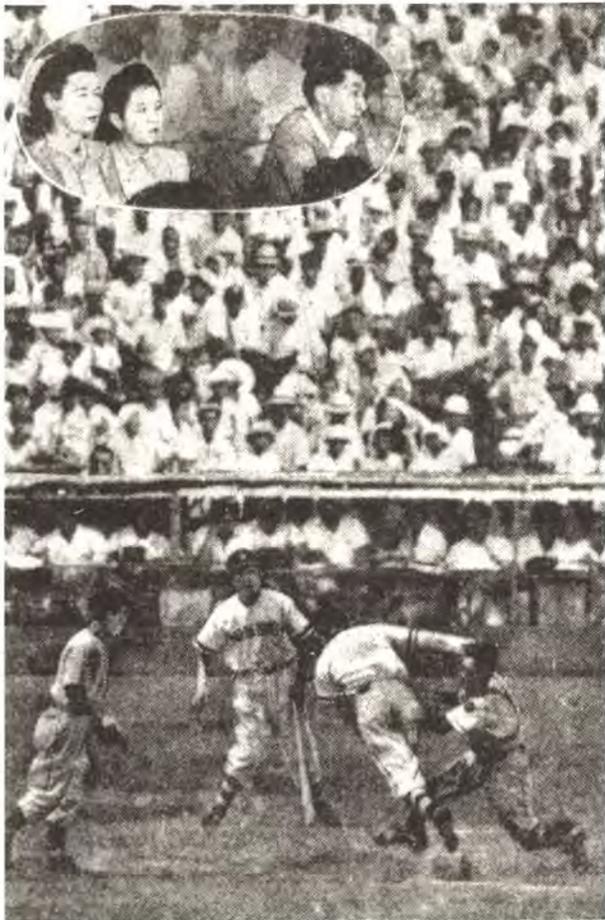
下関市 (大洋漁業)

0 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0 | 1

東京都 (全藤倉)

下関市	打安点	東京都	打安点
⑧ 矢野	5 0 0	⑥ 大館	4 1 0
④ 長富	5 2 0	⑨ 清水	5 2 0
② 徳網	5 0 0	⑧ 田	5 1 0
⑨ 戸倉	4 0 0	⑦ 小	5 1 0
⑥ 河内	5 0 0	④ 加藤	3 1 0
⑤ 壺内	5 2 0	③ 5 大	4 1 0
③ 森	4 1 1	⑤ 馬松	2 0 0
① 寺嶋	5 1 1	② 武田	3 0 0
⑦ 野	5 0 0	② 米久	2 2 1
	4 3 6 2	① 保	1 0 0
		② 東	1 0 0
		③ 吉	3 1 1
			3 7 1 0 2

振球機盗失残併 3 2 2 振球機盗失残併 2 6 4
▽三塁打 森
▽二塁打 寺嶋 吉田 田坂▽2時間15分



大阪対鹿沼。3回大阪は川瀬が本盗を試みたがタッチアウト。打者山口。円内右端は高松宮殿下

2回戦

海南市 (海南日東紡)

1 0 0 0 1 0 0 1 0 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

徳島市 (全徳島)

【海南市】	打安点	【徳島市】	打安点
④	鍋島 4 0 0	④	須本 3 0 0
⑤	橋田 3 1 1	⑤	岸開 3 0 0
⑦	吉田 4 2 1	③	新平 3 0 0
⑧	前山 4 0 0	⑧	大丸 4 2 0
⑨	前田 4 0 0	⑤	大平 4 0 1
②	山本 3 1 1	⑥	大増 4 0 0
③	中野 3 0 0	②	石田 2 0 0
①	和野 4 0 0	2	石屋 1 1 0
⑥	矢野 4 0 0	①	笠波 3 0 0
	南 4 0 0	①	高本 1 1 0
	振球機盗失残併	⑦	藤本 4 1 0
	2 6 3		振球機盗失残併
			3 3

▽本塁打 岩橋▽1時間32分

2回戦

福島市 (全福島日東紡)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 3 0 1 X | 4

岐阜市 (大日本土木)

【福島市】	打安点	【岐阜市】	打安点
④	山口 4 1 0	③	畑村 4 3 0
②	井島 3 1 0	⑥	中瀬 3 2 1
⑧	岩崎 3 0 0	⑦	藤加 4 2 0
⑨	中岩 3 0 0	⑧	伊井 4 1 0
③	池端 3 1 0	⑨	加坪 4 1 1
⑤	松川 3 0 0	⑤	後藤 3 1 0
⑦	林田 3 1 0	①	田山 4 2 0
①	武大 3 0 0	②	杉中 3 0 0
⑥	沢田 3 0 0	④	村崎 1 0 0
	振球機盗失残併	4	村中 2 0 0
	5 0 1		振球機盗失残併
			4 2 0

▽本塁打 村瀬 坪井▽二塁打 加藤 畑中
▽1時間22分

2回戦

八幡市 (八幡製鉄)

0 0 0 0 0 0 0 3 0 | 3
0 2 1 0 0 0 0 1 X | 4

吉原市 (大昭和製紙)

【八幡市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑥	三浦 4 1 0	⑥	大道 4 0 0
④	浦頭 4 0 0	⑨	山西 4 0 0
⑤	鬼口 4 2 2	⑧	浅井 4 3 1
⑦	江笠 2 0 0	⑦	久保 4 2 0
⑧	笠前 2 0 0	③	朝比 3 0 0
⑨	田川 4 0 0	⑤	小原 4 2 0
②	増井 2 0 0	①	小石 3 2 2
7	荒井 1 0 0	②	石坂 3 2 1
H	井原 1 0 0	④	山西 4 1 0
③	吉村 3 0 0		振球機盗失残併
H	馬場 1 0 0		0 2 4
①	大庭 2 0 0		
1	大野 1 0 0		
	振球機盗失残併		
	5 4 1		

▽本塁打 浅井▽三塁打 久保木▽二塁打 小原
▽1時間46分

2回戦

新潟市 (新潟クラブ)

0 0 0 0 0 1 2 4 0 | 7
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1

神戸市 (篠崎倉庫)

【新潟市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑥	平沢 5 3 2	④	高島 4 1 0
④	土内 5 1 1	⑤	梶木 4 1 0
⑤	小野 4 0 0	③	森田 4 2 1
①	石黒 5 1 1	⑧	田原 4 0 0
⑨	児玉 5 0 0	⑦	田村 3 0 0
②	見鈴 4 1 0	⑥	古家 4 0 0
⑦	皆川 4 1 0	①	梶原 4 0 0
③	野井 2 0 0	⑨	間世 3 1 0
7	本間 1 0 0	②	藤尾 2 0 0
⑧	柄沢 2 0 0		振球機盗失残併
	振球機盗失残併		4 2 5
	8 4 1		

▽二塁打 森田▽1時間36分

2回戦

福岡市 (西日本鉄道)

1 1 0 0 1 8 0 0 0 | 11
0 0 0 1 0 0 1 1 0 | 3

豊岡町 (全豊岡)

【福岡市】	打安点	【豊岡町】	打安点
④	宮崎 4 1 1	⑧	横関 5 1 0
②	伴野 5 1 2	④	千頭 4 0 0
⑧	上野 4 1 1	③	高橋 3 1 0
⑤	深見 5 1 2	②	長島 3 0 0
⑨	新留 5 3 1	⑦	長門 4 1 2
⑦	塚本 5 2 0	⑥	増古 4 0 0
③	水口 3 0 1	①	田谷 2 0 0
3	城崎 1 0 0	①	金子 2 1 0
①	大前 4 1 1	9	野野 1 0 0
⑥	川崎 4 2 0	7	佐野 3 2 1
	振球機盗失残併	⑤	山田 3 0 0
	4 0 1 2 9		振球機盗失残併
	6 3 3		4 4 3

▽本塁打 深見 新留▽三塁打 前川▽二塁打 宮崎 新留▽1時間37分

2回戦

函館市 (太洋倶楽部)

2 4 0 0 0 2 0 0 0 0 1 0 1 | 10
3 0 2 0 1 0 2 0 0 0 0 1 0 2 | 11

大阪市 (日本生命)

【函館市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑥	猪子 5 1 0	⑦	武藤 6 2 0
⑦	浅井 6 1 0	④	川瀬 5 1 0
⑨	大山 7 2 1	⑨	片山 7 2 1
②	岡藤 7 5 4	⑤	藤江 7 3 2
①	片藤 1 0 0	③	山口 6 3 3
1	折田 4 1 1	②	岡中 6 3 2
③	明田 7 2 0	R	皆次 0 0 0
⑧	石野 5 1 0	2	中井 1 0 0
8	飯塚 1 1 1	9	松井 6 3 2
④	海野 6 1 0	⑥	村山 3 0 0
⑤	田辺 5 2 2	H	外山 2 0 0
	振球機盗失残併	9	山林 1 1 1
	4 2 4	⑧	弘世 5 2 0
			振球機盗失残併
			7 3 4

▽本塁打 藤江 田辺 服部▽三塁打 片岡 武藤 藤江 飯塚▽二塁打 猪子 山口 山下 皆岡 武藤 田辺 小林▽3時間18分

2回戦

京都市 (大丸)

0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
1 0 3 2 0 3 0 1 X | 10

別府市 (星野組)

【京都市】	打安点	【別府市】	打安点
④	林井 3 1 0	⑥	長沢 4 3 3
⑤	保川 4 1 1	⑤	今留主 4 1 1
⑦	井瀬 4 0 0	⑧	西本 5 2 3
⑧	坂元 4 0 0	③	関口 5 2 3
⑥	安西 4 0 0	⑨	関侯 5 0 0
⑨	瀨原 3 0 0	①	荒巻 5 0 0
9	山口 1 0 0	④	今留主 4 1 0
①	清田 2 0 0	⑦	東川 3 1 0
1	野村 1 0 0	②	浅川 3 1 0
②	野井 2 1 0	4	振球機盗失残併
2	藤野 0 0 0		2 3 2
③	藤井 1 1 0		
6	福井 1 0 0		
	振球機盗失残併		
	3 0 4 1		

▽本塁打 長沢 西本▽三塁打 長沢
▽1時間26分

2 回戦

東京都 (全藤倉)	0 0 0 3 0 0 0 0 2 1 6
長浜市 (大塚産業)	0 0 1 0 1 1 1 1 0 1 6

【東京都】	打安点	【長浜市】	打安点
⑥ 大 館	5 2 2	④ 増山	4 1 0
⑨ 3 吉 田	4 1 1	⑥ 井 崎	4 0 0
⑧ 9 8 9 田坂	5 0 0	① 坂 大	4 2 2
⑦ 7 小 林	5 3 0	⑦ ② 乾 川	5 1 0
④ ⑤ 土加	0 0 0	③ ③ 早 万	5 3 2
⑤ H 大 馬	5 2 0	③ ③ 増 山	4 0 0
⑤ ① 烟	3 1 0	③ ③ 早 万	3 2 0
⑧ 7 8 清 水	3 1 0	⑤ ⑤ 北 村	3 1 1
① ② 米久保	1 0 0	⑧ ⑧ 北 村	4 2 1
② ① 伍	4 1 1		3 6 1 2 6
	2 1 1		
	3 8 1 2 5		

振球機盗失残併 3 1 2
 ▽本塁打 北村 早川 大島▽三塁打 辻 小林
 ▽二塁打 乾 米久保▽2時間41分

2 回戦 (再試合)

長浜市 (大塚産業)	0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 1
東京都 (全藤倉)	1 5 0 1 3 0 0 0 0 X 10

【長浜市】	打安点	【東京都】	打安点
④ 増山	3 1 0	⑥ 大 館	5 1 2
⑥ 坂 大	4 1 0	⑧ 清 水	5 1 1
⑨ 3 乾	4 0 0	⑨ 坂 大	5 3 2
⑦ 乾	4 0 0	⑦ 田 小	5 2 1
③ ② 早 万	3 1 0	④ 小 加	4 0 0
③ ③ 川 谷	1 0 0	③ ③ 加 吉	4 1 0
② ② 山 本	3 1 0	⑤ ⑤ 馬 岩	4 1 1
① ① 増 山	3 0 0	① ① 鈴 庭	4 1 2
H 堀 江	1 0 0	② ② 伍 東	2 1 1
⑤ 辻 村	3 1 0		3 8 1 1 1 0
⑧ 北 村	3 1 1		
	3 2 6 1		

振球機盗失残併 7 2 4
 ▽三塁打 辻▽二塁打 清水 田坂 大館 吉田
 ▽1時間47分

準々決勝

海南市 (海南日東紡)	1 0 3 1 0 0 3 0 0 8
福岡市 (西日本鉄道)	0 0 3 4 5 3 1 0 X 16

【海南市】	打安点	【福岡市】	打安点
④ 鍋 島	5 2 0	④ 宮 崎	3 0 1
⑤ 岩 橋	5 2 0	② 伴 崎	5 3 5
⑦ 吉 田	5 2 2	⑧ 上 野	4 2 4
⑨ 前 山	5 3 3	⑤ 見 留	4 1 1
⑧ 本 中	5 1 2	⑨ 留 留	4 2 2
② ③ 山 和	3 1 0	⑦ ⑦ 本 口	5 1 0
③ ③ 野 尾	4 1 0	③ ③ 本 崎	4 1 0
① ① 青 山	1 0 0	① ① 大 崎	3 0 0
① ① 青 山	0 0 0	⑥ ⑥ 崎 川	3 1 1
① ① 青 山	2 1 0		3 5 1 1 1 4
⑥ 南	4 1 1		
	3 9 1 4 8		

振球機盗失残併 3 1 2
 ▽本塁打 新留 2 伴 山本▽三塁打 吉田 伴
 ▽二塁打 吉田 矢野 前田 塚 本▽2時間11分

準々決勝

大阪市 (日本生命)	2 0 0 0 0 0 0 3 2 7
吉原市 (大昭和製紙)	2 0 1 0 0 0 5 0 X 8

【大阪市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑦ 武 藤	4 0 0	⑥ 大 道	4 3 1
④ ④ H 小 井	4 0 0	⑨ ⑨ 山 西	4 0 0
④ ④ H 小 井	1 0 0	⑨ ⑨ 兄 崎	1 0 0
⑨ ⑨ 片 山	0 0 0	⑨ ⑨ 中 尾	0 0 0
⑤ ⑤ R 藤 村	4 2 0	④ ④ 飯 島	0 0 0
③ ③ ② 山 中	5 1 0	⑧ ⑧ 淺 井	4 1 0
③ ③ R 中 村	0 0 0	⑦ ⑦ 保 木	3 1 0
① ① ⑥ 松 井	5 4 3	③ ③ 朝 比	3 2 2
① ① ⑧ 松 井	4 1 2	⑤ ⑤ 朝 比	4 3 3
① ① ⑧ 松 井	0 0 0	① ① ④ 1 9 小	4 1 1
	5 2 0	② ② 小 石	4 2 0
	3 0 0	④ ④ ① 4 1 山	4 1 1
	2 1 1		3 5 1 4 8
	4 1 1		
	4 1 1 2 7		

振球機盗失残併 4 3 0
 ▽本塁打 大道▽二塁打 浅井 片山 山口
 皆岡 ▽2時間8分

準々決勝

別府市 (星野組)	3 0 1 0 0 0 0 0 0 4
岐阜市 (大日本土木)	0 1 0 0 0 0 0 0 0 1

【別府市】	打安点	【岐阜市】	打安点
⑥ 長 沢	4 0 0	③ 烟 中	4 1 0
⑤ ⑤ 今 留	4 2 0	⑦ ⑦ 藤 藤	2 1 0
③ ③ 西 本	3 0 0	⑥ ⑥ 村 伊	4 1 0
③ ③ 関 本	3 3 1	⑧ ⑧ 加 坪	4 0 0
⑨ ⑨ 今 留	4 1 2	⑨ ⑨ 藤 井	3 0 0
④ ④ 今 留	4 1 1	⑤ ⑤ 後 藤	3 0 0
① ① ② 荒 巻	3 0 0	H ① 中 山	1 0 0
② ② ⑦ 荒 東	3 0 0	④ ④ 奥 村	4 0 0
	3 0 0	② ② 田 中	3 1 0
	3 1 7 4	④ ④ 杉 崎	3 3 1
			3 1 7 1

振球機盗失残併 1 2 0
 ▽本塁打 関口▽三塁打 今久留主弟▽二塁打 小侯 ▽1時間30分

準々決勝

新潟市 (新潟クラブ)	2 0 0 0 1 0 0 0 0 3
東京都 (全藤倉)	5 0 3 1 3 0 0 0 X 12

【新潟市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 平 沢	4 2 1	⑥ 大 館	4 2 0
④ ④ 小 野	4 0 0	⑧ ⑧ 清 水	5 2 0
⑤ ⑤ 小 野	2 0 0	⑦ ⑦ 田 坂	5 2 2
⑦ ⑦ 小 野	2 1 0	⑨ ⑨ 田 坂	5 2 1
① ① ① 石 黒	4 2 0	④ ④ 加 茂	5 2 0
⑨ ⑨ 児 児	4 0 1	⑤ ⑤ 吉 馬	5 1 0
② ② ⑦ 3 皆 木	4 1 0	③ ③ 米 久	3 3 4
③ ③ ⑧ 土 内	4 0 0	② ② 伍 東	4 1 2
⑤ ⑤ 柄 沢	2 0 0		4 1 1
	2 1 0		4 0 1 6 1 0
	2 1 0		
	3 4 8 2		

振球機盗失残併 4 1 4
 ▽本塁打 馬庭 米久保▽三塁打 柄沢
 ▽二塁打 平沢 清水 吉田▽1時間21分

準決勝

吉原市 (大昭和製紙)	0 0 0 5 0 4 0 1 0 10
福岡市 (西日本鉄道)	2 0 0 1 0 0 1 1 0 5

【吉原市】	打安点	【福岡市】	打安点
⑥ 大 道	4 2 1	④ 宮 崎	3 0 0
⑨ ⑨ 山 西	5 1 0	② 伴 崎	4 2 1
⑧ ⑧ 淺 井	5 2 3	⑧ ⑧ 上 野	4 2 0
⑦ ⑦ 朝 比	4 2 0	③ ③ 新 塚	3 1 2
③ ③ 朝 比	5 1 2	⑦ ⑦ 塚 本	4 1 1
⑤ ⑤ 小 原	5 3 1	③ ③ 水 城	1 0 0
① ① 小 川	5 2 0	⑤ ⑤ 藤 本	3 1 0
② ② 小 石	5 1 2	① ① 8 9 大	4 1 0
④ ④ 山 西	5 0 0	⑥ ⑥ 辻	4 1 1
	4 3 1 4 9		3 3 9 5

振球機盗失残併 1 2 2
 ▽本塁打 浅井 塚本▽三塁打 久保木
 ▽二塁打 浅井 伴 小原▽1時間47分

準決勝

東京都 (全藤倉)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
別府市 (星野組)	2 0 0 0 0 0 3 0 X 5

【東京都】	打安点	【別府市】	打安点
⑥ 大 館	4 1 0	⑥ 長 沢	4 2 0
⑧ ⑧ 清 水	4 1 0	⑤ ⑤ 今 留	4 1 2
⑨ ⑨ 坂 大	4 0 0	③ ③ 西 本	4 1 1
⑦ ⑦ 田 小	4 0 0	⑧ ⑧ 関 本	4 0 1
④ ④ 4 武 田	1 0 0	④ ④ 今 留	4 1 0
H 久 保	2 0 0	① ① 荒 巻	3 2 0
⑤ ⑤ 吉 馬	1 0 0	② ② 荒 東	2 1 0
① ① 伍 東	4 2 0	⑦ ⑦ 東 白	3 2 0
② ② 伍 東	3 1 0		3 1 1 0 4
	3 0 0		
	3 3 6 0		

振球機盗失残併 4 0 1
 ▽二塁打 吉田 東口▽1時間34分

3位決定戦

福岡市 (西日本鉄道)	0 0 2 0 0 0 0 0 0 2
東京都 (全藤倉)	0 0 0 0 0 1 3 0 X 4

【福岡市】	打安点	【東京都】	打安点
④ 宮 崎	4 2 0	⑥ 大 館	4 1 0
② 伴 崎	5 1 0	⑧ ⑧ 清 水	3 0 0
⑧ ⑧ 上 野	4 2 0	⑨ ⑨ 田 坂	3 2 2
⑨ ⑨ 塚 本	4 2 0	⑦ ⑦ 田 坂	4 1 0
⑦ ⑦ 塚 本	4 1 1	③ ③ 吉 田	4 2 1
③ ③ 水 城	3 0 0	④ ④ 土 馬	2 0 0
③ ③ 水 城	1 0 0	⑤ ⑤ 井 庭	4 1 0
⑤ ⑤ ① 大	3 1 0	① ① 米 久	3 1 1
⑥ ⑥ 辻	4 2 0	② ② 武 田	3 1 0
	4 0 0		3 0 9 4
	3 6 1 1 1		

振球機盗失残併 6 3 1
 ▽本塁打 米久保▽三塁打 田坂▽二塁打 新留
 田坂▽1時間23分



東京対下関。東京は12回、吉田が二塁打を放ち米久保生還してサヨナラ勝ち。捕手・徳綱

3度の全国優勝

九州連盟会長 水野 勲



八幡製鉄チームが都市対抗野球で初優勝をなし遂げたのは、昭和12年、第11回の神宮球場においてであった。超ド級のスラッガー大岡虎雄君を中心とする大型打線も、確かによく打ったが、角地孫之助投手の活躍が目覚ましかった。4試合投げ通し、決勝戦の対東京倶楽部戦では、東京六大学出の名選手を抑え込んで3安打、1点しか許さなかった。この角地投手が橋戸賞に輝いたのは当然だった。

私がはじめて社会人として八幡製鉄に入社したのは、この年の4月で福利課というところに配属されたが、そこに角地君がいて、年の頃も同じですぐ仲良しになった。同期入社の新入社員でナインに加わったのに、石山（旧姓塩田、立大）、高島（法大）、阿部（横浜重工）の3名がいて、準決勝の対川崎コロムビア戦で石山君が満塁逆転ホームランをカッ飛ばすなど、新人ながら大活躍をした。

身近な友人たちの連日の奮闘に、1ファンとして私自身も大いに熱狂したが、優勝を決めた日の現地八幡の興奮は大変なものだった。製鉄所の従業員はもちろん、八幡市民挙げて歓喜に湧きに湧いた。1年生社員として都市対抗野球のもつ素晴らしいエネルギーに圧倒される思いだった。

前年の第10回大会では、地元のライバル門司鉄道局チームが初優勝を果しており、九州チームとしては連続優勝だったことも、この喜びを倍加したのだった。

九州チームの2連覇は、こののち、もう1度ある。昭和23年の福岡西日本鉄道、翌年の別府星野組が揃って黒獅子旗を手中にした。この時期は戦後九州勢のいわば黄金時代だったが、その当時八幡の野球部長をしていた私にとっては、切歯やく腕の数年だった。

八幡チームが2回目の優勝の栄冠に輝いたのは、昭和29年、第25回大会である。この年は25回の記念大会ということで、九州からは従来の2チームが3チームということで、

第1次予選で敗れた八幡が、第3代表として辛うじて出場という幸運に恵まれた。自他ともに優勝など思ってもいなかったことが、予想外の結果をもたらしたのだろう。高崎鉄道、日本生命、全鐘紡、日鉄釜石と強豪を連破し、1戦ごとに強くなってゆく感じで、決勝の対東京藤倉は、もっとも楽なゲームだった。なんとといっても福嶋、畑間の両投手と小林捕手とのコンビが絶妙だったし、橋戸賞の井原三塁手（現山本）の好守好打が光った。

後樂園球場のダッグアウトの上から、スタンドの大応援団への感激のあいさつ、八幡に帰ってからパレード、そして製鉄所社員、市民の歓呼にこたえての優勝報告など、野球部長というものは、こんなにも楽しいものかと、部長在任8年目にしてやっと味わい得た感動だった。

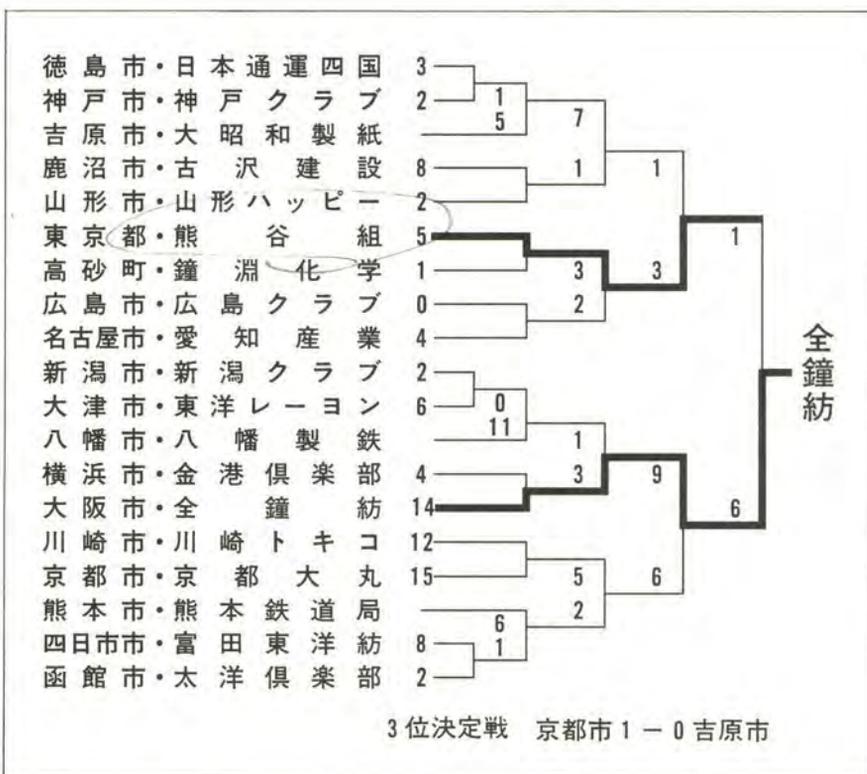
この時以来、九州野球チームは1度も優勝していない。黒獅子旗、関門を越えざること、実に34年の長さにわたっている。九州連盟の会長として、九州チームの栄光を夢みること一再でない。

都市対抗野球の想い出として、いまひとつつけ加えねばならないことがある。昭和46年、第42回大会で、新日鉄広畑チームが優勝したとき、私は広畑製鉄所長をしていた。私としては初めて広畑へ勤務して僅か1年数ヶ月にして、この感激を味わせて頂いたのだ。当時の広畑チームに何と感謝の言葉を捧げるべきかを知らない。と同時にここで不思議なめぐり合わせを思う。私が社会人1年生の時の昭和12年の八幡の第1回優勝、野球部長としての昭和29年の第2回優勝。そして製鉄所長としての昭和46年の広畑優勝。何れも私の人生にとっての最大の痛快事であるが、その3度の優勝の間隔が、なんと何れも17年目ということになっているのだ。

（現在、新日鉄顧問）

第21回大会 優勝=大阪市・全鐘紡

1950年(昭和25年)8月6日-8月14日・後樂園球場



は、チームが解散したのをはじめ、社会人球界から100人を越える選手がプロ球界に移った。

都市対抗野球のレベル低下、衰退を懸念した関係者は、この大会から各都市の代表として最強チームを編成、後樂園に出場させようと「補強制度」を採用した。

そして社会人野球に情熱を燃やす全鐘紡、熊谷組、大昭和製紙など新しい旗手となった企業チーム、戦前からの古豪、八幡製鉄、日本生命、全国各地の鉄道局、そして函館大洋倶楽部、横浜金港倶楽部、新潟クラブなどが新しい意気込みで立ちあがり、以前に劣らぬ活発な大会となった。

8月6日、予選を勝ち抜いた19チームが集まり開会式が行われた。席上、マークット少将は、マッカーサー元帥のメッセージを伝え、世界アマチュア野球選手権大会委員長の立場で「都市対抗優勝チームを主体とした全日本と米国優勝チームが9月に東京、大阪で戦う」と宣言、意義深い大会となった。

優勝したのは新鋭、大阪市・全鐘紡だった。古豪・日本生命を予選で破り、慶大出の町田重信新監督は、片山公三投手、皆岡秀雄捕手、松井実内野手を日本生命から補強、新人の吉岡宏三塁手、岩中秀和、高橋久雄両外野手の慶大トリオ、山村吉隆投手、博敏外野手の兄弟らを思いのまま働かせた。横浜市・金港倶楽部に圧勝、八幡市・八幡製鉄も倒すと、準決勝の京都市・京都大丸も前半で勝負をつける勢だった。

初出場の東京・熊谷組も補強を生かした。予選で破った藤倉電線からキャリア十分の米久保庄内、岩崎鶴雄両投手、大館盈六遊撃手、吉田正男外野手を加え、ファイト満々の榎田由美彦捕手をカナメに元気いっぱいだった。初戦は延長の末高砂町・鐘淵化学を破り、5年連続出場の名古屋市・愛知産業にも競り勝った。準決勝の吉原市・大昭和製紙は前回決勝まで進んだ大道信敏、浅井礼三、朝比奈三郎ら好選手がいるだけに苦しいと思われたが、あくなき挑戦者魂でぶつかり、岩崎投手が完投勝ち。

決勝では大阪が地力を発揮したが、この大会は鐘紡時代の幕開けともなった。

橋戸賞は大阪市・高橋久雄右翼手を受賞、久慈賞は東京都・榎田由美彦捕手に贈られた。

補強制度でパワーアップ



開会式であいさつするGHQのマークット少将

昭和24年のシーズンオフ、プロ野球はセントラル、パシフィックの2リーグに分裂、一挙にチームが増加、社会人球界は選手の「引き抜き」にあって大きな打撃を受けた。荒巻淳投手、監督業務の西本幸雄一塁手を擁し、前回優勝した別府市・星野組や第19回大会で初出場初優勝を果たした福岡市・西日本鉄道

決勝

大阪市 (全鐘紡)
2 1 0 0 0 0 2 1 0 6
0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
東京都 (熊谷組)

【大阪市】	打安点振球	【東京都】	打安点振球
⑤	5 2 2 1 0	⑥	4 1 0 1 1
④	5 1 0 0 0	⑧	4 1 0 0 1
⑧	5 2 0 1 0	⑨	4 0 0 0 1
⑨	3 2 1 1 1	③	4 1 0 0 0
②	2 0 0 0 0	②	4 0 0 0 0
H	1 0 0 0 0	⑦	4 1 0 0 0
2	1 0 0 0 0	⑤	4 2 0 0 0
⑦	3 0 0 1 1	①	0 0 0 0 0
①	3 0 0 0 0	1	4 2 0 0 0
1	1 0 0 0 0	④	0 0 0 0 0
③	4 2 0 0 0	4	4 0 0 0 0
⑥	4 3 0 0 2		3 6 8 0 1 3
	3 7 1 2 3 4 4		

▽本塁打 高橋▽二塁打 吉岡 秋山 大館▽失策 大3
東1 ▽併殺 東2



開会式で選手宣誓する吉原、大昭和製紙の浅井選手

大阪市、一方的な試合運び

東京と大阪が決勝で対決するのは初めてであり、ファンの注目を集めたが、大阪市・全鐘紡が一方的な試合運びで、東京都・熊谷組を破った。

準決勝まで米久保、岩崎両投手の好投で勝ち進んできた東京だが、意表をついて、初登板の小原を先発に起用した。しかし、やはり固さがほぐれず、大阪は1、2回に簡単に得点を重ね、ペースをつかんだ。

リードを背に大阪・片山は東京打線をほんろう。8本の安打を許したものの要所はきちんと抑え、5回に1点を与えただけだった。

リリーフした米久保に中盤を抑えられた大阪だが、7回に吉岡がタイムリー二塁打を放って2点を加え、8回には高橋が本塁打、投打に東京を圧倒した。

東京としては先制して試合の主導権を握りたいところだったが、先発投手が乱れ、手の打ちようがなかった。

推薦出場と補強選手

この大会から補強制度が設けられ、以後都市対抗野球の特色となった。県段階での第1次予選のある地区は第1次で5人、第2次の地区予選で5人と、あわせて10人の補強ができ、地区予選だけの地方は5人。登録選手ワケは25人。大阪市・全鐘紡は日本生命の主力を補強して優勝。翌22回大会は推薦出場だったが、またも予選で敗れ代表になれなかった日本生命から補強して優勝。推薦チームが補強するのはおかしいとの疑義が出、次の第23回は推薦を辞退し、大阪予選に出場、堂々と代表になって3連覇の偉業を成しとげた。

日本で初の世界アマ大会

優勝した大阪市・全鐘紡に対しマーケット少将は開会式で米国野球協会の代表として公式認定証を手渡した。同少将は「全鐘紡はこ

の優勝により、世界アマチュア野球大会の日本代表の資格を得た。9月の世界大会こそ、戦後日本において行われる最初の国際野球大会であり、その意義の重要性はいうまでもないことである」との祝辞を述べた。

大会には米国代表のケープハーツ・チームが来日、東京と大阪で5試合が行われ、日本は1勝4敗だった。

日本チームは全鐘紡を中心に次のように編成された。

- 監督 町田 重信 (全鐘紡)
- 投手 山村 吉隆 (全鐘紡)
- 山口 和 (全鐘紡)
- 片山 公三 (日本生命)
- 岩崎 鶴雄 (全藤倉)
- 米久保庄内 (全藤倉)
- 捕手 皆岡 秀雄 (日本生命)
- 佐伯 秀雄 (全鐘紡)
- 広瀬 明 (全鐘紡)
- 富吉 三彦 (八幡製鉄)
- 内野手 飯田 利雄 (全鐘紡)
- 松井 実 (日本生命)
- 増田 進一 (全鐘紡)
- 志賀 良宏 (全鐘紡)
- 大槻 守治 (全鐘紡)
- 吉岡 宏 (全鐘紡)
- 大館 盈六 (全藤倉)
- 久留島良三 (鐘淵化学)
- 外野手 平部 俊行 (全鐘紡)
- 岩中 英和 (全鐘紡)
- 高橋 久雄 (全鐘紡)
- 山村 博敏 (全鐘紡)

◇1大会で満塁本塁打2本 2回戦の山形市・山形ハッピー対鹿沼市・古沢建設戦で鹿沼の藤咲徳生三塁手が山形・大内投手から。また準決勝の大阪市・全鐘紡対京都市・京都大丸戦で、大阪・高橋久雄右翼手が京都・溝部投手から放った。史上初。

◇1試合個人最多二塁打4 大阪市・全鐘紡・平部俊行左翼手が2回戦の横浜市・金港倶楽部戦で記録。この試合、大阪は8本の二塁打を放ち、1試合チーム最多二塁打もマークした。



初優勝を果たし黒獅子旗を手に場内一周する全鐘紡



東京対高砂。4回東京、榑田右越本塁打でホームイン

華麗に応援合戦の“元祖”

スタンドを埋めた全鐘紡の応援団の応援ぶりが、炎天下に“涼風”を吹き込み、ファンを魅了して話題を集めた。

東京・練馬にあった工場的女子従業員が主体だったが、選手の主力に慶大色が強かったこともあって、3色の紙の小旗を波のように大きく、あるいはちいさく振り続け、応援歌を合唱するなど、リズムカルでスマートだった。



神戸対徳島。神戸峰本が本塁盗するが松井三振試合終了

大激戦、野球は9回から!

大激戦となったのが京都市・京都大丸対川崎市・川崎トキコの2回戦。

4点リードされた京都が5回同点としたが、川崎は7回2四球に3安打をからめ再び3点差とした。

だがドラマは土壇場にやってきた。京都は9回、三四球を得て満塁となると連続の好打を放って決定的ともみえる6点を奪った。それに対し川崎もその裏二死満塁に倉田が三塁打を放って同点に追いつき延長戦。スタンドを興奮させるなか京都は代った稲葉投手から10回の満塁機に安井、坂元、岩木が3連打して5点。粘る川崎はその裏2点を返しはしたが及ばず、乱戦にピリオドを打った。両チームあわせて27安打、三塁打5本、二塁打3本の打ち合いだった。

ガムシャラ精神の成果だった

東京都・熊谷組
榑田由美彦補手



台湾高商(現台湾大学)出身。勧業銀行台北支店から海軍を経て近畿日本鉄道、貿易会社のあと熊谷組入社、野球部創設時の主将。久慈賞受賞。

初戦で対戦したのは高砂。4回に私が本塁打して同点になったけど、9回まで熊谷組は2安打しか打てなかった。藤倉電線から補強の岩崎鶴雄、米久保庄内両投手が抑えて延長10回になると、うちの打線が爆発、やはり藤倉から加わった大館盈六遊撃手や吉田正男右翼手から痛打して一気に4点をあげて勝った。初出場のうちにはいつも挑戦者のつもりだったが、名古屋には米久保投手が完投勝ち。吉原との準決勝は岩崎投手が完投して、私は8回にトドメとなる本塁打を打てた。ガムシャラ

に決勝まで進んで、私は幸運にも久慈賞をいただいたが、いまにして思えば、当時のあの陣容でよく都市対抗に出場でき、あそこまでやれたという気持ちか強い。

浅原直人さんが監督で私が主将だった。しかし東京では藤倉電線が全盛時代。この年の予選はどういうわけか、勝ったところが藤倉に挑戦する方法だった。うちはエースの小原孝二が頑張って勝ち進み、藤倉と対戦2試合とも2-1、3-2で競り勝ち、後楽園出場が決まったときの感激がなによりも印象に残っている。99.9%勝てないのを、わずかの可能性を石にかじりついても気持ちでものにできたのがうれしかった。

この大会から補強制度ができ、藤倉から経験豊かなベテラン選手を補強できたのが大きかった。なかでも吉田さんにはたくさんのことを教えていただいた。

でも、代表に決まってからの猛練習も、後楽園でいい成績につながったと信じている。藤倉の人たちも一緒にやってくれて、うちの選手も、それこそ全身で打ち込んだ成果だった。この猛練習はいまでも熊谷組の伝統となっており、その基盤ができた大会でもあった。

1回戦

神戸市 (神戸クラブ)

0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	1	2	0	×	3	

徳島市 (日本通運四国)

【神戸市】	打安点	【徳島市】	打安点
⑦	横田 300	⑦	岸本 411
⑥	古林 000	④	本開 431
⑤	松井 400	⑨	青新 420
④	鏡川 221	③	野矢 100
③	山下 300	②	万笠 200
②	山崎 411	⑤	谷屋 411
①	森野 210	⑥	大東 410
①	野本 310	⑦	藤島 200
①	猿丸 300	⑧	藤田 300
②	黒大 210	⑧	丸山 300
	2662		3183

振球機盗失残併 410 23 2
 ▼本塁打 森田 二塁打 鏡治川 青木 大黒

1回戦

大津市 (東洋レーヨン)

2	1	0	1	0	0	0	0	2	6
0	2	0	0	0	0	0	0	0	2

新潟市 (新潟クラブ)

【大津市】	打安点	【新潟市】	打安点
⑤	加藤 400	⑥3	平沢 400
③	藤村 542	④	小野弟 300
⑥	吉野 531	⑤	小野寺 420
②	伊庭 411	⑨1	石黒 410
④	伊田 501	⑧	黒玉 400
⑦	山田 511	⑦	本間 410
⑧	山寺 410	③	島間 200
①	鈴木 410	6	H 100
⑨	岡本 200	H	100
9	岡本 110	①9	鈴木 312
	39126	②	鈴木 300

振球機盗失残併 33 03 0
 ▼二塁打 吉村 2 宇野

1回戦

函館市 (太洋倶楽部)

0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
0	0	2	2	1	0	3	0	×	8

四日市市 (富田東洋紡)

【函館市】	打安点	【四日市市】	打安点
⑤	田辺 300	⑥	西谷 510
⑥	猪飯 400	⑧	岡塚 400
②	折田 400	⑦	伊藤 212
③	折山 300	④	佐藤 310
⑦	塚山 410	③	磯野 422
⑨	塚藤 200	①	磯野 432
H	星 111	⑤	浅井 311
④	東島 300	⑨	森谷 300
H	若山 100	9	H 100
①	加藤 000	②	榎水 410
I	藤山 210		33107
H	辻 100		振球機盗失残併 20 2 0
⑧	明石 311		3142

振球機盗失残併 04 3 1
 ▼三塁打 岩城 磯部 二塁打 佐藤

2回戦

山形市 (ハッピー)

0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
0	0	1	0	3	4	0	0	×	8

鹿沼市 (古沢建設)

【山形市】	打安点	【鹿沼市】	打安点
⑤	渡辺 510	⑤	藤越 224
④	今泉 300	2	北井 100
⑧	野田 310	⑧7	北倉 310
③	山田 411	⑨	北倉 311
⑦	山田 400	⑧	中出 200
⑨	山田 210	⑦9	中出 412
②	川村 300	③	川島 401
①	村内 200	⑥	乾 300
①	村内 200	6	岡田 000
⑥	小松 431	④	岡田 320
	3272	①	金子 410

振球機盗失残併 24 11 0
 ▼本塁打 藤咲 二塁打 小松 藤咲

2回戦

東京都 (熊谷組)

0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	5
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

高砂町 (鐘淵化学)

【東京都】	打安点	【高砂町】	打安点
⑥	館村 411	⑧	沼田 500
⑧	大福 200	③	留島 500
⑧	藤吉 300	⑥	西橋 400
⑨	田原 521	⑤	高橋 310
③	浅井 500	⑨	岡村 300
②	榎本 521	H	100
⑤	村山 500	5	見瀬 411
⑦	山崎 410	⑦	伏深 000
①	崎部 200	①	根元 410
R	渡部 000	1	根元 000
1	久保 000	②	山田 310
④	成瀬 300	H	110
	3863	H	310

振球機盗失残併 03 00 0
 ▼本塁打 榎田 二塁打 高橋 秋山

2回戦

名古屋市 (愛知産業)

0	0	0	2	0	2	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

広島市 (広島クラブ)

【名古屋市】	打安点	【広島市】	打安点
⑤	滝野 400	⑨	穂垣 310
⑧	久野 312	⑦	中野 200
④	野下 500	③	中松 410
⑦	西尾 410	⑥	松前 400
③	大尾 211	⑧	田中 310
⑥	永江 410	⑤	光寺 200
⑨	小佐 210	②	小田 210
②	洪谷 200	2	川明 100
H	井村 311	①	馬田 200
1	中村 100	1	梅田 100
	3064	④	亀田 300

振球機盗失残併 811 12 1
 ▼本塁打 永尾

2回戦

大阪市 (全鐘紡)

1	0	1	5	0	1	0	0	6	14
0	0	3	0	0	0	1	0	0	4

横浜市 (金港倶楽部)

【大阪市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑤	吉岡 531	⑥	柿島 301
④	松田 212	④	井川 100
4	中村 311	④	野崎 410
⑧	岩本 511	⑦	山崎 411
⑨	山本 110	⑧	山崎 301
H	岩本 000	7	山崎 000
7	平高 554	7	山崎 100
9	橋本 500	⑨	北原 400
③	山口 300	③	津野 310
1	村山 110	H	110
①3	山片 310	⑤	佐野 000
1	山片 100	R	200
②	山片 100	5	片山 100
2	岡野 401	H	100
⑥	岡野 400	②	浅川 320
	43140	H	100

振球機盗失残併 17 03 0
 ▼三塁打 松井 二塁打 山村 吉岡 2 平部 4 茅野 岩中

2回戦

京都市 (京都大丸)

0	0	0	0	4	0	0	0	6	5	15
0	0	3	1	0	0	3	0	3	2	12

川崎市 (川崎トキコ)

【京都市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑨	原田 623	⑥	間宮 400
④	藤原 521	⑦	遊佐 410
⑤	安坂 633	④	林島 621
⑧	坂元 522	⑦	小長 520
⑦	元田 310	③	稲石 522
③	田川 324	⑧1	藤原 411
①	木川 410	⑤	石世 411
①	西井 100	②	田島 513
1	西部 100	⑨	村松 310
②	井田 200	9	倉田 113
H	菅福 300		421310
⑥	菅福 111		振球機盗失残併 011 01 0
⑥	菅福 000		401414

振球機盗失残併 39 04 0
 ▼三塁打 原田 2 小林 岩木 倉田
 ▼二塁打 藤原 田島 菅原

2回戦

徳島市 (日本通運四国)

0	0	0	0	0	1	0	0	1	
2	0	0	0	0	0	2	1	×	5

吉原市 (大昭和製紙)

【徳島市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑦	岸本 310	⑥	大田 411
④	青新 400	⑦	道田 430
⑨	新井 300	⑨	井沼 400
H	上野 100	⑧	浅井 421
②	井井 311	H	長松 100
⑤	大矢 300	8	山原 000
③	野谷 100	③	朝比 423
3	藤邊 200	②	坂藤 400
⑥	渡辺 310	⑦	後小 200
1	朝山 200	①	川原 300
⑧	丸山 300	⑤	小小 300
	2931		3385

振球機盗失残併 51 02 0
 ▼本塁打 笠屋 二塁打 浅井 朝比奈

2回戦

八幡市 (八幡製鉄)

1	3	4	0	0	2	0	1	0	11
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大津市 (東洋レーヨン)

【八幡市】	打安点	【大津市】	打安点
⑦	三井 431	⑤	加藤 400
⑥	上原 424	⑥	藤村 310
⑤	井吉 500	③	野田 420
②	井吉 411	②	伊田 410
⑧	井吉 520	④	山田 320
③	井吉 511	⑦	山田 400
⑨	増田 322	⑧	山田 300
9	増田 100	H	明珍 100
④	増田 310	①	鈴木 000
H	増田 210	1	水本 410
①	増田 100	⑨	岡本 000
1	増田 100	9	岡本 100
	38139		3170

振球機盗失残併 37 00 0
 ▼本塁打 増田 井原 二塁打 樋口 三上 宇野

2 回戦

熊本市 (熊本鉄道局)

0 0 1 0 0 0 0 5 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1

四日市市 (富田東洋紡)

【熊本市】	打安点	【四日市市】	打安点
⑧ 緒川	4 0 0	⑥ 西谷	4 2 0
⑦ 方島	4 1 1	⑧ 藤野	3 0 0
⑥ 川岸	5 0 1	⑦ 伊藤	4 1 0
③ 藤野	4 1 2	④ 佐藤	3 1 0
② 馬場	4 0 0	③ 磯野	4 0 0
① 山本	3 2 0	① 磯城	4 0 0
⑤ 岡村	3 1 2	⑤ H	1 1 0
① 岡村	1 0 0	⑤ H	1 0 0
① 梅	2 1 0	⑨ H	1 0 0
	3 2 0	⑨ H	1 0 0
	33 8 6	⑨ H	1 0 0
振球権盗失残併	3 4 0 0 0	②	1 1 0
			3 1 0
			317 0
			振球権盗失残併
			4 3 0 4 0

▽二塁打 八色

準々決勝

鹿沼市 (古沢建設)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
1 1 0 0 3 0 2 0 X | 7

吉原市 (大昭和製紙)

【鹿沼市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑤ 藤中	4 0 0	⑥ 大山	2 1 2
⑧ 村本	4 2 1	④ 道	4 2 1
⑨ 倉田	3 0 0	⑨ 井	4 0 0
⑦ 中倉	3 1 0	⑧ 田	5 1 1
③ 田長	4 0 0	⑧ 朝	5 1 0
④ 佐々	3 0 0	③ 比	4 3 1
⑥ 岡上	2 0 0	② 石	2 0 0
① 田浦	2 1 0	⑦ 後	1 0 0
① 上杉	2 0 0	① 鈴	3 1 0
② 塚持	1 1 0	① 小	4 1 2
H 丸	1 1 0		341 0 7
2 須	1 0 0		振球権盗失残併
	32 6 1		2 6 0 1 0
振球権盗失残併	0 5 0 3 0		
			▽本塁打 石坂▽二塁打 小川 持丸 中村

準々決勝

東京都 (熊谷組)

0 2 0 0 1 0 0 0 0 | 3
2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2

名古屋市 (愛知産業)

【東京都】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑥ 大館	5 2 1	⑤ 滝	4 0 0
⑧ 福村	2 0 0	⑧ 野	3 2 0
8 藤田	2 0 0	④ 下	4 2 2
⑨ 吉田	4 0 0	⑦ 西	4 0 0
③ 浅原	4 1 0	③ 尾	4 1 0
② 田原	4 2 0	⑦ 江	3 0 0
⑦ 秋山	4 1 0	H 井	1 0 0
⑤ 木村	4 0 0	⑨ 栗	4 1 0
④ 成瀬	3 1 0	② 小	4 0 0
① 米久保	3 1 2	① 佐	3 0 0
	35 8 3		34 6 2
振球権盗失残併	4 1 0 2 0		振球権盗失残併
			4 1 0 1 0
			▽本塁打 木下▽三塁打 大館 米久保 楠田
			成瀬 ▽二塁打 久野 2

準々決勝

大阪市 (全鐘紡)

0 0 0 0 1 0 2 0 0 | 3
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1

八幡市 (八幡製鉄)

【大阪市】	打安点	【八幡市】	打安点
⑤ 吉岡	4 1 0	⑦ 三上	4 0 0
④ 松井	3 0 0	⑥ 原	4 3 0
⑧ 岩高	5 2 1	⑤ 井	3 0 0
⑦ 中橋	4 1 2	② 永	3 2 0
⑨ 片山	3 1 0	⑧ 富	4 0 0
③ 飯田	4 0 0	③ 前	4 0 0
② 皆山	3 1 0	④ 植	4 0 0
① 志賀	4 0 0	④ 増	4 1 0
	1 0 0	① 野	2 1 0
	31 6 3	① 山	1 0 0
振球権盗失残併	3 7 0 0 0		32 7 0
			振球権盗失残併
			2 2 0 1 0
			▽三塁打 高橋▽二塁打 岩中

準々決勝

京都市 (京都大丸)

0 0 0 0 0 2 2 0 1 | 5
0 0 1 0 0 0 1 0 0 | 2

熊本市 (熊本鉄道局)

【京都市】	打安点	【熊本市】	打安点
⑨ 原田	4 1 1	⑧ 緒川	3 0 0
④ 藤原	3 1 0	⑦ 方島	3 1 0
⑤ 安井	4 1 1	⑥ 野場	4 2 1
⑧ 坂元	5 3 2	③ 馬場	4 0 0
⑦ 岩武	3 0 0	② 山口	4 1 0
③ 羽武	4 1 1	⑤ 色本	4 1 0
⑥ 菅原	3 0 0	⑥ 上	4 1 1
H 井	1 0 0	① 岡村	1 0 0
6 井	0 0 0	① 梅	1 0 0
② 西	4 0 0	④	3 0 0
① 坂本	4 2 0		31 6 2
	35 9 5		振球権盗失残併
振球権盗失残併	12 4 0 0 0		3 3 0 0 0
			▽本塁打 岩本 坂本 羽川▽二塁打 原田

準決勝

吉原市 (大昭和製紙)

0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 1 0 0 0 1 0 1 X | 3

東京都 (熊谷組)

【吉原市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 大山	4 2 0	② 榑田	4 1 1
④ 稗	3 0 0	⑧ 村	2 0 0
⑨ 浅	4 1 0	H 田	1 0 0
⑧ 朝比	4 1 0	8 田	1 0 0
③ 比	3 1 1	⑨ 田	4 1 0
② 石	3 1 0	⑥ 吉	2 1 0
H 鈴	1 0 0	③ 大	4 1 1
⑦ 後	2 0 0	⑦ 秋	3 0 0
7 松	1 0 0	⑤ 原	3 0 0
① 長	1 0 0	① 山	3 0 0
① 小	3 1 0	④ 村	2 0 0
⑤ 原	3 0 0		29 4 2
	32 7 1		振球権盗失残併
振球権盗失残併	4 1 0 4 0		5 2 0 1 0
			▽本塁打 榑田▽二塁打 浅原 朝比奈 大道

準決勝

大阪市 (全鐘紡)

3 0 0 4 2 0 0 0 0 | 9
0 0 0 0 0 0 1 5 0 | 6

京都市 (京都大丸)

【大阪市】	打安点	【京都市】	打安点
⑤ 吉岡	4 1 1	⑨ 原	3 0 0
④ 松井	3 1 0	9 田	0 0 0
4 岩高	0 0 0	H 森	1 0 0
⑧ 中橋	5 2 0	4 藤	2 0 0
⑨ 片山	3 2 5	④ 原	1 0 0
③ 飯田	3 0 1	4 西	1 1 2
⑦ 山口	2 0 0	⑤ 井	4 0 1
① 上	0 0 0	⑧ 元	4 2 2
① 山	4 0 0	⑧ 木	2 0 0
③ 村	3 2 1	⑦ 岩	1 0 0
① 山	2 0 0	③ 菅	4 0 0
① 飯	3 1 1	① 羽	0 0 0
② 岸	1 0 0	① 打	3 0 0
2 佐	1 0 0	② 溝	3 1 0
⑥ 佐	3 0 0	⑥ 藤	1 0 0
	37 9 9	6 福	2 1 0
振球権盗失残併	3 7 4 1 1		32 5 5
			振球権盗失残併
			8 5 0 0 0
			▽本塁打 高橋 坂元▽二塁打 片山 坂元

3位決定戦

吉原市 (大昭和製紙)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

京都市 (京都大丸)

【吉原市】	打安点	【京都市】	打安点
⑥ 大山	4 0 0	⑨ 原	3 2 0
⑨ 稗	3 0 0	⑤ 田	3 1 0
③ 朝比	3 0 0	④ 原	3 0 0
⑧ 浅	4 0 0	⑤ 井	4 1 0
⑤ 比	3 0 0	⑦ 元	3 0 0
② 石	2 0 0	③ 木	4 2 1
2 上	1 0 0	⑥ 川	1 1 0
⑦ 長	3 1 0	6 武	2 0 0
1 松	0 0 0	② 福	2 1 0
① 小	3 0 0	① 藤	2 0 0
			27 8 1
④ 山	2 2 0		振球権盗失残併
	28 3 0		4 4 0 0 0
振球権盗失残併	6 4 0 2 0		▽三塁打 羽川

戦後の球界に「世界への道」を開いた マッカーサー元帥の側近たち

加藤毅康



今日では世界大会、オリンピック参加が日本球界にとって年中行事のようになってきたが、第26回大会の優勝チーム「オール・カネボウ」が第1回世界野球大会に参加した当時は、持出し外貨の制限が厳しく、招待旅行では1人1日5ドル、宿泊費自弁の場合でもホテル代として1人1日15ドルの外貨割当しかもらえなかった。

こうしたなかで「オール・カネボウ」が米国、ミルウォーキに乗り込み、結果はともかく、堂々と戦えたのは、マッカーサー元帥の側近といわれる“バター・ボーイズ”たちの並々ならぬ盡力があつたからだ。

マ元帥が米極東陸軍司令官として比国に駐在した時から側近として任えた“バター・ボーイズ”と呼ばれる軍人・軍属は10名近くいるが、日本球界と係りがあつたのは、連合軍総司令部経済科学局長ウィリアム・F・マーカット少将、当時ルソン・ステベドリング株式会社社長で、元駐比米国大使館員のチャールズ・パーソンズ氏、連合軍西太平洋地区海上輸送司令官ウォリス・F・ピーターセン海軍少将の3人である。マ少将が都市対抗野球に関係したのは昭和23年第19回大会からで、極東ベースボール・コミッションの肩書きで始球式に臨んだマ少将は、「米国ノンプロ野球協会（本部はカンサス・シティー・ウインチタに所在）が近く世界的規模の野球大会を開くので、日本がそれに参加できるよう要請したところ、OKの返事がきた。強力なチームを送るようお互いが頑張ってもらいたい」と述べ、球界関係者に勇気と希望を与えた。

日本代表チームを世界大会に参加させるには、諸々の準備が必要で、その第1は全国的な野球組織の結成である。チームを派遣する母体が明確でないとチームの参加を米国野球協会が承認しないからだ。このため翌24年、宮原清氏を会長に招き、毎日新聞社の肝煎りで「日本社会人野球協会」が誕生した。

次は海外遠征に必要な外貨を確保することである。このため連合軍経済科学局長でもあつたマ少将は、オドール監督率いるサンフランシスコ・シールズが昭和24年秋来訪、日本各地で親善野球試合を繰り展げたとき、外貨資金確保

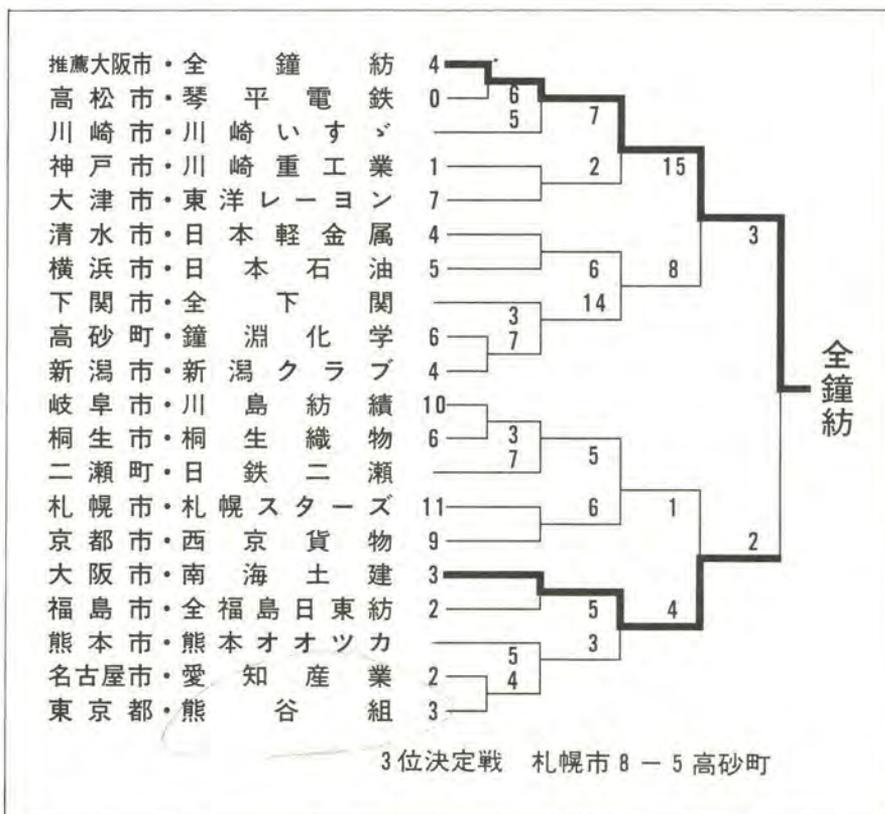
に奔走した。マ少将は自分から進んで日米野球実行委員会の委員長となり、当時占領軍が接収していた神宮、甲子園両球場の使用手配から、円、ドル2本建入場券の発売など、日本委員にはできないことを彼の副官キャビー原田中尉やその他彼のスタッフを動員して、手際よくやってのけた。その上、球場内販売品にコココーラ飲料とバヤリーズ・オレンジを加え、日英両文の選手名鑑とともに円とドルで販売、外貨の確保に貢献した。

シールズの日米親善野球は連日満員の盛況で、余剰金は可成りの額に達し、プロ、学生、社会人の3野球団体に分配された。

第3の準備は日本チームが名実ともに極東地域代表チームとなるには「地域大会」が必要と、マ少将とパーソンズ氏は日本と国交が断絶しているフィリピン、韓国、台湾の間にスポーツ交流が開けるよう、マ元帥の密命も受け、交流再会に奔走した。特にパーソンズ氏は民間人であることをよいことに、3国間を頻繁に往復、そのワン・ステップとして、日・比間の交流を最初に手掛け、昭和27年春マニラ湾野球リーグのオール・スター・チームの訪日親善野球の実現となった。次いで翌28年春、比国チームの日本訪問の答礼として、「オール・カネボウ」チームがマニラに招待された。日比野球チームの交歓は両国の国交関係を大きく前進させた。というのはその年の暮、モンテニルバ刑務所に収容されていた日本人戦犯が全員釈放され、翌29年にはマニラ湾の沈没船引揚条約が締結されたからだ。パーソンズの努力は更に続き、昭和29年秋待望の「アジア野球連盟」が結成され、中断されていた韓国や台湾と日本球界との交流も再会されるに至った。

マ少将の跡を継いで昭和27年から29年まで極東コミッションを努めたピーターセン提督もたいへんな日本蟲きで、とかく高圧的な態度をとるウインチタの米国野球協会に対し自から防波堤となり社会人野球協会との関係正常化に盡力した。彼もまた今日の日本野球連盟の基盤作りに貢献した忘れられない“バター・ボーイズ”の1人である。（元英文毎日記者、元社会人野球協会渉外委員）

第22回大会 1951年(昭和26年)8月5日-8月12日・後楽園球場 優勝=推薦・全鐘紡(大阪市)(2年連続2回目)



初顔であった。

その後の大会を支える大きな力となった日本石油、川島紡績、日鉄二瀬などが初めて晴れ舞台を踏んだ。補強制度も2年目とあって活発になり、札幌スターズは富士鉄室蘭、三井砂川、札幌鉄道局、小樽協会などから10人の選手を補強で加え“全北海道”を編成、都市対抗初の東大出身選手、岩佐守投手(三井砂川から補強)らの活躍もあって、北海道チームとしては、第1回大会以来の準決勝進出を果たし、3位に輝いた。

推薦出場の全鐘紡(大阪市)が2連勝した。日本生命から片山公三、皆岡秀雄のバッテリー、松井実、望月信彰の両内野手、中央ペイントの香川正投手を補強、前回と変わらぬメンバーだったが、2回戦から苦戦を強いられた。川崎市・川崎いすゞはコロムビアから宮崎一夫投手、富松信彦外野手、トキコから稲葉(高塚)誠治選手を補強、充実していた。川崎が序盤に4点をリードすると鐘紡も小刻みに反撃、9回に山村博敏が本塁打、さらに四球、安打などで二死二・三塁とし、相手投手の暴投で同点。11回には二死後四球の高橋久雄右翼手が皆岡捕手の右翼線二塁打で三進、相手の中継ミスでやっとの思いの決勝点をあげた。九死に一生を得た鐘紡は大津市・東洋レーヨン戦も8回に大量点で逆転勝ち。高砂町・鐘淵化学との準決勝も両軍合わせて36安打の乱打戦となったが、鐘紡はピンチになると松井遊撃手がマウンドに登り、きっちり抑えてしのぎ切った。

一方のゾーンはプロ野球・南海のファームといわれた大阪市・南海土建がスルスルと勝ち上がった。若い井上慎一、有友敏投手が好投、松本勇捕手、種田訓久三塁手、野口勝美外野手がよく打ち、森下整鎮遊撃手の守りがすばらしかった。

当時プロ野球経験者は1チーム3人までと決まっていたが、南海土建は南海の二軍選手を南海電鉄の保全、資材購入などの仕事を子会社に就職させ、にわかにな“社会人チーム”をつくって出場した。初めてのケースで全く特異なチームであった。

決勝は苦戦を競り勝ってきた鐘紡が7回決勝点を奪って勝ち「社会人の純血」を守った。

橋戸賞は投打に大奮闘の鐘紡 松井遊撃手、久慈賞は大阪市・野口外野手が獲得した。

企業が本腰、初顔実に12チーム

終戦から6年たち、日本はまだ復興途上にあっただが、社会は次第に落ちつきを取り戻してきた。8月5日から始まった大会は20チームが参加したが、社員の士気高揚のため野球



に力を入れる企業が多くなり、北から数えると、札幌市・札幌スターズ、横浜市・日本石油、桐生市・桐生織物、清水市・日本軽金属、岐阜市・川島紡績、京都市・西京貨物、大阪市・南海土建、神戸市・川崎重工業、下関市・全下関、高松市・琴平電鉄、二瀬町・日鉄二瀬、熊本市・熊本オオツカと、12チームが

大阪市 (南海土建)

0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
1	0	0	1	0	0	1	0	×	3	

全鐘紡 (推薦・大阪市)

【大阪市】	打安点振球	【全鐘紡】	打安点振球
⑨ 田中	5 2 0 1 0	⑤ 吉岡	4 1 0 0 0
⑦ 梶神	4 0 0 1 0	④ 岡月	3 0 0 0 1
H 神野	1 0 0 1 0	⑧ 望岩	4 2 2 0 0
⑧ 野口	3 2 2 0 1	③ 村弟	4 0 0 0 0
② 本田	4 1 0 0 0	⑦ 山平	4 0 0 0 0
⑤ 種田	4 3 0 0 0	⑨ 高平	3 1 0 1 0
③ 横山	2 0 0 0 1	② 権岡	2 0 0 0 0
H 山崎	0 0 0 0 1	① 皆志	3 0 0 1 0
③ 藤野	0 0 0 0 0	⑥ 松井	0 0 0 0 0
⑥ 森下	4 0 0 0 0	⑥ 1	2 1 0 0 1
① 井上	3 0 0 0 0		29 5 2 2 2
H 西田	1 0 0 1 0		
1 堀	0 0 0 0 0		
④ 大森	4 0 0 0 0		
	35 8 2 4 3		

▽本塁打 岩中 (井上) 野口 2号 (塩見) ▽二塁打 吉岡 高橋 田中 種田 ▽失策 大2

松井好リリーフ、逃げ切る

全鐘紡は1回、トップの吉岡が二塁打を打ち、捕逸で三進すると岩中はすかさず中犠飛、先取点をあげた。4回にも岩中が左翼席に本塁打2点をリードした。

大阪打戦は左腕・塩見の巧投に押えられていたが5回、田中が中前打した二死後、野口が左翼席に同点本塁打を打ち込み、試合を振り出しに戻した。

井上の速球に苦しんでいた鐘紡だが7回、二塁打の高橋をバントで送った二死後、吉岡の遊ゴロが敵失を誘い、再びリードを奪った。

反撃の大阪は8回種田の二塁打などで一死二・三塁と一打逆転のチャンスを迎えた。左打者・横田のカウントが1-1となると、大阪は右打者の山崎を代打に起用、鐘紡も左腕・塩見から、右の松井を遊撃からリリーフに送った。松井は落ちついたプレートさばきで、この大ピンチを抑えた。

大阪8安打3四球、鐘紡5安打2四球。大阪の攻撃が優っていただけに、好守をみせた望月、吉岡、志賀の内野陣と、松井の好継投が光った。

プロ二軍の転向チーム

決勝に進出した大阪市・南海土建はプロ野球、南海の二軍が転向したチーム。参加17チームと激戦区だった大阪予選でも中央ペイント、日本生命などを倒して代表になった。平均年齢19歳の若々しさだったが、翌年は投手の井上慎一、有友敏、捕手の松本勇、藤野良人、内野手の横田邦昭、種田訓久、森下整鎮、外野手の田中一郎らが揃って南海に登録されている。

これまでの“社会人チーム”とは性格の違ったチームだけに、決勝で全鐘紡が勝ったときには、都市対抗関係者は「よかった」と胸をなでおろした。

初陣札幌、大暴れ3位

初出場の札幌市・札幌スターズの活躍は目覚しかった。第一次予選で5人、第二次の地区予選で5人と規定いっぱい10人の補強を加え、2回戦で京都市・西京貨物に打ち勝つと波に乗り、準々決勝では熱闘16回の末、二瀬町・日鉄二瀬を破った。札幌は二瀬のエース野見山を攻め立て3回に5安打で3点、4回にも横関の三塁打で2点をリードした。二瀬も監督の濃人、今久留主らの好打で4回、8回に1点ずつ返した。5回からリリーフの三船が札幌打線を9回まで1安打に抑え、9回裏金子、岡村両投手から3点を奪い同点。延長に入ると札幌・岩佐、二瀬・村上、久保山が巧みに要所を締めるピッチングで16回を迎えた。

札幌はこの回、先頭の森が中堅手頭上を襲う痛打、バックしようとした中堅手が転倒、

球が転々とする間に三塁打とした。すかさず岩佐が左犠飛を打ちあげ決勝点をあげたが、両軍あわせて29選手の総力戦。打数は札幌57、二瀬59。

札幌は準決勝で大阪市・南海土建に敗れたものの、3位決定戦で高砂町・鐘淵化学に競り勝ち、北海道に第1回大会以来の朗報をもたらした。

九州男児の純粹クラブ

前年準優勝、今大会も優勝候補の一角にあげられていた東京都・熊谷組を2回戦で倒したのは、初出場の熊本市・熊本オオツカ。企業チーム全盛となるなかで珍しい純粹のクラブ・チームだ。全員が熊本県下の高校出身者、大学卒業者ゼロ。技術より闘志でという九州男児型のキビキビしたプレーをみせた。

熊本の長身左腕・高野投手は重い速球で東



大阪市、全鐘紡が輝く2連覇を成しとげ、黒獅子旗を掲げてグラウンドを一周、ファンの大歓声に応えた

京を苦しめ、攻めては3回、東京・本田投手に3長短打を浴せて3点、4回には代った米久保投手から馬場が本塁打を放って4点差。

東京も5回に木村の二塁打などで2点を返したが、熊本は6回米久保投手に3安打を集中、1点を加え、東京はその裏浅原の2ランで追いついたものの及ばなかった。

得点は競っていたものの、試合内容では熊本の快勝だった。

MEMO

◇1試合最多安打36 準決勝の全鐘紡(推薦・大阪市)対高砂町・鐘淵化学戦で鐘紡21、高砂15安打で達成。延長戦では第20回大会の函館市・太平洋倶楽部対大阪市・日本生命戦が14回37安打がある。

補強選手にやられた

大阪市・南海土建
森下整鎮(正夫)内野手



八幡高から昭和26年、南海電鉄に入社。都市対抗に出場後チーム解散で、プロ野球南海に入団。15年間で内野手として活躍。30年には盗塁王となった。現在解説者。

南海土建というのは、南海電鉄のひとつの部で保全などの仕事をしていた。当時のプロ野球南海ホークスはチーム力が充実、なかなか一軍にあげられない選手も多かったし、プロ野球の他球団には二軍があまりない時代で試合もできない。そこで会社はノンプロのチームにしよう、昭和26年に南海土建として社会人野球に登録となった。都市対抗の大阪予選に出て、中央ペイントや日本生命に勝って代表となったが、南海土建はこの年1年だけで解散となり、メンバーの大多数が南海に戻

ったこともあって、あとになってから、社会人野球としては異質なチームと聞かされた。でも、私は入社した年だし、プロの一軍経験者はほとんどいなかったから、変な気は全くなかった。

とにかく試合をやれるのがうれしかった。右の井上さん、左の有友さんのリレーで全福島に勝ったが、18歳の私としては、名前だけ知っているプロ野球経験者が揃っていたチームによく勝ったという気持ちだった。

だれ1人、そんなに勝つとは思っていなかったのだから、決勝まで進んだときは、さすが緊張した。

しかも相手は同じ大阪で推薦出場だった全鐘紡。野口さんが同点本塁打したときは、勢いから勝てるかとも思ったのだが、7回に1点を取られた。それでも8回にうちは一死満塁のチャンスをつくり私めが打席についた。投手は遊撃手からリリーフした日本生命から補強の松井さん。私か遊ゴロ、最後は三振で追いつけなかった。

うちは補強制度を活用しなかったため、鐘紡が補強したのだが、その松井さんにやられた思いがいまでも残る。



岐阜対同生戦。5回岐阜は一死後2番坂井が左越本塁打。喜びのナインに迎えられてホームイン。

1 回戦

全鐘紡 (推薦・大阪市)
0 0 0 0 0 1 0 3 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
高松市 (琴平電鉄)

Table with player names and scores for All-Chime Knitting Co. and Takamatsu City.

1 回戦

新潟市 (新潟クラブ)
0 0 0 0 0 3 0 0 1 | 4
0 1 0 0 0 1 1 3 X | 6
高砂町 (鐘淵化学)

Table with player names and scores for Niigata City and Takasago Town.

1 回戦

岐阜市 (川島紡績)
0 1 1 0 2 2 0 0 4 | 10
1 0 0 1 0 1 0 2 1 | 6
桐生市 (桐生織物)

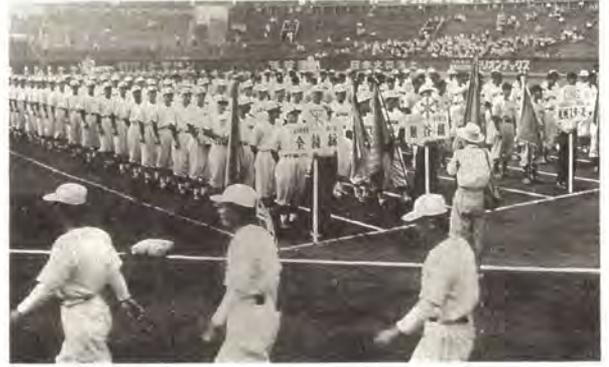
Table with player names and scores for Gifu City and Kiryu City.

東京都 (熊谷組)

0 1 1 0 0 0 0 1 0 | 3
0 0 1 1 0 0 0 0 0 | 2
名古屋市 (愛知産業)

Table with player names and scores for Tokyo and Nagoya.

前回優勝の大阪、全鐘紡、準優勝の東京の熊谷組を先頭に、出場20チームのナインが堂々と入場した開会式



2 回戦

大津市 (東洋レーヨン)
5 0 0 1 1 0 0 0 0 | 7
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
神戸市 (川崎重工業)

Table with player names and scores for Osaka and Kobe.

2 回戦

清水市 (日本軽金属)
0 0 2 0 2 0 0 0 0 | 4
1 1 0 0 0 3 0 0 X | 5
横浜市 (日本石油)

Table with player names and scores for Mizu City and Yokohama.

2 回戦

札幌市 (札幌スターズ)
0 2 1 2 2 1 0 0 3 | 11
5 0 0 1 0 0 0 1 2 | 9
京都市 (西京貨物)

Table with player names and scores for Sapporo and Kyoto.

2 回戦

福島市 (全福島日東紡)
0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2
1 0 1 0 0 0 0 1 X | 3
大阪市 (南海土建)

Table with player names and scores for Fukushima and Osaka.

2 回戦

全鐘紡 (推薦・大阪市)
0 0 2 1 0 0 0 2 0 1 | 6
0 2 2 1 0 0 0 0 0 0 | 5
川崎市 (川崎いすゞ)

Table with player names and scores for All-Chime Knitting Co. and Kawasaki.

2 回戦

下関市 (全下関)
0 2 0 0 0 0 0 0 1 | 3
1 3 0 3 0 0 0 0 X | 7
高砂町 (鐘淵化学)

Table with player names and scores for Yamaguchi and Takasago.

2 回戦

岐阜市 (川島紡績)

0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
3	1	0	2	0	0	0	1	×	7

二瀬町 (日鉄二瀬)

【岐阜市】	打安点	【二瀬町】	打安点
④ 森坂	212	⑥ 濃田	510
④ 武井	400	③ 入島	413
⑧ 乾	321	⑨ 大津山	421
⑨ 西萩	410	⑦ 大塚	330
① 7 岩	200	⑤ 大松	211
⑤ 榎	200	5 衛藤	000
2 榎	100	⑧ 宮野	411
⑦ 9 7 山	420	① 石見	400
② 山	200	② 野見	410
① 3 森	200	④ 三井	310
3 井	200		33116
	3263	振球機盗失残併	
	0 4	3 5	2

▽本塁打 乾(野見山) 三壘打 大津山 松隈
▽二塁打 宮宇地 三村 山内

2 回戦

熊本市 (熊本オオツカ)

0	0	3	1	0	1	0	0	0	5
0	0	0	0	2	2	0	0	0	4

東京都 (熊谷組)

【熊本市】	打安点	【東京都】	打安点
⑦ 川島	410	⑥ 大滝	410
⑦ 山口	412	④ 館峠	200
⑥ 山井	420	4 大滝	210
① ⑤ 高山	200	⑧ 坂原	200
② ③ 山馬	410	③ 9 浅	412
② ③ 高上	421	⑨ 破	100
⑧ 田原	410	⑦ 3 秋	200
H 8 中	100	⑤ 山本	410
④ 大田	000	② 岡村	100
	400	2 田	200
	3483	R 岩	000
		① 本	000
		1 田	412
			3274

振球機盗失残併 3 1 1

振球機盗失残併 4 4 5

▽本塁打 浅原2号(高野) 馬場(米久保)
▽三塁打 山口 二塁打 木村 秋山

準々決勝

大津市 (東洋レーヨン)

2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	7	×	7

全鐘紡 (推薦・大阪市)

【大津市】	打安点	【全鐘紡】	打安点
⑧ 山吉	410	⑤ 吉望	410
④ 水	410	⑥ 岡中	201
⑤ 清	301	⑧ 岩	411
H 7 加	110	③ 村	413
⑦ 安	300	⑨ 弟	200
③ 宇	000	9 香	200
⑨ 野	100	⑦ 7 部	412
③ 中	310	② 2 部	210
① 北	300	① 2 部	200
① 鈴	000	① 1 部	420
⑥ 大	300	⑥ 6 部	210
	3041		3287

振球機盗失残併 1 1 0

振球機盗失残併 1 3 2

▽本塁打 平部(鈴木) 三壘打 加藤

準々決勝

高砂町 (鐘淵化学)

1	0	4	0	0	4	3	2	0	14
0	0	0	2	3	0	1	0	0	6

横浜市 (日本石油)

【高砂町】	打安点	【横浜市】	打安点
⑧ 河田	633	④ 神田	310
⑤ 田橋	621	④ 木	300
③ 久留島	500	⑤ 5	100
⑨ 高前	411	⑥ 6	500
⑦ 尾	411	⑨ 9	530
⑥ 後	412	③ 1	111
④ 川	432	⑦ 7	210
② 田	200	① 1	211
2 岩	321	② 2	321
① 黒	200	⑦ 7	210
1 川	000	③ 3	212
1 計	320	⑧ 8	401
	431511	② 2	100
		② 2	210
		② 2	300
			38126

振球機盗失残併 2 5 0

振球機盗失残併 3 6 5

▽二塁打 吉村 前田 河田 後藤

準々決勝

札幌市 (札幌スターズ)

0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	5

二瀬町 (日鉄二瀬)

【札幌市】	打安点	【二瀬町】	打安点
⑥ 谷口	600	⑥ 濃田	752
④ 米	830	③ 人島	810
⑤ 横	721	⑨ 津	210
⑨ 9 峰	500	8 大石	100
⑧ 8 川	1000	8 今	431
③ ⑦ 前	412	⑤ 5 大	600
② ② 須	710	⑦ 7 松	310
① ① 森	621	H 田	000
1 金	610	5 衛	300
1 子	400	⑧ 8 宇	100
1 岡	000	1 衛	211
1 岩	301	H 宮	000
	57105	1 三	000
		1 瀬	300
		② 2 村	710
		① ① 8 9 見	510
		④ 4 山	711
			59155

振球機盗失残併 7 4 2

振球機盗失残併 6 7 2

▽三塁打 横関 森
▽二塁打 三船 今久
留主 三村

準々決勝

熊本市 (熊本オオツカ)

2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	1	1	3	0	0	0	×	5

大阪市 (南海土建)

【熊本市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑦ 川島	420	⑨ 田中	410
⑨ 山井	411	⑦ 7	311
⑥ ① 8 高山	411	⑧ 8	412
⑤ ② 山馬	310	② 2	000
② ③ 高上	300	⑤ 5	300
① 1 田	411	③ 3	411
⑧ ⑧ 山	310	⑥ 6	400
1 3 上	100	① ① H	000
H 4 大	100	④ 4	100
H ④ 大	300		300
H ④ 大	000		210
	3373		3185

振球機盗失残併 0 4 1

振球機盗失残併 3 3 1

▽本塁打 種田(中原) 二塁打 馬場 川島
高野 高山

準決勝

全鐘紡 (推薦・大阪市)

1	0	1	2	1	3	3	2	2	15
2	3	0	0	0	3	0	0	0	8

高砂町 (鐘淵化学)

【全鐘紡】	打安点	【高砂町】	打安点
⑤ 吉望	642	⑤ 岩内	110
④ 望	633	5 河	430
⑧ 8 岩	422	⑧ 8 森	533
③ ③ 村	321	1 林	000
⑨ 9 高	101	⑨ 9 島	100
6 高	112	H 高	521
H 片	000	③ ③ 前	310
1 片	100	⑨ 9 藤	500
② ② 片	511	④ ④ 西	500
2 片	000	⑥ ⑥ 尻	400
⑦ ⑦ 香	531	② 2 川	000
① ① 9 松	631	H 青	110
⑥ ⑥ 1 6 松	520	① ① 1	110
	432114		44157

振球機盗失残併 0 1 1 3

振球機盗失残併 5 3 1

▽三塁打 山村弟 前田 山内 望月
▽二塁打 岩橋 河田 久留島 前田

準決勝

大阪市 (南海土建)

1	0	0	0	2	0	0	1	4
0	0	0	0	0	1	0	0	1

札幌市 (札幌スターズ)

【大阪市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑨ 田中	210	④ 米	200
⑦ ⑦ 梶	421	⑦ ⑦ 須	300
⑧ ⑧ 野	400	⑨ ⑨ 池	410
② ② 松	432	⑤ ⑤ 青	100
⑤ ⑤ 種	411	⑧ ⑧ 横	311
③ ③ 種	410	⑥ ⑥ 川	300
⑥ ⑥ 森	410	③ ③ 前	200
① ① 有	000	② ② 谷	300
④ ④ 井	400	① ① 森	300
	310		2421

振球機盗失残併 3 2 0

振球機盗失残併 3 6 3

▽二塁打 田中 松本

3 位決定戦

札幌市 (札幌スターズ)

0	3	0	0	0	3	1	0	1	8
2	0	0	3	0	0	0	0	0	5

高砂町 (鐘淵化学)

【札幌市】	打安点	【高砂町】	打安点
④ 米	322	⑧ 8 河	510
⑦ ⑦ 須	421	⑤ ⑤ 山	411
⑨ ⑨ 青	410	③ ③ 久	400
H 9 大	100	⑨ ⑨ 高	311
⑤ ⑤ 峯	000	⑦ ⑦ 高	111
⑧ ⑧ 横	521	2 高	100
③ ③ 川	520	H 田	100
⑥ ⑥ 前	420	④ ④ 深	000
② ② 谷	300	② ② 林	310
① ① 森	212	④ ④ 後	100
1 遠	211	⑦ ⑦ 川	310
1 岩	200	H 前	312
	35137		100

振球機盗失残併 2 7 1

振球機盗失残併 1 1 0

▽三塁打 山内 横関
▽二塁打 高橋 後藤

幻のツーランホームマー

日本石油 建内保興



日本石油の野球部が都市対抗野球で初優勝したのは昭和31年の第27回大会のときである。私が野球部長に就任した初めての年である。以来、私は野球部長として5回、社長になってから1回と日石の6回の優勝全てに直接的あるいは間接的に関わることができた。都市対抗野球関係者として、これ程数多く勝利の美酒に酔いしれた経験をしているのは私以外にはないであろうと密かに自負するとともにこのような幸運に巡り会えたことを有難く思っている。

6回の優勝にはそれぞれ胸が熱くなる思い出があり、数え上げたらキリがない。しかし、嬉しいことばかりではない。実はこの都市対抗野球に絡んでは、いまだに念頭からはなれない無念な事件がある。むしろ華々しい歓喜に満ちた優勝の記憶よりもこの悲痛で重苦しい記憶の方が鮮やかによみがえると言っても過言ではない。

それは昭和43年の第39回大会のことである。前年に5回目の優勝を果たし、連続優勝を狙う日石はエース平松政次投手を大洋球団に送り込んだとは言え、前年12月に米国西海岸を武者修行して得た貴重な試合経験と共に、「殺人打線」の異名をとる強力な打撃陣を擁し、戦前の予想でも優勝の呼び声が高かった。順調に勝ち進んだ準決勝の相手は浜松市代表の河合楽器で、3対1とリードを許した8回裏の日石の攻撃だった。ランナーを1塁に置いて、4番の主砲・秋元国武は期待に応え、左翼中段に豪快なライナーの同点ツーランホームランを放った。この一発はそれまでの沈鬱な雰囲気を一挙に吹き飛ばし、ベンチもスタンドの応援団も沸きに沸いた。私も野球部長としてネット裏で観戦していたのだが、呆然と見送る相手左翼手のはるか頭上を越え、高々とスタンドで2回3回と跳ね上がる白球を見た時、試合の流れがこちらに傾いたことをはっきり確信した。

ところが喜びも束の間であった。次の瞬間、ホームランを打った秋元が二塁ベースを踏まなかったとして二塁ベースの後方に位置した塁審が高々と手を上げてアウトの宣告をしているのではないかと。当然、北崎健二監督は抗議を申し

入れた。しかしながら審判団はその塁審を擁護すべく頑として受け入れない。監督の執拗な抗議にも当方の譲歩を迫るばかりだ。どうしても判定に従えない私は放棄試合覚悟で選手たちを引き連れて退場することを決意した。左翼席中段に跳ね返る堂々のホームランを二塁ベースに触れたか触れないか微妙な点を殊更に取り上げて事実を確かめることもなく、非情にして馬鹿げた宣告を下した審判のもとで試合を続行する気になれなかったのである。私の行動を察知した当時の山本英一郎大会審判委員長がとんできて正面玄関を出ようとした私を制した。そして試合の継続を強く要請した。私は山本氏の誠実なお人柄を良く知っていたし、山本氏も私の心情を良く知っていたと思う。山本氏の真剣な説得が私の気持を動かした。納得できない気持ちに変わりはなかったが、審判に試合を任せた以上、従わざるを得ない。悲憤に満ちた選手たちの顔を見ると、このまま試合を再開するのは忍び難かったが、「ならぬ堪忍するが堪忍」と自分に言い聞かせ、北崎監督に選手を引き連れてダッグアウトに戻るよう指示した。

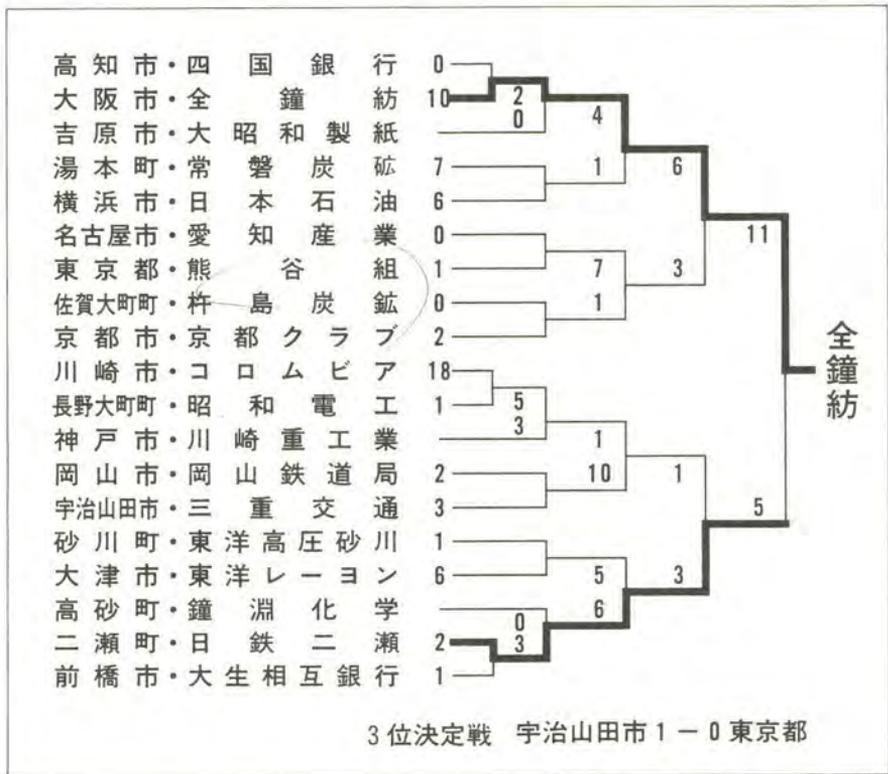
試合の方は、結局3対2で惜敗し、連覇の夢は断たれたが、もし、あの時、山本氏の真剣な制止と説得がなければ日石はもはや都市対抗野球の一員たりえなかつただろう。

また、我々の1時間にわたる抗議の間、興奮を抑え、混乱もなく整然と試合の再開を待っていてくれた1万余の応援団のことも忘れられない。信じられない判定に応援団も腹の虫がおさまらなかつたのではないかと思う。宿舎に引き上げた応援団のリーダー達は肩を抱き合って号泣したと思う。きっと吉田清応援団長（現東京支店次長）は私以上につらかつたに違いない。

この幻の「ツーランホームマー」は都市対抗野球が続く限り、今後も長く語り継がれて行く出来事であろう。と同時に私にとっても胸を締めつけられる出来事として記憶から消し去ることのできない鮮烈な思い出なのである。

（現在、同社取締役会長）

第23回大会 1952年(昭和27年)8月3日-8月11日・後樂園球場 優勝=大阪市・全鐘紡(3年連続3回目)



華やかな応援をみせる常磐炭硯のハワイアンダンサー

京都・熊谷組。東京は立大から入社した大沢貞義投手を先発させたが、大阪は1回に4番・山村一塁手がいきなり2ラン。5回には9番の志賀良宏二塁手から4安打の集中で4点を加えた。4回まで栄屋投手に無安打に抑えられた東京は、7回になって安打と四球で一、二塁とし、坂井豊次二塁手(明治座から補強)が左翼本塁打、3点を返したものの及ばなかった。

濃人渉監督がトップ打者、遊撃手で引っばる二瀬町・日鉄二瀬が快進撃した。野見山博、村上峻介の左右両投手が力投、前橋市・大生相互銀行に競り勝ち、高砂町・鐘淵化学には野見山投手が4安打完封。大津市・東洋レーヨン戦も、いったんは逆転されながら8回に追いつき、延長10回熊井二塁手の二塁打でチャンスをつくり、大津は満塁策をとったが、押し出しの四球を得てサヨナラ勝ち。競り合いに強いところをみせ、宇治山田市・三重交通も破って決勝に進んだが、大阪の猛打にはかなわなかった。

大阪は栄屋、平古場昭二投手が入社、日本生命からの補強もいつも通りで、野球をよく知り、力も技術も兼ねそなえた強チーム。橋戸賞は前年に続いて投打で活躍の松井遊撃手が史上初の連続受賞。首位打者も10打数7安打の志賀内野手、生還打賞も7打点の山村一塁手と、個人賞も独占、強さのほどを示した。久慈賞は二瀬町・野見山投手に贈られた。なおこの年から殊勲賞が新設され、大阪・香川外野手、二瀬・野見山投手ら9選手が受賞した。

2回戦の京都市 京都クラブ対佐賀大町町・杵島炭鉱戦は5回に日没となって点灯、史上初のナイトゲームとなった。

全鐘紡、史上初の3連覇

大阪市・全鐘紡が史上初の3連覇を成しとげた。第60回大会まで破られない偉業であった。

全鐘紡は前年度の優勝チームとして推薦出場の資格があったのだが、補強問題がからみ、推薦を辞退、大阪予選を勝ち抜いての代表だった。推薦ではないが、開会式直後の第1試合に登場、高知市・四国銀行に19安打で10点を奪い圧勝。2回戦で吉原市・大昭和製紙と対戦した。大阪市は慶大、吉原市は早大出身者が多く、「早慶戦の再現」であり、強豪同士の激突とファンをわかせた。大阪・栄屋悦男投手、吉原・吉江英四郎投手の投げ合いで試合は進んだ。7回大阪は山村博敏一塁手が安打すると、吉原は小川俊男投手にリレー、後続を断った。吉原も遊撃から回った大阪のリリーフ、松井実投手(日本生命から補強)を攻め一死満塁としたが実らなかった。大阪は8回、二死満塁。香川正左翼手(中央ベントから補強)が左中間二塁打、2者を迎え入れ、これが決勝点となった。準決勝は対東

大阪市 (全鐘紡)	0	0	0	4	0	0	4	3	0	11
二瀬町 (日鉄二瀬)	0	0	2	0	0	1	0	1	1	5

【大阪市】	打安点振球	【二瀬町】	打安点振球
⑤ 望月	5 2 2 0 0	⑥ 濃田	5 1 0 0 0
⑥ 井中	5 1 3 2 0	⑦ 人島	4 2 1 0 0
⑧ 松岩	5 0 0 0 0	⑧ 宇地	5 1 0 1 0
③ 村弟	4 1 0 0 1	⑨ 石崎	4 2 0 0 0
⑦ 山香	4 3 1 1 0	⑦ 大津	2 1 0 1 0
H 7 平部	1 0 0 0 0	⑧ 上藤	1 1 0 0 0
⑨ 岩高	0 0 0 0 0	① 伊藤	0 0 0 0 0
② 皆岡	4 1 4 0 0	H 1 今久	1 0 0 0 0
R 2 森	3 1 0 0 0	① 7 野見	4 3 4 0 0
① 2 広瀬	0 0 0 0 0	② 山崎	3 1 0 0 1
① 1 塚本	0 0 0 0 0	⑤ H 衛	3 1 0 1 0
① 1 塚本	2 1 0 0 0	④ 田	2 0 0 1 0
④ 志賀	2 0 0 0 0		2 1 0 0 0
	39121031		3715541

▽本塁打 高橋(野見山) 松井(村上) ▽三塁打 香川
 ▽二塁打 野見山 望月 田上



史上初の3連覇を果たした大阪、全鐘紡。黒獅子旗を受ける鐘紡、山村主将

日鉄二瀬、序盤逸機が響く

二瀬町・日鉄二瀬が立ちあがり大阪市・全鐘紡のお株を奪う攻撃をみせた。先発・栄屋に2回まで4安打を浴びせ、代った塚本も打ち込み3回2点をあげた。1、2回の好機をものにできなかったのは痛かったが、鋭いバッシングは見事だった。



水着姿のタレントを繰り出したコロムビアの応援ぶり

大阪打戦は野見山に3回まで無走者に抑えられていたが、4回望月の安打を足がかりに香川の適時打、高橋の本塁打で逆転。

二瀬が6回に3安打で1点を返すと、大阪は7回、皆岡、志賀の安打、敵失もからめ松井の右越えランニング本塁打で4点。8回にも香川の三塁打などで3点を加え勝負を決めた。

大阪は平古場までつぎ込み、二瀬も4投手のリレーとなったが、大阪の強力打戦は目を見張るばかり。大きくリードされながら、最後まで反撃した二瀬の戦いぶりは立派だった。

創設の殊勲賞に9選手

この大会から「試合を勝利に導いた功績の特に顕著な選手」に殊勲賞が贈られることになり、次の9選手が受賞した。

大沢貞義投手(東京) 香川正外野手(大阪)
 野見山博投手(二瀬) 今久留主功外野手(二瀬)
 中崎義夫外野手(宇治山田) 衛藤正三塁手(二瀬) 山村博敏一塁手(大阪) 服部力投手(宇治山田) 高橋久雄外野手(大阪)

- 栄屋 悦男(全鐘紡)
- 力安 駿(全鐘紡)
- 塚本慶太郎(全鐘紡)
- 大沢 貞義(熊谷組)
- 米久保主内(全藤倉)
- 捕手 皆岡 秀雄(日本生命)
- 広瀬 明(全鐘紡)
- 宮原 実(日本鋼管)
- 石垣 一夫(常盤炭礦)
- 内野手 山村 博敏(全鐘紡)
- 山口 知(全鐘紡)
- 高見 宏(全鐘紡)
- 柴尾 八郎(全鐘紡)
- 吉岡 宏(全鐘紡)
- 志賀 良宏(全鐘紡)
- 松井 実(日本生命)
- 望月 信彰(日本生命)
- 坂井 豊司(明治座)
- 外野手 岩本 要三(全鐘紡)
- 岩中 英和(全鐘紡)
- 高橋 久雄(全鐘紡)
- 平部 俊行(全鐘紡)
- 香川 正(中央ペイント)
- 荒川 宗一(大昭和製紙)

世界選手権また1勝4敗

第2回アマチュア野球世界選手権は9月12日から、東京、大阪で7回戦、4勝先勝制で行われた。

対戦相手は8月15日から米国カンサス州ウイチタで開かれた全米ノンプロ野球大会に優勝したコロニアルズ。日本は都市対抗優勝の全鐘紡を中心にした全日本を編成、対戦したが、前回と同じく1勝4敗に終わった。

- 全日本メンバー
- 総監督 牧野 直隆(全鐘紡)
- 監督 大槻 守治(全鐘紡)
- 投手 平古場昭二(全鐘紡)



全国の子選を勝ち抜いた19代表が勢揃い。ホームにもかつて整列した華やかな開会式

出ましたラインダンス

本格的なスタンドの応援合戦はこの大会あたりから始まった。東京都・熊谷組は、いまや伝統となったハシゴ乗り、マトイの応援でファンのどきもを抜き、伊勢神宮のおひざ元、初出場の宇治山田市・三重交通の応援には、真珠を採る海女も姿をみせてスタンドをあおった。

湯本町・常盤炭砦の応援団は、造花のレイを首にかけたワンピース姿の美女一団がラインダンスを披露した。

最もはなやかだったのは12年ぶり出場の川崎市・コロムビア。武藤会長の号令一下、高倉敏、加藤雅夫、増田六郎、山田陽子ら当代人気の流行歌手、漫才の青空トップ、ライトら、芸人80人を動員、さらにストリッパーの紅マユミ、飯塚るみ両嬢が水着姿で登場、スタンドの目を奪った。

ラジオ 2 局で電波合戦

都市対抗人気を反映してNHKと民放のラジオ東京の2局が中継放送を行い、“電波合戦”となった。

NHKには出場チームの地元局からアナウンサーを動員、攻守交代の合い間には、その地方地方のローカル色豊かな話題を放送した。

ラジオ東京はアマチュア野球とあって、異例のスポンサー抜きの放送だった。

三重交通 3 年目の 3 位

東京都・熊谷組対宇治山田市・三重交通の3位決定戦は息づまる投手戦となった。

宇治山田・服部投手は重い速球とカーブで、東京・大沢投手を上まわる力投。宇治山田は6回一死二・三塁とし、スクイズを試みたが、大沢投手は冷静にウエストしてかわした。東

京は7回から速球の本田投手がリリーフ、投げ合いが続き、延長戦になった。

そして13回、宇治山田は西谷遊撃手が安打した一死後、荻本左翼手は右中間を深くと破る殊勲打を放ってサヨナラ勝ち、服部の力投に応え、三重交通はチーム創設3年目の初出場で3位となった。

大きな仕事のできたの思い

大阪市・全鐘紡
松井実選手
(日本生命から補強)



海草中から昭和14年藤倉電線に入社、その年優勝。復員後全大阪を経て日本生命入り。全鐘紡に補強され21回大会から3連覇に貢献、22、23回大会で初の橋戸賞連続受賞。

いまふり返ってみると野球が好きだったということだろう。和歌山の新北小学校からずっと一緒だった捕手の皆岡秀雄と二人三脚のように歩いた都市対抗の道は、私の人生そのものだった。

藤倉電線に入社した年に、吉田正勇さんと優勝し、ニューギニアで終戦を迎え、マラリヤ、栄養失調でフラフラになって故郷の和歌山に帰り、荘保商店時代は全大阪でプレー。24年に日本生命に入社して、25年から全鐘紡

に補強されて3連勝。4回も黒獅子旗を手にした喜びは、文字通り「大きな仕事のできたものだ」の思いがする。

やはり鮮明な記憶として残るのは橋戸賞を頂いた第22回、23回大会だ。

22回大会ではピンチでリリーフに立つことが多かったが、コントロールには自信があったし、わずか2、3球のウォームアップで投げられる肩の強さで切り抜けられた。「打たせりゃいい」の気持ちで、走者を背負った場面でも、いつもと変わらなかった。横から投げる球がシュートしたり、スライドしたり。球に伸びがあったのがよかったのだろう。でも、内野の球まわしの時の送球でも、1投が10投の効果になるように真剣に投げたものだ。

23回大会は2回戦の大昭和の試合が苦しかったが、7回にリリーフして一死満塁を切り抜け、8回に私の安打から逆に満塁とし、やはり補強の香川正が2点二塁打。これが決勝点で勝ち進み、決勝の二瀬戦では1点差に迫られた直後に2点ランニング本塁打。

史上初の橋戸賞連続は夢にも思わなかった感激で、私の野球生活の宝としていまでも大切に飾ってある。

1回戦

大阪市 (全鐘紡)

1	3	0	2	3	0	1	0	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

高知市 (四国銀行)

【大阪市】	打安点	【高知市】	打安点
⑤	6	⑦	3
4	3	⑧	1
4	0	⑧	1
④	0	H	1
④	3	8	1
④	1	⑨	1
⑧	0	⑨	4
⑧	4	⑨	4
③	2	⑨	4
③	1	⑨	2
⑦	0	⑨	2
⑦	0	⑨	1
②	0	⑨	1
②	3	⑨	2
②	0	⑨	1
①	0	⑨	1
①	2	⑨	1
H	1	⑨	1
①	1	⑨	1
⑥	3	⑨	1
6	2	⑨	1

振球機盗失残併 0 2

▽三塁打 熊井

1回戦

川崎市 (コロムビア)

5	0	3	1	0	5	0	2	2	18
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

長野大町町 (昭和電工)

【川崎市】	打安点	【長野大町町】	打安点
⑤	4	⑨	3
5	1	⑨	1
⑨	3	⑥	3
9	2	⑦	3
⑧	1	⑦	0
⑧	4	④	2
③	1	④	4
③	1	H	1
4	1	①	0
④	2	1	2
⑥	0	H	1
6	3	①	1
⑥	1	H	0
①	2	②	3
1	1	⑤	2
1	0	⑤	0
②	2	⑤	0
2	2	⑤	0
⑦	3	⑤	0
7	0	⑤	0

振球機盗失残併 2 6

▽三塁打 掛飛 小河原

1回戦

前橋市 (大生相互銀行)

0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	0	1	1	0	0	0	0	0	2

二瀬町 (日鉄二瀬)

【前橋市】	打安点	【二瀬町】	打安点
⑧	2	⑥	2
④	0	③	3
④	3	⑨	3
③	0	⑧	2
③	0	⑦	2
⑤	2	7	2
R	0	①	3
⑦	4	②	4
②	0	⑤	3
①	0	④	3
1	0	④	1

振球機盗失残併 5 7

▽二塁打 熊井

2回戦

横浜市 (日本石油)

1	0	1	1	0	0	0	3	0	0	6
0	0	0	0	0	3	1	0	2	0	7

湯本町 (常磐炭砒)

【横浜市】	打安点	【湯本町】	打安点
④	5	⑥	5
⑤	2	⑤	1
②	1	⑨	3
③	1	⑨	2
③	5	⑧	5
①	2	⑦	4
⑧	6	③	3
8	2	②	1
①	0	①	1
1	0	④	2
3	2	H	1
⑥	5	R	1

振球機盗失残併 5 6

振球機盗失残併 1 8

▽三塁打 吉村 (野口)

東京部 (熊谷組)

0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

名古屋市 (愛知産業)

【東京都】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑦	4	⑤	4
⑧	3	③	3
⑤	3	⑨	1
②	4	H	3
①	3	④	1
④	3	④	1
③	4	⑧	3
⑥	3	②	3
⑨	1	⑦	3
H	0	H	2
9	0	①	1

振球機盗失残併 7 3

振球機盗失残併 4 1

▽三塁打 福村

京都市 (京都クラブ)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

佐賀大町町 (杵島炭鉱)

【京都市】	打安点	【佐賀大町町】	打安点
④	6	④	6
⑥	4	⑧	6
⑦	4	③	4
③	6	H	1
⑧	6	⑦	5
⑨	5	⑤	2
⑤	5	5	1
②	4	5	1
①	1	⑨	3
H	1	6	1
1	3	②	4

振球機盗失残併 8 4

振球機盗失残併 7 4

2回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0	0	0	0	0	5	0	1	6
0	0	0	0	0	0	0	1	1

砂川町 (東洋高圧砂川)

【大津市】	打安点	【砂川町】	打安点
⑦	5	④	4
⑥	1	⑨	4
⑧	3	⑧	4
⑨	4	③	3
③	3	⑦	3
②	3	⑤	4
①	4	②	4
④	4	①	3
⑤	4	⑥	3

振球機盗失残併 2 3

振球機盗失残併 2 1

▽三塁打 末崎 吉村

2回戦

岡山市 (岡山鉄道局)

0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3

宇治山田市 (三重交通)

【岡山市】	打安点	【宇治山田市】	打安点
⑧	5	⑨	3
④	1	9	2
④	4	⑥	5
③	4	⑨	5
③	5	④	4
②	4	⑦	4
⑦	4	②	5
9	0	⑤	5
3	0	③	4
⑤	5	①	4
①	2	③	2
1	0	1	2
⑥	4	1	2

振球機盗失残併 5 3

振球機盗失残併 3 2

▽二塁打 藤沢

2回戦

大阪市 (全鐘紡)

0	0	0	0	0	0	2	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0

吉原市 (大昭和製紙)

【大阪市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑤	3	⑤	4
④	3	⑥	3
⑧	4	⑦	4
③	3	⑨	3
⑦	3	⑧	3
⑨	4	③	1
②	2	④	3
①	2	④	3
H	1	①	1
6	1	H	1
⑥	3	②	2

振球機盗失残併 3 4

振球機盗失残併 4 2

▽二塁打 荒川 香川

2回戦

神戸市 (川崎重工業)

0	1	0	0	0	2	0	0	3
1	2	0	0	1	0	1	0	5

川崎市 (コロムビア)

【神戸市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥	4	⑤	3
⑧	2	5	1
H	1	⑨	3
8	0	⑧	3
⑦	4	③	4
③	4	R	0
⑤	4	④	0
①	1	3	2
1	3	⑥	2
④	4	H	1
②	0	6	1
2	4	②	2
②	3	2	2

振球機盗失残併 4 5

振球機盗失残併 4 6

▽三塁打 松井

▽二塁打 長島

2回戦

高砂町(鐘淵化学)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 0 1 0 0 1 x | 3

二瀬町(日鉄二瀬)

【高砂町】	打安点	【二瀬町】	打安点
(8) 河内山	4 1 0	(6) 濃田	3 0 0
(5) 山久留	2 0 0	(3) 宇宮	4 2 1
(7) 久留山	4 0 0	(8) 石野	4 1 0
(3) 青山	4 1 0	(1) 見山	3 0 0
(6) 前尾	4 0 0	(9) 辺	3 0 0
(2) 後川	2 1 0	(7) 塚	1 0 0
(4) 尾川	2 0 0	(2) 瀨	3 1 0
H 岩	1 0 0	(5) 衛	2 0 0
2 林	0 0 0	(4) 熊	1 0 1
(1) 鈴	3 0 0	振球機盗失残併	
1 真	0 0 0		27 4 2
振球機盗失残併		▽二塁打	石崎
8 2	2		

準々決勝

湯本町(常磐炭砒)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 0 0 4 0 0 0 0 0 x | 4

大阪市(全鐘紡)

【湯本町】	打安点	【大阪市】	打安点
(6) 福井	2 0 0	(5) 岡	1 1 1
(9) 藤井	3 0 0	(4) 志	1 0 0
(5) 出元	4 1 0	(4) 賀	4 1 1
(8) 坂元	2 0 0	(8) 中	3 1 0
H 川	1 0 0	(3) 村	4 0 0
(7) 石	1 0 0	(7) 川	3 0 0
(3) 武	4 2 0	(9) 瀨	3 2 0
(2) 衛	4 1 0	(2) 岡	3 0 0
(1) 石	3 0 0	(1) 岡	1 0 0
(1) 沼	1 0 0	(1) 塚	2 0 0
H 上	1 0 0	(6) 平	1 0 0
(4) 布	0 0 0		27 5 2
(1) 蔵	2 0 0	振球機盗失残併	
H 原	1 0 0		4 6 0
4 渡	0 0 0		
振球機盗失残併		▽二塁打	衛藤 高橋 武笠
5 4	3		

準々決勝

京都市(京都クラブ)

0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
1 0 2 0 0 0 0 3 1 x | 7

東京都(熊谷組)

【京都市】	打安点	【東京都】	打安点
(4) 谷	4 2 0	(7) 秋	4 1 0
(8) 村	4 0 0	(8) 福	2 1 0
(7) 口	4 0 0	(5) 石	4 1 1
(3) 井	4 1 1	(2) 福	5 1 1
(9) 田	3 0 0	(3) 石	3 1 1
H 原	1 1 0	(4) 藤	2 2 1
R 山	0 0 0	(1) 渡	4 0 1
(5) 一	4 0 0	(9) 坂	0 0 0
(2) 山	1 0 0	(6) 大	3 0 0
2 野	1 0 0	(5) 吉	1 0 0
(1) 高	1 0 0	(9) 木	2 0 0
1 大	2 0 0	(1) 加	1 0 0
(6) 小	3 1 0	(4) 本	3 1 7 5
振球機盗失残併			31 7 5
5 1	5	振球機盗失残併	1 7 0

準々決勝

川崎市(コロムビア)

0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 4 0 1 0 2 3 0 x | 10

宇治山田市(三重交通)

【川崎市】	打安点	【宇治山田市】	打安点
(5) 川	3 0 0	(9) 崎	4 2 4
(4) 小	1 0 0	(9) 井	1 0 0
(4) 岩	3 0 0	(6) 谷	3 0 0
H 原	1 0 0	(4) 中	3 2 0
(9) 宮	3 0 0	(6) 藤	4 2 0
(3) 小	3 0 0	(8) 西	5 2 4
(3) 間	1 0 0	(7) 水	4 2 0
(6) 富	3 0 0	(1) 萩	5 1 0
(6) 島	0 0 0	(2) 本	4 1 0
(7) 長	0 0 0	(3) 部	3 2 0
(6) 吉	3 0 0	H 野	1 1 0
(7) 島	0 0 0	(4) 塚	0 0 0
(6) 神	2 1 0	(5) 橋	2 1 1
(7) 小	1 0 0	振球機盗失残併	
(2) 稲	2 1 1		2 9 2
(2) 室	1 0 0	▽三塁打	中崎 2
(1) 掛	0 0 0	▽二塁打	荻本 乾
(1) 根	1 0 0		
(1) 岡	1 0 0		
(1) 大	1 0 0		
(8) 山	3 1 0		
	3 1 0		
	30 3 1		
振球機盗失残併			
3 0	2		

準々決勝

大津市(東洋レーヨン)

0 0 4 0 0 0 1 0 0 0 | 5
1 0 1 1 0 0 1 1 0 1 | 6

二瀬町(日鉄二瀬)

【大津市】	打安点	【二瀬町】	打安点
(7) 山	3 0 0	(6) 濃	3 2 1
(6) 田	4 2 0	(3) 田	3 0 0
(6) 武	4 1 1	(9) 宇	5 2 1
(8) 山	4 1 1	(8) 地	2 2 2
(9) 野	3 2 2	(7) 崎	2 0 0
(3) 水	5 1 0	(7) 山	2 0 0
(2) 村	2 0 0	(1) 今	5 1 0
(1) 竹	0 0 0	(2) 久	1 0 0
(1) 池	3 1 0	(1) 留	2 0 0
H 木	5 0 0	(5) 主	5 2 1
(4) 吉	3 0 0	(4) 見	5 1 0
(5) 国	3 0 0	(5) 野	5 1 0
	36 8 4		35 10 5
振球機盗失残併		振球機盗失残併	
11 7	1	3 3	1
▽本塁打	衛藤(鈴木輝)	▽三塁打	濃人
▽二塁打	門川 鈴木武	▽二塁打	清水 熊井

準決勝

大阪市(全鐘紡)

2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 | 6
0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3

東京都(熊谷組)

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
(5) 望	4 2 0	(7) 秋	4 0 0
(4) 高	1 0 0	(8) 山	3 1 0
(6) 松	4 1 0	(5) 福	4 1 0
(8) 井	5 1 1	(2) 石	3 0 0
(3) 村	5 3 4	(3) 原	3 0 0
(7) 中	3 0 0	(4) 田	3 1 3
(9) 弟	3 1 0	(1) 部	4 1 0
(7) 香	0 0 0	(6) 井	1 0 0
(9) 高	3 0 0	(9) 田	3 1 0
(7) 岩	3 0 0	(5) 大	1 0 0
(2) 本	3 0 0	(9) 吉	1 0 0
(1) 岡	3 0 0	(1) 木	2 0 0
1 屋	1 0 0	(1) 加	3 1 5 3
(4) 塚	4 3 0	振球機盗失残併	
(5) 志	3 6 1 1 5		3 4 2
振球機盗失残併		▽本塁打	山村弟(大沢) 坂井(栄屋)
2 2	0		

準決勝

宇治山田市(三重交通)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
3 0 0 0 0 0 0 0 x | 3

二瀬町(日鉄二瀬)

【宇治山田市】	打安点	【二瀬町】	打安点
(9) 中	5 1 0	(6) 濃	4 1 0
(6) 西	2 0 0	(3) 田	4 1 0
(4) 永	2 0 0	(9) 宇	3 0 0
(8) 大	2 1 0	(8) 宮	3 0 0
(7) 萩	4 1 0	(7) 石	4 1 3
(2) 本	4 1 0	(2) 今	4 1 0
(5) 部	2 0 0	(1) 久	3 1 0
(3) 水	4 1 0	(5) 崎	0 0 0
H 深	3 0 0	(4) 野	3 0 0
(1) 野	1 0 0		2 0 0
(1) 井	1 0 0	振球機盗失残併	
1 藤	2 1 1		3 3 0
振球機盗失残併		▽本塁打	今久留主(後藤)
6 4	2		

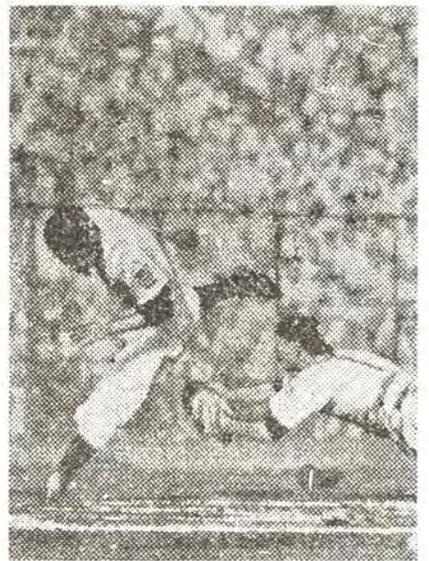
3位決定戦

東京都(熊谷組)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

宇治山田市(三重交通)

【東京都】	打安点	【宇治山田市】	打安点
(5) 石	6 1 0	(9) 中	4 0 0
(8) 福	5 0 0	(6) 植	1 0 0
(4) 坂	4 1 0	(9) 西	6 3 0
(2) 井	5 1 0	(8) 田	5 1 0
(3) 村	5 0 0	(7) 谷	5 2 1
(1) 田	5 2 0	(8) 乾	4 1 0
(9) 大	2 0 0	(2) 萩	5 1 0
1 中	2 0 0	(1) 服	5 1 0
(7) 本	4 0 0	(4) 本	5 1 0
(5) 秋	2 0 0	(3) 部	4 0 0
6 木	3 0 0	(5) 渡	4 1 0
振球機盗失残併		振球機盗失残併	
5 2	0	6 6	0
▽二塁打	大橋 水谷 辻 荻本 2		



都市対抗野球に敬意と感謝

大昭和製紙 齊藤了英



昭和28年7月12日。この日は、私にとっても大昭和製紙株式会社にとっても、忘れられぬ日であります。大昭和製紙野球部が第24回都市対抗野球大会で優勝、初の日本一の座を勝ちとった日です。この全国制覇で会社も社員の士気も大いに向上。大昭和製紙の心意気を内外に示し、これを機に飛躍する足掛かりとなりました。

第二次世界大戦が終わってから8年。当時の都市対抗野球の話題、大げさにいえば日本のアマチュア野球界に示すファンの目は、無敵を誇る大阪代表の全鐘紡が狙う、4連覇にどこの代表がストップをかけるかにしぼられていました。

全鐘紡の監督は牧野直隆（現日本高校野球連盟会長）。大昭和は、専務だった私、齊藤了英。この両チームが勝ち進み、決勝で相まみえることになったのです。両者の顔合わせは、早稲田色の強い大昭和と、慶応義塾カラーの鐘紡といった背景もあって、大変な人気を集めました。

後楽園球場は、朝早くから大勢のファンが詰めかけ、どうしても入場券が手に入らずに引き揚げる人が何千人もいたといわれます。地元の富士、吉原両市から応援に駆けつけた大勢の人達も入場できず、球場をとり巻き、場内から湧きおこる歓声に一喜一憂しておりました。

試合は予想通りの力強い投手戦を展開。大昭和が3回に1点を先取。6回には石井藤吉郎、北川桂太郎の快打で2点を追加、黒柳巽投手が全鐘紡の強力打線を抑え3-0で完封勝ち。初の王座につきました。東日本に黒獅子旗が渡るの、実に14年ぶりのことで、私個人にとっても、生涯で忘れられない感激の日でした。その感激は、ただ、野球に勝ったというだけのものではありません。都市対抗という伝統のある大会に仲間入りできた、という喜びもあったのです。

昭和2年、大連満州倶楽部の優勝で幕を開けた都市対抗

野球は、伝統のある大会であります。戦前は神宮球場で活躍した選手たちをはじめ、大学野球の名選手たちが東京、大阪をはじめ、中国東北部や、朝鮮にあった満州倶楽部、全京城などの中心選手となって、年に1度、東京に集まり王座を競ったのです。戦後は、そうした土台のうえに郷土の期待をになうチームが続々と出現、60年の歴史を持つこの大会は、ますます盛大に栄えているのであります。

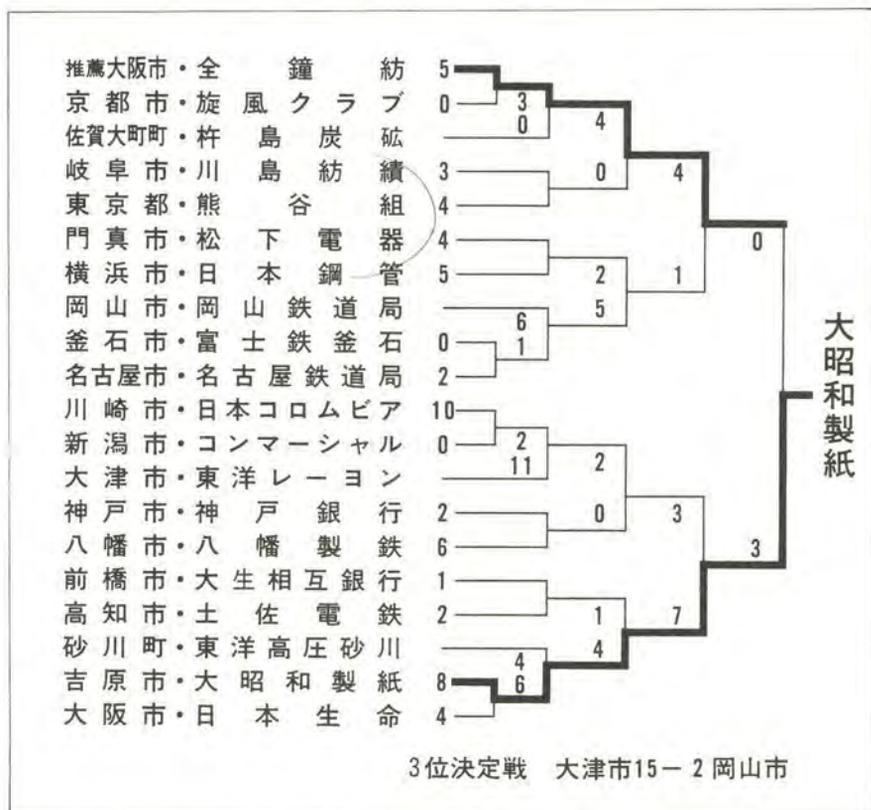
私共の大昭和製紙野球部の本格的活動は戦後間もなくであります。食糧をはじめ、あらゆる物資が不足し、人々はその日、その日を生きているのが精一杯。大昭和製紙も戦争で工場機能が大打撃を受けるなど、すさんだ世の中でありました。そういうなかで大昭和が野球部を創設したのは、社員の団結心を高め、士気の昂揚を図るとともに、大昭和製紙の心意気を内外に示すのも大きな目的だったのです。そうした時代に、野球を愛した浅井礼三、石坂光雄、飯島三四郎、石井藤吉郎、荒川宗一君ら早稲田の面々が私のところに集まってきました。私が監督となり、こうした選手たちとともにチームの強化に心血をそそいだのです。これが私の都市対抗野球への第一歩だったのです。そして今日の大昭和製紙野球部があるのは、中部地区、とりわけ静岡県下の都市対抗予選で切磋琢磨しあう日本軽金属さん、河合楽器さん、日本楽器さんの大きな存在と恩恵も忘れられないことであります。

大昭和製紙北海道チームも昭和49年、多くの先人たちが挑戦しても成し得なかった「黒獅子旗、津軽の海を渡る」の大快挙を成し遂げることができました。

私は都市対抗野球60周年記念にあたり、「人の5倍、10倍も努力すれば、人生においても不可能はない」という教訓を授けてくださった都市対抗野球大会に、心から感謝をしている者の1人であります。

（現在、同社代表取締役名誉会長）

第24回大会 1953年(昭和28年)7月5日-7月12日・後楽園球場 優勝=吉原市・大昭和製紙



鐘紡は今回は推薦を受け、「単独」チーム。第19回大会に初出場以来5度目の後楽園、メキメキ力をつけてきた吉原市とは、東西の横綱をうたわれたうえ、鐘紡は牧野直隆監督を初め、平古場昭二投手、種田吉富捕手、高見宏、松本豊、吉岡宏の内野手、岩中英和、高橋久雄両外野手と慶大出でチームを固め、一方吉原は斎藤了英監督、吉江英四郎投手、海部和夫内野手、石井藤吉郎、荒川宗一両外野手と主力は早大出。まさしく「早慶戦」の様相を呈し、ファンをわかせた。超満員で入場できなかった観客は1万人を超えたほどの人気だった。

19歳の吉原の黒柳 巽。23歳の鐘紡の栄屋 悦男と若手両投手の投げ合いは黒柳投手が鐘紡打線を1安打で完封。悲願の初優勝を果たした。

吉原は1回戦で大阪市・日本生命に10安打を浴せて終盤逆転勝ち。砂川町・東洋高圧砂川、高知市・土佐電鉄を破って準決勝の大津市・東洋レーヨン戦。黒柳投手の調子が悪く6回、逆転されたものの、その裏、石井中堅手の痛打を皮切りに北川桂一郎遊撃手、日下部郁郎捕手(日軽金から補強)の安打などで3点。代った東口義松投手が7回に1点差に迫られはしたが、8回高橋敏一塁手(日軽金から補強)の本塁打などで3点を加えとどめを刺した。

鐘紡も1回戦の京都市・旋風クラブから佐賀大町町・杵島炭、東京都・熊谷組を栄屋、平古場、本庄賢投手の好投で零封。準決勝の岡山市・岡山鉄道局戦も1回に岩中中堅手が2点本塁打、早々とペースをつかみ、3投手のリレーで岡山市に1点を許したものの快勝だった。

吉原市の優勝は、黒柳子旗が14年ぶりに東日本に戻ってきたことであり、第13回大会に東京都・藤倉電線が優勝して以来、ずっと続いていた西高東低の流れを変え、東日本勢が巻き返すきっかけになった。

橋戸賞は吉原・黒柳投手に贈られ、久慈賞は鐘紡の種田捕手。

大会第2日目の1回戦、岐阜市・川島紡績対東京・熊谷組戦は、見応えのある投手戦となり、延長19回東京都がサヨナラ勝ち。最長延長記録を更新した。

この大会から選手に背番号がつけられた。

優勝チームはハワイ遠征

都市対抗優勝チームをハワイに遠征させることが1月の社会人野球協会総会で決定した。優勝チームの海外遠征は、前回優勝の全鐘紡がフィリピン野球協会に招かれ、この年の5月、マニラに行ったが大会終了直後に派遣するのは初めてのこと。そのため大会期間を大幅に繰り上げ、7月5日から20チームが参加して行われた。

優勝を競ったのは、前人未到の4連覇を目指す推薦・全鐘紡と吉原市・大昭和製紙だった。



吉原、初優勝の瞬間。4連覇を狙う全鐘紡を倒し感激の選手と超満員の応援団

決勝

吉原市 (大昭和製紙)										
	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全鐘紡 (推薦・大阪市)										

【吉原市】	打安点振球	【全鐘紡】	打安点振球
⑤ 杉山	5 2 0 1 0	⑤ H	3 0 0 0 0 0
④ 村黒	2 0 0 1 2	⑥ H	1 0 0 0 0 0
⑦ 川井	3 0 0 1 2	⑦ ⑧	4 0 0 0 1 0
⑧ 荒石	3 1 1 0 1	⑧ ⑨	4 0 0 0 0 0
③ 高橋	3 0 0 2 0	③ ④	3 0 0 0 0 0
⑨ 石井	4 0 0 1 0	② ⑤	2 1 0 0 1 1
⑥ 浅井	4 2 1 1 0	② ⑥	3 0 0 0 2 0
② 北川	1 0 0 1 1	⑦ ⑦	3 0 0 0 1 0
H 上野	1 1 1 0 0	④ ⑦	1 0 0 0 0 0
2 下柳	1 0 0 0 0	H ④	1 0 0 0 0 0
① 黒柳	3 0 0 0 0	① ④	1 0 0 0 0 0
	306 3 8 6	4	2 0 0 0 1
			28 1 0 4 2

犠併残盗失	犠併残盗失
3 0 9 0 0	0 0 3 1 1
投手回	投手回
黒柳 9	栄屋 9
打安振球責	打安振球責
30 1 4 2 0	39 6 8 6 2

▽三塁打 北川▽二塁打 種田▽1時間50分

東京は4回途中まで5安打された大沢を東大出の蒲池に代え、岐阜の左腕塩見も7回途中で服部にマウンドをゆずった。蒲池は外角へのカーブを巧みに使い、服部はバックの好守もあり重い速球で東京打線を抑えた。

そして19回、東京は滝峠が三塁ベースに当たった内野安打、中村が送ったあと、8番の吉田の一撃は左翼手頭上を破り、フェンスに直接当たった二塁打となって、滝峠が生還。東京がサヨナラ勝ちを果し、3時間39分の熱戦にピリオドをうった。

ますます華麗に応援合戦

会社あげての応援合戦はますます華やかになり、川崎市・日本コロムビアは上京した栃木県真岡工場の200人も加え1000人を越える応援団。歌手ら芸能人も総動員したう

え、コロネーション・ダンスと銘うって王冠をかぶったNDTのダンサーが10人揃って派手なラインダンス。脚線美を披露すれば、満員のスタンドは試合そっちのけて大拍手。

さすが沢村貞子の予想

女子大生時代から野球が好きで東京六大学リーグには日参したほどのファンの女優の沢村貞子さん。

準々決勝の行われた、第6日にネット裏でじっと観戦していたが「都市対抗は神宮でおなじみの選手が年に1度集まる大会。六大学以外の選手でも、地方出身の方は郷土のチームがやってくるとなつかしがり、本当にいい大会。決勝にも来るつもりですが、決勝戦はやはり全鐘紡と大昭和製紙になるでしょう」とズバリ。さすがが長年の都市対抗ファンだ。

19歳、許した走者3人だけ

弱冠19歳、吉原市・大昭和製紙の若きエース黒柳がすばらしいピッチングをみせた。速球は威力十分で低めにコントロールされ、ドロップは角度、落差が大きく、制球力もよかった。

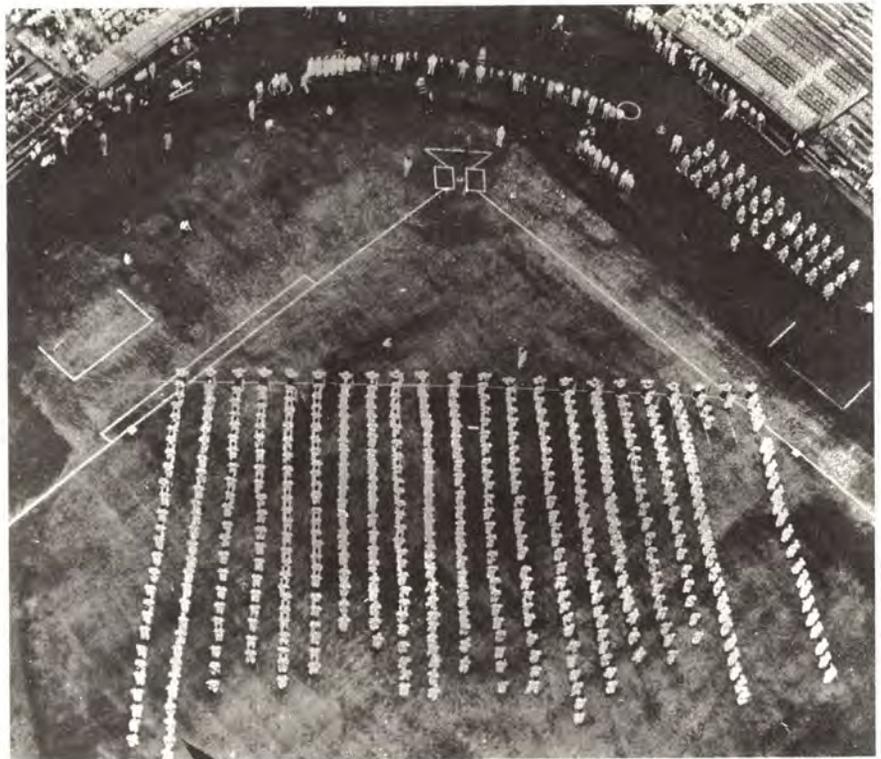
吉原はカーブの定まらない全鐘紡・栄屋を攻め、3回上仲が四球で歩き、杉村の三ゴロが徹失を誘って一・二塁。二死後主軸打者を警戒し過ぎた栄屋から、荒川、石井が連続四球を選び、押し出して1点を先取した。

吉原市は6回にも石井が安打を打ち、北川が中越え三塁打、代行の遠井も左前適時打を続けて2点を加えた。

黒柳は鐘紡の強打線を力て抑え切り、許した走者は種田の1安打と2四球だけ。危ないピッチングで完封した。

19回3時間39分の熱戦

大会記録となる延長19回の接戦を演じた岐阜市・川島紡績対東京都・熊谷組。4回までともに堂々と競り合って3-3となった。



開会式で入場行進のあと、ダイヤモンドに整列した代表20チームの選手たち=本社機から



堂々の初優勝を成しとげハワイ遠征した大昭和製紙チームの帰朝歓迎会

大昭和主体に遠征23人

優勝した大昭和製紙を主体とする全日本が編成され、7月30日出発、ハワイで12試合行った。ハワイ遠征メンバー

- 監督 齊藤 了英 (大昭和製紙)
- 助監督 山県 将泰 (大昭和製紙)
- コーチ 浅井 礼三 (大昭和製紙)
- 主将 石井藤吉郎 (大昭和製紙)
- 投手 黒柳 巽 (大昭和製紙)
- 東口 義松 (大昭和製紙)
- 吉江英四郎 (大昭和製紙)
- 小川 俊男 (大昭和製紙)
- 栄屋 悦男 (全鐘紡)
- 蒲池 信二 (ニッポンビール)

捕手	稲川 豪一 (大昭和製紙)
	種田 吉富 (全鐘紡)
内野	山県 将泰 (大昭和製紙)
	朝比奈 三郎 (大昭和製紙)
	高橋 敏 (日軽金)
	北川 桂太郎 (大昭和製紙)
	杉村 睦彦 (大昭和製紙)
	松井 実 (日本生命)
	木村 保之 (川島紡績)
外野手	荒川 崇一 (大昭和製紙)
	石井 藤吉郎 (大昭和製紙)
	浅井 礼三 (大昭和製紙)
	徳丸 幸助 (大昭和製紙)

M E M O

◇最多延長19回 2回戦の岐阜市・川島紡績対東京都・熊谷組の試合は、途中からリリーフした岐阜・服部力(三重交通から補強)、東京・蒲池信二(ニッポンビールから補強)両投手の投げ合いで延長19回と最長記録をつつた。従来記録は第4回大会1回戦の全神戸対鹿児島鉄道局の17回。



念願の初優勝を果たし、黒獅子旗を受ける山県助監督

ロングリリーフ14回2/3

5回の一死後マウンドにあがり延長19回、サヨナラ勝ちを収めるまで14回2/3を投げ抜いた東京都の熊谷組の蒲池。ニッポンビールから補強されての出場だが、東大時代に比べ、ウェイトが増しスピードが加わった。

「岐阜の打者は大振りの人が多かったから、落ちるシュートを多投した。ストレートは外角の低めにしか投げなかった」と、大ロングリリーフの好投を振り返ったが、強打で鳴る岐阜打線を抑え切った頭脳的なピッチングは光った。

感激した地元の歓迎

吉原市・大昭和製紙
石井藤吉郎外野手



復員して早大を卒業。昭和26年大昭和製紙に入社。強打者として鳴らした。早大監督も勤め現在日本野球連盟常務理事。茨城県大洗町の観光協会、体育協会会長。

決勝で鐘紡と対戦したが、前年は初戦で鐘紡にやられていたからどうしても勝ちたかった。しかも大昭和は早稲田カラーが強く、鐘紡は慶応色ということもあって、ファンの方々の関心も高く、我々も意識した。

3回に二死二・三塁で鐘紡の柴屋悦男投手は3番の荒川宗一を敬遠、わたしと勝負にきた。「よし」と打席についたのだが、ボールばかりでカウント0-3。すっかり打ち気をそかれてしまい、1度もバットを振らずに2

ー3から四球。押し出して先取点となった。6回にはわたしが安打すると北川桂一郎がセンターオーバーの三塁打。次に代打の早稲田の後輩で新人の遠井敏夫が初球を振り抜いて素晴らしい当りの左前適時打。「これで勝った」と思った。

吉江英四郎さん、小川俊男さん、東口義裕ら、投手陣が熟年組だったので、この試合までは守っていて不安があったが、決勝では黒柳翼が、それこそ一世代のピッチングをしていたので安心だった。

全盛の鐘紡を倒しての初優勝だったから、うれしさも格別だったが、黒獅子旗を持って帰ってきたときの地元の歓迎ぶりは今でも忘れられない。すごいなんていうものじゃなく、沼津の駅前も人の波だったが、吉原駅では花火があがる、提灯行列が始まる。とにかく駅前広場に出るまでが大変だったほどだ。吉原始まって以来の人出といわれた。

会社も喜んでくれたが、大昭和の基盤を確立したという点で、この年の優勝は、大きな意義があったと思っている。

1回戦

全鐘紡 (推薦・大阪市)

0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

京都市 (旋風クラブ)

【全鐘紡】	打安点	【京都市】	打安点
⑤ 吉岡 5 3 1		⑦ 田辺 3 0 0	
⑥ 松本 4 1 1		⑧ 榎原 0 0 0	
⑧ 岩中 4 2 0		H 1	
③ 山村 3 2 1		④ 富部 3 0 0	
② 種田 5 1 1		H 1	
⑨ 高橋 5 0 0		⑥ 伊田 3 0 0	
⑦ 岩屋 4 0 0		⑨ 滝上 4 0 0	
① 山本 2 2 1		③ 小倉 3 0 0	
H 山口 1 0 0		⑧ 榎原 3 0 0	
① 平古 1 0 0		⑤ 岸 3 0 0	
④ 高見 2 0 0		① 宮竹 2 1 0	
	36 11 5	① 種高 1 1 0	
振球機盗失残併		② 田田 2 1 0	
3 7 1 1		2 中瀬 1 0 0	
▽二塁打 小竹			29 3 0
山村 栄屋 吉岡		振球機盗失残併	
岩中▽2時間		8 2 1 1	

1回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	0	0	1	×	1	2

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【釜石市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑤ 福田 4 2 0		③ 長尾 3 0 0	
⑨ 小井 3 0 0		⑥ 中島 3 1 0	
H 井上 1 0 0		⑧ 小野 2 0 0	
⑧ 皆川 3 0 0		⑦ 久野 4 1 1	
③ 中海 3 0 0		⑤ 酒井 3 0 0	
④ 海野 3 1 0		⑨ 木野 3 0 0	
② 衛藤 3 0 0		④ 伊藤 2 0 0	
⑦ 加藤 1 0 0		② 渡辺 2 0 0	
7 杉山 2 0 0		① 中村 1 0 0	
⑥ 星 2 0 0			23 2 1
H 増田 1 1 0		振球機盗失残併	
6 鈴木 0 0 0		3 6 0 1	
① 小方 2 0 0			
1 高田 1 0 0		▽二塁打 中山 増田	
	29 4 0	久野▽1時間34分	
振球機盗失残併			
4 1 2 0			

1回戦

川崎市 (日本コロムビア)

3	0	3	1	0	0	3	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

新潟市 (新潟コンマーシャル)

【川崎市】	打安点	【新潟市】	打安点
⑤ 小川 3 0 0		⑥ 平沢 3 1 0	
5 宮本 1 1 0		⑨ 柄原 3 0 0	
③ 坂本 2 0 0		⑤ 桑本 3 2 0	
3 山本 2 0 0		③ 若松 4 0 0	
⑨ 富島 4 2 1		⑦ 中村 4 1 0	
④ 吉水 3 1 2		② 倉山 2 0 0	
H 吉内 1 0 0		H 1	
4 内村 0 0 0		① 大丸 1 0 0	
⑦ 村松 4 1 3		H 1	
7 高重 1 0 0		I 1	
⑧ 永井 3 0 0		H 1	
8 松本 2 0 1		R 1	
① 大橋 3 1 0		④ 中野 0 0 0	
2 大松 2 2 1		H 1	
② 室島 1 0 0		④ 高島 3 0 0	
H 島本 1 0 0		H 1	
1 岡本 2 0 0			31 5 0
⑥ 小池 4 1 0		振球機盗失残併	
	39 9 8	5 6 5 1	
振球機盗失残併		▽三塁打 島方 富松	
3 5 1 1		▽二塁打 富松 本間	
		村松▽1時間57分	

準々決勝

全鐘紡 (推薦・大阪市)
 0 0 0 4 0 0 0 0 0 | 4
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

東京都 (熊谷組)

【全鐘紡】	打安点	【東京都】	打安点
⑤	岡本	⑧	篠原
⑥	岡本	⑤	原村
⑧	中本	⑨	田村
③	岩山	②	田村
②	山種	④	前田
③	村弟	②	橋本
⑦	高岩	④	橋本
⑦	高岩	⑥	橋本
④	高岩	③	橋本
H	山口	H	橋本
4	賀屋	③	橋本
①	賀屋	①	橋本
	4000	⑦	橋本
	3684	H	橋本
		①	橋本
		1	橋本
		3	橋本
		4	橋本
		3030	

振球機盗失残併
 12 4 1
 振球機盗失残併
 2 2 1 1

▽二塁打 松本 渡部
 前田 黒岩
 ▽1時間43分

準々決勝

岡山市 (岡山鉄道局)
 0 0 1 0 0 0 1 0 0 3 | 5
 0 0 0 1 0 0 0 1 0 0 | 2

横浜市 (日本鋼管)

【岡山市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑧	角南	⑤	川中
⑦	今村	⑥	戸原
⑨	福井	②	宮山
7	福井	③	吉中
③	林	③	吉中
⑤	瀬野	⑧	菅野
②	藤野	9	野崎
2	藤野	④	野崎
⑥	藤原	H	野崎
④	藤原	H	野崎
①	藤原	①	野崎
1	藤原	1	野崎
	3693	1	野崎
		⑦	野崎
		H	野崎
		9	野崎
		H	野崎
		3462	

振球機盗失残併
 12 0 2
 振球機盗失残併
 3 4 3 0

▽本塁打 今村1号③
 (戸谷) ▽二塁打 吉村
 ▽2時間8分

準々決勝

大津市 (東洋レーヨン)
 0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

八幡市 (八幡製鉄)

【大津市】	打安点	【八幡市】	打安点
④	宇田	⑤	井原
3	城崎	④	井原
⑥	境	⑧	井原
⑧	野口	⑧	井原
⑨	野口	③	井原
③	吉村	⑥	井原
⑦	山田	⑦	井原
⑤	清水	H	井原
②	北水	H	井原
①	佐竹	②	井原
	3162	H	井原
		①	井原
		H	井原
		①	井原
		1	井原
		3480	

振球機盗失残併
 4 1 0 1
 振球機盗失残併
 0 1 0 0

▽二塁打 山田2
 小曾根
 ▽1時間50分

準々決勝

吉原市 (大昭和製紙)
 0 1 0 2 0 1 0 0 0 | 4
 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

高知市 (土佐電鉄)

【吉原市】	打安点	【高知市】	打安点
⑤	杉村	⑧	森西
④	山村	⑥	森西
⑦	荒川	⑨	森西
⑧	井井	③	森西
8	丸井	②	森西
③	丸井	H	森西
⑨	丸井	⑦	森西
9	丸井	3	森西
⑥	丸井	⑤	森西
②	丸井	①	森西
②	丸井	④	森西
①	丸井	4	森西
1	丸井	4	森西
1	丸井	3051	
	3594		

振球機盗失残併
 4 4 0 1
 振球機盗失残併
 6 4 0 0

▽二塁打 稲川 吉江 山県 弘瀬 ▽1時間53分

準決勝

全鐘紡 (推薦・大阪市)
 2 0 0 0 0 0 1 0 1 | 4
 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1

岡山市 (岡山鉄道局)

【全鐘紡】	打安点	【岡山市】	打安点
⑤	吉岡	⑧	角南
⑥	松岡	⑨	今村
⑧	岩中	③	林
③	山村	②	藤野
②	山種	⑤	藤野
⑨	高岩	⑦	藤野
⑦	高岩	H	藤野
④	高岩	H	藤野
①	高岩	R	藤野
1	高岩	①	藤野
1	高岩	H	藤野
	3394	④	藤野
			2861

振球機盗失残併
 4 0 0 1 0 2 1
 振球機盗失残併
 6 4 3 0 1 6 1

▽本塁打 岩中1号② (藤原幸) 高橋1号 (藤原幸)
 幸) 種田1号 (藤原幸) ▽二塁打 角南
 ▽1時間47分

準決勝

大津市 (東洋レーヨン)
 0 0 0 0 0 2 1 0 0 | 3
 1 0 0 0 0 3 0 3 X | 7

吉原市 (大昭和製紙)

【大津市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑦	山田	⑤	杉村
⑥	山田	5	杉村
⑧	野口	④	杉村
⑨	野口	⑦	杉村
⑤	野口	⑧	杉村
②	野口	③	杉村
H	野口	⑨	杉村
③	野口	9	杉村
①	野口	⑥	杉村
1	野口	6	杉村
	3182	②	杉村
		2	杉村
		H	杉村
		①	杉村
		1	杉村
		2985	

振球機盗失残併
 6 3 2 1 4 6 0
 振球機盗失残併
 1 5 3 2 3 6 0

▽本塁打 高橋1号 (鈴木) ▽三塁打 日下部
 ▽二塁打 吉村 ▽2時間18分

3位決定戦

大津市 (東洋レーヨン)
 4 0 0 3 0 0 8 0 0 | 15
 1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2

岡山市 (岡山鉄道局)

【大津市】	打安点	【岡山市】	打安点
⑦	山田	⑧	角南
8	山田	⑨	今村
⑧	野口	③	林
⑨	野口	②	藤野
⑤	野口	⑦	藤野
②	野口	H	藤野
H	野口	H	藤野
③	野口	R	藤野
①	野口	①	藤野
1	野口	H	藤野
	361111	④	藤野
			2861

振球機盗失残併
 1 1 0 0 5 3 4 2
 振球機盗失残併
 1 2 0 2 3 7 1

▽本塁打 野口1号
 (故引) ▽三塁打
 山田 門川 ▽二塁打
 山田 角南
 ▽2時間8分

吉原対砂川。吉原2回、黒柳の中越二塁打で一塁走者、上仲ホームを突くか好返球にタッチアウト



戦前・戦後の都市対抗に参加して

全鐘紡 牧野直隆



私は都市対抗野球大会とは誠にご縁が深い。昭和9年の春、慶大を卒業して鐘紡淀川工場に配属されたが、その時、早大の三原脩君と共に全大阪チームの一員となった。

その時のメンバーは15人で投手は伊達正男君ただ1人。

- 1回戦、全大阪3-0名古屋鉄道局
- 2回戦、全大阪8-7東京倶楽部
- 準決勝、全大阪6-0満州倶楽部
- 決勝戦、全大阪7-6八幡製鉄

この4試合の中で第1試合は出場者10名、あとの3試合は9名と同じ顔ぶれであり、伊達投手は炎天下の連投ながらよく頑張ってくれた。いつも合宿を出る時に蝮（マムシ）の粉を飲んで試合にのぞんだことが印象的であった。

特に東京倶楽部戦は3回までに7-0と引きはなされていたのを8回には同点、9回勝ち越しと奇跡的な勝利をつかむことができた。

当時の東京倶楽部は有り余る東京六大学のOBから選んだ素晴らしい顔ぶれであり、宮武、榎、杉井、菊田、井川、中島君ら強打者を揃えたチーム、優勝候補の第一であったと思う。

ただ3回までに7点のリードに多少気を許すところがあったのであろうか。後半波に乗った大阪勢の追撃を止めることが出来なかった。

決勝における八幡製鉄戦は抜きつ抜かれつのシーソーゲームで延長10回のサヨナラ勝ちとなったが、忘れることの出来ない一戦であった。

50数年を経た今日、全大阪の優勝の要因を考えると、心理的な面で

1. 小人数でチームワークが良かったこと。
2. 1人1人がベースボールを良く知っていてゲームを楽しんでいたこと。

そんなことが思い出される。私ごとで恐縮だが残された記録を見ると、学生時代さほど好打者でもなかった私が16打数8安打、同点打や決勝打も含まれているので自分自身未だに信じられない思いである。敢えて理由づければ学生時代の重い責任（慶大野球部主将）から解放されて、お互

いに学閥意識もなく、野球仲間が集まって好きな野球が存分にできたということではないだろうか。この気持ちは私だけでなくチーム全員も同じ心情で夫々チャンスに貴重な一打を放っている。

投手と打者が相対する時に平常心というか無心というか、大変難しいことだがその心境に近づいた方が勝ち。そんなことを学ばせてくれた全大阪、昭和9年の初優勝であった。

翌10年は幹部候補生として、中野電信隊に入営中であったので全大阪には参加できなかったが、11年、12年と出場することが出来た。

特に11年の出場は、今思い出しても微笑ましいエピソードがある。それは都市対抗の時期と中野電信隊での見習士官教育が重なってしまったので、自分としては参加を諦めていたところ、ある日私のいる中隊に大隊長（K少佐）が乗馬で来られ「中隊長はおるか。牧野見習士官の外出を許してやれ」といわれ、都市対抗出場の機会に恵まれたのである。その頃、外出許可を頼むような状況ではなかったので、恐らく大隊長の一存であったように思う。大隊長が大の野球好きであったことは後から聞いたが、当時の厳しい軍隊生活の中で誠に粋な取り計らいをして下さったことは、都市対抗に対する社会的な関心も高かったこともあろうし、その時代を懐しく思い出す次第である。

戦後、全鐘紡チームを編成し3連覇を軸に6年間に4回の優勝を果すことが出来たが、監督として頭にあったことは全大阪の体験を基に伸び伸び野球をやらせることだった。

全鐘紡も優勝までには逆転勝利が数多くあったが、選手が固くならないことが勝負を決めていたと思う。甲子園の高校野球でも笑顔の監督さんのチームが力一杯の戦いぶり、大方の予想を覆し優勝した例がある。

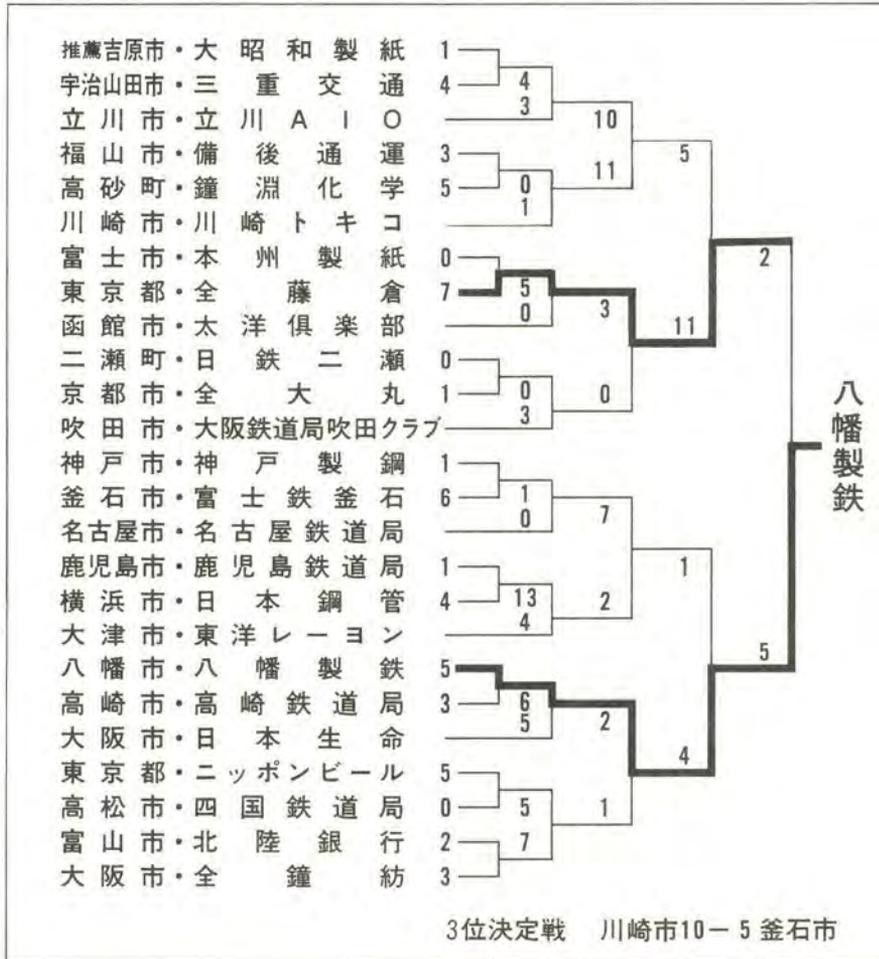
表現が難しいが、日本の野球にはゲームをもっと楽しむ心がプレーヤーにもあって良いのではないだろうか。

（現在、日本高校野球連盟会長）

第25回大会

1954年(昭和29年)8月1日-8月9日・後樂園球場

八幡市・八幡製鉄 (17年ぶり2回目)



の古豪同志の対戦となったが、スタートから波乱に富んだ大会だった。

開会式直後の第1戦で推薦出場の大昭和製紙が宇治山田市・三重交通に敗れ去った。宇治山田市は服部力投手が制球力のいいピッチングで大昭和打線を抑え、打っては黒柳巽、東口義松、吉沢英四郎3投手を打ち崩した。

候補の一角、二瀬町・日鉄二瀬も京都市・全大丸に1回戦で敗退、高砂町・鐘淵化学も、川崎市・川崎トキコの20歳の新鋭、岡本教平投手に史上2度目の無安打無得点試合を喫し姿を消した。準決勝に勝ち進んできたのは、宇治山田市と壮烈な打ちあいを演じ、1試合4本塁打の攻撃で打ち勝った川崎市。富士市・本州製紙を3安打、函館市・大洋倶楽部を6安打、吹田市・大阪鉄道局吹田クラブを7安打で3連続完封の快投を演じた西村一孔投手を擁する東京都・全藤倉。1回戦の高崎市・高崎鉄道局と延長13回を戦い、国方博二投手の殊勲打でやっと勝ち、続く大阪市・日本生命、全鐘紡の両強豪に1点差で競り勝つ勝負強さを発揮した八幡市。それに強打者、岩本義行外野手(水沢駒形クラブから補強)や福田保三塁手、古賀春人遊撃手らの打線で強敵をつぎつぎ倒し、台風の目となった釜石市・富士鉄釜石の4チーム。

準決勝でも好調な川崎市打線は、1回早くも東京都・西村投手から2点を奪い、連続無失点記録をストップさせ4回でKOした。しかし、東京都は1点をリードされた7回、石原照雄三塁手が逆転2ラン。打線に火がついて、一気に6点をあげ決勝に進出した。

元気だった釜石も、4番の岩本外野手の適時打で1点をあげたものの、八幡市・福島一雄、畑間正夫両投手に抑えられ、健闘もここまでだった。

決勝は東京都が1回に高遠伸一右翼手の二塁打で2点を先取したものの、長打力のある八幡市は、3回井原数巳三塁手が3ラン本塁打して逆転。5回にも石橋英俊左翼手が左翼2ラン、東京都・全藤倉の15年ぶりの夢を立ち切った。八幡市・八幡製鉄は第11回大会以来、17年ぶり2回目の優勝となった。

橋戸賞は逆転打を重ねた八幡市・井原三塁手、久慈賞は東京都・大館盈六遊撃手に贈られた。好勝負、激戦が相次ぎ、数多くの大会記録が生れた。

記念大会に最多の25チーム

第25回記念大会は、史上最高25チームが参加、大会日程のなかに本格的にナイトゲームも取り入れ、8月1日から最長の9日間行われた。

決勝は東京都・全藤倉と八幡市・八幡製鉄



超満員のファンを集めた後樂園球場での開会式。フェンスぞいに選手入場。

決勝

八幡市 (八幡製鉄)	0 0 3 0 2 0 0 0 0	5
東京都 (全藤倉)	2 0 0 0 0 0 0 0 0	2

【八幡市】	打安点振球	【東京都】	打安点振球
④ 国方	3 0 0 1 2	④ 尾色	1 1 0 0 1
⑤ 井原	4 2 3 2 0	④ 西八	2 0 0 0 1
⑦ 石橋	4 1 2 1 0	⑧ 八幡	3 0 0 0 1
⑨ 手赤	3 0 0 0 1	H ⑤ 1	1 1 0 0 0
③ 藤島	3 1 0 0 1	⑤ ⑥	4 1 0 0 1
③ 本根	0 0 0 0 0	⑤ ⑥	3 0 0 0 2
③ 曾根	3 0 0 0 1	③ ⑨	5 1 2 0 0
⑥ 小井	3 0 0 0 1	③ ⑨	2 0 0 0 1
② 小福	4 1 0 0 0	⑤ ⑦	1 0 0 0 0
② 福島	0 0 0 0 0	⑤ ⑦	4 1 0 2 0
① 島間	3 0 0 0 0	② ①	2 1 0 0 1
	30 5 5 5 5	① ①	2 0 0 0 0
横併残盗失	2 0 5 2 0	① ①	1 1 0 0 0
投手	手島	③	1 0 0 0 0
回	3 1 7		3 2 7 2 2 8
打安振球責	4 1 1	横併残盗失	
手島	3 1 7	1 0 1 2 0 1	打安振球責
福島	5 1 1	① ④ 4 3 4	4 3 4
		手村	1 2 1
		西本	1 2 1
		石原	0 0 0
		本石	0 0 0

▽本塁打 井原③(西村)石橋②(本田)▽三塁打 西尾 天野▽二塁打 高遠▽2時間19分



17年ぶり2回目の優勝に輝いた八幡製鉄。閉会式で黒獅子旗を受け取る八幡・国方主将

八幡“鉄”壁の守り

八幡製鉄の福島、東京都・全藤倉の西村。ともに5連投のエースが先発したが、やはり疲れから球にいつもの威力がとぼしかった。

東京は福島の立ちあがりを攻めて1回先頭の西尾が三塁打。二死後4番の大館を敬遠気味に歩かせたが、続く高遠は福島のカーブを狙い打ち、左翼フェンスを直撃する二塁打を放って2点を先取した。



祝園のきれいどころが都おどり。全大丸の応援風景

しかし、八幡も3回、小林が安打、国方四球の一・二塁に当たりの出ている井原が2-1と追い込まれながら高めのカーブを左翼席に打ち込んで逆転した。

東京は4回、鈴木の本塁打と2四球で二死満塁。ここで八幡は福島から畑間へスイッチ、ピンチを切り抜けたのが大きく、5回には石橋が2-2からのカーブを左翼に2点本塁打、差を広げた。東京も5回からマウンドにあがった本田が八幡打線を抑える一方、8回天野が三塁打、福永が中前に安打性の小飛球をあげたが、二塁手の国方の美技に阻まれ、9回にも代打の田所と石原が連安打したが、横手から浮きあがる球で力投する畑間に後続を断られた。

八幡の長打力が東京を圧した試合ではあったが、リリーフ畑間の好投と、内外野の堅い守りは立派だった。

下馬評にも上らず優勝

17年ぶりの優勝を果たした八幡市・八幡製鉄は、北九州予選で日鉄二瀬に負けた。記念大会で参加チームが25にふえ、九州は南北九州の1位がまず代表。2位同士が対戦、その勝者の3チームが出場できることになり、八幡製鉄は大分鉄道局を5-0、12-1で降して、九州第3代表として出場したのだ。

それだけに大会前は下馬評にもあがらず、しかも組み合わせ抽選は加藤巳佐久監督が引いた結果、強豪ひしめく最激戦のブロックを引き当ててしまった。

東京都・全藤倉を破って優勝を決めると、加藤監督は、「技術を超越した精神力の勝利。最初から強豪とぶつかって苦戦したのが、むしろ幸運で、試合ごとにナインが自信をもち、力が盛りあがってきたのが勝因です。」と目を熱くした。

優勝した八幡市・八幡製鉄メンバー

部長	水野 勲 (東大)
監督	加藤巳佐久 (慶大)
投手	畑間 正夫 (台北工高)
	内田蒼生也 (台北工高)
	福島 一雄 (早大)
	金具 洋右 (柳井高)
	浜崎 亘 (呉市工高)
	上迫 弘 (東筑高)
捕手	小林 源仁 (専大)
	池田九州男 (小倉高)
	泰野 譲二 (下関商高)
	江崎 富男 (小倉高)
内野	赤木 美方 (早大)
	藤本 健二 (下関商高)
	国方 博 (明大)
	宮崎 康之 (早大)



富士鉄釜石は男の二オイ いっぱいの応援ぶり。勢いあるトラの舞も出た

井原 数巳 (鹿児島高高)
 小曾根豊彦 (慶 大)
 外野 石橋 英俊 (中 大)
 北岡 徳市 (明 大)
 吉村 勇 (小倉高)
 井生 元固 (慶 大)
 手島 忠良 (鹿児島高高)
 田中 和徳 (鹿児島高高)
 山本 卓 (糸島高)

祇園の舞子さんに人気

祇園の舞子さんが初めて後樂園でおどりを披露、ヤンヤの喝采を浴びた。

東京進出の開店準備中の京都市・全大丸の応援風景。なんと4000人もの応援団を集め、全員が店名入りのウチワを振ってのにぎやかな応援だったが、やはり人気は舞子さん。4人で「京の四季」「わしが在所」などのおどりを演じてみせた。



緊張…タイム！主審から注意

八幡市・八幡製鉄
 福島一雄投手



小倉高が全国選手権2連覇した時のエース。早大卒。八幡製鉄へ入社した29年に優勝。頭腦的なミラクル投法に定評があった。現在九州連盟理事長、日鉄運輸常務取締役。

高校、大学、社会人時代の思い出は数多くあるが、いまだに忘れられない1球がある。私が早大を卒業して八幡製鉄に入社した昭和29年の都市対抗2回戦で対戦した日本生命との最後の攻防であった。

6—4の2点差。私の頭の中は早く打者を打ち取って終らせたい一念でいっぱいだった。その焦りが投球に表れ、好球を狙い打ちされて二死ながら一・二塁、焦りがこんどは慎重に変わり、きわどいコースを突いた球がわずかにはずれて連続四球、押し出し点を与えて、その差は1点。なおも二死満塁のピン

チが続き、胸をしめつけられる思いであった。次ぎの打者井上に対してもボールが先行、カウントが1—3となった時は神にすがりたい気持ちだった。5球目もボール球だったが、井上が手を出してファウルとなった。この時私は相手も硬くなっていると察することができた。だが満塁でフルカウント。私は間が欲しかった。タイムを要求し、ダッグアウトにひと呼吸入れに帰らかけた。相田球審から注意を受けたが、私はそれを振り切って水を飲み、次の1球を考え続けた。カーブかシュートかストレートかシンカーか。否どれでもない。練習と同じように投げれば結果はいいのだ。緊張の時間のなか自分なりに結論を出し、球種は小林捕手にまかせた。

最後に投げた球はストレートでアウトコースのやや高め、見送ればボールだったかも知れない。だが井上にそれを選ぶ余裕はなかったようだ。平凡なセカンドフライとなり、国方さんがガッチリ捕球してくれた時は緊張感から解放され、全身の力がすっと抜けるようであった。この勝利が優勝へ突っ走るきっかけとなったことを思うとき、あの最後に投げた1球が頭の中に浮び上ってくるのである。



伊勢神宮のおひざ元、三重交通応援団



函館対東京戦。東京は4回西村の左横飛で鈴木が生還

ナイターでOB紅白戦

第25回記念大会を祝う往年の名選手(40歳以上)による紅白戦が大会第7日、ナイターで行われた。

紅軍は泉谷祐勝監督(73歳)で、白軍は桜井弥一郎監督(72歳)。両監督に小型の黒獅子旗が授与され、渡瀬毎日新聞社主幹、宮原協会会長のバッテリーで始球式。

小野三千磨(副会長)、中沢不二雄(大連満洲倶楽部)、本田竹蔵(大阪鉄道局)、小川正太郎(常任理事)、中村峰雄(東京倶楽

部)、土井寿蔵(藤倉電線)、武田可一(名古屋鉄道局)、二神武(大連満洲倶楽部)、南安男(東京鉄道局)、川瀬進(全大阪)、成田理助(東京鉄道局)、本田親喜(全大阪)の各氏ら、都市対抗の創成時代を築いた花形選手たちがなつかしい顔を揃えた。

プロも経験“万年青年”

前年度優勝の大昭和製紙(吉原市)をオーブン・ゲームで倒した宇治山田市・三重交通の殊勲者はエース服部力投手。一昨年初出場で3位に躍り出したときの投の立役者だ

ったが、法大卒業後、函館大洋倶楽部から都市対抗に出場、プロ野球の近鉄を経て郷里に帰り、三重交通に入社した、万年青年。

「半分以上カーブを投げた。きょうくらい切れたことは最近ない。徳丸、北川君がカーブに弱かったのが楽だった」と大昭和の主軸打者を飲んでかかる強心臓はさすがベテラン。

数々の名勝負を演じ、“夏”になると調子をあげる不思議な投手だ。

◇無安打無得点試合 川崎市・トキコ・岡崎数平投手は2回戦の高砂町・鐘淵化学戦で1四球だけの準完全、ノーヒット・ノーランを演じた。内野ゴロ18、内野フライ4、外野フライ2、三振3、四球1。14回大会の大阪市・中山製鋼・市田投手につき2回目。

この試合、川崎市も高砂市・山本治投手に1安打(1点)に抑えられ、両チーム1試合最少安打1も新記録。

◇3試合、27イニング連続無失点 東京都・全藤倉の西村一孔投手は1回戦の富士市・本州製紙戦から函館市・大洋倶楽部、吹田市・大阪鉄道局吹田クラブ戦まで3試合を完封。準決勝の川崎・トキコの1回に失点するまで27イニング無失点の新記録。

◇最少補殺6 1回戦の東京都・ニッポンビール対高松市・四国鉄道戦で東京が最少補殺記録をつくった。

◇16奪三振 大阪市・全鐘紡の平古場昭二投手、河合貞雄投手が継投で1回戦の富山市の北陸銀行から16三振(平古場6回9個、河合3回7個)を奪った。新記録。

完投では第7回大会に大連実業団の岩瀬(谷口)五郎投手が全横浜から奪った14三振。

◇1試合1チーム4本塁打 準々決勝の宇治山田市・三重交通対川崎市・川崎トキコ戦で、川崎市の小林成夫左翼手、軽部信次右翼手、手代木一彦選手、外園幸夫三塁手が本塁打、新記録をつくった。従来記録は第20回福岡市・西日本鉄道対海南市・日東紡績戦で新留国良右翼手2本、伴勇資捕手。第24回全鐘紡(大阪市)対岡山市・岡山鉄道局戦で岩中英和外野手、高橋久雄外野手、種田吉富捕手が打った各3本。

本格的にナイトゲームを取り入れられ、満員のファンは涼風を楽しんだ



1回戦

大昭和製紙(推薦・吉原市)

0	0	0	0	0	0	0	1	0		1
0	0	0	0	0	2	0	2	×		4

宇治山田市(三重交通)

【大昭和製紙】	打安点	【宇治山田市】	打安点
⑤ 杉村	3 1 0	③ 横田	3 1 0
③ 朝比奈	4 1 0	④ 森	3 1 2
⑦ 荒川	4 1 1	4 山崎	0 0 0
⑧ 荒徳丸	4 0 0	⑥ 井藤	3 0 0
⑥ 北遠川	4 1 0	⑦ 井藤	3 0 0
⑧ 石上	2 0 0	⑧ 安藤	3 0 0
② 井井	2 1 0	② 辻	3 1 0
⑧ 仲井	2 0 0	⑨ 崎	2 1 0
H 井井	1 0 0	⑤ 中水	2 1 0
2 稲川	1 0 0	⑤ 谷部	3 3 1
① 柳	2 0 0	① 服	3 2 1
1 東	1 0 0		26 9 4
1 吉	0 0 0	振球権盗失残併	
④ 海部	2 0 0	1 2 1	
	32 5 1		

振球権盗失残併 4 2 1
▽三塁打 水谷
▽二塁打 森
▽1時間53分

1回戦

福山市(備後通運)

0	1	0	0	0	1	1	0		3
0	1	0	0	0	0	4	×		5

高砂町(鐘淵化学)

【福山市】	打安点	【高砂町】	打安点
④ 荒木	5 1 0	④ 荻原	3 0 0
⑨ 木上	4 1 1	⑥ 藤田	1 0 0
⑧ 4 本	4 1 0	⑨ 3 留	3 0 0
③ 藤井	1 1 0	⑧ 久川	3 1 0
⑤ 6 藤	3 0 0	① 山田	4 0 0
⑦ 8 寺	3 2 1	⑤ 山内	3 1 1
⑥ 坂内	2 1 1	⑦ 山本	3 1 0
7 伊藤	2 0 0	H 松本	1 1 2
② 北	3 1 0	9 西	0 0 0
H 川	1 0 0	③ 隆	3 1 1
① 倉	3 0 0	7 藤	0 0 1
1 山	1 0 0	② 林	0 0 0
	32 8 3	2 川	3 1 0
振球権盗失残併	4 3 2	2 田	1 0 0
		振球権盗失残併	2 6 5
		2 6 1	

▽三塁打 松本▽二塁打 山本陸 尾西▽1時間58分

1回戦

富士市(本州製紙)

0	0	0	0	0	0	0	0		0	
1	1	1	1	2	0	0	1	×		7

東京都(全藤倉)

【富士市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 鍋島	3 1 0	④ 西尾	3 1 0
R 望月	0 0 0	4 八	1 0 0
⑥ 南	3 0 0	⑧ 霧	2 2 0
⑤ 田	2 0 0	⑤ 石	3 0 0
5 藤	2 0 0	⑥ 大	3 1 1
③ 藤	3 0 0	③ 之	2 0 1
⑨ 藤	3 1 0	3 福	1 0 0
⑦ 加	2 0 0	9 高	4 1 1
7 有	1 0 0	⑦ 鈴	4 2 1
② 下	3 0 0	② 野	3 0 0
① 田	1 0 0	H 北	0 0 0
1 富	2 1 0	R 塩	0 0 0
④ 中	1 0 0	2 塚	0 0 0
H 菅	1 0 0	① 西	4 2 1
	27 3 0		30 9 5

振球権盗失残併 9 1 2
▽本塁打 高遠(中村) 鈴木(中村)▽二塁打 大館 西村 霜古田 加藤▽1時間58分

1回戦

京都市(全大丸)

0	0	0	0	0	1	0	0	0		1
0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

二瀬町(日鉄二瀬)

【京都市】	打安点	【二瀬町】	打安点
⑥ 豊伊	4 1 0	⑥ 宮	3 0 0
④ 島	3 1 0	④ 越	3 1 0
③ 沢	4 1 0	② 原	0 0 0
⑦ 松	4 1 0	⑧ 井	3 0 0
⑤ 木	4 1 0	③ 崎	4 2 0
⑧ 井	3 0 0	② 田	3 0 0
⑤ 水	3 0 0	③ 崎	1 0 0
9 井	1 0 0	4 本	1 0 0
② 山	3 0 0	⑦ H	3 1 0
① 森	2 0 0	⑦ H	1 0 0
1 竹	1 0 0	⑨ R	2 1 0
⑨ 8 種	3 2 0	⑨ R	0 0 0
	32 7 0	9 橋	1 0 0
振球権盗失残併	3 1 3	⑤ 本	2 0 0
		H 藤	1 0 0
		① 野	3 1 0
			30 6 0

▽三塁打 寺田 平林 振球権盗失残併 4 2 1
▽2時間3分

1回戦

神戸市(神戸製鋼)

0	0	0	0	0	1	0	0		1	
1	0	0	1	0	1	0	3	×		6

釜石市(富士鉄釜石)

【神戸市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑤ 西	3 0 0	⑥ 賀	4 2 0
④ 栗	3 0 0	④ 福	4 2 0
② 本	2 0 0	⑤ 田	2 1 1
③ 井	4 2 0	⑨ 吉	4 2 2
③ 山	2 0 0	⑨ 武	2 0 0
⑨ 山	0 0 0	⑦ H	1 0 0
7 藤	1 0 0	⑦ 7	1 0 0
H 山	0 0 0	8 田	4 0 0
8 飯	0 0 0	③ 皆	3 0 0
① 8 9 清	4 1 0	③ 染	0 0 0
⑦ 9 7 河	4 1 0	2 中	0 0 0
⑥ 片	3 1 1	③ 菅	3 0 0
⑧ 大	2 0 0	① 小	3 0 0
1 高	1 0 0		31 7 3
	29 5 1	振球権盗失残併	2 2 1
振球権盗失残併	9 5 3		
▽二塁打 福田 吉本 岩本▽2時間10分			

1回戦

鹿児島市(鹿児島鉄道局)

0	0	0	0	0	1	0	0		1	
0	0	1	0	0	3	0	0	×		4

横浜市(日本鋼管)

【鹿児島市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑥ 穂	4 0 0	⑤ 中	2 0 0
② 古	4 1 0	4 川	0 0 0
⑨ 弓	4 0 0	⑥ 南	3 1 1
③ 古	2 1 0	② 9 原	3 1 3
⑦ 藤	3 0 0	③ 宮	0 0 0
⑧ 部	1 0 0	9 藤	2 0 0
8 元	2 1 0	③ 原	0 0 0
⑤ 野	2 0 0	3 池	0 0 0
H 元	1 0 0	R 上	3 0 0
5 田	1 0 0	⑦ 中	3 1 0
④ 越	1 0 0	⑨ 中	1 0 0
4 田	2 1 1	9 中	0 0 0
① 限	2 1 0	② 中	2 0 0
1 野	0 0 0	① 井	1 0 0
1 井	1 0 0	① 壺	2 0 0
	30 5 1	④ 5 藤	3 1 0
振球権盗失残併	6 3 0	振球権盗失残併	25 4 4
		5 6 1	
▽本塁打 宮原③(隈元)▽三塁打 久野			
▽二塁打 隈元▽2時間7分			

20歳ノーヒットノーラン

史上2人目のノーヒットノーランを演じたのは、20歳になったばかりの川崎市・川崎トキコ、岡本教平投手。2回の第1打者に四球を与えはしたが、あとは強打を誇る高砂町・鐘淵化学の打者をきれいに3人ずつ料理した。

高砂は9回必死の代打攻撃をかけたが、軽々と打ちとり快記録の達成だ。

「2点に抑えられればと思っていたのに、7回あたりから、ひょっとしたら、の気になりました。シュートがよく切れたけど、運がよかったと思います」。前年掛川高から川崎キコに入社したが、稲葉監督は「試合になるとよくなる、おかしなヤツです」。



社会人野球協会、宮原会長の開会式における始球式

1 回戦

八幡市 (八幡製鉄)	0 1 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 2	5
高崎市 (高崎鉄道局)	0 1 0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0	3

【八幡市】	打安点	【高崎市】	打安点
④ 国井石手	5 1 1	⑧ 荻原	6 1 0
⑤ 方原	6 1 0	H	1 1 0
⑦ 橋島	5 2 0	⑥ 早野	5 1 0
③ 藤本	6 0 0	② 塚井	7 1 0
③ 赤藤	3 0 0	③ 高長	5 1 0
⑥ 小曾	3 2 0	⑦ 渡原	5 1 1
⑥ 山小	6 2 0	⑤ 栗新	5 2 1
⑧ 林	4 0 0	⑨ 栗新	2 1 1
② 小福	5 1 1	④ 真下	6 2 0
① 内宮	2 1 1	① 真下	6 0 0
H 田崎	0 0 0		48 1 3
1 間	0 0 0		

振球機盗失残併
2 7 1

▽二塁打 新井 栗原
長井▽3時間11分

1 回戦

東京都 (ニッポンビール)	2 0 0 1 1 0 0 0 0 1	5
高松市 (四国鉄道局)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0

【東京都】	打安点	【高松市】	打安点
④ 井木	3 0 0	⑧ 藤江	4 0 0
④ 本村	5 3 1	⑤ 田中	2 0 0
② 松本	3 1 1	③ 森田	4 0 0
② 柳田	1 1 0	② 木村	4 2 0
① 9 前梅	3 1 1	② 小川	3 0 0
③ 吉田	2 0 0	H	1 0 0
⑥ 梅吉	4 0 0	⑦ 田本	4 1 0
① 9 浜内	2 0 0	⑥ 山本	0 0 0
① 河内	2 1 0	⑧ 大西	2 0 0
⑤ 山口	4 1 0	④ 大明	1 0 0
⑦ 山秋	4 1 0	⑤ 石海	2 0 0

振球機盗失残併
7 5 2

振球機盗失残併
8 3 2

▽本塁打 前田 (酒井) ▽三塁打 秋山 ▽二塁打
木村 松本 鎌田 ▽2時間2分

1 回戦

大阪市 (全鐘紡)	1 2 0 0 0 0 0 0 0 0	3
富山市 (北陸銀行)	0 0 0 0 2 0 0 0 0 0	2

【大阪市】	打安点	【富山市】	打安点
⑦ 福森	3 2 2	④ 寺本	4 0 0
⑦ 森	2 0 0	④ 山本	4 0 0
⑥ 松本	3 0 1	⑦ 川木	4 1 0
② 種本	4 0 0	② 中本	3 0 0
② 高橋	2 0 0	⑧ 市本	3 1 0
③ 高岩	1 0 0	⑧ 江田	3 0 0
③ 山岩	2 0 0	③ 森藤	3 1 1
③ 3 吉吉	1 0 0	⑤ 藤田	3 1 1
⑤ 5 平古	4 2 0	① 進細	3 0 0
① 1 河合	3 1 0		30 4 2
④ 4 高原	1 0 0		
④ 4 保	1 0 0		
	0 0 0		
	0 0 0		

振球機盗失残併
4 4 2

▽三塁打 藤森
▽二塁打 市江
▽1時間50分

2 回戦

宇治山田市 (三重交通)	0 0 3 0 0 1 0 0 0	4
立川市 (立川AIO)	0 3 0 0 0 0 0 0 0	3

【宇治山田市】	打安点	【立川市】	打安点
③ 横田	5 1 0	④ 森山	3 1 0
④ 森	5 2 1	⑤ 本富	1 0 0
⑥ 坂井	4 2 0	⑥ 福山	4 1 0
⑦ 安藤	4 0 1	⑦ 福山	3 1 0
⑧ 辻	4 0 0	⑧ 秋山	3 0 0
② 中水	4 1 0	② 清谷	3 1 0
⑨ 谷	2 0 0	③ 1 3 原	4 0 0
⑤ 谷	4 2 1	⑧ 石原	3 1 0
① 近藤	0 0 0	④ 飯山	3 1 0
1 楠	1 1 0	⑥ 柴崎	0 0 0
1 服部	3 2 0	④ 高林	1 1 2

振球機盗失残併
4 1 1

振球機盗失残併
3 0 7 2

▽二塁打 福富 ▽1時間50分

2 回戦

高砂町 (鐘淵化学)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
川崎市 (川崎トキコ)	0 0 1 0 0 0 0 0 0	1

【高砂町】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 藤西	3 0 0	⑧ 高橋	2 0 1
H 尾内	1 0 0	⑥ 星	2 0 0
⑤ 久島	3 0 0	③ 保林	3 0 0
⑨ 9 久河	3 0 0	② 7 小保	3 0 0
② 2 田代	2 0 0	④ 4 島村	3 0 0
H 2 田原	1 0 0	⑨ 9 松部	1 0 0
⑦ 7 山口	0 0 0	⑤ 5 宮勝	1 0 0
③ 3 山本	3 0 0	① 1 岡本	0 0 0
H 1 山本	2 0 0		3 1 0
① 1 山本	2 0 0		22 1 0
H 齋藤	1 0 0		

振球機盗失残併
3 1 1

振球機盗失残併
2 3 0

▽1時間17分

2 回戦

函館市 (大洋倶楽部)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
東京都 (全藤倉)	0 0 0 4 0 0 0 1	5

【函館市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 齋藤	4 0 0	④ 西尾	4 1 0
③ 齋藤	4 0 0	④ 八原	0 0 0
③ 齋藤	3 1 0	⑤ 古田	3 0 0
⑧ 齋藤	4 1 0	⑤ 原内	3 0 0
⑧ 齋藤	3 1 0	⑥ 石原	3 1 0
H 齋藤	1 0 0	③ 3 大竹	3 1 0
H 2 齋藤	2 0 0	⑦ 7 鈴北	2 0 1
H 4 齋藤	1 1 0	⑨ 9 吉高	3 1 1
H ① 齋藤	1 0 0	② 2 天野	0 0 0
H 1 齋藤	2 0 0	① 1 西村	0 0 0
H ⑤ 齋藤	1 1 0		4 0 0
H 5 齋藤	1 0 0		3 0 1

振球機盗失残併
6 2 3

振球機盗失残併
3 6 2

▽二塁打 北村
▽2時間7分

2 回戦

吹田市 (大阪鉄道局吹田)	0 0 2 0 0 1 0 0 0	3
京都市 (全大丸)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0

【吹田市】	打安点	【京都市】	打安点
⑤ 奥田	4 1 0	⑥ 豊島	3 0 0
④ 佐々木	4 2 3	⑥ 原	1 0 0
④ 中妻	4 0 0	④ 4 伊藤	4 1 0
③ 上和	4 0 0	③ 3 松本	4 2 0
② 7 和種	4 0 0	⑦ 7 岩岡	0 0 0
⑦ 9 木村	4 0 0	② 2 安平	0 0 0
⑦ 9 藤島	4 0 0	⑤ 5 井本	1 0 0
⑥ 1 藤島	3 0 0	⑨ 9 安永	4 0 0
	3 0 0	⑧ 8 山口	2 0 0
	3 4 3 3	⑧ 8 田口	1 0 0
		② 2 森	0 0 0
		① 1 竹田	1 0 0
		① 1 小種	1 0 0

振球機盗失残併
3 6 2

振球機盗失残併
4 2 4

▽本塁打 佐々木 (小竹)
▽二塁打 奥田
佐々木 平松
▽1時間59分

2 回戦

名古屋市 (名古屋鉄道局)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
釜石市 (富士鉄釜石)	0 0 0 0 0 0 1 0	1

【名古屋市】	打安点	【釜石市】	打安点
④ 松山	4 0 0	⑥ 古賀	4 1 0
④ 中野	4 1 0	⑤ 賀田	3 1 0
⑨ 9 野井	3 0 0	④ 4 本本	4 0 0
③ 3 吉酒	4 0 0	⑨ 9 岩武	2 1 0
⑤ 5 酒林	4 1 0	⑦ 7 武海	1 0 0
⑦ 7 武加	2 1 0	H 7 川染	1 0 0
H 2 藤野	1 0 0	③ 3 山岡	4 2 0
H 2 藤野	1 0 0	⑧ 8 山岡	3 0 0
② 2 藤野	3 0 0	② 2 岡林	2 1 0
H 1 藤野	1 0 0	H 2 小増	1 1 0
H 1 藤野	1 0 0	② 2 小武	0 0 0
1 起	0 0 0	① 1 武方	3 0 0

振球機盗失残併
5 3 2

振球機盗失残併
2 2 0

▽二塁打 染山 ▽2時間

2 回戦

大津市 (東洋レーヨン)	0 0 0 0 0 4 0 0 0	4
横浜市 (日本鋼管)	5 2 0 0 0 0 4 2	13

【大津市】	打安点	【横浜市】	打安点
④ 6 上原	5 2 0	⑤ 5 川	5 1 0
⑥ 5 境	5 0 0	⑥ 6 戸	3 0 0
⑧ 8 野	4 2 1	② 2 原	3 2 0
⑧ 8 野	4 1 0	⑨ 9 毛	0 0 0
⑨ 9 野	3 0 0	③ 3 村	3 1 2
⑦ 7 野	4 0 0	③ 3 吉	0 0 0
⑤ 5 野	0 0 0	② 2 上	2 0 1
④ 4 野	3 1 2	⑨ 9 崎	1 1 2
② 2 野	4 0 0	⑧ 8 田	4 2 1
① 1 野	0 0 0	② 2 原	1 1 1
H 1 野	2 0 0	⑦ 7 山	5 1 1
H 1 野	0 0 0	① 1 佐	2 0 1
H 1 野	1 0 0	① 1 佐	2 1 2

振球機盗失残併
3 3 4

振球機盗失残併
35 11 12

▽本塁打 吉村② (佐竹)
宮原 ▽2時間2分



優勝の瞬間、ワッと飛び出す八幡ナイン。応援団もわきかえり喜びあう

2 回戦

八幡市 (八幡製鉄)

0 2 0 0 0 0 4 0 0 | 6
2 1 0 0 0 0 0 1 1 | 5

大阪市 (日本生命)

【八幡市】	打安点	【大阪市】	打安点
④ 国方	3 0 0	⑥ 松井	5 2 0
⑤ 原	4 2 2	⑤ 望大	5 3 1
⑦ 橋	4 1 2	⑦ 津野	4 1 1
⑧ 島木	3 0 0	⑧ 津野	3 1 1
⑨ 山本	0 0 0	⑨ 田川	4 0 0
③ 赤木	3 0 0	③ 田川	1 0 0
⑥ 藤本	1 0 0	③ 桐原	3 0 0
③ 曾根	3 0 0	③ H	1 0 0
⑧ 生林	4 2 0	③ R	0 0 0
② 小井	4 2 2	③ R	0 0 0
① 小畑	1 0 0	② 荒井	0 0 0
① 福	3 1 0	② 野田	4 1 1
	338 6	① 野田	1 0 0
		① 井原	0 0 0
		④ 井原	2 1 0
			4 1 0
			3710 4

▽本塁打 小林② (野)

▽二塁打 大津 振球機盗失残併

井原 ▽2時間40分 1 5 1

2 回戦

大阪市 (全鐘紡)

2 0 0 0 1 2 2 0 0 | 7
0 0 0 0 0 0 0 5 0 | 5

東京都 (ニッポンビール)

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑦ 福沢	4 1 0	⑧ 井垣	4 1 3
⑧ 森	5 1 0	④ 木村	5 0 0
⑥ 松本	4 2 1	② 田本	0 0 0
② 松種	5 1 1	② 田本	3 0 0
⑨ 高山	2 0 1	② 田本	4 1 0
H 山町	1 1 0	③ 河内	2 0 0
R 田本	0 0 0	① 階堂	0 0 0
9 吉岡	1 1 2	① 川田	2 0 0
⑤ 岩本	4 1 0	① 山田	1 0 0
③ 吉岡	4 2 1	⑥ 大山	1 0 0
③ 中松	0 0 0	⑥ 清水	1 0 0
③ 高平	2 0 0	⑤ 土田	2 0 0
① 古場	2 0 0	⑤ 水木	1 0 0
① 本庄	2 1 1	④ 高木	0 0 0
① 松本	0 0 0	④ 山	0 0 0
④ 河原	0 0 0	④ 鈴	2 0 0
④ 高	2 0 0	⑦ 秋	1 1 0
	3811 7	⑦ 浜	1 1 0
			293 3

振球機盗失残併

8 1 1 振球機盗失残併

▽本塁打 岩本② (北川) ▽三塁打 井垣

▽2時間36分 5 12 2

準々決勝

川崎市 (川崎トキコ)

3 0 1 1 0 0 4 2 0 | 11
3 1 0 0 0 5 0 1 0 | 10

宇治山田市 (三重交通)

【川崎市】	打安点	【宇治山田市】	打安点
⑧ 高橋	2 2 0	③ 横田	2 2 2
⑥ 星	4 1 1	④ 森	4 2 1
H 6 外園	1 1 2	⑥ 坂井	4 0 2
③ 久保	5 1 0	⑦ 安藤	5 2 3
R 小野	0 0 0	⑧ 藤井	2 0 1
3 村林	0 0 0	H 藤井	1 0 0
④ 小村	5 3 2	⑨ 藤田	0 0 0
② 小島	5 2 0	H 植伊	1 0 0
② 松川	1 0 0	② 辻	3 0 1
H 軽部	1 1 3	⑨ 8 清水	1 0 0
② 野村	1 0 0	⑤ 8 谷部	5 2 0
⑨ 松部	4 0 0	⑤ 1 谷部	3 2 0
⑤ 林勝	1 0 0	① 1 藤	4 0 0
⑤ 宮	3 1 0	① 1 近	0 0 0
H 9 手代木	2 1 1		3510 10
① 岡山	0 0 0		振球機盗失残併
① 山本	2 0 0		1 3 4
① 征	2 0 0		
	4113 9		

振球機盗失残併

3 4 4 振球機盗失残併

▽本塁打 小林 (服部) 軽部 (服部) 手代木 (服部)

外園 (近藤) ▽三塁打 高橋 水谷 横田

▽二塁打 高橋 ▽2時間35分

準々決勝

吹田市 (大阪鉄道局吹田)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 1 0 0 0 0 0 1 X | 3

東京都 (全藤倉)

【吹田市】	打安点	【東京都】	打安点
⑤ 奥田	4 1 0	④ 西尾	3 1 0
⑧ 田	4 2 0	④ 八尾	1 0 0
④ 佐木	4 0 0	④ 古田	2 0 0
④ 坂上	3 1 0	⑤ 石原	4 1 0
③ 小和	0 0 0	⑥ 大内	4 2 2
② 和種子	3 1 0	③ 館内	3 0 0
② 坂藤	3 1 0	⑥ 3 之	4 1 0
① 藤	2 0 0	② 1 高	4 1 0
	297 0	① 1 鈴	3 0 0
		② 1 天	3 1 1
			306 3

振球機盗失残併

5 1 2 振球機盗失残併

▽二塁打 種子田 ▽1時間43分

準々決勝

横浜市 (日本鋼管)

0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2
1 0 2 0 3 0 0 1 X | 7

釜石市 (富士鉄釜石)

【横浜市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑤ 中央	5 0 0	⑤ 福田	3 1 1
⑥ 川	3 0 0	⑥ 賀本	5 3 0
② 9 原	4 0 0	④ 岩	4 2 2
③ 宮	3 0 0	④ 本	5 1 1
③ 吉	0 0 0	⑧ 川	2 0 0
③ 上	4 1 0	⑧ 海	1 1 2
H 中	3 1 1	⑧ 野	1 1 2
⑧ 中	2 1 1	⑦ 川	1 0 0
① 中	1 0 0	⑦ 山	3 1 1
R 鎌	0 0 0	③ 7 山	3 1 0
1 田	1 0 0	② 2 笠	3 1 0
④ 堀	1 0 0		3211 7
② 池	2 1 0		振球機盗失残併
④ 井	3 1 0		1 5 1
	315 2		

振球機盗失残併

4 5 3 振球機盗失残併

▽本塁打 鎌田 (小武方) ▽二塁打 吉本

▽2時間22分

準々決勝

八幡市 (八幡製鉄)

1 0 0 0 1 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1

大阪市 (全鐘紡)

【八幡市】	打安点	【大阪市】	打安点
④ 国方	1 0 0	⑦ 8 福	4 1 0
⑤ 原	3 0 0	⑧ 森	2 0 0
⑦ 橋	4 3 2	⑦ 7 森	2 0 0
⑨ 島木	3 0 0	⑥ 2 本	3 0 0
③ 山本	3 1 0	② 2 本	4 1 1
⑥ 藤本	1 0 0	③ 3 田	3 1 0
⑧ 曾根	4 1 0	⑤ 5 中	3 2 0
② 小井	3 0 0	① 1 橋	3 1 0
① 小畑	3 2 0	① 1 古	0 0 0
	287 2	④ 4 合	4 0 0
		④ 4 場	4 0 0
		H 原	1 0 0
		H 高	1 0 0
			316 1

振球機盗失残併

3 4 2 振球機盗失残併

▽三塁打 森 振球機盗失残併

▽2時間14分 5 7 0



市民の大歓迎を受け、市中パレードする八幡ナイン

準決勝

川崎市 (川崎トキコ)

2 0 1 1 0 0 1 0 0 | 5
3 0 0 1 0 0 6 1 X | 11

東京都 (全藤倉)

【川崎市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 高橋	2 1 0	④ 西尾	2 0 0
⑥ 星	5 1 0	④ 八尾	2 1 0
③ 久保	4 2 1	⑧ 古田	5 1 0
⑦ 保林	5 3 2	⑤ 石原	5 2 3
④ 小島	3 1 1	⑥ 大内	3 2 2
② 松川	4 1 0	③ 館内	5 0 0
H 川村	1 0 0	⑨ 9 之	3 1 1
9 村	2 0 0	⑨ 9 高	1 0 0
9 野	2 0 0	⑦ 7 北	3 2 1
R 野	3 2 0	② 2 鈴	4 3 4
5 勝	0 0 0	① 1 天	1 0 0
5 勝	0 0 0	① 1 西	3 0 0
① 1 勝	1 0 0		3712 11
① 1 岡	1 0 0		振球機盗失残併
H 手代木	0 0 0		0 4 0 2 1 6 1
① 近	0 0 0		
	3311 4		

振球機盗失残併

0 6 3 0 3 10 2 振球機盗失残併

▽本塁打 小林 (本田) 石原 (山本) 天野

(山本) ▽二塁打 島方 大館 久保 天野

八色 ▽2時間31分

準決勝

八幡市 (八幡製鉄)

0 0 2 0 2 0 0 0 0 | 4
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

釜石市 (富士鉄釜石)

【八幡市】	打安点	【釜石市】	打安点
④ 国方	3 1 0	⑤ 福田	4 1 0
⑤ 原	3 1 0	⑥ 賀本	4 1 0
⑦ 橋	5 0 0	④ 岩	4 1 0
⑨ 島木	5 3 2	⑨ 9 川	4 1 1
③ 山本	5 2 0	⑧ 8 本	3 1 0
③ 小曾	3 1 0	③ 3 山	3 0 0
⑧ 8 井	3 1 0	H 武	1 0 0
⑧ 小畑	4 0 0	⑦ 7 笠	3 2 0
① 小畑	2 2 0	② 2 岡	0 0 0
① 福	2 0 0	② 2 岡	2 0 0
	3511 2	① 1 崎	0 0 0
		H 中	2 0 0
		R 小	0 0 0
		1 武	2 0 0
			1 1 0
			0 0 0
			318 1

振球機盗失残併

2 3 3 6 0 10 2 振球機盗失残併

▽二塁打 井原 振球機盗失残併

▽2時間6分 1 1 0 0 3 7 0

3 位決定戦

川崎市 (川崎トキコ)

5 0 0 1 0 1 0 3 0 | 10
0 0 1 0 3 0 0 0 1 | 5

釜石市 (富士製鉄釜石)

【川崎市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑧ 高橋	4 0 0	⑤ 福田	5 2 3
⑥ 星	6 2 0	⑥ 賀本	5 1 1
H 6 外園	3 3 1	④ 岩	2 0 0
③ 久保	2 0 0	⑨ 9 川	1 0 0
R 小野	1 1 2	⑧ 8 本	2 0 0
3 村林	0 0 0	⑧ 8 本	2 0 0
④ 小村	1 1 2	⑨ 9 中	1 0 0
② 小島	0 0 0	⑦ 7 武	1 0 0
② 松川	3 2 1	③ 3 武	0 0 0
H 4 野	1 0 1	③ 3 武	2 0 0
② 2 野	4 1 1	⑦ 7 中	2 0 0
⑨ 9 野	3 0 1	② 2 加	2 0 0
⑤ 5 野	2 0 0	② 2 加	2 0 0
H 9 手代木	5 1 1	② 2 藤	2 0 0
① 1 岡	3 1 0	H 藤	1 0 0
① 1 征	2 0 0	① 1 藤	0 0 0
	4112 8	① 1 崎	2 2 0
		H 小	1 0 0
		R 鈴	1 1 0
			0 0 0
			359 5

振球機盗失残併

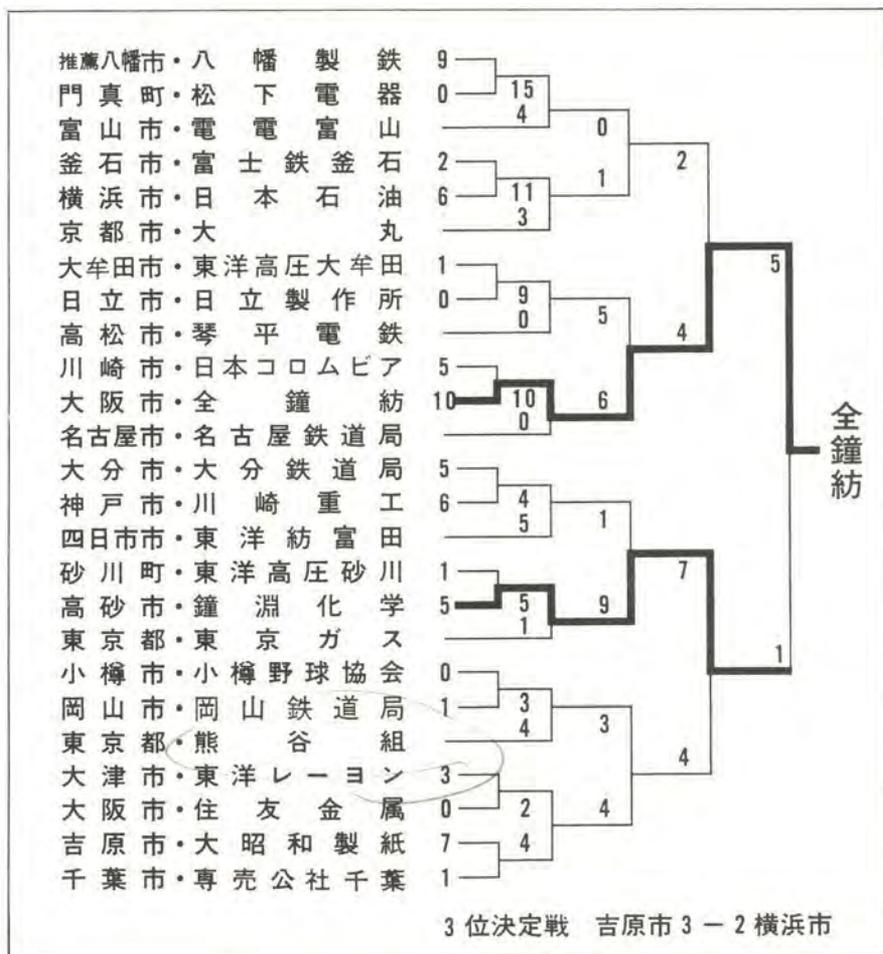
4 5 1 6 0 10 1 振球機盗失残併

▽本塁打 福田 (征矢) 古雅 (征矢) ▽三塁打

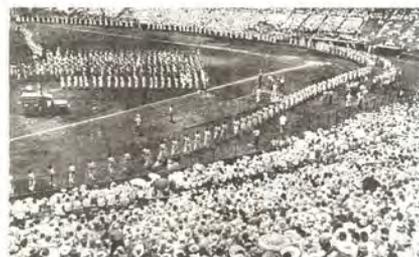
古田 川端 ▽二塁打 外園 ▽2時間30分

第26回大会 1955年(昭和30年)8月1日-8月10日・後樂園球場

優勝=大阪市・全鐘紡(3年ぶり4回目)



新造一塁手、平出昌雄三塁手、多湖隆司外野手、それに日本生命から補強の大津淳外野手がしっかり支えた。準々決勝では大牟田市・東洋高圧大牟田の激しい追い上げにヒヤリとさせられた。村上峻介投手、寺田陽介一塁手(ともに日鉄二瀬から補強)小淵泰輔遊撃手らが前った大牟田は9回大阪に追加点を奪われ6-2となった。ところが松本繁投手がにわか崩れ、大阪は井上二郎(電電近畿から補強)、西川とマウンドに送ったが、押し出しなどで3点を奪われ1点差。一打逆転の大ピンチ。大牟田の3番・春田満明右翼手の痛打はライナーで山下一塁手を襲った。さすがの山下も横にはじいたが、バックアップした岩中二塁手が一塁に送る美技でやっとアウト。これを見た三塁走者はホームを突いたが、山下から種田捕手への好返球でタッチアウト。劇的な幕切れだった。準決勝は準々決勝で前回優勝の八幡製鉄を左腕・野村利則投手の力投で1-0で破った横浜市・日本石油と対戦した。横浜も序盤のリードを取り返し、



炎天下、白一色のファンで埋った開会式の入場行進

同点としたが、大阪は7回大津中堅手の2点二塁打で決勝点をあげた。

決勝で対決したのは高砂市・鐘淵化学。山本治投手が好調で1回戦から快勝。準決勝でも、杉村睦彦、朝比奈三郎、荒川宗一、石井藤吉郎、徳丸幸助、北川桂太郎ら名選手がズラリと並ぶ吉原市・大昭和製紙を破り決勝に進出したが、連投の疲労もあって、エース山本投手がツメを割り、途中降板して大阪市の前に涙を飲んだ。

橋戸賞にはトップ打者としてチャンスを切り開いただけでなく、守りでも俊敏なフィルディングでピンチを防いだ大阪市の松本豊遊撃手に贈られ、久慈賞は、全試合に登板した高砂市の山本治投手が受賞した。首位打者に輝いた大牟田市・小淵泰輔三塁手の打率8割は、都市対抗最高記録だった。

全鐘紡4度目!大会タイ

大会の全期間を通じて、ナイト・ゲームが組み込まれ、開会式は8月1日の午後零時半からと、初めて炎天下で行われた。

今大会は黒獅子旗とともに、米国ミルウォーキーで開催される第1回世界野球大会に優勝チームを主体とする全日本を派遣するとあって、強豪チームは春先から気合の入った練習を続けてきた。それだけに予選で日本生命、日鉄二瀬が敗退したが、有力チームが勝ちあがり、波乱の少ない展開となって、大阪市・全鐘紡が3年ぶり4回目の優勝を成しとげた。東京倶楽部が第4・5・7・9回大会で果たした4回優勝の記録に並んだ。

大阪は若手の西川公也、松本繁和らの投手陣を、種田吉富捕手、松本豊遊撃手、岩中英和主将らのベテラン、慶大から新入社の山下

大阪市 (全鐘紡)	0	0	2	1	0	0	0	0	2	5
高砂市 (鐘淵化学)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

【大阪市】	打安点振球	【高砂市】	打安点振球
⑥ 松本豊	4 1 0 0 1	⑧ 河田	5 2 0 1 0
⑧ 多湖	3 0 0 0 2	⑨ 久留島	2 0 0 0 1
② 種山	2 2 1 0 2	② 松本隆	3 0 0 2 0
③ 山下	3 0 1 1 2	③ 山本治	4 1 0 0 0
⑤ 山平	4 1 1 1 0	⑤ 増田	4 1 1 0 0
④ 岩中	4 2 2 0 1	④ 尾西	3 0 0 0 1
⑨ 高橋	1 0 0 0 0	① 山本治	2 1 0 1 0
⑨ 大津	2 0 0 0 0	① 中吉	0 0 0 0 1
① 福沢	1 0 0 0 0	H	1 0 0 0 0
① 松本繁	2 0 0 0 2	⑦ 種子田	4 1 0 0 0
⑦ 松本森	2 1 0 0 2	⑥ 藤後	2 0 0 0 1
	28 7 5 2 12	H	1 0 0 0 0
犠併残盗失	2 0 1 0 1 0	犠併残盗失	2 2 9 0 0
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
松本繁 9	6 4 4 1	山本治 4	3 1 9 3
		中川 5	4 1 3 2

▽本塁打 増田1号(松本繁) ▽二塁打 松本豊 種子田
▽2時間



吉原対東京戦。7回吉原は朝比奈の左前安打で荒岡に続き、有馬も二塁から生還して逆転に成功した。捕手、松本

松本繁が強打線抑える

1回一死満塁のチャンスをつくりながら得点できなかった大阪市・全鐘紡。それに対し高砂市・鐘淵化学は2回、増田が右翼本塁打して先制点をあげ、さらに二死満塁と攻めつけた。久留島の当りはライナーで中前に飛び、追加点かと思われたが、中堅手・多湖が懸命に前進して頭から飛び込むスライディング・キャッチの超美技。これが試合の流れを変えた。

1回戦から連投の高砂・山本は右手のツメを割り、武器である制球力が思うにまかせず苦しいピッチングとなった。3回大阪は山本から4四死球を得て押し出しの同点のあと、巧みなスクイズで逆転。4回にも四球を足がかりに一死満塁とし、またもスクイズで加点した。

大阪・松本繁は19歳の若々しいピッチングをみせ、3回以降は高砂打線につけ入るスキを与えない好投。5回から山本をリリーフした中川も上手からの速球で、ともにチャンスがとほしかったが、大阪は9回に主将の岩中が2点適時打を放って突き放した。

高砂はエースの降板で士気がなぶり、あせりも出たとはいえ、看板の強打線を抑えた松本繁の好投は特筆される。

美技の連続…橋戸賞

橋戸賞に輝いた大阪市・全鐘紡の松本豊遊撃手は、スマートな鐘紡を代表する典型的なプレーヤー。駿足好打、好守強肩。慶大時代は神宮のファンをわかせたが、昭和28年の入社後、さらにみがきがかかった。

「こんなに調子のよかったシーズンは私の

野球生活のなかでも初めての」と語っていたが、文句のない受賞だった。

MEMO

◇最高打率8割 大牟田市・東洋高 庄・小淵泰輔三塁手がマークした。試合数3、打数10、安打8。従来記録は第10回大会の全大阪・村井竹之助中堅手の7割7分8厘だった。

◇都市対抗優勝4回 大阪市・全鐘紡が第21回大会からの3連勝と今回の優勝で。戦前の東京倶楽部の第4・5回大会と第7回、第9回大会の4回優勝と並んだ。

◇毎回三振 吉原市・大昭和製紙の山本光一投手が1回戦の対千葉市・専売公社千葉戦で達成。史上初。



歌手、タレントらを総動員、毎回華やかな応援を繰り広げる川崎市の日本コロムビア。強烈なマンボでファンを魅了

「打てる」と確信、決勝点

決勝進出をかけた大阪市・全鐘紡対横浜市・日本石油戦は、東西の強豪の激突にふさわしい大接戦。2-2の同点で迎えた7回。大阪は二死ながら一・二塁で打者は大津淳中堅手。日本生命からの補強選手だが、牧野監督が山下新造、平出昌雄内野手らの巨砲を押しつけて4番に据えた強打者だ。

明石中時代は高砂市・鐘淵化学の剛腕投手、山本治とバッテリーを組み、関大時代は関西六大学の首位打者にも輝いているファイター。

2-2からのカーブをバシッとたたくと、打球は中堅手右に飛ぶ二塁打。2者が躍りながらホームを踏み、大阪が決勝点をあげたが「あのコースが一番好きのところ。打つ前にヒットできると思った。」と強心臓ぶりを語っていた。

優勝した大阪市・全鐘紡

メンバー

- 部長 江越 道俊 (慶大)
- 総監督 牧野 直隆 (慶大)
- 監督 大槻 守治 (慶大)
- 投手 平古場昭二 (慶大)
- 本庄 賢 (関学大)
- 西川 公也 (桐蔭高)
- 松本 繁和 (琴ヶ丘高)
- 藤田 徳男 (浪華商高)
- 山元 将巧 (大垣北高)
- 井上 二郎 (東寺高)
- 川村 尚 (関学大)
- 黒田 秀男 (神戸大)
- 捕手 種田 吉富 (慶大)
- 中田 唯夫 (田辺高)
- 田中 哲治 (郡山高)
- 内野手 山下 新造 (慶大)
- 保田 昌甫 (田辺高)
- 望月 信影 (立大)
- 平出 昌雄 (慶大)
- 鉛口 季治 (田辺高)
- 松本 豊 (慶大)
- 外野手 多湖 隆司 (慶大)
- 岩本 要三 (防府商高)
- 森 平和 (松山東高)
- 福沢 弘行 (慶大)
- 高橋 久雄 (慶大)
- ◎岩中 英和 (慶大)
- 大津 淳 (関大)
- (◎印は主将 ○は補強)

口悔しかった指の負傷

高砂市・鐘淵化学
山本 治 投手



明石高、慶大を経て昭和29年鐘淵化学に入社。剛腕投手として鳴らし、26回大会では全試合に登板。兄弟チームの全鐘紡に敗れ久慈賞。現在鐘淵化学大阪本社財務部部長。

鐘淵化学は新しいチームだったし、慶大からは鐘紡に入社する選手が多かった。私は出身が明石なので近くの高砂市ということもありお世話になった。

大学では上級生になって体をこわし、満足なピッチングはできなかったが、鐘化の水がよく合ったのだと思う。社会人になってすぐに昔の球威が戻ってきた。速球中心だったが、当時アウトロと呼ばれた鋭く落ちるカーブにシュート、ナックルも覚えて、2年目のこの年は春先のオープン戦から都市対抗予選と登

板した試合は全部勝った。

後楽園では体調もよかったし、ナイターの試合もあって気持ちよく投げられた。序盤は打線も活発で危ない場面はほとんどなかった。

しかし、準決勝の大昭和製紙戦で右手中指のツメをはかき、押えが利かなくて球に力が入らなくなってしまった。この試合はやっと勝ったが、決勝の全鐘紡戦は先発したものの4回しかもたなかった。

久慈賞を受けたとはいえ、ツメさえ万全ならなんとかなったのにとすごく口惜しかった。

もっと残念だったのは、2年後の28回大会で日鉄二瀬の村上峻介投手と投げ合い完全試合を喫したこと。私も社会人時代の最高のピッチングで、6安打はされたがいい当りは江藤慎一捕手の本塁打だけ。

でも、後楽園は楽しい思い出ばかりが残っている。最近では大学を出ると野球を止めてしまう選手が増えてきたが、好きで始めた野球と青春をそんなに早く捨てるのはもったいない。環境に甘えさえしなければ、野球と仕事をきちんとやることのできるのだから。



優勝した全鐘紡を中心とした全日本軍が編成され第1回世界野球大会に出場したメンバー



3年ぶり4度目の優勝を果たし、黒獅子旗を掲げて場内を一周、ファンの歓喜に応える大阪市、全鐘紡ナイン

1回戦

八幡製鉄 (推薦・八幡市)

0	0	0	1	4	1	0	3	0	9
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

門真町 (松下電器)

【八幡製鉄】	打安点	【門真町】	打安点
⑥ 小曾根	400	⑤ 奥田照	320
6 田崎	200	⑧ 佐々木	400
④ 岩宮	430	④ 坂田	300
⑦ 石橋	641	⑦ 江木	410
⑨ 手赤井	512	⑨ 大仁	100
③ 赤井	510	9 森茂	100
⑤ 井原	433	③ 奥田	310
⑧ 井原	210	② 路井	100
H 北藤	110	2 井砂	200
8 小林	111	① 荒池	100
② 小福	411	1 中渡	210
	500	1 R 藤島	000
	43168	⑥ 松本	200
	641	6 松本	100

振球権盗失残併 32 3
 6 4 1 2850
 ▽本塁打 井原1号(池田) 石橋1号(池田)
 ▽三塁打 手島▽二塁打 小林▽1時間59分

1回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
0	2	2	0	1	0	1	0	X	6

横浜市 (日本石油)

【釜石市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑤ 福田	310	⑦ 小池	400
⑥ 古賀	300	④ 野井	210
⑦ 8 古賀	420	③ 石井	520
⑨ 岩本	410	⑧ 花井	410
③ 吉本	410	⑨ 重宮	412
⑧ 皆本	200	② 台原	420
2 増木	110	⑤ 野村	221
④ 田場	411	① 笹野	312
② 菅	100	⑥ 小笠原	411
7 藤林	200		32116
① 小川	201		振球権盗失残併
H 小川	100		25 3

振球権盗失残併 83 1
 3172
 ▽本塁打 重台1号②(小林) ▽二塁打 木場
 吉本 宮原▽2時間25分

1回戦

日立市 (日立製作所)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0	X	1

大牟田市 (東洋高压大牟田)

【日立市】	打安点	【大牟田市】	打安点
④ 原三	420	④ 永日	200
⑥ 堀内	410	⑨ 持春	300
⑨ 山本	410	⑧ 野田	300
⑧ 田中	300	③ 寺小	311
⑦ 渡名	410	⑤ 小瀬	320
③ 宇和	200	① 大塚	300
② 原精	300	⑥ 桐原	300
⑤ 地	200	② 原石	300
① 浦	100	⑦ 大笠	220
	3050		2551

振球権盗失残併 61 1
 32 0
 ▽本塁打 寺田1号(原精) ▽二塁打 原三
 ▽1時間40分

1回戦

大阪市 (全鐘紡)

0	2	1	0	2	0	1	1	3	10
0	1	0	0	0	3	0	0	1	5

川崎市 (日本コロムビア)

【大阪市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 松本	620	⑧ 高橋	311
⑦ 9 多湖	523	⑥ 橋原	200
② 田津	610	⑧ 高橋	101
⑧ 大山	541	⑤ H 関根	400
③ 山平	533	⑤ H 関根	100
⑤ 望月	431	① 3 7 井上	400
④ 望月	500	⑦ 井上	100
4 田川	000	① 1 木上	100
① H 西川	210	⑨ 9 松方	200
1 井高	000	① 9 村高	310
1 井高	100	④ 4 島	100
⑨ 1 森	100	③ 3 星	100
7 森	312	③ 3 島	000
7 岩中	110	② 1 3 本	321
	441810	② R 永	300

振球権盗失残併 24 4
 3374
 振球権盗失残併 77 3
 ▽本塁打 山下1号②(五井) ▽二塁打 平出
 山下 松本 多湖 大津▽2時間20分

1回戦

大分市 (大分鉄道局)

0	0	2	0	0	0	2	0	1	5
2	0	0	0	1	0	2	0	1	6

神戸市 (川崎重工)

【大分市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑧ 神田	410	② 増栄	410
④ 阿高	300	⑥ 西井	533
⑤ 高小	322	⑧ 越口	420
③ 小吉	200	③ 藤林	421
3 森	200	⑤ 近藤	311
⑨ 村橋	300	⑦ 7 平井	311
9 上本	100	④ 9 浅井	200
② 2 村田	110	④ ④ 北高	210
2 2 庄金	110	9 9 北高	210
⑦ 7 渡邊	300	① ① 橋	100
⑥ 6 藤	200	1 1 橋	300
6 藤	210		33126
① 1 藤	000		振球権盗失残併
1 H 藤	101		55 1
R 藤	111		
1 藤	000		▽本塁打 西井1号2号
	000		(恵良) ▽二塁打 高木
	2974		大越 山口

振球権盗失残併 55 3
 2974
 ▽2時間15分

1回戦

高砂市 (鐘淵化学)

1	1	0	0	0	0	3	0	5
0	0	0	0	1	0	0	0	1

砂川町 (東洋高压砂川)

【高砂市】	打安点	【砂川町】	打安点
⑧ 河田	411	⑦ 本間	411
⑨ 久松	400	⑤ 齋藤	210
② 山本	410	⑥ 齋藤	400
③ 山本	411	③ 齋藤	410
④ 山本	400	⑧ 齋藤	410
4 山本	100	⑨ 齋藤	400
① 山本	310	① 1 藤	100
⑤ 山本	322	① 1 藤	200
⑦ 山本	400	② 2 藤	100
⑥ 山本	101	② 2 藤	100
	3265		300

振球権盗失残併 58 4
 3341
 ▽二塁打 齋藤
 ▽1時間55分
 振球権盗失残併 62 1



閉会式で黒獅子旗を受け取る全鐘紡・岩中主将



来日中の米太平洋海兵隊軍楽隊が飛び入りで演奏した

1 回戦

小樽市 (小樽野球協会)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	0	0	0	0	×	0										

岡山市 (岡山鉄道局)

【小樽市】	打安点	【岡山市】	打安点
④5 谷菅	4 0 0 0	⑧ 川田	4 2 0 0
④ 沢原	2 0 0 0	⑦ 原地	4 0 0 0
⑧ H 須川	1 0 0 0	⑥ 寺林	3 1 1 0
⑨ 須崎	3 1 0 0	③ 前	3 1 1 1
⑦ 山須川	3 0 0 0	⑨ 宮	4 2 0 0
③ H 須川	1 0 0 0	⑤ 多	3 0 0 0
③ 松吉	4 0 0 0	④ 為	3 2 0 0
② 田原	3 0 0 0	② 中	3 1 0 0
② 福加	0 0 0 0	② 北	0 0 0 0
⑥ 田藤	3 1 0 0	① 太	3 0 0 0
① 越中	1 1 0 0	① 山	0 0 0 0
① 江安	1 0 0 0		30 9 1
⑤ 田安	1 0 0 0		
4	1 0 0 0		
	29 3 0		

振球権盗失残併 2 1 0

▽二塁打 山崎
▽1時間59分

1 回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大阪市 (住友金属)

【大津市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑧ 渡川	4 0 0 0	⑦ 町田	4 1 0 0
④ 宇田	4 1 0 0	⑥ 川山	4 1 0 0
⑦ 野門口	4 0 0 0	⑨ 中刀	2 0 0 0
⑨ 野門口	4 1 0 0	H 9	1 0 0 0
② 堀境	4 3 1 0	9	0 0 0 0
⑥ 境	4 1 1 1	H R	1 1 0 0
③ 片山	4 2 1 1	H R	0 0 0 0
① H 佐清	3 0 0 0	⑤ ⑧	4 1 0 0
R 田本	1 1 0 0	③ ①	4 0 0 0
R 上藤	0 0 0 0	③ ②	2 0 0 0
⑤ 上藤	3 0 0 0	① ①	3 2 0 0
5	0 0 0 0	④ 堀	3 1 0 0
	35 9 3		32 7 0

振球権盗失残併 6 0 0

▽三塁打 堀川 金川▽1時間58分

1 回戦

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	0	0	0	3	3	0	1	7											
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0										

千葉市 (専売公社千葉)

【吉原市】	打安点	【千葉市】	打安点
④ 有馬	5 1 0 0	⑨ 井上	3 1 0 0
⑤ 杉村	2 1 0 0	H 原	1 1 0 0
5 杉村	1 0 0 0	⑦ 坂本	2 0 0 0
⑦ 荒川	3 2 0 0	7 白	2 1 0 0
⑧ 井屋	3 1 0 0	④6 小	3 1 1 1
⑧ 土屋	2 1 0 0	H 榮	1 0 0 0
⑨ 土徳	4 1 1 1	⑧ 潮	2 0 0 0
⑥ 北川	4 2 5 0	8 水	1 0 0 0
③ 朝比奈	3 0 0 0	③ 本	3 1 0 0
3 手塚	1 0 0 0	H 今	1 0 0 0
② 板倉	5 1 1 0	⑤ 和	3 0 0 0
① 山本	2 0 0 0	① 小	2 0 0 0
	35 10 7	1 池	0 0 0 0
		1 上	1 0 0 0
		⑥ 渡	1 0 0 0
		4 岡	2 0 0 0
		② 石	2 0 0 0
		H 山	1 1 0 0
			31 6 1

振球権盗失残併 3 7 0

▽本塁打 北川1号③ (渡辺)▽三塁打 北川
▽二塁打 白井 荒川
▽2時間21分

振球権盗失残併 12 1 1

2 回戦

八幡製鉄 (推薦・八幡市)

4	0	0	0	0	0	5	6	0	15											
0	2	0	0	0	2	0	0	0	4											

富山市 (電電富山)

【八幡製鉄】	打安点	【富山市】	打安点
④ 宮崎	4 2 2 3	⑨ 津島	3 0 0 0
⑥ 曾根	5 2 2 2	H 本	1 0 0 0
6 小岩	0 0 0 0	9 田	0 0 0 0
⑦ 岩田	4 2 3 3	⑧ 本	2 0 0 0
7 手橋	4 1 0 0	8 増	2 0 0 0
⑧ 赤木	4 1 0 0	② 高	2 1 0 0
H 藤	1 0 0 0	⑦ 石	1 0 0 0
③ 井	0 0 0 0	④ 角	4 0 0 0
5 井	5 2 1 1	④ 野	4 2 0 0
⑧ 吉	1 0 0 0	H 藤	3 1 2 2
② 小	6 2 1 1	H 地	1 0 0 0
① 畑	1 0 0 0	③ 森	3 1 1 1
1 福	3 0 1 1	③ 伏	1 0 0 0
	44 14 13	⑥ 崎	1 0 0 0
		H 子	0 0 0 0
		① 田	1 0 1 0
		1 細	1 0 0 0
		1 稻	0 0 0 0
		1 高	0 0 0 0
			33 7 4

振球権盗失残併 5 9 2

▽二塁打 山地
小曾根
▽2時間16分

振球権盗失残併 4 1 5

2 回戦

京都市 (京都大丸)

0	0	0	0	0	0	3	0	0	3											
2	3	0	1	3	0	0	2	×	11											

横浜市 (日本石油)

【京都市】	打安点	【横浜市】	打安点
④ 奥西	5 1 1 1	⑦ 池野	5 5 2 2
⑦ 理子	4 2 0 0	④ 小	2 2 2 3
⑨ 金岩	4 1 0 0	③ 藤	2 0 0 0
⑧ 岩水	4 1 0 0	③ 石	2 1 0 0
⑥ 伊田	3 2 0 0	⑧ 横	5 2 1 1
⑤ 中川	4 3 0 0	⑨ 花	5 0 0 0
③ 田部	2 0 0 0	② 重	2 1 1 1
② 藤谷	2 0 0 0	⑤ 宮	4 1 0 0
① 森	1 0 0 0	① 笹	2 0 0 0
2 小	2 1 0 0	1 堀	2 0 0 0
1 奥	2 1 2 2	⑥ 野	1 0 0 0
	35 12 3		37 15 9

振球権盗失残併 7 1 5

▽三塁打 奥西常 小池▽二塁打 小竹 小笠原
▽2時間32分

振球権盗失残併 6 8 1

2 回戦

大阪市 (全鐘紡)

5	2	1	0	0	0	0	2	0	10											
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0											

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【大阪市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑥ 松本	4 2 2 0	⑥ 中山	4 0 0 0
⑨ 湖田	2 1 0 0	⑨ 中	4 1 0 0
② 多種	3 0 1 1	② 瀧	3 0 0 0
2 津	0 0 0 0	⑦ 山	2 0 0 0
⑧ 大津	5 2 2 2	⑦ H 加	1 0 0 0
③ 山平	4 0 0 0	R 都	0 0 0 0
⑤ 保松	3 0 0 0	7 片	1 0 0 0
④ 本保	4 0 0 0	R 森	3 0 0 0
① 中	2 2 2 1	⑤ 酒	3 0 0 0
H 本	1 0 0 0	R 木	0 0 0 0
1 本	1 0 0 0	③ 伊	2 0 0 0
1 藤	1 0 0 0	③ 柴	1 0 0 0
⑦ H 森	3 0 0 0	④ 加	2 0 0 0
7 岩	1 0 0 0	① 小	1 1 2 0
	34 7 4	① 安	0 0 0 0
		1 上	2 0 0 0
		1 中	1 0 0 0
		1 竹	0 0 0 0
			30 2 0

振球権盗失残併 3

▽本塁打 大津1号 (上田)▽三塁打 松本豊
▽二塁打 大津▽2時間7分

振球権盗失残併 5

2 回戦

四日市市 (東洋紡富田)

0	0	0	1	1	0	0	0	3	5											
0	0	0	0	4	0	0	0	0	4											

神戸市 (川崎重工)

【四日市市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑤ 脇村	3 1 0 0	⑧ 越田	3 0 0 0
7 脇村	1 0 0 0	⑧ 大	0 0 0 0
⑨ 安水	5 3 0 0	② 目	3 0 0 0
⑥ 福井	5 1 1 1	② 増	3 0 1 1
④ 坂井	5 3 2 2	③ 西	2 0 1 1
⑦ 崎川	3 0 0 0	⑦ 山	3 0 0 0
③ 市中	4 1 0 0	⑦ 近	0 0 0 0
R 中山	0 0 0 0	⑤ 平	4 1 0 0
⑧ 辻	3 1 1 1	⑨ 北	3 0 0 0
① 藤	2 1 0 0	① 北	0 0 0 0
1 藤	1 1 0 0	H 高	1 0 0 0
② 小	3 0 0 0	① 高	1 0 0 0
H 野	0 0 0 0	H 満	2 1 1 1
R 早	0 0 0 0	④ 甲	2 1 1 1
2 吉	0 0 0 0		25 2 3
	35 12 4		

振球権盗失残併 4 6 2

▽三塁打 甲良 坂井▽二塁打 市川 服部
▽2時間10分

2 回戦

高砂市 (鐘淵化学)

4	0	0	0	0	0	0	1	5												
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1											

東京都 (東京ガス)

【高砂市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 河田	3 1 0 0	⑧ 木	4 1 0 0
⑨ 留原	3 0 0 0	H 遠	3 0 0 0
② 久松	4 1 0 0	⑨ 里	1 0 0 0
③ 山本	3 1 0 0	⑤ 大	3 0 0 0
⑤ 尾山	4 1 1 1	③ 小	4 0 0 0
④ 尾山	3 2 2 2	④ 大	4 1 0 0
4 藤	0 0 0 0	⑦ 大	3 1 0 0
① 藤	3 1 2 2	7 藤	0 0 0 0
⑦ 種子	1 0 0 0	① 小	0 0 0 0
7 本	2 0 0 0	① 本	4 2 0 0
⑥ 藤	4 0 0 0	② 地	1 0 0 0
	30 7 5	② 山	3 1 1 1
		⑥ 秋	3 0 0 0
		H 小	1 0 0 0
			34 6 1

振球権盗失残併 4 3 1

▽本塁打 尾西1号 (本田)▽二塁打 本田 秋山 河田▽1時間30分

2 回戦

岡山市 (岡山鉄道局)

0	0	1	0	0	0	2	0	0		3
0	4	0	0	0	0	0	0	×		4

東京都 (熊谷組)

【岡山市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧	河田	⑧	篠原
⑨	田尾	④	石中
⑦	笹地	②	大河
⑥	林	①	前内
⑤	宮前	③	山山
④	角南	⑦	尾尾
③	多田	⑤	山尾
②	為房	③	侯
①	北山	①	川
		⑨	曲
		⑥	吉

振球機盗失残併 8 2 2 369 2

振球機盗失残併 0 2 1 328 3

▽三壘打 吉田 山田▽二壘打 笠原

▽1時間52分

2 回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0	0	2	0	0	0	0	0	0		2
1	0	0	0	0	0	0	1	2		4

吉原市 (大昭和製紙)

【大津市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑧	渡辺	④	有馬
⑦	宇野	⑤	村川
⑥	野口	⑦	杉
⑤	門川	⑧	荒石
④	堀川	⑧	石土
③	境	⑨	丸丸
②	片山	⑥	徳北
①	清水	③	朝比
	岩佐	②	手塚
	上原	①	板倉
		H	山
		1	稻

振球機盗失残併 3 5 0 294 1

振球機盗失残併 5 2 3 317 4

▽本壘打 板倉1号②(佐竹)▽三壘打 渡辺

▽二壘打 有馬▽2時間18分

準々決勝

八幡製鉄 (推薦・八幡市)

0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
0	0	0	1	0	0	0	0	×		1

横浜市 (日本石油)

【八幡製鉄】	打安点	【横浜市】	打安点
④	宮崎	⑦	小池
③	曾根	④	藤原
②	石手	②	宮原
①	赤手	⑧	花重
	藤井	⑨	花重
	井本	⑤	花重
	林生	③	花重
	小福	①	花重
		⑥	花重

振球機盗失残併 7 2 1 325 0

振球機盗失残併 2 3 2 264 1

▽三壘打 杉村

▽二壘打 秋山2 徳丸

▽2時間21分

準々決勝

大阪市 (全鐘紡)

0	2	1	0	0	2	0	0	1		6
0	0	0	0	0	0	1	1	3		5

大牟田市 (東洋高压大牟田)

【大阪市】	打安点	【大牟田市】	打安点
⑥	松本	④	持永
⑦	多湖	⑦	立石
②	種田	⑧	立石
③	大山	③	立石
③	山平	⑤	立石
⑤	高福	①	立石
⑨	高松	⑥	立石
⑨	本繁	⑤	立石
①	上川	H	立石
1	中月	②	立石
④	望岩	R	立石
4		⑧	立石

振球機盗失残併 2 5 0 3813 6

振球機盗失残併 1 1 1 327 5

▽本壘打 小淵1号(松本繁)▽二壘打 春田

下川▽2時間30分

準々決勝

四日市市 (東洋紡富田)

0	0	0	0	0	0	0	0	1		1
1	0	0	2	5	1	0	0	×		9

高砂市 (鐘淵化学)

【四日市市】	打安点	【高砂市】	打安点
⑥	福井	⑧	河田
⑦	中水	⑨	久留
⑤	高坂	②	松山
④	坂本	③	山本
⑤	脇村	⑤	隆西
③	中川	④	隆西
③	市山	4	隆西
H	安辻	①	隆西
⑧	寺藤	⑦	隆西
9	服部	⑦	隆西
1	水野	H	隆西
1	小吉	⑥	隆西

振球機盗失残併 10 5 0 295 0

振球機盗失残併 4 0 0 3615 9

▽二壘打 松原 尾西

久留島 藤井

▽1時間37分

準々決勝

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	0	0	0	1	2	0	1		4
1	0	0	0	1	0	0	0	1		3

東京都 (熊谷組)

【吉原市】	打安点	【東京都】	打安点
⑤	杉村	⑧	篠原
⑤	村奈	④	石中
⑦	朝比	③	大河
⑦	荒石	①	前内
⑧	石土	①	山山
⑨	丸丸	②	尾尾
⑥	徳北	R	山尾
②	板倉	2	山尾
①	吉荒	⑤	山尾
④	有馬	③	山尾

振球機盗失残併 3 0 2 3611 4

振球機盗失残併 3 5 1 3510 2

▽三壘打 杉村

▽二壘打 秋山2 徳丸

▽2時間21分

準決勝

大阪市 (全鐘紡)

1	1	0	0	0	0	2	0	0		4
0	0	1	1	0	0	0	0	0		2

横浜市 (日本石油)

【大阪市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑥	松本	⑦	小池
⑨	多湖	④	藤原
②	種田	②	宮原
⑧	大山	H	宮原
③	山平	⑧	花重
⑤	高福	⑨	花重
④	高松	③	花重
H	本繁	⑦	花重
4	上川	①	花重
①	中月	①	花重
⑦	望岩	1	花重

振球機盗失残併 5 1 1 3 1 2 10 1 346 2

振球機盗失残併 7 5 0 0 2 10 0 4 1 0

▽二壘打 大津2▽2時間55分

準決勝

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	2	0	0	1	0	0	1		4
1	0	0	0	1	1	1	3	×		7

高砂市 (鐘淵化学)

【吉原市】	打安点	【高砂市】	打安点
⑤	杉村	⑧	河田
③	朝比	⑨	久留
⑦	荒石	②	松山
⑧	石土	③	山本
⑨	徳北	⑤	隆西
⑥	板倉	④	隆西
②	倉馬	4	隆西
H	山本	①	隆西
4	山本	⑦	隆西
①	山本	⑦	隆西
1	山本	6	隆西
1	山本	7	隆西
H	山本	⑥	隆西

振球機盗失残併 4 4 3 2 0 8 1 311 7

振球機盗失残併 3 7 1 1 2 8 2

▽本壘打 手塚1号(山本治)▽二壘打 山本隆

久留島▽2時間10分

3位決定戦

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	0	1	0	2	0	0	0		3
1	0	0	1	0	0	0	0	0		2

横浜市 (日本石油)

【吉原市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑤	杉村	⑦	小池
⑧	村奈	④	藤原
⑦	朝比	②	宮原
⑦	荒石	⑧	宮原
⑧	石土	⑨	花重
⑨	丸丸	③	花重
⑥	徳北	②	花重
②	板倉	H	花重
③	倉馬	⑤	花重
H	山本	⑦	花重
4	山本	①	花重
①	山本	①	花重

振球機盗失残併 2 3 3 0 0 8 0 305 2

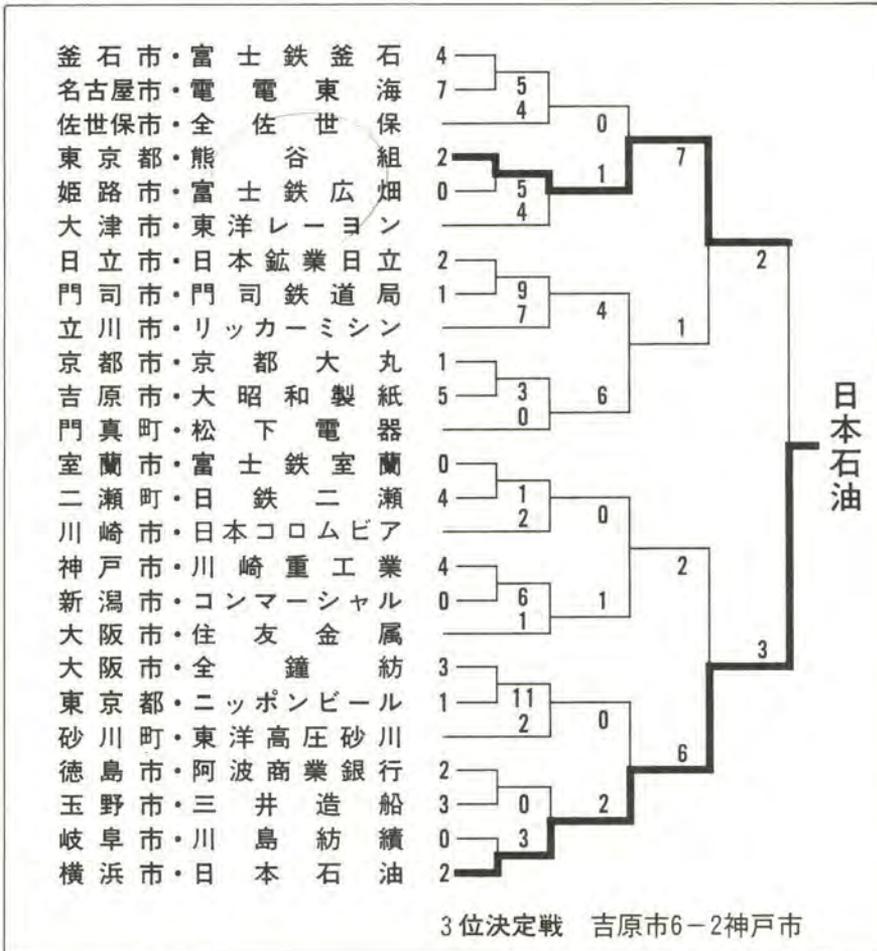
振球機盗失残併 3 2 1 0 2 4 2

▽本壘打 宮原1号(山本)▽二壘打 根本

▽1時間49分

第27回大会

1956年(昭和31年)7月28日-8月5日・後樂園球場
優勝=横浜市・日本石油



日本勢が優勢だったが、黒獅子旗は昭和14年
東京市・藤倉電線が手にしてから、実に17年
ぶりに箱根の山を越えた。横浜の優勝は力を
備えてきた“新興”企業チーム全盛への転換
点となった年でもあった。

「好投手あるところに栄冠あり」の言葉通
り、慶大出の新人エース藤田元司投手が横浜
優勝の立役者、橋戸賞を獲得。久慈賞は東京・
熊谷組の大沢貞義投手に贈られた。

1回戦の岐阜市・川島紡績戦で藤田は得意
の速球をピシピシと決め、打線も苦しみなが
ら終盤に得点、藤田は3安打無四球完封であ
ぎやかにデビューした。2回戦でも藤田は2
回途中から鈴木義之投手をリリーフ、玉野市・
三井造船の新鋭・太田明利投手に抑えられ、
なかなか追加点を奪えなかった試合を勝利に
導いた。

「大阪、横浜、竜虎相うつ」といわれた大
阪市・全鐘紡との準々決勝は、前回大阪が勝
っている対戦だったが、4回から野村利則投
手をリリーフした藤田が大阪打線を封じ、横
浜は松本繁和投手に手を焼きながらも5回に
花井悠中堅手の適時打で先制、9回には石井
連蔵一塁手(日本鋼管から補強)の左翼本塁
打でトドメを刺し、前年度優勝チームを破っ
た。準決勝は鈴木が神戸市・川崎重工を2点
に抑えて完投勝ち。決勝の東京都・熊谷組戦
も2回半ばかりリリーフの藤田が好投、8回
古田昌幸二塁手にランニング本塁打され、登
板全試合無失点の大記録は成らなかったが、
29イニング連続無失点の大会記録をうちたて
堂々の優勝投手となった。

東京・熊谷組も姫路市・富士鉄広畑を零封、
大津市・東洋レーヨン、名古屋市・電電東海
に競り勝って、準決勝で5年連続8回目の出
場の強豪、吉原市・大昭和製紙と対戦、好カ
ードとみられたのに吉原投手陣の乱れで楽勝
し、余勢をかって決勝に進んだが、藤田の前
に一步及ばなかった。

特異な活躍振りをみせたのが、初出場の日
立市・日本鉱業日立。闘将・砂押邦信監督が
鍛えあげたチームだけあって、エース嵯峨健
四郎投手が力投する一方、打線は1、2回戦
に土壇場で逆転勝ち。吉原市との準々決勝で
力尽きたが、この試合も9回に中村修一郎が
同点本塁打するなど、ファンを熱狂させる熱
戦の連続で、初の小野賞を受賞した。

東日本勢17年ぶりの大旗

都市対抗野球に大きな功績を残した小野三
千磨さんが死去、小野賞が新設された。第22
回大会(昭和26年)に初出場して以来、東京
六大学の花形選手らを続々採用して、チーム
強化を図ってきた横浜市・日本石油が4度目
の出場で初優勝を飾った。戦争による中断を
はさみ、昭和21年に復活したあと、ずっと西



全国の予選を勝ち抜いた精鋭25チームが整列の開会式

決勝

横浜市 (日本石油)

1 0 0 1 0 0 0 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2

東京都 (熊谷組)

【横浜市】	打安点振球	【東京都】	打安点振球
⑥ 中野	4 1 0 0 0	⑧ 篠原	5 2 0 2 0
④ 野	2 0 0 0 2	⑦ 秋山	4 0 0 0 0
⑦ 小池	3 0 0 0 1	④ 古田	3 1 1 1 1
⑧ 花井	3 1 1 0 1	① 大沢	4 1 0 2 0
② 宮原	3 1 0 0 1	③ 竹之内	4 3 0 1 0
⑨ 林	1 0 0 0 0	② 中野	2 0 0 0 2
⑨ 菅沼	3 1 0 0 0	⑥ 吉田	3 1 1 2 0
③ 菅石	3 0 0 2 1	① 加藤	0 0 0 0 0
⑤ 田中	4 2 1 1 0	① 藤来	1 0 0 0 0
① 野村	1 0 0 1 0	⑨ 曲淵	1 0 0 0 0
① 藤田	3 0 0 3 0	H 竹谷	1 0 0 1 0
	306 2 7 6	⑨ 鈴木	0 0 0 0 0
		⑨ 山本	1 0 0 0 0
		⑤ 木崎	2 0 0 0 0
		⑤ 藤	1 0 0 1 1
			328 2 10 4

機併残盗失 20901
0 0 6 2 1
▽本塁打 古田2号(藤田)▽二塁打 菅沼
▽2時間44分



決勝の横浜対東京戦。1点を追う東京は2回無死二三塁でスクイズを失敗。竹之内が三本間で挟殺され好機を逃す

エース藤田、懸命のリリーフ

横浜は初の決勝進出、東京都は6年ぶり2度目。ともに初優勝を狙うとあって、両先発投手は堅さがほぐれなかった。

横浜は1回、トップの中野が三遊間を破り、バントシフトの逆をついてすかさず二盗。動揺した東京・加藤は連続四球を与えて無死満塁。花井の内野ゴロで中野が還り先取点を楽々奪った。東京も2回、竹之内が安打すると横浜はエース藤田をリリーフに送った。中野の投前バントを藤田は二塁に悪送球して無死二・三塁。東京は吉田のカウント2-1からスクイズを敢行したが、藤田は冷静に見破ってはずし、空振りさせたうえ、三塁走者を挟殺、一瞬にしてピンチを切り抜けた。

横浜は4回、菅沼の二塁打と石井の四球で一・二塁。東京は3番手として大沢が右翼からマウンドに登ったが、田中がつまりながらも中前適時打して1点。大沢はベテランらし

死去悼み記念の小野賞

都市対抗野球の「育ての親」ともいわれた小野三千磨さんが、2月2日、慶応病院で死去。宮原清会長を葬儀委員長として、社会人野球協会葬は2月7日盛大に行われた。

慶大時代は早大の谷口五郎投手と並ぶ調範

MEMO

◇29イニング連続無失点 横浜市・日本石油の藤田元司投手は1回戦で岐阜市・川島紡績を完封、2回戦の玉野市・三井造船、準々決勝の大阪市・全鐘紡戦はリリーフで無失点、決勝の東京都・熊谷組戦も2回途中からマウンドに立ち、8回古田昌幸二塁手にランニング本塁打されるまで、29イニング連続無失点記録をマーク。第25回大会の東京都・全藤倉・西村一孔投手の27イニングを更新した。



優勝した横浜、日本石油を中心にした全日本軍が編成され、第2回世界野球大会に出場したメンバー

い好投をみせたが、横浜は8回二死後、花井が安打、宮原の右翼線安打を野手が後逸する間に3点目をあげた。しかし東京もその裏、古田が高めカーブを狙い打って右中間を抜くランニング本塁打。藤田の連続無失点を止めて勢いづき、大沢、竹之内の連続安打と四球で満塁、吉田の中犠飛で1点差としたが、藤田懸命のピッチングに反撃はそこまでだった。

投手としてならし、毎日新聞社に入社後も大毎野球部の投手として活躍、米国にも遠征した。野球記者として独特の境地を開き、社会人野球協会副会長として社会人野球の振興につくした。

小野さんの功績をたたえ、この年の大会から、すばらしい活躍をしたチームまたは個人に「小野賞」を贈ることになった。

優勝した横浜市・日本石油メンバー

- 部長 建内 保典 (京大)
- 監督 増山桂一郎 (慶大)
- 助監督 尖戸善次郎 (法大)
- コーチ 石原 利男 (早大)
- 投手 野村 利則 (慶大)
- 鈴木 義之 (法大)
- 鈴木 隆 (日大高)
- 加藤 雄司 (慶大)
- 藤田 元司 (慶大)
- 七島 義人 (小城高)
- 捕手 堀田 一雄 (慶大)
- 田山 孝行 (慶大)

- 瓦井 康貴 (作新学院高)
 ○宮原 実 (早大)
 内野手 井上 茂 (立大)
 田中 進 (横浜市大)
 ○石井 連蔵 (早大)
 藤野徳太郎 (慶大)
 進藤 信雄 (横浜市大)
 田中 徹雄 (慶大)
 ◎笹田 慎一 (早大)
 ○小笠原康二 (明大)
 中野 健一 (法大)
 外野手 小池 正己 (法大)
 花井 悠 (慶大)
 重台 照彦 (明大)
 ○林 正治 (明大)
 菅沼 正直 (法大)
 (◎印は主将 ○印は補強)



初優勝した日本石油が増山監督を先頭に、央戸主将が黒獅子旗をかかえて場内を一周。ファンの歓声に応えた。

2 試合連続の延長戦

第3日の第1、第2試合は連続して延長戦となり、息づまる熱戦がファンをわかせた。

大阪市・全鐘紡と東京都・ニッポンビール戦は、前年度優勝チームに対して東京の快腕・北川が好投、1-1のまま延長13回にもつれ込んだ。この回大阪は二死から多湖が四球を選び、種田が安打して、一・二塁。4番山下は2-3からの6球目、内角速球を左中間に打ち返す二塁打を打ち、2走者を迎え入れて勝負をつけたが、慶大時代から強打をうたわれ、鐘紡入社後も4番を打つ山下のバッティングはさすがだった。

続く玉野市・三井造船対徳島市・阿波商業銀行の初出場同士の戦も徳島が5回谷井の2ランでリードすると、玉野は7回、代打・川田元の適時打で追いつき延長戦。こちらも13回、玉野は2番の福井が2-0からの好球を右翼席にたたき込む決勝本塁打。7回からリリーフした藤原がその裏をピシヤリと締めて3時間3分の試合にけりをつけた。

第2回世界野球大会

全日本選手団

団長 宮原 清 (協会会長)
 役員 川瀬 進 (協会理事)

- | | |
|----|-----------------|
| | 本田 親喜 (協会理事) |
| | 鈴木 美嶺 (毎日新聞社) |
| 監督 | 増山桂一郎 (日本石油) |
| 投手 | 藤田 元司 (日本石油) |
| | 北川 芳男 (ニッポンビール) |
| | 大沢 貞義 (熊谷組) |
| | 河合 貞雄 (住友金属) |
| | 野村 利則 (日本石油) |
| 捕手 | 宮原 実 (日本鋼管) |
| | 種田 吉富 (全鐘紡) |
| | 古田 昌幸 (熊谷組) |
| | 田中 徹雄 (日本石油) |
| | 中野 健一 (日本石油) |
| | 松本 豊 (全鐘紡) |
| 外野 | 小池 泰輔 (東洋高圧) |
| | 石井藤吉郎 (大昭和製紙) |
| | 花井 悠 (日本石油) |
| | 浅井浩一郎 (川崎重工業) |

橋戸賞のトロフィーは家宝

横浜市・日本石油
 藤田元司投手



慶大出。日本石油に入社した昭和31年、29イニング無失点の快投をみせて橋戸賞受賞。のち巨人のエースとして活躍。解説者をはさんで2度巨人監督。現在巨人監督

もう遠い昔のことになったが、日本石油に入社した年でもあり、鮮明な記憶としてよみがえる。

日石はクジ運にも恵まれて、ナイターでの試合が続き、そのおかげで連投できた。昼間の暑い中では、あんなピッチングは続けられなかったと思う。

監督の増山桂一郎さんをはじめ、藤野徳太郎二塁手、田中徹雄三塁手、花井悠外野手ら、慶大出の選手が多く、気分の上ではすごく楽しかった。それに日本鋼管から加わった捕手の宮原実さんは大ベテラン。サイン通りに投げ

ればよかったし、自分でも気持ちいいほど球が走り、よく切れていたから、小細工しようなど考えず、真っ向から投げ込めばよかった。

それでも苦しかったのは、決勝の対熊谷組戦だった。2回半ばかり登板したが、8回に古田昌幸さんに右中間のランニング本塁打を打たれた。これで連続無失点が切れたのだが、そのあと連打と四球で一死満塁。犠飛を打ちあげられ、1点差に迫られてしまった。増山監督が「オマエにまかす。思い切ってやれ」と間をとってくれて、しのぎ切ることができた。

いま考えても、あの大会はマウンドで何の迷いもなく、ピッチングをつづけられた素晴らしいものだった。

優勝したとき真っ先に増山監督が飛びついてきて、ほほずりされた。ヒゲがすごく痛かった覚えがある。

全日本に選ばれて、ミルウォーキーに行ったが、当時肉を食べられなかった私に、現地の邦人の方がオニギリを差し入れてくれ、大変助かった。おかげで15三振を奪う投球もできた。「最もファンをわかせた選手賞」もいただいたが、橋戸賞とミルウォーキーでのトロフィーは、我が家の家宝として大事にしている。



東京対吉原の準決勝。白一色で埋った後楽園球場

1 回戦

名古屋市 (電電東海)	
0	2 0 0 0 0 5 0 0 7
0	0 2 0 0 0 0 2 0 4
釜石市 (富士鉄釜石)	

【名古屋市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑥	稲垣 4 1 0	④	木場 4 0 0
④	三浦 3 1 0	⑥	藤 3 0 1
⑦	三加 5 1 1	⑦	藤 4 1 0
⑨	中下 1 0 0	⑦	尾 0 0 0
①	中谷 2 1 1	⑨	吉本 4 1 0
⑧	中谷 5 2 0	⑧	本川 3 1 2
③	猪谷 5 2 1	⑧	山田 4 2 0
②	猪谷 4 1 1	⑤	山田 3 0 0
①	猪谷 3 1 1	②	福 0 0 0
⑤	猪谷 2 0 1	②	菅 1 0 0
振球機盗失残併 34106		②	増 1 0 0
6 8 2 2 1 1 0 1		①	叶 1 0 0
▽二塁打 猪子 梁山		①	橋 0 0 0
渡辺 吉本		1	林 1 0 0
▽2時間16分		H	高 1 0 0
		H	小 1 0 0
		H	遠 1 0 0
		H	加 1 0 0
			振球機盗失残併 315 3
			4 5 1 0 1 6 1

1 回戦

姫路市 (富士鉄広畑)	
0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0	0 1 0 0 0 0 1 0 X 2
東京都 (熊谷組)	

【姫路市】	打安点	【東京都】	打安点
④	萩原 4 1 0	⑧	篠原 4 0 1
⑥	石原 4 0 0	④	内田 4 2 1
③	久留島 4 2 0	③	竹之内 4 0 0
⑧	河野 4 1 0	⑨	大野 4 2 0
⑦	小野 2 1 0	1 9	中野 3 1 0
7	橋本 0 0 0	2	井野 1 0 0
H	永本 1 0 0	5	荒井 2 0 0
⑨	久本 3 1 0	5	藤村 2 0 0
②	田本 2 0 0	⑦	木秋 2 1 0
①	山本 3 0 0	①	山藤 2 1 0
1	出川 0 0 0	9	加山 1 1 0
⑤	後田 2 0 0	1	木本 0 0 0
4	藤森 1 0 0	⑥	川吉 0 0 0
振球機盗失残併 306 0		振球機盗失残併 298 2	
1 1 1 1 2 5 0		8 3 1 1 0 7 2	
▽二塁打 大沢	▽1時間42分		

1 回戦

日立市 (日本鉱業日立)	
0	0 0 0 0 0 0 0 2 0 2
0	0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
門司市 (門司鉄道局)	

【日立市】	打安点	【門司市】	打安点
⑧	田中 5 0 0	⑥	町田 4 2 1
⑥	伊藤 5 2 0	⑨	有重 2 0 0
⑨	斎藤 3 1 0	H	川崎 1 0 0
⑦	木村 1 0 0	9	方 0 0 0
③	木吉 2 0 0	8	野方 4 1 0
⑤	中野 3 1 0	③	上野 3 0 0
H	中渡 1 1 2	⑦	井上 4 0 0
5	中末 0 0 0	⑤	中田 3 0 0
②	宇塚 4 0 0	④	服部 1 0 0
①	宇塚 4 0 0	H	上野 3 1 0
④	原 3 1 0	②	菅 1 0 0
振球機盗失残併 316 2		①	林 3 1 0
5 4 3 1 0 9 0		①	田 1 0 0
▽二塁打 指方		1	島 1 1 0
▽2時間3分			振球機盗失残併 316 1
			1 2 2 1 1 3 6 0

1 回戦

吉原市 (大昭和製紙)	
1	0 1 0 0 2 0 1 0 5
0	0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
京都市 (京都大丸)	

【吉原市】	打安点	【京都市】	打安点
④	村奈 5 1 0	⑥	秋田 4 0 0
③	朝比奈 3 0 0	⑦	田子 4 1 0
H	山藤 0 0 0	④	西水 4 0 0
9	遠藤 1 0 0	⑧	吉石 4 2 0
⑦	徳石 5 3 1	⑨	岩田 2 0 0
⑦	石井 3 2 1	⑤	井中 2 0 0
⑧	土板 3 1 0	②	森 2 1 0
②	倉馬 3 0 1	①	竹 2 1 0
⑤	安藤 4 1 1	①	小 2 1 0
①	有安 2 0 0	③	小 2 0 0
H	山井 1 1 1	3	松 1 0 0
1	山井 1 0 0		
⑥	山井 4 2 0		
振球機盗失残併 3511 5		振球機盗失残併 325 0	
1 3 1 1 2 7 0		5 1 0 0 3 5 2	
▽三塁打 吉水 土屋	▽1時間57分		

1 回戦

二瀬町 (日鉄二瀬)	
0	0 0 0 0 0 0 0 4 0 4
0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
室蘭市 (富士鉄室蘭)	

【二瀬町】	打安点	【室蘭市】	打安点
④	持永 3 0 0	⑧	谷沢 3 0 0
⑥	古川 4 2 1	H	島原 1 0 0
⑧	小野 4 1 1	⑥	桑本 3 0 0
⑨	吉田 3 1 2	⑦	本山 2 0 0
③	小野 3 0 0	⑨	野崎 2 0 0
⑤	横井 2 1 0	9	中野 1 0 0
⑦	大原 3 0 0	③	野崎 3 0 0
7	宮越 1 0 0	⑤	野崎 3 1 0
②	丸瀬 4 1 0	①	野崎 2 0 0
①	井 3 0 0	1	下川 0 0 0
振球機盗失残併 306 4		2	小川 1 0 0
3 4 1 2 1 4 2		2	野田 1 0 0
▽本塁打 吉田 1号		④	加古 2 0 0
(金子)		H	藤 1 0 0
▽1時間46分			振球機盗失残併 261 0
			4 2 0 0 2 1 1

1 回戦

新潟市 (コンマーシャル)	
0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0	1 0 0 0 2 0 1 X 4
神戸市 (川崎重工)	

【新潟市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑨	池浦 2 0 0	④	甲良 4 0 0
②	村木 2 0 0	⑤	増片 2 0 0
H	柄木 1 0 0	5	西井 2 1 0
1	青野 0 0 0	⑥	西井 3 1 1
⑦	延松 4 0 0	⑨	浅山 4 2 0
⑧	松野 4 1 0	③	山越 4 1 0
③	大本 3 2 0	⑧	大目 2 0 0
⑤	本間 3 1 0	8	目田 2 2 1
5	川口 0 0 0	⑦	目田 3 2 0
H	若松 1 0 0	②	百山 3 1 1
⑥	佐藤 3 0 0	①	北山 3 0 0
H	村上 1 0 0		
①	樋口 2 0 0		
7	清水 2 0 0		
④	山中 1 1 0		
4	中林 2 0 0		
振球機盗失残併 315 0		振球機盗失残併 3210 3	
6 4 1 0 2 9 0		9 1 0 0 1 5 0	
▽三塁打 百瀬			
▽二塁打 片岡			
▽1時間56分			

1 回戦

大阪市 (全鐘紡)	
0	0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 2 3
0	0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1
東京都 (ニッポンビール)	

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥	松本 5 0 0	⑧	井垣 5 1 0
⑨	豊湖 5 0 0	④	山野 4 0 0
②	多湖 6 2 0	H	大宇 1 1 0
③	山下 6 3 2	⑨	前田 6 1 0
⑧	山岩 5 0 0	③	村田 5 2 1
⑤	中出 5 2 0	⑦	堀内 5 1 0
⑦	本質 1 0 0	⑤	田内 3 0 0
H	西岩 1 0 1	H	植木 1 0 0
7	森 2 1 0	5	山口 1 0 0
①	川田 4 1 0	②	山松 4 0 0
④	西保 1 0 0	①	山松 4 0 0
H	保福 1 0 0	⑥	北高 4 1 0
4	西保 2 0 0		
振球機盗失残併 449 3		振球機盗失残併 437 1	
3 4 2 2 4 8 0		5 1 4 0 0 8 1	
▽二塁打 山下	▽2時間31分		

1 回戦

玉野市 (三井造船)	
1	0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 1 3
0	0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 2
徳島市 (阿波商業銀行)	

【玉野市】	打安点	【徳島市】	打安点
④	伊藤 6 2 0	⑧	谷井 6 2 2
⑦	藤原 5 3 1	⑤	坂東 6 3 0
⑧	藤原 2 0 0	⑦	康野 5 2 0
1	藤原 3 0 0	④	大野 6 2 0
③	藤原 6 2 0	②	若田 6 0 0
⑥	隈上 5 0 0	⑥	大谷 4 0 0
⑨	川原 4 2 0	③	若谷 4 0 0
②	吉田 2 0 0	⑨	谷永 4 1 0
2	吉田 3 0 0	①	谷永 1 0 0
①	大田 2 0 0	H	林 1 0 0
1	川田 0 0 0	1	猪尾 2 0 0
H	川田 3 1 1		
⑥	為房 5 1 0		
振球機盗失残併 4611 2		振球機盗失残併 4510 2	
5 3 1 2 1 8 2		4 4 1 2 2 9 3	
▽本塁打 谷井 1号② (大田) 福井 1号 (猪尾)			
▽三塁打 川上	▽二塁打 伊藤 川田 野		
▽3時間3分			

1 回戦

横浜市 (日本石油)	
0	0 0 0 0 0 0 0 1 1 2
0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
岐阜市 (川島紡績)	

【横浜市】	打安点	【岐阜市】	打安点
⑥	野野 5 2 0	⑥	福井 4 1 0
④	藤野 3 1 0	④	井保 3 0 0
⑦	池田 4 0 0	H	久保 1 0 0
⑧	小花 4 0 0	③	木村 3 0 0
⑨	重石 2 0 0	⑨	西谷 3 0 0
3	石宮 2 0 0	⑤	水谷 3 0 0
②	井原 2 1 0	⑧	乾田 3 1 0
③	横山 2 0 0	②	吉田 2 0 0
9	林 1 0 0	2	辻 1 0 0
⑤	田中 4 2 0	⑦	志本 2 0 0
①	藤田 3 2 1	H	橋本 1 0 0
振球機盗失残併 328 1		7	高橋 0 0 0
3 7 1 2 0 1 1 0		①	井田 2 1 0
▽三塁打 田中		1	井田 0 0 0
▽二塁打 乾		1	井田 0 0 0
▽2時間28分		H	井田 1 0 0
			振球機盗失残併 293 0
			9 0 0 0 0 2 1

優勝を果たし祝杯をあげる(右から)宮原、藤田、石井、花井の主力選手たち



2回戦

名古屋市(電電東海)	1 0 1 0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 1	5
佐世保市(全佐世保)	2 0 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0	4

【名古屋市】	打安点	【佐世保市】	打安点
⑥ 稲垣	6 0 0	⑥ 南里	6 2 0
④ 浦三	4 1 0	② 尾松	6 3 0
⑦ 藤加	5 1 1	④ 川口	6 1 0
⑨ 下藤	3 1 0	④ 山本	5 4 3
9 近田	2 0 0	⑧ 原中	6 2 0
⑧ 谷子	4 3 3	⑧ 比留	6 2 0
③ 渡中	6 3 0	⑤ 弘川	6 0 0
② 边井	6 1 0	③ 藤中	1 0 0
① 小島	1 0 0	① 藤中	3 0 0
1 所	2 1 0	⑦ 田中	4 1 0
⑤ H 田	2 0 0	9 湯	1 0 0
H 井	1 0 0	9 福	0 0 0
5 石	2 0 0	H 福	1 0 0
	44114		51153

振球機盗失残併 5710280
 ▼本塁打 渋谷1号(藤中) ▼三塁打 加藤
 ▼二塁打 塚原 川口 山本 田中2 猪子
 ▼3時間2分

2回戦

東京都(熊谷組)	0 0 0 0 2 1 0 0 2	5
大津市(東洋レーヨン)	0 0 0 2 0 0 0 0 2	4

【東京都】	打安点	【大津市】	打安点
⑧ 篠原	6 1 2	⑧ 辺原	4 1 0
⑦ 秋田	4 2 0	④ 渡上	3 0 0
④ 古大	5 2 0	⑦ 小門	4 1 0
④ 1 中	2 1 2	⑦ 宇田	2 0 0
② 竹之内	3 1 0	H 西園	1 1 0
③ 山田	3 0 0	⑥ 寺境	2 0 0
9 山吉	2 0 0	H 山	1 0 0
⑥ 田吉	3 1 0	③ 片山	4 2 2
① 藤木	0 0 0	⑤ 水崎	3 1 0
H 川	1 0 0	5 城	0 0 0
1 井	0 0 0	H 橋	1 0 0
9 曲	2 0 0	② 本丸	2 0 0
H 荒	1 0 0	2 山	1 0 0
3 山	0 0 0	① 金	2 2 0
⑤ 木	4 0 0	H 高	0 0 0
	3684	1 佐	0 0 0

振球機盗失残併 64211101
 ▼本塁打 篠原1号②(山中) ▼三塁打 吉田
 ▼二塁打 大沢 ▼2時間26分

2回戦

日立市(日本鉱業日立)	0 3 0 0 0 0 0 3 1 0 0 0 0 2	9
立川市(リッカーマシン)	6 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0	7

【日立市】	打安点	【立川市】	打安点
⑧ 中藤	8 3 0	⑦ 田岡	6 2 1
⑥ 伊藤	8 3 1	⑧ 園初	7 4 0
⑨ 斎藤	7 2 1	⑤ 萩原	7 2 1
⑦ 野修	8 1 2	⑨ 山本	7 2 1
③ 渡吉	7 1 0	③ 須山	5 1 1
⑤ 中村	6 2 0	② 野弟	3 0 0
② 塚井	7 2 0	④ 原井	1 0 0
① 加倉	0 0 0	H 植上	1 0 0
1 浦	1 1 1	① 野兄	1 0 1
R 瀨	0 0 0	H 古谷	3 0 0
1 高	2 0 0	① 小武	2 1 1
H 池	1 1 1	⑥ 藤	1 0 0
1 睦	0 0 0	H 戸	1 0 0
H 村	1 0 0		51147
1 木	2 2 0		
④ 原	2 2 1		
4 末	4 1 1		

振球機盗失残併 64218
 63223180
 ▼三塁打 中村修 池崎 ▼二塁打 田中 須山
 原 斎藤 ▼4時間1分

2回戦

吉原市(大昭和製紙)	0 0 0 1 0 0 0 0 2	3
門真町(松下電器)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0

【吉原市】	打安点	【門真町】	打安点
④ 杉村	4 1 0	⑤ 奥照	4 1 0
⑦ 遠藤	4 2 1	⑨ 田茂	3 0 0
③ 徳石	4 0 0	H 坂本	1 0 0
⑨ 井	4 1 0	⑦ 下本	4 1 0
③ 土	4 1 0	③ 西	3 0 0
⑤ 有	3 1 0	④ 坪	3 0 0
② 板	4 1 0	② 井	3 0 0
① 中	0 0 0	H 島	0 0 0
1 安	4 1 2	⑥ 藤	3 0 0
⑥ 藤	4 1 0	① 池	1 0 0

振球機盗失残併 2100061
 ▼本塁打 遠藤1号(池田)
 ▼三塁打 安藤
 ▼2時間4分

2回戦

二瀬町(日鉄二瀬)	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1
川崎市(コロムビア)	0 0 0 0 0 1 0 0 1	2

【二瀬町】	打安点	【川崎市】	打安点
④ 持古	4 0 0	⑧ 井上	3 1 1
⑥ 永	4 0 0	⑥ 原	1 0 0
⑧ 葉	4 4 0	⑥ 本	3 1 0
⑧ 瀨	4 4 0	6 加	2 0 0
⑨ 田	4 1 0	④ 賀	3 0 0
⑤ 原	3 0 0	⑤ 部	2 0 0
⑦ 越	4 1 0	⑦ 井	2 0 0
③ 井	4 0 0	⑨ 藤	1 0 0
② 瀨	2 0 0	H 7 島	2 0 0
H 桐	1 0 0	③ 内	2 0 0
2 藤	0 0 0	3 場	1 0 0
① 井	3 0 0	① 川	0 0 0
	3360	1 木	3 0 0
		② 室	0 0 0
		2 貴	2 0 0

振球機盗失残併 5101160
 2532
 ▼本塁打 木村1号(井)
 ▼二塁打 小淵 井上
 ▼2時間13分

2回戦

大阪市(住友金属)	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1
神戸市(川崎重工)	0 0 0 3 0 0 0 0 3 X	6

【大阪市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑦ 町田	4 0 0	④ 甲	4 2 0
⑤ 藤	3 0 0	⑧ 見	4 2 1
③ 浜	3 2 0	⑥ 目	3 1 1
⑨ 植	4 2 0	⑨ 西	4 2 3
⑧ 津	3 1 1	R 北	0 0 0
8 山	1 0 0	9 大	0 0 0
④ 原	3 0 0	③ 北	4 1 0
4 井	1 0 0	⑦ 山	2 1 1
② 上	4 1 0	⑤ 片	2 0 0
① 川	3 0 0	5 岡	1 0 0
H 高	1 0 0	② 平	3 0 0
⑥ 河	2 0 0	① 山	3 0 0
6 中	2 2 0	① 国	3396

振球機盗失残併 5300191
 ▼二塁打 浜田 吉塚 ▼1時間54分

2回戦

大阪市 (全鐘紡)

0	0	0	0	4	4	0	3		11
2	0	0	0	0	0	0	0		2

砂川町 (東洋高圧砂川)

【大阪市】	打安点	【砂川町】	打安点
⑥	松本豊 5 2 0	⑥	斎藤 藤 4 2 0
⑦	湖田 4 1 0	⑦	斎藤 藤 4 1 1
②	多種山 2 0 0	⑤	石相 4 1 0
③	山下 5 2 3	②	相 3 2 1
⑤	出沢 2 1 1	④	相 0 0 0
⑧	福森 4 2 3	③	曾 1 0 0
⑦	森 1 0 0	③	曾 3 0 0
⑧	岩国 2 1 0	H	原川 0 0 0
H	中賀川 1 0 0	⑨	木持 4 1 0
H	西近田 1 1 2	⑧	倉岩 2 1 0
1	藤野 0 0 0	⑧	倉岩 1 0 0
①	松本繁 2 0 0	①	新小 0 0 0
7	8 松本西 3 0 0	1	奈小 1 0 0
H	岩今 1 1 0	H	奈小 1 0 0
4	西保 0 0 0	④	山渡 1 0 0
		3	名 1 0 0

振球機盗失残併 37119
4 7 0 2 1 6 3

振球機盗失残併 329 2
3 2 1 0 1 6 1

▽本塁打 福沢1号(新納)▽三塁打 山下
▽二塁打 斎藤 石毛 倉持 山下 松本豊
平出 佐々木 ▽2時間25分

2回戦

横浜市 (日本石油)

1	0	0	0	0	0	0	2		3
0	0	0	0	0	0	0	0		0

玉野市 (三井造船)

【横浜市】	打安点	【玉野市】	打安点
⑥	中野 4 0 0	④	伊藤 藤 4 1 0
④	藤野 3 1 0	⑦	福原 3 1 0
⑦	林 3 1 0	⑧	笠原 3 1 0
7	池井 1 1 0	H	田原 1 0 0
⑧	小花 4 1 1	9	佐川 0 0 0
②	宮原 4 1 1	③	大上 3 0 0
⑨	重台 3 0 0	H	王丸 1 0 0
9	菅石 1 1 1	⑤	隈 3 1 0
③	菅石 3 1 0	H	福川 1 0 0
⑤	田中 3 0 0	⑨	8 川田 2 1 0
①	鈴木 0 0 0	H	川西 1 0 0
1	藤 3 0 0	①	吉原 3 0 0
		①	木房 3 0 0
		⑥	木房 3 0 0

振球機盗失残併 327 3
9 2 0 1 0 4 0

振球機盗失残併 315 0
7 1 1 1 1 6 0

▽三塁打 花井▽二塁打 川田▽2時間10分

準々決勝

名古屋市 (電電東海)

0	0	0	0	0	0	0	0		0
0	0	0	0	0	0	0	1	×	1

東京都 (熊谷組)

【名古屋市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥	稲垣 3 0 0	⑧	篠原 4 2 0
H	太三 1 0 0	⑦	原山 4 1 0
④	浦保 2 1 0	④	古田 4 2 1
R	小久保 0 0 0	⑨	1 大 3 1 0
⑦	加藤 2 0 0	②	2 中 4 0 0
H	鷹木 1 0 0	③	3 竹 4 1 0
⑨	近藤 2 0 0	⑥	6 内 3 0 0
9	近藤 2 0 0	①	1 田 3 0 0
⑧	洗猪 2 0 0	9	9 木 0 0 0
③	渡小 3 0 0	⑤	5 曲 3 1 0
②	小 3 0 0		
①	所 3 0 0		
⑤			

振球機盗失残併 271 0
6 3 0 1 0 3 0

振球機盗失残併 328 1
4 1 0 1 0 8 0

▽二塁打 古田
▽1時間46分

準々決勝

日立市 (日本鉱業日立)

3	0	0	0	0	0	0	1	0	0		4	
2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2		6

吉原市 (大昭和製紙)

【日立市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑧	田中 3 0 0	④	村藤 6 1 0
8	池田 1 0 0	⑦	藤丸 3 0 0
⑥	藤藤 4 2 0	⑨	遠徳 4 0 0
⑨	池藤 5 1 2	H	根朝 1 0 0
⑦	高藤 3 1 0	3	根朝 1 1 2
⑦	木野 2 0 0	③	9 石土 4 2 1
3	中野 5 1 1	⑧	5 井屋 4 1 2
⑤	中野 5 2 1	⑤	5 馬倉 4 0 0
②	① 4 1 0	②	② 板倉 5 0 0
②	① 2 0 0	①	① 松本 0 0 0
1	宇崎 1 0 0	1	1 荒山 4 0 0
④	原 2 0 0	1	1 山本 0 0 0
4	中村 2 1 0	⑥	⑥ 山本 4 1 1

振球機盗失残併 399 4
6 1 2 1 4 5 0

振球機盗失残併 416 6
9 7 1 3 0 9 0

▽本塁打 斎藤1号(安藤)朝比奈1号②(高橋)
石井1号(嵯峨)中村修1号(松本)▽三塁打
土屋 伊藤 ▽二塁打 吉野▽2時間59分

準々決勝

川崎市 (コロムビア)

0	0	0	0	0	0	0	0		0
0	0	0	0	0	1	0	0	×	1

神戸市 (川崎重工)

【川崎市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑧	井上 1 0 0	④	甲 3 1 0
R	高藤 0 0 0	⑧	見田 3 0 0
⑥	藤原 0 0 0	⑥	⑥ 井 4 0 0
6	藤原 3 1 0	⑨	⑨ 井 4 1 1
④	④ 関 3 0 0	9	9 北 0 0 0
⑤	⑤ 加賀 1 0 0	③	③ 北 3 1 0
⑦	H 加賀 2 0 0	⑦	⑦ 北 3 2 0
H	7 藤本 1 0 0	⑤	⑤ 北 3 1 0
⑦	池井 0 0 0	②	② 北 3 1 0
⑨	⑨ 池井 3 1 0	①	① 北 3 0 0
③	③ 池井 2 0 0		
H	3 池井 1 0 0		
H	2 池井 1 0 0		
3	② 池井 0 0 0		
2	② 池井 0 0 0		
H	2 池井 1 0 0		
H	2 池井 1 0 0		
①	① 池井 2 0 0		
1	H 池井 0 0 0		
H	H 池井 1 0 0		

振球機盗失残併 232 0
6 5 2 0 3 3 2

振球機盗失残併 297 1
4 1 1 2 1 6 2

▽二塁打 百瀬
浅井
▽1時間58分

準々決勝

横浜市 (日本石油)

0	0	0	0	1	0	0	0	1		2
0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

大阪市 (全鐘紡)

【横浜市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑥	中野 5 1 0	⑥	松本 2 0 0
④	藤野 3 2 0	⑦	湖田 4 1 0
⑦	池井 4 1 0	②	② 湖田 4 1 0
⑧	小花 4 2 1	③	③ 湖田 4 1 0
②	② 池井 4 2 0	⑤	⑤ 湖田 2 0 0
⑨	林 2 0 0	⑨	⑨ 湖田 3 0 0
9	菅石 1 0 0	⑧	⑧ 湖田 3 0 0
③	③ 池井 4 1 1	①	① 湖田 1 0 0
⑤	⑤ 池井 4 0 0	H	H 湖田 1 0 0
①	① 池井 1 0 0	④	④ 湖田 1 0 0
H	H 池井 1 0 0	1	1 湖田 1 0 0
1	1 池井 2 0 0	H	H 湖田 1 0 0
		4	4 湖田 0 0 0
		4	4 湖田 1 1 0
		4	4 湖田 0 0 0

振球機盗失残併 359 2
1 4 0 2 1 1 0 1

振球機盗失残併 285 0
6 3 0 0 2 4 2

▽本塁打 石井1号(田畑)▽二塁打 中野 宮原
藤野 ▽2時間14分

準決勝

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	0	0	0	0	1	0	0		1
2	5	0	0	0	0	0	0	0	×	7

東京都 (熊谷組)

【吉原市】	打安点	【東京都】	打安点
④	村藤 4 1 1	⑧	篠原 4 2 0
⑦	藤丸 1 0 0	⑦	原山 4 2 0
3	遠徳 2 0 0	④	古田 3 2 4
⑨	⑨ 石土 3 1 0	③	③ 古田 4 2 1
③	③ 石土 4 0 0	⑨	⑨ 古田 4 1 0
⑧	⑧ 石土 4 0 0	②	② 古田 4 0 0
⑤	⑤ 石土 2 0 0	⑥	⑥ 古田 3 1 0
5	5 石土 1 0 0	①	① 古田 1 1 0
②	② 石土 1 1 0	⑤	⑤ 古田 3 0 0
2	2 石土 2 0 0		
H	H 石土 1 1 0		
①	① 石土 0 0 0		
1	1 石土 1 0 0		
1	1 石土 0 0 0		
H	H 石土 1 0 0		
1	1 石土 1 0 0		
H	H 石土 1 0 0		
⑥	⑥ 石土 4 1 0		

振球機盗失残併 336 1
5 3 0 1 1 8 2

振球機盗失残併 341 27
2 3 0 2 3 6 2

▽本塁打 古田1号(杉本)
▽三塁打 秋山 古田
▽二塁打 加藤 吉田
▽2時間20分

準決勝

横浜市 (日本石油)

4	2	0	0	0	0	0	0		6	
0	0	0	0	0	1	0	1	0		2

神戸市 (川崎重工)

【横浜市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑥	中野 5 0 0	④	甲 3 1 0
④	藤野 3 0 0	⑧	見田 3 1 0
⑦	池井 2 1 0	⑥	⑥ 井 4 1 0
⑧	小花 3 1 1	⑨	⑨ 井 3 1 1
②	宮原 4 2 3	③	③ 井 4 1 0
⑨	重台 2 0 0	⑦	⑦ 井 4 1 1
9	菅石 1 0 0	⑤	⑤ 井 3 1 0
③	菅石 2 0 0	H	H 井 1 0 0
3	3 菅石 2 0 0	②	② 井 3 0 0
⑤	⑤ 菅石 3 1 2	①	① 井 0 0 0
①	① 菅石 4 0 0	H	H 井 3 0 0
		1	1 井 1 0 0

振球機盗失残併 315 6
6 7 0 1 0 5 0

振球機盗失残併 327 2
7 3 1 1 1 7 0

▽本塁打 浅井1号(鈴木義)▽二塁打 山口
▽2時間15分

3位決定戦

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	0	2	1	1	0	0	2		6
0	0	0	2	0	0	0	0	0		2

神戸市 (川崎重工)

【吉原市】	打安点	【神戸市】	打安点
④	村藤 4 2 0	④	甲 5 0 0
4	藤丸 1 0 0	⑧	見田 4 1 0
⑦	遠徳 5 1 1	⑥	⑥ 井 4 1 0
⑨	⑨ 石土 5 3 0	③	③ 井 3 1 0
③	③ 石土 1 0 0	⑨	⑨ 井 3 0 0
⑧	⑧ 石土 1 0 0	⑦	⑦ 井 3 0 0
H	H 石土 1 0 0	⑤	⑤ 井 1 0 0
9	9 石土 0 0 0	H	H 井 1 1 2
⑤	⑤ 石土 1 1 1	5	5 井 1 1 0
5	5 石土 1 0 0	H	H 井 1 0 0
②	② 石土 2 1 0	②	② 井 3 1 0
2	2 石土 2 1 1	H	H 井 1 1 0
①	① 石土 2 1 0	①	① 井 1 0 0
1	1 石土 3 0 0	1	1 井 0 0 0
⑥	⑥ 石土 5 2 1	1	1 井 2 0 0
		H	H 井 1 0 0

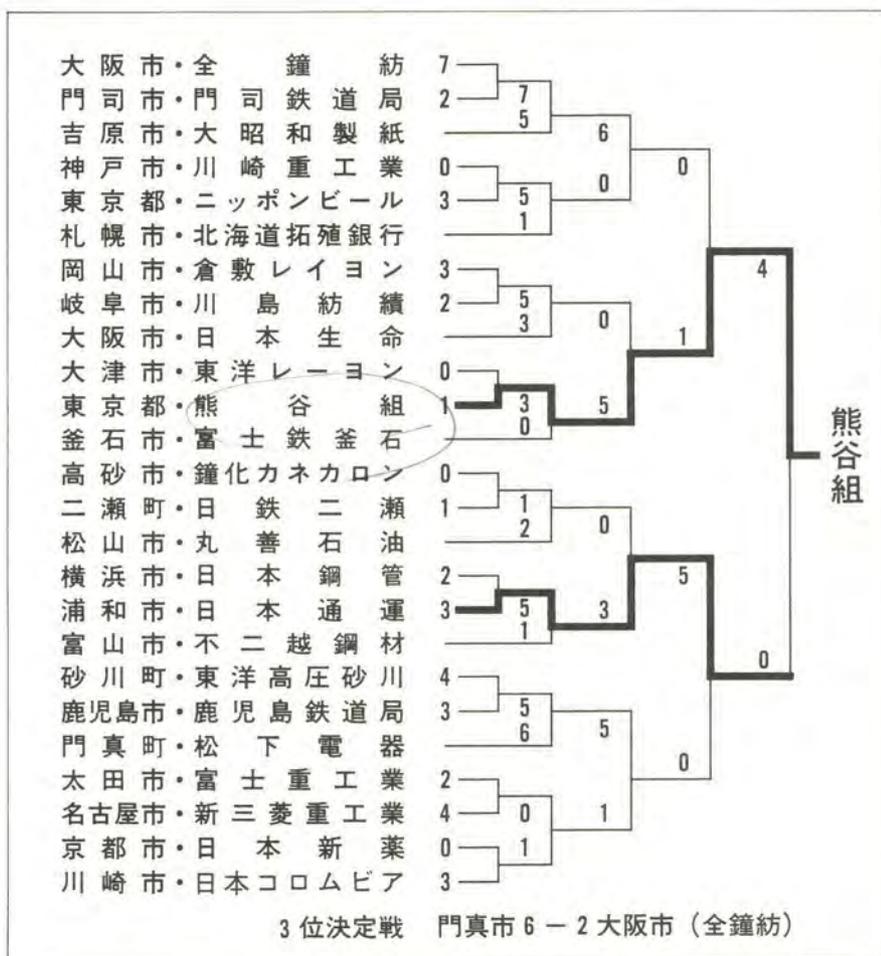
振球機盗失残併 351 24
7 8 2 1 2 1 2 0

振球機盗失残併 347 2
5 2 1 1 1 8 1

▽二塁打 遠井 遠藤▽2時間18分

第28回大会 1957年(昭和32年)7月27日-8月4日・後樂園球場

優勝=東京都・熊谷組



も許さない堂々の勝利だった。熊谷組は昭和25年の第21回に初出場。このとき、前回決勝まで勝ち進みながら準優勝に終わり、文字通り“3度目の正直”を果たした。前回優勝の日本石油は予選で敗れ出場できなかった。

1回戦の対大津市・東洋レーヨン戦は、日大からの新人、島津が5安打無四球で完封。2回戦は本田が釜石市・富士鉄釜石を6安打で完封した。準々決勝の岡山市・倉敷レイオン戦は本田が先発、3回途中から中堅を守っていた大沢監督がリリーフ、これまた零封した。最大の関門は準決勝の大阪市・全鐘紡戦だった。2年ぶり5度目の優勝を狙う大阪は、住友金属から慶大出の河合貞雄投手を補強、強力な戦力を持っていた。島津、河合の投げ合いとなったが、島津は横手から威力のあるクセ球、河合はカーブを主体に技巧派ピッチングをみせた。東京は3回吉田嘉直遊撃手の安打から二死一・二塁とし、ルーキーだった前回は首位打者に輝きながら、今大会では不振の古田昌幸二塁手が2-2から内角低めの速球を左前にタイムリー1点を奪った。両投手はそれ以後も持ち味を発揮した投球で打線を抑え、結局島津が大阪を3安打完封に退けた。

もう一方のブロックから決勝に進んできたのは初出場の浦和市・日本通運だった。立大から鉄砲投手・堀本律雄を迎え、横浜市・日本鋼管を倒すと波に乗り、富山市・不二越鋼材に快勝。堀本の右腕は牙え、剛速球で松山市・丸善石油、門真市・松下電器の強豪をとともに4安打の完封。だか5連投となった決勝ではさすがに疲れ、味方打線も東京・島津にわずか2安打に封じられた。それでも都市対抗史上初の5試合連続完投を果たした堀本の力投は、橋戸賞の島津とともにたたえられ、久慈賞が贈られた。

大会史上初の完全試合が樹立された。二瀬町・日鉄二瀬、村上峻介投手が1回戦の高砂市・鐘化カネカロン戦で達成したもので、村上は4回、捕手の江藤慎一が左翼席に打ち込んであげた1点を守り切り、大記録を完成、小野賞を受けた。

優勝した熊谷組を中心にした全日本チームが編成され、米国デトロイトで開かれた第3回世界野球大会に出場、奇跡の逆転勝利の連続で世界一に輝く偉業を成しとげた。

5戦無失点の“完全”優勝

東京都・熊谷組が悲願の初優勝をとげた。東京都としては、昭和14年、第13回大会で藤倉電線が黒獅子旗をひるがえして以来、戦争の中断をはさみ18年ぶりの優勝だった。また東京倶楽部4回、藤倉2回のとを受け、7回目の優勝となった。しかも1回戦から決勝までの5試合を島津四郎が3完封、本田有隆投手(東京ガスから補強)が1完封、本田一大沢貞義投手の継投で零封と、相手に1点



開会式で始球式を行う岸首相。投手は門司・光岡

決勝

東京都 (熊谷組)	1 0 0 0 1 1 1 0 0	4
浦和市 (日本通運)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0

【東京都】	打点	振球	【浦和市】	打点	振球
③ 竹之内	5	1 1 2 0	⑦ 野木	4	0 0 1 0
⑤ 藤崎	5	2 1 0 0	⑧ 内鈴	4	0 0 1 0
④ 古田	3	2 0 0 1	⑨ 野岡	4	1 0 0 0
⑨ 森永	2	0 1 2 1	③ 初侯	3	0 0 2 0
⑧ 大野	2	0 1 0 1	⑤ 小松	3	0 0 1 0
② 中津	4	0 0 2 0	④ 田岡	3	1 0 0 0
① 島津	3	0 0 1 1	② 市堀	3	0 0 0 0
⑥ 吉田	3	1 0 1 0	① 堀高	2	0 0 1 1
⑦ 秋山	4	1 0 0 0	⑥ 高本	3	0 0 0 0

犠併残盗失	3 1 7 4 8 4	犠併残盗失	0 2 9 0 6 1
投手回	3 2 7 3 2	投手回	0 0 3 0 3
島津	9	堀本	9
打安振球責	30 2 6 1 0	打安振球責	38 7 8 4 4

▽三塁打 古田 ▽二塁打 初岡▽2時間11分

完投続き堀本に疲れ

大会を代表する東京都・島津、浦和市・堀本両投手の投げ合いとなったが、やはり堀本は疲れがあった。

東京が素早く先制した。1回藤崎が安打、古田とのエンドランが成功して、一・三塁。堀本は4番森永を敬遠して一死満塁としたが、大沢が左犠飛を打ちあげた。

東京は5回にも古田、藤崎の安打、6回には古田の右中間三塁打で追加点を奪った。

島津は横手からの速球は威力十分。浮きあがったり、沈んだりするクセ球で浦和打線を抑えた。浦和は4回先頭の鈴木が中前に抜けそうな痛打を放ったが、二塁手・古田が横つとびで好捕、ジャンピングスローで一塁に刺す超ファインプレーに阻まれた。東京はこれですっかり落ちつきを取り戻しただけに、貴重な美技だった。東京は7回にも竹之内の中前適時打で4点目。その裏浦和も先頭の初岡が右翼線二塁打、小侯の遊ゴロ失で無死一・二塁と絶好の反撃を迎えた。しかし松崎の強い当りの投ゴロで三塁、一塁とボールが噂送され併殺。9回1番から始まる好打順に期待したが、最後まで球威の落ちない島津に抑え切られた。

それにしても新人で決勝まで勝ちあがり、5試合完投を演じた堀本のピッチングは素晴らしかった。



第3回世界野球大会に優勝、大沢主将を胴上げする全日本ナイン



念願の初優勝を果たし、大沢監督を先頭に、篠原主将が黒獅子旗を手にして場内一周する東京・熊谷組ナイン

中5日、速球ズバリ

熊谷組初優勝の最大の難関だった準決勝の対大阪市・全鐘紡戦を勝ち抜いたヒーローは日大出のルーキー、島津四郎投手と入社2年目の古田昌幸二塁手の若きコンビだった。

この試合に焦点をしばった大沢監督は、島津を1回戦に起用したあと、5日間の休養をとらせた。満を持しての登板に、横手からの島津の速球は浮きあがり、変化球の切れもすばらしかった。結局3安打完封を果たしたが、終盤の8回、二死一塁で打者・松本豊とのエンドランを見破り、見事にはずして走者を刺すなど、落ちついたピッチングで三塁をふませなかった。

打の殊勲者の古田はそれまでの3試合で12打数1安打。前回の首位打者は悩んでいた。初打席は凡退。3回の2打席目は二死一・二塁のチャンス。監督に「大振りするな」と耳うちされ、ミートだけを心掛けたというが、内角低めにくる速球をライナーで左前に打ち返し、決勝の1点をあげた。

熊谷組と鐘紡は第21回大会の決勝、23回大

MEMO	◇史上初の完全試合 1回戦の二瀬町・日鉄二瀬対高砂市・鐘化カネカロン戦で、二瀬・村上峻介投手が達成。
	1回 遊邪飛 三振 右飛=13
	2回 二飛 中飛 中飛=12
	3回 一邪飛 遊飛 三振=17
	4回 三飛 三振 遊ゴロ=5
	5回 遊飛 三飛 中飛=5
	6回 遊飛 二飛 投ゴロ=10
	7回 右飛 捕邪飛 中飛=12
	8回 二飛 三ゴロ 二飛=6
9回 中飛 右飛 一邪飛=13	

◇無失点優勝 東京都・熊谷組は島津四郎、本田有隆、大沢貞義3投手で1回戦から決勝までの5試合、相手に1点も許さず、史上初の快記録。

◇5試合連続完投 浦和市・日本通運、堀本律雄投手は1回戦から決勝まで5試合を1人で投げ切り、史上初の記録をつくった。内容は5試合4勝1敗。投球回数46、被安打23、失点7、自責点6。

会の準決勝、24回大会の2回戦とそれまで3回対戦し、3回とも鐘紡が勝っていた。その意味でも価値ある2人の働きだった。

全日本ついに世界制覇

優勝した熊谷組を中心とした全日本が9月13日から米国デトロイトで開かれた第3回世界野球大会で優勝した。

日本、カナダ、メキシコ、ハワイ、オランダ、米国、コロンビア、ベネズエラの8チームが参加した。

全日本は第1戦のカナダ戦は延長13回、カナダに1点を取られたが、その裏二死から粘って満塁とし、竹之内勇治が右翼線にサヨナラ二塁打。次のメキシコも同点で迎えた7回、バントが連続内野安打となって満塁とし、森永勝治が押し出しの四球を選んで決勝点。第3戦の米国との試合は3回を終わって3-2と全日本が1点のリード。その後は息づまる投手戦となり、島津四郎、鈴木隆のリレーで逃げ切った。

全日本は敗者戦からあがってきたベネズエラに敗れたが、最終戦のカナダ戦も全日本は6回まで2-0とリードされながら、7回大沢貞義主将が本塁打。土壇場の9回二死二塁にまたも大沢が左中間を破る適時二塁打で同点。延長11回、全日本は二死二・三塁に古田昌幸が中前タイムリー、2点をあげて試合を決め、堂々の優勝となった。

7回からリリーフの鈴木が無安打6三振の快投をみせ、最高殊勲選手に輝いた。

第3回世界野球大会 全日本選手団

団長	上田 常隆	(毎日新聞社)
役員	中村 峰雄	(協会理事)
	井口新次郎	(協会理事)
	加藤 毅康	(協会理事)
監督	時岡 周次	(熊谷組)
投手	大沢 貞義	(熊谷組)
	島津 四郎	(熊谷組)
	堀本 律雄	(日本通運)
	山本 治	(鐘化カネカロン)
	鈴木 隆	(川崎トキコ)
捕手	種田 吉富	(全鐘紡)
	中野 貞	(熊谷組)
内野	竹之内勇治	(全藤倉)
	古田 昌幸	(熊谷組)
	榑原 敏一	(全鐘紡)
	松本 豊	(全鐘紡)
	麻生 実男	(倉敷レイヨン)
外野	岩中 英和	(全鐘紡)
	横山 昌弘	(大昭和製紙)
	山本 正隆	(日本生命)
	森永 勝治	(熊谷組)



最後の打者、高砂・松本をうちとり、史上初の完全試合を成しとげた日鉄二瀬・村上投手



東京・熊谷組名物のハシゴ乗り応援

冬はアイスホッケーで

打率5割で打撃賞を受けた砂川町・東洋高圧砂川の高木邦人外野手(王子製紙から補強)は、夏は野球、冬はアイスホッケーの選手と北海道らしい変わり種。

1回戦の鹿児島市・鹿児島鉄道局戦では3-0とリードされた5回に反撃のきっかけとなる右翼本塁打を放って逆転勝ち。続く門真市・松下電器戦では敗れはしたが6回に1点差に詰め寄る2点適時打を放つ活躍ぶり。

2試合で8打数4安打。打点4、塁打7の高打率を残したが、首位打者は3試合以上の規定から東京都・熊谷組の竹之内勇治一塁手(全藤倉から補強)が5試合、16打数7安打。打率4割3分8厘で獲得した。

代役でつかんだ完全試合

二瀬町・日鉄二瀬
村上峻介投手



熊本・人吉中出身。昭和26年、熊本鉄道局から日鉄二瀬に移籍。高砂市・鐘化カネカロン戦で、大会史上初の完全試合を達成、小野賞を受賞した。現在、福岡・新和商事。

昭和32年7月28日。私にとって生涯忘れられない記念すべき日である。

今から思えば30度を超す炎天下、後楽園の大舞台で強打の鐘化を相手によくも達成できたものだと不思議にさえ感じられる。エースの井洋雄投手が健在なら、私かマウンドを踏むことはなかった。私は野手に転向し4番打者として打撃に専念していたからだ。ところが、予選前に井投手が故障、急投投手にカムバックして“完全試合”を成し遂げたのだから夢のような話である。

当時私は27歳。力の限界が見えてくるころだが、予選からすこぶる快調だった。外野手

に転向してノックで足、腰を鍛えられたのと、エースの代役という気楽さがあったからだ。今でも思う。だから濃人渉監督から「お前で行くぞ」と言われた時もプレッシャーは感じなかった。相手は優勝候補、打たれて元々という気持ちもあった。試合は慶大出の速球投手、山本治との投げ合いとなったが、4回江藤慎一捕手が左翼へ本塁打を打ち込んでくれた。

この日は追い風で球がよく伸びていたので、ほとんど直球で勝負。ヤマをはられたときに5球ほどカーブを投げたが、鐘化の打者がボンボン、フライを打ち上げてくれたので楽だった。確かゴロは3個しかなかったと記憶している。一番ヒヤッとさせられたのは9回一死後、山本治に2-2から7つもファウルでねばられたあとの外角球を、右翼へ持っていかれた時だ。ライトの頭上を超えたかと思わせる痛烈な当たりだったが、瀬崎昌弘右翼手がいち早くバックしてへい際で捕ってくれた。最後は一邪飛で試合は終わった。完全試合を達成したというよりも、強豪・鐘化を倒したという喜びの方が大きかった。試合後大勢の新聞記者に取り囲まれ、質問攻めにあってはじめて「えらいことをやったんだなア」という実感がじわじわと伝わってきたことを覚えている。

1回戦

大阪市 (全鐘紡)
3 1 0 2 0 0 1 0 0 | 7
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
門司市 (門司鉄道局)

【大阪市】 打安点 【門司市】 打安点
6 松本豊 5 3 0
4 大種田 4 1 1
2 大種田 4 2 3
3 山榊下 2 0 0
5 山榊下 4 1 1
8 岩中 5 3 1
9 岩中 3 0 0
9 岩中 1 0 0
7 岩中 3 1 0
7 岩中 2 1 1
1 岩中 2 1 0
1 岩中 1 0 0
振球機盗失残併 36137
投手回安責 振球機盗失残併
太田 5 3/4 6 2
河合 3 3/4 1 0

1回戦

神戸市 (川崎重工)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 1 0 0 1 0 x | 3
東京都 (ニッポンビール)

【神戸市】 打安点 【東京市】 打安点
4 甲良 3 0 0
7 百瀬 3 1 0
H 高西 1 0 0
6 高西 3 0 0
8 高西 4 0 0
3 高西 3 0 0
5 高西 3 0 0
2 高西 3 0 0
1 高西 2 0 0
振球機盗失残併 2810
投手回安責 振球機盗失残併
北山 7 3 0 0 2 3 0
8 7 2 1 9 0

1回戦

岐阜市 (川島紡績)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 2 | 3
岡山市 (倉敷レイオン)

【岐阜市】 打安点 【岡山市】 打安点
8 志田 7 2 1
4 横山 6 1 1
5 横山 6 1 0
9 横山 6 0 0
3 横山 4 0 0
3 横山 2 1 0
7 横山 6 1 0
2 横山 3 0 0
2 横山 2 0 0
1 横山 2 0 0
6 横山 6 1 0
振球機盗失残併 5372
投手回安責 振球機盗失残併
伊藤 9 6 1
藤田 6 5 0

▽本塁打 志田1号(藤原) 横山1号(芦田)
▽三塁打 落▽二塁打 麻生▽4時間5分

1回戦

東京都 (熊谷組)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
大津市 (東洋レーヨン)

【東京都】 打安点 【大津市】 打安点
5 藤崎 4 0 0
3 藤崎 2 1 0
8 藤崎 1 0 0
7 藤崎 0 0 0
4 藤崎 4 0 0
9 藤崎 3 1 0
8 藤崎 4 0 0
3 藤崎 3 0 0
1 藤崎 2 1 0
7 藤崎 4 2 0
8 藤崎 2 1 1
2961
振球機盗失残併 4510171
投手回安責 振球機盗失残併
島津 9 5 0

1回戦

高砂市 (鐘化カネロン)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 x | 1
二瀬町 (日鉄二瀬)

【高砂市】 打安点 【二瀬町】 打安点
8 河田清 3 0 0
9 児島 3 0 0
5 木村 3 0 0
3 山本 3 0 0
2 山本 3 0 0
7 山本 3 0 0
4 河田 2 0 0
H 三山 1 0 0
H 山本 3 0 0
6 山本 2 0 0
H 山本 1 0 0
2700
振球機盗失残併 3000201
投手回安責 振球機盗失残併
山本 9 6 0

1回戦

浦和市 (日本通運)
0 0 0 0 1 0 0 0 1 1 | 3
2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
横浜市 (日本鋼管)

【浦和市】 打安点 【横浜市】 打安点
7 野木 5 1 0
8 内鈴 5 0 0
9 初岡 4 1 0
3 小保 5 1 0
5 小松 4 1 0
4 岡内 2 0 0
H 岡内 1 0 0
R 岡内 0 0 0
4 岡内 4 2 1
1 岡内 4 0 0
6 岡内 4 1 1
3872
振球機盗失残併 52021101
投手回安責 振球機盗失残併
堀本 10 4 2

▽本塁打 水野1号②(堀本) 高口1号(野村昭)
▽二塁打 市原▽2時間43分

1回戦

鹿児島市 (鹿児島鉄道局)
2 0 0 1 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 3 0 1 0 x | 4
砂川町 (東洋高压砂川)

【鹿児島市】 打安点 【砂川町】 打安点
4 前田 4 0 0
6 前田 3 0 0
9 前田 4 2 0
3 前田 4 2 2
7 前田 4 2 0
2 前田 4 1 0
8 前田 2 0 0
8 前田 1 0 0
5 前田 4 1 0
1 前田 3 0 0
1 前田 1 0 0
3582
振球機盗失残併 3020140
投手回安責 振球機盗失残併
山本 7 1 0 1 2 6 0
永井 4 3 2
永井 4 3 1
本塁打 吉田1号②(田畑) 高木1号(山本勤)
三塁打 松村▽二塁打 大隅 石毛▽1時間58分

1回戦

名古屋市 (新三菱重工)
0 1 0 0 0 1 2 0 0 | 4
0 0 0 1 0 1 0 0 0 | 2
太田市 (富士重工)

【名古屋市】 打安点 【太田市】 打安点
4 伊藤政 5 3 0
6 中筋 5 0 0
7 洪谷 3 0 0
7 洪谷 2 2 1
3 洪谷 3 1 0
2 洪谷 1 0 0
8 洪谷 2 1 0
8 洪谷 4 3 0
9 洪谷 0 0 0
5 洪谷 4 1 2
1 洪谷 3 2 0
H 洪谷 1 0 0
1 洪谷 2 0 0
35133
振球機盗失残併 2410291
投手回安責 振球機盗失残併
福井 8 2 0
福井 8 5 1

1回戦

京都市 (日本新薬)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 1 0 1 x | 3
川崎市 (コロムビア)

【京都市】 打安点 【川崎市】 打安点
6 浜田 3 1 0
5 浜田 2 0 0
H 浜田 1 0 0
9 浜田 4 0 0
3 浜田 3 0 0
7 浜田 3 0 0
2 浜田 3 0 0
8 浜田 2 0 0
4 浜田 3 1 0
1 浜田 1 0 0
H 浜田 0 0 0
1 浜田 0 0 0
2520
振球機盗失残併 6420040
投手回安責 振球機盗失残併
今井 7 6 2
今井 1 1 1

▽三塁打 吉川▽二塁打 古川 根岸 加賀
▽1時間57分

2 回戦

吉原市 (大昭和製紙)

1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	5
0	1	0	3	2	0	0	1	X	7	

大阪市 (全鐘紡)

【吉原市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑤ 杉村	4 2 3	⑥ 松本	4 1 1
④ 村志	4 1 0	④ 大田	4 0 0
⑦ 横山	4 2 1	H 4	1 0 0
⑧ 横石	4 1 0	H 4	0 0 0
③ 竹島	4 0 0	② 保種	3 2 0
② 徳丸	4 0 0	③ 山本	4 0 0
⑨ 板倉	4 1 0	⑤ 山下	4 2 1
⑥ 稲本	2 0 0	⑧ 中田	2 1 0
H 山根	1 0 0	⑨ 岩本	2 2 1
H 穴松	1 0 0	⑨ 岩本	2 1 2
H 1 松本	0 0 0	⑦ 岩本	2 1 2
H 1 長谷川	0 0 0	① 岩本	1 0 0
H 1 藤井	1 0 0	1	3 1 0
H 1 安達	1 0 0		3 2 1 7

振球機盗失残併 2 2 0 1 2 4 1

投手 回 安責

山本 3 3 2

沢 3 3 3

松本 2 3 0

藤井 3 2 1

▽本塁打 杉村 1号 (河合) 岩本 1号 (安藤)

▽三塁打 石井 二塁打 岩中 横山 福沢 種田

▽2時間30分

2 回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)

0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2	1	0	0	0	0	2	X	5	

東京都 (ニッポンビール)

【札幌市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 谷加	3 0 0	⑥ 高島	4 1 0
⑨ 藤田	2 0 0	④ 大根	2 1 1
9 加峰	1 0 0	③ 大根	2 1 2
6 塩沼	1 0 0	⑤ 平野	3 0 0
③ 谷村	3 0 0	⑦ 宇野	3 1 0
H 西田	1 0 0	H 7	1 0 0
⑦ 本間	3 2 0	⑨ 松山	4 1 0
② 古藤	3 1 0	⑧ 堀内	4 1 1
⑤ 古藤	4 1 1	② 堀内	4 1 0
④ 赤坂	4 2 0	① 北山	3 0 0
① 赤坂	1 0 0	H 北山	1 0 0
	2 9 6 1	R 1	0 0 0

振球機盗失残併 3 5 1 0 3 7 0

投手 回 安責

田 8 7 3

▽本塁打 堀内 1号 (品田)

▽二塁打 大山 本間

▽2時間

2 回戦

川崎市 (コロムビア)

0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

名古屋市 (新三菱重工)

【川崎市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑧ 井上	3 0 0	④ 伊藤	4 0 0
H 井上	1 0 0	H 垣谷	1 1 0
7 河内	0 0 0	⑥ 垣谷	4 0 0
7 小倉	0 0 0	⑦ 垣谷	3 0 0
⑦ 高橋	3 1 0	⑦ 花村	1 0 0
⑦ 高橋	0 0 0	③ 村瀬	3 1 0
② 古谷	5 1 0	R 3	0 0 0
③ 古谷	5 0 0	② 河合	1 0 0
④ 加賀	4 2 1	② 田島	3 0 0
④ 加賀	4 0 0	⑧ 羽村	4 1 0
④ 藤本	1 0 0	⑨ 羽村	4 1 0
⑥ 藤本	5 0 0	⑤ 松中	3 0 0
⑤ 楠根	3 0 0	① 尾井	1 0 0
① 根根	2 0 0	H 尾井	2 0 0
① 根根	1 1 0	H 尾井	1 0 0

振球機盗失残併 4 5 1 0 3 9 1

投手 回 安責

根木 6 3 0

鈴木 5 1 0

▽本塁打 加賀 1号 (福井) 二塁打 加賀

▽2時間38分

2 回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)

0	0	0	0	2	0	0	0	3	5	
0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3

大阪市 (日本生命)

【岡山市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑤ 隈	4 2 0	④ 藤井	2 0 0
⑧ 川麻	5 2 0	西吉	2 0 0
⑥ 川麻	5 2 5	⑤ 吉田	5 2 0
⑦ 石落	4 1 0	③ 塚本	5 1 0
④ 石落	1 0 0	⑨ 野村	5 3 0
R 4	0 0 0	⑦ 山本	5 4 0
④ 石落	1 0 0	⑧ 津村	4 1 2
③ 石落	3 0 0	⑥ 石村	5 0 0
② 石落	3 0 0	② 植石	4 1 1
① 石落	0 0 0	② 伊山	0 0 0
H 石落	1 0 0	① 伊山	2 1 0
H 石落	2 1 0	① 伊山	2 0 0
⑨ 石落	4 0 0		4 1 1 3 3

振球機盗失残併 8 5 2 1 1 6 1

投手 回 安責

藤原 1 1/2 3 1

富田 2 2/3 3 0

安声 6 7 2

▽本塁打 麻生 1号 二塁打 植田 1号 (芦田)

▽三塁打 落麻生 二塁打 津野 二時間28分

2 回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	2	0	0	0	X	3

東京都 (熊谷組)

【釜石市】	打安点	【東京都】	打安点
④ 古佐	3 2 0	③ 竹内	3 3 0
⑥ 古佐	4 1 0	⑤ 藤崎	3 0 0
⑧ 古佐	4 1 0	④ 藤崎	4 0 0
⑨ 古佐	3 0 0	⑨ 古森	3 1 2
H 古佐	1 0 0	② 古森	4 2 0
③ 古佐	4 0 0	② 古森	2 0 0
⑦ 古佐	4 1 0	⑥ 古森	2 0 0
② 古佐	3 0 0	⑦ 古森	4 1 1
H 古佐	1 0 0	① 古森	3 0 0
⑤ 古佐	2 0 0		2 8 7 3
4 古佐	2 0 0		
① 古佐	2 1 0		
H 古佐	0 0 0		
H 古佐	1 0 0		
1 古佐	0 0 0		

振球機盗失残併 3 1 0 0 0 7 0

投手 回 安責

佐々木 4 3/4 5 3

秋山 2 1/2 1 0

北中 1 1 0

▽本塁打 森永 1号 二塁打 (佐々木) 三塁打 竹之内 後藤 二塁打 出沢 本田

▽2時間7分

2 回戦

二瀬町 (日鉄二瀬)

0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
0	0	0	0	0	2	0	0	X	2

松山市 (丸善石油)

【二瀬町】	打安点	【松山市】	打安点
⑥ 古	4 1 0	⑦ 鷲	4 1 0
④ 桐	4 1 0	⑥ 谷	4 0 0
⑦ 桐	3 0 0	④ 谷	3 0 0
⑤ 桐	3 0 0	⑧ 森	1 1 0
② 桐	3 1 0	4 森	2 1 1
③ 桐	2 0 0	⑤ 森	3 0 0
3 桐	2 0 0	③ 森	3 0 0
⑨ 桐	4 1 0	② 森	2 1 0
⑧ 桐	3 1 0	① 森	3 0 0
H 桐	0 0 0	⑨ 森	3 1 1
H 桐	2 1 1		2 8 5 2
1 桐	1 0 0		

振球機盗失残併 7 6 1 1 1 1 0 0

投手 回 安責

村上 5 5 2

井上 2 1/2 0 1

▽本塁打 紺田 1号 (村上) 二塁打 春田 森

▽2時間2分

2 回戦

富山市 (不二越鋼材)

0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
0	1	1	0	1	0	0	2	X	5

浦和市 (日本通運)

【富山市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑥ 福家	4 0 0	⑦ 内野	3 1 0
⑦ 福家	4 0 0	⑧ 野木	2 0 0
⑧ 福家	3 1 0	8 柳岡	2 0 0
③ 松野	3 0 0	⑨ 初岡	3 1 2
② 高木	3 0 0	③ 小松	4 2 2
R 高木	0 0 0	⑤ 崎岡	3 0 0
⑤ 高木	4 2 1	④ 市田	4 1 1
④ 高木	2 0 0	② 市田	3 0 0
4 高木	2 1 0	① 市田	3 1 0
H 高木	1 0 0	⑥ 高木	1 0 0
H 高木	1 0 0		2 8 6 5
① 高木	1 0 0		
⑨ 高木	3 0 0		

振球機盗失残併 5 3 0 1 1 6 1

投手 回 安責

原 4 3 2

▽本塁打 小俣 1号 (原)

▽三塁打 田岡

▽二塁打 内野 松野

▽2時間11分

2 回戦

門真町 (松下電器)

1	2	2	0	1	0	0	0	0	6
0	1	0	0	1	3	0	0	0	5

砂川町 (東洋高压砂川)

【門真町】	打安点	【砂川町】	打安点
⑥ 奥田	3 0 0	⑥ 齋藤	5 1 0
④ 奥田	3 1 0	⑧ 藤原	4 2 0
⑨ 奥田	2 0 0	⑤ 川村	4 2 0
⑦ 奥田	4 3 3	⑦ 高松	5 2 3
② 奥田	4 1 0	③ 高松	3 1 0
⑤ 奥田	4 1 0	R 高松	0 0 0
③ 奥田	4 2 1	② 桑原	4 1 0
3 奥田	1 0 0	⑨ 佐佐木	5 3 0
① 奥田	0 0 1	① 藤原	0 0 0
1 奥田	0 0 0	1 藤原	1 0 1
1 奥田	2 0 0	1 小村	3 1 0
	2 9 8 5	H 小村	1 0 0
		④ 渡部	4 0 0

振球機盗失残併 4 3 4 0 2 3 2

投手 回 安責

池田 1 1/2 5 1

高山 3 3/4 5 1

高山 4 1/2 3 0

▽本塁打 大江 1号 二塁打 (石原) 三塁打 辻 大川 二時間42分

準々決勝

大阪市 (全鐘紡)

2	0	1	1	1	1	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東京都 (ニッポンビール)

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 松本	5 1 0	⑥ 高島	4 0 0
⑦ 福福	4 1 0	④ 大根	2 0 0
② 福福	5 2 1	③ 大根	3 0 0
③ 福福	3 1 0	⑤ 平野	3 0 0
H 福福	0 0 0	⑦ 宇野	1 0 0
3 福福	0 0 0	7 宇野	1 0 0
⑤ 福福	4 1 2	7 宇野	2 1 0
⑧ 福福	4 1 1	⑨ 霜古	4 1 0
⑨ 福福	4 1 1	⑧ 松山	4 1 0
⑨ 福福	4 2 0	② 山内	1 0 0
④ 福福	4 1 0	H 山内	1 1 0
① 福福	3 0 1	R 山内	0 0 0
	3 7 1 0 5	② 藤川	1 0 0

振球機盗失残併 4 1 1 1 1 6 1

投手 回 安責

岡太 2 2/3 1 0

田 6 1/2 4 0

▽本塁打 岩中 1号 (北川)

▽二塁打 大神田 宇野 霜古田

▽2時間8分

準々決勝

門真町 (松下電器)
 0 1 0 2 0 2 0 0 0 | 5
 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
 川崎市 (コロムビア)

【門真町】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 奥田照	4 3 0	⑦ 高橋	3 1 1
④ 辻	4 1 0	⑤ 藤川	5 1 0
⑧ 西田	3 0 0	② 佐古	4 1 0
⑦ 佐々木	0 0 0	③ 谷賀	4 2 0
⑧ 大田	3 2 0	⑨ 加賀	3 0 0
⑤ 江口	1 0 0	④ 関口	1 0 0
⑥ 原	0 0 0	④ H	1 0 0
⑧ 石倉	3 2 3	④ 鳥藤	2 0 0
③ 賀	4 0 0	⑧ 井小	1 0 0
② 茂	4 3 1	⑦ 高本	2 1 0
③ 伊	4 1 0	⑥ R	0 0 0
	30124	⑥ H	2 0 0

振球権盗失残併
 6 3 5 1 2 6 1
 投手回安責
 伊東 9 6 0

振球権盗失残併
 7 4 1 0 0 1 0 3
 投手回安責
 根岸 3 3/4 4 2
 木場 2 2 0
 鈴木 3 3/4 5 2
 岡山 1 1 0

▽二塁打 倉森
 奥田照
 ▽2時間17分

準々決勝

岡山市 (倉敷レイオン)
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 2 0 2 0 1 0 0 0 X | 5
 東京都 (熊谷組)

【岡山市】	打安点	【東京都】	打安点
⑤ 隈	4 0 0	③ 竹之内	4 1 0
⑥ 川生	4 2 0	⑤ 藤崎	3 1 0
⑧ 麻田	4 1 0	④ 藤崎	4 1 0
⑦ 落	3 1 0	⑨ 藤崎	4 2 1
④ 石米	1 0 0	⑧ 藤崎	4 1 1
③ 梶	3 0 0	② 藤崎	4 2 1
④ 梶	2 0 0	⑥ 藤崎	4 0 0
③ 杉	2 0 0	① 藤崎	1 0 0
⑨ 杉	3 1 0	⑧ 藤崎	3 1 0
① H	0 0 0	⑦ 藤崎	4 2 0
① H	1 0 0		35113
① H	1 0 0		
②	3 0 0		

振球権盗失残併
 7 1 0 1 1 6 0
 投手回安責
 藤原 2 2/3 3 2
 藤原 5 5 1

振球権盗失残併
 4 1 0 1 1 7 1
 投手回安責
 本原 2 1/2 4 0
 大沢 6 3/4 1 0

▽三塁打 大沢
 ▽二塁打 川田 秋山
 ▽2時間2分

準々決勝

浦和市 (日本通運)
 0 0 0 1 2 0 0 0 0 | 3
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 松山市 (丸善石油)

【浦和市】	打安点	【松山市】	打安点
⑦ 内野	3 0 0	⑦ 鷲井	3 0 0
⑧ 鈴木	3 0 0	⑨ 紺谷	3 0 0
⑨ 初小	3 1 0	⑧ 田井	4 0 0
③ 小松	4 1 0	④ 田井	4 1 0
⑤ 小松	3 0 1	⑤ 赤山	4 1 0
④ 田市	3 1 0	④ H	1 0 0
② 堀高	4 0 0	③ 渡谷	4 2 0
	3 0 0	⑥ 北	3 0 0
	3 0 0	② H	1 0 0
	29 3 1	② H	1 0 0

振球権盗失残併
 7 3 2 0 0 4 0
 投手回安責
 堀本 9 4 0

振球権盗失残併
 6 4 0 0 4 7 1
 投手回安責
 西村 5 1 1
 村上 4 2 0

▽二塁打 渡辺
 ▽2時間17分

準決勝

門真町 (松下電器)
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 2 0 0 2 1 0 0 0 X | 5
 浦和市 (日本通運)

【門真町】	打安点	【浦和市】	打安点
⑥ 奥田	4 2 0	⑦ 内野	4 1 0
④ 辻	4 0 0	⑧ 青柳	3 1 0
⑨ 西田	2 0 0	⑨ 青柳	0 0 0
⑧ 佐々木	2 0 0	⑧ 青柳	3 0 0
⑦ 江口	3 0 0	⑤ 青柳	3 0 0
⑤ 江口	3 0 0	⑤ 青柳	3 1 2
⑨ H	1 0 0	⑤ 青柳	0 0 0
⑧ 9	3 0 0	⑤ 青柳	4 0 0
②	1 0 0	② 青柳	2 2 0
③	1 1 0	② 青柳	4 0 0
③	1 0 0	① 青柳	4 1 2
③	2 0 0		306 4
①	1 0 0		
①	1 0 0		
H	1 1 0		
H	0 0 0		
	304 0		

振球権盗失残併
 6 2 0 1 3 5 0
 投手回安責
 池田 3 1/2 5 0
 山地 3 3/4 0 0
 池田 1 1 0

振球権盗失残併
 8 6 1 4 0 8 0
 投手回安責
 堀本 9 4 0

▽三塁打 青柳
 ▽二塁打 市原
 ▽2時間22分

準決勝

大阪市 (全鐘紡)
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 0 0 1 0 0 0 0 0 X | 1
 東京都 (熊谷組)

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 松本	4 0 0	③ 竹之内	2 1 0
⑦ 福本	4 1 0	⑤ 藤崎	4 0 0
② 福本	4 0 0	④ 藤崎	4 1 1
⑧ 岩瀬	4 1 0	⑨ 藤崎	3 0 0
⑤ 岩瀬	4 1 0	⑧ 藤崎	2 0 0
③ 岩瀬	2 0 0	② 藤崎	3 1 0
⑨ 岩瀬	3 0 0	⑧ 藤崎	3 0 0
④ 岩瀬	2 0 0	① 藤崎	3 1 0
H	0 0 0	⑦ 藤崎	2 1 0
4	0 0 0		265 1
①	3 0 0		

振球権盗失残併
 5 2 0 0 0 5 1
 投手回安責
 河合 8 5 1

振球権盗失残併
 7 3 1 0 1 5 1
 投手回安責
 島津 9 3 0

▽二塁打 竹之内
 ▽1時間53分

3位決定戦

門真町 (松下電器)
 0 0 2 2 0 0 2 0 0 | 6
 0 1 1 0 0 0 0 0 0 | 2
 大阪市 (全鐘紡)

【門真町】	打安点	【大阪市】	打安点
⑥ 原	5 1 0	⑥ 松本	3 1 0
④ 石	5 3 2	⑦ 松本	3 0 0
⑤ 奥	4 1 2	⑦ 福本	1 0 0
⑦ 奥	4 0 0	H	0 0 0
② 倉	4 0 0	R	0 0 0
⑧ 9	3 1 0	R	0 0 0
⑨ 倉	4 1 0	R	4 1 1
⑧	0 0 0	②	4 0 0
③	3 1 0	⑤	3 0 0
①	1 0 0	⑨	2 1 0
H	1 1 1	③	5 0 0
1	2 1 0	④	2 1 1
	3610 5	①	1 0 0
		1	2 1 0
		H	0 0 0
		R	1 0 0
		1	0 0 0
			315 2

振球権盗失残併
 1 1 1 1 1 5 2
 投手回安責
 池田 3 4 2
 山地 6 1 0

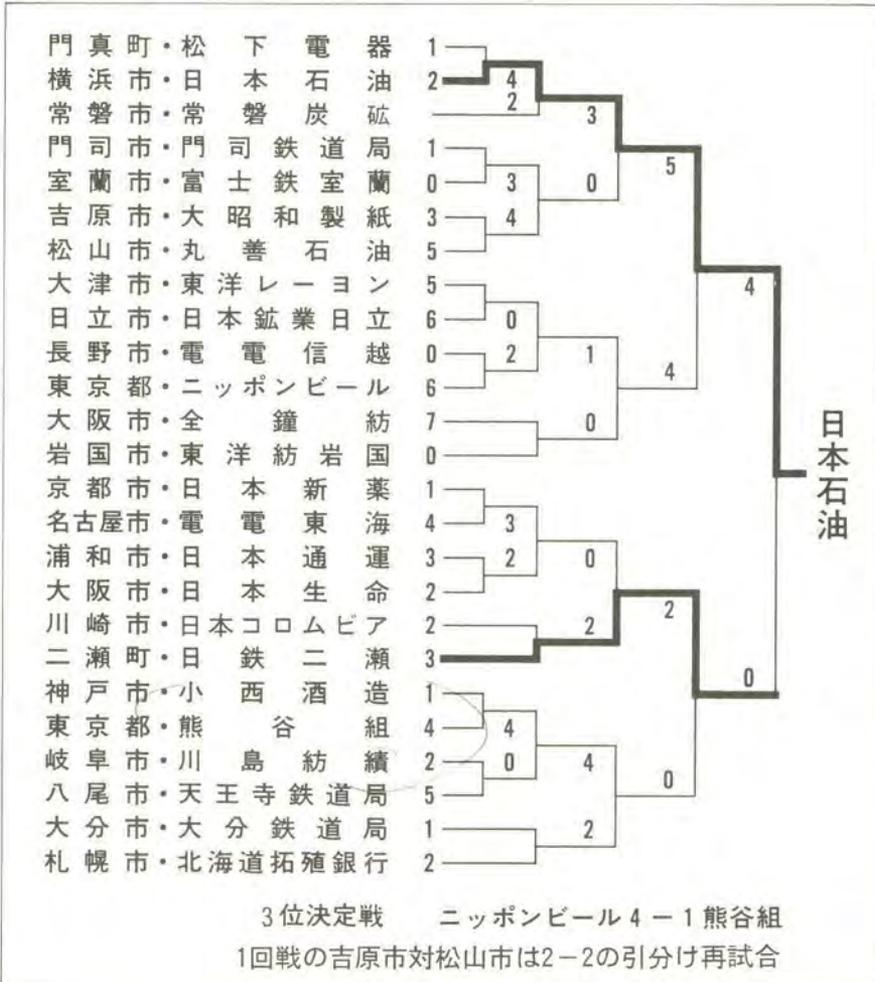
振球権盗失残併
 5 1 2 0 3 1 1 4 2
 投手回安責
 岡田 2 2/3 4 2
 田合 3 3/4 5 3
 太合 1 1/2 0 0
 松本 1 1 0

▽本塁打 古市1号②
 (太田)
 ▽三塁打 奥田照
 ▽二塁打 多湖
 ▽2時間24分

デトロイトの世界野球大会で優勝を果たした熊谷組を中心とする全日本メンバー



第29回大会 1958年(昭和33年)7月27日-8月4日・後樂園球場 優勝=横浜市・日本石油(2年ぶり2回目)



2回目の優勝を果たし、大喜ぶる日本石油の応援団

れの日にも「ここまで」と思われたのに、長島はボールが続き四球で歩かせた。次の林正治右翼手(日本鋼管から補強)が一塁内野安打。門真・仁本監督はここで左のカーブ投手・池戸弘昌を起用したが、第1球が打者の右足をかすめる死球。二死満塁となって横浜・増山桂一郎監督も動き、代打に水野和俊を起用した。カウント2-3から、外角に入るカーブを右翼打ちを得意とする水野がうまく当て、フワリと右前に飛んで2者生還。夢のような逆転勝ちで窮地を切り抜けた。2回戦の常磐市・常磐炭鉱戦も、平工業高を卒業したばかりの近藤功投手に苦しみながら日本鋼管からの補強の宮原実捕手の殊勲打で逆転勝ち。西五十六投手を擁した松山市・丸善石油戦は伊藤正敏投手が2安打完封の快投で準決勝に進んだ。

東京都・ニッポンビールも北川芳男、霞本公義両投手が1、2回戦を零封し、大阪戦では足立光宏投手(大丸から補強)に7回まで無安打に抑えられながら、8回ワンチャンスを生かし、これまた1-0の零封。

一方のゾーンでは闘将・濃人渉監督のひきいる二瀬町・日鉄二瀬が井洋雄-江藤慎一のバッテリーを中心に川崎市・コロムビア、名古屋市・電電東海に競り勝って快進撃をみせ、準決勝では熊谷組をも倒して決勝に躍り出る大活躍をみせた。

横浜対東京の準決勝もスタンドをわかせる大激戦だった。横浜がリードしながら東京は後半粘って追いつがった。7回横浜は菅沼正直中堅手の右前適時打で1点を加え、東京必死の反撃をリリーフの伊藤がかわした。

決勝は4連投の二瀬・井がさすがに疲れ、2本塁打と、伊藤の2安打完封の好投で横浜が勝った。しかし、若い高校卒業者を鍛えあげ、勝ち進んだ二瀬の戦いぶりは見事だった。

橋戸賞は4試合に登板2完投の横浜・伊藤投手、久慈賞は二瀬・井投手が受賞。小野賞は巧みな采配で2度目の優勝に導いた横浜・増山桂一郎監督に贈られた。

奇跡の逆転で横浜波乗り

横浜市・日本石油が1回戦の奇跡的な逆転勝ちで波に乗り、2年ぶり2度目の黒獅子旗を手にした。

門真町・松下電器、松山市・丸善石油、大阪市・全鐘紡、東京都・熊谷組、ニッポンビールと強豪がひしめき合い、激戦の連続だったが、最後は野球をよく知った選手を揃えた横浜の強さがきわ立った大会でもあった。

横浜は1回戦の門真戦で苦しみ抜いた。第1日の第1試合、両チームとも堅さのほぐれないまま、門真・長島康夫、横浜・野村利則投手の息づまる投げ合いが続いた。そして8回、門真は決定的とも思える1点を奪った。9回横浜最後の攻撃も簡単に二死となり、打者・本多秀男二塁手のカウントは2-0。だ

決勝

横浜市 (日本石油)
 0 0 3 0 0 0 1 0 0 | 4
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 二瀬町 (日鉄二瀬)

横浜市	打点	振球	【二瀬町】	打点	振球
③ 北菅	4	2 1 0 0	⑦ 淵原	3	0 0 1 0
④ 菅沼	4	1 2 1 0	⑧ 溝栗	1	0 0 0 0
⑤ 田中	4	0 0 3 0	⑨ 大原	4	0 0 1 0
⑥ 本多	3	1 0 0 1	⑩ 大山	2	0 0 1 1
⑦ 小栗	4	0 0 0 0	⑪ 江村	3	1 0 0 0
⑧ 小栗	4	0 0 1 0	⑫ 江村	3	0 0 2 0
⑨ 林	4	2 1 0 0	⑬ 藤本	3	1 0 1 0
⑩ 田山	4	1 0 1 0	⑭ 井上	3	0 0 0 0
⑪ 伊藤	2	0 0 0 0	⑮ 井上	1	0 0 1 0
		33 7 4 6 1	⑯ 山口	1	0 0 0 0
			⑰ 村中	1	0 0 0 0
			⑱ 村中	1	0 0 0 0
			⑲ 村中	1	0 0 0 0
			⑳ 村中	1	0 0 0 0
			㉑ 村中	1	0 0 0 0
			㉒ 村中	1	0 0 0 0
			㉓ 村中	1	0 0 0 0
			㉔ 村中	1	0 0 0 0
			㉕ 村中	1	0 0 0 0
			㉖ 村中	1	0 0 0 0
			㉗ 村中	1	0 0 0 0
			㉘ 村中	1	0 0 0 0
			㉙ 村中	1	0 0 0 0
			㉚ 村中	1	0 0 0 0
			㉛ 村中	1	0 0 0 0
			㉜ 村中	1	0 0 0 0
			㉝ 村中	1	0 0 0 0
			㉞ 村中	1	0 0 0 0
			㉟ 村中	1	0 0 0 0
			㊱ 村中	1	0 0 0 0
			㊲ 村中	1	0 0 0 0
			㊳ 村中	1	0 0 0 0
			㊴ 村中	1	0 0 0 0
			㊵ 村中	1	0 0 0 0
			㊶ 村中	1	0 0 0 0
			㊷ 村中	1	0 0 0 0
			㊸ 村中	1	0 0 0 0
			㊹ 村中	1	0 0 0 0
			㊺ 村中	1	0 0 0 0
			㊻ 村中	1	0 0 0 0
			㊼ 村中	1	0 0 0 0
			㊽ 村中	1	0 0 0 0
			㊾ 村中	1	0 0 0 0
			㊿ 村中	1	0 0 0 0

▽本塁打 菅沼1号②(井)
 林1号(村上)▽三塁打
 北崎 林▽二塁打 本多
 北崎▽2時間

ジャストミート日石打線

大学出で固めた強打の横浜市・日本石油。一方、二瀬町・日鉄二瀬は井-藤原のバッテリーを軸に高校出を鍛えあげた守りのチーム。井と横浜打線の勝負となったが、横浜のエース伊藤が好投、打線も効果的な2ホームーで二瀬を降した。

二瀬は2回、先頭の江藤が初安打打ち、捕逸で一挙に三塁に進み先制のチャンスを迎えた。しかし次打者とのスクイズを打者が見落とし、江藤が挟殺され先行できなかつたのか痛い。横浜は3回、田山が安打して送った一死二塁に、1番の北崎が左翼に三塁打、続く菅沼は低めカーブをうまくすくいあげて右翼本塁打、3点をあげた。

ベースをつかんだ横浜は、代った村上から7回、林か右翼本塁打、勝利を不動のものとした。横浜・伊藤は内外角のきびしいコースをつく速球とカーブの配合がよく、落ちついて投げ続けた。結局二瀬打線を2安打で完封したが、コントロールのいい井に対し、大振りせずにジャストミートに徹した日石打線とともに堂々の優勝の立役者となった。

連投疲れとらえた快打

決勝の対二瀬町・日鉄二瀬戦で先制パンチと2ランを放った横浜市・日本石油の北崎一塁手と菅沼中堅手。ともに井投手の落差のあるカーブをうまく打ったものだったが、北崎は「井君は連投のせいでそれほど球は速くなかった。カーブにしぼって待っていた」とベテランらしい読み勝ちを強調。菅沼は「監督からなんでもかまわずに引っぱれ、といわれてその通り打った。これで一人前の顔ができます」とうれしさいっぱいの顔つきだった。

再試合、計6時間25分

大会第1日の第3試合で行われた松山市・

丸善石油対吉原市・大昭和製紙の1回戦は史上に残る好ゲームだった。

松山・西五十六投手は四国予選で完全試合を演じ、ナイターに有効な速球を内外角に決めて力投。一方吉原・安藤治久投手もカーブを生かして好投した。

松山は2回松田がタイムリー、動揺した安藤はカーブが流れ過ぎ、押し出しの四球で2点目。吉原も4回竹島が適時打、6回に石川が右翼に同点の本塁打して追いついた。

松山は8回一死一・三塁にスクイズを失敗、チャンスを逃がしたのか痛く、その後は両投手のゆずらぬ投げ合いで、延長15回、3時間55分の無戦の末、引き分け再試合。

翌日の第1試合となった再戦はまたしても西、安藤の先発となったが、吉原が西の立ちあがりやを攻め、先頭の杉村が左翼二塁打したのを皮切りに長打攻勢で2点。

松山も3回に1点を返したものの、疲れの見える西を吉原が攻め、4回にも2安打と四球で満塁とした。打者 具志のカウントが2-3となったところで西は自ら降板、弟の西三男がマウンドに立ったが力みがあって初球ボールとなり押し出し。粘る松山は7回後地が左翼本塁打して再び1点差に迫り、前夜と同じように緊迫した試合はファンをわかせた。

そして9回、松山は後地が左中間二塁打して安藤をおびやかす、代打・森の適時打で同点。勢いづいた打線はさらに松田、紺田が長短打を浴せ、一気に3点を奪う逆転劇となった。あわせて6時25分に及ぶ大接戦だった。

78イニング連続無失点

東京都・熊谷組の連続無失点記録がストップした。1回戦の神戸市・小西酒造戦の7回、1点を奪われたもので、前大会5試合連続の零封で優勝を飾って以来、この年の東京予選も相手に1点も与えず都市対抗に関しては8試合連続無失点だった。神戸が中角の二塁打で1点をあげたことにより、連続無失点は78

イニングで止まった。

M E M O

◇最多奪三振 1回戦の松山市・丸善石油対吉原市・大昭和製紙戦で松山・西五十六投手は延長15回を投げ抜き、引き分けとなったが21三振を奪った。9回での奪三振記録は第25回大会で大阪市・全鐘紡の平古場昭二、河合真雄両投手が継投で富山市・北陸銀行から奪った16三振。

◇最多三振 1回戦の吉原市・大昭和製紙対松山市・丸善石油戦で吉原・安藤治久投手は6打席6三振を喫し、第3回大会で全大阪・鶴田選手との5打席5三振を29年ぶりに更新した。

うれし涙「4度目の正直」

“4度目の正直”で大阪市・全鐘紡を破った東京都・ニッポンビールの殊勲者は北川一松本のバッテリー。

準々決勝で顔をあわせた強豪同士の両者。東京はこれまで大阪の前にいつも涙を飲んで来た。この試合も大阪は大丸から補強した足立が下手からの重い速球と鋭いシュートで快投、7回を終わって東京は無安打。東京の先発の霞本は強打・大阪打線に攻められ防戦一方だった。しかし5回の途中からリリーフした北川は速球を低めに決め、カーブ、シュートを折りまぜて大阪打線を抑え0-0で8回を迎えた。

東京は先頭の松山が幸運な内野安打。バントで送ると清水監督は迷うことなく代打に捕手の松本を起用した。大阪大会で足立から好打したためだった。期待通り松本は二塁右手をゴロで抜く殊勲打を待ち待望の1点をあげた。

東京はトラの子の1点を北川が守りきり、わずか2安打で大阪からの初勝利をあげた。北川は「これまでの3回もボクが投げて負けた。やっとスッキリした」と話し、打った松



増山監督を先頭に、黒獅子旗を掲げて場内を一周、ファンの歓声に応える横浜・日本石油ナイン

本は「長い間ねらっていたチャンスを自分の力で生かした感激は一生忘れない」と喜んでた。

世界の顔ズラリ出場

過去3回の世界アマチュア野球大会に全日本のメンバーとして出場した「世界の顔」がズラリと揃った大会だった。

その勇者たちは、大阪市・全鐘紡の西川公也、松本繁和両投手、種田吉富捕手、松本豊、山下新造、榎原敏一の3内野手と多湖隆司外野手。東京都・熊谷組の大沢貞義、島津四郎

両投手、中野貞捕手、古田昌幸、竹之内勇治（全藤倉から補強）両内野手。浦和市・日本通運の堀本律樹投手、東京都・ニッポンビールの北川芳男投手、平出昌雄内野手。横浜市・日本石油の野村利則投手、宮原実捕手（日本鋼管から補強）田中徹男内野手。吉原市・大昭和製紙の石井藤吉内野手、横山昌弘外野手。大阪市・日本生命の山本正隆外野手、八尾市・天王寺鉄道局の山本治投手、松原正雄捕手（ともに鐘淵化学から補強）のバッテリー。岩国市・東洋紡岩国の麻生実男内野手（倉敷レーヨンから補強）。

監督冥利に尽きる優勝

横浜市・日本石油
増山桂一郎監督



昭和22年、慶大を卒業、故郷に帰り大塚産業で都市対抗出場。プロ野球を経て27年日本石油入社。31年監督に就任して即優勝、33年も黒獅子旗を獲得、黄金時代を築く。

第27回大会はエースの藤田元司がいて監督就任の年に念願の初優勝を果たしたのだが、翌年は予選で日本鋼管に敗れて奈落の底にたたき落とされた。

この年の予選も鋼管が圧倒的有利の下馬評だったが、1回戦は8回に逆転して9回の無死満塁をかわしてやっと勝ち、2回戦も延長になり、それまでは10打数ノーヒットの4番の本多秀男が決勝本塁打を打って、奇跡の勝利をあげた。

鋼管は全国的なレベルでみても強かった

し、そこに勝ったうえ、有力選手も補強して、かなりの自信をもって臨んだ大会だった。

結局2度目の優勝はしたのだが、いまでも強烈な印象に残っているのは開幕ゲームとなった松下電器との試合だ。

相手の長島康夫投手が絶好調で8回の表まで、うちはわずか4安打、チャンスがない。そしてその裏、松下に1点を奪われた。9回の攻撃が始まる前、選手を集めてカツを入れた方がいいかどうか、迷ったのだが、ベンチに戻ってくる選手が口々に「ゲタはくまでわからないぞ」。「よし」と思ってそのまま9回の攻撃に入った。ところが簡単に二死。打者・本多のカウントは2-0。それでも粘って四球で出た。次の林正治君は一塁手と二塁手の間で、撞球の引き球のような当りの安打。ここで松下の仁木監督が動いて投手がカーブの池戸弘昌君に代った。「しめた」と思った。薬科敏一への第1球が死球で満塁。待っていた代打の水野和俊君を起用した。右翼打ちのうまさではヒカーだった。とにかくサインは「打て」だけ。水野がチョコンと当てる右前打で逆転勝ち。打った手がごとごとと当り、選手が働いてくれて監督冥利に尽きる大会だった。

1回戦

松山市 (丸善石油)												
0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
吉原市 (大昭和製紙)												

【松山市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑨ 紺田	2 0 0	④ 具志	6 1 0
⑧ H 森	1 0 0	⑥ 稲川	5 0 0
⑦ 8 浅井	2 0 0	⑨ 石川	6 1 1
④ ⑦ 鷲	4 0 1	⑦ 横山	5 1 0
⑧ ⑨ 谷井	7 0 0	⑦ 石藤	1 0 0
④ ⑥ 篠崎	7 1 0	⑧ 遠藤	5 2 1
③ ② 赤後	7 1 0	③ 竹石	6 0 0
② ① 渡辺	4 2 0	② 板倉	1 0 0
② ② 後地	3 2 0	② 池田	5 1 0
① ② 西芥	3 0 0	① 安上	6 0 0
⑤ ⑤ 西松	5 2 0	⑤ 安上	2 0 0
	5 2 1	H 土屋	1 0 0
	5 0 1 2	5 土宮	3 1 0

振球犠盗失残併	14 9 2 0 1 1 4	振球犠盗失残併	21 2 0 0 0 7
投手	回	安責	投
西	兄	15	7 2

▽本塁打 石川1号 (西芹) ▽二塁打 篠崎 赤田

1回戦

日立市 (日本鉱業日立)												
2	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	6	
0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	5	
大津市 (東洋レーヨン)												

【日立市】	打安点	【大津市】	打安点
⑧ 渡辺	6 2 0	⑧ 渡辺	4 0 0
⑥ 伊藤	6 3 1	H 木野	1 0 0
⑦ 7 渡辺	2 0 0	⑧ 8 藤田	1 1 0
⑦ 3 中村	1 0 0	⑥ 6 伊藤	6 1 2
⑤ ⑤ 木村	4 1 2	④ ④ 中村	6 2 2
⑨ ⑨ 斎藤	5 1 0	③ ③ 小片	5 3 1
③ ③ 中村	3 1 1	⑦ ⑦ 香嶋	5 1 0
⑦ ⑦ 片岡	0 0 0	H 村川	1 0 0
④ ④ 石上	0 0 0	② ② 堀川	6 2 0
⑦ ⑦ 中村	5 0 0	⑨ ⑨ 木中	2 0 0
② ② 後藤	4 1 0	H 中川	1 0 0
① ① 松井	1 1 1	⑨ ⑨ 荒本	2 1 0
① ① 嵯峨	2 0 0	① ① 間橋	0 0 0
1 1 西	1 0 0	1 1 橋本	2 1 0
1 1 鈴	0 0 0	1 1 永高	1 0 0
1 1 増	1 0 0	⑤ ⑤ 滝	3 0 0
	4 1 1 0 5		4 6 1 2 5

振球犠盗失残併	6 4 2 2 4 5	振球犠盗失残併	10 2 3 2 0 10
投手	回	安責	投
嵯峨	6	5 1	2 3 3
西室	2 1/2	2 1	5 5 2
鈴木	1 1/2	1 0	4 1/2 2 1
鈴増	3 1/2	4 0	

▽本塁打 中村修1号 (永橋) 松井1号 (高田)
▽三塁打 斎藤 ▽二塁打 渡辺明 伊藤 (日) 小田2

1回戦

横浜市 (日本石油)												
0	0	0	0	0	0	0	0	2	2			
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1			
門真町 (松下電器)												

【横浜市】	打安点	【門真町】	打安点
③ 北菅	3 0 0	⑤ 奥河	2 1 0
④ ④ 沼中	4 0 0	④ ④ 田島	4 1 0
⑤ ⑤ 田本	4 1 0	⑨ ⑨ 児島	3 1 0
④ ④ 本	3 1 0	⑦ ⑦ 大森	3 1 0
⑨ ⑨ 林	4 1 0	⑧ ⑧ 倉森	2 0 1
⑥ ⑥ 藁高	3 0 0	③ ③ 羽根	2 0 0
⑦ ⑦ 小水	0 0 0	3 ③ 成瀬	2 0 0
H 7 小	3 1 0	⑥ ⑥ 成木	4 1 0
7 7 赤	1 1 2	② ② 田川	4 0 0
② ② 野	0 0 0	2 ② 森長	0 0 0
① ① 野	4 0 0	① ① 池島	2 1 0
1 1 近	1 0 0	1 ① 勝部	0 0 0
	2 1 0	H 勝部	1 0 0
	3 2 6 1		2 9 6 1

振球犠盗失残併	2 3 0 1 1 6	振球犠盗失残併	1 2 6 3 1 0 1 0
投手	回	安責	投
野村	2	1 0	8 3/4 5 2
近藤	7	5 0	1 1/4 1 0

▽二塁打 大江 奥田

1回戦

門司市 (門司鉄道局)												
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
室蘭市 (富士鉄室蘭)												

【門司市】	打安点	【室蘭市】	打安点
⑦ 董	4 0 0	⑧ 7 本	3 1 0
④ ④ 今	3 1 0	青	4 1 0
⑨ ⑨ 宮	4 0 0	④ ④ 柳	4 0 0
③ ③ 宮	4 2 0	⑨ ⑨ 大	4 1 0
⑧ ⑧ 菅	3 0 0	⑦ ⑦ 高	2 0 0
⑤ ⑤ 高	4 1 0	6 ⑥ 光	0 0 0
② ② 梶	2 0 0	H 木	1 0 0
2 ② 宮	1 0 0	⑤ ⑤ 村	3 0 0
① ① 服	2 1 1	② ② 松	3 0 0
1 ① 光	1 0 0	① ① 安	1 0 0
⑥ ⑥ 徳	3 0 0	⑤ ⑤ 小	2 1 0
	3 1 5 1	⑥ ⑥ 佐	2 0 0
		8 ⑧ 桑	1 0 0
			3 0 4 0

振球犠盗失残併	1 2 6 0 2 0 9	振球犠盗失残併	7 2 0 1 0 5
投手	回	安責	投
服部	5	3 0	3 3/4 3 1
光岡	4	1 0	5 1/4 2 0

▽二塁打 服部 佐藤

1回戦

東京都 (ニッポンビール)												
0	0	0	2	0	1	0	1	2	6			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
長野市 (電電信越)												

【東京都】	打安点	【長野市】	打安点
⑧ 井	3 0 0	⑥ 萩	3 0 0
⑦ 7 柳	2 1 1	⑧ ⑧ 松野	4 1 0
④ ④ 高	2 0 0	④ ④ 松	4 1 0
H 4 河	1 0 0	③ ③ 橋	3 0 0
④ ④ 大	1 0 0	⑤ ⑤ 松	3 0 0
③ ③ 梶	4 3 0	⑨ ⑨ 福	2 0 0
⑤ ⑤ 平	4 1 1	9 ⑨ 小	1 0 0
⑨ ⑨ 松	4 2 3	② ② 山	2 1 0
⑦ ⑦ 8 山	3 1 0	① ① 勝	1 0 0
2 ② 2 山	2 0 0	1 ① 野	1 0 0
① ① 松	1 0 0	H ① 田	1 0 0
① ① 佐	3 2 0	1 ① 加	0 0 0
① ① 北	0 0 0	⑦ ⑦ 野	2 0 0
⑥ ⑥ 高	4 0 0	H ⑦ 齋	1 0 0
	3 4 1 0 5		2 8 3 0

振球犠盗失残併	7 3 1 0 0 5	振球犠盗失残併	6 2 0 1 2 3
投手	回	安責	投
北野	8	2 0	4 2 2
藤本	1	1 0	4 5 2

▽本塁打 松山1号② (勝野) ▽三塁打 梶
▽二塁打 北川 梶

1 回戦 (再試合)

松山市 (丸善石油)
0 0 1 0 0 0 1 0 3 | 5
2 0 0 1 0 0 0 0 0 | 3
吉原市 (大昭和製紙)

【松山市】 打安点
⑨ 紺田 4 1 1
⑦ 鷺川 5 1 1
② 芥谷 0 0 0
④ 井崎 4 1 0
⑥ 赤坂 4 1 0
③ 渡辺 4 0 0
② 浅西 4 3 1
⑦ 井上 0 0 0
① 森下 0 0 0
① 森上 1 0 0
① 村上 1 1 1
⑤ 松田 4 2 0
振球機盗失残併 36105
投手回安責 105
投手回安責 63
西山兄弟 0 0 0
木村上 4 1/2 1
▽本塁打 後地 1 号 (安藤)
具志 德丸 石川 竹島 後地 松田

1 回戦

京都市 (日本新薬)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 1 0 3 X | 4
名古屋市 (電電東海)

【京都市】 打安点
⑧ 野口 4 0 0
⑥ 浜田 4 2 0
⑨ 水村 4 1 1
③ 三吉 3 0 0
④ 大河 3 0 0
⑦ 美馬 2 1 0
⑤ H 福岡 2 0 0
⑤ 古大 1 0 0
② 角村 0 0 0
① 城藤 3 0 0
① 山本 0 0 0
振球機盗失残併 3041
投手回安責 91
山本 7 1/2 3
振 3/4 0 0
▽2塁打 三宅

1 回戦

大阪市 (日本生命)
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
2 0 0 0 0 1 0 0 X | 3
浦和市 (日本通運)

【大阪市】 打安点
⑤ 安藤 4 0 0
④ 西村 1 0 0
③ 山本 4 1 0
⑥ 山本 4 2 0
② 山本 4 1 1
④ 吉野 3 0 0
⑧ 津野 4 2 1
⑦ 手塚 4 0 0
⑨ 伊藤 4 1 0
① H 植田 2 1 0
振球機盗失残併 3582
投手回安責 73
伊藤 8 7 3
▽2塁打 津野 田岡

1 回戦

八尾市 (天王寺鉄道局)
0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 3 | 5
0 1 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 2
岐阜市 (川島紡績)

【八尾市】 打安点
④ 野村 6 1 0
⑦ 村田 4 0 0
⑦ 石仲 4 2 0
③ 山本 2 0 0
⑨ 古山 2 0 0
⑨ 古野 2 1 0
② 松本 4 1 0
⑧ 松本 3 0 1
⑤ 竹本 6 2 2
① 大東 2 1 0
H 東 1 0 0
⑥ 宮脇 2 0 0
振球機盗失残併 42105
投手回安責 30
投手回安責 6 2 1
林 6 2 1
▽三塁打 宮脇▽二塁打 網

1 回戦

神戸市 (小西酒造)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 2 0 0 0 2 X | 4
東京都 (熊谷組)

【神戸市】 打安点
⑥ 西崎 4 1 0
⑧ 小西 4 1 0
④ 辰己 4 0 0
⑨ 真山 4 0 0
⑤ 西井 3 1 0
③ 中西 4 2 1
⑦ 西野 2 0 0
H 関口 1 0 0
⑦ 野崎 1 1 0
② 黒崎 3 0 0
① 黒津 1 0 0
H 黒津 3 0 0
振球機盗失残併 3461
投手回安責 63
梅津 8 6 3
▽2塁打 山田 中角2

2 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 1 0 0 0 2 1 0 | 4
1 0 0 0 1 0 0 0 0 | 2
常磐市 (常磐炭矿)

【横浜市】 打安点
③ 北崎 3 2 1
⑦ 沼羽 3 0 0
⑧ 赤田 1 0 0
⑤ 中多 4 0 0
④ 本林 4 2 1
⑨ 林 4 0 0
⑥ 科栗 4 1 0
⑦ 小宮 4 3 1
② 杉原 2 1 1
① 伊藤 0 0 0
H 藤下 0 0 0
R 中芝 1 0 0
① 近藤 3 1 0
振球機盗失残併 33104
投手回安責 21
杉原 1 2 0
伊藤 7 4 0
▽三塁打 北崎▽二塁打 本多 小栗

2 回戦

岩国市 (東洋紡岩国)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
2 2 0 0 2 1 0 0 X | 7
大阪市 (全鐘紡)

【岩国市】 打安点
⑤ 金谷 4 1 0
⑦ 谷川 2 0 0
⑦ 賀岡 2 0 0
⑧ 松本 4 1 0
⑥ 松本 4 1 0
⑨ 岡生 2 0 0
⑨ 西田 2 0 0
③ H 西田 0 0 0
② H 西田 0 0 0
② H 西田 2 0 0
① H 西田 1 0 0
① H 西田 1 0 0
④ 西田 2 0 0
④ 西田 1 0 0
振球機盗失残併 3030
投手回安責 16
西山兄弟 1 3 2
小松井 4 5 3
栗本 3 3 0
▽三塁打 種田▽二塁打 松岡 松本 榎原 大原 池西

2 回戦

二瀬町 (日鉄二瀬)
0 0 0 1 0 0 0 1 1 | 3
0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
川崎市 (コロムビア)

【二瀬町】 打安点
⑦ 清原 4 0 0
⑤ 淵下 3 1 0
⑧ 大山 2 1 0
⑧ 江村 3 0 1
② 江村 3 2 0
④ 江村 3 1 2
⑨ 江村 4 0 0
① 井桐 4 0 0
⑥ 井桐 2 0 0
振球機盗失残併 2853
投手回安責 72
井桐 9 7 2

2 回戦

大分市 (大分鉄道局)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
1 0 0 0 1 0 0 0 X | 2
札幌市 (北海道拓殖銀行)

【大分市】 打安点
④ 前川 4 1 0
③ 川島 3 0 0
⑥ 高木 4 2 0
⑧ 高山 3 0 0
④ 山小 3 1 0
⑥ 渡辺 4 0 1
⑦ 森 1 0 0
⑦ 浦妻 2 0 0
② H 三左 1 0 0
② H 橋本 3 0 0
① H 藤森 1 0 0
① 山田 0 0 0
① 山田 3 1 0
振球機盗失残併 3251
投手回安責 17
森山 2 2 1
金山 6 4 1
▽2塁打 沼沢 小路

準決勝

横浜市 (日本石油)

Score table for Yokohama (Nippon Oil) vs Tokyo (Nippon Beer) showing runs, hits, errors.

東京都 (ニッポンビール)

Player statistics for Yokohama and Tokyo teams, including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for the game, including total runs, hits, errors, and fielding percentages.

▽本塁打 河野1号② (近藤)▽三塁打 藁科近藤

3位決定戦

東京都 (熊谷組)

Score table for Tokyo (Kumagumi) vs Tokyo (Nippon Beer).

東京都 (ニッポンビール)

Player statistics for Tokyo (Kumagumi) and Tokyo (Nippon Beer) in the 3rd place game.

Summary statistics for the 3rd place game.

▽二塁打 河野2 小林 山之内

横浜市 (日本石油)

Player statistics for Yokohama (Nippon Oil) in the final game.

札幌市

(北海道殖産銀行)

Player statistics for Sapporo (Hokkaido殖産銀行).

室蘭市

(富士鉄室蘭)

Player statistics for Muroran (Fuji Iron Muroran).

常磐市

(常磐炭鉱)

Player statistics for Joze (Joze Coal Mine).

日立市

(日本鉱業日立)

Player statistics for Hitachi (Nippon Mining Hitachi).

浦和市

(日本通運)

Player statistics for Utsunomiya (Nippon Tosen).

川崎市

(コロムビア)

Player statistics for Kawasaki (Columbia).

東京都

(熊谷組)

Player statistics for Tokyo (Kumagumi).

東京都

(ニッポンビール)

Player statistics for Tokyo (Nippon Beer).

吉原市 大津市 神戸市 松山市

(大昭和製紙)
監督 杉本沢 藤本池 仲志 馬屋田 川沢村 丸藤川 島山 井
監投 杉山 沢 藤 本 池 仲 志 馬 屋 田 川 沢 村 丸 藤 川 島 山 井

(東洋レーヨン)
監督 川間田 橋川村 山田 藤本 野田 川 野田 川 野田 川
監投 川 間 田 橋 川 村 山 田 藤 本 野 田 川 野 田 川 野 田 川

(小西酒造)
監督 島津村 保 橋 見 山 屋 崎 谷 巴 口 山 上 間 藤 藤 藤 藤
監投 島 津 村 保 橋 見 山 屋 崎 谷 巴 口 山 上 間 藤 藤 藤 藤

(丸善石油)
監督 岡村 西 安 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅
監投 岡 村 西 安 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅 菅

長野市

(電電信越)
監督 野口 田 崎 原 子 田 岸 藤 橋 山 丸 萩 関 牧 加 藤 三 小 林 高 下 相 松
監投 野 口 田 崎 原 子 田 岸 藤 橋 山 丸 萩 関 牧 加 藤 三 小 林 高 下 相 松

京都市

(日本新薬)
監督 長 井 城 浜 田 藤 谷 村 井 館 角 馬 原 岡 中 田 角 田 川 宅 木 知 田 水
監投 長 井 城 浜 田 藤 谷 村 井 館 角 馬 原 岡 中 田 角 田 川 宅 木 知 田 水

八尾市

(天王寺鉄道局)
監督 田 根 部 本 上 原 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎
監投 田 根 部 本 上 原 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

二瀬町

(日鉄二瀬)
監督 入 上 下 未 上 村 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田
監投 入 上 下 未 上 村 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田 藤 田

岐阜市

(川島紡績)
監督 西 安 東 藤 原 市 藤 伊 野 田 野 田 井 藤 井 藤 井 藤 井 藤 井 藤 井
監投 西 安 東 藤 原 市 藤 伊 野 田 野 田 井 藤 井 藤 井 藤 井 藤 井 藤 井

大阪市

(全鐘紡)
監督 大 西 松 藤 佐 岡 太 足 種 田 藤 池 保 松 山 菅 藤 阿 藤 福 多 池 大 福 濱
監投 大 西 松 藤 佐 岡 太 足 種 田 藤 池 保 松 山 菅 藤 阿 藤 福 多 池 大 福 濱

門真町

(松下電器)
監督 仁 伊 池 高 森 中 池 友 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池
監投 仁 伊 池 高 森 中 池 友 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池

市司門

(門司鉄道局)
監督 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池
監投 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池

名古屋市

(電電東海)
監督 尾 山 口 平 原 尾 下 林 輪 木 浦 垣 井 田 海 井 田 海 井 田 海 井 田 海 井
監投 尾 山 口 平 原 尾 下 林 輪 木 浦 垣 井 田 海 井 田 海 井 田 海 井 田 海 井

大阪市

(日本生命)
監督 岡 村 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池
監投 岡 村 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池

岩国市

(東洋紡岩国)
監督 宇 水 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池
監投 宇 水 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池 藤 池

大分市

(大分鉄道局)
監督 芳 藤 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田
監投 芳 藤 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田 井 田

忘れ難い東京倶楽部を破つての優勝

全大阪（日本生命） 伊達正男



私が早大を卒業したのは昭和8年3月だった。郷里の大阪に戻って就職しようと考えていたところに、早大野球部の先輩でいろいろお世話になった水上義信さんが「日本生命に来てオレを助けてくれ」と誘ってくれた。水上さんは日本生命野球部を作った人で、主将だったが、実質的には監督であった。日本生命に入って、全大阪に参加、昭和9年の第8回大会で優勝を成しとげたのだが、東京倶楽部を倒して大阪に初めて黒獅子旗を持ち帰った感激は生涯忘れがたい喜びだ。

実は日本生命に入社する直前、私が早大に入学したときの野球部監督であった市岡忠男さんに、後の巨人軍となる大日本東京野球倶楽部への参加を熱心に勧誘された。当時は職業野球といったが、プロ野球を日本でも結成する気運が高まっていたのである。関心がなかったわけではないが、水上さんを慕って日本生命に入り、その年の都市対抗に出場した。いまのように会社単位で予選に出るのではなく、その地域の野球人が集って倶楽部を作り出場していた。それが全大阪であった。準々決勝で東京倶楽部と対戦。大阪が7-0とリードしていたのに逆転された口惜しい試合があった。言いわけがましいが、私は7月下旬に倉敷でやった早大との試合で左アゴに死球を受け、そのまま入院。十分に練習できなかつたのも、不調の要因だった。

そのころの全大阪のメンバーは、ベテランの選手が多かったが、やはり早大野球部の先輩で大阪毎日新聞の運動部記者だった井口新次郎さんと相談、当時大阪でブラブラしていた三原脩や慶応を卒業した鐘紡の牧野直隆、岡田貴一、明大を出た久保田信一君らも誘ってチームを強化した。

初戦に名古屋鉄道局を破って、宿敵・東京倶楽部と対戦

した。慶大を出た宮武三郎君は故障で、私と立教を出た菊谷正一君の投げ合いになったが、今度は逆に東京7-0とリードされたのを終盤でひっくり返す痛快な勝利だった。

「昨年7-0から負けたんだから、ことしは0-7から勝とうぜ」といった調子で、全員伸び伸びと野球を楽しんでいた。私も4回以降、無失点で投げたのがよかった。

東京倶楽部はそれこそ東京六大学の花形選手ばかりだったが、東京を破ったうれしさはこの上ないものだった。

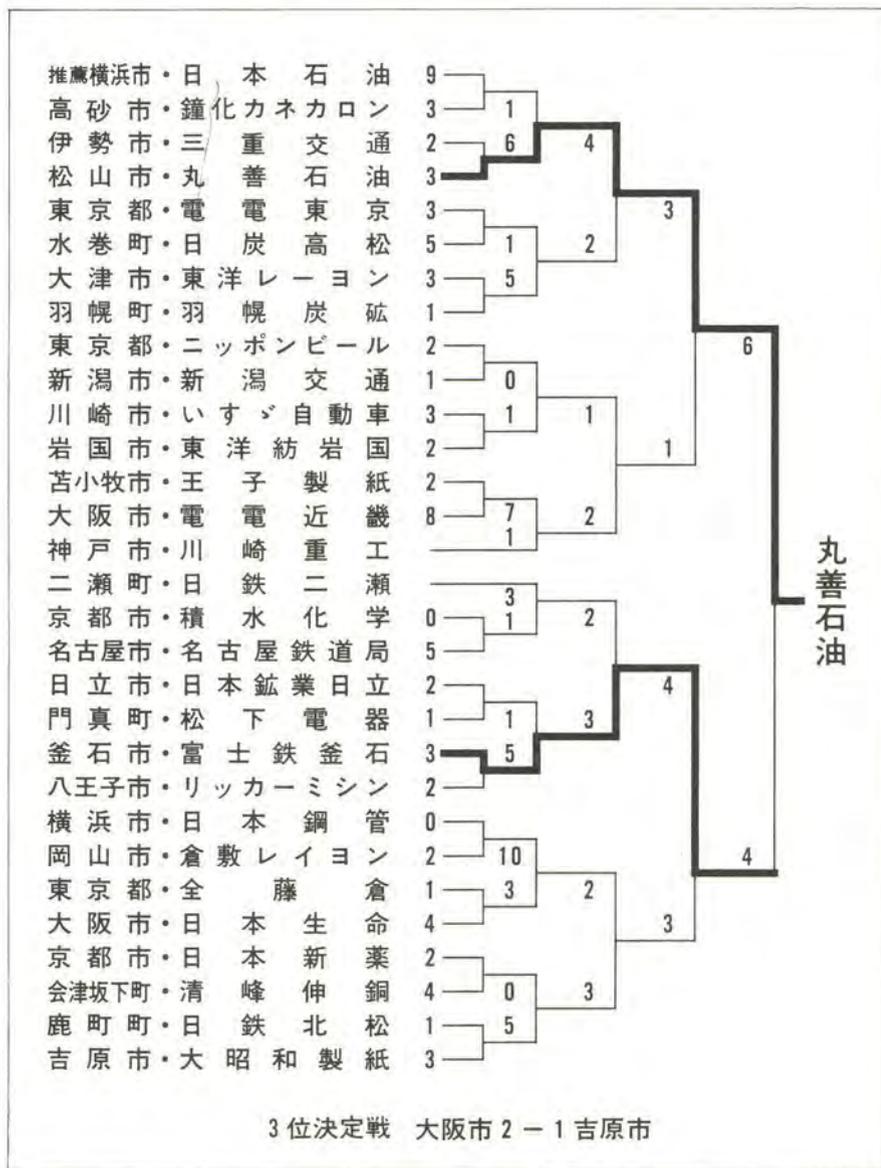
戦争が終わり、都市対抗が復活したとき、昔の仲間が集ってきて、ボールやグラブ、バットを持ち寄り、大会に参加したときのことも忘れられない。

今では考えられないだろうが、食糧不足が深刻な時代。上京するにも交通事情は最悪で、列車ダイヤなど乱れっぱなし。出発する汽車に乗るだけだったが、当時大阪鉄道局にいらした本田竹蔵さんのはからいで、メンバーは大阪駅に入る前の汽車に宮原操車場でひそかに乗り込んで東京まで20時間もかけてたどりついた。借りたバットでホームランしたのを覚えているが、そんな苦しいなかでも野球をできる喜びは大きかった。

話は戻るが、日本生命に入社したあとも、プロ野球への誘いは激しかった。当時の安田財閥の重鎮、安田善五郎さんから「絶対職業野球に行ってはいけない」とのご忠告を頂いたのも思い出すが、いまでも市岡さんから渡され、手許に残っている「株式会社大日本東京倶楽部」の創立趣意書、起業予算表、定款などをなつかしく見るにつけ、市岡中、早稲田、そして社会人野球と、好きな野球を続けられたのを誇りに思っている。

第30回大会 1959年(昭和34年)7月25日-8月3日・後樂園球場

優勝=松山市・丸善石油



旗は初めて瀬戸内海を渡った。

1回戦高砂市・鐘化カネカロンを破った日石は2回戦で同業の丸善と対戦した。日石は前回の橋戸賞投手、伊藤正敏がヒジ痛で投げられず、左腕・野村利則が先発、松山は右の西三男を起用した。ともにゆずらぬピッチングで1-1のまま延長戦。しかし21歳の西が尻上りの好投を続けたのに対し、27歳の野村は疲れがみえ、丸善は11回、四球に3長短打をからめ一挙に5点を奪い、日石2連覇の夢を打ちくたした。西の日本生命も2回戦で岡山市・倉敷レイヨン打線に、蔵文男ら3投手が11安打を浴び10点を奪われて敗退した。“横綱”が早々と姿を消した大会で特異な試合ぶりをみせたのが釜石。1回戦の八王子市・リッカーマシンに競り勝ち、2回戦日立市・日本鉱業日立に9回4点をあげて快勝。このあとも、高橋栄一、近藤功両投手のリレーで投手陣が頑張る、ベテラン出沢政雄や黒田幸夫、斎藤辰雄、佐藤圭一らの打線は9回に奇妙に爆発、準々決勝の二瀬町・日鉄二瀬戦、準決勝の吉原・大昭和製紙戦と、ともに9回に2点を奪って逆転勝ちに結びつけた。日石を倒した松山も西、村上公博両投手が好投、大津市・東洋レーヨン、準決勝では大阪市・近畿電電を破って快進撃をみせた。決勝は釜石の近藤、高橋を打ち込んだ松山が、西、村上のリレーで釜石を下したが、釜石の活躍ぶりは大会を大いに盛りあげ、チームに小野賞、補強(常磐炭鉱)で4番を打った32歳の出沢に久慈賞が贈られた。優勝した松山で投打に大活躍した西投手に橋戸賞が贈られた。

準決勝に勝ち残った吉原市・大昭和製紙、釜石市・富士鉄釜石、大阪市・電電近畿、松山市・丸善石油の顔ぶれをみると、これまでの都市対抗の勢力分野の様変わりを感じられ、東北と四国代表の決勝など、各地区のチーム力の接近を物語るものといえよう。

吉原はこれまでの大まかなチームカラーから堅実さを身につけ、準決勝で釜石の勢いに敗れたとはいえ、対岡山戦の逆転劇など大会を盛りあげた。初陣で堂々の3位となった大阪・電電近畿の活躍もみごとだった。

皇太子殿下(現天皇陛下)が初めて都市対抗をご観戦になり、大会第8日の8月1日、準々決勝の吉原市・大昭和製紙対岡山市・倉敷レイヨン戦を最後までご覧になった。

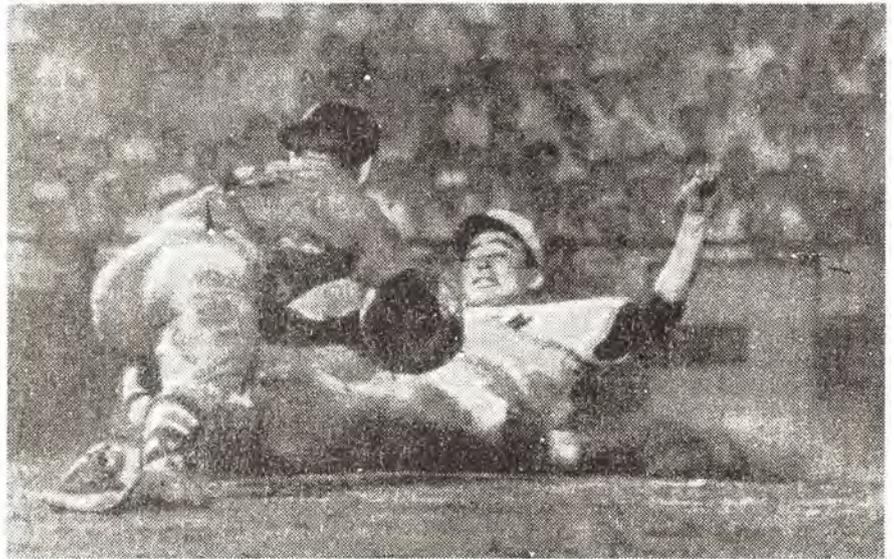
初めて四国へ黒獅子旗

30回の記念大会で前回優勝の日本石油の推薦出場がとくに認められ、史上最多の30チームが出場した。

推薦の日石と大阪・日本生命が東西の“横綱”とみられた大会だったが、波乱に次ぐ波乱で、決勝は松山市・丸善石油と釜石市・富士鉄釜石。ともに決勝まで進んだのは初めてだったが、松山が初優勝を果たし、四国としては昭和11年の第10回大会に徳島鉄道が出場して以来、24年目にして悲願を達成、黒獅子

松山市 (丸善石油)	0	0	1	0	3	0	2	0	0	6
釜石市 (富士鉄釜石)	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4

【松山市】	打安点振球	【釜石市】	打安点振球
③ 森	2 1 2 0 0 0	⑦ 後藤	4 0 0 1 0 0
④ 今村	0 0 1 0 0 0	④ 藤本	4 2 0 1 0 0
④ ③ 篠岡	4 0 0 2 0 0	⑧ 藤沢	4 1 0 0 0 0
⑦ 岡田	4 0 0 1 0 0	③ 出田	3 2 0 0 0 1
⑧ 山田	3 0 0 1 1 1	⑨ 黒田	4 2 1 0 0 0
⑧ 浅井	0 0 0 0 0 0	⑥ 佐藤	3 2 0 0 0 1
⑥ 赤井	4 1 0 1 0 1	⑤ 木場	3 0 1 0 0 0
② 後谷	4 1 0 1 0 1	② 落合	1 1 0 0 0 0
⑨ 西村	3 2 0 0 0 0	① 近藤	1 0 0 0 0 0
① 村上	2 1 2 0 0 0	① 北谷	1 0 0 0 1 0
⑤ 松田	1 1 1 0 0 0	① 南	0 0 0 0 0 0
	2 0 0 1 1 1	① 高橋	1 1 1 0 0 0
	29 7 6 7 2	① 橋田	1 0 0 0 1 0
犠併残盗失		② 山田	1 0 0 0 0 0
5 1 3 0 2		② 藤中	1 0 0 0 0 0
投手回	安振球責	② 高橋	1 0 0 0 0 0
西弟 5%	6 2 1 0	② 藤中	0 0 0 0 0 0
村上 4	5 2 1 2	② 藤中	1 0 0 0 0 0
		② 藤中	3 3 1 1 3 4 2
		安振球責	
		3 2 1 1	
		3 2 1 4	
		1 3 0 0	
		犠併残盗失	
		1 1 5 0 2	
		投手回	
		4 4 3	
		② 藤中	
		2	



決勝戦。松山は3回二死二塁に森が右前打、谷井がけん命なスライディングで生還、同点とする。捕手・落合

逆転の釜石、望み届かず

ともに前評判はそれほど高くなかったが、大会に入ってから勢に乗り、決勝に進出した異色の顔合わせ。

釜石が先制した。2回出沢、黒田が安打したチャンスに木場が右犠飛。松山は3回敵失に恵まれた一死二塁に森が映打して同点。松山は5回、後地が二塁打、谷井のバントが野選となって一・三塁。続く西弟が2-1と追い込まれながらカーブを左翼三塁打、さらに森のスライディングで3点を奪った。

釜石も6回吉本の安打と敵失で一・二塁と

すると、丸善は2番手に村上を起用。一死後釜石は黒田が中前適時打。このとき一塁走者斎藤が三塁に走り刺されたのは痛かったが、佐藤の安打で二死一・三塁になると、果敢な重盗を試み、黒田が還って1点差とした。

しかし松山は7回、谷井が三塁打を打ち、村上の適時打、バントとスクイズで2点を加えた。逆転につく逆転を演じて決勝まで進んだ釜石だけに最後まで激しい闘志を燃やし、9回には二死ながら二・三塁のチャンスをつくり、ここで代打・南が二塁左に内野安打。逆転の望みをかけたが後続を断たれ涙を飲んだ。

投打にわたる西弟の活躍は見事だったが、丸善の下位打線の充実ぶりも目を見張るものがあった。

M E M O

◇1試合4本塁打 2回戦の大阪市・日本生命対岡山市・倉敷レイヨン戦で大阪の吉塚正幸二塁手、永野元玄捕手、岡山の稲谷一人捕手、為房健遊撃手が本塁打を放った。史上3度目。また8回、稲谷、為房の1イニング2本塁打は4度目。

◇1試合個人4失策 2回戦の大阪・電電近畿と神戸・川崎重工の試合で大阪の辻本泰直遊撃手。3人目。

◇無得点最長試合14回 1回戦の川崎市・いすゞ自動車対岩国市・東洋紡岩国戦は延長15回、3-2で川崎が勝ったが、この試合14回終了まで両チームとも無得点で新記録。



岡田監督を胴上げして初優勝を喜ぶ松山・丸善石油ナイン

殿下もびっくり応援合戦

ナイトゲームで行われた吉原市・大昭和製紙対岡山市・倉敷レイヨンの準々決勝を皇太子殿下(現天皇陛下)が初めて観戦された。

大昭和応援団は、この夜のためにとっておきのチャッキリ節を披露。吉原からかけつけたお嬢さんたちがスゲ笠、紺ガスリに赤いタスキのいでたちで踊り、倉庫は岡山の桃太郎になむ、イヌ、サル、キジの大プラカードで対抗するなどスタンドもにぎやか。

皇太子殿下のご説明役をつとめた学習院大時代の同級生で、ニッポンビールの草刈広投手によると「初めは応援のすごさにとまどっておられたようですが、チャッキリ節が始まると、身を乗り出してご覧になっていた」とのこと。

東大時代野球部の外野手だった戸田康英東宮侍従が「都市対抗は大学野球と違って社会人や郷土を中心とした応援が見ものです。ダッグアウトの上で指揮している大昭和の応援団長は、浪曲の広沢虎造の息子です」とご説明すると、ニコリうなづかれたそうだ。



黒獅子旗を中心にグラウンドでファンの歓声に応える丸善石油の選手たち

好きな野球を続けた幸せ

釜石市・富士鉄釜石
出沢政雄一塁手
(常磐炭礦から補強)



長野・小諸商業から東急、いすゞ、古沢建設を経て25年、常磐炭礦入り、32歳で4番。9回逆転の釜石の原動力として大活躍、久慈賞に輝いた。現在いわき市議会議員。

都市対抗に初めて出たのは、鹿沼市の古沢建設時代の昭和25年(第21回大会)だった。しかし、その年の秋に移った常磐炭礦が長く、思い出も多い。

常磐からの出場は27年の第23回大会。初出場というので町を挙げて喜び、まだ石炭も掘れば売れた時代で、湯本温泉の芸者さんを総揚げして応援団を繰り出したほど。1回戦の相手は日本石油。東京六大学出身の選手が多く、ユニホームのマークも横文字の「カルテックス」とスマート。対抗心を大いに燃やし、延長11回の熱戦の末に7-6で勝った。二塁打2本を打ち、うち1本は決勝点をたたき出す一打だった。

30回大会は久慈賞をいただいた忘れられない大会。富士鉄釜石に補強され、一塁手をまかされた。1回戦のリッカーマシン戦で、のちに巨人入りした堀本律雄さんから、センターにランニング本塁打したし、準決勝の大昭和製紙戦では1点をリードされていた9回に同点二塁打した。このときは前日の試合で二盗したとき、左肩をひねって朝起きると腕があがらない。急いで医者に行って痛み止めの注射をうち、試合に出たのだが、やはり痛くて引っぱることができない。左打者の私は、はじめからレフトに流し打つことを考えていた。相手投手も二死一塁なので長打を警戒して外角に投げてきた。待ちましたとばかり左翼線にはじき返すことができた。

決勝では9回の追撃及ばず敗れはしたが、全試合安打で思いもよらない久慈賞受賞。選手、監督として11回出場。好きなことをずっとやれたのが一番幸せだった。

盛大に30回記念前夜祭

第30回記念大会の前夜祭が7月24日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で盛大に行われた。橋戸賞、久慈賞、小野賞の橋戸碩鉄、久慈次郎、小野三千磨3氏の遺族はじめ、関係者、ゆかりの人々が壇上に並び、30回連続して予選、本大会に出場した武田可一(51)、南安男(49)の両氏が特別表彰された。

武田さんは名古屋鉄道局のエースとして第1回大会からマウンドに立った。最後にプレートを踏んだのは昭和24年で42歳と息の長い選手生活を送り、昭和9年、米大リーグのベープ・ルースら一行が来日したときも26歳になっていながら好投。「名鉄に武田あり」と名を響かせた。今回は名鉄局の監督として出場だが「15回も本大会に出場しながら、優勝できなかったのが心残り」と語った。

南さんは昭和2年、長野 松本商業を卒業。松本機関区に就職して、この年から始まった都市対抗の地区予選に出場して以来、本大会に6度出場。快腕投手であり、マウンドに立たないときは内野手として強打を生かすなど活躍。第8回大会から3年連続して全大宮から本大会に出場、準決勝で優勝した東京倶楽部をあわやのところで追いつめたこともあった。

いつまでもプレーを続け、48歳まで東京鉄道局の投手として現役だった。表彰をうけ「都市対抗の10日間は1年のうちで一番楽しい時期です」とうれしそうだったが、都市対抗野球に半生以上を捧げた2人に、会場から割れるような拍手が起った。



炎天下で行われた開会式。30チームの選手整列

1回戦

推薦・横浜市(日本石油)

1 0 0 3 2 3 0 0 0 | 9
0 0 3 0 0 0 0 0 | 3

高砂市(鐘化カネカロン)

【横浜市】	打安点	【高砂市】	打安点
⑥ 北崎	4 1 1	⑥ 宮本	5 1 1
⑧ 菅中	4 2 2	⑦ 木下	4 3 1
⑤ 沼微	4 1 0	⑧ 島隆	3 0 1
④ 本多	4 1 0	③ 山本	4 1 0
4 薬野	0 0 0	⑧ 山本	4 0 0
② 水野	3 1 1	② 山松	2 0 0
2 田山	0 0 0	2 木村	2 0 0
② 中下	5 1 1	⑤ 東村	2 1 0
⑨ 中田	5 3 1	④ 野島	2 1 0
⑦ 中下	4 2 2	4 岡村	1 0 0
① 野上	1 0 0	H 野川	1 0 0
H 井藤	1 1 1	① 中根	1 0 0
1 伊藤	2 0 0	1 大田	1 1 0
	37139	H 西田	1 0 0

振球犠盗失残併 3483
9 6 2 0 2 9 0

投 手	回	安責	振球犠盗失残併	投 手	回	安責
野村	3	2 1	4 2 1 0 2 7 0	川	3	5 3
伊藤	6	6 0		根	2	6 3
				工	4	2 2
				大	2	2 2

▽本塁打 中山1号(中川) ▽三塁打 田中美
▽二塁打 北崎

1回戦

松山市(丸善石油)

1 0 0 0 0 0 0 1 1 | 3
0 0 0 2 0 0 0 0 0 | 2

伊勢市(三重交通)

【松山市】	打安点	【伊勢市】	打安点	
⑧ 山田	4 2 1	⑥ 福井	3 1 0	
③ 4 森	4 1 1	④ 青木	3 1 0	
⑦ 岡田	4 1 0	② 杉浦	3 0 0	
4 篠崎	3 1 0	2 吉田	1 0 0	
⑨ 山田	0 0 0	③ 村上	4 1 0	
4 赤谷	0 0 0	⑦ 上林	2 0 0	
⑥ 渡井	2 1 0	7 村	1 0 0	
⑨ H 赤谷	2 0 0	⑧ 西村	3 1 2	
H 渡井	0 0 0	⑤ 谷省	3 0 0	
4 今見	0 0 0	⑨ 山	3 0 0	
9 後西	4 0 1	① 横山	2 0 0	
① H 西	2 0 0	① 伊藤	2 0 0	
H 芥	1 1 0	1 脇	1 0 0	
R 芥	0 0 0		294 2	
① 村	1 0 0	振球犠盗失残併	3 2 0 0 0 2 1	
⑤ 松	2 0 0	投 手	回	安責
	297 3	伊藤	7	5 2
		脇	1	2 1

▽本塁打 山田重1号(伊藤) 西村省1号②(西弟)
▽二塁打 赤田

1回戦

東京都(電電東京)

0 0 0 1 0 1 0 0 1 | 3
1 3 1 0 0 0 0 0 X | 5

水巻町(日炭高松)

【東京都】	打安点	【水巻町】	打安点	
⑦ 黒柳	4 1 0	⑧ 八浪	3 0 0	
④ 大田	4 0 0	⑥ 江	4 0 0	
⑧ 鈴木	4 1 0	⑨ 常	4 2 1	
③ 飯山	4 2 1	④ 原	4 0 0	
③ R 秋	0 0 0	② 市	4 1 0	
⑥ 清	3 0 0	⑤ 上	3 1 1	
6 堀	1 1 1	③ 佐	2 0 0	
⑤ 大	4 1 0	3 木	0 0 0	
② 田	1 0 0	⑦ 尾	3 0 1	
2 大	2 0 0	① 田	1 0 1	
H 鶴	1 0 0	1 本	0 0 0	
① 前	1 0 0		284 4	
H 大	1 0 0	振球犠盗失残併	7 2 2 0 2 6 1	
1 比	1 0 0	投 手	回	安責
H 山	0 0 0	大	5	4 2
1 小	3 1 1	本	4	3 1
⑨ 佐	3 4 7 3			

▽本塁打 常盤1号(大川) 佐久間1号(大神) ▽二塁打 鈴木 黒柳 飯山 2 太田

1 回戦

大津市 (東洋レーヨン)
0 0 0 0 1 0 2 0 0 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
羽根町 (羽根炭鉱)

[大津市] 打安点
(5) 清水 4 1 2
(9) 山中野 3 0 0
(9) 小中野 1 0 0
(4) 小浜田 4 1 0
(7) 小片部 4 1 0
(3) 片堀青 3 0 0
(2) 堀青伊 4 2 0
(8) 藤橋 1 0 1
(6) 永本 0 0 0
(1) 永本 3 0 0
振球機盗失残併 316 3
投手回安責 3 3 2 1 1 8 1
投手回安責 橋本 1/2 2 0
投手回安責 永本 8/8 3 1

1 回戦

新潟市 (新潟交通)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
2 0 0 0 0 0 0 0 X | 2
東京都 (ニッポンビール)

[新潟市] 打安点
(8) 松野 1 1 0
(9) 丸山林 3 0 0
(2) 小太田 4 0 0
(5) 小太田 4 0 0
(3) 小太田 4 1 0
(7) 関川 3 0 0
(4) 福田中 3 0 0
(6) 長谷川 2 0 0
(1) 鈴木 1 0 0
振球機盗失残併 28 2 0
投手回安責 6 3 1 2 0 3 0
投手回安責 長谷川 5/5 4 2
投手回安責 鈴木 2/2 1 0

1 回戦

川崎市 (いすゞ自動車)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
岩国市 (東洋紡岩国)

[川崎市] 打安点
(6) 木村 6 1 0
(9) 原野 6 0 0
(8) 浜野 5 2 1
(5) 山藤 6 1 1
(7) 伊山 3 0 0
(7) 山藤 4 0 0
(2) 山藤 7 3 1
(3) 山藤 6 1 0
(4) 山藤 5 1 0
(1) 山藤 2 1 0
H R 0 0 0
1 1 3 0 0
振球機盗失残併 541 0 3
投手回安責 6 5 2 1 1 1 4 0
投手回安責 片岡 8/8 6 2
投手回安責 高橋 0 0 0

1 回戦

苫小牧市 (王子製紙)
1 0 0 0 0 0 1 0 0 | 2
0 4 2 0 1 0 1 0 X | 8
大阪市 (電電近畿)

[苫小牧市] 打安点
(7) 本間 3 0 0
(7) H 1 0 0
(8) 中松 0 0 0
(8) 青沼 3 1 0
(9) 高木 2 0 1
(5) 大藤 4 1 0
(3) 野田 3 0 0
(2) 小野 3 1 1
(1) 藤原 1 0 0
(1) 藤原 2 0 0
(1) H 2 0 0
(1) 長谷川 1 0 0
振球機盗失残併 28 3 2
投手回安責 1 1/2 3 1
投手回安責 佐藤 5/5 5 1
投手回安責 長谷川 1 0 0

1 回戦

京都市 (積水化学)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 4 0 0 X | 5
名古屋市 (名古屋鉄道局)

[京都市] 打安点
(6) 浜田 4 1 0
(8) 萩原 3 0 0
(1) 小田 0 0 0
(5) 小田 2 0 0
(9) 小田 1 0 0
(2) 種子田 4 2 0
(9) 河知 1 0 0
(9) 吉永 2 0 0
(3) 早水 4 0 0
(4) H 3 0 0
(1) 谷口 1 0 0
(1) 清藤 2 0 0
(8) 清藤 0 0 0
(1) 浜口 0 0 0
(1) 松岡 1 0 0
振球機盗失残併 31 5 0
投手回安責 7 4 1 0 1 9 0
投手回安責 清藤 4 2 1
投手回安責 清藤 1/1 4 3
投手回安責 山口 0 0 0
投手回安責 小川 2 2 0

1 回戦

門真町 (松下電器)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 2 0 0 X | 2
日立市 (日本鉱業日立)

[門真町] 打安点
(8) 倉森 5 2 0
(4) 河松 0 0 0
(4) 成瀬 2 0 0
(9) 成瀬 4 1 1
(7) 勝江 4 1 0
(6) 大佐 4 1 0
(5) 森川 3 1 0
(2) 森川 3 0 0
(1) H 1 1 0
(1) 根田 3 1 0
(1) H 0 0 0
振球機盗失残併 31 8 1
投手回安責 6 3 3 0 0 9 1
投手回安責 足立 8 9 2

1 回戦

釜石市 (富士鉄釜石)
1 0 2 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 2 0 0 | 2
八王子市 (リッカーマシン)

[釜石市] 打安点
(7) 後藤 4 0 0
(4) 藤本 4 1 0
(8) 吉高 4 2 1
(3) 吉高 4 3 2
(9) 出黒 3 1 0
(5) 南 2 0 0
(6) 佐藤 4 1 0
(2) 藤合 2 0 0
(2) H 1 0 0
(1) 藤合 3 0 0
振球機盗失残併 32 8 3
投手回安責 5 2 1 0 2 5 0
投手回安責 橋本 9 3 1

1 回戦

横浜市 (日本鋼管)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 1 0 0 0 0 0 0 X | 2
岡山市 (倉敷レイオン)

[横浜市] 打安点
(4) 鈴木 2 0 0
(4) 木島 2 0 0
(3) 鈴木 4 0 0
(8) 林原 4 3 0
(9) 小笠原 4 0 0
(6) 野村 4 1 0
(7) 小中 1 0 0
(7) 杉本 1 0 0
(1) H 1 0 0
(2) 上宮 2 0 0
(1) 野村 1 0 0
(7) 野村 2 0 0
(5) 佐藤 3 1 0
振球機盗失残併 32 5 0
投手回安責 3 1 0 0 1 6 0
投手回安責 野村 4 3 1
投手回安責 杉本 4 1 0

1 回戦

大阪市 (日本生命)
1 0 0 0 2 1 0 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
東京都 (全藤倉)

[大阪市] 打安点
(3) 国賀 5 1 0
(4) 賀塚 3 1 0
(5) 吉安 5 2 0
(8) 山藤 5 2 1
(7) 山藤 3 1 1
(9) 山藤 2 0 0
H 1 0 0
9 1 0 0
(2) 柳南 4 1 0
(6) 植村 3 0 0
(1) 植村 2 0 0
振球機盗失残併 34 8 2
投手回安責 11 5 1 0 1 9 1
投手回安責 植田 9 7 0

1 回戦

京都市 (日本新薬)

0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
1	0	0	0	2	1	0	0	×	4

会津坂下町 (清峰伸銅)

【京都市】	打安点	【会津坂下町】	打安点	
⑧	野口	⑤	林男	3 1 0
①	松田	⑨	小雁	4 2 1
④	井中	④	鹿野	4 1 0
⑦	西垣	③	熊野	4 1 1
⑨	三宅	⑧	林孝	4 0 0
③	大村	⑦	木下	1 0 0
②	長井	⑥	小原	3 0 0
②	三井	②	木下	4 1 1
⑤	福岡	①	山原	1 1 0
⑥	美馬	1	横笠	2 0 0
R	中山			30 7 3
5	大角			
①	山古			
8	古田			

振球機盗失残併 4 6 0 1 3 6 0
投手回安責 6 6 1
杉井 2 1 0

振球機盗失残併 5 3 2 2 1 7 0
投手回安責 4 3/4 2 0
横笠 原 4 3/4 2 1

▽三塁打 古田
▽二塁打 西垣 小林勇

1 回戦

鹿町町 (日鉄北浜)

0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
0	0	1	0	2	0	0	0	×	3

吉原市 (大昭和製紙)

【鹿町町】	打安点	【吉原市】	打安点	
⑥	宮越	④	志志	4 1 0
④	石川	⑤	馬丸	4 2 1
H	永山	⑦	有土	3 0 0
⑦	西上	⑨	徳徳	4 2 2
③	川内	⑧	長島	3 0 0
⑧	安河	③	竹川	2 0 0
⑨	川藤	⑥	合倉	2 0 0
⑤	川藤	②	本倉	3 0 0
②	山杉	①	H 山	0 0 0
①	大庭	1	西	1 0 0
1	大庭			2 0 0

振球機盗失残併 10 1 1 1 2 4 0
投手回安責 4 3/4 5 2
杉井 大庭 3 3/4 0 0

振球機盗失残併 3 3 1 3 0 5 1
投手回安責 3 3 2 1
山本 西 6 3 0

▽三塁打 宮越 徳丸▽二塁打 川上 2

2 回戦

東京都 (ニッポンビール)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	0	×	1

川崎市 (いすゞ自動車)

【東京都】	打安点	【川崎市】	打安点	
⑥	高島	⑥	村野	4 1 0
⑨	神本	⑦	木村	3 1 0
H	松本	⑦	山下	3 1 0
1	草刈	⑧	野山	3 1 0
1	望月	⑤	浜野	4 1 0
④	高古	②	岩本	3 1 1
⑤	平田	⑨	山本	3 0 0
R	大出	③	山本	3 0 0
⑦	大松	④	山本	3 1 0
⑧	堀内	①	白井	2 1 0
H	加藤	1	高橋	0 0 0
⑨	加藤			1 0 0
③	梶			30 7 1
H	井中			
②	高橋			
H	佐藤			
②	石山			
8	石山			

振球機盗失残併 13 4 3 1 0 7 0
投手回安責 5 4 1
草刈 2 1 0
高橋 2 2 0

振球機盗失残併 1 0 1 0 0 6 0
投手回安責 1 1 1 0
高橋 岡 2 2 2 0
高片 岡 1 1/4 0 0

▽本塁打 西山 1号② (北山)
▽二塁打 越野

2 回戦

松山市 (丸善石油)

0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	6
0	0	0	1	0	0	0	0	0	×	1

推薦・横浜市 (日本石油)

【松山市】	打安点	【横浜市】	打安点	
⑧	山田	⑥	北崎	5 2 4
③	山田	⑤	菅野	4 0 0
⑨	山田	⑤	中野	5 2 0
⑦	岡田	②	水野	5 2 0
④	岡田	③	中野	4 2 1
④	篠原	⑨	中野	5 1 0
⑥	今谷	⑦	中野	5 1 0
⑨	今谷	④	中野	5 1 0
3	森	①	中野	3 0 0
②	森	1	佐々木	0 0 0
2	西			41 11 1
①	西			
⑤	西			

振球機盗失残併 10 5 2 1 0 8 0
投手回安責 11 1 1
西 弟 11 1 1

振球機盗失残併 4 1 2 0 1 10 0
投手回安責 10 3/4 9 5
野村 佐々木 10 3/4 0 0

▽三塁打 山田重▽二塁打 西弟 岡田

2 回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0	0	0	0	1	0	0	0	4	5	
0	0	0	0	1	0	0	0	0	×	1

水巻町 (日炭高松)

【大津市】	打安点	【水巻町】	打安点	
⑤	清水	⑧	浪川	4 2 0
⑨	水田	H	八瀬	1 1 0
④	小田	⑥	江原	4 1 0
⑦	山部	⑨	常原	4 0 0
③	山部	④	市持	3 1 1
②	川川	④	上野	2 0 0
⑧	木藤	⑤	佐藤	4 1 0
⑥	藤橋	②	米坂	3 1 0
①	水本	③	米坂	4 1 0
1	水本	⑦	米坂	4 2 0

振球機盗失残併 7 1 1 2 3 4 0
投手回安責 2 1/2 3 0
水本 橋間 6 3/4 7 0

振球機盗失残併 9 3 0 1 2 11 0
投手回安責 5 3/4 3 1
米坂 倉本 5 3/4 2 3
米坂 倉本 1 1/4 1 1

▽本塁打 青木 1号 (竜) 伊藤 1号② (柿本)
▽二塁打 八浪 黒江 青木

2 回戦

神戸市 (川崎重工)

0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
3	0	0	0	2	0	2	0	×	7

大阪市 (電電近畿)

【神戸市】	打安点	【大阪市】	打安点	
⑦	甲林	④	宮地	5 0 0
⑥	林	⑦	野上	3 0 0
6	志西	⑧	石上	4 3 0
⑤	志西	8	野上	0 0 0
⑨	古元	⑨	石上	4 1 1
⑧	高橋	②	石上	0 0 0
③	高橋	③	石上	3 2 4
④	高橋	⑤	石上	4 1 1
②	高橋	⑤	石上	2 0 0
2	H 北	①	H 尾	0 0 0
①	H 北	1	H 尾	1 1 0
1	H 北	1	H 尾	0 0 0
H	H 北	⑧	H 尾	3 1 0
1	H 北	7	H 尾	1 0 0

振球機盗失残併 5 4 0 2 5 7 3
投手回安責 4 2 1
津山 出山 4 2/3 3 2
北野 出山 1 1 1 0
岡田 2 3 2

振球機盗失残併 6 3 3 2 5 6 2
投手回安責 6 6 1 0
吉井 江田 2 2 0 0
入江 田中 1 0 0 0

▽本塁打 西山 1号② (北山)
▽二塁打 越野

2 回戦

二瀬町 (日鉄二瀬)

0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
0	0	0	0	1	0	0	0	×	1

名古屋市 (名古屋鉄道局)

【二瀬町】	打安点	【名古屋市】	打安点	
⑧	山下	⑨	洪谷	3 0 0
④	吉大	⑥	中吉	2 0 0
⑤	大財	H	加石	1 0 0
③	富福	⑧	納海	3 0 0
⑨	福中	H	田海	1 0 0
⑦	村桐	⑤	内海	3 0 0
②	井	H	本野	1 0 0
②	井	④	本野	3 0 0
①	井	③	本野	3 0 0
		②	本野	2 1 0
		H	本野	1 0 0
		①	本野	0 0 0
		H	本野	2 0 0
		H	本野	1 0 0
		⑦	本野	2 0 0
		7	本野	0 0 0

振球機盗失残併 10 3 0 3 2 6 0
投手回安責 9 1 0

振球機盗失残併 11 2 1 1 2 3 2
投手回安責 8 5 1
上田 木 1 2 1

▽三塁打 財津 福沢
▽二塁打 山下 福沢

2 回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0	0	0	0	1	0	0	4	5	
0	1	0	0	0	0	0	0	×	1

日立市 (日本鉱業日立)

【釜石市】	打安点	【日立市】	打安点	
⑦	後藤	④	藤川	4 0 0
④	藤川	⑥	伊藤	3 0 0
⑧	藤川	4	村末	1 1 0
③	齋出	R	中村	0 0 0
⑨	齋出	⑧	片岡	4 0 0
⑤	齋出	⑤	中村	2 1 0
②	齋出	②	中村	4 1 0
H	齋出	⑨	中村	3 1 0
①	齋出	⑦	中村	2 0 0
1	齋出	①	中村	1 0 0
		1	中村	0 0 0

振球機盗失残併 4 2 1 0 0 6 1
投手回安責 1 1/4 2 1
藤川 齋出 7 3/4 2 0

振球機盗失残併 6 3 1 1 3 3 0
投手回安責 5 3/4 3 0
齋出 西 2 2 3 1
増西 齋出 2 3/4 1 0

▽二塁打 原 後藤

2 回戦

大阪市 (日本生命)

1	0	0	0	0	1	0	1	3	
0	0	5	0	0	3	0	2	×	10

岡山市 (倉敷レイヨン)

【大阪市】	打安点	【岡山市】	打安点	
③	国吉	⑧	川落	4 1 3
④	国吉	⑦	川落	1 0 0
⑤	国吉	⑥	房松	4 1 2
⑧	国吉	③	高松	5 1 1
⑨	国吉	⑨	高松	4 3 1
⑦	国吉	⑦	高松	4 0 0
7	国吉	④	高松	4 0 0
H	国吉	⑤	高松	4 1 0
②	国吉	②	高松	3 2 1
⑥	国吉	①	高松	0 0 0
①	国吉	1	高松	4 2 0
H	国吉			37 11 8
1	国吉			
H	国吉			
1	国吉			

振球機盗失残併 4 3 0 1 3 6 0
投手回安責 2 1/4 3 3
酒井 大原 3 5 3
大原 2 3/4 3 2

振球機盗失残併 5 1 1 0 1 5 0
投手回安責 1 1 2 1
栗本 栗本 8 4 2

▽本塁打 吉塚 1号 (前川) 永野 1号 (栗本)
▽二塁打 稲谷 1号 (大原) 為房 1号 (大原)
▽三塁打 川田▽二塁打 山本

2 回戦

吉原市 (大昭和製紙)

0	2	0	0	0	3	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

会津坂下町 (清峰伸銅)

【吉原市】	打安点	【会津坂下町】	打安点
④	志馬屋 4 0 0	⑤	小林 勇 4 0 0
⑤	志馬屋 5 1 1	⑥	寺部 3 0 0
⑥	志馬屋 2 0 0	⑦	小野 1 1 0
⑦	志馬屋 2 0 0	⑧	野熊 3 1 0
⑧	志馬屋 3 1 0	⑨	野熊 3 0 0
⑨	志馬屋 3 1 2	⑩	野熊 3 0 0
⑩	志馬屋 3 1 1	⑪	野熊 3 0 0
H	志馬屋 1 0 0	⑫	野熊 2 0 0
3	志馬屋 0 0 0	⑬	野熊 2 0 0
6	志馬屋 3 1 0	⑭	野熊 2 0 0
②	志馬屋 3 2 1	⑮	野熊 2 0 0
①	志馬屋 2 0 0	⑯	野熊 1 0 0
1	志馬屋 0 0 0	⑰	野熊 2 7 2

振球機盗失残併 317.5

投手 回 安責
 吉原 10 9 1
 会津 8 10
 大佐 1 10

▽三塁打 鹿野 雁部
 ▽二塁打 長谷川 徳丸

準々決勝

大津市 (東洋レーヨン)

1	0	0	0	0	1	0	0	2
0	0	0	4	0	0	0	0	4

松山市 (丸善石油)

【大津市】	打安点	【松山市】	打安点
⑤	清水 4 2 0	③	森 2 0 0
⑥	中山 4 3 0	④	渡 0 0 0
⑦	中野 0 0 0	⑤	渡 0 0 0
⑧	小野 4 0 0	⑥	今村 1 0 0
⑨	小野 4 1 1	⑦	今村 4 0 0
⑩	小野 0 0 0	⑧	今村 1 0 0
⑪	小野 4 2 0	⑨	今村 3 0 0
⑫	小野 4 0 0	⑩	今村 4 2 2
⑬	小野 3 2 1	⑪	今村 4 1 0
⑭	小野 3 0 0	⑫	今村 3 1 0
⑮	小野 1 0 0	⑬	今村 3 2 2
⑯	小野 1 0 0	⑭	今村 3 1 0
⑰	小野 0 0 0	⑮	今村 2 8 7

振球機盗失残併 331.0

投手 回 安責
 大津 5 0 1 0 4 2
 松山 3 3 3 3 3 3
 永本 3 3 3 3 3 3
 本井 1 0 0

▽本塁打 赤田
 1号② (永橋)
 ▽二塁打 後地 西弟

準々決勝

大阪市 (電電近畿)

0	0	0	0	0	1	0	1	2
1	0	0	0	0	0	0	0	1

川崎市 (いすゞ自動車)

【大阪市】	打安点	【川崎市】	打安点
④	宮地 4 0 0	⑥	木村 4 0 0
⑤	宮地 4 1 0	⑦	木村 3 1 0
⑥	宮地 3 1 1	⑧	山伊 0 0 0
⑦	宮地 0 0 0	⑨	山伊 0 0 0
⑧	宮地 2 0 0	⑩	山伊 0 0 0
⑨	宮地 3 1 1	⑪	山伊 3 1 1
⑩	宮地 3 1 0	⑫	山伊 1 0 0
⑪	宮地 2 0 0	⑬	山伊 0 0 0
⑫	宮地 3 1 0	⑭	山伊 2 0 0
H	宮地 1 0 0	⑮	山伊 1 0 0
5	宮地 1 1 0	⑯	山伊 1 0 0
①	宮地 1 1 0	⑰	山伊 1 0 0
H	宮地 1 1 0	⑱	山伊 1 0 0
R	宮地 0 0 0	⑲	山伊 1 0 0
1	宮地 0 0 0	⑳	山伊 1 0 0
H	宮地 1 1 0	㉑	山伊 1 0 0
1	宮地 1 0 0	㉒	山伊 1 0 0
⑧	宮地 3 0 0	㉓	山伊 1 1 0

振球機盗失残併 307.2

投手 回 安責
 大阪 7 3 2 2 1 6 1
 川崎 5 3 1
 吉村 2 0 0
 入井 2 1 0

▽本塁打 越野 1号 (片岡)
 ▽二塁打 浜野

準々決勝

釜石市 (富士鉄釜石)

0	0	0	0	0	0	1	2	3
0	0	0	2	0	0	0	0	2

二瀬町 (日鉄二瀬)

【釜石市】	打安点	【二瀬町】	打安点
⑦	藤本 4 2 0	⑧	山下 4 1 0
⑧	藤本 3 1 0	⑨	山下 3 0 0
⑨	藤本 0 0 0	⑩	山下 2 0 0
⑩	藤本 4 2 0	⑪	山下 1 0 0
⑪	藤本 4 1 1	⑫	山下 3 0 0
⑫	藤本 4 1 0	⑬	山下 4 0 0
⑬	藤本 4 0 0	⑭	山下 3 0 0
⑭	藤本 3 1 0	⑮	山下 3 0 0
⑮	藤本 1 1 0	⑯	山下 3 2 0
⑯	藤本 1 0 0	⑰	山下 2 1 0
⑰	藤本 1 0 0	⑱	山下 1 0 0
⑱	藤本 1 0 0	㉑	山下 0 0 0
H	藤本 1 0 0	㉒	山下 2 9 4
1	藤本 0 0 0	㉓	山下 2 9 4

振球機盗失残併 329.1

投手 回 安責
 釜石 1 1 0 0 1 3 1
 二瀬 4 4 4 4 4 4
 手 回 安責
 釜石 8 10
 二瀬 1 10

▽三塁打 後藤
 ▽二塁打 山下

準々決勝

岡山市 (倉敷レイヨン)

0	0	2	0	0	0	0	0	2
1	0	0	0	0	1	0	1	3

吉原市 (大昭和製紙)

【岡山市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑧	坂房 4 2 0	④	志馬屋 4 0 0
⑨	坂房 4 1 2	⑤	志馬屋 4 2 0
⑩	坂房 4 0 0	⑥	志馬屋 1 0 0
⑪	坂房 4 1 0	⑦	志馬屋 3 0 0
⑫	坂房 4 1 0	⑧	志馬屋 2 0 1
⑬	坂房 4 0 0	⑨	志馬屋 4 1 0
⑭	坂房 2 0 0	⑩	志馬屋 4 1 0
⑮	坂房 1 0 0	⑪	志馬屋 4 2 2
⑯	坂房 3 0 0	⑫	志馬屋 3 0 0
⑰	坂房 3 0 0	⑬	志馬屋 2 0 0
⑱	坂房 3 0 0	⑭	志馬屋 2 0 0
⑲	坂房 3 0 0	⑮	志馬屋 0 0 0
⑳	坂房 3 0 0	⑯	志馬屋 2 0 0
㉑	坂房 3 0 0	㉑	志馬屋 0 0 0

振球機盗失残併 305.2

投手 回 安責
 岡山 4 3 0 1 1 4 0
 吉原 6 1 1 2 0 5 0
 本 8 6 2
 房 2 2 ② (西)

3位決定戦

吉原市 (大昭和製紙)

0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	0	1	0	0	0	0	0	1

大阪市 (電電近畿)

【吉原市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑤	馬谷 4 0 0	④	宮地 1 0 0
⑥	馬谷 4 0 0	⑤	宮地 2 0 0
⑦	馬谷 4 0 0	⑥	宮地 3 2 0
⑧	馬谷 4 1 0	⑦	宮地 4 1 1
⑨	馬谷 3 1 0	⑧	宮地 3 0 0
⑩	馬谷 1 0 0	⑨	宮地 0 0 0
⑪	馬谷 1 0 0	⑩	宮地 1 0 0
⑫	馬谷 2 1 0	⑪	宮地 0 0 0
⑬	馬谷 3 0 0	⑫	宮地 4 0 0
⑭	馬谷 2 1 0	⑬	宮地 4 2 1
⑮	馬谷 1 1 0	⑭	宮地 3 0 0
⑯	馬谷 0 0 0	⑮	宮地 2 1 0
⑰	馬谷 2 0 0	⑯	宮地 1 0 0
⑱	馬谷 0 0 0	㉑	宮地 1 0 0
㉑	馬谷 3 1 5	㉑	宮地 0 0 0

振球機盗失残併 201.1 4 0

投手 回 安責
 吉原 2 0 1 1 4 0
 大阪 4 2 2 3 2 7 0
 手 回 安責
 吉原 0 0 0
 大阪 7 5 1
 大 1 1 1
 浜田 1 1 1 (大森)
 風間 1 1 1 (大森)
 辻本 1 1 1 (大森)
 越野 1 1 1 (大森)

準決勝

松山市 (丸善石油)

0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

大阪市 (電電近畿)

【松山市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑨	谷見 2 0 0	④	宮地 4 0 0
⑩	谷見 1 0 0	⑤	宮地 4 2 0
⑪	谷見 0 0 0	⑥	宮地 4 3 0
⑫	谷見 2 0 0	⑦	宮地 3 0 0
⑬	谷見 1 0 0	⑧	宮地 4 1 1
⑭	谷見 4 2 1	⑨	宮地 3 0 0
⑮	谷見 4 1 0	⑩	宮地 1 0 0
⑯	谷見 4 2 1	⑪	宮地 1 0 0
⑰	谷見 1 0 0	⑫	宮地 1 0 0
⑱	谷見 3 1 1	⑬	宮地 1 0 0
⑲	谷見 1 0 0	⑭	宮地 1 0 0
㉑	谷見 2 2 0	⑮	宮地 1 0 0
㉒	谷見 2 0 0	⑯	宮地 1 0 0
㉓	谷見 1 0 0	㉑	宮地 0 0 0
H	谷見 2 0 0	㉒	宮地 1 1 0
1	谷見 0 0 0	㉓	宮地 0 0 0

振球機盗失残併 307.3

投手 回 安責
 松山 5 2 1 1 0 3 0
 大阪 7 1 1 1 0 6 0
 手 回 安責
 松山 7 7 1
 大阪 2 0 0
 西 弟 2 0 0

▽二塁打 西山 越野
 岡田 赤田 藤尾

準決勝

釜石市 (富士鉄釜石)

1	0	0	0	1	0	0	2	4
0	1	0	0	0	2	0	0	3

吉原市 (大昭和製紙)

【釜石市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑦	藤本 4 1 1	④	志馬屋 4 0 0
⑧	藤本 4 0 0	⑤	志馬屋 4 1 0
⑨	藤本 0 0 0	⑥	志馬屋 2 0 0
⑩	藤本 4 1 0	⑦	志馬屋 3 0 0
⑪	藤本 4 1 1	⑧	志馬屋 3 1 0
⑫	藤本 4 3 1	⑨	志馬屋 3 1 1
⑬	藤本 4 2 1	⑩	志馬屋 1 0 0
⑭	藤本 2 1 0	⑪	志馬屋 3 0 0
⑮	藤本 2 0 0	⑫	志馬屋 3 0 0
⑯	藤本 1 0 0	⑬	志馬屋 0 0 0
⑰	藤本 2 0 0	⑭	志馬屋 1 0 0
⑱	藤本 1 0 0	⑮	志馬屋 2 1 0
H	藤本 0 0 0	⑯	志馬屋 0 0 0
2	藤本 3 2 9	㉑	志馬屋 3 0 4

振球機盗失残併 329.4

投手 回 安責
 釜石 4 0 1 0 1 2 0
 吉原 9 1 2 1 1 3 1
 手 回 安責
 釜石 7 2 1
 吉原 2 2 0
 近高 2 2 0

▽本塁打 後藤 1号 (西)
 ▽二塁打 佐藤 出沢 黒田



松山市

(丸善石油)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

釜石市

(富士鉄釜石)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

東京都

(ニッポンビル)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

川崎市

(いすゞ自動車)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

推薦・横浜市

(日本石油)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

坂下町

(清峰伸銅)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

東京都

(電電東京)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

吉原市

(大昭和製紙)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

小牧市

(王子製紙小牧)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

日上市

(日本鋳業日立)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

東京都

(全議倉)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

新潟市

(新潟交通)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

幌町

(羽幌炭礦)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

八王子市

(リッカーマシン)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

横浜市

(日本鋼管)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

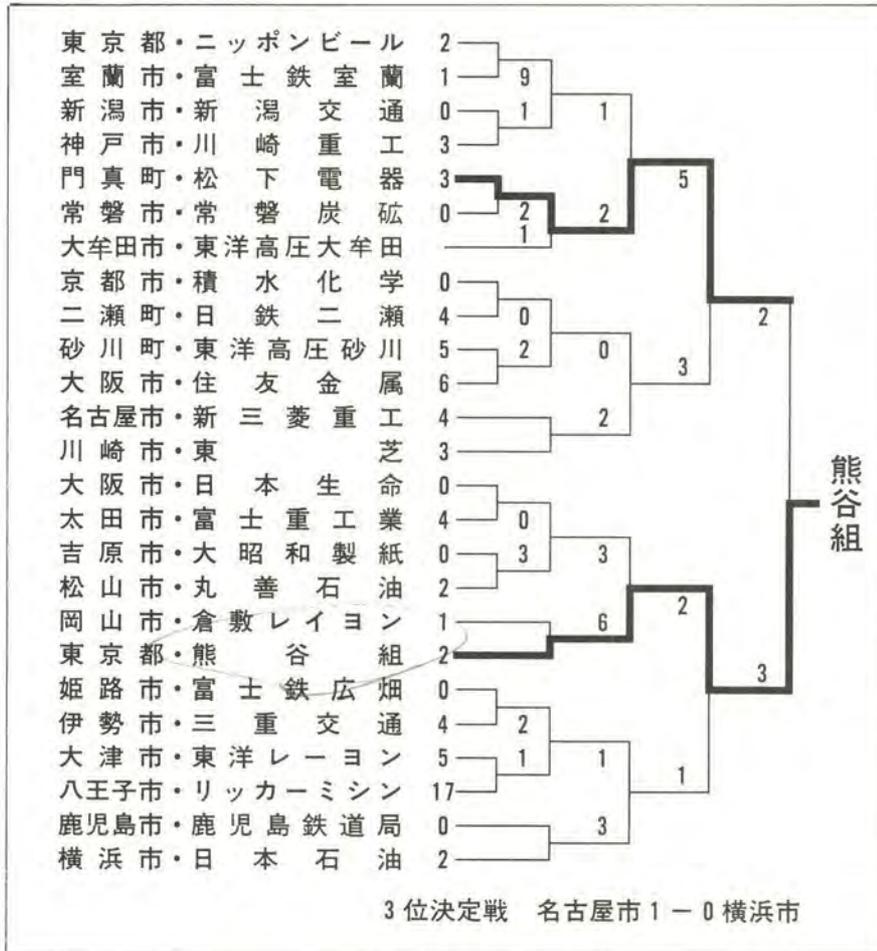
伊勢市

(三重交通)

大高高大... 監督 投手... 捕手... 内野... 外野...

第31回大会 1960年(昭和35年)7月30日-8月8日・後樂園球場

優勝=東京都・熊谷組(3年ぶり2回目)



初顔わずか1チームだけ

25チームが参加、9年連続の吉原市・大昭和製紙を筆頭に、14チームが連続出場で、初顔は川崎市・東芝1チームだけだった。名門、強豪チームがしのぎをけずる激戦が繰返され、東京都・熊谷組が勝負強い試合運びで3年ぶり2度目の栄冠に輝いた。熊谷組は駒大



決勝。10回東京は島津の安打で高林、決勝のホームイン

のエース橋本時男、立大で鳴らした高林恒夫外野手が加わり、補強選手も含めて層の厚い強味はあったが、選手の力をフルに引き出した大沢貞義監督の采配は見事で、小野賞を受賞した。

東京予選を終わったあと、大沢監督は、東京鉄道局、大和証券、明電舎から、斎藤実、野口勝治、村上俊次、黒岩弘の4投手を補強した。

2回戦の岡山市・倉敷レイヨン戦は橋本-村上-斎藤と投手をつなぎ、8回中野憲一遊撃手の二塁打で決勝点を奪い2-1で勝ち上がった。準々決勝は、前回の優勝チーム松山市・丸善石油との対戦だったが、またも村上-斎藤-橋本のリレーで快勝した。そして準決勝は3度目の優勝を目指す横浜市・日本石油。事実上の決勝ともいわれた。横浜はエース佐々木吉郎に加え、日本鋼管から杉木和喜代、野村昭博。打線も北崎健二、本多秀男、牧野宏、中山菅雄、中山歳夫らに、やはり日本鋼管の主軸を補強して充実しきっていた。

先発投手はともに意表をついたものだった。東京は初登板の速球派・野口、横浜は29回大会の橋戸賞男の経験を買って伊藤正敏。東京は1回、中野憲、望月教治の連安打と犠飛、高林の適時打です早く2点を奪ったが、横浜は杉本、水津正と小刻みな投手リレーで東京の追加点を阻む一方、4回水野正雄が二塁打。東京は橋本をマウンドに送ったがスイッチヒッターの七島が右打席に入り直して中前タイムリー、1点差と追った。日石はさらに野村から佐々木と継ぎ、佐々木の速球が東京打線を沈黙させた。そして9回、日石は北崎、本多の安打と敵失で無死満塁。熊谷はここで村上を救援させた。日石は4番・牧野以下の中軸打線に逆転の夢をかけたが、村上はこの大ピンチを3者連続三振で切り抜けた。

門真町・松下電器との決勝は鐘化から補強の松浦三千男投手に苦しみながら、延長10回、高林の5本目の安打を生かし、マウンドには1度も立たなかった28回大会の橋戸賞投手、島津四郎が代打で決勝打を放ち、サヨナラ勝ちに結びつけた。

橋戸賞は東京・高林外野手が首位打者賞(16打数10安打、6割2分5厘)と併せて受賞、久慈賞は門真・松浦投手に贈られた。

門真町 (松下電器)	0 0 0 1 0 0 1 0 0 0	2
東京都 (熊谷組)	0 1 1 0 0 0 0 0 0 1	3

門真町	打安点振球	東京都	打安点振球
⑧ 西岡	5 1 0 1 0	⑥ 中野	5 0 0 1 0
⑥ 宮脇	5 1 0 0 0	⑤ 望月	4 2 0 0 1
⑦ 大江	4 0 0 1 0	④ 古田	5 1 0 0 0
③ 山本	3 0 0 1 1	⑦⑧ 高林	5 5 2 0 0
⑨ 羽根	1 0 0 0 0	⑨ 江野	3 1 0 0 0
H 勝部	1 1 1 0 0	2 吉田	4 2 0 0 1
9 成瀬	2 0 0 0 0	③ 伊東	3 0 0 0 1
④ 木村	4 1 0 0 0	H 島津	1 1 1 0 0
⑤ 佐藤	4 0 0 0 0	⑧ 加藤	1 0 0 0 0
② 森川	4 1 0 0 0	8 山本	1 0 0 1 0
① 北畑	1 0 0 1 0	1 橋本	2 1 0 0 0
1 松浦	3 2 1 0 0	① 村上	1 1 0 0 0
	37 7 2 4 1	2 中野	1 0 0 0 0
		7 山之口	1 0 0 0 0

犠併残盗失	0 0 6 1 0
投手回	打安振球責
北畑	2 ½ 4 0 0 2
松浦	7 10 2 3 1

犠併残盗失	3 0 1 2 1 0
投手回	打安振球責
村上	4 ¾ 3 3 1 1
橋本	5 ½ 4 1 0 1

▽本塁打 高林1号(北畑) ▽二塁打 宮脇 勝部 森川
▽3時間4分

高林、大当たり5安打

ともに苦しい試合を勝ち抜いてきた門真町・松下電器と東京都・熊谷組。優勝を争うにふさわしい好ゲームを展開した。

東京は2回、高林が北畑のカーブを左翼席に打ち込んで先制。3回にも村上、望月が安打。門真は松浦をマウンドに送ったが、高林が内角球につまりながら中前に打ち返し2点目をあげた。

東京・村上の速球に押されて3回まで3者凡退の松下は4回一死後、宮脇が二塁打、代打・勝部も二塁打して1点。松浦はよく立ち直り速球と落ちる球で東京打線を抑える一方、7回には二死から森川が左翼二塁打、松浦が遊撃右に内野安打、森川が判断よくホームについて同点に追いついた。



橋戸賞受賞の東京・高林

東京は8回、高林からの3安打で無死満塁の絶好機をつくったが、スクイズを失敗、松浦懸命の力投に後続を断られた。

橋本も左腕特有のクセ球で門真打線を抑え、延長にもつれ込んだが、10回東京は大当たり高林が5本目の安打で出塁、バントで送ると代打・島津が遊撃左を破る決勝打を打ち高林を迎え入れてサヨナラ勝ち。

橋本、松浦両リリーフの好投で息づまる熱戦だった。



ハワイ遠征した熊谷組中心の全日本チーム

ルーキーは毎試合安打

橋戸賞に輝いたのは、立大から入社したルーキー、高林恒夫外野手。決勝の対門真町・松下電器戦では2回に先制本塁打を打ち込み、3回にタイムリー、そして延長10回この日5本目の安打で出塁、サヨナラのホームを踏んだ。決勝の全得点にからんだだけでなく、2回戦の岡山市・倉敷レイオン戦では先制の口火を切る快打、次の松山市・丸善石油戦も先制打と追い打ちの痛打。準決勝の横浜市・日本石油戦は先制攻撃の一翼をになうなど、全試合に安打を放って16打数10安打で首位打者賞にも輝いた。当然の橋戸賞だった。立大時代から走攻守三拍子揃った好選手として神宮の人気を集めていたが、社会人1年目の晴れ舞台での大活躍はさすが。

高林は「六大学のリーガー戦と違って一本

勝負はどの試合もきびしいですね」とさり気なく優勝をふり返り感想を述べたが、小さな体で大きな仕事をやりとげた充実感あふれる顔つきだった。

MEMO

◇1イニング8安打、6連続安打

1回戦の八王子市・リッカーマシン対大津市・東洋レーヨン戦の5回、八王子は1イニング8安打の最多安打を記録した。うち7番・上村八郎一塁手から、小辻英雄捕手、黒木貞夫投手、猪熊正治二塁手、植田光和遊撃手、斎藤辰雄中堅手が連続6安打の新記録を樹立した。

◇満塁本塁打 二回戦の神戸市・川崎重工対東京都・ニッポンビール戦の3回二死満塁に、東京・松山護左翼手は都出弘投手から左翼席に本塁打を打ち込んだ。史上5人目。

天に昇る思いの橋戸賞

東京都・熊谷組
高林恒夫外野手



昭和35年立大から熊谷組に入社。新人で4番を打ち、2度目の優勝に貢献、橋戸賞を受賞。同年プロ入り、巨人、国鉄、産経で5年。現在家業を継ぎ、東洋堂書店社長。

立教の3年の時に熊谷組から誘いを受け、熊谷なら都市対抗でも優勝できると、入社を心に決めていた。

ところがすごいメンバーが揃っているのに、春の大会から試合は負けてばかり。「これでだいじょうぶなのか」の不安があったが、さすがに先輩たちの調整ぶりはすばらしく、予選が近づくと調子をあげて代表になった。

初戦の倉敷レイオン戦で中野憲一さんが決勝打を打ち、一番苦しかった準決勝の日本石油戦は、1回の無死二・三塁に古田昌幸さん

が犠牲フライ、そのあと私が中前にタイムリーして2点を取った。でもそのあと抑えられ、1点差で迎えた9回、日石に無死満塁とつめ寄せられた。この時は神にも祈るような気持ちだったが、リリーフの村上俊次投手(大和証券)が、日石の4、5、6番打者を3者連続三振。あ然とした。

そして、これで優勝だと思ったのを覚えている。みんな個性的で鼻っ柱が強く、合宿の風呂の中で「きょうはオマエが殊勲者だが、次はオレがなるからな」と張り合ったりしたのもいい思い出だ。

活躍した選手はたくさんいたが、松下電器との決勝の第1打席で私はカーブを左翼に先制本塁打。これが利いて次の打席からは、シュートと思えばシュート、カーブと読めばカーブとピンピン当り安打の連続。延長10回、5本目の安打を打ち、サヨナラのホームを踏んだとき、「橋戸賞を取った」と思った。先輩たちにひっぱられたともいえるが、閉会式で名前を呼ばれた時は、胸が熱くなり、天にも昇る思いだった。

これでプロでもやれる自信が湧いたが、都市対抗は私の野球人生の最高の喜びだ。



大会にそなえて実戦練習にはげむ審判団

「全日本」ハワイ遠征

優勝した熊谷組を中心に、都市対抗で活躍した優秀選手を加えた「全日本」が編成され、9月9日からハワイ遠征が行なわれた。メンバーは次の通り。

- 監督 大沢 貞義 (熊谷組)
 投手 橋本 時男 (熊谷組)
 村上 俊次 (大和証券)
 松浦三千男 (鐘淵化学)
 高橋栄一郎 (ニッポンビール)
 捕手 中野 貞 (熊谷組)
 種茂 雅之 (丸善石油)
 内野 伊東 昌昭 (熊谷組)
 古田 昌幸 (熊谷組)
 本多 秀男 (日本石油)
 望月 教治 (熊谷組)
 北崎 健二 (日本石油)
 中野 憲一 (熊谷組)
 外野 高林 恒夫 (熊谷組)
 加藤 幸一 (熊谷組)
 江野沢浩市 (熊谷組)
 西岡 雄二 (松下電器)
 吉田 英司 (東鉄局)

12回まで1安打無四球

東京六大学で活躍した選手を揃え、第27、29回大会に優勝、この大会でもV候補の一角だった横浜市・日本石油を、初戦で最後まで苦しめ抜いたのが鹿児島市・鹿児島鉄道局。地元高校出の選手で固めた鹿鉄局だが、エース森山義親が横浜打線をほんろうした。長身からの速球を主体にカーブ、ナックルボール

を自在に投げ込み、12回までわずか1安打無四球。

昭和31年のサン大会であれよあれよと勝ち進み、決勝で日石を破り優勝した鹿鉄局の主戦で、その時は“森山旋風”と驚かせたが、まさしくそれを思い出させるピッチング。

12回の裏、鹿児島は二死満塁とサヨナラのチャンスだったが、横浜も必死で防ぎ、13回横浜は代打・水野和俊が殊勲打を打ち、やっとの思いで辛勝、サン大会の仇をうった。「最後は速球を狙い打たれた。勝ちたかったけど、13回で力が尽きた感じ。日石はさすがに強い」との森山の言葉はさわやかだった。

9回2死、快記録消えた

前年度の優勝投手で橋戸賞に輝いた松山市・丸善石油・西三男投手がまたもすばらしい快投を演じた。1回戦の対大昭和製紙戦。強打の吉原打線を相手に、外角低めに伸びのある速球を投げ込み、カーブをおり混ぜて勝負球は内角へのシュート。5四球を出したものの、9回二死までノーヒット、三塁も踏ませなかった。あと1人うちとれば史上4人目のノーヒットノーランを完成したのだが、四番・浦部の二塁左へのゴロは、懸命の一塁送球も間一髪セーフで内野安打となり快記録は消えた。これで気落ちしたのか、次の代打・徳丸に死球を与え、村上と代って降板。完投も逃したが、村上がピシヤリと抑え、みごとな“完封リレー”となった。



大沢監督を高々と胴上げ、2回目の優勝に歓喜する東京・熊谷組ナイン

1回戦

室蘭市 (富士鉄室蘭)

0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	1	0	0	0	1	0	0	×			2

東京都 (ニッポンビール)

【室蘭市】	打安点	【東京都】	打安点
⑨ 栗田	3 1 1	⑥ 高島	3 0 0
⑥ 西岡	3 0 0	⑧ 神野	3 2 1
H R	1 0 0	③ 梶	3 0 0
⑧ 有青	0 0 0	⑤ 平出	3 0 0
③ 柳邊	3 2 0	⑦ 松山	0 0 0
⑦ 島村	4 0 0	④ 堀内	3 0 0
② 中松	3 0 0	⑨ 高橋	3 2 1
⑤ 安宮	2 0 0	④ 藤	3 0 0
④ 稲川	2 0 0	② 高橋	3 1 0
① 鶴	1 0 0	① 高橋	1 0 0
H	1 0 0		25 5 2

振球機盗失残併 5 4 1 2 1 3 0

投手回安責 8 5 2

投手回安責 8 5 2

▽本塁打 堀内1号 (稲川)

1回戦

京都市 (積水化学)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	3	0	0	1	×		4

二瀬町 (日鉄二瀬)

【京都市】	打安点	【二瀬町】	打安点
⑥ 浜田	4 1 0	⑦ 栗原	4 1 0
⑧ 松原	2 0 0	⑥ 大原	2 1 0
⑧ 早大	2 0 0	⑤ 津森	2 0 0
⑦ 早大	4 1 0	③ 大財	4 2 2
③ 早大	4 2 0	⑧ 中村	1 0 1
④ 早大	4 1 0	② 橋本	1 0 1
⑤ 早大	4 0 0	④ 橋本	3 1 0
⑨ 早大	3 2 0	4 4	1 0 0
H ②	1 0 0	⑨ 古山	2 0 0
② 2	2 0 0	⑨ 井上	2 1 0
① 1	2 1 0	① H	1 0 0
1 H	0 0 0	1 藤	1 1 0
H 1	1 0 0		2 0 0
1 山	0 0 0		267 4

振球機盗失残併 5 6 4 2 1 8 2

投手回安責 5 4 0

投手回安責 5 4 0

▽本塁打 堀内1号 (稲川)

1回戦

松山市 (丸善石油)

0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

吉原市 (大昭和製紙)

【松山市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑦ 岡田	4 2 1	⑤ 有馬	3 0 0
④ 石森	3 1 0	⑥ 馬木	4 0 0
③ 舩渡	3 0 0	⑦ 有馬	4 0 0
3 舩渡	1 1 1	⑧ 浦浜	4 1 0
② 舩渡	4 0 0	③ 浦浜	4 1 0
⑥ 舩渡	2 0 0	H ⑨	0 0 0
⑧ 舩渡	1 0 0	② H	3 0 0
9 舩渡	2 0 0	② H	1 0 0
⑨ 8 舩渡	2 0 0	⑥ H	2 0 0
⑧ 舩渡	0 0 0	⑤ H	0 0 0
① 舩渡	3 1 0	① H	2 0 0
1 舩渡	0 0 0	1 H	1 0 0
⑤ 舩渡	3 0 0	④ H	1 0 0

振球機盗失残併 1 2 1 1 0 2 0

投手回安責 8 3 1 0

投手回安責 8 3 1 0

▽本塁打 岡田義1号 (佐野)

1回戦

新潟市 (新潟交通)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	2	0	×		3

神戸市 (川崎重工)

【新潟市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑧ 松野	3 0 0	⑨ 甲良	4 0 0
② 小武	4 0 0	④ 中元	3 1 0
⑦ 藤川	4 0 0	⑧ 西高	3 0 0
③ 岡田	4 0 0	⑤ 西高	3 1 1
⑨ 岡田	4 1 0	③ 西高	3 1 0
④ 岡田	3 1 0	⑦ 北真	2 0 0
⑤ 岡田	3 0 0	H ②	1 1 1
① H	2 0 0	⑥ 黒志	0 0 0
1 大倉	1 0 0	② 黒志	3 0 0
⑥ H	2 0 0	⑦ 黒志	2 0 0
6 大倉	1 0 0	① 黒志	1 0 0
	0 0 0		3 0 0

振球機盗失残併 3 1 0 0 2 1 0

投手回安責 7 4 1

投手回安責 7 4 1

▽二塁打 西井

1回戦

大阪市 (住友金属)

0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	6
3	0	0	0	0	0	1	0	1	5	

砂川町 (東洋高圧砂川)

【大阪市】	打安点	【砂川町】	打安点
⑨ 越野	5 1 0	⑤ 齋藤	2 0 0
⑥ 越野	5 1 0	⑤ 齋藤	2 1 0
⑧ 越野	5 1 1	⑧ 齋藤	3 1 0
⑦ 越野	4 2 2	⑧ 齋藤	1 0 0
⑤ 越野	3 0 0	H ⑨	0 0 0
③ 越野	4 2 0	⑨ 齋藤	1 0 0
② 越野	2 1 0	③ 齋藤	4 3 2
④ 越野	4 0 0	⑦ 齋藤	5 2 1
① 越野	0 0 0	② 齋藤	1 0 0
1 越野	3 0 0	④ 齋藤	2 0 0
1 越野	0 0 0	⑥ 齋藤	3 2 1
	35 8 3		3 0 0

振球機盗失残併 7 4 0 1 1 6 0

投手回安責 7 7 2

投手回安責 7 7 2

▽二塁打 越野 手塚 山口

1回戦

門真町 (松下電器)

1	0	0	0	1	0	1	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0

常磐市 (常磐炭礦)

【門真町】	打安点	【常磐市】	打安点
⑧ 西岡	3 1 0	⑥ 小林	3 1 0
⑥ 西岡	2 0 0	⑤ 植藤	3 0 0
⑦ 西岡	4 2 0	1 植藤	0 0 0
③ 西岡	4 2 2	H ③	1 0 0
⑨ 西岡	3 0 0	① 植藤	3 1 0
9 西岡	1 0 0	⑨ 植藤	1 0 0
④ 西岡	3 0 0	⑦ 植藤	3 2 0
⑤ 西岡	4 0 0	⑦ 植藤	3 0 0
② 西岡	3 0 0	④ 植藤	3 0 0
① 西岡	3 1 0	⑧ 植藤	2 0 0
	30 6 2		0 0 0

振球機盗失残併 3 2 3 1 0 5 1

投手回安責 9 4 0

投手回安責 9 4 0

▽二塁打 山本 小林 勇

1回戦

大阪市 (日本生命)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	0	1	1	1	0	×		4

太田市 (富士重工業)

【大阪市】	打安点	【太田市】	打安点
③ 国池	5 1 0	⑥ 川村	5 1 0
⑦ 国池	3 0 0	④ 福本	3 2 0
⑦ 国池	1 0 0	⑧ 西長	3 2 0
⑤ 国池	4 3 0	② 西長	3 1 2
⑨ 国池	4 2 0	⑦ 西長	3 1 0
⑧ 国池	3 1 0	③ 西長	2 1 0
④ 国池	3 1 0	⑤ 西長	4 1 1
H ④	1 0 0	⑨ 西長	4 1 0
4 国池	0 0 0	① 西長	3 0 0
② 国池	2 0 0	1 西長	1 0 0
② 国池	2 1 0		3 1 1 0 3
⑥ 国池	2 0 0		4 4 2 1 0 9 0
① 国池	1 0 0		4 4 2 1 0 9 0
1 国池	1 1 0		7 3 4 0
1 国池	1 0 0		7 3 4 0
H 国池	1 1 0		1 3 4 0

振球機盗失残併 4 4 2 1 0 9 0

投手回安責 7 3 4 0

投手回安責 7 3 4 0

▽二塁打 原 西崎 安藤 中村 近藤

1回戦

八王子市 (リッカーマシン)

2	0	3	0	7	1	1	1	2	17
0	1	1	0	0	0	3	0	0	5

大津市 (東洋レーヨン)

【八王子市】	打安点	【大津市】	打安点
④ 猪植	6 4 1	⑤ 清水	3 1 2
⑥ 猪植	3 2 3	⑦ 清水	4 1 1
⑧ 猪植	4 2 1	⑧ 清水	4 0 0
⑦ 猪植	4 4 2	③ 清水	4 0 0
H 猪植	1 0 0	④ 清水	3 0 0
7 猪植	1 0 0	⑨ 清水	4 1 0
⑨ 猪植	6 2 2	② 清水	4 2 1
⑤ 猪植	6 1 3	⑥ 清水	4 1 1
③ 猪植	5 1 2	① 清水	0 0 0
② 猪植	4 1 1	① 清水	0 0 0
2 猪植	0 0 0	1 清水	1 0 0
① 猪植	3 1 0	1 清水	2 0 0
1 猪植	1 1 0	1 清水	0 0 0
	44 19 15		34 8 5

振球機盗失残併 8 2 0 2 3 4 0

投手回安責 7 8 5

投手回安責 7 8 5

▽本塁打 長田1号 (井上) 二塁打 住吉2 猪熊 亀村 山中 清水

川崎市 (東芝)

1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 1 2 0 0 0 1 | 4

名古屋市 (新三菱重工)

川崎市	打安点	【名古屋市】	打安点
③	兵頭 4	⑥	長谷部 5
⑨	坂内 2	⑧	伊藤 4
H	島尾 1	⑧	本村 4
9	島尾 1	⑨	本村 4
⑥	島尾 1	③	伊藤 4
⑦	島尾 1	⑦	伊藤 4
⑧	島尾 1	④	伊藤 4
⑤	島尾 1	②	伊藤 4
④	島尾 1	⑤	伊藤 4
②	島尾 1	①	伊藤 4
②	島尾 1	①	伊藤 4
①	島尾 1		
1	島尾 1		

振球機盗失残併 37112
2 3 2 0 0 120
投手回安責
吉富 4 6 2
森 1 2 1
西本 4 4 1
▽三壘打 太田 兵頭▽二壘打 長谷部 2 外園 和泉

東京都 (熊谷組)

0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

岡山市 (倉敷レイヨン)

【東京都】	打安点	【岡山市】	打安点
⑥	中野 4	⑧	川田 4
⑤	望月 4	⑥	中岩 4
⑦	古田 4	⑦	小堀 4
④	高野 3	H	原上 4
⑨	吉田 3	③	藤原 3
9	加藤 3	⑦	藤原 3
⑧	山本 3	⑤	任為 2
③	伊藤 3	⑤	任為 2
②	中野 3	④	任為 2
①	橋本 2	R	任為 2
①	橋本 2	②	任為 2
1	橋本 1	①	任為 2
1	橋本 1	1	任為 2

振球機盗失残併 2942
4 2 0 0 0 2 1
投手回安責
村上 6 1/2 4 1
藤 2 1/2 1 0

横浜市 (日本石油)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

鹿児島市 (鹿児島鉄道局)

【横浜市】	打安点	【鹿児島市】	打安点
⑤	北本 5	④	前田 4
④	本多 5	⑥	増田 4
⑦	中山 5	⑦	増田 4
③	中山 5	③	大床 4
②	中山 5	⑧	大床 4
⑨	井上 4	②	大床 4
9	水野 4	H	大床 4
⑥	高橋 2	⑨	大床 4
H	高橋 2	9	大床 4
⑧	高橋 2	R	大床 4
⑥	高橋 2	⑤	大床 4
H	高橋 2	H	大床 4
⑧	高橋 2	①	大床 4
①	高橋 2		
1	高橋 2		
1	高橋 2		

振球機盗失残併 4442
6 0 0 0 0 3 2
投手回安責
佐々木 3 1/2 3 0
杉本 1 1/2 0 0
村 8 2 0
▽三壘打 北崎▽二壘打 末吉 内田 永友

神戸市 (川崎重工)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 6 1 0 2 0 0 0 0 | 9

東京都 (ニッポンビール)

【神戸市】	打安点	【東京都】	打安点
⑨	甲中 3	⑥	島野 4
9	良中 1	⑧	高野 3
④	中野 4	①	高野 3
⑦	中野 4	①	高野 3
⑤	中野 4	③	高野 3
③	中野 3	⑤	高野 3
⑧	中野 2	H	高野 3
H	中野 1	⑦	高野 3
②	中野 1	④	高野 3
②	中野 1	②	高野 3
①	中野 1	①	高野 3
1	中野 1	H	高野 3
1	中野 1	1	高野 3
1	中野 1	1	高野 3
1	中野 1	1	高野 3

振球機盗失残併 3241
9 1 0 1 1 5 2
投手回安責
津海 2 0 2
津海 2 2 3
津海 1 1/2 4 2
津海 1 3 3 2
津海 1 0 0 0
▽本壘打 松山1号④(都出)▽三壘打 高田 梶
▽二壘打 高島 平出

門真町 (松下電器)

0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 | 2
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

大牟田市 (東洋高压大牟田)

【門真町】	打安点	【大牟田市】	打安点
⑧	西岡 4	④	持永 4
⑥	岡脇 4	⑥	持永 4
⑦	江本 4	⑧	持永 4
③	大山 4	⑦	持永 4
⑨	根田 2	⑨	持永 2
9	羽成 1	①	持永 0
④	木村 1	H	持永 1
H	中野 1	⑤	持永 3
4	中野 1	②	持永 3
⑤	中野 4	①	持永 1
②	中野 1	①	持永 1
①	中野 1	③	持永 1
1	中野 0	H	持永 1
1	中野 0	1	持永 1

振球機盗失残併 2942
8 4 1 1 1 5 1
投手回安責
森 6 3 1
北畑 3 3 0
▽本壘打 西岡1号②(宮崎)

松山市 (丸善石油)

1 0 0 0 0 0 1 0 1 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

太田市 (富士重工業)

【松山市】	打安点	【太田市】	打安点
⑦	岡田 4	⑥	川村 4
④	森 3	④	川村 3
③	石 3	⑧	川村 4
3	渡邊 1	②	川村 4
②	渡邊 3	⑦	川村 3
②	渡邊 3	⑤	川村 3
⑥	渡邊 3	③	川村 3
⑨	岡田 2	⑨	川村 3
H	岡田 1	①	川村 2
⑧	岡田 1	H	川村 2
⑧	岡田 1	1	川村 2
①	岡田 1		
⑤	岡田 1		

振球機盗失残併 3273
5 0 3 2 0 5 0
投手回安責
村上 9 5 0
▽本壘打 山田1号(大沼)▽二壘打 赤田

二瀬町 (日鉄二瀬)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2

大阪市 (住友金属)

【二瀬町】	打安点	【大阪市】	打安点
⑦	栗山 2	⑨	野地 3
7	原下 2	⑥	野地 3
⑦	桐 2	⑧	野地 3
⑥	桐 4	⑧	野地 3
⑤	原津 3	⑦	野地 3
③	大財 4	⑤	野地 3
②	大財 4	③	野地 3
②	大財 4	②	野地 3
④	大財 4	④	野地 3
④	大財 4	①	野地 3
①	大財 4		
H	大財 4		
H	大財 4		
H	大財 4		
1	大財 4		

振球機盗失残併 3370
5 1 0 0 0 7 0
投手回安責
井上 1 1 2
井上 1 1 2
井上 1 1 2
井上 1 1 2
井上 1 1 2

八王子市 (リッカーマシン)

0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 2 0 2 | 2

伊勢市 (三重交通)

【八王子市】	打安点	【伊勢市】	打安点
④	猪熊 4	⑥	井本 3
⑥	猪熊 4	④	井本 3
⑧	猪熊 4	⑤	井本 3
⑦	猪熊 4	③	井本 3
⑨	猪熊 4	⑨	井本 3
⑤	猪熊 4	9	井本 3
③	猪熊 4	②	井本 3
H	猪熊 4	⑦	井本 3
②	猪熊 4	⑧	井本 3
①	猪熊 4	H	井本 3
H	猪熊 4	①	井本 3
1	猪熊 4	1	井本 3
1	猪熊 4		

振球機盗失残併 3041
8 1 0 0 3 3 0
投手回安責
伊藤 8 4 0
円子 1 0 0
▽三壘打 畦地
▽二壘打 杉浦

門真町 (松下電器)

0 0 0 1 0 0 1 0 0 | 2
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1

東京都 (ニッポンビール)

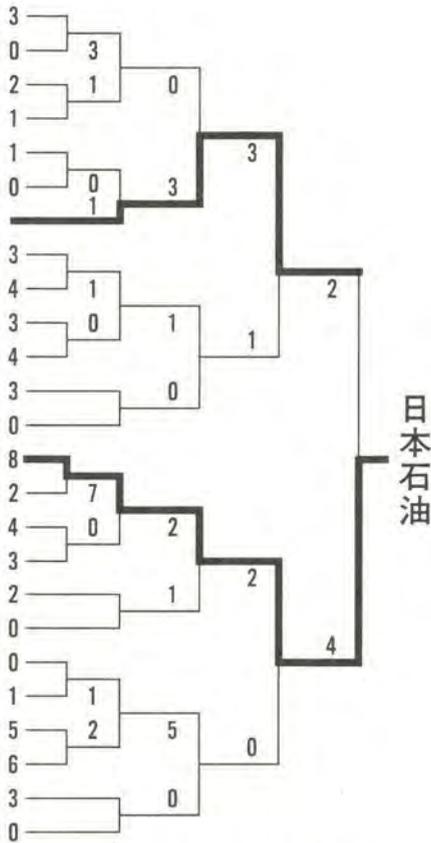
【門真町】	打安点	【東京都】	打安点
⑧	岡田 4	⑥	高野 4
④	岡田 4	⑧	高野 4
④	岡田 4	③	高野 4
⑦	岡田 4	⑤	高野 4
③	岡田 4	⑦	高野 4
⑨	岡田 4	9	高野 4
9	岡田 4	②	高野 4
⑥	岡田 4	H	高野 4
H	岡田 4	④	高野 4
⑤	岡田 4	②	高野 4
⑤	岡田 4	①	高野 4
⑥	岡田 4	H	高野 4
②	岡田 4		
②	岡田 4		
①	岡田 4		

振球機盗失残併 2842
6 1 3 1 1 3 2
投手回安責
森 6 1/2 4 0
松浦 6 1/2 4 0
▽三壘打 西岡
▽二壘打 高橋孝

第32回大会

1961年(昭和36年)7月29日 - 8月7日・後樂園球場
優勝=横浜市・日本石油(3年ぶり3回目)

神戸市・小西酒造 3
 大阪市・日本生命 0
 常磐市・常磐炭 2
 川崎市・トキコ 1
 室蘭市・富士鉄室蘭 1
 水巻町・日炭高松 0
 名古屋市・新三菱重工 1
 大阪市・全鐘紡 3
 吉原市・大昭和製紙 4
 岡山市・倉敷レイヨン 3
 札幌市・北海道拓殖銀行 4
 大津市・東洋レーヨン 3
 東京都・大和証券 0
 横浜市・日本石油 8
 諏訪市・三協精機 2
 京都市・積水化学 4
 高砂市・鐘化カネカロン 3
 熊本市・電電九州 2
 浦和市・日本通運 0
 伊勢市・三重交通 0
 東京都・ニッポンビール 1
 北島町・東邦レーヨン 5
 姫路市・富士鉄広畑 6
 大牟田市・東洋高压大牟田 3
 日立市・日本鋳業日立 0



力打線の大阪・日本生命を、神戸・海津通兼投手が抑え切り、わずか2安打で完封した。城之内邦雄投手を擁したニッポンビールも1回戦こそ伊勢市・三重交通を4安打完封したものの2回戦で姫路に打たれ、打線も大工投手に1点に抑えられ早々と敗退した。

大阪市・全鐘紡との引き分け再試合で9回裏にサヨナラ・スクイズを決めて勝ちあがった吉原は、札幌市・北海道拓殖銀行戦も継投策で1点を守り切り、大津市・東洋レーヨン戦は、暴投であげた1点を、またも投手リレーで相手を封じ準決勝に進んだ。左腕・鬼頭忠雄投手の快投で2・3回戦を無失点で勝ち進んできた名古屋との対戦は、エース金沢宏を温存した投手起用が裏目に出て、必死の反撃も鬼頭のあと上田忠彦、野口猛、福井重三と小刻みに投手を継いだ名古屋にかわされ、敗れ去った。

横浜は1・2回戦は評判通りの力をみせて快勝したが、準々決勝の熊本市・電電九州戦は大苦戦だった。これまでも苦しめられている森山義親投手(鹿児島鉄道局から補強)に8回まで7安打を浴せながら無得点。しかし9回はさすがの試合巧者ぶりをみせた。先頭の水野正雄が三塁線にバント安打して二盗。丹羽修一もバント安打で続き、四球で満塁とすると、北崎健二が中機飛を打ちあげ同点に追いつき、延長13回二死一・三塁に北崎が勝負強さを発揮、二塁手の頭上を越すテキサス安打を放ち決勝点をあげた。準決勝は引き分け再試合の末、田中勉投手の大牟田市・東洋高压を下した姫路と対戦。連投につぐ連投の大工投手を打ち崩し、佐々木吉郎投手が姫路市打線を速球で完封、決勝に進んだ。

新三菱重工は名古屋として、昭和5年の第4回大会の名古屋鉄道局以来、実に31年ぶりの決勝進出。

決勝は横浜が2点を先行したが、名古屋は5回に同点に追いついた。リリーフした名古屋鬼頭、横浜・杉本和喜代(日本鋼管から補強)の投げ合いはともにゆずらず延長にもつれ込んだが横浜が12回の一死満塁に投手の杉本が殊勲の2点タイムリー、黒獅子旗を手にした。

投打に活躍した横浜、杉本投手に橋戸賞、健闘した名古屋・鬼頭投手に久慈賞、6試合に登板、姫路躍進の原動力となった大工投手に小野賞が贈られた。

予選で次々と強豪敗退

前年度の覇者、東京都・熊谷組が予選で敗退したのをはじめ、強いといわれた松山市・丸善石油、八幡市・八幡製鉄などが、本大会を前に予選で続々と姿を消した。

下馬評では横浜市・日本石油、吉原市・大昭和製紙、東京都・ニッポンビール、大阪市・日本生命などが注目を集めていたが、名古屋市・新三菱重工、姫路市・富士鉄広畑、神戸市・小西酒造などがよく頑張りを、番狂わせが連続する波乱の大会のなか、横浜市・日本石油が3年ぶり3度目の優勝を果たした。

波乱は第1日の第1試合から始まった。強

横浜市 (日本石油)

0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2		4
0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		2

名古屋市 (新三菱重工)

横浜市	打安点振球	名古屋市	打安点振球
⑤ 北崎	530001	⑤ 坂東	52110
⑧ 古田	200000	⑤ 太田	000000
8 7 菅木	400100	⑥ 山端	400000
③ 中山	520100	⑥ 伊藤	520000
⑦ 今中	400210	③ 武内	511200
8 西原	000000	⑦ 井内	000001
④ 枝松	420000	7 伊藤	420100
⑨ 中山	400200	④ 恩田	500100
⑥ 水野	532000	② H 川島	410000
6 小野	000000	② H 長谷部	100000
② 高田	400300	⑧ 村井	400000
H 高安	000000	① 福井	000000
H 佐木	100000	1 福鬼	400100
2 永佐	000000	1 上田	000000
① 佐木	200100		
1 杉本	312100		

横浜残盗失	43114112	横浜残盗失	12510
21700		投手回	打安振球責
投手回	打安振球責	福井 1½	72111
佐々木 5¼	2371112	鬼頭 9¼	3681003
杉本 6½	2015000	上田 1	41010

▽三塁打 水野▽二塁打 伊藤盛 北崎 伊藤健
▽3時間59分

緻密に横浜、バント攻め

名古屋・新三菱重工の先発を左腕・鬼頭と読んだ横浜市・日本石油は右打者をずらりと並べた打順を組んだ。その裏をかいた名古屋は右の福井がマウンドにあがったが、横浜は2回二死二塁に水野が福井の得意のカーブを右中間三塁打して先制点をあげた。すぐに鬼頭がリリーフしたものの、横浜は4回にも中山菅、枝松、水野が3安打して追加点。名古屋は1回の一死一、三塁にスクイズを試みたがはずされ、2回には当たり屋の花井が頭に死球を受け退場する不運があったが、5回伊藤盛、武内の長短打で同点とした。

こうなると横浜にも焦りがあり、鬼頭の速球とカーブに打線は沈黙、9回まで北崎が二塁打した以外走者を出せなかった。名古屋も佐々木を継いだ杉本に抑えられ、激しかった前半と対象的に静かな投手戦で延長に入った。



決勝。延長12回2点を奪い、その裏名古屋の攻撃を抑え切って3回目の優勝を決め喜び合う日本石油ナイン

フォーム固めに連日400球

名古屋市・新三菱重工
鬼頭忠雄投手



愛知・向陽高から昭和33年新三菱重工に入社。第32回と日通名古屋に補強された第33回大会に準優勝で2年連続久慈賞。現在三菱エステック業務部長。長。

三菱に入ってすぐヒジを痛めてほとんど投げられなかった。そのとき医者に「投げるのを止めるか、痛くない投げ方しなければ永久に直らない」と言われ、上手投げからスリークォーターに直した。捕手に転向した現野球部長の川島広之さんに励まされ、2人で連日400球も投げフォームを固めたが、内角ばかり100球、外角に100球といった練習。苦しかったが2度も久慈賞を頂けたのは、このおかげだったと思っている。

第32回大会は、実質的にデビューの年だった。初戦が室蘭で、稲川誠投手の剛速球はす

両投手のゆずらぬ投げ合いは決勝らしい興奮を盛りあげていったが、12回、横浜は枝松が中前打、中山歳のバントが野選を誘い、水野も三塁線にバント安打で無死満塁。名古屋はベテラン上田をマウンドに送ったが、一死後、投手の杉本が前進守備の二塁手左を破る殊勲打を打ち、2者を迎え入れた。

受け身にまわりながら、さすが横浜の攻めは緻密で、バント攻めで鬼頭を攻略したが、6回からリリーフの杉本は以降を1安打に抑え、打っても決勝打。優勝の立役者となった。

サヨナラ本塁打競演

1回戦で2本のサヨナラ本塁打が飛び出し、スタンドを熱狂させた。

第1日第2試合の川崎市・トキコ対常磐市・

ごいと思ったが、私の方も「絶対に先に点はやらない」と頑張ったし、二塁の恩田裕男、右翼の伊藤盛康らバックの方々に助けられ4安打で完封、自信になった。

苦しかったのは大昭和製紙戦。大昭和の“顔”がプレッシャーとなり中盤あたりからジワジワと締めつけてきた。いい経験だった。

やはり忘れられないのは日本石油との決勝。佐々木吉郎がすごいピッチングだったけど、5回に同点に追いつき、佐々木投手を退けたときは「よし、勝てる」と思った。川島捕手の組み立て通り無心でピッチングが続けられた。それが12回に「この回で引き分け、再試合だ」と声をかけられ、淡々とした気持ちで消えてしまった。精神的な空白だったのだろう。バントで攻められ、わけのわからないうちに満塁とされ代わったが、いま考えてみると、勝利に対する執念の差があったように思える。

それにしても好きな野球を、会社の理解、指導者、先輩、同僚に恵まれ、力いっぱいやれたのは本当に幸せだと、今でも感謝している。

常磐炭鉱戦。常磐が1点をリードして終盤を迎えた試合は8回川崎が同点に追いつき延長戦。川崎・森田斌、常磐・近藤の息づまる投げ合いが続いたが、13回常磐は先頭打者・村田が1-1から右翼席にライナーで打ち込みサヨナラ勝ちした。



上田大会長から黒獅子旗を受ける日本石油・北崎主将

さらに劇的だったのが高砂市・鐘化カネカロン対京都市・積水化学戦。高砂は中盤から京都・松井の速球に抑えられ、6回以降は見島の1安打だけだったが、序盤の得点が大きく、リードを保った。

1点を追う京都は9回一死後、代打・藤本秀が中前打したが、続く代打が懸命に投げる松浦に三振にうちとられ二死。京都の追いあげもここまでかと思われたが、8番の南輝が1-1からの高めカーブを左翼席に運び、一

瞬の逆転勝ちとなった。

手に汗握る“大二番”

大阪市・全鐘紡対吉原市・大昭和製紙の引き分け試合、その再試合は、文字通り手に汗握る大一番だった。

両者の対決は鐘紡が慶大色、大昭和が早大色の強いチームであるうえ、これまでも数々の名勝負を演じてきた。昭和28年の第24回大会では4連覇を狙う大阪を吉原が決勝で破り、夢をくたくたとともに、初の栄冠を手にするなど、因縁めいた背景のがあり、人気を集めていた。

第1日第4試合で対戦した。大阪は7回二死二塁に阿部がタイムリー、均衡を破り、さらに池西も左前に快打、2点をリードしたが、その裏、吉原もすぐに竹島、野村の安打で二死一・三塁と攻め、大阪が左腕・岡崎をマウンドに送ると代打の代打に右の浜田を起用、右翼線二塁打を放って同点とし、9回引き分け。

再試合も力のこもった好ゲームとなった。土壇場の9回裏、1点をリードされた吉原は、それまで2安打に抑えられていた西川を攻め、2四球のあと竹島の三遊間安打で同点。代った足立に玉置の右前打で満塁とすると、安藤は2-3から一塁線にスクイズバント。白球はコロコロと白線を転がり、見送った一塁手の願いもむなしく一塁ベースにコツンと当たる内野安打。吉原がサヨナラ勝ちして、さしもの熱戦も幕切れとなった。

6試合登板、4完投

準決勝で横浜市・日本石油に敗れたとはいえ姫路市・富士鉄広畑・大工勝投手のピッチングは光った。

1回戦の北島町・東邦レーヨン戦は8回まで投げ、延長の末競り勝つと、優勝候補の一



横浜・日本石油の優勝決定の瞬間、角、東京都・ニッポンビールに完投勝ち。次の大牟田市・東洋高圧大牟田戦は延長12回を投げ抜き、翌日の引き分け再試合では4安打完封。5試合目の横浜戦も先発して8回を投げ4安打で自責点1。3位決定戦では大昭和を相手に敗れはしたがまたも完投した。

実に6試合に登板して4完投。54イニングを投げて自責点7で防御率1・67。桃山学院高から、プロ野球の毎日オリオンズに入団、2、3度マウンドを踏んだ経験が心にくい落ちついたピッチングにあらわれている。バネを生かし、はねあがるようなフォームから速球が低めによく決まったが、疲れを知らないそのタフネスぶりは評判となった。

黒獅子旗、寂しく返還

東京予選で新興の北洋水産に敗れ、敗者復活戦でもニッポンビールに延長の末苦杯を喫した前年優勝の熊谷組。開会式では三谷主将が1人で黒獅子旗を返還したが、ニッポンビールに補強された古田内野手、加藤、大塚

クス玉を割り、5色のテープを投げて大喜びの応援団外野手の3人が1回戦突破の原動力となる活躍をみせて気をはいた。伊勢市・三重交通・伊藤投手の味のあるピッチングに、東京はわずか4安打。そのうち3本が7回に集中して決勝の1点をあげたが、まず大塚が2本目の安打を放つと、古田が左前安打、一死後加藤は一・二塁間を破る適時打を放ったもの。4安打全部を補強組が打ったあたり、都市対抗の妙味だった。



代表25チームがグラウンドを一周して堂々の入場行進



準々決勝の横浜対熊本。延長13回北嶋の安打で小林ホームイン。決勝点。捕手・西原

1回戦

神戸市 (小西酒造)

0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

大阪市 (日本生命)

Table with columns for players (神戸市, 大阪市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽二塁打 小西 松本
▽2時間19分

1回戦

大阪市 (全鐘紡)

1 0 0 0 0 0 2 0 0 | 3
0 1 0 0 0 0 2 0 0 | 3

吉原市 (大昭和製紙)

Table with columns for players (大阪市, 吉原市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽三塁打 池西 浜田
▽二塁打 阿部
▽3時間8分

1回戦

横浜市 (日本石油)

2 0 4 0 1 0 0 0 1 | 8
0 0 0 0 1 0 0 1 | 2

諏訪市 (三協精機)

Table with columns for players (横浜市, 諏訪市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽本塁打 枝松1号 (大塚) 中山菅
石原 今西 中山 遠山 岡野
▽2時間26分

1回戦

川崎市 (トキコ)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2

常磐市 (常磐炭砒)

Table with columns for players (川崎市, 常磐市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽本塁打 村田1号 (森田城) 三塁打 兵頭
▽二塁打 森山 3時間15分

1回戦 (再試合)

大阪市 (全鐘紡)

0 1 0 0 1 1 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 2 0 0 2 | 4

吉原市 (大昭和製紙)

Table with columns for players (大阪市, 吉原市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽本塁打 山下1号 (金沢)
▽二塁打 阿部2
▽2時間49分

1回戦

高砂市 (鐘化カネカロン)

0 1 2 0 0 0 0 0 0 | 3
1 0 0 0 1 0 0 0 2 | 4

京都市 (積水化学)

Table with columns for players (高砂市, 京都市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽本塁打 南輝1号② (松浦) 二塁打 前川
遠藤 松岡 2時間30分

1回戦

水巻町 (日炭高松)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 1 0 X | 1

室蘭市 (富士鉄室蘭)

Table with columns for players (水巻町, 室蘭市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽2時間10分

1回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)

0 0 1 0 1 0 1 0 0 | 3
1 0 0 1 0 1 0 1 X | 4

札幌市 (北海道拓殖銀行)

Table with columns for players (岡山市, 札幌市), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽本塁打 尾山1号 (篠原) 三塁打 渡辺 沼沢
栗本 2時間8分

1回戦

伊勢市 (三重交通)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 1 0 X | 1

東京都 (ニッポンビール)

Table with columns for players (伊勢市, 東京都), batting order (打安点), and statistics (振球機盗失残併, 投手回安責, 海津).

▽二塁打 嘴池
▽2時間3分

1回戦

姫路市(富士鉄広畑)
2 0 0 2 0 0 0 0 1 1 | 6
2 0 0 0 0 0 0 2 1 0 | 5

北島町(東邦レーヨン)
【姫路市】 打安点
【北島町】 打安点

2回戦

大津市(東洋レーヨン)
0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

東京都(大和証券)
【大津市】 打安点
【東京都】 打安点

2回戦

浦和市(日本通運)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 2 0 0 0 0 0 0 | 2

熊本市(電電九州)
【浦和市】 打安点
【熊本市】 打安点

2回戦

大牟田市(東洋高压大牟田)
0 0 0 0 1 1 0 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

日立市(日本鉱業日立)
【大牟田市】 打安点
【日立市】 打安点

2回戦

神戸市(小西酒造)
0 0 0 2 0 1 0 0 0 | 3
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1

常磐市(常磐炭礦)
【神戸市】 打安点
【常磐市】 打安点

2回戦

名古屋市(新三菱重工)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

室蘭市(富士鉄室蘭)
【名古屋市】 打安点
【室蘭市】 打安点

2回戦

吉原市(大昭和製紙)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

札幌市(北海道拓殖銀行)
【吉原市】 打安点
【札幌市】 打安点

2回戦

横浜市(日本石油)
0 0 1 0 0 0 1 5 0 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

京都市(積水化学)
【横浜市】 打安点
【京都市】 打安点

2回戦

姫路市(富士鉄広畑)
1 0 0 0 0 1 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

東京都(ニッポンビール)
【姫路市】 打安点
【東京都】 打安点

準々決勝

神戸市 (小西酒造)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 1 2 X | 3
名古屋市 (新三菱重工)

【神戸市】 打安点
(8) 小松 西本 3 0 0
(8) 白幡 崎 1 0 0
(6) 西土 崎 3 1 0
(4) 加野 野 1 0 0
(9) 加野 野 2 0 0
(9) 野辰 2 0 0
(4) 林 3 2 0
(6) 森 3 0 0
(7) 森 3 1 0
(3) 米 3 2 0
(5) 櫻 3 0 0
(2) 黒 3 0 0
(1) 海 2 0 0
(1) 村 0 0 0
(1) 吉 0 0 0
(1) 岸 0 0 0
(1) 西 0 0 0
振球機盗失残併 6 1 1 0 3 2 0
投手 回 安責 4 0
村 津 6 1/2 3 1
海 上 1 0 0
吉 成 1 0 0

振球機盗失残併 6 1 1 0 3 2 0
投手 回 安責 4 0
村 津 6 1/2 3 1
海 上 1 0 0
吉 成 1 0 0

準々決勝

大津市 (東洋レーヨン)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 0 0 X | 1
吉原市 (大昭和製紙)

【大津市】 打安点
(5) 清 水 4 2 0
(6) 伊 藤 3 0 0
(7) 鈴 山 1 0 0
(7) 山 中 3 0 0
(3) 高 中 4 1 0
(4) 高 橋 3 0 0
(8) 小 橋 3 0 0
(2) 小 橋 3 0 0
(9) 青 水 3 0 0
(1) 永 水 2 0 0
(1) 羽 水 1 0 0
(1) 水 原 0 0 0
振球機盗失残併 4 1 0 1 1 4 0
投手 回 安責 7 6 0
橋 永 7 1 0 0
水 原 1 0 0

振球機盗失残併 4 1 0 1 1 4 0
投手 回 安責 7 6 0
橋 永 7 1 0 0
水 原 1 0 0

準々決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 | 2
0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
熊本市 (電電九州)

【横浜市】 打安点
(5) 北 崎 5 2 2
(6) 原 藤 6 0 0
(3) 西 藤 6 1 0
(7) 佐 西 4 1 0
(7) 今 田 2 1 0
(4) 古 松 5 2 0
(9) 安 井 6 1 0
(6) 水 野 4 1 0
(2) 小 野 4 1 0
(2) 倉 田 1 0 0
(1) 中 山 1 0 0
(2) 永 永 1 0 0
(2) 笹 丹 3 1 0
(1) 佐 山 3 2 0
(1) 山 本 0 0 0
(1) 杉 本 2 1 0
振球機盗失残併 6 5 1 3 2 1 5 1
投手 回 安責 8 3 0
佐 木 8 3 0
本 本 5 3 0

振球機盗失残併 6 5 1 3 2 1 5 1
投手 回 安責 8 3 0
佐 木 8 3 0
本 本 5 3 0

準々決勝

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
大牟田市 (東洋高压大牟田)

【姫路市】 打安点
(5) 原 4 0 0
(8) 三 4 2 0
(2) 池 3 0 0
(8) 高 2 0 0
(9) 池 5 1 0
(3) 高 3 1 0
(7) 池 3 0 0
(4) 小 3 0 0
(9) 土 1 0 0
(9) 小 1 0 0
(9) 長 1 0 0
(9) 大 1 0 0
(8) 永 1 0 0
(1) 河 0 0 0
(1) 大 3 0 1
(6) 大 4 1 0
振球機盗失残併 15 5 3 1 0 6 2
投手 回 安責 12 7 1
大 工 12 7 1

振球機盗失残併 15 5 3 1 0 6 2
投手 回 安責 12 7 1
大 工 12 7 1

準々決勝 (再試合)

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 1 1 2 0 0 1 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
大牟田市 (東洋高压大牟田)

【姫路市】 打安点
(5) 原 5 0 0
(2) 三 4 2 0
(3) 池 2 0 0
(7) 池 3 2 1
(4) 小 4 1 0
(6) 土 4 1 0
(9) 小 4 1 0
(1) 長 4 1 1
(8) 大 3 1 1
振球機盗失残併 3 2 2 1 0 5 1
投手 回 安責 9 4 0
大 工 9 4 0

振球機盗失残併 3 2 2 1 0 5 1
投手 回 安責 9 4 0
大 工 9 4 0

準決勝

吉原市 (大昭和製紙)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 1 0 0 0 0 0 2 X | 3
名古屋市 (新三菱重工)

【吉原市】 打安点
(5) 村 4 2 0
(4) 具 3 0 0
(1) 板 1 0 0
(9) 倉 0 0 0
(9) 山 2 0 0
(3) 田 1 0 0
(3) 原 0 0 0
(8) 浦 3 0 0
(7) 長 4 1 0
(8) 竹 3 1 0
(7) 藤 0 0 0
(6) 玉 0 0 0
(7) 安 3 0 0
(2) 德 0 0 1
(1) 野 4 3 0
(1) 村 1 0 0
(1) 金 2 0 0
(1) 有 0 0 0
振球機盗失残併 8 3 1 2 1 7 0
投手 回 安責 1 1 1
松 山 1 1/2 2 1
村 沢 5 2 2
金 山 1 2 0

振球機盗失残併 8 3 1 2 1 7 0
投手 回 安責 1 1 1
松 山 1 1/2 2 1
村 沢 5 2 2
金 山 1 2 0

準決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
姫路市 (富士鉄広畑)

【横浜市】 打安点
(5) 崎 5 2 0
(8) 原 3 1 0
(3) 崎 0 0 0
(3) 藤 3 0 0
(7) 西 3 1 1
(3) 今 0 0 0
(4) 古 3 0 0
(9) 中 3 0 0
(9) 山 1 0 0
(9) 安 0 0 0
(6) 安 2 0 0
(2) 水 1 1 0
(1) 小 4 1 0
(1) 倉 4 0 0
(2) 佐 3 2 6 1
振球機盗失残併 2 4 2 2 1 9 1
投手 回 安責 9 5 0
佐 木 9 5 0

振球機盗失残併 2 4 2 2 1 9 1
投手 回 安責 9 5 0
佐 木 9 5 0

3位決定戦

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 3 0 0 0 0 X | 3
吉原市 (大昭和製紙)

【姫路市】 打安点
(5) 原 3 0 0
(2) 三 3 0 0
(3) 池 4 0 0
(7) 池 4 2 0
(4) 小 1 0 0
(4) 土 1 0 0
(6) 大 4 1 0
(9) 小 3 0 0
(1) 河 1 0 0
(1) 野 1 0 0
(9) 山 3 1 0
(8) 斎 2 0 0
振球機盗失残併 10 6 0 0 0 10 0
投手 回 安責 8 3 3
大 工 8 3 3

振球機盗失残併 10 6 0 0 0 10 0
投手 回 安責 8 3 3
大 工 8 3 3



優勝した日石ナインの場内一周。先頭は井上監督

横浜市

(日本石油)

監督 立秋秋樹明... 捕手 井上隆... 内野 井上隆... 外野 井上隆...

日上市

(日本鉱業日立)

監督 立駒東東... 捕手 小西高... 内野 小西高... 外野 小西高...

川崎市

(トキコ)

監督 林田崎田... 捕手 小森田... 内野 小森田... 外野 小森田...

伊勢市

(三重交通)

監督 飯子林... 捕手 飯子林... 内野 飯子林... 外野 飯子林...

室蘭市

(富士鉄室蘭)

監督 野光川... 捕手 小秋村... 内野 野光川... 外野 野光川...

浦和市

(日本通運)

監督 稲葉島... 捕手 稲葉島... 内野 稲葉島... 外野 稲葉島...

諏訪市

(三協精機)

監督 野木本... 捕手 野木本... 内野 野木本... 外野 野木本...

京都市

(積水化学)

監督 藤村山... 捕手 藤村山... 内野 藤村山... 外野 藤村山...

札幌市

(北海道拓殖銀行)

監督 品田栄... 捕手 谷山山... 内野 品田栄... 外野 品田栄...

東京都

(大和証券)

監督 布施川... 捕手 石比村... 内野 布施川... 外野 布施川...

吉原市

(大昭和製紙)

監督 徳丸... 捕手 幸助... 内野 徳丸... 外野 徳丸...

大津市

(東洋レーヨン)

監督 荒川橋... 捕手 荒川橋... 内野 荒川橋... 外野 荒川橋...

常磐市

(常磐炭礦)

監督 大近鈴... 捕手 大近鈴... 内野 大近鈴... 外野 大近鈴...

東京都

(ニッポンビール)

監督 平出... 捕手 草石城... 内野 平出... 外野 平出...

名古屋市

(新三菱重工)

監督 中鈴福... 捕手 中鈴福... 内野 中鈴福... 外野 中鈴福...

大阪市

(全鐘紡)

監督 松岡西... 捕手 松岡西... 内野 松岡西... 外野 松岡西...

大阪市

(日本生命)

監督 井原 隆夫 41 27 22 22 20 23 18 19 18 25 22 28 29 25 24 23 20 21 26 23 23 24 25 27 20
捕手 藤原 隆夫 41 27 22 22 20 23 18 19 18 25 22 28 29 25 24 23 20 21 26 23 23 24 25 27 20
内野 藤原 隆夫 41 27 22 22 20 23 18 19 18 25 22 28 29 25 24 23 20 21 26 23 23 24 25 27 20
外野 藤原 隆夫 41 27 22 22 20 23 18 19 18 25 22 28 29 25 24 23 20 21 26 23 23 24 25 27 20

岡山市

(倉敷レイオン)

監督 本原 隆夫 53 25 24 19 25 23 24 20 21 22 21 25 25 21 23 27 18 21 22 20 21 20 23 23 20 21 20 23
捕手 本原 隆夫 53 25 24 19 25 23 24 20 21 22 21 25 25 21 23 27 18 21 22 20 21 20 23 23 20 21 20 23
内野 本原 隆夫 53 25 24 19 25 23 24 20 21 22 21 25 25 21 23 27 18 21 22 20 21 20 23 23 20 21 20 23
外野 本原 隆夫 53 25 24 19 25 23 24 20 21 22 21 25 25 21 23 27 18 21 22 20 21 20 23 23 20 21 20 23

熊本市

(電電九州)

監督 田本 隆夫 29 25 22 21 20 20 24 20 25 19 19 23 24 24 24 20 18 22 22 22 18 25 21 24
捕手 田本 隆夫 29 25 22 21 20 20 24 20 25 19 19 23 24 24 24 20 18 22 22 22 18 25 21 24
内野 田本 隆夫 29 25 22 21 20 20 24 20 25 19 19 23 24 24 24 20 18 22 22 22 18 25 21 24
外野 田本 隆夫 29 25 22 21 20 20 24 20 25 19 19 23 24 24 24 20 18 22 22 22 18 25 21 24

神戸市

(小西酒造)

監督 西海 隆夫 42 30 35 20 18 18 23 21 26 25 18 24 28 24 26 20 19 30 27 24 26 22 25 25 25
捕手 西海 隆夫 42 30 35 20 18 18 23 21 26 25 18 24 28 24 26 20 19 30 27 24 26 22 25 25 25
内野 西海 隆夫 42 30 35 20 18 18 23 21 26 25 18 24 28 24 26 20 19 30 27 24 26 22 25 25 25
外野 西海 隆夫 42 30 35 20 18 18 23 21 26 25 18 24 28 24 26 20 19 30 27 24 26 22 25 25 25

北島町

(東邦レーヨン)

監督 增田 隆夫 39 24 22 22 28 21 23 25 22 20 22 25 25 23 27 27 21 21 21 21 26 28 22
捕手 增田 隆夫 39 24 22 22 28 21 23 25 22 20 22 25 25 23 27 27 21 21 21 21 26 28 22
内野 增田 隆夫 39 24 22 22 28 21 23 25 22 20 22 25 25 23 27 27 21 21 21 21 26 28 22
外野 增田 隆夫 39 24 22 22 28 21 23 25 22 20 22 25 25 23 27 27 21 21 21 21 26 28 22

高砂市

(鐘化カネカロン)

監督 河川 隆夫 35 28 25 26 24 21 23 28 24 25 19 27 26 23 22 24 24 20 20 29 27 22 23 18 24
捕手 河川 隆夫 35 28 25 26 24 21 23 28 24 25 19 27 26 23 22 24 24 20 20 29 27 22 23 18 24
内野 河川 隆夫 35 28 25 26 24 21 23 28 24 25 19 27 26 23 22 24 24 20 20 29 27 22 23 18 24
外野 河川 隆夫 35 28 25 26 24 21 23 28 24 25 19 27 26 23 22 24 24 20 20 29 27 22 23 18 24

大牟田市

(東洋高圧大牟田)

監督 原米 隆夫 37 24 22 21 20 20 30 18 21 21 22 22 21 21 21 23 24 23 25 25 23 21 22 20 23
捕手 原米 隆夫 37 24 22 21 20 20 30 18 21 21 22 22 21 21 21 23 24 23 25 25 23 21 22 20 23
内野 原米 隆夫 37 24 22 21 20 20 30 18 21 21 22 22 21 21 21 23 24 23 25 25 23 21 22 20 23
外野 原米 隆夫 37 24 22 21 20 20 30 18 21 21 22 22 21 21 21 23 24 23 25 25 23 21 22 20 23

姫路市

(富士鉄広畑)

監督 前川 隆夫 49 25 24 21 22 20 20 20 20 19 18 24 20 25 26 27 27 25 25 25 24 24 24 18 22
捕手 前川 隆夫 49 25 24 21 22 20 20 20 20 19 18 24 20 25 26 27 27 25 25 25 24 24 24 18 22
内野 前川 隆夫 49 25 24 21 22 20 20 20 20 19 18 24 20 25 26 27 27 25 25 25 24 24 24 18 22
外野 前川 隆夫 49 25 24 21 22 20 20 20 20 19 18 24 20 25 26 27 27 25 25 25 24 24 24 18 22

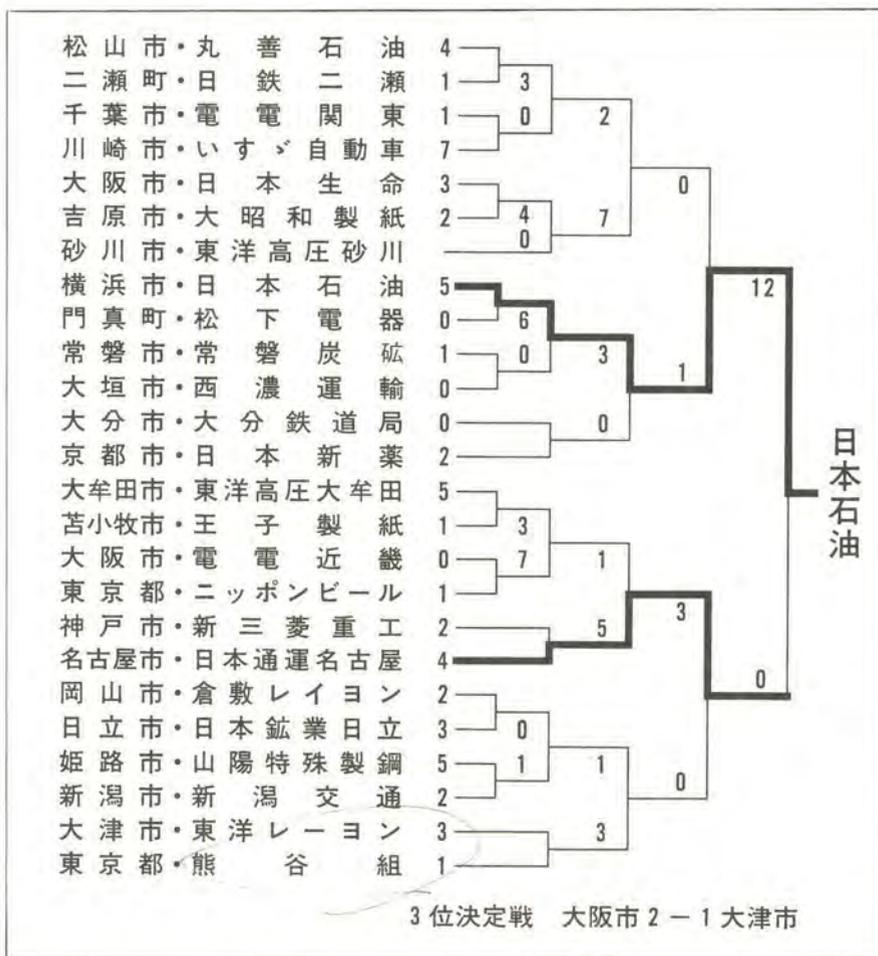
福岡水巻町

(日炭高松)

監督 安武 隆夫 40 28 26 23 18 24 21 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22
捕手 安武 隆夫 40 28 26 23 18 24 21 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22
内野 安武 隆夫 40 28 26 23 18 24 21 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22
外野 安武 隆夫 40 28 26 23 18 24 21 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22

第33回大会

1962年(昭和37年)7月28日-8月5日・後樂園球場
優勝=横浜市・日本石油(2年連続4回目)



打完封、2回戦の常磐市・常磐炭砒戦は7回を1安打で抑え、8回からマウンドを阿曾恒夫投手(日本鋼管から補強)にゆずったが、準々決勝の京都市・日本新薬を6安打完封、準決勝では大阪市・日本生命を5安打完封、決勝でも名古屋市・日本通運名古屋を2安打完封と、43イニング無失点、3試合連続4完投の大記録をうちたてた。被安打18、奪三振42で四球は2個。文句なしの橋戸賞に輝いた。全試合相手を零封して優勝したのは、第28回大会の東京都・熊谷組以来、史上2度目の快挙であった。

佐々木投手の快投と同時に打線も破壊的だった。石原正雄中堅手、枝松道輝二塁手、今西良雄左翼手、小林勲遊撃手、中山歳夫三塁手らに加え、日本鋼管から水野正雄外野手、宇野修司内野手を補強、充実していた。

苦戦を強いられたのは大阪戦だけだった。1回表、横浜は大阪が意表をついて先発させた新鋭・永友延昭投手から水野が中前打。すぐ二盗に成功すると今西が初球カーブを左前に狙い打って先取点をあげた。しかし、リリーフに立った丹羽弘投手(鐘紡から補強)のカーブとシュートに抑えられ、追加点をあげられないまま。しかし、佐々木は速球一本やりの強気のピッチングをみせ、7回二死満塁のピンチも代打を速球で3球三振にうちとるなど、1回の1点を見事に守り切った。

東京・熊谷組は初戦で姿を消し、松山も大阪に敗れ、決勝に勝ち進んだのは初出場の日通名古屋。前年久慈賞の鬼頭忠雄投手(新三菱重工名古屋から補強)がコントロールのいいカーブで好投。同じ三菱から補強の山本勇捕手と息の合ったピッチングで、2回戦の神戸市・新三菱重工に完投勝ち、準決勝の大津市・東洋レーヨンは5安打完投と快勝しての決勝進出だったが、投打に充実した横浜の前になすすべがなかった。

名古屋・鬼頭投手が史上初の2年連続の久慈賞を獲得、小野賞は横浜・今西良雄外野手が受賞した。

1回戦の東京都・ニッポンビール対大阪市・電電近畿戦は史上最長の延長22回。東京・太田誠内野手(電電東京から補強)が歴史に残るサヨナラ本塁打で5時間27分の試合に終止符を打った。大阪・永易(ながやす)将之投手が1人で270球の完投したのも見事だった。

連覇の横浜、5試合零封

北陸代表の大津市・東洋レーヨンが史上最多の13年連続を果たしたのははじめ、9チームが連続出場したが、予選が波乱ぶくみで、千葉市・電電関東、名古屋市・日本通運名古屋、大垣市・西濃運輸、神戸市・新三菱重工、姫路市・山陽特殊製鋼の5チームが初出場した。

前年優勝の横浜市・日本石油、東京勢の熊谷組、ニッポンビール、大阪市・日本生命、松山市・丸善石油などの評判が高かったが、そのなかから横浜がエース佐々木吉郎投手の快投、“殺人打線”の異名をとった猛打の爆発で全5試合を零封、堂々の2連勝を果たした。日本石油は通算4回目の黒獅子旗で、東京倶楽部、全鐘紡と並びトップに立った。佐々木投手は1回戦で門真町・松下電器を4安

横浜市 (日本石油)	1 4 0 0 0 0 1 6 0	12
	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
名古屋市 (日本通運名古屋)		

横浜市	打安点振球	名古屋市	打安点振球
⑧ 石原	6 3 2 1 0	⑤ 坂東	3 0 0 0 0
⑨ 水野	4 2 0 0 0	5 安藤	1 0 0 0 0
9 井松	1 1 0 0 0	⑧ 藤野	3 0 0 1 0
④ 枝本	5 2 2 0 0	H 久野	1 0 0 0 0
5 今西	0 0 0 0 0	⑦ 藤川	4 1 0 0 0
⑦ 佐藤	4 2 2 0 0	③ 谷長	3 0 0 3 0
③ 奥村	1 1 2 0 0	④ 横井	3 0 0 0 0
3 古田	1 0 0 1 1	⑨ 恩村	3 1 0 1 0
⑤ 中山	3 0 0 1 0	⑥ 太田	3 0 0 1 0
⑤ 4 村山	4 1 0 1 0	① 鬼頭	2 0 0 1 0
H 小橋	1 1 1 0 0	1 西野	0 0 0 0 0
⑥ 宇野	3 0 0 0 0	② 阪山	1 0 0 1 0
H 倉丹	1 1 0 0 0	2 成田	2 0 0 0 0
② 永瀬	1 0 0 0 0		1 0 0 0 0
① 佐々木	4 1 1 0 0		3 0 2 0 8 0
	4 5 1 7 1 1 7 1		
横盗失残併	0 2 1 7 0	横盗失残併	0 0 1 3 1
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
佐々木	9 30 2 8 0 0	西野	1 3/4 7 6 1 0 6
▽三壘打	水野 倉田	▽二壘打	今西 中山
▽2時間	25分		

“殺人打線” 爆発17安打

横浜市・日本石油の佐々木は34回無失点。名古屋・日本通運名古屋の鬼頭は26回で自責点1。投手戦が予想された決勝だったが、横浜打線の猛打が爆発、一方的に打ちまくって大勝した。

横浜は1回、駿足の水野が内野安打して二盗すると今西が外角速球を左中間二塁打して先制。2回には中山の二塁打を皮切りに、佐々木、石原、枝松が集中打、敵失もからめ一挙4点を奪った。鬼頭は立ちあがりの失点でやや気落ちし、武器とするカーブに鋭さを欠いていたとはいえ、狙い球をよくしぼって打ち込んだ横浜打線の迫力は、看板通りの殺人打線であった。佐々木は右腕から切れのいい速球を内外角にピシピシと決め、4回まで走者を許さなかった。名古屋はやっと5回、恩田が62球目を初安打したものの、佐々木の前に沈黙。出した走者は2安打1失策の3人だけで、反撃の糸口もつかめなかった。

横浜は伸び伸びと打ち、7回は水野、今西の長短打で1点、8回には代った西村、阪野両投手から倉田の三塁打など、7安打を奪って6点を加えた。

エース佐々木の快投、チャンスを実にものにし、17安打を放った打線。2年連続優勝にふさわしい横浜の試合ぶりだった。



上田大会会長から黒獅子旗を受ける横浜・小林主将



2年連続の優勝を成しとげ井上監督を胴上げして慶ぶ横浜・日本石油ナイン

延長22回 5時間27分

都市対抗の球史を飾る延長22回、試合時間5時間27分に及ぶ大延長戦記録は7月29日第3試合、大阪・電電近畿対東京・ニッポンビールの一戦だった。

大阪は20歳の永易将之、東京は27歳のベテラン、立正佼成会から補強の小川健太郎が先発した。両投手ともに好投、とくに永易は8回まで無安打に抑え、9回109球目を神野利男中堅手に初安打されたが、速球に力があつた。小川も下手からの変化球の切れがよく、危なげないピッチングで延長戦に入った。

11回大阪が無死二塁とすると、東京は左腕の五代友和をワンポイント・リリーフさせ、すぐに角谷隆に継いだ。片や、大阪は永易が



優勝の立役者。日本石油の佐々木投手と捕手の永瀬

直球だけ…生涯最高の3球

横浜市・日本石油
佐々木吉郎投手



秋田商から昭和33年日本石油に入社。32回大会も活躍したが、33回大会は5試合43イニング無失点の快記録で橋戸賞。大洋を経て現在、日本料理店・吉など経営。

日本石油の打線が強力で、いつも早い回に点を取ってくれたから楽だった。0点で迎えなければと思わないで投げられただけ余裕があつたし、結果には、それが無失点記録にもつながったと感謝している。

2回戦の常磐炭鉱戦だけ、勝負の決まった8回から代ったが、あと全部完封できたのは、速球が思ったところに投げられたからだ。

今考えると皆い中で、よく連投できたと思

うが、当時は毎日汗びっしょりになって、シャツを変えながら投げるのが野球だと思っていたから、少しも苦にはならなかった。

いまでも忘れられないのは、日本生命との試合で7回二死満塁のピンチとなり、代打角淳三さんを迎えた場面。「ここは自分の思った球だけ」と、遊ぶ気は全然なく、初球を内角速球、2球目は外角速球、最後は外角低めに速球を投げ込み、1度もバットを振らせず3球三振にうちとつたピッチングだ。変化球なし。速球一本やり。スピード、コースとも、野球生活を通じ自分の最高の投球だった。

橋戸賞を頂いたが、実は前回の大会の決勝で、5回につかまって同点とされ、日本鋼管から補強の杉本和喜代投手と交代した苦い経験があつて、この大会では打たれなければ取れると狙っていた。

橋戸賞もうれしかったが、野球のことだけでなく、日本石油で知らず知らずのうちに身につけた社会人としての教えが、いまの仕事にどれほど役立っているか。その意味でも都市対抗の恩は忘れられない。

投げ続けた。

17回、東京は関根知雄遊撃手が無死で三塁打。勝負はここまでと思われたが、永易は満塁策をとったあと、太田誠二塁手を浅い左飛。東京はここでスタイズを敢行したが、これが失敗、併殺に終わって一瞬にしてチャンスをつぶした。

第24回大会で記録した東京都・熊谷組対岐阜市・川島紡績の延長19回を越え、いつ果てるともなく続く0の行進をスタンドは息をつめて見守った。

そして22回、東京は一死から17回の無死満塁のチャンスに凡退した太田が打席に入った。カウント1-2から永易の270球目、高めのカーブがまん中に入ってきた。太田のバットが鋭く振られ、白球は快音を残して左翼席に飛び込んでいった。史上8本目のサヨナラ本塁打は大会を彩る価値ある一発だった。

太田は電電東京からの補強選手で、対戦相手が電電近畿だったのは因縁めいていた。

交代断り悔いなし22回

延長22回にサヨナラ本塁打で敗れた大阪市・電電近畿の永易投手は「外角を狙ったスライダーがなかに入った。21回の一死後2人を四球で歩かせたとき、監督さんに代わるかと聞かれたけど、せっかくここまで来たのだから、最後まで投げさせてくださいと頼んだ。苦しかったかどうか、夢中で投げていたからわからない」汗みどろの顔に悔いはなかった。

初出場グイグイ準優勝

初出場ながら堂々の準優勝に輝いた名古屋市・日本通運名古屋。2年連続久慈賞を受賞した鬼頭忠雄投手をはじめ、山本勇捕手、恩田祐男二塁手、坂東照彦三塁手を新三菱重工名古屋から補強、フルに活用して一戦ごとに力をつけていった。

鶴田辰夫監督は「決勝では心配していた若さが出てしまった」と大差となった試合を残念がっていたが、前回の三菱重工に続き、2年連続の決勝進出を果たした名古屋の活躍は立派なもの。



開会式でチーム名をつけた風船を大空に飛ばした

5年連続マニラから観戦

大会第7日の準々決勝からおなじみのアジア野球連盟事務局長のレディシア・バギア夫人(マニラ、ナショナル大教授)、フィリピン・アマチュア野球協会のパートルロメ会長、

同協会・バラレヤス審判長の3人がフィリピンから来日、熱心に観戦した。

「都市対抗観戦は1958年以来連続5度目の出場です」と笑うバギア夫人は「にぎやかな応援が素晴らしい」といいながら「優勝候補の第一は投手力、打力の充実している日本石油」とさすがの“眼力”をみせた。



延長22回、サヨナラ本塁打を放ち生還する東京・太田

M E M O

◇優勝4回 横浜市・日本石油が、第27回、第29回、第32回大会について達成した。東京倶楽部、大阪全鐘紡と並ぶタイ記録。

◇全試合無失点の優勝 横浜市・日本石油が1回戦から門真町・松下電器を5-0、常磐市 常磐炭鉱を6-0、京都市・日本新薬を3-0、大阪市・日本生命を1-0、決勝の名古屋市・日本通運名古屋を12-0で破り達成した。全試合無失点優勝は第28回の東京都・熊谷組に継いで2回目。

◇決勝戦最多得点差試合 横浜市・日本石油対名古屋市・日本通運名古屋の決勝は12-0。12点差は決勝の最多得点差だった。

◇43イニング無失点 横浜市・日本石油・佐々木吉郎投手が大会新記録を樹立した。従来記録は第27回大会で同じ日本石油の藤田元司投手がマークした29イニング。

また佐々木投手は京都市・日本新薬、大阪市・日本生命、名古屋市・日本通運名古屋を3試合連続完封。これは第25回大会の東京都・全藤倉・西村一孔投手と並ぶタイ記録。

◇最長補回試合 1回戦の大阪市・電電近畿対東京都・ニッポンビール戦で延長22回の新記録。従来記録は第24回大会の東京都・熊谷組対岐阜市・川崎紡績の19回。

21イニング無得点、試合時間5時間27分も新記録。

大阪市・永易将之投手の21回1/3完投、投球数270球も新記録。

大阪のチーム打数74も新記録。従来記録は第24回の東京対岐阜戦で東京・熊谷組の63(延長19回)。なおこの試合、東京・ニッポンビールの打数63はタイ記録。

◇無四球試合 2回戦の京都市・日本新薬対大分市・大分鉄道局戦は松井司郎、緒方勝両投手の好投で無四球。第28回の二瀬町・日鉄二瀬対高砂市・鐘化カネカロン戦以来2回目。

◇最少補殺1 1回戦の松山市・丸善石油対二瀬町・日鉄二瀬戦で松山が記録。従来記録は第28回の二瀬、第29回の横浜市・日本石油の3。

1 回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
0	1	0	0	1	0	0	1	×	3	3

日立市 (日本鋳業日立)

【岡山市】	打安点	【日立市】	打安点
④	大合	⑨	本辺
4	大合	9	本辺
8	日尾	9	岡上
9	日尾	4	出上
7	橋本	4	出上
7	橋本	③	上村
③	本友	3	原
③	本友	⑤	原
⑤	本友	⑧	原
⑤	本友	②	原
②	本友	⑦	原
①	本友	⑥	原
1	本友	①	原
H	本友		
1	本友		
⑥	本友		
6	本友		

振球機盗失残併
5100530
投手回安責
藤原中殿 6 41
高殿 1 00
1 11
▽2時間16分

1 回戦

新潟市 (新潟交通)

0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2
0	0	0	0	3	2	0	0	×	5	5

姫路市 (山陽特殊製鋼)

【新潟市】	打安点	【日立市】	打安点
⑧	久保	⑧	伊田
8	久保	6	伊田
⑥	田中	③	伊田
③	田中	③	伊田
③	田中	⑦	伊田
④	田中	④	伊田
⑤	田中	⑦	伊田
⑦	田中	④	伊田
7	田中	⑤	伊田
②	田中	②	伊田
③	田中	⑤	伊田
3	田中	①	伊田
①	田中	①	伊田
1	田中	R	伊田
H	田中	1	伊田
⑨	田中		
9	田中		

振球機盗失残併
4322170
投手回安責
樋木 4 62
樋木 3 41
▽本塁打 田中1号(益田)宮脇1号③(鈴木)
▽2時間12分

2 回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0	1	0	0	0	0	1	1	3	3
1	0	0	0	0	0	0	0	1	1

東京都 (熊谷組)

【大津市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥	伊藤	⑦	井上
④	伊藤	6	井上
③	伊藤	④	井上
③	伊藤	⑤	井上
⑧	伊藤	③	井上
⑧	伊藤	⑤	井上
⑨	伊藤	⑨	井上
7	伊藤	⑨	井上
7	伊藤	⑧	井上
7	伊藤	2	井上
⑤	伊藤	2	井上
①	伊藤	H	井上
②	伊藤	①	井上
	伊藤	H	井上
	伊藤	1	井上

振球機盗失残併
3211431
投手回安責
永橋 9 10
▽本塁打 浜部1号(鈴木)▽三塁打 永橋▽二塁打 占部
▽2時間6分

2 回戦

京都市 (日本新業)

0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大分市 (大分鉄道局)

【京都市】	打安点	【大分市】	打安点
⑧	野上	⑧	出平
⑤	野上	7	出平
5	野上	⑦	出平
⑥	野上	5	出平
⑦	野上	③	出平
③	野上	③	出平
④	野上	⑨	出平
④	野上	9	出平
⑨	野上	②	出平
②	野上	④	出平
①	野上	①	出平

振球機盗失残併
3022043
投手回安責
松井 9 40
▽二塁打 前川▽2時間8分

2 回戦

名古屋市 (日本通運名古屋)

0	0	0	2	0	0	0	0	2	4
0	1	0	0	0	0	0	1	0	2

神戸市 (新三菱重工)

【名古屋市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑤	坂本	⑥	中野
⑤	坂本	4	中野
⑦	坂本	6	中野
⑦	坂本	4	中野
④	坂本	6	中野
④	坂本	4	中野
⑥	坂本	⑧	中野
①	坂本	⑨	中野
②	坂本	⑦	中野

振球機盗失残併
12123282
投手回安責
鬼頭 10 61
▽二塁打 伊藤 松本
西井▽2時間40分

2 回戦

大牟田市 (東洋高圧大牟田)

0	0	2	0	0	0	1	0	3	3
2	0	0	0	0	2	0	3	×	7

東京都 (ニッポンビル)

【大牟田市】	打安点	【東京都】	打安点
④	持野	⑧	野根
⑥	持野	6	野根
⑦	持野	③	野根
⑦	持野	②	野根
⑨	持野	⑤	野根
7	持野	④	野根
9	持野	⑦	野根
9	持野	⑦	野根
⑧	持野	H	野根
⑤	持野	R	野根
⑤	持野	R	野根
②	持野	R	野根
②	持野	R	野根
①	持野	①	野根
1	持野	H	野根
H	持野	1	野根
1	持野		
1	持野		
H	持野		

振球機盗失残併
7321171
投手回安責
安三重野崎 1 3 3
寺崎 1 0 0
▽本塁打 榎1号②(下野)高橋1号③(三重野)▽二塁打 持永
白永 谷野▽3時間

2 回戦

松山市 (丸善石油)

0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

川崎市 (いすゞ自動車)

【松山市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥	大岡	⑧	田山
7	大岡	H	田山
8	大岡	8	田山
⑨	大岡	③	田山
⑧	大岡	⑦	田山
7	大岡	④	田山
⑤	大岡	⑤	田山
③	大岡	②	田山
④	大岡	⑥	田山
R	大岡	①	田山
2	大岡	1	田山
1	大岡	H	田山
I	大岡	R	田山

振球機盗失残併
3130241
投手回安責
西 7 60
村上 2 00
▽二塁打 杉山▽2時間17分

2 回戦

砂川市 (東洋高圧砂川)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	4	0	0	0	0	×	4

大阪市 (日本生命)

【砂川市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑤	斎藤	⑥	山本
5	斎藤	⑧	山本
⑦	斎藤	⑦	山本
H	斎藤	⑤	山本
⑧	斎藤	⑨	山本
③	斎藤	②	山本
③	斎藤	③	山本
④	斎藤	④	山本
④	斎藤	②	山本
①	斎藤	①	山本
1	斎藤	④	山本
H	斎藤		
1	斎藤		

振球機盗失残併
3100041
投手回安責
石井 4 54
青原 3 00
篠原 1 00
▽二塁打 小森 山下
綿谷 安戸▽2時間7分

2 回戦

横浜市 (日本石油)

2	0	0	0	2	0	0	2	6	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

常磐市 (常磐炭鉱)

【横浜市】	打安点	【常磐市】	打安点
⑧	石水	⑧	村田
⑧	石水	⑤	村田
④	石水	5	村田
⑦	石水	H	村田
③	石水	③	村田
⑤	石水	⑦	村田
5	石水	⑥	村田
⑥	石水	④	村田
H	石水	4	村田
2	石水	⑨	村田
②	石水	②	村田
R	石水	H	村田
1	石水	H	村田
①	石水	①	村田
H	石水	1	村田
6	石水	H	村田

振球機盗失残併
4111010
投手回安責
阿曾 7 10
阿曾 2 10

振球機盗失残併
14100430
投手回安責
近藤 4 94
大伊 2 10
大河原 2 00
筒井 2 32
筒井 1/2 00

2 回戦

姫路市 (山陽特殊製鋼)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
日立市 (日本鉱業日立)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 姫路市 and 日立市.

準々決勝

松山市 (丸善石油)
1 0 0 0 0 1 0 0 0 | 2
3 0 0 0 2 0 2 0 X | 7
大阪市 (日本生命)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 松山市 and 大阪市.

準々決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
京都市 (日本新薬)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 横浜市 and 京都市.

準々決勝

東京都 (ニッポンビール)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 1 1 0 0 3 X | 5
名古屋市 (日本通運名古屋)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 東京都 and 名古屋市.

準々決勝

大津市 (東洋レーヨン)
0 0 0 0 1 0 0 2 0 | 3
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
姫路市 (山陽特殊製鋼)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 大津市 and 姫路市.

準々決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
京都市 (日本新薬)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 横浜市 and 京都市.

準決勝

横浜市 (日本石油)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
大阪市 (日本生命)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 横浜市 and 大阪市.

準決勝

大津市 (東洋レーヨン)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 2 0 X | 3
名古屋市 (日本通運名古屋)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 大津市 and 名古屋市.

準決勝

大津市 (東洋レーヨン)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 2 0 0 X | 2
大阪市 (日本生命)

Table with 4 columns: City, Player, Hits, Runs. Includes data for 大津市 and 大阪市.

横浜市

(日本石油)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

日上市

(日本鉱業日立)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

川崎市

(いすゞ自動車)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

大垣市

(西濃運輸)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

川崎市

(東洋高圧北海道)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

千葉市

(電電関東)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

吉原市

(大昭和製紙)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

大津市

(東洋レーヨン)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

小牧市

(王子製紙)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

東京都

(熊谷組)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

新潟市

(新潟交通)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

京都市

(日本新薬)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

磐城市

(常盤炭礦)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

東京都

(ニッポンビール)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

名古屋市

(日本通運名古屋)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

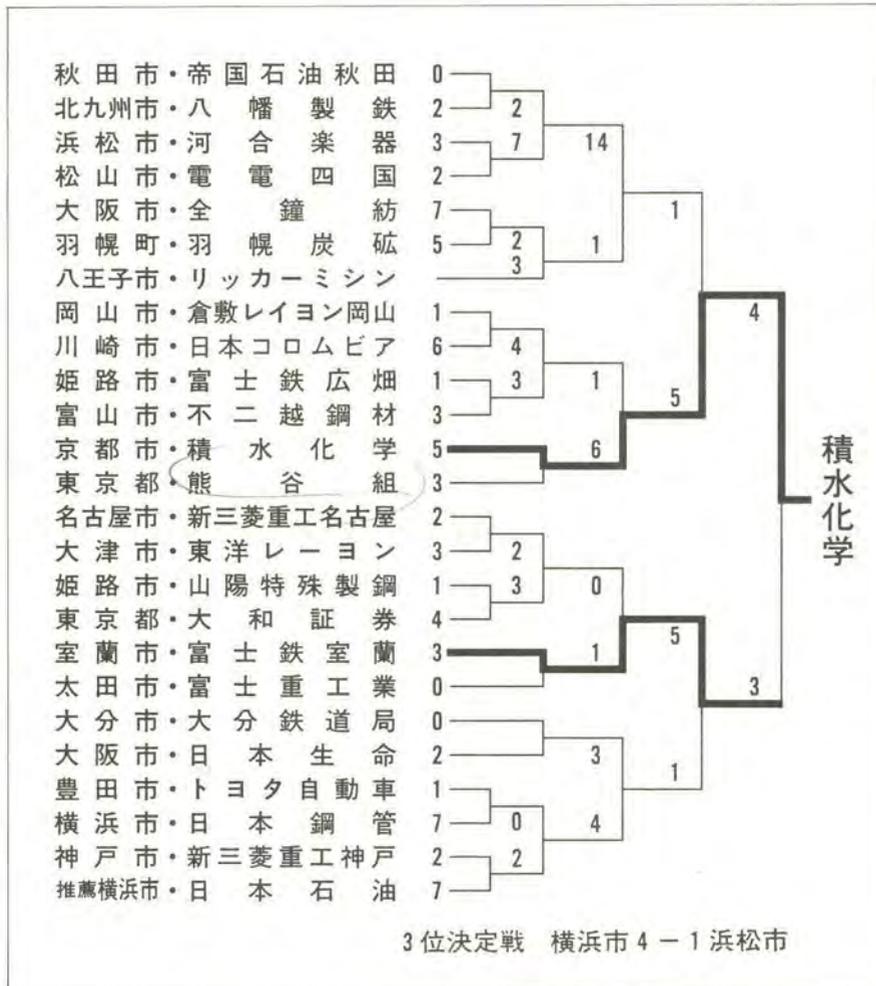
大阪市

(日本生命)

大商農大... 監投手... 捕手... 内野... 外野...

第34回大会

1963年(昭和38年)7月27日-8月4日・後楽園球場
優勝=京都市・積水化学



のカーブ、シュートで東京打線をかわす一方、京都は中田純正中堅手が先制打、同点にされたあとも東京の2番手・小川健太郎投手の下手からの外角球をさからわず右翼に打ち返すバッティングで東京を破った。大阪・鐘紡も八王子市・リッカーマシンに足をすくわれ1点差で姿を消した。

準決勝に残ったのは佐藤進投手が太田市・富士重工業を2安打、東京都・大和証券を1安打で完封した室蘭。準々決勝で延長15回、大阪市・日本生命に逆転勝ちした日本石油。東京・リッカーの6投手に18安打を浴せ14点を奪った浜松市・河合楽器と京都だった。

室蘭は3連投の佐藤投手が横浜打線を抑える一方、2回に投手・佐藤を一塁に置いてのヒットエンドランの奇襲などで2点、5、6回には安戸尚、牧羽邦夫のタイムリーで効果的に加点した。強打の横浜としては、はね返せない点差ではなかったが、速球が低めに決まり、カーブも鋭くコーナーをつく佐藤の快投に7安打1点だけだった。

大昭和から金沢宏、日本軽金属から渡辺秀武の両投手をはじめ、補強制度を十分に活用した浜松は全静岡の感があったが、京都・堤を攻めめぐみ、7安打しながら連打が出なかった。1回に一死一・二塁から重盗を成功させ、敵失に適時打をからめて3点を挙げた京都は、スタートからベースをつかみ、最後まで浜松につけ入るスキを与えなかった。

優勝した京都・堤投手が橋戸賞に輝き、全試合を1人で投げ抜いた室蘭・佐藤投手に久慈賞が贈られた。京都・積水化学はこれまで3回の出場で2回は初戦敗退、第32回大会に高砂市・鐘化カネカロンから1勝をあげただけだったが、今大会で一気に優勝まで駆け上った快挙が高く評価され、小野賞を受賞した。

参加25チームの大会はこれが最後だった。年々高まるスタンドの応援ふりに応じ、この大会から応援団コンクールが実施され、浜松・河合楽器が第1回の最優秀賞を受賞した。



25チームが整列しての開会式。日石から黒獅子旗返呈

伏兵京都市が逆転V

前年度優勝チームの推薦出場が復活。3連勝を目指す横浜市・日本石油、3年ぶりの黒獅子旗に闘志を燃やす東京都・熊谷組、それに西の“横綱”大阪市・全鐘紡が有力候補と見られた大会だったが、大波乱の連続で、決勝は室蘭市・富士鉄室蘭と京都市・積水化学のフレッシュ対決となった。終盤息づまる接戦となったが、京都が逆転勝ちで初優勝。京都に黒獅子旗が初めてひるがえった。

連続出場は8チーム。初出場は秋田市・帝国石油、浜松市・河合楽器、豊田市・トヨタ自動車、松山市・電電四国の4チームだった。

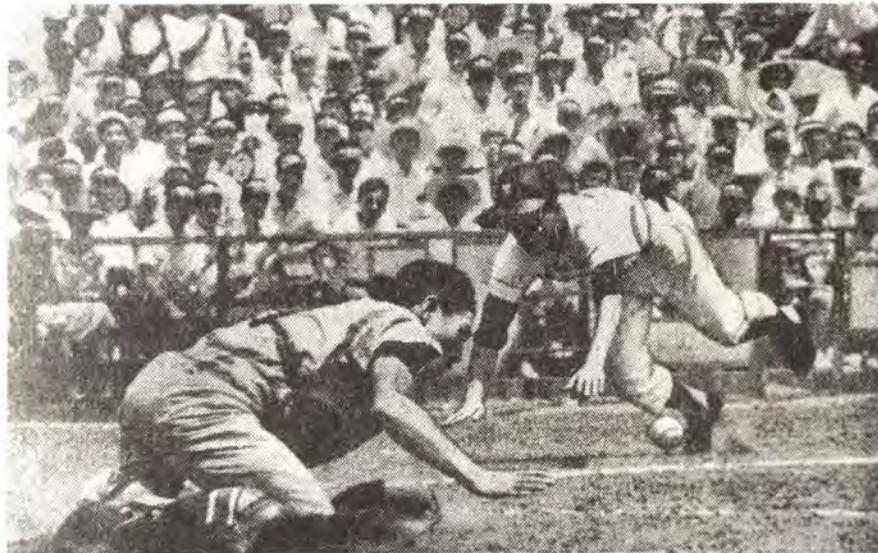
“番狂わせ”は2回戦から始まってファンを驚かせた。まず東京・熊谷組が初戦で京都・積水に敗退した。京都・堤投手が左腕から

室蘭市 (富士鉄室蘭)	0 0 1 0 0 0 2 0 0	3
京都市 (積水化学)	0 0 0 1 0 0 2 1 X	4

【室蘭市】	打安点振球	【京都市】	打安点振球
⑥ 高屋敷	4 2 2 0 0	⑤ 三本	4 0 0 2 0
④ 岡嶋	2 0 0 0 1	④ 南玉	4 1 0 0 0
⑤ 安戸	3 0 0 0 0	⑥ 5児	4 1 0 0 0
⑧ 青柳	4 2 0 0 0	⑧ 中田	3 1 1 1 1
① 藤原	3 0 0 0 0	⑦ 堀田	4 1 1 0 0
⑦ 坂井	4 0 0 0 0	⑨ 長川	2 1 0 0 0
② 工藤	4 1 0 0 0	9 前上	2 1 0 0 0
③ 細田	0 0 0 0 0	③ 佐野	3 1 2 0 0
3 R 須	3 0 0 0 0	② 堀田	2 0 0 0 0
3 牧	0 0 0 0 0	H 中	1 0 0 0 0
③ 羽	1 0 0 0 0	2 堀田	0 0 0 0 0
⑨ 桐	3 0 0 0 1	① 堤	2 2 0 0 0
	31 5 2 0 2	① 竹	1 0 0 1 0

犠盗失残併	3 0 6 3 0	犠盗失残併	3 2 9 4 4 1
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
佐藤	8 33 9 4 1 4	堤	6 1/2 27 4 0 2 0
		竹村	2 3/4 9 1 0 0 0

▽本塁打 中田1号(佐藤) 上田1号②(佐藤)
 工藤 堀田明▽2時間14分



秋田対北九州。5回北九州は古海の安打で石黒二塁から一学生選



決勝戦。京都は8回一死一・二塁に堀田明が中越二塁打、決勝点をあげた。投手・佐藤、捕手・工藤

上田、起死回生の2ラン

右の佐藤、左の堤。大会屈指の好投手の投げ合いだったが、両チームとも初球から好球を打って出る積極な攻撃をみせた。

室蘭市・富士鉄室蘭は1回、トップの高屋敷が安打、三塁まで進んだチャンスは逃したが、3回の一死二塁に高屋敷が初球を左前タイムリー、先取点を挙げた。

京都市・積水化学も4回、中田が高めの速球をたたき、左翼席に打ち込んで同点とした。

両投手の精根こめたピッチングが続いたが、室蘭は7回、疲れから球が高めに浮きだした堤をとらえた。一死後工藤が外角球をうまく右翼に二塁打、田中の敵失で工藤が塁ると、京都は竹村がリリーフ。榊原も四球のあと果敢に重盗で二・三塁とし高屋敷の内野ゴロでこの回2点を奪った。佐藤の好投から京

都も苦しいかとみられたが、すぐにその裏、上田が左翼席に2点本塁打、またも同点に追いついた。まさに起死回生の一打で、活気を取り戻した京都は8回にも一死から児玉が安打を打ち、中田死球で一・二塁。堀田明は初球を鋭く打ち返し中堅深く二塁打、児玉を迎え入れ、これが決勝点となった。

体重60kg、細身で橋戸賞

後樂園のマウンドを初めて踏んだ24歳の堤享投手が堂々の橋戸賞に輝いた。173cm60kgときゃしゃな体つきながら、4試合全部に先発して2完投。日ごろの練習と節制が、このスタミナの原動力となった。

県立尼崎高では甲子園に出場、関学大時代は2年生のとき春秋連続優勝をしているが、いずれも控え投手で、晴れやかな舞台はこれまでなかった。

MEMO

◇1試合5本塁打 準々決勝の京都市・積水化学対川崎市・コロムビア戦で京都・南勝美二塁手2、瀬戸口臣範三塁手、堀田明左翼手、川崎・為房健遊撃手が打ち込んで新記録を樹立。

◇1イニング3本塁打 1回戦羽幌町・羽幌炭鉱対大阪市・全鐘紡戦の5回、大阪の石川義彦二塁手、川上宣緒三塁手、池西広幸左翼手が真崎勝投手から打ち込んで達成。史上初。

◇1チーム1大会7本塁打 優勝した京都市・積水化学が新記録。準々決勝の対川崎市・コロムビア戦で南勝美2、瀬戸口臣範、堀田明、準決勝の浜松市・河合楽器戦で三本豊治、決勝の室蘭市・富士鉄室蘭戦で中田純正、上田幸男が本塁打して達成。第19回大会で福岡市・西日本鉄道がマークしたのとタイ記録。

◇最少投球数(2人がかりで)73 1回戦の秋田市・帝国石油対北九州市・八幡製鉄戦で秋田は敗れたが、先発の杉山喜代美投手が7回投げあげて60球、リリーフの伊藤俊成投手が1回で13球と継投ながら最少投球数を記録した。従来記録は第27回大会の二瀬町・日鉄二瀬対室蘭市・富士鉄室蘭戦で二瀬・井洋雄投手の77球。

昨年春積水化学に入社したもののすぐに足を痛めて、1年間棒に振り「会社に迷惑をかけた。ことしこそやる」。その言葉通り、男の意地を立派に貫いた。

「落ちるタマをうまく使えた。ピンチにもバックを信頼して、内野ゴロを打たせることができた」と、決勝では大事なところで3つものミスが出、それがきっかけになって途中降板したことなど、おくびにも出さないあたり、ナインに愛される人柄が出ていた。

堂々の初優勝に輝き黒獅子旗を掲げて場内を一周、スタンドの歓声に応える積水化学のナイン



逆転勝ちで室蘭市を破り優勝を決めた瞬間。選手たちはワットベンチを飛び出し歓喜のポーズ

応援団コンクール始まる

自然発生的に好きなチーム、選手を応援していた時代から、各企業ががかりな組織応援をするようになり、応援団コンクールを実施することになった。

毎日新聞社事業部の尾長一郎参与を委員長に、14人の委員が毎試合応援ぶりを採点、大会最終日に決定した。初の栄冠はお手のものの楽器をフルに活用、地元名物のタコあげのときに使うラップも登場して熱気を盛りあげた浜松市・河合楽器。ついで、大応援団を動員、スマートな応援をみせた八王子市・リッカーシン、横浜市・日本石油が優秀賞。試合終了後、スタンドのゴミを手早く片づけるなど、マナーのよさが賞賛された豊田市・トヨタ自動車に特別賞が贈られた。

決勝は力つきたが

室蘭市・富士鉄室蘭
佐藤進投手



北海高時代センバツベスト8。昭和36年富士鉄室蘭に入社。3年目で全5試合を完投、久慈賞受賞。プロ入りし国鉄などで7年。現在はプリヂストンスポーツ東京販売課長。

前年は予選で敗れて出場できなかったから春先からすごい練習をやった。起きられない、階段をおりられない、笑えないだった。

ボクはそれまで速球とスライダートとドロンとしたカーブだけだったが、ストレートの投げ方での速いカーブを身につけ、シュートもみがきがかかった。

富士重工業を2安打完封して気分は盛り上がり、次の大和証券戦は、後に日本生命に移って橋戸賞を受けた小弓場と投げ合った。シュートが切れて絶対打たれないと思った。内野安打を1本打たれたけど、外野に飛んだ打球はゼロのピッチングだった。日本石油との準決勝も忘れられない。3連覇を狙う日石は

外野飛球1個の珍記録

準々決勝の東京都・大和証券対室蘭市・富士鉄室蘭戦は外野に飛んだフライはわずかに1個の“珍記録”。室蘭が唯一の得点をあげてサヨナラ勝ちした試合だったが、外野フライは4回、室蘭の投手、佐藤進が打ちあげた右翼飛球だけ。佐藤、小弓場保両投手ともコーナーをたんねんにつくピッチングで、三振はともに1個ずつというのをみてもわかるとおりコントロールのよさで、打たせてとるタイプだが、なんとも珍しい記録だった。しかも投手の佐藤が打ったとあって、投手ではあってもさすが5番打者。

王者はアイスクリーム

スタンドの“販売戦線”も世相とともにさま変わり。戦前戦後を通じてゆるがぬ王座を保ってきたブッカキ氷に、センベイ、キャラメルは“斜陽”の一途をたどり、全盛はアイスクリーム。1日4000個は軽さばけ、左翼スタンド下にあった製造工場では大わらわ。

ビールも炎天下とあって売れゆきは伸び、1日ざっと3000本。ラムネ、サイダーに代わってコーラ、ジュース類ものしてきたが、このなかでも昔ながらに人気を保っているのは1個30円のアンパン。“外来”のホットドッグと張り合っていた。

次の試合にそなえてか、エースの藤さんでなく友蔵さんが先発してきた。本心「ナメられた」とカッとした。トップの石原さんにいきなりボール3となったが、それから3球カーブで三振に仕止めた。カーブがすごくよく、日石打線はシュートを待っていたのだろうが、シュートは見せ球だけでカーブ、カーブ。とにかくカーブの思いしか残っていない。2回の無死一・二塁にバントシフトの逆について捕手の工藤さんが打って2点。4回追加点を取ったときは勝ったと思った。

宿舎に帰ったら、疲れはてて夕飯もたべられなかった。クーラーがない時代だったし、いくら窓を開けても寝られなかった。

決勝は苦しい思い出だけ。肩が重くてタマが切れない。積水化学の堤投手は左の落ちる球で、打てそうで打てない。それでもなんとか持ちこたえて7回2点を取ったが、もう肩があがらなかった。代えてほしかったが、監督は「ここまでオマエで来たんだ。頑張れ」と全然代える気持ちがない。結局同点にさき力尽きた感じだった。

高校を卒業したとき、プロからの誘いもあったが、この活躍でプロ入りに自信がついた。都市対抗のおかげで現在があると、心から感謝している。

1回戦

秋田市 (帝国石油秋田)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 2 0 0 0 X | 2

北九州市 (八幡製鉄)
【秋田市】 打安点
(8) 藤川 410
(4) 齋長谷 410
(4) 矢野 000
(6) 植田 200
(3) 植田 200
H 植田 100
(7) 中川 310
(7) 工藤 100
(9) 小林 200
H 藤原 100
(5) 梅原 110
(5) 鈴木 100
(5) 鈴木 000
(2) 鈴木 200
H 大友 100
(2) 大友 000
(1) 杉山 200
(1) 伊藤 100
284 0

振球機盗失残併
125 0 3 2 6 0
投手 回 安責
杉山 7 3 2
伊藤 1 1 0

1回戦

松山市 (電電四国)
0 0 2 0 0 0 0 0 0 | 2
0 2 0 0 0 0 1 0 X | 3

浜松市 (河合楽器)
【松山市】 打安点
(5) 増田 400
(8) 山口 401
(3) 水山 421
(9) 松正 300
(9) 長井 110
(7) 岩大 310
(4) 増尾 300
H 尾野 100
(6) 尾野 300
H 尾野 100
(2) 米氏 000
(2) 天野 000
H 天野 100
R 山本 200
(1) 山本 000
(1) 松田 000
(1) 中内 000
334 2

振球機盗失残併
120 1 0 1 5 0
投手 回 安責
天野 2 2 2
石村 4 1/2 3
松田 1 1 1
中内 1 1 0

1回戦

羽幌町 (羽幌炭砒)
1 3 0 1 0 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 5 1 0 1 X | 7

大阪市 (全鐘紡)
【羽幌町】 打安点
(6) 岡村 320
(4) 西村 411
(4) 西田 000
(8) 島中 410
(7) 津村 521
(2) 岡西 300
(3) 庭垣 300
(1) 内小 100
(1) 西中 000
(9) 小西 210
(7) 矢山 200
(1) 中真 200
(3) 真上 100
(5) 真上 421
349 3

振球機盗失残併
333 4 1 8 2
投手 回 安責
真崎 4 1/2 5
田原 1 1/2 2
内司 1 1/2 3
小林 1 1/2 0

▽本塁打 石川1号②(真崎) 川上宣1号(真崎) 池西1号②(真崎)
▽2時間24分

1回戦

日本石油 (推薦・横浜市)
3 0 0 1 0 0 0 0 3 | 7
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2

神戸市 (新三菱重工神戸)
【日本石油】 打安点
(8) 原正 520
(5) 山中 510
(4) 松西 521
(7) 枝今 413
(7) 古田 000
(3) 古田 511
(9) 五十住 421
(2) 倉村 400
(6) 倉村 410
(1) 藤 310
(1) 友歳 100
4011 6

振球機盗失残併
210 2 0 7 1
投手 回 安責
藤 6 7 2
友歳 3 0 0

1回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 1 2 3 X | 6

川崎市 (コムピア)
【岡山市】 打安点
(7) 稲田 410
(8) 見口 420
(5) 森大 411
(4) 森大 300
(9) 森大 000
(9) 津原 200
(2) 津原 300
(4) 河合 200
(5) 河合 110
(6) 中山 310
(1) 中山 100
(1) 藤原 100
(1) 藤原 000
(1) 藤原 000
(1) 藤原 000
296 1

振球機盗失残併
521 0 2 4 2
投手 回 安責
山南 3 0 0
松原 2 1/2 2
藤野 1 1/2 3
串畑 1 1/2 0

1回戦

富山市 (不二越鋼材)
0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

姫路市 (富士鉄広畑)
【富山市】 打安点
(7) 芝 200
(7) 椎名 100
(6) 山桐 110
(9) 桐 300
(5) 島田 410
(3) 中野 410
(2) 吉田 420
(8) 小林 411
(4) 滝 431
(4) 河井 200
(4) 小川 100
(1) 小野坂 410
341 0 3

振球機盗失残併
511 1 1 1 6 1
投手 回 安責
小野坂 9 5 1
武田 1 1 1

▽三塁打 滝▽二塁打 齋藤 小林▽2時間28分

1回戦

大津市 (東洋レーヨン)
0 2 1 0 0 0 0 0 0 | 3
0 1 0 0 0 0 0 0 1 | 2

名古屋市 (新三菱重工名古屋)
【大津市】 打安点
(7) 青木 300
(4) 清水 301
(8) 高橋 300
(9) 高橋 100
(1) 水原 200
(3) 水原 410
(6) 伊藤 420
(5) 伊藤 300
(1) 伊藤 312
(2) 伊藤 300
294 3

振球機盗失残併
413 2 0 3 1
投手 回 安責
水原 1 1/2 2
水原 7 3/4 31

1回戦

東京都 (大和証券)
0 0 0 0 1 0 3 0 0 | 4
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

姫路市 (山陽特殊製鋼)
【東京都】 打安点
(7) 天野川 410
(9) 藤岡 400
(4) 加藤 410
(5) 加藤 410
(2) 加藤 410
(6) 加藤 210
R 加藤 000
(8) 根木 200
(3) 根木 100
H 根木 111
R 根木 000
(6) 山今 100
(8) 山今 100
(3) 山今 100
(1) 山今 112
(1) 山今 311
338 4

振球機盗失残併
310 0 5 3 0
投手 回 安責
米加坂 6 3/4 7
加坂 1 1 0
宮城 1 0 0

▽三塁打 田中
▽2時間38分

1回戦

豊田市 (トヨタ自動車)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 2 3 2 0 0 0 0 X | 7

横浜市 (日本鋼管)
【豊田市】 打安点
(6) 青木 400
(7) 吉野 400
(4) 吉野 410
(8) 武島 411
(3) 武島 410
(9) 武島 300
H 武島 100
(2) 武島 410
(1) 武島 100
(1) 武島 200
(5) 武島 300
344 1

振球機盗失残併
700 0 1 6 0
投手 回 安責
松村 2 1/2 4
松村 5 1/2 4

▽三塁打 石野 佐藤 山田 武田▽二塁打 久保 阿前 塚本

2回戦

太田市 (富士重工業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
室蘭市 (富士鉄室蘭)												

【太田市】	打安点	【室蘭市】	打安点
⑥ 稲川	4 0 0	④ 高屋敷	3 1 2
⑧ 枝村	4 1 0	⑤ 嶋戸	3 1 0
⑨ 三村	4 1 0	⑥ 岡嶋	4 0 0
③ 中高	2 0 0	⑧ 安青	3 0 0
⑤ 原	3 0 0	① 柳藤	4 2 0
② 島屋	1 0 0	⑦ 坂井	3 2 0
⑦ 長	1 0 0	② 藤井	3 1 1
④ 諸	2 0 0	⑦ 中	2 0 0
④ 横	2 0 0	③ 田	1 0 0
H 直	1 0 0	⑨ 柳	1 0 0
④ 吉	1 0 0	⑨ 原	1 0 0
① 小	1 0 0	⑨ 須	1 0 0
① 二	0 0 0		
① 高	2 0 0		

振球機盗失残併	3 3 0 1 1 3 0
投手回安責	4 3 1
二木	2 1
大沼	3 1/2 2 0

振球機盗失残併	2 2 2 0 1 5 2
投手回安責	9 2 0
投手	9
佐藤	

▽2時間17分

2回戦

大分市 (大分鉄道局)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪市 (日本生命)												

【大分市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑧ 出橋	4 0 0	⑥ 山前	3 0 0
⑤ 元	4 1 0	⑦ 下田	3 1 0
⑨ 部	2 0 0	⑤ 野	3 0 0
H 崎	1 0 0	⑨ 長	4 0 0
③ 島	4 0 0	② 植	3 0 0
⑦ 根	2 0 0	④ 浜	1 0 0
⑦ 川	1 0 0	③ 近	3 1 2
④ 辺	3 0 0	⑧ 小	2 0 0
② 田	2 0 0	① 高	3 0 0
④ 口	3 1 0		25 2 2
② 章	0 0 0		
① 津	0 0 0		
H 屋	0 0 0		
H 林	1 1 0		
H 藤	0 0 0		

振球機盗失残併	5 3 0 0 0 4 0
投手回安責	4 2 2
三浦	4
安仁屋	3
江藤	1

振球機盗失残併	3 5 1 1 1 5 1
投手回安責	9 3 0
投手	9
高畑	

▽本塁打 近藤1号② (三浦章) 二塁打 橋元▽1時間52分

2回戦

富山市 (不二越鋼材)	0	0	0	0	1	0	0	0	2		3
	0	0	0	2	0	0	0	2	0		4
川崎市 (コロムビア)											

【富山市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑦ 芝	4 0 0	④ 関	2 1 0
④ 河	2 0 0	⑤ 木	2 0 0
H 井	1 0 0	⑥ 山	2 0 0
④ 田	0 0 0	⑤ 房	4 2 0
H 安	1 0 0	⑦ 原	4 3 2
① 宮	0 0 0	⑧ 泉	3 0 0
⑥ ④	4 0 0	⑧ 吉	0 0 0
⑤ ⑥	4 0 0	⑨ 坂	4 0 0
② ⑤	4 1 0	⑨ 田	3 2 1
⑧ 小	4 1 0	① 内	4 0 0
⑧ 滝	1 0 0	③ 原	1 1 0
⑨ 地	3 2 1	① 西	2 0 0
R 島	0 0 0		
③ 川	1 0 0		
③ 小	3 2 1		
① 横	1 0 0		
① 吉	3 1 1		

振球機盗失残併	2 0 0 0 2 6 1
投手回安責	4 4 2
小野	4
安田	3
宮袋	1

振球機盗失残併	4 7 0 0 2 1 0
投手回安責	6 3 1
相原	6

▽本塁打 樫原1号② (小野坂) 二塁打 小林▽2時間19分

2回戦

東京都 (熊谷組)	0	0	0	0	1	0	0	2	0		3
	0	0	0	1	0	3	1	0	0		5
京都市 (積水化学)											

【東京都】	打安点	【京都市】	打安点
⑦ 井上	4 1 0	⑤ 三本	4 0 0
④ 黒	4 2 0	④ 南	3 1 0
③ 古	3 1 0	⑥ 児	2 1 1
③ 伊	1 0 0	⑧ 中	3 2 1
⑨ 加	2 1 1	⑦ 堀	4 1 2
⑨ 坂	0 0 0	③ 長	4 3 1
② 犬	3 0 0	⑨ 本	2 0 0
H 加	1 0 0	③ 前	1 0 0
② 狗	0 0 0	② 佐	3 0 0
H 金	1 0 0	① 堤	3 0 0
② 松	0 0 0	① 竹	0 0 0
② 柴	4 2 0		298 5
⑧ 田	4 2 0		
⑤ 塚	1 0 0		
① 月	1 0 0		
H 津	1 0 0		
① 小	0 0 0		
H 島	1 0 0		
H 鈴	1 0 0		

振球機盗失残併	4 1 2 0 0 6 1
投手回安責	3 1 1
津川	2 3
小川	2
鈴木	3 1

振球機盗失残併	6 3 1 0 2 4 1
投手回安責	7 1 1
堀	7 1/2
明	1 1 0
二	8 0
壘	1 0
古	
田	

▽三塁打 堀田明 二塁打 長 児玉 古田 二時間26分

2回戦

浜松市 (河合楽器)	0	0	0	0	3	0	0	3	1		7
	1	0	0	0	0	0	0	0	1		2
北九州市 (八幡製鉄)											

【浜松市】	打安点	【北九州市】	打安点
⑤ 佐間	3 0 1	⑥ 添	4 1 0
⑤ 井	2 1 0	⑨ 川	3 1 0
④ 枝	4 0 0	⑦ 田	3 0 0
⑧ 崎	3 0 0	H 孝	1 0 0
⑨ 野	5 1 0	⑦ 中	0 0 0
③ 山	2 1 0	③ 村	4 1 1
⑦ 谷	3 0 0	⑧ 正	3 0 0
③ 中	1 1 0	H 松	1 1 1
② 渡	1 1 0	⑤ 田	3 1 0
⑥ 邊	1 0 0	H 海	3 0 0
H 高	1 1 1	④ 古	1 0 0
② 小	2 0 0	H 民	1 0 0
H 渡	0 0 0	② 安	1 0 0
H 内	1 0 0	① 笠	1 0 0
H 堀	3 2 3	H 野	1 0 0
H 金	3 2 3	H 三	0 0 0

振球機盗失残併	7 8 1 0 1 6 0
投手回安責	2 2 1
渡邊	2
秀武	2
金沢	7

振球機盗失残併	3 2 0 0 2 5 2
投手回安責	4 3 3
投手	4 3/4
後藤	2 1/2
三野	0 1 0
平野	2 2 0

▽本塁打 田籾1号 (金沢) 二塁打 金沢 松田 細井 三時間6分

2回戦

東京都 (大和証券)	0	0	2	0	1	0	0	0	0		3
	1	0	0	0	0	1	0	0	0		2
大津市 (東洋レーヨン)											

【東京都】	打安点	【大津市】	打安点
⑦ 天野	3 0 0	⑦ 青	4 0 0
⑨ 藤	5 1 0	④ 水	4 1 0
④ 岡	4 1 0	⑧ 橋	4 2 0
⑤ 野	3 2 0	③ 部	4 0 0
② 沢	2 1 1	⑥ 田	4 1 1
⑥ 宮	0 0 0	③ 藤	4 0 0
H 太	3 2 1	⑤ 山	2 0 0
⑧ 村	1 0 0	⑤ 江	1 0 0
H 伊	1 0 1	① 上	1 1 0
⑧ 小	1 0 0	H 原	1 0 0
③ 田	1 0 0	R 本	0 0 0
H 倉	2 0 0	② 部	2 0 0
① 根	2 1 0	⑤ 本	0 0 0
① 小	1 0 0	H 田	1 0 1
H 三	1 0 0	H 橋	0 0 0

振球機盗失残併	4 6 4 2 1 1 0
投手回安責	4 1 0 0 5 1
井上	3 2
水原	2 1/2
永橋	5 1
水橋	2 0 0

振球機盗失残併	4 1 0 0 0 5 1
投手回安責	5 5 0
坂手	5
三田	4

▽二塁打 高橋▽2時間31分

準々決勝

京都市 (積水化学)	2	0	0	2	0	0	0	0	2		6
	0	0	0	0	1	0	0	0	0		1
川崎市 (コロムビア)											

【京都市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑤ 三本	4 1 0	④ 関	4 1 0
④ 南	5 2 3	⑧ 吉	3 1 0
⑥ 玉	3 0 0	⑧ 島	1 0 0
⑤ 小	1 1 1	H 部	0 0 0
⑧ 潮	5 2 0	H 房	4 1 1
⑧ 中	5 3 2	⑦ 原	4 0 0
⑦ 堀	1 0 0	⑥ 山	4 1 0
⑨ 長	1 0 0	⑤ 坂	4 1 0
⑨ 川	1 0 0	⑨ 田	2 0 0
⑨ 岡	1 0 0	② 垣	2 0 0
③ 田	4 0 0	③ 内	4 1 0
② 野	2 0 0	② 若	0 0 0
H 中	0 0 0	① 山	0 0 0
③ 野	1 0 0	H 田	1 0 0
① 平	4 1 0	H 山	1 0 0
H 堤	4 1 0		

振球機盗失残併	6 5 0 1 2 9 1
投手回安責	9 6 1
堤	9

振球機盗失残併	3 1 1 0 2 7 0
投手回安責	5 6 4
若手	5
若手	4
吉田	4
若手	4

▽本塁打 南1号 (虎若) 2号② (虎若) 為房1号 (堤) 瀬戸口1号 (吉田) 堀田明1号 (吉田) 二時間50分

2回戦

八王子市 (リッカーマシン)	0	0	1	0	0	0	2	0	0		3
	1	0	0	0	1	0	0	0	0		2
大阪市 (全鐘紡)											

【八王子市】	打安点	【大阪市】	打安点
④ 猪熊	4 0 0	⑦ 池西	3 0 0
④ 打	5 3 1	③ 阿	3 2 0
⑧ 井	5 1 1	③ 細	0 0 0
⑨ 田	3 1 0	④ 宮	1 0 0
H 池	1 0 0	⑧ 地	3 1 0
⑨ 亀	0 0 0	⑧ 野	1 0 0
⑨ 福	0 0 0	⑨ 島	1 0 0
⑦ 太	4 0 0	⑨ 本	2 1 1
③ 石	3 0 0	⑥ 菅	4 1 1
① 森	1 0 0	④ 西	4 0 0
② 小	4 1 0	② 石	3 1 0
⑤ 塙	2 0 0	⑤ 川	3 0 0
⑤ 近	1 1 0	⑤ 上	2 0 0
① 黒	0 0 0	① 丹	2 0 0
H 藤	1 1 0	① 西	0 0 0
H 佐	1 0 0	① 沢	1 0 0
① 石	1 0 0		306 2
③ 渡	2 1 0		
H 岡	2 1 0		

振球機盗失残併	8 2 0 3 0 9 0
投手回安責	4 2 1 1 0
黒津	2 2 1
佐藤	4 4 1
森山	3 0 0

振球機盗失残併	9 2 1 1 2 4 0
投手回安責	6 1 1 1 0
丹羽	6 1/2
西川	1 1 0
清沢	2 1/2

▽三塁打 西山 二塁打 打木▽2時間42分

2回戦

横浜市 (日本鋼管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	0	0	2	0	0	0	0	0	0		2
日本石油 (推薦・横浜市)											

【横浜市】	打安点	【日本石油】	打安点
⑥ 宇野	3 0 0	⑧ 原	4 1 1
⑦ 山	3 0 0	⑤ 石	2 0 1
⑤ 田	4 0 0	④ 松	2 0 0
⑤ 藤	4 1 0	⑦ 枝	2 0 0
⑧ 岡	4 1 0	③ 今	3 1 0
⑨ 岡	1 0 0	⑨ 福	3 0 0
④ 前	1 0 0	② 十	3 0 0
H 山	0 0 0	⑥ 田	3 1 0
H 吉	1 0 0	⑥ 橋	1 0 0
③ 野	3 1 0	① 友	1 0 0
③ 塚	1 0 0		243 2
① 石	1 0 0		
H 井	1 0 0		
H 枝	0		

準々決勝

八王子市 (リッカーマシン)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

0 4 6 4 0 0 0 0 0 X | 14

浜松市 (河合楽器)

【八王子市】	打安点	【浜松市】	打安点
④ 猪打丸	4000	⑤ 佐久間	212
⑥ 山本	3100	⑥ 井枝	2000
H 丸山	1000	④ 細一	542
⑧ 井武	4100	⑧ 山崎	555
⑨ 石井	2100	⑨ 二山	412
⑨ 福太	1111	③ 谷向	600
⑦ 石田	2100	⑨ 久野	1100
③ 石田	2000	⑦ 中田	3100
③ 石田	2100	H 渡邊	1000
⑤ 石田	1000	H 秀夫	3100
① 石田	0000	⑥ 安丹	542
H 石田	1000	② 小宮	4000
H 石田	1000	①	411813
H 石田	0000	振球横盗失残併	47270122
H 石田	0000	投手回安責	9 61
H 石田	1000	投手下	9 61
H 石田	0000	安責	61
H 石田	0000	振球横盗失残併	65212131
H 石田	0000	投手回安責	5 31
H 石田	0000	友歳	5 1/2%
H 石田	0000	立石	9 10
H 石田	0000	▽本塁打	五十住1号②(高畑)▽三塁打
H 石田	0000	今西▽二塁打	村橋▽4時間21分

準々決勝

東京都 (大和証券)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

室蘭市 (富士鉄室蘭)

【東京市】	打安点	【室蘭市】	打安点
⑦ 天野	2000	⑥ 高屋	5000
⑨ 藤岡	4100	④ 岡安	3000
④ 加吉	3000	⑥ 岡安	5111
H 倉太	1000	⑧ 青佐	4100
H 本野	0000	① 藤井	4000
⑤ 大野	4000	⑦ 坂工	4100
② 中村	3000	② 藤井	4200
③ 中村	1000	③ 牧原	4200
⑥ 今伊	2000	⑨ 梅	4200
⑧ 小伊	3000	R	0000
① 小伊	3000	振球横盗失残併	3791
振球横盗失残併	2610	1113091	
投手回安責	1501010	投手回安責	10 10
投手	9 91	投手	10 10
小伊	9 91	立石	4 20
▽2時間38分		振球横盗失残併	9501092
		投手回安責	5 61
		立石	4 20

準々決勝

日本石油 (推薦・横浜市)

1 0 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 1 | 4

0 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 3

大阪市 (日本生命)

【日本石油】	打安点	【大阪市】	打安点
⑧ 石原	6100	⑥ 山下	6100
⑤ 石原	7100	⑦ 下谷	4100
④ 中枝	7100	⑧ 榎長	6210
④ 中枝	7710	⑤ 野田	5000
⑦ 今福	7310	② 植近	6100
R 3	3000	③ 角	5000
③ 渡邊	0000	② 森烟	6000
⑨ 五十住	6220	⑧ 高 藏	3000
② 倉安	5000	① 大永	2000
H 井羽	0000	① 藤原	0000
H 橋村	7300	① 藤原	0000
⑥ 友 友	2000	H 藤原	1000
H 藤原	0000	④ 藤原	6000
H 石原	1000	振球横盗失残併	5051
立石	1000	9402160	
振球横盗失残併	55133	投手回安責	7 3
65212131		高 藏	6 60
投手回安責	31	大 永	1 1/2%
友歳	5 1/2%	立石	9 10
立石	9 10	▽本塁打	五十住1号②(高畑)▽三塁打
今西▽二塁打	村橋▽4時間21分		

3位決定戦

日本石油 (推薦・横浜市)

0 2 0 1 0 1 0 0 0 | 4

0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1

浜松市 (河合楽器)

【日本石油】	打安点	【浜松市】	打安点
⑧ 石原	4100	⑤ 細一	4110
H 石原	1000	④ 山崎	4100
H 古田	0000	⑧ 野田	4000
⑤ 中枝	5310	⑦ 谷向	4200
④ 中枝	5110	③ 久野	3100
⑦ 今福	4100	⑨ 中田	0000
③ 今福	3000	③ 久野	1000
⑨ 五十住	3000	H 渡邊	0000
③ 福倉	3000	H 秀夫	1000
② 福倉	4100	⑥ 安丹	0000
⑥ 藤 藤	2110	① 藤原	0000
H 藤原	1110	H 藤原	1000
H 立石	0000	⑥ 中田	3100
振球横盗失残併	3594	② 小宮	3100
9501092		① 小宮	0000
投手回安責	5 61	H 佐久	1100
立石	4 20	金百	0000
振球横盗失残併	3181	H 渡邊	2000
2200050		H 金百	2000
投手回安責	3 42	H 泉	3100
立石	3 31	振球横盗失残併	5500280
金沢	2 31	投手回安責	2 32
渡邊	1 11	友歳	2 3/2%
松島	3 10	立石	2 20
		H 泉	2 41
		▽二塁打	工藤 倉田
		安責▽2時間40分	

日本石油3連覇の夢断たれる。準優勝で室蘭は2回無死一・三塁に工藤が右翼二塁打、先制点をあげた。投手・友歳

準決勝

京都市 (積水化学)

3 0 0 0 1 1 0 0 0 | 5

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

浜松市 (河合楽器)

【京都市】	打安点	【浜松市】	打安点
⑤ 三本	5210	⑤ 佐久間	0000
④ 南	4200	H 尾井	1000
⑧ 中田	4100	④ 細一	3200
⑦ 堀田	4000	⑧ 山崎	4000
⑥ 堀田	4200	⑦ 野田	4100
⑨ 長 川	4210	⑨ 谷向	4000
③ 前上	0000	③ 久野	4100
② 上佐	3000	H 渡邊	3100
H 瀬田	1000	H 秀夫	3110
① 堀田	4000	① 尾井	1000
振球横盗失残併	3792	R 1	0000
8003151		H 1	1000
投手回安責	9 71	H 1	0000
堤	9 71	H 1	1000
		H 1	0000
		振球横盗失残併	3371
		5000450	
		投手回安責	3 30
		技手	2 21
		金沢	3 31
		植木	2 10
		植吉	2 10

準決勝

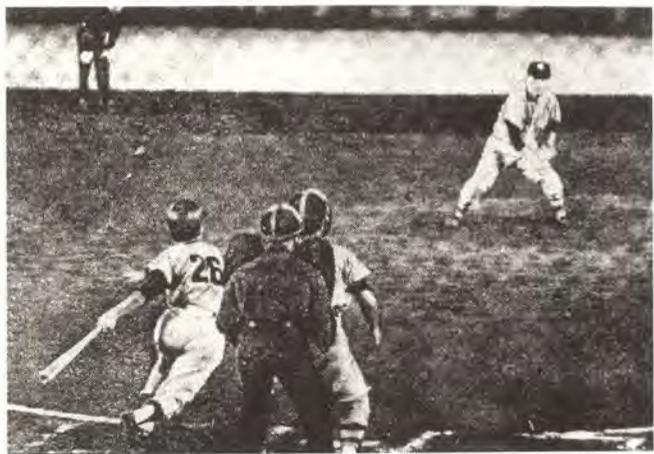
日本石油 (推薦・横浜市)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

0 2 0 0 1 1 0 1 X | 5

室蘭市 (富士鉄室蘭)

【日本石油】	打安点	【室蘭市】	打安点
⑧ 石原	3000	⑥ 高屋	4110
⑤ 石原	3200	④ 岡安	5000
④ 中枝	4000	⑤ 岡安	3110
⑦ 今福	4000	⑧ 青佐	4100
③ 今福	3000	① 藤井	3100
⑨ 五十住	3200	⑦ 坂工	4100
② 倉安	3200	② 藤井	3110
R 3	0000	③ 牧原	4220
③ 渡邊	4110	⑨ 梅	4100
⑥ 藤 藤	0000	振球横盗失残併	3495
① 藤原	1000	2402191	
H 藤原	1000	投手回安責	9 71
H 立石	0000	投手	10 10
H 古田	1000	立石	4 20
H 泉	1000	振球横盗失残併	3171
振球横盗失残併	3171	5500280	
5500280		投手回安責	2 32
投手回安責	2 32	友歳	2 3/2%
立石	2 20	立石	2 20
H 泉	2 41	H 泉	2 41
		▽二塁打	工藤 倉田
		安責▽2時間40分	



大阪市

(全鐘紡)

監督 湖川立羽上清藤本原山部... 捕手 西足丹川上清藤本原山部... 内野 清川上清藤本原山部... 外野 湖川立羽上清藤本原山部...

姫路市

(山陽特殊製鋼)

監督 岡村城浦尻田藤本田根田村古次村崎嶋山田沢内橋木塚... 捕手 岡村城浦尻田藤本田根田村古次村崎嶋山田沢内橋木塚... 内野 岡村城浦尻田藤本田根田村古次村崎嶋山田沢内橋木塚... 外野 岡村城浦尻田藤本田根田村古次村崎嶋山田沢内橋木塚...

大分市

(大分鉄道局)

監督 田田井浦田仁藤本口瀬辺島津田川林谷元木口崎部川浦根... 捕手 田田井浦田仁藤本口瀬辺島津田川林谷元木口崎部川浦根... 内野 田田井浦田仁藤本口瀬辺島津田川林谷元木口崎部川浦根... 外野 田田井浦田仁藤本口瀬辺島津田川林谷元木口崎部川浦根...

大阪市

(日本生命)

監督 江原本友田畑角上田藤森崎藤谷山下井本野山長角小岡前田... 捕手 江原本友田畑角上田藤森崎藤谷山下井本野山長角小岡前田... 内野 江原本友田畑角上田藤森崎藤谷山下井本野山長角小岡前田... 外野 江原本友田畑角上田藤森崎藤谷山下井本野山長角小岡前田...

岡山市

(倉敷レイオン)

監督 田殿畑實本原野南井谷中林木田森井村木原升本橋小稻田津本... 捕手 田殿畑實本原野南井谷中林木田森井村木原升本橋小稻田津本... 内野 田殿畑實本原野南井谷中林木田森井村木原升本橋小稻田津本... 外野 田殿畑實本原野南井谷中林木田森井村木原升本橋小稻田津本...

神戸市

(新三菱重工神戸)

監督 川出津田野川野内川山村内山勝海秀明裕次福将正一行登司洋捷... 捕手 川出津田野川野内川山村内山勝海秀明裕次福将正一行登司洋捷... 内野 川出津田野川野内川山村内山勝海秀明裕次福将正一行登司洋捷... 外野 川出津田野川野内川山村内山勝海秀明裕次福将正一行登司洋捷...

松山市

(電電四国)

監督 見天石松渡川内岡垣井田原田瀬田野尾頭赤水松長增山山本... 捕手 見天石松渡川内岡垣井田原田瀬田野尾頭赤水松長增山山本... 内野 見天石松渡川内岡垣井田原田瀬田野尾頭赤水松長增山山本... 外野 見天石松渡川内岡垣井田原田瀬田野尾頭赤水松長增山山本...

姫路市

(富士鉄広畑)

監督 前川岡藤島崎松中辺口樋芳鈴江内木曾... 捕手 前川岡藤島崎松中辺口樋芳鈴江内木曾... 内野 前川岡藤島崎松中辺口樋芳鈴江内木曾... 外野 前川岡藤島崎松中辺口樋芳鈴江内木曾...

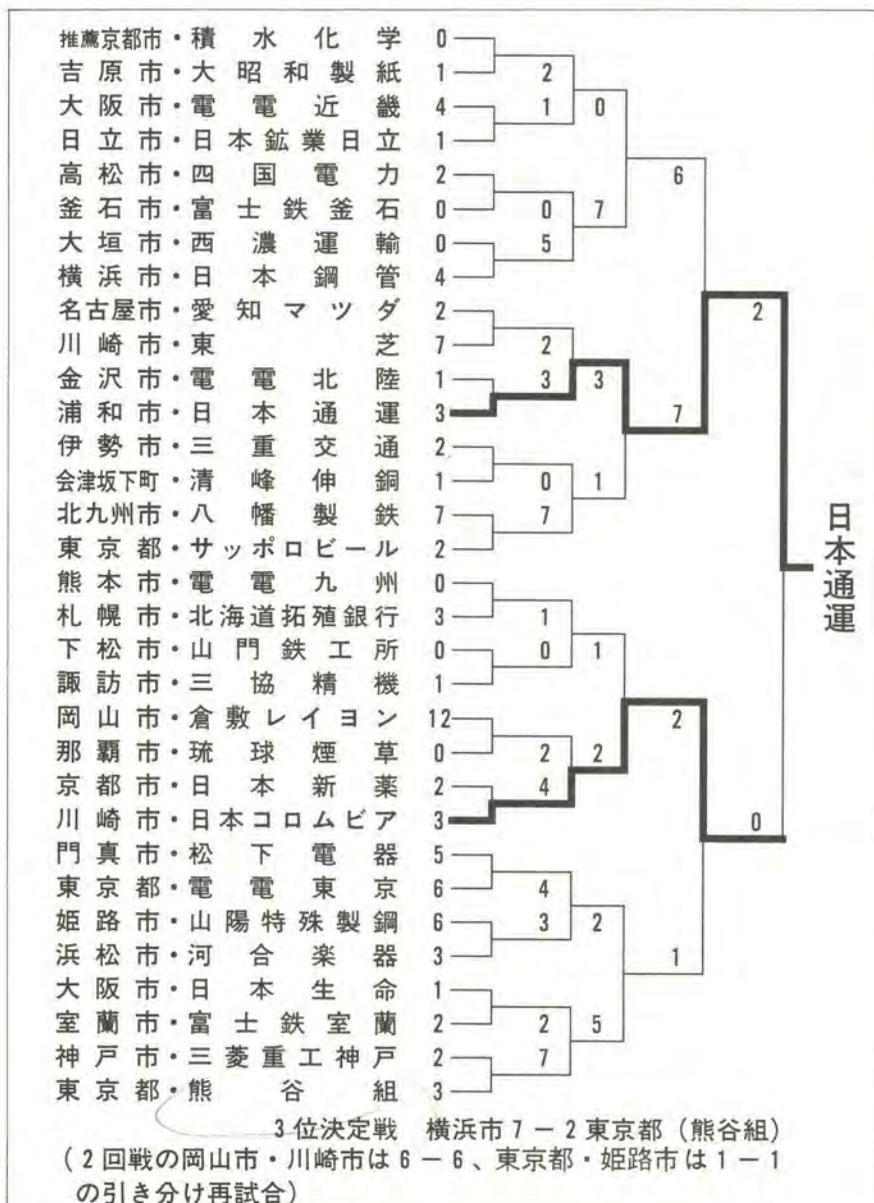
北九州市

(八幡製鉄)

監督 宮島藤崎野村崎西尾沢藤村海田田働添山谷黒田川村古... 捕手 宮島藤崎野村崎西尾沢藤村海田田働添山谷黒田川村古... 内野 宮島藤崎野村崎西尾沢藤村海田田働添山谷黒田川村古... 外野 宮島藤崎野村崎西尾沢藤村海田田働添山谷黒田川村古...

第35回大会 1964年(昭和39年)7月25日-8月4日・後樂園球場

優勝=浦和市・日本通運



ンに初戦で大敗し、本土チームの壁の厚さを知らされた。

ベスト4に残ったのは、大会前に20歳を迎えたばかりの田中章と佐藤昭両投手を擁する浦和市・日本通運。2回戦を岡山市との再試合の末、勝ち上がった川崎市・日本コロムビア。強力補強を得た横浜市・日本鋼管と準々決勝の東京都対決で、黒江幸弘(透修)遊撃手(立正佼成会から補強)の8打席連続安打新記録などで電電東京を降した熊谷組。

決勝進出をかけた準決勝は、浦和市対横浜市、川崎市対東京都の対戦となり、浦和市は8回に一挙4点を奪って見事に逆転し、7年ぶり。川崎市は1点を争う緊迫した投手戦の末、佐伯肇投手が1点差を守って完投、29年ぶりに、いずれも2度目の決勝進出を果たした。

決勝戦はすばらしい投手戦。浦和市は田中、川崎市は近藤重雄の両若手投手が気迫のこもった投げ合いを演じた。押し気味だった川崎市に対し、浦和市は稲葉誠治監督が巧みな用兵で8回2点を奪い、念願の初優勝を手にした。3位決定戦は横浜が10安打を放ち快勝した。

橋戸賞は浦和市の入社2年目の田中投手、久慈賞は、岡山市との引き分け、再試合、札幌市・北海道拓殖銀行との延長12回、決勝の浦和市戦を投げ抜いた川崎市の近藤投手が獲得。小野賞は投打にわたり活躍、川崎との延長12回を投げ切ったが惜敗した札幌市の田中公雄投手に贈られ、3賞を投手で独占した。また、8打席連続安打の新記録を樹立、6割6分7厘で首位打者に輝いた黒江選手には、大会初の特別賞が贈られた。

引き分け再試合が2試合あり、延長戦8試合と、熱のこもった試合が多い大会でもあった。

五輪の年、記念大会に32チーム

東京五輪の年の記念大会で、出場チーム数は32と史上最多。特に沖縄から選ばれた那覇市・琉球煙草が初出場。開会式では、北から南への順で入場行進が行われる中、那覇市は31番目に行進(最後尾は推薦出場の積水化学)して盛んな拍手を浴びた。

大会は前年覇者の京都市・積水化学が第1日第1試合に吉原市・大昭和製紙に零敗する波乱で幕開け。那覇市も岡山市・倉敷レイヨ



各チームの応援団の前を堂々と入場行進する32チーム

決勝

浦和市 (日本通運)	0	0	0	0	0	0	2	0	2
川崎市 (日本コロムビア)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【浦和市】	打安点振球	【川崎市】	打安点振球
⑥ 近藤 藤	301000	⑤ 角 田	400000
⑧ 小 堀	400100	④ 河 野	300000
④ 小 山	300010	H 手 島	100000
③ 木 村	410100	4 藤 木	000000
⑤ 水 野	410000	⑧ 朝 岡	200020
⑦ 永 沢	200000	⑦ 宮 原	200010
7 武 戸	100000	⑥ 宮 原	420000
⑨ 稲 田	320000	⑦ 宮 原	400000
2 荒 井	200100	③ 宮 原	300020
② 田 中	200000	H 宮 原	100000
① 岡 崎	111000	② 宮 原	300020
H 岡 崎	111000	① 宮 原	220001
R 岡 崎	000000	① 宮 原	310100
1 佐 藤	000000	① 宮 原	325081

犠併残盗失	295231	犠併残盗失	00501
20301		00501	
投手回	打安振球責	投手回	打安振球責
田中	7 5810	近藤	9 5311
佐藤	2 0000		
▽三塁打	戸塚▽二塁打	為房	近藤 (川)
▽2時間	46分		

スリーバント!! 奇襲成功

浦和市は20歳の田中、川崎市も21歳の近藤と若手投手が投げ合う投手戦。近藤は切れのいいカーブを外角いっぱい決め、3回まで3人ずつに打ち取り、田中も鋭いシュートを武器に落ちついた投球を続けた。



初優勝を果たし応援席にあいさつする浦和・日本通運

押し気味だったのは川崎市で、2、3、4回と無死から安打や四球の走者を出しながら、強攻策が裏目に出て、田中に抑えられた。

一方、浦和市は4回に村木が初安打し、二死一・三塁の先制機を迎えたが重盗に失敗。5回は戸塚が中越え三塁打したが、実らなかった。

近藤、田中の譲らぬ投げ合いのまま7回を終えたが、浦和市が8回にやっと勝機をつかんだ。戸塚が中前安打、稲垣がバントで送ったあと、稲葉監督は好投の田中に代えて、左の岡崎を代打に送り、岡崎は一・二塁間を抜く適時打して、ついに1点をもぎ取った。この打球の右翼手からの返球も悪く、岡崎は一挙三塁に進み、続く近藤がカウント2-1からのスクイズを見事に決めて追加点も奪った。

息づまる投手戦から、好機に強気の代打策、さらにスリーバントスクイズと奇襲に出た浦和市の作戦が見事に凶に当たった。8回からはベテラン・佐藤を投入して抑え切った。

20歳、最年少の橋戸賞

橋戸賞を受けた浦和市・日本通運の田中章投手は、大会直前に20歳になったばかり。最年少の橋戸賞男となった。決勝の川崎市・日本コロムビア戦を含む4試合に登板、準決勝の横浜市・日本鋼管戦で先輩の佐藤を救援し3安打に抑え、決勝も7回5安打無失点の好投で初優勝の原動力となった。千葉経済高から日通入り。佐藤とは合宿も同室。酒は一杯でKOされるが、ピッチングは速球とシュートを主体に、グイグイ攻め初優勝に貢献した。

MEMO
◇昼間最長時間試合 1回戦の東京都・電電東京対門真市・松下電器戦は延長18回で5時間13分。デーゲームの最長時間記録。第24回大会の東京都・熊谷組対岐阜・川島紡の延長19回3時間39分を更新した。ナイトゲームの最長時間試合は、第33回大会の東京都・ニッポンビール対大阪・電電近畿の22回5時間27分で、これが大会最長記録。

◇8打席連続安打 東京都・熊谷組の黒江幸弘(透修)内野手(立正佼成会から補強)は2回戦の室蘭市・富士鉄室蘭戦で4打席4安打、準々決勝の東京都・電電東京戦も4打席4安打で新記録を樹立した。

◇三重殺 2回戦の札幌市・北海道拓殖銀行対諏訪市・三協精機戦で、札幌市が記録。五回諏訪の攻撃で無死満塁に右飛を本塁に好返球。三本間で三塁走者、二・三塁間で二塁走者がタッチアウト。

◇1試合チーム最少打数22 1回戦の諏訪市・三協精機対下松市・山門鉄工所戦で諏訪が記録した。諏訪は1安打で試合は1-0で諏訪が勝った。

従来記録は第17回大会の岐阜市・大日本土木の24打数だった。



稲葉監督を胴上げして喜ぶ日本通運ライン

忘れられない最後の本塁打

東京都・熊谷組
黒江幸弘(透修)内野手
(立正佼成会から補強)



鹿児島高から杵島炭鉱、日炭高松を経て昭和36年立正佼成会入り。8打席連続安打の新記録で史上初の特別賞と首位打者のダブル受賞。巨人に入団して活躍。現在解説者。

都市対抗は日炭高松と3回の補強で4回出たが、この年が終わったらプロに行こうと心に決めていたので、それこそ精一杯プレーした。いい結果でうれしかった。

連続安打は2回戦の室蘭戦の1回裏、逆転の左翼席2ランから始まった。1回戦の神戸戦でも2安打して気分も乗っていたが、別に苦もなく4安打。続く東京同士の電電東京戦でも1回の安打のあと右中間三塁打。三遊間を抜く当たりが多かったが、来た球を無心に

打った感じだった。が、みんなに新記録だと知らされた8打席目は意識した。その場面は左前打したが、9打席目は気持ちの方が先についてダメだった。

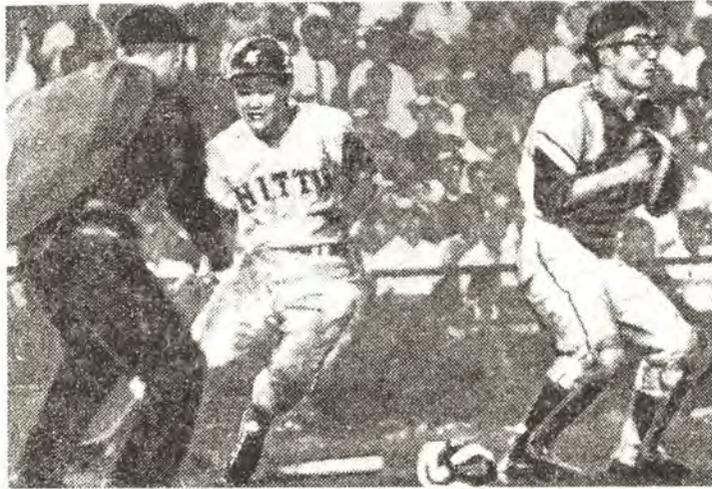
準決勝で負けて3位決定戦にまわったが、相手の日本鋼管の枝松道輝さんが15打数10安打で6割6分7厘。ボクは17打数11安打。ボクが1打数1安打すると並び、打数の多いボクが首位打者になる。第1打席で走者一塁。内野安打を狙ってセーフティーバントをしたがそれが犠打野選と判断された。次も走者なしてバント安打をねらったがファールとなり、2-1と追い込まれた。えい、ままとばかり打ったのが本塁打。これは忘れられない社会人最終打席の本塁打だった。そこで枝松さんも登場、強烈な投ゴロだったが凡打で決まった。監督の古田昌幸さんが二塁手で、二遊間の併殺プレーのとき「どこに投げてもいい」と全部さばってくれたし、古田さんからの送球が一番ボクが投げ易いところに寸分違わなく来た。プロでもいろんな人と二遊間を組んだが古田さんは日本の最高の二塁手と、いまでもボクは信じている。

沖縄から念願の初出場

念願かなって特別参加の初出場、沖縄の代表、那覇市・琉球煙草は、岡山市・倉敷レイヨンと1回戦を戦った。

昭和27年、南九州予選に参加して以来、12年に及ぶ悲願の本大会出場だったが、チーム力にまだ差があった。それに加え、初出場の緊張感。先発の福元保男投手は先頭打者に死球を与えたあと、三塁打、二塁打を打たれ、1回早くも3失点。沖縄県の出場にほん走した国場幸輝・沖縄社会人野球協会理事長らの「堅くならず練習の時と同じようにやってくれば…」の心配が現実になった。

しかし、那覇市ナインは重なる失点にもめげず、はつらつプレーを続け、ファンから惜しめない拍手を受けた。



浦和対北九州。4回浦和は木沢の適時打で村木二塁から生還、先取点。捕手・安西

1回戦

名古屋市 (愛知マツダ)												
0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	2	0	0	2	2	1	X	1	7		

川崎市 (東芝)

【名古屋市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑧ 内川	4 2 1	⑨ 永	4 4 1
⑥ 田端	3 1 0	⑤ 柴	3 0 0
⑥ 上井	0 0 0	⑥ 伊西	4 3 2
③ 伊藤	4 2 0	③ 東岡	4 1 1
③ 藤盛	2 0 0	⑧ 泉	4 1 0
④ 長谷川	2 0 0	⑧ 所	0 0 0
④ 恩田	4 2 0	⑦ 荻春	2 0 0
⑦ 森村	1 0 0	⑦ 野原	2 2 1
⑦ 中池	1 0 0	⑦ 岩本	0 0 0
⑦ 八木	1 0 0	④ 真松	4 2 1
② 浜田	2 0 1	② 鍋岡	0 0 0
⑤ 光岡	2 0 0	② 山本	2 0 0
① 鬼頭	2 0 0	H 2	1 1 0
H 1	1 0 0	① 熊西	1 0 0
1 藤	0 0 0	1 熊本	3 0 0
	29 7 2		35 14 6

振球機盗失残併	1 2 3 1 1 5 0	振球機盗失残併	1 0 3 1 1 0 7 1
投手回	安責	投手回	安責
光岡	4 2/3 6 2	熊西	2 1/2 2 2
鬼頭	1 1/3 3 1	熊本	6 2/3 5 0
藤	2 2 5 3		
▽本塁打	内田1号(熊谷)	伊東1号(光岡)	
▽三塁打	杉山▽二塁打	和泉▽2時間25分	

1回戦

積水化学 (推薦・京都市)												
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

吉原市 (大昭和製紙)

【積水化学】	打安点	【吉原市】	打安点
⑧ 秋原	4 1 0	⑤ 今村	4 0 0
⑤ 瀬戸	4 0 0	④ 久保	4 1 0
④ 南	2 0 0	⑦ 佐野	3 1 0
⑦ 中上	2 0 0	⑧ 山崎	4 1 0
③ 田中	3 0 0	③ 征山	4 1 0
⑨ 長	3 0 0	⑨ 中田	2 2 0
② 榑	1 1 0	⑨ 米中	1 0 0
⑨ 原	3 0 0	② 倉村	3 1 1
⑥ 本	4 0 0	⑥ 藤沢	3 0 0
① 堤	4 0 0	① 安金	3 2 0
	30 2 0		31 9 1

振球機盗失残併	2 6 0 1 0 6 1	振球機盗失残併	3 0 3 1 0 5 1
投手回	安責	投手回	安責
堤	9 1/2 9 1	金	10 2 0
▽本塁打	中村1号(堤)	▽2時間35分	

1回戦

大阪市 (電電近畿)												
0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	4	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		

日立市 (日本鋳業日立)

【大阪市】	打安点	【日立市】	打安点
④ 宮地	4 2 1	③ 渡辺	5 1 0
⑧ 尾崎	5 2 0	⑦ 中村	3 0 0
⑧ 本川	3 0 0	⑨ 本村	4 0 0
⑤ 上川	4 2 1	⑧ 高木	3 2 0
③ 上川	4 0 0	⑤ 山本	1 0 0
⑦ 井上	3 1 0	H R	1 0 0
H 1	1 0 0	R R	0 0 0
② 加西	0 0 0	⑤ 宮本	1 0 0
⑥ 橋道	4 0 0	④ 小野	3 0 0
④ 清庄	2 0 0	② 井長	2 1 0
① 田	1 0 0	② 高田	2 0 0
① 9	3 3 1	① 田	0 0 0
	35 10 3	① 1	1 0 0

振球機盗失残併	3 3 1 1 3 4 1	振球機盗失残併	4 4 0 1 2 9 1
投手回	安責	投手回	安責
加藤	6 4 0	田	1 3/4 4 1
	3 1 1	石	2 1 1
		藤	3 5 1
		内	2 0 0

▽本塁打	宮地 高畑	
▽三塁打	川上	▽2時間45分

1回戦

釜石市 (富士鉄釜石)												
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	1	0	0	0	0	X	2			

高松市 (四国電力)

【釜石市】	打安点	【高松市】	打安点
⑦ 河内	4 2 0	⑦ 鈴江	3 1 0
⑤ 落合	3 0 0	③ 崎	3 1 0
H ④ 白	1 0 0	⑧ 藤	4 1 0
④ 長谷	4 1 0	⑤ 須	3 0 0
⑥ 谷	3 1 0	⑨ 島	1 0 0
② 藤	3 0 0	④ 藤	1 0 1
② 加藤	1 1 0	④ 細	1 0 0
③ 藤	0 0 0	② 三	3 1 1
③ 藤	4 1 0	⑥ 宅	3 2 0
⑧ 久	3 0 0	① 石	2 0 0
⑧ 北	3 1 0	① 木	2 4 6 2
⑨ 伊	1 0 0		
① 佐藤	1 0 0		
H 1	1 0 0		
1 中	0 0 0		

振球機盗失残併	2 1 0 0 2 6 0	振球機盗失残併	4 3 4 1 3 5 1
投手回	安責	投手回	安責
佐藤	3 2 1	佐々木	9 7 0
藤	4 3 0		
中	1 1 0		

▽2時間16分	
---------	--

1回戦

横浜市 (日本鋼管)												
0	0	0	0	2	0	0	2	4				
0	0	0	0	0	0	0	0	0				

大垣市 (西濃運輸)

【横浜市】	打安点	【大垣市】	打安点
⑦ 山田	4 1 0	⑧ 大島	2 0 0
⑥ 宇野	4 1 1	⑧ 久保	2 0 0
⑧ 藤	4 1 0	⑤ 井	2 0 0
⑤ 藤	3 0 0	⑤ 田	4 0 0
④ 佐藤	3 1 0	④ 柴	3 0 0
H 枝	1 0 0	⑦ 武	4 2 0
R 晴	0 0 0	⑨ 横	1 0 0
R 竹	0 0 0	③ 池	2 0 0
4 吉	4 1 2	⑥ 藤	0 0 0
⑨ 西	3 1 0	② 夫	1 0 0
② 瀬	3 0 0	H 赤	0 0 0
③ 村	1 0 0	② 猿	1 0 0
① 石	3 0 0	① 伊	0 0 0
	33 6 3	H 的	1 0 0

振球機盗失残併	4 2 1 2 1 5 1	振球機盗失残併	8 4 1 0 2 6 1
投手回	安責	投手回	安責
阿曾	9 3 0	手沼	5 4 0
		平的	3 1 0
		的	1 1 2

▽本塁打	今西1号(松村)	▽二塁打	宇野
▽三塁打	山田	▽2時間24分	

1回戦

金沢市 (電電北陸)												
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
0	1	1	0	0	0	0	1	X	3			

浦和市 (日本通運)

【金沢市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑧ 入江	4 1 0	⑥ 近藤	3 1 0
⑥ 藤	3 1 0	⑧ 山本	2 0 0
⑦ 伊	4 0 0	④ 小	3 1 2
③ 松	2 1 1	③ 村	2 0 0
⑨ 源	4 0 0	⑤ 岡	2 0 0
② 武	3 1 0	⑤ 竹	3 1 1
② 本	1 0 0	⑦ 内	3 0 0
④ 藏	2 0 0	⑦ 田	2 0 0
⑤ 水	2 0 0	⑨ 武	1 0 0
H 本	1 1 0	② 山	3 1 0
R 藏	0 0 0	① 木	2 0 0
⑤ 田	1 0 0	1 荒	1 0 0
① 村	1 0 0		27 4 3
H 垣	1 0 0		
① 崎	1 0 0		
1 崎	0 0 0		

振球機盗失残併	7 2 2 1 4 5 0	振球機盗失残併	3 3 2 0 0 5 0
投手回	安責	投手回	安責
大港	2 1/2 2 2	田	6 2 0
崎	4 3/4 0 0	佐	3 3 1
太	1 2 1		

▽本塁打	竹之内1号(大垣)	
▽三塁打		▽2時間34分

1回戦

会津坂下町 (清峰伸銅)												
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
0	0	0	0	1	0	0	0	1	2			

伊勢市 (三重交通)

【会津坂下町】	打安点	【伊勢市】	打安点
⑨ 箱崎	5 1 0	⑤ 山	4 1 0
③ 加藤	5 0 0	④ 横	4 1 0
④ 相	5 0 0	③ 濱	5 1 0
⑦ 黒	2 0 0	⑦ 尾	5 0 0
⑤ 金	1 0 0	⑧ 益	4 1 0
② 吉	2 1 0	⑨ 島	3 0 0
R 石	0 0 0	⑧ 東	2 1 0
⑦ 伊	2 1 0	① 藤	5 2 1
⑤ 藤	1 0 0	② 木	4 0 0
⑦ 渡	2 1 0	H 植	0 0 0
⑤ 新	1 0 0	① 安	2 1 0
⑧ 戸	3 0 0	② 荒	3 1 1
① 石	2 0 0		39 8 2
H 山	0 0 0		
1 山	0 0 0		
⑥ 山	1 1 0		
	4 0 0		

振球機盗失残併	8 3 3 0 2 4 2	振球機盗失残併	6 6 0 2 0 6 1
投手回	安責	投手回	安責
石	6 3/4 3 1	伊藤	12 5 1
藤	4 1/2 4 1		
伊	4 1/2 4 1		
杉	4 1/2 4 1		
		▽本塁打	益井
		▽三塁打	益井
			▽3時間30分

1回戦

北九州市 (八幡製鉄)
0 0 0 2 0 0 0 3 2 | 7
0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2

東京都 (サッポロビール)

北九州市	打安点	東京都	打安点
④	海 52	⑦	榎 30
⑦	古石 40	⑥	榎 32
⑧	黒田 42	⑧	北加高 40
⑥	有宮 43	④	藤橋 31
③	瀨松 50	③	藤橋 40
⑨	藤川 30	⑨	原 40
⑤	西野 41	②	金田 40
②	安松 30	②	田大 30
①	野 42	2	中野 00

振球機盗失残併 36105
投手 回 安責 10
高野 9 42

▽本塁打 高橋1号
▽三塁打 宮添
▽二塁打 安西
▽3時間11分

1回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
1 0 0 0 0 0 2 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

熊本市 (電電九州)

札幌市	打安点	熊本市	打安点
④	西村 31	⑧	岡本 30
⑨	村原 30	⑥	岡本 00
⑥	八木 21	⑦	谷村 31
⑧	北八木 40	④	谷村 41
⑦	関根 20	⑨	山田 20
2	香椎 21	8	山田 10
7	杉村 41	③	河内 42
③	牧村 41	7	原 42
⑤	鈴野 20	⑤	原 20
1	岡田 10	②	大田 10
①	田中 33	H	大田 10
		2	伊藤 00
		①	伊藤 20

振球機盗失残併 2310042
投手 回 安責 9
田中 70

▽二塁打 田中
▽2時間27分

1回戦

下松市 (山門鉄工所)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1

諏訪市 (三協精機)

下松市	打安点	諏訪市	打安点
⑥	橋本 40	⑧	光沢 10
⑨	永原 41	④	山上 20
⑧	原村 41	⑨	村上 31
⑤	河原 40	⑤	戸山 30
②	村田 31	⑦	山田 30
④	有田 30	③	野山 20
⑦	大小 00	H	吉田 10
③	松本 31	②	吉田 20
①	高木 20	①	荻原 30
H	川元 10	⑥	小笠原 20
1	伊藤 00		

振球機盗失残併 8101061
投手 回 安責 6
高木 10
伊藤 2 00

▽三塁打 中村1号② (坂田)
▽二塁打 荻原
▽3時間9分

1回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)
3 0 1 2 1 5 0 0 0 | 12
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

那覇市 (琉球煙草)

岡山市	打安点	那覇市	打安点
⑧	口見 52	⑧	憲 40
⑦	田内 10	⑨	憲 40
④	森田 51	⑥	憲 41
③	津原 32	③	宇里 20
⑨	柏日 42	⑦	伊知 00
9	中本 11	7	安高 10
⑥	中村 41	②	安高 10
②	小洋 30	H	原次 10
②	竹中 10	2	賀 10
⑤	竹中 40	⑤	宮里 31
①	竹中 30	④	宮里 10

振球機盗失残併 391110
投手 回 安責 25
高野 9 81

▽本塁打 津田1号② (福元)
▽三塁打 稲見2
▽二塁打 田口 柏本
▽2時間11分

1回戦

京都市 (日本新薬)
0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 3 0 0 | 3

川崎市 (日本コロムビア)

京都市	打安点	川崎市	打安点
④	竹中 21	⑤	島木 40
⑨	中口 32	④	島木 30
⑧	和田 41	H	島木 11
⑦	堀浦 42	4	島木 00
③	三本 31	③	野原 41
⑥	三井 31	⑦	野原 40
H	佐野 10	⑧	野原 41
②	川井 10	②	原房 31
①	井内 30	H	部田 20
①	井内 00	2	部田 00
		⑨	北戸 31
		①	近藤 10

振球機盗失残併 6322461
投手 回 安責 6
井内 6
井内 1
松井 00

▽三塁打 堀浦
▽二塁打 竹中
▽2時間46分

1回戦

姫路市 (山陽特殊製鋼)
0 1 3 0 0 0 2 0 0 | 6
1 0 0 0 1 0 0 0 1 | 3

浜松市 (河合楽器)

姫路市	打安点	浜松市	打安点
⑧	伊田 41	⑥	渡辺 21
⑥	宮崎 51	5	渡辺 00
⑦	住大 40	H	中尾 00
⑤	大村 30	5	中尾 10
③	大村 52	⑤	中風 20
④	羽井 32	6	井川 10
4	末次 00	③	久野 51
⑨	佐田 00	⑧	久野 41
9	佐田 20	⑨	谷口 42
②	堀内 20	⑦	堀内 30
①	松村 41	H	堀内 10
1	松村 20	7	伊藤 00
		④	伊藤 32
		H	伊藤 10
		4	久野 00
		②	久野 20
		H	高田 00
		R	高田 00
		①	高田 10
		1	阿部 21
		H	宮田 11

振球機盗失残併 7512181
投手 回 安責 7
高木 3
伊藤 5

▽本塁打 中村1号② (坂田)
▽三塁打 羽井
▽3時間9分

振球機盗失残併 5411290
投手 回 安責 4
阿部 3
高木 2

1回戦

門真市 (松下電器)
1 0 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 5
3 1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 6

東京都 (電電東京)

門真市	打安点	東京都	打安点
⑨	安田 94	③	福 52
⑥	高村 61	⑧	網 62
⑦	高村 51	⑦	鈴木 81
⑤	高村 43	④	太田 71
③	高村 43	⑤	太田 71
⑤	高村 61	⑧	小田 74
④	高村 10	⑨	小田 00
②	高村 81	③	小田 20
①	高村 71	⑨	小田 11
H	高村 80	②	小田 00
H	高村 00	2	小田 00
H	高村 00	H	小田 10
H	高村 00	①	小田 10

振球機盗失残併 61135
投手 回 安責 7
高木 8
高木 7

▽三塁打 村浜
▽二塁打 神吉 安田
岡田 5時間13分

1回戦

室蘭市 (富士鉄室蘭)
1 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

大阪市 (日本生命)

室蘭市	打安点	大阪市	打安点
⑥	高屋 31	⑥	山近 40
④	岡島 41	③	山近 30
⑦	岡島 42	H	山近 10
⑧	岡島 21	④	山近 40
⑨	須藤 30	⑨	山近 40
9	須藤 10	⑤	菅野 30
⑤	坂井 41	⑦	菅野 10
③	安藤 40	②	菅野 31
①	斎藤 10	5	菅野 10
H	真田 10	⑦	菅野 11
1	真田 10	H	菅野 00

振球機盗失残併 4211360
投手 回 安責 4
斎藤 4
真田 5

▽二塁打 中森
▽2時間50分

1回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2
0 0 1 1 1 0 0 0 0 | 3

東京都 (熊谷組)

神戸市	打安点	東京都	打安点
④	山村 40	⑦	井上 41
⑤	村野 41	⑧	井上 20
⑥	西野 41	⑥	清田 21
⑧	中野 00	⑨	川崎 42
⑨	松本 21	④	川崎 42
⑧	松本 20	③	庭藤 00
9	越中 10	3	庭藤 20
H	越中 00	⑨	加藤 20
③	吉田 21	3	加藤 20
②	高野 40	⑨	加藤 20
①	高野 31	②	加藤 20
		⑤	加藤 11
		1	加藤 11

振球機盗失残併 3322162
投手 回 安責 3
磯野 8 113

▽三塁打 古田
▽二塁打 松本

振球機盗失残併 3110050
投手 回 安責 1
藤野 5
細木 3

2回戦

大阪市 (電電近畿)
0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 2 0 0 0 0 0 0 x | 2
吉原市 (大昭和製紙)

【大阪市】 打安点
(4)6 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(8)7 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(9)7 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(5)3 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(7)7 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(9)9 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(2)H 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(6)4 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(4)H 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(1)H 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
(1)H 宮尾本川 地崎郷上 口上上忠司 中庄吉西 常橋長道 清坂加永
振球機盗失残併 305 1
投手回安責 3 5 1 3 2 8 0
投手回安責 6 2 0
加藤 2 3 0

2回戦

高松市 (四国電力)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 3 0 1 0 0 0 0 x | 5
横浜市 (日本鋼管)

【高松市】 打安点
(7)4 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(7)4 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(4)4 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(3)3 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(5)9 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(9)9 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(2)2 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(6)6 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(6)2 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(1)1 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(1)1 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(1)H 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
(1)H 鈴木藤細須瀧島網吉岩三高三三岩前森佐磯白市森
振球機盗失残併 325 0
投手回安責 9 1 0 2 0 6 0
投手回安責 2 2 4 4
磯白石 1 10
森下 1 41
0 0

2回戦

川崎市 (東芝)
0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 0 0 2 0 0 x | 3
浦和市 (日本通運)

【川崎市】 打安点
(9)6 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(6)6 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(9)6 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(5)5 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(3)3 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(8)R 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(7)7 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(2)2 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(1)H 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(1)H 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
(1)H 永柴 東岡泉養原 原本岡谷野本宮原
振球機盗失残併 325 2
投手回安責 6 1 0 0 0 4 1
投手回安責 4 6 1
熊西相 3 3 2
原 1 0 0

2回戦

北九州市 (八幡製鉄)
1 5 0 0 0 1 0 0 0 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
伊勢市 (三重交通)

【北九州市】 打安点
(4)8 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(8)8 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(7)7 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(6)6 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(3)3 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(9)9 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(2)H 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(9)9 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(5)5 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
(1)1 古石海黒賀田添藤川田孝西田野
振球機盗失残併 331 1 7
投手回安責 2 8 2 8 0 9 1
野 9 2 0

2回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
諏訪市 (三協精機)

【札幌市】 打安点
(4)4 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(9)9 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(6)6 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(3)3 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(8)8 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(2)2 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(7)7 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(5)5 西村原条羽智木沼村椎村桐中
(1)1 西村原条羽智木沼村椎村桐中
振球機盗失残併 283 1
投手回安責 6 5 0 0 0 5 1
田中 9 9 0

2回戦

岡山市 (倉敷レイヨン)
0 5 0 0 0 0 1 0 0 0 | 6
0 1 0 0 0 4 1 0 0 0 0 | 6
川崎市 (日本コロムビア)

【岡山市】 打安点
(8)8 田見森田本原林洋田田中升中真光
(7)7 田見森田本原林洋田田中升中真光
(4)4 田見森田本原林洋田田中升中真光
(3)3 田見森田本原林洋田田中升中真光
(9)9 田見森田本原林洋田田中升中真光
(2)2 田見森田本原林洋田田中升中真光
(5)5 田見森田本原林洋田田中升中真光
(1)1 田見森田本原林洋田田中升中真光
振球機盗失残併 461 2 5
投手回安責 4 3 1 5 2 8 0
岡本真 5 9 5
岡本光 6 1 3 4 0

2回戦

姫路市 (山陽特殊製鋼)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
東京都 (電電東京)

【姫路市】 打安点
(8)6 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(6)6 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(7)7 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(5)5 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(3)3 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(9)9 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(2)2 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(1)H 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(1)H 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
(4)4 伊田田脇沢崎村井田工田藤次
振球機盗失残併 463 1
投手回安責 8 3 2 1 0 8 0
大加藤 11 3 1
▽三塁打 宮脇▽二塁打 伊田▽3時間47分

2回戦 (再試合)

川崎市 (日本コロムビア)
0 0 0 0 1 1 0 0 0 2 | 4
0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
岡山市 (倉敷レイヨン)

【川崎市】 打安点
(5)4 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(4)4 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(8)8 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(3)3 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(7)7 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(2)2 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(6)6 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(9)9 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
(1)1 角藤小河朝櫻保為浅宮戸虎近
振球機盗失残併 351 5 4
投手回安責 2 5 4 0 1 1 1 1
虎若藤 3 5 2
近藤 7 3 0

2回戦

室蘭市 (富士鉄室蘭)
1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
2 1 1 0 0 0 3 0 0 x | 7
東京都 (熊谷組)

【室蘭市】 打安点
(6)4 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(4)4 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(8)8 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(9)9 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(5)5 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(3)3 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(2)2 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(1)H 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(1)H 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
(1)H 高屋敷島崎津柳田戸井若藤治田崎坂倉村岡
振球機盗失残併 325 2
投手回安責 9 6 0 4 5 9 1
道治 1 4 2
真崎 4 2 0
齋村 2 4 1
村 1 2 0

2回戦 (再試合)

東京都 (電電東京)
0 0 1 0 0 1 0 1 0 1 | 4
0 0 1 0 0 0 2 0 0 0 | 3
姫路市 (山陽特殊製鋼)

[東京都] 打安点 [姫路市] 打安点
(9)7 福 岡 4 0 0 0
(7)9 鈴 木 4 1 0 0
(3)3 小 保 0 0 0 0
(8)8 石 方 5 2 1 1
(8)8 谷 中 2 0 0 0
(5)2 太 本 4 1 0 0
(2)2 大 田 2 0 0 0
H 2 小 花 0 0 0 0
(4)4 高 岡 3 1 1 1
(6)6 岡 中 4 1 0 0
(1)1 中 由 1 0 0 0
H 1 伊 下 1 0 0 0
1 竹 市 0 0 0 0
348.4

振球権盗失残併
2 4 3 4 0 7 3
投手回安責
中川 4 3 1
藤 2 1 1
伊 1 4 1
竹 3 3 0
市 3 0 0
準々決勝

横浜市 (日本鋼管)
0 1 1 0 2 0 1 0 2 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
吉原市 (大昭和製紙)

[横浜市] 打安点 [吉原市] 打安点
(7)7 山 田 2 0 0 0
(8)8 田 野 1 0 0 0
(8)9 和 野 5 1 0 0
(5)4 佐 藤 5 1 0 0
(4)4 田 浦 5 3 2 1
(9)9 枝 今 5 5 2 2
(2)2 枝 今 5 2 1 1
(3)3 久 保 4 2 1 1
H 3 久 保 2 0 0 0
H 3 久 保 1 0 0 0
(1)1 村 石 4 0 1 1
(1)1 阿 曾 4 0 1 1
4014.7

振球権盗失残併
10 3 0 6 0 9 1
投手回安責
阿 曾 9 6 0
▽本塁打 田浦1号 (金沢)▽三塁打 枝松
▽二塁打 田浦 加藤2
▽2時間28分
準々決勝

北九州市 (八幡製鉄)
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 0 1 0 0 2 0 X | 3
浦和市 (日本通運)

[北九州市] 打安点 [浦和市] 打安点
(4)4 古 海 4 1 0 0
(7)7 石 黒 2 1 0 0
(6)6 有 黒 3 1 0 0
(3)3 宮 添 4 1 1 0
(9)9 瀨 藤 3 1 0 0
(2)2 中 安 4 0 0 0
(5)5 松 平 4 1 0 0
H 1 野 田 1 0 0 0
1 藤 野 0 0 0 0
1 後 三 0 0 0 0
H 1 柳 沢 1 0 0 0
327.1

振球権盗失残併
6 1 3 0 3 8 2
投手回安責
平野 6 4 0
後藤 1 3 2
三重野 1 3 0
▽二塁打 佐藤
▽2時間46分

準々決勝

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
川崎市 (日本コロムビア)

[札幌市] 打安点 [川崎市] 打安点
(4)4 西 村 5 1 0 0
(9)9 柳 原 5 2 1 1
(6)6 北 条 4 0 0 0
(3)3 牧 智 2 0 0 0
(8)8 鞍 智 3 0 0 0
(2)2 八 木 5 1 0 0
(7)7 杉 城 5 1 0 0
H 7 香 内 0 0 0 0
H 7 香 内 2 0 0 0
(5)5 福 小 1 0 0 0
H 成 3 0 0 0
1 成 1 0 0 0
417.1

振球権盗失残併
4 0 1 4 1 5 2
投手回安責
田中 11 7 1
▽本塁打 戸口1号 (田中)▽三塁打 浅野▽3
時間3分

準々決勝

東京都 (熊谷組)
0 2 2 0 0 0 0 1 0 | 5
0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
東京都 (電電東京)

[熊谷組] 打安点 [電電東京] 打安点
(7)7 鈴 木 0 0 0 0
(8)8 井 上 3 0 1 1
(9)9 窪 木 0 0 0 0
(6)6 大 黒 3 2 0 0
(4)4 古 古 3 0 0 0
(9)9 古 古 4 0 0 0
(3)3 西 加 0 0 0 0
(2)2 伊 西 4 1 0 0
(5)5 原 田 4 0 0 0
(1)1 細 木 3 0 0 0
359.3

振球権盗失残併
6 6 1 3 0 10 3
投手回安責
細 木 9 7 2
▽本塁打 大西敬1号②(伊藤)▽三塁打 黒江
▽二塁打 船田 黒江▽3時間15分

準決勝

横浜市 (日本鋼管)
0 0 0 0 6 0 0 0 0 | 6
1 0 0 0 2 0 0 4 X | 7
浦和市 (日本通運)

[横浜市] 打安点 [浦和市] 打安点
(7)7 山 野 5 2 1 1
(6)6 宇 藤 4 0 0 0
(8)8 佐 藤 4 2 2 2
(5)5 田 枝 4 0 1 1
(4)4 枝 今 3 2 1 1
(9)9 枝 今 4 1 0 0
(2)2 久 前 1 0 0 0
H 3 石 阿 1 0 0 0
(1)1 阿 竹 0 0 0 0
H 塚 前 0 0 0 0
H 塚 前 0 0 0 0
R 塚 前 0 0 0 0
R 塚 前 0 0 0 0
327.5

振球権盗失残併
3 4 2 3 3 5 1
投手回安責
阿松 4 4 0
塚前 1 1 3
塚前 2 2 3
塚前 1 1 0
▽二塁打 小堀2 村木
▽2時間53分

準決勝

川崎市 (日本コロムビア)
0 1 0 0 1 0 0 0 0 | 2
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
東京都 (熊谷組)

[川崎市] 打安点 [東京都] 打安点
(5)5 角 田 4 1 1 1
(3)3 角 田 4 1 0 0
(8)8 浅 朝 4 0 0 0
(7)7 朝 野 4 0 0 0
(9)9 野 原 4 0 0 0
(6)6 野 原 4 1 0 0
(2)2 野 原 3 0 0 0
(4)4 野 原 3 0 0 0
(1)1 野 原 3 2 1 1
335.2

振球権盗失残併
4 1 0 1 0 5 1
投手回安責
佐伯 9 8 1
▽二塁打 角田
▽2時間23分

3位決定戦

横浜市 (日本鋼管)
0 3 0 0 0 2 0 0 2 | 7
0 0 0 1 0 0 1 0 0 | 2
東京都 (熊谷組)

[横浜市] 打安点 [東京都] 打安点
(7)7 山 庭 4 2 0 0
(7)7 山 庭 5 0 0 0
(6)6 山 庭 5 0 0 0
(8)8 山 庭 3 0 0 0
(2)2 山 庭 1 1 1 1
(5)5 山 庭 3 1 0 0
H 5 山 庭 1 0 0 0
H 3 山 庭 1 0 0 0
H 1 山 庭 1 0 0 0
(9)9 山 庭 4 2 2 2
(2)2 山 庭 1 0 0 0
(4)4 山 庭 1 0 1 1
(4)4 山 庭 1 0 1 1
H 山 庭 1 1 1 1
R 山 庭 0 0 0 0
R 山 庭 0 0 0 0
(3)3 山 庭 1 1 1 1
3310.7

振球権盗失残併
4 4 4 2 2 7 1
投手回安責
塚前 5 5 1
阿 曾 3 2 1
阿 曾 1 1 0
▽本塁打 黒江2号 (塚本)村橋1号 (池谷)▽
二塁打 久保庭 大西敬 和田▽2時間10分

浦和市 釜石市 東京都 川崎市

浦和市 (日本通運) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

釜石市 (富士鉄釜石) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

東京都 (サッポロビール) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

川崎市 (東芝) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

推薦・京都市

京都市 (積水化学) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

会津坂下町

会津坂下町 (清峰伸銅) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

東京都

東京都 (電正東京) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

吉原市

吉原市 (大昭和製紙) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

室蘭市

室蘭市 (富士鉄室蘭) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

日立市

日立市 (日本鋳業日立) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

横浜市

横浜市 (日本鋼管) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

浜松市

浜松市 (河合楽器) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

札幌市

札幌市 (北海道拓殖銀行) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

東京都

東京都 (熊谷組) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

川崎市

川崎市 (日本コロムビア) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

諏訪市

諏訪市 (三協精機) 監督 30 11 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

名古屋市

(愛知マツダ)

Table listing names and numbers for Nagoya City (愛知マツダ).

京都市

(日本新薬)

Table listing names and numbers for Kyoto City (日本新薬).

神戸市

(三菱重工神戸)

Table listing names and numbers for Kobe City (三菱重工神戸).

高松市

(四国電力)

Table listing names and numbers for Takamatsu City (四国電力).

大垣市

(西濃運輸)

Table listing names and numbers for Gakyo City (西濃運輸).

大阪市

(電電近畿)

Table listing names and numbers for Osaka City (電電近畿).

姫路市

(山陽特殊製鋼)

Table listing names and numbers for Himeji City (山陽特殊製鋼).

北九州市

(八幡製鉄)

Table listing names and numbers for Kitakyushu City (八幡製鉄).

伊勢市

(三重交通)

Table listing names and numbers for Ise City (三重交通).

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City (日本生命).

岡山市

(倉敷レイオン)

Table listing names and numbers for Okayama City (倉敷レイオン).

熊本市

(電電九州)

Table listing names and numbers for Kumamoto City (電電九州).

金沢市

(電電北陸)

Table listing names and numbers for Kanazawa City (電電北陸).

真門市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Mamiya City (松下電器).

下松市

(山門鉄工所)

Table listing names and numbers for Shimomatsu City (山門鉄工所).

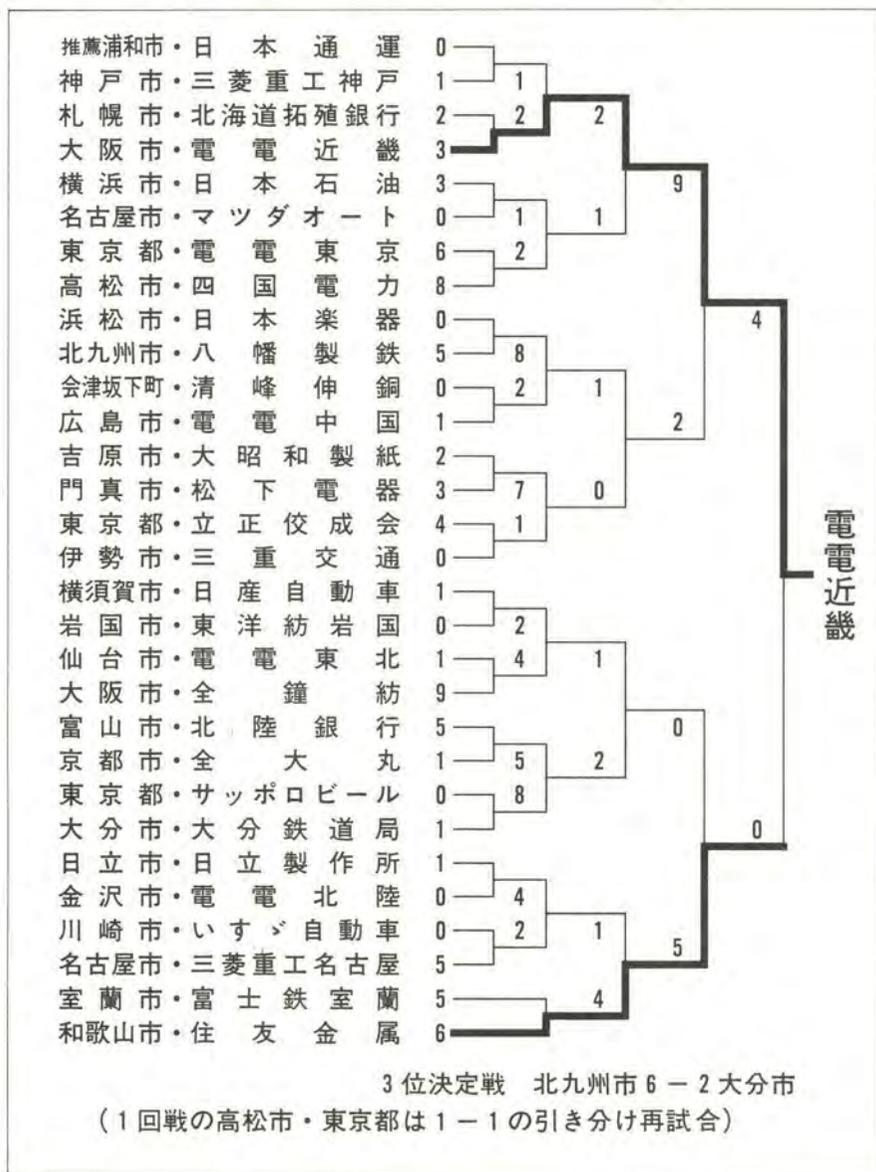
那覇市

(琉球煙草)

Table listing names and numbers for Naha City (琉球煙草).

第36回大会

1965年(昭和40年)7月25日 - 8月3日・後樂園球場
優勝=大阪市・電電近畿



8強に西日本勢 7チーム

雨で1日順延され、7月25日に開幕した大会は、8月3日に10日間の日程を終了。出場チームの頂点には、エース・小弓場保投手(日本生命から補強)の力投で勝ち進んだ伏兵、大阪市・電電近畿が、初めて登りつめた。

前年覇者の浦和市・日本通運が、初日第1試合で神戸市・三菱重工神戸に零敗する波乱で始まったのに続き、戦力の充実ぶりから優勝の最有力候補とされた吉原市・大昭和製紙も第2日、門真市・松下電器に1点差の苦杯

をなめるなど、有力チームが次々と姿を消した。横浜市・日本石油やベスト8に進んだ大阪市・全鐘紡の強豪も、高松市・四国電力、大分市・大分鉄道局といった西日本の地方チームの前に敗れ去り、西の新鋭チームの台頭ぶりが目立った。

ベスト8に残った東日本勢は日立市・日立製作所ただ1チーム。この日立も準決勝で、和歌山市・住友金属に敗れたため、4強はすべて西日本勢となり、終戦直後の昭和22年の第18回大会以来、18年ぶりの西日本4強による準決勝となった。

大阪・電電近畿と北九州市・八幡製鉄。和歌山市・住友金属に大分市・大分鉄道局の対戦となった準決勝は、3回に3ランなどで4点を挙げた大阪市、スクイズも織り交ぜた揺さぶりで大分市を降した和歌山市が勝ち残り、10年ぶり2度目の近畿勢同士の決勝対決となった。

ナイターで行われた決勝は、3点本塁打で先制した大阪市が、小弓場投手が巧みな投球で、和歌山市の反撃を抑えて完封勝ちし、第26回大会(昭和30年)の全鐘紡以来、黒獅子旗は10年ぶり6度目の大阪市入りとなった。

九州同士の3位決定戦は北九州市が持ち前の打力を発揮し、大分市に11安打を浴びせて快勝した。

池西増夫監督のもと、チームワークと小弓場投手の奮投で優勝を手にした大阪市。清沢忠彦投手ら豊富な投手陣を使いこなし準優勝した和歌山市と、この大会の「投高打低」傾向を反映し、1点差試合が13試合もあった。

大会の特徴を象徴したような活躍ぶりを見せた小弓場投手が橋戸賞、和歌山市の初の決勝進出の原動力となった清沢投手が久慈賞を受賞。小野賞は「西旋風」地方チーム躍進の台風の目となった大分市が、第27回大会の日立市・日立製作所以来2度目のチーム受賞に輝いた。



決勝戦。1回大阪の中村が左翼に先制3ランを放つ

決勝

和歌山市 (住友金属)											
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	X	4
大阪市 (電電近畿)											

【和歌山市】	打安点振球	【大阪市】	打安点振球
⑥ 宮地	4 1 0 0 0	⑧ 尾崎	4 0 0 0 0
④ 土井	4 1 0 0 0	④ 西野	4 1 0 1 0
④ 清水	4 2 0 1 0	② 浜野	3 1 0 0 1
⑨ 高松	4 0 0 2 0	⑤ 浜口	3 1 0 0 1
⑨ 高塚	3 1 0 0 0	③ 中村	3 1 3 0 0
② 高田	2 0 0 0 0	⑦ 中井	3 0 0 1 0
③ 堀内	0 0 0 0 0	⑨ 上原	2 0 0 0 1
7 直江	3 1 0 0 0	⑥ 橋本	3 0 0 0 0
⑦ 3 湊	3 0 0 0 0	① 小弓場	3 1 1 0 0
① 加藤	0 0 0 0 0		285 4 2 3
1 清沢	2 0 0 0 0		
1 H 桶谷	1 0 0 1 0		
1 大工	0 0 0 0 0		
	306 0 4 0		

機併残盗失	10400	機併残盗失	01300
投手回	安振球責	投手回	安振球責
加藤	1 1/3	3 0 2 4	▽本塁打 中村忠 1号③
清沢	5 2/3	1 2 1 0	(加藤)▽二塁打 清水
大工	1	1 0 0 0	▽1時間55分

4連投の小弓場が完封

大阪市・電電近畿が序盤に、和歌山市・住友金属の先発、加藤をとらえて挙げた序盤の4点を守り切り、小弓場が完封勝ち。

全5試合に登板の小弓場に対し、エース清沢を温存、加藤の先発は意表を突いた。立ち上がり気負った加藤に対し、大阪市は初回、安打と四球の二死一・二塁に、中村忠が1-2からの4球目を左翼席に打ち込む3ランで先制。2回にも小弓場の中前安打で四球出塁の市原を迎えて加点了。



大阪対北九州。1回北九州は一死一・二塁に松田の左前打で石黒ホームを突くがタッチアウト。捕手・西山

ここで、和歌山は加藤をあきらめ、清沢を救援に送った。清沢はこの後をしっかりと締め、以後の反撃に期待をつないだ。

しかし、小弓場は連投の疲れを計算して、カーブを多投して、カウントをかせぐ余裕の投球。さらに重い速球、シュートが低めに決まり、和歌山市は反撃の糸口をつかめないまま、大阪市を上回る6安打を放ちながら零敗した。

地方疾風の目で小野賞

電電九州から補強の田端謙二郎投手が4連投、強豪を次々に倒し大会に風雲を巻き起して小野賞を受賞した大分市・大分鉄道局。

鎮西学院高を出たばかり、18歳の田端は1回戦で東京都・サッポロビールをわずか4安打で完封。続く富山市・北陸銀行戦は、大分の打線が振るい、2回を投げただけだったが、準々決勝の大阪市・全鐘紡戦では“名前負け”したのか、堅くなった1回に犠飛で1点を失いながら、その後はみごとに立ち直り、大阪打線を抑え切って逆転勝ち。シュートを武器に、若々しい攻め一方のピッチングは小気味よく、躍進・大分の象徴のようでもあった。

全員が高校出の“無名軍団”だったが、よく鍛えられ、チームワークで勝ち進んだ。

沖誠哉監督は「選手が力を出し切ってくれた。一戦必勝で戦ったが、精いっぱいのことをやって、いまはスーッとした気持ち」と話



初優勝の瞬間、ベンチを飛び出して喜ぶ電電近畿選手

珍プレー続出OB戦

往年のスタープレーヤらによるOBの紅白戦が、第8日の8月1日朝、準々決勝の試合開始前に行われ、名プレー珍プレーが続出。紅軍は本田竹蔵(全大阪、元クラレ監督)、白軍は井口新次郎(元毎日新聞運動部長)の両氏が監督。第31回大会優勝の東京都・熊谷組、大沢貞義・元監督がリリーフに登板すれば、巨漢・大館勲氏が3ラン本塁打するなど全員元気いっぱい。元気余って、本塁目前で転倒するなどの珍プレーも相次ぎ、拍手と爆笑を誘った。試合は5-4で白軍の勝ちとなり「スコアは、名勝負」の陰の声しきり。

M E M O

◇全員安打 1回戦の名古屋市・三菱重工名古屋対川崎市・いすゞ自動車戦で名古屋市が記録。4回目。

◇2回目の2打席連続本塁打 2回戦の大阪市・全鐘紡対仙台市・電電東北戦で、大阪市の大戸洋儀外野手が5、7回にいずれも左翼席に本塁打した。これは第26回の神戸市・川崎重工対大分市・大分鉄道管理局戦で神戸市・西井遊撃手が記録して以来、史上2回目。1試合で個人2本塁打は第20回の新留(福岡・西日本鉄道)、第26回の西井(神戸・川崎重工)、第34回の南(京都市・積水化学)に次ぎ4人目。

大応援団、場外にも数千人

第5日の第4試合、東京都・立正佼成会対門真市・松下電器の試合は白熱の応援合戦だった。10回目の出場の門真市は、これまでも各

工場から社員、関係者が観戦、みごとな応援をしてきたチームだし、初出場の東京は宗教団体だけに動員力は抜群。試合前日、大会本部に三塁側の内野席はもとより、外野席も全部使わせてほしいとの申し入れがあり、本部を悩ませた。

外野席のバックスクリーンを境に、右翼側では「応援しない」の申し合わせができ、門真は関東一円22事業所から9000人、東京は史上最多の2万2000人を入場させた。

東京勢が外野右翼側の半分近くまで埋め、入り切れなかったファンも数千人。

トランジスター・ガールズのリードで洗練された応援を門真が演ずれば、東京は都下3支部の少年少女鼓笛隊の演奏にあわせた大声援だった。

あえぎあえぎ頂点へ

準決勝、決勝は先行して勝った大阪市・電電近畿だったが、それまでは苦難の連続。

1回戦の札幌市・北海道拓殖銀行戦は先取点をあげたものの、打力が看板の札幌に7回逆転された。必死の大阪は9回西山の死球から道田の三塁打、橋本の左前打で逆転したが、その裏札幌は四球に失策で無死一・二塁。リリーフの小弓場がけん命に投げ、札幌の強行策を封じてやっとの逃げ込み。

2回戦も神戸市・三菱重工神戸を3回に逆転、小弓場が2回半ばからのロングリリーフで辛勝。

準々決勝でも高松市・四国電力の粘りを8回に道田の殊勲打でやっと突き放すなど、いずれも1点差の接戦だった。

補強の責任果たせてホッと

大阪市・電電近畿

小弓場 保投手

(日本生命から補強)



日本生命から大阪市 電電近畿に補強され、5試合に登板し5勝。決勝では和歌山市を完封する活躍で橋戸賞。和歌山県・橋本高出。現在日本生命近畿営業局調査役。

当時、日本生命のエースは高畑武雄で彼は第1代表の全鐘紡。私は、第2代表の電電近畿に補強された。大和証券の解散で日生に移って2年目。調子もよく自信があつて、優勝をつかむチャンスだと思った。

決勝の住友金属戦は、相手の力を十分知っていたし、涼しいナイトゲーム。1回に3ラ

ン、2回には私の適時打で加点し、4-0とリードしたので、気分的にも楽だった。前半はカーブ、後半はシュートをませて投げた。西山英人捕手が私のよい面を引き出してくれた。

9回二死。最後となる打者に2ストライクをとると、審判がニューボールに替えてくれ、真っ白い球で三振をとり、試合を締めくくった。そのボールは、いまでも大事にとってある。優勝の瞬間は、感激より補強としての責任を果たせたとホッとしたのをおぼえている。

はじめはリリーフだったが、準々決勝の四国電力戦で初めて先発して完投した。当時は味方が2、3点取ってくれたら、もう勝つたと思ったものだ。

選手生活を通じて思えば、試合前に緊張しなかったときは、やはり結果も悪かったが、その緊張もマウンドで1球投げれば、落ちつめた。

優勝のあと、ヘルレーヤルゼンテン、南米の国々に遠征できたのもよい思い出である。

1回戦

神戸市 (三菱重工神戸)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

日本通運 (推薦・浦和市)

【神戸市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑥ 林 村	4 1 1	⑦ 古 谷	4 1 0
④ 山 村	4 0 0	⑤ 渡 野	3 0 0
⑦ 山 本	4 1 0	H 9 永 野	1 0 0
⑨ 森 川	3 0 0	④ 永 山	4 0 0
H 9 森 越	1 1 0	⑧ 9 永 武	4 1 0
⑧ 榎 中	4 2 0	③ 竹 之	4 0 0
③ 榎 本	3 0 0	③ 戸 内	3 0 0
② 高 野	4 2 0	⑨ 戸 塚	0 0 0
⑤ 高 村	3 1 0	② 小 堀	3 0 0
① 磯 野	3 0 0	⑥ 荒 井	3 1 0
	33 8 1	① 中 田	2 0 0
		① 佐 藤	1 0 0
振球機盗失残併	4 1 3 2 0 6 1		32 3 0
投手 回 安責	10 3 0	振球機盗失残併	3 0 0 0 1 2 0
磯 野	10 3 0	投手 回 安責	7 5 0
		佐 藤	3 3 1
▽二塁打 中村 越山			
▽2時間25分			

1回戦

大阪市 (電電近畿)

0 0 0 0 1 0 0 0 2 | 3
0 0 0 0 0 1 1 0 0 | 2

札幌市 (北海道拓殖銀行)

【大阪市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑧ 尾 崎	3 2 0	⑧ 八 木	4 0 1
⑨ 尾 原	4 0 0	④ 北 条	4 1 0
④ 浜 野	4 0 0	⑨ 出 雲	2 0 0
⑤ 浜 口	4 0 0	H 9 平 川	1 0 0
5 高 須	0 0 0	R 9 原 村	0 0 0
② 西 須	3 1 0	R 9 西 藤	0 0 0
⑦ 西 上	3 0 0	⑦ 7 佐 藤	4 0 0
③ 中 村	3 1 0	③ ③ 根 根	4 2 0
3 田 田	1 1 1	⑤ ⑤ 桐 桐	1 1 0
⑥ 川 本	3 1 1	H 6 小 川	1 0 0
① 永 本	2 0 0	② ② 鈴 川	2 1 0
1 永 友	1 0 0	⑥ ⑥ 鈴 村	4 0 0
1 小 弓	1 0 0	② ② 杉 村	1 0 0
	32 6 2	H 田 川	0 0 0
振球機盗失残併	4 2 2 2 1 6 2	① ① 白 髪	1 1 1
投手 回 安責	5 4 1	1 野 藤	1 0 0
前 川	5 1/2 4 1		1 0 0
永 友	1 1/2 2 1	振球機盗失残併	4 2 1 2 3 5 0
小 弓	2 0 0	投手 回 安責	4 1/2 3 0
		後 藤	4 1/2 3 0
		野 並	4 1/2 3 2
			3 2
		▽三塁打 道田▽二塁打 関根 鈴木▽2時間55分	

1回戦

横浜市 (日本石油)

0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

名古屋市 (マツダオート)

【横浜市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑦ 山 田	3 0 0	⑨ 伊 藤	2 0 0
⑤ 山 浦	3 0 0	H 9 平 野	2 2 0
④ 枝 松	4 0 0	④ ④ 槐 田	3 0 0
② 松 瀬	4 1 2	H 4 木 村	0 0 0
⑨ 五十 住	4 1 1	⑦ 4 中 山	1 0 0
⑧ 五 村	2 0 0	④ ④ 中 山	4 1 0
8 石 原	2 0 0	③ ③ 中 川	4 1 0
③ ③ 橋 本	3 2 0	⑧ ⑧ 末 八	2 2 0
① ① 阿 邊	1 0 0	② ② 森 木	3 0 0
H 1 阿 會	1 0 0	⑥ ⑥ 勝 木	3 0 0
① ① 保 田	1 0 0	⑤ ⑤ 勝 木	3 0 0
⑥ 宇 野	3 0 0	① ① 濱 光	3 1 0
	31 4 3		30 7 0
振球機盗失残併	3 2 0 3 0 3 1	振球機盗失残併	8 0 1 0 0 4 0
投手 回 安責	5 4 0	投手 回 安責	9 4 3
阿 會	5 4 0	光 岡	9 4 3
保 田	4 3 0		
		▽二塁打 平野▽2時間4分	



応援団コンクールで優勝した門真・松下電器の女子リーダー

1回戦

高松市 (四国電力)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
東京都 (電電東京)

【高松市】 打安点
(7) 鈴木 4 0 0
(8) 江崎 4 1 0
(9) 岩越 5 3 1
(10) 谷藤 5 1 0
(11) 須谷 2 0 0
(12) 白吉 1 0 0
(13) 福石 3 0 0
(14) 西宅 0 0 0
(15) 三細 4 0 0
(16) 東根 4 0 0
(17) 佐々木 3 0 0
振球権盗失残併 35 5 1
投手回安責 9 6 0 1 0 7 2
投手回安責 5 3 0 5 1 1 0 7 2
投手回安責 5 3 0 5 1 1 0 7 2

1回戦

北九州市 (八幡製鉄)
0 0 3 0 2 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
浜松市 (日本楽器)

【北九州市】 打安点
(8) 石黒 4 2 0
(9) 古海 4 1 1
(10) 古有 4 0 0
(11) 松田 3 1 2
(12) 松田 4 2 1
(13) 松田 3 0 0
(14) 松田 1 0 0
(15) 松田 3 0 0
(16) 松田 3 2 0
(17) 松田 3 0 0
振球権盗失残併 32 8 4
投手回安責 5 3 1 2 1 4 0
投手回安責 9 6 0 5 3 1 2 1 4 0

1回戦 (再試合)

東京都 (電電東京)
0 0 0 4 2 0 0 0 0 | 6
0 1 0 1 0 1 5 0 X | 8
高松市 (四国電力)

【東京都】 打安点
(8) 谷本 3 0 0
(9) 石岡 1 0 0
(10) 岡林 0 0 0
(11) 由福 2 1 0
(12) 由福 2 1 0
(13) 由福 1 0 0
(14) 由福 3 1 0
(15) 由福 4 2 2
(16) 石岡 4 0 0
(17) 石岡 4 1 1
(18) 石岡 3 1 1
(19) 石岡 4 3 2
(20) 石岡 1 0 0
(21) 石岡 1 0 0
(22) 石岡 1 0 0
(23) 石岡 1 0 0
(24) 石岡 1 0 0
振球権盗失残併 36 10 6
投手回安責 6 2 0 5 2 4 2
投手回安責 3 3 1 5 0 5 3

1回戦

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
吉原市 (大昭和製紙)

【門真市】 打安点
(5) 吉神 5 0 0
(6) 田吉 5 1 1
(7) 田吉 4 2 0
(8) 田吉 5 2 0
(9) 田吉 2 1 0
(10) 田吉 3 0 1
(11) 田吉 2 2 1
(12) 田吉 3 1 0
(13) 田吉 4 0 0
振球権盗失残併 33 9 3
投手回安責 5 5 2 4 1 1 0 0
投手回安責 9 6 0 5 5 2 4 1 1 0 0

1回戦

東京都 (立正佼成会)
1 0 1 0 1 1 0 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
伊勢市 (三重交通)

【東京都】 打安点
(4) 清水 5 4 0
(5) 山中 5 2 2
(6) 金 3 1 0
(7) 藤山 3 0 0
(8) 藤山 3 0 0
(9) 藤山 1 0 0
(10) 藤山 3 2 0
(11) 藤山 3 1 1
(12) 藤山 3 0 0
(13) 藤山 3 0 0
(14) 藤山 1 0 0
(15) 藤山 0 0 0
振球権盗失残併 33 10 3
投手回安責 3 2 3 0 1 7 0
投手回安責 8 6 0 3 2 3 0 1 7 0

1回戦

岩国市 (東洋紡岩国)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 0 0 X | 1
横須賀市 (日産自動車)

【岩国市】 打安点
(6) 岩橋 4 0 0
(7) 岩橋 3 1 0
(8) 岩橋 0 0 0
(9) 岩橋 1 0 0
(10) 岩橋 1 0 0
(11) 岩橋 4 0 0
(12) 岩橋 4 0 0
(13) 岩橋 4 1 0
(14) 岩橋 3 1 0
(15) 岩橋 2 0 0
(16) 岩橋 1 1 0
(17) 岩橋 2 0 0
(18) 岩橋 1 1 0
(19) 岩橋 2 0 0
振球権盗失残併 32 4 0
投手回安責 5 0 0 0 2 5 1
投手回安責 5 5 1 2 0 0 0

1回戦

広島市 (電電中国)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
会津坂下町 (清峰伸銅)

【広島市】 打安点
(5) 三原 3 1 0
(6) 三原 1 0 0
(7) 三原 0 0 0
(8) 三原 3 0 0
(9) 三原 1 1 0
(10) 三原 4 0 0
(11) 三原 4 2 0
(12) 三原 3 2 1
(13) 三原 3 1 0
(14) 三原 1 0 0
(15) 三原 2 0 0
(16) 三原 1 0 0
(17) 三原 2 0 0
(18) 三原 2 0 0
振球権盗失残併 33 7 1
投手回安責 8 3 1 1 0 9 1
投手回安責 4 2 3 2 1 1 0 1

1回戦

富山市 (北陸銀行)
2 0 0 2 1 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
京都市 (全大丸)

【富山市】 打安点
(6) 民谷 4 1 1
(7) 民谷 5 0 0
(8) 民谷 5 3 1
(9) 民谷 4 1 0
(10) 民谷 4 2 1
(11) 民谷 5 0 0
(12) 民谷 3 1 1
(13) 民谷 4 0 0
(14) 民谷 4 3 1
振球権盗失残併 38 11 5
投手回安責 8 4 0 0 1 0 1 0 2
投手回安責 9 4 1 8 4 0 0 1 0 1 0 2

1回戦

東京都 (サッポロビール)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 X | 1
大分市 (大分鉄道局)

【東京都】 打安点
(7) 榎本 4 1 0
(8) 榎本 3 2 0
(9) 榎本 3 0 0
(10) 榎本 4 0 0
(11) 榎本 4 0 0
(12) 榎本 3 0 0
(13) 榎本 2 0 0
(14) 榎本 2 0 0
(15) 榎本 1 0 0
(16) 榎本 1 0 0
(17) 榎本 1 0 0
(18) 榎本 1 0 0
(19) 榎本 2 1 0
(20) 榎本 0 0 0
振球権盗失残併 30 4 0
投手回安責 2 2 2 0 2 7 0
投手回安責 4 4 3 0 2 0 0 0

1 回戦

金沢市 (電電北陸)	
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
0 0 0 1 0 0 0 0 0 X	1
日立市 (日立製作所)	

【金沢市】	打安点	【日立市】	打安点
⑧ 入江	4 1 0	⑨ 鈴木	3 0 0
⑦ 松本	4 0 0	⑨ 木井	0 0 0
⑦ 宮本	3 0 0	⑦ 野沢	2 0 0
③ 宮源	3 0 0	⑦ 沢木	1 0 0
⑨ 源高	2 0 0	④ 中佐	3 1 0
⑨ 高武	1 0 0	⑤ 佐々木	3 1 1
⑥ 小武	3 0 0	③ 野下	3 0 0
④ 小木	3 1 0	⑧ 高木	3 1 0
④ 竹村	2 0 0	⑥ 高鶴	2 1 0
H 4	1 1 0	② 堀田	2 0 0
① 清	1 0 0	① 橋	3 0 0
1	1 0 0		25 4 1
振球機盗失残併	28 3 0	振球機盗失残併	2 1 2 1 0 3 0
3 0 1 0 3 2 1		投手 回 安責	
投手 回 安責		高橋 9	3 0
崎崎 4	3 1		
清水 4	1 0		

1 回戦

大阪市 (全鐘紡)	
1 0 0 3 2 0 1 0 2	9
0 0 0 0 0 0 1 0 0	1
仙台市 (電電東北)	

【大阪市】	打安点	【仙台市】	打安点
⑦ 本郷	5 0 0	⑤ 林	5 1 0
④ 海老原	5 2 1	⑧ 箱崎	3 2 0
⑧ 大梅	4 3 3	⑧ 田松	4 0 0
⑧ 梅川	1 1 1	⑧ 小松	0 0 0
⑤ 上宣	5 0 0	⑦ 黒田	3 0 0
③ 堂上	4 1 0	⑥ 植林	4 0 0
① 野上	1 0 0	④ 藤地	4 2 0
H 9	3 1 1	④ 中後	0 0 0
② 大加	2 0 0	③ 菊永	3 2 0
⑥ 岩本	2 1 2	③ 水前	1 0 0
H 6	2 1 0	H 中	1 0 0
① 山川	3 0 0	② 門川	0 0 0
③ 大上	1 1 0	① 屋友	2 0 0
	39 11 8	① 山藤	1 0 0
振球機盗失残併	5 2 0 4 1 5 2	① 伊藤	1 1 0
投手 回 安責		H 野	0 0 0
川上 7	7 1	H 佐	1 1 0
高畑 2	2 0		35 9 0
		振球機盗失残併	3 2 0 0 3 9 0
		投手 回 安責	
		山藤 4	7 6
		藤 3	2 1
		伊 2	2 0
		佐	2 0
▽本塁打	海老原 1号 (杉山)	大戸 1号 ② (杉山)	
	2号 (伊藤)	▽三塁打 中林	▽二塁打 加島 山
			下▽2時間30分

1 回戦

川崎市 (いすゞ自動車)	
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
0 0 0 0 1 4 0 0 X	5
名古屋市 (三菱重工名古屋)	

【川崎市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑥ 角田	4 0 0	⑥ 川端	5 1 0
④ 為渡	3 1 0	⑦ 脇井	4 1 0
⑨ 渡西	2 0 0	⑨ 大花	4 1 1
③ 渡西	4 0 0	④ 恩田	4 2 0
⑤ 森所	3 0 0	⑤ 太田	4 2 0
⑧ 所	3 0 0	③ 植村	3 1 0
⑦ 杉村	3 0 0	② 山本	4 1 0
② 杉村	3 1 0	① 山本	4 1 1
① 佐藤	2 0 0	⑧ 坂東	4 2 3
H 1	0 0 0		36 12 5
H 1	1 0 0	振球機盗失残併	2 2 0 1 2 9 2
1	0 0 0	投手 回 安責	
	28 2 0	鬼頭 9	2 0
振球機盗失残併	3 2 1 1 5 4 2		
3 2 1 1 5 4 2		▽本塁打	坂東 1号③
投手 回 安責		(熊谷)	
熊谷 4	9 1	▽二塁打	為房
佐藤 2	3 4		▽2時間20分
熊谷 1	0 0		

2 回戦

和歌山市 (住友金属)	
0 3 0 0 0 1 0 1 0 0 1	6
0 0 0 0 0 4 0 1 0 0 0 0	5
室蘭市 (富士鉄室蘭)	

【和歌山市】	打安点	【室蘭市】	打安点
⑥ 宮地	5 0 0	⑥ 高屋	5 1 0
④ 井津	3 0 0	④ 嶋	5 2 0
H 1	1 0 0	⑦ 嶋	6 0 1
④ 小島	1 0 0	⑧ 津柳	6 2 0
⑧ 清高	5 1 0	⑤ 青	6 2 3
⑨ 高木	5 2 1	⑧ 安	5 1 1
⑤ 塚本	4 1 1	③ 須	2 0 0
② 中本	3 0 0	H 下	0 0 0
② 之内	2 1 0	③ 高	0 0 0
③ 堀直	0 0 0	② 田	2 0 0
⑦ 江	4 1 1	① 崎	5 1 0
7 3	4 0 0	② 崎	0 0 0
① 清	2 0 1	H 崎	1 0 0
1	1 0 0	H 原	1 0 0
1	2 0 1	1	1 0 0
	42 6 5	振球機盗失残併	45 9 5
振球機盗失残併	6 1 3 2 1 4 0	8 5 0 3 4 9 0	
投手 回 安責		投手 回 安責	
沢崎 5 1/2	4 3	田崎 1 1/2	1 1
宮大 2 3/4	2 1	斎野 7 3/4	4 1
工 4	3 0	原 3	1 0
		高塚 1号 (真崎)	
▽本塁打	安戸 1号③ (清沢)		
▽二塁打	田中 (和)		▽3時間53分

2 回戦

神戸市 (三菱重工神戸)	
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0	1
0 0 2 0 0 0 0 0 0 X	2
大阪市 (電電近畿)	

【神戸市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑥ 林	4 0 0	④ 尾崎	4 2 0
④ 山	3 1 0	⑧ 崎	3 0 0
H 1	1 1 0	⑤ 山口	4 1 0
⑧ 吉	5 1 0	② 賀	4 1 1
⑨ 森	3 1 0	⑤ 須	0 0 0
⑨ 越	0 0 0	⑨ 忠	3 1 0
⑦ 山	0 0 0	⑨ 井	0 0 0
③ 松	4 2 0	⑦ 原	4 1 0
② 中	3 0 0	③ 上	2 0 0
⑤ 高	4 0 0	③ 田	2 0 0
⑤ 野	3 2 1	⑥ 本	3 1 0
① 野	1 1 0	① 本	0 0 0
H 1	1 1 0	① 水	0 0 0
H 1	0 0 0	1	3 0 0
R	3 2 1 0 1		3 0 7 1
		振球機盗失残併	2 3 0 0 2 7 1
振球機盗失残併	5 3 4 1 3 1 1 2	投手 回 安責	
投手 回 安責		手川 1	2 1
磯野 8	7 0	水友 0	1 0
		小弓 7 1/2	7 0
▽二塁打	尾崎 中村忠		▽2時間45分

2 回戦

横浜市 (日本石油)	
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1	2
高松市 (四国電力)	

【横浜市】	打安点	【高松市】	打安点
⑦ 山田	3 0 0	⑧ 岩崎	6 3 0
H 7	3 1 0	⑦ 崎	2 0 0
⑤ 浦	5 1 0	H 7	2 0 0
④ 松	4 1 0	④ 江西	4 1 0
② 枝	3 0 0	⑤ 智	5 0 0
③ 十	3 0 0	③ 谷	4 1 0
H 3	1 0 0	① 藤	3 0 0
⑧ 石	2 0 0	② 藤	3 0 0
H 8	2 0 0	② 村	4 0 0
① 阿	2 0 0	① 根	4 0 0
1	1 0 0	⑥ 東	1 0 0
1	1 0 0	① 河	4 1 1
⑥ 井	4 1 0	1 3	4 3 6 1
	39 5 0	振球機盗失残併	7 3 0 0 2 6 1
振球機盗失残併	11 5 3 2 1 7 0	投手 回 安責	
投手 回 安責		河端 4 1/2	2 0
阿保 5	3 1	佐々木 2	2 0
田 5 3/4	2 0	白 6 3/4	1 0
松 2	1 0		
▽三塁打	岩崎		田浦 越智 岩崎
▽二塁打	田浦 越智 岩崎		▽3
時間18分			

2 回戦

北九州市 (八幡製鉄)	
0 1 0 1 0 0 1 2 3	8
0 2 0 0 0 0 0 0 0	2
広島市 (電電中国)	

【北九州市】	打安点	【広島市】	打安点
④ 石古	4 1 0	⑤ 原光	3 0 0
⑧ 黒海	5 3 0	⑤ 亀下	1 0 0
④ 古	4 1 1	⑨ 三時	4 1 0
⑤ 宮	5 4 3	⑨ 丸宮	4 0 0
⑥ 松	4 1 0	③ 新大	2 0 0
② 宮	5 1 0	H 3	1 0 0
② 松	1 1 1	H 4	1 0 0
③ 安	4 2 2	⑧ 田	4 2 0
① 戸	4 0 0	⑧ 井	2 0 0
	36 14 7	H 8	0 0 0
振球機盗失残併	6 4 2 6 4 7 2	H 8	1 0 0
投手 回 安責		H 7	0 0 0
平野 9	5 0	② 2	2 1 1
		① 1	2 1 0
		1	0 0 0
			31 5 2
		振球機盗失残併	3 1 1 0 0 4 0
		投手 回 安責	
		伊藤 5 1/2	7 2
		磯野 2 1/2	4 3
		磯井 1 1/2	3 3
▽本塁打	松田 1号③ (井名)		
▽二塁打	彦田 松田		
			▽2時間50分

2 回戦

大阪市 (全鐘紡)	
0 0 3 0 0 0 0 0 1	4
0 1 0 0 0 0 1 0 0	2
横須賀市 (日産自動車)	

【大阪市】	打安点	【横須賀市】	打安点
⑦ 本郷	4 2 0	④ 矢島	4 1 0
④ 海老原	3 1 1	⑧ 島	2 0 0
⑤ 大川	4 1 1	H 8	1 0 0
③ 堂上	4 1 1	⑦ 福	1 0 0
③ 堂上	4 0 0	⑦ 黒	4 1 0
H 9	0 0 0	② 永	3 1 1
② 大加	1 0 0	⑤ 松	3 1 1
⑥ 岩本	2 1 0	③ 岡	3 1 0
H 6	4 1 0	⑨ 崎	3 0 0
① 山川	3 1 1	9	0 0 0
③ 大上	3 0 0	① 山	0 0 0
① 大上	1 0 0	H 1	2 0 0
	33 8 4	H 1	1 0 0
振球機盗失残併	4 1 2 2 0 5 0	① 川	0 0 0
投手 回 安責		⑥ 仲	3 0 0
川上 6 1/2	5 2		30 5 2
高畑 2 3/4	0 0	振球機盗失残併	5 0 0 0 0 1 0
		投手 回 安責	
		山崎 2 1/2	5 3
		渡 5 1/2	1 0
		森 1	2 1
		吉 1	2 1
		本郷	
▽本塁打	永井 1号 (川上)		
	海老原 岩本 黒崎 石川		▽2時間12分

富山市 (北陸銀行)

0 0 0 0 3 1 0 1 0	5
1 0 0 0 5 0 2 0 X	8
大分市 (大分鉄道局)	

【富山市】	打安点	【大分市】	打安点
⑥ 民	3 1 0	⑦ 出	2 1 2
⑧ 渡	2 0 1	⑧ 本	4 3 2
⑧ 田	2 0 0	② 野	2 1 1
⑨ 藤	4 0 0	② 湯	2 2 2
③ 吉	4 0 0	③ 島	4 0 0
⑦ 高	4 1 1	⑨ 本	3 0 0
⑤ 戸	4 2 0	⑥ 部	4 1 0
H 4	0 0 0	⑤ 本	3 0 0
② 中	2 1 1	④ 川	3 1 1
H 4	1 0 0	① 口	1 0 0
H 2	3 1 1	① 武	1 0 0
② 倉	1 0 0	1	1 0 0
① 萩	1 1 1	1	30 9 8
H 1	1 1 0	振球機盗失残併	3 4 1 1 3 3 0
H 1	0 0 0	投手 回 安責	
1	1 0 0	吉田 4 1/2	3 1
	33 8 5	武 2	4 1
振球機盗失残併	1 1 4 0 1 6 2	若山 2 3/4	1 1
1 1 4 0 1 6 2			
投手 回 安責			
萩 4 1/2	5 6		
田 2 3/4	4 2		
白 1	0 0		
▽本塁打	高橋 1号 (若山)		
	▽二塁打	湯野 民	
	谷 出口		▽2時間18分

2 回戦

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 4 0 2 1 | 7
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
東京都 (立正佼成会)

【門真市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 2
安責 1
▽二塁打 小林
▽2時間42分

2 回戦

名古屋市 (三菱重工名古屋)
1 0 0 0 0 0 1 0 0 | 2
0 0 0 1 2 0 1 0 X | 4
日立市 (日立製作所)

【名古屋】 打安点
【日立市】 打安点
振球機盗失残併
投手 上野 2
安責 1
▽二塁打 高畑 1号
▽三塁打 植村
▽二塁打 恩田 鶴田
▽2時間37分

準々決勝

高松市 (四国電力)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
0 0 1 0 0 0 0 1 X | 2
大阪市 (電電近畿)

【高松市】 打安点
【大阪市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 2
安責 1
▽二塁打 松井
▽二塁打 宮地 清水
▽2時間40分

準々決勝

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 0 0 0 0 0 0 X | 1
北九州市 (八幡製鉄)

【門真市】 打安点
【北九州市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽2時間2分

準々決勝

大阪市 (全鐘紡)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 2 0 0 0 0 0 X | 2
大分市 (大分鉄道局)

【大阪市】 打安点
【大分市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽二塁打 大島 加島
▽2時間5分

準々決勝

和歌山市 (住友金属)
1 3 0 0 0 0 0 0 0 | 4
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
日立市 (日立製作所)

【和歌山市】 打安点
【日立市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽三塁打 松井
▽二塁打 宮地 清水
▽2時間40分

準決勝

大阪市 (電電近畿)
1 0 4 0 0 0 0 2 2 | 9
0 0 0 1 1 0 0 0 0 | 2
北九州市 (八幡製鉄)

【大阪市】 打安点
【北九州市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽三塁打 井上 1号
▽二塁打 尾崎
▽2時間45分

準決勝

和歌山市 (住友金属)
0 0 0 2 0 0 0 0 3 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
大分市 (大分鉄道局)

【和歌山市】 打安点
【大分市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽2時間33分

3 位決定戦

大分市 (大分鉄道局)
0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
0 2 1 0 1 1 0 1 X | 6
北九州市 (八幡製鉄)

【大分市】 打安点
【北九州市】 打安点
振球機盗失残併
投手 岡本 1
安責 1
▽三塁打 古海
▽二塁打 安西
▽2時間6分

大阪市

(電電近畿)

Table listing names and numbers for Osaka City, categorized by '近畿' (Kansai) and '大阪' (Osaka).

仙台市

(電電東北)

Table listing names and numbers for Sendai City, categorized by '東北' (Tohoku).

東京都

(立正俊成会)

Table listing names and numbers for Tokyo City, categorized by '立正俊成会'.

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka City, categorized by '日産自動車'.

推薦・浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City, categorized by '日本通運'.

会津坂下町

(清峰伸銅)

Table listing names and numbers for Sakuragawa Town, categorized by '清峰伸銅'.

東京都

(サッポロビール)

Table listing names and numbers for Tokyo City, categorized by 'サッポロビール'.

吉原市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Kojima City, categorized by '大昭和製紙'.

札幌市

(北海道殖産銀行)

Table listing names and numbers for Sapporo City, categorized by '北海道殖産銀行'.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Niihama City, categorized by '日立製作所'.

川崎市

(いすゞ自動車)

Table listing names and numbers for Kawasaki City, categorized by 'いすゞ自動車'.

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City, categorized by '日本楽器'.

室蘭市

(富士鉄室蘭)

Table listing names and numbers for Muroran City, categorized by '富士鉄室蘭'.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo City, categorized by '電電東京'.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City, categorized by '日本石油'.

富山市

(北陸銀行)

Table listing names and numbers for Toyama City, categorized by '北陸銀行'.

名古屋市

和歌山市

神戸市

北九州市

(マツグオート) 監投手 30 伊光紀吉...

(住友金属) 監投手 30 酒井清宮...

(三菱重工神戸) 監投手 30 山崎川野...

(八幡製鉄) 監投手 30 宮崎手三...

名古屋市

京都市

広島市

大分市

(三菱重工名古屋) 監投手 30 鈴木近門...

(全大丸) 監投手 30 織森天木...

(電電中国) 監投手 30 田田保名...

(大分鉄道局) 監投手 30 沖田金三...

伊勢市

大阪市

岩国市

(三重交通) 監投手 30 服部藤川...

(全鐘紡) 監投手 33 多湖隆平...

(東洋紡岩国) 監投手 30 小松木中...

監投手 30 庄田竹南...

金沢市

真門市

高松市

(電電北陸) 監投手 30 野崎水田...

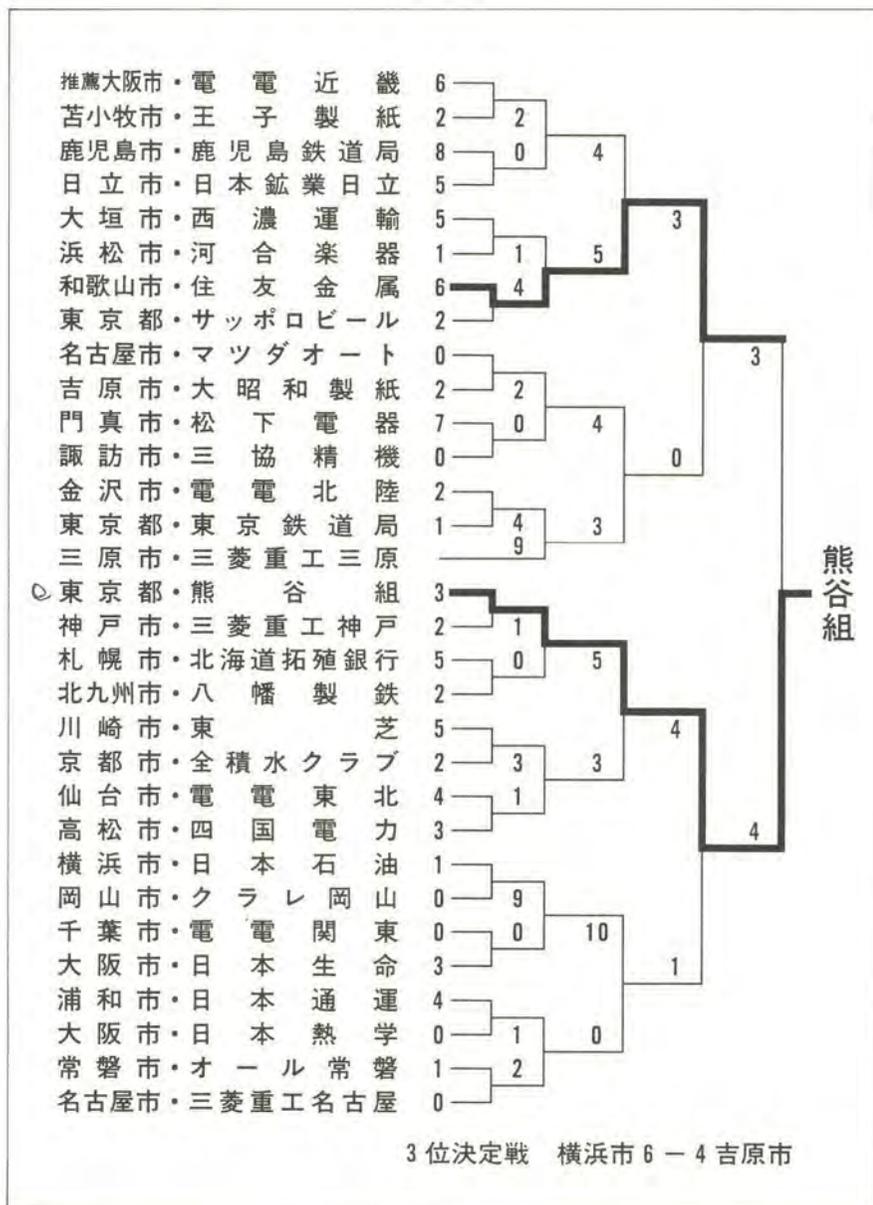
(松下電器) 監投手 30 西安坂加...

(四国電力) 監投手 30 沢松森原...

監投手 30 関高德志...

第37回大会 1966年(昭和41年)7月23日-8月1日・後樂園球場

優勝=東京都・熊谷組(6年ぶり3回目)



連続をはね返しての優勝だった。1回戦は神戸市・三菱重工神戸の激しい追い上げで1点差、2回戦の札幌市・北海道拓殖銀行戦も7回に相手の失策で得た1点を大櫃照彦、藤津靖雄投手が守り切った。

準々決勝の川崎市・東芝との試合では2点をリードされ、6回の二死一塁に古田監督が右翼フェンス直撃の三塁打。三塁への送球がそれ、古田は一挙に生還し同点とし延長戦。10回川崎市が1点をあげ、9回からリリーフの速球派、田中稔投手のピッチングから、そのまま押し切るとみられたが、その裏一死一・二塁に古田監督が1-0からの内角速球を見事にたたき、左翼席中段に打ち込む逆転のサヨナラ3ラン。横浜市・日本石油との準決勝も1-1のまま9回裏を迎えた。横浜市のリリーフ平松政次投手の速球が冴えていたが、古田監督の二塁打から築いた二死一・二塁に河野愿捕手が、またもサヨナラ3ラン。神がかり的な土壇場の粘りで決勝に進んだ。

和歌山市・住友金属との決勝も和歌山が先取点をとり、いったんは逆転したものの、8回同点にされ延長戦。10回の無死満塁をしのいだ東京はその裏の二死一・三塁に谷本良樹三塁手が右翼線にサヨナラの殊勲打を放った。

和歌山市も清沢忠彦、神部年男(富士鉄広畑から補強)両投手、ベテランの宮地昭雄遊撃手、高塚昌俱内野手らがチームをよく引っぱり勝ち進んだが、東京の勢いの前に2年連続の準優勝となった。

準決勝はこの両チームと横浜市、吉原市・大昭和製紙の強豪チームが揃ったが、大会を盛りあげた異色のチームはクラブ・チームの常磐市・オール常磐。炭鉱不況のあおりで常磐炭鉱がチームを解散、傍系の会社に散った選手たちが斬り切れない野球への情熱から作ったチーム。2回戦で第35回大会優勝の浦和市・日本通運を延長15回で倒すなど大健闘した。

31試合で29本塁打と1大会の最多本塁打を記録、このなかで吉原市・今村忠彦内野手の2試合連続先制本塁打、東京都の古田、河野両選手のサヨナラ本塁打が光る。

橋戸賞は東京・古田監督が文句なく受賞、久慈賞は2年連続して和歌山・清沢投手、小野賞は横浜市・平松投手に贈られた。

3連続サヨナラ勝ちで黒獅子旗

31チームが参加、ハワイで開かれる世界アマチュア野球選手権大会への出場権をかけて熱戦が展開された。打っては3番、守っては二塁手としてチームを引っ張り、大活躍した古田昌幸監督の東京都・熊谷組が準々決勝から3試合連続サヨナラ勝ちの放れわざで6年ぶり3度目の優勝を果たした。

東京の第2代表の熊谷組は文字通り苦戦の

決勝

和歌山市 (住友金属)									
2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	0	1	0	2	0	0	4
東京都 (熊谷組)									

【和歌山市】	打安点振球	【東京都】	打安点振球
⑥ 宮地	4 0 0 0 1	⑦ 川崎	5 0 0 2 0
⑧ 田中	5 0 0 0 0	⑨ 森	0 0 0 0 0
⑨ 清高	4 1 0 1 0	⑨ 玉森	2 0 0 0 0
⑤ 高松	5 2 2 1 0	⑤ 谷本	2 1 1 0 0
④ 塚村	3 1 1 0 1	④ 井野	4 0 0 1 0
③ 中松	3 1 0 0 2	③ 古田	4 1 0 0 0
⑦ 三村	4 0 0 0 0	⑧ 井松	0 0 0 0 0
⑦ 桶谷	1 0 0 0 2	⑧ 後	1 0 0 0 0
H 津	1 1 0 0 0	H 8 野	2 1 0 0 0
3 本	1 0 0 0 0	② 河	3 0 0 1 1
① 浜	3 0 0 1 0	⑤ 山	1 0 0 0 1
1 沃	0 0 0 0 0	H 9 福	2 2 1 0 0
H 宮	1 0 0 0 0	⑥ 神	4 1 1 0 0
1 渡	0 0 0 0 0	① 津	1 0 0 1 0
神 部	0 0 0 0 0	H 1 木	1 0 0 1 0
	3 5 6 3 3 6	1 大	1 1 0 0 0
機併残盗失		機併残盗失	3 4 7 3 7 2
3 0 1 1 3 2		2 1 5 0 2	
投手回	安振球責	投手回	安振球責
清沢 5 2/3	2 3 1 1	津木 2 2/4	2 2 4 0
宮崎 1 1/3	2 2 1 1	大 2 2/3	3 1 1 1
神部 2 2/3	3 2 0 1		1 0 1 0

▽本塁打 高塚1号(細木) ▽二塁打 高松2
神野▽3時間10分

和歌山無念、10回の無死満塁

決勝にふさわしく、追いつ追われつの接戦となり、延長戦にもつれ込んだが、10回東京・熊谷組がサヨナラ勝ちで和歌山・住友金属を振り切った。

和歌山は10回無死満塁とした。しかし東京はリリーフの大櫃が併殺で切り抜けし、のぎ切ったのが大きかった。その裏東京は下位の福岡、大櫃が安打して一死一・三塁。和歌山・神部も頑張り、トップの川崎を三振にうちとりチャンスがつぶれたかに見えたが、谷本が右翼線に決勝打を放ち、息詰まる熱戦に終止符を打った。

先手を取ったのは和歌山。1回四球と敵失、バントでつくった二死二・三塁に、高松が左翼線に二塁打して2点。

東京は清沢に4回まで無走者に抑えられていたが、5回井野が初安打、二死後神野が左中間二塁打して1点。7回は代打・後の安打と死球で一死一・二塁とし、代打・福岡が左前打して同点、さらに神野の投ゴロで併殺をさせた二塁手の悪送球の間に逆転した。

和歌山も8回、高塚が東京のリリーフ細木から左翼席に同点本塁打を打ち込み延長戦となったが、絶好のチャンスを逃がした10回の逸機が痛かった。

史上5回目の決勝延長戦

決勝の延長戦は史上5回目。これまで第7回大会の東京倶楽部6-5全京城(10回)第8回の全大阪7-6八幡製鉄(10回)第31回の東京・熊谷組3-2門真・松下電器(10回)第32回の横浜・日本石油4-2名古屋・新三菱重工名古屋(12回)がある。



決勝。東京は10回谷本の安打で福岡がサヨナラの生還

手に汗握る4時間8分

白熱戦の多かった大会だが、なかでも2回戦の常磐市・オール常磐と浦和市・日本通運の試合は、ガッブリ組んで手に汗を握らせた。

浦和が先制したが、常磐も8回に阿部の適時打で同点。延長にもつれ込んだが、リリーフの常磐・近藤、浦和・田中の両エースがゆずらず、ともに走者を出しながらもホームまで遠かった。

14回、浦和は相手の守りのミスをついて無死二・三塁。ここで常磐は敬遠策をとり満塁となった。絶体絶命のピンチだったが、近藤

は冷静に内野ゴロで併殺に打ちとり切り抜けると、15回には先頭の6番・蔵本二塁手が左翼席に目の覚めるような本塁打。その裏を近藤が抑え切り、4時間8分にわたる熱戦に幕を引いた。

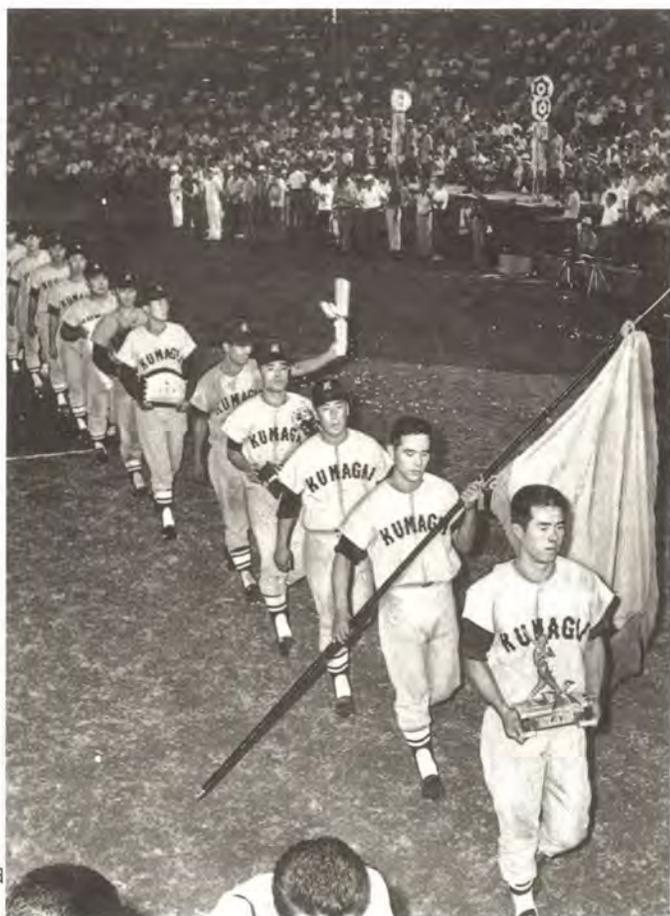
8強の陰にフラダンス!

4年目を迎えた応援コンクールで、クラブチームの常磐市・オール常磐が最優秀賞に選ばれ話題をまいた。関連の観光会社ハワイアン・センターのダンサーらが中心となって、強烈なリズムに乗ったフラダンスは、そのパンチ力で観客を驚かせた。

受賞理由は「球場いっばいに、健康的な明るさを吹き込み、また、白い制服姿の常磐炭碓習技生の少年たち100人の一糸乱れぬ清潔な印象が感動を与え、チームをベスト8に進出させた活躍ぶり」だった。

MEMO

◇1大会最多本塁打29 29人が1本ずつ打ち込んで達成。従来記録は第20回大会の27本。



3度目の優勝に輝く東京・熊谷組。橋戸賞を持つ古田監督を先頭に場内を一周



強烈なリズムに乗ったフラダンスで常磐を応援する常磐ハワイアンセンターのダンサー。最優秀賞に輝いた

決勝で勝てない悲運に泣いた

和歌山市・住友金属
清沢忠彦投手



慶大出。住友金属のエースとして速球とカーブを武器に活躍。36、37回大会で準優勝、史上2度目の2年連続久慈賞。監督も務めた。現在は、住友金属建設関西営業部担当部長。

決勝で2年続けて負けた。あの悔しさは忘れることができない。36回大会は夢中で勝ち進んだので、決勝で電電近畿に破れての準優勝でも、さほど悔しくなかった。が、37回大会は、私もチームのみんなも、前年につけた自信があったので、どうしても勝ちたい気持ちが強かった。それだけに決勝で熊谷組に敗れた悔しさは、大きかった。会社も非常に残

念があった。決勝戦で先発した私は、4回まで3人ずつで片付け、味方打線が1回に2点を奪ってリードしていたが、優勝経験のないチームの弱さだろうか、5回に1点を取られてから、熊谷の力にじわじわ巻き込まれていった。私はその5回、初安打と四球の走者を出したあと、左中間へ二塁打を打たれた。打たれた瞬間は「打ち取った」と思ったのだが、打球は左中間にボトリと落ちてしまった。ここで私は交代。

岐阜商時代、私は甲子園で春、夏とも決勝で敗れた。決勝で勝てない非運が監督さんの頭に浮かんで、リードしていても代えられたのだらうと思う。試合はもつれて延長になったが、サヨナラ負け。逆転、逆転で勝った熊谷の「古田野球」の神髄を見せつけられた思いだった。

あのとき勝てなかったから、石井毅投手で53回大会を制するまで、またかなりの年数がかかってしまった。

1回戦

和歌山市 (住友金属)

1 0 2 0 0 0 0 0 3 | 6
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2

東京都 (サッポロビール)

【和歌山市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 宮直	3 1 0	⑦ 本野	4 0 0
⑦ 地江	0 0 0	④ 櫻北	4 3 0
H 7 桶渡	3 0 0	⑥ 松川	4 1 1
H 7 谷辺	1 0 0	③ 岡口	2 0 0
7 清三	0 0 0	H.3 大加	1 0 1
⑧ 清水	4 2 2	⑧ 越藤	4 2 0
⑨ 高松	5 1 1	⑨ 屋田	2 0 0
⑤ 3 高田	4 2 0	H.2 金	1 0 0
② 中田	4 1 0	② 金	0 0 0
③ 田津	2 0 0	② 2 9	2 0 0
5 中清	2 2 0	⑤ 5 5	1 0 0
④ 4 1 3	4 1 3	⑤ 5 5	1 0 0
① 1 3 2	3 2 0	① 1 1	1 0 0
1 1 0 0	1 0 0	H 1 1	1 0 0
	36126	H 1 1	1 0 0

振球横盗失残併
7 3 1 0 0 7 1
投手 回 安責
清沢 7 1/3 7 2
宮崎 1 3/4 0 0

▽三塁打 松岡 中村
▽二塁打 清水 加藤
辺津▽2時間46分

振球横盗失残併
2 1 1 0 1 5 1
投手 回 安責
角谷 3 3 5 3
池谷 4 4 3 0
藤原 1 1 4 3
角 1 1 0 0

1回戦

苫小牧市 (王子製紙)

0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 2 2 0 2 X | 6

電電近畿 (推薦・大阪府)

【苫小牧市】	打安点	【電電近畿】	打安点
④ 島村	4 0 0	⑧ 尾崎	3 0 0
⑥ 高田	3 0 0	④ 崎井	4 1 2
⑤ 安戸	3 1 0	② 長西	4 2 0
H 5 簡	1 0 0	⑦ 井上	3 1 0
⑧ 島向	4 1 0	⑤ 井上	3 0 0
③ 島向	4 2 1	③ 道川	2 1 1
⑨ 中工	4 0 0	⑥ 沖橋	3 1 1
⑦ 藤木	2 0 0	⑨ 永本	4 1 1
② 桐平	1 0 0	① H	1 1 0
H 2 木田	3 1 1	R	0 0 0
① 1 2 1 0	2 1 0	R	0 0 0
1 1 0 0	0 0 0	1	2 1 1
1 1 0 0	0 0 0		2 9 6
1 1 0 0	1 0 0		振球横盗失残併
	3262		0 7 2 1 0 8 0

振球横盗失残併
2 1 0 3 0 4 2
投手 回 安責
真鈴木 4 2 3/4 3 2
木崎 1 1/2 3 2
山崎 0 2 1 0
山東 0 2 2 2
▽本塁打 川口1号 (東谷)▽三塁打 向川▽二
塁打 西山 井上▽2時間34分

1回戦

日立市 (日本鉱業日立)

1 0 0 0 0 2 1 0 1 | 5
1 5 1 0 1 0 0 0 X | 8

鹿児島市 (鹿児島鉄道局)

【日立市】	打安点	【鹿児島市】	打安点
⑥ 森川	4 1 0	⑥ 鈴木	2 0 1
⑦ 木本	2 0 0	④ 鮎橋	4 0 0
H 7 柳本	1 1 0	⑤ 元田	4 1 4
7 中田	0 0 0	⑦ 橋本	2 0 0
H 7 柳本	1 0 0	7 橋本	0 0 0
⑨ 5 2 0	4 2 1	③ 田本	4 3 2
⑤ 5 2 0	5 2 0	⑨ 橋本	2 0 0
⑧ 5 4 3	5 4 3	⑧ 山田	2 1 1
③ 4 1 0	4 1 0	② H	2 1 0
④ 3 0 0	3 0 0	① 1	2 0 0
② 4 1 0	4 1 0	① 1	0 0 0
① 1 0 1	1 0 1	① 1	4 1 0
1 1 1 0	1 1 0		2 8 7 8
H 1 0 0	0 0 0		振球横盗失残併
1 1 0 0	1 0 0		4 9 0 0 1 6 2
	36135		投手 回 安責

振球横盗失残併
5 5 1 0 1 1 0 0
投手 回 安責
藤内 1 1/3 1 1
松井 4 6 6 4
高橋 3 0 0 0
▽本塁打 橋元1号④ (松井) 大隅1号 (松井)
▽二塁打 横山 松浦▽2時間48分

1回戦

名古屋市 (マツダオート)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 1 0 0 X | 2

吉原市 (大昭和製紙)

【名古屋市】	打安点	【吉原市】	打安点
⑧ 村原	3 0 0	⑦ 倉崎	4 1 0
8 中池	1 0 0	⑧ 米山	3 0 1
⑥ 勝永	3 1 0	⑨ 藤原	4 1 0
⑦ 3 3 0	3 0 0	⑤ 藤原	4 0 0
③ 3 4 0	4 0 0	④ 本村	3 0 0
⑨ 9 2 0	2 0 0	② 中村	3 1 0
⑤ 4 2 0	2 0 0	③ 小今	3 1 0
④ 4 2 0	4 2 0	⑥ 小今	2 1 1
② 1 0 0	1 0 0	① 金	3 0 0
H 4 1 0 0	1 0 0		2 9 5 2
H 4 1 0 0	1 0 0		振球横盗失残併
H 4 1 0 0	1 0 0		2 1 1 2 0 5 0
① 1 0 0	0 0 0		投手 回 安責
H 1 1 0	1 1 0		金 沢 9 4 0
1 1 0 0	0 0 0		
	3040		

振球横盗失残併
7 2 1 1 0 9 0
投手 回 安責
野口 3 1 1
岡藤 3 1 1
光紀 2 3 0

▽本塁打 今村1号 (野口)▽二塁打 浜口▽2時間15分

1 回戦

浜松市 (河合楽器)
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 0 4 0 1 0 0 X | 5
大垣市 (西濃運輸)

【浜松市】 打安点
④ 武 上 3 0 0
⑧ 堀 内 3 0 0
⑦ 伊 藤 4 1 1
③ 久 米 2 1 0
H 3 久 米 2 0 0
⑥ 中 谷 2 0 0
⑥ 中 谷 2 0 0
H 中 谷 1 0 0
② 岡 岡 4 1 0
② 岡 岡 3 2 0
① 岡 岡 1 0 0
H 岡 岡 1 0 0
H 岡 岡 1 0 0
振球機盗失残併 325 1
投手回安責 9 2 0 0 4 6 0
▽本塁打 堀内1号
(柴田)▽三塁打 岡村
遠谷▽二塁打 岡村
岡庭▽2時間37分

1 回戦

門真市 (松下電器)
4 0 1 2 0 0 0 0 0 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
諏訪市 (三協精機)

【門真市】 打安点
⑤ 吉 田 4 0 0
⑧ 福 本 5 3 0
③ 高 吉 5 1 0
⑥ 高 林 5 2 2
⑦ 小 下 5 2 0
② 土 山 4 1 2
② 土 山 4 2 1
① 土 山 2 1 1
H 土 山 3 1 0
H 土 山 1 0 0
振球機盗失残併 38136
投手回安責 8 4 1 1 1 9 0
▽三塁打 福本▽二塁打
下田 小林 2
▽2時間15分

1 回戦

東京都 (東京鉄道局)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 2 0 0 X | 2
金沢市 (電電北陸)

【東京都】 打安点
⑤ 村 山 4 0 0
⑨ 西 田 4 0 0
⑦ 石 井 3 0 0
⑧ 小 林 3 2 0
④ 常 渡 1 0 0
④ 常 渡 4 0 0
③ 相 原 2 0 0
R 小 松 0 0 0
② 小 松 3 1 0
② 小 松 2 0 0
H 中 大 1 0 0
H 中 大 1 0 0
① 飯 野 2 1 1
H 飯 野 1 0 0
H 飯 野 1 0 0
振球機盗失残併 314 1
投手回安責 2 3 1 0 1 7 1
▽二塁打 飯田 伊藤
▽2時間11分

1 回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
0 0 0 0 0 0 2 0 0 | 2
0 0 1 1 1 0 0 0 X | 3
東京都 (熊谷組)

【神戸市】 打安点
④ 山 村 3 0 0
⑤ 川 村 3 0 0
③ 吉 岡 4 1 0
② 小 林 1 0 0
H 吉 岡 1 0 0
② 高 野 1 0 0
⑨ 高 野 1 0 0
⑧ 中 山 3 0 0
H 中 山 1 0 0
⑦ 岡 岡 2 0 0
⑦ 岡 岡 3 2 2
① 山 野 1 0 0
H 山 野 1 1 0
H 山 野 1 0 0
振球機盗失残併 315 2
投手回安責 8 2 0 0 1 4 0
▽本塁打 古田1号(磯野) 岡山1号②(藤津)
▽二塁打 河野▽2時間23分

1 回戦

北九州市 (八幡製鉄)
0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2
0 2 1 0 1 0 0 1 X | 5
札幌市 (北海道拓殖銀行)

【北九州市】 打安点
⑧ 石 黒 3 1 0
④ 谷 田 4 0 0
⑦ 藤 添 4 3 0
② 有 瀬 4 1 1
⑥ 宮 戸 4 1 0
③ 宮 戸 4 1 0
⑤ 柳 中 2 0 0
H 柳 中 1 0 0
① 柳 中 1 0 1
H 柳 中 1 0 0
H 柳 中 1 0 0
振球機盗失残併 347 2
投手回安責 7 2 0 0 0 7 1
▽本塁打 高梨1号(平野)▽三塁打 野並▽二
塁打 有田 畑▽2時間21分

1 回戦

千葉市 (電電関東)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 0 0 1 1 0 X | 3
大阪市 (日本生命)

【千葉市】 打安点
⑧ 崎 丸 4 1 0
⑤ 金 丸 3 0 0
③ 西 岡 1 0 0
⑦ 崎 丸 4 2 0
⑦ 崎 丸 2 1 0
H 崎 丸 1 0 0
② 佐 藤 3 1 0
② 佐 藤 3 0 0
④ 宇 都 3 1 0
① 宇 都 2 1 0
H 宇 都 1 0 0
H 宇 都 0 0 0
振球機盗失残併 316 0
投手回安責 6 0 0 0 1 4 1
▽本塁打 浜野1号(宇都宮)▽2時間2分

1 回戦

京都市 (全積水クラブ)
0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2
0 0 0 3 0 0 2 0 X | 5
川崎市 (東芝)

【京都市】 打安点
⑧ 中 田 4 0 0
④ 南 田 4 0 0
② 堀 田 4 3 1
⑤ 堀 田 2 1 0
H 堀 田 1 0 0
⑦ 堀 田 4 1 0
⑥ 堀 田 3 0 0
⑥ 堀 田 2 0 0
H 堀 田 0 0 0
③ 堀 田 2 0 0
③ 堀 田 1 0 0
① 堀 田 1 0 0
H 堀 田 1 0 0
H 堀 田 0 0 0
振球機盗失残併 305 1
投手回安責 5 2 0 1 1 3 1
▽本塁打 永淵1号(永島) 堀田1号(近藤)▽
二塁打 宮沢 堀田▽2時間25分

1 回戦

浦和市 (日本通運)
0 0 2 0 0 0 0 0 2 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
大阪市 (日本熱学)

【浦和市】 打安点
⑥ 村 塚 4 3 0
⑨ 中 戸 3 1 2
④ 石 矢 2 0 0
③ 矢 武 3 0 0
⑤ 矢 武 4 0 0
⑦ 竹 本 4 1 0
② 山 本 4 1 2
① 山 本 4 1 0
振球機盗失残併 327 4
投手回安責 3 4 4 1 0 5 0
▽本塁打 戸塚1号②
(滝内) 稲垣1号②
(山本)▽二塁打 中村
▽2時間13分

1 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
岡山市 (クラレ岡山)

【横浜市】 打安点
⑨ 幕 田 5 0 0
⑧ 渡 枝 5 0 0
④ 枝 田 3 2 0
② 枝 田 4 1 0
⑥ 枝 田 4 2 0
⑦ 枝 田 3 1 0
⑦ 枝 田 1 0 0
⑤ 枝 田 3 1 0
③ 枝 田 3 1 0
① 枝 田 0 0 0
H 枝 田 4 1 1
H 枝 田 0 0 0
振球機盗失残併 359 1
投手回安責 8 2 1 0 0 7 0
▽二塁打 田口 上野山
石山▽3時間1分

1 回戦

高松市 (四国電力)

2 0 0 0 1 0 0 0 0 | 3
0 1 0 0 0 0 3 0 X | 4

仙台市 (電電東北)

【高松市】	打安点	【仙台市】	打安点
⑧ 岩真	3 1 0	⑨ 箱松	2 0 0
⑥ 山下	2 0 0	⑤ H 9	1 0 0
③ 谷智	3 2 1	⑧ 小内	4 1 0
④ 島越	3 2 2	⑤ 山田	4 0 0
⑤ H 5	3 0 0	⑧ 吉黒	4 1 0
⑨ 尾赤	1 1 0	⑦ ③	2 1 0
② 安三	4 0 0	③ 3	1 1 0
① R	4 1 0	⑥ ②	2 0 1
⑦ 後佐	0 0 0	④ ④	2 2 3
① 鈴	4 0 0	④ ④	3 0 0
⑦ 鈴	3 1 0	④ ④	0 0 0
① H	1 0 0	① H	1 0 0
	3 1 8 3	① H	0 0 0
振球機盗失残併		① H	0 0 0
4 3 2 2 2 6 1		① R	0 0 0
投手回安責		① R	0 0 0
佐々木 8		① R	1 1 0
			2 7 7 4

▽本塁打 門屋1号② (佐々木)▽二塁打 黒田 鳥谷2 門屋 黒田▽2時間18分

2 回戦

和歌山市 (住友金属)

0 0 0 0 0 0 4 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 1 0 | 1

大垣市 (西濃運輸)

【和歌山市】	打安点	【大垣市】	打安点
⑥ 地江	3 1 1	⑧ 柴垣	3 0 0
⑦ 直谷	0 0 0	⑦ 横山	3 2 0
H 7 桶	2 0 0	⑤ 梶山	4 2 1
⑦ 本村	1 0 0	③ H 1	3 1 0
⑧ 三浦	0 0 0	⑨ H 1	1 0 0
⑨ 高木	5 1 1	④ ④	0 0 0
③ 高田	3 0 1	⑥ ⑥	4 0 0
② 高田	4 0 0	② ②	4 1 0
⑤ 中津	4 1 1	① ①	4 0 0
④ 津村	4 0 0	① ①	2 0 0
④ 崎沢	4 2 0	① ①	0 0 0
① 中宮	2 0 0	① ①	1 0 0
① 清	1 0 0	① ①	0 0 0
	3 3 5 4	① ①	1 0 0
振球機盗失残併		① ①	1 0 0
5 6 0 2 1 8 0			3 3 7 1
投手回安責			
崎 6 2/3			
清 2 1/3			

▽本塁打 田中1号(柴田)▽三塁打 中村▽二塁打 宮地▽2時間41分

2 回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 0 X | 1

東京都 (熊谷組)

【札幌市】	打安点	【東京都】	打安点
④ 北出	3 1 0	⑦ 川崎	4 0 0
⑨ 条雲	3 0 0	⑨ 森	0 0 0
③ 梨田	3 0 0	⑨ R 9	3 1 0
⑦ 根川	1 0 0	④ ③	1 0 0
H ⑦ 原	2 0 0	④ ③	3 1 0
R ② 平	1 0 0	③ ③	0 0 0
② 野	3 1 0	⑧ 8	3 1 0
⑧ 野	0 0 0	② H 8	2 0 0
② 藤	1 0 0	⑤ R 5	1 0 0
② 藤	3 0 0	⑥ ①	3 1 0
⑤ 谷	1 0 0	⑥ ①	3 1 0
⑤ H 5	1 0 0	① ①	0 0 0
① 1	1 0 0	① ①	2 1 0
H 1	2 0 0	① ①	1 0 0
① 1	0 0 0		2 9 7 0
	2 6 2 0		
振球機盗失残併			
8 5 1 1 1 5 2			
投手回安責			
田 5 1/3			
長 1 2/3			
野 1			

▽2時間26分

1 回戦

常磐市 (オール常磐)

0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

名古屋市 (三菱重工名古屋)

【常磐市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑧ 阿部	4 0 0	⑦ 脇内	4 2 0
⑥ 池田	4 1 0	⑦ 大坪	0 0 0
⑤ 菅生	3 0 0	⑨ 湯川	3 2 0
⑤ 菅拓	1 0 0	⑥ ⑥	4 0 0
③ 錫	3 1 0	④ ④	4 0 0
⑨ 須永	3 0 0	⑧ ⑧	4 1 0
⑦ 大松	1 0 0	③ H ③	3 0 0
④ ④	3 0 0	⑤ ⑤	1 0 0
② ②	2 0 0	② ②	4 1 0
① ①	0 0 0	① ①	2 0 0
① ①	0 0 0	① ①	3 0 0
① ①	3 0 0		3 2 6 0
	2 9 2 0		
振球機盗失残併			
0 2 1 1 1 4 0			
投手回安責			
近 1 1/3			
藤 7 2/3			
近 4 0			

2 回戦

鹿児島市 (鹿児島鉄道局)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 2 0 0 0 0 X | 2

電電近畿 (推薦・大阪市)

【鹿児島市】	打安点	【電電近畿】	打安点
⑥ 木本	2 0 0	④ 井	3 1 1
④ 鈴	4 2 0	⑧ 長	0 0 0
⑤ 橋	4 0 0	⑦ 甲	2 1 0
⑦ 橋	3 0 0	⑦ 8	2 0 0
H ③ 橋	1 0 0	② ②	3 0 0
③ 橋	3 1 0	⑦ 7 8	4 1 0
⑨ 橋	3 0 0	⑤ ⑤	4 0 0
⑧ 橋	3 0 0	③ ③	4 2 1
② 橋	2 0 0	③ ③	4 2 0
H ② 橋	1 1 0	⑥ ⑥	3 1 0
① ①	1 0 0	① ①	3 1 0
H ① 橋	1 0 0		3 2 9 2
① ①	0 0 0		
	2 9 4 0		
振球機盗失残併			
8 2 0 0 2 4 1			
投手回安責			
伊 3 5			
小 4 3			
秋 1 1			

212

2 回戦

三原市 (三菱重工三原)

0 0 7 0 1 0 0 1 0 | 9
0 0 0 0 2 0 0 2 0 | 4

金沢市 (電電北陸)

【三原市】	打安点	【金沢市】	打安点
⑥ 池田	2 1 1	⑧ 入江	5 2 1
⑥ 清水	1 0 0	⑥ ⑥	4 2 0
④ ④	3 0 0	⑨ ⑨	4 0 1
⑤ ⑤	5 1 1	⑦ ⑦	4 2 0
⑨ ⑨	5 2 3	③ ③	4 2 1
⑨ ⑨	0 0 0	H ④ ④	1 0 0
⑦ ⑦	4 1 0	④ ④	3 0 0
③ ③	4 0 0	② ②	1 0 0
② ②	4 3 2	H ⑤ ⑤	2 0 0
① ①	1 0 0	① ①	2 0 0
H ① ①	2 0 0	① ①	1 0 0
⑧ ⑧	0 0 0	① ①	1 1 0
	0 0 0	① ①	0 0 0
	3 2 0	① ①	0 0 0
	3 4 1 1 9	① ①	0 0 0
振球機盗失残併		① ①	0 0 0
3 7 3 4 1 8 0		① ①	1 0 0
投手回安責		① ①	0 0 0
花 4 3/4		① ①	3 2 1
山 1			3 7 1 1 4

▽三塁打 林 矢形
▽二塁打 長谷川
木戸2▽水野
▽2時間57分

2 回戦

大阪市 (日本生命)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
7 0 0 0 0 1 1 0 X | 9

横浜市 (日本石油)

【大阪市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑥ 石川	3 0 0	⑨ 幕田	5 3 0
⑥ 須	1 0 0	⑨ 田	2 0 0
⑦ 加	2 0 0	⑧ H 8	1 0 0
H ⑦ 加	1 1 0	④ ④	4 2 1
⑤ ⑤	4 1 0	② ②	3 1 0
③ ③	4 0 0	⑦ ⑦	3 1 1
⑧ ⑧	1 0 0	⑥ ⑥	3 1 2
⑨ ⑨	2 0 0	⑤ ⑤	1 0 0
④ ④	3 0 0	⑦ ⑦	4 2 3
② ②	1 0 0	③ ③	4 2 1
H ② ②	1 0 0	① ①	2 0 1
① ①	1 0 0	H ① ①	1 0 0
① ①	1 1 0	H ① ①	0 0 0
① ①	0 0 0	H ① ①	1 0 0
H ① ①	2 0 0		0 0 0
① ①	0 0 0		3 4 1 2 9
① ①	0 0 0		
	3 0 4 0		
振球機盗失残併			
1 2 1 1 0 0 5 1			
投手回安責			
小 4 6			
高 8 3			
加 0 0			
磯 0 0			
田 1 0			

▽本塁打 平位1号(高畑)▽三塁打 平位 五十住▽二塁打 広瀬 幕田 石山▽2時間16分

2 回戦

常磐市 (オール常磐)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 | 2
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

浦和市 (日本通運)

【常磐市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑧ 阿部	6 2 1	⑥ 中	7 0 0
⑥ ⑥	5 0 0	⑨ 村	6 0 0
⑤ ⑤	2 0 0	④ ④	7 1 0
⑤ ⑤	3 1 0	③ ③	5 1 0
③ ③	6 2 0	⑦ ⑦	5 1 0
⑨ ⑨	3 0 0	⑦ ⑦	0 0 0
⑨ ⑨	3 1 0	⑤ ⑤	0 0 0
④ ④	5 1 1	⑦ ⑦	5 1 1
⑦ ⑦	6 1 0	⑧ ⑧	4 1 0
② ②	3 1 0	② H 2	3 0 0
R ② ②	0 0 0	① ①	1 0 0
② ②	3 0 0	① ①	1 0 0
H ② ②	1 0 0	① ①	2 0 0
① ①	1 0 0	① ①	3 0 0
H ① ①	4 1 0		4 9 5 1
① ①			
	5 1 1 0 2		
振球機盗失残併			
1 1 2 1 1 3 7 1			
投手回安責			
小 5 2 1			
近 10 3 0			

▽本塁打 蔵本1号(田中)▽二塁打 竹之内 大栗▽4時間8分

2回戦

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 1 0 x | 2
吉原市 (大昭和製紙)

門真市 打安点
(4)土福神 4 1 1 0
(8)井本吉 4 2 2 0
(6)高林 4 4 0 0
(3)高林 3 3 0 0
(5)小村 3 3 0 0
(2)山下 3 3 0 0
(7)下田 2 2 0 0
(2)吉原 1 1 0 0
(1)藤田 2 2 0 0
(1)加藤 1 1 0 0
(1)森中 0 0 0 0

振球権盗失残併
2 0 0 0 2 3 0
投手 回 安責
森川 6 2/3 6.2
藤村 1 1/3 0.0

吉原市 打安点
(7)米山 3 2 0 0
(8)倉崎 3 3 0 0
(9)藤野 3 3 0 0
(7)加佐 1 1 0 0
(4)小倉 4 2 0 0
(2)中三 2 2 0 0
(5)今三 3 2 1 1
(6)今三 3 2 1 1
(1)今三 3 2 1 1

振球権盗失残併
4 3 1 1 2 7 1
投手 回 安責
三田 9 3 0

準々決勝

和歌山市 (住友金属)
0 4 0 0 0 1 0 0 0 | 5
0 0 1 0 1 0 2 0 0 | 4
電電近畿 (推薦・大阪市)

和歌山市 打安点
(6)宮桶 4 1 1 1
(7)清水 3 1 2 2
(8)高塚 4 4 0 0
(9)高塚 4 2 2 0
(5)高塚 3 1 1 0
(2)高塚 3 1 1 1
(3)高塚 3 1 1 1
(4)高塚 2 2 1 0
(1)高塚 2 2 0 0

振球権盗失残併
2 2 2 3 1 4 2
投手 回 安責
手沢 4 1/3 9.2
清宮 4 2/3 2.2

電電近畿 打安点
(8)尾崎 5 1 0 1
(4)西井 5 3 2 1
(2)中井 4 1 1 1
(9)中井 3 3 0 0
(5)中井 1 1 0 0
(3)中井 4 1 1 0
(6)中井 3 1 1 0
(1)中井 1 1 1 0

振球権盗失残併
7 2 2 2 0 7 0
投手 回 安責
小川 7 7.5
林田 1 1.0
田中 1 0.0

準々決勝

横浜市 (日本石油)
2 3 0 0 1 2 2 0 0 | 10
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
常磐市 (オール常磐)

横浜市 打安点
(9)幕田 4 2 1 1
(8)谷田 0 0 0 0
(1)保田 4 1 1 0
(4)枝松 5 3 2 2
(2)枝松 0 0 0 0
(4)枝松 4 1 1 0
(2)枝松 0 0 0 0
(7)枝松 5 2 2 0
(7)枝松 3 0 0 0
(9)枝松 1 1 2 2
(5)枝松 5 2 1 1
(3)枝松 2 2 0 0
(1)枝松 1 1 0 0
(1)枝松 0 0 0 0
(1)枝松 2 2 0 0

振球権盗失残併
6 4 0 4 0 8 1
投手 回 安責
平松 5 2 2.0
浦田 2 2 2.0
三保 2 0 0.0

常磐市 打安点
(6)池野 4 0 0 0
(9)高野 2 0 0 0
(1)高野 1 0 0 0
(8)高野 1 0 0 0
(3)高野 1 0 0 0
(5)高野 3 2 0 0
(7)高野 3 0 0 0
(4)高野 2 0 0 0
(2)高野 1 0 0 0
(1)高野 1 0 0 0
(1)高野 1 0 0 0
(1)高野 1 0 0 0

振球権盗失残併
6 0 0 0 3 2 0
投手 回 安責
手玉 1 1/3 4.2
近藤 4 2/3 5.1
野村 2 2 3.2
伊東 1 0 0.0

▽本塁打 枝松1号②(小玉)和田1号②(紺野)
▽三塁打 石山 五十住▽二塁打 五十住 幕田
須永 石山▽2時間46分

準々決勝

三原市 (三菱重工三原)
0 0 0 2 0 0 0 0 1 | 3
0 0 0 0 0 1 0 3 x | 4
吉原市 (大昭和製紙)

三原市 打安点
(6)池田 4 0 0 0
(4)小矢 4 0 0 0
(5)林 4 0 0 0
(9)林 4 0 0 0
(7)墨中 4 2 2 0
(3)墨中 2 0 1 1
(4)長米 1 1 1 0
(2)長米 0 0 0 0
(2)長米 3 0 0 0
(1)長米 2 1 1 1
(1)長米 1 1 0 0
(1)長米 1 0 0 0
(1)長米 1 0 0 0
(8)長米 2 1 0 0

振球権盗失残併
8 4 2 1 0 7 0
投手 回 安責
山内 5 1/3 5.1
内田 4 1/3 3.3
内田 1 1 1.0

吉原市 打安点
(7)米山 4 0 0 0
(8)倉崎 2 0 0 0
(8)藤野 2 0 0 0
(9)藤野 4 0 0 0
(4)藤野 4 2 2 0
(4)藤野 2 0 0 0
(2)藤野 2 2 1 1
(6)藤野 4 2 1 1
(6)藤野 4 2 1 1
(1)藤野 0 0 0 0
(1)藤野 1 0 0 0
(1)藤野 1 0 0 0

振球権盗失残併
13 4 1 0 1 9 0
投手 回 安責
金沢 3 2/3 1.1
仲子 2 3/3 1.0
三田 2 3/3 3.1

準々決勝

川崎市 (東芝)
0 0 0 2 0 0 0 0 0 1 | 3
0 0 0 0 0 2 0 0 0 3 | 5
東京都 (熊谷組)

川崎市 打安点
(9)長真 5 1 0 1
(5)養鍋 3 0 0 0
(7)木谷 1 1 0 0
(7)木谷 0 0 0 0
(3)木谷 1 0 0 0
(8)木谷 4 1 0 0
(7)木谷 4 0 0 0
(5)木谷 1 0 0 0
(6)木谷 4 2 2 0
(2)木谷 4 1 0 0
(4)木谷 3 1 0 0
(1)木谷 1 0 0 0

振球権盗失残併
2 1 0 1 1 8 1
投手 回 安責
永田 8 1/3 6.1
中 1 3 3.3

東京都 打安点
(7)川崎 5 3 0 0
(9)川崎 0 0 0 0
(8)藤本 4 0 0 0
(5)藤本 1 0 0 0
(4)藤本 5 3 4 0
(3)藤本 0 0 0 0
(8)藤本 4 2 0 0
(3)藤本 0 0 0 0
(8)藤本 3 0 0 0
(9)藤本 3 0 0 0
(2)藤本 3 0 0 0
(5)藤本 3 0 0 0
(6)藤本 0 0 0 0
(1)藤本 4 0 0 0
(1)藤本 1 0 0 0
(1)藤本 2 0 0 0
(1)藤本 1 1 0 0
(1)藤本 0 0 0 0

振球権盗失残併
5 2 1 1 1 6 1
投手 回 安責
林 3 2/3 5.2
藤津 6 1/3 6.1
高橋 0 0 0.0

準々決勝

和歌山市 (住友金属)
0 0 1 2 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
吉原市 (大昭和製紙)

和歌山市 打安点
(6)宮桶 5 2 2 2
(7)清水 5 2 2 0
(8)清水 4 1 0 0
(9)清水 4 1 0 0
(5)清水 4 2 1 1
(2)清水 4 0 0 0
(4)清水 4 1 0 0
(3)清水 4 4 0 0
(1)清水 4 0 0 0

振球権盗失残併
7 1 0 1 0 9 1
投手 回 安責
手野 9 5 0

吉原市 打安点
(7)米山 4 2 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 4 1 0 0
(9)米山 4 0 0 0
(9)米山 3 1 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 2 0 0 0
(9)米山 3 1 0 0
(9)米山 0 0 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 1 0 0 0
(9)米山 2 2 0 0

振球権盗失残併
9 2 2 0 0 5 2
投手 回 安責
手野 3 6 1
三田 4 6 2
金沢 2 1 0

▽本塁打 宮地1号②(和)
▽三塁打 宮地1号②(和)
(和) 米倉▽2時間47分

準決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
1 0 0 0 0 0 0 0 3 | 4
東京都 (熊谷組)

横浜市 打安点
(9)幕田 3 2 0 0
(8)谷田 2 0 0 0
(4)枝松 4 1 1 1
(4)枝松 4 0 0 0
(2)枝松 4 0 0 0
(7)枝松 1 0 0 0
(7)枝松 3 0 0 0
(5)枝松 4 0 0 0
(3)枝松 3 1 0 0
(1)枝松 1 1 0 0
(1)枝松 1 0 0 0
(1)枝松 1 1 0 0

振球権盗失残併
7 1 2 1 1 6 0
投手 回 安責
手原 4 1 1.0
笠原 2 2 0.0
保平 2 2 4.3

東京都 打安点
(7)川崎 3 1 0 0
(9)岡田 3 1 0 0
(4)岡田 4 1 0 0
(3)岡田 3 0 0 0
(3)岡田 1 0 0 0
(8)岡田 3 1 0 0
(2)岡田 2 0 0 0
(5)岡田 4 1 3 0
(6)岡田 3 0 0 0
(1)岡田 1 0 0 0

振球権盗失残併
4 3 1 2 0 3 0
投手 回 安責
藤野 5 1/3 5.1
津田 3 2/3 1.0

3位決定戦

吉原市 (大昭和製紙)
4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 4
0 0 1 3 0 1 0 1 x | 6
横浜市 (日本石油)

吉原市 打安点
(7)米山 4 1 0 0
(8)倉崎 4 2 0 0
(8)倉崎 3 1 0 0
(5)倉崎 4 1 0 0
(5)倉崎 0 0 0 0
(4)倉崎 3 1 4 0
(2)倉崎 3 0 0 0
(2)倉崎 1 0 0 0
(3)倉崎 3 1 0 0
(3)倉崎 4 0 0 0
(1)倉崎 1 0 0 0
(1)倉崎 1 0 0 0
(1)倉崎 1 0 0 0

振球権盗失残併
3 2 1 1 1 4 0
投手 回 安責
三田 4 6 3
金沢 4 5 2

横浜市 打安点
(9)幕田 5 0 1 1
(8)谷田 4 0 0 0
(4)枝松 4 2 0 0
(2)枝松 3 0 0 0
(2)枝松 1 0 0 0
(7)枝松 3 2 0 0
(5)枝松 2 0 0 0
(5)枝松 2 0 0 0
(3)枝松 1 1 0 0
(3)枝松 4 3 2 0
(1)枝松 0 0 0 0
(1)枝松 2 1 1 1

振球権盗失残併
5 2 1 0 0 7 0
投手 回 安責
手野 2 2/3 4.4
保田 8 1/3 3.0
三保 3 0 0.0

▽本塁打 倉本2号④(三浦)▽三塁打 品川▽
二塁打 小淵 五十住▽2時間15分

世界の時計 SEIKO
主 山本 山本 山本
副 山本 山本 山本
主 山本 山本 山本
副 山本 山本 山本



東 東京都知事の開会式での始球式

東京 浦和市 横滨市

Table listing names and affiliations for Tokyo, Utsunomiya, and Yokohama. Includes sub-headers like '(熊谷組)', '(日本通運浦和)', '(日本石油)', '(電電東北)', '(日本通運浦和)', '(日本石油)'.

推薦・大阪市 常磐市 東京都 吉原市

Table listing names and affiliations for Osaka, Joze, Tokyo, and Yoshiwara. Includes sub-headers like '(電電近畿)', '(オール常磐)', '(サッポロビール)', '(大昭和製紙)'.

札幌市 日立市 東京都 浜松市

Table listing names and affiliations for Sapporo, Hitachi, Tokyo, and Hamamatsu. Includes sub-headers like '(拓殖銀行)', '(日本鉱業日立)', '(東京鉄道局)', '(河合楽器)'.

小牧市 千葉市 川崎市 諏訪市

Table listing names and affiliations for Komaki, Chiba, Kawasaki, and Suifu. Includes sub-headers like '(王子製紙)', '(電電関東)', '(東芝)', '(三協精機)'.

名古屋市

(三菱重工名古屋)

Table listing names and numbers for Nagoya City (Mitsubishi Heavy Industries Nagoya). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

京都市

(全積水クラブ)

Table listing names and numbers for Kyoto City (All Accumulation Club). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

門真市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Yamatohashi City (Panasonic). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

高松市

(四国電力)

Table listing names and numbers for Takamatsu City (Shikoku Electric Power). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

名古屋市

(マツダオート)

Table listing names and numbers for Nagoya City (Mazda Auto). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City (Nippon Life). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

神戸市

(三菱重工神戸)

Table listing names and numbers for Kobe City (Mitsubishi Heavy Industries Kobe). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

北九州市

(八幡製鉄)

Table listing names and numbers for Kitakyushu City (Yamaguchi Iron Works). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

大垣市

(西濃運輸)

Table listing names and numbers for Gakyo City (Seino Transport). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

大阪市

(日本熱学)

Table listing names and numbers for Osaka City (Nippon Natsugaku). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

岡山市

(クラレ岡山)

Table listing names and numbers for Okayama City (Kurarai Okayama). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

鹿児島市

(鹿児島鉄道管理局)

Table listing names and numbers for Kagoshima City (Kagoshima Railway Bureau). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

金沢市

(電電北陸)

Table listing names and numbers for Kanazawa City (Teiten Hokuriku). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

和歌山市

(住友金属)

Table listing names and numbers for Wakayama City (Sumitomo Metal). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

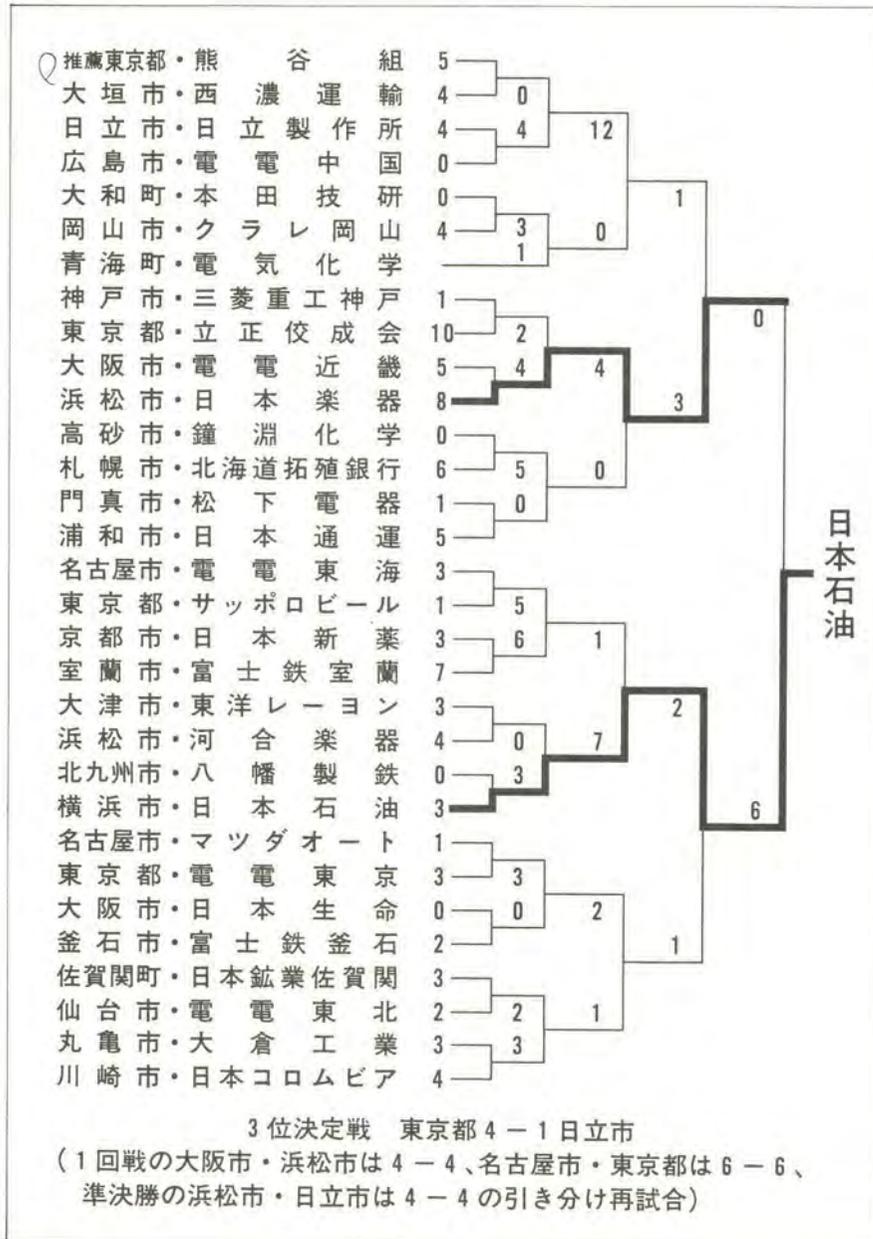
三原市

(三菱重工三原)

Table listing names and numbers for Mihara City (Mitsubishi Heavy Industries Mihara). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), and 捕手 (Catcher).

第38回大会

1967年(昭和42年)7月27日-8月8日・後樂園球場
優勝=横浜市・日本石油(5年ぶり5回目)



し、横浜市の最多優勝5回に大きな花を添えた。平松投手は1回戦の北九州市・八幡製鉄を3安打完封。毎回三振の奪三振16の新記録をマーク、2回戦の浜松市・河合楽器も3安打完封、12奪三振。伸びのある快速球と大きなカーブがよくコントロールされ、打者を力で抑えた。

準々決勝の対室蘭市・富士鉄室蘭戦の4回、高梨英夫一塁手に本塁打され連続無失点記録は22イニングで崩れたが、6回まで投げ7奪三振。準決勝の東京都・電電東京にも完投勝ちした。投の平松を盛りだてた打線もすごかった。広瀬孝司、枝松道輝、石山建一らの主軸を中心に上下位とも切れ目のない猛打線だった。

大旋風を巻き起して決勝に勝ち進んできたのが浜松市・日本楽器。“九回の魔術師”“逆転の日楽”と呼ばれ、際立った試合ぶりみせた。それも雷雨にわざわざされた中での活躍でファンの胸を打った。1回戦の大阪市・電電近畿戦では4-1と3点リードされた9回、同点に持ち込んで延長14回引き分け再試合。翌日の試合も大阪が8回まで5-3とリードしたが、浜松は9回2点を奪いまたも延長戦。10回に3点をあげて逆転勝ちした。この試合1回表を終わったところで豪雨となり、実に3時間50分中断。2日間の試合時間の7時間30分に中断が加わり、浜松は1回戦だけで11時間20分戦ったことになる。2回戦の東京都・立正佼成会戦も雨による中断を経て勝ちあがり、準々決勝の札幌市・北海道拓殖銀行戦は仲子隆司投手が完封したものの、準決勝の日立市・日立製作所戦も大変だった。山田勝春左翼手、中野孝征遊撃手、川島勝司三塁手の本塁打が出たが、日立も高島導宏遊撃手(日本鉱業日立から補強)が9回に同点2ランを放ち、またもや延長戦。13回に引き分けとなった。翌日の再試合は6回日立の攻撃が終わったところで雨によるノーゲーム。さらに翌日の試合も、7回に中野遊撃手が同点本塁打して延長戦にもつれ込み、10回大場勝捕手の三塁打などで2点をあげ、けりをつけた。

橋戸賞は横浜・平松投手、久慈賞は浜松・中野遊撃手、小野賞は浜松・日本楽器チームに贈られた。

最多V支えた怪腕19歳平松

たび重なる雷雨に悩まされ、10日間の日程が、中断、ノーゲームなどもあって13日間に延びた。

光り輝いた大会の華は優勝した横浜市・日本石油の社会人2年目19歳の平松政次投手だった。全5試合に登板、4完投3完封。42イニング投げ、被安打22、奪三振46、無四球。自責点はわずかに2点の驚異的な記録を残

浜松市 (日本楽器)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
横浜市 (日本石油)	1 1 2 0 0 2 0 0 × 6

【浜松市】	打安点振球	【横浜市】	打安点振球
⑦ 米倉	3 1 0 0 0	⑨ 幕田	4 3 0 0 1
⑦ 川島	1 0 0 0 0	⑧ 田邊	5 0 1 0 0
④ 藤川	3 1 0 0 0	② 廣瀬	3 1 0 0 1
H 藤片	1 1 0 0 0	④ 枝松	4 1 3 0 0
R 桐下	0 0 0 0 0	⑥ 石田	3 1 0 0 1
⑨ 加藤	4 1 0 0 0	③ 田浦	4 1 0 0 0
⑧ 中野	3 0 0 1 0	⑤ 五十	0 0 0 0 0
⑥ 中野	3 0 0 0 0	⑤ 平住	4 0 0 1 0
⑤ 原沢	3 1 0 1 0	⑦ 飯有	1 0 0 1 0
③ 三田	2 0 0 0 0	H 田田	1 0 0 0 0
H 三田	1 0 0 1 0	H 田田	1 0 0 0 1
③ 石川	0 0 0 0 0	① 松	4 2 1 2 0
H 大場	3 0 0 3 0		3 4 9 5 4 4
② 仲子	1 0 0 0 0	機盗失残併	
H 丸三	1 0 0 0 0	1 1 1 9 2	
H 三神	0 0 0 0 0	投手回	打安振球責
	1 0 0 0 0	平松 9	5 6 0 0
	3 0 5 0 6 0		

機盗失残併	0 0 4 3 1
投手回	打安振球責
仲子 5	7 3 2 3
三田 3	2 1 2 0
▽本塁打	平松1号(仲子) 枝松1号②(仲子)
▽二塁打	川島▽2時間23分

5安打完封、自らも一発

横浜市・日本石油が若きエース平松の力投で快勝した。

浜松市・日本楽器の先発、左腕の仲子は疲労もあってか、得意のカーブが決まらず、速球にも威力を欠いた。1回横浜は先頭の幕田が死球、渡辺のバントを仲子が二塁に悪送球すると、広瀬が送って二・三塁。枝松の三ゴロで幕田が還り、横浜らしいソツのない攻撃で無安打の1点を先取した。

2回には平松が左翼席に本塁打、3回にも安打の広瀬を置いて枝松が左翼席上段に打ち込み、着々と加点した。

平松は快速球と鋭いカーブで浜松打線を抑え、浜松は反撃の糸口がなかなかつかめなかった。



若冠19歳。大会の華、橋戸賞に輝いた日石・平松投手

やっと4回、川島が無死から左中間二塁打したもの、期待の主軸打者が、いずれも内野ゴロに仕止められた。さらに5回、7回には先頭打者が安打を放ったが、平松の力投とともに内野ゴロ併殺。

平松は浜松を5安打完封。堂々の優勝投手となった。

「感激」…日石の北崎監督

「平松もよかったし、打線も揃っていた」。都市対抗史上最多の5回目の優勝を果たした横浜市・日本石油の北崎健二監督は静かに大会を振りかえった。

北崎監督自身が選手で2回、助監督で1回、そして今回と4回の優勝を味わい、次第に感激がこみあげてきたのか「私は全く幸運な男です。選手が本当によくやってくれた」と目頭を熱くした。

80イニング戦い抜き

2度目の出場で激闘を乗り切り決勝に進出したが「浜名湖に黒獅子旗を」の願いがむなしかった浜松市・日本楽器の森口哲夫監督は「いい勉強をさせてもらいました。大満足です」。延長戦4回、引き分け再試合2回。あわせて8試合、80イニングを戦い抜いた日本楽器チームは小野賞を受賞したが「これを糧にまた頑張ります」とナインは晴れ晴れとした表情で、最後まで好印象を残した。



浜松対日立。9回日立サヨナラの走者高島、本塁死

わずか2回とはいえ強烈な印象

横浜市・日本石油
平松政次投手



岡山東商から昭和41年に日本石油入社。新人の37回大会で小野賞。38回大会は八幡から16奪三振の新記録。5試合に登板橋戸賞。優勝の夜大洋入り。現解説者。

この年は予選になっても調子が出なくて、保田さん、三浦さんに助けもらった。それが大会になって1回戦の八幡製鉄戦でストレートがよく伸び、おもしろいように三振をとって完封できた。いっぺんに自信が戻ってきた。とにかく捕手の広瀬さんのサインどおりに投げればよかった。中盤でカーブを少し混ぜたが、速球一本槍で押せた。16三振が大会記録だったとは、あとで知らされたが、思いどおりのピッチングができた。

実は新人だった前年、準決勝で熊谷組に本塁打を打たれてサヨナラ負けだった。このと

M E M O

◇最多優勝回数5 横浜市・日本石油は第27、29、32、33回大会につづき優勝して達成した。これまでは東京倶楽部、大阪市・全鐘紡と4回で並んでいた。

◇1試合(9回)最多奪三振16 横浜市・日本石油の平松政次投手が1回戦の北九州市・八幡製鉄戦で記録した。従来記録は第7回大会で大連実業団の岩瀬五郎(谷口)投手が全横浜から奪った14三振、34年ぶりの更新だった。

なお延長戦では第29回大会に松山市・丸善石油の西五十六投手が21三振、継投では第25回大会の大阪市・全鐘紡の平古場昭二、河合貞雄(住友金属から補強)両投手で16三振がある。

◇連続奪三振5 東京都・サッポロビールの角谷隆投手が対名古屋市・電電東海戦でマーク。第26回、大昭和製紙の山本投手が対千葉市・専売公社戦、第36回に四国電力の白石投手が対東京都・電電東京戦で記録したのとタイ。

◇史上初の代打サヨナラ本塁打 横浜市・日本楽器の東本芳徳選手は2回戦の東京都・立正佼成会戦の同点で迎えた9回、酒井投手に左翼席へ2ラン本塁打を浴せサヨナラ勝ち。史上初の快挙。

◇400号本塁打 浜松市・日本楽器の川島勝司内野手が準決勝の対日立市・日立製作所との引き分け試合で松井投手から記録。

きは春の東京大会から、全国大会に全部勝ってきたし、枝松さん、広瀬さん、幕田さん、石山さんら、すごい顔ぶれ揃っていたので当然優勝できると思っていた。それなのに取って、私もそうだったが、先輩たちのショックがすごく大きく、ことしこそ思いが強く感じた。

準々決勝の富士鉄室蘭戦だけは途中で交代したが、1回戦から決勝までの5試合に先発、3試合を完封して、42イニングで46奪三振、無四球の成績を残せた。それも強力なバックのおかげで、19歳の私は力いっぱい投げればよかったからできたことだ。

高校時代から将来はプロ野球で投げたいことを夢みていた私だが、同郷の建内野球部長(現日本石油会長)が熱心に入社を誘ってくださり、日本石油へお世話になった。都市対抗野球は、わずか2回出場しただけとはいえ、強烈な思い出を残せた。

それだけでなく、日石での社会人の生活がプロ野球、その後の解説者としての私の人生にどれだけの役に立ったことか。その意味でも都市対抗と日本石油には感謝している。

1回戦

大垣市 (西濃運輸) 1 0 0 1 0 2 0 0 0 | 4
 1 3 0 0 1 0 0 0 X | 5
 熊谷組 (推薦・東京都)

【大垣市】	打安点	【熊谷組】	打安点
⑨ 柴垣	3 0 0	⑦ 川崎	3 1 0
⑧ 横関	4 1 0	⑥ 後田	4 4 4
⑦ 嶋大	4 1 0	⑤ 古藤	3 0 0
③ 2 大東	4 4 3	④ 伊藤	4 0 0
④ 大東	4 4 3	③ 小野	4 1 0
⑤ 桑遠	3 0 0	② 野本	4 2 0
④ 桑遠	3 0 0	① 田本	3 1 0
H 3 祖父	1 0 0	③ 江谷	3 2 1
② 3 猿阿	1 0 0	② 谷部	1 0 0
① 1 柴平	2 1 0	① 山田	1 0 0
H 1 久保	0 0 0	① 山田	1 0 0
H 1 高見	0 0 0		
	32 7 3		

振球機盗失残併 8 1 1 0 2 3 0
 投手 回 安責
 柴田 1 2 1
 平山 5 8 4
 高見 2 1 0
 ▼本塁打 後1号(柴田) 東田1号(大櫃) 後2号(平山)
 ▼三塁打 山本 ▼二塁打 東田 ▼2時間37分

1回戦

東京都 (立正佼成会) 1 0 1 5 0 0 1 2 0 | 10
 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 神戸市 (三菱重工神戸)

【東京都】	打安点	【神戸市】	打安点
④ 岩崎	4 2 1	④ 山村	3 0 0
⑨ 金	5 2 2	⑤ 内川	3 0 0
⑧ 井田	3 1 4	⑥ 森吉	1 0 0
⑦ 前田	5 1 1	③ 岡田	3 1 0
③ 太田	4 1 0	② 岡田	1 0 0
⑤ 太田	4 1 1	③ 林	1 0 0
H 5 佐藤	1 0 0	② 小中	3 1 1
② 2 佐若	4 1 0	① 榎山	2 0 0
① 1 若後	3 0 0	⑦ 7 榎山	2 0 0
⑥ 大	0 0 0	H 7 8 小	2 0 0
	3 1 0	H 7 8 小	2 0 0
	3 6 1 0 9	H 6 6 岡	2 0 0

振球機盗失残併 7 3 4 1 2 6 0
 投手 回 安責
 若後 8 1/3 2 1
 藤生 5 5/3 0 0
 ▼本塁打 太田1号(磯野) 金1号(小川) 前田1号(小川) ▼三塁打 金岩崎 ▼3時間7分

美濃部東京都隊のスマイル始球式。打者・大垣の柴垣。投手・大櫃。捕手・河野(東京)



1回戦

日立市 (日立製作所) 0 2 0 0 0 0 0 2 0 | 4
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 広島市 (電電中国)

【日立市】	打安点	【広島市】	打安点
⑦ 木沢	5 2 0	⑥ 宮下	2 0 0
⑥ 3 鶴山	5 1 0	H 7 9 下	2 1 0
③ 8 田田	3 2 0	⑦ 池勝	3 1 0
⑨ 3 高島	3 0 0	H ⑨ 丸	1 0 0
④ 9 黒松	1 0 0	⑧ 三丸	3 1 0
④ 9 森代	4 2 1	⑦ 7 中	0 0 0
⑤ 2 手村	4 2 2	⑧ 大新	3 0 0
④ 5 2 田塚	3 1 1	⑤ 5 磯	3 1 0
① 1 井	3 0 0	H 2 2 磯	1 0 0
	4 0 0	H 2 2 磯	1 1 0
	3 5 1 0 4	H 2 2 磯	2 0 0

振球機盗失残併 4 1 2 2 0 7 0
 投手 回 安責
 村井 9 5 0
 ▼三塁打 森村 ▼二塁打 勝島 松浦 森村
 ▼2時間15分

1回戦

浜松市 (日本楽器) 0 0 0 1 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 | 4
 1 0 2 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 4
 大阪市 (電電近畿)

【浜松市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑦ 山田	3 0 0	④ 長道	6 1 0
H 7 神片	3 2 2	⑤ 井田	6 2 0
④ 4 加東	6 2 0	⑨ 9 大	4 1 2
⑨ 9 合	3 0 0	⑦ 7 井	2 1 0
⑧ 8 中	4 2 1	③ 3 井	6 1 1
⑥ 6 塩	7 2 0	H 3 3 井	2 0 0
③ 3 川	6 2 1	② 2 原	1 1 1
⑤ 5 島	7 1 0	H 3 3 原	3 0 0
② 2 原	5 3 0	⑧ 8 原	6 1 0
H R 2 田	3 0 0	⑥ 6 藤	4 2 0
① 1 仲	0 0 0	① 1 藤	3 2 0
H 1 米	1 0 0	H 1 1 藤	2 0 0
H 1 丸	1 0 0	H 1 1 藤	1 0 0
H 1 高	2 0 0	H 1 1 藤	1 0 0
	5 4 1 5 4		

振球機盗失残併 8 0 0 2 0 5 0
 投手 回 安責
 藤田 5 1 5 1
 藤田 5 5 3 5
 藤田 5 5 0 5
 ▼本塁打 大戸1号(岡部) 海老原1号(仲子)
 ▼二塁打 片桐 中野 東本 ▼4時間23分

1回戦

大和町 (本田技研) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 0 0 1 2 0 0 0 0 1 X | 4
 岡山市 (クラレ岡山)

【大和町】	打安点	【岡山市】	打安点
④ 大塚	4 0 0	⑨ 稲見	5 2 0
⑤ 5 勝	3 1 0	⑧ 8 森	3 2 1
⑦ 7 丹	4 0 0	⑦ 7 津	3 1 0
⑧ 8 中	3 1 0	④ 4 野	2 2 0
⑨ 9 加	3 0 0	⑤ 5 矢	2 0 0
③ 3 長	2 0 0	⑥ 6 野	4 1 0
H 3 3 佐	1 0 0	⑦ 7 上	4 1 1
② 2 2 佐	3 1 0	⑤ 5 野	3 1 1
① 1 1 河	2 1 0	② 2 山	3 0 0
H 1 1 岩	1 0 0	① 1 山	2 9 1 0 3
H 6 6 白	1 0 0		
	2 9 4 0		

振球機盗失残併 5 1 0 1 2 3 0
 投手 回 安責
 河本 7 9 2
 白井 1 1 1
 ▼本塁打 中村1号(白井)
 ▼2時間50分

1回戦

浦和市 (日本通運) 1 0 1 0 0 0 0 1 2 | 5
 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 門真市 (松下電器)

【浦和市】	打安点	【門真市】	打安点
⑧ 小堀	4 1 0	④ 5 吉	2 0 0
⑦ 7 堀	2 0 0	⑧ 8 田	3 2 0
⑨ 9 渡	3 1 0	⑦ 7 安	4 2 1
④ 4 元	4 1 0	⑧ 8 高	4 0 0
⑤ 5 石	5 2 0	③ 3 宮	3 0 0
③ 3 川	4 2 2	H 9 4 高	1 0 0
⑨ 9 丹	0 0 0	⑤ 5 下	1 0 0
H 9 7 丹	4 3 1	② 2 下	3 2 0
② 2 山	5 1 0	⑥ 6 日	3 1 0
① 1 1 中	3 0 1	② 2 山	2 0 0
⑥ 6 中	4 2 0	H 2 2 山	0 0 0
	3 8 1 3 4	H 1 1 山	0 0 0

振球機盗失残併 9 2 3 5 2 1 1 0
 投手 回 安責
 田中 9 7 1
 ▼三塁打 福本 下田
 ▼二塁打 中村 山本
 ▼2時間40分

1回戦 (再試合)

浜松市 (日本楽器) 0 0 0 0 0 2 0 1 2 3 | 8
 1 0 0 0 1 3 0 0 0 0 | 5
 大阪市 (電電近畿)

【浜松市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑦ 米倉	4 1 0	④ 4 長	4 0 1
④ 4 片	3 0 0	H 4 4 海	1 0 0
H 4 4 加	1 1 1	⑤ 5 原	4 3 0
⑨ 9 中	5 1 0	⑦ 7 戸	5 1 0
⑧ 8 合	4 3 2	⑨ 9 上	5 2 0
⑥ 6 中	4 1 1	③ 3 口	5 2 1
③ 3 塩	3 0 0	⑧ 8 原	0 0 0
H 3 3 山	3 2 4	H ⑧ 8 原	3 2 0
⑤ 5 三	3 0 0	② 2 石	1 0 0
② 2 岡	2 0 0	H ② 2 石	1 0 0
H 2 2 藤	1 0 0	H ② 2 藤	2 0 0
① 1 1 仲	1 0 0	⑥ 6 中	1 0 0
H 1 1 高	1 0 0	① 1 1 橋	3 2 3
H 1 1 東	1 0 0	H ① 1 1 橋	1 0 0
H 1 1 仲	1 0 0	H ① 1 1 橋	0 0 0
	3 9 1 0 8		

振球機盗失残併 7 3 1 2 1 5 0
 投手 回 安責
 三田 5 5 2
 高橋 2 4 3
 仲子 3 3 0
 ▼本塁打 橋本1号(高橋) 川島1号(佐藤)
 山田1号(佐藤) ▼三塁打 道田
 打 米倉 橋本 大戸 ▼3時間7分

1 回戦

高砂市 (鐘淵化学)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 6 0 0 0 0 0 0 0 X | 6

札幌市 (北海道拓殖銀行)

高砂市	打安点	札幌市	打安点
④ 中村	4 0 0	⑨ 出雲	3 1 2
⑦ 村谷	3 1 0	⑩ 雲島	4 1 1
⑧ 桶直	3 0 0	⑪ 藤田	4 3 0
⑥ 高水	3 1 0	⑫ 高遠	4 1 2
⑤ 水田	1 1 0	⑬ 藤政	4 2 0
② 中田	2 0 0	⑭ 藤政	2 0 0
② 谷田	1 0 0	⑮ 松根	1 0 0
③ 青木	3 0 0	⑯ 若松	4 2 1
⑨ 川島	3 1 0	⑰ 長田	4 0 0
① 川島	0 0 0	⑱ 佐藤	1 0 0
① 木秀	1 0 0	⑳ 藤信	1 0 0
① 玉国	1 0 0		
① 木勝	0 0 0		
① 木勝	1 0 0		
	274 0		3210 6

振球機盗失残併	2 0 1 0 0 1 0	振球機盗失残併	1 2 1 1 0 5 2		
投手	回	安責	回	安責	
川島	2	44	藤田	9	40
木秀	3 1/2	42	出雲	2	2
繩田	3	20	打	20分	

1 回戦

東京都 (サッポロビール)

0 4 0 0 0 0 0 2 0 | 6
0 2 0 1 0 0 0 0 3 | 6

名古屋市 (電電東海)

東京都	打安点	名古屋市	打安点
④ 北野	4 0 1	④ 戸川	4 2 2
⑥ 山藤	5 0 0	⑤ 木西	5 2 1
⑧ 加藤	3 0 0	⑥ 太松	5 0 0
③ 加藤	4 2 1	⑦ 大前	5 3 1
⑨ 土屋	3 1 1	⑧ 前田	5 2 1
⑦ 原中	2 1 0	⑨ 村本	5 2 0
⑦ 原中	2 0 0	⑩ 村本	3 0 0
⑤ 勝浦	4 2 2	⑪ 山根	0 0 0
⑤ 黒角	0 0 0	⑫ 藤田	1 0 0
② 黒角	3 2 1	⑬ 藤田	2 0 0
① 藤田	1 0 0	⑭ 田村	2 2 0
① 藤田	2 0 0	⑮ 藤田	2 0 0
① 藤田	0 0 0	⑯ 藤田	0 0 0
① 藤田	0 0 0	⑰ 藤田	2 1 0
	338 6	⑱ 藤田	0 0 0

振球機盗失残併	4 2 3 1 2 5 1	振球機盗失残併	4 1 1 0 1 9 0		
投手	回	安責	回	安責	
谷藤	3 1/2	71	藤田	1 1/2	44
藤田	5	71	伊藤	5 3/4	10
藤田	1/2	00	青後	1	22
藤田	1/2	00	藤田	1	10

1 回戦

京都市 (日本新薬)

0 0 0 1 1 1 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 4 2 1 X | 7

室蘭市 (富士鉄室蘭)

京都市	打安点	室蘭市	打安点
⑤ 本谷	3 1 1	⑥ 高屋	3 0 0
④ 本谷	4 0 0	⑦ 高梅	5 1 0
⑦ 吉川	4 1 0	⑧ 梅田	3 2 0
③ 大戸	3 0 0	⑨ 田津	3 1 2
⑥ 梅田	3 1 1	⑩ 梨田	4 1 0
⑨ 松浦	4 2 1	⑪ 須藤	4 3 2
⑧ 和田	3 1 0	⑫ 倉村	2 0 0
H 和田	1 0 0	H 5 田	2 2 2
② 森中	3 1 0	② 1 田	4 0 0
② 内早	0 0 0	③ 1 田	1 1 0
H 林	1 0 0	H 1 田	1 0 0
R 水	0 0 0	H 1 田	1 1 1
① 清井	1 0 0	H 1 田	1 0 0
① 赤内	0 0 0		
H 田	1 0 0		
H 田	1 0 0		
	327 3		3412 7

振球機盗失残併	4 1 3 2 1 2 0	振球機盗失残併	3 2 2 4 2 7 0		
投手	回	安責	回	安責	
清水	5 1/2	63	手嶋	5	51
井内	2 1/2	21	真田	1	21
増田	2	43	真田	3	00

1 回戦 (再試合)

東京都 (サッポロビール)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 1 2 0 0 0 0 0 X | 3

名古屋市 (電電東海)

東京都	打安点	名古屋市	打安点
⑧ 加藤	3 0 0	⑨ 戸川	4 1 0
④ 藤野	2 0 0	⑩ 木西	4 1 0
⑦ 野田	4 1 0	⑪ 田松	3 0 1
③ 石井	3 0 0	⑫ 西前	3 0 0
⑥ 石井	0 0 0	⑬ 松田	3 2 1
H 原田	1 1 0	⑭ 村本	2 0 0
R 原田	0 0 0	⑮ 村本	2 0 0
⑨ 井田	2 0 0	⑯ 本本	1 0 0
H 3 井田	2 1 1	⑰ 田口	3 1 0
H 5 井田	4 1 0	⑱ 田口	2 1 0
⑥ 井田	2 0 0	H 藤原	1 0 0
H 7 井田	1 0 0	① 藤原	0 0 0
② 井田	1 0 0		
H 2 井田	1 0 0		
H 2 井田	1 0 0		
① 井田	1 0 0		
	274 1		286 2

振球機盗失残併	6 3 3 1 2 5 0	振球機盗失残併	7 3 1 3 2 5 0		
投手	回	安責	回	安責	
藤野	2 3/4	41	手嶋	7	31
安角	5 1/2	20	藤原	2	10

1 回戦

大津市 (東洋レーヨン)

0 0 0 2 0 1 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 3 0 0 0 1 | 4

浜松市 (河合楽器)

大津市	打安点	浜松市	打安点
⑥ 伊入	4 0 0	⑧ 藤崎	2 0 0
⑨ 藤江	5 1 0	H 8 佐山	2 2 0
⑤ 山田	5 1 0	⑨ 尾谷	2 0 0
③ 山田	5 1 1	⑩ 尾谷	4 2 1
⑧ 畑村	5 2 2	⑪ 堀内	5 1 1
④ 畑村	2 1 0	⑫ 堀内	5 0 0
② 畑村	4 0 0	⑬ 堀内	4 0 0
① 畑村	4 0 0	⑭ 堀内	5 3 1
H 畑村	2 1 0	⑮ 堀内	1 0 0
H 畑村	1 0 0	⑯ 堀内	1 0 0
① 畑村	1 0 0	⑰ 堀内	2 1 1
	387 3	⑱ 堀内	1 0 0

振球機盗失残併	4 2 1 1 0 5 1	振球機盗失残併	3 7 1 1 0 9 0		
投手	回	安責	回	安責	
西川	6	63	手見	6	63
西南	4 1/2	31	里畑	5	10

1 回戦

横浜市 (日本石油)

1 0 1 1 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

北九州市 (八幡製鉄)

横浜市	打安点	北九州市	打安点
⑨ 藤田	4 1 0	⑧ 有田	4 0 0
⑧ 藤田	3 1 1	⑦ 有田	2 0 0
② 藤田	3 1 1	H 7 有田	1 0 0
④ 藤田	4 1 0	⑧ 有田	1 0 0
⑦ 藤田	4 0 0	⑨ 有田	4 0 0
⑥ 藤田	3 0 0	⑩ 有田	4 0 0
H 藤田	0 0 0	⑪ 有田	3 0 0
R 藤田	0 0 0	⑫ 有田	3 1 0
③ 藤田	3 0 0	⑬ 有田	2 1 0
H 藤田	1 0 0	⑭ 有田	1 0 0
③ 藤田	4 1 0	⑮ 有田	1 0 0
⑤ 藤田	4 1 1	⑯ 有田	0 0 0
① 藤田	3 3 6		

振球機盗失残併	8 4 0 2 1 7 0	振球機盗失残併	16 0 0 1 0 4 0		
投手	回	安責	回	安責	
平松	9	30	手嶋	3 3/4	53
藤田	4 1/2	10	後平	4 1/2	10
松	1	00	高崎	1	00

1 回戦

名古屋市 (マツダオート)

0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
1 0 0 0 2 0 0 0 X | 3

東京都 (電電東京)

名古屋市	打安点	東京都	打安点
⑥ 勝又	2 0 0	⑧ 富永	4 3 1
⑨ 又田	4 0 0	⑨ 富永	4 1 1
⑦ 又田	3 2 1	⑩ 福五	4 1 0
③ 又田	4 0 0	⑪ 味暮	2 0 0
② 又田	4 0 0	⑫ 木谷	3 0 0
④ 又田	3 2 0	⑬ 小黒	2 0 0
⑤ 又田	3 1 0	H 畑	0 0 0
⑧ 又田	4 1 0	R 4 飯塚	0 0 0
① 又田	1 0 0	② 飯塚	3 0 0
R 又田	0 0 0	⑥ 飯塚	3 1 0
R 又田	0 0 0	① 飯塚	3 0 0
R 又田	0 0 0		
	286 1		286 2

振球機盗失残併	8 5 2 3 2 7 2	振球機盗失残併	6 2 0 2 1 3 0		
投手	回	安責	回	安責	
藤田	4 3/4	62	土屋	9	61
紀野	1 1/2	00			
光岡	2	00			

1 回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

大阪市 (日本生命)

釜石市	打安点	大阪市	打安点
⑧ 阿部	5 1 0	⑦ 加藤	4 0 0
⑨ 阿部	3 0 0	⑧ 加藤	3 1 0
⑤ 阿部	4 1 0	⑨ 加藤	4 0 0
② 阿部	4 2 0	⑩ 加藤	2 0 0
④ 阿部	3 1 0	H 9 加藤	1 0 0
⑦ 阿部	2 0 0	⑪ 加藤	1 0 0
H 7 阿部	2 0 0	⑫ 加藤	3 0 0
③ 阿部	4 1 0	⑬ 加藤	3 2 0
① 阿部	4 3 1	⑭ 加藤	2 0 0
① 阿部	4 0 0	⑮ 加藤	1 0 0
	359 1	⑯ 加藤	1 0 0

振球機盗失残併	5 1 1 3 0 8 1	振球機盗失残併	3 2 1 0 0 4 0		
投手	回	安責	回	安責	
山田	9	30	小弓	2 1/2	62
			小弓	2 1/2	30
			磯田	1	00

1 回戦

佐賀県 (日本鉾業佐賀関)

1 0 1 1 0 0 0 0 0 | 3
0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2

仙台市 (電電東北)

佐賀県	打安点	仙台市	打安点
⑨ 村岡	5 1 0	⑨ 箱崎	4 1 0
⑧ 村岡	3 1 1	⑩ 箱崎	3 3 1
⑦ 村岡	3 0 1	⑪ 内田	4 0 0
④ 村岡	4 2 0	⑫ 内田	4 1 1
⑥ 村岡	4 0 0	⑬ 内田	4 0 0
③ 村岡	3 1 1	⑭ 内田	4 0 0
② 村岡	4 3 0	⑮ 内田	3 1 0
① 村岡	3 0 0	⑯ 内田	0 0 0
① 村岡	1 0 0	⑰ 内田	4 3 0
⑤ 村岡	4 0 0	⑱ 内田	0 0 0
	348 3		

振球機盗失残併	5 3 1 1 0 8 0	振球機盗失残併	2 1 2 1 1 6 1		
投手	回	安責	回	安責	
池田	5 1/2	62	手嶋	3 1/2	52
秋葉	3 3/4	30	熊谷	1 1/2	00
			佐藤	2	10
			藤田	2	20

1 回戦

丸亀市 (大倉工業)

0 0 0 2 0 0 0 0 1 | 3
0 0 0 1 0 0 2 0 1 | 4

川崎市 (日本コロムビア)

Table with 2 columns: [丸亀市] and [川崎市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 7 3 4 2 2 5 0

投手 手回 安責

佐々木 6 6 2

河太 0 0 0

田端 2 1/2 4 1

▽三塁打 島谷▽二塁打 谷島 内藤▽2時間55分

2 回戦

青海町 (電気化学)

0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 3 0 0 0 X | 3

岡山市 (クラレ岡山)

Table with 2 columns: [青海町] and [岡山市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 2 3 3 0 3 8 0

投手 手回 安責

望月 8 9 2

▽二塁打 望月 津田 岩下▽2時間21分

2 回戦

日立市 (日立製作所)

0 0 0 2 0 1 0 0 1 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

熊谷組 (推薦・東京都)

Table with 2 columns: [日立市] and [熊谷組]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 4 3 3 1 0 7 2

投手 手回 安責

藤松 1 1/2 1 0

井内 7 1/2 5 0

▽三塁打 松浦▽二塁打 高島▽2時間25分

振球機盗失残併 4 3 0 1 0 6 0

投手 手回 安責

林 3 3/2 3 1

大 3 3/2 1 1

藤津 2 4 1

▽三塁打 大藤▽二塁打 藤津

2 回戦

東京都 (立正佼成会)

0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2
0 1 0 1 0 0 0 0 2 | 4

浜松市 (日本楽器)

Table with 2 columns: [東京都] and [浜松市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 9 1 0 1 2 6 0

投手 手回 安責

若井 8 1/2 8 2

酒井 1 1 1 1

▽本塁打 東本1号②(酒井) 沢 川島▽2時間55分

Table with 2 columns: [浜松市] and [東京都]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 4 0 0 3 0 5 0

投手 手回 安責

金子 7 6 1

田中 2 3 1

▽二塁打 金子 堀

2 回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)

0 1 0 0 1 0 0 0 3 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

浦和市 (日本通運)

Table with 2 columns: [札幌市] and [浦和市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 6 0 1 0 2 1 0

投手 手回 安責

長野 4 1/2 3 0

野並 4 3/2 2 0

▽本塁打 若松1号(田中) 藤政1号③(田中)▽二塁打 藤政1号③(田中) 遠藤 黒崎2 元田

振球機盗失残併 8 2 0 0 2 8 0

投手 手回 安責

田中 9 5 2

中 9 5 2

田中 9 5 2

2 回戦

室蘭市 (富士鉄室蘭)

0 0 4 1 0 1 0 0 0 | 6
0 0 0 2 2 0 1 0 0 | 5

名古屋市 (電電東海)

Table with 2 columns: [室蘭市] and [名古屋市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 5 4 0 0 6 0

投手 手回 安責

真音 5 5 4

尾 4 3 1

▽本塁打 西川1号②(真音) 下井1号(伊藤)

振球機盗失残併 6 3 1 0 1 6 0

投手 手回 安責

藤田 3 5 3

伊藤 4 2 2

後藤 2 1 0

▽三塁打 工藤▽二塁打 高屋敷▽2時間46分

2 回戦

横浜市 (日本石油)

3 0 0 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

浜松市 (河合楽器)

Table with 2 columns: [横浜市] and [浜松市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 2 2 0 3 0 7 0

投手 手回 安責

平松 9 3 0

▽二塁打 幕田

▽2時間22分

Table with 2 columns: [浜松市] and [横浜市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 2 2 0 3 0 7 0

投手 手回 安責

岩野 1 1 0

村崎 2 3 0

岩野 1 0 0

▽二塁打 幕田

▽2時間22分

2 回戦

釜石市 (富士鉄釜石)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 1 0 0 1 0 X | 3

東京都 (電電東京)

Table with 2 columns: [釜石市] and [東京都]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 4 2 1 0 0 4 0

投手 手回 安責

山田 4 3 2

泉沢 3 2 1

伊東 1 0 0

▽本塁打 谷本1号(山田) 五味1号(山田) 五味 峰田▽2時間8分

振球機盗失残併 5 0 1 1 0 2 1

投手 手回 安責

土屋 9 4 0

2 回戦

佐賀関町 (日本鋳業佐賀関)

0 1 0 1 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3

川崎市 (日本コロムビア)

Table with 2 columns: [佐賀関町] and [川崎市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手, 手回, 安責.

振球機盗失残併 5 2 1 0 5 0

投手 手回 安責

池田 8 3/2 5 3

▽本塁打 湯野2号(田中) 保垣1号③(池田)

▽三塁打 原田▽二塁打 近藤▽2時間27分

振球機盗失残併 4 2 1 1 1 4 1

投手 手回 安責

中野 3 3/2 3 1

矢野 1 1/2 3 0

佐野 2 0 0

近藤 2 0 0

準々決勝

浜松市 (日本楽器)
2 0 0 0 0 0 0 2 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

【浜松市】 打安点
⑦ 東山 本 3 0 0
⑦ 7 山片 田 1 0 0
④ 桐 藤 2 1 0
④ 藤 藤 4 2 1
④ 藤 藤 4 1 2
④ 藤 藤 4 2 1
④ 藤 藤 3 0 0
④ 藤 藤 4 0 0
④ 藤 藤 4 1 0
④ 藤 藤 3 0 0
④ 藤 藤 3 0 0

振球機盗失残併
5 2 1 1 0 4 0
投手 回 安責
仲 手 9 2 0

準々決勝

横浜市 (日本石油)
0 4 0 0 1 2 0 0 0 | 7
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

【横浜市】 打安点
⑨ 幕 田 4 2 1
⑧ 渡 辺 5 0 0
② 広 瀬 5 3 1
④ 枝 石 5 1 0
④ 枝 石 5 2 0
④ 枝 石 3 2 0
④ 枝 石 0 0 0
④ 枝 石 1 0 0
④ 枝 石 5 2 2
④ 枝 石 1 0 0
④ 枝 石 3 1 1
④ 枝 石 1 0 0
④ 枝 石 0 0 0
④ 枝 石 0 0 0

振球機盗失残併
5 3 1 2 2 1 0 0
投手 回 安責
平 松 6 5 1
三 浦 2 0 0
保 田 1 0 0

準々決勝

東京都 (電電東京)
0 0 0 1 0 1 0 0 0 | 2
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

【東京都】 打安点
⑧ 富 永 4 1 0
⑦ 福 岡 3 1 0
⑦ 小 福 4 1 0
⑦ 五 小 3 1 1
⑦ 石 烟 0 0 0
⑦ 石 烟 3 2 1
⑦ 石 烟 3 0 0
⑦ 石 烟 3 0 0
⑦ 石 烟 0 0 0
⑦ 石 烟 1 0 0
⑦ 石 烟 2 0 0
⑦ 石 烟 3 0 0

振球機盗失残併
6 2 2 1 0 4 1
投手 回 安責
柳 沢 1 2 1
竹ノ下 5 2 0
土 屋 2 2 0

▽二塁打 藤木▽2時間35分

準々決勝

日立市 (日立製作所)
0 0 5 3 4 0 0 0 0 | 12
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

【日立市】 打安点
⑦ 木 沢 4 3 1
⑦ 7 岡 橋 2 0 0
⑥ 高 松 2 0 0
⑥ 高 松 1 1 0
⑥ 高 松 1 1 0
⑥ 高 松 1 1 0
⑥ 高 松 5 1 1
⑥ 高 松 3 3 4
⑥ 高 松 1 0 0
⑥ 高 松 3 0 1
⑥ 高 松 3 2 2
⑥ 高 松 1 0 0
⑥ 高 松 5 2 0
⑥ 高 松 3 1 0
⑥ 高 松 1 0 0
⑥ 高 松 1 0 0
⑥ 高 松 2 1 1
⑥ 高 松 2 0 0

振球機盗失残併
5 6 2 0 0 9 1
投手 回 安責
村 井 4 4 0
高 松 3 0 0
井 2 1 0

準決勝

浜松市 (日本楽器)
0 0 1 2 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 4
0 0 0 0 2 0 0 0 2 0 0 0 0 | 4

【浜松市】 打安点
⑦ 山 片 4 1 1
⑦ 7 桐 藤 5 2 0
⑦ 加 藤 4 2 1
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 6 1 1
⑦ 中 野 6 1 0
⑦ 中 野 6 2 1
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 1 0 0
⑦ 中 野 1 1 0
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 1 1 0
⑦ 中 野 1 1 0
⑦ 中 野 1 1 0
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 2 0 0
⑦ 中 野 2 0 0

振球機盗失残併
7 3 1 3 0 1 0 1
投手 回 安責
仲 高 4 1/2 10 2
三 岡 1 1/2 2 0
岡 田 2 1/2 3 2
高 松 4 3/4 4 0

準決勝

東京都 (電電東京)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 1 1 0 0 0 0 0 | 2

【東京都】 打安点
⑧ 富 永 2 0 0
⑧ 6 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 4 1 0
⑧ 富 岡 4 3 0
⑧ 富 岡 4 1 0
⑧ 富 岡 4 1 1
⑧ 富 岡 3 0 0
⑧ 富 岡 1 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 1 0 0
⑧ 富 岡 1 0 0
⑧ 富 岡 1 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0
⑧ 富 岡 2 0 0

振球機盗失残併
5 0 0 0 0 4 0
投手 回 安責
土 屋 7 4 1
飯 田 7/8 0 0
竹ノ下 1/2 0 0

▽二塁打 五味▽2時間9分

準決勝 (再試合)

浜松市 (日本楽器)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 2 | 3
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1

【浜松市】 打安点
⑤ 岡 本 3 0 0
⑤ 4 塩 川 2 0 0
⑤ 4 加 合 4 1 0
⑤ 4 加 合 4 1 0
⑤ 4 加 合 4 1 1
⑤ 4 加 合 4 2 0
⑤ 4 加 合 3 0 0
⑤ 4 加 合 1 0 0
⑤ 4 加 合 2 0 0
⑤ 4 加 合 2 1 1
⑤ 4 加 合 2 0 0
⑤ 4 加 合 0 0 0
⑤ 4 加 合 2 1 1
⑤ 4 加 合 1 1 1

振球機盗失残併
5 0 0 2 1 4 1
投手 回 安責
岡 本 5 5 0
高 橋 1 1 0
仲 子 4 2 0

3位決定戦

日立市 (日立製作所)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 2 1 1 0 0 | 4

【日立市】 打安点
⑦ 9 木 沢 3 1 0
⑦ 6 森 山 3 0 0
⑦ 6 山 松 4 1 0
⑦ 4 山 松 2 0 0
⑦ 4 山 松 1 1 0
⑦ 4 山 松 4 0 0
⑦ 4 山 松 3 1 0
⑦ 4 山 松 3 0 0
⑦ 4 山 松 2 0 0
⑦ 4 山 松 1 1 1
⑦ 4 山 松 1 0 0
⑦ 4 山 松 2 0 0
⑦ 4 山 松 1 0 0
⑦ 4 山 松 0 0 0
⑦ 4 山 松 0 0 0

振球機盗失残併
7 4 1 1 0 7 1
投手 回 安責
藤 原 5 4 2
高 村 1 2 1
村 井 2 1 1

▽本塁打 篠原1号(篠原)福岡1号(高橋)船田1号(村井)▽二塁打 山田 小黒▽2時間18分



5回目の優勝に輝く日本石油。北崎監督を先頭に行進

横浜市

(日本石油)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
早専秋慶才早岡八法專機法早立専慶高早日法浜慶立芝慶早

釜石市

(富士鉄釜石)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

東京都

(電電東京)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

川崎市

(日本コロムビア)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

推薦・東京都

(熊谷組)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
立駒戸専才東北九九都八九福早今九丸岡岡愛立至十九

仙台市

(電電東北)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

東京都

(立正俊成会)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

浜松市

(日本楽器)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

札幌市

(北海道拓殖銀行)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
明愛知学院 京西 京東 京南 京北 京中 京南 京北 京中

日上市

(日立製作所)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
明那御御作能柄取干取干取干取干取干取干取干取干取干取干

東京都

(サッポロビール)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

浜松市

(河合楽器)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
法權法藤三櫻清明豊青樹法中東明沼立法中同專農

室蘭市

(富士鉄室蘭)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

浦和市

(日本通運)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

大和町

(本田技研)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
大商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

青梅町

(電気化学)

監投手 30 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
工商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高商高

名古屋市

(電電東海)

Table listing names and numbers for Nagoya City (電電東海). Includes names like 岡部山藤, 藤田山藤, etc.

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City (日本生命). Includes names like 岡橋節南, 立近徳明, etc.

門真市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Maminami City (松下電器). Includes names like 中柳五郎, 藤原北開, etc.

丸亀市

(大倉工業)

Table listing names and numbers for Marugame City (大倉工業). Includes names like 佐久山山田, 木下端定, etc.

名古屋市

(マツダオート)

Table listing names and numbers for Nagoya City (マツダオート). Includes names like 伊光野口, 藤田山藤, etc.

大津市

(東洋レーヨン)

Table listing names and numbers for Tsuru City (東洋レーヨン). Includes names like 藤川口山, 藤田山藤, etc.

高砂市

(鐘淵化学)

Table listing names and numbers for Takasago City (鐘淵化学). Includes names like 塚田山藤, 高橋山藤, etc.

北九州市

(八幡製鉄)

Table listing names and numbers for Kitakyushu City (八幡製鉄). Includes names like 黒野山藤, 藤田山藤, etc.

大垣市

(西濃運輸)

Table listing names and numbers for Gakyo City (西濃運輸). Includes names like 田代山藤, 藤田山藤, etc.

京都市

(日本新薬)

Table listing names and numbers for Kyoto City (日本新薬). Includes names like 三井山藤, 藤田山藤, etc.

広島市

(電電中国)

Table listing names and numbers for Hiroshima City (電電中国). Includes names like 神吉山藤, 藤田山藤, etc.

佐賀関町

(日本鉱業佐賀関)

Table listing names and numbers for Saga City (日本鉱業佐賀関). Includes names like 勝山山藤, 藤田山藤, etc.

大阪市

(電電近畿)

Table listing names and numbers for Osaka City (電電近畿). Includes names like 小林山藤, 藤田山藤, etc.

神戸市

(三菱重工神戸)

Table listing names and numbers for Kobe City (三菱重工神戸). Includes names like 越山山藤, 藤田山藤, etc.

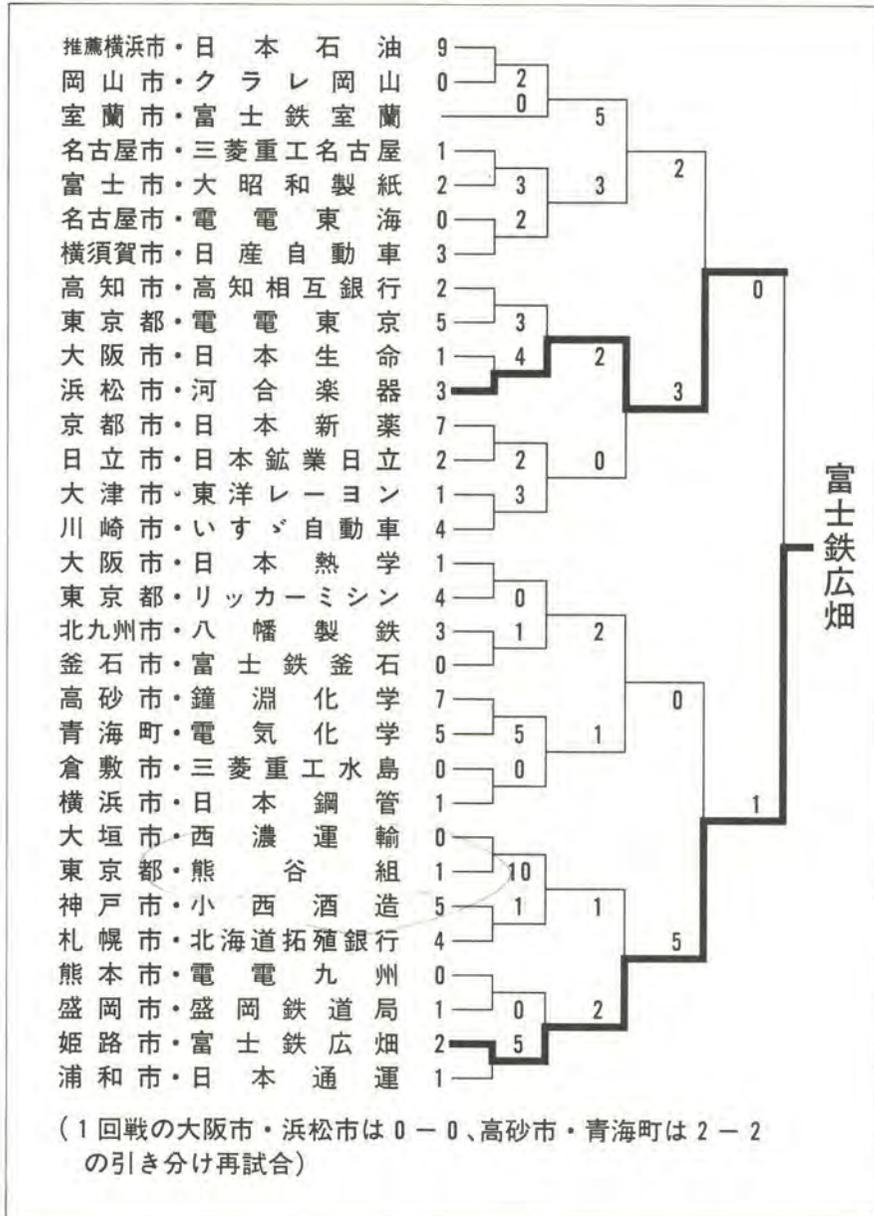
岡山市

(クラレ岡山)

Table listing names and numbers for Okayama City (クラレ岡山). Includes names like 湯山山藤, 藤田山藤, etc.

第39回大会 1968年(昭和43年)7月27日-8月6日・後樂園球場

優勝=姫路市・富士鉄広畑



強いとみられていた浦和市・日本通運は姫路に延長11回逆転負けを喫し、大阪市・日本生命も、浜松に引き分け再試合の末、敗れともに1回戦で姿を消した。大阪は橋戸賞男の小弓場保、浜松は4回からリリーフの松井副武両投手が譲らぬ投球で14回、0-0の引き分け。引き分け再試合はこれまでも数々あったが、ともに無得点の引き分けは史上初であった。2日後の再試合では浜松が小弓場投手を打ち崩した。

初戦で強豪を破った姫路と浜松はすっかり波に乗り、姫路では4試合に登板、被安打22、防御率0・67の快投を演じ、橋戸賞に輝いた神部投手の力投が大きかった。

浜松は風雲児ぶりを発揮、試合ごとに大会史に残るドラマを産み続けた。2回戦の東京都・電電東京戦も初戦に続き延長戦。10回一死満塁に代打・岩本紘一選手が中犠飛を打ちあげ、深夜の勝ち名乗り。前年優勝の日本石油との準決勝は、文字通り歴史に残る「できごと」だった。

浜松が3-1とリードした8回、日本石油は一死一塁に秋元国武一塁手が0-2からの好球を左翼席中段に「同点本塁打」した。ところが、浜松は「秋元は二塁を踏まなかった」とプレー再開後ボールを二塁につけてアピール。一塁塁審が右手を高くあげ「アウト」を宣告した。日本石油・北崎健二監督は猛抗議。選手はベンチを引きあげ、あわや放棄試合となりかけたが、大会本部の説得に日本石油側が折れ、56分間中断のあと再開された。結局浜松市が1点差で逃げ切ったが、決勝戦では数多いチャンスをつくりながら堅い姫路の守りにホームを踏むことができず、1点に泣いた。

久慈賞は25打数10安打と打ちまくった浜松の4番打者・堀内嗣郎一塁手が受賞、小野賞は4試合で防御率0・56をマークした北九州市・八幡製鉄の後藤晃吾投手に贈られた。接戦が多く1点差ゲームが14試合もあり、投手の健闘もあって、1-0の試合が5ゲームもあった。

混戦のなかベスト8に進出したのは、姫路浜松のほか、横浜、北九州、富士、川崎、高砂と東京。社会人球界の全国レベルの接近を証明する大会でもあった。

実力均衡、14試合が1点差

「本命なき黒獅子旗争い」の前評判通り、1回戦から接戦と波乱の連続。決勝は伏兵同士、姫路市・富士鉄広畑と浜松市・河合楽器の対戦となった。ともに決勝初進出だったが、姫路が神部年男、岡田光雄両投手の好継投と、バックの堅い守りで初優勝を果たした。兵庫県勢としては、第6回大会の全神戸以来、実に36年ぶり2度目の栄冠だった。

ま中断。日石側は「夜まで待っても続けよう」岡山側は「このまま流れて再試合を」の願いで空を見あげていたが、1時間10分の中断のあと再開。史上9人目の満塁本塁打を放った杉村にとっては、危うく快記録を雨で流されるところだった。

ルーキーあわや完全試合

ひときわ光る活躍をみせたのが早大から横浜市・日本鋼管に入社した22歳のルーキー・高橋直樹投手。1回戦の倉敷市・三菱重工水島戦は6回を終わって走者なし。「完全試合か」と史上2人目の快挙がささやかれたが、7回先頭の本常治雄選手に右前打され大記録は逸した。それでも被安打はこれ1本だけで、横浜が1-0の勝ち。

早大時代は同僚の三輪田勝利投手のカゲにかくれ目立たなかったが社会人になって急成長。抜群の制球力を生かし、ていねいなピッチングで大器晩成型エースとなった。



同点、と思われた日本石油・秋元の本塁打は「幻」に

1回戦

日本石油 (推薦・横浜市)									
2	6	0	0	0	0	1	0	0	9
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山市 (クラレ岡山)									

【日本石油】	打安点	【岡山市】	打安点
⑨ 幕田	4 3 0	④ 矢野洋	4 1 0
⑧ 渡辺	4 2 0	⑦ 見田	4 1 0
④ 松元	5 1 2	⑨ 稲門	4 2*0
③ 秋村	3 0 1	⑧ 林田	4 0 0
⑦ 杉元	4 1 4	③ 中村	3 0 0
② 杉元	5 0 0	⑥ 中村	2 0 0
⑥ 石平	4 1 0	⑥ 池田	1 0 0
⑤ 石平	4 2 1	② 中村	1 0 0
① 三浦	3 0 0	② 岡田	2 0 0
	3610 8	② 矢野	1 0 0
振球機盗失残併	3 4 2 1 0 6 1	① 山外	0 0 0
投手回安責	9 5 0	① 山南	2 0 0
三浦		① 阿曾	1 0 0
		⑤ 片岡	0 0 0
			3 1 0
			3 1 5 0
▽本塁打	杉村1号④	振球機盗失残併	3 0 0 0 1 4 0
(山南)	▽三塁打	投手回安責	5 5 5
▽二塁打	幕田井上	投外山南	6 3/3 5 3
門田	▽2時間32分	斎藤	1 0 0

1回戦

名古屋市 (三菱重工名古屋)									
0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	2	0	×	2	5
富士市 (大昭和製紙)									

【名古屋市】	打安点	【富士市】	打安点
④ 岡本	4 1 0	④ 池谷	4 1 0
⑦ 松本	3 1 0	⑥ 藤原	4 2 0
H 堀川	1 0 0	③ 加藤	4 0 0
⑤ 堀川	4 0 0	⑨ 安加	2 0 0
③ 大光	4 1 0	③ 清三	1 0 0
⑥ 小川	3 0 0	H 3 堀中	1 0 0
⑧ 小林	3 1 0	⑧ 今中	1 0 0
② 神吉	2 1 1	⑤ 尾上	3 1 2
H 神吉	1 0 0	② 中村	2 0 0
① 篠田	0 0 0	H 2 三輪	1 0 0
⑨ 篠田	3 0 0	① 萩原	1 0 0
	315 1	① 萩原	1 0 0
振球機盗失残併	4 0 0 0 0 3 0	1	26 4 2
投手回安責	7 3 2	振球機盗失残併	2 3 1 1 0 4 0
篠田	1 1 0	投手回安責	6 3 1 2 0
		三輪田	3 2 0
		▽三塁打	林▽2
		時間15分	

1回戦

名古屋市 (日電東海)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	0	0	1	0	0	×	3
横須賀市 (日産自動車)									

【名古屋市】	打安点	【横須賀市】	打安点
⑨ 藤田	3 1 0	⑧ 杉田	4 1 0
④ 西川	3 0 0	⑦ 太田	4 3 1
⑧ 西川	3 0 0	⑤ 仲田	4 2 0
⑦ 前中	3 0 0	H 4 元岩	1 0 0
③ 中村	2 0 0	⑨ 藤井	1 0 0
⑤ 森井	2 0 0	③ 佐藤	2 0 0
③ 渡辺	3 0 0	③ 井山	1 1 0
⑥ 浅川	2 0 0	④ 竹中	2 0 0
② 川島	3 0 0	H 9 鈴入	1 0 0
② 山崎	0 0 0	⑨ 井山	0 0 0
① 山上	1 0 0	⑥ 辻	3 2 1
H 井野	1 0 0	② 藤正	3 1 0
① 伊藤	0 0 0	① 小沢	3 0 0
	27 1 0		29 10 2
振球機盗失残併	11 4 1 1 1 5 0	振球機盗失残併	3 3 1 4 0 6 0
投手回安責	2 6 1	投手回安責	9 1 0
青井	5 4 1		
井上	2 0 0		
伊藤	1 0 0		
▽本塁打	太田1号 (青山)	▽二塁打	藤田 杉田
▽二塁打	時間23分		

1回戦

高知市 (高知相互銀行)									
0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
1	1	0	0	1	2	0	×	5	5
東京都 (日電東京)									

【高知市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 弘田	4 0 0	⑧ 永岡	4 3 1
② 久保	2 0 0	⑨ 福村	2 0 0
H 池田	0 0 0	H 5 村木	2 1 1
② 池田	0 0 0	③ 暮味	4 1 0
⑥ 浜田	1 0 0	⑦ 五石	3 0 0
③ 三横	3 2 0	⑦ 峰大	0 0 0
⑤ 西高	3 0 0	② 石原	3 0 0
④ 高岩	4 0 1	① 谷本	1 0 0
⑨ 谷	4 1 1	⑤ 9 小後	2 2 1
⑦ 前小	4 0 0	H 9 後	1 1 0
① 北刈	3 0 0	④ 大石	3 0 0
① 刈	2 0 0	H 小後	0 0 0
	30 3 2	H 6 谷	1 0 0
振球機盗失残併	4 3 1 1 1 5 0	H 6 大塚	4 2 1
投手回安責	7 9 4	① 伊藤	1 0 0
前田	1 0 0	② 伊藤	1 0 0
北刈	1 0 0		
▽本塁打	富永1号 (前田)	▽二塁打	谷本 2
村山	▽2時間20分		



派手なカンカン踊りを披露、スタンドの大拍手を浴びた大阪・日本熱学の応援女子リーダー40回

1 回戦

熊本市 (電電九州)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 0 X | 1
盛岡市 (盛岡鉄道局)

【熊本市】 打安点 【盛岡市】 打安点
(8) 出口 4 0 0 0
(4) 吉岡 4 1 0 0
(9) 末村 3 0 0 0
(3) 浜田 3 0 0 0
(5) 原田 3 0 0 0
(6) 橋本 2 0 0 0
(7) 福松 1 0 0 0
(2) 伊下 2 0 0 0
(1) R 秋少 0 0 0 0
(1) 秋少 0 0 0 0
(2) 蓮 2 0 0 0
H 7 2 8 1 0
振球機盗失残併 9 2 0 2 1 3 0
投手 回 安責
伊達 7 3 1
秋葉 1 1 0
▽二塁打 黒田
▽1時間57分

1 回戦

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1 | 2
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
浦和市 (日本通運)

【姫路市】 打安点 【浦和市】 打安点
(8) 福本 4 2 1
(7) 小三 4 0 0
(3) 小加 5 2 0
(5) 久汐 2 0 0
(4) H 3 夕沙 3 0 0
(9) 青山 4 1 1
(2) 岡神 3 1 0
(1) 岡神 3 0 0
H 2 1 0 0
3 6 7 2
振球機盗失残併 5 4 3 0 4 8 2
投手 回 安責
岡田 9 10 1
岡田 2 1 0
▽本塁打 福本1号(田中)
井▽3時間3分

1 回戦 (再試合)

高砂市 (鐘淵化学)
0 0 0 0 0 3 0 4 0 | 7
0 2 0 0 2 0 0 0 1 | 5
青海町 (電気化学)

【高砂市】 打安点 【青海町】 打安点
(4) 中村 5 1 0
(6) 宮下 3 1 0
(8) 7 地田 4 2 4
(9) 坂丸 4 1 1
(7) 3 丸野 4 0 0
(2) 谷片 4 2 1
(3) H 橋岡 1 0 0
(8) R 高小 1 1 0
(5) 野田 2 0 0
(1) 水岡 4 1 0
(1) 藤本 0 0 0
(1) 藤本 1 0 0
(1) 中村 0 0 0
(1) H 1 千石 1 1 1
(1) R 1 石柏 2 1 0
3 6 1 1 7
振球機盗失残併 5 1 0 0 2 3 1
投手 回 安責
岡本 1 4 2
藤原 1 2 0
藤下 1 1 0
中村 1 1 1
柏木 4 3 1
▽本塁打 藤本1号(岡本)
口 谷脇 西田▽2時間36分

1 回戦

神戸市 (小西酒造)
0 2 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 1 | 5
0 1 0 0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 0 | 4
札幌市 (北海道拓殖銀行)

【神戸市】 打安点 【札幌市】 打安点
(9) 小松 3 1 0
(9) H 9 秋 2 1 0
(5) 川村 4 0 0
(3) 榎今 6 2 1
(8) 笠原 6 0 0
(7) 4 笠原 5 0 0
(2) 笠原 5 1 0
(2) 笠原 5 1 2
(2) 笠原 4 3 0
(1) 笠原 1 0 0
(1) 南 2 0 0
4 5 9 3
振球機盗失残併 1 7 1 3 1 3 5 0
投手 回 安責
若手 8 9 3
南 5 2 0
▽本塁打 岡山1号②(千藤)
▽三塁打 榎本
▽二塁打 鈴木 若松
三好 佐藤信
▽3時間51分

2 回戦

室蘭市 (富士鉄室蘭)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
日本石油 (推薦・横浜市)

【室蘭市】 打安点 【日本石油】 打安点
(8) 谷木 4 0 0
(4) 須崎 4 0 0
(9) 須崎 4 1 0
(3) 須崎 3 0 0
(5) 須崎 2 1 0
(7) 7 梅下 1 0 0
(7) 1 財江 0 0 0
(2) 2 江田 1 0 0
H 2 1 財前 2 0 0
(1) 1 財前 1 0 0
H 1 1 真崎 1 0 0
H 7 1 坂井 2 0 0
(6) 6 高屋敷 1 0 0
2 8 2 0
振球機盗失残併 9 3 0 2 2 4 0
投手 回 安責
財前 5 5 1
真崎 2 2 0
江口 1 1 0
▽二塁打 渡辺
▽2時間25分

2 回戦

横須賀市 (日産自動車)
0 0 0 0 1 0 1 0 0 | 2
0 2 0 0 1 0 0 0 X | 3
富士市 (大昭和製紙)

【横須賀市】 打安点 【富士市】 打安点
(8) 杉田 1 0 0
(7) 7 田 5 1 0
(5) 仲 4 3 1
(9) 元 3 0 1
(3) 竹井 2 0 0
H 6 入山 1 0 0
(4) 4 中井 4 2 0
(6) 辻 2 0 0
H 3 佐藤 2 0 0
(2) 2 佐藤 1 0 0
H 1 岩下 1 0 0
(1) 1 宇都宮 1 0 0
H 2 1 小青 2 1 0
3 1 7 2
振球機盗失残併 9 6 1 4 3 9 0
投手 回 安責
藤 2 2 0
小沢 4 2 1
宇都宮 2 1 0
▽3時間10分

2 回戦

東京都 (電電東京)
0 0 0 0 1 2 0 0 0 0 | 3
2 1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 4
浜松市 (河合楽器)

【東京都】 打安点 【浜松市】 打安点
(8) 富永 5 1 0
(6) 4 塚 5 1 0
(3) 3 塚 4 0 1
(9) 9 塚 4 2 0
(5) 5 塚 0 0 0
(7) 7 塚 3 0 0
H 7 塚 1 0 0
(2) 2 塚 3 1 1
(4) 4 塚 1 0 0
R 6 塚 2 0 0
(1) 1 塚 1 1 0
(1) 1 塚 2 0 0
1 塚 0 0 0
3 4 6 2
振球機盗失残併 6 2 2 0 0 5 0
投手 回 安責
伊藤 1 1/2 3 3
藤下 6 4 0
大原 2 1/2 0 1
▽3時間49分

2 回戦

川崎市 (いすゞ自動車)
1 0 0 1 0 1 0 0 0 | 3
1 0 0 0 0 0 0 1 0 | 2
京都市 (日本新薬)

【川崎市】 打安点 【京都市】 打安点
(8) 渡内 5 2 0
(4) 4 藤本 2 0 0
(9) 9 藤本 3 1 1
(3) 3 藤本 3 0 0
(2) 2 藤本 2 1 0
R 2 藤本 1 1 0
(5) 5 藤本 4 1 0
(7) 7 藤本 4 1 0
(1) 1 藤本 0 0 0
H 1 藤本 1 0 0
(6) 6 藤本 4 1 1
3 0 8 3
振球機盗失残併 2 4 3 2 0 7 1
投手 回 安責
矢野 5 3 1
佐野 4 4 1
▽本塁打 田中1号(矢野)
時間39分

2 回戦

東京都 (リッカーマシン)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 X | 1
北九州市 (八幡製鉄)

【東京都】 打安点 【北九州市】 打安点
(4) 馬場 4 1 0
(9) 9 馬場 4 0 0
(8) 8 馬場 3 1 0
(7) 7 馬場 3 2 0
R 3 馬場 0 0 0
(3) 3 馬場 4 1 0
H 5 馬場 0 0 0
(5) 5 馬場 3 0 0
(6) 6 馬場 0 0 0
H 6 馬場 2 0 0
(1) 1 馬場 2 0 0
1 馬場 1 0 0
3 1 5 0
振球機盗失残併 3 2 1 1 3 7 0
投手 回 安責
佐田 4 3 0
吉村 4 0 0
▽三塁打 中川▽2時間9分

2回戦

高砂市 (鐘淵化学)
0 0 0 1 0 1 2 1 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

【高砂市】 打安点
中村 4 1 1
宮地 5 3 0
福地 5 2 1
福小 0 0 0
野下 4 2 1
片岡 3 0 0
丸谷 4 1 1
水谷 3 2 0
中村 2 1 1
中村 3 1 0
振球機盗失残併 33135

▽二塁打 宮地 下田
丸野 水田 柳田▽2時
間29分

2回戦

神戸市 (小西酒造)
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 3 0 0 4 2 1 X | 10

【神戸市】 打安点
秋 3 1 0
小川 1 0 0
菅原 3 1 0
菅原 1 0 0
菅原 3 1 0
菅原 1 0 0
菅原 3 0 0
菅原 2 0 0
菅原 1 1 0
菅原 2 0 1
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 2 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0
菅原 1 0 0

振球機盗失残併 3010421
投手回安責 5 4 3
若津 1 2 0
梅井 1 1 2
南 1 1 2

▽本塁打 川崎1号③ (若林) 山本1号② (桜井)
▽三塁打 長尾▽二塁打 古田 新木▽2時間15分

2回戦

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 0 1 1 0 0 3 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

【姫路市】 打安点
福本 5 1 0
福小 5 4 2
三小 4 0 0
加沙 1 0 0
柏寺 3 3 1
清本 0 0 0
井本 5 0 1
井本 5 2 0
井本 2 0 0
井本 2 0 0
井本 3 0 1
井本 0 0 0
井本 2 0 0
井本 1 0 0
井本 2 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0
井本 1 0 0

振球機盗失残併 44170103
投手回安責 6 4 0
川島 2 1 0
岡田 1 1 0

▽2時間25分

準々決勝

日本石油 (推薦・横浜市)
4 0 0 1 0 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 3 0 | 3

【日本石油】 打安点
幕田 4 1 1
田邊 5 1 1
渡辺 4 1 0
枝村 1 1 0
秋元 3 0 0
杉村 4 1 1
前田 1 0 0
前田 4 2 1
前田 4 2 0
前田 3 1 0
前田 1 0 0
振球機盗失残併 37104

振球機盗失残併 4311191
投手回安責 6 3 3

▽本塁打 渡辺1号 (三輪田)
▽二塁打 中道
▽2時間55分

準々決勝

川崎市 (いすゞ自動車)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 2 0 0 0 0 X | 2

【川崎市】 打安点
渡内 2 0 0
渡内 2 0 0
近藤 1 0 0
近藤 4 0 0
近藤 4 0 0
近藤 3 2 0
近藤 3 0 0
近藤 1 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 1 0 0
近藤 1 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0
近藤 2 0 0

振球機盗失残併 8310441
投手回安責 7 5 0
近藤 1 0 0

▽2時間29分

準々決勝

高砂市 (鐘淵化学)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2

【高砂市】 打安点
中村 4 2 0
宮地 3 1 0
福高 4 1 0
福高 0 0 0
福高 4 1 0
福高 3 0 0
福高 3 1 0
福高 1 1 1
福高 3 0 0
福高 3 0 0
福高 3 0 0
福高 2 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0
福高 1 0 0

振球機盗失残併 5112251
投手回安責 7 4 1
岡本 1 2 0

▽本塁打 民谷1号 (中村)
▽2時間17分

準々決勝

姫路市 (富士鉄広畑)
0 1 1 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1

【姫路市】 打安点
福本 4 0 0
本村 4 2 0
福小 4 2 0
加沙 4 1 1
小藤 4 1 0
青井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0
鈴井 1 0 0

振球機盗失残併 2211060
投手回安責 7 4 1

▽二塁打 小西▽2時間44分

準決勝

浜松市 (河合楽器)
0 0 1 0 0 1 0 1 0 | 3
0 0 0 0 0 1 0 1 0 | 2

【浜松市】 打安点
佐藤 5 1 0
中上 4 2 0
堀内 5 2 0
堀内 5 2 2
堀内 3 1 0
堀内 3 0 0
堀内 1 0 1
堀内 3 0 0
堀内 1 0 0
堀内 4 2 0
堀内 3 4 0 3

振球機盗失残併 36010100
投手回安責 5 3 1

▽本塁打 堀内1号 (保田)
▽三塁打 川島▽二塁打 秋元▽2時間55分

準決勝

姫路市 (富士鉄広畑)
0 0 0 1 0 0 1 3 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

【姫路市】 打安点
福本 4 1 0
福小 4 0 0
三小 5 2 0
小藤 0 0 0
藤井 3 1 0
藤井 0 0 0
藤井 2 0 0
藤井 1 1 2
藤井 2 0 0
藤井 0 0 0
藤井 0 0 0
藤井 1 1 0
藤井 0 0 0
藤井 4 1 1
藤井 4 0 0
振球機盗失残併 3594

振球機盗失残併 5413081
投手回安責 9 4 0

▽三塁打 小西▽二塁打 福本 汐崎▽2時間41分

姫路市

(富士鉄広畑)

Table listing names and numbers for the city of Himeji, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

釜石市

(富士鉄釜石)

Table listing names and numbers for the city of Kamaishi, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

横浜市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for Yokohama, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama (Nippon Oil), including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

盛岡市

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for Morioka, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

東京都

(リッカーミン)

Table listing names and numbers for Tokyo (Rickarmin), including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

札幌市

(北海道拓殖銀行)

Table listing names and numbers for Sapporo, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

日上市

(日本鉱業日立)

Table listing names and numbers for Niigata, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo (Kumagumi), including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fuji, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

室蘭市

(富士鉄室蘭)

Table listing names and numbers for Muroran, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

川崎市

(いすゞ自動車)

Table listing names and numbers for Kawasaki, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

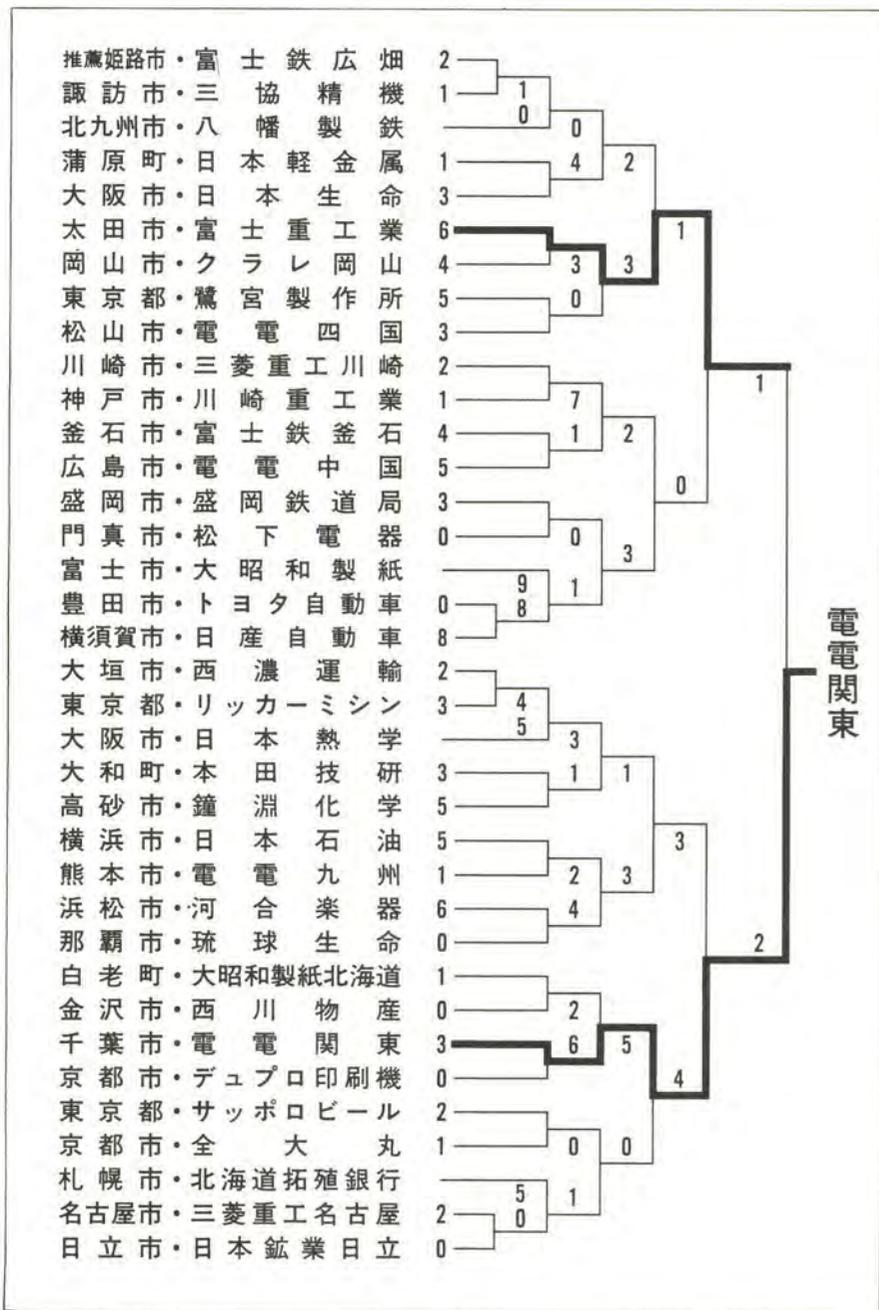
浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu, including categories like 監督 (Supervisor) and 投手 (Pitcher).

第40回大会

1969年(昭和44年)7月23日 - 8月5日・後樂園球場
優勝=千葉市・電電関東



場。最多出場は25回の北九州市・八幡製鉄。

大会第9日の準々決勝に天皇、皇后両陛下(当時)をお迎えしたのをはじめ、初めてナイターの開会式が“光と音”のなかで華やかに行われ、北海道連盟 砂沢文雄、九州連盟・荒牧富造両氏が特別表彰されるなど華やかな大会だった。

“記念大会は荒れる”の言葉通り、熱戦激戦の末、決勝は3回目出場の千葉市・電電関東と4回目の太田市・富士重工業の対決となり、千葉が土壇場の逆転でサヨナラ勝ち、初優勝した。橋戸賞は千葉・若宮秀雄投手、久慈賞は太田・石幡信弘投手が獲得、小野賞は千葉・佐藤昭投手(日本通運から補強)に贈られた。

大会前は下馬評にもあがらなかった千葉の躍進は素晴しかった。京都市・デュプロ印刷機を若宮が3安打完封。白老町・大昭和北海道戦は9回同点に追いつかれ延長戦となったが、12回佐藤文夫主将の安打と2四球で満塁とし、暴投で勝ち越したあと、鈴木法好、高木修が左前に連安打、一挙4点を奪った。札幌市・北海道拓殖銀行戦も10安打で5点を奪い、若宮、佐藤昭の完封リレー。準決勝は浜松市 河合楽器と対戦したが、9回の浜松の急追を佐藤昭が苦心のピッチングで切り抜け、初の決勝に勝ちあがった。

山静の激戦区を戦ってきた富士市・大昭和製紙も2回戦で横須賀市・日産自動車と両チーム合わせて35安打と大会記録を塗り変える打撃戦を制し、その後は三輪田勝利、野村稔、森永悦弘らの投手陣の頑張りで準決勝に進出。太田は左腕・石幡投手の力投で準々決勝で大阪市・日本生命に競り勝ち、準決勝では富士を4安打完封したが、決勝では最後に涙を飲んだ。

優勝候補にあげられた推薦 富士鉄広畑は、神部年男投手が連投の疲れで大阪市・日本生命に早々と打ち込まれて準々決勝で姿を消し、門真市・松下電器は初戦で盛岡市・盛岡鉄道局の泉沢彰投手にわずか2安打に抑えられ零敗。東京都・サッポロビールも3回戦で札幌市・北海道拓殖銀行に延長の末、敗れ去った。前大会の“幻のホームラン”で因縁の対決となった横浜市・日本石油対浜松市・河合楽器は、延長11回、3時間23分の末、またしても浜松に軍配があがった。

華やかにナイター開会式

第40回の記念大会とあって、史上最多の36チームが参加した。白老町・大昭和製紙北海道、東京都・鷺宮製作所、川崎市・三菱重工川崎、金沢市・西川物産、京都市・デュプロ印刷機、那覇市・琉球生命の6チームが初出

決勝

太田市 (富士重工業)
 0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
 千葉市 (電電関東)

【太田市】	打安点振球	【千葉市】	打安点振球
⑧ 後藤	4 1 0 0 0 0	⑧ 黒崎	4 1 0 2 0 0
⑥ 奥村	4 0 0 0 1 0	⑥ 中井	3 0 0 0 0 1
⑨ 木松	3 2 1 1 1 0	③ 竹村	2 0 0 0 0 1
⑦ 松平	4 1 0 0 0 0	② 佐藤	3 1 0 0 0 1
④ 田中	4 0 0 0 0 0	⑨ 清藤	0 0 0 0 0 0
③ 田中	4 0 0 0 1 0	⑦ 高本	0 0 0 0 0 1
② 緒石	4 2 0 0 0 0	⑦ 青山	1 0 0 0 0 0
① 緒石	2 0 0 0 1 0	⑦ 塩田	1 1 0 0 0 0
⑤ 野中	3 1 0 1 0 1	⑤ 木田	0 0 0 0 0 0
	327 15 50	⑤ 鈴木	3 0 0 3 0 3
構盗失残併		④ 岩田	3 1 0 0 1 1
2 3 0 6		① 佐藤	2 0 0 1 0
投手回 打安振球責		⑦ 清宮	1 0 0 0 0 0
石 幡 8 1/3 6 6 5 2		① 若宮	0 0 0 0 0 0
		① 太田	1 1 2 0 0 0
		⑦ 渡辺	3 1 0 0 0 0
			276 26 5
		構盗失残併	
		3 0 1 8	
▽二塁打 松嶋 木村		投手回 打安振球責	
緒方▽3時間7分		佐藤 7 6 4 0 0	
		若宮 2 1 1 0 0	

再試合決勝は土壇場逆転

豪雨(ノーゲーム)で再試合となった決勝。太田市・富士重工業の石幡、千葉市・電電関東・佐藤昭と同じ先発。ともに疲れも見せず好投、1点を争う接戦となったが、千葉が土壇場であざやかな逆転サヨナラ勝ち。

千葉打線は石幡の左腕からの大きなカーブにほんろうされ、8回までわずか4安打。



初優勝した千葉・電電関東ナインが場内を一周

太田は前半に再三チャンスをつくったが、佐藤昭の要所を締める巧みなピッチングでホームを踏めなかった。

しかし6回、太田は三塁強襲安打の後藤が二盗。奥村のバントはタッチを焦った三塁手の落球を誘って一死一・三塁。ここで木村がスクイズを決め均衡を破った。

石幡の好投から、千葉には重い1点に思えたが9回、先頭の佐藤文が四球を選び、塩多の三遊間安打で一・二塁。一死後岩田も四球で満塁とした。さすがの石幡も勝ちを意識したのか、堅さがみられた。投手・若宮の代打に起用したのは、この大会初めて打席につく太田垣。たちまちカウント2-1と追い込まれたが、4球目のカーブをたたいた太田垣の一撃は前進守備の遊撃手の足元を抜け左翼に達する間に2者が生還、劇的なサヨナラ勝ちとなった。

2度目の天覧試合

大会第9日、7月31日の準々決勝、大阪市・日本生命対太田市・富士重工業戦を天皇、皇后両陛下(当時)がご覧になった。

昭和22年の第18回大会以来、2回目の天覧試合。両陛下は午後3時26分、後楽園球場正面にお着きになり、30段の階段をあがってロイヤルボックスにすわられた。期せずにはわき起こる割れるような拍手に、天皇陛下は帽子を2度3度と振って応えられた。

1回裏、太田が奥村、木村のエンドランを成功させて一死一・三塁。このチャンスに松儀が中前適時打、すばやく1点をあげたときは、双眼鏡を手にじっと見守っておられた天皇陛下は思わず体を乗り出されるほどの熱の入った観戦ぶりだった。

からは、歌と踊りの豪華な前夜祭。NHK宮田輝アナウンサーの司会で人気歌手10人の“歌のアルバム”が繰り広げられた。

**M
E
M
O**

◇1試合最多安打35 2回戦の富士市・大昭和製紙対横須賀市・日産自動車戦で富士が16安打、横須賀が19安打を放って新記録。従来記録は第19回の東京・全藤倉(29安打)対富山市・全富山(4安打)の33本。

◇第10号満塁本塁打 2回戦の東京都・リッカーマシン対大阪市・日本熱学戦で大阪・小林勉外野手が4回の二死満塁に片岡投手から右翼席に打ち込んだ。第12回大会に後楽園に移ってから7本目。

音と光の記念大会開会式

記念大会とあって、開会式は午後7時から後楽園球場で行われた。緑の芝生を照らし出していた8基の照明灯が消え、東京消防庁音楽隊のファンファーレ。同時に爆竹がさく裂、花火のせん光がまっ暗な夜空にアーチを描いた。

一・三塁側の二階席からのスポットライトを浴びて日の丸と大会旗、つづいて選手団の入場行進。最後に前回優勝の富士鉄広畑が黒獅子旗をかかげて入場。36チームが整列すると287万しよっ光の照明灯が一斉に点灯された。

優勝旗の返還、永年功労者の表彰などがあり、リーダーフェル合唱団の「都市対抗を讃える歌」で開会式をしめくり、午後8時半



天皇、皇后両陛下(当時)をお迎えした大阪対太田戦



決勝。千葉は9回の一死満塁に代打・太田垣が左前に殊勲打、佐藤文(22)に続き石川生還。歓喜のサヨナラ優勝



富士対川崎。8回富士は一死二塁に清水を置き、三原が右前に決勝のタイムリーを放つ。投手・池田、捕手・石井

“幻”の翌年、執念の1発 史上初の“水”入り決勝戦

前大会の対浜松市・河合楽器戦で左翼席に打ち込みながら、二塁を踏まず“幻の本塁打”となった横浜市・日本石油・秋元国武一塁手が、相手も同じ3回戦の対日本楽器戦で“執念の本塁打”を放った。

1点をリードされた土壇場の9回、同点アーチを左翼席にかけ、今度は両足で二塁ベースを踏みつけ、しばらく踏みとどまってスタンドの拍手を浴びた。

「河合戦でなんとしても打ちたい」と語っていた秋元だったが、見事に意地をみせた。

千葉市・電電関東対太田市・富士重工業と南北関東代表の決勝は後攻の千葉が1-0とリード、6回表の太田の攻撃が終了したところで雨のため中止、史上初の“水入り決勝”再試合となった。

大会規則の「7回または7回表を終了して勝負が決定している場合はコールド・ゲームとする。ただし、決勝はこの規則を適用せず再試合とする」に従ったもの。

千葉の1点は1回到トップの黒崎勝利中堅手が左翼席に打ち込んだ本塁打によるものだったが、この記録も取り消しとなった。

ズッシリ重かった橋戸賞

千葉市・電電関東
若宮秀雄投手



日大三高時代にセンバツ出場。昭和44年日大を卒業して関東電気通信局入社。新人で5試合に登板、29イニング自責点2で橋戸賞。現在NTT市川支店料金係長。

初戦でぶつかったデュープロ戦の2回に一死二塁で左翼に高いフライを打たれた。当りはよくなかったのに意外に伸びて、マウンドから見ているとボールに当たったように思えた。2ラン本塁打だなど覚悟したが、ファウルの宣告。結果的には、これが優勝までつづけた運命のカギだった。

日本通運から補強の佐藤昭さんが力投してくれて、ルーキーの私は気持ちのうえではずごく楽だった。決勝は佐藤昭さんが先発、黒崎さんの本塁打でリードしていたのだが、6回表の富士重工業の攻撃が終わったところで

雨が激しくなりノーゲーム。翌日の再試合は私が先発すると思っていた。ところが監督は「佐藤でいってもら、オマエはいつでもいけるようにはじめから用意しておく」。なにかはぐらかされた気もしたが、決勝戦で1イニングでも投げられればいいと気持ちを切り替え、ずっとブルペンにいた。

富士重工業の左腕・石橋信弘投手のカーブがすごく、うちの打者は全然タイミングがあわない。6回にはスクイズで1点を取られてしまった。私は8回からリリーフにたったが8回裏の攻撃が終わってもうちはわずか4安打。流れは絶対的に不利だったが9回佐藤文さんが四球で出て突破口を開き一死満塁とした。打順は私だったが同期の太田垣が代打。広陵高の主将だった太田垣は度胸がいいだけに、なんとかすると思ったが、夢のような逆転打でサヨナラ勝ち。ベンチから総出て抱き合った。ガケつぷちからひっくり返した勝利なので、心の準備もなく、空白のような瞬間だった。表彰式になってうれしさがこみあげてきた。

個人賞に縁がない私だったが橋戸賞。受け取るとき、気軽に手を出したらズッシリと重かった思いが、いまでも忘れられない。

1回戦

富士鉄広畑 (推薦・姫路市)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
諏訪市 (三協精機)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【富士鉄広畑】	打安点	【諏訪市】	打安点
⑦ 高橋	3 1 0	⑥ 幡野	4 1 1
⑧ 三村	3 1 1	⑧ 野	2 0 0
⑥ 小玉	4 0 0	⑧ 光	1 1 0
③ 小夕	4 1 1	H 8	0 0 0
③ 寺本	0 0 0	H	1 0 0
④ 土佐	4 0 0	⑨	3 0 0
⑨ 江	3 0 0	⑨	1 0 0
⑨ 山口	0 0 0	⑦	4 2 0
⑤ 村	2 0 0	③	3 1 0
② 山	3 0 0	H	1 0 0
① 神	2 0 0	④	3 0 0
	28 3 2	⑤	2 1 0
		②	2 0 0
		①	2 0 0
		H	1 0 0
		①	0 0 0
			30 6 1

振球機盗失残併	2	3	1	0	0	3	振球機盗失残併	5	1	1	0	0	4
投手	回	安責	投手	回	安責	投手	回	安責					
神部	9	6 1	池田	8	3 2	手島	8	3 2					
			三輪	1	0 0	三輪	1	0 0					

1回戦

日上市 (日本鋳業日立)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	2	0	0	×	2		
名古屋市 (三菱重工名古屋)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【日上市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑥ 森川	4 1 0	⑨ 田	4 0 0
⑧ 山田	4 1 0	④ 武	4 1 0
③ 古山	4 0 0	⑥ 光	3 2 0
⑨ 山浦	3 2 0	⑧ 岡	2 0 0
⑦ 岡	3 2 0	② 小	4 2 2
④ 鈴木	3 0 0	⑦ 山	2 0 0
H 大橋	1 0 0	H 林	1 0 0
⑤ 伊藤	3 0 0	③ 大	0 0 0
H 宇田	1 0 0	③ 大	2 0 0
② H 長石	2 0 0	H 7	1 0 0
H 大	1 1 0	⑤	3 0 0
R 2	1 0 0	①	3 0 0
①	2 0 0		29 5 2
H 北	1 0 0		
1	0 0 0		
	33 7 0		

1回戦

豊田市 (トヨタ自動車)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	7	0	0	1	0	×	8		
横須賀市 (日産自動車)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【豊田市】	打安点	【横須賀市】	打安点
⑧ 花山	4 1 0	⑧ 杉	4 1 0
⑦ 山口	3 0 0	H 7	0 0 0
② 嶋山	4 0 0	⑨	0 0 0
⑤ 大南	4 1 0	⑨	3 1 0
③ 伊吉	4 0 0	H 9	2 0 0
⑨ 伊吉	2 1 0	⑤	4 1 0
④ 吉中	3 0 0	⑦ 8	3 2 0
① 柴大	1 0 0	④	3 0 1
1 山	1 0 0	③	4 1 3
H 水	1 1 0	②	2 1 1
1 大	0 0 0	H 2	2 2 0
⑥ 松	1 0 0	①	2 0 0
6 清	2 2 0	H	1 0 0
	30 6 0	①	1 0 0
		H	3 1 0
		⑥	3 1 0

振球機盗失残併	8	2	0	0	1	5	振球機盗失残併	6	4	0	0	0	6
投手	回	安責	投手	回	安責	投手	回	安責					
柴大	3	5 5	小	6	3 0	小	6	3 0					
松村	1	1 0	仁	3	3 0	仁	3	3 0					

1 回戦

大垣市 (西濃運輸)

1 0 0 0 0 0 0 1 0 | 2
0 0 0 0 0 1 0 1 1 | 3

東京都 (リッカーマシン)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 6 2 2 0 2 5
投手 回 安責 柴高 見 8 1/2 1 0
▽本塁打 山本1号 (柴田) 二塁打 三宅2
林▽2時間49分

2 回戦

神戸市 (川崎重工)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
2 0 0 0 0 0 0 0 0 X | 2

川崎市 (三菱重工川崎)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 4 2 2 1 3 3
投手 回 安責 橋谷 8 5 1
▽二塁打 吉川
▽2時間15分

2 回戦

京都市 (全大丸)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 1 1 | 2

東京都 (サッポロビール)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 8 1 2 2 0 4
投手 回 安責 若月 8 1/2 5 2
田中稔 0 1 0
▽三塁打 土屋▽二塁打 井上▽2時間43分

2 回戦

太田市 (富士重工業)

0 1 0 0 2 1 0 0 0 2 | 6
0 0 0 0 0 1 2 1 0 | 4

岡山市 (クラレ岡山)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 4 6 2 0 1 7
投手 回 安責 幡原 井 7 1/2 1 0 3 1
▽本塁打 野中1号 (松浦) 二塁打 門 田2 松儀 田中 會 3時間39分

2 回戦

大阪市 (日本生命)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 2 | 3
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

蒲原町 (日本軽金属)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 5 2 2 1 0 10
投手 回 安責 和田 4 3 1 小弓場 6 3 0
▽二塁打 山下
▽3時間16分

2 回戦

松山市 (電電四国)

1 0 0 0 0 0 1 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 2 3 X | 5

東京都 (鷺宮製作所)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 5 0 0 0 1 4
投手 回 安責 前田 8 9 4
▽本塁打 小金丸1号 (安藤) 三塁打 西田▽二塁打 武田▽2時間47分

2 回戦

京都市 (デュプロ印刷機)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 2 0 0 0 X | 3

千葉市 (電電関東)

Table with columns for batting order (打安点), player names, and scores for both teams.

振球機盗失残併 4 1 1 0 0 4
投手 回 安責 松倉河 3 4 3/4 3 0
▽三塁打 佐藤文▽二塁打 佐藤文▽2時間1分



NHK大河ドラマに登場した上杉謙信が弾頭耐官軍の頭方・三協精機心撰団

2 回戦

高砂市 (鐘淵化学)									
0	0	0	0	0	0	1	4	0	5
0	0	0	1	0	0	0	2	0	3

高砂市					大和町 (本田技研)				
⑦	大	河	打	打	③	土	井	打	打
H	千	家	安	安	H	松	成	安	安
7	丸	野	点	点	9	谷	谷	点	点
⑧	宮	地	2	2	H	塚	塚	2	2
⑨	福	田	0	0	H	丸	丸	0	0
⑩	片	岡	0	0	H	山	山	0	0
⑪	高	松	0	0	7	羽	羽	0	0
⑫	谷	本	0	0	H	井	井	0	0
⑬	横	木	0	0	H	木	木	0	0
⑭	柏	川	0	0	H	山	山	0	0
⑮	殿	原	0	0	H	島	島	0	0
⑯	藤	本	0	0	H	崎	崎	0	0
⑰	岡	村	1	1	H	藤	藤	0	0
⑱	中	本	2	2	H	本	本	0	0
振	球	盗	2	2	H	内	内	0	0
球	手	回	2	2	H	井	井	0	0
盗	手	回	2	2	H	3	3	4	2
失	木	安	1	1	H	0	0		
残	本	責	0	0	H	0	0		
併	原		2	2	H	0	0		
併	本		1	1	H	0	0		
併	村		1	1	H	0	0		
併	中		1	1	H	0	0		
併			1	1	H	0	0		

▽本塁打 福田1号(河本) 池谷1号(藤原)▽
 三塁打 中村▽2時間51分

2 回戦

門真市 (松下電器)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	2	1	0	0	0	0	0	0	3

門真市					盛岡市				
④	吉	村	打	打	⑨	池	田	打	打
⑤	宮	井	安	安	H	南	館	安	安
⑥	下	田	2	2	H	赤	平	2	2
⑦	内	田	0	0	H	藤	隆	0	0
⑧	下	井	0	0	H	青	木	0	0
⑨	石	井	0	0	H	佐	忠	0	0
⑩	高	高	0	0	H	藤	志	0	0
⑪	布	施	0	0	H	木	边	0	0
⑫	楠	谷	0	0	H	津	生	0	0
⑬	吉	田	0	0	H	針	沢	0	0
⑭	中	村	0	0	H	泉	沼	0	0
⑮	大	崎	0	0	H	新		0	0
振	球	盗	0	0	H			0	0
球	手	回	0	0	H			0	0
盗	手	回	0	0	H			0	0
失	中	安	0	0	H			0	0
残	宮	責	0	0	H			0	0
併	崎		0	0	H			0	0
併	1		0	0	H			0	0
併	▽		0	0	H			0	0
併	本		0	0	H			0	0
併	内		0	0	H			0	0
併	田		0	0	H			0	0

▽本塁打 佐藤隆1号(中村)▽二塁打 新沼内田▽2時間13分

2 回戦

熊本市 (電電九州)									
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1	0	0	0	0	2	1	1	0	5

熊本市					横浜市				
⑧	村	岡	打	打	⑨	暮	田	打	打
④	佐	野	安	安	H	石	山	安	安
R	阪	田	2	2	H	坂	山	2	2
4	原	尾	0	0	H	秋	田	0	0
③	蓮	原	0	0	H	高	元	0	0
⑤	川	田	0	0	H	町	源	0	0
⑦	福	原	0	0	H	森	森	0	0
⑨	福	田	0	0	H	田	村	0	0
⑩	濱	福	0	0	H	村	村	0	0
⑫	今	田	0	0	H	村	村	0	0
H	井	井	0	0	H	村	村	0	0
⑥	岡	岡	0	0	H	村	村	0	0
⑥	倉	口	0	0	H	村	村	0	0
①	出	口	0	0	H	村	村	0	0
①	田	口	0	0	H	村	村	0	0
H	伊	口	0	0	H	村	村	0	0
①	秋	口	0	0	H	村	村	0	0
H	湯	口	0	0	H	村	村	0	0
①	野	口	0	0	H	村	村	0	0
②	長	口	0	0	H	村	村	0	0
R	永	口	0	0	H	村	村	0	0
②	峰	口	0	0	H	村	村	0	0
R	方	口	0	0	H	村	村	0	0
②	緒	口	0	0	H	村	村	0	0
②	川	口	0	0	H	村	村	0	0
振	球	盗	0	0	H	村	村	0	0
球	手	回	0	0	H	村	村	0	0
盗	手	回	0	0	H	村	村	0	0
失	伊	安	0	0	H	村	村	0	0
残	達	責	0	0	H	村	村	0	0
併	葉		0	0	H	村	村	0	0
併	葉		0	0	H	村	村	0	0
併	嶺		0	0	H	村	村	0	0
併	1		0	0	H	村	村	0	0
併	▽		0	0	H	村	村	0	0
併	本		0	0	H	村	村	0	0
併	打		0	0	H	村	村	0	0
併	石		0	0	H	村	村	0	0
併	山		0	0	H	村	村	0	0

▽本塁打 秋元1号②(秋葉) 幕田1号(長嶺)▽
 三塁打 峰▽二塁打 石山 出口▽2時間31分

2 回戦

富士市 (大昭和製紙)									
0	1	2	0	3	2	0	0	1	9
0	2	0	4	0	0	1	1	8	

富士市					横須賀市 (日産自動車)				
④	池	谷	打	打	⑧	上	打	打	
⑥	ヶ	谷	安	安	H	塚	安	安	
⑦	水	水	2	2	H	田	2	2	
③	原	原	0	0	H	海	0	0	
H	沢	沢	0	0	H	山	0	0	
③	三	淵	0	0	H	川	0	0	
③	塩	淵	0	0	H	内	0	0	
③	小	淵	0	0	H	入	0	0	
H	阪	淵	0	0	H	石	0	0	
③	飯	淵	0	0	H	黒	0	0	
⑨	崎	淵	0	0	H	仲	0	0	
R	中	淵	0	0	H	7	0	0	
9	令	淵	0	0	H	8	0	0	
②	長	淵	0	0	H	7	0	0	
②	三	淵	0	0	H	7	0	0	
①	輪	淵	0	0	H	7	0	0	
①	野	淵	0	0	H	7	0	0	
①	村	淵	0	0	H	7	0	0	
①	森	淵	0	0	H	7	0	0	
⑧	永	淵	0	0	H	7	0	0	
振	球	盗	0	0	H	7	0	0	
球	手	回	0	0	H	7	0	0	
盗	手	回	0	0	H	7	0	0	
失	野	安	0	0	H	7	0	0	
残	村	責	0	0	H	7	0	0	
併	永		0	0	H	7	0	0	
併			0	0	H	7	0	0	

▽本塁打 萩原1号(小沢) 杉田1号(森永)▽
 三塁打 鶴岡▽二塁打 萩原 三原 入山 小沢 黒田 元田▽3時間54分

2 回戦

金沢市 (西川物産)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

金沢市					白老町 (大昭和北海道)				
⑨	野	打	打	打	⑧	米	倉	打	打
⑧	飛	田	安	安	H	岩	藤	安	安
⑥	石	垣	2	2	H	高	松	2	2
⑤	寺	田	0	0	H	斎	梨	0	0
⑤	吉	西	0	0	H	藤	村	0	0
③	寺	田	0	0	H	村	村	0	0
⑦	岩	田	0	0	H	田	村	0	0
④	北	田	0	0	H	館	村	0	0
②	武	井	0	0	H	三	村	0	0
H	北	田	0	0	H	田	村	0	0
①	武	田	0	0	H	三	村	0	0
①	北	田	0	0	H	田	村	0	0
①	武	田	0	0	H	田	村	0	0
①	北	田	0	0	H	田	村	0	0
H	武	田	0	0	H	田	村	0	0
①	北	田	0	0	H	田	村	0	0
①	武	田	0	0	H	田	村	0	0
振	球	盗	0	0	H	田	村	0	0
球	手	回	0	0	H	田	村	0	0
盗	手	回	0	0	H	田	村	0	0
失	三	安	0	0	H	田	村	0	0
残	田	責	0	0	H	田	村	0	0
併			0	0	H	田	村	0	0
併			0	0	H	田	村	0	0

▽二塁打 館▽2時間23分

2 回戦

那覇市 (琉球生命)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	5	0	0	0	1	0	6

那覇市					浜松市 (河合楽器)				
⑧	山	内	打	打	⑦	尾	打	打	
⑥	新	崎	安	安	H	藤	安	安	
⑦	照	屋	2	2	H	野	2	2	
⑦	山	川	0	0	H	波	0	0	
⑦	上	高	0	0	H	内	0	0	
③	日	原	0	0	H	垣	0	0	
③	上	長	0	0	H	上	0	0	
⑨	瀬	清	0	0	H	加	0	0	
②	比	良	0	0	H	小	0	0	
②	嘉	清	0	0	H	山	0	0	
⑤	湖	良	0	0	H	西	0	0	
⑤	比	城	0	0	H	岡	0	0	
①	石	雄	0	0	H	西	0	0	
①	比	原	0	0	H	岡	0	0	
④	長	若	0	0	H	岡	0	0	
振	球	盗	0	0	H	岡	0	0	
球	手	回	0	0	H	岡	0	0	
盗	手	回	0	0	H	岡	0	0	
失	野	安	0	0	H	岡	0	0	
残	本	責	0	0	H	岡	0	0	
併			0	0	H	岡	0	0	
併			0	0	H	岡	0	0	

▽三塁打 鈴木 照屋
 二塁打 佐野 照屋
 二時間17分

2 回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)									
1	1	2	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

札幌市					名古屋市 (三菱重工名古屋)				
⑦									

2回戦

釜石市 (富士鉄釜石)
0 0 0 1 0 2 0 0 1 | 4
0 1 0 0 2 0 0 0 2 | 5
広島市 (電電中国)

【釜石市】 打安点
⑧ 小笠原 4 1 0
⑨ 白箱 4 3 0
⑥ 藤原 3 0 0
⑦ 藤原 4 2 1
③ 藤原 3 0 2
R7 山河内 0 0 0
④ 山加 3 0 0
② 山加 2 0 0
2 大友 2 0 0
⑤ 小笠原 3 1 0
① 小山 2 0 0
1 佐藤 2 0 0
振球機盗失残併 327.3

【広島市】 打安点
④ 長谷川 2 0 0
H 4 1 1
⑥ 新見 2 1 1
⑦ 見田 4 1 1
⑧ 丸大 4 0 0
⑨ 丸大 3 2 1
③ 丸大 3 0 0
⑧ 丸大 2 0 0
⑤ 丸大 4 1 1
② 丸大 4 1 0
① 丸大 1 0 0
1 丸大 1 0 0
振球機盗失残併 328.5

3回戦

大阪市 (日本生命)
0 2 0 0 0 1 1 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
富士鉄広畑 (推薦・姫路市)

【大阪市】 打安点
⑦ 加須 5 2 1
⑧ 加須 4 0 0
⑥ 加須 4 1 0
③ 加須 4 1 0
⑤ 加須 3 1 1
⑨ 加須 0 0 0
④ 加須 3 0 0
② 加須 4 2 0
① 加須 4 2 2
1 加須 1 0 0
振球機盗失残併 349.4

【富士鉄広畑】 打安点
⑦ 高井 3 1 0
⑧ 高井 3 0 0
⑥ 高井 1 0 0
③ 高井 4 0 0
⑤ 高井 2 0 0
⑨ 高井 1 0 0
④ 高井 2 0 0
② 高井 1 0 0
① 高井 4 2 0
1 高井 2 0 0
振球機盗失残併 304.0

▽本塁打 山下1号(村上)
▽二塁打 佐々木
鈴江▽2時間30分

3回戦

太田市 (富士重工業)
0 0 1 1 0 0 0 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (鷺宮製作所)

【太田市】 打安点
⑧ 藤村 3 1 0
⑥ 藤村 3 0 0
⑨ 藤村 2 0 0
H 9 藤村 1 0 0
⑨ 藤村 1 1 1
⑦ 藤村 4 1 1
④ 藤村 4 1 0
③ 藤村 4 0 0
② 藤村 4 3 0
① 藤村 1 0 0
H 1 藤村 1 0 0
⑤ 藤村 4 1 1
振球機盗失残併 339.3

【東京都】 打安点
⑨ 口田 3 0 0
⑥ 口田 4 1 0
⑦ 口田 4 2 0
③ 口田 3 0 0
⑤ 口田 3 0 0
⑨ 口田 2 0 0
⑧ 口田 1 1 0
② 口田 3 0 0
① 口田 1 0 0
H 1 口田 1 0 0
④ 口田 1 0 0
振球機盗失残併 306.0

▽本塁打 松儀1号(安西)
▽二塁打 野中
田▽3時間7分

3回戦

川崎市 (三菱重工川崎)
3 2 2 0 0 0 0 0 0 | 7
0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
広島市 (電電中国)

【川崎市】 打安点
⑧ 手藤 4 2 0
⑥ 手藤 2 1 1
④ 手藤 0 0 0
⑦ 手藤 4 1 1
⑨ 手藤 0 0 0
④ 手藤 4 1 0
⑤ 手藤 4 1 2
③ 手藤 2 0 0
⑨ 手藤 3 2 2
⑧ 手藤 1 0 0
① 手藤 4 2 0
② 手藤 3 0 1
振球機盗失残併 3210.7

【広島市】 打安点
④ 新勝 4 1 0
⑦ 新勝 2 0 0
⑧ 新勝 1 0 0
⑨ 新勝 4 0 0
② 新勝 2 2 0
⑤ 新勝 3 1 0
③ 新勝 1 0 0
① 新勝 1 0 0
⑥ 新勝 1 0 0
振球機盗失残併 325.1

▽本塁打 灰山1号②(井名)
▽二塁打 切通
鈴木博▽2時間43分

3回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (サッポロビール)

【札幌市】 打安点
⑦ 大谷 5 3 0
⑧ 大谷 2 0 0
H 8 大谷 3 1 1
⑨ 大谷 3 0 0
② 大谷 2 1 0
③ 大谷 5 1 0
H 3 大谷 1 0 0
⑥ 大谷 3 0 0
④ 大谷 4 0 0
① 大谷 4 1 0
振球機盗失残併 398.1

【東京都】 打安点
⑥ 石中 4 1 0
H 石中 1 0 0
② 石中 4 2 0
⑧ 石中 3 0 0
⑨ 石中 4 0 0
⑤ 石中 4 2 0
H 石中 2 1 0
③ 石中 1 0 0
⑦ 石中 0 0 0
④ 石中 1 0 0
① 石中 4 1 0
H 石中 3 0 0
振球機盗失残併 347.0

千葉市 (電電関東)
0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 4 | 6
0 0 0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2
白老町 (大昭和北海道)

【千葉市】 打安点
⑥ 村崎 4 0 0
⑧ 村崎 4 1 0
R 村崎 0 0 0
⑨ 村崎 2 0 0
③ 村崎 5 0 0
② 村崎 5 3 1
⑨ 村崎 1 0 0
⑤ 村崎 2 0 0
⑦ 村崎 5 1 1
① 村崎 6 2 1
H 村崎 2 0 0
R 村崎 0 0 0
④ 村崎 2 0 1
振球機盗失残併 439.5

【白老町】 打安点
⑤ 齋藤 6 3 1
⑥ 齋藤 6 2 0
⑧ 齋藤 6 2 0
③ 齋藤 4 1 0
R 齋藤 0 0 0
⑨ 齋藤 2 0 0
⑦ 齋藤 2 0 0
② 齋藤 2 1 0
⑤ 齋藤 4 2 1
① 齋藤 0 0 0
H 齋藤 0 0 0
R 齋藤 3 0 0
④ 齋藤 1 0 0
H 齋藤 2 0 0
① 齋藤 1 0 0
④ 齋藤 2 1 0
H 齋藤 2 1 0
振球機盗失残併 4513.2

▽本塁打 齋藤熱1号(佐藤昭)
▽二塁打 黒崎若松
田▽4時間12分

3回戦

浜松市 (河合楽器)
0 0 0 0 1 0 0 0 1 0 2 | 4
0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 | 2
横浜市 (日本石油)

【浜松市】 打安点
⑧ 藤野 5 0 0
④ 藤野 5 0 0
④ 藤野 0 0 0
⑨ 藤野 5 3 0
③ 藤野 4 2 0
R 藤野 0 0 0
⑦ 藤野 1 0 0
⑦ 藤野 2 0 0
⑥ 藤野 4 0 0
② 藤野 4 2 0
① 藤野 1 0 0
H 藤野 1 0 0
1 藤野 1 0 0
H 藤野 1 0 0
R 藤野 0 0 0
1 藤野 1 1 2
⑤ 藤野 3 1 1
H 藤野 2 0 0
振球機盗失残併 4210.3

【横浜市】 打安点
⑨ 田村 3 1 0
⑧ 田村 3 0 0
⑧ 田村 1 1 0
① 田村 4 0 0
③ 田村 1 0 0
⑦ 田村 5 1 1
② 田村 5 1 0
④ 田村 4 0 0
⑤ 田村 2 1 1
⑥ 田村 4 2 0
① 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
H 田村 1 0 0
振球機盗失残併 387.2

▽本塁打 町田1号(松井)
山1号②(黒沢)
▽二塁打 上垣内2
鈴木(横)
田▽3時間23分

3回戦

大阪市 (日本熱学)
0 0 0 0 2 0 0 0 1 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
高砂市 (鐘淵化学)

【大阪市】 打安点
⑦ 林井 4 2 0
④ 林井 3 0 0
⑥ 林井 4 1 0
③ 林井 2 0 0
⑤ 林井 1 0 0
⑨ 林井 4 0 1
② 林井 4 2 0
③ 林井 4 2 0
① 林井 1 0 0
H 林井 1 1 2
⑤ 林井 1 0 0
道田 3 1 0
振球機盗失残併 329.3

【高砂市】 打安点
④ 中宮 4 0 0
⑥ 中宮 4 1 0
⑨ 中宮 3 1 0
③ 中宮 2 1 0
⑤ 中宮 3 0 0
② 中宮 4 1 1
⑤ 中宮 3 0 0
⑦ 中宮 1 0 0
① 中宮 1 0 0
① 中宮 1 0 0
① 中宮 1 0 0
振球機盗失残併 294.1

▽二塁打 前田▽2時間58分

3回戦

富士市 (大昭和製紙)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
盛岡市 (盛岡鉄道局)

【富士市】 打安点
④ 谷本 5 0 0
⑥ 谷本 5 1 0
⑦ 谷本 5 1 0
③ 谷本 3 1 0
H 谷本 1 0 0
③ 谷本 0 0 0
⑨ 谷本 3 0 0
⑨ 谷本 1 1 0
⑤ 谷本 4 2 0
② 谷本 2 0 0
① 谷本 1 0 0
H 谷本 0 0 0
1 谷本 1 0 0
⑧ 谷本 4 1 1
振球機盗失残併 387.1

▽本塁打 萩原2号(泉)
▽二塁打 清水長
倉神谷▽3時間2分

準々決勝

Table with 2 columns: Team (大阪市 (日本生命), 太田市 (富士重工業)) and Score (0000011000 | 2, 10100001X | 3)

Scoreboard for Osaka City (Japan Life) vs Taihaku (Fuji Heavy Industry) with player names and scores.

Summary statistics for Osaka City vs Taihaku, including runs, hits, errors, and pitcher performance.

準々決勝

Table with 2 columns: Team (浜松市 (河合楽器), 大阪市 (日本熱学)) and Score (0000030000 | 3, 0001000000 | 1)

Scoreboard for Hamamatsu City (Kawai Instruments) vs Osaka City (Nippon Gakko).

Summary statistics for Hamamatsu City vs Osaka City.

準々決勝

Table with 2 columns: Team (札幌市 (北海道拓殖銀行), 千葉市 (電電関東)) and Score (0000000000 | 0, 00020030X | 5)

Scoreboard for Sapporo City (Hokkaido Tokoku Bank) vs Chiba City (Teikoku Kanto).

Summary statistics for Sapporo City vs Chiba City.

Summary statistics for Sapporo City vs Chiba City, including pitcher performance.

準々決勝

Table with 2 columns: Team (川崎市 (三菱重工川崎), 富士市 (大昭和製紙)) and Score (0000020000 | 2, 000110001X | 3)

Scoreboard for Kawasaki City (Mitsubishi Heavy Industry Kawasaki) vs Fuji City (Dai Nippon Paper).

Summary statistics for Kawasaki City vs Fuji City.

準決勝

Table with 2 columns: Team (太田市 (富士重工業), 富士市 (大昭和製紙)) and Score (0000010000 | 1, 0000000000 | 0)

Scoreboard for Taihaku (Fuji Heavy Industry) vs Fuji City (Dai Nippon Paper).

Summary statistics for Taihaku vs Fuji City.

準決勝

Table with 2 columns: Team (浜松市 (河合楽器), 千葉市 (電電関東)) and Score (0000010002 | 3, 001010020X | 4)

Scoreboard for Hamamatsu City (Kawai Instruments) vs Chiba City (Teikoku Kanto).

Summary statistics for Hamamatsu City vs Chiba City.

Summary statistics for Hamamatsu City vs Chiba City, including pitcher performance.

千葉市

Table listing various athletes and their scores for Chiba City.

推薦・姫路市

Table listing recommended athletes and their scores for Himeji City.

白老町

Table listing athletes and their scores for Shiraoji Town.

札幌市

Table listing athletes and their scores for Sapporo City.

釜石市 大和町 川崎市 浜松市

Table listing names and numbers for 釜石市 (Furukawa City), 大和町 (Yamato Town), 川崎市 (Kawasaki City), and 浜松市 (Hamamatsu City).

盛岡市 東京都 横浜市 蒲原町

Table listing names and numbers for 盛岡市 (Morioka City), 東京都 (Tokyo), 横浜市 (Yokohama City), and 蒲原町 (Urahara Town).

日立市 東京都 横須賀市 諏訪市

Table listing names and numbers for 日立市 (Hitachi City), 東京都 (Tokyo), 横須賀市 (Yokosuka City), and 諏訪市 (Suifu City).

太田市 東京都 富士市 名古屋市

Table listing names and numbers for 太田市 (Maebashi City), 東京都 (Tokyo), 富士市 (Fujinomiya City), and 名古屋市 (Nagoya City).

大垣市 京都市 高砂市 松山市 市

(西濃運輸)

Table listing names and numbers for Daikoku City (大垣市) under the category (西濃運輸).

(デブ印刷機)

Table listing names and numbers for Kyoto City (京都市) under the category (デブ印刷機).

(鐘淵化学)

Table listing names and numbers for Takasago City (高砂市) under the category (鐘淵化学).

(電電四国)

Table listing names and numbers for Matsuyama City (松山市) under the category (電電四国).

豊田市

(トヨタ自動車)

Table listing names and numbers for Toyota City (豊田市) under the category (トヨタ自動車).

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City (大阪市) under the category (日本生命).

真門市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Mamiya City (真門市) under the category (松下電器).

北九州市

(八幡製鉄)

Table listing names and numbers for Kitakyushu City (北九州市) under the category (八幡製鉄).

金沢市

(西川物産)

Table listing names and numbers for Kanazawa City (金沢市) under the category (西川物産).

大阪市

(日本熱学)

Table listing names and numbers for Osaka City (大阪市) under the category (日本熱学).

岡山市

(クラレ岡山)

Table listing names and numbers for Okayama City (岡山市) under the category (クラレ岡山).

熊本市

(電電九州)

Table listing names and numbers for Kumamoto City (熊本市) under the category (電電九州).

京都市

(全大丸)

Table listing names and numbers for Kyoto City (京都市) under the category (全大丸).

神戸市

(川崎重工)

Table listing names and numbers for Kobe City (神戸市) under the category (川崎重工).

広島市

(電電中国)

Table listing names and numbers for Hiroshima City (広島市) under the category (電電中国).

那覇市

(琉球生命)

Table listing names and numbers for Naha City (那覇市) under the category (琉球生命).

鮮明に思い出す都市対抗

全藤倉 吉田正男



昭和14年の第13回大会に藤倉電線の投手として「橋戸賞」を受けた喜びは終生忘れることができない。同11年、私が明治大学の本科1年生の夏、満州遠征（大連）で肩を痛め、投手生命を断たれていただけに、まさかカムバックできると思っていなかった。

入社してから中村峯雄監督（明大先輩・故人）から「投げてみろ」と言われ、恐るおそるピッチングを始めた。そしてオープン戦で試投を重ね、自信を取り戻した。2年半の休養で肩が完治していたのだと思う。

当時の藤倉電線チームは、12回大会（同13年）に優勝し、社会人球界の頂点に立ち不敗を誇っていた。私は土井寿蔵投手（慶大出身）に代わって主戦投手になった。

バックは菊谷（立大出身）、土井（慶大出身）、恒川（明大出身）、荒川（海草中出身）犬飼（島田商出身）の諸氏ら好選手が私を支えてくれた。

それでも初めて都市対抗のマウンドに不安はあった。初戦の青森林友を8-0で完封して気持ちのういで波に乗ったのは確かだった。2回戦は名捕手・久慈次郎さんが率いる名門の函館太洋。5-3の接戦で退けて準決勝に進んだ。相手は投打のバランスの取れたライバルの古豪・八幡製鉄。事実上の決勝戦であった。函館太洋に続いて苦戦、それでも5-3で打ち勝ち、連覇に“王手”をかけた。決勝の相手は新鋭の庄内田村駒だった。

緊張もなくリラックスして投げられたことでバッティングの方も好調だった。結果は3-0のシャットアウト勝ちし、連続優勝を飾った。決勝戦での投打の活躍が認められたのでしょ。前回の土井投手に続いての橋戸賞を受ける栄光に浴した。

翌15年から足かけ7年にわたる軍隊生活。終戦後復員した。チームは藤倉電線から全藤倉となり22、23、24年と3年連続、投手、野手として出場したが、ベスト4が1回。翌25年は東京予選で新鋭の熊谷組に敗れ出場を断たれたが、熊谷組に補強となり決勝まで進出した。この年ユニホ

ームを脱いだが、29年、山梨県の都留高から捕手として入社した西村一孔が強肩を買われて投手に転向したので、西村を投手に仕上げるためコーチとして復帰。西村の速球は素晴らしく全藤倉は5年ぶりに都市対抗に出場した。西村は1回戦から準々決勝までの3試合を完封、決勝で八幡製鉄に惜しくも敗れたが、その力投はひと際光った。

全藤倉から私が出場した最後の年の24年は最初から苦戦続きで、1回戦の大洋漁業との試合は5回に2点を取って同点に追いつき、そのまま延長戦。12回に私のサヨナラ適時打でやっと勝ち、次の大塚産業戦も、大島信雄君（慶大出身）に苦しめられ、土壇場の9回に2点を挙げて同点とし、また延長戦。10回に先攻の藤倉が1点を取ったものの、その裏同点とされて日没引き分け再試合。当時としては長時間ゲームだった2時間41分を戦ったあと、翌日の第1試合で再戦し、大島君が投げられず、快勝したがクタクタに疲れた思いがある。

準決勝で別府、星野組と対戦した。当時から“火の玉投手”の異色をとった荒巻淳投手（大分経専＝現大分大出身）を擁した星野組は打の中心の西本幸雄一塁手（立大出身）が監督を兼ね、堂々と優勝して、九州勢が2年連続、黒獅子旗を獲得したのだから、荒巻投手から2安打したのを覚えている。

この間、復活大会の昭和21年と22年には村瀬保夫監督の率いる大日本土木が好投手・中原宏（享栄商＝現享栄高出身）を擁して連覇。村瀬監督は同じ東海の県岐阜商一早大を通じ、中京商（現中京高）＝明大の私のよきライバル。翌23年には全藤倉と一緒にプレーした宮崎要君（慶大出身）がプレイングマネージャーの西日本鉄道が優勝した。

75歳を超えた現在でも、中日スポーツの現役記者として、アマチュア野球を見、この夏も甲子園の高校野球を書き綴ったが、都市対抗のなつかしい思い出は、次から次と頭に浮んできて尽きない。

（現在、中日スポーツ運動部記者）

第41回大会 1970年(昭和45年)7月24日-8月3日・後樂園球場

優勝=富士市・大昭和製紙(17年ぶり2回目)



はファンの胸をうった。

富士は初戦で前年度優勝の推薦出場・電電関東にロングリリーフの安田の好投で逆転勝ちすると波に乗り、準々決勝は門真市・松下電器の福岡納投手ら4投手に13安打を浴せる攻撃で大勝、準決勝の和歌山市・住友金属戦でも、山中正竹、山本堯一投手らから新人、小松健二外野手の2本塁打などで8点を奪い快勝した。

神戸も川崎重工から補強の橘谷投手が好投、1回戦で東京都・熊谷組を一方的に下し、大阪市・日本生命戦も後半の猛攻で逆転勝ち。準々決勝では横浜市・日本石油に対し、4回半ばかり救援した橘谷が、わずか1安打しか許さず競り勝った。

準決勝の東京都・サッポロビール戦でも、2回に林英雄二塁手(川崎重工から補強)が満塁本塁打、9回の東京の反撃を振り切った。補強選手をフル活用、全神戸の感があつた神戸だったが、1回戦から評判の強チームを次々に倒し、初の決勝進出(神戸市としては第6回大会の全神戸以来、38年ぶり)を果たしたのは立派だった。

決勝再試合では打力に優る富士に敗れはしたが、堂々たる試合ぶりだった。

橘戸賞は富士・安田投手、久慈賞は神戸・橘谷投手と、大会を通じて好投した両投手が受賞、小野賞は好さい配でチームを躍進させた神戸・川崎孝監督に贈られた。

谷村智博投手を擁し、打線も充実して期待された高砂市・鐘淵化学は1回戦で浜松市・河合楽器に17安打を浴せ、次の大阪市・電電近畿戦でも、谷村が3安打完封、打線も12安打と快勝したが、準々決勝で東京・サッポロビールのワンチャンスを生かした効果的な攻撃に沈み、和歌山も注目されたが富士の壁を破れなかった。

初出場は愛知・西枇杷島町・東海理化、京都市・三菱京都、熊本市・九州産交の3チームだけだったが、熊本市は1回戦で強豪・浦和市・日本通運に終盤の猛攻で逆転勝ち、初陣を飾った。

決勝のほか、1回戦の和歌山対東京都・鷺宮製作所戦も2-2で延長戦となり、山本堯一、松浦立夫両投手の力投で17回引き分け再試合。熱のこもった試合が多く、2つの再試合を除く30試合中、2点差以内の勝負が17試合もあった。

決勝、大会初の引き分け再試合

富士市・大昭和製紙、神戸市・三菱重工神戸が決勝で対戦、安田猛、橘谷健両投手の投げ合いで延長14回(決勝の延長は史上6度目)、4時間6分にわたる熱戦はともにゆずらず引き分け。大会初の決勝再試合は、富士が序盤に得点、山根政明、安田の完封リレーで、歴史に残る好勝負を制し17年ぶり2回目の優勝に輝いた。東大出身の橘谷投手の好投

決勝

神戸市 (三菱重工神戸)
 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 富士市 (大昭和製紙)

【神戸市】	打安点振球	【富士市】	打安点振球
⑥ 岡 山	5 0 0 1 0	⑥ 山 田	7 2 0 0 0
⑤ 岡 広	3 0 0 1 3	⑤ 山 本	6 2 0 0 1
④ 岡 山	5 1 0 2 1	④ 阪 小	6 2 0 1 0
③ 楠 木	6 1 0 0 0	③ 小 池	4 2 0 0 2
② 楠 吉	6 0 0 0 0	② 小 池	6 0 0 2 1
① 藤 田	6 2 1 0 0	① 池 谷	7 1 0 1 0
H 玉 田	5 0 0 1 1	H 清 水	1 1 0 0 0
H 一 岡	1 0 0 0 0	H 秋 原	0 0 1 0 1
H 橋 谷	5 1 0 1 0	H 鶴 長	3 0 0 1 0
④ 林	3 0 0 1 1	② 山 根	6 2 0 0 0
	4 5 1 7 6	① 山 安	1 1 0 0 0
			4 1 0 0 0
犠 残 盗 失			5 1 1 4 1 5 5
2 1 0 3 2			
投 手 回 安 振 球 責		投 手 回 安 振 球 責	
一 岡 3 ¾	6 0 1 0	一 山 根 3 ¾	1 0 1 1
橋 谷 1 1	8 5 4 0	安 田 1 1	4 7 5 0

▽二塁打 池ヶ谷 小松2 楠本▽4時間6分

決勝 (再試合)

神戸市 (三菱重工神戸)
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 1 1 1 0 0 0 0 0 0 × | 3
 富士市 (大昭和製紙)

【神戸市】	打安点振球	【富士市】	打安点振球
⑥ 岡 山	2 0 0 0 0	⑥ 山 田	4 1 0 0 0
④ 山 山	2 0 0 0 0	④ 山 本	3 1 0 0 0
③ 岡 山	4 0 0 0 0	③ 阪 小	4 1 1 0 0
② 岡 広	4 0 0 0 0	② 小 池	4 1 1 0 0
① 楠 本	3 2 0 0 1	① 小 角	4 1 0 1 0
⑦ 楠 吉	2 0 0 1 1	⑦ 池 谷	0 0 0 0 0
⑥ 藤 田	3 0 0 0 0	⑥ 水 原	3 0 0 0 0
⑤ 吉 阪	3 0 0 1 0	⑤ 水 原	0 0 0 0 0
④ 玉 田	0 0 0 1 0	④ 倉 根	3 1 1 0 0
③ 一 井	1 0 0 1 0	③ 山 根	1 0 0 1 0
H 橋 谷	1 0 0 0 0	H 山 安	1 0 0 0 0
H 福 本	1 0 0 0 0	H 山 安	1 0 0 0 0
① 橋 谷	0 0 0 0 0		3 0 6 3 2 0
④ 6 林	3 2 0 0 0	犠 残 盗 失	2 5 0 4
	2 9 4 0 4 2	2 5 0 4	
犠 残 盗 失		投 手 回 安 振 球 責	
0 4 0 4		一 山 根 6 ½	2 4 2 0
投 手 回 安 振 球 責		安 田 2 ¾	2 0 0 0
一 岡 2	2 0 0 1		
中 垣 5	3 1 0 1		
橋 谷 1	1 1 0 0		

▽本塁打 小松3号 (中垣) ▽三塁打 林▽二塁打 山田 楠本 長倉 阪口▽2時間28分

4時間6分、息詰まる投手戦

ともに4回途中からリリーフした富士・安田、神戸・橋谷の左右両投手が「史上最高」の素晴らしい投げ合いを演じた。



再試合の激闘の末優勝。野村監督を胴上げする大昭和

安田は左腕特有の内角への速球を武器に、カーブ、シュートでゆさぶり、橋谷は長身を軽ろやかに使って内外角へ速球を決めた。神戸が4回、先発の山根から広沢が四球を



準決勝の神戸対東京。神戸は2回、一死満塁の先制機に9番の林が左越本塁打、全員に迎えられホームイン

選ぶと安田が救援。岡も四球で一・二塁となった二死後阪田が内角球につまりながら遊撃手の頭上をフワリと越える適時打で先制した。富士もその裏、池ヶ谷が右翼二塁打、悪送球で三進すると、すかさず橋谷を繰り出したが、萩原が中犠飛を打ちあげ同点。

6回ころから雨が強くなったが両投手の制球力に狂いはなく、打力に優る富士がやや押し気味ながら、橋谷を支えた神戸守備陣の好守もあって、14回4時間6分、史上初の決勝引き分け再試合となった。

神戸市序盤に手痛いミス

前日と同じように、富士・山根、神戸・一岡の先発で始まったが、1回富士はトップの山田が中堅左に二塁打、阪口の当たりそこねの一ゴロの間に、山田はスタートよく好走してホームを陥れ先制した。2回にも小田が中前打、一死後池ヶ谷の三ゴロは併殺コースだったが、二塁への送球がそれて一・三塁。続く長倉の投ゴロも、併殺を狙った二塁への送球が悪く、小田が還った。固い守りを誇ってきた神戸だったが、先制されて浮き足立ち、痛いミスが続いた。

富士は3回にも小松が神戸の2番手・中垣に右翼本塁打を浴せ追加点をあげた。

富士・山根は味方のリードに気をよくし、伸びのある速球を低めに集め、神戸の反撃をかわした。

神戸は7回、楠本が二塁打、吉川が四球で一死一・二塁としたが、ここで代った安田に阪田が投ゴロ併殺に仕止められた。

安田はそのあと巧みなピッチングで神戸打線を抑え切った。

神戸は力尽きたが、橋谷をはじめ補強選手の力をフルに発揮させるなど、川崎監督のさい配ぶりは見事だった。



両中の決勝戦。引き分けの熱戦を応援するスタンド

地獄からまさかの頂点

まさしく「地獄」からよみ返った富士市・大昭和製紙の優勝だった。

激戦の山静子選第二次リーグで富士は2敗目を喫し、出場は「絶望的」となって、宿舎も解散した。

ところが翌日の試合で、日本楽器が静甲いすゞに「まさか」の敗戦。3勝で代表の決まった浜松市・河合楽器のほか、3チームが1勝2敗で並び再リーグ。

マネジャーが大あわてで、散り散りになった選手を集め、再試合の結果、第2代表に滑り込んだもので「オレたちは一度死んだんだ。その気になればなんでもやれる」の意気込みが、頂点への活力になった。



盛岡市は郷土芸能の剣舞の舞いで力強い応援を展開

最後まであきらめるなの教訓

富士市・大昭和製紙
安田猛投手



小倉高から早大を卒業、45年大昭和製紙入社。同年都市対抗で橋戸賞。47年ヤクルトに入団。7勝5敗、防御率1位で新人王。引退後はコーチを経て、現在スカウト。

「勝負はゲタをはくまで分らない」一都市対抗の季節がめぐってくるたびに、私は、この「古語」を新鮮な思いでかみしめる。昭和45年、大昭和は2次予選を2勝2敗で終了した。河合楽器、日軽金が2勝1敗で翌日対戦。どちらかが勝つと3勝1敗で代表が決まる。もう1試合は、2勝1敗の日本楽器と3敗の静甲いすゞの対戦。それまでの戦いぶりからみて日楽の勝利は固い。私たちは、「来年こそ」と合宿を解散した。ところが、静甲いすゞが大番狂わせを演じての逃げ切り勝ち。

「首の皮一枚」すら残ってないと覚悟を決めたのに、文字どおり死地からはい上ることができた。再リーグ戦も苦しい戦いだったが、幸運にも恵まれ20回目の代表権を得た。

本大会の決勝戦は三菱重工神戸。4回に1点を取り合ったまま、「0」が並んでいく。相手投手は橋谷君（東大卒、川崎重工から補強）。互いにゆずらず延長14回、4時間6分のゲームは決勝戦初の引き分けとなった。

決勝再試合は7回からリリーフ。17年ぶり2回目の黒獅子旗を勝ち取ることができ、私は栄光ある橋戸賞をいただいた。

「勝負ごとは、最後まで、あきらめるな」とよくいわれるが、真情を吐露すれば、2次予選で大昭和の都市対抗は終わっていた。再リーグ戦になったことをマネジャーから聞いたときは、「ウソォー！」と思わず声が出たほどだ。

都市対抗での投手が、いくばくかの自信とあってプロでやってみたいとの思いにつながった。プロでの現役生活は、ちょうど10年。大学、社会人から続いた野球人生は、悔いのない日々だったと思っている。



決勝の初戦。神戸は4回阪田の右前打で広沢生還する

勘違いランニング本塁打

大会史上「最長時間」をかけたランニング本塁打が生まれた。準決勝の東京都・サッポロビール対神戸市・三菱重工神戸の9回、東京・石井信男左翼手の打った一撃。4点を追う東京は、2走者を置いて4番石井。当りは打った瞬間「アッ、ホームラン」と思わせる角度とスピードで右翼手頭上に飛んだ。大きくはねてグラウンドに落ち、右翼の西宮線審が両手を広げて「フェア」のゼスチュアをしているにもかかわらず、右翼手、中堅手とも「本塁打」と思い込み、残念そうに内野にホールを返す。打った石井も、一塁を回ったところでスピードをゆるめ、ゆっくりと走ってホームイン。

ところが西宮審判の話では、フェンスに当たって、はねたもので本来ならインプレー。気付いた野手が石井にタッチすればアウトだったのだが、打球と場内のムードにつられ、本塁打となった「真夏の夜の珍事」だった。

MEMO

◇満塁本塁打11号 準決勝の神戸市・三菱重工神戸対東京都・サッポロビール戦の2回の一死満塁に神戸・林英雄二塁手（川崎重工から補強）が投手の初球を左翼席に打ち込んだ。

◇1試合2本塁打 富士市・大昭和製紙の小松健二外野手が準決勝の対和歌山市・住友金属戦で山中、久保両投手から。5人目。

1回戦

高松市 (四国電力)	0 0 0 0 1 0 2 1 0	4
電電関東 (推薦 千葉市)	1 0 0 0 1 1 3 0 X	6

高松市	打安点	電電関東	打安点
⑧ 窪田	4 1 1	⑧ 太田垣	3 1 1
⑤ 越下	4 0 0	⑥ 清時	3 1 0
③ 松本	4 2 0	③ 竹井	1 1 0
⑨ 佐々木	4 1 1	② 藤本	2 1 1
⑥ 吉川	2 0 0	⑦ 高本	1 0 0
H9 上甲	2 1 0	7 高本	1 1 3
⑦ 安武	1 0 0	④ 岩山	3 1 0
H 友市	1 0 0	⑤ 田脇	2 0 0
7 植上	1 0 0	⑨ 渡宮	2 0 1
② 後藤	2 0 0	① 若宮	4 1 0
2 尾上	2 1 1		22 7 6
① 坂村	2 0 0	振球権盗失残併	
1 八塚	1 0 0	2 8 0 2 2 6	
④ 八塚	0 0 0	投手回 安責	
	3 0 0	若宮 9 6 3	
	33 6 3		
振球権盗失残併			
3 1 0 0 1 3			
投手回 安責			
坂村 4 ¼ 4 2	▽本塁打	佐々木辰1号	
村 1 ¼ 2 2	(若宮)	窪田1号 (若宮)	
八塚 1 ¼ 1 1	▽二塁打	堀多▽2時間	
	43分		

1回戦

門真市 (松下電気)	0 1 0 0 5 0 0 0 0	6
盛岡市 (盛岡鉄道局)	0 0 0 0 0 1 0 1 0	2

門真市	打安点	盛岡市	打安点
⑥ 石井	5 2 0	④ 沼平	4 1 0
④ 宮下	3 1 1	⑥ 赤邊	2 1 0
⑦ 田久	4 1 2	③ 藤隆	4 2 0
③ 松久	4 2 1	⑧ 佐藤	3 0 1
⑧ 榎田	2 1 0	⑦ 山本	4 1 0
H8 榎田	1 0 0	⑤ 針生	4 0 0
⑤ 榎田	4 0 0	⑨ 杉本	3 0 0
⑨ 榎田	3 1 2	H 杉本	1 0 0
① 榎田	3 0 0	② 大野	2 0 0
1 榎田	1 0 0	H2 大野	2 0 0
② 榎田	4 2 0	① 河原	1 0 0
	34 10 6	1 藤原	1 0 0
振球権盗失残併		H 堀	1 0 0
1 0 3 2 2 4		1 堀	0 0 0
投手回 安責			32 5 1
榎田 6 3 0	振球権盗失残併		
南 山 3 2 5	7 3 0 1 1 6		
▽本塁打	投手回 安責		
(大河原) 内田1号	大河原 4 ¼ 7 0		
石井▽二塁打	堀 3 ¼ 2 0		
久松▽2時間20分	瀬 1 1 0		

1回戦

浦和市 (日本通運)	0 0 0 0 1 0 1 0 0	2
熊本市 (九州産交)	0 0 0 0 0 0 0 2 1	3

浦和市	打安点	熊本市	打安点
④ 三浦	4 0 0	⑨ 阪田	2 0 0
⑦ 石見	4 3 0	④ 岡田	3 1 2
③ 蓮	0 0 0	⑦ 大浦	0 0 0
H3 青木	2 0 0	7 小浦	4 1 0
H3 倍賞	1 0 0	⑧ 三浦	4 0 0
⑧ 高木	4 0 0	③ 小江	4 2 0
② 中川	4 2 0	5 山口	2 0 0
⑨ 丹下	2 1 0	H 三上	1 0 0
H9 黒田	1 0 0	⑤ 丸	1 1 0
⑤ 中村	3 1 1	⑥ 林	3 0 0
⑥ 中村	2 0 1	② 乾	0 0 0
① 橋	2 0 0	2 佐伊	3 2 1
1 三	1 0 0	① 井	2 1 0
1 佐藤	0 0 0	1 井	0 0 0
	30 7 2	H 湯	1 1 0
振球権盗失残併		R 遠	0 0 0
4 1 3 0 0 5		1 長	0 0 0
投手回 安責			30 9 3
三橋 5 ¼ 4 1	振球権盗失残併		
礼 2 ¼ 4 3	8 2 3 0 0 7		
三橋	投手回 安責		
佐藤 1 0	伊達 6 ¼ 6 2		
▽本塁打	(伊達) 井 1 ¼ 1 0		
大木1号	中川		
▽二塁打	倉岡 江口▽2時間35分		

1回戦

和歌山市 (住友金属)
0 0 1 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2
0 0 1 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2
東京都 (鷺宮製作所)

【和歌山市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

京都市 (三菱京都)
0 0 0 0 0 2 0 0 0 0 2
2 0 0 0 0 1 2 1 X 6
大和町 (本田技研)

【京都市】 打安点
【大和町】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦 (再試合)

和歌山市 (住友金属)
0 0 1 0 0 0 0 0 3 0 4
0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 2
東京都 (鷺宮製作所)

【和歌山市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 0 0 0 3 0 0 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 1
大垣市 (西濃運輸)

【札幌市】 打安点
【大垣市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

西枇杷島町 (東海理化)
3 0 0 0 0 1 0 1 1 6
3 0 1 0 3 0 1 2 X 10
日立市 (日立製作所)

【西枇杷島町】 打安点
【日立市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

東京都 (熊谷組)
1 0 0 1 0 0 0 0 0 2
3 0 0 2 0 0 6 0 X 11
神戸市 (三菱重工神戸)

【東京都】 打安点
【神戸市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

大阪市 (日本生命)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 6 7
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1
青海町 (電気化学)

【大阪市】 打安点
【青海町】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 3 1 2 0 5 11
1 0 0 3 0 0 4 0 0 8
岡山市 (クレラ岡山)

【横浜市】 打安点
【岡山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

東京都 (サッポロビール)
0 0 0 0 2 0 0 0 2 4
0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
岩国市 (東洋紡)

【東京都】 打安点
【岩国市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1回戦

北九州市 (新日鉄八幡)
 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
 0 0 0 0 0 0 1 1 X | 2
 白老町 (大昭和製紙北海道)

【北九州市】		打安点	【白老町】		打安点
⑥	井山	4 2 0	⑤	齋藤	3 1 0
③	玉生	3 0 0	⑥	藤松	3 0 1
⑧	田豊	4 0 0	⑧	安若	4 1 0
②	有瀬	4 1 0	③	高松	2 0 0
④	瀬谷	4 1 0	④	阿天	3 1 1
⑨	小形	3 0 0	⑦	野天	3 2 0
⑦	小河	3 2 0	②	野尾	3 0 0
⑤	米村	2 1 0	①	尾田	2 0 0
①	後藤	2 0 0	⑨	堀三	3 2 0
H	藤野	1 1 1		大塚	3 2 0
1	平野	0 0 0			26 7 2
		30 8 1			
振球機盗失残併 4 0 2 1 1 4 投手 回 安責 後手 藤野 7 6 1 平野 1 1 1					
振球機盗失残併 3 1 3 0 2 4 投手 回 安責 三田 9 8 0					
▽二塁打 瀬藤 ▽2時間 15分					

1回戦

名古屋市 (電電東海)
 0 1 0 2 0 0 0 0 | 3
 1 0 1 0 0 0 2 0 X | 4
 いわき市 (オール常磐)

【名古屋市】		打安点	【いわき市】		打安点
④	西川	3 0 0	⑥	部田	3 2 2
⑥	吉田	4 1 0	⑧	倉田	4 1 0
⑦	前田	4 1 0	⑦	池田	2 1 1
⑧	山松	3 1 0	7	吉田	2 1 0
⑨	西山	3 0 0	⑨	田孝	3 0 0
③	山本	1 1 1	④	青森	4 2 0
H 3	園田	3 1 2	③	藤原	3 0 0
⑤	光岡	2 0 0	⑤	藤山	2 0 1
H 2	岡崎	1 0 0	②	藤川	4 0 0
②	黒岩	3 0 0	①	田嶋	2 1 0
①	岩蓑	3 2 0	1	島本	0 0 0
1	鈴木	0 0 0	H	藤藤	1 1 0
		30 7 3	1	佐近	1 0 0
振球機盗失残併 5 2 2 1 1 4 投手 回 安責 後手 藤田 6 7 3 鈴木 2 2 0					
振球機盗失残併 8 4 1 1 1 8 投手 回 安責 島本 4 4 6 藤近 2 2 1 福近 2 0 0					
▽本塁打 矢部1号② (篠田) ▽二塁打 青木 吉田 園田 ▽2時間 47分					

1回戦

大阪市 (電電近畿)
 0 0 0 0 0 3 1 0 1 | 5
 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 川崎市 (コロムビア)

【大阪市】		打安点	【川崎市】		打安点
④	長井	5 1 2	⑥	藤山	4 2 0
⑧	橋本	5 1 1	⑨	内野	4 1 1
⑨	井上	0 0 0	⑤	山田	4 1 0
H 7	今西	4 3 0	⑧	野田	4 0 0
8	原田	1 0 0	⑦	飯田	2 0 0
③	原田	5 2 0	H 7	近藤	2 0 0
⑦	久岡	0 0 0	④	橋本	4 0 0
H 9	岡角	2 0 0	②	橋本	2 1 0
H 9	岡田	3 2 1	2	内野	1 0 0
⑤	川口	5 0 0	③	山田	1 0 0
⑧ 7	中佐	4 3 1	H	下田	1 0 0
①	内藤	4 2 0	1	近藤	0 0 0
②		4 0 0	①	近藤	2 1 0
		42 14 5	1	重坂	0 0 0
振球機盗失残併 3 0 0 2 0 1 0 投手 回 安責 佐藤 9 6 1 ▽本塁打 青山1号 (佐藤) 角田1号 (池田) ▽二塁打 長井 吉野 ▽2時間 47分					
振球機盗失残併 4 1 0 0 2 5 投手 回 安責 近藤 5 5 103 坂重 2 3 30 池田 1 1 11					

1回戦

高砂市 (鐘淵化学)
 2 3 2 4 1 0 1 0 0 | 13
 0 0 0 1 0 0 1 0 0 | 2
 浜松市 (河合楽器)

【高砂市】		打安点	【浜松市】		打安点
⑨	大河	4 1 0	⑤	木野	4 1 0
9	福高	1 0 0	④	鈴佐	3 1 0
⑧	橋岡	4 2 0	⑧	山下	4 1 1
③	高片	5 2 3	⑦	北川	4 2 1
⑦	桑佐	6 3 3	R	島水	0 0 0
⑤	H 木	1 0 0	⑥	清川	2 0 0
H 5	橋本	1 0 0	9	山本	1 0 0
④	中谷	4 1 1	③	小山	1 0 0
⑥	小寺	5 4 2	9	加宮	2 0 0
②	H 丸	4 2 0	3	難波	1 0 0
H 2	丸谷	1 0 0	①	広野	1 0 0
①	谷村	4 2 3	1	児菊	1 0 0
		42 17 12	1	松田	1 0 0
振球機盗失残併 4 3 4 2 1 9 投手 回 安責 谷村 9 6 1					
振球機盗失残併 8 2 0 0 6 5 投手 回 安責 投広 児菊 1 1/3 4 3 松吉 2 2 7 3 井田 3 3/4 3 0 田吉 3 3/4 2 1 和久 1 1 0					
▽本塁打 植松1号 (谷村) ▽三塁打 高橋 ▽二塁打 片岡2 小玉 山下 鈴木 ▽2時間 58分					

2回戦

電電関東 (推薦 千葉市)
 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 0 0 0 1 0 0 1 0 X | 2
 富士市 (大昭和製紙)

【電電関東】		打安点	【富士市】		打安点
⑧	太田	4 0 0	⑥	山田	4 1 0
⑥	清時	3 0 0	5	谷本	2 0 0
③	井藤	4 1 0	5	岩本	2 0 0
②	佐藤	4 2 0	⑧	阪口	3 0 1
⑦	H 高	3 1 1	9	松田	3 1 0
H 4	塩本	1 0 0	③	小田	3 0 0
⑨	岩田	2 0 0	④	池田	3 0 0
⑤	渡山	2 0 0	⑦	H 清水	2 0 0
①	山若	3 0 0	②	小倉	2 0 0
		29 5 1	①	森田	0 0 0
振球機盗失残併 9 2 2 1 2 5 投手 回 安責 若宮 8 2 1 ▽三塁打 山田 ▽2時間 11分					
振球機盗失残併 1 2 0 3 3 3 投手 回 安責 森安 2 1/3 3 1 田 6 3/4 2 0					

2回戦

門真市 (松下電器)
 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 熊本市 (九州産交)

【門真市】		打安点	【熊本市】		打安点
⑥	石宮	3 0 0	⑨	阪田	4 1 0
④	井田	3 0 0	④	岡田	3 0 0
⑦	山下	3 2 1	⑦	石川	0 0 0
③	松田	3 0 0	H 7	三園	2 0 0
⑧	H 久	2 0 0	⑧	小江	3 1 0
H 8	稲長	1 0 0	③	H 林	2 0 0
⑨	岸内	0 0 0	⑥	丸	3 1 0
⑤	田中	3 1 0	②	長	3 0 0
①	福田	3 1 0	⑤	佐	3 2 0
②	吉田	2 0 0	H	長	2 0 0
		26 4 1	①	H 三	1 0 0
振球機盗失残併 5 1 2 0 0 1 投手 回 安責 福間 9 5 0					
振球機盗失残併 8 1 1 0 0 3 投手 回 安責 長嶺 9 4 1					
▽二塁打 小林 ▽1時間 58分					

2回戦

日立市 (日立製作所)
 0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
 1 0 0 1 0 0 0 1 X | 3
 大和町 (本田技研)

【日立市】		打安点	【大和町】		打安点
⑧	山橋	4 0 0	④	土大	4 1 0
④	村田	3 1 0	③	井塚	2 1 1
4 5	奥内	1 0 0	②	大黒	4 1 0
⑦	H 野	3 1 0	⑤	沢山	4 2 1
②	小野	3 0 0	⑧	谷山	3 1 1
R 7	鈴石	1 1 0	⑨	中杉	2 0 0
⑨	岡井	4 1 0	7	下氏	0 0 0
③	H 岡	4 1 0	⑥	丸山	3 1 0
⑤	H 森	1 0 0	7 9	本山	3 2 0
H 4	H 藤	1 1 0	①	入河	2 0 0
H 4	H 藤	0 0 0			27 9 3
①	H 藤	1 1 0	振球機盗失残併 6 2 2 0 3 4 投手 回 安責 後手 本 9 8 0		
1	H 藤	1 0 0	▽三塁打 土井 ▽二塁打 中沢 大沢 入山 藤井 ▽2時間 57分		
⑥	小川	3 0 1	振球機盗失残併 6 2 2 0 1 8 投手 回 安責 渡高 1 1/3 1 1 田 6 3/4 8 1		
		32 7 1			

2回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
 1 0 1 0 0 3 0 2 0 | 7
 0 2 1 0 1 0 0 0 0 | 4
 大阪市 (日本生命)

【神戸市】		打安点	【大阪市】		打安点
⑥	岡山	4 1 0	⑥	須木	5 2 0
④	林岡	5 1 0	⑧	鈴加	4 0 0
⑨	岡本	4 3 0	⑦	須加	5 2 0
⑧	橋本	4 2 2	②	中丸	4 2 0
③	吉阪	4 2 2	③	中丸	3 1 1
②	田田	4 2 0	④	草川	4 3 1
①	岡谷	4 1 2	⑨	田草	4 2 0
1	橋広	3 1 1	①	吉小	4 1 2
⑤		4 1 0	H	岡岡	1 0 0
		36 14 7	R	内川	0 0 0
振球機盗失残併 4 3 4 2 1 9 投手 回 安責 一岡 1 1/3 4 2 橋谷 7 3/4 9 2					
振球機盗失残併 3 0 2 0 3 8 投手 回 安責 丸井 1 1 2 玉田 4 4 6 林佐竹 1 1/3 5 2 高利 1 3/4 2 0					
▽本塁打 吉川1号 (高畑) ▽二塁打 阪田 丸井 玉田 林 佐竹 ▽2時間 45分					

2回戦

東京都 (サッポロビール)
 0 0 0 0 0 3 1 0 0 | 4
 0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2
 白老町 (大昭和製紙北海道)

【東京都】		打安点	【白老町】		打安点
⑥	石川	5 1 0	⑤	齋藤	4 1 0
④	大中	3 1 0	⑥	藤松	3 1 0
⑧	城川	4 1 0	⑧	安若	4 2 2
⑨	井田	1 0 0	③	高松	4 0 0
H 7	原田	2 1 3	④	阿天	4 1 0
⑤	石勝	3 1 0	⑦	野天	2 0 0
③	今井	3 0 0	H	草山	1 1 0
⑦	H 今	3 0 0	R	野本	0 0 0
②	松浦	1 0 0	R	本井	4 1 0
⑨	阿比	4 1 0	R	田前	0 0 0
①	古牧	4 1 1	②	H 田	2 1 0
		33 7 4	1	三和	0 0 0
振球機盗失残併 5 2 2 2 0 6 投手 回 安責 牧 9 9 2					
振球機盗失残併 1 1 2 1 1 6 投手 回 安責 石井 6 4 3 (三田) 牧 1 号 (財前) ▽二塁打 若松 石川 田崎 ▽2時間 40分					

2回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 2 0 X | 2

和歌山市 (住友金属)
【札幌市】 打安点
【和歌山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

いわき市 (オール常磐)
【横浜市】 打安点
【いわき市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2回戦

大阪市 (電電近畿)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 2 4 X | 7

高砂市 (鐘淵化学)
【大阪市】 打安点
【高砂市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 5 0 3 0 0 0 0 X | 8

【門真市】 打安点
【富士市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

横浜市 (日本石油)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 1 0 0 0 1 0 1 X | 3

【横浜市】 打安点
【神戸市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

高砂市 (鐘淵化学)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 3 0 0 X | 3

【高砂市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

大和町 (本田技研)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2

【大和町】 打安点
【和歌山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準決勝

和歌山市 (住友金属)
1 0 0 1 0 0 0 0 0 | 2
2 0 0 0 0 1 5 0 X | 8

【和歌山市】 打安点
【富士市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準決勝

神戸市 (三菱重工神戸)
0 4 0 0 0 0 0 0 1 | 5
0 0 0 0 0 1 0 0 3 | 4

【神戸市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fuji City (大昭和製紙). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

盛岡市

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for Morioka City (盛岡鉄道局). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

大和町

(本田技研)

Table listing names and numbers for Yamato Town (本田技研). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

川崎市

(日本コロムビア)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (日本コロムビア). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

推薦・千葉市

(電電関東)

Table listing names and numbers for Chiba City (電電関東). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

いわき市

(オール常磐)

Table listing names and numbers for Iwaki City (オール常磐). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

東京都

(サッポロビール)

Table listing names and numbers for Tokyo (サッポロビール). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City (日本石油). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Shiraoi Town (大昭和製紙北海道). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Nishino City (日立製作所). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo (熊谷組). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (河合楽器). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

札幌市

(北海道拓殖銀行)

Table listing names and numbers for Sapporo City (北海道拓殖銀行). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City (日本通運). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

東京都

(鷲宮製作所)

Table listing names and numbers for Tokyo (鷲宮製作所). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

青海町

(電気化学)

Table listing names and numbers for Aomori City (電気化学). Includes categories like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

名古屋市

(電電東海)

高商高商高商大... 監投手...

大阪市

(電電近畿)

大商大商大商大... 監投手...

高砂市

(鐘淵化学)

法電関芝西上慶... 監投手...

高松市

(四国電力)

大商西商高商高... 監投手...

大垣市

(西濃運輸)

大商高商大商高... 監投手...

大阪市

(日本生命)

高商高商大商高... 監投手...

和歌山市

(住友金属)

大商大商大商大... 監投手...

北九州市

(八幡製鉄)

大工付部高商高... 監投手...

西枇杷島町

(東海理化)

工商大商高商高... 監投手...

門真市

(松下電器)

大商高商大商高... 監投手...

岩国市

(東洋紡)

大商高商高商高... 監投手...

熊本市

(九州産交)

院商高商大商高... 監投手...

京都市

(三菱京都)

大商大商高商高... 監投手...

神戸市

(三菱重工神戸)

大商高商大商高... 監投手...

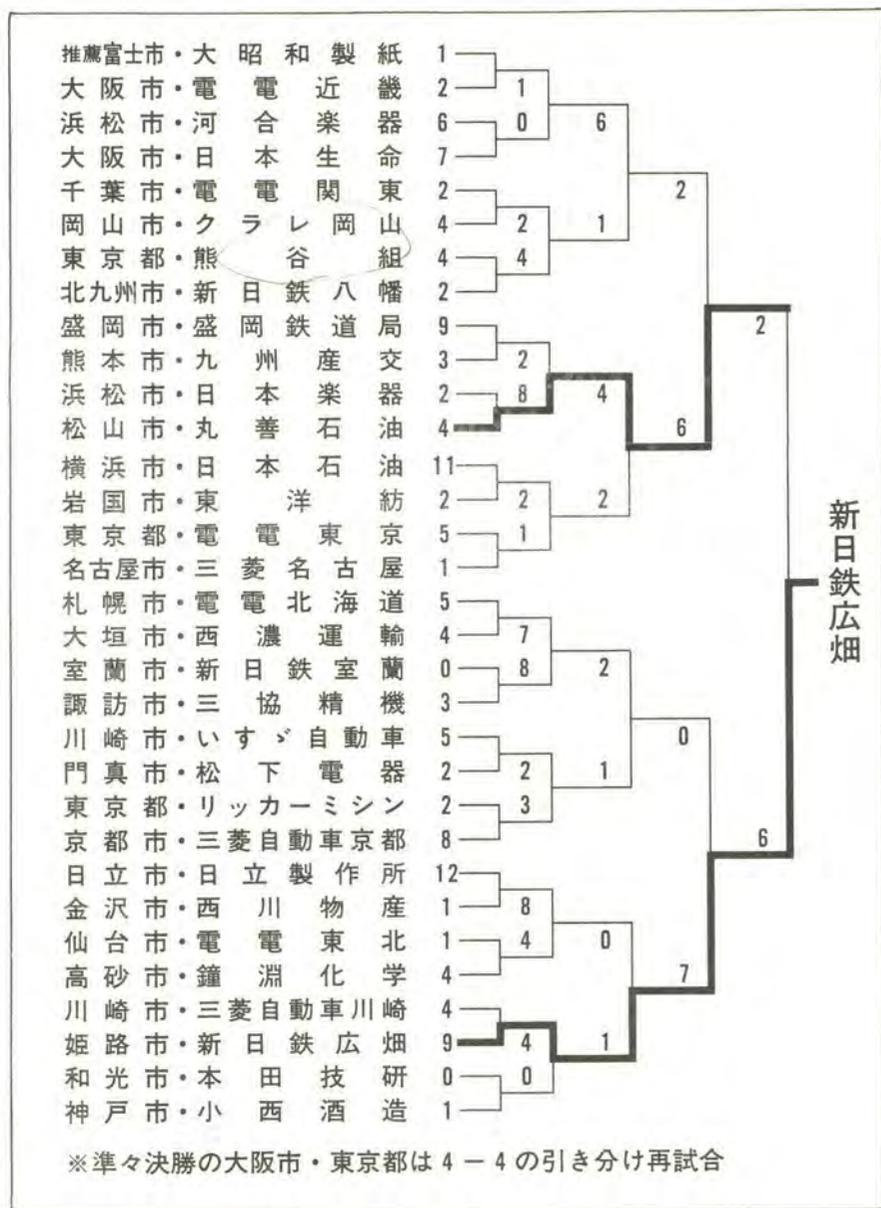
岡山市

(クラレ岡山)

大商大商高商高... 監投手...

第42回大会

1971年(昭和46年)7月24日 - 8月3日・後楽園球場
優勝=姫路市・新日鉄広畑(3年ぶり2回目)



日本石油、東京都・電電東京、門真市・松下電器、日立市・日立製作所、高砂市・鐘淵化学、和光市・本田技研など下馬評の高かった強豪が相次いで倒れ、準決勝に残ったのは、初戦で大昭和製紙に競り勝ち、大阪対決で日本生命に無安打勝利を演じ、東京・熊谷との引き分け再試合をものにした大阪、電電近畿。休部から復帰3年目ながら、防衛大出のエース、久玉清人投手を押し当てて固い守りで、浜松・日栄、横浜などを倒した松山・丸善石油光沢監督が指揮をとり、鈴木一比古一塁手、内田俊雄二塁手、柳瀬整三塁手、西岡洋児遊撃手や幡野正秋右翼手ら強力な打線を擁した諏訪市・三協精機。山中正竹(住友金属から補強)、三沢両投手の継投を軸に、川崎市・三菱自動車川崎を先制攻撃で破り、神戸市・小西酒造を零封、長打攻撃を武器にした猛打の日立をも7安打で零封した姫路の4チーム。

松山は大阪・和田弘久投手の立ちあがりを攻め、1回弘田澄男二塁手(四国銀行から補強)の三塁打で同点とすると、山下隆士一塁手以下が3連打して一挙に4点。3回からリーフの久玉が内外角に速球を決めて粘りの大阪打線を抑え、4、5回にも追加点を奪う会心の勝利。第30回大会の優勝以来、12年ぶりに決勝に進んだ。

姫路も5回中前打の白滝政孝左翼手を置いて、4番佐々木恭介一塁手が左翼席に先制の2ラン。6回にも中山拓郎捕手が右翼本塁打、さらに佐々木が2打席連続本塁打するなど、打者10人の集中攻撃で5点を加え、試合を一方向的にした。

先発の山中はいいねいなピッチングで3安打に抑え、継いだ三沢、吉田好伸両投手が安打を許さない好投。強打の諏訪もつけ入るスキがなかった。

決勝は松山が先制したものの、姫路はすぐに逆転、またも山中、三沢の好継投で松山の追撃を抑え、7回には白滝、佐々木らの快打で3点を加えトドメを刺した。

橋戸賞は19打数11安打8打点と打ちまくった姫路・佐々木一塁手が打撃賞と合わせて受賞。久慈賞は松山・久玉投手、小野賞は姫路市の社会人1年生フレッシュ・バッテリー、三沢投手、中山捕手の2人に贈られた。小野賞を個人2人が受賞したのは、史上初めてのことだった。

1年生バッテリーに小野賞

32チームが参加、初出場は札幌市・電電北海道だけで強豪がひしめいた大会だったが、開幕第1戦で前年度優勝の大昭和製紙(富士市)が敗れるなど、波乱に富んだ展開となり、姫路市・新日鉄広畑が社会人1年生、18歳の三沢淳投手の活躍などで3年ぶり2回目の優勝を果たした。

浜松市・河合楽器、大阪市・日本生命、東京都・熊谷組、浜松市・日本楽器、横浜市・

決勝

松山市 (丸善石油)	1 0 0 0 0 0 1 0 0	2
姫路市 (新日鉄広畑)	0 2 0 0 0 1 3 0	6

松山市	打安点振球	姫路市	打安点振球
⑧ 窪弘	4 1 0 2 0	⑥ 小玉	5 1 1 1 0
④ 田辺	4 1 0 1 0	⑧ 三村	3 0 0 0 1
⑦ 渡山	4 0 0 1 0	⑦ 白木	4 2 1 1 0
③ 山下	4 1 1 0 0	③ 佐々木	4 1 1 1 0
② 永野	3 1 0 1 1	④ 佐々木	3 2 0 0 1
⑤ 河野	4 1 0 1 0	④ 土島	2 2 1 0 0
⑨ 新岡	1 0 0 0 0	⑤ 大野	3 2 2 0 1
H 岡本	1 0 0 0 0	② 京大	1 0 0 0 0
H 久野	1 0 0 1 0	H 永中	0 0 0 0 0
H 寺久	1 0 0 0 0	② 中山	2 0 0 1 0
H 久野	1 0 0 0 0	① 山青	0 0 0 0 1
H 久野	1 1 0 0 0	H 三	1 0 0 1 0
H 久野	2 0 0 1 0	H 三	2 0 0 1 0
H 久野	1 1 0 0 0		
H 久野	0 0 0 0 0		
H 久野	0 0 0 0 0		
H 久野	3 1 1 0 0		
⑥ 鈴木	3 1 1 0 0		

▽二塁打 弘田 小玉 白 滝 島田 ▽2時間12分

姫路市“2投”立ての強み

姫路市・新日鉄広畑は大舞台に強い左腕・山中、松山市・丸善石油は右のエース久玉をたてた。

松山は1回弘田が三塁を強襲。足を生かして二塁打とし、山下の中前適時打で素早く1点を先取した。弘田はその裏、三村の打った二塁頭上を抜きそうなライナーをジャンプして好捕する美技で試合を引き締めた。

しかし姫路は2回の一死三塁に京田が左前タイムリーして同点、山中が歩いた一・二塁に小玉が右前に流し打って逆転した。

序盤戦は派手だったが、山中、久玉の好投で試合は静かに進んだ。姫路は5回から三沢をマウンドに送り、6回またも京田が右前に適時打、1点を加えた。

下手からの三沢は速球が浮きあがり、変化球もよく低めに集まり松山打線を抑えた。松山は7回、永田が死球で出た二死一塁に、代打・徳藤と水かが連安打、1点を返した。無失点を続けていた三沢の13イニング目の失



松山対大阪。1回松山は山下が逆転の中前適時打。これを口火に一挙4点を奪った。投手、和田

点だったが、姫路はその裏、代った門田に襲いかかり一死一塁から主軸の白滝、佐々木が快打して2点、島田も左翼二塁打、この回3点を加えて試合を決めた。

松山が久玉1人だったのに対し、姫路は山中、三沢と信頼できる両輪があった投手陣の差が、決勝の明暗につながった。

唯一の初陣、サヨナラ勝ち

唯一の初出場チーム、札幌市・電電北海道がサヨナラ勝ちで初陣を飾った。1回戦で大垣市・西濃運輸と対戦した札幌。1点をリードされていたが、4回半ばからリリーフの柳投手が、その後1安打で抑え最終回を迎えた。

札幌は四球とバント野選で無死一・二塁のチャンスをつくった。一死後、高谷一塁手が一塁線を破る二塁打で同点。大垣は柴田から早川にリレー。木本の三ゴロで、三塁から日比野がホームを突いた。タイミングは完全なアウトで、捕手・山口が送球を受けたとき、日比野はまだ3歩も手前にいたがタッチしたミットからボールがこぼれ、札幌のサヨナラ勝ちとなった。

山口捕手は3年前、新日鉄広畑が優勝したときの捕手。新日鉄名古屋に転勤になり、補強で出場した名手だが、間がありすぎてプレーに魔がさした。

史上初の無安打勝利

大阪市・電電近畿が大会史上初の無安打勝利を記録した。2回戦の大阪同士の対戦で対日本生命戦。

試合巧者の電電だったが、日生・小弓場投手に抑えられ快打が出ない。0-0で迎えた6回、電電は投手の和田が遊撃手の落球で一塁に生き、暴投と捕逸で三進。代打の藤本が0-2からスクイズを決めて1点をあげた。

和田投手が4安打を許しながらこの1点を守り切り、珍らしい勝利となった。



抱き合って優勝を喜ぶ、姫路の三沢、中山バッテリー

東西決戦4時間10分ドロー

準々決勝の東京・大阪対決となった熊谷組対電電近畿は延長12回、4時間10分の勝負がつかず、引き分け再試合となった。

前半が東京、後半は大阪のペースで試合が進み、大阪は2点をリードされた9回裏、代打・田中、内の短長打で二・三塁。ここで西森が中前に貴重な2点タイムリーを放ち同点とした。

延長に入ると東京・久保田、大阪・谷が力投したが、大阪の粘り腰はさすがで、再試合では東京に快勝した。

MEMO

◇2打席連続本塁打 大阪市・電電近畿・今西和男一塁手(日本熱学から補強)は準々決勝再試合の対東京都・熊谷組戦の4回に久保田、6回に大櫃両投手から。

姫路市・新日鉄広畑・佐々木恭介一塁手は準決勝の対諏訪市・三協精機戦の5回に渡辺、6回に小山両投手から本塁打。

第30回大会、神戸市・川崎重工の西井、36回の大阪市・全鐘紡・大戸に続き、史上3、4人目。1大会で2人の2打席連続は新記録。

なお1試合2本塁打は、7、8人目。

◇無安打勝利 2回戦の大阪市同士の対戦、電電近畿対日本生命戦で、電電は6回敵失と暴投、捕逸のあとスクイズで決勝点を奪いノーヒットに抑えられながら勝った。

休部も経験、名門復活

準優勝の松山市・丸善石油は会社の事情もあって、昭和37年から7年間休部を続け、44年に復帰し3年目のチーム。それだけに感慨もひとしお。

関東、関西の大学出の選手が揃っていた休部前とは違い、高校出が多いために浅井監督は「このメンバーでは守りを鍛える以外、勝つ道はない」と、練習に次ぐ練習。チームの和を重視し、躍動のリズムをつくった。

浜松市・日本楽器、横浜市・日本石油、大阪市・電電近畿など、前評判の高かった強豪を次々に倒したのは立派だった。

エースの久玉が防衛大出というのも守りのチームにふさわしい。

甲子園より楽だった！

小野賞を史上初めて2人で受賞した姫路市・新日鉄広畑の三沢淳、中山拓郎のバッテリー。三沢投手は江津工、中山捕手は滝川高を今春卒業したルーキーだ。

三沢投手はむずかしい場面でのリリーフを含め決勝までの5試合全部に登板、16イニングで失点わずかに1。なかでも強打を誇る日立市・日立製作所との準決勝では、無死一・二塁でリリーフ、大胆な投球で投ゴロ、投ゴロ、三振。スタンドをアッと叫ばせた。

中山捕手のリードぶりもあざやかだったし、準決勝の諏訪市・三協精機戦では息の根を止める本塁打を放つなど活躍した。2人とも甲子園出場の経験をもつが、口をそろえて「甲子園より楽や」。

1回戦

大阪市 (電電近畿)									
0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大昭和製紙 (推薦 富士市)									

【大阪市】			打安点	【大昭和製紙】			打安点
⑦	内藤	藤本	2 0 0	⑥	山田	4 0 0	
H	藤本	森	0 0 0	④	鎌谷	3 2 0	
R	9	森	1 0 0	⑦	望月	3 0 0	
④	西長	井	3 0 0	③	小阪	4 2 1	
⑨	7	林	4 4 0	⑨	原田	4 0 0	
③	3	山	0 0 0	⑧	萩原	4 0 0	
H	3	西	2 1 1	⑤	角田	3 0 0	
H	3	中	1 0 0	②	倉藤	3 0 0	
⑧	6	田	3 0 1	①	H	1 0 0	
⑥	6	原	4 1 0	1	H	1 0 0	
R	6	橋	0 0 0	1	H	0 0 0	
⑤	5	角	2 0 0	1	H	1 0 0	
5	2	堤	2 0 0	1	H	0 0 0	
②	2	川	2 0 0			314 1	
①	1	内	3 0 0				
		和	2 9 6 2				

振球	横盗	失残	併	投	手	回	安責
7	3	2	2	0	5		3
投	手	回	安責	投	手	回	安責
和	田	9	4	1	安	野	3
▽三塁打	小林	▽二塁打	今西	小田	2		1
▽2時間	43分						



電話交換機の鼓笛隊による東京、電電東京の応援風景

1回戦

浜松市 (河合楽器)									
0	2	0	0	0	0	1	0	3	6
3	0	0	0	1	3	0	×	7	
大阪市 (日本生命)									

【浜松市】			打安点	【大阪市】			打安点
④	鈴	木	4 0 0	⑥	須	見	4 0 0
⑤	若	水	5 1 0	⑦	加	阿	3 2 0
⑥	清	本	5 0 0	⑧	阿	世	1 0 0
⑦	清	松	4 1 1	③	山	竹	2 1 0
⑧	植	田	4 0 0	⑧	佐	内	2 1 0
⑨	陽	河	2 2 0	③	山	丸	2 0 0
③	野	野	2 2 0	H	3	井	1 1 1
②	通	治	4 3 0	⑤	②	井	4 2 4
②	加	岡	3 3 5	⑤	②	木	4 2 0
①	H	吉	1 0 0	⑨	①	山	3 1 0
H	1	宮	1 0 0	⑨	①	鈴	0 0 0
1	1	小	0 0 0	H	1	中	0 0 0
1	1	戸	1 0 0	H	1	角	0 0 0
1	1	本	0 0 0	④	①	高	2 0 0
H	1	浦	1 0 0	1	1	前	2 0 0
		野	1 0 0	1	4	利	3 2 1
			3510 6			光	3 2 1

振球	横盗	失残	併	投	手	回	安責
6	4	0	5	0	6		6
投	手	回	安責	投	手	回	安責
吉	田	3	4	3	高	利	7
小	川	1	3	1			7
小	川	1	3	1			7
小	川	1	3	1			7
小	川	1	3	1			7
▽本塁打	鈴木	1号③	(吉田)	植松	1号	(高畑)	
岡庭	1号③	(利光)	▽二塁打	加嶋	加治	河野	
通	▽2時間	41分					

1回戦

岡山市 (クラレ岡山)									
0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
千葉市 (電電関東)									

【岡山市】			打安点	【千葉市】			打安点
⑤	木	下	4 1 0	④	三	島	4 3 0
⑥	藤	田	4 0 0	⑥	清	時	3 1 0
④	阿	菅	4 0 0	⑤	高	山	4 2 0
④	林	田	4 1 2	②	7	藤	4 0 0
⑨	平	野	4 0 0	⑧	佐	文	4 2 0
③	野	井	4 1 2	⑧	塩	多	2 0 0
⑦	竹	川	3 0 0	⑦	横	山	2 1 2
①	安	浦	3 1 0	②	須	藤	3 1 0
②	松	中	3 0 0	③	須	佐	1 1 0
			334 4	③	佐	岩	0 0 0
振球	横盗	失残	併	H	①	若	0 0 0
8	0	0	1	0	2	若	1 0 0
投	手	回	安責	H	⑨	黒	1 0 0
松	浦	9	11 2	H	⑨	山	1 0 0
▽本塁打	竹井	1号③	(若宮)	林	1号②	佐	4 0 0
(若宮)	須藤	1号②	(若宮)	須藤	1号②	藤	0 0
(松浦)	▽二塁打	平野	塩多	▽2時間	39分		

1回戦

盛岡市 (盛岡鉄道管理局)									
0	1	0	2	1	1	0	4	0	9
0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
熊本市 (九州産交)									

【盛岡市】			打安点	【熊本市】			打安点
⑧	齊	藤	5 0 0	⑦	上	田	3 0 0
⑥	赤	平	4 1 0	④	倉	岡	3 0 0
R	5	上	0 0 0	H	4	岡	1 0 0
⑦	小	笠	5 3 1	⑥	林	林	3 1 0
③	佐	藤	4 2 1	⑨	来	海	4 0 0
⑨	渡	邊	3 1 0	③	江	口	3 0 0
④	吉	田	3 2 3	H	松	崎	1 0 0
②	田	典	3 1 3	⑧	⑧	崎	4 3 1
①	H	木	3 0 0	⑤	⑤	長	1 0 1
H	1	江	1 0 0	H	①	内	1 0 0
1	1	水	0 0 0	H	①	長	1 0 0
⑤	6	戸	4 1 1	H	1	出	1 0 0
		沼	3511 9	1	1	伊	1 1 1
振球	横盗	失残	併	①	①	乾	0 0 0
6	3	3	1	0	5	2	2 1 0
投	手	回	安責	2	3	佐	2 9 6 3
堀	江	7	6 3				
瀬	戸	2	0 0				

振球	横盗	失残	併	投	手	回	安責
2	3	2	0	1	4		5
投	手	回	安責	投	手	回	安責
堀	江	7	6 3	堀	江	7	6 3
瀬	戸	2	0 0	瀬	戸	2	0 0
▽本塁打	小林	1号	(堀江)	佐藤	隆	1号	(伊達)
▽三塁打	小林	▽二塁打	小笠原	吉田	典	2	
▽2時間	23分						

プロ15年の土台築いてくれた

姫路市・新日鉄広畑
三沢 淳投手



昭和46年江津工高から新日鉄広畑に入社。ルーキーで全5試合にリリーフ役で登板。同じ新人の中山拓郎捕手とともに小野賞受賞。中日、日本ハムを経て、現在解説者。

打たれたらとか、点を取られたらなんて、余計なことを考えずに打者だけを相手に無心で投げられたことが、いい結果につながったと思う。

広畑は大会前、下馬評にもあがらなかったし、ボクは新人。住友金属から山中正竹さんが補強で来たので気は楽だった。

1回戦で強いといわれた三菱自動車川崎に勝ち、山中さんを継いでボクは3イニング無安打3三振。「意外とやれる」と心強く感じた。

苦しかったのは準々決勝の日立製作所戦。

日立の猛打は脅威的だった。1-0とリードしていた7回、日立が無死一・二塁としたところでボクの出番。捕手も新人の中山拓郎と代った。結果は投ゴロ、投ゴロ、三振だったが、夢中だったのでなにを投げたのか思い出せない。

決勝の丸善石油戦も5回から山中さんを継いだけど、経験のないボクと中山のバッテリーを監督の土井洋さんがよく使ってくれたのだと恐ろしい気がした。

山中さんが、あのちいさな体で強打者をキリキリ舞いさせるピッチングは参考になった。山中さんがいてくれたからこそ、ボクもあれだけやれたと、いまでも感謝の気持ちでいっぱいです。

ボクは高校を出たとき、中日にドラフトされたのだが、田舎の高校生だったボクにとってプロ野球なんて雲の上のこと。それで広畑にお世話になったが、いい場面に使っていただけ、強烈なメンバーを相手にいいピッチングができ、プロ入りする決心がついた。15年間のプロ生活を送れたのは、まさしく都市対抗のおかげ。ボクの人生の転機となっただけに、都市対抗は一生活れられない。

1回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 6 5 0 0 0 0 | 11
0 0 0 1 0 0 1 0 0 | 2
岩国市 (東洋紡)

【横浜市】 打安点
【岩国市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

名古屋市 (三菱名古屋)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
0 1 0 0 0 4 0 0 X | 5
東京都 (電電東京)

【名古屋市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

東京都 (熊谷組)
0 0 0 0 2 1 0 0 1 | 4
0 0 0 2 0 0 0 0 0 | 2
北九州市 (新日鉄八幡)

【東京都】 打安点
【北九州市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

諏訪市 (三協精機)
0 0 0 1 2 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
室蘭市 (新日鉄室蘭)

【諏訪市】 打安点
【室蘭市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

日立市 (日立製作所)
0 0 0 0 5 2 0 5 0 | 12
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
金沢市 (西川物産)

【日立市】 打安点
【金沢市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

仙台市 (電電東北)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 3 0 0 0 1 0 0 X | 4
高砂市 (鐘淵化学)

【仙台市】 打安点
【高砂市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

大垣市 (西濃運輸)
0 2 0 2 0 0 0 0 0 | 4
0 0 0 3 0 0 0 0 2 | 5
札幌市 (電電北海道)

【大垣市】 打安点
【札幌市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

浜松市 (日本楽器)
0 0 0 0 0 0 1 1 0 | 2
2 0 0 0 0 0 0 0 2 | 4
松山市 (丸善石油)

【浜松市】 打安点
【松山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

1回戦

川崎市 (三菱自動車川崎)
0 0 1 0 0 2 0 0 1 | 4
2 0 4 2 0 0 1 0 X | 9
姫路市 (新日鉄広畑)

【川崎市】 打安点
【姫路市】 打安点
振球機盗失残併
投手回 安責

2回戦

高砂市 (鐘淵化学)	0 0 0 2 0 0 0 2 0 4
日立市 (日立製作所)	2 4 0 0 0 0 2 0 X 8

高砂市	打安点	【日立市】	打安点
宮地	3 0 0	山田	5 1 0
藤岡	5 2 0	高松	3 0 0
佐原	4 0 0	高内	4 1 0
片岡	4 1 0	太刀	0 0 0
桑原	4 2 0	小野	4 3 2
谷尾	0 0 0	石野	4 3 4
星松	2 0 0	山本	0 0 0
高石	1 1 0	山本	3 1 2
山本	0 0 0	岡本	4 1 0
山谷	1 1 0	野崎	1 1 0
橋本	0 0 0	本野	0 0 0
福田	2 0 0	加藤	1 1 0
福内	1 1 1	渡川	2 0 0
光松	0 0 0	橋本	1 0 0
松下	1 0 0		32128
河田	3 1 2	振球機盗失残併	5 3 3 0 0 6
大岡	3 1 0	投手回	安責
白木	1 0 0	野崎	4 3 2
寺尾	0 0 0	渡邊	5 7 1
	35103		
振球機盗失残併	8 5 0 2 1 9	▽本塁打	石井1号②
投手回	安責	(柏木)	小野寺1号②
木下	2 8 4	(柏木)	岡安1号②
松下	0 0 0	(柏木)	大河1号②
井本	3 3 2	(野崎)	
山内	0 0 0	▽二塁打	小野寺 石井
光内	1 1 0	(日)	▽2時間54分

神戸市 (小西酒造)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
姫路市 (新日鉄広畑)	0 0 0 0 1 0 1 2 X 4

神戸市	打安点	【姫路市】	打安点
日高	4 0 0	玉村	3 0 1
岡岡	4 1 0	小三	4 0 0
広川	3 1 0	白木	4 1 0
吉川	4 1 0	佐々	3 1 0
川口	3 0 0	々々	1 1 0
里見	1 0 0	土島	1 0 1
西朝	1 0 0	京大	3 0 0
朝小	1 1 0	中山	2 0 0
久若	0 0 0	大木	1 1 0
若手	2 0 0	青山	1 0 0
長手	2 0 0	井井	1 0 0
荒川	2 0 0	泉村	0 0 0
小登	1 0 0	谷川	0 0 0
	2940	振球機盗失残併	7 2 4 1 0 2
振球機盗失残併	3 3 0 1 2 5	投手回	安責
投手回	安責	三沢	6 4 0
若林	7 4 1	三沢	3 0 0
登記	1 1 1	▽三塁打	中山▽二塁打
		佐々木▽2時間10分	

東京都 (熊谷組)	0 1 2 0 0 0 1 0 0 0 0 4
大阪市 (電電近畿)	0 0 0 1 0 1 0 0 2 0 0 0 4

【東京都】	打安点	【大阪市】	打安点
梅原	1 0 0	内藤	3 0 0
伊藤	3 2 0	H岡	1 0 0
後藤	5 1 0	谷本	0 0 0
中川	3 2 1	井上	1 0 0
苑山	1 0 0	長井	6 1 0
山本	5 0 1	小今	5 2 0
依井	5 2 0	原西	5 4 1
井神	5 3 2	川本	5 1 0
古野	4 1 0	6川	5 1 0
新野	3 1 0	5井	3 0 0
林野	1 1 0	6木	1 1 0
久保	4 0 0	H中	0 0 0
	41134	H谷	1 0 0
振球機盗失残併	5 8 7 3 1 16	②内	5 1 0
投手回	安責	①和	0 0 0
林	8 124	H加	2 1 0
久保	4 2 0	R藤	2 1 2
		9森	46143
振球機盗失残併	7 2 2 0 2 10	振球機盗失残併	7 2 2 0 2 10
投手回	安責	投手回	安責
小林	2 5 3	和田	2 5 3
今西	4 3 1	加納	4 3 1
内打	5 5 0	谷打	5 5 0
▽4時間10分			

準々決勝

松山市 (丸善石油)	0 0 0 2 0 2 0 0 0 0 4
横浜市 (日本石油)	1 0 1 0 0 0 0 0 0 2

【松山市】	打安点	【横浜市】	打安点
窪田	4 0 0	伊藤	4 1 0
弘彦	3 1 0	俊位	4 2 1
田下	4 0 0	平秋	4 1 1
山野	3 1 2	藤川	2 0 0
山崎	4 1 2	元川	2 1 0
河野	4 0 0	部崎	4 2 0
新野	4 1 0	野崎	2 0 0
門寺	0 0 0	佐野	1 1 0
久水	1 0 0	野村	0 0 0
	1 0 0	恒木	4 2 0
	2 1 0	藤田	0 0 0
	3054	H木	3 0 0
振球機盗失残併	8 3 1 1 0 3	H江	0 0 0
投手回	安責	H石	2 0 0
手田	2 3 1	黒山	1 0 0
久玉	7 7 1		34102
		振球機盗失残併	2 1 1 1 0 7
▽本塁打	山下1号②	投手回	安責
(奥江)▽三塁打	平位	江	6 5 4
▽二塁打	平位	黒	3 0 0
▽2時間8分			

準々決勝 (再試合)

東京都 (熊谷組)	0 0 0 0 0 0 0 1 0 1
大阪市 (電電近畿)	0 0 0 3 0 2 0 1 X 6

【東京都】	打安点	【大阪市】	打安点
山崎	0 0 0	西森	3 2 0
H梅	3 0 0	長井	1 0 0
H伊	1 1 1	小今	3 0 0
後藤	4 1 0	藤本	4 3 5
川上	4 1 0	内橋	4 0 0
井本	3 0 0	川口	4 0 0
山本	4 2 0	内田	2 0 0
野田	3 0 0	加納	3 1 0
川野	1 1 0		2775
久加	2 0 0	振球機盗失残併	7 4 2 1 2 3
大池	1 1 0	投手回	安責
	1 0 0	加納	9 7 1
	0 0 0		
	1 0 0	▽本塁打	今西1号③
	0 0 0	(久保田)2号②	
	3371	(大櫃)伊藤1号	
振球機盗失残併	2 2 0 1 4 7	(加納)▽二塁打	後
投手回	安責	▽2時間25分	
久保	4 4 3		
大櫃	3 2 2		
林	1 1 0		

準々決勝

京都市 (三菱自動車京都)	0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
諏訪市 (三協精機)	0 1 0 0 0 0 0 1 X 2

【京都市】	打安点	【諏訪市】	打安点
北松	5 0 0	戸野	4 1 0
田松	3 0 0	柳野	3 0 0
米沢	2 1 0	柳野	4 3 1
3原	5 2 0	西橋	4 0 0
9島	2 0 0	6岡	4 0 0
5清水	3 0 0	7本	1 0 0
6谷	3 0 0	H石	1 0 0
②中	4 2 0	4内	3 2 0
④新	2 1 0	2岩	0 0 0
H8	1 0 1	1山	2 0 0
①中	2 0 0	H山	1 1 0
H島	1 0 0	H丸	0 0 0
1山	1 0 0	H小	0 0 0
	3461	H山	0 0 0
振球機盗失残併	9 5 0 1 2 11	H久	1 0 0
投手回	安責	H世	2 0 0
村中	5 4 0	1美	3071
河山	3 3 1	振球機盗失残併	9 2 0 4 1 6
		投手回	安責
▽本塁打	柳瀬1号(山中)	山	2 3 0
▽2時間44分		美	7 3 1

準々決勝

日立市 (日立製作所)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
姫路市 (新日鉄広畑)	0 0 0 1 0 0 0 0 X 1

【日立市】	打安点	【姫路市】	打安点
山田	4 0 0	小三	4 0 0
小内	4 0 0	白木	4 1 0
小野	4 1 0	佐々	4 1 0
H寺	4 1 0	々々	4 3 1
H井	4 1 0	土島	2 0 0
井安	4 2 0	京大	2 1 0
田本	4 1 0	中山	2 0 0
田本	2 1 0	大木	1 1 0
H山	1 0 0	山本	2 0 0
H加	1 0 0	中沢	1 0 0
H森	0 0 0		3071
H大	0 0 0	振球機盗失残併	10 2 0 2 0 7
H本	1 0 0	投手回	安責
	0 0 0	山三	6 5 0
	3370	三沢	3 2 0
振球機盗失残併	6 1 1 1 1 8	▽三塁打	白滝▽二塁打
投手回	安責	佐々木▽2時間15分	
渡野	6 5 1		
H野	2 2 0		

準決勝

大阪市 (電電近畿)	1 1 0 0 0 0 0 0 0 2
松山市 (丸善石油)	4 0 0 1 1 0 0 0 X 6

【大阪市】	打安点	【松山市】	打安点
西森	4 1 0	窪田	5 2 0
小長	2 1 0	弘彦	4 2 2
4今	4 0 0	田下	3 0 0
③今	4 1 1	山野	3 1 1
H7	2 0 0	②山	4 1 0
H8	2 0 0	⑤山	4 1 1
⑥原	4 2 0	H本	2 0 0
⑤橋	4 3 0	H9	1 1 1
②川	4 0 0	H山	1 0 0
①内	4 0 0	①山	1 0 0
H中	1 1 1	1玉	2 2 0
H山	0 0 0	⑥水	4 1 0
H土	0 0 0		34115
H本	1 0 0	振球機盗失残併	4 2 1 2 0 7
H加	1 0 0	投手回	安責
	3392	谷山	2 3 2
振球機盗失残併	1 2 0 1 2 6	久玉	7 6 0
投手回	安責	▽三塁打	弘田▽二塁打
和田	1 5 3	今西	川口久玉
和谷	3 3 1	▽2時間20分	
加納	4 3 0		

準決勝

諏訪市 (三協精機)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
姫路市 (新日鉄広畑)	0 0 0 0 2 5 0 0 X 7

【諏訪市】	打安点	【姫路市】	打安点
戸野	4 0 0	小三	3 1 0
野田	4 0 0	白木	3 1 1
柳石	3 0 0	8井	1 0 0
⑤西	3 1 0	⑦佐	4 1 0
③石	0 0 0	々々	4 3 4
⑦石	0 0 0	土島	3 1 0
H7	1 0 0	H9	2 0 0
H7	2 0 0	H井	1 1 1
H4	2 1 0	5京	3 1 0
H4	1 0 0	H5	1 1 0
②本	0 0 0	②大	2 0 0
2野	1 0 0	2中	2 1 1
①久	2 0 0	①山	1 0 0
1渡	0 0 0	H1	1 0 0
1尾	0 0 0	H1	0 0 0
1小	0 0 0		32117
H山	0 0 0	振球機盗失残併	4 8 1 2 0 10
H山	0 0 0	投手回	安責
H原	1 0 0	山中	5 3 0
H1	0 0 0	三沢	2 0 0
	3030	吉田	2 0 0
振球機盗失残併	8 0 0 0 1 3	▽本塁打	佐々木1号②
投手回	安責	(渡辺)2号②(小山)	
手渡	4 5 2	中山1号(尾岡)▽二塁打	
尾山	1 1 2	打土佐▽2時間25分	
小山	3 3 3	(中断5分)	
山口	2 0 0		
原田	1 0 0		
川川	1 0 0		

姫路市 盛岡市 千葉市 川崎市

(新日鉄広畑)

Table listing names and numbers for the Hirohata Steel plant in姬路市.

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for the Morioka Railway Station in盛岡市.

(電電関東)

Table listing names and numbers for the Keihin Electric Railway in千葉市.

(いすゞ自動車)

Table listing names and numbers for Isuzu in川崎市.

推薦・富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Dai Nippon Paper in富士市.

仙台市

(電電東北)

Table listing names and numbers for the Tohoku Electric Railway in仙台市.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Kumagata in東京都.

川崎市

(三菱自動車川崎)

Table listing names and numbers for Mitsubishi in川崎市.

札幌市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for the Hokkaido Electric Railway in札幌市.

日立市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Hitachi in日立市.

東京都

(リッカーミン)

Table listing names and numbers for Rickarmin in東京都.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Nippon Oil in横浜市.

室蘭市

(新日鉄室蘭)

Table listing names and numbers for Hirohata Steel in室蘭市.

和光市

(本田技研)

Table listing names and numbers for Honda in和光市.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for the Teikoku Electric Railway in東京都.

浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Kawai in浜松市.

浜松市 金沢市 門真市 岩国市

Table listing names and numbers for 浜松市 (Japan Instruments), 金沢市 (Shikoku Goods), 門真市 (Matsudaira Electric), and 岩国市 (Toyo Sangyo).

諏訪市 京都市 神戸市 松山市

Table listing names and numbers for 諏訪市 (Three Precision Machine), 京都市 (Mitsubishi Motor), 神戸市 (Kobe), and 松山市 (Shikoku).

名古屋市 大阪市 高砂市 北九州市

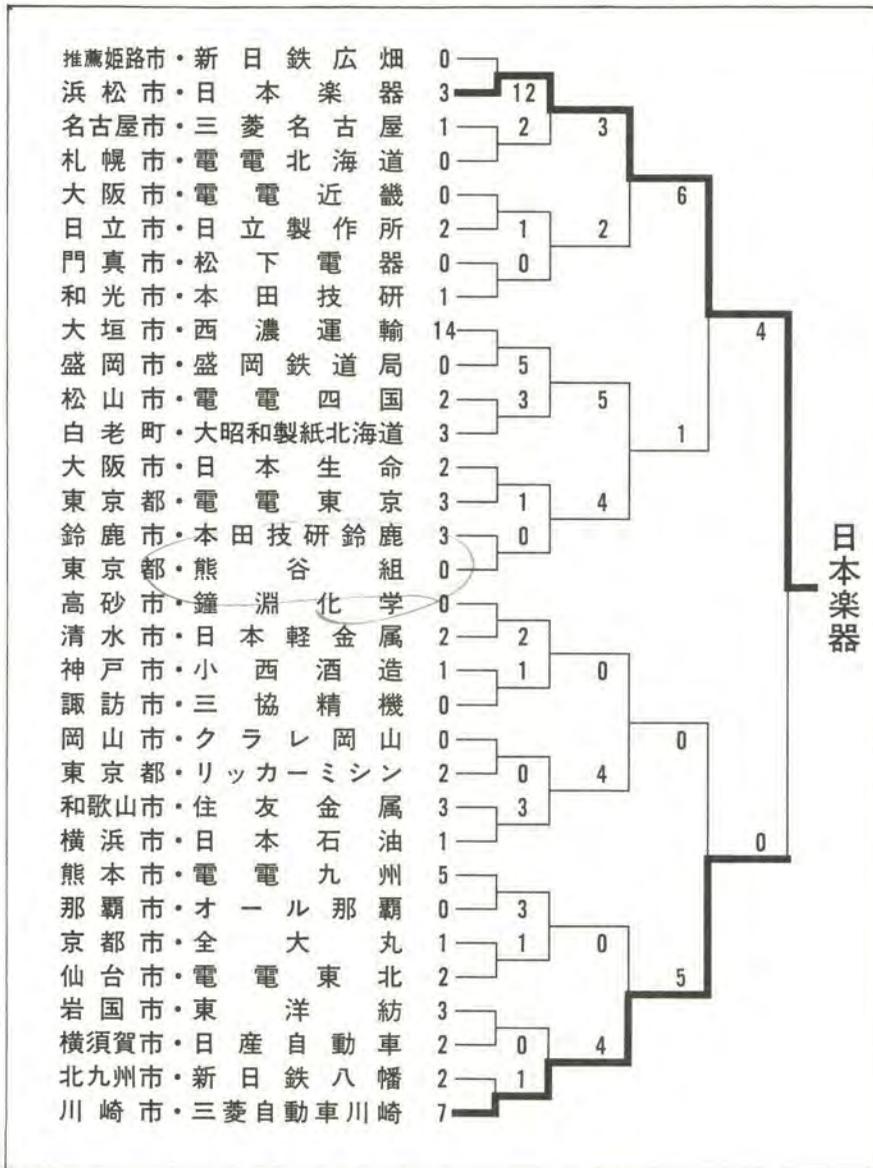
Table listing names and numbers for 名古屋市 (Nagoya), 大阪市 (Osaka), 高砂市 (Takasago), and 北九州市 (Kitakyushu).

大垣市 大阪市 岡山市 熊本市

Table listing names and numbers for 大垣市 (Gakyo), 大阪市 (Osaka), 岡山市 (Okazaki), and 熊本市 (Kumamoto).

第43回大会

1972年(昭和47年)7月28日 - 8月6日・後楽園球場
優勝=浜松市・日本楽器



消した。

浜松は推薦の新日鉄広畑を新美が完封。名古屋市・三菱名古屋に圧勝、強力打線の日立市・日立製作所戦は新美と日立・高田新次投手の投げ合で接戦となったが、リードされた8回、代った日立の佐藤博投手に辻哲也左翼手が同点タイムリーを浴せ、9回先頭打者の植松が左翼上段に豪快なサヨナラ本塁打、ベスト4に進んだ。

暴れたのは大垣市・西濃運輸。小林国男、柴田昌邦の継投投手陣を細川昌俊外野手を軸とする打線が支え、1回戦では盛岡市・盛岡鉄道局を伊藤一美右翼手の満塁本塁打を含む18安打で14点を奪い、白老町・大昭和北海道戦も細川の2試合連続本塁打などで降した。準々決勝は東京都・電電東京と対戦したが6回表を終わって4-0と大きくリードされながらその裏細川が回生の3試合連続本塁打を打ち込み、小林秀敏右翼手も同点2ラン。すっかり勢に乗って連打で大逆転に成功、準決勝に進んだ。

松永怜一監督が指揮をとる和歌山市・住友金属はエース山中正竹投手が健在。1回戦の横浜戦は山中投手自ら右翼本塁打を放つ活躍。続く東京都・リッカーマシン戦は右のエース宮崎寛が4安打完封。清水市・日本軽金属戦は山中が2安打完封でベスト4に進んだ。

3回目出場の川崎市・三菱自動車川崎は日本鋼管から古屋英雄投手、内藤博内野手、佐々木和美外野手、いすゞ自動車の永尾泰憲内野手らを補強、鈴木博昭二塁手の2打席連続本塁打などで北九州市・八幡製鉄を下し、岩国市・東洋紡には19歳の左腕・石川勝正投手に苦しみ抜きながらサヨナラ勝ち。熊本市・電電九州も井上圭一、池田善吾のリレーで零封した。

準決勝は浜松の新美が好投。船見信幸三塁手、小田一塁手の本塁打などで大垣を破り、川崎も古屋の好リリーフで和歌山を降した。

新鋭同士の決勝となったが、浜松は新美が13三振を奪って完封、初回到小田の先制2点二塁打などで3点を奪い川崎に快勝した。

橋戸賞は浜松・新美投手、久慈賞は川崎・池田投手、小野賞は大垣・細川外野手。

完封、零封試合が18。新美をはじめ、池田、山中、古屋、石川、柴田、戸塚隆(清水市・日本軽金属)ら好投手の多い大会だった。

常連チーム続々初戦敗退

本土復帰を記念して特別参加の沖縄の那覇市・オール那覇を含めて32チームが参加。初戦で前回優勝の新日鉄広畑(姫路市)を破った浜松市・日本楽器が20歳エース、新美敏の好投と補強の小田義人(大昭和製紙)植松清春(河合楽器)らの活躍で4回目の出場で初の優勝を果たした。

門真市・松下電器、大阪市・日本生命、東京都・熊谷組、横浜市・日本石油、北九州市・新日鉄八幡らの“常連”が1回戦で次々姿を

決勝

浜松市 (日本楽器)	3	0	0	0	0	1	0	0	0	4
川崎市 (三菱自動車川崎)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【浜松市】	打安点振球	【川崎市】	打安点振球
⑧ 山本原	4 0 0 1 0	⑤ 平谷	3 0 0 2 0
⑥ 榑船	3 0 0 1 1	H 5 渡内	0 0 0 0 1
⑤ 船小	4 2 2 0 0	⑥ 6 藤野	3 0 0 1 0
④ 7 植田	4 2 2 0 0	⑥ 6 菅野	1 0 0 0 0
④ 清	1 1 0 0 2	⑦ 7 佐野	2 0 0 1 1
⑦ 辻	0 0 0 0 1	⑧ 8 原田	1 0 0 1 0
⑨ 大場	2 0 0 1 0	⑧ 8 木井	3 2 0 1 1
② 大古	2 1 1 0 0	⑨ 9 川野	3 0 0 0 1
④ 4 義川	4 0 0 1 0	④ 4 鈴木	4 1 0 1 0
H 7 尾輪	2 1 0 0 0	③ 3 藤石	4 0 0 3 0
① 新美	2 0 0 0 0	② 2 松尾	3 1 0 0 0
	4 0 0 1 0	① 1 池田	1 0 0 1 0
	3 2 7 3 5 4	H 1 古	1 0 0 1 0
犠残盗失		H 1 井	0 0 0 0 0
0 5 0 0		上	1 0 0 0 0
投手 回	安振球責		0 0 0 0 0
新 美 9	4 1 3 4 0		0 0 0 0 0
			3 1 4 0 1 3 4

▽二塁打 船見 小田
▽2時間26分

犠残盗失	0 8 0 1
投手 回	安振球責
池田 古	5 5 4 2 2
井 上	3 2 0 2 1
	1 0 1 0 0

新美13奪三振、余裕の完封

浜松市・日本楽器は、緊張のほぐれない川崎市・三菱自動車川崎の池田を1回にとらえた。榑原が四球で歩くと、船見が左翼二塁打して二・三塁。すかさず小田が右中間に2点二塁打。敵失もあって3点をあげた。

池田にいつもの切れがなかったが、じっくりと見て好球必打した浜松の速攻はあざやかだった。

新美は味方打線の援護で余裕あるピッチング。外角低めへの速球のコントロールがよく、さしもの強打の川崎打線もつけ入るスキがなかった。

浜松は6回、小田の安打と死球でつくった一・二塁に、大場が救援の古屋から一・二塁



決勝戦。川崎の最後の打者を三振にうちとり初優勝。マウンドに駆け寄り喜び合う浜松・日本楽器ナインと応援団

間を破る適時打を放ち、新美のできからみて勝利を確定的にした。

川崎は9回、四球と原田、松田の安打で一死満塁とはじめてのチャンスを迎えたが、新美は落ちついた投打で2者を連続三振にうちとり、4安打散発、13奪三振で堂々の完封。

川崎としては池田が2回から立ち直つただけに、立ちあがりの乱れが痛かった。

適時打で2点をあげ、7回にも3点を加えて試合を決めたが、ただひとつのクラブ・チームで、恵まれない練習環境にもかかわらず力いっぱい試合だった。

後楽園から「沖縄の小学生に」と軟式ボール1000個、バット250本をプレゼントされ、国吉監督は大喜びだった。

復帰記念に那覇チーム招待

本土復帰を記念して沖縄から那覇市・オール那覇が招待され特別参加した。

1回戦で熊本市・電電九州と対戦。投手の花城は1回の一死から3連続三振を奪い、3回の二死一・二塁では右翼に飛んだ大飛球を新垣がフェンスにぶつかりながら好捕するなど、きびきびした動きはスタンドの拍手を浴びた。

前半は互角の戦い。熊本が6回今井、林の

M E M O

◇2打席連続本塁打 川崎市・三菱自動車川崎の鈴木博昭二塁手は1回戦の対北九州市・八幡製鉄戦の2回と4回に記録。

日立市・日立製作所の山田智千外野手は準々決勝の対浜松市・日本楽器戦で4回と6回に記録。史上5、6人目。

◇3試合連続本塁打 大垣市・西濃運輸の細川昌俊外野手は1回戦の盛岡市・盛岡鉄道局戦、2回戦の白老町・大昭和製紙北海道戦、準々決勝の東京都・電電東京戦で本塁打した。

第20回大会の福岡市・新留以来史上2人目。

◇連続本塁打 大垣市・西濃運輸の3番・細川昌俊中堅手、4番・林伸男左翼手が1回戦の対盛岡市・盛岡鉄道局の瀬戸投手から記録。史上3回目。

◇12号満塁本塁打 大垣市・西濃運輸の伊藤一美右翼手(トヨタ自動車から補強)は1回戦の対盛岡市・盛岡鉄道局の堀江投手から6回の一死満塁に左翼席に打ち込んだ。

◇1試合2本塁打 浜松市・日本楽器の船見信幸三塁手は2回戦の名古屋市・三菱名古屋戦で篠田、神吉投手から記録。史上10人目。

◇1大会最多無得点試合18 完封、零封あわせて18試合にのぼり、全31試合の過半数となった投手上位の大会だった。従来記録は第32、39、40大会の14試合。

◇毎回奪三振 浜松市・日本楽器の新美敏投手が2回戦の名古屋市・三菱名古屋戦で13三振を奪い達成。史上3人目。



川崎対熊本戦。4回川崎は一死三塁で石井がスクイズを試みたがウエストされ失敗。捕手・川越



パンタロンの水兵スタイルで応援する日本石油の女子リーダー

豪州からの2人を魅了

全豪州野球協会のボブ・ブラック事務局長、チーム・バシンスウエイト常任理事が7月30日後楽園球場を訪れ、和歌山市・住友金属対横浜市・日本石油戦を観戦した。

大会会長の山本光春毎日新聞社社長と並んだ2人は、カラフルな応援合戦に身を乗り出して興味を示し「こんな華やかな雰囲気なかで行われ、素晴らしい大会だ。豪州でも、ぜひ参考にしたい」と語っていた。

負けてもヒーロー19歳

6ゲームもあった1-0の試合のなかで、岩国市・東洋紡対川崎市・三菱自動車川崎は唯一の延長戦。サヨナラ負けを喫したとはいえ、175球を1人で投げ抜いた19歳の岩国・石川勝正投手の力投はファンの胸を打った。

宇部工を出た社会人2年目。川崎の古屋英雄（日本鋼管から補強）池田善吾と大学出の好投手を相手に、左腕独特のクセのある変化球を生かし、慎重なピッチングで強打の川崎を抑えた。

0が続いた10回裏、川崎は簡単に二死となった。しかし次の平凡な投ゴロを捕った石川は一塁へとんでもない高投。一挙に二塁に進んだ。174km/h。スリムな少年が疲労の極に近づきつつあるのは明らかだった。

一塁側の岩国応援団だけでなく一般のファンも、熱い視線で見守るなか、打者・藤井への初球、カーブがまん中に入り、打球は中前に抜けて、3時間3分の試合は終わった。

勝負の主役は藤井だったが、ドラマのヒーローは、この石川少年と、ファンの拍手はいつまでも続いていた。

忘れられない負けた口惜しさ

川崎市・三菱自動車川崎
池田善吾投手



昭和44年芝浦工大から三菱自動車川崎に入社。4回目の出場で久慈賞受賞。現役のあと2年間の監督を勤め、現在は同社トラックバス技術センター試作工務課主席。

あのころの川崎は、いすゞ自動車、東芝、コロンビア、日本鋼管、それにうちと、強いチームが顔を揃えていて、予選を勝ち、後楽園に出場するのが大変だった。

ルーキーで初出場、そのあと補強で2回。あの年は、私とロッテに行った井上圭一、近鉄で投げている村田辰美や熊谷仁と投手力で予選を勝ち、さらに鋼管の古屋英雄投手を補強、鋼管、東芝の打者も加わり、オール川崎のように充実していた。

1回戦に新日鉄八幡に完投勝ちしたあとリリーフで勝ちあがり、準決勝の住友金属戦も投げる気でしたら、熊谷の先発。「あつ、オレ

は決勝で投げるんだな」と思った。

前夜はいろいろ考えはしたが、別にプレッシャーはなかった。

とび抜けて力のある球があるわけではなく、いまでいうスクリーボールなのか、左腕からの沈む球が武器で、これには自信があったから、効果的に生かそうと思っていたが、マウンドにあかると「やってやる」の気持ちが強すぎて、制球力が全然ない。思ったところ、ボール1個以上違うところに球が飛ってしまう。あがっていたのではなく、いま考えてみると、気持ちだけが先走ってしまった反省がある。

1回の一死二・三塁で大昭和から補強の小田義人君と対した場面は、鮮明に覚えている。カウントが2-3となったあと、私は速球を投げた。見事にとらえられて右中間を破られたのか、といまでも悔いが残る。

初回の失点が響いて、最後までうちはベースを取り戻せなかった。久慈賞を受けたが、閉会式でアナウンスを聞いたとき「負けたのはオレのせい。みんなにすまない」の気持ちの方が強かった。せつかくのチャンスだったのに、負けた口惜しさは忘れられない。

1回戦

浜松市 (日本楽器)									
1	0	0	0	0	2	0	0	3	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新日鉄八幡 (推薦・姫路市)									

【浜松市】	打安点	【新日鉄八幡】	打安点
⑧ 山本 原見	400	⑥ 小永 玉野	420
⑥ 船橋 船	310	⑦ 青野 泉	100
⑤ 辻 田	311	H7 斎藤 佐	410
⑦ 小大 田	400	④ 斎藤 藤	500
③ 古 大	410	⑧ 斎藤 原	400
② 古 大	410	⑨ 斎藤 中	200
④ 古 大	311	② 青井 明	420
① 新美 美	311	⑤ 板橋 東	200
	317.3	③ 桃村 上	100
振球機盗失残併		① 久松 保	100
2	2	0	0
0	3	1	0
3	1	3	0
投 手	回	安責	1
新 美	9	80	H 1
			H 1
			R

振球機盗失残併			
8	5	1	2
1	1	1	1
投 手	回	安責	
▽三塁打	柳原	青井明	
▽二塁打	古川	養輪	
▽2時間	32分		
		村上 久野	
		手 上 保 邑	
		6	3
		6	3
		2	0
			0

1回戦

名古屋市 (三菱名古屋)									
0	0	0	0	0	0	0	1	1	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	
札幌市 (電電北海道)									

【名古屋市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑥ 光 岡	410	⑨ 高 山	410
⑧ 園 田	200	⑥ 谷 田	400
H7 前 小	110	⑧ 古 川	400
⑦8 小 川	410	③ 古 川	300
⑤ 織 田	311	② 村 井	300
⑨ 伊 藤	400	⑦ 英 井	310
③ 伊 堀	300	⑤ 白 井	310
3 松 並	000	④ 朝 倉	300
④ 塚 松	300	① 菊 池	210
② 塩 本	300	H 柳 日	100
① 篠 田	300		304.0

振球機盗失残併			
7	2	0	0
1	4	0	3
投 手	回	安責	
篠 田	9	40	
▽二塁打	前田 織田	▽1時間	52分

1回戦

日上市 (日立製作所)									
0	0	0	0	0	0	2	0	2	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大阪市 (電電近畿)									

【日上市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑧ 山 田	532	⑨ 前 田	200
⑨ 四 至	500	H9 森 井	210
② 内 本	410	④ 長 川	400
⑦ 小 野	410	⑤ 田 川	310
③ 岡 安	200	③ 原 中	300
H5 岡 田	200	⑦ 原 藤	300
⑤ 加 藤	200	⑧ 原 藤	210
H 小 山	100	8 本 本	100
⑥ 本 村	000	H 方	000
H 6 奥 村	100	⑥ 柴 原	310
① 高 田	100	② 柴 原	200
H 1 高 木	100	H 和 加	100
① 佐 藤	110	① 和 加	200
④ 橋 本	410	1 納 辺	000
	337.2	H 渡	000

振球機盗失残併			
9	4	1	2
0	1	0	2
投 手	回	安責	
高 藤	6	30	
佐 藤	3	10	
振球機盗失残併			
5	0	1	0
0	1	0	2
投 手	回	安責	
和 加	8	5	2
和 加	1	2	0
▽本塁打	山田1号②	(和田)	▽2時間36分

1回戦

門真市 (松下電器)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
和光市 (本田技研)		0 0 0 0 0 0 0 0 1 X 1	

【門真市】	打安点	【和光市】	打安点
④ 宮井	4 1 0	⑦ 丹下	2 0 0
⑤ 米田	2 0 0	⑧ 井丸	2 1 0
③ 松下	4 1 0	⑨ 土山	3 0 0
② 内田	4 0 0	⑩ 高氏	3 1 1
① 下吉	2 1 0	⑪ 杉中	0 0 0
H 阿部	4 1 0	⑫ 杉山	4 0 0
H 高橋	3 0 0	⑬ 成山	4 0 0
H 福越	1 1 0	⑭ 成田	3 1 0
H 西村	3 0 0	⑮ 山本	3 3 0
H 石井	1 0 0	⑯ 藤本	3 0 0
H 吉村	0 0 0	⑰ 加藤	1 0 0
H 石井	3 0 0	⑱ 清	1 0 0
H 島	1 0 0		

振球機盗失残併	325 0	振球機盗失残併	296 1
7 3 1 0 1 9		1 3 0 1 0 8	
投手回安責	8 6 0	投手回安責	9 5 0
投捕間	8	投捕間	9
▽三壘打	片山	▽二時間	36分

1回戦

大垣市 (西濃運輸)		2 0 0 2 0 7 0 0 3 14	
盛岡市 (盛岡鉄道局)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

【大垣市】	打安点	【盛岡市】	打安点
⑥ 祖父江	6 1 1	⑥ 赤平	1 1 0
④ 木川	6 4 4	⑦ 佐々木	2 0 0
③ 青細	3 2 2	⑧ 藤沼	4 1 0
H 寺本	1 0 0	⑨ 藤原	4 1 0
H 西田	1 0 0	⑩ 藤原	4 0 0
⑦ 本林	0 0 0	⑪ 藤原	2 0 0
⑧ 林	5 1 1	⑫ 藤原	1 0 0
⑨ 伊藤	3 1 4	⑬ 藤原	4 1 0
⑧ 藤原	1 0 0	⑭ 藤原	3 1 0
⑦ 藤原	4 0 0	⑮ 藤原	3 0 0
H 江中	1 1 0	⑯ 藤原	0 0 0
H 今中	3 2 0	⑰ 藤原	1 0 0
① 小林	3 1 0	⑱ 藤原	1 0 0
H 小林	0 0 0	⑲ 藤原	1 0 0
H 柴田	1 1 0	⑳ 藤原	0 0 0
H 柴田	5 4 2	㉑ 藤原	0 0 0
⑤ 柴田	4 2 1 8 1 4	㉒ 藤原	0 0 0

振球機盗失残併	370 3 0 8	振球機盗失残併	315 0
投手回安責	6 4 0	投手回安責	2 3 2 6
投捕間	6	投捕間	2
小林国	3	投捕間	3
柴田	3	投捕間	3
▽本壘打	細川1号(瀬戸)	▽二壘打	青木2 新沼
伊藤1号	④(堀江)	▽二壘打	青木2 新沼
▽二時間	47分		

1回戦

松山市 (電電四国)		2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2	
白老町 (大昭和製紙北海道)		0 0 0 1 0 0 0 1 0 1 3	

【松山市】	打安点	【白老町】	打安点
⑦ 渡辺	3 0 0	⑧ 谷木	4 2 0
④ 原	1 0 0	⑨ 藤本	3 0 0
H 石松	1 0 0	⑩ 藤本	4 1 0
H 景岡	0 0 0	⑪ 藤本	3 1 1
H 岡野	1 0 0	⑫ 藤本	3 0 0
H 野弘	0 0 0	⑬ 藤本	1 1 0
⑤ 浦山	4 1 0	⑭ 藤本	3 0 0
③ 山下	4 0 0	⑮ 藤本	3 1 0
② 武谷	4 1 1	⑯ 藤本	2 0 0
① 武谷	4 2 0	⑰ 藤本	1 1 1
H 藤	4 0 0	⑱ 藤本	1 1 1
H 藤	3 1 0	⑲ 藤本	2 0 0
H 河野	2 0 0	⑳ 藤本	2 0 0
H 三宮	0 0 0	㉑ 藤本	1 0 0
H 三宮	0 0 0	㉒ 藤本	1 0 0

振球機盗失残併	315 1	振球機盗失残併	318 3
9 1 2 0 1 2		5 2 2 0 1 2	
投手回安責	8 6 1	投手回安責	8 4 0
投捕間	8	投捕間	2
久三	1	投捕間	2
三宮	1	投捕間	2
▽二壘打	谷木	▽二時間	25分

1回戦

東京都 (電電東京)		0 0 2 0 0 0 0 0 1 3	
大阪市 (日本生命)		0 0 0 0 1 0 0 0 1 2	

【東京都】	打安点	【大阪市】	打安点
⑨ 上田	3 0 0	⑥ 須見	3 1 1
⑧ 梅原	3 1 0	⑦ 嶋竹	4 0 0
⑦ 梅原	4 1 2	⑧ 須加	4 0 0
⑥ 梅原	3 0 0	⑨ 須加	3 0 0
⑤ 梅原	3 0 0	⑩ 須加	4 1 0
④ 梅原	4 3 0	⑪ 須加	4 1 1
③ 梅原	3 0 0	⑫ 須加	2 0 0
② 梅原	2 0 0	⑬ 須加	1 0 0
① 梅原	1 0 0	⑭ 須加	1 0 0
H 梅原	3 0 0	⑮ 須加	1 0 0
H 梅原	2 0 0	⑯ 須加	0 0 0
H 梅原	1 0 0	⑰ 須加	1 1 0
H 梅原	1 0 0	⑱ 須加	1 1 0
H 梅原	1 0 0	⑲ 須加	1 1 0

振球機盗失残併	295 3	振球機盗失残併	304 2
4 3 1 1 0 3		5 3 1 1 0 5	
投手回安責	5 3 1	投手回安責	7 4 2
投捕間	5	投捕間	7
内田	4	投捕間	2
▽本壘打	梅原1号②(利光)	▽二壘打	西田 須見
(内田)	▽三壘打	橋爪	▽二時間
橋爪	▽二時間		

1回戦

東京都 (熊谷組)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)		0 1 2 0 0 0 0 0 X 3	

【東京都】	打安点	【鈴鹿市】	打安点
⑧ 伊藤	4 2 0	⑦ 西田	4 0 0
⑨ 伊藤	4 1 0	⑧ 西田	4 2 0
⑤ 伊藤	4 1 0	⑨ 西田	4 3 2
④ 伊藤	4 0 0	⑩ 西田	4 1 0
③ 伊藤	3 0 0	⑪ 西田	4 1 0
H 伊藤	0 0 0	⑫ 西田	3 0 0
H 伊藤	2 0 0	⑬ 西田	2 0 0
H 伊藤	1 0 0	⑭ 西田	2 1 1
H 伊藤	3 0 0	⑮ 西田	3 1 0
H 伊藤	1 0 0	⑯ 西田	3 0 8 3
H 伊藤	1 0 0	⑰ 西田	3 0 8 3
H 伊藤	1 0 0	⑱ 西田	3 0 8 3
H 伊藤	1 0 0	⑲ 西田	3 0 8 3
H 伊藤	1 0 0	⑲ 西田	3 0 8 3

振球機盗失残併	326 0	振球機盗失残併	308 3
5 2 0 2 0 7		7 1 1 1 0 5	
投手回安責	6 3 0	投手回安責	9 6 0
久保田	2	投捕間	9
工藤	4	投捕間	6
林	1	投捕間	0
▽本壘打	島津1号	▽二壘打	安田1号②
(久保田)	安田1号②	(久保田)	▽二時間
(久保田)	▽二時間	15分	

1回戦

清水市 (日本軽金属)		0 0 0 1 0 0 0 1 0 2	
高砂市 (鐘淵化学)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

【清水市】	打安点	【高砂市】	打安点
⑦ 田谷	3 1 0	⑥ 岡田	4 1 0
⑤ 田谷	4 1 0	⑦ 岡田	4 0 0
④ 田谷	3 0 0	⑧ 岡田	4 0 0
③ 田谷	2 0 0	⑨ 岡田	3 3 0
② 田谷	1 1 0	⑩ 岡田	2 0 0
H 田谷	4 1 1	⑪ 岡田	3 1 0
H 田谷	3 0 0	⑫ 岡田	3 0 0
H 田谷	4 0 0	⑬ 岡田	2 0 0
H 田谷	2 0 0	⑭ 岡田	1 0 0
H 田谷	4 1 0	⑮ 岡田	1 0 0
H 田谷	2 0 0	⑯ 岡田	1 0 0
H 田谷	1 0 0	⑰ 岡田	0 0 0
H 田谷	1 0 0	⑱ 岡田	0 0 0

振球機盗失残併	371 2 0 9	振球機盗失残併	295 0
3 7 1 2 0 9		3 1 0 0 1 1	
投手回安責	9 5 0	投手回安責	5 3 0
田谷	9	投捕間	3
塚	9	投捕間	5
▽本壘打	陽田1号(波)	▽二壘打	大河
(波)	▽二壘打	大河	▽二時間
(波)	▽二時間	14分	

1回戦

神戸市 (小西酒造)		0 1 0 0 0 0 0 0 0 1	
諏訪市 (三協精機)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

【神戸市】	打安点	【諏訪市】	打安点
⑧ 高田	4 1 0	④ 内野	4 2 0
③ 高田	4 0 0	⑤ 内野	1 1 0
⑦ 高田	4 2 0	⑥ 内野	3 0 0
⑨ 高田	3 0 0	⑦ 内野	3 1 0
⑤ 高田	0 0 0	⑧ 内野	3 0 0
④ 高田	2 0 0	⑨ 内野	4 0 0
② 高田	4 1 0	⑩ 内野	2 0 0
① 高田	2 1 1	⑪ 内野	2 0 0
H 高田	1 0 0	⑫ 内野	2 1 0
H 高田	3 0 0	⑬ 内野	1 0 0
H 高田	3 0 0	⑭ 内野	0 0 0
H 高田	2 7 5 1	⑮ 内野	0 0 0

振球機盗失残併	275 1	振球機盗失残併	285 0
1 3 3 1 0 5		2 3 3 5 0 7	
投手回安責	9 5 0	投手回安責	7 4 1
手林	9	投捕間	7
安責	5 0	投捕間	2
▽二時間	10分	▽二時間	11分

1回戦

東京都 (リッカーマシン)		0 0 2 0 0 0 0 0 0 2	
岡山市 (クラレ岡山)		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

【東京都】	打安点	【岡山市】	打安点
④ 馬場	3 0 0	④ 吉田	4 2 0
⑥ 馬場	4 0 0	⑤ 吉田	4 3 0
⑨ 馬場	4 1 2	⑥ 吉田	4 0 0
③ 馬場	4 2 0	⑦ 吉田	4 1 0
⑦ 馬場	3 1 0	⑧ 吉田	4 0 0
⑧ 馬場	4 0 0	⑨ 吉田	4 2 0
⑤ 馬場	2 0 0	⑩ 吉田	3 2 0
② 馬場	3 0 0	⑪ 吉田	2 0 0
① 馬場	3 1 0	⑫ 吉田	1 0 0
H 馬場	3 0 5 2	⑬ 吉田	0 0 0
H 馬場	3 0 5 2	⑭ 吉田	2 0 0
H 馬場	3 0 5 2	⑮ 吉田	1 0 0
H 馬場	3 0 5 2	⑯ 吉田	0 0 0
H 馬場	3 0 5 2	⑰ 吉田	0 0 0

振球機盗失残併	412 0 0 4	振球機盗失残併	3310 0
4 1 2 0 0 4		2 0 0 0 0 6	
投手回安責	9 10 0	投手回安責	7 5 2
安藤	9	投捕間	7
安藤	9	投捕間	2
▽本壘打	竹之内1号②	▽二壘打	坂原
(松浦)	▽二壘打	坂原	▽二時間
(松浦)	▽二時間	25分	(中断52分)

1回戦

和歌山市 (住友金属)		2 1 0 0 0 0 0 0 0 3	
横浜市 (日本石油)		0 0 0 0 0 0 1 0 1	

【和歌山市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑥ 林高	3 0 0	⑤ 井月	4 0 0
⑤ 林高	4 2 0	⑥ 井月	3 0 0
⑧ 林高	2 0 0	⑦ 井月	1 0 0
③ 林高	4 2 0	⑧ 井月	4 1 0
② 林高	4 1 2	⑨ 井月	4 1 0
⑨ 林高	4 2 0	⑩ 井月	3 0 0
⑦ 林高	2 0 0	⑪ 井月	3 0 0
H 林高	1 0 0	⑫ 井月	3 1 0
H 林高	1 0 0	⑬ 井月	2 0 0
H 林高	4 0 0	⑭ 井月	1 0 0
H 林高	4 1 1	⑮ 井月	0 0 0
H 林高	3 3 8 3	⑯ 井月	2 0 0
H 林高	3 3 8 3	⑰ 井月	1 1 1
H 林高	3 3 8 3	⑱ 井月	0 0 0

振球機盗失残併	540 1 2 7	振球機盗失残併	314 1
5 4 0 1 2 7		5 0 0 0 0 3	
投手回安責	9 4 0	投手回安責	6 4 3
山中	9	投捕間	6
山	9	投捕間	4
▽本壘打	山中1号	▽二壘打	三浦
(三浦)	▽三壘打	三浦	▽二時間
(三浦)	▽二時間	16分	

1 回戦

熊本市 (電電九州)

0 0 0 0 0 2 3 0 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

那覇市 (オール那覇)

Table with columns for [熊本市] and [那覇市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 400013
投手回安責 投手回安責
投手回安責 投手回安責

1 回戦

京都市 (全大丸)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
1 0 0 0 0 0 0 1 X | 2

仙台市 (電電東北)

Table with columns for [京都市] and [仙台市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 433113
投手回安責 投手回安責

1 回戦

横須賀市 (日産自動車)

0 1 1 0 0 0 0 0 0 | 2
2 1 0 0 0 0 0 0 X | 3

岩国市 (東洋紡)

Table with columns for [横須賀市] and [岩国市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 641208
投手回安責 投手回安責

1 回戦

川崎市 (三菱自動車川崎)

0 1 0 3 0 0 3 0 0 | 7
0 0 0 1 0 0 0 0 1 | 2

北九州市 (新日鉄八幡)

Table with columns for [川崎市] and [北九州市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 161249
投手回安責 投手回安責

▽本塁打 鈴木1号 (後藤) 2号② (後藤)
▽二塁打 五井 門川
▽2時間46分

2 回戦

日立市 (日立製作所)

0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

和光市 (本田技研)

Table with columns for [日立市] and [和光市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 430026
投手回安責 投手回安責

2 回戦

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 X | 1

東京都 (電電東京)

Table with columns for [鈴鹿市] and [東京都], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 702205
投手回安責 投手回安責

2 回戦

浜松市 (日本楽器)

0 0 2 0 0 1 0 5 4 | 12
0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2

名古屋市 (三菱名古屋)

Table with columns for [浜松市] and [名古屋市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 512107
投手回安責 投手回安責

▽本塁打 船見1号 (篠田) 2号 (神吉) 古川
1号 (神吉)
▽二塁打 新美2 織田 阪口
柳原 伊藤
▽2時間38分

2 回戦

大垣市 (西濃運輸)

0 0 2 0 3 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 3 0 0 0 0 | 3

白老町 (大昭和製紙北海道)

Table with columns for [大垣市] and [白老町], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 635009
投手回安責 投手回安責

2 回戦

神戸市 (小西酒造)

0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 1 0 0 0 0 0 1 | 2

清水市 (日本軽金属)

Table with columns for [神戸市] and [清水市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 411014
投手回安責 投手回安責

和歌山市 (住友金属)

0	0	0	1	0	1	0	0	1	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東京都 (リッカーマシン)

【和歌山市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥ 林 正	4 2 0	④ 馬 場	3 0 0
⑦ 高 瀨	2 0 0	⑤ 山下	4 0 0
⑧ 高 田	3 1 2	⑥ 青竹	4 2 0
③ 島 谷	4 0 0	⑦ 中之	3 0 0
③ R	0 0 0	⑧ 五中	2 0 0
⑦ 7	0 0 0	⑨ 前富	1 0 0
② ②	4 1 1	⑩ 富橋	0 0 0
⑨ ⑨	2 0 0	⑪ 本幸	2 0 0
⑦ ⑦	3 0 0	⑫ 村地	1 1 0
H 3	0 0 0	⑬ 石野	0 0 0
④ ④	3 1 0	⑭ 大石	3 0 0
① ①	3 1 0	⑮ 大野	2 0 0

振球機盗失残併 286 3

投手回安責 4 0

▽本塁打 中村▽二塁打 林正 石村▽2時間2分

日立市 (日立製作所)

0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
0	1	0	0	0	0	0	1	1	3

浜松市 (日本楽器)

【日立市】	打安点	【浜松市】	打安点
⑧ 山 田	4 2 2	⑧ 山 本	4 1 0
⑨ 四 本	3 0 0	⑥ 山 本	4 1 0
H 9	1 0 0	⑤ 山 船	3 1 0
② ②	4 1 0	⑦ 辻	4 1 1
⑦ ⑦	3 0 0	③ 辻	4 2 0
③ ③	3 0 0	⑨ 小 田	2 2 1
⑤ ⑤	3 0 0	② 小 寺	3 0 0
⑥ ⑥	3 0 0	④ 小 古	3 1 1
① ①	3 0 0	① 植 古	2 0 0
④ ④	3 0 0	H 1	1 1 0

振球機盗失残併 303 2

投手回安責 7 2 1

▽本塁打 山田2号、3号(新美) 植松1号(佐藤)▽2時間6分

熊本市 (電電九州)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	1	2	0	0	0	×	4

川崎市 (三菱自動車川崎)

【熊本市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑦ 岡 井	4 1 0	⑤ 平 内	4 1 0
④ 村 今	3 1 0	⑥ 谷 藤	4 1 0
H 4	0 0 0	⑦ 矢 内	4 1 1
⑨ 9	0 0 0	⑧ 細 原	4 0 0
H 9	2 0 0	④ ④	3 3 1
⑥ ⑥	1 0 0	⑦ ⑦	3 2 1
⑧ ⑧	3 0 0	② ②	1 0 0
H 8	0 0 0	① ①	2 0 1
③ ③	2 0 0	H 1	2 0 0
⑤ ⑤	1 0 0	① ①	1 0 0
H 1	1 0 0	H 1	1 0 0
H 1	0 0 0	① ①	0 0 0
② ②	3 1 0	① ①	3 1 0

振球機盗失残併 283 0

投手回安責 5 7 4

▽二塁打 松田 平谷 鈴木▽2時間16分

熊本市 (電電九州)

1	0	0	0	1	0	0	0	3
0	1	0	0	0	0	0	0	1

仙台市 (電電東北)

【熊本市】	打安点	【仙台市】	打安点
⑦ 村 岡	4 1 0	④ 岩 井	4 0 0
④ ④	3 0 1	⑤ 谷 藤	4 1 0
⑨ ⑨	4 1 0	⑥ 藤 田	2 1 0
⑨ ⑨	0 0 0	⑦ 齋 藤	3 1 1
⑤ ⑤	3 1 1	⑧ 齋 藤	3 0 0
⑥ ⑥	4 1 0	⑨ 針 生	1 0 0
6 6	0 0 0	⑩ 佐 藤	2 0 0
③ ③	3 0 0	⑤ ⑤	2 1 0
① ①	4 1 1	② ②	3 0 0
H 1	1 0 0	H 1	1 0 0
H 1	1 0 0	H 1	1 0 0
② ②	2 0 0	H 1	0 0 0
② ②	4 3 0	H 1	0 0 0

振球機盗失残併 338 3

投手回安責 4 1 1

▽本塁打 吉田1号(長嶺) 杉坂1号(森) 二塁打 福園▽2時間24分

東京市 (電電東京)

0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
0	0	0	0	0	5	0	0	×	5

大垣市 (西濃運輸)

【東京市】	打安点	【大垣市】	打安点
⑨ 上 田	4 2 1	⑥ 祖 父	4 1 0
④ ④	4 0 0	④ 青 木	4 0 0
⑥ ⑥	4 0 0	⑧ 青 木	4 1 2
⑧ ⑧	4 1 0	⑦ 林 秀	2 0 0
③ ③	4 1 0	⑨ 藤 村	4 2 2
⑤ ⑤	4 3 2	③ 小 江	3 1 0
H 7	0 0 0	② 小 林	4 2 1
⑦ ⑦	1 0 0	① 今 村	1 0 0
H 1	3 1 0	H 1	1 0 0
H 1	0 0 0	⑤ 中 柴	1 0 0
② ②	2 0 1	⑤ 長 島	3 0 0
H ②	1 0 0	⑤ ⑤	3 1 7 5
H ②	1 0 0	振球機盗失残併	3 3 0 2 1 5
H ②	1 0 0	投手回安責	3 5 2
H ②	3 3 8 4	柴 田	4 3 1

振球機盗失残併 101 2 3 0 5

投手回安責 5 3 3

▽本塁打 細川3号②(内田) 小林秀1号②(渡辺) 三塁打 祖父江▽二塁打 今村 横川▽2時間36分

浜松市 (日本楽器)

2	0	1	0	0	0	0	0	3	6
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

大垣市 (西濃運輸)

【浜松市】	打安点	【大垣市】	打安点
⑧ 山 本	3 1 0	⑥ 祖 父	4 1 0
⑥ ⑥	3 1 0	④ 青 木	3 0 0
⑤ ⑤	3 2 2	⑦ 青 木	4 1 0
⑦ ⑦	5 0 0	⑧ 林 秀	4 1 0
③ ③	5 2 3	⑨ 藤 村	4 1 1
⑨ ⑨	3 1 0	③ 小 江	2 0 0
H 9	1 0 0	② 小 林	1 0 0
② ②	4 1 0	① 今 村	4 0 0
④ ④	3 0 0	① ①	0 0 0
H 4	1 0 0	H 1	3 0 0
H 4	0 0 0	H ⑤	3 2 0
① ①	4 0 0	⑤ ⑤	3 2 6 1

振球機盗失残併 348 5

投手回安責 9 6 1

▽本塁打 船見3号②(小林国) 小田1号③(柴田) 三塁打 小林秀▽2時間32分

岩国市 (東洋紡)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

川崎市 (三菱自動車川崎)

【岩国市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑨ 山 口	0 0 0	⑤ 平 内	5 2 0
H 9	2 1 0	⑥ 谷 藤	4 2 0
H 3	1 0 0	⑦ 松 田	2 0 0
④ ④	3 1 0	⑧ 矢 内	2 0 0
③ ③	4 0 0	⑨ 細 原	4 1 0
⑧ ⑧	3 0 0	④ ④	2 0 0
⑤ ⑤	4 0 0	⑦ ⑦	2 0 0
⑦ ⑦	3 2 0	⑧ ⑧	2 1 0
R 7	0 0 0	③ ③	4 1 1
② ②	1 0 0	② ②	4 1 0
⑦ ⑦	3 0 0	① ①	4 1 0
① ①	3 2 0	H 1	2 0 0
⑥ ⑥	3 0 0	H 1	2 0 0

振球機盗失残併 306 0

投手回安責 9 8 0

▽二塁打 石井▽3時間3分

和歌山 (住友銀行)

2	0	0	0	0	0	0	2	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0

清水市 (日本軽金属)

【和歌山市】	打安点	【清水市】	打安点
⑥ 林 正	5 0 0	⑦ 田 谷	4 1 0
⑤ ⑤	5 2 0	④ 岩 寺	2 0 0
⑧ ⑧	4 1 0	H 3	1 0 0
③ ③	0 0 0	③ ③	3 0 0
H 3	4 1 1	H ②	1 0 0
② ②	3 0 1	② ②	4 1 0
⑨ ⑨	4 2 1	⑥ ⑥	2 0 0
⑦ ⑦	2 0 0	H 4	0 0 0
H 7	1 0 0	⑤ ⑤	0 0 0
④ ④	1 0 0	H 5	0 0 0
⑦ ⑦	2 1 0	① ①	2 0 0
④ ④	3 1 1	H 1	0 0 0
① ①	3 4 8 4	H 1	0 0 0

振球機盗失残併 322 1 1 7

投手回安責 9 2 0

▽本塁打 鈴木1号(吉田) 三塁打 鈴木 木 古屋1号③(京田) 二塁打 京田 山吉▽2時間26分

和歌山市 (住友金属)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	1	3	0	0	0	0	×	5

川崎市 (三菱自動車川崎)

【和歌山市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 林 正	3 0 0	⑤ 平 内	4 0 0
⑤ ⑤	4 0 0	⑥ 谷 藤	4 1 0
⑧ ⑧	4 2 0	⑦ 永 安	0 0 0
③ ③	2 0 0	⑧ 井 田	2 1 0
H ②	1 0 0	⑨ 原 松	3 0 1
② ②	4 1 0	④ ④	4 1 0
⑨ ⑨	4 1 0	⑦ ⑦	3 1 0
⑦ ⑦	2 0 0	⑧ ⑧	1 0 0
① ①	1 0 0	③ ③	2 1 0
④ ④	3 1 0	② ②	2 0 1
① ①	1 0 0	H 1	0 0 0
H 1	0 0 0	H 1	1 1 0
H 7	2 0 0	H 1	2 1 3

振球機盗失残併 315 0

投手回安責 3 2 0 2 1 6

▽本塁打 古屋1号③(宮崎) 二塁打 藤井 松田▽2時間20分

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (日本楽器). Includes names like 川池新富, 島谷公二, 勝野三郎, etc.

白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Shiraoi Town (大昭和製紙北海道). Includes names like 安藤三野, 喜春31, 沼津東高, etc.

大和町

(本田技研)

Table listing names and numbers for Yamato Town (本田技研). Includes names like 昭人30, 河本白, 賀津電, etc.

川崎市

(三菱自動車川崎)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (三菱自動車川崎). Includes names like 政工郷原, 法芝明六, 勝善仁, etc.

推薦・姫路市

(新日本製鉄広畑)

Table listing names and numbers for Recommended - Himeji City (新日本製鉄広畑). Includes names like 三村久村, 保上田, 久村前野, etc.

盛岡市

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for Morioka City (盛岡鉄道局). Includes names like 齋藤井木, 齋藤茂, 齋藤清, etc.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo (熊谷組). Includes names like 西保島, 大久保, 西保島, etc.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City (日本石油). Includes names like 慶防早秋, 秀利恒健, 秀利恒健, etc.

那覇市

(オール那覇)

Table listing names and numbers for Naha City (オール那覇). Includes names like 吉開城, 正真武, 正真武, etc.

仙台市

(電電東北)

Table listing names and numbers for Sendai City (電電東北). Includes names like 昭八功, 昭八功, 昭八功, etc.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo (電電東京). Includes names like 久田多, 久田多, 久田多, etc.

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka City (日産自動車). Includes names like 所院宮口, 所院宮口, 所院宮口, etc.

札幌市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City (電電北海道). Includes names like 高柳野, 光俊謙, 光俊謙, etc.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Niigata City (日立製作所). Includes names like 神佐山, 神佐山, 神佐山, etc.

東京都

(リッカーシン)

Table listing names and numbers for Tokyo (リッカーシン). Includes names like 木沢屋, 木沢屋, 木沢屋, etc.

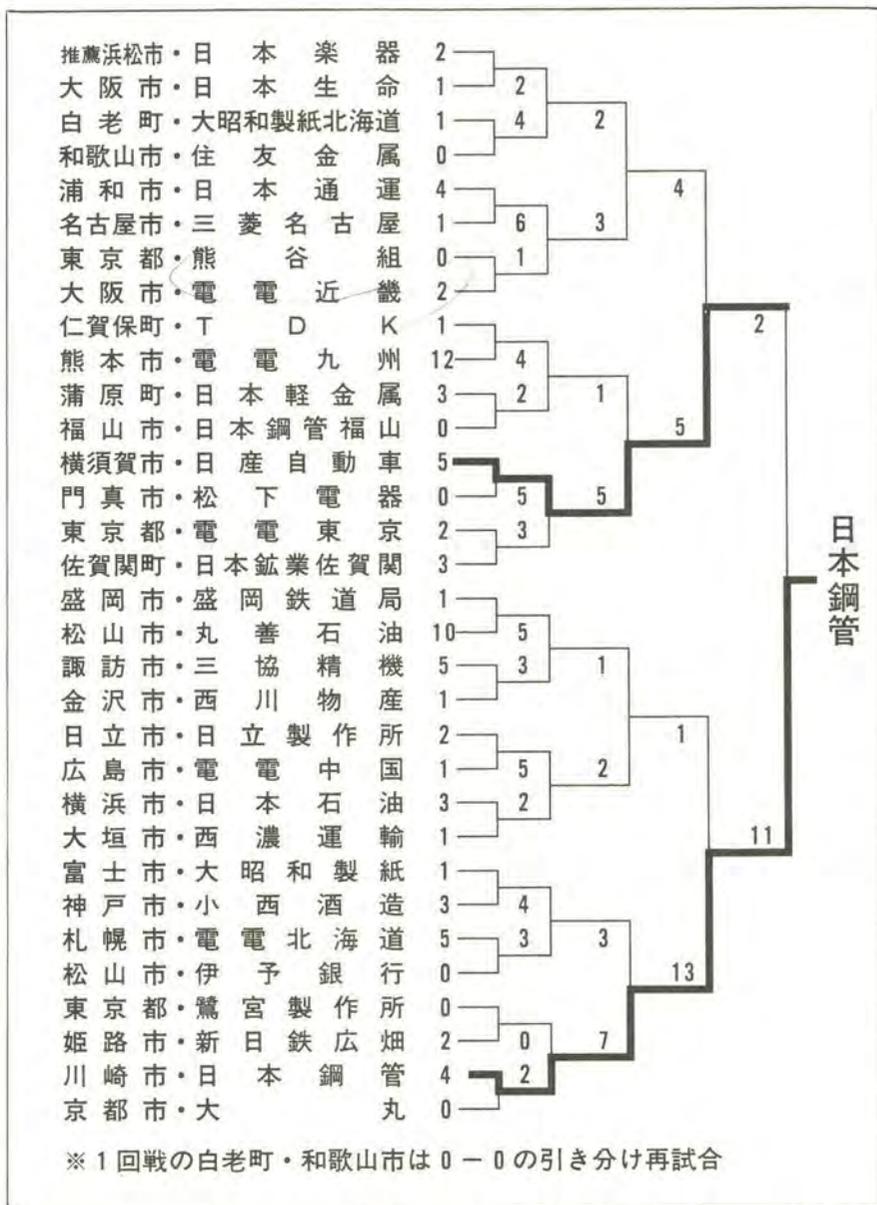
清水市

(日本軽金属)

Table listing names and numbers for Shimizu City (日本軽金属). Includes names like 中村戸, 中村戸, 中村戸, etc.

第44回大会

1973年(昭和48年)7月27日-8月7日・後樂園球場
優勝=川崎市・日本鋼管



下馬評の高かったチームが早々と姿を消していった。山中正竹、山本亮一両投手を擁し、鐘淵化学からの補強で打力もアップした和歌山・住友金属は1回戦で白老町・大昭和製紙北海道に引き分け再試合の未敗れ、今大会一といわれた剛腕・山口高志投手が加わった門真市・松下電器も、横須賀の打力の前につまづいた。東京勢の熊谷組、電電東京、鷺宮製作所は1回戦でいずれも敗退。第35回大会に東京から3チーム出場するようになってから、初めての屈辱だった。

2回戦で前年優勝の日本楽器が白老の我喜屋優中堅手の3点本塁打で沈むと、同じ日に山静勢の富士市・大昭和製紙、蒲原町・日本軽金属も揃って“沈没”。横浜市・日本石油、諏訪市・三協精機も2回戦の壁を破れなかった。

準決勝は浦和が横須賀の藤田康夫、長谷川勉投手を攻め、6回に逆転、8回にも1点を加えたが、粘りの横須賀は8回に須藤和彦捕手、信賞明一塁手の連安打で無死一・三塁とした。浦和の佐藤昭投手も懸命な投球で二死を取ったが、代打・紺野功が三塁線を破り同点。さらに9回杉山博右翼手の二塁打から二死一・二塁とし、田中久幸二塁手が左中間を破る殊勲の二塁打でサヨナラ勝ちした。

川崎は打線が日立・佐藤博投手をスタートからとらえ、1回に福崎克彦二塁手(いすゞ自動車から補強)、鈴木博昭三塁手(三菱自動車川崎から補強)の快打に宇賀山徹一塁手の本塁打などで4点をあげ、3回にも宇賀山の2打席連続本塁打などで3点と試合を一方的にした。古屋智史(旧英雄)、上岡誠二両投手も好投、山田智千中堅手、櫛田博通三塁手、小野寺重之左翼手らで固めた日立打線を1点に抑え切った。

決勝も川崎打線は横須賀5投手に15安打を浴せ大勝した。

全員が打ちまくった川崎だけに橋戸賞の選考は困難をきわめた。宇賀山、鈴木両選手の間で激論が続き、結局橋戸賞は宇賀山一塁手、鈴木三塁手には特別賞が贈られた。久慈賞は横須賀市・須藤和彦捕手、小野賞は川崎市・内藤博遊撃手が受賞した。この年から新人で目覚ましい活躍をした選手に若獅子賞が新設され、白老町・中山俊之投手が受賞した。

首都圏ドーナツ型4強決戦

優勝候補にあげられた強豪が早々と姿を消していくなか、ベスト4に進出したのが浦和市・日本通運、横須賀市・日産自動車、川崎市・日本鋼管、日立市・日立製作所。「首都圏ドーナツ型現象」だったが、神奈川県同士の対戦となった川崎と横須賀の決勝は、川崎が看板のハガネ打線の威力を発揮して快勝、川崎市に初の黒獅子旗をもたらすとともに、日本鋼管が初優勝した。

川崎市 (日本鋼管)
0 0 0 3 1 0 2 5 0 | 11
0 0 0 0 2 0 0 0 0 | 2
横須賀市 (日産自動車)

【川崎市】	打安点振球	【横須賀市】	打安点振球
⑧ 7	細内 矢 2 0 0 1 2	⑨	杉山 3 1 2 0 1
⑥	藤崎 3 2 1 0 2	⑦	常世 3 0 0 2 0
④	内福 5 3 2 1 0	H	紺野 1 0 0 0 0
③	鈴木博 4 2 2 2 0	1	磯口 0 0 0 0 0
⑤	宇賀山 3 1 2 1 1	1	院 0 0 0 0 0
⑦	佐々木 4 1 2 0 0	④	田中 4 1 0 0 0
8	鈴木育 0 0 0 0 0	②	藤田 4 0 0 1 0
②	鈴木育 5 3 0 0 0	2	田中 0 0 0 0 0
③	中松古 5 2 2 0 0	③	石倍 4 1 0 1 0
①	松古池 2 0 0 0 1	⑤ 6	丸進 4 1 0 0 0
1	古池秋 1 1 0 0 0	⑥	美進 1 0 0 0 0
H	上岡 1 0 0 0 0	5	村長 2 1 0 0 0
1		H	島本 1 0 0 0 0
		①	長谷川 0 0 0 0 0
		H	井田 1 0 0 1 0
		1	田中 0 0 0 0 0
		H 7	敏田 0 0 0 0 2
		R	出青 0 0 0 0 0
		⑧	青木 4 2 0 1 0

35151137

犠盗失併	安振球責
3 7 0 0 0	
投手回	
手屋 5 ½	6 4 1 2
池谷 2 ½	1 1 1 0
上岡 1	0 1 1 0

337263

犠盗失併	安振球責
1 8 0 1 2	
投手回	
長谷川 3 ½	6 0 3 3
藤田 1 ½	1 2 1 1
磯口 2	3 1 1 0
磯宿 2	3 0 2 5
	2 0 0 0

▽本塁打 鈴木博2号(長谷川) 杉山1号②(古屋)
▽三塁打 松田▽二塁打 村田 青木 福岡▽3時間 48分(中断5分)

猛攻15安打ハガネ打線

にわか雨と雷鳴のなか、試合は2度にわたって中断したが、打力充実の川崎市・日本鋼管が“ハガネ打線”の看板通り、15安打の猛攻で横須賀市・日産自動車に打ち勝った。

川崎は4回、死球の鈴木博と宇賀山とのエンドランが成功して無死一・三塁。佐々木が右前適時打すると松田は右中間を痛烈に破る三塁打。横須賀が円熟の投球を期待した30歳のベテラン投手・河本も川崎打線をかかせなかった。

川崎は5回にも追加点をあげたが、横須賀も食いがかり二死二塁に杉山が左翼2ラン。しかし川崎は古屋から池田にリレー、打線も7回に2安打と犠飛で2点、8回には4長短打に2四死球をからめて5点を奪い、試合を一方的にした。

強力な補強もあって4人の4番打者がズラリと並び、投手陣もエース級3人を揃えた川崎だけに、実力通りの優勝だった。



初優勝を果たし、田浦監督を胴上げする鋼管ナイン

ガックリ試練の初舞台

評判の速球派、門真市・松下電器の山口高志投手には苦渋の初舞台だった。1回戦で横須賀市・日産自動車と対戦。1回は3者三振、5回まで9三振と快調にとぼした。しかし横須賀は6回二死一・二塁に主将の倍賞明一塁手が0-1からの好投を右翼席に3点本塁打。

山口高が社会人になって初めて喫した本塁打で「3ランなんて大学1年のとき近大戦で打たれただけ」とガックリ。先発で敗戦投手になったのも、「大学、社会人を通じ初めての経験です」と信じられない顔つきだった。

おしゃれな初陣TDK

年々カラフルになってきたユニホーム。これまでの白色が基調は出場32チーム中13チームだけ。赤、青、それにストライプなど、さまざまだったが、なかでも目立ったのは初めて後樂園を踏んだ秋田県仁賀保町・TDK。ベージュ色でしかもベルトレスと派手なスタイルだった。

北の要は南の星

日本楽器の連覇の夢をくだいたのは「南(沖繩・興南高出)から来た北(白老町・大昭和北海道)の男」我喜屋優中堅手だった。1-1で迎えた8回、一死一・二塁で打席に立ち、池谷公二郎投手の内角速球をもののみごとに叩いて左翼席上段に。

我喜屋ともいえば、夏の甲子園に主将として出場したチームのけん引車。準決勝まで進み“沖繩旋風”を巻き起こした男だったが、社会人の晴れ舞台での大仕事に満足そうだった。



決勝戦。川崎は8回の無死満塁に福岡が左翼二塁打。池田(手前)に続き二塁から細矢も楽々とホームイン

あとからジワジワ優勝の感激

川崎市・日本鋼管
古屋智史(英雄) 投手



明大から昭和45年日本鋼管に入社。“七色の変化球”の技巧派として4回の国際大会でも活躍。58年から監督を勤めた。現在、日本鋼管名古屋支社建設鋼材室長。

後樂園では打線がすく、終わってみれば勝つべくして勝ったような印象も多いだろうが、それほど楽なものではなかった。なんにしろ日本鋼管としては、第39回大会に出場して以来、ずっと予選敗退を続けていたし、後樂園に出るのが第一目標。予選でも苦しい試合の連続だった。やっと勝って代表となり、福岡克彦(いすゞ自動車)鈴木博昭、細矢康夫(三菱自動車)松田節男(東芝)と各チームの主力打者が補強で加わり「これなら予選

のときのようなピッチングをすれば、ある程度はいけるかなあ」の気になった。

初戦の大丸を完封したあと上岡誠二、池田善吾(三菱自動車川崎)の両投手が投げ、準決勝の対日立製作所に先発した。この試合も宇賀山徹さんからポンポン打って大量のリード。監督の田浦正昭さんが「決勝にそなえて代れ」と6回までだった。というのは先に決勝進出の決まっていた日産自動車には、ボクはものすごく相性がよく、入社以来取れたことがない。だから自信はあった。大粒の雨が音をたてて降るような天気で、中断もあったが気にならなかった。4回に3点、5回に1点を入れたので「よし勝った」のゆるみがあったのだろう、5回に2点とられ、6回半ばで代ったが、上岡、池田さんと、力のある投手がいたから安心だった。あまり点を取ってくれるので、投球の集中力が欠けていたようなぜいたくな気がする。

優勝の瞬間は、うれしきよりホッとした気持ちだったが、あとになって感激がジワジワとこみあげて来た。これもあとでわかったことだが都市対抗優勝の価値は本当に素晴らしいものだ。

MEMO

◇1試合最多盗塁5 川崎市・日本鋼管・内藤博内野手が準決勝の神戸市・小西酒造戦で記録した。従来記録は第10回大会の東京倶楽部・布谷、第25回大会の川崎市・トキコ・久保の4。

◇1試合最多本塁打タイ 準決勝の川崎市・日本鋼管対日立市・日立製作所戦で川崎4、日立の1の5本塁打。第34回大会の京都市・積水化学対川崎市・コロムビア戦の京都4、川崎1とタイ。また川崎の4本塁打は第25回の川崎市・トキコ、第34回の京都とタイ。

◇個人通算最多本塁打タイ 川崎市・日本鋼管の鈴木博昭内野手（三菱自動車川崎から補強）は第43回の3本塁打につづき、この大会でも2本塁打で、八幡製鉄・大岡虎雄選手の5本塁打と並んだ。

◇2打席連続本塁打 川崎市・日本鋼管の宇賀山徹一塁手は準決勝の対日立市・日立製作所戦の1回と3回佐藤投手から左翼本塁打。史上7人目。

◇1大会チーム最多本塁打8 川崎市・日本鋼管が5試合で、宇賀山徹2、鈴木博昭2、福岡克彦2、細矢康夫1、佐々木和美1と8本塁打して記録した。



佐賀関対横須賀。2回横須賀村山の大適時打で、二塁から藤田も生還

1回戦

日本楽器（推薦・浜松市）

0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

大阪市（日本生命）

【日本楽器】	打安点	【大阪市】	打安点
⑧ 山本 原	4 1 0	⑤ 鈴木 木	4 1 1
⑥ 榎 本	4 0 0	③ 山 内	4 0 0
⑤ 船 見	3 2 0	⑧ 加 嶋	4 0 0
⑦ 竹 崎	3 1 1	⑥ 田 草	3 0 0
⑨ 大 崎	2 0 1	② H 佐	1 0 0
③ 大 山	4 1 0	④ H 西	3 2 0
④ 灰 山	2 0 0	④ H 井	3 0 0
H 清 山	1 1 0	② H 竹	3 0 0
4 燭 尾	1 1 0	① H 光	2 0 0
② 養 輪	4 0 0	① H 角	1 0 0
① 伊 池	3 1 0	⑦ H 細	0 0 0
	3 1 8 2	⑦ H 兼	2 0 0

振球犠盗失残併	4 2 2 0 1 6 0	振球犠盗失残併	4 0 0 0 0 3 1
投手 回 安責	池 谷 9 3 1	投手 回 安責	利 光 8 6 2
		投手 回 安責	細 淵 1 2 0
		投手 回 安責	① 船 見 1 2 0

▽本塁打 鈴木憲1号（池谷）▽二塁打 船見
▽2時間24分

1回戦

白老町（大昭和北海道）

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

和歌山市（住友金属）

【白老町】	打安点	【和歌山市】	打安点
⑦ 山本 本	6 2 0	⑨ 片岡 岡	6 1 0
⑤ 角 藤	6 0 0	⑨ R 三	0 0 0
⑥ 角 田	6 1 0	④ 藤 三	4 1 0
③ 高 梨	6 1 0	⑤ 藤 藤	5 0 0
⑧ 我喜 屋	6 2 0	② 中 桑	3 0 0
④ 池 谷	4 3 0	⑧ 京 中	5 1 0
② 堀 尾	6 0 0	⑦ 谷 京	5 1 0
① 村上 上	5 0 0	③ 勝 山	1 1 0
H 藤 田	1 0 0	① 山 林	6 0 0
1 千 大	0 0 0	⑥ 大 川	2 0 0
⑨ 大 浜	4 0 0	H 4 大	1 0 0
	2 0 0		0 0 0
	5 2 9 0		4 3 5 0

振球犠盗失残併	5 2 0 0 0 9 3	振球犠盗失残併	6 8 2 0 1 8 2
投手 回 安責	中 山 藤 14 3 0	投手 回 安責	山 中 15 9 0
	千 藤 1 2 0		

▽二塁打 我喜屋 池ヶ谷▽3時間42分

1回戦

名古屋市（三菱名古屋）

0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	3	1	0	X	4

浦和市（日本通運）

【名古屋市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑥ 光前 岡	4 0 0	⑨ 丹 下	3 0 0
⑦ 前 田	4 2 0	⑥ 関 東	4 1 1
③ 小 川	4 2 0	⑦ 関 東	4 0 0
⑤ 小 田	3 1 0	⑧ 高 山	4 1 0
④ 堀 本	3 0 0	② 中 田	2 1 0
H 塚 内	1 0 0	R 中 持	0 0 0
4 露 木	0 0 0	② 藤 井	1 0 0
⑧ 東 谷	4 1 0	③ 石 崎	1 0 0
⑨ 堀 東	4 0 0	H 3 磯 板	2 1 1
② 塩 谷	4 1 0	⑤ ① 倉	3 2 2
① 神 谷	2 1 1	⑤ ① 吉	0 0 0
1 神 谷	0 0 0	H 1 若	2 1 0
H 神 谷	0 0 0	H 1 若	1 0 0
1 神 谷	0 0 0	④ 神 利	3 1 0
	3 3 8 1		3 1 8 4

振球犠盗失残併	3 2 0 2 0 7 0	振球犠盗失残併	2 3 1 0 0 7 1
投手 回 安責	神 吉 5 7 3	投手 回 安責	金 子 1 4 1
	沢 田 5 0 0	投手 回 安責	若 宮 4 2 0
	高 橋 2 1 1		若 藤 3 2 0

▽本塁打 板倉1号②（神吉）関東1号（高橋）
▽二塁打 神吉 磯崎▽2時間29分

1回戦

大阪市（電電近畿）

0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東京都（熊谷組）

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑨ 西 森	4 1 0	⑧ 伊 藤	4 0 0
⑦ 川 口	5 2 2	⑦ 後 田	4 0 0
④ 角 口	4 0 0	⑦ 苑 田	1 0 0
③ 田 中	5 3 0	⑤ 井 上	3 0 0
② 柴 原	4 1 0	③ 井 上	4 1 0
⑥ 柴 山	4 1 0	④ 依 古	4 2 0
⑧ 山 盛	4 0 0	② 渡 辺	1 0 0
⑤ 盛 平	3 0 0	H 沢 木	1 0 0
① 和 井	4 0 0	② 新 森	2 0 0
	3 7 8 2	⑥ 工 藤	4 1 0

振球犠盗失残併	6 3 0 1 0 8 1	振球犠盗失残併	1 3 5 0 2 0 7 1
投手 回 安責	和 田 10 4 0	投手 回 安責	久 保 田 1 0 0
		投手 回 安責	久 保 田 5 4 2

▽本塁打 角田1号②
（久保田）▽二塁打 田中愛 西村
▽3時間12分

1回戦

熊本市（電電九州）

0	5	0	3	0	2	0	0	2	12
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

仁賀保町（TDK）

【熊本市】	打安点	【仁賀保町】	打安点
⑦ 村 岡	4 2 3	③ 倉 石	4 2 1
H 中 嶋	1 0 0	⑤ 藤 石	4 2 0
7 大 村	0 0 0	⑦ 藤 隆	3 1 0
⑨ 大 村	2 2 1	⑦ 齋 藤	1 0 0
⑥ 林 田	1 0 0	H 7 齋 藤	0 0 0
⑥ 谷 来	4 2 2	⑨ 1 9 浅	4 0 0
⑧ H 9 谷	1 1 0	② 岡 新	0 0 0
③ 林 田	4 1 2	⑧ 上 野	4 2 0
⑤ 村 福	1 1 0	H ④ 藤	2 0 0
H 5 道	4 2 0	④ 野 次	1 1 0
⑤ 道 川	3 1 0	① 岩 井	2 0 0
① 長 副	1 1 1	④ 野 木	0 0 0
H 1 伊	0 0 0	① 野 村	4 0 0
H 1 井	4 1 2	⑤ 野 石	2 1 0
④ 井 上	3 1 0	⑥ 鈴 木	1 0 0
	1 0 0		3 5 9 1
	0 0 0		
	4 0 1		

振球犠盗失残併	5 0 0 0 1 7 0	振球犠盗失残併	4 0 1 4 1 2
投手 回 安責	野 上 3 5 3	投手 回 安責	伊 達 3 2 0
	浅 野 4 8 5		井 上 2 0
	上 野 3 3 2		井 上 1 2 0

▽本塁打 倉石1号（長嶺）▽三塁打 村岡 林
来海▽二塁打 大庭 杉坂 長嶺 新里 牧
▽2時間40分

1回戦

福山市（日本鋼管福山）

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	0	0	1	X	3		

蒲原町（日本軽金属）

【福山市】	打安点	【蒲原町】	打安点
⑥ 沢 田	2 0 0	⑧ 山 本	3 1 0
⑦ 西 田	1 1 0	④ 内 岩	2 0 0
⑦ H 浦	2 0 0	③ 陽 中	3 2 1
② 中 秀	1 0 0	② 田 村	3 0 0
R 吉 兼	4 0 0	⑦ 植 松	4 1 0
③ H 寺	0 0 0	⑥ 植 松	4 2 1
⑨ 落 山	1 0 0	① 十 嵐	2 0 0
H 合 内	3 1 0	⑤ 戸 塚	3 0 0
⑧ 荒 小	1 0 0	① 塚 部	3 1 0
H 8 小	1 1 0		2 7 7 2
⑤ 山 下	3 0 0		
④ 山 根	3 0 0		
① 山 田	2 0 0		
H 高 村	1 0 0		
1 本 川	0 0 0		
	2 8 4 0		

振球犠盗失残併	5 2 1 0 2 4 0	振球犠盗失残併	2 2 4 1 0 6 1
投手 回 安責	田 村 7 5 1	投手 回 安責	戸 塚 9 4 0
	石 川 1 2 1		

▽三塁打 陽田▽二塁打 田谷▽1時間49分

1 回戦

門真市 (松下電器)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 3 1 1 X | 5
横須賀市 (日産自動車)

【門真市】 打安点
⑤石宮井 410
④山宮井 210
③山口下 310
②山口下 420
①山口下 400
H2高橋 200
H阿部 210
H石坂 100
H藤 100
H藤 100
H山 100
H福 100
振球権盗失残併 3280
投手回安責 3 2 1 0 1 8 0
山口高 7 4 4
福間 1 1 1
▽本塁打 倍賞1号③ (山口高)
井▽2時間21分

1 回戦

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)
1 1 1 0 0 0 0 0 0 0 | 3
1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
東京都 (電電東京)

【佐賀関町】 打安点
④五十嵐 300
③十木 400
②江野中 211
①江野中 411
②江野中 400
③江野中 400
④江野中 100
⑤江野中 200
⑥江野中 420
⑦江野中 411
⑧江野中 100
振球権盗失残併 9420250
投手回安責 9 4 2 0 2 5 0
江口1号 (松浦)
▽2時間30分

1 回戦 (再試合)

和歌山市 (住友金属)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 0 0 0 0 0 0 X | 1
白老町 (大昭和北海道)

【和歌山市】 打安点
⑥藤川 310
④藤川 310
③藤川 310
R9中桑 100
②中桑 410
①中桑 300
⑧中桑 300
⑦中桑 320
⑤中桑 400
④中桑 400
③中桑 100
②中桑 100
①中桑 100
H山本 100
H山本 100
H山本 100
H山本 100
振球権盗失残併 3413291
投手回安責 4 4 2 2 2 2 0
山本 2 2 2 2 0
▽二塁打 中村
▽2時間26分

1 回戦

諏訪市 (三協精機)
1 0 0 0 2 2 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
金沢市 (西川物産)

【諏訪市】 打安点
④内田 321
⑧内田 421
⑥内田 521
③内田 522
⑤内田 300
⑧内田 100
⑨内田 100
⑤内田 000
⑦内田 300
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
⑦内田 100
振球権盗失残併 3395
投手回安責 3 6 2 0 0 9 0
大塚 9 7 1
▽二塁打 鈴木 幡野
▽2時間28分

1 回戦

日立市 (日立製作所)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
広島市 (電電中国)

【日立市】 打安点
⑧山本 500
⑧山本 430
⑤山本 530
⑦山本 310
R7山本 000
②山本 401
④山本 401
④山本 200
④山本 100
④山本 110
④山本 300
⑥山本 300
⑥山本 100
振球権盗失残併 3682
投手回安責 1 5 1 0 0 1 0 1
佐藤 10 7 1
▽二塁打 大原 四至本
▽2時間55分

1 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 2 0 0 0 1 0 0 0 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
大垣市 (西濃運輸)

【横浜市】 打安点
⑦磯宮 410
⑤磯宮 411
③磯宮 411
③磯宮 300
③磯宮 410
⑥磯宮 410
④磯宮 400
②磯宮 410
②磯宮 310
振球権盗失残併 6100252
投手回安責 6 1 0 0 2 5 2
黒沢 9 8 1

1 回戦

松山市 (丸善石油)
0 0 0 1 1 0 6 0 2 | 10
0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
盛岡市 (盛岡鉄道局)

【松山市】 打安点
⑧窪田 322
⑨窪田 412
③窪田 535
②窪田 510
⑤窪田 300
⑦窪田 300
H7窪田 100
④窪田 420
①窪田 210
H1窪田 100
⑥窪田 310
振球権盗失残併 34119
投手回安責 7 4 2 3 0 3 0
久古 2 3 0

1 回戦

札幌市 (電電北海道)
0 0 0 0 1 0 2 1 1 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
松山市 (伊予銀行)

【札幌市】 打安点
⑧川田 400
⑨川田 000
H9川田 310
⑤川田 000
H5川田 100
②川田 221
③川田 211
④川田 411
④川田 510
④川田 000
④川田 410
⑥川田 320
①川田 311
振球権盗失残併 76430110
投手回安責 9 7 0

1 回戦

姫路市 (新日鉄広畑)
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (鷺宮製作所)

【姫路市】 打安点
⑧筋原 310
②筋原 410
③筋原 411
④筋原 410
⑨筋原 420
⑦筋原 400
⑤筋原 310
①筋原 200
①筋原 100
振球権盗失残併 10121140
投手回安責 6 6 4 0 3 3 0

1 回戦

川崎市 (日本鋼管)
0 2 0 1 1 0 0 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
京都市 (大丸)

【川崎市】 打安点
⑧ 7 細内福 矢藤崎 4 2 0
⑥ 4 内福崎 5 1 0
⑤ 2 鈴木博 3 2 1
④ 2 木野山 4 1 0
③ 2 宇賀賀 4 1 0
② 7 佐々木 3 3 1
① 9 松秋 1 0 0
H 8 堀 0 0 0
R 8 鈴木 0 0 0
① 古 4 0 0
振球犠盗失残併 35 12 3
6 2 1 3 0 7 0
投手 回 安責
古 屋 9 5 0

▽本塁打 福岡1号(清水)
▽三塁打 松田
佐々木▽二塁打 福岡
鈴木博▽2時間24分

2 回戦

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)
1 0 2 0 0 0 0 0 0 | 3
0 4 0 0 0 0 0 1 X | 5
横須賀市 (日産自動車)

【佐賀関町】 打安点
⑤ 5 井 5 3 0
④ 2 井伯口 2 1 2
③ 2 江野中 4 1 1
② 7 野中 4 2 0
① 3 石井 0 0 0
H 3 石井 2 1 0
H 3 湯三 2 0 0
④ 4 三三 2 1 0
H 4 五川 1 0 0
⑨ 9 深川 0 0 0
H 9 深川 1 0 0
① 9 深川 2 0 0
① 1 深川 1 0 0
H 6 小阪 2 0 0
① 1 小阪 4 2 0
振球犠盗失残併 35 11 3
7 0 2 1 3 7
投手 回 安責
小 阪 4 1 2
小 西 1 0 0

▽本塁打 佐伯1号(藤田)
▽二塁打 須藤1号(小坂)
▽2時間41分

2 回戦

白老町 (大昭和北海道)
0 1 0 0 0 0 0 3 0 | 4
1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
日本楽器 (推薦・浜松市)

【白老町】 打安点
⑦ 7 山 5 0 0
⑥ 4 本 5 2 0
⑤ 3 藤 4 1 0
④ 3 高 3 0 0
③ 8 我 4 1 3
② 4 池 4 2 0
① 9 堀 2 0 1
H 4 堀 4 1 0
振球犠盗失残併 34 7 4
7 2 2 2 0 7 1
投手 回 安責
中 山 9 7 2

▽本塁打 我書屋1号③(池谷)
▽二塁打 山本(日)船見 礪原
▽2時間35分

1 回戦

神戸市 (小西酒造)
0 2 1 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
富士市 (大昭和製紙)

【神戸市】 打安点
⑧ 8 高 4 1 0
⑦ 3 田 4 1 0
⑥ 4 高 3 0 0
⑤ 9 賀 0 0 0
④ 9 賀 1 1 1
H 9 生 2 0 0
⑦ 7 上 3 1 1
⑤ 5 吉 0 0 0
H 5 近 2 1 1
② 1 岩 2 0 0
① 6 荒 2 1 0
振球犠盗失残併 28 6 3
1 1 7 2 1 0 7 1
投手 回 安責
若 林 9 7 1

▽本塁打 渡辺1号(若林)
▽二塁打 吉川
▽2時間28分

2 回戦

神戸市 (小西酒造)
0 0 1 0 1 2 0 0 0 | 4
0 0 1 0 0 2 0 0 0 | 3
札幌市 (電電北海道)

【神戸市】 打安点
⑧ 8 高 4 2 1
⑦ 3 田 3 1 1
⑥ 3 高 3 0 0
⑤ 9 賀 1 0 0
④ 9 賀 1 0 0
③ 7 賀 3 0 0
② 4 賀 4 0 0
① 1 賀 4 2 0
H 1 賀 3 0 0
① 6 賀 4 1 0
振球犠盗失残併 32 7 2
4 4 1 0 1 6 1
投手 回 安責
橋 川 4 3 1
若 林 4 0 0

▽二塁打 日比野
▽2時間21分

2 回戦

熊本市 (電電九州)
1 0 0 0 0 0 1 1 1 | 4
2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
蒲原町 (日本軽金属)

【熊本市】 打安点
⑦ 7 岡 5 1 0
⑥ 5 村 4 1 0
⑤ 9 門 3 1 0
④ 9 大 0 0 1
③ 6 庭 4 1 1
② 3 林 3 2 0
① 8 村 0 0 0
H 8 坂 1 0 0
H 8 坂 1 1 0
① 1 牧 2 1 0
④ 4 伊 2 1 1
② 2 伊 4 1 0
振球犠盗失残併 32 11 3
5 2 4 0 1 7 1
投手 回 安責
伊 達 6 4 2
伊 達 3 3 0

▽三塁打 内山
▽二塁打 中村 杉村
▽2時間50分

2 回戦

浦和市 (日本通運)
1 0 0 0 5 0 0 0 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
大阪市 (電電近畿)

【浦和市】 打安点
⑨ 9 丹 4 3 0
⑧ 6 下 4 0 0
⑦ 7 東 3 1 2
⑥ 2 前 4 3 2
⑤ 8 高 4 0 0
④ 3 中 4 1 0
③ 5 石 3 0 0
② 4 佐 4 0 0
① 4 藤 2 0 0
H 4 神 1 0 0
振球犠盗失残併 33 8 4
5 4 0 5 2 2 4 0
投手 回 安責
佐 藤 9 4 1

▽本塁打 角田2号(佐藤昭)
高山石井
▽3時間

2 回戦

松山市 (丸善石油)
0 0 0 0 2 0 1 0 2 | 5
0 0 0 0 3 0 0 0 0 | 3
諏訪市 (三協精機)

【松山市】 打安点
⑧ 8 窪 4 1 0
⑦ 9 田 4 0 0
⑥ 3 下 4 1 0
⑤ 2 永 4 2 1
④ 5 浦 4 2 1
③ 7 河 0 0 0
② 7 野 1 0 0
① 4 野 3 3 0
H 1 崎 2 0 0
H 1 崎 2 0 0
① 6 崎 4 1 2
振球犠盗失残併 34 11 5
3 0 2 0 0 4 1
投手 回 安責
久 賀 6 8 3
古 賀 3 2 0

▽本塁打 水中1号②(樋江井)
(大塚)浦下1号(大塚)
▽二塁打 窪田
柳瀬 内田
▽2時間38分

2 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2
0 3 0 0 0 0 0 2 X | 5
日立市 (日立製作所)

【横浜市】 打安点
⑦ 7 磯 4 2 0
⑥ 5 宮 4 0 0
⑤ 3 田 4 0 0
④ 3 藤 3 0 0
③ 8 藤 1 0 0
② 1 根 1 0 0
① 4 中 1 0 0
H 4 大 0 0 0
⑥ 6 大 1 1 0
④ 4 田 4 1 0
H 1 望 2 0 0
H 1 池 1 0 0
H 1 長 0 0 0
H 1 池 0 0 0
H 2 川 1 1 1
H 8 片 4 2 1
振球犠盗失残併 34 7 2
8 2 0 0 1 7 1
投手 回 安責
根 本 4 2 3
根 本 4 2 0
根 本 1 2 2
根 本 1 1 0

▽本塁打 佐藤1号③(黒沢)
(黒沢)岡安1号②(長谷川)
▽三塁打 小四至本
▽二塁打 片野寺 山田 礪部 貝 田中
▽2時間25分

川崎市 盛岡市 東京都 横浜市

(日本鋼管)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

(盛岡鉄道局)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

(電電東京)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

(日本石油)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

推薦・浜松市

(日本楽器)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

仁賀保町

(TDK)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

東京都

(熊谷組)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

富士市

(大昭和製紙)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

札幌市

(電電北海道)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

日立市

(日立製作所)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

東京都

(鷺宮製作所)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

蒲原町

(日本軽金属)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

白老町

(大昭和製紙北海道)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

浦和市

(日本通運)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

横須賀市

(日産自動車)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

諏訪市

(三協精機)
監督 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
投手 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

名古屋市

(三菱名古屋)

Table listing names and numbers for Nagoya City (Mitsubishi名古屋). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

京都市

(全大丸)

Table listing names and numbers for Kyoto City (全大丸). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

神戸市

(小西酒造)

Table listing names and numbers for Kobe City (小西酒造). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

松山市

(丸善石油)

Table listing names and numbers for Matsuyama City (丸善石油). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

大垣市

(西濃運輸)

Table listing names and numbers for Gakyo City (西濃運輸). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City (日本生命). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

姫路市

(新日本製鉄広畑)

Table listing names and numbers for Himeji City (新日本製鉄広畑). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

松山市

(伊予銀行)

Table listing names and numbers for Matsuyama City (伊予銀行). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

金沢市

(西川物産)

Table listing names and numbers for Kanazawa City (西川物産). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

大阪市

(電電近畿)

Table listing names and numbers for Osaka City (電電近畿). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

広島市

(電電中国)

Table listing names and numbers for Hiroshima City (電電中国). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

佐賀関町

(日本鉱業佐賀関)

Table listing names and numbers for Soga City (日本鉱業佐賀関). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

和歌山市

(住友金属)

Table listing names and numbers for Wakayama City (住友金属). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

門真市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Minami City (松下電器). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

福山市

(日本鋼管福山)

Table listing names and numbers for Fuyuki City (日本鋼管福山). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

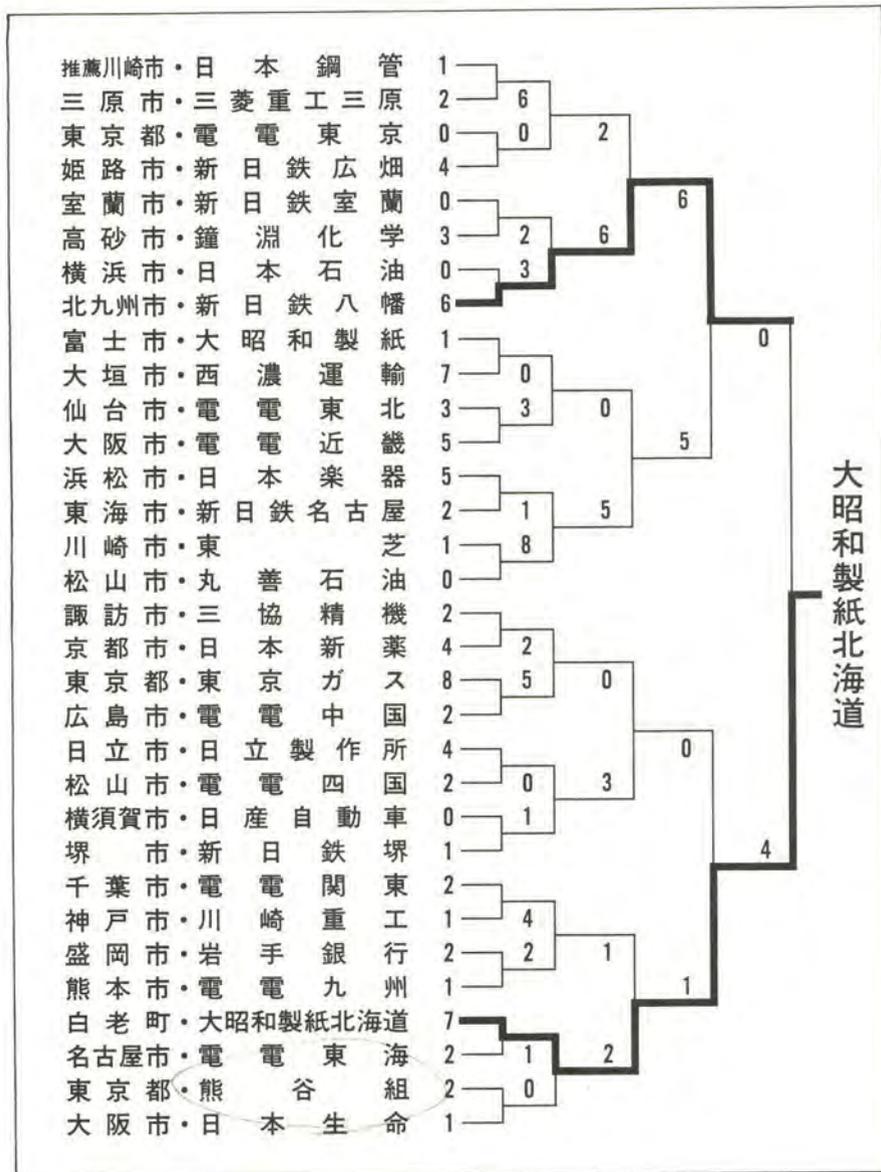
熊本市

(電電九州)

Table listing names and numbers for Kumamoto City (電電九州). Includes categories like 監督 (Supervisor), 投手 (Pitcher), 捕手 (Catcher), 内野 (Infield), 外野 (Outfield).

第45回大会

1974年(昭和49年)7月25日-8月4日・後樂園球場
優勝=白老町・大昭和製紙北海道



ヒグマが登場しての熊まつり。大昭和北海道の応援

回、一死満塁としたあと、萩野投手の暴投で均衡を破り、代わった小坂英修投手からも2安打と敵失などで得点を加え4点。その裏の北九州の追撃をかわして5回目の出場で初優勝した。

白老は粘りの優勝だった。楽に勝ったのは、高梨の2本塁打などで豪快に決めた1回戦だけ。補強投手の柳と千藤和久(拓殖銀行)ががっちり相手打線を抑え、耐えて耐えての勝利だった。2回戦の東京都 熊谷組は、柳が3安打に抑えて自ら決勝打を放って1-0。準々決勝は我喜屋の2ランが決め手となり、2-1で千葉市・電電関東を降し、準決勝は延長11回、大会ナンバーワンの好投手といわれた堺市・新日鉄堺の山口高志(松下電器から補強)を倒して1-0。いずれも1点差で勝ち進んだ。

一方、北九州は萩野投手が好投し、打っては19歳の新鋭、工藤博義外野手が活躍した。2回戦の高砂市・鐘淵化学戦では延長11回にサヨナラ打、準決勝の川崎市・東芝戦は9回に逆転3ランを放ち決勝進出に貢献した。

橋戸賞は白老・柳投手、久慈賞は北九州・萩野投手、小野賞は堺・山口投手と投手が独占した。

初出場の堺は山口の快投でベスト4進出と目覚ましい活躍ぶりだった。

有力視された関東勢の中では、川崎市・東芝が福岡克彦(いすゞ自動車から補強)の打の活躍で、準決勝まで進んだのが目立っただけだった。

大昭和北海道は、大会終了の翌8月5日夜、初来日していたキューバ・ナショナル・チームと対戦(後樂園)し、秋には同チームを立体とした全日本がキューバに初遠征した。

32代表のうち、電電勢7チーム、新日鉄勢5チームが出場、めざましい台頭をみせた大会だった。

第1回大会からの歴史を刻み込んだ、初代“黒獅子旗”は野球体育博物館に保存されることになった。

大旗初めて津軽海峡渡る

第45回大会を記念して新調された黒獅子旗は、初めて津軽海峡を越えて、北海道へ渡った。2代目の“黒獅子旗”を握ったのは、白老町・大昭和製紙北海道だった。

白老町は奇しくも南北対決となった北九州市・新日鉄八幡と決勝戦を行い、延長の末北九州を降し、初優勝をとげた。北九州・萩野友康、白老・柳俊之(電電北海道から補強)の力投で決勝戦としては大会史上7度目、0-0としては初の延長戦に入った。白老は10

白老町 (大昭和製紙北海道)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北九州市 (新日鉄八幡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【白老町】	打安点振球	【北九州市】	打安点振球
⑦ 山本	3 0 0 1 0	⑥ 玉井	5 3 0 0 0
H 7 浜本	2 1 0 0 0	④ 米村	2 0 0 1 1
④ 日比野	5 2 0 0 0	H 宗広	1 0 0 0 0
4 仲本	0 0 0 0 0	⑤ 林	5 0 0 0 0
⑤ 斎藤	4 0 0 0 1	⑧ 江	3 0 0 0 1
③ 高梨	3 1 0 0 1	⑧ 草野	0 0 0 0 0
R 3 池谷	0 0 0 0 0	③ 山田	4 1 0 1 0
⑧ 我喜	4 1 0 1 0	③ 山田	3 0 0 0 0
⑥ 角田	4 0 0 1 0	⑦ 田藤	4 2 0 0 0
② 村上	3 1 0 0 1	⑦ 田藤	4 1 0 1 0
① 柳	3 0 0 2 0	① 沢野	4 0 0 1 0
1 千藤	0 0 0 0 1	1 小坂	0 0 0 0 0
⑨ 大上	3 0 0 2 0		
9 上原	1 1 1 0 0		
	35 7 1 7 4	犠残盗失	2 9 0 0
犠残盗失	0 5 0 3	投手回	打安振球責
投手回	打安振球責	小坂	9 1/3 5 7 4 3
柳	8 2/3 6 4 2 0		2 0 0 0
千藤	1 1/3 1 0 0 0	▽二塁打	高梨▽3時間



キューバ対ハワイ朝日軍の応援にかけつけた高見山

一挙4点、北九州に魔の10回

緊迫した投手戦だった。4試合31回3分の2を投げている萩野。白老町・大昭和製紙北海道は千藤と交代で投げてきた柳。スタミナの点で萩野の方が苦しいだろうと予想されたが、萩野は外角をつく速球とストーンと落ちる球を多投、内角低めにカーブを決める絶妙なピッチングをみせた。

白老は全くチャンスがつかめず4回まで無安打。北九州の方が前半は押し気味だった。しかし、4回の一死二・三塁の先制機をものにできなかった。

白老の柳も回を追うごとに調子をあげ、両コーナーをつくたねんなピッチングで、5回から7回まで無走者の力投。8回玉井の安打などで、一死二・三塁のピンチを招いたが、落ちついて主軸打者を料理した。9回二死から工藤、沢熊に好打され、左腕千藤のリリーフをあおいだが、それまでの好投は鮮やかだった。このチャンスに北九州は、萩野が遊ゴロ。硬くなった野手がファンブルする間に二



悲願の初優勝を果たし黒獅子旗を手に場内を一周

塁から工藤が一挙本塁をついたか噴死。両チーム得点がないまま決勝では、史上7度目の延長戦に入った。

10回、白老は高梨の左翼二塁打からついに勝機をつかんだ。我喜屋が左前安打と続き、角田三ゴロで一死となると、北九州は村上を歩かせ満塁策をとった。しかし萩野は、次の

千藤への1球目に痛恨の暴投、決勝点を与えてしまった。しかも6球目にまたも暴投。スクイズを警戒しすぎ、腕に力が入ったのだろう。白老は、代わった小坂に上原の好打などでこの回一挙4点をあげ、試合を決した。

2代目黒獅子旗に感涙

白老町・大昭和製紙北海道の安藤喜春監督は、新調された黒獅子旗を手に「北海道球界が長い間待ち望んでいた優勝旗です」と絶句した。北海道球界が全国大会で優勝旗を手にしたのは、高校、大学、社会人を通じて初めての快挙。

「粘りとチームワーク」と安藤監督がいう通り、2回戦から1点差ゲームに耐え、決勝は0-0での延長戦。思えば安藤監督をはじめ高梨、村上、我喜屋らの主力は富士市・大昭和製紙では大学出の花形選手たちに押され、北海道に移ってきた高校出。

「うちは無名選手ばかりだから、堺の山口君や八幡の萩野君らスター選手には一段と攻撃意欲がわくようです」と安藤監督も話したが、踏まれても踏まれても、あきらめない闘志が人口2万人の北国の町に黒獅子旗をひるがえした。

うなる快速 33回無失点

大会切っ手の速球派、堺市・新日鉄堺に補強された山口の快投は素晴らしかった。1回戦で当たったのが横須賀市・日産自動車。山口は昨年、自チームの松下電器で日産と対戦、倍賞に痛恨の3点本塁打を打たれ涙を飲んだ因縁もあったが、その倍賞に三塁内野安打を許したものの、この1安打で完封。8回まで毎回の11三振を奪って仇を討った。

次の日立市・日立製作所戦でも延長14回を投げ抜き、5安打を許しただけで14奪三振の完封。準々決勝は中川投手が降雨コールドながらやはり得点を与えず、堺は無失点で準決勝に進んだ。

白老町・大昭和製紙北海道戦も山口の快速球はさえ、千藤、柳のリレーの白老と延長にもつれ込んだ。11回、白老は一死一・二塁から意表を突いて重盗を成功させ、山口は満塁策をとったが、日比野に中犠飛を打たれ、山口としても、堺としても初の失点が敗戦に結びついた。

それにしても山口の低めに決まる速球は威力十分。34イニング目の1失点だった。

1勝までの長い道のり

19年ぶり2度目の出場で初勝利を飾った東京ガスの小島訓一監督は感慨深げだった。

昭和30年の初出場は、立大から入社した新人の小島監督が左腕エースとして活躍。東京予選を勝ち抜いたものだった。

広島市・電電中国を相手に右腕エースの工藤が力投、打線も8回に一気に爆発、5点をあげて競り合いに終止符。小島監督は「19年ぶりといっても若い選手には関係ありませんよ」といいながら、長かった初勝利の喜びをかみしめていた。



決勝戦。10回白老は暴投で我喜屋生還。打者は千藤

◇600号本塁打 川崎市・東芝の中村安男三塁手は、準決勝の北九州市・新日鉄八幡戦の8回、大段投手から左翼席へ打ち込んで達成。



郷土芸能の五平太ばやして氣勢をあげる北九州応援団

工藤、首位打者で若獅子賞

準決勝の北九州市・新日鉄八幡と川崎市・東芝の一戦はまれに見る白熱戦。5回ともに3点ずつを取り合ったが、川崎が8回に中村の本塁打で1点を加え、5-3としたときは、ゆずらぬ接戦もそこまでと思われた。

しかし北九州は9回一死後、下村、代打の鳥丸が速安打、工藤が左中間席に逆転の3ランを打ち込み、川崎市としては3年連続決勝進出の夢を打ち切った。

北九州を地獄から呼び戻した工藤はこの大会打ちまくり、決勝までの5試合で17打数7安打、4割1分2厘で首位打者に輝き、若獅子賞も受賞した。

会心の試合運びの優勝

白老町・大昭和製紙北海道
安藤喜春監督



沼津東高から昭和34年大昭和製紙入社。44年監督兼務で大昭和製紙北海道に移籍。北海道球界に全国大会初の優勝をもたらした。54年本社に戻り、休部のあと62年から監督。

前回、日本通運に本塁打で負けた。まだ木のバットの時代だったか後楽園は狭いから、制球力のある投手と、初めから補強の柳俊之、千藤和久両君を両輪にしようと思っていた。

補強がよかったし、大昭和の白老工場が10周年。北海道に黒獅子旗が来たことがないので、なにかなんでもと狙っていた。

2回戦で当たる熊谷組と日本生命のどちらかか、前半戦のヤマ場と思い。これに柳君を当てたかったので、1回戦は千藤君を使った。北海道のエース柳君を奮起させる腹もあった。

熊谷組戦は柳君が自分で決勝点をたたき出し、3安打完封と投打の立役者となったが、9回一死一・二塁で代打に監督の古田昌幸さんが出てきたときは、「打たれても大きいのではない」と柳君に攻めさせ、三ゴロ併殺で試合が終わった。

準決勝の新日鉄堺は山口高志、松下勝美、鍛冶台巧君ら、松下の補強で充実していたが、山口君は後半必ず球威が落ちるから、緩い球を使わせないため、三振でも必ず振ってこいと指示した。延長になったが11回の一死一・二塁で初球に重盗させ、補強の日比野勇君の犠飛でサヨナラ勝ち。2回の一死一三塁に、山口君の右飛をやはり補強の上原哲朗君が好返球、本塁で刺したのが大きかった。

新日鉄八幡との決勝も萩野友康君がよく、7回まで1安打。柳、千藤のリレーでまた延長。10回に高梨英夫の長打から一挙4点を取って優勝したが、どの試合もピンチの連続を耐えられたのは、練習量の豊富さと自負している。補強組みも含め選手がよく働いてくれて、文字通り会心の試合運びのできた大会だった。



北海道に初めての黒獅子旗をもたらした、安藤監督を胴上げして喜ぶ大昭和北海道勢

1回戦

日本鋼管(推薦・川崎市)

0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 1 1 0 0 0 0 0 × | 2

三原市(三菱重工三原)

【日本鋼管】	打安点	【三原市】	打安点
⑨ 高尾	4 0 0	⑧ 松浦	3 0 0
⑦ 内藤	3 0 0	8 井藤	1 1 0
⑦ 佐々木	4 0 0	② 白江	4 0 0
⑤ 宇賀山	4 1 1	⑦ 江森	2 1 0
⑤ 樋中	3 0 0	⑨ 野田	3 1 0
② 鈴木	4 1 0	③ 寺岡	4 2 0
⑧ H 小内	3 1 0	⑤ 佐々木	4 2 0
④ H 小倉	1 0 0	④ 田村	3 0 0
④ H 谷	1 0 0	① 田村	4 2 0
4 柴	1 0 0	⑥ 中澤	1 1 1
① H 古	1 1 0		2910 1
H 堀	2 0 0	振球機盗失残併	
1 堀	1 1 0	5 4 2 2 1 9	
R 堀	0 0 0	投手 回 安責	
1 堀	0 0 0	田村 9 5 1	
	325 1		

振球機盗失残併

3 2 0 1 0 6

投手 回 安責

古 屋 7 102

堀 間 1 0 0

▽本塁打 宇賀山1号
(田村忠)▽三塁打 寺岡
▽2時間15分

1回戦

室蘭市(新日鉄室蘭)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
3 0 0 0 0 0 0 0 × | 3

高砂市(鐘淵化学)

【室蘭市】	打安点	【高砂市】	打安点
⑨ 小松	3 1 0	⑧ 鈴木	3 0 0
9 前原	0 0 0	8 木尾	1 0 0
H 4 高岡	1 0 0	9 星	3 2 0
④ 荒野	3 1 0	③ 外	4 1 0
9 荒木	0 0 0	⑦ 長	1 1 0
⑧ 古	4 0 0	⑤ 桑	3 1 1
⑦ 柴	4 1 0	④ 藤	3 1 2
⑤ 朝	4 0 0	4 川	0 0 0
③ 寺	3 0 0	⑥ 田	3 2 0
② 後	3 0 0	② 田	2 0 0
① 財	0 0 0	① 瀬	3 0 0
H 安	1 0 0		268 3
1 山	1 0 0	振球機盗失残併	
⑥ 五	3 1 0	4 2 2 3 2 3	
	304 0	投手 回 安責	
		光 内 9 4 0	

振球機盗失残併

2 1 2 0 0 6

投手 回 安責

山 口 4 5 3

財 口 4 3 0

▽二塁打 藤村
▽1時間50分

1回戦

仙台市(電電東北)

0 0 0 0 1 1 1 0 0 | 3
2 0 0 0 0 3 0 0 × | 5

大阪市(電電近畿)

【仙台市】	打安点	【大阪市】	打安点
④ 岩井	4 1 0	⑨ 西	4 1 0
⑤ 赤平	2 1 0	H 9 森	1 0 0
H 5 石井	1 0 0	⑥ 平	4 3 0
③ 秋山	4 0 0	⑧ 井	3 0 0
⑨ 吉田	4 2 0	⑧ 盛	3 0 0
⑦ 掛	4 1 1	⑦ 3 原	4 1 1
⑦ 佐藤	1 0 0	② 柴	3 2 1
H 加藤	1 1 0	R 7 飛	1 0 0
R 平	0 0 0	⑤ 川	4 0 0
R 7 箱	0 0 0	④ 井	2 2 0
H 7 松	1 0 0	① 小	1 0 0
H 7 平	1 0 0	① 和	2 0 0
② 大	4 2 0	H 4 熊	2 2 3
H 1 石	1 0 0		3411 5
1 小	1 1 0	振球機盗失残併	
H 1 八	0 0 0	5 4 1 5 0 10	
⑥ 八	1 0 0	投手 回 安責	
H 6 阿	1 1 1	和 田 6 6 2	
H 6 鈴木	0 0 1	小 島 3 4 1	
H 吉	1 0 0		
	3310 3		

振球機盗失残併

7 1 2 3 1 6

投手 回 安責

大 石 6 9 5

窪 2 2 0

▽本塁打 熊代1号③
(大石)▽三塁打 掛端
▽二塁打 平井▽3時間

1 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 6 0 0 0 X | 6
北九州市 (新日鉄八幡)

【横浜市】 打安点
④ 水野 4 1 1 0
⑥ 望川 2 0 0 0
1 野田 0 0 0 0
H 中城 0 0 0 0
⑦ 磯町 4 0 0 0
⑨ 池田 3 0 0 0
③ 秋田 3 1 1 0
⑧ 宮野 3 0 0 0
② 伊大 3 0 0 0
⑤ 野本 1 0 0 0
1 根中 2 0 0 0
1 大根 0 0 0 0
H 6 橋野 1 0 0 0
振球機盗失残併 28 2 0
7 3 1 0 1 5
投手 回 安責
本村 5% 5 3
村橋 0% 2 2
中大 1% 2 0
大川 1 0 0

1 回戦

大垣市 (西濃運輸)
1 0 4 0 0 0 1 0 1 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
富士市 (大昭和製紙)

【大垣市】 打安点
⑥ 祖父江 3 0 0 0
⑨ 安井 5 2 1 1
④ 3 4 中井 4 0 0 0
⑧ 細林 3 1 0 0
⑦ 野木 0 0 0 0
H 4 浜青 2 1 2 2
H 3 山本 1 0 0 0
② R 今西 4 2 3 3
R 2 今西 0 0 0 0
① H 藤早 3 0 0 0
H 中島 1 1 1 1
R 小柴 0 0 0 0
1 小柴 0 0 0 0
5 長島 3 0 0 0
H 5 中島 1 0 0 0
振球機盗失残併 33 8 7
6 3 2 3 0 4
投手 回 安責
早川 8 2 0
柴田 1 1 1
▽本塁打 今村 1号③
▽二塁打 青木 伊藤

1 回戦

姫路市 (新日鉄八幡)
0 0 1 0 0 0 0 0 3 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (電電東京)

【姫路市】 打安点
⑥ 小永 4 0 0 0
③ 山口 3 1 1 1
③ 桃井 3 0 0 0
3 谷尾 1 0 0 0
⑦ 佐村 4 1 0 0
④ 土中 4 3 0 0
② 山田 2 0 0 0
2 中京 1 1 1 1
⑧ 川土 3 0 0 0
5 山筋 2 1 0 0
H 5 本山 1 0 0 0
① 1 山中 1 1 0 0
1 久保 1 0 0 0
振球機盗失残併 31 9 4
4 2 4 1 0 6
投手 回 安責
山久 5 1 0
久保 4 0 0
▽二塁打 尾形

1 回戦

浜松市 (日本楽器)
0 0 0 0 1 0 0 0 4 | 5
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
東海市 (新日鉄名古屋)

【浜松市】 打安点
⑧ 山内 5 2 0 0
⑨ 本山 2 0 0 0
H 9 畑 1 0 0 0
H 9 金子 1 1 1 1
⑥ ⑥ 子原 5 1 0 0
③ ③ 崎山 3 0 0 0
3 植松 2 0 0 0
⑦ 植松 3 1 0 0
R 1 松谷 0 0 0 0
⑤ ⑤ 永見 0 0 0 0
④ ④ 津布 3 1 0 0
② ② 伊沢 3 2 1 1
① ① 深沢 2 0 0 0
1 1 1 1
H 7 村上 1 1 2 2
振球機盗失残併 35 10 4
7 4 1 1 0 8
投手 回 安責
深藤 5 1/2 4 2
藤崎 2 1/2 1 0
森永 1 0 0

1 回戦

川崎市 (東芝)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
松山市 (丸善石油)

【川崎市】 打安点
⑧ 溝口 4 0 0 0
⑥ ⑥ 菅福 4 0 0 0
④ ④ 橋本 4 2 1 1
⑦ ⑦ 三按 3 0 0 0
H R 三按 0 0 0 0
7 藤松 4 1 0 0
⑨ ⑨ 中田 3 0 0 0
③ ③ 中田 3 0 0 0
① ① 大尾 3 1 0 0
② ② 大尾 3 0 0 0
振球機盗失残併 31 4 1
7 1 0 1 0 4
投手 回 安責
大垣 9 1 0
▽二塁打 福岡

1 回戦

堺市 (新日鉄堺)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
横須賀市 (日産自動車)

【堺市】 打安点
⑤ 石井 3 0 0 0
④ ④ 松本 3 1 0 0
③ ③ 松下 3 0 0 0
⑦ ⑦ 鍛冶 4 1 0 0
⑨ ⑨ 谷崎 4 2 1 1
9 藤本 0 0 0 0
⑧ ⑧ 井隆 4 1 0 0
⑥ ⑥ 石浜 4 1 0 0
① ① 石浜 3 0 0 0
② ② 山口 3 0 0 0
振球機盗失残併 31 6 1
9 2 1 1 0 6
投手 回 安責
山口 9 1 0
【横須賀市】 打安点
⑨ ⑨ 杉山 3 0 0 0
⑤ ⑤ 山東 4 0 0 0
④ ④ 関田 0 0 0 0
② ② 須谷 4 0 0 0
R 6 須谷 0 0 0 0
9 世元 0 0 0 0
⑦ ⑦ 元橋 2 0 0 0
H 7 元橋 1 0 0 0
⑥ ⑥ 小石 2 0 0 0
3 小石 1 0 0 0
H 3 長谷 2 0 0 0
① ① 長谷 0 0 0 0
1 飯藤 1 0 0 0
H 1 飯藤 0 0 0 0
⑧ ⑧ 藤青 0 0 0 0
H 6 藤青 2 1 0 0
振球機盗失残併 27 1 0
1 1 4 0 3 2 4
投手 回 安責
長谷 5 1/2 6 1
河本 2 1/2 0 0
藤田 1 0 0 0
▽二塁打 鍛冶
▽2時間38分

1 回戦

京都市 (日本新薬)
0 0 0 0 4 0 0 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 2 0 0 | 2
諏訪市 (三協精機)

【京都市】 打安点
⑧ ⑧ 熊内 4 1 1 1
④ ④ 熊内 4 2 0 0
⑤ ⑤ 熊内 4 1 2 2
⑨ ⑨ 井梅 2 1 0 0
⑥ ⑥ 井梅 4 1 1 1
③ ③ 上原 4 1 0 0
⑦ ⑦ 上原 3 1 0 0
② ② 山戸 1 0 0 0
① ① 山戸 4 0 0 0
振球機盗失残併 34 8 4
3 3 1 1 1 7
投手 回 安責
山村 9 5 2

1 回戦

東京都 (東京ガス)
1 0 0 1 0 1 0 5 0 | 8
0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2
広島市 (電電中国)

【東京都】 打安点
⑦ ⑦ 山田 5 3 3 3
⑥ ⑥ 山田 5 1 1 1
③ ③ 池田 5 2 1 1
⑨ ⑨ 池田 5 2 0 0
⑧ ⑧ 望森 0 0 0 0
H 8 望森 1 0 0 0
H 8 望森 3 1 0 0
⑤ ⑤ 熊松 3 0 0 0
② ② 熊松 2 0 0 0
2 熊松 1 1 1 1
H 2 熊松 2 2 0 0
H 4 熊松 3 1 1 1
① ① 藤野 1 0 0 0
1 藤野 0 0 0 0
振球機盗失残併 39 13 8
5 5 0 1 2 9
投手 回 安責
藤野 8 6 2
工平 1 0 0

1 回戦

松山市 (電電四国)
0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2
0 0 0 0 3 1 0 0 X | 4
日立市 (日立製作所)

【松山市】 打安点
⑦ ⑦ 幸田 3 0 0 0
③ ③ 池下 3 1 0 0
⑤ ⑤ 池下 4 1 1 1
⑧ ⑧ 福武 4 1 1 1
⑨ ⑨ 武北 2 0 0 0
R 9 武北 0 0 0 0
② ② 岡田 3 1 0 0
④ ④ 岡田 2 0 0 0
H 4 岡田 2 1 0 0
⑥ ⑥ 藤浦 2 0 0 0
H 4 藤浦 1 0 0 0
6 藤浦 1 0 0 0
① ① 高小 2 1 0 0
1 高小 0 0 0 0
H 1 高小 0 0 0 0
1 高小 0 0 0 0
H 三岡 1 0 0 0
振球機盗失残併 30 7 3
4 4 1 0 2 7
投手 回 安責
小原 4 3/4 5 2
横小 1 1/2 2 1
三岡 2 0 0 0
【日立市】 打安点
⑧ ⑧ 山田 4 1 1 1
④ ④ 山田 3 1 0 0
⑤ ⑤ 山田 4 0 0 0
⑦ ⑦ 小野 4 1 0 0
③ ③ 松本 0 0 0 0
② ② 松本 4 1 0 0
④ ④ 松本 3 2 0 0
① ① 内野 3 2 0 0
H 1 高加 1 0 0 0
1 高加 2 0 0 0
⑥ ⑥ 藤田 3 0 0 0
振球機盗失残併 31 1 0 4
投手 回 安責
高田 3 2 1
柴田 6 4 1
▽本塁打 浦下 1号
(柴田)
▽二塁打 小野寺
▽2時間36分

1 回戦

神戸市 (川崎重工)									
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
0	0	1	0	0	0	0	1	X	2
千葉市 (電電関東)									

【神戸市】		打安点	【千葉市】		打安点
7	宮嶋	3	6	神野	3
H7	井沢	1	7	岩野	2
5	玉井	4	3	野野	2
8	中上	4	2	藤野	2
9	中田	1	8	佐高	4
R9	田吉	0	5	高江	2
6	田吉	1	4	板千	3
3	福本	3	9	倉葉	3
4	岡本	4	H	崎崎	1
R2	坂本	2	1	久保	0
2	上松	1	1	田後	0
1	橋谷	3	1	田倉	0
振球権盗失残併		286	振球権盗失残併		215
4	6	1	4	4	6
投	手	回	投	手	回
橋	谷	8	中	林	1
安責		5	安責		3
▽2時間26分			▽2時間26分		

1 回戦

熊本市 (電電九州)									
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
1	0	0	0	1	0	0	0	X	2
盛岡市 (岩手銀行)									

【熊本市】		打安点	【盛岡市】		打安点
8	森中	3	6	小笠	4
H8	中嶋	1	4	原竹	4
4	今大	4	8	藤高	4
9	大杉	4	7	高里	4
3	来藤	3	2	日新	2
H7	海田	1	3	昆	0
6	谷田	4	9	倉西	3
H5	伯伯	2	3	石城	0
5	牧	1	9	高昭	2
2	川江	2	5	藤昭	1
H6	黒坂	2	H	谷谷	2
1	長原	0	1	小笠	1
1	野達	0	H	西川	0
1	伊達	1	1	高橋	1
振球権盗失残併		327	振球権盗失残併		286
6	1	0	7	1	2
投	手	回	投	手	回
長	野	4	小	笠	5
錦	野	1	高	橋	4
伊	達	2	▽本塁打	吉田	1
安責		0	▽二塁打		今井
▽2時間8分			▽2時間8分		

1 回戦

白老町 (大昭和製紙北海道)									
0	1	1	0	1	0	1	3	0	7
0	0	0	0	0	0	1	1	X	2
名古屋市 (電電東海)									

【白老町】		打安点	【名古屋市】		打安点
7	山本	5	8	木島	3
H9	原塩	4	4	田島	1
5	大藤	1	2	嶋田	2
3	斎藤	5	9	小岩	4
8	我喜	3	H9	伊藤	1
H4	池谷	4	R	野修	2
6	日比	3	7	高谷	2
2	角村	3	3	藤尾	3
1	村上	1	5	尾藤	1
1	加藤	4	H	村作	4
振球権盗失残併		361	振球権盗失残併		315
1	2	2	6	3	1
投	手	回	投	手	回
藤	加	8	鈴	井	4
安責		2	安責		6
▽本塁打		高梨	▽本塁打		岡田
▽二塁打		高梨	▽二塁打		岡田
▽2時間12分			▽2時間12分		

1 回戦

東京都 (熊谷組)									
0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
大阪市 (日本生命)									

【東京都】		打安点	【大阪市】		打安点
8	藤真	4	5	鈴木	4
6	伊森	4	3	憲内	3
2	藤加	4	7	田井	3
7	藤加	3	9	山西	4
5	苑之	4	4	中田	3
4	竹下	3	2	草川	3
H3	古井	1	6	竹井	2
R3	板沢	1	H	田山	1
1	久保	0	1	光原	0
9	久保	3	H	利月	1
振球権盗失残併		304	振球権盗失残併		285
4	1	1	4	0	3
投	手	回	投	手	回
久	保	9	岡	利	7
安責		5	安責		2
▽本塁打		森貞	▽本塁打		伊藤
時間30分			時間30分		

2 回戦

三原市 (三菱重工三原)									
2	1	0	0	1	0	2	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
姫路市 (新日鉄広畑)									

【三原市】		打安点	【姫路市】		打安点
7	養田	4	6	小玉	4
8	白井	1	9	永谷	4
3	荒内	3	7	尾山	4
H8	山寺	2	4	中村	4
3	野端	2	2	中村	2
9	野幸	4	H	中村	1
5	田修	3	5	中村	1
H5	吉信	0	H	中村	1
4	山根	5	5	中村	1
2	江藤	4	H	中村	1
6	江中	4	1	中村	1
1	幸谷	1	H	中村	1
1	田中	0	H	中村	1
振球権盗失残併		361	振球権盗失残併		361
5	5	1	4	0	1
投	手	回	投	手	回
幸	谷	1	山	中	1
田	中	6	宮	久	3
田	中	1	久	久	5
安責		9	安責		0
▽本塁打		小玉	▽本塁打		中山
時間50分			時間50分		

2 回戦

高砂市 (鐘淵化学)									
0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
0	2	0	0	0	0	0	0	1	3
北九州市 (新日鉄八幡)									

【高砂市】		打安点	【北九州市】		打安点
9	中下	0	6	井村	4
H9	永中	3	4	玉村	5
9	末永	2	5	林	4
H9	外日	2	8	江口	3
8	春川	1	3	草野	1
H8	大尾	2	9	山下	5
3	星尾	5	7	田藤	4
3	長原	5	2	丸藤	1
7	藤原	5	H	丸藤	1
5	藤原	4	2	丸藤	1
6	藤原	4	H	丸藤	1
2	藤原	4	1	丸藤	1
1	藤原	3	H	丸藤	1
振球権盗失残併		411	振球権盗失残併		381
7	1	1	2	1	4
投	手	回	投	手	回
光	内	10	丸	藤	1
安責		11	安責		5
▽本塁打		岡田	▽本塁打		岡田
時間3分			時間3分		

2 回戦

大垣市 (西濃運輸)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	2	0	0	1	0	0	X	3
大阪市 (電電近畿)									

【大垣市】		打安点	【大阪市】		打安点
6	祖父	4	9	飛平	4
H7	江田	4	7	井田	4
9	安井	4	6	岡田	4
4	中井	3	8	盛原	3
3	細林	3	7	原原	3
8	山本	4	H9	柴田	1
7	山本	2	2	柴田	4
4	山本	2	3	柴田	3
H2	山本	2	4	柴田	1
R2	山本	1	5	柴田	2
H2	山本	0	5	柴田	2
H2	山本	1	1	柴田	3
H1	山本	1	1	柴田	3
H1	山本	1	1	柴田	3
H5	山本	2	1	柴田	3
振球権盗失残併		327	振球権盗失残併		321
2	2	1	7	0	2
投	手	回	投	手	回
柴	田	4	和	田	9
安責		6	安責		7
▽本塁打		田中	▽本塁打		盛岡
時間44分			時間44分		

2 回戦

東京都 (熊谷組)									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	0	0	0	X	1
白老町 (大昭和製紙北海道)									

【東京都】		打安点	【白老町】		打安点
8	藤真	4	7	山本	3
9	伊森	4	9	上原	4
6	藤加	4	5	斎藤	4
2	藤加	3	3	高里	3
7	苑之	1	8	我喜	2
H8	竹下	1	4	池谷	3
5	田修	3	6	日比	2
H5	吉信	0	2	角村	2
4	山根	0	1	村上	3
H4	江藤	3	1	柳	1
2	江中	2	1	柳	1
6	江中	1	1	柳	1
1	幸谷	0	1	柳	1
1	田中	0	1	柳	1
振球権盗失残併		313	振球権盗失残併		275
8	2	0	6	1	3
投	手	回	投	手	回
小	林	4	柳	9	3
久	保	1	安責		3
村	中	2	▽本塁打		斎藤
安責		0	▽2時間35分		

2 回戦

京都市 (日本新薬)									
0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
0	0	2	0	0	2	0	1	X	5
東京都 (東京ガス)									

【京都市】		打安点	【東京都】		打安点
8	北條	3	7	山本	3
4	中谷	2	6	中田	4
H5	野水	1	3	池田	4
5	清水	1	9	渡邊	4
H6	吹石	1	8	望月	3
9	上野	0	5	松本	1
3	岩崎	4	5	熊鈴	1
6	梅原	4	2	鈴木	2
4	原田	4	2	玉大	2
7	谷村	3	H	野野	1
H2	谷村	3	2	野野	1
1	谷村	1	4	野野	1
H1	谷村	1	4	野野	1
1	谷村	0	1	野野	1
振球権盗失残併		304	振球権盗失残併		329
8	2	2	3	2	5
投	手	回	投	手	回
山	井	4	工	藤	9
安責		4	安責		4
▽本塁打		熊木	▽本塁打		熊木
時間16分			時間16分		

浜松市 (日本楽器)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
2 0 2 1 2 0 0 1 X | 8

川崎市 (東芝)

Table with columns for players (e.g., 山本, 金子, 原見), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

日立市 (日立製作所)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

堺市 (新日鉄堺)

Table with columns for players (e.g., 山田, 四本, 楠), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

盛岡市 (岩手銀行)

0 0 0 0 1 0 0 1 0 | 2
0 0 1 1 1 1 0 0 X | 4

千葉市 (電電関東)

Table with columns for players (e.g., 小笠原, 吉田, 斎日), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

三原市 (三菱重工三原)

0 0 0 1 0 1 0 0 0 | 2
0 0 6 0 0 0 0 0 X | 6

北九州市 (新日鉄八幡)

Table with columns for players (e.g., 養木, 土屋, 山本), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

大阪市 (電電近畿)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 3 0 1 0 0 0 X | 5

川崎市 (東芝)

Table with columns for players (e.g., 飛田, 盛井, 西原), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

堺市 (新日鉄堺)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

白老町 (大昭和製紙北海道)

Table with columns for players (e.g., 松本, 井原, 横山), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

堺市 (新日鉄堺)

0 1 2 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 | 0

東京都 (東京ガス)

Table with columns for players (e.g., 山本, 中田, 池田), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

千葉市 (電電関東)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
0 0 0 0 0 0 2 0 X | 2

白老町 (大昭和製紙北海道)

Table with columns for players (e.g., 神野, 田野, 江野), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

北九州市 (新日鉄八幡)

0 0 0 0 3 0 0 0 3 | 6
0 0 1 0 3 0 0 1 0 | 5

川崎市 (東芝)

Table with columns for players (e.g., 玉井, 江口, 山下), points (打安点), and team totals (振球権盗失残併, 投手回安責).

町老白

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for '町老白' (Town Old White) section.

仙台市

(電電東北)

Table listing names and numbers for '仙台市' (Sendai City) section.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for '東京都' (Tokyo) section.

川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for '川崎市' (Kawasaki City) section.

推薦・川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for '推薦・川崎市' (Recommended Kawasaki City) section.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for '日上市' (Nishinomiya City) section.

東京都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for '東京都' (Tokyo) section.

諏訪市

(三協精機)

Table listing names and numbers for '諏訪市' (Suifu City) section.

室蘭市

(新日鉄室蘭)

Table listing names and numbers for '室蘭市' (Muroran City) section.

千葉市

(電電関東)

Table listing names and numbers for '千葉市' (Chiba City) section.

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for '横須賀市' (Yokosuka City) section.

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for '浜松市' (Hamamatsu City) section.

盛岡市

(岩手銀行)

Table listing names and numbers for '盛岡市' (Morioka City) section.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for '東京都' (Tokyo) section.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for '横浜市' (Yokohama City) section.

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for '富士市' (Fujinomiya City) section.

名古屋市

(電電東海)

監投手 30 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大 阪 市

(電電近畿)

監投手 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

姫 路 市

(新日本製鉄広畑)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

松 山 市

(丸善石油)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大 垣 市

(西濃運輸)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大 阪 市

(日本生命)

監投手 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

高 砂 市

(鐘淵化学)

監投手 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

松 山 市

(電電四国)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

東 海 市

(新日鉄名古屋)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

堺 市

(新日鉄堺)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

広 島 市

(電電中国)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

北 九 州 市

(新日鉄八幡)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

京 都 市

(日本新薬)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

神 戸 市

(川崎重工)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

三 原 市

(三菱重工三原)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

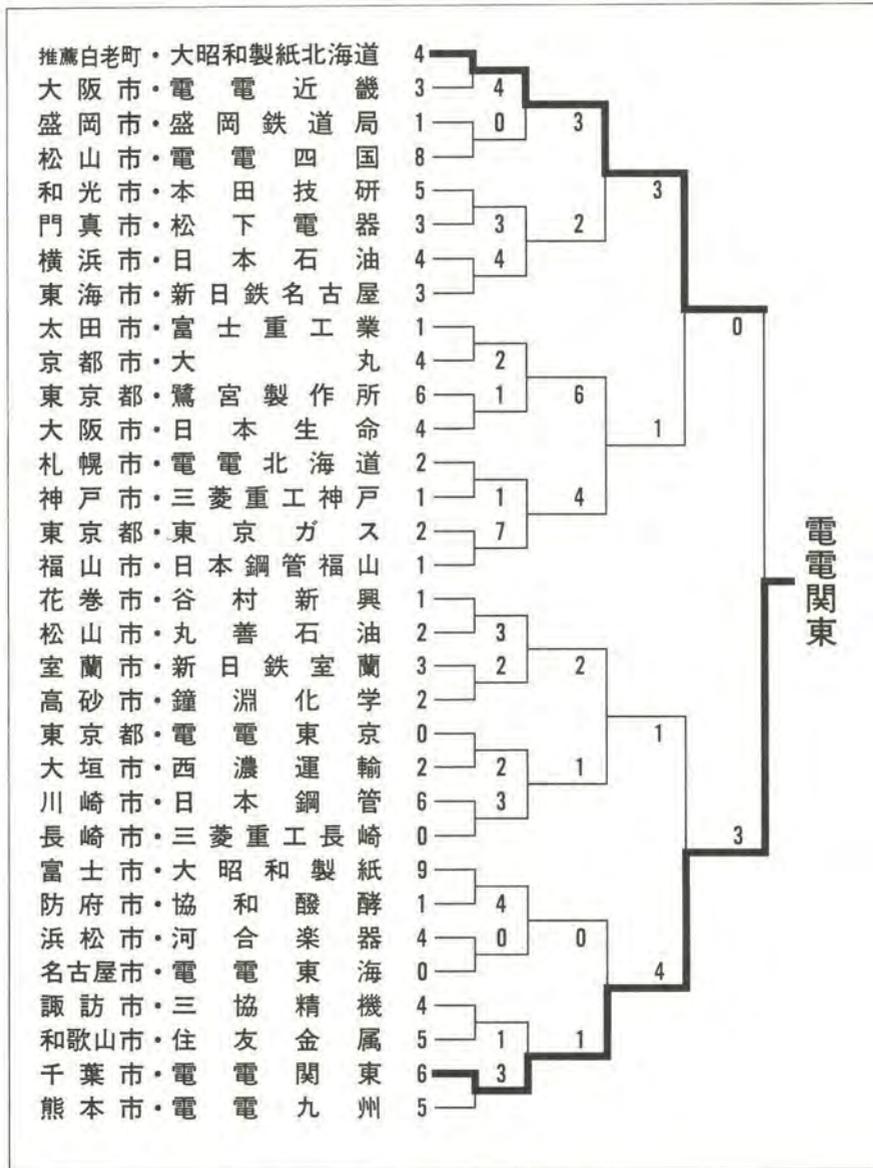
熊 本 市

(電電九州)

監投手 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

第46回大会

1975年(昭和50年)7月25日 - 8月3日・後樂園球場
優勝=千葉市・電電関東(6年ぶり2回目)



好投した丹投手は、橋戸賞のほか若獅子賞と、投手ながら15打数5安打で打撃賞も獲得した。同投手は今春北茨城高から入社したばかり。高校出の新人が橋戸賞を獲得したのは、大会史上初めてのことだった。

3賞獲得の丹は、千葉優勝のすべてとってよかった。1回戦の熊本市・電電九州戦で、先発して打ち込まれたエースの中後政行をロングリリーフ、勝利投手となったのをスタートに、2回戦の和歌山市・住友金属戦でも中後を3回からリリーフ。準々決勝の大昭和製紙戦で初めて先発し、7安打完封。準決勝松山市・丸善石油戦は、1点に抑えての完投勝ち。全試合に登板し、暑さの中で力が衰えるどころか、むしろ調子をあげていったところに「若獅子」らしさがあった。無名の新人投手の力を十二分に引き出した監督・佐藤文夫捕手の好リードも見逃がせない。

千葉の優勝は、1試合ずつ振り返れば、勝つべくして勝ったのだが、大会が終わって見れば、どの試合も苦しみの連続で、大会球史に残る大番狂わせだったともいえる。それだけに捕手として投手陣だけでなく全選手を大胆に起用した佐藤監督の指揮が光った。

前年優勝の大昭和製紙北海道の活躍もめざましかった。前年のVチームが決勝まで進んだのは、第33回大会に連勝した横浜市・日本石油以来13年ぶり。大昭和北海道は前年、柳俊之(電電北海道)千藤和久(拓銀)の両補強投手の活躍で黒獅子旗をつかんだが、今回はその両投手がいないうえ、エースだった中山俊之もプロ入りで欠いたが、新鋭の左腕・加藤英美が好投し、高梨英夫、斎藤勲らベテラン打線が加藤を盛りたてた。加藤投手は久慈賞のほか、14打数5安打、3割5分7厘で首位打者賞も獲得した。打撃部門の賞を決勝を争った2投手が取ったのも珍しい。大昭和北海道には小野賞が贈られた。

優勝候補とみられていた川崎市・日本鋼管、東京都・東京ガスは、投打にすぐれた力をみせて勝ち進んだが、準々決勝で川崎市・丸善石油に、東京は京都市・大丸に相次いで敗れた、そのなかで投手陣をうまく使いベスト4に進んだ京都市・大丸は大健闘だった。

3賞独占、18歳ルーキー・丹

千葉市、電電関東が第40回大会以来6年ぶり2回目の優勝をとげた。決勝で前年優勝の大昭和製紙北海道(白老町)と対戦した千葉は、18歳の丹利男投手が大昭和打線を3安打に抑えて完封。攻めては3回に先取点をあげたあと、7回には関東孝雄三塁手(日本通運から補強)の2試合連続本塁打で2点を追加、3-0で大昭和北海道を降して黒獅子旗をつかんだ。

決勝

千葉市（電電関東）
 0 0 1 0 0 0 2 0 0 | 3
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 大昭和製紙北海道（推薦・白老町）

【千葉市】	打安点振球	【大昭和北海道】	打安点振球
⑥ 神田	4 0 1 0 0 0	⑨ 浜井	4 0 0 0 0 0
⑦ 江野	4 0 0 0 0 0	⑦ 山本	3 0 0 0 0 1
③ 佐藤	4 0 0 0 0 0	⑤ 藤本	3 0 0 0 1 1
④ 藤野	3 1 0 0 0 1	③ 高屋	4 1 0 1 0 0
⑤ 東林	4 1 2 0 0 0	② 喜上	3 1 0 0 0 0
⑨ 関若	2 0 0 0 0 1	② 村上	3 0 0 0 0 0
⑧ 若野	2 0 0 0 0 0	⑥ 角田	3 1 0 0 0 0
① 丹	3 2 0 1 0 0	④ 池本	3 0 0 0 0 0
	30 4 3 1 2	④ ケ本	3 0 0 0 0 0
		① 加藤	2 0 0 0 0 0
		① 大川	1 0 0 0 0 0
		① 瀬	0 0 0 0 0 0

併殺盗失	投手	回	打安振球責
1 2 3 0 1	丹	9	31 3 2 2 0

併殺盗失	投手	回	打安振球責
0 0 4 0 0	加藤	7	26 4 0 1 3
	藤本	1	3 0 1 0 0
	月瀬	1	4 0 0 1 0

決めた！2試合連続アーチ

18歳の若獅子、千葉の丹と大昭和の左腕・加藤は、ともに5連投だったが、持ち味を発揮して投げ合った。千葉は3回、四球の若林をバントで送り、丹の左前安打で一死一・三塁としたあと、神田の投手を強襲する遊ゴロで貴重な先取点をあげた。

大昭和も必至に反撃し、4回には山本の遊ゴロ失と四球で無死一・二塁の好機。ここで4番の高梨が三塁線を破るかと思われた痛打を放ったが、三塁手関東が横とびに好捕、三塁ベースにタッチしたあと一塁へ送球し、併殺にするファインプレーでピンチを切り抜けた。大昭和の攻撃は、このように不運続き。いい当たりか野手の正面をついたり、6回山本の大きな飛球がフェンスぎりぎりまで左翼手に好捕されるなど、千葉の好守にあって、リードをはねかえすことができなかった。

千葉は7回、三遊間安打の千葉を一塁において、関東が右翼上段に6年ぶりの栄光を決める本塁打を放った。関東は前夜の準決勝につづいての2試合連続ホームラン。この一撃は



優勝を決め抱き合う千葉、丹投手と捕手の佐藤監督



佐藤監督を胴上げして喜ぶ千葉市・電電関東ナイン

大昭和の反撃の意欲をくだいた。丹は、前半は伸びのあるストレートを外角低めに決め、後半はスローカーブをまじえ、内角で強気に勝負するなど、度胸満点のすばらしいピッチングだった。

決勝両監督は4番32歳

決勝の両チームの4番打者は、大昭和北海道が高梨一塁手、千葉市・電電関東は佐藤捕手。ともに監督兼務で32歳。

高梨は準決勝で先制2ランを放ち通算5号で大会タイ記録をマークすれば、佐藤も1回戦で同点3ラン。若い丹を巧みにリードする

など、文字通りのチームのけん引車だった。

日替わり活躍で4強に

京都市・大丸は、1回戦こそ岡崎が完投したが、それからは山村、中条、板谷、岡崎を巧みに継ぐ、やりくり投手陣。打線も佐下谷、北条、土井池、梅原らが、試合ごとにだれかが打つ、日替りヒーロー。清水監督は「選手が自分の役割を果たそうと一生懸命やっているのかわいい結果につながっている」と満足そうだったが、大会前下馬評にもあがらなかったのに、昭和25年の第21回大会以来のベスト4進出。大会を盛りあげる活躍だった。

暗い時代の格別の優勝

千葉市、電電関東
 佐藤文夫監督兼捕手



駒大を卒業、昭和40年電電公社に入社。40回大会にも主将として優勝。巧みな投手リードは定評がある。48年から7年間監督を兼務。現在NTT浦安行徳支店システム課長。

いまだから笑って話せるけど、当時の電電は赤字で、料金値上げからみ、野球部の対外試合禁止、練習時間の制限と暗い時代だった。落ち込んだ中だけに派手にいこうと、オレンジとグリーンの奇抜なユニホームをつかった。それだけに優勝は格別の喜びがあった。北茨城高を出たばかりの投手の丹利男が、南関東予選から頭角を現しエースは中後政行だったが「こいつ中心でいこう」と心に決めた。とにかくコントロールがよく、球の切れ

がすばらしかったし、こっちの要求通りに大胆に投げてきた。

準々決勝の大昭和製紙が一番苦しかった。慶野茂の二塁打で1回に1点取ったが、そのあとチャンスがない。初先発の丹は再三走者を出したが、代える気は全くなく、じっと辛抱した。4回に連安打で二死一・二塁とされたとき、丹が絶妙のけん制で二塁走者を刺したのも大きかった。しのぎ勝って次の丸善石油も丹が完投勝ち。

決勝の大昭和北海道戦はトップの浜井源次君が打席に入るとき捕手の私に「シャベリなしていきましょう」と話しかけてきた。それだけ気にしているんだなと思って、いけると確信した。4回の無死一・三塁で監督の高梨英夫君の痛打を三塁の関東孝雄が横とびで捕り、併殺したのがヤマ場だった。

毎日新聞の鈴木美嶺さんに、「最年長32歳の佐藤捕手の奮闘に久慈次郎監督兼捕手の「闘魂と知力」を見た」と書いて頂いた。とても久慈さんの域には…と思いつながらうれしかった。

◇2打席連続本塁打 東京都・鷺宮製作所の板井建司一塁手（明治生命から補強）が1回戦の対大阪市・日本生命戦で、史上8人目。

◇全員安打 千葉市・電電関東が、準決勝の松山市・丸善石油戦で記録。史上6回目。

◇個人通算本塁打タイ5本 大阪市・日本生命の鈴木憲行三塁手は1回戦の東京都・鷺宮製作所戦で村中投手から左翼席に打ち込み通算5号。

白老町・大昭和製紙北海道の高梨英夫一塁手は準決勝の京都市・大丸戦で山村投手から左翼席上段に打ち込み通算5号のタイ記録。同記録をもつのは大岡虎雄（八幡製鉄）と鈴木博昭（三菱自動車川崎）。

横浜の三塁側スタンドは歓起の総立ちとなった。まだ余韻が残っているその裏、先頭打者として打席についた大昭和北海道の村上が横浜の3番手、川田の2球目をものみごとにとらえ、左翼席にサヨナラ本塁打、劇的な幕切れとなった。



大会記念の黒獅子キーホルダー

首位打者は久慈賞投手

前回優勝したときのチームから補強の2枚看板投手がいなく、自チームのエースはプロ入り。大昭和北海道にとっては、おまっくらの投手力だった。22歳、4年目の左腕・加藤が踏んばり、2年連続の決勝進出。

室蘭大谷高時代から晴れやかな舞台に立ったことはなく、トロフィーとも無縁の加藤だけに、久慈賞を受けると「力以上のことをやりました。（負けて）くやしい気持ちはそれほどありません」と淡々とした口調。「社会人最高の大会で大きな賞をもらえたと、バットの方でも首位打者なんて、生涯最高の日です」。

9回表2死からドラマ

準々決勝の横浜市・日本石油と大昭和製紙北海道戦は最終回到素晴らしいドラマを描く好試合。

大昭和北海道は若きエース加藤が好投、横浜も土居、大橋のリレーで8回を終わり2-1で大昭和北海道のリード。

9回横浜の攻撃も二死となり、絶望の淵に立たされたが、9番・伊藤が0-2からのカーブを打った瞬間、それとわかる同点本塁打。



白老対京都。大昭和北海道の高梨英夫選手が大会通算5号本塁打を放ち生還

1回戦

大阪市（電電近畿）		【大昭和北海道】	
0 0 0 1 0 0 2 0 0	3	0 0 1 0 0 0 2 0 0	3
0 2 1 0 0 0 1 0 X	4	0 2 1 0 0 0 1 0 X	4
大昭和製紙北海道（推薦・白老町）		【大昭和北海道】	
【大阪市】	打安点	【大昭和北海道】	打安点
⑦ 9 7 原平	4 2 0	⑨ 浜井	4 0 0
⑥ 田井	5 1 1	⑦ 山本	3 1 0
⑧ 盛岡	4 3 1	⑤ 斎藤	3 0 0
③ 田中	5 0 0	⑧ 高我	4 1 0
② 田中	4 2 0	③ 村角	3 0 0
⑤ 川岸	3 1 1	② 村上	3 1 0
⑨ 7 岸本	0 0 0	⑥ 田村	2 1 1
7 井上	3 0 0	④ 池谷	3 2 2
H 9 井上	1 1 0	① 藤月	2 2 0
④ 熊代	3 0 0	① 加望	1 0 0
H 4 伊原	0 0 0		288 3
① 小島	1 0 0	振球権盗失残併	
H 西	1 1 0	3 1 2 0 1 10 1	
R 1 西	0 0 0	投 手 回 安責	
H 1 柴	1 1 0	加 藤 6 1/3 9 3	
H 1 加	1 0 0	投 手 回 安責	
1 加	0 0 0	加 藤 2 2/3 3 0	
	3612 3		
振球権盗失残併		▽三塁打 平井▽二塁打	
3 2 2 2 0 10 1		角田 山本 池ヶ谷	
投 手 回 安責		原田▽2時間43分	
小島 4 5 3			
杉崎 3 3 1			
加納 1 0 0			

1回戦

盛岡市（盛岡鉄道局）		【松山市】	
0 0 0 0 1 0 0 0 0	1	0 0 0 0 1 0 0 0 0	1
1 6 0 0 1 0 0 0 X	8	1 6 0 0 1 0 0 0 X	8
松山市（電電四国）		【松山市】	
【盛岡市】	打安点	【松山市】	打安点
⑤ 新吉	4 1 0	⑦ 幸田	1 1 1
④ 沼田	3 0 0	④ 景浦	4 0 0
⑥ 赤木	3 1 0	⑨ 武谷	3 0 1
R 6 佐々木	0 0 0	⑧ 福池	4 2 3
⑧ 斎藤	3 0 0	③ 菊池	3 2 0
⑦ 上高	1 0 0	⑥ 高橋	3 1 0
7 上小	1 0 0	⑤ 中松	4 2 2
H 9 小田	2 1 0	② 田山	3 1 0
③ 小田	1 0 0	2 松崎	0 0 0
R 3 法山	0 0 0	① 入山	2 1 0
⑨ 7 松田	2 1 0	① 入山	1 0 0
② 2 鈴木	2 0 0		2810 7
① 1 堀高	3 2 1	振球権盗失残併	
H 1 佐藤	0 0 0	4 7 4 4 0 7 0	
H 1 平野	1 0 0	投 手 回 安責	
H 1 野村	1 0 0	加 藤 6 1/3 4 1	
1 野村	0 0 0	加 藤 2 2/3 3 0	
	307 1		
振球権盗失残併		▽本塁打 福谷1号③	
6 5 0 0 3 7 1		(高橋)▽三塁打 高橋	
投 手 回 安責		(松)新沼▽二塁打 鈴木	
堀江 1 3 1		木▽2時間34分	
高橋 4 4 1			
佐藤 2 2 0			
野村 1 1 0			

1回戦

門真市（松下電器）		【和光市】	
0 0 0 3 0 0 0 0 0	3	0 0 4 1 0 0 0 0 X	5
0 0 4 1 0 0 0 0 X	5		
和光市（本田技研）		【和光市】	
【門真市】	打安点	【和光市】	打安点
④ 6 山口	4 1 0	⑤ 小林	4 1 0
⑤ 石松	3 0 0	⑦ 小中	4 2 0
⑦ 3 松岡	4 1 0	⑨ 中手	4 2 0
③ ③ 鏡治	3 1 0	③ 成田	3 2 1
⑨ ⑨ 沼田	3 1 0	④ 望月	4 1 3
7 堀江	1 1 0	⑧ 望月	4 3 0
⑧ ⑧ 浜田	3 2 2	② 中谷	3 0 0
⑥ ⑥ 坂口	2 0 0	① 大和	1 0 0
4 坂口	1 0 0	H 岸	1 1 0
① ① 坂口	1 0 0	R 金	0 0 0
2 中	2 0 1	1 藤	1 0 0
H 高	1 0 0	⑥ 川崎	2 0 0
② ② 高木	1 0 0		3112 4
1 ① 中西	2 0 0	振球権盗失残併	
H ① 西	1 0 0	6 1 1 0 1 4 0	
	327 3	投 手 回 安責	
振球権盗失残併		名 和 4 5 2	
6 2 2 1 1 6 1		藤 田 5 2 0	
投 手 回 安責			
福中 2 1/2 7 4			
中川 5 2/3 5 1			
▽本塁打 成田1号③(福岡)▽二塁打 望月			
▽2時間42分(中断5分)			

1回戦

横浜市 (日本石油)
2 0 0 0 0 0 2 0 0 | 4
0 1 0 0 0 0 0 0 2 | 3
東海市 (新日鉄名古屋)

【横浜市】 打安点
⑨ 伊藤 5 1 0
⑤ 藤口 5 1 0
⑦ 磯部 4 3 2
⑧ 田橋 4 3 0
③ 小望 4 1 2
⑥ 野川 4 2 0
④ 水守 4 0 0
② 土大 4 2 0
① 大橋 0 0 0
振球機盗失残併 38134
4 0 0 0 0 7 0
投手回安責
手居 8 8 3
大橋 1 0 0

【東海市】 打安点
⑨ 吉田 3 2 0
⑥ 生坂 4 1 0
⑧ 小島 4 1 2
③ 山本 4 1 0
⑤ 山口 0 0 0
② 寺西 4 0 0
⑦ 吉田 4 1 1
① 金鈴 2 0 0
④ 小細 0 0 0
④ 小細 2 1 0
④ 小細 1 0 0
振球機盗失残併 3383
5 0 1 0 1 4 1
投手回安責
鈴前 7 124
木村 1 10
野村 1 0
野村 1 0
小野 1 0
振球機盗失残併 5 0 1 0 1 4 1
投手回安責
鈴前 7 124
木村 1 10
野村 1 0
野村 1 0
小野 1 0

▽本塁打 磯部1号②(鈴木) 福島1号②(土居)
▽二塁打 小橋 吉田雄 山本▽2時間30分

1回戦

京都市 (大丸)
0 0 3 0 0 0 0 0 1 | 4
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
太田市 (富士重工業)

【京都市】 打安点
⑨ 下谷 3 0 0
⑦ 北条 4 3 0
④ 梅原 4 0 0
③ 井池 4 1 2
⑤ 長中 4 1 1
⑧ 田中 4 1 0
② 田中 4 1 0
⑥ 岡崎 3 0 1
① 岡崎 4 1 0
振球機盗失残併 3484
5 1 1 2 1 5 0
投手回安責
岡崎 9 3 1

【太田市】 打安点
⑧ 山本 4 1 0
⑥ 木安 2 0 0
③ 岡田 3 0 0
⑦ 三浦 4 1 1
⑤ 山長 3 0 0
④ 野江 2 0 0
② 村上 1 0 0
① 上沢 1 0 0
① 柴田 0 0 0
① 柴田 3 1 0
① 柴田 1 0 0
振球機盗失残併 3031
2 5 1 1 0 8 0
投手回安責
柴田 2 5 3
柴田 6 3 1
三浦▽2時間35分

1回戦

高砂市 (鐘淵化学)
1 0 0 0 0 0 0 1 0 | 2
2 0 1 0 0 0 0 0 0 | 3
室蘭市 (新日鉄室蘭)

【高砂市】 打安点
⑧ 外岡 4 1 0
⑥ 岡田 4 1 0
③ 長嶋 3 1 0
⑤ 藤村 4 2 1
② 山藤 4 1 0
⑦ 山内 4 1 0
⑨ 野村 1 0 0
R 山内 1 0 0
H 山内 1 0 0
① 山内 1 0 0
① 山内 1 0 0
H 山内 1 0 0
H 山内 1 0 0
振球機盗失残併 3292
5 4 1 0 1 8 2
投手回安責
久保 1/2 4 2
宮内 5/2 0 0
光本 5 5 1
藤本 2 1 0

【室蘭市】 打安点
⑥ 高岡 3 0 0
④ 五鬼 4 1 0
⑦ 丸山 3 2 0
⑧ 柴山 3 3 2
⑨ 菅西 3 0 0
⑤ 菅西 1 0 0
② 倉内 4 1 1
② 藤前 3 1 0
① 山財 3 1 0
③ 小崎 4 0 0
振球機盗失残併 32103
1 3 1 0 0 9 1
投手回安責
山口 6 7 0
財前 2 2 1
▽三塁打 丸山▽二塁打 中山▽2時間44分

1回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
札幌市 (電電北海道)

【神戸市】 打安点
⑥ 川辺 3 0 0
④ 谷本 3 0 1
④ 山時 0 0 0
⑤ 深小 4 0 0
⑤ 東 3 1 0
③ 高上 4 1 0
⑨ 日井 4 2 0
H 宮崎 1 0 0
H 井中 1 0 0
② 竹中 3 1 0
② 仲野 1 1 0
H 仲野 1 0 0
① 田野 0 0 0
振球機盗失残併 2961
2 3 2 0 0 6 0
投手回安責
岡野 6 7 2
増野 2 2 0
向川1号②(増岡) 竹中
二塁打 日高 三浦▽1時間56分

【札幌市】 打安点
⑧ 川原 4 1 0
⑤ 古比 4 1 0
⑤ 日野 4 1 0
② 浦川 4 2 0
③ 三浦 4 3 2
⑦ 田田 3 0 0
④ 田谷 3 1 0
④ 山金 3 0 0
① 柳 1 0 0
H 松沢 1 0 0
① 柳 1 0 0
振球機盗失残併 3292
9 1 0 1 0 7 1
投手回安責
有沢 5 4 1
有沢 4 2 0

1回戦

福山市 (日本鋼管福山)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2
東京都 (東京ガス)

【福山市】 打安点
⑦ 野藤 4 1 0
⑦ 伊藤 2 0 0
H 佐藤 0 0 0
H 井内 0 0 0
③ 山内 3 1 0
③ 佐木 3 0 1
⑥ 山根 3 1 0
④ 白草 3 2 0
④ 深大 3 0 0
② 森森 3 0 0
① 田村 2 0 0
H 清水 1 0 0
振球機盗失残併 2751
2 1 3 0 1 3 0
投手回安責
田村 8 3 1

【東京都】 打安点
⑦ 山田 4 0 1
⑥ 本中 3 0 0
③ 池田 3 0 0
⑤ 藤月 3 1 0
⑧ 真田 3 0 0
④ 森渡 3 2 1
② 加工 3 0 0
① 藤藤 3 0 0
振球機盗失残併 2832
2 0 0 1 1 2 1
投手回安責
藤藤 9 5 0

▽本塁打 渡辺1号(田村)
▽1時間54分

1回戦

富士市 (大昭和製紙)
5 0 1 1 1 0 0 0 1 | 9
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
防府市 (協和酸酵)

【富士市】 打安点
⑧ 山本 3 3 0
④ 谷本 4 0 0
⑤ 船山 3 0 0
⑤ 山田 4 0 0
③ 大野 3 1 2
⑦ 依田 2 1 0
⑦ 依田 2 1 0
② 中本 3 2 2
② 伊沢 1 1 1
⑥ 大和 5 3 3
① 山根 4 1 0
振球機盗失残併 37148
3 5 2 6 2 8 1
投手回安責
山根 9 6 1

【防府市】 打安点
⑦ 田村 3 0 0
⑧ 越中 1 0 0
⑧ 越中 0 0 0
⑨ 白田 4 1 0
⑦ 山重 0 0 0
H 荒谷 3 1 0
⑧ 古多 1 0 0
③ 宇高 2 1 0
③ 宇高 2 1 1
⑤ 松小 4 0 0
⑥ 磯部 2 1 0
H 磯部 1 0 0
⑥ 柳原 1 0 0
H 柳原 2 1 0
④ 藤田 1 0 0
④ 藤田 2 0 0
① 藤田 0 0 0
H 藤田 1 0 0
H 藤田 2 0 0
振球機盗失残併 3361
4 0 0 0 5 1
投手回安責
手松 1 2 5
野村 4 6 2
野村 3 4 0
白木 1 2 1

▽本塁打 高月1号(山根)
▽三塁打 長倉 山本 大和
▽二塁打 大和 依田
▽2時間44分

1回戦

大阪市 (日本生命)
0 0 0 0 0 0 2 0 2 | 4
0 0 0 2 0 0 1 3 0 | 6
東京都 (鷹宮製作所)

【大阪市】 打安点
④ 赤井 4 1 0
⑧ 井名 5 1 0
⑦ 西木 3 0 0
⑦ 鈴木 4 2 1
⑤ 世野 3 1 0
R 山本 0 0 0
R 山本 1 1 0
② 佐竹 2 1 0
② 佐竹 2 0 0
⑨ 中飛 1 0 0
① 岡田 1 0 0
① 岡田 1 0 0
H 利平 1 1 1
H 利平 4 3 2
振球機盗失残併 33114
5 3 2 0 1 7 0
投手回安責
岡田 4 2 1
利光 4 5 4

【東京都】 打安点
⑨ 高橋 3 1 0
⑥ 橋本 4 0 0
⑦ 中渡 4 1 1
⑧ 梅原 3 0 0
③ 板井 4 2 3
④ 松本 3 0 0
⑤ 益有 4 2 2
② 山本 4 1 0
① 山本 0 0 0
H 山本 1 0 0
H 山本 0 0 0
① 山本 1 0 0
振球機盗失残併 3176
6 3 1 0 0 5 1
投手回安責
山本 5 3 0
村中 1 4 2
伊藤 3 4 2

▽本塁打 板井1号②(岡田) 鈴木憲1号(村中) 板井2号(利光)
▽三塁打 鈴木憲 渡辺
▽二塁打 笹山▽2時間35分

1回戦

花巻市 (谷村新興)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
松山市 (丸善石油)

【花巻市】 打安点
⑧ 本郷 4 2 1
⑥ 谷石 4 0 0
⑥ 谷石 4 1 0
⑨ 佐藤 3 1 0
⑦ 佐藤 0 0 0
⑤ 吉田 4 0 0
③ 吉田 4 0 0
④ 吉田 3 3 0
④ 八中 0 0 0
② 八中 2 1 0
① 林 1 0 0
① 吉田 1 0 0
H 浅井 0 0 0
振球機盗失残併 3081
3 2 1 1 0 5 0
投手回安責
林 4 5 1
吉田 2 1 0
浅井 1 2 1

【松山市】 打安点
⑧ 窪田 4 1 1
⑤ 田合 2 0 0
⑤ 窪田 2 0 0
③ 下田 4 2 0
② 田田 4 1 0
⑦ 上野 4 0 0
⑨ 上野 2 0 0
H 新崎 2 1 1
H 新崎 3 1 0
④ 古水 2 1 0
⑥ 水質 2 1 0
振球機盗失残併 3182
4 1 1 0 0 6 3
投手回安責
古賀 9 8 1

▽本塁打 窪田1号(林) 本郷1号(古賀)
▽二塁打 永田▽2時間20分

1回戦

長崎市 (三菱重工長崎)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 3 0 2 0 | 6
川崎市 (日本網管)

【長崎市】 打安点
④ 本多 2 0 0
④ 多島 2 0 0
⑧ 鈴木 4 2 0
⑧ 井手 3 0 0
⑨ 直都 1 0 0
H 藤田 1 0 0
H 藤田 1 0 0
③ 宮村 3 0 0
③ 宮村 1 0 0
R 藤田 2 1 0
R 藤田 2 1 0
⑤ 山口 1 0 0
⑥ 古野 3 1 0
① 古野 2 0 0
H 古野 0 0 0
H 古野 1 0 0
H 古野 0 0 0
② 藤木 2 1 0
② 藤木 1 1 0
振球機盗失残併 3260
8 0 0 0 3 5 1
投手回安責
野野 5/2 4 2
岡 1/2 1 0
藤木 1/2 2 2
藤木 1/2 1 0

【川崎市】 打安点
⑨ 高内 4 0 0
④ 尾藤 4 0 0
④ 福崎 4 2 0
④ 福崎 4 3 3
⑦ 川野 4 1 1
⑤ 宇野 3 1 0
③ 山本 0 0 0
⑧ 山本 2 0 0
H 山本 1 0 0
H 山本 0 0 0
R 山本 1 0 0
R 山本 4 0 0
① 六中 3 1 1
振球機盗失残併 3485
6 1 0 0 5 0
投手回安責
上岡 9 6 0

▽本塁打 前川1号②(藤沢)
▽二塁打 福崎 前川 植野 宇賀山
▽2時間30分

1 回戦

東京都 (電電東京)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 1 0 X | 2
大垣市 (西濃運輸)

[東京都] 打安点
(9) 上田 4 0 0
(6) 柏 4 1 0
(3) 上和 4 0 0
(2) 菊地 3 0 0
(5) 瓜科 3 1 0
(4) 原富 3 1 0
(8) 永崎 3 0 0
(7) 森 2 0 0
(1) 田山 0 0 0
H 1 内片 1 0 0
1 小 0 0 0
振球機盗失残併 303 0
4 0 0 2 3 3 0
投手 回 安責
森 6 5 1
内田 1 0 0
小林 1 0 0
▽本塁打 高橋1号(森)
▽1時間55分

1 回戦

浜松市 (河合楽器)
2 0 0 1 0 0 1 0 0 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
名古屋市 (電電東海)

[浜松市] 打安点
(4) 伊藤 4 1 1
(6) 伊藤 5 2 0
(9) 福間 4 1 0
(7) 植松 4 2 2
(8) 小宮 4 1 0
(3) 青木 3 0 0
(5) 木間 4 1 0
(2) 深沢 4 1 1
(1) 沢 4 0 0
振球機盗失残併 369 4
4 1 1 0 0 7 1
投手 回 安責
深沢 9 3 0
▽三塁打 植松
▽二塁打 伊藤 青木
▽2時間

1 回戦

和歌山市 (住友金属)
0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 | 5
0 1 0 0 0 1 0 1 1 0 0 | 4
諏訪市 (三協精機)

[和歌山市] 打安点
(9) 宇山 5 1 0
(8) 好 6 0 0
(6) 林 4 2 0
(3) 谷 5 3 0
(5) 中尾 4 2 1
(7) 尾形 5 2 2
(4) 藤原 4 1 1
(2) 藤原 4 0 0
(1) 山川 1 0 0
H 1 中尾 0 0 0
1 1 宮入 0 0 0
1 川 3 1 1
振球機盗失残併 421 2 5
3 4 1 1 2 9 0
投手 回 安責
山中 3 2 1
宮入 1 1 2
川 6 1 4 3
▽本塁打 星山1号(山中)
▽二塁打 尾形 植松
内田
▽3時間43分

[諏訪市] 打安点
(4) 内田 3 1 1
(8) 豊武 3 0 0
(5) 柳 2 0 0
(5) 佐 3 1 0
R 8 山 1 0 0
(7) 鈴木 5 2 0
(3) 山 5 2 2
(7) 古 5 2 2
(2) 幡 5 0 0
(2) 古 4 0 0
(1) 池 1 0 0
H 1 山 0 0 0
1 1 山 0 0 0
1 1 山 0 0 0
1 1 山 0 0 0
振球機盗失残併 421 2 3
7 5 4 1 0 1 1 1
投手 回 安責
土居 4 4 1
大橋 3 5 2
川 3 1 0
▽三塁打 磯部 小橋 猪狩
池田
▽4時間1分

1 回戦

熊本市 (電電九州)
3 0 0 0 0 0 2 0 0 | 5
3 0 0 0 0 2 0 0 1 | 6
千葉市 (電電関東)

[熊本市] 打安点
(5) 門川 5 1 0
(4) 井 4 0 0
(6) 林 3 3 2
(3) 浦 3 1 0
H 3 浦 2 0 0
(9) 江 5 3 2
(8) 勝 0 0 0
H 7 山 1 1 0
(7) 黒 1 1 1
(2) 中 4 1 0
(8) 城 1 0 0
H 8 大 2 1 0
H 9 大 2 0 0
(9) 伊 0 0 0
H 1 江 1 0 0
1 長 2 1 0
振球機盗失残併 351 3 5
4 4 2 1 2 9 1
投手 回 安責
伊達 2 3 3
長 6 6 2
▽本塁打 佐藤1号(伊達)
▽三塁打 江口明
▽二塁打 門川 江沢 佐藤
▽2時間39分

2 回戦

大昭和製紙北海道 (推薦・白老町)
1 0 1 0 0 0 0 0 2 | 4
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
松山市 (電電四国)

[大昭和北海道] 打安点
(9) 井 4 0 0
(7) 山 4 2 1
(5) 藤 3 1 1
(3) 梨 3 0 0
(8) 我 4 0 0
(2) 村 4 1 0
(4) 池 4 1 1
(1) 仲 2 1 0
(4) 加 2 0 0
(1) 本 4 2 1
振球機盗失残併 348 4
3 3 0 0 0 6 0
投手 回 安責
加藤 9 5 0
▽本塁打 齊藤1号(入山)
▽二塁打 山本 加藤 角田
▽2時間30分

2 回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 1 2 0 0 0 0 0 1 | 4
0 0 0 0 1 2 0 0 0 0 0 | 3
和光市 (本田技研)

[横浜市] 打安点
(9) 伊 5 1 0
(5) 部 4 0 0
(7) 池 6 3 1
(8) 池 4 2 1
(3) 橋 5 3 1
(6) 小 6 2 0
(2) 望 2 1 0
(4) 水 4 0 0
H 2 馬 1 0 0
(1) 中 0 0 0
(1) 土 2 0 0
1 大 2 0 0
1 川 1 0 0
振球機盗失残併 421 2 3
7 5 4 1 0 1 1 1
投手 回 安責
土居 4 4 1
大橋 3 5 2
川 3 1 0
▽三塁打 磯部 小橋 猪狩
池田
▽4時間1分

[和光市] 打安点
(5) 林 4 0 0
(7) 小 5 1 0
(9) 中 5 0 0
(3) 手 5 3 1
(4) 成 4 0 0
(8) 望 5 0 0
(2) 大 4 3 1
R 2 金 0 0 0
(1) 水 1 0 0
H 1 猪 1 1 0
1 河 1 0 0
1 杉 0 0 0
(6) 藤 1 0 0
(6) 川 3 2 1
振球機盗失残併 391 0 3
5 6 3 0 1 9 1
投手 回 安責
和 5 6 2
名 4 2 0
河 3 4 1
藤 1 0 0
川 2 2 0
▽二塁打 手島

2 回戦

京都市 (大丸)
0 1 0 0 0 0 0 1 0 | 2
0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
東京都 (鷲宮製作所)

[京都市] 打安点
(9) 北条 5 1 0
(7) 条 3 1 0
H 9 下 1 0 0
(4) 佐 0 0 0
(3) 谷 4 0 0
(5) 原 3 2 0
(8) 池 4 2 1
(2) 沢 4 2 0
(6) 中 3 1 1
(1) 田 4 2 0
H 1 山 2 0 0
1 中 1 0 0
振球機盗失残併 351 1 2
4 2 0 2 0 3 2
投手 回 安責
山村 6 2 1
中 3 4 0
▽二塁打 土井池 北条
▽2時間30分

2 回戦

東京都 (東京ガス)
0 0 2 0 0 1 0 4 0 | 7
0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1
札幌市 (電電北海道)

[東京都] 打安点
(7) 山 4 1 0
(6) 本 5 1 0
(3) 中 4 1 1
(5) 藤 4 1 1
(8) 伊 4 0 0
(5) 望 0 0 0
(4) 吉 3 1 1
(9) 森 3 1 0
(2) 森 4 3 4
(1) 加工 2 1 0
H 1 藤 1 0 0
1 石 1 0 0
1 井 0 0 0
振球機盗失残併 351 0 7
9 3 1 3 1 5 1
投手 回 安責
工藤 6 5 1
本 2 1 0
岩 井 1 0 0
▽本塁打 加藤1号(有沢)
▽二塁打 若松
▽2時間11分

2 回戦

松山市 (丸善石油)
0 0 0 1 2 0 0 0 0 0 | 3
2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
室蘭市 (新日鉄室蘭)

[松山市] 打安点
(8) 窪 4 2 0
(5) 神山 2 0 1
(3) 田 3 1 0
(2) 下 3 0 1
(7) 田 3 2 0
(9) 永 3 0 0
(4) 上 3 1 1
(1) 新 1 0 0
H 1 藤 1 0 0
1 河 1 0 0
(6) 落 4 2 0
(6) 古 2 9 8 3
振球機盗失残併 29 8 3
1 0 5 3 1 0 7 1
投手 回 安責
藤井 3 3 2
落 3 1 0
古 3 0 0
▽二塁打 窪田 福永 水中 荒野
▽2時間23分

[室蘭市] 打安点
(4) 高 4 0 0
(7) 丸 4 2 0
(8) 山 2 2 0
(9) 田 3 0 0
H 9 西 2 0 1
(5) 安 1 0 0
(2) 鬼 1 0 0
(1) 菅 1 0 0
(2) 朝 4 0 0
(1) 後 1 0 0
(1) 竹 1 0 0
H 1 内 1 0 0
1 塚 1 0 0
(3) 山 1 0 0
(3) 小 3 0 0
振球機盗失残併 29 4 1
6 3 1 2 0 4 1
投手 回 安責
浜 5 6 3
山 4 2 0
荒野
▽2時間23分

2回戦

大垣市 (西濃運輸)

Score table for Gakyo City (Seino Transport) showing runs, hits, errors, and total score.

川崎市 (日本鋼管)

Player statistics for Gakyo City and Kawasaki City (Nippon Steel) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Gakyo City and Kawasaki City, including total runs, hits, errors, and game duration.

2回戦

浜松市 (河合楽器)

Score table for Hamamatsu City (Kawai Instruments) showing runs, hits, errors, and total score.

富士市 (大昭和製紙)

Player statistics for Hamamatsu City and Fuji City (Daisho Paper) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Hamamatsu City and Fuji City, including total runs, hits, errors, and game duration.

2回戦

千葉市 (電電関東)

Score table for Chiba City (Teikoku Kanto) showing runs, hits, errors, and total score.

和歌山市 (住友金属)

Player statistics for Chiba City and Wakayama City (Sumitomo Metal) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Chiba City and Wakayama City, including total runs, hits, errors, and game duration.

準々決勝

横浜市 (日本石油)

Score table for Yokohama City (Nippon Oil) showing runs, hits, errors, and total score.

大昭和製紙北海道 (推薦・白老町)

Player statistics for Yokohama City and Daisho Paper Hokkaido (Recommended - Shirao Town) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Yokohama City and Daisho Paper Hokkaido, including total runs, hits, errors, and game duration.

準々決勝

富士市 (大昭和製紙)

Score table for Fuji City (Daisho Paper) showing runs, hits, errors, and total score.

千葉市 (電電関東)

Player statistics for Fuji City and Chiba City (Teikoku Kanto) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Fuji City and Chiba City, including total runs, hits, errors, and game duration.

準々決勝

松山市 (丸善石油)

Score table for Matsuyama City (Maruichi Oil) showing runs, hits, errors, and total score.

川崎市 (日本鋼管)

Player statistics for Matsuyama City and Kawasaki City (Nippon Steel) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Matsuyama City and Kawasaki City, including total runs, hits, errors, and game duration.

準々決勝

京都市 (大丸)

Score table for Kyoto City (Daikoku) showing runs, hits, errors, and total score.

東京都 (東京ガス)

Player statistics for Kyoto City and Tokyo City (Tokyo Gas) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Kyoto City and Tokyo City, including total runs, hits, errors, and game duration.

準決勝

京都市 (大丸)

Score table for Kyoto City (Daikoku) showing runs, hits, errors, and total score.

大昭和製紙北海道 (推薦・白老町)

Player statistics for Kyoto City and Daisho Paper Hokkaido (Recommended - Shirao Town) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Kyoto City and Daisho Paper Hokkaido, including total runs, hits, errors, and game duration.

準決勝

松山市 (丸善石油)

Score table for Matsuyama City (Maruichi Oil) showing runs, hits, errors, and total score.

千葉市 (電電関東)

Player statistics for Matsuyama City and Chiba City (Teikoku Kanto) including batting averages and fielding percentages.

Summary statistics for Matsuyama City and Chiba City, including total runs, hits, errors, and game duration.

千葉市

(電電関東)

Table listing names and numbers for Chiba City, organized by gender and age groups.

盛岡市

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for Morioka City, organized by gender and age groups.

東京都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for Tokyo, organized by gender and age groups.

川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for Kawasaki City, organized by gender and age groups.

推薦・白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Oshiro Town, organized by gender and age groups.

花巻市

(谷村新興)

Table listing names and numbers for Hanamaki City, organized by gender and age groups.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo, organized by gender and age groups.

諏訪市

(三協精機)

Table listing names and numbers for Suifu City, organized by gender and age groups.

室蘭市

(新日鉄室蘭)

Table listing names and numbers for Muroran City, organized by gender and age groups.

太田市

(富士重工)

Table listing names and numbers for Maebashi City, organized by gender and age groups.

東京都

(鷲宮製作所)

Table listing names and numbers for Tokyo, organized by gender and age groups.

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fuji City, organized by gender and age groups.

札幌市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City, organized by gender and age groups.

和光市

(本田技研)

Table listing names and numbers for Wakko City, organized by gender and age groups.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City, organized by gender and age groups.

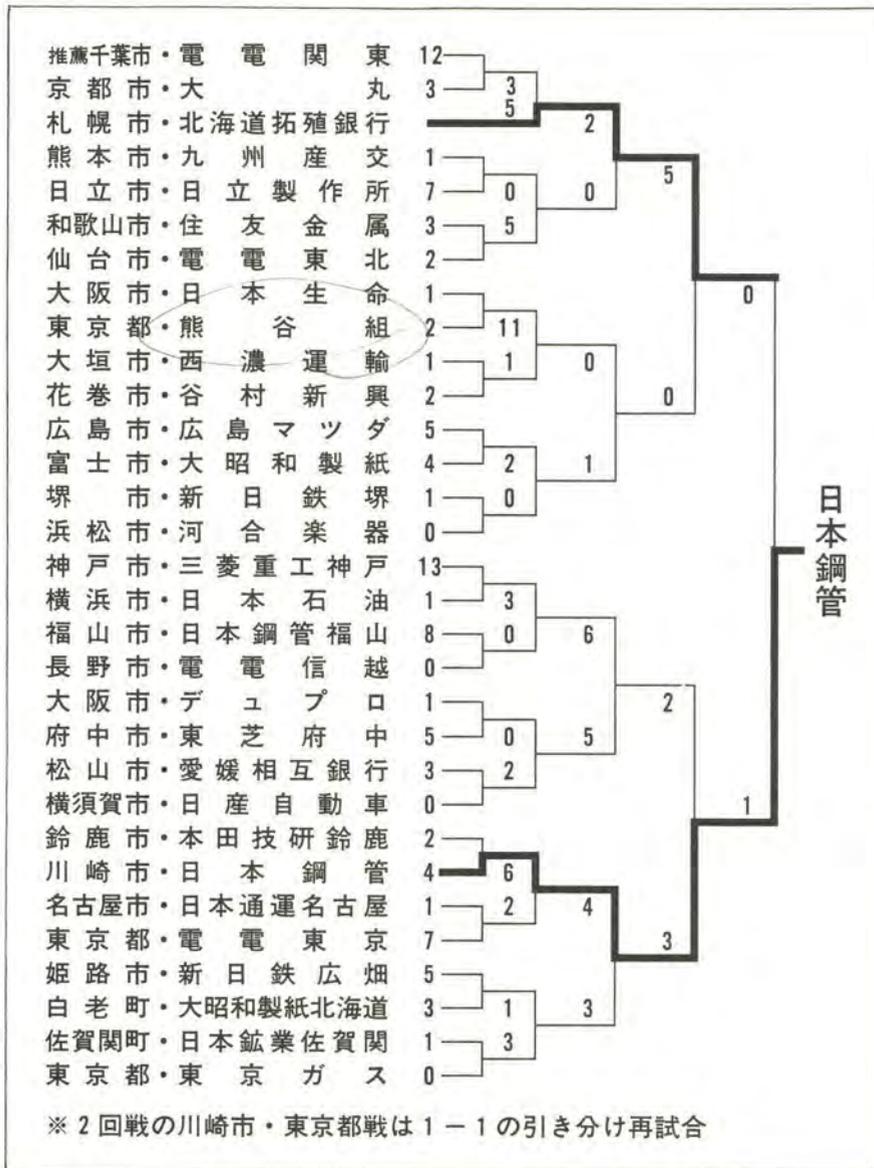
浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City, organized by gender and age groups.

第47回大会

1976年(昭和51年)7月23日 - 8月1日・後樂園球場
優勝=川崎市・日本鋼管(3年ぶり2回目)



大会は日本初の人工芝となった後樂園で、カナダ・モントリオール五輪と並行して行われた。四国代表に決定していた伊予銀行(松山市)が同行内の事情で出場を辞退、代替りのチームを選出する時間的余裕がなかったため、31チーム出場となった。

1回戦15試合のなかで目立ったのは、初出場3チームの活躍だった。松山市・愛媛銀行が入山功投手の好投で横須賀市・日産自動車を4安打完封したのをはじめ、広島市・広島マツダは強豪の富士市・大昭和製紙に9回逆転勝ち。府中市・東芝府中も大阪市・デュプロに快勝、そろって2回戦へ進んだ。

川崎市・日本鋼管は、1回戦の鈴鹿市・本田技研鈴鹿に苦戦、7回に福崎克彦(いすゞ自動車から補強)の本塁打で同点に追いついたあと、9回に2点をあげて鈴鹿を振り切ったが、2回戦の東京都・電電東京戦は延長16回1-1で引き分け。再試合で突破し、準々決勝の佐賀関町・日本鋳業佐賀関戦は延長12回、逆転サヨナラ勝ち。さらに準決勝の神戸市・三菱重工神戸戦も延長11回、樋野の決勝二塁打で逆転勝ちする苦戦続きの優勝だった。

一方、札幌市・拓殖銀行は、2回戦で前年度優勝の電電関東を破ったあと、準々決勝では千藤投手が和歌山市・住友金属を三塁も踏ませず3安打の完封。準決勝は千藤一有沢賢司(日産サニーから補強)の好継投で、広島市・広島マツダをピシャリと抑え、竹内昭文のとどめの3ランなどで快勝。投打の充実が目立ったが、もうひと息のところまで黒獅子旗に及ばなかった。

橋戸賞は川崎・樋野三塁手、久慈賞は札幌・千藤投手、小野賞は日本鋼管チーム。若獅子賞は広島市・広島マツダの後藤寿彦三塁手(三菱重工三原から補強)が受賞した。

白老町・大昭和製紙北海道の高梨英夫監督兼一塁手は1回戦の姫路市・新日鉄広畑戦で左翼本塁打を放ち、第13回大会(昭和12年)に八幡製鉄の大岡虎雄選手が記録した個人通算本塁打5本を39年ぶりに更新する6号の記録をつくった。川崎の福岡内野手も2回戦再試合の対東京都・電電東京戦で大会2号、通算6本塁打のタイに並んだ。

各チームにマスコットガールが登場。選手とともにベンチ入りして、グラウンドに彩りを添えた。

人口芝にマスコットガール登場

川崎市・日本鋼管が3年ぶり2度目の優勝をとげた。決勝は、川崎と札幌市・北海道拓殖銀行との間で行われ、川崎の梶間健一、札幌の千藤和久両左腕の好投で、息づまる投手戦。終盤、両チームとも好投の投手に代打を繰り出して活発な動きをみせ、9回表二死一・二塁の好機をつかんだ川崎が、斎藤茂樹の右翼線適時打で貴重な1点をあげて、栄冠を獲得した。

決勝

川崎市 (日本鋼管)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
札幌市 (北海道拓殖銀行)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【川崎市】	打安点振球	【札幌市】	打安点振球
⑧ 7 林	4 0 0 2 0	⑨ 梅 田	3 0 0 2 0
⑥ 内 藤	3 2 0 0 1	H 奥 田	1 0 0 1 0
④ 3 福 崎	3 0 0 1 0	H 菅	0 0 0 0 0
⑦ 前 川	2 0 0 0 2	⑥ 金 谷	3 1 0 1 0
⑧ 鈴 野	0 0 0 0 0	H 丸 山	1 0 0 1 0
⑤ 樋 野	2 1 0 0 2	⑦ 丸 山	3 0 0 0 0
③ 樋 野	1 0 0 0 0	③ 山 出	0 0 0 0 0
H 4 齋 藤	2 1 1 0 0	④ 井 水	4 0 0 1 0
⑨ 齋 藤	4 0 0 1 0	④ 高 岡	3 1 0 0 0
② 齋 藤	3 1 0 1 0	③ 川 倉	3 0 0 2 0
① 梶 間	2 0 0 1 0	⑤ 内 藤	3 1 0 1 0
H 前 田	1 0 0 0 0	② 竹 千	3 1 0 1 0
1 前	0 0 0 0 0	H 向 有	2 0 0 1 0
	27 5 1 6 5	1 向 有	1 0 0 1 0
犠併残盗失		1 向 有	0 0 0 0 0
2 0 6 0 0			30 4 0 1 2 0
投手回	打安振球責	犠併残盗失	
間 7	23 2 8 0 0	1 2 4 0 0	
前 2	8 2 4 0 0	投手回	打安振球責
		間 8	28 3 5 4 0
		前 1	6 2 1 1 1

▽二塁打 高岡 齋藤▽2時間36分

34歳39年ぶりの新記録

39年ぶりに個人通算本塁打記録が塗り変えられた。大岡虎雄選手(八幡製鉄)が第13回大会に記録して以来、今大会でマークした川崎市・日本鋼管の福岡克彦内野手(いすゞ自動車から補強)まで、5本で3人が並んでいたが、白老町・大昭和北海道の高梨英夫監督兼一塁手が、1回戦の対姫路市戦で通算6号をマークした。

なお福岡選手は東京都・電電東京との2回戦再試合で2号本塁打を放ち、高梨選手とタイ記録となった。

高梨選手は「6本は積み重ね、試合に負けではなんにもならない。まだまだ(記録を)伸ばします」と、34歳とは思えない盛んな意気込みだった。

初陣ベスト4 広島旋風

初出場の広島市・広島マツダが大健闘をみせ「広島旋風」を巻き起こした。

1回戦で出場25回の富士市・大昭和製紙を9回に3点をいれてサヨナラで破ると、すっかり波に乗り、三菱重工三原から補強の角投手を軸に柴田、宇根、岡崎の投手陣が頑張り、2回戦の堺市・新日鉄堺は角が完封。準々決勝は好リレーで東京都・熊谷組を1-0の零封。準決勝で敗れはしたが、ベスト4入りは立派。

中国代表が準決勝に進んだのは第24回大会の岡山鉄道局以来、23年ぶりの快挙だった。

枕並べ…暴れん坊たち

“山静の暴れん坊”のニックネームを持つ、富士市・大昭和製紙、浜松市・河合楽器が大

M E M O

◇個人通算本塁打タイ5本 川崎市・日本鋼管の福岡克彦内野手(いすゞ自動車から補強)は1回戦の鈴鹿市・本田技研鈴鹿戦で名和投手から本塁打して通算5号を記録。5本塁打をマークしているのは大岡虎雄(八幡製鉄)鈴木博昭(三菱自動車川崎)鈴木憲行(日本生命)高梨英夫(大昭和製紙)。

◇個人通算本塁打新記録6本 白老町・大昭和製紙北海道の高梨英夫監督兼一塁手は、1回戦の姫路市・新日鉄広畑戦で藤城投手から本塁打を放ち通算6号を記録した。

また川崎の福岡内野手は2回戦再試合の東京都・電電東京戦で森投手から大会2本目の本塁打を放ち、高梨選手に並ぶタイ記録。

◇5連続奪三振 姫路市・新日鉄広畑の藤城明投手は2回戦の佐賀関町・日本鉱業佐賀関戦の2回一死から記録。史上4人目。

好投手の代打、積極策に明暗

すばらしい投手戦が繰り広げられた。川崎市・日本鋼管の左腕・梶間は上から横から、あるいは下からと1球ごとに投法を変え、タテ、ヨコのカーブを主な武器として絶妙のピッチング。一方、札幌市・拓殖銀行の千藤は



決勝。9回川崎は斎藤の二塁打で内藤が生還。決勝点

11年のキャリアを生かしてベテランの味を発揮した。ノビのあるストレートとカーブでうちとる左腕の特色を生かした。3回を除いて毎回のように走者を出しながら、急所をピシヤリと抑える老練ぶり。盗塁を2度も阻んだ捕手・竹内の強肩など、バックの好守も千藤を助けた。

川崎は8回から好投の梶間に代え、連日の好リレーで3勝をあげている前を繰り出した。すると札幌は朝倉、竹内がともに中前安打。ここが勝負どころと力投の千藤も退けての代打攻勢をかけた。しかし前は、代打・向川を外角シュート、奥田をカーブ攻めて連続三振にうちとり、ピンチを切り抜けた。

川崎は代わった有沢に9回、先頭の内藤が遊撃内野安打、三番福岡に手堅く送らせた。前川左飛、樋野が敬遠されたあと、斎藤が初球の外角球を見事に右翼線へ二塁打。二塁から内藤がホームインして決勝点をあげた。

会第2日に新鋭に相次いで敗れ、大会第2日目に1日にして「山静沈没」。

第2試合で広島市・広島マツダと対戦した富士は7回まで4-1とリードしながら、8回に代打、仁井に右翼本塁打を浴び、9回にはバントシフトの裏をかかれて1点差にされたあと坂上に2点三塁打を打たれてサヨナラ負け。

第3試合で出場2回目の堺市・新日鉄堺と対戦した浜松は、打線が中川、福岡の両投手に4安打に抑えられ、2回峯本に打たれ本塁打で0-1の敗退だった。



準決勝の札幌は1回二死二塁で遊ゴロ悪送球の間に丸山が一塁生還して先取点をあげる。捕手・江藤

好投手相手によく打てた

日本鋼管
樋野和寿三塁手



松山商では甲子園で三沢高と18回の死闘の末優勝。明大から昭和49年日本鋼管に入社。強打好守で橋戸賞。全日本でも活躍した。現在、NKKK京浜製鉄所総務部総務室係長。

投手の前保洋さんが全試合に登板したし、いすゞから補強の福岡克彦さんもよく打っていたので、まさか橋戸賞を取るとは思わなかった。聞いたときは、うれしさがいきなり頭を突き抜けた感じだった。粘り強いバッティングができるようになっていい場面で打てたのだと思う。

いま振り返ってみると、すごい投手とばかり当り、苦しい試合の連続だった。

1回戦の本田鈴鹿は長身の名和克己投手。

6回に同点本塁打して9回には逆転の口火となる安打を打った。電電東京の森二郎、内田正美投手はスライダーがすばらしく、「社会人にはいい投手がいる」と強烈な印象を受けたのは忘れられない。

なかでも一番苦しかったのが日鉦佐賀岡との準々決勝。萩野友康投手から6回に同点2ランしたがリリーフの藤沢公也投手の低めにくる変化球と内角の速球には目を見張った。ガッツリ組んだ試合で12回表に本塁打を打れたときは、本心「やられた」と思ったが、その裏、代打の垣野多鶴さんが右翼線に同点打、林龍郎がそれこそ入魂の中前テキサス適時打でサヨナラ勝ちした。

三菱神戸の増岡義教投手のバームボールも驚いた。延長11回の二死二塁でボクが右越二塁打して決勝点をあげたが、あれはバームだけを狙った会心の当りだった。決勝も拓銀の千藤和久投手に苦しめられ、0-0で9回。二死二塁にボクは敬遠された。続く斎藤茂樹が右翼に打って決勝点をあげたが、必死に三塁まで走り「ああこれで勝った」と思ったのを覚えている。

大黒柱突然のトラブル

エース入山の力投で準々決勝まで勝ちあがった初出場の松山市・愛媛相互銀行だったが、神戸市・三菱重工神戸に土壇場大逆転され敗れ去った。

入山は1回戦の横須賀市・日産自動車でも三振を奪って完封。2回戦の府中市・東芝府中戦でも5安打で完封した。長い腕を生かし、球があとから出てくるフォームだが、速球が重く、落差のあるカーブで打者をまどわした。

ところが神戸戦を前にヒジ痛が激しく、1番打者の川辺に5球で四球を与えたところで投げられなくなり降板。エースの故障に燃えた打線が終盤まで5-1とリードする意気を見せたが、神戸は8回に2点、9回には3連打のあと深田が中前に決勝打。神戸のあざやかな大逆転とはいえるが、くやまれる入山のトラブルだった。



白老・高梨。対姫路戦で6号本塁打を放ち喜びの生還



花巻対大垣。8回花巻は馬場の右前打で吉田克ホームを突くがタッチアウト

1回戦

京都市 (大丸)

1 0 0 0 1 0 0 0 1 | 3
0 1 5 0 3 0 1 2 X | 12

電電関東 (推薦・千葉市)

【京都市】	打安点	【電電関東】	打安点
⑧ 北条 条	5 1 0	⑥ 神江 田	5 2 0
⑤ 長梅 原	5 0 0	⑦ 野野 野	5 1 0
④ 井池 下	4 0 0	③ 野野 野	4 2 1
③ 土井 井	4 2 1	② 野野 野	4 2 2
② 木菅 下	4 0 0	2 野野 野	0 0 0
① 谷下 田	2 1 0	⑤ 4 野野 野	4 3 3
R 7 九中 九	2 1 0	⑧ 野野 野	4 2 4
⑥ 九中 九	4 1 1	⑨ 野野 野	4 0 0
② H 九中 九	1 0 0	9 野野 野	0 0 0
R 2 中島 中	1 1 1	④ 野野 野	4 1 1
R 2 中島 中	0 0 0	5 野野 野	0 0 0
R 2 中島 中	1 1 0	① 野野 野	2 2 1
R 2 中島 中	0 0 0	1 野野 野	2 0 0
R 2 中島 中	1 1 0		381512
① 中島 中	1 0 0	振球機盗失残併	2 4 0 1 0 6 0
1 岡 条	0 0 0	投 手 回 安責	丹 手 後 4 1/2 4 2
1 中 林	0 0 0	丹 手 後 4 1/2 4 2	6 1
H 山 村	0 0 0		
1 山 村	0 0 0		
H 板 村	1 1 0		
1 板 村	0 0 0		
H 橋 原	1 1 0		
1 橋 原	0 0 0		
H 橋 原	1 0 0		
1 橋 原	1 0 0		
	37103		

振球機盗失残併	1 1 0 3 0 8 0	投 手 回 安責	岡 崎 2 1/2 3 3	中山 条 1 1/2 2 0	山板 村 2 0 3 3	板釘 谷 2 1 0	宮 野 2 5 3	▽本塁打 佐藤 1号 (岡崎)	中後 1号 (岡崎)	▽二塁打 江沢 佐藤 千葉 2 神田 慶野 佐下谷 2	時間 54分
---------	---------------	----------	---------------	----------------	--------------	------------	-----------	-----------------	------------	-----------------------------	--------

1回戦

日立市 (日立製作所)

4 0 0 0 1 0 0 2 0 | 7
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

熊本市 (九州産交)

【日立市】	打安点	【熊本市】	打安点
④ 茂木 木	5 2 1	⑨ 大 庭	4 0 0
⑥ 江 俣	3 1 0	④ 門 川	4 1 0
⑦ 楠 田	3 0 0	⑥ 林 海	4 2 0
⑤ 小野 寺	3 0 0	⑦ 来 中	4 1 0
③ 松本 本	0 0 0	③ 中 古	3 0 0
⑧ 岡山 本	4 1 1	③ H 野	1 0 0
⑦ 山 本	4 2 1	⑧ H 野	2 0 0
⑧ 7 山 本	4 2 2	8 H 野	1 0 0
② 四至 本	4 2 2	8 H 野	1 0 0
① 川中 子	4 1 1	⑤ ② 佐	3 1 0
① 細 淵	4 0 0	2 佐	2 0 0
	349 6	① 佐	1 1 1
振球機盗失残併	5 3 2 2 0 5 0	① 佐	1 0 0
投 手 回 安責	9 6 1	H 門	1 0 0
細 淵 9 6 1		1 門	1 0 0
		1 門	0 0 0
		1 門	0 0 0
			336 1
		振球機盗失残併	6 1 0 0 2 6 1
		投 手 回 安責	門 倉 4 4 6 2
		門 倉 4 4 6 2	0 0
		門 倉 4 4 6 2	2 1
		門 倉 4 4 6 2	1 0

1回戦

大阪市 (日本生命)

0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 1 0 0 0 0 0 1 | 2

東京都 (熊谷組)

【大阪市】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 盛平 岡	5 1 0	⑤ 伊 藤	4 0 0
④ H 井西	4 2 0	⑥ 森 力	4 0 0
4 安 井	1 0 0	⑦ 野 力	3 0 0
4 赤 野	0 0 0	⑨ 野 力	3 0 0
⑨ 岡 野	4 1 1	③ 矢 野	3 0 0
③ 岡 野	2 0 0	⑧ 矢 野	2 0 0
⑤ 鈴 花	4 0 0	8 矢 野	1 0 0
⑦ 花 中	4 1 0	H 矢 野	1 1 0
② 佐 竹	2 1 0	④ 矢 野	3 0 0
① 岡 田	2 0 0	② 矢 野	4 2 0
⑥ 井 尻	4 1 0	① 矢 野	2 0 0
	327 1	H 原 田	1 1 0
振球機盗失残併	3 4 3 1 2 8 0	振球機盗失残併	9 2 3 0 0 5 1
投 手 回 安責	岡 田 9 4 0	投 手 回 安責	久 保 田 10 7 1
岡 田 9 4 0		久 保 田 10 7 1	
		▽二塁打 中司 盛岡 2	時間 57分

1回戦

和歌山市 (住友金属)

0 0 0 1 0 0 1 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2

仙台市 (電電東北)

【和歌山市】	打安点	【仙台市】	打安点
⑨	山藤 5 1 0	⑤	岩井 3 1 1
④	宇佐 4 1 0	⑥	八掛 4 1 0
⑤	中谷 4 2 1	⑦	山端 3 1 0
③	川口 3 1 1	⑧	山藤 4 0 0
⑦	内隈 3 1 0	①	山藤 0 0 0
②	松川 3 0 0	⑧	山藤 4 1 0
⑧	三好 2 1 0	⑦	山藤 2 0 0
R 8	飯島 1 0 0	④	山藤 2 0 0
⑥	中中 3 0 0	③	山藤 4 1 0
H R 6	原中 1 1 0	②	山藤 4 2 0
①	中橋 0 0 0	①	山藤 1 0 0
①	高宮 2 0 1	H 1	山藤 1 1 0
1	宮川 0 0 0	H 4	山藤 0 0 0
1	宮川 0 0 0	H 4	山藤 2 1 1
	318 3		349 2

振球機盗失残併 5 1 1 2 0 7 2
1 5 2 3 2 8 2
投手 回 安責
高宮 7 7 2
宮川 2 1 0
▽三塁打 宇山 川上 中村 古川▽二塁打 中
原▽3時間10分

1回戦

大垣市 (西濃運輸)

0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 2 X | 2

花巻市 (谷村新興)

【大垣市】	打安点	【花巻市】	打安点
⑧	小椋 4 1 0	⑧	手島 4 0 0
④	武次 0 0 0	④	吉田 3 1 1
H 4	中島 3 2 0	③	本野 4 1 1
H 4	島林 1 0 0	⑨	本野 2 0 0
③	川林 3 0 1	⑤	H 3 2 1 0
⑦	細川 3 0 0	⑤	H 3 2 1 0
⑨	大加 3 0 0	⑥	吉田 2 0 0
9	野林 1 0 0	⑦	吉田 3 0 0
9	小中 4 0 0	①	吉田 2 1 0
⑤	中山 3 0 0	①	吉田 0 0 0
②	中山 3 1 0	H 1	高橋 1 0 0
②	吉田 0 0 0	①	高橋 0 0 0
①	田田 3 1 0	⑥	高橋 2 2 0
1	鈴木 0 0 0	⑤	高橋 2 2 0
	315 1		306 2

振球機盗失残併 5 2 0 1 1 6 1
3 1 1 0 2 5 0
投手 回 安責
松本 7 7 2
鈴木 2 2 0
▽2時間30分

1回戦

富士市 (大昭和製紙)

0 0 1 0 0 2 1 0 0 | 4
0 0 0 0 1 0 0 1 3 | 5

広島市 (広島マツダ)

【富士市】	打安点	【広島市】	打安点
⑧	中本 4 2 1	⑦	野藤 4 2 0
④	津布 4 2 0	⑦	上遠 2 0 0
③	山田 3 1 1	H 6	藤田 1 0 0
⑨	山田 3 0 0	⑤	藤田 4 1 0
9	浅渡 0 0 0	③	藤田 3 1 0
⑤	井内 4 1 1	②	藤田 3 0 0
⑦	出山 3 2 1	④	藤田 4 1 1
②	内建 2 0 0	⑧	藤田 4 1 0
②	高山 1 0 0	⑨	藤田 3 1 3
①	山根 3 1 0	①	藤田 2 0 0
1	森大 0 0 0	H 1	藤田 0 0 0
⑥	和田 4 0 0	H 1	藤田 1 1 1
	319 4		318 5

振球機盗失残併 3 5 2 0 2 7 1
3 3 1 0 2 7 1
投手 回 安責
山根 6 5 1
森永 2 1/2 3 3
角 1 0 0
▽三塁打 中本
▽二塁打 後藤 中本▽2時間

▽本塁打 仁井1号(森永) 増谷 内山 坂上▽二塁打 40分

1回戦

堺市 (新日鉄堺)

0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

浜松市 (河合楽器)

【堺市】	打安点	【浜松市】	打安点
⑧	藤本 4 1 0	⑧	山本 2 1 0
⑨	本田 2 0 0	⑤	青船 3 0 0
R 9	横山 0 0 0	④	見間 4 0 0
⑤	山道 4 1 0	⑨	福本 2 0 0
④	山道 4 0 0	⑨	福本 0 0 0
⑦	山道 4 0 0	⑦	植本 4 1 0
④	山道 3 0 0	②	植本 3 0 0
⑤	山道 4 1 1	③	植本 3 1 0
③	山道 0 0 0	⑥	伊藤 0 0 0
②	山道 4 0 0	H 6	伊藤 1 0 0
②	山道 0 0 0	H 1	伊藤 1 0 0
①	山道 4 0 0	H 1	伊藤 1 0 0
①	山道 0 0 0	H 1	伊藤 0 0 0
⑥	山道 2 0 0	H 1	伊藤 0 0 0
	313 1		274 0

振球機盗失残併 9 6 0 1 0 9 1
9 6 0 1 0 9 1
投手 回 安責
福間 1 0 0
▽本塁打 峯本1号(根) 熊木
▽二塁打 藤本公 熊木
▽2時間39分

1回戦

横浜市 (日本石油)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
1 0 3 0 6 0 0 3 X | 13

神戸市 (三菱重工神戸)

【横浜市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑤	伊藤 4 0 0	⑥	川辺 5 4 2
⑦	藤本 4 1 0	⑨	東 3 1 0
③	磯橋 4 0 0	H 9	東 2 0 0
⑧	小池 3 0 0	⑦	小深 4 3 3
⑧	小池 0 0 0	⑤	林田 5 2 1
①	小池 0 0 0	④	村谷 3 1 0
⑥	小池 3 0 0	H 4	藤本 1 0 0
②	小池 3 1 1	H 4	藤本 1 0 0
①	小池 1 0 0	H 7	藤本 3 0 0
H 1	小池 0 0 0	②	藤本 4 1 0
H 1	小池 0 0 0	H 1	藤本 3 2 3
H 8	小池 1 0 0	H 1	藤本 1 0 0
H 4	小池 2 1 0	H 1	藤本 1 0 0
H 4	小池 0 0 0		381 4 0
	304 1		振球機盗失残併 9 7 2 5 0 10 1

振球機盗失残併 7 1 0 0 3 3 0
7 1 0 0 3 3 0
投手 回 安責
土居 2 2 1/2 5 2
藤本 1 1 1 1 0
川上 2 1 1/2 4 1
小池 2 1 1/2 2 0
小池 0 0 0
中村 1 0 0
▽本塁打 平野1号(真鍋) 増岡
▽二塁打 深田▽2時間43分

1回戦

長野市 (電電信越)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 0 3 0 3 0 1 X | 8

福山市 (日本鋼管福山)

【長野市】	打安点	【福山市】	打安点
④	佐藤 3 0 0	⑧	山根 4 1 0
⑦	湖山 1 0 0	⑦	佐々木 4 0 0
④	山口 3 0 0	③	岡内 3 1 0
⑥	山野 4 0 0	⑨	山内 3 1 0
⑧	豊田 2 0 0	⑤	山内 4 3 4
③	佐藤 4 1 0	④	佐名木 3 1 2
⑤	望原 3 0 0	②	今留主 4 2 1
⑨	望原 3 1 0	⑥	今留主 4 1 0
②	大山 1 0 0	①	白田 3 0 0
H 2	佐藤 1 0 0		321 0 7
①	青柳 1 0 0		振球機盗失残併 6 2 1 2 1 3 1
H 1	柳井 0 0 0		6 2 1 2 1 3 1
H 1	柳井 0 0 0		投手 回 安責
H 1	柳井 1 1 0		田村 9 3 0
H 1	柳井 0 0 0		
	283 0		

振球機盗失残併 3 3 1 0 1 5 1
3 3 1 0 1 5 1
投手 回 安責
佐藤 4 4 3
柳井 1 1 2 3
柳井 2 2 0
福田 1 2 1
▽本塁打 土野1号③ (樋江井)▽三塁打 山根良 土野
▽2時間27分

1回戦

1回戦

府中市 (東芝府中)

3 0 0 0 0 0 0 2 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

大阪市 (デュープロ)

【府中市】	打安点	【大阪市】	打安点
②	尾崎 4 1 0	⑧	飛田 3 0 0
⑤	尾崎 4 1 0	⑥	孫平 4 0 0
⑦	尾崎 4 2 3	⑤	井山 4 2 0
③	尾崎 3 0 0	⑨	井山 4 2 0
⑨	尾崎 4 1 0	③	井山 3 1 1
④	尾崎 4 1 1	⑦	井山 3 0 0
⑧	尾崎 4 0 0	H 2	井山 1 0 0
①	尾崎 4 1 0	H 2	井山 4 0 0
⑥	尾崎 4 0 0	H 4	井山 2 0 0
	357 4		326 1

振球機盗失残併 4 1 0 0 1 4 0
4 1 0 0 1 4 0
投手 回 安責
野嶋 9 6 1
▽二塁打 尾崎 磯崎 望月▽2時間
田中愛 望月▽2時間
42分
振球機盗失残併 1 0 2 2 2 6 0
1 0 2 2 2 6 0
投手 回 安責
杉金 1 1 0 0
中野 8 7 3
金岡 1 0 0

1回戦

横須賀市 (日産自動車)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 2 0 0 0 X | 3

松山市 (愛媛相互銀行)

【横須賀市】	打安点	【松山市】	打安点
③	鈴木 4 0 0	⑧	池田 4 0 0
⑧	木野 3 0 0	⑥	池田 4 1 0
⑤	小野 1 1 0	⑦	池田 1 0 0
⑨	小野 4 0 0	⑦	池田 1 0 0
④	小野 4 1 0	⑨	池田 3 0 0
⑦	小野 3 1 0	④	池田 2 0 0
②	小野 3 0 0	④	池田 0 0 0
②	小野 2 0 0	③	池田 3 0 0
⑥	小野 1 0 0	②	池田 3 2 2
H 6	小野 1 0 0	①	池田 3 0 0
H 6	小野 1 0 0	⑤	池田 3 1 1
H 1	小野 1 0 0		274 3
H 1	小野 1 0 0		振球機盗失残併 2 3 0 1 0 3 0
H 1	小野 1 0 0		2 3 0 1 0 3 0
H 1	小野 1 0 0		投手 回 安責
H 1	小野 1 0 0		入山 9 4 0
	314 0		

振球機盗失残併 1 3 0 0 1 0 4 0
1 3 0 0 1 0 4 0
投手 回 安責
藤本 5 5 3 3
高木 2 1 0
小林弘 1 0 0
▽本塁打 高橋1号(藤田)▽三塁打 藤田 神
▽二塁打 高橋▽2時
間8分

1回戦

川崎市 (日本鋼管)

0 0 0 0 0 0 2 0 2 | 4
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

【川崎市】	打安点	【鈴鹿市】	打安点
⑧	林 4 1 0	④	羅本 3 0 0
⑥	内藤 3 0 0	⑤	本田 4 2 1
④	内藤 4 2 1	⑨	本田 1 0 1
④	内藤 0 0 0	⑦	本田 4 1 0
⑦	内藤 3 0 0	⑧	本田 3 1 0
⑤	内藤 0 0 0	③	本田 2 0 0
⑧	内藤 4 2 1	②	本田 3 0 0
⑤	内藤 4 1 0	⑥	本田 3 0 0
⑨	内藤 0 0 0	①	本田 3 0 0
②	内藤 3 0 1		264 2
①	内藤 4 1 1		振球機盗失残併 7 2 3 0 1 2 0
①	内藤 2 0 0		7 2 3 0 1 2 0
1	内藤 2 0 0		投手 回 安責
	337 4		名和 9 7 4

振球機盗失残併 8 2 1 0 0 5 1
8 2 1 0 0 5 1
投手 回 安責
岡 6 3 2
前 3 1 0
▽本塁打 福崎1号(名和) 樋野1号(名和) 樋野1号(名和) 中沢
▽三塁打 太田 林 中沢
▽二塁打 黄▽2時間14分

1 回戦

名古屋市 (日本通運名古屋)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
2 0 0 0 0 1 2 2 X | 7
東京都 (電電東京)

【名古屋市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1 回戦

姫路市 (新日鉄広畑)
0 1 0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 2 | 5
1 1 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 3
白老町 (大昭和北海道)

【姫路市】 打安点
【白老町】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

1 回戦

佐賀関町 (日鉦佐賀関)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (東京ガス)

【佐賀関町】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 2 0 1 0 0 2 | 5
0 2 0 0 1 0 0 0 0 | 3
電電関東 (推薦・千葉市)

【札幌市】 打安点
【関東電電】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

和歌山市 (住友金属)
1 2 2 0 0 0 0 0 0 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
日立市 (日立製作所)

【和歌山市】 打安点
【日立市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

花巻市 (谷村新興)
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
4 0 3 1 0 2 1 0 X | 11
東京都 (熊谷組)

【花巻市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

広島市 (広島マツダ)
1 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
堺市 (新日鉄堺)

【広島市】 打安点
【堺市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
1 0 0 0 0 2 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
福山市 (日本鋼管福山)

【神戸市】 打安点
【福山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2 回戦

府中市 (東芝府中)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 0 0 0 1 0 0 X | 2
松山市 (愛媛相互銀行)

【府中市】 打安点
【松山市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

川崎市

(日本鋼管)

早明慶明... 田一松... 濱一松... 正宮川海松... 相留

花巻市

(谷村新興)

大商商大... 岡宮市... 宮西正... 宮正正... 宮正正

東京都

(東京ガス)

早拓東大... 洋宮... 東京米... 沼農商

横浜市

(日本石油)

大商大工... 東一學... 岡一學... 東一學

推薦・千葉市

(電電関東)

大商高工... 水産三... 府工... 農城洋... 津中央

仙台市

(電電東北)

大商商形... 北東電... 農洋... 台大関... 戸北農

東京都

(電電東京)

高商大工... 三本工... 電生工... 土崎士... 川京院

長野市

(電電信越)

高商大工... 高士川... 奈諸京... 子奈川... 商學士

白老町

(大昭和製紙北海道)

高商大工... 多宮内... 大木中... 津室安... 柳柳柳

日上市

(日立製作所)

工大大大... 所海東... 御東日... 治洋日... 商高工

東京都

(熊谷組)

立愛立開... 知學正... 知學島... 大商狭... 海陵

浜松市

(河合楽器)

大商大工... 原車水... 川川士... 京陵車... 川川代

札幌市

(北海道拓殖銀行)

大商大工... 京田京... 有江京... 京牧海... 京小海

府中市

(東芝府中)

三商商高... 大津業... 根曲美... 岡ヶ成... 成田良

横須賀市

(日産自動車)

大工高商... 善日工... 寺日台... 共奈京... 海京子

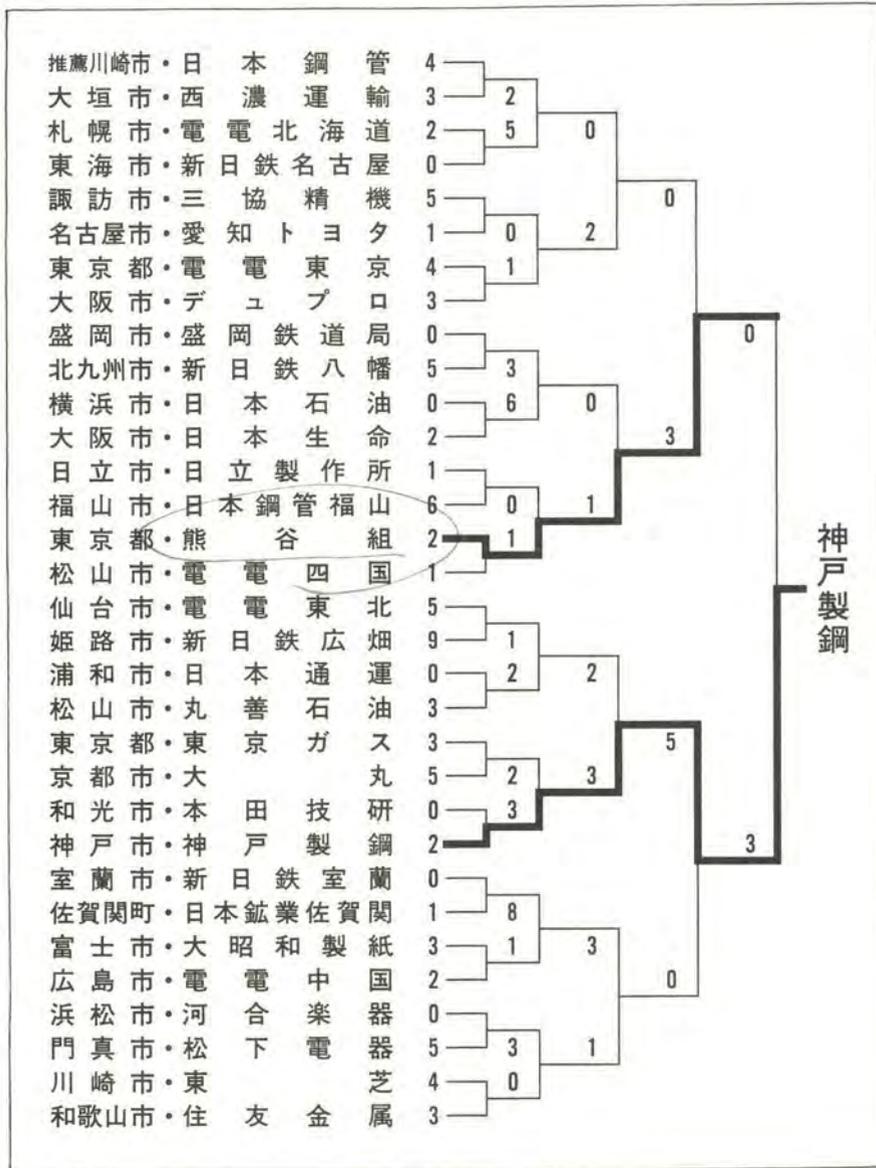
富士市

(大昭和製紙)

大商大工... 山三學... 大井士... 島南... 城越州

第48回大会

1977年(昭和52年)7月24日 - 8月2日・後樂園球場
優勝=神戸市・神戸製鋼



黒獅子旗を先頭に場内一周する初優勝の神戸製鋼

電電北海道、広島市・電電中国、前年優勝の日本鋼管が有力チームにあげられていた。しかしこの中で、ベスト4に残ったのには神戸だけだった。

日本鋼管は、大垣市・西濃運輸に競り勝ったものの、2回戦で札幌に敗れ、同じ2回戦で川崎市・東芝は、門真市・松下電器の中川善弘投手(新日鉄堺から補強)に4安打で零封された。富士も佐賀関町・日本鋳業佐賀関戦で失策で自滅、広島は1回戦で富士に惜敗、早はやと姿を消した。

神戸は補強でオール神戸の強力打線と登記欣也、増岡の投手陣が充実、1回戦は増岡が和光市・本田技研を5安打完封。京都・大丸に競り勝ち、準々決勝では延長13回の大接戦のすえ松山市・丸善石油に逆転勝ち。準決勝は登記投手が佐賀関町を完封して決勝へ進んだ。

東京・熊谷組は、久保田美郎とルーキー林博之両投手を軸に、準決勝までの4試合を失点1で勝ち進んだが、最後に増岡投手に屈した。熊谷組と同一都市同士で準決勝を争った電電東京は、1回戦の大阪市・デュプロ戦で延長12回、矢治達夫の史上初のサヨナラ本盗で勝ったあと、諏訪市・三協精機戦は森二郎-内田正美の好継投で1-0。準々決勝では森投手が札幌を1安打、11三振を奪って二塁も踏ませず完封、投手陣の活躍が目立った。

大会31試合中、15試合は無失点の勝利で、投手が充実していた大会だった。

橋戸賞は神戸・増岡投手、久慈賞は東京・熊谷組の伊藤友幸監督兼外野手、小野賞は松山・藤井栄一投手、若獅子賞は東京・熊谷組の林投手が受賞した。

5試合がサヨナラ・ゲームと緊迫した試合が多かった。この大会から得点差によるワールドゲームが採用されたが戦後戦続きで無縁だった。

神戸市に45年ぶりに黒獅子旗

神戸市・神戸製鋼が、23年ぶり2度目の出場で初優勝をかちとった。決勝で東京都・熊谷組と対戦した神戸は、28歳のベテラン、増岡義教投手(三菱重工神戸から補強)が、3安打であざやかに完封した。神戸市の優勝は、昭和7年の第6回大会の全神戸以来、45年ぶりだった。群を抜いた力をもつチームがなく、混戦とみられていた大会だが、そのなかで川崎市・東芝、富士市・大昭和製紙、神戸市・神戸製鋼、大阪市・日本生命、札幌市・

決勝

東京都 (熊谷組)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
神戸市 (神戸製鋼)	2 0 0 0 1 0 0 0 X	3

【東京都】	打安振球	【神戸市】	打安振球
⑦ 沢田	4 0 0 0 0	⑧ 9 日高	4 1 1 0 0
⑧ 大森	4 1 0 0 0	⑨ 中村	2 0 0 0 0
⑥ 森田	4 1 0 2 0	H 8 小林	2 1 0 0 0
③ 伊藤	3 0 0 1 0	⑥ 川邊	4 2 0 0 0
H 伊藤	1 0 0 0 0	⑦ 小林	4 1 2 0 0
⑤ 伊藤	3 0 0 1 0	④ 吉田	3 1 0 0 0
④ 松本	3 0 0 1 0	③ 本村	3 0 0 0 0
② 菊地	3 1 0 1 0	⑤ 大岡	3 1 0 0 0
① 林	1 0 0 0 0	② 中岡	2 0 0 0 0
H 川村	1 0 0 0 0	① 竹増	3 0 0 2 0
H 原田	1 0 0 1 0		30 7 3 2 0
1 久保田	0 0 0 0 0	犠併残盗失	
⑨ 谷	3 0 0 0 0	1 0 4 0 1	
	31 3 0 7 0	投手回	打安振球責
犠併残盗失	0 0 4 0 0	増岡	9 31 3 7 0 0
投手回	打安振球責		
林	4 15 3 1 0 2		
村中	3 11 2 1 0 1	▽本塁打	小林晋1号②
久保田	1 5 2 0 0 0	(林)	▽2時間2分

史上初のサヨナラ本盗

大会史上初のサヨナラ本塁を演じたのが京都・電電東京の矢治外野手。大阪市・デュプロと延長12回。二死満塁の場面だった。

1番打者で足に自信があるとはいえ、本盗は高校時代の1度だけ。富永監督がコーチスボックスで「いってもいいぞ」。慎重に金岡投手とのタイミングをはかり、打者・鈴木が3球目、一気にホームを突き、足からのスライディングであざやかに決めた。

「ホームまで遠かったこと。足が動かないような気がした」と会心の笑顔。

富士市・大昭和製紙の山本秀樹内野手も対広島市・電電中国戦の9回、二死満塁で打者、浅黄の4球目、「狙っていた」と高木投手のスキをつけて頭からのスライディングで本盗を決め、大会2つ目のサヨナラ本盗と珍しい記録を残した。



東京対松山。熊谷の伊藤裕は10回中越サヨナラ二塁打

低めにビシビシ、増岡完封

神戸市・神戸製鋼の念力の勝利だった。神戸のベテラン、増岡が老練なピッチングで無難にスタートしたのに対し、東京都・熊谷組のルーキー、林は緊張感からか、硬さがみられた。林は1回、二死をとってホッとしたところを川辺に右前打され、続く小林晋には初球を右翼へ先制の2ランを打たれた。

この先制点で神戸の意気は盛り上がり、5回には東京の2番手、村中を攻めた。岡本が二塁内野安打するとバントで送り、日高が中前へ適時打して1点を追加、優勝への道を固めた。

増岡はすばらしいピッチングで東京打線を



決勝。神戸は1回の二死一塁に小林晋先制2ラン放つ

ほんろうした。ストレートがよく走り、外角低めにビシビシ決まった。ストーンと落ちる得意のバームボールもよく決まった。東京は1回大橋、5回菊地が安打したが、後続がなく二塁にも進めなかった。増岡は回を追うごとにさえて、6回からは3人ずつ。9回二死から森貞に中前安打を許したものの、伊藤裕を右翼に打ちとり、あざやかに完封した。決勝でこれだけ完璧なピッチングをみせた投手は少ない。東京の打者は、最後までねらい目がつかめなかった。

補強でまさかの初戦スタメン

神戸市・神戸製鋼
増岡義教投手
(三菱重工神戸から補強)



三菱重工神戸から神戸市・神戸製鋼に補強され、決勝で東京都・熊谷組を3安打完封するなど4勝の活躍で橋戸賞。同志社大出。52年三菱を退社、現在、日之出工業社長。

決勝戦で完封したときよりも、1回戦の本田技研戦のことが思い出として鮮明に残っている。ナイトゲームだったので、午後3時ごろから東芝球場で練習していた。第1戦は神戸製鋼のエース登記欣也君が投げたものと思いい、気楽に調整していたら、清水一夫監督に「投げろ」。

それからプレーボールまでの間、経験したことのない緊張を味わった。1回戦で負けては、登記君にもチームのみんなにも悪い。何としても勝たなければ。球場入りしたあと、緊張感は最高潮となり、ブルベンで投げているうちに吐いてしまった。だから、勝ったあとのうれしさは格別だった。

るうちに吐いてしまった。だから、勝ったあとのうれしさは格別だった。

熊谷組との決勝は、実は9回のことしか印象にない。二死をとってから森貞周治君に中前へコーンと打たれ、にわかに緊張してしまった。「あと1人で日本一だ」という思いが頭の中に充満し、口のなかはカラカラ。つばが出ない。のどがひきつれる。一塁へけん制球を投げたりしてなんとか落ち着こうとした。打者は四番に、代打が出てきた。何を投げるか。打たれても自分の納得できるタマを投げたい、と思った。それまではバームを決めタマとしてきたが、ここは思い切ってストレートを投げたいと思ったら、竹中円捕手のサインもストレート。右飛に打ちとれた。

野手のグラブにボールが収まった瞬間は「終わったな」という気持ちで、感激はわいてこなかった。東京の球場では泣くまい、と思っていたが、やはり涙が出てしまった。ボクの目標は、「東京」に勝つこと。その宿願が達成されたのだから…。

いまでも時々、ビデオを見る。後樂園の西日は暑かったな、よくあんな体力があったものだな、と思ひ浮かべる。後樂園は苦しかったが、楽しかった。

補強サマサマ…大金星

優勝候補の1番手ともいわれた川崎市・東芝を2回戦で門真市・松下電器の中川が完封、あざやかな金星をあげた。

強打を誇る川崎を4安打無四球で抑え切った中川を盛りたてたのが、6回、7回にともに適時三塁打を放った中出と藤本。

3人揃って新日鉄堺からの補強選手で、高木監督も「補強サマサマです」と大喜び。



いきなハッピー姿で応援する東京・熊谷組の女子応援団

MEMO

◇無四球試合 1回戦佐賀岡町・日
 鉦佐賀岡対室蘭市・新日鉄室蘭戦で、
 佐賀岡・藤沢公也、室蘭・山口敏男
 (拓殖銀行から補強)加藤英美(大昭和
 和北海道から補強)の両投手で達成。
 また決勝の神戸市・神戸製鋼対東京
 都・熊谷組戦で、神戸・増岡義教(三
 菱重工神戸から補強)、東京・林博之、
 村中賢治、久保田美郎で達成。史上3、
 4回目。

こちら14回スクイズで

延長14回、4時間14分にわたるドラマの幕
 切れはサヨナラ・スクイズだった。

和歌山市・住友金属と川崎市・東芝の1回
 戦。和歌山は駒大出の新人・森、川崎は大田
 垣の投げ合いで延長戦にはいり、川崎は前野
 が継いだ。森は速球を武器に力強く投げ続
 けた。



延長13回逆転サヨナラ

松山市・丸善石油と神戸市・神戸製鋼の準
 々決勝は好試合だった。

松山は藤井が好投、神戸は3投手を継ぎ、
 1-1で延長にもつれ込んだ。

そして13回。松山は徳藤の二塁打から二死
 三塁とし、神崎が投手強襲安打で均衡を破っ
 た。だが神戸も粘る。一死後、岡本、古河、
 増岡が3連打して満塁。トップの小林貢が左
 前にはじき返して同点とし、二死後川辺が左
 前にサヨナラ打、逆転勝ちをおさめた。



富士対広島。富士9回、山本秀がサヨナラ本盗に成功

1回戦

日本鋼管(推薦・川崎市)

0 0 0 2 0 0 1 0 1 | 4
 0 1 0 0 0 0 1 0 1 | 3

大垣市(西濃運輸)

【日本鋼管市】	打安点	【大垣市】	打安点
⑧7 林	4 1 0	④ 羅	本 4 0 0
⑥ 内	4 3 0	⑨ 水	江 4 0 0
⑦ 前	4 0 0	⑦ 細	川 4 0 0
⑧ 鈴	0 0 0	③ 林	西 3 0 0
⑤ 野	4 1 0	R	林 0 0 0
③ 口	3 1 0	② 中	島 3 3 0
④ 藤	3 3 1	R	兼 0 0 0
⑨ 齊	2 0 1	⑤ 近	井 4 1 0
② 高	4 1 1	⑧ 小	戸 3 0 1
① 中	3 0 0	H	小 1 0 0
1 上	1 0 0	⑥ ①	山 4 3 2
	32 10 3	① ①	山 2 0 0

振球横盗失残併

6 3 1 0 0 5 0

投手 回 安責

上 岡 6 2/3 6 2

前 2 1/3 1 1

▽二塁打 極野 齊藤

▽2時間44分

振球横盗失残併

8 2 0 1 2 5 1

投手 回 安責

前 村 7 8 1

2 2 0

1回戦

札幌市(電電北海道)

0 0 1 0 0 1 0 0 0 | 2
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

東海市(新日鉄名古屋)

【札幌市】	打安点	【東海市】	打安点
⑨ 上	原 3 0 0	④ 服	部 3 0 0
⑤ 高	岡 4 2 2	⑨ 7 高	橋 4 2 0
④ 日	野 4 1 0	③ 西	城 2 0 0
③ 高	比 4 0 0	H	山 0 0 0
⑧ 古	梨 4 0 0	③ 古	福 0 0 0
⑦ 丸	川 4 1 0	⑧ ⑧ 古	島 4 1 0
② 山	上 3 0 0	② 吉	田 4 0 0
① 柳	3 0 0	⑤ 田	雄 4 1 0
1 藤	0 0 0	⑥ 小	坂 4 0 0
⑥ 山	藤 3 2 0	H ⑨ 7 小	金 2 0 0
	32 6 2	① 加	鈴 1 0 0

振球横盗失残併

5 0 1 0 1 4 0

投手 回 安責

柳 7 1/3 5 0

千 藤 1 2/3 0 0

振球横盗失残併

1 3 1 0 0 7 0

投手 回 安責

鈴 木 8 6 2

水 谷 1 0 0

H ⑨ 7 水 30 5 0

▽本塁打 高岡1号(鈴木)▽三塁打 高岡▽二
 塁打 丸山▽2時間30分(中断4分)

1回戦

名古屋市(愛知トヨタ)

0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
 0 0 0 0 2 3 0 0 X | 5

諏訪市(三協精機)

【名古屋市】	打安点	【諏訪市】	打安点
⑤ 島	田 4 1 0	⑨ 平	田 0 0 0
④ 服	部 3 0 0	9 田	中 3 0 0
H 山	田 1 1 0	H 9 佐	々 1 0 0
R 高	木 0 0 0	④ ④ 佐	藤 3 0 0
⑦ 高	木 4 2 0	⑧ ⑧ 豊	古 3 0 0
⑨ ⑨ 高	木 3 0 0	② ② 中	川 4 1 0
③ ③ 高	木 4 1 1	③ ③ 中	川 0 0 0
⑥ ⑥ 高	木 3 1 0	3 田	中 3 2 1
② ② 高	木 3 1 0	3 丸	中 1 0 0
① ① 高	木 2 0 0	⑤ ⑤ 丸	幅 3 2 2
1 桑	下 0 0 0	⑦ ⑦ 丸	幅 0 0 0
H 桑	下 1 0 0	7 青	石 3 1 2
1 寺	高 0 0 0	7 石	横 0 0 0
⑧ ⑧ 高	上 1 0 0	① ① 石	伊 3 0 0
H 8 上	松 1 0 0	⑥ ⑥ 伊	坂 3 1 0

振球横盗失残併

8 2 0 1 0 4 0

投手 回 安責

東 6 6 5

桑 下 1 1 0

寺 山 1 0 0

▽本塁打 石賀1号②(東)幅野1号②(東)▽
 二塁打 田中昌▽2時間15分

振球横盗失残併

7 3 1 1 1 5 1

投手 回 安責

伊 藤 9 7 1

1回戦

大阪市 (デュプロ)
0 2 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 3
1 0 1 0 1 0 0 0 0 0 0 1 | 4
東京都 (電電東京)

【大阪市】 打安点
⑧ 飛田 5 2 0
⑥ 孫世戸 3 0 0
⑨ 井平 2 0 0
③ 三小 3 0 0
⑤ 嶋本 5 1 0
④ 嶋本 5 0 0
⑦ 嶋本 5 2 2
② 伊村 5 1 0
① 伊村 4 1 1
振球機盗失残併 428 3
投手 回 安責 12 5 0
金岡 11% 103

▽本塁打 嶋本1号(内田)
▽二塁打 嶋本 孫田
▽3時間38分

1回戦

北九州市 (新日鉄八幡)
2 0 0 0 0 0 1 0 2 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
盛岡市 (盛岡鉄道局)

【北九州市】 打安点
⑥ 玉井 4 2 0
⑤ 林 5 0 0
③ 村上 4 2 1
⑧ 下井 3 2 0
⑦ 草野 0 0 0
H 藤村 4 0 0
⑨ 加藤 1 0 0
H 榎工 1 0 0
④ 米河 5 2 1
② 大河 4 1 0
① 大河 3 1 0

振球機盗失残併 3712 4
5 6 1 1 0 1 2 0
投手 回 安責 12 5 0
大段 9 4 0

▽本塁打 工藤1号②(斎藤見)
▽二塁打 下村 大河原
▽2時間27分

1回戦

横浜市 (日本石油)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 2 X | 2
大阪市 (日本生命)

【横浜市】 打安点
⑧ 庄山 4 1 0
R 丸関 0 0 0
④ 清家 2 0 0
H 清家 1 0 0
③ 橋本 4 0 0
⑦ 小磯 4 0 0
⑨ 村平 3 1 0
② 村平 2 1 0
2 秋葉 1 0 0
⑤ 福田 3 0 0
⑥ 福田 3 1 0
① 福田 3 0 0
1 齊藤 0 0 0
振球機盗失残併 4100 14 1
投手 回 安責 7 1/3 5 0
山岡 7 1/3 5 0
齊藤 1 0

▽二塁打 八角 村山 岡野
▽2時間25分

1回戦

福山市 (日本鋼管福山)
0 3 0 0 0 1 0 1 1 | 6
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
日立市 (日立製作所)

【福山市】 打安点
④ 佐木 5 2 1
⑦ 佐木 5 0 0
⑧ 関 4 1 0
③ 内野 4 1 0
⑤ 内野 4 2 1
⑨ 本藤 3 2 1
② 江本 3 2 0
⑥ 田村 3 0 0
① 田村 4 0 0
振球機盗失残併 3510 3
投手 回 安責 3 1 3 0 6 0
田村 9 6 1

振球機盗失残併 4110 1 6 1
投手 回 安責 1 1/3 2 1
田村 3 2/3 4 1
細野 2 1 0
小永 2 2 2
赤津 2 3 2

▽本塁打 土野1号(細野)
▽二塁打 岡本2 蝦沢
▽2時間25分

1回戦

浦和市 (日本通運)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 1 0 2 0 X | 3
松山市 (丸善石油)

【浦和市】 打安点
⑥ 望月 3 0 0
H 田子 0 0 0
R 金子 0 0 0
④ 塚合 4 0 0
⑦ 落野 3 0 0
⑤ 草野 3 0 0
③ 大野 3 1 0
⑧ 阿部 3 1 0
⑨ 光野 2 0 0
② 磯村 1 0 0
H 磯村 1 0 0
H 磯村 1 0 0
振球機盗失残併 272 0

振球機盗失残併 7010 0 3 1
投手 回 安責 7 0 1 0 0 3 1
村上 8 7 2
寺尾 福永
▽三塁打 山下
▽二塁打 寺尾 福永
▽1時間48分

1回戦

姫路市 (新日鉄広畑)
0 0 0 2 0 1 0 6 0 | 9
0 0 1 0 3 0 0 0 1 | 5
仙台市 (電電東北)

【姫路市】 打安点
⑨ 野岡 5 2 1
⑥ 中山 4 1 0
② 中川 2 1 0
⑧ 藤山 0 0 0
⑤ 藤山 4 3 0
⑦ 尾形 4 2 3
⑧ 平川 3 1 1
H 三土 3 0 0
④ 三土 3 0 0
③ 中土 2 0 0
H 1 杉野 1 0 0
① 杉野 0 0 0
① 杉野 2 0 0
H 3 藤本 2 1 1
振球機盗失残併 3211 7
投手 回 安責 6 6 3 2 0 5 3
杉野 4 5 3
田村 2 2 1
藤本 1 1/3 1 0
藤本 1 1/3 3 1

振球機盗失残併 5512 1 8 2
投手 回 安責 5 5 2 1
大窪 5 2 1
小窪 3/4 2 1
鈴木 1 1/3 2 2
瀬戸 2 2 0

▽三塁打 湊
▽二塁打 加藤 永野 藤村 尾形 弓岡
▽2時間54分

1回戦

松山市 (電電四国)
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 | 2
東京都 (熊谷組)

【松山市】 打安点
⑧ 谷口 0 0 0
H 井浦 5 2 0
④ 景福 4 0 0
⑨ 北松 4 0 0
③ 北松 3 1 0
⑤ 岡岡 4 0 0
⑦ 野地 0 0 0
⑦ 菊野 3 2 1
⑥ 高橋 2 0 0
① 高橋 1 0 0
H 鎌原 1 0 0
② 藤原 1 0 0
H 幸高 1 0 0
振球機盗失残併 315 1
投手 回 安責 7 4 3 1 0 7 0
小原 6 4 1
入山 3 1/2 1 1

振球機盗失残併 119 2 2 1 10 0
投手 回 安責 5 5 3 1 2 0
小林 5 5 3 1 2 0

▽本塁打 菊地哲1号(小林)
▽三塁打 伊藤友
▽二塁打 菊地哲 伊藤裕
▽3時間14分

1回戦

東京都 (東京ガス)
0 0 2 0 0 0 1 0 0 | 3
0 1 1 0 0 0 3 0 X | 5
京都市 (大丸)

【東京都】 打安点
③ 池田 4 2 2
⑥ 田中 3 0 0
H 和田 1 0 0
⑧ 山重 4 1 0
⑨ 渡辺 4 1 0
⑦ 渡辺 4 1 0
② 安玉 4 0 0
⑤ 佐山 3 1 0
① 松野 1 0 0
1 松野 2 1 0
H 工望 0 0 0
H 工望 1 1 0
振球機盗失残併 349 2

振球機盗失残併 223 3 1 9 0
投手 回 安責 6 1/3 4 5
松藤 1 1/3 3 0

▽3時間10分

1回戦

和光市 (本田技研)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 2 0 0 0 0 X | 2
神戸市 (神戸製鋼)

【和光市】 打安点
⑦ 小畑 4 1 0
⑥ 神川 3 0 0
H 崎山 1 0 0
⑧ 原井 3 1 0
⑨ 雨原 4 1 0
③ 手島 3 1 0
⑤ 手島 3 0 0
② 尾崎 2 0 0
② 中大 1 0 0
④ 成高 3 1 0
① 成高 1 0 0
H 田代 1 0 0
H 田代 0 0 0
H 田代 1 0 0
H 田代 1 0 0
振球機盗失残併 305 0

振球機盗失残併 7110 0 5 2
投手 回 安責 4 4 2 2
高橋 3 0 0
河高 1 0 0

▽2時間16分

1 回戦

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)

0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

室蘭市 (新日鉄室蘭)

Table with columns for teams (佐賀関町, 室蘭市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

1 回戦

広島市 (電電中国)

0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 1 1 1 | 3

富士市 (大昭和製紙)

Table with columns for teams (広島市, 富士市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

1 回戦

浜松市 (河合楽器)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 4 0 0 0 0 | 5

門真市 (松下電器)

Table with columns for teams (浜松市, 門真市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

1 回戦

和歌山市 (住友金属)

0 0 0 0 2 0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 3
0 1 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 4

Table with columns for teams (和歌山市, 川崎市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2 回戦

日本鋼管 (推薦・川崎市)

0 0 0 2 0 0 0 0 0 | 2
0 0 5 0 0 0 0 0 0 | 5

札幌市 (電電北海道)

Table with columns for teams (日本鋼管市, 札幌市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2 回戦

東京都 (電電東京)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

諏訪市 (三協精機)

Table with columns for teams (東京都, 諏訪市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2 回戦

大阪市 (日本生命)

0 2 2 0 2 0 0 0 0 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3

北九州市 (新日鉄八幡)

Table with columns for teams (大阪市, 北九州市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2 回戦

福山市 (日本鋼管福山)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1

東京都 (熊谷組)

Table with columns for teams (福山市, 東京都), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2 回戦

姫路市 (新日鉄広畑)

0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2

松山市 (丸善石油)

Table with columns for teams (姫路市, 松山市), players, and statistics (打安点, 振球権盗失残併, 投手回安責, 二塁打, 1時間).

2回戦

神戸市 (神戸製鋼)

2 0 0 0 0 0 0 1 0 | 3
0 1 0 0 0 0 1 0 0 | 2

京都市 (大丸)

Table with columns for players (e.g., 小林, 高辺, 日川), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 5001150
投手回安責 6 8 1
投登岡 2 2 0
▽本塁打 谷野1号(登記) 3
▽三塁打 日高 1
壘打 木下 2 九十九
岡本 2 時間36分

2回戦

佐賀関町 (日本鋳業佐賀関)

1 0 1 3 0 1 0 0 2 | 8
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

富士市 (大昭和製紙)

Table with columns for players (e.g., 村田, 伏田, 代田), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 2231081
投手回安責 3 1 0
長嶺 3 1 0
藤沢 6 6 1
▽二塁打 平井 湯淺 2
時間28分

2回戦

川崎市 (東芝)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 1 0 0 1 1 0 X | 3

門真市 (松下電器)

Table with columns for players (e.g., 高深, 武福, 八垣), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 8001030
投手回安責 2 2 1
黒野 5 5 2
前梅 1 0 0
▽三塁打 中出 藤本
▽二塁打 鍛冶舎
▽2時間31分

準々決勝

東京都 (電電東京)

2 0 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

札幌市 (電電北海道)

Table with columns for players (e.g., 矢野, 鈴木, 原大), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 6300060
投手回安責 9 10
森 9 10
▽二塁打 八木 板井
▽2時間24分

準々決勝

大阪市 (日本生命)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 1 0 0 X | 1

東京都 (熊谷組)

Table with columns for players (e.g., 井西, 花中, 野村), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 3211250
投手回安責 7 7 0
岡田 7 7 0
矢野 1 0 0
▽二塁打 中司 2 時間47分

準々決勝

松山市 (丸善石油)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 2 | 3

神戸市 (神戸製鋼)

Table with columns for players (e.g., 寺山, 神山), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 10211080
投手回安責 12 11 3
藤井 12 11 3
▽二塁打 徳藤
▽3時間11分

準々決勝

佐賀関町 (日本鋳業佐賀関)

0 0 0 0 0 0 1 0 2 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

門真市 (松下電器)

Table with columns for players (e.g., 村田, 田越, 川野), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 3220041
投手回安責 9 4 1
藤 9 4 1
▽本塁打 福岡1号(藤沢) 湯野1号(福岡)
▽三塁打 来海 2 時間10分

準決勝

東京都 (電電東京)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 2 1 0 0 0 0 0 X | 3

東京都 (熊谷組)

Table with columns for players (e.g., 矢野, 鈴木, 青原), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 6100320
投手回安責 3 3 4 3
内田 3 3 4 3
高根 3 3 3 0
森 1 0 0 0
▽本塁打 大橋1号(内田) 伊藤友1号(内田)
▽二塁打 沢田 森 貞 谷 2 時間19分

準決勝

佐賀関町 (日本鋳業佐賀関)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 2 0 1 0 1 0 X | 5

神戸市 (神戸製鋼)

Table with columns for players (e.g., 村川, 田越, 藤尾), points (打安点), and other stats (振球機盗失残併).

振球機盗失残併 7101271
投手回安責 2 3 1
長嶺 2 3 1
藤沢 4 8 3
永江 2 2 1
▽本塁打 大村1号(藤沢)
▽二塁打 小林晋 岡本 湯野 青木
▽2時間14分

神戸市

(神戸製鋼)

Table listing names and numbers for Kobe City (神戸製鋼). Includes names like 水島岡本, 清三, 水島岡本, etc.

盛岡市

(盛岡鉄道局)

Table listing names and numbers for Morioka City (盛岡鉄道局). Includes names like 高尾高, 北原英, 北原英, etc.

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City (日本通運). Includes names like 藤木良, 藤木良, 藤木良, etc.

川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (東芝). Includes names like 大野田, 大野田, 大野田, etc.

推薦・川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for Recommended Kawasaki City (日本鋼管). Includes names like 飯上, 飯上, 飯上, etc.

仙台市

(電東北)

Table listing names and numbers for Sendai City (電東北). Includes names like 山小大, 山小大, 山小大, etc.

東 京 都

(電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo City (電東京). Includes names like 高木, 高木, 高木, etc.

横 浜 市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City (日本石油). Includes names like 水野, 水野, 水野, etc.

札 幌 市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City (電電北海道). Includes names like 柳山, 柳山, 柳山, etc.

日 立 市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Maebashi City (日立製作所). Includes names like 山小大, 山小大, 山小大, etc.

東 京 都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo City (熊谷組). Includes names like 伊藤, 伊藤, 伊藤, etc.

富 士 市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fushimi City (大昭和製紙). Includes names like 池谷, 池谷, 池谷, etc.

室 蘭 市

(新日鉄室蘭)

Table listing names and numbers for Muroran City (新日鉄室蘭). Includes names like 島村, 島村, 島村, etc.

和 光 市

(本田技研)

Table listing names and numbers for Wakoh City (本田技研). Includes names like 立久, 立久, 立久, etc.

東 京 都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for Tokyo City (東京ガス). Includes names like 江井, 江井, 江井, etc.

浜 松 市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (河合楽器). Includes names like 久米, 久米, 久米, etc.

諏訪市

(三協精機)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

真門市

(松下電器)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

大阪市

(日本生命)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

松山市

(電電四国)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

東海市

(新日鉄名古屋)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

姫路市

(新日鉄広畑)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

大阪市

(テュプロ)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

松山市

(丸善石油)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

大垣市

(西濃運輸)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

和歌山市

(住友金属)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

広島市

(電電中国)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

北九州市

(新日鉄八幡)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

名古屋市

(愛知トヨタ)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

京都市

(大丸)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

福山市

(日本鋼管福山)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

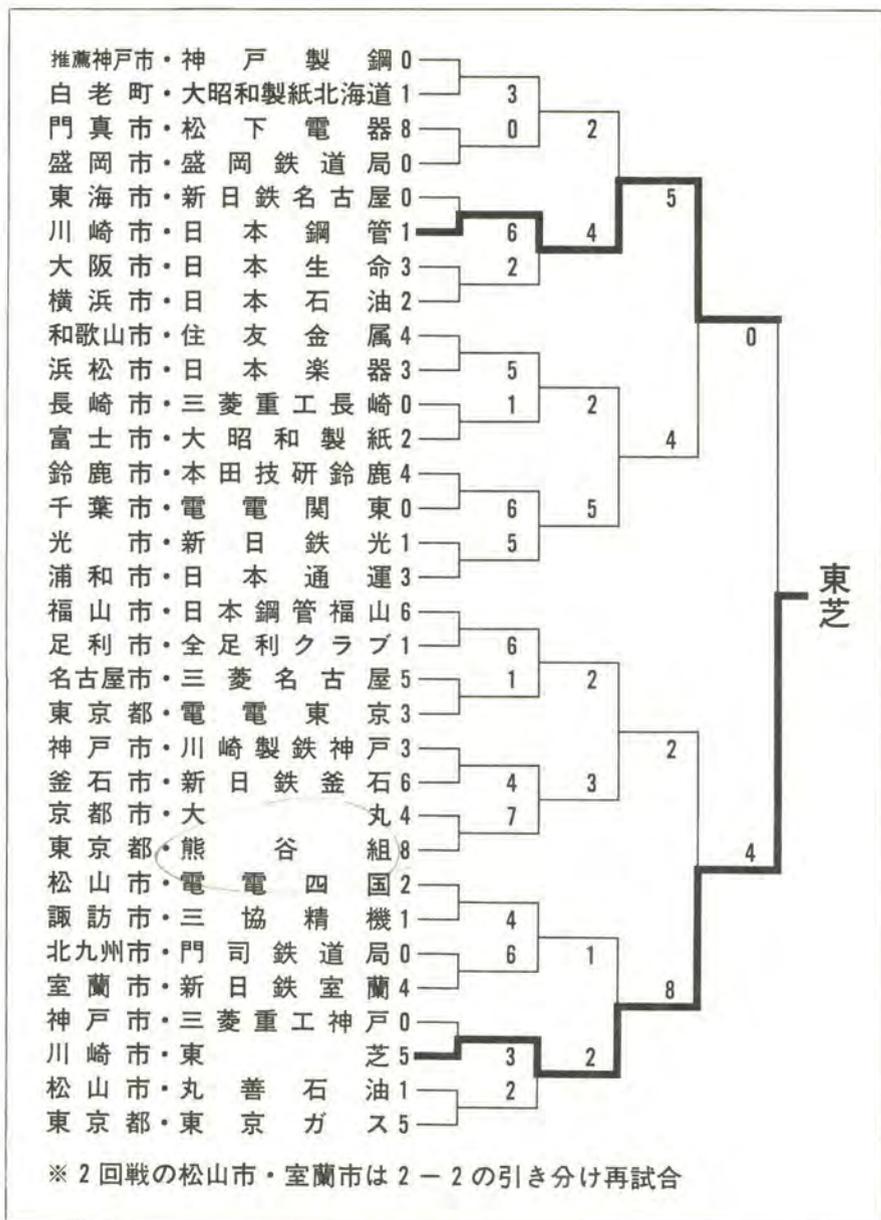
佐賀関町

(日鉄佐賀関)

監投手 30 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

第49回大会

1978年(昭和53年)7月29日 - 8月8日・後樂園球場
優勝=川崎市・東芝



の観衆で埋まった。東芝は鮮やかな速攻で得点。社会人2年目の左腕・黒紙義弘投手が直曲球を低めに決める見事なコントロールで鋼管打線を3安打で完封した。

鋼管も左腕・木田勇が準決勝までの4試合をほとんど1人で投げ、4試合34イニングで防御率1.06の好投だったが、決勝ではその疲れが出て、東芝打線に屈した。

大会前の下馬評は、前年優勝の神戸製鋼(神戸市)、大阪市・日本生命、川崎市・日本鋼管、横浜市・日本石油が4強にあげられ、これに迫る有力チームは東京都・電電東京、富士市・大昭和製紙、神戸市・三菱重工神戸、川崎市・東芝とみられていたが、準々決勝に進出したのは、川崎市の2チームだけだった。

神戸製鋼は開幕戦で敗れ、横浜・日本石油は1回戦で大阪・日本生命に惜敗、その大阪も2回戦で川崎市・日本鋼管に敗退した。

神戸製鋼を倒したのは、白老町・大昭和製紙北海道で、川瀬隆俊投手が鮮やかに完封した。川瀬は2回戦でも門真市・松下電器を4安打完封。大会初日は川瀬に続き、門真市・松下電器の福岡納、川崎・日本鋼管の木田と3人が完封したのをはじめ、1回戦で6人の投手が完封(このほか継投で1試合を零封)を記録した。また2回戦の室蘭市・新日鉄室蘭対松山市・電電四国が延長12回、2-2で引き分ける熱戦を演じた。再試合では室蘭市が6-4で勝った。

名古屋市・三菱名古屋の北村照文外野手が、都市対抗史上初のサイクルヒットを記録。東京都・東京ガスの松沼博久投手は、1回戦の対松山市・丸善石油戦で17奪三振、7連続奪三振の新記録と毎回奪三振を記録した。

橋戸賞は川崎・東芝の黒紙投手、久慈賞は川崎・日本鋼管の木田投手、小野賞は鈴鹿市・本田技研鈴鹿が受賞。若獅子賞は室蘭・山本文博遊撃手(北海道拓殖銀行から補強)に贈られた。



準々決勝の東京対福山。4回東京・熊谷は松本が左越本塁打。マスコットガールに迎えられ生還

川崎決戦...東芝に初の栄冠

決勝は史上2度目の同一都市チーム、川崎市の東芝と日本鋼管との間で争われ、東芝が投打に鋼管を圧倒して、初の黒獅子旗を獲得した。東芝は創設20年目、6度目の出場でつかんだ栄冠だった。

同一都市のチームによる決勝は、26年の第22回大会で大阪市の全鐘紡と南海土建以来27年ぶり。おまけに地元といってもよい川崎市の強豪チーム同士とあって、スタンドは4万

決勝

川崎市 (日本鋼管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川崎市 (東芝)	2	1	0	0	1	0	0	0	X	4

【鋼管】	打安点振球	【東芝】	打安点振球
④ 斎藤	4 2 0 0 0 0	⑥ 高代	4 2 0 0 0 0
⑧ 林	1 0 0 0 0 0	④ 中村	2 1 1 0 1 1
H 藤野	1 0 0 0 0 0	4 武智	1 0 0 0 0 0
H 磯村	0 0 0 0 0 0	③ 岩下	3 0 0 0 0 0
③ 樋口	1 0 0 0 0 0	⑦ 岩下	4 1 1 1 1 0
⑤ 樋口	4 0 0 0 0 0	⑨ 藤下	4 4 2 0 0 0
⑦ 前川	3 1 0 1 0 1	⑧ 藤下	2 0 0 1 0 1
⑨ 羽合	3 0 0 0 0 0	H 2 深平	1 0 0 0 0 0
H 9 落合	2 0 0 0 1 0	H 8 小八	1 0 0 0 0 0
⑥ 大須賀	1 0 0 0 0 0	⑤ 黒紙	4 1 0 0 0 0
H 6 秋元	2 0 0 1 0 1	① 黒紙	3 1 0 1 0 1
② 中木	1 0 0 0 0 0		3 0 0 2 0 0
① 木高	3 0 0 0 0 0		3 2 1 0 4 5 1
H 1 土居	1 0 0 0 0 0	機盗失残併	
H 1 道方	1 0 0 0 0 0	2 0 1 7 1	
	29 3 0 3 0	投手回	打安振球責
		黒紙 9	30 3 3 0 0

機盗失残併	1 0 0 3 0	▽三塁打	菊地
投手回	4 1/2	▽2時間	5分
木高	2 2/3		
道方	1 4 1 1 0 0		



決勝。東芝1回、菊地の三塁打で武智生還、先取点

勢いついた東芝は、2回には八木の中前打から好機をつかみ、高代中前打、中村左前打とたたみかけ1点。さらに5回には、四球の中村をバントで送り一死二塁。ここで鋼管は木田をあきらめ、高木に代えたが、東芝は岩下が中前適時打して、勝利を固めた。

黒紙は、前半はカーブを捨て球に使うシュートで勝負、後半はカーブでカウントをかせぎ、低めのシュートで打者をうちとって、許した安打は3本、無四球のあざやかなピッチング。鋼管は2回、樋野が安打したものの前川の二ゴロで併殺。4回は無死で斎藤が安打し、バントで二進したが、3、4番が抑え

られ、一矢むくいることができなかった。

松沼ガイガイ17奪三振

17奪三振の新記録をつくった東京都・東京ガスの松沼投手のピッチングはすこ味があった。

立ちあがりこそ球道が定まらずトップの福永に死球を与えたが、一死後山下、永田の主軸を三振にうちとると、3回二死まで連続7三振を奪った。

下手から投げ込む球は、魔法のボールのように打者の手元で浮きあがったり、急角度で落ちたり、内外角にまがってくい込んだり。3回二死から打席に入った福永が、なんとバントでバットに当て連続三振はくい止めたものの、松沼の奪三は振毎回続いて17三振の山を築いた。

「三振の多いのは知っていたけど、新記録ですか」と松沼自身も驚いていたが「きょうはスピードがあったし、球の切れも最高だった」とふり返った。

黒紙が無四球ピッチング

東芝の先制攻撃はすばらしかった。1回、トップの高代が中前安打し、二死となったあと、菊地が右中間三塁打して先取点。続く岩下は二塁手の左を破って2点目。

黒紙—木田の予想どおりの左腕の対決だったが、決勝戦までほとんど1人で投げてきた鋼管・木田には、疲れの色がみえた。

橋戸賞は人生の励み

川崎市・東芝
黒紙義弘投手



重大から昭和52年に東芝入社。2年目に4試合に登板3完投2完封の活躍で橋戸賞受賞。59年に現役をあがり、2年間仕事に従事したあとコーチとして復帰。

当時のエースは現在監督の大田垣さんだったが、ボクは大会に入ってからすごく調子がよく、とくに制球力は、思ったところに投げられる気がしたほどだった。

初戦の三菱重工神戸戦で完封勝ちして、気分的にも乗ることができた。東京ガス戦は同点に追いついたあと7回からリリーフ、新日鉄室蘭戦も延長10回を完投した。

準決勝は大田垣さんが完投したので、決勝はボクだと思っていた。同じ川崎の日本鋼管との対戦だった。あの年は神奈川予選の準決勝で鋼管に負け、敗者戦にまわってから、第2代表決定戦でも負け、東芝はやっと第3

代表になったのだが、決勝の前の晩は、必ず勝てるとも思わなかったにしても、ここまで来たのだからと、負ける気は全然なかったのを覚えている。

1回の表に3者内野ゴロにうちとって「いける」と思った。それに予選からずっと投げてきた相手の木田勇投手の疲れがはっきりわかった。うちが1、2回に得点して気も楽だったし、三振を狙うピッチングでなく、うまく打たせてとる配球ができた。

早いペースの試合で、リズムをこわさないように、四球にだけは気をつけたが、終わってみれば3安打無四球の完封。たしか三塁まで走者を行かせたのは1度だけだった。

橋戸賞受賞のアナウンスがあったとき「本当にボクがもらえるのか」と思ったが、大学時代から、個人賞にはおよそ縁がなかっただけに、ものすごくうれしかった。

実は東芝に入社するとき、他の会社からも誘われたのだが、どうしても中央球界で野球をやりたいとお断りした経緯があった。それだけに、これで申しわけがたつたとの気持ちもあった。

橋戸賞は文字通りボクの宝物で、受賞したことが、その後の人生にどれほど励みになったことか。いまでも感激している。



開会式のホームラン競争、外野席でボールを追う少女

史上初のサイクル安打

史上初のサイクル安打を記録した名古屋市・三菱名古屋の北村外野手は、ベンチ前でカメラに囲まれると、「ボク、インタビューなんて受けるのは初めて」と大テレ。

第1打席で本塁打のあと左中間二塁打、右中間三塁打と長打を重ね残るはシングル安打だけ。スタンドがじっと見守るなか第4打席できれいに三遊間を抜いて快記録を達成。

武相高を卒業、キャピラー三菱に入社したが、昨年秋野球部が解散、野球を続けたくて三菱名古屋に移った苦労人。華やかな舞台は初体験だけに「決して狙ったわけではなく、チームのために打ちたいと思っただけ」と話していた。

入場者45万人史上最高

大会の入場者がついに45万人を突破、史上最高を記録した。昨年は41万人で一昨年の過去最高だった42万人をやや下回ったが、今大会は応援席だけでなく、ネット裏の特別席も、何回も札止めになる盛況ぶりだった。



優勝の瞬間、黒紙投手に駆け寄り喜び合う東芝ナイン

気迫投手戦12回ドロ

2回戦の室蘭市・新日鉄室蘭対松山市・電電四国はすばらしい投手戦で12回引き分けとなった。

室蘭は2回、梅田が右翼2ランで先制したが、松山も7回高橋の左翼二塁打と松岡のタイムリーで好投の有沢を退け、代った財前にも福谷が二塁打して同点とした。その後は財前と横松が打者を抑え込んだ。

松山は10回三ゴロ矢の福谷が二進しバントで三塁へ。室蘭が満塁策をとると、勝負どころと松山も横松に代打を送ったが、実らなかった。

財前は7回の二塁打だけであとは安打を許さず、松山のリリーフ川野も2回を無安打で抑え切った。

MEMO

◇サイクル安打 名古屋市・三菱名古屋の北村照文外野手は、1回戦の東京都・電電東京戦で史上初のサイクルヒットを記録した。▽1回=左翼2ランホーム▽2回=左越二塁打▽4回=右中間三塁打▽7回=三遊間安打

◇最多奪三振17、連続最多三振7の新記録 東京都・東京ガスの松沼博久投手は、1回戦の松山市・丸善石油戦で17奪三振、7連続奪三振の新記録をマーク。これまでの最多奪三振は、38回大会で平松政次(横浜市・日本石油)が記録した16。延長15回では丸善石油の西五十六投手が21を記録している。連続奪三振は平松投手ら4人の5。また松沼投手は毎回奪三振も記録した。これは43回大会での新美敏(浜松市・日本楽器)ら3人が記録している。

◇700号本塁打 福山市・日本鋼管福山・岡本道夫外野手が、2回戦の名古屋市・三菱名古屋の岡田投手(東海理化から補強)から6回右翼席に打ち込んで記録した。

1回戦

神戸製鋼(推薦・神戸市)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 1 x | 1

白老町(大昭和北海道)

【神戸製鋼】	打安点	【白老町】	打安点
⑧	林 5 1 0	⑦	山 4 1 0
⑥	小 4 2 0	⑧	本 3 0 0
⑨	山 4 0 0	⑤	小 3 1 0
⑦	中 3 2 0	③	大 2 1 0
③	大 3 1 0	3	高 0 0 0
④	大 4 1 0	④	岡 3 0 0
⑤	吉 3 0 0	②	高 3 0 0
H	中 1 0 0	⑨	村 3 1 0
5	中 0 0 0	①	浜 3 0 0
②	佐 2 0 0	⑥	H 2 0 0
H	野 1 0 0	H	本 1 0 0
①	林 2 0 0	H	内 1 0 0
H	原 1 0 0	6	佐 0 0 0
	33 7 0		27 4 0

振球犠盗失残併 6 1 0 1 2 3 1
投手回安責 川 瀨 9 7 0
登 記 8 4 0
▽二塁打 浜井▽2時間35分

1回戦

門真市(松下電器)

3 1 0 3 0 0 1 0 0 | 8
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

盛岡市(盛岡鉄道局)

【門真市】	打安点	【盛岡市】	打安点
⑧	田 2 0 0	⑧	法 4 0 0
8	山 2 0 0	⑥	赤 2 0 0
④	坂 3 2 2	6	佐 1 1 0
H	口 1 0 0	⑦	藤 4 1 0
4	坂 0 0 0	⑨	松 3 0 0
⑥	森 4 1 2	7	齊 1 0 0
6	山 1 0 0	②	齊 2 0 0
③	平 3 1 0	1	泉 0 0 0
⑨	鍛 4 2 2	H	泉 1 0 0
⑦	冶 3 0 0	3	池 3 1 0
②	高 4 2 2	③	葉 0 0 0
①	堀 3 0 0	⑤	上 2 0 0
⑤	福 3 2 0	①	上 1 0 0
H 5	鈴 1 0 0	1	中 0 0 0
	34 10 8	H	高 1 0 0

振球犠盗失残併 9 3 0 0 0 5 0
投手回安責 佐 藤 3 7 7
中 末 1 1 0
末 永 3 2 1
泉 沢 1 0 0

▽三塁打 坂口▽二塁打 平谷 坂口 山口 鍛冶 舎 高鍋▽2時間

1回戦

東海市(新日鉄名古屋)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 1 0 0 0 0 x | 1

川崎市(日本鋼管)

【東海市】	打安点	【川崎市】	打安点
④	杉 2 0 0	④	齋 4 0 0
H	本 1 0 0	⑧	林 4 0 0
⑥	高 3 0 0	③	樋 4 1 0
⑦	小 4 0 0	⑤	口 3 1 0
⑧	福 2 1 0	⑨	羽 3 1 0
9 3	藤 3 0 0	R 9	尾 0 0 0
②	田 3 0 0	⑦	高 3 2 1
③	西 1 0 0	⑥	大 2 1 0
H 9	木 1 1 0	②	中 3 1 0
⑤	篠 3 0 0	①	木 3 0 0
①	鈴 2 0 0		29 7 1
H	木 0 0 0		
1	水 0 0 0		

振球犠盗失残併 5 4 1 0 0 3 0
投手回安責 鈴木 7 7 1
水谷啓 1 0 0
▽本塁打 前川1号(鈴木)▽二塁打 福鳥▽2時間3分

1回戦

横浜市(日本石油)

0 0 1 0 1 0 0 0 0 | 2
0 0 3 0 0 0 0 0 x | 3

大阪市(日本生命)

【横浜市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑨	庄 5 2 1	⑧	盛 4 0 0
⑥	林 5 2 1	④	岡 4 1 0
⑦	沢 5 1 0	⑨	井 4 3 1
③	平 4 1 0	③	藤 4 1 2
⑧	福 2 0 0	⑤	野 2 0 0
⑤	村 3 1 0	⑦	原 1 0 0
R 5	野 0 0 0	7	田 1 0 0
H 4	大 0 0 0	②	岡 3 1 0
②	福 4 1 0	⑥	竹 2 0 0
①	井 1 0 0	①	田 3 0 0
1	出 1 1 0	1	野 0 0 0
H	部 0 0 0		0 0 0
1	齊 0 0 0		
H	小 1 1 0		

振球犠盗失残併 9 3 2 2 1 6 1
投手回安責 岡 田 6 7 2
矢 野 1 1/2 1 0
林 1 1/2 2 0
▽本塁打 佐藤1号②(槍田)▽二塁打 庄子 平沢 福崎▽2時間57分

1回戦

北九州市 (門司鉄道局)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
3 1 0 0 0 0 0 0 X | 4
室蘭市 (新日鉄室蘭)

【北九州市】 打安点
(6) 田崎 3 1 0
(4) 石馬 0 0 0
H4 坂前 2 1 0
H4 坂前 1 1 0
(3) 原田 4 0 0
(7) 井上 3 0 0
1 井上 0 0 0
(9) 森梅 1 0 0
9 藤尾 3 0 0
9 加藤 0 0 0
(2) 河野 2 0 0
H2 伊藤 1 0 0
(8) 大直 3 1 0
(1) 西尾 0 0 0
H1 石徳 1 0 0
H1 石徳 1 0 0
(5) 吉田 3 0 0
振球権盗失残併 294 0
3 1 1 0 0 4 1
投手回安責
石谷 2 3 4
西井 5 3 0
山下 1 0 0

1回戦

神戸市 (三菱重工神戸)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 3 0 0 0 0 0 2 X | 5
川崎市 (東芝)

【神戸市】 打安点
(7) 中深 3 1 0
H5 深時 1 1 0
(4) 土佐 1 0 0
H4 古尾 2 1 0
(5) 尾川 0 0 0
H5 尾川 4 1 0
(6) 山田 3 0 0
(8) 山田 4 0 0
9 東 4 1 0
(9) 井上 0 0 0
8 井上 3 1 0
(2) 井上 2 0 0
(1) 井上 2 0 0
H1 井上 1 0 0
1 井上 0 0 0
振球権盗失残併 306 0
9 3 0 0 1 6 0
投手回安責
香川 7 4 3
一色 1 1 2
▽本塁打 菊地1号② (香川) 2号② (一色)
三塁打 尾形▽二塁打 井上 武智▽2時間8分

1回戦

松山市 (丸善石油)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 0 0 2 0 3 0 0 X | 5
東京都 (東京ガス)

【松山市】 打安点
(4) 福神 3 0 0
(5) 浦下 3 2 0
(3) 浦下 4 1 1
3 浦下 0 0 0
(2) 永秋 3 0 0
2 永秋 1 0 0
(9) 寺松 4 0 0
(8) 松角 4 1 0
(6) 松角 2 0 0
H6 松角 1 0 0
H6 松角 0 0 0
(7) 山口 2 0 0
H R 山口 1 1 0
(1) 山口 0 0 0
1 山口 0 0 0
1 山口 0 0 0
振球権盗失残併 315 1
1 7 1 1 2 1 5 2
投手回安責
井口 5 9 4
藤野 2 2 0
新 1 0 0

2回戦

白老町 (大昭和北海道)
0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
門真市 (松下電器)

【白老町】 打安点
(7) 山本 4 1 0
(8) 喜野 3 1 0
(5) 野梨 4 1 0
(4) 高梨 4 1 1
(3) 高梨 4 1 2
4 高梨 0 0 0
(2) 高梨 4 0 0
(9) 高梨 4 1 0
(1) 高梨 2 0 0
(6) 高梨 3 0 0
6 高梨 1 0 0
振球権盗失残併 336 3
7 3 1 0 0 7 0
投手回安責
川瀬 9 4 0

2回戦

大阪市 (日本生命)
0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
1 0 4 0 0 0 1 0 X | 6
川崎市 (日本鋼管)

【大阪市】 打安点
(8) 盛岡 3 1 1
(4) 赤中 4 1 1
(9) 藤野 3 0 0
(3) 藤野 3 0 0
(5) 藤野 4 1 0
(7) 藤野 2 0 0
H7 藤野 1 1 0
H H 藤野 1 0 0
(2) 藤野 4 2 0
(6) 藤野 4 1 0
(1) 藤野 0 0 0
1 藤野 0 0 0
H 藤野 1 0 0
H 藤野 1 0 0
振球権盗失残併 327 2
7 2 2 1 1 7 1
投手回安責
野田 2 5 3
岡田 3 5 2
林 2 3 0

2回戦

富士市 (大昭和製紙)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 3 1 0 0 1 X | 5
和歌山市 (住友金属)

【富士市】 打安点
(4) 山本 4 1 0
(6) 林出 4 1 0
(5) 高井 3 0 0
(9) 浅中 2 1 0
(8) 中東 2 0 1
(3) 山本 2 0 0
H 山本 1 0 0
7 山本 1 0 0
(7) 山本 0 0 0
7 山本 2 0 0
H 山本 1 0 0
H3 山本 0 0 0
(2) 山本 2 0 0
H2 山本 1 0 0
(1) 山本 2 0 0
H 山本 1 0 0
1 山本 0 0 0
振球権盗失残併 283 1
9 4 1 1 0 5 0
投手回安責
鈴木 7 7 4
阿部 1 2 1
▽本塁打 中村1号 (鈴木) 清水1号 (阿部)
二塁打 西村2 高林▽2時間44分

2回戦

浦和市 (日本通運)
1 0 0 0 1 0 0 1 2 0 0 | 5
0 0 3 0 1 0 1 0 0 0 1 | 6
鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

【浦和市】 打安点
(6) 望月 5 1 1
(9) 久野 5 0 0
(7) 久野 5 2 1
(3) 石井 5 1 0
(8) 石井 4 0 0
(5) 石井 4 1 0
(4) 石井 4 3 3
(2) 石井 2 0 0
H 石井 1 0 0
(1) 石井 2 0 0
1 石井 0 0 0
H 石井 1 0 0
1 石井 1 0 0
1 石井 0 0 0
振球権盗失残併 418 5
10 3 0 1 3 6 0
投手回安責
吉川 4 7 2
小林 3 4 1
小島 1 1 0
永島 2 2 0
▽本塁打 駒崎1号 (松田修) 清塚1号 (松田修)
二塁打 高橋 (鈴) 細川▽3時間21分

2回戦

名古屋市 (三菱名古屋)
0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 3 0 3 0 0 X | 6
福山市 (日本鋼管福山)

【名古屋市】 打安点
(7) 橋山 4 1 0
H 橋山 1 0 0
(4) 石垣 4 4 1
(8) 石垣 3 0 0
(3) 石垣 4 1 0
(6) 石垣 3 1 0
6 石垣 1 0 0
(5) 石垣 4 1 0
(2) 石垣 2 0 0
H 石垣 1 0 0
2 石垣 1 0 0
(1) 石垣 2 0 0
1 石垣 0 0 0
H 石垣 1 0 0
(9) 石垣 4 1 0
振球権盗失残併 359 1
4 2 0 1 1 9 0
投手回安責
東 5 5 3
岡田 2 4 3
小野 1 0 0

2回戦

東京都 (熊谷組)
2 2 0 2 0 1 0 0 0 | 7
1 0 2 0 1 0 0 0 0 | 4
釜石市 (新日鉄釜石)

【東京都】 打安点
(8) 沢田 5 1 0
(7) 川崎 4 3 1
(6) 森矢 5 4 4
(9) 森矢 1 0 0
H3 森矢 2 1 1
(3) 伊藤 4 1 1
(4) 松本 4 1 0
(5) 伊藤 4 0 0
(2) 伊藤 3 2 0
(1) 伊藤 1 0 0
H 伊藤 0 0 0
1 伊藤 1 0 0
振球権盗失残併 343 7
4 6 3 2 0 9 0
投手回安責
小林 3 5 3
矢野隆 6 4 1

2 回戦

室蘭市 (新日鉄室蘭)												
0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
松山市 (電電四国)												

【室蘭市】		打安点	【松山市】		打安点
7	島本	5	9	玉幸	5
6	山日比	1	8	幸高	4
3	古川	0	6	井田	4
4	荒野	0	3	橋岡	2
9	梅後	0	7	岡谷	2
5	朝有	0	3	土瀬	1
2	財前	0	5	本瀬	1
1		0	4	松石	0
			2	野	0
			1		0

振球機盗失残併	4011231	振球機盗失残併	15310151
投手回安責	6% 41	投手回安責	10 52
有財前	6 10	有財前	2 00
▽本塁打 梅田1号② (横松)▽二塁打 荒野			
高橋 福谷▽2時間52分			

2 回戦

東京都 (東京ガス)												
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	2	0	1	0	x	3			
川崎市 (東芝)												

【東京都】		打安点	【川崎市】		打安点
8	山田	3	6	高深	5
6	池田	1	9	代沢	1
3	渡邊	1	1	宮村	0
9	尾崎	0	5	智地	1
2	岡崎	0	3	野田	2
4	安藤	0	7	川野	1
7	伊藤	0	3	須賀	0
5	佐藤	0	8	高須	0
1	松岡	0	2	中野	0
1	工藤	0	1	黒宮	0

振球機盗失残併	3330061	振球機盗失残併	94121110
投手回安責	72 21	投手回安責	2 22
有財前	1% 30	有財前	3 10
▽二塁打 山本 高代 中村2▽2時間58分			

2 回戦 (再試合)

松山市 (電電四国)												
0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	4		
0	1	1	0	2	1	1	0	x	6			
室蘭市 (新日鉄室蘭)												

【松山市】		打安点	【室蘭市】		打安点
9	玉幸	5	7	島本	5
8	幸高	3	6	山日比	5
6	井田	2	3	比野	2
3	橋岡	1	R 3	野田	0
7	岡谷	0	8	川野	0
4	土瀬	0	4	須賀	0
9	本瀬	0	9	高須	0
5	松石	0	4	中野	0
H 5	野	0	9	黒宮	0
2		0	2		0
H 2		0	1		0
1		0	1		0
1		0	1		0
1		0	1		0
H		0	1		0

振球機盗失残併	9531260	振球機盗失残併	4132182
投手回安責	5 94	投手回安責	3 31
有財前	1 21	有財前	3 42
南	1 31	有財前	3 10
菊	1 10		
▽三塁打 山本 梅田 日比野▽2時間55分			
2 梅田 山本			

準々決勝

川崎市 (日本鋼管)												
0	0	0	0	0	0	3	0	1	4			
0	0	0	0	0	0	0	2	0	2			
白老町 (大昭和北海道)												

【川崎市】		打安点	【白老町】		打安点
4	斎藤	3	7	山本	3
8	林	4	8	喜野	4
3	口野	4	5	野梨	3
5	榑	1	3	梨岡	4
7	前野	1	4	岡上	3
R 9	高須	1	2	井田	3
2	大木	0	9	瀬川	4
1		0	1	瀬川	0
			H 1	瀬川	0
			H 6	瀬川	0

振球機盗失残併	7440052	振球機盗失残併	13400251
投手回安責	9 62	投手回安責	6 31
有財前	1 21	有財前	1 00
▽二塁打 村上 我喜屋 大野▽2時間50分			

準々決勝

和歌山市 (住友金属)												
1	0	0	0	0	1	0	0	0	2			
0	0	0	0	2	1	0	2	x	5			
鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)												

【和歌山市】		打安点	【鈴鹿市】		打安点
4	西村	3	4	羅本	3
8	村水	4	8	並川	3
4	村水	1	7	全細	4
2	藤原	2	9	高林	4
5	中三	2	5	林伸	4
3	三川	2	R	田中	0
9	上島	0	5	良田	0
7	高橋	0	3	中世	0
6	橋本	0	2	古田	0
H 6	野口	0	1	柳	0
1	野口	0	H 1		0
1	野口	0	H 6		0
1	野口	0	6		0

振球機盗失残併	4301140	振球機盗失残併	10311041
投手回安責	5 53	投手回安責	5 31
有財前	1% 20	有財前	4 31
▽三塁打 西村▽二塁打 林良 田中 藤田 藤村▽2時間52分			

準々決勝

福山市 (日本鋼管福山)												
0	0	0	0	0	0	2	0	0	2			
1	0	0	1	0	1	0	0	x	3			
東京都 (熊谷組)												

【福山市】		打安点	【東京都】		打安点
8	山根	2	8	沢田	4
4	岡本	2	7	橋本	0
H 4	佐木	1	6	山山	0
9	内木	1	7	森山	0
3	内木	0	9	清野	0
7	関	0	H 9	敏野	2
8	木村	2	3	藤本	1
5	渡部	4	3	伊藤	1
6	白石	1	4	藤本	4
2	藤村	0	5	藤本	3
2	今留	0	2	町田	2
1	土村	0	1	小村	2
H 1	野村	0	H 1		0
R 1	橋本	0	H 1		0
1	高内	0	H 1		0
H 1	山田	0	H 1		0
1	松浦	0	H 1		0

振球機盗失残併	6110150	振球機盗失残併	3313060
投手回安責	5 52	投手回安責	6 62
有財前	1 11	有財前	3 20
▽本塁打 松本1号 (田村)▽三塁打 関▽二塁打 六条 森貞 土野 松本 関 渡部▽3時間11分			

準々決勝

川崎市 (東芝)												
0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2		
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1		
室蘭市 (新日鉄室蘭)												

【川崎市】		打安点	【室蘭市】		打安点
6	高中	5	7	島本	3
5	代村	1	6	岡山	1
3	木智	0	3	比野	4
7	菊地	2	8	川野	4
8	岩下	0	3	日比	2
H 9	斎平	3	4	古川	4
2	深小	0	9	荒野	4
1	黒宮	0	4	梅後	4
4		0	5	朝有	4
			2	財前	3
			H 1		0
			R 1		0
			H 1		0
			H 1		0
			H 1		0
			H 1		0
			H 1		0

振球機盗失残併	58111120	振球機盗失残併	6320171
投手回安責	10 61	投手回安責	2 10
有財前	1 00	有財前	3 30
▽三塁打 菊地▽3時間28分			

準決勝

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)												
0	2	0	0	2	0	0	0	0	4			
0	1	0	2	1	0	0	0	1	5			
川崎市 (日本鋼管)												

【鈴鹿市】		打安点	【川崎市】		打安点
4	羅本	3	4	斎藤	4
8	並川	3	8	林	4
7	全細	4	3	榑	4
9	高林	4	5	口野	4
3	林伸	2	7	野田	4
H 5	田中	0	9	川野	3
2	田中	0	9	須賀	1
1	藤村	0	6	高須	4
6	松田	0	2	中野	4
	小柳	0	1	黒宮	0
		0	H 1		0
		0	H 1		0
		0	H 1		0
		0	H 1		0

振球機盗失残併	7231220	振球機盗失残併	6010030
投手回安責	4 62	投手回安責	3 12
有財前	5 21	有財前	7 52
▽本塁打 細川1号② (木田)▽三塁打 中沢▽二塁打 林伸 大須賀 斎藤 羅本▽2時間38分			

準決勝

東京都 (熊谷組)												
0	0	0	0	0	2	0	0	0	2			
0	0	1	0	2	0	3	2	x	8			
川崎市 (東芝)												

【東京都】		打安点	【川崎市】		打安点
8	沢田	4	6	高深	4
7	橋本	3	9	代沢	4
6	山山	3	8	連智	4
3	森山	1	3	野田	1
9	清野	0	7	比野	3
H 9	敏野	2	9	古川	0
3	藤本	1	5	荒野	0
3	伊藤	4	2	梅後	0
4	藤本	3	8	朝有	0
5	藤本	0	9	財前	0
2	町田	0	5	島下	2
2	小村	2	2	田本	2
1	小村	2	1	原	4
H 1		0	1	大垣	3
H 1		0	4	宮崎	1
H 1		0	H 4	父元	0
H 1		0	H 4	村	0
H 1		0	H 4		0
H 1		0	H 4		0
H 1		0	H 4		0

振球機盗失残併	2111071	振球機盗失残併	9631070
投手回安責	4 43	投手回安責	9 92
有財前	1 00	有財前	3 10
▽本塁打 菊地3号② (小林)▽二塁打 武智 後藤 小原▽3時間5分			

川崎市 釜石市 千代田市 川崎市

Table listing names and affiliations for川崎市 (East), 釜石市 (New Iron Mine), 千代田市 (Electric Power), and 川崎市 (Japan Steel Pipe).

推薦・神戸市 盛岡市 東京都 横浜市

Table listing names and affiliations for 推薦・神戸市 (Godai), 盛岡市 (Iron Mine Management), 東京都 (Electric Power), and 横浜市 (Japan Steel Pipe).

白老町 足利市 東京都 富士市

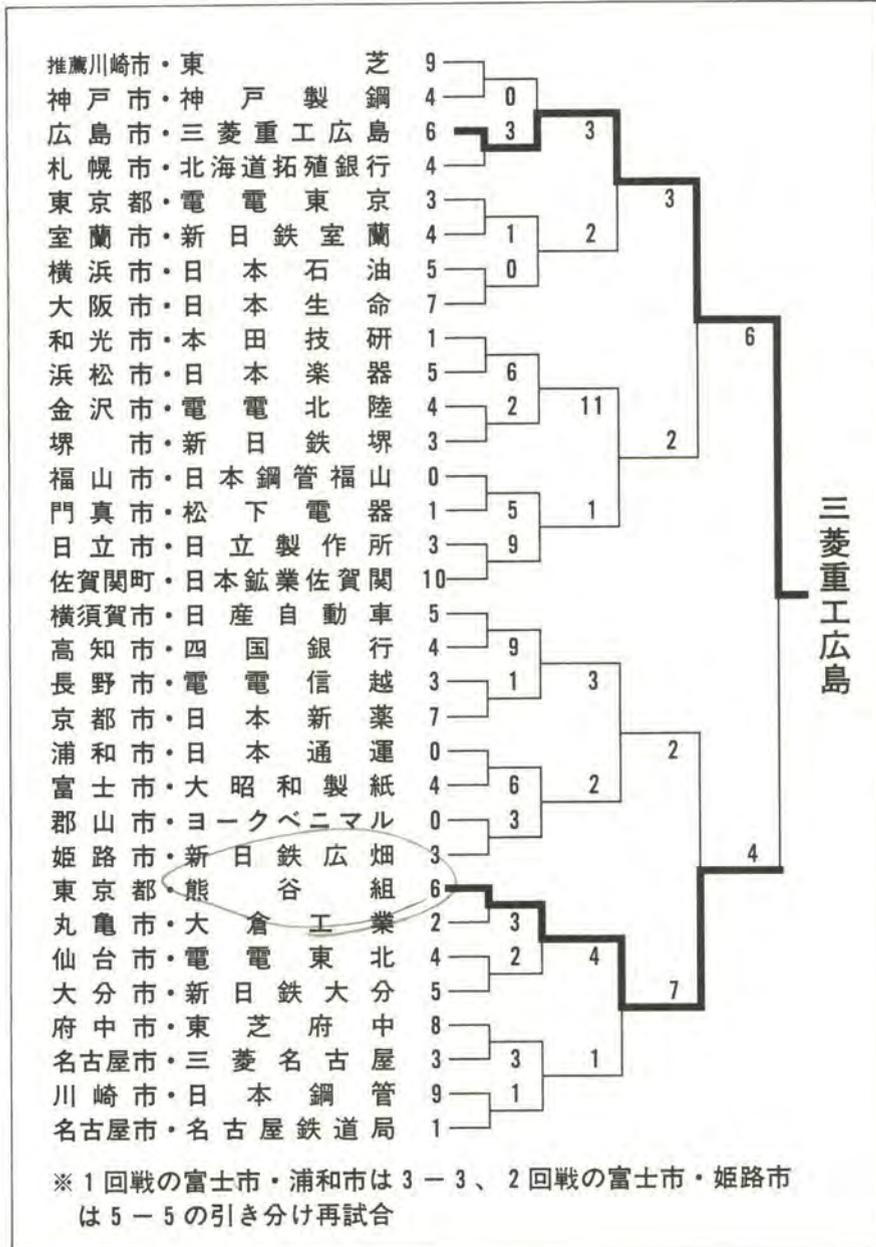
Table listing names and affiliations for 白老町 (Daiwa), 足利市 (All Japan Club), 東京都 (Tokyo Gas), and 富士市 (Daiwa Paper).

室蘭市 浦和市 東京都 浜松市

Table listing names and affiliations for 室蘭市 (New Iron Mine), 浦和市 (Japan Through), 東京都 (Nagano Group), and 浜松市 (Japan Music).

第50回大会

1979年(昭和54年)7月28日-8月7日・後樂園球場
優勝=広島市・三菱重工広島



の本塁打総数は62本にのぼり、前年の23本の3倍近くが量産され、華々しく本塁打で決まる試合が目立った。

その華々しい攻撃上位の大会をくぐり抜け、頂点に立ったのは初出場の広島市・三菱重工広島だった。準々決勝で室蘭市・新日鉄室蘭、準決勝で浜松市・日本楽器をともに逆転で降した広島は、決勝も強豪の東京都・熊谷組にリードされながら最終回、6連続安打の驚異的な猛反撃で大逆転した。初出場チームの優勝は第21回大会の大阪市・全鐘紡以来29年ぶり6度目。中国路に黒獅子旗がもたらされたのも初めてだった。

橋戸賞は広島・大町定夫投手(新日鉄光から補強)、久慈賞は東京・中尾孝義捕手(プリンスホテルから補強)、小野賞は三菱重工広島が受賞、若獅子賞は東京・中屋恵久男内塁手(プリンスホテルから補強)となった。

金属バットは猛威を發揮、大会第5日の1回戦4試合で13本塁打が乱れ飛び、4試合すべてが本塁打で決まった。室蘭市・新日鉄室蘭の高梨英夫一塁手(大昭和製紙北海道から補強)は、2回戦の大阪市・日本生命戦の9回、左翼へ決勝本塁打を打ち、個人通算最多本塁打記録を「7」と伸ばした。36歳のベテランがうち立てた快記録だった。

準々決勝では、浜松・日本楽器が佐賀関町・日鉦佐賀関を中盤からの大量点で降し、第48回大会から得点差によるコールドゲームが採用されてから初の7回コールド。浜松は6打席連続安打の大会タイ記録をつくったのを含め、18安打の猛攻だった。

一方、富士市・大昭和製紙は、2度の引き分け再試合を演じた。1回戦の浦和市・日本通運戦は、3-3の12回引き分け。この試合の全得点は、富士が3本、浦和が2本のホームランによってたたき出されたもので、浦和の清塚慎一二塁手の2ランが光った。再試合は富士が杉本正投手の好投で快勝したが、富士が2回にあげた4点は、またしても、大会タイ記録となる1イニング3本塁打によるものだった。富士市は、2回戦の姫路市・新日鉄広畑戦も5-5の12回引き分けを演じたあと、再試合は富士が8回に4点を奪って再逆転、姫路市を退けた。1大会1チーム2度の引き分け再試合は、38回大会の浜松市・日本楽器に次いで2度目だった。

金属バット！本塁打62本も

半世紀の歴史を重ね、第50回大会を迎えた都市対抗は、7月28日午後5時からの開会式に引き続き、同6時半開始のナイトゲームで前年の覇者・東芝(川崎市)と神戸市・神戸製鋼の試合で幕をあげた。この大会から国際試合の潮流に合わせ、金属バットが採用され、試合展開を大きく変えることになった。大会

広島市 (三菱重工広島)	0 0 1 1 0 0 0 0 4	6
東京都 (熊谷組)	0 0 0 2 0 2 0 0 0	4

広島市	打点	安打	振球	東京都	打点	安打	振球
⑨ 伊藤 藤	3	0	0	⑧ 根山 根	4	3	0
⑨ 井上 敏	1	1	1	⑦ 岩川 山	5	0	0
④ 金光 光	4	3	1	⑥ 森 八	5	2	0
③ 佐々木 木	4	2	3	⑤ 山本 木	4	1	1
⑥ 後藤 藤	5	0	0	④ 山中 山	0	0	0
⑧ 若松 本	5	1	1	③ 伊中 伊	4	1	0
⑦ 池本 本	4	1	0	② 中尾 中	4	2	0
⑤ 富士 野	0	0	0	① 松本 本	3	2	3
⑦ 山根 根	3	1	0	④ 林 林	3	0	0
H 山井 井	1	1	0	① 村中 中	2	0	0
R 1 児玉 玉	0	0	0	1 矢野 野	0	0	0
② 大村 村	4	2	0	1 小 小	0	0	0
① 大村 村	3	0	0	H 小 小	1	0	0
H 荒谷 谷	0	0	0				
R 7 古川 川	0	0	0				
	38	13	6		36	11	4
犠牲 併	2	1	8	投手 回	打点 振球 責		
0 0				林 中	4	20	6
				村 中	4	16	4
				矢野 隆	1	3	3
				小 林	0	2	0

▽本塁打 後藤1号(林) 八木1号(大町) 中尾3号
4号②(大町) ▽二塁打 金光2号 ▽3時間13分

最終回6連続安打で逆転

“金属バット大会”にふさわしい、広島
の逆転劇だった。4-2とリードされていた
広島は9回、代打・山根の中前安打から反撃を
開始した。大森の二塁手左を抜く安打で代走
の井上伸が三塁へ走ってアウトとなったが、
代打・荒谷が二塁内野安打して一死一・三塁。
ここで東京の投手は矢野隆に代ったが、広島
は井上敏が三遊間へ安打して1点差とつめ寄
り、さらに金光が三塁線突破の二塁打して同
点。佐々木はカーブを中前にはじき返す逆転
打を放った。早早カウントから狙い打った、
あざやかな6連続安打の猛攻だった。

広島が4試合全部に先発している大町をマ
ウンドに送れば、東京は1日休んでいた左腕
の林の先発。ともにスタートは無難だったが、
林はやや球が走らず、広島は3回二死から金
光の二塁打と佐々木の適時打で先制。4回に
は後藤の本塁打でリードを広げた。

しかし東京はその裏、八木、中尾の本塁打
でたちまち同点とし、6回には伊藤が右前安
打すると、中尾が左翼に2打席連続本塁打。
これで東京は優勝を決めたかと思われたが、
広島のスさまじいばかりの気力と粘りに、4
度目の優勝の夢を断ち切られた。



迫田監督を胴上げ、初優勝を喜ぶ三菱重工広島ナイン

プロでも迷わず最初の背番号

東京都・熊谷組
中尾孝義捕手
(プリンスホテルから補強)



専大出身。昭和54年プリンスホテルに入社。
新人で熊谷組に補強され、決勝での2打席連
続を含め4本塁打を放ち、久慈賞受賞。プロ
野球で中日から巨人に移った。

全試合に出場して、毎試合安打は出るし本
塁打も4本。いま思い返しても信じられない
くらいよく打った。

第1回戦の大倉工業戦では、足か地につか
ないっていうのは、こんな感じなのかと思う
ほどあがっていたが、6回にダメ押しの本塁
打を放って落ちついた。

プリンスホテルから補強で東芝府中から出
場した石毛宏典が、1回戦でホームラン。同
じ熊谷組に補強された中屋久久雄も3回に本
塁打。「ボクも打たなきゃ」と思っていた矢
先だった。

2回戦の逆転3ランも思い出は深い、最
も心に残っているのは決勝での2本のアー
チ。なかでも6回裏の勝ち越し2ランは、こ
れで4-2としたのだから、正直言って、も
う優勝だと確信した。二死から監督兼任の伊
藤友幸さんが右前打した場面。ここは一発し
かないと、インコースにしばっていた。そこ
へ初球、内角高めストレート。まさに狙っ
て打った会心の一撃だった。

あのままだと、ボクが捕手賞に輝くはず
だった。それが9回にしぶとい三菱重工広島
に4点取られて逆転負け。確か一死一塁でピ
ッチャーの一塁ベースカバーが遅れ、内野安
打にしてしまったのが勝負のポイントだっ
た。ひとつのプレーが、局面をガラリと変え
る野球の怖さを身をもって知らされた決勝だ
った。

でも新人であれだけ活躍できたのは、後々
の大きな自信になった。

中日入りしたとき、空いている背番号をい
くつか示されたなかで、迷わず選んだのが
「9」。初めての都市対抗で背負った番号で、ゲ
ンのいい背番号が残っていたのはラッキー、
と思ったものでした。

4戦こなし2回戦突破

富士市・大昭和製紙は1回戦の浦和市・日
本通運と引き分け。3-3の試合で富士は3
ホームー。いずれもソロだったが、浦和は2
本塁打ながら1本は清塚の2ラン。本塁打だ
けの得点で2ランが利いた。

もっとも再試合では富士が今度は1イン
グ3発の大会タイ記録の打棒をみせ、投げて
は杉本が浦和打線を3安打完封した。

富士は2回戦の姫路市・新日鉄広畑戦も引
き分け。佐々木が7回に2点本塁打して同点
とし、延長戦になった。姫路は12回、尾形
の適時打で決勝点と思われる1点をあげたが、
その裏富士も二塁打の山本秀が三盗に成功、
山本宗の三ゴロで生還と足を生かして同点。

再試合は8回、富士が井出の二塁打など4
長短の集中で4点を奪い逆転、2度にわたっ
て再試合を握ったが、2回戦を勝ち進むのに
富士は4試合、あわせて11時間40分の戦いと
なった。

初舞台2人アーチ競演

東京都・熊谷組にプリンスホテルから補強
された中尾捕手、中屋三塁手の活躍ぶりは見
事だった。

1回戦は中屋の3点本塁打で逆転勝ち。2
回戦は中尾が3点本塁打を放ち、またも逆転
勝ち。さらに準々決勝は再び中屋が初回に3
点本塁打を放って逃げ切った。

決勝でも中尾は2打席連続本塁打でいった

んは逆転したほどだった。都市対抗は補強選
手が動いたところは強いが、2人とも新人の
初舞台。あざやかなデビューで中尾が久慈賞、
中屋が若獅子賞を受けた。



富士対浦和、10回浦和は清塚が本塁を突いたが快殺

都市対抗野球コーナー

都市対抗の第50回大会を記念して野球体育
博物館(後樂園球場わき)に「都市対抗野球
コーナー」が誕生した。

野球関係の資料収集家として知られる東京
・練馬区の会社社長、福室正之助さんから提
供された第1回大会の入場券など、約100
点の資料も展示され、初代黒獅子旗、送球を顔
に受けて死亡した函館大洋倶楽部の関将で、
久慈賞に名を残す久慈次郎捕手のユニホーム
などゆかりの品々が飾られた。

◇個人通算最多本塁打7本 室蘭市・新日鉄室蘭・高梨英夫一塁手(大昭和製紙北海道から補強)は2回戦の大阪市・日本生命戦で岡田投手から9回左翼席に決勝本塁打。自己の持つ記録を更新した。

◇1大会最多本塁打62本 金属バット採用で本塁打が量産され従来記録の第38回大会の43本を19本も上回る新記録となった。

◇チーム大会最多本塁打10本 富士市・大昭和製紙は2試合の引き分け再試合を含み準々決勝までの5試合で記録した。内訳は佐々木正行3、平井一男2、井出実、中本龍児、山本秀樹、浅黄豊次、大石友好各1。これまでの記録は、第44回大会で川崎市・日本鋼管のマークした8本。

◇1イニング3本塁打 富士市・大昭和製紙は、1回戦の浦和市・日本通運戦の2回、中本龍児、佐々木正行、山本秀樹が3本の本塁打を放って大会タイ記録。第34回大会で大阪市・全鐘紡が記録して以来2回目。

◇2打席連続本塁打 横浜市・日本石油の土屋恵三郎一塁手(三菱自動車から補強)が1回戦の大阪市・日本生命戦の4回と7回、左翼席に本塁打。東京都・熊谷組の中尾孝義捕手(プリンスホテルから補強)は決勝戦の広島市・三菱重工広島戦の4回と6回右翼席と左翼席に打ち込んだ。史上10、11人目。

◇1大会個人最多本塁打タイ4本 東京都・中尾孝義捕手(プリンスホテルから補強)は丸亀市戦、大分市戦につき決勝の広島戦で2本塁打の4ホームを記録。第20回大会の福岡市・西日本鉄道の新留国良選手以来2人目。

◇1試合5本塁打タイ 富士市・大昭和製紙対浦和市・日本通運の1回戦で富士3、浦和2の5本塁打が記録された。史上3回目。

◇6打席連続安打タイ 浜松市・日本楽器は、佐賀岡町・日本鉱業佐賀岡の4回、武居、佐藤、加藤、石井、高柳、久保が連安して達成。広島市・三菱重工広島も決勝の対東京都・熊谷組戦の9回、山根、大森、荒谷、井上敏、金光、佐々木が連安して達成。

第31回大会で八王子市・リッカーミンカが記録して以来、2、3回目。

1回戦

東芝(推薦・川崎市) 4 0 2 0 0 3 0 0 0 | 9
0 0 0 4 0 0 0 0 0 | 4

神戸市(神戸製鋼)

【東芝】 打安点
(5) 中 村 4 2 0
(9) 深 沢 4 1 1
(3) 武 智 3 1 0
(8) 菊 地 4 1 3
(7) 八 木 4 1 3
(6) 齊 藤 2 0 0
(8) 齊 藤 3 1 1
(2) 京 大 4 1 0
(1) 大 垣 3 0 0
(4) 大 宮 3 2 7 8

振球権盗失残併 6 9 1 1 1 6 2
投手 回 安責 大垣 9 10 4

▽本塁打 菊地1号③(三善)▽三塁打 浦本 祖父元 中村▽2時間30分

【神戸市】 打安点
(8) 小 林 4 2 0
(6) 三 木 4 3 0
(9) 日 高 4 1 1
(3) 大 村 4 1 0
(7) 中 浦 4 2 1
(4) 中 浦 3 1 1
(5) 竹 下 2 0 1
(2) 山 崎 1 0 0
(1) 山 崎 0 0 0
(2) 荒 川 3 0 0
(1) 江 井 1 0 0
(1) 山 本 0 0 0
(1) 山 本 3 0 0
(1) 山 本 1 0 0
(1) 山 本 3 4 1 0 4

振球権盗失残併 7 4 1 4 0 10 0
投手 回 安責 山本 3 4 6 7

▽三塁打 浦本 祖父元 中村▽2時間30分

1回戦

札幌市(北海道拓殖銀行) 2 0 1 0 0 0 1 0 0 | 4
1 0 0 0 0 2 3 0 X | 6

広島市(三菱重工広島)

【札幌市】 打安点
(4) 高 岡 4 1 1
(8) 小 島 4 2 0
(3) 梅 野 4 1 0
(5) 大 山 4 2 1
(6) 山 本 4 0 0
(9) 山 本 4 0 0
(2) 竹 内 4 0 0
(7) 小 崎 4 2 0
(1) 小 崎 1 0 0
(1) 小 崎 1 0 0
(1) 小 崎 1 1 1
(1) 小 崎 0 0 0
(1) 小 崎 0 0 0
(1) 小 崎 0 0 0
(1) 小 崎 1 0 0
(1) 小 崎 3 6 9 3

振球権盗失残併 3 0 0 2 1 5 0
投手 回 安責 藤原 2 4 5 2

▽本塁打 高岡1号(大町) 佐々木1号(千藤)▽三塁打 後藤▽二塁打 松茂 小島▽3時間15分

【広島市】 打安点
(8) 弓 場 3 2 0
(4) 金 光 3 0 0
(1) 伊 藤 1 1 2
(1) 伊 藤 1 0 0
(3) 佐 々 木 5 1 1
(7) 若 松 3 0 0
(6) 若 松 5 3 0
(5) 若 松 5 2 1
(9) 若 松 2 1 0
(1) 若 松 0 0 0
(1) 若 松 0 0 0
(6) 若 松 1 1 0
(2) 若 松 4 0 0
(1) 若 松 2 1 0
(1) 若 松 2 1 1
(1) 若 松 3 7 1 3 5

振球権盗失残併 6 5 0 1 1 1 2 0
投手 回 安責 大村 6 5 2 4 1

1回戦

東京都(電電東京) 1 0 0 0 0 0 0 2 0 | 3
2 0 0 0 0 2 0 0 X | 4

室蘭市(新日鉄室蘭)

【東京都】 打安点
(8) 矢 野 2 1 1
(9) 矢 野 0 0 0
(9) 矢 野 3 2 2
(5) 矢 野 4 0 0
(5) 矢 野 0 0 0
(7) 矢 野 2 0 0
(1) 矢 野 0 0 0
(1) 矢 野 1 0 0
(1) 矢 野 0 0 0
(1) 矢 野 0 0 0
(4) 矢 野 4 1 0
(3) 矢 野 3 0 0
(1) 矢 野 1 0 0
(6) 矢 野 4 0 0
(2) 矢 野 3 2 0
(1) 矢 野 0 0 0
(2) 矢 野 0 0 0
(1) 矢 野 1 1 0
(1) 矢 野 2 1 0
(1) 矢 野 3 1 9 3

振球権盗失残併 3 0 3 3 1 4 0
投手 回 安責 高根 4 4 2 3 2 1 1 0

▽三塁打 古川▽二塁打 日比野 荒野▽2時間56分

【室蘭市】 打安点
(7) 尻 野 2 0 0
(9) 尻 野 2 0 0
(9) 尻 野 1 0 0
(9) 尻 野 0 0 0
(1) 尻 野 1 1 0
(8) 尻 野 0 0 0
(4) 尻 野 4 1 1
(3) 尻 野 4 2 0
(8) 尻 野 4 2 1
(2) 尻 野 4 1 1
(5) 尻 野 3 0 0
(1) 尻 野 3 0 0
(1) 尻 野 1 0 0
(1) 尻 野 3 2 9 4

振球権盗失残併 3 4 0 1 0 8 1
投手 回 安責 川本 7 7 2 2 0

1回戦

大阪市(日本生命) 0 3 0 3 0 1 0 0 0 | 7
0 0 0 1 0 0 4 0 0 | 5

横浜市(日本石油)

【大阪市】 打安点
(7) 赤 井 4 0 0
(6) 赤 井 4 0 0
(3) 赤 井 4 2 2
(5) 赤 井 4 1 0
(3) 赤 井 4 2 0
(7) 赤 井 2 0 1
(8) 赤 井 0 0 0
(2) 赤 井 1 0 0
(1) 赤 井 2 0 0
(1) 赤 井 1 1 1
(1) 赤 井 2 0 0
(1) 赤 井 0 0 0
(1) 赤 井 3 9 1 4 7

振球権盗失残併 7 4 1 4 0 10 0
投手 回 安責 岡田 6 5 6 5 0 0

▽本塁打 三枝1号②(山岡) 佐竹1号(山岡) 土屋1号、2号(岡田)▽三塁打 佐竹 平沢▽二塁打 三枝 大飼▽2時間58分

【横浜市】 打安点
(7) 新 井 4 0 0
(6) 新 井 4 0 0
(3) 新 井 4 2 2
(8) 新 井 4 1 0
(2) 新 井 4 2 0
(9) 新 井 2 0 1
(1) 新 井 0 0 0
(5) 新 井 1 0 0
(4) 新 井 2 0 0
(1) 新 井 1 1 1
(1) 新 井 0 0 0
(1) 新 井 2 0 1
(1) 新 井 2 0 1
(1) 新 井 1 0 0
(1) 新 井 0 0 0
(1) 新 井 1 0 0
(1) 新 井 0 0 0
(1) 新 井 3 1 6 5

振球権盗失残併 1 0 2 0 1 1 1 0
投手 回 安責 山岡 2 2 3 3

▽本塁打 三枝1号②(山岡) 佐竹1号(山岡) 土屋1号、2号(岡田)▽三塁打 佐竹 平沢▽二塁打 三枝 大飼▽2時間58分

1回戦

浜松市(日本楽器) 1 1 2 0 0 0 0 0 1 | 5
0 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1

和光市(本田技研)

【浜松市】 打安点
(7) 伊 藤 0 0 0
(7) 伊 藤 2 0 0
(7) 伊 藤 3 1 1
(4) 伊 藤 4 1 1
(8) 伊 藤 5 0 0
(3) 伊 藤 5 2 2
(9) 伊 藤 4 1 0
(5) 伊 藤 4 1 0
(6) 伊 藤 4 3 0
(2) 伊 藤 2 2 1
(2) 伊 藤 0 0 0
(1) 伊 藤 4 1 0
(1) 伊 藤 0 0 0
(1) 伊 藤 3 7 1 2 5

振球権盗失残併 7 2 1 1 2 8 2
投手 回 安責 藤原 7 5 5 0 0 0

▽本塁打 津布久1号(中後政) 武居1号②(中後政) 岡村1号(小林)▽二塁打 高柳 石井 武居▽2時間40分

【和光市】 打安点
(6) 小 屋 4 1 0
(7) 小 屋 3 1 0
(3) 小 屋 3 0 0
(8) 小 屋 4 0 0
(5) 小 屋 3 1 0
(9) 小 屋 3 1 0
(4) 小 屋 0 0 0
(2) 小 屋 4 1 0
(1) 小 屋 4 0 0
(1) 小 屋 0 0 0
(1) 小 屋 1 0 0
(1) 小 屋 0 0 0
(1) 小 屋 3 0 5 0

振球権盗失残併 5 4 1 2 0 7 0
投手 回 安責 中後政 2 5 4 6 0 1 1 1

1回戦

長野市(電電信越) 0 0 0 0 2 1 0 0 0 | 3
1 0 3 0 2 1 0 0 X | 7

京都市(日本新薬)

【長野市】 打安点
(9) 田 中 5 2 0
(7) 田 中 4 1 0
(8) 田 中 4 2 0
(5) 田 中 2 1 0
(3) 田 中 4 0 1
(6) 田 中 4 0 0
(6) 田 中 4 0 0
(4) 田 中 4 2 0
(2) 田 中 4 1 2
(1) 田 中 1 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 1 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 0 0 0
(1) 田 中 3 4 9 3

振球権盗失残併 3 3 1 2 0 8 1
投手 回 安責 川本 2 4 2 4 2 2 2 2 3 1 0 0

▽本塁打 桃井1号②(山村)▽三塁打 藤森 岩崎▽二塁打 長沢 木 佐藤 吉川 菅野▽2時間52分

【京都市】 打安点
(4) 浅 倉 3 0 0
(5) 浅 倉 2 2 0
(1) 浅 倉 0 0 0
(3) 浅 倉 3 1 2
(8) 浅 倉 3 2 1
(9) 浅 倉 3 1 2
(6) 浅 倉 4 0 0
(7) 浅 倉 4 1 1
(1) 浅 倉 4 1 0
(1) 浅 倉 1 1 0
(1) 浅 倉 2 1 0
(1) 浅 倉 2 9 1 0 6

振球権盗失残併 4 5 3 1 0 6 1
投手 回 安責 山村 6 6 3 3 0

1 回戦

姫路市 (新日鉄広畑)

1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

郡山市 (ヨークベニマル)

【姫路市】	打安点	【郡山市】	打安点
⑥	3	⑧	4
⑦	1	⑥	1
④	0	③	0
⑦	0	⑨	0
②	0	②	0
③	0	H	0
H	0	⑤	0
R	0	H	0
3	0	R	0
⑤	0	④	0
⑨	0	⑦	0
①	0	①	0
1	0	H	0
	26	1	29

振球機盗失残併
1 4 1 3 0 1 0
投手 回 安責
藤 高 6 2/3 20
真 鍋 2 1/2 10

振球機盗失残併
7 2 1 0 1 5 0
投手 回 安責
奥 山 7 12
高 橋 1 11
速 石 1 00

▽二塁打 原田 宮内
▽2時間14分

1 回戦

府中市 (東芝府中)

3	0	4	1	0	0	0	0	0	8
0	0	0	1	0	1	0	0	1	3

名古屋市 (三菱重工名古屋)

【府中市】	打安点	【名古屋市】	打安点
②	5	⑥	4
⑧	4	④	1
③	5	⑧	1
⑨	4	H	0
⑥	3	③	0
⑦	4	⑧	0
⑤	3	②	0
④	2	⑤	0
①	2	②	0
1	0	H	0
	35	1	32

振球機盗失残併
8 6 0 3 2 6 2
投手 回 安責
野 嶋 5 1/2 51
工 藤 3 2/3 20

振球機盗失残併
6 1 2 2 1 5 1
投手 回 安責
渡 田 2 2/3 76
雄 1 2 11
1 4 20

▽本塁打 石毛1号②
(東) 渡辺茂1号②(東)
織田佳1号(野嶋) 渡辺
雄1号②(東) ▽2時間
27分

2 回戦

広島市 (三菱重工広島)

0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東芝 (推薦・川崎市)

【広島市】	打安点	【東芝】	打安点
⑨	2	⑤	3
⑨	2	H	1
④	4	⑥	0
③	4	③	0
⑧	2	⑨	0
⑥	4	⑧	0
⑥	0	⑤	0
⑦	4	⑦	0
H	2	②	0
②	4	H	0
①	3	①	0
1	0	H	0
	33	R	0

振球機盗失残併
5 2 2 0 1 7 0
投手 回 安責
大 町 6 1/2 40
村 田 2 2/3 00

振球機盗失残併
4 2 0 2 1 7 3
投手 回 安責
大 田 垣 3 2/3 83
小 嶋 1 1/2 10
黒 紙 4 20
田 々 木 20

▽本塁打 弓場1号 (大田垣) ▽二塁打 佐々木
菊地 ▽2時間45分

2 回戦

室蘭市 (新日鉄室蘭)

0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大阪市 (日本生命)

【室蘭市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑦	4	④	4
⑨	4	H	2
⑨	0	R	1
④	0	⑤	0
③	4	③	0
⑥	4	⑦	0
②	4	⑧	0
⑤	2	②	0
①	2	①	0
	31		30

振球機盗失残併
5 2 1 2 1 6 0
投手 回 安責
竹 本 9 40

振球機盗失残併
5 1 1 1 1 5 0
投手 回 安責
岡 手 9 41

▽本塁打 高梨1号(岡田) ▽2時間20分

2 回戦

浜松市 (日本楽器)

0	0	2	3	0	0	1	0	6
0	1	0	0	0	0	0	1	2

金沢市 (電電北陸)

【浜松市】	打安点	【金沢市】	打安点
⑦	3	④	3
H	2	H	1
④	5	④	4
⑧	5	⑨	4
③	5	⑦	4
⑤	5	②	2
⑥	4	③	3
②	3	⑤	2
②	0	⑥	4
①	3	①	0
H	1	H	1
	39	H	1

振球機盗失残併
3 1 2 2 0 9 1
投手 回 安責
久 保 7 51
藤 原 2 41

振球機盗失残併
5 1 1 0 3 7 0
投手 回 安責
松 田 3 52
下 村 2 43
野 村 1 10
中 道 1 21
00

▽二塁打 中島務 津布
久内山 久保 竹崎
寺本 小柳 ▽2時間50分

2 回戦

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)

3	0	0	3	0	0	0	3	9
3	1	1	0	0	0	0	0	5

門真市 (松下電器)

【佐賀関町】	打安点	【門真市】	打安点
⑥	4	⑧	5
⑤	2	H	4
⑤	0	④	1
⑧	4	⑥	4
③	5	③	5
②	4	⑨	3
⑦	2	⑦	3
H	0	R	0
⑧	1	⑤	0
⑨	2	②	0
H	2	①	0
①	0	H	0
H	1	H	0
1	2	1	0
	34		37

振球機盗失残併
8 5 3 0 1 6 0
投手 回 安責
西 谷 2 1/2 51
岡 6 30

振球機盗失残併
5 2 1 3 1 8 0
投手 回 安責
原 4 1/2 66
長 谷 3 1/2 10
北 久 1 00
久 保 1 00
田 代 1 00

▽本塁打 高丸1号③(北口) ▽二塁打
3時間7分

2 回戦

京都市 (日本新薬)

0	0	0	0	1	0	0	0	1
0	0	2	0	2	5	0	0	9

横須賀市 (日産自動車)

【京都市】	打安点	【横須賀市】	打安点
④	4	④	5
⑤	3	⑥	4
③	1	⑦	4
⑤	3	⑦	0
⑧	4	⑤	0
⑨	4	①	0
⑥	4	③	0
⑦	4	③	0
H	1	③	0
②	2	⑨	0
①	1	⑨	0
H	1	H	0
1	1	H	0
H	1	H	0
1	0	H	0
	31	H	1

振球機盗失残併
5 2 0 0 5 5 2
投手 回 安責
山 村 5 61
藤 川 5 02
熱 田 2 20
山 元 1 10
▽本塁打 村田1号②(山村) 浅倉1号(藤田)
▽2時間19分

振球機盗失残併
2 4 0 0 0 4 0
投手 回 安責
藤 名 6 21
田 取 2 20
井 井 1 00
村 田 1 00
浅 倉 1 00

▽本塁打 村田1号②(山村) 浅倉1号(藤田)
▽2時間19分

2 回戦

姫路市 (新日鉄広畑)

2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5	
0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	1	5

富士市 (大昭和製紙)

【姫路市】	打安点	【富士市】	打安点
⑥	5	④	6
⑧	6	⑥	2
④	5	H	3
⑦	5	⑤	4
②	5	⑨	4
③	5	⑧	4
⑤	3	③	2
⑨	3	H	2
①	2	⑦	2
1	0	②	0
1	0	①	0
H	1	H	0
9	0	H	0
H	0	H	0
9	0	H	0
	45	H	4

振球機盗失残併
6 5 0 1 1 9 0
投手 回 安責
藤 高 6 1/2 63
真 鍋 1 10
長 田 4 1/2 11

振球機盗失残併
7 4 4 3 0 8 4
投手 回 安責
杉 本 3 53
根 本 2 41
木 7 71
根 路 1 00

▽本塁打 川辺1号②(杉本) 浅黄1号(藤高)
佐々木3号②(藤高) ▽三塁打 平川 ▽二塁打
山本秀 ▽3時間32分

2 回戦

府中市 (東芝府中)

0	1	0	0	0	1	1	0	3
0	1	0	0	0	0	0	0	1

川崎市 (日本鋼管)

【府中市】	打安点	【川崎市】	打安点
②	5	⑧	4
⑧	2	⑥	3
③	3	H	1
⑨	4	⑥	0
⑥	4	③	0
⑦	4	R	0
H	0	③	0
②	4	⑦	0
①	4	⑤	0
H	0	④	0
1	0	②	0
H	1	⑨	0
H	1	H	0
1	0	H	0
H	1	H	0
1	0	H	0
	33	H	1

振球機盗失残併
11 3 1 4 0 7 0
投手 回 安責
野 嶋 2 21
黒 田 4 30
工 藤 3 20

振球機盗失残併
6 2 0 0 0 8 0
投手 回 安責
木 田 7 1/2 93
井 出 1 00
石 毛 1 00

▽二塁打 平手 植野 樋口 石毛 ▽2時間45分

2回戦

大分市 (新日鉄大分)

Score table for Oita City (Shin-Nitto Oita) showing runs, hits, errors, and extra innings.

東京都 (熊谷組)

Score table for Tokyo (Kumagumi) with player names and statistics.

振球機盗失残併

Summary statistics for Tokyo (Kumagumi) including runs, hits, errors, and extra innings.

▽本塁打 中尾2号③(足立義) 沢熊1号(矢野隆)▽二塁打 前畑 外園▽2時間36分

2回戦 (再試合)

姫路市 (新日鉄広畑)

Score table for Himeji City (Shin-Nitto Hirohata).

富士市 (大昭和製紙)

Score table for Fuji City (Daishowa Paper).

振球機盗失残併

Summary statistics for Fuji City.

▽三塁打 山本宗▽二塁打 佐々木 尾形 井出▽2時間34分

準々決勝

室蘭市 (新日鉄室蘭)

Score table for Muroran City (Shin-Nitto Muroran).

広島市 (三菱重工広島)

Score table for Hiroshima City (Mitsubishi Heavy Industries Hiroshima).

振球機盗失残併

Summary statistics for Hiroshima City.

▽本塁打 古川1号(大町)▽二塁打 古川1号(大町) 安西 荒谷▽2時間35分

準々決勝

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)

Score table for Sagami Town (Nippon Mining Sagami).

浜松市 (日本楽器)

Score table for Hamamatsu City (Nippon Gakki).

振球機盗失残併

Summary statistics for Hamamatsu City.

▽本塁打 武居2号(西谷)内山1号③(岡)▽二塁打 加藤 佐藤 田代 畑 武居▽2時間15分

準々決勝

横須賀市 (日産自動車)

Score table for Yokohama City (Nissan).

富士市 (大昭和製紙)

Score table for Fuji City (Daishowa Paper).

振球機盗失残併

Summary statistics for Fuji City.

▽本塁打 大石1号(名取)平井2(名取)▽二塁打 福岡 東▽3時間

準々決勝

府中市 (東芝府中)

Score table for Fuchu City (Toshiba Fuchu).

東京都 (熊谷組)

Score table for Tokyo (Kumagumi).

振球機盗失残併

Summary statistics for Tokyo (Kumagumi).

▽本塁打 中尾2号③(黒田)▽三塁打 中尾▽2時間8分

準決勝

浜松市 (日本楽器)

Score table for Hamamatsu City (Nippon Gakki).

広島市 (三菱重工広島)

Score table for Hiroshima City (Mitsubishi Heavy Industries Hiroshima).

振球機盗失残併

Summary statistics for Hiroshima City.

▽本塁打 金光1号(藤原)津布久 若松 佐藤 弓場▽3時間5分

準決勝

横須賀市 (日産自動車)

Score table for Yokohama City (Nissan).

東京都 (熊谷組)

Score table for Tokyo (Kumagumi).

振球機盗失残併

Summary statistics for Tokyo (Kumagumi).

▽本塁打 伊藤1号(藤田)松本1号(藤田)▽三塁打 岩根▽二塁打 中尾 岩根▽3時間



広島対浜松。3回浜松は津布久の二塁打で逆転したが

廣島市

(三菱重工広島)

Table listing names and positions for Hiroshima City, including 監督, 投手, and 捕手.

仙台市

(電電東北)

Table listing names and positions for Sendai City, including 監督, 投手, and 捕手.

浦和市

(日本通運)

Table listing names and positions for Utsunomiya City, including 監督, 投手, and 捕手.

川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and positions for Kawasaki City, including 監督, 投手, and 捕手.

推薦・川崎市

(東芝)

Table listing names and positions for recommended Kawasaki City players, including 監督, 投手, and 捕手.

郡山市

(ヨークベニマル)

Table listing names and positions for Gouno City, including 監督, 投手, and 捕手.

府中市

(東芝府中)

Table listing names and positions for Fuchu City, including 監督, 投手, and 捕手.

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and positions for Yokosuka City, including 監督, 投手, and 捕手.

室蘭市

(新日鉄室蘭)

Table listing names and positions for Muroran City, including 監督, 投手, and 捕手.

日立市

(日立製作所)

Table listing names and positions for Hitachi City, including 監督, 投手, and 捕手.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and positions for Tokyo City, including 監督, 投手, and 捕手.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and positions for Yokohama City, including 監督, 投手, and 捕手.

札幌市

(北海道拓殖銀行)

Table listing names and positions for Sapporo City, including 監督, 投手, and 捕手.

和光市

(本田技研)

Table listing names and positions for Wakko City, including 監督, 投手, and 捕手.

東京都

(電電東京)

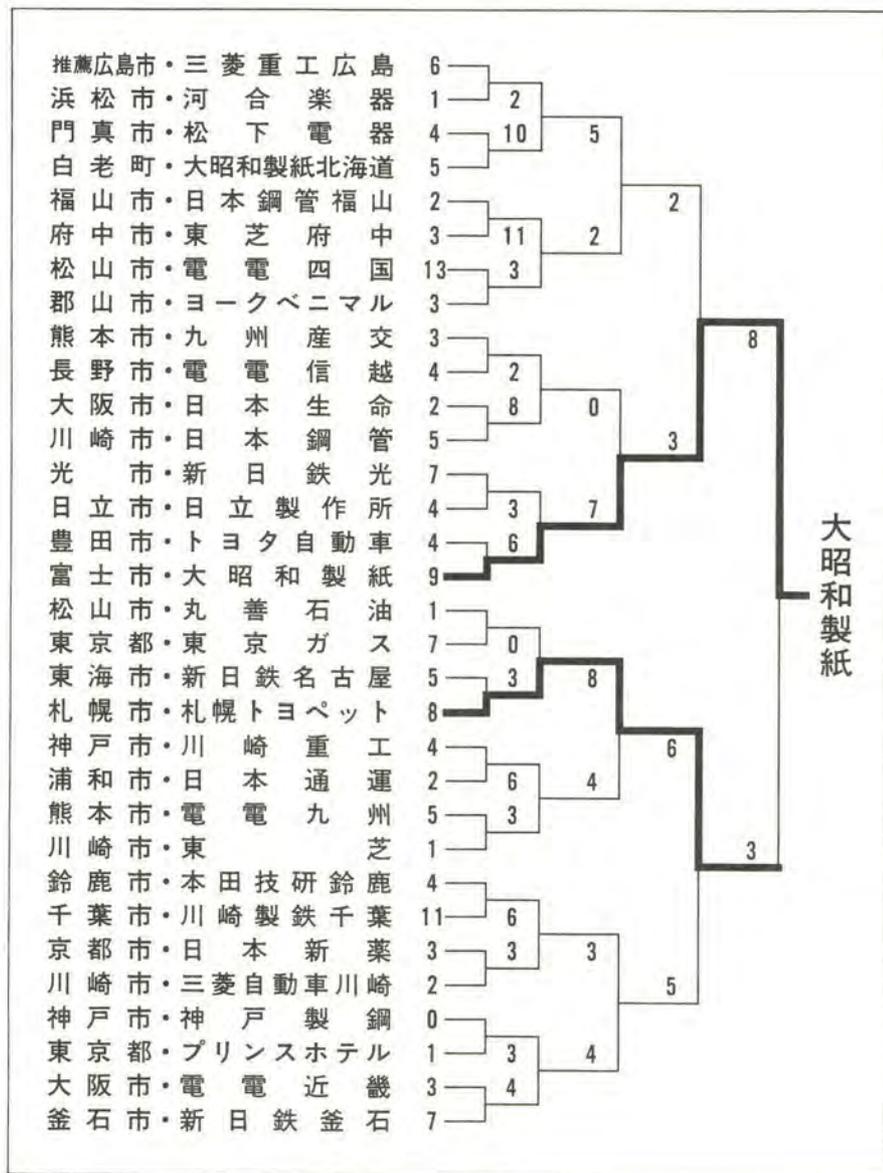
Table listing names and positions for Tokyo City, including 監督, 投手, and 捕手.

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and positions for Fuji City, including 監督, 投手, and 捕手.

第51回大会 1980年(昭和55年)11月1日-11月12日・後樂園球場 優勝=富士市・大昭和製紙(10年ぶり3回目)



勝をとげた。富士は2回、打者一巡の猛攻で6点を奪ったあと、5、7回には佐々木正行と高林勝の本塁打で加点。5試合に先発した左腕・杉本正は8回、3失点でベテラン鈴木政明の救援を受け、札幌市の反撃を断った。

この大会、初出場は3チームだったが、決勝まで進出した札幌市のほか、千葉市・川崎製鉄千葉は13安打を鈴鹿市・本田技研鈴鹿に浴びせ、東京都・プリンスホテルは住友一哉投手が神戸市・神戸製鋼を完封、そろって1回戦を突破した。

1回戦で白老町・大昭和製紙北海道が、9回の二死二・三塁に大野敏彦主将の本盗で決勝点をあげて門真市・松下電器を破り、府中市・東芝府中は延長10回、二死二塁に後藤寿喜内野手が決勝打を放って福山市・日本鋼管福山を退けるなど、接戦の中に東日本勢の活躍が目立ち、8強に東日本チームが7チーム顔をそろえた。

その中で話題の試合は、大会2日目の1回戦、松山市・電電四国対郡山市・ヨークベニマルだった。松山が13-3のコールドゲームで大勝したが、3回に金森稔内野手が満塁本塁打し、6回には二死から松岡清英内野手、藤本英夫捕手が左翼へ、連続本塁打したあと、代打の楠瀬隆章(四国銀行から補強)は右中間へランニング本塁打して「3連続本塁打」の快記録を達成した。この試合で「チーム5本」、両チーム合わせて「1試合6本」の本塁打記録が一挙に生まれた。

白老の高梨英夫監督兼一塁手は、準々決勝の対府中戦で大会通算8号本塁打を放ち、同選手の持つ個人通算本塁打記録を更新した。この試合に快勝した白老は、準決勝で富士と兄弟対決となり、富士は杉本一鈴木、白老は川瀬隆俊-竹本由起夫(新日鉄室蘭から補強)の継投で接戦を演じたが、富士が7回、武居邦生(日本楽器から補強)の決勝打で白老を降し、兄貴分の面目を保った。白老と札幌の北海道勢がそろって準決勝へ進出したのは、初めてのことだった。

橋戸賞は富士市・杉本投手、久慈賞は札幌市・樋口博美投手(王子製紙苫小牧から補強)、小野賞は躍進の札幌市・札幌トヨペットが受賞。若獅子賞は札幌市・辻野聖一一塁手。大会通算最多本塁打記録を更新した白老町・高梨英夫監督兼一塁手に特別賞が贈られた。

8強に東日本勢7チーム

“真夏の球宴”は、第26回世界アマチュア野球選手権(8月22日から14日間、後樂園など4球場)が開かれたため、史上初の“晩秋の球宴”となり、本大会は11月1日から12日間、後樂園で開かれた。

さわやかな天候のもとで始まった熱戦は、今大会最多出場(29回)の富士市・大昭和製紙が好調に勝ち進み、決勝で初出場の札幌市・札幌トヨペットを降し、10年ぶり3度目の優

決勝

札幌市 (札幌トヨペット)	0	0	0	0	0	0	3	0	3
富士市 (大昭和製紙)	0	6	0	0	1	0	1	0	8

【札幌市】	打安点振球	【富士市】	打安点振球
⑦ 小宮野	2 0 0 0 0	④ 山本	4 1 1 1 0
⑧ 片瀬	2 0 0 1 0	⑥ 高木	3 2 2 1 1
⑨ 山本	4 0 0 0 0	⑨ 佐々木	4 2 3 1 0
④ 山根	3 0 0 0 0	③ 武内	3 0 0 0 0
⑤ 北山	0 0 0 0 0	⑦ 内嶋	1 0 0 0 0
④ 山本	1 0 0 1 0	⑦ 長平	0 0 0 0 0
⑤ 兼井	4 1 0 0 0	⑧ 中本	4 1 0 0 0
⑧ 沢田	3 0 0 0 0	⑤ 上川	3 2 1 0 1
③ 辻野	3 1 2 1 0	② 秋山	3 0 0 0 0
③ 岡田	0 0 0 0 0	① 杉本	3 1 0 1 0
② 竹内	3 1 0 0 0	① 杉本	1 0 0 1 0
① 佐藤	0 0 0 0 0		339 7 4 2
① 山根勝	0 0 0 0 0	備併残盗失	1 0 4 1 0
① 鈴木	1 0 0 0 0	投手回	打安振球責
① H 増田	1 0 0 0 0	杉本	7 2/3 28 5 2 0 3
① H 浅川	0 0 0 0 0	鈴木	1 1/3 4 0 2 0 0
① H 三上	1 0 0 0 0		
① 樋口	0 0 0 0 0		
	325 3 4 0		

備併残盗失	0 0 2 1 2	投手回	打安振球責	▽本塁打	佐々木1号②
山根勝	1 3/5 7 5 2 1 0	山根勝	2号(鈴木)	高林3号(浅川)	辻野1号②(杉本)
鈴木	3 1/6 1 1 0 1	高林	3号(浅川)	▽二塁打	山本
浅川	2 9 2 0 1 1	山本	小林	▽2時間	
樋口	1 4 1 1 0 0				

札幌、序盤の拙守が響く

富士市・大昭和製紙の完勝だった。2回にみせた佐々木の2点本塁打で締めくくる5長短打の集中攻撃が栄冠の決め手となったが、そのきっかけは札幌市・札幌トヨペットの投手、山根勝の守りの乱れだった。

富士の先頭打者、内山の一塁左へのつまった打球に山根勝の一塁ベースカバーが遅れた。中本の一塁線へのバントは、山根勝が足をすべらせ倒れたままの体勢から一塁へ悪送球。内山が一挙に還った。上川は、動揺を隠

せない山根勝から中前適時打。その上川もバントで二塁へ進んだ二死後、今大会わずか2安打と不振の一番打者、山本が左塁線二塁打、さらに高林も左前適時打。

札幌・宮崎監督は、たまりかねてマウンドに歩いたが、救援投手が仕上がっておらず続投。佐々木は右翼席へ大きな2点本塁打を打ち込み一挙に6点。富士市は、このあとも佐々木が5回に2打席連続本塁打、7回には高林が3号本塁打した。

札幌市は左腕・杉本の投球に7回までわづか1安打。ようやく8回、兼佐が遊撃の右を破ったあと辻野が右翼へ2点本塁打。なお竹内と小林が短長打した。しかし時すでに遅く、満を持していた救援投手、鈴木に後続をピタリと断たれた。



富士・大昭和製紙の瞬間、5色の紙テープのなかマウンドに駆け寄り喜ぶサイン。手前は札幌の三上山コーチ

MEMO

◇2打席連続本塁打 千葉市・川崎製鉄千葉の青木道久一塁手は2回戦の京都市・日本新薬の矢野投手から。

富士市・大昭和製紙の武居邦生一塁手(日本楽器から補強)は川崎市・日本鋼管の佐藤守、藤田両投手から。

富士市・大昭和製紙の佐々木正行右翼手が決勝の札幌市・札幌トヨペットの山根勝、鈴木両投手から。史上12、13、14人目。

◇3連続本塁打 1回戦の松山市・電電四国対郡山市・ヨークベニマル戦の6回、松山の松岡清英、藤本英夫、楠瀬隆幸(四国銀行から補強)が鈴木投手から連続本塁打して新記録を樹立。1イニング3本塁打はこれまで3回あるが連続は初。

この試合、松山市は松岡2、藤本、楠瀬、金森稔と1試合5本塁打の新記録。これまでは4本で過去3回。

また松山市5本、郡山市1本と6本塁打も新記録。これまでは5本で過去3回。

◇チーム大会最多本塁打12本 富士市・大昭和製紙は、札幌市・札幌トヨペットとの決勝戦で3本塁打し、大会12本の新記録をマーク。内訳は武居邦生(日本楽器から補強)、高林勝各3、佐々木正行2、内山仁志(日本楽器から補強)、中本竜児、井出実、杉本正各1。これまでの記録は、同チームが50回大会に記録した10本。

◇個人大会通産最多本塁打8 白老町・大昭和製紙北海道の高梨英夫一塁手兼監督は、準々決勝府中市・東芝府中戦の4回、野嶋投手から本塁打して自己のもつ個人通算記録を更新。同選手に次ぐ記録は、福岡克彦(いすゞ自動車)の6本。

◇大会通算 800号本塁打 2回戦の長野市・電電信越対川崎市・日本鋼管戦の2回、川崎・高尾康平右翼手が長野市・北川投手から。

5連投で4勝に久慈賞

久慈賞を受けたのは、初出場の札幌市・札幌トヨペットに王子製紙苫小牧から補強された28歳の樋口博美投手。

帯広三条高出身の右の本格派で速球とシュートが武器。

受け継いだ伝統の継投策

富士市・大昭和製紙
杉本 正投手



御殿場西高から昭和52年大昭和製紙入社。速球と鋭いシュート、カーブで活躍、決勝までの5試合全てに先発、橋戸賞を受賞した。優勝直後に西武入り。現在は中日に在籍。

東京でアマ野球の世界選手権があり、11月からの大会だった。春先に肩を痛めて、全日本のメンバーからはずれ、ひどく口惜しい思いをしたが、秋に都市対抗があつたおかげで投げられた。ラッキーでした。

一番印象に残っているのは、準々決勝で日本鋼管を完封した試合。高林勝さんや武居邦生さんが早々と本塁打して大量リード、序盤は速球主体のピッチングを途中からカーブで、焦ってきた鋼管打線を気持ちよく抑えられた。野球を始めて初めて母親が見に来た試

合でホームランを打ったり、打撃でも活躍できうれしかった。

大昭和北海道も強くて、準決勝での対戦が事実上の決勝だった。2-2の同点にされたあとの6回に先頭打者の高梨英夫さんを四球で歩かせ鈴木政明さんのリリーフを受けた。ボクより10歳も年上の鈴木さんがそれから走者を1人も出さずに封じたのはすごかった。

決勝も7回までトヨペットを1安打で抑え、しかも味方が8点も取ってくれたのに、8回に勝ち急ぎ、本塁打や短長打を打たれて3点を返され鈴木さんに代った。この試合は完投したかった。

10年前の優勝が鈴木さんと安田猛さんのリレー。今回は鋼管との試合以外、全部鈴木さんが締めくくってくれて、大昭和の継投策が受け継がれたと、みんなからいわれた。

それにしても鈴木さんがいてくれたからスタートから思い切っていたわけで、ボクが橋戸賞を受けられたのは、まさにしく鈴木さんのおかげでした。

都市対抗の独特の緊張した雰囲気、スタンドに花が咲く感じの応援。ボクは妙にリズムが合っていてまでも忘れられない。

1 回戦

日立市 (日立製作所)

1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4
3	0	4	0	0	0	0	0	0	X	7

光市 (新日鉄光)

【日立市】	打安点	【光市】	打安点
⑥	4 0 0	⑧	4 0 0
⑧	4 1 0	⑤	3 2 0
③	5 0 0	④	4 2 0
⑤	4 1 0	④	0 0 0
⑦	5 2 1	③	4 1 1
②	4 1 1	⑦	0 0 0
②	3 2 1	⑦	2 1 2
④	3 2 0	7 9	2 0 0
①	0 0 0	⑨	0 0 0
H	1 0 0	⑨	3 2 1
H	1 0 0	②	0 0 0
H	1 0 0	⑥	4 1 3
H	1 0 0	①	4 0 0
H	0 0 0	①	2 0 0
H	0 0 0	①	1 0 0

振球機盗失残併 7 5 0 1 2 1 0 0

投手 回 安責

細 1 3 3

三 3 5 4

向 3 1 0

仁 1 0 0

▽本塁打 川中子1号(山本和) 江藤1号③ (三浦) ▽二塁打 小嶋▽2時間40分

1 回戦

松山市 (丸善石油)

0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	7
1	1	0	0	1	2	2	0	X		

東京都 (東京ガス)

【松山市】	打安点	【東京都】	打安点
④	4 2 0	⑧	3 0 0
⑥	3 0 0	⑥	3 0 0
⑨	4 1 1	④	4 0 0
③	3 0 0	⑨	2 1 1
③	0 0 0	H 9	1 1 0
H	1 0 0	⑦	0 0 0
②	3 1 0	⑦	3 2 2
⑦	3 0 0	⑤	2 1 1
⑤	2 0 0	③	2 0 0
5	1 0 0	H 3	2 1 2
①	2 0 0	②	3 1 0
H	1 0 0	①	3 1 0
H	0 0 0	H	1 0 0
⑧	3 1 0	①	0 0 0

振球機盗失残併 5 0 1 0 2 3 1

投手 回 安責

新 5 4 2

成 2 4 2

藤 1 0 0

▽本塁打 寺岡1号(工藤) ▽三塁打 向山▽二塁打 福永 渡辺 金田▽2時間19分

1 回戦

東海市 (新日鉄名古屋)

2	2	0	0	0	0	1	0	0	5
0	0	7	0	0	1	0	0	X	8

札幌市 (札幌トヨペット)

【東海市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑤	4 3 1	⑦	5 2 1
⑥	5 3 3	⑤	3 1 0
⑧	4 2 0	⑥	4 2 2
③	3 1 0	⑨	4 1 1
⑦	5 1 1	⑧	4 1 0
④	2 1 0	②	3 0 0
H	1 0 0	③	4 2 3
④	0 0 0	④	3 2 1
⑨	3 1 0	④	1 0 0
H 9	1 0 0	①	0 0 0
②	0 0 0	①	3 1 0
H 2	2 0 0	1	3 4 1 2
H 2	1 0 0		
①	1 0 0		
H	1 0 0		
H	0 0 0		
H	1 0 0		

振球機盗失残併 2 5 1 1 0 9 0

投手 回 安責

渡 2 6 7

鈴 3 3 1

高 2 3 0

▽本塁打 島田1号(鈴木) ▽二塁打 杉本 山根辰 辻野 手嶋▽2時間49分

1 回戦

神戸市 (川崎重工)

2	0	1	0	0	0	0	1	0	4
0	1	0	0	0	0	0	1	0	2

浦和市 (日本通運)

【神戸市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑥	4 2 0	⑨	4 1 0
⑦	2 0 0	④	2 0 0
H 7	0 0 0	⑦	0 0 0
H 7	1 0 0	7 3	4 1 0
⑤	0 0 0	③	3 0 0
③	4 2 1	⑥	0 0 0
③	5 2 2	⑧	4 0 0
④	3 0 0	H 8	3 0 0
④	4 1 0	⑤	3 2 1
⑥	0 0 0	②	3 1 0
⑧	3 1 1	H ①	1 0 0
②	4 0 0	H ①	1 1 0
①	4 1 0	H ①	1 0 0
①	0 0 0	H ①	1 0 0

振球機盗失残併 5 4 2 4 3 9 1

投手 回 安責

長 7 6 1

真 2 0 0

▽本塁打 辻1号(長田) ▽三塁打 富嶋▽二塁打 岡本 木村 水江▽2時間31分

1 回戦

熊本市 (電電九州)

1	0	4	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

川崎市 (東芝)

【熊本市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥	3 0 0	⑤	4 0 0
④	0 0 0	⑥	3 0 0
H 4	4 1 0	H	1 0 0
⑨	2 0 0	③	4 1 0
⑤	2 1 0	⑦	3 0 0
⑧	0 0 0	⑧	1 0 0
H 8	2 2 2	⑧	4 1 0
8	1 0 0	⑨	2 0 0
③	2 1 2	1	0 0 0
3	2 1 0	H 1	1 0 0
⑦	4 2 1	H ①	2 2 0
②	3 0 0	②	0 0 0
①	4 0 0	H ①	1 0 0

振球機盗失残併 5 6 3 1 1 6 1

投手 回 安責

山 9 5 1

▽三塁打 木村▽二塁打 平山 武智▽2時間39分

1 回戦

大阪市 (電電近畿)

1	0	2	0	0	0	0	0	3
1	0	0	0	4	0	2	0	7

釜石市 (新日鉄釜石)

【大阪市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑤	3 0 0	⑧	4 3 2
H	1 0 0	④	3 1 0
⑥	4 2 0	⑦	0 0 0
⑨	4 1 0	9	1 0 0
⑧	3 2 1	H 9	2 1 0
⑦	3 1 1	③	3 2 4
②	3 0 1	⑨	4 1 1
③	2 1 0	⑥	4 1 0
④	4 1 0	⑤	4 0 0
4	0 0 0	②	4 1 0
①	2 0 0	①	0 0 0
1	1 0 0	①	3 0 0
H	1 0 0		

振球機盗失残併 2 6 2 2 0 9 0

投手 回 安責

高 4 6 4

中 2 4 3

福 1 0 0

▽本塁打 早瀬1号(高橋) ▽三塁打 若槻▽二塁打 伊藤▽2時間21分

1 回戦

千葉市 (川崎製鉄千葉)

0	2	0	2	0	0	2	3	3	11
0	0	0	3	0	1	0	0	0	4

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

【千葉市】	打安点	【鈴鹿市】	打安点
⑦	4 1 1	⑧	5 1 0
⑥	0 0 0	④	2 0 0
H	1 0 0	H	1 1 0
⑥	3 1 2	⑦	5 0 0
H 8	2 0 0	⑨	4 0 0
③	2 1 0	③	4 1 1
③	3 0 0	3	0 0 0
⑨	5 3 1	H ⑥	1 0 0
④	1 0 0	⑥	2 2 0
H 4	1 0 0	⑤	0 0 0
⑤	5 3 3	②	4 1 1
②	4 2 2	①	1 0 0
①	2 0 0	1	0 0 0
1	0 0 0	H R	1 1 1
1	3 2 1	H	0 0 0

振球機盗失残併 6 5 5 1 1 9 0

投手 回 安責

青 3 3 4

木 2 3 3

小 1 1 0

中 4 5 0

▽本塁打 中島1号② (前村) 松田達1号(青木彰) ▽二塁打 内川 藤田 全並▽3時間39分

1 回戦

京都市 (日本新薬)

0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
0	1	0	0	0	1	0	0	0	2

川崎市 (三菱自動車川崎)

【京都市】	打安点	【川崎市】	打安点
④	3 0 0	⑤	3 0 0
⑤	4 1 0	⑥	4 1 0
⑦	4 0 0	④	4 2 1
⑦	3 1 0	⑨	2 1 0
⑧	4 2 0	③	3 1 1
③	0 0 0	②	4 0 0
3	2 1 1	⑦	3 1 0
H	1 0 0	⑧	2 0 0
7	1 0 0	①	0 0 0
②	4 1 1	1	0 0 0
⑥	3 1 0	H	1 0 0
①	2 1 1	1	0 0 0
1	0 0 0		

振球機盗失残併 4 3 1 0 5 4

投手 回 安責

前 5 5 2

野 3 1 0

矢 1 0 0

▽本塁打 垣野1号(前田) 杉山1号(前田) ▽三塁打 潮田▽二塁打 長沢和 山田▽2時間30分

1 回戦

東京都 (プリンスホテル)

0	0	0	1	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0

神戸市 (神戸製鋼)

【東京都】	打安点	【神戸市】	打安点
⑧	2 0 0	⑧	4 2 0
8	1 1 0	⑥	3 0 0
③	3 1 0	⑦	4 2 0
⑥	4 0 0	③	3 1 0
②	4 0 0	⑨	0 0 0
④	4 0 0	9	4 1 0
⑦	4 1 0	②	4 1 0
⑤	3 2 1	⑤	2 0 0
①	2 0 0	H 5	1 0 0
⑨	3 0 0	①	3 0 0

振球機盗失残併 5 2 1 1 2 5 0

投手 回 安責

住 9 8 0

▽三塁打 小林▽二塁打 金森▽2時間40分

2 回戦

千葉市 (川崎製鉄千葉)

2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3

京都市 (日本新薬)

【千葉市】	打安点	【京都市】	打安点
⑦青野 5 1 1		④倉川 4 2 1	
⑥宮原 0 0 0		⑤朝吉 2 0 0	
⑥内野 0 0 0		⑤吉野 2 0 0	
⑥沼田 3 1 0		⑤久木 1 0 0	
⑥大久 1 0 0		⑤渡辺 1 0 0	
⑥谷川 3 0 0		⑤長谷 4 2 2	
⑥長谷 4 2 4		⑤青木 4 0 0	
⑥秋鬼 4 0 0		⑤中本 4 1 1	
⑥中本 4 0 0		⑤木村 2 1 0	
⑥木村 2 1 0		⑤木城 0 0 0	
⑥木城 0 0 0		⑤渡辺 0 0 0	
⑥青木 2 1 0		⑤青木 2 1 0	
⑥青木 1 0 0		⑤中野 0 0 0	
⑥中野 0 0 0		⑤中野 0 0 0	
⑥中野 3 4 8		⑤中野 3 1 0	

振球権盗失残併 7 3 1 0 1 5 1
投手 回 安責
青木 4 3
林 2 2
中野 2 2

▽本塁打 青木道1号②、2号② (矢野) 鬼島1号 (浜田政) 岩崎1号② (青木彰) ▽二塁打 小竹朝倉 沼田 岩崎 ▽2時間35分

2 回戦

東京都 (プリンスホテル)

0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4

釜石市 (新日鉄釜石)

【東京都】	打安点	【釜石市】	打安点
⑧大野 1 0 0		⑧早伊 4 1 1	
⑧根口 0 0 0		⑧瀬藤 6 1 0	
⑧岩部 2 0 0		⑧伊黒 0 0 0	
⑧阿石 5 1 0		⑧黒松 3 0 0	
⑧中毛 6 2 0		⑧松田 1 0 0	
⑧中屋 4 1 1		⑧松田 1 1 0	
⑧中屋 6 1 0		⑧松田 1 1 1	
⑧中屋 5 2 2		⑧松田 4 0 0	
⑧中屋 3 0 0		⑧松田 5 2 1	
⑧中屋 3 0 0		⑧松田 1 0 0	
⑧中屋 1 1 0		⑧松田 3 0 0	
⑧中屋 1 1 0		⑧松田 4 0 0	
⑧中屋 1 1 0		⑧松田 6 3 1	
⑧中屋 1 1 0		⑧松田 1 0 0	
⑧中屋 4 5 1 0 3		⑧松田 2 0 0	

振球権盗失残併 12 4 2 6 0 9 0
投手 回 安責
林 5 3 1
小林秀 1 1

▽本塁打 若根1号 (住友) 居郷1号 (石崎)
▽二塁打 居郷 若根 金森 長田 中屋 堀場
▽4時間2分



東京対神戸。東京5回、居郷の中前打で金森生還

準々決勝

川崎市 (日本鋼管)

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
0	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0	7

富士市 (大昭和製紙)

【川崎市】	打安点	【富士市】	打安点
⑧島野 2 1 0		④山本 3 0 0	
⑧秋元 2 0 0		④高木 3 1 2	
⑧羽田 1 0 0		④佐々木 4 0 0	
⑧村土 1 0 0		④佐武 4 3 2	
⑧土村 1 0 0		④武内 3 0 0	
⑧前橋 3 0 0		④中井 4 1 1	
⑧磯高 4 1 0		④中井 0 0 0	
⑧尾浦 2 0 0		④中井 4 2 0	
⑧山口 1 0 0		④中井 2 0 0	
⑧田口 2 1 0		④中井 3 2 2	
⑧藤沢 1 1 0		④中井 3 0 9 7	
⑧守塚 0 0 0		振球権盗失残併 1 3 1 0 0 3 3	
⑧塚本 0 0 0		投手 回 安責	
⑧塚本 1 1 0		杉本 9 6 0	
⑧塚本 0 0 0			
⑧塚本 1 1 0			
⑧塚本 0 0 0			
⑧塚本 1 1 0			
⑧塚本 1 1 0			
⑧塚本 2 9 6 0			

振球権盗失残併 6 1 1 1 0 4 1
投手 回 安責
藤守 2 1/2 5 4
塚本 1 3 1
大藤 1 3 1
堀江 1 0 0

▽本塁打 高林2号② (佐藤守) 武居2号 (佐藤守) 3号 (藤田) 杉本1号 (大塚) ▽三塁打 杉本金久保 ▽二塁打 杉本 ▽2時間2分

準々決勝

神戸市 (川崎重工)

0	0	0	0	0	3	0	1	4
0	2	0	3	3	0	0	0	8

札幌市 (札幌トヨペット)

【神戸市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑥川野 4 1 0		⑦林野 5 1 1	
④中野 2 0 0		⑦小宮 2 0 0	
④中野 1 0 1		④片瀬 1 0 0	
④中野 4 1 2		④北山 2 0 0	
④中野 5 1 1		④岡田 1 0 0	
④中野 2 1 0		④岡田 3 1 0	
④中野 1 0 0		④岡田 1 0 0	
④中野 4 1 0		④岡田 3 2 0	
④中野 2 1 0		④岡田 3 2 3	
④中野 2 0 0		④岡田 3 1 0	
④中野 0 0 0		④岡田 1 0 0	
④中野 0 0 0		④岡田 3 1 0	
④中野 1 0 0		④岡田 2 0 0	
④中野 1 1 0		④岡田 3 2 3	
④中野 0 0 0		④岡田 2 0 0	
④中野 1 1 0		④岡田 0 0 0	
④中野 1 1 0		④岡田 3 2 3	
④中野 1 1 0		④岡田 2 0 0	
④中野 1 1 0		④岡田 0 0 0	
④中野 3 3 8 4		④岡田 3 2 9 7	

振球権盗失残併 4 7 1 4 1 1 0 1
投手 回 安責
長田 3 4 4
前田 1 1 1
真鍋 2 4 3
山田 2 0 0

▽本塁打 沢田1号② (長田) ▽二塁打 沢田 ▽2時間48分

準決勝

富士市 (大昭和製紙)

1	1	0	0	0	1	0	0	3
1	0	0	1	0	0	0	0	2

白老町 (大昭和北海道)

【富士市】	打安点	【白老町】	打安点
④山本 5 1 1		⑥新我 4 1 0	
④高木 5 2 0		④喜屋 4 1 0	
④佐々木 5 1 0		④高岡 3 1 0	
④佐武 3 2 1		④高岡 3 0 0	
④中内 3 1 1		④高岡 4 1 1	
④中内 4 0 0		④高岡 3 1 0	
④中内 3 1 0		④高岡 1 0 0	
④中内 2 1 0		④高岡 3 0 0	
④中内 1 0 0		④高岡 0 0 0	
④中内 1 0 0		④高岡 3 1 0	
④中内 3 4 9 3		④高岡 3 2 7 1	

振球権盗失残併 4 6 2 0 1 1 2 0
投手 回 安責
杉本 5 7 1
鈴木 4 0 0

▽三塁打 梅田 ▽二塁打 高岡 杉本 ▽2時間21分

準々決勝

千葉市 (川崎製鉄千葉)

0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	4

釜石市 (新日鉄釜石)

【千葉市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑦青野 5 0 0		⑧早伊 3 0 0	
⑥宮原 0 0 0		⑧瀬藤 4 0 0	
⑥内野 1 0 0		⑧伊黒 4 2 0	
⑥沼田 3 1 0		⑧高槻 2 1 0	
⑥大久 1 0 0		⑧高槻 2 0 0	
⑥谷川 4 0 0		⑧高槻 2 0 1	
⑥長谷 1 1 1		⑧高槻 3 0 1	
⑥秋鬼 2 1 0		⑧高槻 3 1 0	
⑥中本 4 0 0		⑧高槻 1 0 1	
⑥木村 4 2 1		⑧高槻 1 0 0	
⑥木村 2 1 0		⑧高槻 2 5 4 3	
⑥木村 1 0 0		振球権盗失残併 4 3 2 1 1 2 1	
⑥木村 0 0 0		投手 回 安責	
⑥木村 1 0 0		佐藤 5 3 1/2	
⑥木村 1 0 0			
⑥木村 1 1 0			
⑥木村 0 0 0			
⑥木村 1 1 0			
⑥木村 1 1 0			
⑥木村 3 1 7 3			

振球権盗失残併 3 5 2 1 3 8 0
投手 回 安責
青木 3 3 2
林 3 1/2 0 0
中野 4 1 0

▽三塁打 長田 ▽二塁打 青木道 市川 ▽2時間49分

準々決勝

府中市 (東芝府中)

0	0	0	0	1	0	1	0	2
0	0	0	1	1	0	0	3	5

白老町 (大昭和北海道)

【府中市】	打安点	【白老町】	打安点
⑧門間 4 2 0		⑥新坂 3 0 1	
⑧森手 3 0 0		⑧木田 4 3 0	
⑧森手 2 0 0		⑧我妻 0 0 0	
⑧森手 2 1 0		⑧我妻 3 0 0	
⑧森手 2 2 1		⑧我妻 4 2 2	
⑧森手 4 1 0		⑧我妻 4 3 2	
⑧森手 0 0 0		⑧我妻 3 1 0	
⑧森手 4 2 1		⑧我妻 3 1 0	
⑧森手 4 0 0		⑧我妻 2 1 0	
⑧森手 4 0 0		⑧我妻 0 0 0	
⑧森手 1 0 0		⑧我妻 2 0 0	
⑧森手 1 0 0		⑧我妻 1 0 0	
⑧森手 1 0 0		⑧我妻 1 0 0	
⑧森手 1 0 0		⑧我妻 1 0 0	
⑧森手 3 3 8 2		⑧我妻 2 9 1 0 5	

振球権盗失残併 4 1 4 1 0 5 0
投手 回 安責
森手 5 1/2 6 1
本師 3 3 2 1

▽本塁打 高梨1号 (野嶋) ▽二塁打 坂田 高梨 村上 ▽2時間9分

準決勝

札幌市 (札幌トヨペット)

1	0	0	0	4	0	1	0	6
1	0	2	0	0	1	0	1	5

釜石市 (新日鉄釜石)

【札幌市】	打安点	【釜石市】	打安点
⑦小宮 4 2 0		⑧早伊 4 0 0	
④林野 2 0 0		⑧瀬藤 3 1 0	
④北山 2 1 1		⑧伊黒 3 0 1	
④山本 3 1 0		⑧高槻 0 0 0	
④山根 2 1 0		⑧高槻 4 1 3	
④山根 3 1 2		⑧高槻 2 1 1	
④山根 4 1 0		⑧高槻 1 0 0	
④山根 4 1 0		⑧高槻 3 0 0	
④山根 3 0 0		⑧高槻 3 1 0	
④山根 4 1 1		⑧高槻 0 0 0	
④山根 3 1 0		⑧高槻 3 0 0	
④山根 1 0 0		⑧高槻 1 0 0	
④山根 3 0 0		⑧高槻 1 0 0	
④山根 3 1 0		⑧高槻 1 0 0	
④山根 3 1 0		⑧高槻 3 2 5 5	

振球権盗失残併 7 4 2 2 2 4 1
投手 回 安責
浅川 7 1/2 5 2
浅川 1 1/2 0 0

▽本塁打 沢田2号② (石崎) 若根2号 (樋口) ▽三塁打 小林 伊藤 ▽二塁打 日高 山本文 ▽2時間44分

富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fuji City (大昭和製紙). Includes names like 藤木月郎, 安鈴望, 喜政保, etc.

釜石市

(新日鉄釜石)

Table listing names and numbers for Kamaishi City (新日鉄釜石). Includes names like 藤藤藤, 佐高佐, 藤藤藤, etc.

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City (日本通運). Includes names like 藤水生, 近清放, 藤水生, etc.

川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (東芝). Includes names like 木紙嶋, 鈴木小, 鈴木小, etc.

推薦・広島市

(三菱重工広島)

Table listing names and numbers for Hiroshima City (三菱重工広島). Includes names like 田村佃, 守昭正, 守昭正, etc.

郡山市

(ヨークベニマル)

Table listing names and numbers for Gouno City (ヨークベニマル). Includes names like 平石山, 大速山, 大速山, etc.

府中市

(東芝府中)

Table listing names and numbers for Fuchu City (東芝府中). Includes names like 尾崎山, 尾崎山, 尾崎山, etc.

川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (日本鋼管). Includes names like 吉方江, 吉方江, 吉方江, etc.

白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Shiraoi Town (大昭和製紙北海道). Includes names like 高川小, 高川小, 高川小, etc.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Nisshin City (日立製作所). Includes names like 野寺重, 野寺重, 野寺重, etc.

東京都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for Tokyo (東京ガス). Includes names like 田山内, 田山内, 田山内, etc.

川崎市

(三菱重工業)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (三菱重工業). Includes names like 野宮出, 野宮出, 野宮出, etc.

札幌市

(札幌トヨペット)

Table listing names and numbers for Sapporo City (札幌トヨペット). Includes names like 宮崎川, 宮崎川, 宮崎川, etc.

千葉市

(川崎製鉄千葉)

Table listing names and numbers for Chiba City (川崎製鉄千葉). Includes names like 川崎川, 川崎川, 川崎川, etc.

東京都

(プリンスホテル)

Table listing names and numbers for Tokyo (プリンスホテル). Includes names like 田津川, 田津川, 田津川, etc.

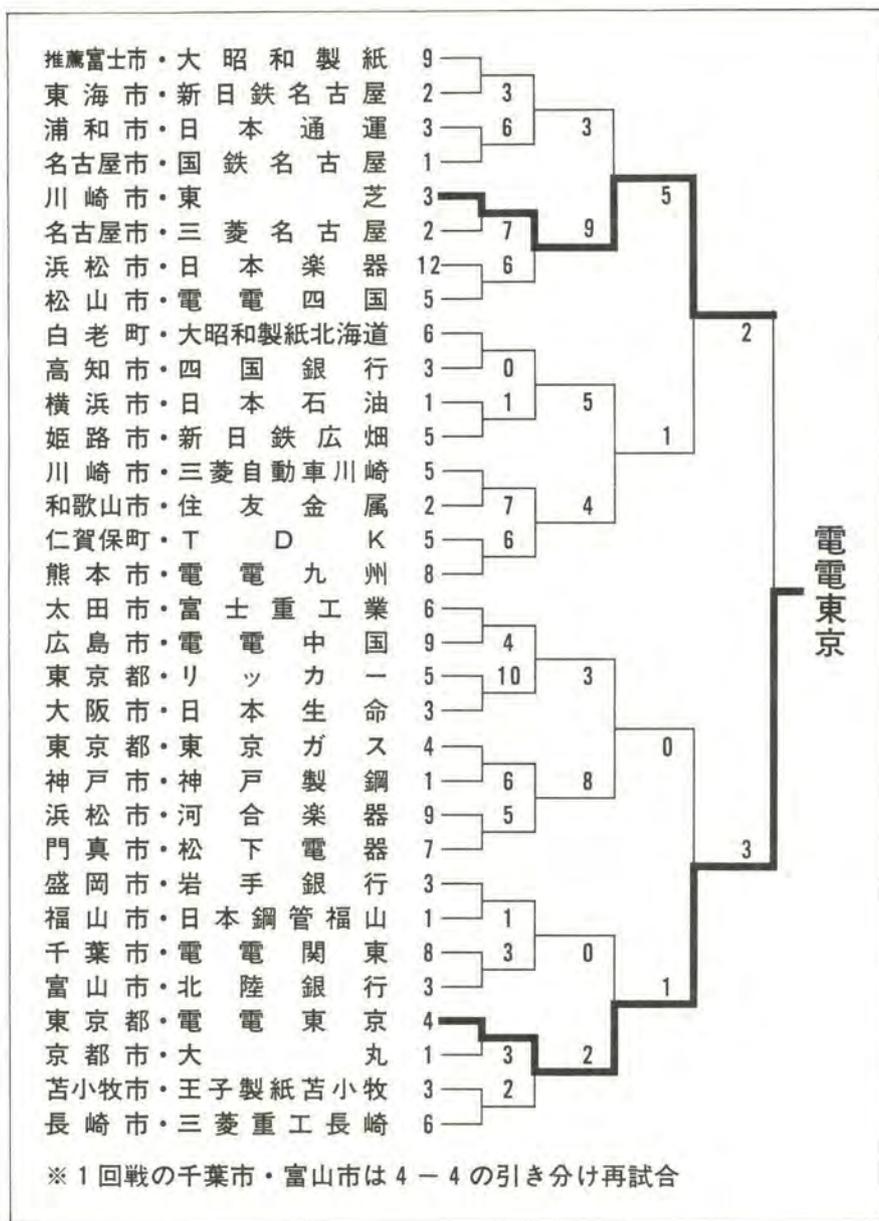
長野市

(電電信越)

Table listing names and numbers for Nagano City (電電信越). Includes names like 根川崎, 根川崎, 根川崎, etc.

第52回大会 1981年(昭和56年)7月24日-8月2日・後樂園球場

優勝=東京都・電電東京



は東京が1回、後藤寿喜(東芝府中から補強)の適時打で先制し、4回には石野康彰の2ランで加点。川崎は東京のエース竹舂和也に抑えられていたが、9回、菊地恭一の2ランで1点差としたものの、リリーフの藤原誠二に反撃を断たれた。

東京・電電東京は1回戦で京都市・大丸、2回戦は長崎市・三菱重工長崎を降し、準々決勝は藤原が千葉市・電電関東を5安打完封。準決勝は竹舂が東京都・東京ガスを5安打完封で退けた。5試合のチーム打率は2割4分7厘、本塁打数2。少ない安打で好機をうまく生かしたソツのない攻撃と、竹舂、藤原の優れた投手力でつかんだ黒獅子旗だった。

川崎・東芝は、準々決勝で浦和市・日本通運、準決勝では菊地の3ランなどで姫路市・新日鉄広畑を圧倒しての決勝進出だったが、その強打発揮までの1、2回戦は、苦戦続き。名古屋市・三菱名古屋戦は前川善裕(日本鋼管から補強)の決勝本塁打で辛勝、2回戦は浜松市・日本楽器と延長12回を戦い、有賀佳弘(日産自動車から補強)のサヨナラ本塁打で勝ち上がった。

ベスト4へ進出した東京・東京ガスの活躍もめざましかった。2回戦で浜松市・河合楽器と延長11回の熱戦を突破し、準々決勝では東京都・リッカーの19歳のエース、中西清起を打ち崩しての進出だった。高知商を出たばかりの新人中西は、それまで2試合連続完投勝ちし、リッカーを18年ぶりにベスト8へ進出させる原動力になった。西日本勢で唯一ベスト4に進出した姫路市・新日鉄広畑は、準々決勝の川崎市・三菱自動車川崎戦で、代打・山中正則(川崎製鉄神戸から補強)の3ランで同点とし、1点差で強豪を倒した。

引き分け再試合の熱闘を演じたのは、1回戦の富山市・北陸銀行対千葉市・電電関東だった。3時間32分、4-4で11回引き分け。再試合は千葉が慶野茂の2打席連続本塁打などで富山を降した。前年優勝の推薦・大昭和製紙は、2回戦で浦和市・日本通運に6回、打者一巡の猛攻にあい、逆転負けを喫した。

橋戸賞は東京・電電東京の竹舂投手、久慈賞は川崎の黒紙義弘投手、小野賞は東京・東京ガスの工藤真投手に贈られ、若獅子賞は東京・リッカーの中西投手と黒田光弘一塁手が受賞した。

雌伏...15回目で電電東京初V

大会史上初の「初出場チーム、ゼロ」の大会で、優勝は15回目の出場 of 東京都・電電東京が初めてつかんだ。黒獅子旗が地元東京に戻ったのは、41年の熊谷組以来、15年ぶりのことだった。東京・電電東京と優勝を争ったのは、川崎市・東芝で、東京-川崎の決勝対決は、昭和10年の第9回大会、東京倶楽部-川崎コロムビア以来、46年ぶりだった。試合

MEMO

◇2打席連続本塁打 千葉市・電電関東の慶野茂内野手が2回戦の対富山市・北陸銀行再試合で。

また東京都・リッカーの黒田光弘内野手が2回戦の広島市・電電中国戦でマーク。史上15、16人目。

◇個人通算最多本塁打9 白老町・大昭和製紙北海道の高梨英夫一塁手兼監督は、1回戦の高知市・四国銀行戦の3回、山本投手から左翼へ本塁打、個人通算9号となり、自己の記録を更新した。

◇満塁本塁打 熊本市・電電九州の小林裕一外野手は1回戦の仁賀保町・TDK戦の2回二死満塁、船本投手から右翼へ。史上15人目。

◇サヨナラ本塁打 川崎市・東芝の有賀佳弘外野手(日産自動車から補強)が2回戦の浜松市・日本楽器戦の12回、戸田投手から。史上18人目。

スッポ抜け…真ん中へ

「外角にはずすつりのカーブが」と京都市・大丸の正田投手が悔やみきれない1球にほぞをかんだ。

1回戦での東京都・電電東京戦。ゆっくりしたモーションからカーブとスライダを配してカウントを稼ぎ、打ち気になると内角シュート。強打の東京を6回まで4安打1点。しかし7回二死後プリンスホテルから補強の居郷一塁手への2球目は、手もと狂ってまん中へ。あっという間もなく左翼席に運ばれた。

防戦一方だった東京はこれで波に乗り、一気に優勝街道を走り抜けたが、まさに値千金の居郷の一発だった。



開幕戦の大昭和対東海。1回大昭和は馬場の左越飛で中生選して3点目。捕手・吉田

1回戦

東海市 (新日鉄名古屋)

0	0	0	0	0	0	2	0	0
5	0	0	0	0	0	2	2	9

大昭和製紙 (推薦・富士市)

【東海市】	打安点	【大昭和製紙】	打安点
④ 服部川	3 1 0	④ 山本	4 1 0
⑤ 高田	4 1 0	⑤ 本川	5 2 1
③ 高森	3 0 0	⑥ 上高	5 3 1
⑦ 小金	4 0 0	⑧ 本場	5 2 2
⑥ 飯田	4 1 0	③ 中馬	3 2 3
⑧ 飯岡	2 0 0	⑦ 平井	3 0 0
H 8 岡田	2 2 2	⑨ 長崎	4 2 2
② 吉田	4 1 0	⑨ 9	0 0 0
⑨ 手嶋	1 0 0	② ①	2 0 0
H 9 水谷	0 0 0	① 1	2 0 0
1 松本	0 0 0	1 1	1 0 0
H 1 鈴木	1 0 0	1 1	0 0 0
1 鈴木	0 0 0		3412 9
① 新美	0 0 0		振球機盗失残併
H 9 渡山	1 1 0		4 4 2 0 0 7 2
	317 2		投手回安責
			投手回安責
			鈴木原田 6 1/2 6 2
			鈴藤倉 1 1 0 0 0
			振球機盗失残併
			4 4 2 0 0 7 2
			投手回安責
			鈴木原田 6 1/2 6 2
			鈴藤倉 1 1 0 0 0

▽本塁打 長嶋1号②(新美) 岡田1号②(鈴木) 馬場1号②(鈴木) 山本(東) ③ 吉田秀② 二塁打 高林 長嶋 山本(大) ② 2時間33分

1回戦

名古屋市 (三菱名古屋)

0	1	0	0	0	0	1	0	2
0	0	1	1	0	0	0	1	3

川崎市 (東芝)

【名古屋市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑤ 島田	4 1 1	④ 宮崎	4 0 0
⑥ 岩本	4 1 0	④ 二生	3 1 0
⑨ 高橋	4 0 0	③ 武智	4 2 1
⑦ 藤田	4 1 1	⑧ 菊地	3 0 0
⑧ 伊池	4 0 0	⑧ 中川	0 0 0
② H 二田	2 0 0	⑦ 前田	4 2 1
H 3 丸茂	1 1 0	⑤ 賀島	4 1 0
③ 丸茂	2 0 0	② 青島	4 2 1
H 2 佐藤	0 0 0	② 中黒	4 2 0
④ 高橋	1 0 0	① 黒紙	2 0 0
① 高橋	2 0 0		3210 3
H 4 桃田	1 0 0		振球機盗失残併
1 桃田	0 0 0		7 2 1 3 0 8 0
	294 2		投手回安責
			黒紙 9 4 2

▽本塁打 高橋隆1号(黒紙) 青島1号(高橋俊) 前川1号(桃田) 三塁打 青島② 二塁打 前川 武智② 2時間48分

1回戦

浦和市 (日本通運)

0	0	1	0	2	0	0	0	0	3
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

名古屋市 (国鉄名古屋)

【浦和市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑨ 久我	4 1 1	⑦ 森本	3 0 0
④ 清雨	2 1 1	① 本口	0 0 0
⑧ 伊藤	4 1 1	① 村川	0 0 0
③ 伊藤	3 0 0	H 1 下川	1 0 0
⑦ 大望	4 1 0	① 戸田	0 0 0
⑥ 望月	4 0 0	④ 湯之	2 2 0
⑤ 辻	4 1 0	⑥ 植内	4 0 0
② 光野	4 1 0	⑦ 藤本	4 1 0
① 加藤	4 0 0	⑧ 全本	3 0 0
	336 3	⑤ 石山	4 1 1
		③ 田田	1 0 0
		H 3 山田	2 0 0
		H 3 増田	1 0 0
		② 野田	2 0 0
		② 中橋	1 0 0
		① 高橋	2 0 0
			30 4 1
			振球機盗失残併
			2 4 0 1 1 6 0
			投手回安責
			山中村 5 4 2
			樋村 2 1/2 2 0
			森下 1 0 0 0

▽三塁打 久我② 二塁打 清塚 雨堤 光野△ 2時間34分

1回戦

白老町 (大昭和製紙北海道)

2	0	1	0	0	2	0	0	1	6
0	0	0	1	0	0	0	2	0	3

高知市 (四国銀行)

【白老町】	打安点	【高知市】	打安点
⑥ 新岡	6 2 2	⑥ 美師	5 1 0
H 8 我喜	3 0 0	⑤ 神永	4 1 0
④ 日野	5 1 1	⑦ 田谷	3 2 0
4 仲本	0 0 0	⑧ 刈谷	4 4 1
③ 高村	3 2 1	⑨ 西乃	2 0 1
② 大坂	2 0 0	H ③ 乃阿	2 0 1
⑤ 野田	4 2 2	② 沖山	2 0 0
⑦ 横川	4 2 0	② 田本	2 0 0
⑨ 横井	4 1 0	① 田本	2 2 0
H 1 小福	2 0 0	H 1 成楠	0 0 0
1 福浜	1 0 0	① 中楠	1 0 0
	0 0 0	H 1 谷本	0 0 0
	0 0 0	H 1 平谷	1 1 0
	0 0 0	④ 森本	3 0 0
	3711 6		3212 3
			振球機盗失残併
			3 2 3 2 1 7 0
			投手回安責
			中山本 5 3/4 8 3
			成中 1 1/2 1 0
			平田 2 2 1
			▽本塁打 高梨1号(山本) 三塁打 山本②
			二塁打 刈谷② 2時間52分

1回戦

姫路市 (新日鉄広畑)

0	0	0	0	0	0	4	1	5
0	0	0	0	0	0	0	1	1

横浜市 (日本石油)

【姫路市】	打安点	【横浜市】	打安点
⑧ 中松	2 0 1	⑥ 林	4 1 0
⑥ 尾形	3 0 0	⑨ 庄	3 0 0
⑨ 山本	4 1 3	③ 玉川	2 0 0
③ 山本	2 0 0	⑧ 根原	3 0 0
3 山本	2 1 0	H 8 久保	1 1 0
⑦ 山本	4 1 0	⑦ 金平	2 1 0
⑦ 山本	0 0 0	H ⑦ 久保	1 0 0
⑤ 西村	4 0 0	④ 吉木	3 0 0
⑤ 西村	0 0 0	⑤ 犬村	0 0 0
④ 正徳	3 2 0	H ⑤ 犬村	1 0 0
② 武高	4 2 1	H ④ 八小	3 0 0
① 藤	2 0 0	H ⑤ 4 八小	1 1 1
	307 5	H ② 加山	2 0 0
		① 山道	1 0 0
		① 方守	0 0 0
		1 藤	0 0 0
		H 1 江	1 0 0
			314 1
			振球機盗失残併
			125 1 0 1 9 1
			投手回安責
			山岡 7 3/4 3 3
			道方 0 0 0
			佐藤 2 1 2 1
			堀江 1 2 0

▽本塁打 尾形1号③(佐藤) 二塁打 金久保 渡辺② 2時間33分

1回戦

浜松市 (日本楽器)
5 2 0 0 0 0 3 1 1 | 12
0 0 0 0 1 0 0 1 3 | 5
松山市 (電電四国)

【浜松市】 打安点
山本 4 2 2 0
小林 4 2 1 1
小籠 1 0 0 0
内武 4 2 3 3
山居 5 4 1 1
野行 5 2 2 2
熊村 4 0 1 1
中井 1 0 0 0
佐上 0 0 0 0
中野 5 2 2 2
山久 4 3 2 2
高功 1 0 0 0
伊藤 1 0 0 0
鶴屋 0 0 0 0
柳原 0 0 0 0
振球機盗失残併 401712
投手回安責 3 3 2 1 3 6 1
高鍋 8 0 3 6 1
柳原 1 1 0 1 0

1回戦

川崎市 (三菱自動車川崎)
4 0 0 0 1 0 0 0 0 | 5
0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2
和歌山市 (住友金属)

【川崎市】 打安点
関川 4 0 0 0
小大須 5 2 0 0
須賀林 2 0 0 0
土植 3 0 0 0
杉垣 1 0 0 0
山野 3 1 4 3
田野 4 1 1 1
野家 4 1 0 0
宮家 2 0 0 0
振球機盗失残併 3255
投手回安責 10 6 0 1 2 6 1
投手回安責 3 3 3 3 0 6 3

1回戦

東京都 (リッカー)
2 0 0 1 1 0 1 0 0 | 5
0 0 0 1 0 0 2 0 0 | 3
大阪市 (日本生命)

【東京都】 打安点
大門川 4 2 2 2
浪間 2 0 0 0
本边 4 1 0 0
渡光 4 1 0 0
黒田 3 2 2 2
和久 3 1 1 1
国安 3 1 0 0
山芸 4 0 0 0
白水 4 2 1 1
島福 0 0 0 0
中西 2 0 0 0
振球機盗失残併 3184
投手回安責 8 3 5 1 1 7 1
投手回安責 9 7 3 4

1回戦

仁賀保町 (TDK)
0 0 0 0 0 2 3 0 0 | 5
3 4 1 0 0 0 0 0 0 | 8
熊本市 (電電九州)

【仁賀保町】 打安点
木藤 4 2 1 1
橋屋 4 0 0 0
伊高 4 1 0 0
高松 2 0 0 0
藤 3 2 0 0
藤 5 2 1 1
佐下 3 1 0 0
佐下 1 1 2 2
堀上 2 1 1 1
上野 2 1 0 0
辛白 1 0 0 0
船若 1 0 0 0
舟大 2 0 0 0
振球機盗失残併 37115
投手回安責 5 4 1 0 0 1 0 1 0 0

1回戦

広島市 (電電中国)
0 1 0 0 0 3 0 3 2 | 9
0 0 0 0 0 0 0 3 3 | 6
太田市 (富士重工業)

【広島市】 打安点
後藤 5 3 0 0
藤 3 1 0 0
永川 4 3 5 5
井藤 5 1 1 1
藤田 4 2 1 1
江新 4 2 0 0
荒川 2 0 0 0
中岩 1 1 1 1
津田 3 0 0 0
田村 1 0 0 0
振球機盗失残併 35138
投手回安責 6 1 4 0 2 4 1

1回戦

神戸市 (神戸製鋼)
0 0 0 0 0 1 0 0 0 | 1
0 0 0 2 0 0 2 0 0 | 4
東京都 (東京ガス)

【神戸市】 打安点
林边 4 1 0 0
小川 3 0 0 0
水大浦 4 2 1 1
古岡 3 0 0 0
浜本 2 0 0 0
浜荒 2 0 0 0
三長 2 1 0 0
真若 1 0 0 0
振球機盗失残併 3171
投手回安責 1 4 2 5 1 9 2

1回戦

浜松市 (河合楽器)
3 0 0 0 5 0 0 1 0 | 9
0 0 0 0 5 0 0 2 0 | 7
門真市 (松下電器)

【浜松市】 打安点
小伊 4 2 2 2
小東 4 1 1 1
大坂 4 2 1 1
阪山 4 2 1 1
大平 5 1 2 2
須賀 4 2 1 1
松山 2 1 0 0
増根 2 0 0 0
振球機盗失残併 37149
投手回安責 7 5 3 1 4 9 0

1回戦

盛岡市 (岩手銀行)
0 0 0 0 0 0 0 0 3 | 3
0 0 0 0 0 0 0 1 1 | 1
福山市 (日本鋼管福山)

【盛岡市】 打安点
佐々木 4 1 0 0
伊藤 4 2 0 0
阿部 4 1 1 1
日高 3 2 0 0
高橋 2 0 0 0
若長 2 0 0 0
及佐 2 0 0 0
藤山 2 0 0 0
振球機盗失残併 3083
投手回安責 4 2 2 1 0 4 0

1回戦

京都市 (大丸)
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 1 0 0 1 2 0 | 4
東京都 (電電東京)

【京都市】 打安点
桑松 4 0 0 0
島内 1 0 0 0
内野 4 1 0 0
谷倉 0 0 0 0
浅岩 4 3 0 0
岩長 3 1 0 0
郡 4 1 1 1
永田 4 2 0 0
岩切 3 0 0 0
岩足 4 2 0 0
矢野 2 0 0 0
前中 2 0 0 0
振球機盗失残併 34101
投手回安責 3 2 1 1 0 9 1

1 回戦

富山市 (北陸銀行)
0 1 0 0 0 1 0 1 1 0 0 | 4
0 0 1 0 0 0 3 0 0 0 0 | 4
千葉市 (電電関東)

富山市 打安点
川 4 3 1
堀 伴 4 2 1
宮 沼 3 1 2
佐 藤 3 1 0
西 野 3 1 0
藤 木 1 1 1
井 上 1 0 0
坪 野 3 1 0
高 野 3 1 0
谷 内 2 0 0
上 野 2 0 0
大 野 0 0 0
河 上 1 1 0
石 田 1 0 0
河 上 1 0 0
R 1 1 0 0
振球 盗 失 残 併 45154
投 手 回 安 責
谷 内 野 6 7 4
上 野 2 0 0
大 野 3 1 0

1 回戦 (再試合)

富山市 (北陸銀行)
0 0 0 0 3 0 0 0 0 | 3
1 0 2 0 5 0 0 0 0 | 8
千葉市 (電電関東)

富山市 打安点
川 4 3 1
堀 伴 4 0 0
宮 沼 3 1 2
佐 藤 3 1 0
西 野 1 0 0
藤 木 1 0 0
井 上 2 0 0
坪 野 2 0 0
高 野 3 1 0
谷 内 1 0 0
上 野 1 0 0
大 野 1 0 0
河 上 1 0 0
R 1 1 0 0
振球 盗 失 残 併 6302140
投 手 回 安 責
谷 内 野 4 4 2
大 野 5 5 5
上 野 4 2 0

1 回戦

苫小牧市 (王子製紙苫小牧)
0 0 0 2 0 0 1 0 0 | 3
3 0 1 0 0 1 1 1 | 6
長崎市 (三菱重工長崎)

苫小牧市 打安点
林 影 4 1 0
小 田 1 0 0
中 沢 3 1 0
阿 部 1 0 0
高 石 4 2 0
石 井 3 0 1
佐 山 4 1 0
木 本 4 1 1
川 口 1 0 0
川 村 1 0 0
内 口 3 1 0
藤 西 原 2 1 1
藤 西 原 1 0 0
H 3 1 0 0
振球 盗 失 残 併 338 3
投 手 回 安 責
西 村 5 6 4
大 中 2 3 1

2 回戦

浦和市 (日本通運)
0 0 0 0 0 6 0 0 0 | 6
0 3 0 0 0 0 0 0 0 | 3
大昭和製紙 (推薦・富士市)

浦和市 打安点
久 我 3 1 1
雨 塚 3 1 0
岡 田 2 0 0
山 田 1 0 1
伊 藤 0 0 0
大 田 4 1 1
望 月 4 1 1
野 井 4 1 1
光 野 2 1 0
藤 原 2 0 0
加 藤 1 1 0
福 放 1 0 0
H 1 1 0 0
振球 盗 失 残 併 5122120
投 手 回 安 責
藤 原 5 6 3
放 生 4 1 0

2 回戦

東京都 (リッカー)
3 0 0 0 0 0 5 2 0 | 10
2 0 0 0 0 1 1 0 0 | 4
広島市 (電電中国)

東京都 打安点
大 浪 5 3 0
川 本 5 0 0
渡 边 6 1 0
黒 田 4 3 4
黒 田 4 3 0
国 安 3 2 0
安 白 4 1 2
白 中 4 2 1
西 5 1 2
H 4 0 1 9
振球 盗 失 残 併 95341110
投 手 回 安 責
西 9 8 4

2 回戦

浜松市 (日本楽器)
5 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 6
0 0 3 0 0 1 0 2 0 0 0 1 | 7
川崎市 (東芝)

浜松市 打安点
山 本 5 1 0
小 内 5 2 0
武 野 6 3 0
熊 中 6 2 3
上 野 6 2 2
中 野 5 1 0
高 久 5 0 0
西 柳 5 3 1
原 田 2 0 0
原 田 1 0 0
柳 戸 0 0 0
H 1 1 1
振球 盗 失 残 併 46146
投 手 回 安 責
久 保 原 5 5 6
柳 戸 2 2 2

2 回戦

白老町 (大昭和製紙北海道)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
姫路市 (新日鉄広畑)

白老町 打安点
新 木 3 2 0
岡 屋 3 0 0
喜 屋 0 0 0
日 比 野 4 0 0
高 村 4 0 0
大 寺 3 1 0
坂 田 3 1 0
横 川 3 0 0
福 福 1 0 0
福 福 0 0 0
H 1 1 1
振球 盗 失 残 併 7321060
投 手 回 安 責
川 瀨 7 5 1
浜 師 1 0 0

2 回戦

熊本市 (電電九州)
0 0 3 0 1 2 0 0 0 | 6
2 1 3 0 0 0 0 0 1 | 7
川崎市 (三菱自動車川崎)

熊本市 打安点
村 岡 3 0 0
大 小 4 1 0
小 神 5 1 1
原 藤 0 0 0
加 藤 4 2 2
平 山 0 0 0
南 礼 4 0 0
柳 玉 3 2 0
勝 仲 0 0 0
川 越 1 0 0
長 右 3 1 0
足 立 2 1 1
H 0 0 0
H 1 1 1
R 1 1 1
振球 盗 失 残 併 6333261
投 手 回 安 責
長 右 2 3 3
足 立 3 4 2
小 笠 原 3 3 1

2回戦

東京都 (東京ガス) 2 2 0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 6
0 0 0 1 0 3 0 1 0 0 0 | 5
浜松市 (河合楽器)

【東京都】 打安点
④野 岡 5 1 0
⑤口 村 橋 塚 5 2 2
R 高 腰 0 0 0
③池 渡 金 0 0 0
②池 渡 金 0 0 0
②松 向 青 五 安 藤 吉 工 4 2 1
⑦月 女 藤 岡 田 幸 藤 3 0 0
①幸 藤 3 0 0
1 幸 藤 2 1 0
1 幸 藤 1 0 0
1 幸 藤 1 0 0
1 幸 藤 1 0 0

振球権盗失残併 47332112
投手回安責 吉田幸 5 1/3 64
中野 3 61
工藤 2 0 0
▽本塁打 岡村1号②(松田)▽三塁打 東田
池田▽二塁打 野口 園田 阪本 東田▽3時間6分

2回戦

千葉市 (電電関東) 0 1 0 1 0 0 0 1 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
盛岡市 (岩手銀行)

【千葉市】 打安点
⑥谷 田 4 0 0
④浅 田 3 0 0
H 藤 邊 1 0 0
4 加 渡 中 0 0 0
⑨野 野 4 1 0
③中 野 野 1 0 0
⑦佐 々 木 1 0 0
H 伊 松 1 0 0
7 伊 松 0 0 0
⑤松 崎 本 井 部 4 2 2
⑧坂 片 安 田 3 1 0
②坂 片 安 田 4 1 0
①坂 片 安 田 3 2 1
2973

振球権盗失残併 7421050
投手回安責 田中 9 31
▽本塁打 田中1号(木村)▽三塁打 坂本(千)
阿部真▽二塁打 伊藤▽2時間6分

2回戦

長崎市 (三菱重工長崎) 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
0 2 0 0 0 0 0 1 X | 3
東京都 (電電東京)

【長崎市】 打安点
⑨4 柿 木 5 1 0
④力 前 3 3 0
R 9 前 0 0 0
H 御 手 洗 屋 島 西 1 0 0
6 古 福 本 4 1 0
③古 福 本 3 0 0
9 古 福 本 0 0 0
⑧林 岡 3 0 0
⑦3 北 樽 2 0 0
⑤都 赤 山 河 野 2 0 0
②都 赤 山 河 野 3 1 0
①都 赤 山 河 野 0 0 0
H 都 赤 山 河 野 1 1 2
3172

振球権盗失残併 5520390
投手回安責 山坂野 7 7/2
河野 1 0
▽本塁打 戸高1号②(竹舛)▽三塁打 山口▽
二塁打 石野 高橋 中屋 古屋 ▽2時間49分
(中断1時間30分)

準々決勝

浦和市 (日本通運) 0 2 1 0 0 0 0 0 0 | 3
2 0 1 0 3 0 0 0 3 X | 9
川崎市 (東芝)

【浦和市】 打安点
⑨我 塚 田 藤 垣 崎 月 沼 4 0 0
④久 清 岡 伊 大 山 望 祐 3 1 0
⑧岡 伊 大 山 望 祐 4 2 1
③岡 伊 大 山 望 祐 4 0 0
⑦岡 伊 大 山 望 祐 3 0 0
⑦H 岡 伊 大 山 望 祐 1 0 0
⑥H 岡 伊 大 山 望 祐 3 2 0
⑤H 岡 伊 大 山 望 祐 0 0 0
②H 野 山 木 原 川 藤 3 1 1
②H 野 山 木 原 川 藤 2 0 0
H 野 山 木 原 川 藤 1 0 0
H 野 山 木 原 川 藤 1 0 0
①H 野 山 木 原 川 藤 2 1 1
H 野 山 木 原 川 藤 0 0 0
H 野 山 木 原 川 藤 1 0 0
H 野 山 木 原 川 藤 0 0 0
H 野 山 木 原 川 藤 0 0 0
1 野 山 木 原 川 藤 0 0 0
1 野 山 木 原 川 藤 0 0 0
3273

振球権盗失残併 8300350
投手回安責 加藤生 1 1/3 105
加藤生 1 1/3 10
放 玉 1 1/3 33
1 放 玉 1/3 10
▽本塁打 岡田1号(黒紙)有賀2号②(吉川)
▽二塁打 望月 辻 前
川▽2時間51分

準々決勝

川崎市 (三菱自動車川崎) 3 0 0 0 0 1 0 0 0 | 4
0 0 1 0 0 0 4 0 X | 5
姫路市 (新日鉄広畑)

【川崎市】 打安点
⑧関 大 須 賀 5 0 0
⑧大 須 賀 4 1 1
⑨林 野 田 5 2 0
③野 田 5 0 0
⑦垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 4 2 1
⑤垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 3 2 1
④H 垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 1 0 1
①垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 1 0 0
H 垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 1 0 0
1 垣 米 土 豊 山 野 家 川 福 藤 小 笠 原 0 0 0
3274

振球権盗失残併 3440091
投手回安責 福藤川 6 1/3 54
福藤川 6 1/3 31
小笠原 1 0 0
▽本塁打 大須賀1号(藤高)藤高1号(福家)
山中1号③(福家)▽二塁打 林 豊田 尾形▽
2時間28分

準々決勝

千葉市 (電電関東) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 0 1 0 0 0 X | 2
東京都 (電電東京)

【千葉市】 打安点
⑥谷 田 4 0 0
④浅 田 2 0 0
H 浅 田 1 0 0
⑨中 野 野 3 1 0
③中 野 野 3 1 0
⑦中 野 野 3 1 0
⑦H 中 野 野 2 0 0
⑦H 中 野 野 1 0 0
⑤H 中 野 野 3 1 0
②H 中 野 野 3 1 0
①H 中 野 野 1 0 0
H 中 野 野 1 0 0
1 中 野 野 0 0 0
2850

振球権盗失残併 5220153
投手回安責 田中 7 7/2
市 村 1 1 0
▽三塁打 山口▽二塁打 石野▽1時間52分

準々決勝

東京都 (リッカー) 0 1 0 0 0 1 0 1 0 | 3
1 0 3 4 0 0 0 0 X | 8
東京都 (東京ガス)

【リッカー】 打安点
⑧大 川 浪 本 3 2 1
④大 川 浪 本 4 0 0
⑨大 川 浪 本 5 2 0
③大 川 浪 本 5 2 0
⑦大 川 浪 本 3 2 0
②大 川 浪 本 1 0 0
2 大 川 浪 本 2 0 0
⑥大 川 浪 本 2 1 1
H 大 川 浪 本 1 0 0
①H 大 川 浪 本 0 0 1
H 大 川 浪 本 1 0 0
H 大 川 浪 本 0 0 0
H 大 川 浪 本 1 0 0
H 大 川 浪 本 0 0 0
H 大 川 浪 本 1 0 0
H 大 川 浪 本 1 0 0
H 大 川 浪 本 0 0 0
H 大 川 浪 本 0 0 0
1 大 川 浪 本 0 0 0
34113

振球権盗失残併 65202110
投手回安責 中西 3 3/4 84
田中 1 1/2 0 0
黒田真 3 2 0
松岡 1 0 0
▽本塁打 池田1号(中西)▽三塁打 国山▽二
塁打 岡村 渡辺(リ)▽3時間

準決勝

川崎市 (東芝) 0 0 1 0 0 1 3 0 0 | 5
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
姫路市 (新日鉄広畑)

【川崎市】 打安点
④宮 崎 崎 4 2 0
⑥宮 崎 崎 0 0 0
H 宮 崎 崎 1 0 0
6 宮 崎 崎 0 0 0
③吉 武 菊 菊 地 川 川 3 1 0
⑦吉 武 菊 菊 地 川 川 3 1 0
R 吉 武 菊 菊 地 川 川 0 0 0
8 吉 武 菊 菊 地 川 川 0 0 0
⑨吉 武 菊 菊 地 川 川 3 0 0
⑤吉 武 菊 菊 地 川 川 4 2 0
②吉 武 菊 菊 地 川 川 4 1 0
①吉 武 菊 菊 地 川 川 2 0 0
H 吉 武 菊 菊 地 川 川 2 0 0
1 吉 武 菊 菊 地 川 川 2 0 0
3194

振球権盗失残併 6440473
投手回安責 佐々木 4 0 0
黒紙 5 3 0
▽本塁打 菊地1号③(西村基)▽二塁打 武智
▽2時間42分

準決勝

東京都 (電電東京) 0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
東京都 (東京ガス)

【電電東京】 打安点
⑧鈴 木 4 1 0
④鈴 木 4 1 0
⑥山 中 後 居 藤 野 野 3 0 0
③山 中 後 居 藤 野 野 3 0 0
⑨山 中 後 居 藤 野 野 3 0 0
9 山 中 後 居 藤 野 野 1 0 0
⑦山 中 後 居 藤 野 野 2 0 0
7 山 中 後 居 藤 野 野 1 0 0
⑤山 中 後 居 藤 野 野 3 0 0
②山 中 後 居 藤 野 野 3 1 1
①山 中 後 居 藤 野 野 3 1 0
3151

振球権盗失残併 4211160
投手回安責 竹 舛 9 50
▽二塁打 向山
▽2時間17分

東京都 盛岡市 浦和市 川崎市

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo (電電東京) section.

(岩手銀行)

Table listing names and numbers for Morioka (岩手銀行) section.

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya (日本通運) section.

(三菱自動車川崎)

Table listing names and numbers for Kawasaki (三菱自動車川崎) section.

推薦・富士市

(大昭和製紙)

Table listing names and numbers for Fuji City (大昭和製紙) section.

仁賀保町

(TDK)

Table listing names and numbers for Nigahara (TDK) section.

東京都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for Tokyo (東京ガス) section.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama (日本石油) section.

小牧市

(王子製紙小牧)

Table listing names and numbers for Komaki (王子製紙小牧) section.

太田市

(富士重工)

Table listing names and numbers for Maebashi (富士重工) section.

東京都

(リッカー)

Table listing names and numbers for Tokyo (リッカー) section.

浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu (河合楽器) section.

白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Shiraoi (大昭和製紙北海道) section.

千葉市

(電電関東)

Table listing names and numbers for Chiba (電電関東) section.

川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Kawasaki (東芝) section.

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu (日本楽器) section.

富山市 京都市 神戸市 高知市

Table for Toyama City (富山市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Kyoto City (京都市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Kobe City (神戸市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Kochi City (高知市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

名古屋市 大阪市 姫路市 松山市

Table for Nagoya City (名古屋市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Osaka City (大阪市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Himeji City (姫路市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Matsuyama City (松山市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

名古屋市 和歌山市 広島市 長崎市

Table for Nagoya City (名古屋市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Wakayama City (和歌山市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Hiroshima City (広島市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Nagasaki City (長崎市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

東海市 門真市 福山市 熊本市

Table for Toyouke City (東海市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

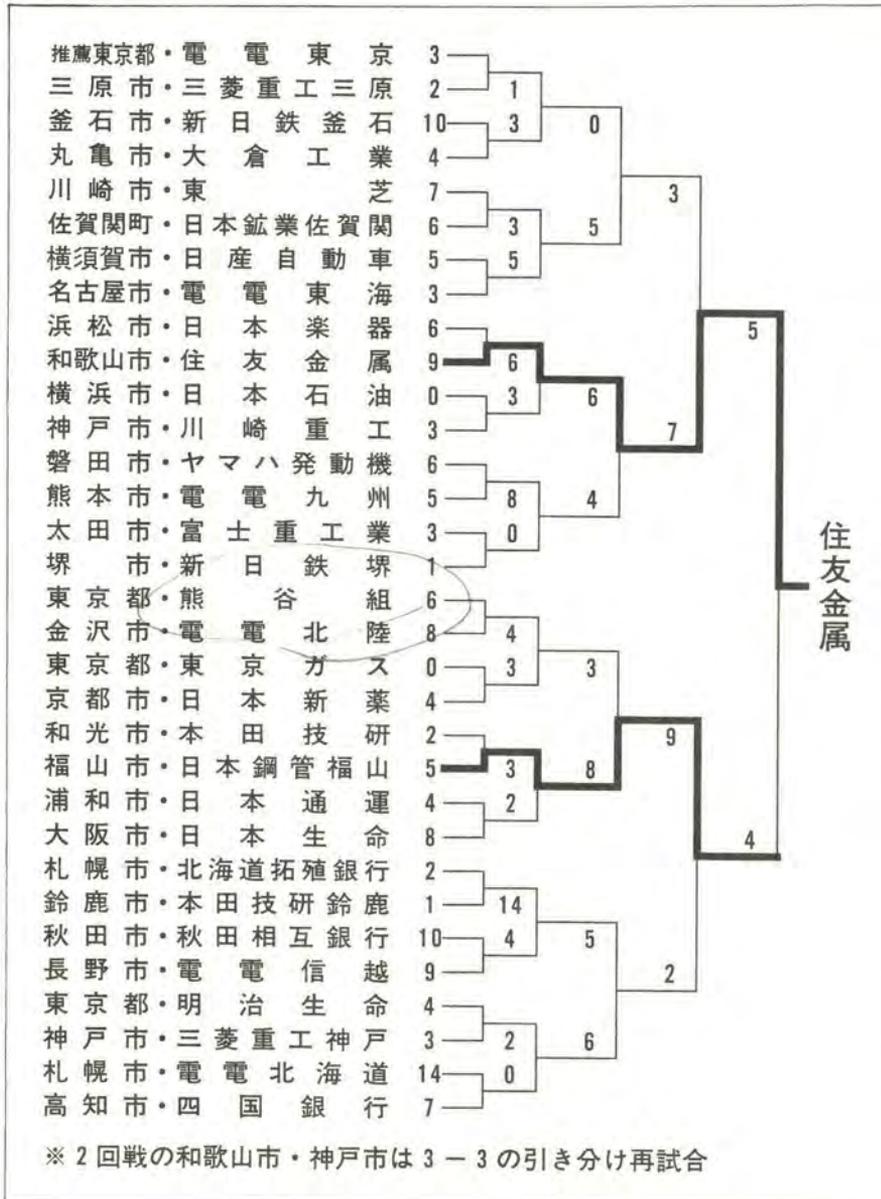
Table for Minatogawa City (門真市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Fuyuki City (福山市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

Table for Kumamoto City (熊本市) listing names and numbers under various categories like '監督' and '選手'.

第53回大会

1982年(昭和57年)7月27日-8月8日・後樂園球場
優勝=和歌山市・住友金属



和歌山は7回、栗山和行、嶋田宗彦の連打などで逆転、8回には松隈憲治が本塁打し、粘る福山を振り切った。和歌山で活躍めざましかったのは、54年の春と夏の甲子園を制した石井毅-嶋田宗彦の箕島高バッテリー。石井は引き分け再試合を含めて6試合に登板、41回3分の2を投げた。嶋田は準々決勝の磐田市・ヤマハ発動機戦で、史上4本目の逆転サヨナラ3ランを放つなど、石井投手をリードする一方、多くの好打を放って活躍した。守りの野球が身上の和歌山だったが、1回戦は15安打で浜松市・日本楽器に打ち勝ったのをはじめ、2回戦は神戸市・川崎重工と延長引き分け。再試合を6-3でつかみ、準々は嶋田の劇的な一打で、準決勝は横須賀市・日産自動車に長短打で打ち勝つなど、打撃が振るい、波乱に富んだ優勝への道乗り越えた。

橋戸賞は和歌山・石井投手、久慈賞は福山・田村忠義投手、小野賞は東京・明治生命に贈られ、若獅子賞は磐田・野口恭弘外野手に決まった。

福山は出場選手中最年長の34歳、田村投手が好投、打っては若松茂樹三塁手(三菱重工広島から補強)が準々決勝まで3試合連続本塁打(史上4人目)を放ち、決勝でも本塁打、史上3人目の大会個人最多本塁打タイを記録する活躍ぶりだった。

大会を盛りあげたのは、初出場チームの活躍だった。秋田市・秋田相互銀行、東京都・明治生命、磐田市・ヤマハ発動機の3チームは、そろって1回戦を突破。なかでも東京・明治生命は、1回戦で門間博満(東芝府中から補強)の決勝本塁打で神戸市・三菱重工神戸を降し、2回戦は中西清起(リッカーから補強)が札幌市・電電北海道を完封、準々決勝では再び門間が決勝2ランを放ち、札幌市・拓殖銀行を振り切ったのベスト4進出だった。磐田は、野口恭弘の逆転3ランで熊本市・電電九州を降したあと、15年連続出場、32歳の鈴木政明投手が太田市・富士重工業を完封、準々決勝に進出、優勝した和歌山を苦しめ抜いたのは立派だった。8回に野口右翼手が2点タイムリーを放ち逆転したときは、勝機を得たかと思われたが、土壇場の9回、嶋田に痛恨の一打を浴びた。秋田も1回戦で長野市電電信越に延長11回、サラナラ勝ちして気を吐いた。

頂点へ甲子園連覇バッテリー

和歌山市・住友金属が福山市・日本鋼管福山を破り、14回目の出場、3度目の決勝進出で初の優勝を果たした。両チームには、前年十月に死去した本田弘敏・社会人野球協会会長をしのいでこの大会からつくられた「本田メダル」が授与された。

西日本同士の決勝戦は、42回大会以来11年ぶりのことだった。大接戦が演じられたが、

決勝

和歌山市 (住友金属)									
1	0	0	0	1	0	2	1	0	5
0	1	1	0	0	1	0	1	0	4
福山市 (日本鋼管福山)									

(和歌山市)	打安点振球	【福山市】	打安点振球
⑧ 西村	4 0 0 1 0	⑨ 今岡	5 1 0 0 0
④ 野尻	5 1 0 2 0	④ 佐名	3 0 0 0 0
③ 筒井	4 2 0 0 1	4 金	1 0 0 0 0
② 栗山	5 2 2 1 0	⑦ 六	3 1 1 0 1
⑨ 栗嶋	5 1 1 0 0	⑥ 渡	3 1 0 0 1
⑦ 三好	4 0 0 0 0	⑤ 若	4 2 2 1 0
⑥ 前嶋	4 2 0 0 0	③ 若	4 1 1 0 0
⑤ 松松	4 2 1 0 0	⑧ 山	4 1 0 1 0
① 石井	4 2 0 1 0	② 河	4 2 0 1 0
	3912451	R	0 0 0 0 0
犠盗失残併		① 田	1 0 0 0 0
1 1 1 9 0		H	1 0 0 0 0
投手回	打安振球責	H	1 0 0 0 0
石井 9	37 9 3 2 3	H	1 0 0 0 0
			349432

▽本塁打	若松4号(石井)	犠盗失残併	1 2 2 6 1
▽二塁打	野尻 松隈	投手回	3411 3 1 3
▽2時間34分		田井	2 7 1 2 0 1

り広げられた。和歌山市・住友金属は1回、野尻が右翼右へ二塁打すると、筒井も右前へ好打、栗山の二ゴロですばやく先取点に結びつけた。福山市は2回若松が粘った7球目を左翼上段へ同点本塁打。3回には今岡の中前打と失策で一死・二塁とし、六条が二塁打して1点をリード。

しかし和歌山は福山のベテラン田村に鋭く襲いかかり、5回には石井の安打からつかんだチャンスに栗山が左前適時打して同点。6回に福山が渡部の左中間二塁打と山内の左前打で再びリードすると、和歌山は7回二死後、栗山の中前打と嶋田の左翼フェンス直撃の二塁打でタイ。さらに三好の二塁手左のライナーが敵失に恵まれ嶋田がホームイン、逆転に成功した。

8回、和歌山は松隈が左翼ポールぎわに本塁打。福山もその裏、疲れの出た石井から2四球を選び、若松が左翼へ好打して1点をばん回した。このとき一塁走者渡部が三塁をねらってアウトになったのか痛かった。左翼手

からの送球をカットした三塁手の好判断が、和歌山の危機を救った。

MEMO

◇3試合連続本塁打 福山市・日本鋼管福山の若松茂樹三塁手は1回戦の和光市・本田技研から、大阪市・日本生命戦、準々決勝の金沢市・電電北陸戦で本塁打。史上4人目。若松は決勝の和歌山市・住友金属戦でも本塁打を放ち、1大会個人最多本塁打4もタイ記録。史上3人目。

◇逆転サヨナラ本塁打 和歌山市・住友金属の嶋田宗彦捕手は準々決勝の磐田市・ヤマハ発動機戦の9回、二死一・三塁鈴木投手から左翼席へ。史上4本目。サヨナラ本塁打は19本目。

◇チーム連続打席安打タイ6 札幌市・北海道拓殖銀行は2回戦の秋田市・秋田相互銀行戦の2回、7番竹内捕手の本塁打から海老名三塁手、中村明投手、中尾中堅手、大滝一塁手、山本遊撃手が連続安打。史上3回目

◇900号本塁打 神戸市・三菱重工神戸の松本芳一内野手が1回戦の東京都・明治生命の松本投手から放った。

◇2打席連続本塁打 浜松市・日本楽器の阪本徹外野手(河合楽器から補強)は1回戦の和歌山市・住友金属で2回、3回に石井投手から。史上17人目。

福山痛い、8回の走塁失敗

奇跡の逆転劇から上昇気流に乗ったチーム同士だけに、立ち上がりから激しい攻防が繰



決勝。福山の追撃を振り切り和歌山・住友金属初優勝。石井-嶋田のバッテリーに駆け寄り喜び合う選手たち

日本一になるには日本一の練習

和歌山市・住友金属
山中正竹監督



昭和45年法大から住友金属に入社、48勝の東京六大学リーグ記録を持つ。小柄ながら多彩な球種と制球力で大活躍。監督として住友初優勝を果たした。現在、技術指導部委員。

黒獅子旗を獲得した翌日、初代野球団長で、当時、会長をしておられた日向方・現名誉会長に報告に行った。これまで2度準優勝だっただけに、みんなの感激は大きかったが、会長が、黒獅子旗にはおずりして目に涙を浮かべておられたのには、心から感動した。

戦いの跡を振り返ると、すべてがドラマチックで思い出に残る。中でも準々決勝で、ヤマハ発動機に負けていたのが、9回裏二死から、嶋田宗彦捕手がサヨナラ3ランを左翼席へ打ち込んだのが劇的だった。これも筒井大

助、篠崎宏道(松下電器)の両者がしぶとく安打を放ってつなげたからで、嶋田君ばかりにスポットが当たったが、チーム全員が力を出し合った結果だった。

1回戦は激しい点の取り合い、2回戦は延長11回引き分け再試合とすべて苦しい戦いだっただけに、1戦ごとに選手たちがたくましくなったのも感じた。準決勝の日産自動車戦は先手先手で点を取り、取られたら取り返すゲームができた。決勝の日本鋼管福山戦は、朝から慎重に勝つためのやり方を考えた。3度目の正直を成し遂げるために、「絶対勝て」と選手にもハッパをかけた。

若手とベテランがかみ合い打力には自信があったし、石井毅一長谷部優(松下電器)の継投パターンもできていた。石井は6連投だったが、大舞台での技術以上の精神力を信じていた。

石井-嶋田の箕島バッテリーを得て、強運の下での優勝という見方もあるが、「日本一のチームには日本一の練習を」と地道にコツコツと積み重ねた結果が、日本一につながったと考えている。

10年連続出場と久慈賞

久慈賞に輝いたのは出場選手中最年長の福山市・日本鋼管福山の田村投手。10年連続出場の表彰を受けただけに「後楽園で1勝」を狙っていたというが、1回戦で和光市・本田技研を、わずかに90球で抑える完投勝利。大阪市・日本生命戦、金沢市・電電北陸戦でも先発、決勝初進出の原動力となった。「(4本塁打した)若松君がもうらうと思った。決勝に進めただけで十分だったのに、こんな名誉の賞を」。全日本メンバーとして4度も出場、日本のエースとして活躍した大ベテランも感激で目頭を押さえた。

19安打2度も打者一巡

2度も打者一巡の猛攻をみせ、8回コールド勝ちしたのが札幌市・北海道拓殖銀行。2回戦の秋田市・秋田相互銀行戦で2回、秋田に3点奪われたがその裏、二死三塁に竹内が左翼本塁打すると、続く海老名以下が5連続短長打して打者10人で一気に5点。6回にも4安打と2四球の打者9人で4点と試合を一方的とした。安打は19本だった。



和歌山対磐田。和歌山の嶋田、9回に逆転の3ラン

逆転！サヨナラ本塁打

史上4本目の逆転サヨナラ本塁打を放った和歌山市・住友金属の嶋田捕手。準々決勝の対磐田市・ヤマハ発動機戦で1点をリードされた9回の裏。二死から筒井、篠崎の安打が続き、ここで打席に入ったのが嶋田。磐田のベテラン鈴木投手の初球を左翼席に打ち込んだ。

嶋田といえば箕島高が春夏連覇を成しとげたときの第61回夏の大会で星稜高に延長12回1点を奪われながら、その裏同点の本塁打、結局箕島が競り勝ったが「3年前の甲子園を思い出した」と社会人では初めての味をかみしめていた。

1回戦

釜石市 (新日鉄釜石)	2	3	0	1	0	1	2	1	0	10
丸亀市 (大倉工業)	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4

【釜石市】	打安点	【丸亀市】	打安点
⑧ 早永若日坂吉長田中沢場池藤	4 0 1 4 3 3 4 3 4 5 1 0 1 0 0 2 0 0 3 0 1 4 1 0 4 2 0 1 1 1 1 0 0 1 0 0	⑥ 堀江和木藤林西中東緒高植土中八館奥村	4 0 0 3 1 0 3 1 1 4 1 0 4 0 0 0 0 0 4 1 0 2 0 0 1 0 0 3 1 3 0 0 0 1 0 0 2 1 0 0 0 0 1 0 0 1 0 0 3 3 6 4
振球機盗失残併	5 12 4 1 0 13 0	振球機盗失残併	11 3 0 2 1 5 0
投手 回 安責	2 2 3	投手 回 安責	7 4 1
佐藤 7 4 1		佐藤 7 4 1	

▽本塁打 高畑1号③ (大場)▽三塁打 永野若	1 1/2	5 5
田沢▽二塁打 永野若	1 1/2	2 2
機2▽3時間12分	2 1/2	3 0
1回戦	2 1/2	1 1

佐賀関町 (日本鉱業佐賀関)	0	2	0	0	4	0	0	0	0	6
川崎市 (東芝)	0	0	0	4	2	0	1	0	X	7

【佐賀関町】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 古伏屋原	3 2 0 5 0 0	④ 宮崎林	4 1 1 4 2 0
⑧ 児玉大野	2 0 1 4 0 0	③ 武智本	4 1 0 4 1 0
② 羽田近原	4 1 2 4 1 0	⑦ 青飯原	1 1 0 1 0 0
⑤ 吉野原上	4 1 1 3 2 2	⑤ 飯田	1 1 1 3 2 2
③ 野岩山藤山岩山村	1 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0	⑧ 紙沢森木	1 0 0 1 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0
振球機盗失残併	11 4 1 0 2 5 1	振球機盗失残併	2 5 5 1 3 8 0
投手 回 安責	3 1/2 5 2	投手 回 安責	4 3 0
山坂野 1 1/2 2 2		黒紙 4 0 3	
岩野 2 1/2 4 1		佐々川 1 1 1	
山田 1 0 0		青木 4 1 0	
▽本塁打 野上1号 (佐々木)▽二塁打 福本岩尾 青島▽2時間59分	1 1/2	0 1/2	2 3
1回戦	1 1/2	1 1	1 1

横須賀市 (日産自動車)	0	0	0	0	1	0	4	0	5
名古屋市 (電電東海)	0	0	0	2	1	0	0	0	3

【横須賀市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑦ 堀添須賀	3 0 0 1 0 0	⑤ 末武田	2 0 0 3 0 0
⑧ 大白萩	1 1 1 0 0 0	③ 高小湯	4 1 0 3 0 0
⑨ 荻野木	1 0 0 4 2 1	④ 横井	4 1 0 2 1 1
② 杉野木	3 0 0 2 0 0	⑦ 嶋内	1 0 0 2 1 1
③ 鶴前	2 0 0 0 0 0	② 中吉	1 0 0 3 1 1
③ 山口田	1 0 0 1 1 1	① 西田	0 0 0 1 0 0
③ 東	4 2 2 4 0 0	① 井	1 0 0 2 0 0
③ H3 若村米池大関松森	1 0 0 1 0 0 1 0 0 3 1 0	⑧ 浅野	1 0 0 1 0 0 3 0 5 3
振球機盗失残併	8 3 2 2 0 5 0	振球機盗失残併	4 5 2 2 1 7 1
投手 回 安責	1 1 1	投手 回 安責	7 7 6 5
池田 1 1/2 0 2		浜田 7 7 6 5	
石根 1 1/2 0 0		藤井 1 1/2 1 0	
大関 1 1/2 0 0			
森岡 3 0 0			
▽三塁打 杉山 中西▽二塁打 浜田 横井 杉山 村上▽2時間59分	1 1/2	0 0	1 0
1回戦	1 1/2	0 0	1 0

1回戦

和歌山市 (住友金属)	1	3	0	3	2	0	0	0	0	9
浜松市 (日本楽器)	0	1	3	0	0	2	0	0	0	6

【和歌山市】	打安点	【浜松市】	打安点
⑧ 西野村	5 1 1 4 3 1	④ 山本	2 1 0 1 0 0
④ 尻井	4 1 0 5 1 0	① 内米	0 0 0 1 1 2
③ 筒井	4 1 0 5 0 0	① 藤	0 0 0 1 0 0
② 嶋	5 4 0 2 2 0	⑦ 西野	1 0 0 3 0 0
⑦ 三前	2 2 0 1 1 2	⑦ 川野	1 1 0 5 1 0
⑥ H 中田	1 0 0 3 2 4	⑦ 裕	1 1 0 5 0 0
⑥ H 松	2 0 1 0 0 0	⑧ 内武	3 2 4 4 0 0
⑤ H 中	0 0 0 0 0 0	⑤ 阪大	4 0 0 4 0 0
① H 篠	0 0 0 0 0 0	⑤ 中	0 0 0 1 1 0
① R 長谷部	0 0 0 3 7 1 5 9	② H 佐平	2 2 0 1 1 0
振球機盗失残併	7 4 2 3 1 7 1	振球機盗失残併	5 2 1 2 1 7 1
投手 回 安責	6 3 2 0	投手 回 安責	1 1/2 4 4
石井 6 3 2 0		久阪 1 1/2 7 3	
長谷部 3 2 0		③ (米村)▽三塁打 松隈	2 2 2
		▽二塁打 三好 松隈	2 2 2
		伊藤▽3時間26分	2 0
			2 0

熊本市 (電電九州)	4	0	0	0	1	0	0	0	5
磐田市 (ヤマハ発動機)	0	0	0	0	1	1	1	3	6

【熊本市】	打安点	【磐田市】	打安点
⑥ 大加橋	5 2 0 3 1 0	④ 山本	4 3 1 2 0 1
⑧ 橋	1 1 0 4 1 0	⑥ 江本	4 2 0 2 0 0
⑨ 原	1 1 0 4 0 1	⑦ 水場	3 0 0 3 1 1
⑤ 小柴	1 1 0 3 1 3	⑧ 中馬	4 3 3 2 0 0
④ 柴	1 1 0 3 1 1	⑤ 山本	2 0 0 2 0 0
⑨ 勝	2 1 0 1 0 0	② 山本	1 0 0 1 0 0
② H 二端	0 0 0 3 0 0	① H 阿	1 0 0 1 0 0
① H 長足	0 0 0 0 0 0	振球機盗失残併	5 2 4 2 1 5 1
① H 錦	0 0 0 1 0 0	投手 回 安責	5 4 4
振球機盗失残併	5 4 4 2 1 7 1	山本 4 4 1	
投手 回 安責	5 4 2 1 7 1	▽本塁打 久本1号③ (鈴木)野口1号③ (錦野)▽三塁打 大橋▽二塁打 大橋 山本秀野	2 2 2
長足 5 4 2 1 7 1		口▽2時間42分	2 2 2
野田 2 1/2 2 2			
錦野 1 1 1			
岩田 0 0 0			
1回戦	0 0 0		

太田市 (富士重工業)	0	0	1	0	2	0	0	0	3
堺市 (新日鉄堺)	0	0	1	0	0	0	0	0	1

【太田市】	打安点	【堺市】	打安点
⑥ 村田	3 1 0 2 0 0	④ 西垣	4 1 0 4 1 0
⑥ 倉	2 0 0 1 1 3	⑧ 花川	3 0 0 3 0 0
④ 笠	4 1 0 4 0 0	⑨ 藤島	1 0 0 3 0 0
③ 笠	4 0 0 2 0 0	⑦ 浦	3 0 0 3 1 1
⑨ 野	0 0 0 4 2 0	③ 浦	1 0 0 1 0 0
⑧ H 長	3 0 0 3 2 0	⑤ 清	1 0 0 1 0 0
⑤ H 向	3 0 0 3 0 7 3	⑤ 石	1 0 0 1 0 0
振球機盗失残併	6 5 2 0 0 7 0	② H 大	2 0 0 1 1 0
投手 回 安責	9 4 1	① 原	1 0 0 1 0 0
向田 9 4 1		投手 回 安責	5 6 3
		萩原 3 1 0	
		中川 1 0 0	

1回戦

三原市 (三菱重工三原)	0	1	0	0	0	0	1	0	2
電電東京 (推薦・東京都)	0	0	0	0	1	0	0	2	3

【三原市】	打安点	【電電東京】	打安点
⑧ 中村	4 1 0 3 0 0	⑧ 鈴木	2 0 0 4 0 0
⑨ 江藤	4 1 0 3 1 0	⑨ 木野	4 0 0 3 0 0
② 後藤	4 1 1 4 0 0	③ 塚松	0 0 0 4 2 0
③ 佐渡	4 0 0 0 0 0	⑤ 高野	4 1 1 2 0 0
⑦ 長井	3 0 0 3 1 0	④ 橋口	3 1 1 2 1 1
④ 岡	2 0 0 1 1 1	② 竹	1 0 0 0 0 0
① H 岡	0 0 0 0 0 0	① 藤	2 0 0 1 0 0
① H 山	0 0 0 3 1 6 2	⑥ H 丸	0 0 0 0 0 0
振球機盗失残併	6 1 1 2 1 4 1	振球機盗失残併	2 8 5 3
投手 回 安責	7 3 1	投手 回 安責	5 5 1 0 2 6 0
岡野 7 3 1		投竹 8 6 2	
児玉 10 2 2		竹原 1 0 0	
山本 0 0 0		藤原 1 0 0	
▽本塁打 佐々木1号 (竹村)▽2時間46分	1 1/2	0 0	0 0
加藤 1号 (竹村)▽2時間46分	1 1/2	0 0	0 0

1 回戦

札幌市 (電電北海道)

0	2	0	2	5	1	4	0	0	14
4	0	0	0	0	1	2	0	0	7

高知市 (四国銀行)

【札幌市】	打安点	【高知市】	打安点
⑧ 小林彰	2 0 0	⑥ 薬師神	3 0 0
H 8 沢田	2 2 3	⑤ 板東	3 2 0
④ 長石	6 4 1	⑤ 森	0 0 0
⑤ 佐々木	5 1 2	③ 刈谷	4 1 0
① 1 植木	1 0 0	③ 西	4 1 2
⑦ 9 黒井	4 0 0	⑦ 9 阿部	5 3 1
H 9 黒石	4 2 1	⑦ 9 元橋	0 0 0
③ 3 日比野	4 2 1	H 9 小溝	2 1 0
③ 3 植上	1 0 0	④ 4 小溝	1 0 0
⑨ 7 吉寺	4 2 0	④ 2 森	1 1 2
⑥ 6 小寺	5 4 2	④ 2 沖	1 0 0
② 2 小林	2 1 1	② 2 古	1 0 0
① 1 浅川	0 0 0	① 1 山	1 0 0
H 1 浅川	1 1 0	H 1 武	1 0 0
1 1 黒山	1 0 0	1 1 瀧	1 0 0
1 1 黒山	1 1 2	1 1 宮	1 0 0
H 5 砂	1 0 1	1 1 高	0 0 0

振球権盗失残併	4 4 2 0 1 4	振球権盗失残併	3 0 9 5		
3 4 3 6 1 1 0 1		4 1 0 2 6 1 8 0			
投手	回	安責	投手	回	安責
小林	2	2	山	4	8 4
浅川	2	2	滝	2	9 1 0
黒山	0	0	本	0	1 0
黒山	3	2 1	尾	1	1 0
樋	3	3 2	高	1	1 0
▽本塁打	寺田1号②(山本)	日比野1号(滝下)			
森本1号(山本)	▽三塁打	長沢	黒	▽二塁打	
西山本(札)	寺田	▽3時間	30分		

2 回戦

電電東京 (推薦・東京都)

0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	3	0	0	0	0	0	0	0	3

釜石市 (新日鉄釜石)

【電電東京】	打安点	【釜石市】	打安点
⑧ 木野	4 1 0	⑧ 瀬野	3 1 0
⑨ 鈴	4 0 0	④ 水	4 1 0
③ 3 塚	4 0 0	⑦ 7 若	4 0 0
⑦ 7 石	4 1 0	⑦ 7 槻	4 0 0
⑤ 5 高山	4 2 1	② 2 高	4 1 0
④ 4 末	3 1 0	② 2 本	2 1 0
② 2 末	3 0 0	⑤ 5 高	1 0 0
① 1 竹	3 1 0	⑤ 5 田	1 0 0
1 1 長	0 0 0	⑥ 6 田	3 0 0
1 1 高	2 0 0	① 1 大	3 1 3
H 6 根	2 0 0		2 9 5 3
6 根	0 0 0		

2 回戦

金沢市 (電電北陸)

1	1	0	0	0	2	0	0	0	4
1	0	0	0	1	0	1	0	0	3

京都市 (日本新薬)

【金沢市】	打安点	【京都市】	打安点
⑧ 新	4 1 1	⑧ 原	2 0 0
⑥ 6 北	3 0 0	H 8 田	1 1 0
⑨ 9 山	3 0 0	④ 4 臨	1 0 0
H 9 飯	0 0 0	④ 4 倉	3 0 1
③ 3 高	1 1 0	③ 3 道	4 2 1
③ 3 丸	5 2 1	⑨ 9 小	2 0 1
⑦ 7 松	3 1 0	② 2 西	1 0 0
R 7 野	1 0 0	② 2 山	3 1 0
④ 4 野	2 2 0	R 6 岡	0 0 0
⑤ 5 佐	3 1 1	⑦ 7 浜	0 0 0
② 2 坂	3 1 1	⑦ 7 小	4 1 0
① 1 柳	3 1 0	⑥ 6 田	1 0 0
H 1 柳	1 0 0	⑤ 5 中	2 0 0
1 1 柳	0 0 0	① 1 井	1 0 0

2 回戦

2 回戦

川崎市 (東芝)

2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
0	1	1	0	0	3	0	0	×	5

横須賀市 (日産自動車)

【川崎市】	打安点	【横須賀市】	打安点	
④ 4 宮	4 1 0	⑦ 7 堀	3 1 0	
⑥ 6 吉	2 1 0	⑥ 6 添	2 0 0	
H 6 新	1 0 0	④ 4 須	3 1 1	
③ 3 武	0 0 0	⑨ 9 大	3 1 0	
⑦ 7 福	3 1 0	② 2 杉	1 0 0	
⑨ 9 池	4 0 0	③ 3 鶴	4 1 0	
R 9 青	4 2 3	⑤ 5 米	4 1 0	
⑨ 9 前	3 3 0	① 1 池	4 1 0	
⑧ 8 田	1 0 0	H 1 白	1 1 1	
H 1 黒	4 1 0	⑧ 8 関	2 1 3	
① 1 黒	2 1 0		2 6 7 5	
H 1 黒	1 0 0	振球権盗失残併	1 4 4 0 1 5 2	
② 2 水	1 0 0	投手	回	安責
H 2 沢	2 0 0	黒	2	3 0
2 沢	1 0 0	青	2	7 1
	0 0 0			

振球権盗失残併	6 1 1 3 2 5 1	▽本塁打	青島1号(関根)			
投手	回	安責	▽二塁打	関根	宮崎	▽2
黒	6	7 2				
青	2	0 0	時間	56分		

2 回戦

和歌山市 (住友金属)

1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
1	0	1	0	0	0	1	0	0	3

神戸市 (川崎重工)

【和歌山市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑧ 8 村	4 1 1	⑧ 8 林	3 2 0
④ 4 野	3 0 0	⑥ 6 武	6 0 0
H 4 中	1 1 0	⑤ 5 市	6 1 0
R 4 黒	0 0 0	⑦ 7 水	5 2 1
④ 4 田	1 0 0	③ 3 大	5 1 1
③ 3 井	5 2 0	④ 4 木	5 1 0
② 2 山	5 2 1	② 2 浜	0 0 0
⑦ 7 好	5 0 0	② 2 荒	3 1 0
限	4 1 0	⑨ 9 生	4 2 0
中	2 0 0	① 1 長	0 0 0
杉	0 0 0	H 1 藤	2 0 0
井	3 1 0	1 藤	1 0 0
谷	0 0 0	1 西	1 0 0
部	0 0 0		4 1 1 0 2

2 回戦

磐田市 (ヤマハ発動機)

0	3	1	2	0	0	2	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0

太田市 (富士重工業)

【磐田市】	打安点	【太田市】	打安点	
④ 4 山	4 0 0	⑥ 6 富	4 0 0	
⑥ 6 矢	5 1 2	⑨ 9 藤	4 1 0	
⑦ 7 水	5 2 0	③ 3 野	4 0 0	
③ 3 中	2 2 1	④ 4 木	4 1 0	
⑤ 5 馬	3 0 0	⑦ 7 野	2 0 0	
⑨ 9 山	3 1 1	H 7 畑	1 0 0	
② 2 野	3 1 1	⑧ 8 笠	3 2 0	
① 1 藤	4 3 2	⑤ 5 松	3 0 0	
① 1 藤	2 0 0	② 2 長	2 0 0	
	3 1 9 7	① 1 増	1 0 0	
振球権盗失残併	4 4 4 1 0 4 1	H 1 岩	0 0 0	
投手	回	安責	H 1 切	0 0 0
鈴	9	4 0	H 1 山	1 0 0
			H 1 沢	0 0 0
			H 1 谷	0 0 0
			H 1 岸	1 0 0
			H 1 橋	0 0 0

2 回戦

2 回戦

大阪市 (日本生命)

0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
0	0	1	0	0	0	0	0	1	3

福山市 (日本鋼管福山)

【大阪市】	打安点	【福山市】	打安点			
④ 4 赤	4 1 0	⑨ 9 今	3 0 0			
⑧ 8 更	4 2 0	⑧ 8 岡	2 1 0			
⑦ 7 安	3 0 0	④ 4 浦	4 1 0			
⑦ 7 磯	1 0 0	⑦ 7 木	3 1 0			
⑤ 5 林	3 0 0	H ⑥ 6 六	0 0 0			
⑨ 9 内	4 1 1	⑥ 6 木	5 2 2			
⑥ 6 井	3 0 0	⑤ 5 条	4 2 1			
③ 3 内	4 1 1	③ 3 村	4 1 0			
② 2 井	3 1 0	② 2 部	4 1 0			
① 1 伊	1 0 0	① 1 松	2 0 0			
	3 3 6 2	H ① 1 若	1 0 0			
振球権盗失残併	2 2 1 1 0 4 1	H ① 1 藤	1 0 0			
投手	回	安責	振球権盗失残併	3 7 1 0 3		
伊	8	8 2	5 2 1 2 1 8 3			
加	2	2 1	投手	回	安責	
			投	田	井	安
			田	井	井	責

▽本塁打	佐竹1号(田村)	若松2号(伊藤)	▽2時間	25分
------	----------	----------	------	-----

2 回戦

秋田市 (秋田相互銀行)

0	3	0	0	1	0	0	0	4
0	5	0	0	1	4	3	1	14

札幌市 (北海道殖産銀行)

【秋田市】	打安点	【札幌市】	打安点
③ 3 齋	3 0 1	⑧ 8 尾	5 3 2
④ 4 藤	4 1 0	③ 3 中	3 1 1
⑦ 7 福	4 0 0	R 3 大	0 0 0
⑧ 8 佐	4 3 0	④ 4 水	0 0 0
⑥ 6 曲	4 3 1	⑥ 6 山	4 3 5
⑨ 9 佐	3 1 0	⑦ 7 坂	3 0 1
H 9 熊	1 0 0	④ 4 高	3 1 0
② 2 熊	3 0 0	⑨ 9 岡	1 0 0
H 2 渡	1 0 0	⑦ 7 塚	3 1 0
① 1 高	1 1 2	R 9 大	2 2 0
1 小	2 1 0	② 2 石	4 2 3
H 1 及	0 0 0	⑤ 5 竹	4 3 1
1 千	1 0 0	① 1 老	0 0 0
H 1 千	0 0 0	① 1 中	4 3 1
⑤ 5 堀	2 0 0		3 6 1 9 4

2 回戦

東京都 (明治生命)

0	0	0	0	0	0	0	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0

札幌市 (電電北海道)

【東京都】	打安点	【札幌市】	打安点		
⑦ 7 門	4 1 1	⑦ 7 長	4 2 0		
⑤ 5 間	3 0 0	④ 4 右	3 0 0		
H 5 十	1 1 0	⑤ 5 々	2 0 0		
R 5 土	0 0 0	H ⑤ 5 木	1 0 0		
⑤ 5 石	1 0 0	③ 3 黒	3 0 0		
⑨ 9 土	1 0 0	③ 3 日	4 2 0		
⑤ 5 野	3 0 0	⑥ 6 比	4 1 0		
③ 3 中	4 2 0	⑧ 8 原	2 0 0		
⑧ 8 渡	3 1 0	⑥ 6 田	3 1 0		
③ 3 森	4 1 0	② 2 上	0 0 0		
H 9 片	1 1 0	② 2 寺	3 0 0		
⑧ 8 成	4 1 0	⑨ 9 石	3 0 0		
H 9 藤	3 1 1	① 1 小	0 0 0		
④ 4 野	0 0 0	H ① 1 林	3 0 0		
R 4 久	0 0 0	① 1 樋	0 0 0		
② 2 藤	2 1 0		2 9 6 0		
① 1 中	4 0 0	振球権盗失残併	1 2 3 1 0 1 6 0		
	3 3 9 2	投手	回	安責	
振球権盗失残併	6 3 2 0 0 9 2	小	8	8 2	
投手	回	安責	樋	1	1 0
秋	3	4 3			
関	3	2 2			
谷	2	3 1			
橋	1	0 0			

和歌山市

(住友金属)

Table listing names and numbers for Wakayama City (住友金属).

釜石市

(新日鉄釜石)

Table listing names and numbers for Kamaishi City (新日鉄釜石).

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City (日本通運).

川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (東芝).

推薦・東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo (電電東京).

秋田市

(秋田相互銀行)

Table listing names and numbers for Aomori City (秋田相互銀行).

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo (熊谷組).

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City (日本石油).

札幌市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City (電電北海道).

太田市

(富士重工業)

Table listing names and numbers for Maebashi City (富士重工業).

東京都

(明治生命)

Table listing names and numbers for Tokyo (明治生命).

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka City (日産自動車).

札幌市

(北海道拓殖銀行)

Table listing names and numbers for Sapporo City (北海道拓殖銀行).

和光市

(本田技研)

Table listing names and numbers for Wakuhou City (本田技研).

東京都

(東京ガス)

Table listing names and numbers for Tokyo (東京ガス).

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (日本楽器).

磐田市 金沢市 神戸市 高知市

(ヤマハ発動機)

Table listing names and numbers for磐田市 (Iwata City) under the Yamaha Motor Company category.

(電電北陸)

Table listing names and numbers for金沢市 (Kanazawa City) under the Teiten Hokuriku category.

(三菱重工神戸)

Table listing names and numbers for神戸市 (Kobe City) under the Mitsubishi Heavy Industries Kobe category.

(四国銀行)

Table listing names and numbers for高知市 (Kochi City) under the Shikoku Bank category.

長野市

(電電信越)

Table listing names and numbers for長野市 (Nagano City) under the Teiten Shinetsu category.

京都市

(日本新薬)

Table listing names and numbers for京都市 (Kyoto City) under the Nippon Shinyaku category.

福山市

(日本鋼管福山)

Table listing names and numbers for福山市 (Fukuoka City) under the Nippon Steel Fukuoka category.

丸亀市

(大倉工業)

Table listing names and numbers for丸亀市 (Marugame City) under the Okura Industry category.

鈴鹿市

(本田技研鈴鹿)

Table listing names and numbers for鈴鹿市 (Suzuka City) under the Honda R&D Suzuka category.

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for大阪市 (Osaka City) under the Nippon Seimei category.

堺市

(新日鉄堺)

Table listing names and numbers for堺市 (Sakai City) under the Nippon Steel Sakai category.

佐賀関町

(日本鋳業佐賀関)

Table listing names and numbers for佐賀関町 (Sagami Town) under the Nippon Casting Sagami category.

名古屋市

(電電東海)

Table listing names and numbers for名古屋市 (Nagoya City) under the Teiten Tohoku category.

神戸市

(川崎重工)

Table listing names and numbers for神戸市 (Kobe City) under the Kawasaki Heavy Industries category.

三原市

(三菱重工三原)

Table listing names and numbers for三原市 (Miyahara City) under the Mitsubishi Heavy Industries Miyahara category.

熊本市

(電電九州)

Table listing names and numbers for熊本市 (Kumamoto City) under the Teiten Kyushu category.

2 回戦

門真市 (松下電器)

0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4
0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	5

川崎市 (三菱自動車川崎)

【門真市】	打安点	【川崎市】	打安点
④ 野尻	4 2 2	④ 松野	4 1 1
⑤ 楠林	5 0 0	⑤ 須賀川	4 0 0
⑥ 田嶋	5 1 0	⑥ 大玉	6 4 2
⑦ 島前	5 2 0	⑦ 角	5 1 0
⑧ 北北	5 1 0	⑧ 小島	6 3 1
⑨ 大北	5 2 0	⑨ 小田	4 3 0
⑩ 原	4 0 0	⑩ 吉田	1 0 0
⑪ 安藤	2 2 0	⑪ 对米	2 0 0
⑫ 藤岡	1 1 0	⑫ 清三	3 2 0
⑬ 塚平	0 0 0	⑬ 小笠	0 0 0
⑭ 岡	0 0 0	⑭ 野部	1 0 0
⑮ 岡	1 0 0	⑮ 岡部	1 0 1
⑯ 岡	4 2 2	⑯ 阿部	1 0 1
⑰ 岡	4 1 1 4	⑰ 阿部	2 1 0

振球機盗失残併 4 2 2 0 0 8 0

投手 回 安責

北原 5 7 1

安塚 2 2 1/2 5 3

藤岡 2 1/2 0 0

岡 2 1/2 3 1

▽本塁打 五川1号(原) 三塁打 北口▽二塁打 平岡 前嶋 小川2▽3時間26分

準々決勝

浦和市 (日本通運)

5	1	0	0	0	1	1	0	0	8
0	0	0	2	1	1	0	1	2	7

東京都 (東鉄)

【浦和市】	打安点	【東京都】	打安点
④ 望月	3 1 0	⑧ 麻生	4 0 0
⑤ 金丸	3 0 0	⑨ 山口	1 1 0
⑥ 辻	4 0 0	⑩ 井田	4 1 1
⑦ 伊藤	4 3 2	⑪ 増田	1 0 0
⑧ 岡田	4 1 1	⑫ 小上	4 2 0
⑨ 岡本	4 1 2	⑬ 上渡	5 3 4
⑩ 辻村	4 2 1	⑭ 根地	3 1 0
⑪ 辻村	0 0 0	⑮ 高内	0 0 0
⑫ 中横	5 2 2	⑯ 山田	2 0 0
⑬ 佐水	2 0 0	⑰ 内水	0 0 0
⑭ 清	1 1 0	⑱ 小八	3 0 1
⑮ 清	2 1 0	⑲ 梅沢	3 3 1
⑯ 清	0 0 0	⑳ 谷田	1 0 0
⑰ 清	0 0 0	㉑ 森富	0 0 0
⑱ 清	0 0 0	㉒ 福	0 0 0
⑲ 清	3 6 1 2 8	㉓ 福	3 2 1 1 7

振球機盗失残併 4 6 3 6 0 10 1

投手 回 安責

中佐 5 5 3

佐水 3 6 4

清 1/2 0 0

▽本塁打 上地1号②(中後) 杉本1号(渋谷) 上地2号②(佐山) 三塁打 山口▽二塁打 渡辺 小松 小八重 福

▽3時間7分

準々決勝

東海市 (新日鉄名古屋)

2	0	2	0	0	1	0	0	0	5
0	0	0	1	0	1	0	0	0	2

大阪市 (日本生命)

【東海市】	打安点	【大阪市】	打安点
⑤ 水谷	4 0 0	④ 赤井	5 1 0
⑥ 小前	3 1 0	⑤ 藤本	5 1 0
⑦ 杉伊	2 1 0	⑥ 森佐	4 1 1
⑧ 伊小	5 2 1	⑦ 内井	4 1 0
⑨ 小中	2 1 3	⑧ 佐藤	4 1 0
⑩ 小渡	4 0 0	⑨ 井野	4 2 0
⑪ 渡	3 1 0	⑩ 藤西	3 1 0
⑫ 渡	4 1 0	⑪ 藤西	4 1 1
⑬ 渡	3 0 1	⑫ 藤西	0 0 0
⑭ 渡	3 0 7 5	⑬ 藤西	0 0 0

振球機盗失残併 5 7 3 1 0 8 0

投手 回 安責

渡辺 9 10 2

▽二塁打 伊藤 井尻 花野 内田▽2時間35分

準々決勝

姫路市 (新日鉄広畑)

0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	3	0	3

川崎市 (三菱自動車川崎)

【姫路市】	打安点	【川崎市】	打安点
④ 正田	4 2 1	④ 野野	3 1 0
⑤ 田辺	2 0 0	⑤ 松須	4 2 0
⑥ 西川	0 0 0	⑥ 大玉	2 0 0
⑦ 西尾	1 0 0	⑦ 角	3 0 0
⑧ 高野	4 0 0	⑧ 島原	1 0 0
⑨ 尾瀨	2 1 0	⑨ 小笠	0 0 0
⑩ 黒原	2 0 0	⑩ 藤原	4 0 0
⑪ 植村	1 1 3	⑪ 藤原	0 0 0
⑫ 中村	1 1 0	⑫ 藤原	3 1 2
⑬ 西村	4 0 0	⑬ 藤原	0 0 0
⑭ 藤高	3 0 0	⑭ 藤原	1 0 0
⑮ 西村	1 0 0	⑮ 藤原	2 0 0
⑯ 藤高	3 1 0	⑯ 藤原	3 0 0
⑰ 藤高	3 2 6 4	⑰ 藤原	1 1 0

振球機盗失残併 5 3 0 1 1 4 2

投手 回 安責

西村基 6 1/2 5 0

藤高 2 2/2 1 0

▽本塁打 黒田純1号③(上野) 正田1号(三宮) 二塁打 正田 土江 服部▽2時間37分

準々決勝

川崎市 (東芝)

0	0	2	5	0	0	0	1	0	8
0	0	0	1	0	0	0	1	0	2

川崎市 (日本鋼管)

【東芝】	打安点	【鋼管】	打安点
⑥ 新田	3 2 1	⑧ 関	4 0 0
⑦ 木孝	1 0 0	⑨ 田江	3 0 0
⑧ 池田	1 0 0	⑩ 野上	0 0 0
⑨ 鶴鈴	1 1 0	⑪ 井植	0 0 0
⑩ 青島	4 2 1	⑫ 前川	0 0 0
⑪ 武青	2 2 2	⑬ 久保	3 2 0
⑫ 福曾	5 2 4	⑭ 保生	2 1 0
⑬ 曾田	3 0 0	⑮ 林田	4 1 0
⑭ 伊藤	2 0 0	⑯ 高田	3 1 1
⑮ 安村	2 0 0	⑰ 高田	1 0 0
⑯ 宮田	3 0 0	⑱ 中松	1 0 0
⑰ 池田	1 0 0	⑲ 森中	0 0 0
⑱ 岡	1 0 0	⑳ 飯	2 1 0
振球機盗失残併	3 5 1 2 8	㉑ 飯	1 0 0

振球機盗失残併 1 5 4 1 0 9 3

投手 回 安責

池田親 5 4 1

岡田 4 2 1

▽二塁打 福本 鈴木 三時間1分

準決勝

東海市 (新日鉄名古屋)

0	2	3	0	1	0	0	0	0	6
0	0	1	0	0	0	0	0	1	2

浦和市 (日本通運)

【東海市】	打安点	【浦和市】	打安点
⑤ 水谷	4 1 0	⑥ 望月	2 0 0
⑥ 小前	4 0 0	⑦ 月長	3 0 0
⑦ 杉伊	4 3 1	⑧ 丸伯	1 0 0
⑧ 伊小	0 0 0	⑨ 佐佐	0 0 0
⑨ 小中	0 0 0	⑩ 辻	2 1 1
⑩ 小渡	2 0 0	⑪ 藤田	4 1 0
⑪ 小渡	4 1 3	⑫ 井島	3 0 0
⑫ 小渡	4 1 0	⑬ 本水	1 0 0
⑬ 小渡	4 1 2	⑭ 沼後	4 1 0
⑭ 小渡	4 0 0	⑮ 山本	4 0 0
⑮ 小渡	4 0 0	⑯ 水沼	1 0 0
⑯ 小渡	3 4 7 6	⑰ 後山	0 0 0

振球機盗失残併 5 2 0 0 1 3 0

投手 回 安責

渡辺 9 4 1

▽本塁打 中村1号②(清水) 前田2号(清水) 伊藤1号③(清水) 二塁打 辻▽2時間18分

準決勝

姫路市 (新日鉄広畑)

0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
2	0	0	0	5	1	0	1	×	9

川崎市 (東芝)

【姫路市】	打安点	【川崎市】	打安点
④ 正田	3 1 0	⑥ 新田	5 2 0
⑤ 田辺	3 1 0	⑦ 木辺	2 1 1
⑥ 西川	0 0 0	⑧ 武智	2 1 1
⑦ 西尾	4 3 2	⑨ 島本	4 0 0
⑧ 高野	3 0 0	⑩ 武本	4 3 2
⑨ 尾瀨	0 0 0	⑪ 福本	3 3 2
⑩ 黒原	3 2 2	⑫ 宮本	3 1 2
⑪ 植村	0 0 0	⑬ 安岡	1 0 0
⑫ 中村	3 2 2	⑭ 安岡	1 0 0
⑬ 西村	0 0 0	⑮ 池田	0 0 0
⑭ 藤高	3 0 0	⑯ 川端	2 0 0
⑮ 藤高	1 0 0	⑰ 黒紙	1 0 0
⑯ 藤高	2 0 0	⑱ 伊藤	3 0 0
⑰ 藤高	1 0 0	㉑ 伊藤	3 0 0
⑱ 藤高	1 0 0	振球機盗失残併	6 4 4 1 2 6 1
⑲ 藤高	2 0 0	投手 回 安責	4 2 2
⑳ 藤高	1 0 0	黒田 4 4 2 1	2 1
㉑ 藤高	1 0 0	池田 3/2 2 1	2 0
㉒ 藤高	1 0 0	川端 4 1/2 2 0	
㉓ 藤高	3 1 8 4		

振球機盗失残併 10 2 2 1 3 4 1

投手 回 安責

西村基 3 1/2 5 0

藤高 4 3/2 6 1

▽本塁打 高野1号②(黒紙) 宮崎1号②(藤高) 三塁打 田辺 新木▽二塁打 植村 福本▽2時間42分

応援コンクールでも最優秀賞となった川崎・東芝。おなじみのサザエさん一家も総出て熱演



川崎市 釜石市 浦和市 東京都

芝浦明法講義... 芝浦明法講義... 芝浦明法講義...

新日鉄釜石... 新日鉄釜石... 新日鉄釜石...

日本通運... 日本通運... 日本通運...

東鉄... 東鉄... 東鉄...

推薦・和歌山市

山伊藤... 山伊藤... 山伊藤...

仙台市

大商高... 大商高... 大商高...

和光市

久駒法... 久駒法... 久駒法...

川崎市

早明... 早明... 早明...

室蘭市

北佐伊... 北佐伊... 北佐伊...

鹿島町

三井... 三井... 三井...

東京都

勝40... 勝40... 勝40...

川崎市

野宮... 野宮... 野宮...

小牧市

平山... 平山... 平山...

太田市

野中... 野中... 野中...

東京都

慶高... 慶高... 慶高...

浜松市

駒安... 駒安... 駒安...

浜松市 名古屋市 門真市 光市

Table for Hamamatsu City (河合楽器) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

Table for Nagoya City (電電東海) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

Table for Fushimi City (松下電器) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

Table for Mitsugi City (新日鉄光) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

長野市

Table for Nagano City (電電信越) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

京都市

Table for Kyoto City (三菱自動車京都) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

神戸市

Table for Kobe City (川崎製鉄神戸) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

松山市

Table for Matsuyama City (電電四国) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

名古屋市

Table for Nagoya City (国鉄名古屋) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

大阪市

Table for Osaka City (日本生命) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

姫路市

Table for Himeji City (新日鉄広畑) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

熊本市

Table for Kumamoto City (九州産交) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

東海市

Table for Toyouke City (新日鉄名古屋) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

堺市

Table for Sakai City (新日鉄堺) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

福山市

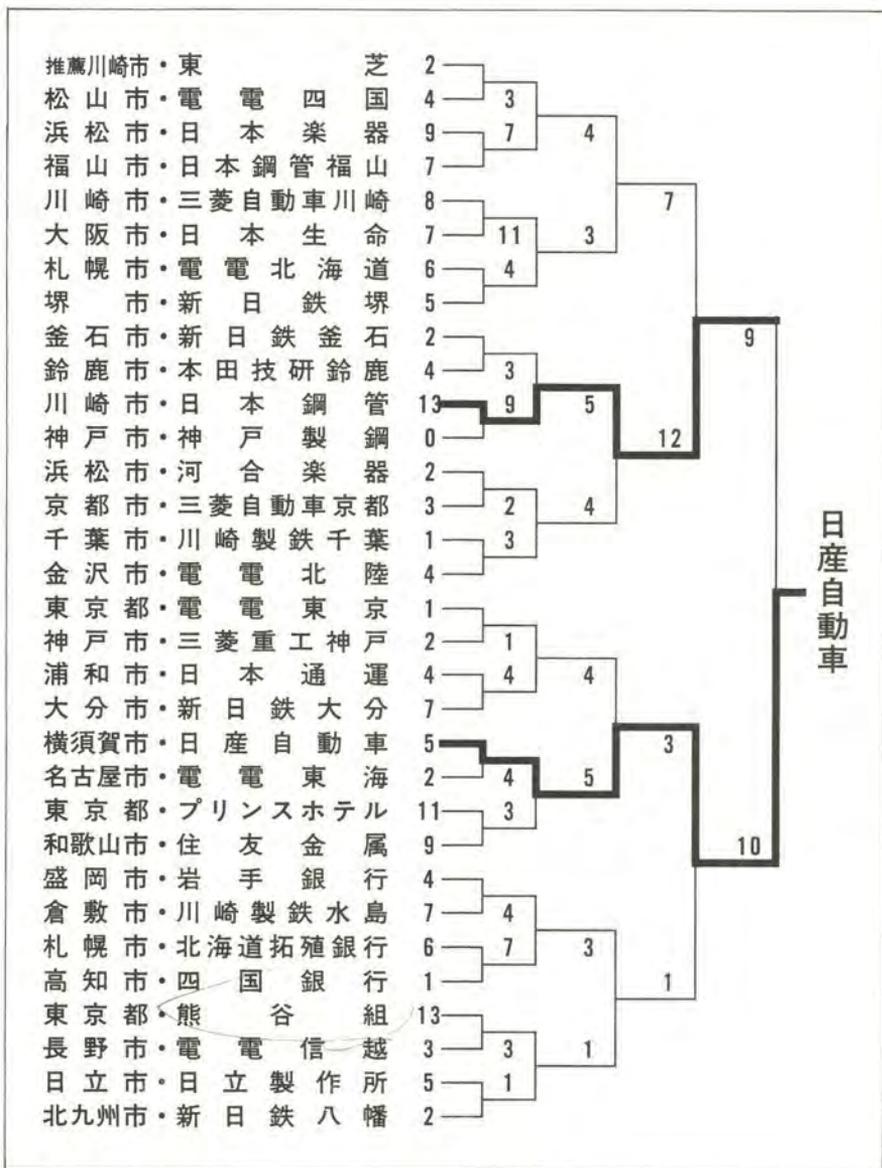
Table for Fuyuki City (日本鋼管福山) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

鹿児島市

Table for Kagoshima City (鹿児島鉄道局) listing names and numbers for various positions like 監督, 投手, 捕手, 内野, 外野.

第55回大会

1984年(昭和59年)7月24日 - 8月3日・後楽園球場
優勝=横須賀市・日産自動車



横須賀市・日産自動車が初優勝し、黒獅子旗を握った。創部26年目の宿願達成である。

7月24日開幕した大会は、第23回ロサンゼルス・オリンピック（現地28日午後、日本時間29日午前開幕）と並行して行われ、決勝は横須賀と川崎市・日本鋼管の神奈川同士が対戦した。両チームの決勝対決は第44回大会以来11年ぶり2度目で、試合は二転三転、強打の応酬で激しいシーソーゲームを展開し、横須賀が10-9で川崎を振り切った。

決勝戦での両チームの安打は、合計33本、本塁打4本。優勝した横須賀は、5試合で157打数50安打、チーム打率3割1分8厘、本塁打6を記録した。川崎は166打数56安打、チーム打率は3割3分7厘、本塁打11本で、“ハガネ打線”の名をほしいままにしたが、あと一歩及ばず涙をのんだ。

フィナーレを打撃戦で飾ったこの大会は、初日の1回戦3試合を15本塁打で幕開け。まさに打撃の大会、ホームランの大会であった。完封試合はわずか1試合。1回戦で川崎・日本鋼管の左腕・古川利行投手が、神戸市・神戸製鋼を7回完封（コールド）しただけだった。

本塁打は開幕試合から準決勝第1試合まで、29試合連続でとび出し、本塁打が出なかった試合は、準決勝第2試合の横須賀・日産自動車-札幌市・北海道拓殖銀行の1試合だけで、大会の本塁打総数は78本。62本の従来の記録を軽く抜いた。78本の中には、都市対抗通算「1000号」が生まれ、2打席連続本塁打を記録した選手は4人にのぼった。川崎市・日本鋼管の前川善裕外野手は、3本の本塁打を放ち、個人通算最多本塁打タイの「9本」を記録した。

橋戸賞は横須賀市・日産自動車の若山哲男内野手が受賞。久慈賞は川崎市・日本鋼管・前川善裕外野手、小野賞は粘りの野球でベスト4に進んだ札幌市・北海道拓殖銀行に贈られた。若獅子賞は大分市・新日鉄大分の岩切利治投手が受賞した。

公開競技のロス五輪に参加した社会人と学生選抜の全日本チームは、決勝で米国を破って優勝した。黒獅子旗を獲得した横須賀市・日産自動車を中心とした全日本は、10月キューバのハマナで開かれた第28回世界選手権に参加、決勝リーグ3勝4敗で4位に終わった。

打った打った！本塁打78本



田中監督を胴上げして喜ぶ日産自動車ライン

決勝

横須賀市 (日産自動車)									
0	2	0	0	0	0	3	5	0	10
1	0	0	0	1	2	0	4	1	9
川崎市 (日本鋼管)									

【横須賀市】	打安点振球	【川崎市】	打安点振球
⑤ 米田	4 2 1 0 1	③ 早川	5 4 0 0 1
⑦ 堀添	4 2 2 0 1	R 豊田	0 0 0 0 0
⑧ 大鶴	5 2 4 0 0	④ 中田	4 2 2 0 0
⑨ 岡山	5 3 1 1 0	⑤ 磯部	5 1 0 0 1
④ 杉山	5 0 0 2 0	⑦ 前川	5 3 4 1 0
③ 若村	5 3 0 0 0	⑨ 金保	5 1 1 0 0
② 村上	2 2 0 0 0	⑥ 羽生	4 0 0 1 1
⑥ 土久	2 0 0 0 2	⑧ 小林	0 0 0 0 0
① 藤大	1 0 0 1 1	8 元	5 2 1 0 0
1 H 保	0 0 0 0 0	② 岡政	0 0 0 0 0
R 大金	1 1 1 0 0	① 松井	4 2 1 1 1
1 高橋	0 0 0 0 0	① 古川	3 1 0 1 0
1 高大	1 1 1 0 0	H 里木	0 0 0 0 0
1 石	1 0 0 0 0	H 8 野	2 1 0 0 0
	361610 4 5		4217 9 4 4

犠盗失残併	4 1 3 8 1	犠盗失残併	2 1 0 12 1
投手	5 0 28 10 2 4 4	投手	6 2 31 10 3 3 5
久保	1 4 1 0 0 0	古里	1 1 9 5 0 1 5
藤川	1 1 9 4 2 0 2	山岡	1 5 1 1 1 0
高橋	1 2 7 2 0 0 1		
高大	1 2 7 2 0 0 1		
▽本塁打	秋元1号(久保)	大野2号③(里木)	中田1号②(高橋)
	松井1号(大石)	▽二塁打	早川
	村上▽3時間52分		



開幕戦の東芝対松山。9回松山は夕部が左越えダメ押しの本塁打。前年王者の東芝敗退

合計33安打の壮烈逆転劇

逆転に次ぐ逆転で、最後まで勝敗の行方のわからない打撃戦。4回から雷鳴をとまなう激しい雨が降った。

1回、前川の適時打で川崎市・日本鋼管が先行したが、横須賀市・日産自動車も2回に反撃、二死満塁に堀添が一・二塁間を破り逆転した。川崎は5回二死後、秋元が左翼本塁打して同点、6回には二死二・三塁に前川が右前に2点適時打して再びリードした。

しかし横須賀は7回、先頭の村上が安打、代打大久保、大野、鶴岡が古川を打ち込んでまた逆転。さらに8回には、若山の左前打を皮切りに高橋、米田の適時打で2点。なおも二死一・二塁に大野が左中間に3ランを放ち、一挙5点を加えた。



決勝。5回川崎は秋元が同点本塁打を放った

川崎はその裏、代打島野が内野安打し、中田が左翼2ラン。磯部三ゴロ失のあと、前川の二塁打、金久保は右前打で4点。さらに9回には、松井が左翼本塁打して1点差とつめ寄ったが、わずかに及ばなかった。

センター返しで1000号

大会通算1000号本塁打を記録したのは倉敷市・川崎製鉄水島の渡辺和生外野手(三菱自動車水島から補強)。青学大を卒業してリッカーに入社、3番打者として活躍したが、休

部のため三菱自動車に移った選手だ。

1回戦の盛岡市・岩手銀行戦の1点を先取された1回裏、一死二塁で打席に入った渡辺は「センター返し」を狙ったというが、その一打はバックスクリーンに飛び込む超特大の逆転2ラン。

“古巣”のリッカーは5日前に事実上倒産したのだが、そのショックをも吹き飛ばす一発だった。

創立50年、背番号も50に

優勝した横須賀市・日産自動車は、昨年が会社創立50周年。田中久幸監督は背番号を「50」に変え、心中期するものがあつたが、思いもよらぬ予選敗退。

精神面の強化をはかるため、座禅やミソギを取り入れたりした。エースだった池田がプロ入りしてポッカー穴があき、目立った補強もなかったが、全員が一丸となって晴れ舞台で100%以上の力を発揮した。

知らずに…快記録目前

「中断は気にならなかったけど、記録のことは全然知らなかった。知っていたら狙ったのに。でもかえってかんじゃったかな」と笑ったのが、高知市・四国銀行から6連続三振を奪った札幌市・北海道拓殖銀行の中村弘投手。

6回の札幌の攻撃中に豪雨があり1時間42分もの中断があつたが、それはさんでの快記録。松沼博(東京ガス)の持つ7連続三振にあと1個と迫っただけに「次は意識して狙ってみますか」と汗をふきながら話していた。

MEMO

◇個人通算最多本塁打タイ9本 川崎市・日本鋼管の前川善裕外野手は、準決勝の浜松津市・日本楽器戦の7回、太田投手から今大会3号本塁打を放ち、高梨英夫(大昭和北海道)の持つ9本の記録と並んだ。

◇1大会最多本塁打78本 本塁打の出なかった試合は1試合だけで、金属バットが採用された第50回大会の62本塁打を大幅に更新した。

◇1試合最多本塁打7本 1回戦の大阪市・日本生命対川崎市・三菱自動車川崎戦で大阪が5本塁打、川崎が2本塁打を放ち新記録となった。大西慶典、早瀬万豊、赤井淳二がマークした1イニング3本塁打は史上4度目。

◇1試合チーム最多本塁打タイ5本 大阪市・日本生命の野尻正博(松下電器から補強)、井尻陽久、大西慶典、早瀬万豊、赤井淳二が1回戦の川崎市・三菱自動車川崎戦で。

川崎市・三菱自動車川崎の小川欣也、清水雅治、中野佐資、垣野多鶴2本が2回戦の札幌市・電電北海道戦で。

川崎市・日本鋼管の島野弘幸2本、前川善裕、金久保孝治、磯部寿夫が準決勝の浜松市・日本楽器戦で達成した。

5本塁打は第51回大会で松山市・電電四国が記録して以来。

◇満塁本塁打 金沢市・電電北陸の林洋内野手(国鉄名古屋から補強)が1回戦の千葉市・川崎製鉄千葉戦で佐藤投手から。札幌市・北海道拓殖銀行の竹内昭文捕手が1回戦の高知市・四国銀行戦で橋谷投手から。史上17、18本目。

1回戦

松山市 (電電四国)

0 0 0 2 0 0 0 1 1 | 4
0 0 1 0 0 0 1 0 0 | 2

東芝 (推薦・川崎市)

Table with columns for [松山市] and [東芝], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 3111050

投手 回 安責 滝下 9 82

▽本塁打 前田1号(滝下) 三好1号(黒紙)

夕部1号(黒紙)▽二塁打 宮崎 鈴木

栄▽2時間11分

1回戦

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

2 0 0 1 0 0 0 0 1 | 4
0 0 0 0 1 0 0 0 1 | 2

釜石市 (新日鉄釜石)

Table with columns for [鈴鹿市] and [釜石市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 6622071

投手 回 安責 池前 5 31

▽本塁打 前田1号(高島)▽2時間39分

1回戦

盛岡市 (岩手銀行)

1 0 0 1 2 0 0 0 0 | 4
2 1 4 0 0 0 0 0 X | 7

倉敷市 (川崎製鉄水島)

Table with columns for [盛岡市] and [倉敷市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 2740171

投手 回 安責 西佐 3 31

▽本塁打 根本1号(西村) 渡辺1号(木村)

浦名1号(古溝) 江藤1号(古溝)▽二塁打

西上 高橋 後藤 佐藤

▽2時間50分

1回戦

神戸市 (神戸製鋼)

0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
5 0 1 1 5 1 X | 13

川崎市 (日本鋼管)

Table with columns for [神戸市] and [川崎市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 3000350

投手 回 安責 西川勝 2 64

▽本塁打 早川1号(真鍋)

▽二塁打 羽二生 井口

中田▽2時間9分

1回戦

浜松市 (河合楽器)

1 0 0 0 0 0 0 0 1 | 2
0 0 0 2 0 1 0 0 X | 3

京都市 (三菱自動車京都)

Table with columns for [浜松市] and [京都市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 2510150

投手 回 安責 松白梅 5 42

▽本塁打 牛尾1号(吉岡)

▽二塁打 玉井▽2時間28分

1回戦

千葉市 (川崎製鉄千葉)

0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
4 0 0 0 0 0 0 0 X | 4

金沢市 (電電北陸)

Table with columns for [千葉市] and [金沢市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 1211150

投手 回 安責 投佐 1 33

青木 1 00

富木 5 20

村 1 10

1回戦

大分市 (新日鉄大分)

0 0 0 0 3 0 0 0 4 | 7
0 0 0 0 2 0 0 2 | 4

浦和市 (日本通運)

Table with columns for [大分市] and [浦和市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 5200192

投手 回 安責 岩切 9 33

▽本塁打 岡田1号(岩切)▽三塁打 林

▽二塁打 林2 福良

日野▽2時間36分

1回戦

名古屋市 (電電東海)

0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2
0 0 1 0 0 1 3 0 X | 5

横須賀市 (日産自動車)

Table with columns for [名古屋市] and [横須賀市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 9031140

投手 回 安責 鈴木豊 6% 64

渡辺 1 21

清水 1 10

▽本塁打 大野1号(鈴木豊) 村上1号(鈴木豊)

▽三塁打 久保▽二塁打 鈴木豊 堀添 小坂

杉山▽2時間31分

1回戦

和歌山市 (住友金属)

3 0 0 4 1 0 0 1 0 | 9
0 2 0 5 0 1 0 3 X | 11

東京都 (プリンスホテル)

Table with columns for [和歌山市] and [東京都], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併 67312110

投手 回 安責 石田 4% 63

山村 1 21

振球機盗失残併 4411091

投手 回 安責 三谷平木 3% 56

鈴木 5 21

▽本塁打 筒井1号(三谷) 村中1号(高橋)

▽三塁打 松隈 西 中本 中屋▽二塁打 西

三谷 藤井 志岐 篠崎 松隈 栗山 和氣▽3

時間23分

1 回戦

東京都 (電電東京)
0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
1 0 0 1 0 0 0 0 0 X | 2
神戸市 (三菱重工神戸)

[東京都] 打安点
(8) 長安山 堀岡 4 2 1
(4) 4 2 2 0 0
R 4 0 0 0 0 0
(9) 藤田 2 0 0 0 0
(9) 藤田 2 0 0 0 0
(5) 藤田 3 1 0
(3) 藤田 3 0 0
H 3 松本 3 0 0
(7) 小真 3 1 1
(2) 小真 3 0 0
(6) 小真 2 0 0
H 6 小真 1 0 0
(1) 小真 3 0 0
R 小真 1 0 0
振球機盗失残併 28 4 1
投手回安責 4 7 1 4 2 8 0
安責 5 1

高知市 (四国銀行)

0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
5 0 0 0 0 0 0 1 X | 6

札幌市 (北海道拓殖銀行)

[高知市] 打安点
(5) 6 5 薬師 4 1 0
(6) 森本 2 0 0
H 4 森本 1 0 0
R 4 森本 1 1 0
(8) 渡川 2 0 0
H 8 渡川 1 0 0
(7) 阿部 1 0 0
(3) 福山 3 1 1
(4) 5 福山 3 0 0
1 福山 0 0 0
(2) 1 福山 0 0 0
(9) 1 福山 3 0 0
(1) 1 福山 0 0 0
H 1 福山 2 1 0
振球機盗失残併 30 4 1
投手回安責 10 0 0 0 2 2
安責 3 5
投機 7 0
千山 6 3/4 3/4 2 1
宮本 1/2 0 0

1 回戦

長野市 (電電信越)

0 0 0 0 2 1 0 | 3
0 2 2 1 0 6 2 | 13

東京都 (熊谷組)

[長野市] 打安点
(8) 石田 4 2 1
(6) 松崎 3 1 1
(5) 松崎 3 1 0
(9) 松崎 3 2 1
(4) 松崎 3 1 0
(3) 松崎 2 0 0
(7) 松崎 0 0 0
H 7 松崎 2 0 0
(2) 松崎 1 0 0
(2) 松崎 2 0 0
(1) 松崎 1 0 0
H 1 松崎 1 0 0
H 1 松崎 1 0 0
振球機盗失残併 27 7 3
投手回安責 3 0 1 0 0 4 2
安責 6 3
高野 3 1/2 4 3
鈴木 5 5
北本 2 2
▽本塁打 石田 1号 (林博) 松崎 1号 (林博) 横井 1号 (林博) 門間 1号 (鈴木)
▽二塁打 向山 森山 西条 石田 岩根 森山 仲村 木村 2時間23分

1 回戦

北九州市 (新日鉄八幡)
0 0 0 2 0 0 0 0 0 0 | 2
2 0 0 0 0 0 0 0 3 | 5
日立市 (日立製作所)

[北九州市] 打安点
(7) 山本 3 1 0
(4) 山本 4 1 0
(3) 山本 3 1 0
(2) 山本 4 0 0
(9) 山本 3 1 1
(6) 山本 3 1 0
(8) 山本 1 0 0
H 8 山本 3 1 1
(5) 山本 4 0 0
(1) 山本 0 0 0
H 1 山本 1 0 0
振球機盗失残併 31 7 2
投手回安責 3 2 2 0 0 6 1
安責 4 2
池田 6 3/4 5 3
石田 6 3/4 5 3
▽本塁打 国山 1号② (池田) 加藤 1号 (佐藤) 杉本 1号③ (石田)
▽二塁打 杉本 平 神谷 2時間8分

2 回戦

松山市 (電電四国)

2 0 0 0 0 1 0 0 0 | 3
2 0 0 1 0 3 1 0 X | 7

浜松市 (日本楽器)

[松山市] 打安点
(6) 板石 5 1 0
(8) 板石 4 2 0
(7) 板石 3 1 0
(5) 板石 4 2 1
(9) 板石 4 2 1
(3) 板石 3 0 0
(4) 板石 4 1 1
(2) 板石 3 0 0
(1) 板石 2 0 0
H 1 板石 0 0 0
H 1 板石 0 0 0
振球機盗失残併 6 2 3 1 2 8 0
投手回安責 5 3/4 8 5
森 1 1/2 1 1
神 1 0 0

2 回戦

川崎市 (三菱自動車川崎)

2 0 2 1 1 0 3 0 2 | 11
0 0 0 2 0 0 0 2 0 | 4

札幌市 (電電北海道)

[川崎市] 打安点
(6) 松野 5 1 0
(6) 松野 3 0 0
(7) 松野 2 1 1
(9) 松野 4 0 0
(8) 松野 5 4 4
(3) 松野 5 4 4
(3) 松野 0 0 0
(2) 松野 5 2 0
(5) 松野 3 1 1
(1) 松野 2 0 0
H 1 松野 2 0 0
H 1 松野 0 0 0
振球機盗失残併 36 1 3 1 0
投手回安責 3 6 2 5 3 6 1
安責 5 1
小笠原 5 1
岡田 3 3/4 4 1
阿部 2 2 0

2 回戦

川崎市 (日本鋼管)
4 0 1 0 1 0 2 1 0 | 9
0 2 0 0 1 0 0 0 0 | 3
鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

[川崎市] 打安点
(8) 島野 3 0 0
(4) 島野 5 0 0
(5) 島野 4 1 0
(7) 島野 3 2 2
(9) 島野 4 2 3
(6) 島野 5 0 0
(3) 島野 4 2 2
(2) 島野 0 0 0
(1) 島野 5 1 2
(2) 島野 2 0 0
振球機盗失残併 35 8 9
投手回安責 2 7 2 4 0 8 0
安責 7 3

2 回戦

京都市 (三菱自動車京都)

0 2 0 0 0 0 0 0 0 | 2
0 1 0 0 0 0 0 1 1 | 3

金沢市 (電電北陸)

[京都市] 打安点
(7) 原田 4 2 1
(4) 原田 4 2 0
(8) 原田 2 0 0
(9) 原田 4 0 0
(3) 原田 4 0 0
(5) 原田 4 2 1
(2) 原田 3 1 0
(1) 原田 3 0 0
H 1 原田 0 0 0
H 1 原田 0 0 0
振球機盗失残併 8 1 3 1 1 6 0
投手回安責 7 1/2 7 2
安責 1 0
阪織 2 1/2 0 1
阪織 1 1/2 0 0

2 回戦

神戸市 (三菱重工神戸)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 2 1 1 0 0 0 0 X | 4

大分市 (新日鉄大分)

[神戸市] 打安点
(3) 松本 4 0 0
(9) 松本 1 0 0
H 9 松本 2 1 0
(8) 松本 4 0 0
(4) 松本 4 2 1
(7) 松本 4 1 0
(5) 松本 2 1 0
(6) 松本 0 0 0
H 5 松本 1 0 0
(2) 松本 2 0 0
(1) 松本 2 0 0
H 1 松本 1 0 0
H 1 松本 1 0 0
振球機盗失残併 30 5 1
投手回安責 1 2 2 1 1 6 1
安責 1 0 0 8 2

2回戦

東京都 (プリンスホテル)
0 0 0 1 0 0 0 2 0 | 3
0 0 1 1 0 1 0 0 1 | 4
横須賀市 (日産自動車)

【東京都】 打安点
【横須賀市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 1 0 0 0 2 2 1 1 | 7
0 1 0 2 0 0 0 0 1 | 4
倉敷市 (川崎製鉄水島)

【札幌市】 打安点
【倉敷市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

2回戦

東京都 (熊谷組)
0 0 2 0 1 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
日立市 (日立製作所)

【東京都】 打安点
【日立市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

川崎市 (三菱自動車川崎)
0 2 0 0 1 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 0 0 0 3 0 0 1 | 4
浜松市 (日本楽器)

【川崎市】 打安点
【浜松市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

金沢市 (電電北陸)
0 0 0 0 0 1 1 0 2 | 4
0 0 0 0 0 5 0 0 X | 5
川崎市 (日本鋼管)

【金沢市】 打安点
【川崎市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

札幌市 (北海道拓殖銀行)
2 0 1 0 0 0 0 0 0 | 3
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
東京都 (熊谷組)

【札幌市】 打安点
【東京都】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準々決勝

大分市 (新日鉄大分)
0 0 0 0 0 0 4 0 0 | 4
3 1 0 0 1 0 0 0 X | 5
横須賀市 (日産自動車)

【大分市】 打安点
【横須賀市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準決勝

川崎市 (日本鋼管)
0 2 0 2 0 1 3 4 0 | 12
6 0 0 0 0 0 1 0 0 | 7
浜松市 (日本楽器)

【川崎市】 打安点
【浜松市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

準決勝

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 1 1 0 1 X | 3
横須賀市 (日産自動車)

【札幌市】 打安点
【横須賀市】 打安点
振球機盗失残併
投手回安責

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka City (日産自動車). Includes names like 大木, 大久保, 大野, etc.

釜石市

(新日鉄釜石)

Table listing names and numbers for Kamaishi City (新日鉄釜石). Includes names like 日高, 高橋, 高木, etc.

千葉市

(川崎製鉄千葉)

Table listing names and numbers for Chiba City (川崎製鉄千葉). Includes names like 長久, 久志, 久野, etc.

川崎市

(日本鋼管)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (日本鋼管). Includes names like 明秋, 秋津, 秋山, etc.

推薦・川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Recommended Kawasaki City (東芝). Includes names like 野田, 野村, 野原, etc.

盛岡市

(岩手銀行)

Table listing names and numbers for Morioka City (岩手銀行). Includes names like 小笠, 小野, 小池, etc.

東京都

(プリンスホテル)

Table listing names and numbers for Tokyo City (プリンスホテル). Includes names like 稲中, 稲垣, 稲田, etc.

川崎市

(三菱自動車川崎)

Table listing names and numbers for Kawasaki City (三菱自動車川崎). Includes names like 野田, 野村, 野原, etc.

札幌市

(電電北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City (電電北海道). Includes names like 菊池, 菊田, 菊本, etc.

日上市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Niigata City (日立製作所). Includes names like 田下, 田中, 田村, etc.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo City (熊谷組). Includes names like 後藤, 後藤, 後藤, etc.

浜松市

(日本楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (日本楽器). Includes names like 津原, 津原, 津原, etc.

札幌市

(北海道拓殖銀行)

Table listing names and numbers for Sapporo City (北海道拓殖銀行). Includes names like 白市, 白市, 白市, etc.

浦和市

(日本通運)

Table listing names and numbers for Utsunomiya City (日本通運). Includes names like 中井, 中井, 中井, etc.

東京都

(電電東京)

Table listing names and numbers for Tokyo City (電電東京). Includes names like 森田, 森田, 森田, etc.

浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (河合楽器). Includes names like 利宏, 利宏, 利宏, etc.

長野市

(電電信越)

Table listing names and numbers for Nagano City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

和歌山市

(住友金属)

Table listing names and numbers for Wakayama City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

神戸市

(三菱重工神戸)

Table listing names and numbers for Kobe City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

高知市

(四国銀行)

Table listing names and numbers for Kochi City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

名古屋市

(電電海)

Table listing names and numbers for Nagoya City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

京都市

(三菱自動車京都)

Table listing names and numbers for Kyoto City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

神戸市

(神戸製鋼)

Table listing names and numbers for Kobe City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

松山市

(電電四国)

Table listing names and numbers for Matsuyama City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

鈴鹿市

(本田技研鈴鹿)

Table listing names and numbers for Suzuka City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

堺市

(新日鉄堺)

Table listing names and numbers for Sakai City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

倉敷市

(川崎製鉄水島)

Table listing names and numbers for Kurashiki City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

北九州市

(新日鉄八幡)

Table listing names and numbers for Kitakyushu City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

金沢市

(電電北陸)

Table listing names and numbers for Kanazawa City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

大阪市

(日本生命)

Table listing names and numbers for Osaka City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

福山市

(日本鋼管福山)

Table listing names and numbers for Fuyuki City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

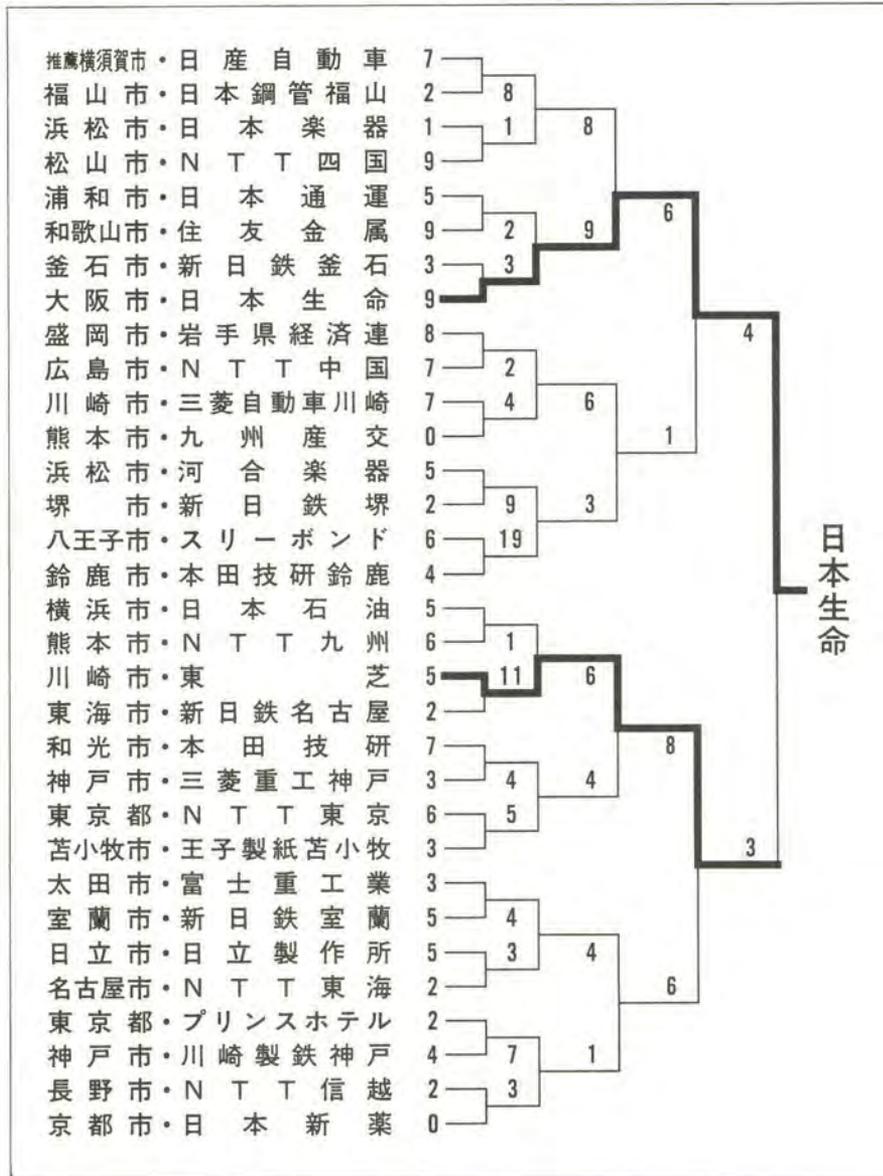
大分市

(新日鉄大分)

Table listing names and numbers for Oita City, including categories like 監督手, 捕手, and 内野手.

第56回大会

1985年(昭和60年)7月23日 - 8月2日・後樂園球場
優勝=大阪市・日本生命



大阪・日本生命の決勝までの足どりは、1回戦で釜石市・新日鉄釜石に15安打を浴びせ、早瀬万豊の力投で快勝したあと、2回戦は内田、島田の本塁打で和歌山市・住友金属に逆転勝ち。準々決勝では島田の逆転3ランで前年の覇者、横須賀市・日産自動車にサヨナラ勝ち。そして準決勝は早瀬投手が川崎市・三菱自動車川崎を3安打に抑えての快勝。橋戸賞は逆転2ラン、逆転サヨナラ3ラン、満塁一掃同点打と3試合に劇的な快打を放った島田行雄外野手が獲得した。

開幕戦で前大会の橋戸賞選手、日産自動車の若山哲男内野手が、満塁とソロの2打席連続本塁打を放ったのを皮切りに、松山市・N T T 四国の三好利幸内野手、浦和市・日本通運の伊藤由紀夫内野手と3人が大会初日に「2打席連続本塁打」を打つ華々しい幕開け。打撃上位の大会で、川崎市・三菱自動車川崎の28歳のベテラン、小笠原敏雄投手が熊本市・九州産交を4安打1四球、また長野市・N T T 信越の職家下利彦（北陸銀行から補強）投手が京都市・日本新薬を3安打でそれぞれ完封した1回戦の活躍が目立った。

民営化して初の大会となったN T T（旧電電）は、6チームが出場。1回戦は4勝2敗。その中には熊本市・N T T 九州が横浜市・日本石油からあげた1勝もある。日本石油は1回戦7連敗。初出場の2チーム、盛岡市・岩手県経済連と八王子市・スリーポンドは、いずれも1回戦に勝つ活躍ぶり。八王子は続く2回戦も浜松市・河合楽器に19-9のコールドゲームで大勝、ベスト8に進出するめざましい活躍だった。このゲーム、八王子は史上5度目の1イニング3ホームーなど21長短打を放ち、とどめはサヨナラ3ラン。9点を取りながら敗れた浜松市も目を見張った八王子の猛打であった。

八王子は準々決勝で川崎市・三菱自動車川崎に惜しくも逆転負けを喫したが、機動力を生かした試合ぶりはすばらしく小野賞の受賞に輝いた。

1回戦の中では、3万8000人の大観客を集めた試合で、V候補の一つ、東京都・プリンスホテルが、神戸市・川崎製鉄神戸の藤高投手の速球に抑えられ、わずかに3安打で敗退したのが目立った。

久慈賞は川崎・菊池投手に贈られた。

出場31回、ついに黒獅子旗

大阪市・日本生命が劇的な逆転勝ちで川崎市・東芝を倒し、20年連続31回目の出場での黒獅子旗を獲得した。3点リードされた大阪は8回、島田行雄（松下電器から補強）が満塁一掃の三塁打を放って同点とし、続く内田敏弘の中前適時打で逆転、2年ぶり3度目の優勝を狙った東芝を下した。大阪チームの優勝は、40年の第36回大会の電電近畿以来、20年ぶりのことだった。

決勝

川崎市 (東芝)	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
大阪市 (日本生命)	0	0	0	0	0	0	0	4	X	4

【川崎市】	打安点振球	【大阪市】	打安点振球
⑤ 新木 1号	4 3 1 0 1	④ 赤 井	2 0 0 0 0
④ 新宮 武智	3 0 0 0 0	H 4 西 田	0 0 0 0 2
③ 武 藤 智	2 2 1 0 3	⑦ 森 野	3 2 0 0 0
⑦ 福 本 福	4 1 1 0 1	⑤ 花 野	2 0 0 0 1
⑧ 原 林 本	3 1 0 0 0	⑧ 島 田	2 1 3 1 2
H 9 小 原 林	1 0 0 0 0	⑨ 内 田	4 1 1 1 0
8 藤 原 真	0 0 0 0 0	R 9 中 村	0 0 0 0 0
⑥ 真 喜 志	4 0 0 1 0	R 9 石 井	0 0 0 0 0
⑨ 鈴木 栄	2 0 0 0 1	③ 佐 藤	3 0 0 0 1
R 8 9 前 田 香	1 0 0 0 0	② 佐 竹	4 2 0 0 0
② 安 池 谷	3 1 0 1 0	⑥ 井 尻	4 2 0 1 0
① 菊 浦 田	3 0 0 0 0	① 早 瀬	0 0 0 0 1
H 田 辺	1 1 0 0 0	H 1 伊 藤	1 0 0 1 0
	3 1 9 3 2 6	H 1 原	1 0 0 0 0
犠併残盗失			2 6 8 4 4 7
3 3 1 0 2 0		犠併残盗失	
投 手 回	打安振球責	2 3 7 1 1	
菊 池 7%	3 2 7 4 7 4	投 手 回	打安振球責
浦 谷 1	3 1 0 0 0	早 瀬 4 1/2	2 2 8 1 1 3
		伊 藤 2 2/3	1 0 0 0 3 0
		原 2	8 1 1 2 0
▽本塁打	新木1号 (早瀬)	原1号 (早瀬)	▽三塁打
	井尻 島田	武智1号 (早瀬)	▽三塁打
		田辺	▽2時間32分



決勝の大阪対川崎。8回目日本生命は無死満塁のチャンスに島田が東芝、菊池投手から同点中越え三塁打を放つ

大阪市・8回集中打で逆転

大阪市・日本生命は8回、あざやかな集中打で逆転、川崎市・東芝を倒して初優勝を上げた。

3点を追った大阪は8回、先頭の西が四球、森田右前安打、花野死球で無死満塁とし、力投の川崎市・菊池を攻めつけた。この好機に4番・島田がセンターのフェンスを直撃する三塁打を放ち、走者を一掃して同点。続く内田も中前へしぶとく落とし、島田を迎え入れて勝ち越した。菊池は7回までカーブ、スライダーを低めに散らして大阪市を4安打に抑えていたが、疲れが出たのか、タマが高めに浮いたところを打ち込まれた。

川崎市は1回、大阪市の先発早瀬の立ち上がりを読み、新木、武智の本塁打で2点を先取。5回には新木の左前打と武智の右前打などで一死一・三塁とし、福本の左前適時打で加点、早瀬を退けた。しかし、なおも続く二・三塁の好機を大阪市の2番手・伊藤に抑えられ、1点に終わったのが痛かった。

その後も6回に二死一塁、7回一死一・二塁と走者を出しながら適時打を欠いた。9回は大阪市の3番手・原を攻め、代打・田辺の二塁打と死四球で一死満塁の好機をつかんだが、4番・福本が遊ゴロ併殺打に倒れ、3度目の優勝を逃した。



マスコットガール水谷聖子さんを胴あげの日生サイン

初陣さわやか楽しんだ

専用練習グラウンドなし、人工芝は初めての初陣、盛岡市・岩手県経済連の健闘に、スタンドの大応援団が湧いた。初戦は8回出場、の広島市・NTT中国。2回、2本塁打を浴びて4点を先制されたが、「勝とうと思わず、楽しくやればよい」の盛岡に、追いつめられた気持ちはなかった。

3回、連打で無死一・二塁。定石なら送りバント。根本（ヨークベニマルから補強）もそのつもりで打席に入ったが、ベンチのサイ

ンは「好きな球を打て」。根本は「これだけ信頼されていたら」と奮い立ち、豪快な3点本塁打で応えた。

この一発で盛岡市のムードが一気に盛り上がった。斉藤（NTT東北から補強）が力投すれば、小野（同）も7回にダメ押し2点タイムリーを放つなど、着実に得点、広島市を振り切った。

2回戦で川崎市・三菱自動車川崎に2-4で敗れ、後楽園球場をあとにしたが、“のびのび野球”はファンにさわやかな印象を残した。

最後まであきらめず努力した結果

大阪市・日本生命
佐竹政和監督兼捕手



関大時代から強肩強打の好捕手。昭和45年日本生命入社。監督兼務を含め、16年連続自チームから出場。全日本でも活躍。技術指導部委員。日本生命総合法人営業部調査役。

日本生命が20年連続出場で表彰された大会。それまでいい結果を出していなかったのに、この大会は狙っていただけに、プレッシャーが大きかった。

やはり強烈に印象に残っているのは日産自動車との準々決勝と東芝との決勝。

日産の試合は早瀬万豊が好投して6回を終わって4点リード。うちのペースだったので7回レフトの中橋伸幸が打球を見失って1点を取られ、8回にも代った土井政之が、なん

でもない左飛が捕れずに、それがもとで逆転された。2人も打球が途中で消えるという。守備のいい選手だけに「後楽園は鬼門だ。魔物がいる」と、本気で思ったほどだった。9回にも鈴木勝則君に本塁打されたが、これで負ければ悔いが残る。最後はキッチリやれと言って来ただけに、ボクが弱気になってはいかんと思い直し、選手に「思い切ってやれ」。

その裏一・三塁から森田昇に盗塁させ、打者が松本から補強の島田行雄君。とにかく同点にはなると思った矢先、初球をバックスクリーンにサヨナラ本塁打。魔物を退治したと思った。

決勝は菊池総君がよくて苦しかったが、どこかでチャンスがあると辛抱していた。やっと8回に無死満塁として島田君がフェンス直撃打を放った。9回に一死満塁と攻めつけられたが、投手の原邦彦に「オレにまかせて、力いっぱい投げてこい」。4番福本勝幸君を遊ゴロ併殺にうちとけて試合が終わった。うれしかったというより、つとめを果たせたとの気持ちだった。

島田君が鬼神のような活躍をしてくれたが、最後まであきらめずに努力する大切さを改めて知った。

◇2打席連続本塁打 横須賀市・日産自動車の若山哲男内野手が1回戦の福山市・日本鋼管福山戦で。松山市・NTT四国の三好利幸一塁手が1回戦の浜松市・日本楽器戦で。浦和市・日本通運の伊藤由紀夫一塁手が1回戦の和歌山市・住友金属戦で。川崎市・東芝の真喜志康永遊撃手が1回戦の東海市・新日鉄名古屋戦でそれぞれ記録。史上23、24、25、26人目。

◇満塁本塁打 横須賀市・日産自動車の若山哲男内野手が1回戦の福山市・日本鋼管福山戦で内山田投手から。東京都・NTT東京の高橋公洋内野手が1回戦の苫小牧市・王子製紙苫小牧の樋口投手から、それぞれ記録。史上19、20人目。

◇個人通算最多本塁打タイ9本 浜松市・日本楽器の武居邦生内野手は、1回戦の松山市・NTT四国戦の8回、神田投手から本塁打を放ち、通算9号を記録。高梨英夫（大昭和北海道）前川善裕（日本鋼管）と並ぶ記録。

◇1イニング3本塁打 八王子市・スリーポンドは、2回戦の浜松市・河合楽器戦の6回、有国雅己、四ヶ所重喜が水沢投手から、沖泰司が太田投手から打って記録。史上5度目。

◇1大会個人最多本塁打タイ4本 大阪市・日本生命の佐藤清内野手は、準決勝の川崎市・三菱自動車川崎戦の8回、阿部投手から大会4本目の本塁打を記録。史上4人目。

◇1試合タイ7本塁打 2回戦の浜松市・河合楽器村八王子市・スリーポンド戦で、浜松3、八王子4のタイ記録。史上2回目。

1回戦

福山市（日本鋼管福山）
0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2
1 0 5 0 0 1 0 0 X | 7
日産自動車（推薦・横須賀市）

Table with 2 columns: [福山市] and [日産自動車]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

振球機盗失残併 8400071
投手回安責 2 3/2 5.6
内山田 1 3/3 1.0
浜高田 1 1/0 1.0
高田代 3 3/1

▽本塁打 若山1号④ (内山田) 2号 (田代)
▽二塁打 岩野▽2時間9分

1回戦

松山市（NTT四国）
1 2 2 3 0 1 0 0 0 | 9
0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1
浜松市（日本楽器）

Table with 2 columns: [松山市] and [浜松市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

振球機盗失残併 48130121
投手回安責 7 8 0
滝下 7 8 0
神田 2 2 1
▽本塁打 三好1号② (太田) 2号② (高久)
武居1号 (神田) ▽三塁打 武田正 沖田▽二塁打 武田正 石元 板東 内山 宮坂▽3時間

1回戦

浦和市（日本通運）
0 1 0 2 0 2 0 0 0 | 5
0 1 2 3 3 0 0 0 X | 9
和歌山市（住友金属）

Table with 2 columns: [浦和市] and [和歌山市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

振球機盗失残併 6110220
投手回安責 3 6 3
川田 3 6 3
玉田 1 5/6
長富 4 1 0
▽本塁打 佐藤1号 (菊川) 岩井1号 (高橋) 伊藤1号 (高橋) 中田1号③ (玉田) 伊藤2号② (高橋) ▽二塁打 牛島 栗山 高橋 三好▽2時間35分

1回戦

大阪市（日本生命）
0 0 0 3 2 0 0 0 4 | 9
0 1 0 0 0 2 0 0 0 | 3
釜石市（新日鉄釜石）

Table with 2 columns: [大阪市] and [釜石市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

▽本塁打 寺嶋1号 (田嶋) 中橋1号② (高島) 佐藤1号 (高島) 吉田幸1号② (早瀬) ▽二塁打 永野▽2時間46分

1回戦

盛岡市（岩手県経済連）
0 0 3 1 1 0 3 0 0 | 8
0 4 0 0 1 0 0 0 2 | 7
広島市（NTT中国）

Table with 2 columns: [盛岡市] and [広島市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

振球機盗失残併 6323362
投手回安責 2 2 4
越藤 7 4 2
▽本塁打 佐藤1号② (細越) 石川1号② (細越) 根本1号③ (石川) 川崎1号② (斎藤) ▽二塁打 斎藤 羽田野 山下▽2時間51分

1回戦

熊本市（九州産交）
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 2 3 0 0 0 2 0 X | 7
川崎市（三菱自動車川崎）

Table with 2 columns: [熊本市] and [川崎市]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

振球機盗失残併 7110141
投手回安責 2 3/2 7.5
池田 2 3/2 7.5
高崎 2 1/3 0.0
高足 3 2 1
▽本塁打 古田1号② (池田) 清水1号 (足立) ▽二塁打 清家2、松野▽2時間10分

1回戦

苫小牧市（王子製紙苫小牧）
0 0 0 1 0 0 1 0 1 | 3
2 0 0 0 0 0 0 4 X | 6
東京都（NTT東京）

Table with 2 columns: [苫小牧市] and [東京都]. Rows include player names and statistics like 打安点, 振球機盗失残併, 投手回安責.

▽本塁打 高橋1号④ (樋口) ▽三塁打 高橋 長堀▽2時間30分

1 回戦

浜松市 (河合楽器)

0 0 0 0 0 0 5 0 0 | 5
0 0 0 0 2 0 0 0 0 | 2

堺市 (新日鉄堺)

Table with columns for teams (浜松市, 堺市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 鈴木智1号③ (清水) 黒田1号② (清水)
▽三塁打 浦東靖 米倉
▽二塁打 花川 藤本
▽2時間28分

1 回戦

八王子市 (スリーポンド)

0 0 2 0 1 0 0 3 0 | 6
0 1 1 0 0 1 0 1 0 | 4

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

Table with columns for teams (八王子市, 鈴鹿市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 清水義1号② (上原) 全並1号 (清水直) 手島1号 (清水直)
▽三塁打 四ヶ所
▽二塁打 四ヶ所 藤井 有国
▽2時間49分

1 回戦

京都市 (日本新薬)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 0 0 0 0 0 0 2 X | 2

長野市 (NTT信越)

Table with columns for teams (京都市, 長野市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽二塁打 西条
▽2時間10分

1 回戦

熊本市 (NTT九州)

4 0 0 0 1 0 0 1 0 | 6
0 0 2 0 0 3 0 0 0 | 5

横浜市 (日本石油)

Table with columns for teams (熊本市, 横浜市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 加藤1号② (山岡)
▽三塁打 田島
▽二塁打 大橋 荒井
▽3時間6分

1 回戦

東海市 (新日鉄名古屋)

0 1 1 0 0 0 0 0 0 | 2
0 0 0 1 1 3 0 0 X | 5

川崎市 (東芝)

Table with columns for teams (東海市, 川崎市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 渡辺1号 (菊池) 福本1号 (渡辺) 真喜志1号 (渡辺) 2号② (渡辺)
▽二塁打 原 菊池
▽2時間21分

神戸市 (三菱重工神戸)

0 0 2 0 0 0 0 0 1 | 3
4 0 2 0 0 0 1 0 X | 7

和光市 (本田技研)

Table with columns for teams (神戸市, 和光市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 雨堤1号② (山本正) 山口1号 (伊東)
▽二塁打 広瀬
▽2時間13分

1 回戦

室蘭市 (新日鉄室蘭)

1 0 2 1 0 0 0 0 1 | 5
0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3

太田市 (富士重工業)

Table with columns for teams (室蘭市, 太田市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽二塁打 鹿田 小林 鈴木
▽2時間19分

1 回戦

名古屋市 (NTT東海)

1 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
2 0 0 0 0 1 1 1 X | 5

日立市 (日立製作所)

Table with columns for teams (名古屋市, 日立市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

1 回戦

東京都 (プリンスホテル)

1 1 0 0 0 0 0 0 0 | 2
1 0 0 1 0 2 0 0 X | 4

神戸市 (川崎製鉄神戸)

Table with columns for teams (東京都, 神戸市), players, and scores. Includes statistics for runs, hits, errors, and stolen bases.

▽本塁打 村中1号 (藤高)
▽二塁打 中村好 藤高 武3
▽2時間31分

2回戦

松山市 (NTT四国)									
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
3	1	2	2	0	0	0	0	X	8
日産自動車 (推薦・横須賀市)									

【松山市】		打安点	【日産自動車】		打安点
⑥	賀元	4 1 1	⑧	中田	3 1 0
⑧	緒石	4 2 0	H 9	下田	1 0 0
⑨	板東	4 0 0	⑦	堀杉	3 0 0
⑤	板正	4 0 0	④	田添	4 1 1
③	三好	4 0 0	⑨	岡下	3 2 1
⑦	三和	3 2 0	9 8	山岡	0 0 0
④	和小	4 2 0	③	山下	4 2 2
2	武田	0 0 0	⑤	田部	4 2 1
H 2	加藤	1 0 0	②	城上	2 2 3
H H 2	沖加	1 0 0	R 2	肥野	0 0 0
H H 2	加藤	1 0 0	⑥	木城	2 0 0
H 1	下藤	0 0 0	H 6	野木	0 0 0
H R 1	神島	0 0 0	H 6	城本	1 0 0
H 1	師島	0 0 0	H 6	保山	0 0 0
H 1	田倉	1 0 0	H 1	久白	0 0 0
H 1	西谷	1 0 0			
H 1	石丸	1 0 0			
H	吉田	1 0 0			

振球機盗失残併		337 1	振球機盗失残併		311 8
4	3	0	0	8	0
投	手	回	安	責	
滝	下	2	7	4	
神	田	2	4	4	
橋	谷	2	0	0	
石	丸	2	0	0	
△	本	壘	打	島	田
山	3	号	2	(神
岡	石	元	△	二	壘

第2試合

川崎市 (東芝)									
4	1	0	0	4	2	0	1	1	1
0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
熊本市 (NTT九州)									

【川崎市】		打安点	【熊本市】		打安点
⑤	木崎	2 2 0	④	橋西	3 0 0
④	新宮	1 0 0	⑤	大本	3 1 0
③	武智	2 0 1	⑥	小端	3 1 0
⑦	福本	2 1 1	⑦	小端	2 0 0
⑧	梁原	4 1 2	H 8	石加	1 0 0
⑨	真志	4 2 3	H 8	加藤	2 0 0
②	藤原	3 2 3	H 8	山田	0 0 0
H 8	藤原	1 1 0	③	山口	1 1 0
H 2	安原	4 0 0	③	山田	1 1 0
①	安原	2 1 1	H 4	田村	1 0 1

振球機盗失残併		251 0 1 1	振球機盗失残併		245 1
3	6	4	1	0	3
投	手	回	安	責	
菊	池	7	5	1	

▽本壘打 菊池1号(岩切) △三壘打 真志志 △二壘打 梁原 勝山 山口 △2時間1分



迫り満点。浜松市
日本楽器の女子応援団のチアガール

2回戦

盛岡市 (岩手県経済連)									
1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
3	0	1	0	0	0	0	0	X	4
川崎市 (三菱自動車川崎)									

【盛岡市】		打安点	【川崎市】		打安点
⑥	根本	4 1 1	⑤	清水	4 1 0
⑤	本野	3 1 0	⑧	須賀	4 0 0
③	野口	4 1 0	⑦	島野	4 1 1
⑧	小野	4 1 0	⑨	清野	3 1 0
④	羽野	4 1 0	⑦	清家	4 2 1
④	芦谷	4 1 0	⑧	小川	0 0 0
R 9	熊原	2 1 1	③	垣野	4 2 1
R 9	藤立	0 0 0	④	野田	4 2 1
H 2	千本	1 0 0	②	山田	3 1 0
H 2	上野	1 0 0	①	小田	1 0 0
⑦	後藤	3 0 0	H 1	山部	0 0 0
H 1	茂山	1 0 0	H 1	阿部	0 0 0
H 1	古木	1 0 0	R 1	小笠原	0 0 0
H 1	齊藤	0 0 0			
H 1	佐藤	0 0 0			
R 1	藤越	0 0 0			

振球機盗失残併		317 2	振球機盗失残併		317 2
7	3	0	1	1	5
投	手	回	安	責	
茂	庭	2	4	2	
古	館	2	4	1	
斉	藤	3	2	0	
越	越	1	0	0	

第2試合

浜松市 (河合楽器)									
0	0	0	3	0	3	3	9		
0	0	0	6	3	6	4	19		
八王子市 (スリーポンド)									

【浜松市】		打安点	【八王子市】		打安点
⑧	尾田	4 0 0	⑥	四ヶ所	5 4 5
⑥	黒村	2 1 0	⑦	所智	2 0 1
③	林	4 0 0	H 1	古越	1 0 0
④	生原	3 1 2	④	玉川	0 0 0
②	平西	4 3 1	⑤	清水	5 4 5
H 7	大須	1 0 0	⑦	清水	3 2 4
H 7	須賀	0 0 0	③	村中	5 2 0
⑤	山本	2 2 6	⑧	仲有	3 1 2
⑦	山中	4 1 0	R 9	中相	3 2 0
H 9	並木	0 0 0	②	藤井	1 0 0
①	松田	1 1 0	①	直木	1 1 0
H 1	谷津	0 0 0	H R	岡和	0 0 1
H 1	横水	0 0 0	R 1	村島	0 0 0
H 1	太水	1 0 0	H 5	田野	1 1 0
H 1	梅井	0 0 0			

振球機盗失残併		289 9	振球機盗失残併		372 1 1 9
5	8	0	3	4	6
投	手	回	安	責	
松	田	3	3	3	4
谷	津	1	3	3	3
水	田	1	3	3	3
太	庭	1	3	3	3
△	本	壘	打	林	1
山	本	1	号	2	(
△	二	壘	打	松	田

▽本壘打 林1号(清水直) 平生1号(清水直) 山本1号(田辺) 有国1号(水沢) 四ヶ所1号(水沢) 沖1号(太田) 清水義2号(桜庭) △二壘打 松田 四ヶ所 山本 桜庭 △3時間8分

2回戦

和歌山市 (住友金属)									
2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3	0	0	0	0	0	0	0	X	3
大阪市 (日本生命)									

【和歌山市】		打安点	【大阪市】		打安点
⑤	松中	4 0 0	④	赤内	5 0 0
④	岡井	3 0 0	⑨	井田	4 3 1
④	岡井	0 0 0	⑤	井田	0 0 0
⑨	岡井	4 2 2	⑧	土花	3 1 0
⑦	岡井	4 0 0	⑧	島中	3 1 2
③	岡井	4 0 0	⑦	橋本	2 2 0
⑧	岡井	4 0 0	③	橋本	4 2 0
②	岡井	3 2 0	②	佐井	3 0 0
⑥	岡井	1 0 0	⑥	井早	3 1 0
①	岡井	2 0 0	①	井早	4 0 0
H 1	岡井	1 0 0			
H 1	岡井	1 0 0			
H 1	岡井	1 0 0			
H 1	岡井	1 0 0			

振球機盗失残併		284 2	振球機盗失残併		311 0 3
4	2	2	0	0	3
投	手	回	安	責	
高	橋	4	8	3	
石	田	3	1	0	
北	口	1	1	0	

2回戦

和光市 (本田技研)									
0	0	0	0	0	1	3	0	0	4
2	0	0	1	0	0	0	1	0	5
東京都 (NTT東京)									

【和光市】		打安点	【東京都】		打安点
⑧	原村	5 0 0	⑥	長藤	5 1 0
④	田村	4 1 0	⑧	光野	2 0 0
⑥	田村	4 1 0	H 1	藤野	1 0 0
③	内雨	5 1 2	③	矢野	2 0 0
⑦	雨内	5 1 1	①	鍋島	2 0 0
⑨	雨内	4 2 0	⑦	池田	4 0 0
1	雨内	0 0 0	④	壁水	5 3 2
1	雨内	1 0 0	⑤	高橋	5 0 1
⑤	雨内	4 1 0	H 9	清高	4 1 1
②	雨内	2 0 0	R 9	伊伊	1 1 0
H 2	雨内	1 0 0	R 6	伊伊	4 2 0
①	雨内	2 0 0	②	末末	0 0 0
H 9	雨内	3 0 0	①	末末	4 1 1

振球機盗失残併		427 3	振球機盗失残併		429 5
6	4	0	1	1	6
投	手	回	安	責	
伊	藤	1	7	3	
中	原	1	3	1	
	屋	2	3	1	

▽本壘打 真壁1号(伊東) △二壘打 真壁 長堀 △3時間24分

2回戦

室蘭市 (新日鉄室蘭)									
0	0	0	0	0	1	1	2	0	4
0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
日立市 (日立製作所)									

【室蘭市】		打安点	【日立市】		打安点
⑥	遠田	4 1 0	④	原間	3 1 1
1	赤鹿	1 0 0	⑧	本間	3 1 1
⑤	赤鹿	4 1 0	⑨	本間	3 1 0
⑧	小鈴	4 1 0	⑤	山田	4 3 1
⑦	小鈴	4 2 1	②	谷内	2 0 0
③	竹内	4 1 0	⑤	谷内	4 0 0
②	大岡	4 1 1	⑦	神野	4 1 0
④	大岡	4 1 1	③	神野	3 0 0
⑨	大岡	4 2 0	⑥	神野	1 0 0
⑦	大岡	2 0 0	H 1	神野	3 0 0
H 8	大岡	1 0 0	①	神野	0 0 0
①	大岡	1 0 0	H 1	神野	1 0 0
H 1	大岡	1 1 0			
H 1	大岡	0 0 0			
H 6	大岡	2 2 1			

▽本壘打 岡田2号(赤木) △二壘打 遠田 鈴木 鹿田 岡田 △2時間50分

浜松市 東海市 市 島市

(河合楽器)

- 村田田津原生川間宗山内石木中須尾山木井原木
松田大谷桜水桑平安山村麻林横武大鈴上大中井西野鈴
監督 44 47 22 20 28 24 23 26 26 25 24 22 19 24 24 23 22 21
監投手 13 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49

(新日鉄名古屋)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68 71
監投手 11 14 17 20 23 26 29 32 35 38 41 44 47

(新日鉄堺)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 36 39 42 45 48 51 54 57 60 63 66 69 72
監投手 12 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48

(NTT中国)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 32 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68
監投手 10 13 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46

浜松市 鈴鹿市

(日本楽器)

- 津川柳高直高野大藤永高柳小大中山山武宮中西高小伊藤藤山
久原久井田藤永高柳小大中山山武宮中西高小伊藤藤山
監督 34 37 40 43 46 49 52 55 58 61 64 67 70
監投手 14 17 20 23 26 29 32 35 38 41 44 47 50

(本田技研鈴鹿)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 37 40 43 46 49 52 55 58 61 64 67 70 73
監投手 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48 51

(三菱重工神戸)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 32 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68
監投手 11 14 17 20 23 26 29 32 35 38 41 44 47

(NTT四国)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 39 42 45 48 51 54 57 60 63 66 69 72 75
監投手 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49 52

名古屋市 和歌山市

(NTT東海)

- 本池水倉井森谷中長鈴中西野田戸松原上座月合本林田戸松
杉金鈴大笠中長鈴中西野田戸松原上座月合本林田戸松
監督 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68 71
監投手 12 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48

(住友金属)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 33 36 39 42 45 48 51 54 57 60 63 66 69
監投手 13 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49

(川崎製鉄神戸)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 36 39 42 45 48 51 54 57 60 63 66 69 72
監投手 14 17 20 23 26 29 32 35 38 41 44 47 50

(九州産交)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 37 40 43 46 49 52 55 58 61 64 67 70 73
監投手 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48 51

長野市 京都市

(NTT信越)

- 柳野木下藤原好二桂佳雅一誠行成博昌彦彦彦彦彦彦彦彦彦彦
柳野木下藤原好二桂佳雅一誠行成博昌彦彦彦彦彦彦彦彦彦彦
監督 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68 71
監投手 13 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49

(日本新薬)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 31 34 37 40 43 46 49 52 55 58 61 64 67
監投手 11 14 17 20 23 26 29 32 35 38 41 44 47

(日本鋼管福山)

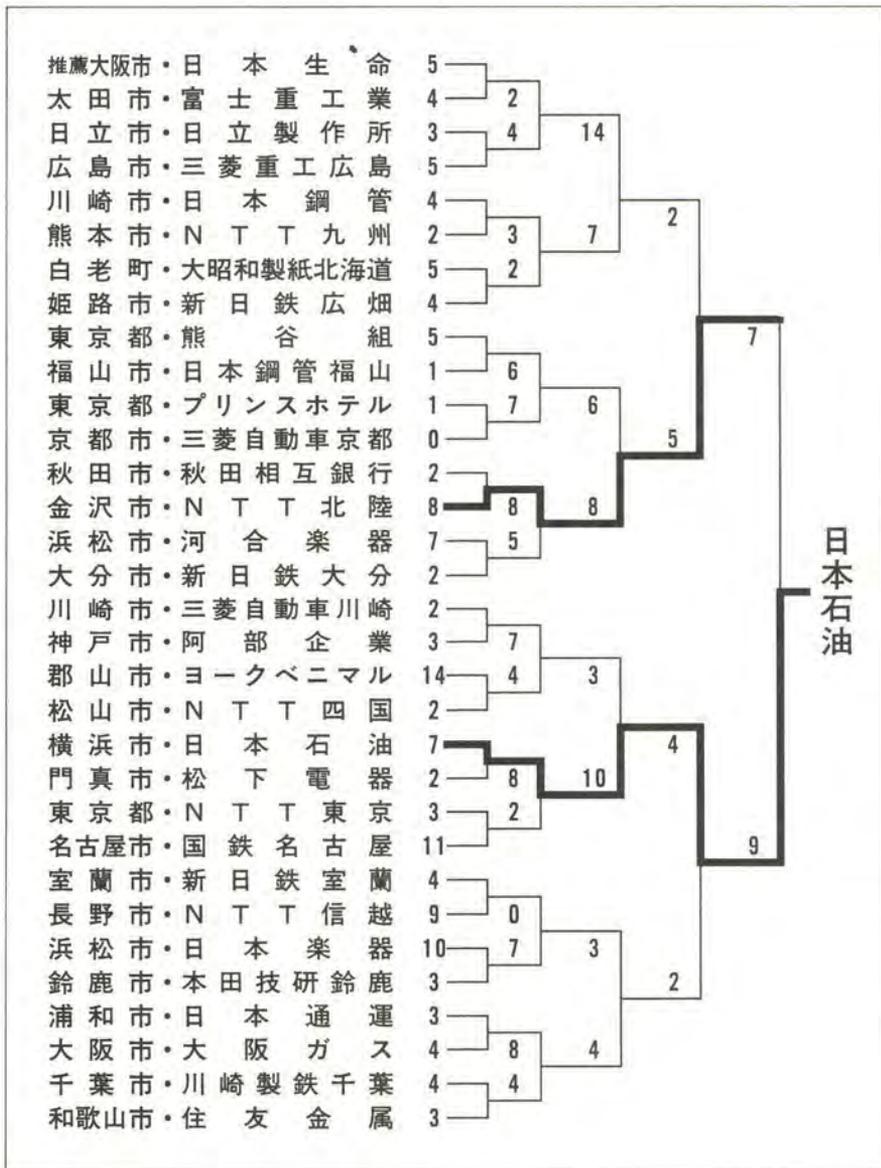
- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68 71 74
監投手 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49 52

(NTT九州)

- 大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
大商高 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大 大工大
監督 35 38 41 44 47 50 53 56 59 62 65 68 71
監投手 13 16 19 22 25 28 31 34 37 40 43 46 49

第57回大会

1986年(昭和61年)7月23日－8月2日・後樂園球場
優勝＝横浜市・日本石油(19年ぶり6回目)



都市対抗1回戦の連敗を食い止めると、勢いに乗った。エースの岡田邦彦は5試合すべてに登板する活躍で、橋戸賞を獲得した。投手が橋戸賞を受けたのは4年ぶりのことだった。打線も強打を発揮し、決勝で17長短打を打ち、大会でのチーム打率は、3割7分という高打率を残した。敗れた金沢市は、チーム打率2割6分6厘だったが、決勝で4本塁打を放つなど、12本塁打を放つ豪快な打力を発揮した。

大会は雨で1日遅れて7月23日に開幕した。初出場は大阪市・大阪ガスと神戸市・阿部企業の関西2チームだったが、両チームとも大活躍し、大会を盛りあげた。大阪は優勝候補の1角にあげられていた浦和市・日本通運を破ったあと、千葉市・川崎製鉄千葉、浜松市・日本楽器と強豪を次々と倒して準決勝へ進出。神戸は、V候補、川崎市・三菱自動車川崎を倒したあと、1回戦で連続3ホームーなどの猛打でコールド勝ちした郡山市・ヨークベニマルにも勝ってベスト8に進出した。大阪、神戸とも優勝した横浜に敗れたものの、その健闘はファンを大いにわかせた。大阪ガスは創部38年目、阿部企業は17年目だった。

最後の「国鉄」として出場した名古屋市・国鉄名古屋は、3万3000人の大観衆を集めた1回戦で、4回に連続3ホームーなどで6点をあげ、地元東京都・NTT東京に快勝。30回大会で京都市・積水化学に勝って以来、27年ぶりの白星をあげた。また白老町・大昭和製紙北海道は、姫路市・新日鉄広畑を破り、休部から5年目の復活第1戦を白星で飾った。

この大会も本塁打が続出し、大会の合計は83本、55回大会の78本を越える新記録となった。83本のなかには多くの記録が生まれ、大会第4日には名古屋市・国鉄名古屋と郡山市・ヨークベニマルの2チームが3連続本塁打。準々決勝第1試合では広島市・三菱重工広島が9回、打者15人で9点をあげて川崎市・日本鋼管に逆転勝ち。この試合は両チーム合わせて10本塁打の新記録。

日本楽器の武居邦生内野手に特別賞が贈られる「本塁打の大会」であった。

久慈賞は金沢市・杉山孝一外野手(新日鉄名古屋から補強)、小野賞は大阪市・大阪ガスに贈られた。

決勝に出れば優勝！6回目

横浜市・日本石油が打撃戦のすえ、金沢市・NTT北陸をくだし、19年ぶり6回目の優勝を果たした。同チームは、これで6度の決勝進出すべてに勝ち、同チームの持つ最多優勝記録をさらに伸ばした。

横浜・日本石油は、前年までの10年間、予選落ち3度、1回戦敗退7度と不振が続き、かつての「強豪」の名はすっかり薄れていた。しかし1回戦で門真市・松下電器に勝って、

横浜市 (日本石油)	0	1	1	2	2	3	0	0	0		9
金沢市 (NTT北陸)	2	1	2	0	1	0	0	1	0		7

【横浜市】	打安点振球	【金沢市】	打安点振球
⑧ 鈴木	630000	③ 新川	401000
④ 若木	500001	④ 北川	521000
⑤ 武智	521000	⑨ 瀬山	532000
⑦ 石川	432111	⑦ 岡村	512110
⑦ 田中	322000	⑤ 杉下	510200
⑨ 曾根	000000	② 野々	200000
⑥ 中伊	422011	⑤ 西	310000
② 伊藤	421011	⑧ 中片	311111
① 村岡	411110	⑥ 寺大	420000
H 大久保	112000	① 手倉	000000
1 田口	110000	H 上野	200100
1 保戸	200100	R 野水	110000
	4017944	R 金津	000000
機併残盗失	311172	H 森	100000
投手	2	1 井口	000000
岡田	3		
岡田	2½	機併残盗失	4012751
保戸	3½	10800	
		投手	
		手倉	1½
		大上	4½
		鈴木	2
		井口	1
			30100

▽本塁打 杉山4号② (岡田) 片山1号 (岡田) 間瀬2号② (岡田) 大久保1号② (上原) 北川1号 (田口) ▽三塁打 武智 ▽二塁打 鈴木 中葉 佐々木 ▽三時間40分



優勝の瞬間。マウンドで抱き合う日本石油ナイン

たのが横浜6回の攻撃。田口の右前打と鈴木のパント安打で無死一・二塁の好機をつかみ、若井の投ゴロで一・三塁。武智凡退、若井二盗で二死二・三塁となったあと、石川の打球が二塁手後方へのテキサス安打となり2者生還。さらに玉川の適時打でこの回3点を奪った。投げては3番手の左腕・保戸田が再三のピンチをしのご、金沢の反撃を1点に抑えて3時間40分の攻防に終止符を打った。

金沢は1回到杉山の左翼ジャンボスタンドに飛び込む特大の4号2ラン、2回には片山のソロと、横浜のエース岡田を3回で降板させた。その一発攻勢は、すさまじかった。リードされた後半も6回に一死満塁、7回二死二・三塁とチャンスがあったが、8回に新座の犠飛であげた1点にとどまった。

爆発3打席連続本塁打

金沢市・NTT北陸の4番打者、杉山孝一左翼手(新日鉄名古屋から補強)が、2回戦の浜松市・河合楽器戦で3打席連続本塁打の快記録をつくった。1本目は2点を追う4回

MEMO

◇大会最多本塁打 通算83本の本塁打は新記録。従来の記録は55回大会(59年)の78本塁打。

◇個人通算最多本塁打10本 浜松市・日本楽器の武居邦生内野手は、2回戦の長野市・NTT信越で、高野尚投手から10号を放ち新記録。

◇3打席連続本塁打 金沢市・NTT北陸の杉山孝一外野手(新日鉄名古屋から補強)は、2回戦の浜松市・河合楽器戦の4回、5回到水沢投手から、8回到松田投手から放って新記録達成。1試合3本塁打とも史上初。

◇1試合個人3本塁打 川崎市・日本鋼管の金久保孝治外野手は、準々決勝の広島市・三菱重工広島戦で、1回到2ラン、5回到ソロ、9回到2ランを放ってタイ記録。大会7日目の金沢市・NTT北陸の杉山孝一に次いで2人目。

◇1試合10本塁打と1チーム5本塁打 準々決勝の広島市・三菱重工広島と川崎市・日本鋼管は、ともに5本ずつの本塁打を放ち、計10本の大会新。これまでの記録は7本。両チーム5本はタイ記録。

◇3連続本塁打 郡山市・ヨークベニマルは、1回戦の松山市・NTT四国戦の5回、曲山義和、林仲秋、近内一雅が記録。

名古屋市・国鉄名古屋は、1回戦の東京都・NTT東京戦の4回、松本安司(三菱名古屋から補強)、湯の戸孝修(NTT東海から補強)、坂野彰宏が記録。

第51回大会の松山市・電電四国について2、3回目。1イニング3本塁打は史上6、7回目。

強打の応酬、横浜粘り勝ち

序盤から打撃戦を展開、見応えのある決勝戦だった。金沢市が本塁打攻勢でリードを奪ったが、横浜市は粘り強く反撃した。間瀬の2ランで5-2とリードされた横浜は4回、代打・大久保が左翼へ2ラン。5回には武智の三塁打を口火に、4長短打で逆転した。

その裏、金沢は北川の本塁打でたちまち追いつき、強打の応酬が続いたが、勝敗を分け

1勝のつもりが選手は燃えて

横浜市・日本石油
磯部史雄監督



法大出身。第42回大会から49回大会まで好守好打の外野手として出場。世界選手権などの代表。監督に就任した第57回大会に優勝。現在、日本石油産業燃料部直売一課長。

代表が決まったとき「とにかく今回は後楽園で1勝する」と心に誓った覚えがある。なにしろ日石は第46回大会でベスト8に進んで以来、10年間も後楽園で白星をあげていない。そこで優勝経験のある村上忠則捕手(日産自動車)と武智勇治一塁手(東芝)の両ベテランをお願いして補強した。

松下電器との1回戦で2回の二死二塁には村上君が左前打したにもかかわらず、二塁走者が捕手のブロックにあってタッチアウト。「勝てないときは、こんなものなのか」と、目の前が暗くなるようだった。それでも石川

正之、玉川寿の本塁打が3回到飛び出して、11年ぶりの勝利をあげた。「これでいい、あとは気楽にやろう」と選手に言うと、みんなが「冗談じゃない。とことん勝ちましょう」と猛反撃、心の中では「よし」の手応えを感じたのも忘れられない。

準決勝、決勝とリードを許し苦しい展開だったが、そのたびに補強の2人が「相手は日石の伝統と名前を恐れているんだ。おれたちが日石と試合をするときは、いつもそうだ」と若手を落ちつかせ、選手のやる気を引き出してくれた。

決勝で4回到エースの岡田邦彦に代打を出し、その大久保盛義が2ランして1点差にしたところで「いける」と思った。あとは流れて逆転したが、苦しくても、あわてずに引っぱってくれた補強選手、日ごろの力を発揮してくれた若い選手たちに感謝の気持ちでいっぱいだった。

「勝つ野球」を知っている人たちの補強は大成功だった。そしてそれを盗み、自分のものにしようの若手。一生忘れられない大会であった。

一死から左中間中段へ。「水沢君はカーブの切れがよくなかったから、ストレートに絞っていました。まん中高めの真っすぐでした」。

2本目は5回、リードを広げる左翼席2ラン。「狙ったとおり、内角真っすぐ」。3本目は8回、松田投手から外角へのスライダを右翼席へ。

180㌔、83㌔の体を生かし、バットの振りのスピードは抜群。「3本ともだいたい狙いグマが絞れました」と相手投手の配球を読めるようになったのが、いい結果を生んだ。決勝の横浜市・日本石油戦でも2ランを放ち、今大会4本の本塁打を記録、久慈賞に輝いた。



大阪対浦和。7回浦和、伊藤の右飛で三塁走者・柿沼、本塁を突くがアウト。捕手・上

1回戦

広島市 (三菱重工広島)

0 0 0 2 1 1 1 0 0 | 5
0 0 1 1 0 0 0 1 0 | 3

日立市 (日立製作所)

【広島市】	打安点	【日立市】	打安点
⑧	植多	⑧	荻磯
⑦	田上	⑥	原野
⑥	多井	⑦	島本
⑤	勝野	⑤	山本
④	若松	④	杉西
③	佐野	③	川島
②	正野	②	国山
①	江藤	①	河久
1	岡田	1	酒井
1	横山	1	岡村
1	金山	1	池谷
1	山本	1	山崎
1	山本	1	藤

振球機盗失残併 38123
3 3 2 0 2 1 1 0
投手 回 安責 手川 1 2 0
山 3 4 2
山 4 4 0

▽本塁打 佐々木1号(酒井) 植田
江藤 富士野 谷▽3時間3分

1回戦

横浜市 (日本石油)

0 0 4 0 0 0 1 1 1 | 7
0 0 0 0 1 0 0 1 0 | 2

門真市 (松下電器)

【横浜市】	打安点	【門真市】	打安点
⑧	鈴木	⑤	奥山
④	若木	④	代尾
③	武石	③	野田
②	石川	②	田井
①	中武	①	小沢
1	田島	1	島長
1	中根	1	浦田
1	曾根	1	長浦
1	村中	1	田井
1	岡	1	東岡
1	岡	1	本水
1	岡	1	田野
1	岡	1	野沢
1	岡	1	場川
1	岡	1	崎
1	岡	1	原

振球機盗失残併 35116
3 6 3 5 0 1 0 0
投手 回 安責 岡 9 5 2

▽本塁打 石川1号③(清水) 玉川1号(清水) 岡田1号②(岡田) 二塁打 奥代 岡田 大本 中葉 二塁打 折原 杉本 柿沼 仁村 二時間46分

1回戦

郡山市 (ヨークベニマル)

0 0 0 2 6 0 0 6 | 14
0 0 0 0 0 0 1 1 | 2

松山市 (NTT四国)

【郡山市】	打安点	【松山市】	打安点
⑧	薮早	⑤	東谷
⑦	沼瀬	④	板小
⑥	曲林	③	葺島
⑤	林	②	竹原
④	近根	①	上野
③	大石	①	好元
②	石安	①	正田
①	藤	①	和藤
1	藤	①	加石
1	藤	①	白滝
1	藤	①	白土
1	藤	①	松三
1	藤	①	橋阿
1	藤	①	渡

振球機盗失残併 361212
8 4 1 1 2 3 2
投手 回 安責 手川 8 10 2

▽本塁打 林1号②(滝下) 曲山1号③(滝下) 林2号(白井) 近内1号(白井) 阿部1号(安藤) 井上1号(安藤) 二塁打 根本 二時間48分

1回戦

姫路市 (新日鉄広畑)

1 1 0 0 0 1 1 0 | 4
0 1 1 0 0 2 0 1 | 5

白老町 (大昭和製紙北海道)

【姫路市】	打安点	【白老町】	打安点
⑧	原中	④	高木
⑦	中尾	③	佐佐
⑥	尾形	②	藤原
⑤	上野	①	横菅
④	藤原	①	横菅
③	藤原	①	横菅
②	藤原	①	横菅
①	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅
1	藤原	①	横菅

振球機盗失残併 359 4
5 1 1 1 1 6 0
投手 回 安責 藤原 6 5 3
高坂 1 1 1
足達 1 0 0

▽本塁打 武1号(川瀬) 菅野1号②(藤高) 佐藤1号(江坂) 二塁打 尾形 中村 二時間50分

1回戦

太田市 (富士重工業)

2 1 0 0 0 0 0 1 0 | 4
0 0 0 0 2 0 1 2 | 5

日本生命 (推薦・大阪市)

【太田市】	打安点	【日本生命】	打安点
⑧	木本	⑧	森田
⑦	富永	⑦	花野
⑥	野口	⑥	花野
⑤	村上	⑤	佐藤
④	井上	④	中内
③	井上	③	大守
②	小長	②	米早
①	笠向	①	高比
1	後藤	1	伊藤

振球機盗失残併 33114
0 1 2 2 0 5 1
投手 回 安責 向 8 8 5

▽本塁打 野口1号②(早瀬) 米崎1号②(向田) 鈴木1号(伊藤) 佐藤1号②(向田) 二塁打 長崎 小林 二時間11分

1回戦

浜松市 (日本楽器)

0 1 1 2 0 3 1 1 1 | 10
2 0 0 0 0 0 1 0 0 | 3

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

【浜松市】	打安点	【鈴鹿市】	打安点
④	山中	⑧	山全
③	金武	⑦	大久
②	武中	⑥	越崎
①	藤高	⑤	久崎
1	藤高	④	岡手
1	藤高	③	松葉
1	藤高	②	江右
1	藤高	①	永黒
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田
1	藤高	①	沼田

振球機盗失残併 37179
7 4 4 5 2 8 1
投手 回 安責 劉 9 7 2

▽三塁打 岡崎 二塁打 中村 手嶋 劉 山本 金指 三時間1分

1回戦

大阪市 (大阪ガス)

0 1 3 0 0 0 0 0 0 | 4
0 0 1 0 1 0 1 0 0 | 3

浦和市 (日本通運)

【大阪市】	打安点	【浦和市】	打安点
④	西	⑥	勝柿
③	山井	⑤	呂沼
②	杉土	④	岩井
①	米竹	③	牛仁
1	折竹	②	伊雨
1	折竹	①	長金
1	折竹	①	辻杉
1	折竹	①	玉平
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野
1	折竹	①	岡野

振球機盗失残併 295 4
6 2 3 0 1 3 2
投手 回 安責 山萩 5 3 1
原野 1 2 1
長 2 2 0

▽本塁打 湯川1号(玉田) 西1号(玉田) 岡本1号(萩原) 二塁打 折原 杉本 柿沼 仁村 二時間43分

1回戦

金沢市 (NTT北陸)
0 1 1 0 2 0 0 4 0 | 8
0 0 0 0 0 1 0 1 0 | 2
秋田市 (秋田相互銀行)

【金沢市】 打安点
③ 新北 座川 5 3 0
④ 新北 座川 3 0 2
⑤ 新北 座川 4 0 0
⑥ 新北 座川 4 1 1
⑦ 新北 座川 1 0 0
⑧ 新北 座川 4 2 1
⑨ 新北 座川 4 0 0
⑩ 新北 座川 4 3 3
⑪ 新北 座川 3 0 0
⑫ 新北 座川 4 3 1
⑬ 新北 座川 3 6 1 2 8
振球機盗失残併 2 1 3 2 0 5 1
投手 回 安責
上原 9 7 2

1回戦

東京都 (プリンスホテル)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
京都市 (三菱自動車京都)

【東京都】 打安点
⑧ 田辺 4 2 0
⑨ 田辺 3 1 1
⑩ 田辺 4 0 0
⑪ 田辺 4 0 0
⑫ 田辺 4 2 0
⑬ 田辺 4 0 0
⑭ 田辺 4 1 0
⑮ 田辺 4 2 0
⑯ 田辺 4 2 0
振球機盗失残併 8 0 1 4 0 8 1
投手 回 安責
吉田 9 6 0

1回戦

室蘭市 (新日鉄室蘭)
2 0 0 0 1 1 0 0 0 | 4
1 0 3 0 2 3 0 0 X | 9
長野市 (NTT信越)

【室蘭市】 打安点
⑧ 林田 4 2 2
⑨ 林田 2 2 0
⑩ 林田 3 0 0
⑪ 林田 3 1 1
⑫ 林田 4 2 1
⑬ 林田 0 0 0
⑭ 林田 2 0 0
⑮ 林田 2 0 0
⑯ 林田 2 0 0
⑰ 林田 1 0 0
⑱ 林田 0 0 0
⑲ 林田 2 0 0
⑳ 林田 1 0 0
㉑ 林田 1 0 0
㉒ 林田 1 0 0
㉓ 林田 4 1 0
振球機盗失残併 8 2 2 2 1 5 0
投手 回 安責
山口 4 6 5
米橋 2 3 3
浅川 2 1 0

1回戦

名古屋市 (国鉄名古屋)
0 0 0 6 0 1 1 2 1 | 11
1 0 0 0 0 2 0 0 0 | 3
東京都 (NTT東京)

【名古屋市】 打安点
④ 森本 4 1 0
⑤ 森本 4 2 1
⑥ 森本 3 0 1
⑦ 森本 4 3 1
⑧ 森本 3 1 1
⑨ 森本 1 0 0
⑩ 森本 5 2 3
⑪ 森本 5 1 1
⑫ 森本 3 2 1
⑬ 森本 1 0 0
⑭ 森本 1 1 1
⑮ 森本 2 1 1
⑯ 森本 0 0 0
⑰ 森本 0 0 0
⑱ 森本 1 0 0
⑲ 森本 1 0 0
⑳ 森本 1 0 0
㉑ 森本 1 0 0
振球機盗失残併 7 3 5 3 1 7 0
投手 回 安責
鈴木 6 4 3
山本 1 1 0
吉井 2 0 0

【福山市】 打安点
⑧ 岡田 4 0 0
⑨ 岡田 4 1 0
⑩ 岡田 3 0 0
⑪ 岡田 4 1 0
⑫ 岡田 0 0 0
⑬ 岡田 2 0 0
⑭ 岡田 2 1 0
⑮ 岡田 3 1 0
⑯ 岡田 0 0 0
⑰ 岡田 2 1 0
⑱ 岡田 1 0 0
⑲ 岡田 1 0 0
⑳ 岡田 0 0 0
㉑ 岡田 0 0 0
振球機盗失残併 7 2 2 1 1 5 0
投手 回 安責
織坂 6 7 1
阪前 1 1 1
岡 1 1 0

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 10 1 1 0 1 4 1
投手 回 安責
山本 6 8 5
塩山 1 1 0
藤原 1 0 0
浜口 1 0 0

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

【熊本市】 打安点
⑧ 村上 4 1 0
⑨ 村上 4 0 0
⑩ 村上 3 0 0
⑪ 村上 1 0 0
⑫ 村上 4 3 1
⑬ 村上 3 0 0
⑭ 村上 2 0 0
⑮ 村上 2 0 0
⑯ 村上 1 0 0
⑰ 村上 3 0 0
⑱ 村上 2 0 0
⑲ 村上 0 0 0
⑳ 村上 1 0 0
㉑ 村上 0 0 0
振球機盗失残併 3 1 4 2 0 6 1
投手 回 安責
谷津田 9 4 1

1回戦

大分市 (新日鉄大分)
0 0 0 0 1 0 1 0 0 | 2
0 0 1 4 0 0 1 1 X | 7
浜松市 (河合楽器)

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

【大分市】 打安点
⑦ 柳谷 3 1 0
⑧ 柳谷 4 1 0
⑨ 柳谷 0 0 0
⑩ 柳谷 1 0 0
⑪ 柳谷 3 1 1
⑫ 柳谷 4 1 1
⑬ 柳谷 4 0 0
⑭ 柳谷 4 1 0
⑮ 柳谷 2 1 0
⑯ 柳谷 3 0 0
⑰ 柳谷 0 0 0
⑱ 柳谷 1 0 0
⑲ 柳谷 0 0 0
⑳ 柳谷 1 0 0
㉑ 柳谷 2 1 0
振球機盗失残併 6 6 1 1 1 1 0 0
投手 回 安責
岩波 3 3 3
有馬 0 1 0
井手 2 0 0
歳納 2 2 2

横 浜 市 秋 田 市 千 葉 市 東 京 都

Table for Yokohama City (横浜市) listing candidates and their party affiliations.

Table for Aomori City (秋田市) listing candidates and their party affiliations.

Table for Chiba City (千葉市) listing candidates and their party affiliations.

Table for Tokyo (東京都) listing candidates and their party affiliations.

推 薦 ・ 大 阪 市

Table for Osaka City (大阪市) listing recommended candidates.

郡 山 市 浦 和 市 川 崎 市

Table for Yamaguchi City (郡山市), Utsunomiya City (浦和市), and Sagami City (川崎市).

川 崎 市

Table for Sagami City (川崎市).

川 崎 市

Table for Sagami City (川崎市).

白 老 町

Table for Shiraoi Town (白老町).

日 立 市

Table for Nittsu City (日立市).

東 京 都

Table for Tokyo (東京都).

川 崎 市

Table for Sagami City (川崎市).

室 蘭 市

Table for Muroran City (室蘭市).

太 田 市

Table for Matsumoto City (太田市).

東 京 都

Table for Tokyo (東京都).

浜 松 市

Table for Hamamatsu City (浜松市).

浜松市

(河合楽器)

Table listing names and numbers for Hamamatsu City (河合楽器). Includes names like 村田田中, 利宏, 宏昇, etc.

金沢市

(NTT北陸)

Table listing names and numbers for Kanazawa City (NTT北陸). Includes names like 益成, 松本, 成井, etc.

門真市

(松下電器)

Table listing names and numbers for Maminaka City (松下電器). Includes names like 山口, 北山, 勝久, etc.

福山市

(日本鋼管福山)

Table listing names and numbers for Fuyuki City (日本鋼管福山). Includes names like 深古, 真藤, 真藤, etc.

長野市

(NTT信越)

Table listing names and numbers for Nagano City (NTT信越). Includes names like 柳野, 柳野, 柳野, etc.

和歌山市

(住友金属)

Table listing names and numbers for Wakayama City (住友金属). Includes names like 清水, 水村, 高木, etc.

神戸市

(阿部企業)

Table listing names and numbers for Kobe City (阿部企業). Includes names like 中本, 中本, 中本, etc.

松山市

(NTT四国)

Table listing names and numbers for Matsuyama City (NTT四国). Includes names like 横濱, 横濱, 横濱, etc.

名古屋市

(国鉄名古屋)

Table listing names and numbers for Nagoya City (国鉄名古屋). Includes names like 植下, 植下, 植下, etc.

京都市

(三菱自動車京都)

Table listing names and numbers for Kyoto City (三菱自動車京都). Includes names like 中川, 中川, 中川, etc.

姫路市

(新日鉄広畑)

Table listing names and numbers for Himeji City (新日鉄広畑). Includes names like 河内, 河内, 河内, etc.

大分市

(新日鉄大分)

Table listing names and numbers for Oita City (新日鉄大分). Includes names like 五馬, 五馬, 五馬, etc.

鈴鹿市

(本田技研鈴鹿)

Table listing names and numbers for Suzuka City (本田技研鈴鹿). Includes names like 名和, 名和, 名和, etc.

大阪市

(大阪ガス)

Table listing names and numbers for Osaka City (大阪ガス). Includes names like 藤田, 藤田, 藤田, etc.

広島市

(三菱重工広島)

Table listing names and numbers for Hiroshima City (三菱重工広島). Includes names like 守屋, 守屋, 守屋, etc.

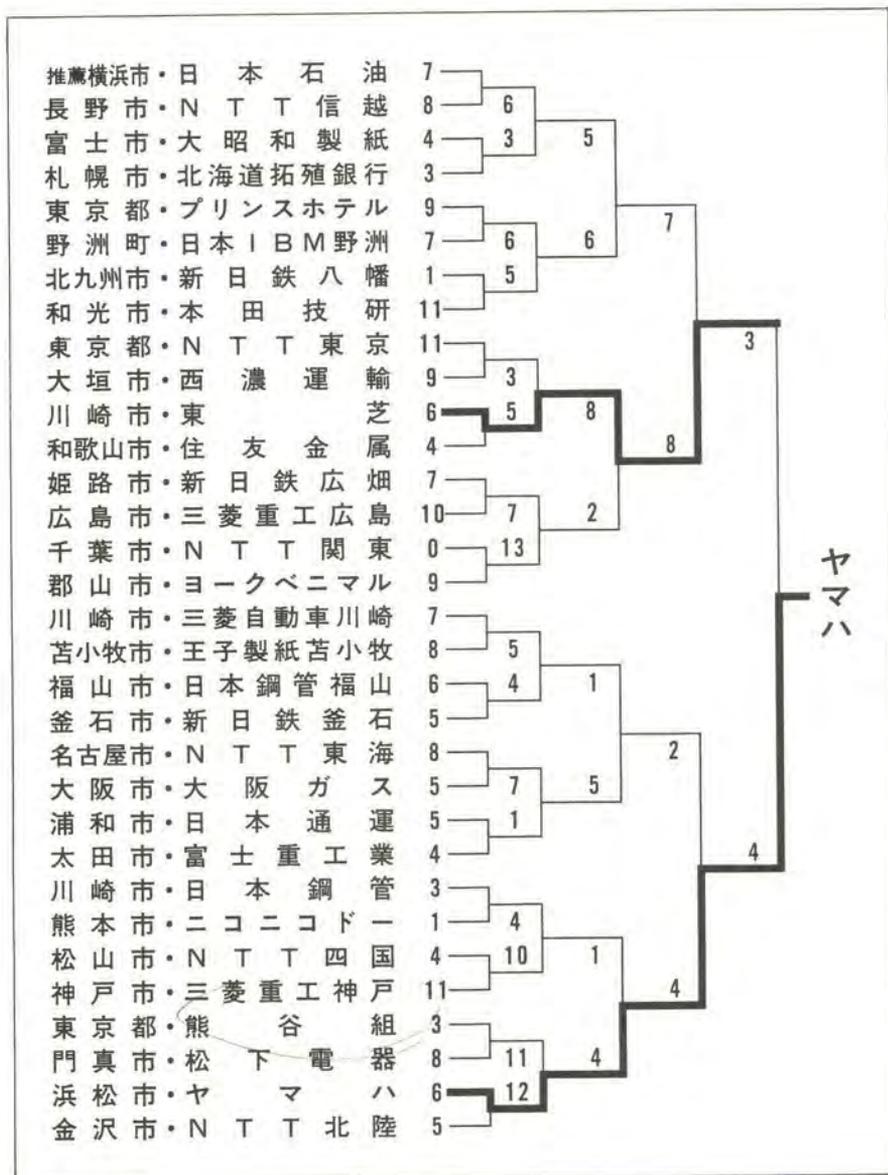
熊本市

(NTT九州)

Table listing names and numbers for Kumamoto City (NTT九州). Includes names like 永城, 永城, 永城, etc.

第58回大会 1987年(昭和62年)7月26日-8月5日・後樂園球場

優勝=浜松市・ヤマハ (15年ぶり2回目)



手にし、小野賞も獲得した。

大会前のヤマハは、投手、打力とも弱いと下馬評にもあがらなかったが、1回戦で前年の準優勝チーム、金沢市・NTT北陸に逆転勝ちし、2回戦も門真市・松下電器と延長戦を演じたすえ逆転サヨナラ勝ち。金沢戦では武居邦生内野手が個人通算最多本塁打の記録を更新する「11号」を放った。

門真戦では1回に「8打数連続安打」の驚異的な集中打で一挙8点。この大量点を門真が米崎薫臣（日本生命から補強）、島田行雄の連続本塁打などの長短打で追いかけて、追いつき延長戦。11回表には門真が1点のリードを奪ったが、ヤマハはその裏、あざやかに逆転。3時間27分の死闘にピリオドをうった。

打力で1、2回戦を切り抜けたヤマハは、後半は投手が奮起、準々決勝は劉秋農投手が神戸市・三菱重工神戸を5安打1点に抑える完投、準決勝は金指幸男外野手が先頭打者本塁打を放つ一方、山中保彦投手が好投し名古屋市・NTT東海を破った。決勝では劉が川崎市・東芝を8回まで散発5安打に抑え、9回二死から代打・清家の3ランで1点差に詰め寄られたが、代わった高久孝投手が最後を締めくくった。

川崎市・東芝は、準決勝で東京都・プリンスホテルを9回の代打攻勢で逆転、スタンドをわかせた。名古屋市・NTT東海もヤマハに敗れはしたが、山本賀久投手（三菱名古屋から補強）が2回戦で優勝候補の浦和市・日本通運を3安打の1点に抑え、29年ぶりのベスト8進出を果たすなど、活躍めざましかった。

大会第6日は第1試合が終わったところで激しい雷雨に見舞われ、第2試合以降は順延。

本塁打はまた量産され、大会通算「95本」を記録、前年の83本を越えて新記録。和光市・本田技研が北九州市・新日鉄八幡戦でチーム6本の新記録を生んだ。休部あけの富士市・大昭和製紙は、延長12回、福永明一塁手の一発で札幌市・拓殖銀行を破り、久びさの後樂園を飾った。

橋戸賞は決勝で好投した台湾出身の浜松・ヤマハの劉秋農投手が、外国人として初めて受賞した。久慈賞は川崎・菊池総投手が第56回大会以来、2年ぶり2度目の受賞に輝いた。久慈賞を2度受けたのは3人目。

最後の後樂園“別れの砲音”95発

“後樂園最後の大会”は、浜松市・ヤマハが決勝で川崎市・東芝を退け、15年ぶり2度目の黒獅子旗を獲得した。10月に創業100年を迎えるヤマハは、会社の社名変更よりひと足先に、チーム名を日本楽器から「ヤマハ」として登場、記念すべき年に早ばやと快挙をなしとげた。川島勝司監督は15年前、29歳の若さで監督就任早々に初優勝し、この年は春に野球部長から監督に返り咲いて再び栄冠を

浜松市 (ヤマハ)	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
川崎市 (東芝)	0	0	0	0	0	0	0	3	1	3

浜松市	打安点振球	川崎市	打安点振球
⑦	4 0 0 0 0 0	⑧	4 1 0 1 0 1
H	1 0 0 0 0 0	④	4 1 0 0 0 0
7	0 0 0 0 0 0	⑨	3 0 0 0 0 0
④	5 2 0 0 0 0	5	1 0 0 0 0 0
⑨	5 1 1 1 1 0	③	3 0 0 1 1 1
⑤	3 1 0 0 2	⑦	2 2 0 0 0 1
③	3 1 1 1 0	⑤	2 0 0 0 1 0
5	1 0 0 0 0	H 9	2 0 0 0 0 0
⑧	4 1 0 0 0 0	②	3 1 0 1 0 1
R 8	0 0 0 0 0 0	H	1 0 0 0 0 0
②	3 2 1 0 0	⑥	1 0 0 0 0 0
⑥	4 1 0 0 0 0	H	1 0 0 0 0 0
①	4 0 0 0 1 0	H	1 0 0 0 0 0
1	0 0 0 0 0 0	①	1 1 3 0 0 0
	37 9 3 3 2	①	3 0 0 0 0 0
		H	0 0 0 0 0 0
		H	1 0 0 1 0
		H	3 3 6 3 5 2

▽本塁打 清家1号③(劉)▽二塁打 葛城 佐藤 中村
前田▽2時間40分

浜松・劉が会心のピッチング

浜松市・ヤマハは1回二死後、中村二ゴロ失、武居四球で一・二塁とし、村瀬が中前安打して先制。5回には二死後、右前打の山本が二盗と捕手の悪送球で三進。中村の右翼線二塁打で生還した。さらに8回には、武居の中前打を足場に犠打野選、投手の悪送球と守備の乱れにつけ込んで2点を加え、試合を一方的にした。浜松の劉投手は、切れ味のあるスライダー、ゆるいカーブ、フォークをコーナーぎりぎりに散らす会心の投球で、8回まで川崎市・東芝打線を5安打散発に抑えた。しかし川崎は9回、代打攻勢で劉をとらえた。死球の梁原を一塁に置いた二死後、代打・小林のゴロが遊撃手の野選を誘って一・二塁とし、代打・清家が左翼へ3ラン。1点差として劉を退けたが、代わった高久に抑えられ、反撃も届かなかった。川崎は2回から6回まで毎回走者を出しながら、劉の多彩な投球にマトが絞れず、大振りして得点できなかったのが響いた。ヒジの故障を克服して快投した劉のピッチングが勝利の原動力。



決勝戦。1回浜松村瀬の適時打で中村生還して先制

天まで届けの思いの胸上げ

浜松市・ヤマハ
川島勝司監督



中大から日本楽器に入社。闘志あふれるプレーで活躍。43回大会は監督兼務で3回目の決勝進出を成し遂げ初優勝。監督に復帰して2度目の優勝で、小野賞を受賞した。現監督。

会社の創業100年、社名を日本楽器からヤマハに代えた年で、予選ではプレッシャーがかなりあった。でも後楽園に来てからは、選手たちにも「だから頑張れ」とはいっさい言わず、その日その日の試合を戦った。はじめから苦しかったが、2回戦の松下電器との試合は生涯忘れることのできない展開だった。

初回到8点を取り、3点返されたあと4回到2点追加したのだから、「これで終わった」と思った。それが油断だった。西村投手は当

初4回の予定だったのに点差もあり、つい経験を積ませてなんて思って続投させたのが乱戦の始まり。流れが変わって6、7回に7点を奪われ、あっという間に同点にされた。でも7回が同点止まりだったので、みんなに「ここからやり直し」と言ったが、8回からうちはチャンスをつくれずムードが落ち込んできた。11回に1点を取られ、緊張はしたもの「これでまたゲームが動く」の気がした。選手も気力が戻ってきた感じで二死一・二塁としたが、3番の中村がバウンドするような低い球を2球続けて空振りしたときは思わず目をつむり、敗戦の弁が頭に浮かんだほどだった。それが、中村が右翼線に二塁打し、二塁の尾上に続いて一塁の村瀬がホームに走ってきた。球審のカゲになって、ホームが見えなかったが、ボールがコロコロ転がっているのに気づき、選手がベンチから飛び出す姿に、サヨナラ勝ち、と思った。その後のことはあまり覚えていないくらい興奮していた。

15年前の初優勝とはまた違ったうれしさと、胸あげされたときは本当に「天まで届け」の思いだった。

乗りに乗って6本塁打

1試合チーム6本塁打の大会新記録をつかった和光市・本田技研(対北九州市・新日鉄八幡戦)。2本塁打を放った青木一芳内野手は「相手投手はスピードがなかった」といえば、同じ2ホームのルーキー、西俊児内野手も「みんなが打つので、気楽に打てた」。猛打爆発に田代克業監督は「こんなに打ってくれるとは…。うちは若いからすぐ乗ってくれる」とうれしい談話。

追い越して無効本塁打

「幻」に次ぐ「V」本塁打。富士市・大昭和製紙の5番打者・福永明選手が1回戦の札幌市・北海道拓殖銀行戦で快(怪)記録をつけた。

まず4回。左前打で出た並木を一塁に置いて、右越えに「本塁打」を放った。フェンスすれすれの当たりで、札幌の右翼手がジャンプして捕球の仕草をしたため、並木は捕られたものと錯覚。帰塁する並木を福永が一・二塁間で追い越してしまい、大会史上初の「追い越し無効本塁打」となった。

「もう1本狙ってみろ」と監督に言われた福永、延長12回、0-1から2球目直球を振り抜くと、球は右翼席中段へ飛び込んだ。これが決勝本塁打となって、富士市は2回戦へ勝ち進んだ。

なお、「幻の本塁打」は3人目。過去2回は、25回大会(昭和29年)で八幡市・八幡製鉄の石橋選手が放った本塁打がタイム中だっ

たのと、39回大会(43年)で横浜市・日本石油の秋元選手が二塁を踏まずにアウトになったケース。

MEMO

- ◇1大会最多本塁打95本 前年の83本塁打を更新した。
- ◇1試合チーム最多本塁打6本 和光市・本田技研が1回戦の北九州市・新日鉄八幡戦で6本塁打の新記録。青木一芳、西俊児が2本、朝山憲重、雨堤浩久各1本。従来の記録は5本で5度ある。
- ◇3連続本塁打 川崎市・東芝は、準々決勝の郡山市・ヨークベニマル戦の6回、高見泰範、泉水稔、菊池総が記録。史上4度目。1イニング3本塁打は8回目。
- ◇満塁本塁打 名古屋市・NTT東海の松本安司外野手(三菱名古屋から補強)は、1回戦の大阪市・大阪ガス戦の4回、松谷投手から。史上23本目。
- ◇チーム1イニング最多安打8、同連続安打6 2回戦で浜松市・日本楽器が門真市・松下電器戦の1回、8安打を記録。31回の八王子市・リッカーミシン以来2回目。
- また6連続安打はタイ記録で4回目。四球、犠打をはさむ8打数連続安打は大会新。



名古屋対大阪。4回名古屋の松本が満塁本塁打を放つ

1 回戦

福山市 (日本鋼管福山) 6
 1 1 1 0 0 0 0 0 2 0 1 | 6
 3 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 5
 釜石市 (新日鉄釜石)

【福山市】	打安点	【釜石市】	打安点
④ 上川野	5 1 1 0	⑥ 早田	6 3 0 0
⑤ 村森	4 2 1 1	⑦ 瀬沢	4 1 1 0
③ 岩野	4 2 1 1	⑧ 崎崎	5 1 1 0
⑦ 川部	3 0 1 1	⑨ 石若	4 1 1 1
⑥ 小渡	5 1 0 1	⑩ 吉寺	2 0 0 0
⑨ 林藤	2 0 0 0	⑪ 田島	4 1 3 0
② 小佐	5 2 0 0	⑫ 川村	4 2 0 0
① 白石	2 0 0 0	⑬ 瓶村	2 0 0 0
H 木村	2 0 0 0	⑭ 原野	1 0 0 0
1 河本	1 0 0 0	⑮ 野村	1 0 0 0
1 山本	1 1 0 0	⑯ 大野	2 0 0 0
	42136	⑰ 猪狩	2 1 0 0

振球権盗失残併 4 4 3 0 0 1 0 1
 投手 回 安責 5 2 2 2
 投石川本 2 2 2 2
 河浜山 1 1 0 2
 山本 3 2 0 0

▽本塁打 勝部1号(斎藤) 寺島1号②(河本)
 岩野1号②(高島)▽二塁打 三瓶 岩野 渡部
 若槻 猪狩 早瀬2▽3時間37分

1 回戦

苫小牧市 (王子製紙苫小牧) 8
 0 1 1 0 1 0 0 2 3 | 8
 0 0 0 1 1 0 0 4 1 | 7
 川崎市 (三菱自動車川崎)

【苫小牧市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑦ 小林	5 3 1 1	④ 川見	4 2 0 0
④ 竹	6 0 0 0	⑤ 小	5 3 2 0
⑤ 佐	4 2 0 0	⑥ 清	5 1 1 1
⑨ 沢	5 1 1 1	⑦ 角	5 2 1 1
③ 長	4 1 1 1	⑧ 田	3 1 2 0
⑧ 阿	4 1 0 0	⑨ 田	2 0 0 0
② 山	4 0 0 0	⑩ 四	1 0 0 0
① 中	3 1 0 0	⑪ 須	3 1 0 0
1 嶋	1 1 0 0	⑫ 下	0 0 0 0
1 樋	0 0 0 0	⑬ 齊	0 0 0 0
H 樋	1 1 1 1	⑭ 原	1 0 0 0
1 藤	0 0 0 0	⑮ 阿	2 0 0 0
⑥ 鹿	2 0 0 0	⑯ 野	1 0 0 0
H 佐	3 2 2 0	⑰ 井	0 0 0 0
	42136	⑱ 野	0 0 0 0

振球権盗失残併 1 5 0 2 0 1 2 2
 投手 回 安責 4 1/2 4 2
 投中嶋治 4 1/2 3 2 2
 浅樋川口 3 2 2 2
 小川 1 3 1 1

振球権盗失残併 5 4 1 2 3 6 0
 投手 回 安責 4 1/2 8 3
 投小野 4 1/2 0 0
 小吉 3 3/2 0 0
 阿部 3 3 2 2
 小笠原 1 2 0 0

▽本塁打 長沢1号(小野) 小林影1号(小野)
 佐々木1号②(阿部文) 鶴見1号②(浅川)
 和田1号②(樋口)▽三塁打 佐々木穂▽二塁打
 小林影 佐々木穂 鶴見 沢田▽3時間57分

1 回戦

野洲町 (日本IBM野洲) 7
 0 0 0 0 1 2 3 1 0 | 7
 0 0 1 4 2 0 0 2 X | 9
 東京都 (プリンスホテル)

【野洲町】	打安点	【東京都】	打安点
⑧ 田	5 2 1 1	⑧ 田	5 1 1 1
④ 田	4 3 1 1	④ 田	5 2 2 2
⑤ 小	4 0 0 0	⑥ 栗	5 3 0 0
⑥ 松	5 3 1 1	⑦ 島	4 3 3 3
③ 飯	4 2 1 1	⑨ 中	5 1 0 0
⑦ 原	3 1 1 1	③ 村	3 1 2 2
⑦ 芳	2 0 0 0	⑤ 石	3 0 0 0
⑦ 落	2 0 0 0	② 初	3 2 0 0
② 坂	1 0 0 0	① 芝	2 1 1 1
H 森	3 2 1 1	1 山	0 0 0 0
① 山	1 1 0 0	1 本	1 0 0 0
H 井	0 0 0 0	1 末	1 0 0 0
1 阪	1 0 0 0		36149
H 上	1 0 0 0		
1 正	1 0 0 0		
H 中	1 1 0 0		
R 藤	0 0 0 0		
1 藤	1 1 1 1		
	37167		

振球権盗失残併 3 1 2 2 1 6 0
 投手 回 安責 3 1/2 6 5
 投手 本 3 1/2 2 0
 阪西 本 2 4 2
 藤原亨 2 2 2

▽本塁打 勝部1号(斎藤) 寺島1号②(河本)
 岩野1号②(高島)▽二塁打 三瓶 岩野 渡部
 若槻 猪狩 早瀬2▽3時間37分

1 回戦

松山市 (NTT四国) 4
 0 0 0 0 0 2 0 2 0 | 4
 0 5 1 0 2 0 2 1 X | 11
 神戸市 (三菱重工神戸)

【松山市】	打安点	【神戸市】	打安点
⑦ 武	4 3 3 3	⑦ 水	4 1 2 2
④ 小	3 0 1 1	④ 小	5 1 0 0
③ 小	2 0 0 0	⑨ 林	5 0 0 0
H 山	2 0 0 0	③ 岡	3 2 0 0
⑤ 藤	3 0 0 0	R 岡	0 0 0 0
⑤ 石	3 2 0 0	⑥ 田	4 3 1 1
⑧ 三	2 1 0 0	⑥ 岡	3 1 0 0
H 石	2 0 0 0	⑤ 山	1 0 1 1
② 夕	1 0 0 0	⑤ 中	5 2 2 2
H 菜	1 0 0 0	⑧ 富	4 2 1 1
1 師	0 0 0 0	② 馬	4 2 2 2
1 神	0 0 0 0	① 岡	0 0 0 0
1 田	0 0 0 0	1 千	0 0 0 0
H 谷	2 1 0 0	1 松	0 0 0 0
⑥ 谷	2 0 0 0		36149
H 精	1 0 0 0		
⑥ 神	1 0 0 0		
1 渡	0 0 0 0		
H 加	1 0 0 0		
① 波	1 0 0 0		
② 武	0 0 0 0		
	3074		

振球権盗失残併 2 4 1 4 1 8 2
 投手 回 安責 8 1/2 10 3
 投岡 手 7 1/2 5 4
 千松 1 1 1 0
 陽 1 1 0 0

▽本塁打 山口1号(浜田) 武田正1号②(岡本)
 岡本1号②(橋谷)▽二塁打
 豊打 小羽 石元 武田正▽2時間24分

1 回戦

熊本市 (ニコニコドー) 1
 0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
 0 0 0 0 0 1 1 1 X | 3
 川崎市 (日本鋼管)

【熊本市】	打安点	【川崎市】	打安点
⑥ 井	3 0 0 0	⑧ 島	3 2 0 0
⑤ 手	4 2 0 0	④ 野	1 0 0 0
⑨ 裕	4 1 0 0	④ 田	0 0 0 1
③ 永	4 2 0 0	H 中	0 0 0 0
③ 田	4 1 0 0	④ 叻	0 0 0 0
⑧ 山	4 1 0 0	⑤ 土	4 1 1 1
⑦ 武	2 0 0 0	⑨ 金	4 0 0 0
R 端	0 0 0 0	③ 久	4 1 1 1
② 荒	0 0 0 0	⑥ 羽	4 0 0 0
② 伊	0 0 0 0	③ 井	4 1 1 1
⑦ 有	3 2 1 1	⑦ 生	4 0 0 0
① 吉	2 0 0 0	H 中	2 1 0 0
1 石	1 0 0 0	② 武	3 0 0 0
H 石	0 0 0 0	② 井	2 1 0 0
1 吉	0 0 0 0	① 松	1 0 0 0
④ 晴	3 0 0 0	1 高	1 0 0 0
4 河	0 0 0 0		2973
	3081		

振球権盗失残併 2 4 0 1 0 6 0
 投手 回 安責 6 1/2 5 1
 投手 原 6 1/2 0 1
 田水 1 1 1 1
 吉切 1 1 1 0

振球権盗失残併 6 4 2 3 1 8 4
 投手 回 安責 6 1/2 6 1
 高橋 2 2 2 0

▽本塁打 井口1号(晴水)▽2時間35分

1 回戦

姫路市 (新日鉄広畑) 7
 0 3 3 0 0 0 0 0 1 | 7
 0 0 3 0 2 0 1 4 X | 10
 広島市 (三菱重工広島)

【姫路市】	打安点	【広島市】	打安点
⑧ 本	4 0 0 0	⑧ 植	5 1 0 0
④ 杉	3 1 0 0	⑦ 田	4 2 0 0
④ 中	0 0 0 0	④ 上	1 0 0 0
③ 大	4 1 0 0	⑦ 谷	5 2 1 1
⑨ 高	4 1 3 3	⑤ 松	4 3 3 3
⑦ 尾	2 0 0 0	③ 若	5 2 2 3
H 丹	1 1 0 0	④ 佐	4 2 2 2
② 波	4 2 0 0	R 富	0 0 0 0
⑤ 彦	3 1 0 0	④ 士	1 0 0 0
H 上	0 0 1 1	⑥ 野	4 1 0 0
⑥ 林	3 1 3 3	② 光	4 2 0 0
⑥ 足	2 0 0 0	① 藤	4 2 0 0
① 藤	1 0 0 0	H 江	1 0 0 0
1 藤	0 0 0 0	① 野	1 0 0 0
H 藤	1 0 0 0	1 山	2 0 0 0
	3287		40159

振球権盗失残併 4 2 2 2 2 2 0
 投手 回 安責 4 3/4 9 5
 投足 4 3/4 5 1
 藤高 3 3/4 1 0
 桐野 3 1/4 1 0

▽本塁打 尾形1号③(山本) 尾形1号②(足達)
 佐々木幸1号②(足達) 江藤南谷▽2時間38分

1 回戦

富士市 (大昭和製紙) 4
 0 0 0 1 0 2 0 0 0 0 1 | 4
 0 0 1 0 0 0 0 0 2 0 0 | 3
 札幌市 (北海道殖産銀行)

【富士市】	打安点	【札幌市】	打安点
⑧ 牛	4 1 0 0	⑧ 中	6 1 0 0
⑥ 尾	2 0 0 0	⑨ 井	5 1 0 0
⑦ 田	5 1 0 0	⑦ 山	4 3 1 1
⑤ 黒	5 1 2 2	⑥ 本	5 1 0 0
⑦ 並	5 2 2 2	⑤ 文	5 3 2 2
⑤ 鈴	3 1 0 0	⑤ 山	4 0 0 0
③ 鈴	2 0 0 0	③ 岡	3 1 0 0
⑨ 福	5 1 0 0	⑤ 岡	2 0 0 0
R 小	5 0 0 0	② 池	2 0 0 0
④ 福	5 0 0 0	④ 松	5 2 0 0
② 安	3 0 0 0	R 八	0 0 0 0
① 金	1 0 0 0	① 吉	2 0 0 0
1 滝	4 0 7 4	H 今	1 0 0 0
		H 米	1 0 0 0
		H 山	0 0 0 0
			43123

振球権盗失残併 1 5 2 1 1 1 4 2
 投手 回 安責 8 1/2 10 3
 投金 沢 8 1/2 10 3
 滝川 4 2 0 0

振球権盗失残併 3 1 3 2 2 8 0
 投手 回 安責 7 4 3 3
 吉田 7 4 3 3
 米山 5 3 1 1

▽本塁打 鈴木1号②(吉田) 岡田1号②(金沢) 福永1号(米山)▽二塁打 山本文 森▽3時間34分

1 回戦

和光市 (本田技研) 11
 2 2 1 0 2 2 0 2 | 11
 1 0 0 0 0 0 0 0 | 1
 北九州市 (新日鉄八幡)

【和光市】	打安点	【北九州市】	打安点
⑧ 荻	4 2 0 0	⑧ 丸	4 1 0 0
⑥ 原	5 4 2 2	④ 鈴	2 0 0 0
④ 西	5 2 4 4	① 高	0 0 0 0
⑦ 雨	5 2 1 1	H 田	1 0 0 0
⑨ 堤	4 0 0 0	⑦ 丸	0 0 0 0
⑦ 塚	1 0 0 0	① 小	4 0 0 0
② 柳	4 3 0 0	⑦ 谷	4 1 0 0
③ 飯	2 2 4 4	⑤ 小	4 1 0 0
⑤ 青	4 0 0 0	⑨ 加	3 1 1 1
① 安	3 0 0 0	② 福	2 0 0 0
1 岡	3 7 1 5 1 1	③ 本	2 1 0 0
		⑥ 積	3 1 0 0
		③ 平	3 1 0 0
		③ 山	1 0 0 0
		H 2 山	1 0 0 0
		H 1 田	0 0 0 0
		1 池	1 0 0 0
		H 4 田	2 1 0 0
			3061

振球権盗失残併 3 3 1 1 0 6 0
 投手 回 安責 8 6 1 1

▽本塁打 朝山1号②(池田宣) 青木1号②(池田宣) 雨堤1号(石田) 青木2号②(石田) 西1号②(高木) 西2号②(丸谷幸)▽二塁打 打長井2 荻原朝山2▽2時間27分

振球権盗失残併 5 3 1 0 8 0
 投手 回 安責 2 2 5 4
 池田 3 5 3 3
 石田 2 2 2 2
 高木 2 2 2 2
 丸谷 1 3 2 2

浜松市 釜石市 和光市 東京都

Table for Hamamatsu City (浜松市) listing various schools and their associated numbers.

Table for Kamaishi City (釜石市) listing various schools and their associated numbers.

Table for Wakayama City (和光市) listing various schools and their associated numbers.

Table for Tokyo (東京都) listing various schools and their associated numbers.

推薦・横浜市

Table for Yokohama City (横浜市) listing recommended schools and their associated numbers.

郡山市

Table for Gouno City (郡山市) listing various schools and their associated numbers.

千代田市

Table for Chitose City (千代田市) listing various schools and their associated numbers.

川崎市

Table for Kawasaki City (川崎市) listing various schools and their associated numbers.

札幌市

Table for Sapporo City (札幌市) listing various schools and their associated numbers.

太田市

Table for Taiga City (太田市) listing various schools and their associated numbers.

東京都

Table for Tokyo (東京都) listing various schools and their associated numbers.

川崎市

Table for Kawasaki City (川崎市) listing various schools and their associated numbers.

苫小牧市

Table for Kamikatsu City (苫小牧市) listing various schools and their associated numbers.

浦和市

Table for Urawa City (浦和市) listing various schools and their associated numbers.

東京都

Table for Tokyo (東京都) listing various schools and their associated numbers.

川崎市

Table for Kawasaki City (川崎市) listing various schools and their associated numbers.

富士市

(大昭和製紙)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

大垣市

(西濃運輸)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

神戸市

(三菱重工神戸)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

福島市

(日本鋼管福山)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

長野市

(NTT信越)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

野洲町

(日本IBM野洲)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

門真市

(松下電器)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

松山市

(NTT四国)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

名古屋市

(NTT東海)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

山歌市

(住友金属)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

姫路市

(新日鉄日鋼)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

北九州市

(新日鉄八幡)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

金沢市

(NTT北陸)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

大阪市

(大阪ガス)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

広島市

(三菱重工広島)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

熊本市

(ニコンコード)

監投手 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
監督 30 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

決勝

名古屋市 (NTT東海)	0 0 0 0 2 0 0 0 0	2
川崎市 (東芝)	1 0 0 0 0 0 0 1 1	3

【名古屋市】	打安点振球	【川崎市】	打安点振球
⑤ 辻	5 1 1 0 0	⑨ 前田	3 1 0 0 1
⑥ 井上	4 2 0 0 0	⑥ 南淵	2 1 1 0 1
④ 沢田	4 0 0 0 0	⑥ 水村	1 1 1 0 0
⑧ 松本	3 1 0 0 1	H R	0 0 0 0 0
⑦ 森本	3 0 0 0 1	1	0 0 0 0 0
⑨ 木戸	3 0 0 1 0	⑧ 鈴木	4 3 0 0 0
③ 湯之戸	4 1 0 1 0	⑦ 福後	4 0 0 2 0
② 吉田	3 1 0 0 1	⑥ 藤本	0 0 0 0 0
① 上原	4 1 1 2 0	④ 葛城	4 0 0 1 0
	33 7 2 4 3	④ 清水	4 2 0 0 0
		⑤ 四井	2 0 0 0 0
		H 5	1 0 0 0 0
		② 高見	0 0 0 0 0
		① 小笠原	4 2 0 0 0
		H 1	0 0 0 0 0
		7	0 0 0 0 0
			1 1 1 0 0
			3 2 1 1 3 5 2

犠併盗失残	2 0 0 0 7
1 1 0 0 8	
投手 回 打安振球責	
上原 8 3/4 36 11 5 2 3	
三壘打 前田	5 1/2 24 6 2 2 2
湯之戸 辻 松本	2 1/2 10 1 1 1 0
△2時間35分	三原 1 3 0 1 0 0

背走、背走「とった！」

1点をリードした名古屋市・NTT東海は6回にも二死満塁と川崎市・東芝をおびやかした。

そして打者・上原の右中間に大きく飛んだ打球は、名古屋ファンの大歓声を受けて、抜けたかと思えた。それを背走に背走を重ねて、一世一代の超ファインプレーで捕った前田右翼手。

優勝経験をもつ川崎市の黒紙・武智両コーチは異口同音に「あれが分かれ目だった。抜けていれば走者が全部還って負けていただろう。あんなプレーが出たので、これでいけるという気がした。」

底力で8回到同点とし、9回サヨナラ優勝に結びつけた川崎だが優勝に導いたといってもいいほどの前田の超美技だった。



決勝。梁原のサヨナラ安打で葛城生還。投手は上原

っていたのだが、とても手が出なかったようだ。

そして2球目。自信を持って投げ込んだ鈴木哲の速球は、力はあったがコースがまん中寄りに行った。若さにまかせたこの球を湯之戸のバットは鋭くとらえ、快音を残した白球は右中間に低い弾道で飛び、そのままスタンドに飛び込んでいった。

一瞬の静寂。そして歓喜と落胆がドームに交錯した。「10年連続出場の表彰を受けた記念に、いい仕事をしたと思っていたのに、こんなことができたなんて」予想外の幕切れに、湯之戸の笑顔はまだまだ若々しかった。

34歳、若々しい笑顔

助監督を兼ねる34歳のベテラン、湯之戸孝修の一振りで名古屋市・NTT東海が東京都・熊谷組を沈めチーム初の決勝進出を果たした。

7回同点に追いついた名古屋の9回裏の攻撃。松本、木戸の安打で一死一・三塁のチャンスをつくった。ここで登場したのが湯之戸。東京はルーキー鈴木哲をマウンドに送った。湯之戸への第1球は外角いっぽいの快速球。湯之戸は「こんな速くはないかと」と思ったという。外野への犠飛狙いで、外角球を待

連投上原とらえ、劇的サヨナラ

川崎市は終盤、好投の上原をとらえ、9回、梁原の適時打で劇的なサヨナラ勝ち。川崎は、8回、中前安打の高見をバンドで進め、前田四球の一死一・二塁に代打・泉水の二塁手の右を襲う安打で同点とし、勢いがついた。9回一死後、葛城が左前安打、吉沢送りバンド、高見三塁内野安打で二死一・三塁とし、9回から守りに入っていた梁原が、上原の初球スライダーを中前に弾き返して、葛城がサヨナラのホームを踏んだ。

1回川崎は当たっている前田が中堅右のフェンスに当たる三壘打、南淵中前安打と続き、わずか8球で1点を先取した。しかし名古屋は5回に菊池をとらえ、一死から湯之戸が左中間二塁打、吉田右前打で一・三塁とし、上原が菊池の足もとを抜く中前適時打して同点。続く辻は右翼戦に落ちる二塁打して逆転した。名古屋はさらに6回、2四球とバンドで一死二・三塁としたが、救援の小笠原に湯之戸遊ゴロ。吉田四球で二死満塁と続いたが、上原の右中間を抜くかと思えた当たりを背走して好捕した前田の美技に阻まれた。

勝負は終盤に持ち込まれ、最後は守りと選手起用のわずかの差で川崎が辛勝したが5試合に登板した上原の力投は見事だった。



優勝を果たした東芝ナインに胴上げされる大田垣監督

ヒジ痛おして「一生の財産」

名古屋市・NTT東海上原勝男投手
(NTT北陸から補強)



興南高出身。西濃運輸に入社したが、野球部の休部にともないNTT北陸入り。大器晩成型で57回大会でもNTT北陸を準優勝に導く好投。全5試合を連投、久慈賞を受賞。

熊谷組との準決勝が済んだとき「これでボクの役目は終わった」と思っていました。それまで4試合を投げてきて、肩の筋肉はパンパンに張っていたし、ヒジの痛みがまともじゃなかったからです。宿舎でトレーナーに見てもらおうと、「連投は絶対に無理」という。それでボクもちょっと肩の力を抜いていたら、突然、山口繁樹監督が入ってきて、「明日(決勝)も頼むぞ」と平然とした顔で言ったんです。こっちは頭から先発はないと思っ

ていたものだから、「ハア？」といった感じ。でも、監督が決めた以上は、もうバンクしてもいいっていう聞き直った気持ちで投げるしかありませんでした。しかし、ひと晩寝ても実際に決勝が始まると、腕が思うように上がらない。五回ごろからは捕手のサインよりほとんどのボールが中へ、中へと入ってしまい、ベンチへ戻るたびに「もうダメだ」という顔で監督の顔を見ていましたが、監督は全然動こうとしなかった。でも回りの選手たちから「大丈夫ですか」とか色々気をつけてくれたので、「とにかくこの試合はどうしても勝たなくてはならない」の気持ちになった。結局、最後まで投げることになったけれど、九回裏のサヨナラ負けがボクへの仕打ちでした。最後に、梁原修志に打たれたのは初球、はずすつもりで投げたスライダーがまん中に入ってしまった。球に切れがなく、打たれるべくして打たれたんだと思います。

しかし、東芝との決勝戦は、これまで13年間投手をやってきた中で、一番思い出に残るゲームになりました。決勝のサヨナラ負けは、生涯自分の頭から離れませんが、一生の財産になりました。

MEMO

◇代打逆転サヨナラ本塁打 浜松市
・河合楽器の上水勝矢内野手は、2回戦の和光市・本田技研戦の延長10回、中屋投手から。史上2本目。
◇満塁本塁打 白老町・大昭和北海道の平紀陽外野手は、2回戦の大阪市・大阪ガス戦の1回、萩原投手から。史上24本目。

照明灯が突然消えた

1回戦、神戸市・川崎製鉄神戸対長野市・NTT信越の試合の1回裏、右翼側の照明灯が突然消え、試合が中断した。

照明灯の安全装置の故障だったが、中断21分間のあと復元し、大会本部は両チーム監督の了解を得て試合を再開した。消えたのは514個の電球のうち4分の1だった。

1回戦

名古屋市 (J.R.東海)

1	0	0	2	0	0	0	1	4
3	3	0	0	3	0	1	0	10

推薦・浜松市 (ヤマハ)

【名古屋市】	打安点	【ヤマハ】	打安点
⑥ 永赤	沼地 410	④ 山本	本指村 530
H 加藤健	100	⑦ 山中	金中居 410
⑤ 坂野	311	⑨ 武居	小阪田 533
H 坂野	100	⑤ 武居	小阪田 411
⑨ 林	410	⑧ 藤山	小阪田 522
⑦ 内小	400	⑥ 内中	藤山 320
⑧ 小峴	000	② 佐藤	村久 310
② 清水	411	① 西高	111
③ 新白	410	1 村久	300
R 木川	000	1 西高	000
④ 小森	420		3716.8
① 井松	100	振球犠盗失残併	5234080
1 本野	111	投手 回 安責	3 3 73
1 大竹	000	劉 村久	4 4 41
1 藤内	000	西高	3 3 00
H 加藤	111		
H 藤	111		

振球犠盗失残併	1100370
投手 回 安責	4 6 46
森井	1 3 72
本内	1 1 10
竹内	1 2 20
加藤幸	1 2 20

1回戦

神戸市 (川崎製鉄神戸)

0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	3	0	3

長野市 (NTT信越)

【神戸市】	打安点	【長野市】	打安点
⑨ 山	中 420	⑨ 松	沢藤 300
⑧ 山	300	H 高	藤 110
⑥ 中	410	R 9	高 000
③ 中	310	⑥ 土	石横 300
④ 上	400	⑧ 石	横 200
⑦ 石	300	⑤ 石	横 312
H 中	100	③ 石	横 000
⑤ 中	200	③ 石	横 300
H 岡	100	H 3	西 111
② 大	200	④ 西	藤 410
① 宮	310	⑦ 藤	波 300
1 豊	000	② 波	常 320
	305.0	① 北	沢 200

振球犠盗失残併	8221170
投手 回 安責	7 3 43
宮内	7 2 20
田内	1 1 10
豊田	1 2 20
▽二塁打	宮内

1回戦

仙台市 (日本たばこ)

0	0	0	1	0	0	2	1	4
0	1	2	0	0	0	0	0	3

広島市 (NTT中国)

【仙台市】	打安点	【広島市】	打安点
⑧ 原	野山 420	⑧ 竹	内岡 510
⑧ 原	000	④ 下	内岡 510
④ 山	300	⑨ 岩	野 510
H 山	100	⑤ 原	410
1 藤	100	③ 若	松井 412
① 崎	100	⑦ 河	金井 540
⑨ 曲	411	② 金	高野 510
③ 林	510	⑥ 高	400
⑤ 寺	511	② 佐	青 431
⑦ 若	511	① 青	000
⑥ 菅	310	1 石	000
② 及	200	1 石	000
H 高	100		4113.3
2 倉	000	振球犠盗失残併	62012100
H 藤	111	投手 回 安責	8 8 53
2 星	000	手岡	8 8 00
① 柳	100	野川	1 3 31
H 畑	100		
1 渡	000		
H 郭	000		
1 藤	100		
H 原	100		
4 藤	100		

振球犠盗失残併	4300081
投手 回 安責	4 8 83
柳畑	4 8 3
郭崎	3 4 0
石崎	3 1 0

1回戦

東京都 (熊谷組)

1	0	2	0	0	0	0	4	7
2	0	0	0	1	0	0	0	3

横須賀市 (日産自動車)

【東京都】	打安点	【横須賀市】	打安点
⑤ 佐藤	敏 410	④ 和田	敏 500
② 佐藤	520	⑧ 中	井岡 400
⑦ 黒	藤和 542	⑨ 松	中井 430
7 木	向村 000	⑦ 鶴	島 522
③ 木	向村 521	③ 島	荒内 510
⑥ 吳	300	⑤ 荒	内 510
H 尾	山 000	⑥ 内	阿久 411
H 黒	森 100	② 阿	久石 310
H 森	清 000	① 久	石 000
⑨ 清	宮 400	① 石	和 000
⑧ 宮	高 512	1 和	田 000
④ 高	鈴 521		
① 鈴	木 200		
1 谷	津 300		

振球犠盗失残併	8303080
投手 回 安責	5 3 83
鈴木	5 2 20
谷津	5 2 20
▽三塁打	宮内
高野	▽3時間29分

1回戦

松山市 (NTT四国)

2	0	0	0	0	4	0	0	6
0	1	0	0	0	1	0	3	5

君津市 (新日鉄君津)

【松山市】	打安点	【君津市】	打安点
⑨ 松	田 512	⑥ 柏	倉野 400
⑧ 石	元 520	⑧ 中	野 410
④ 小	谷 420	⑨ 平	野 410
⑦ 三	好 412	⑦ 藤	中 442
⑤ 山	本 420	⑤ 藤	中 300
⑥ 山	田 410	H 5	中 100
6 武	野 000	④ 西	長 323
③ 藤	和 400	④ 松	無 300
② 武	和 420	② 津	津 300
① 渡	边 301	H 1	岡 100
	3711.5	H 1	岡 100

振球犠盗失残併	5010051
投手 回 安責	9 8 5
渡边	9 8 5



湯之戸のサヨナラ3ランで熊谷組を破ったNTT東海

1回戦

和光市 (本田技研)

0	0	0	1	0	0	3	0	4
0	0	0	0	0	0	0	2	2

仙台市 (NTT東北)

【和光市】	打安点	【仙台市】	打安点
⑧ 萩	原 310	④ 福	戸 400
④ 西	310	⑨ 地	羽 300
⑥ 雨	300	H 木	瓶 100
⑦ 雨	312	⑦ 藤	木 400
⑨ 雨	411	③ 藤	三 210
③ 雨	000	H 三	菊 000
③ 雨	310	R 三	多 000
⑤ 雨	321	⑤ 近	大 210
② 雨	400	H 猪	小 112
① 雨	200	② 猪	野 310
1 森	000	⑧ 猪	野 200
	287.4	⑥ 猪	野 100

振球犠盗失残併	6440050
投手 回 安責	8 8 42
中森	8 8 00

1回戦

川崎市 (東芝)

0	0	0	1	0	3	0	1	5
0	0	1	0	1	0	1	0	4

京都市 (日本新薬)

【川崎市】	打安点	【京都市】	打安点
⑧ 前	南 410	⑧ 淵	石 520
⑥ 前	南 300	④ 淵	石 311
⑦ 前	南 400	H 中	木 110
⑦ 前	南 400	R 中	木 000
1 保	戸 000	⑨ 木	原 300
③ 一	田 200	⑥ 木	原 300
H 四	池 000	⑦ 木	原 300
H 西	110	⑤ 木	原 210
1 小	笠 000	③ 木	原 300
9 小	笠 100	1 木	原 000
1 小	笠 100	H 井	部 000
④ 小	笠 220	H 1	井 111
⑤ 小	笠 200	1 井	部 000
② 小	笠 322	② 井	部 400
① 小	笠 100	① 井	部 221
H 3 丹	波 213	H 3 井	部 211

振球犠盗失残併	5252041
投手 回 安責	4 5 1
菊池	2 1 11
小笠原	1 1 12
保戸田	1 1 20
▽本塁打	遠野1号(菊池)丹波1号②(遠野)
岡田1号(小笠原)	▽二塁打 前田 淵田
磯部	▽3時間1分

1回戦

日立市 (日立製作所)
0 0 0 0 1 1 0 0 0 | 2
1 0 1 3 0 0 0 3 X | 8
門真市 (松下電器)

Table with columns for [日立市] and [門真市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
10300070
投手回安責
手井尾山
酒尾山
秋山
▽2時間40分

1回戦

東京都 (NTT東京)
0 0 0 0 1 0 0 0 1 | 2
1 0 0 1 0 0 0 1 X | 3
堺市 (新日鉄堺)

Table with columns for [東京都] and [堺市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
6100081
投手回安責
鍋藤電正
▽本塁打 馬場1号(鍋島)
▽三塁打 照井▽二塁打 佐藤 真盛 忍成
▽2時間26分

1回戦

札幌市 (北海道拓殖銀行)
0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2
2 0 0 1 0 0 3 0 X | 6
名古屋市 (NTT東海)

Table with columns for [札幌市] and [名古屋市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
7111140
投手回安責
宮田修
吉田修
米山
▽本塁打 沢田1号②(吉田修)
▽三塁打 古田
▽2時間22分

1回戦

1回戦

三原市 (三菱重工三原)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 1 0 0 0 2 0 0 X | 3
白老町 (大昭和製紙北海道)

Table with columns for [三原市] and [白老町], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
10100261
投手回安責
金山下健
堤村
▽本塁打 酒井1号(金広)
▽二塁打 渡部
小前
▽2時間34分

1回戦

熊本市 (NTT九州)
0 0 0 0 0 0 0 1 1 | 2
3 0 0 0 0 0 1 1 X | 5
鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

Table with columns for [熊本市] and [鈴鹿市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
7110040
投手回安責
安岩野
▽本塁打 杉山1号②(安武)
2号(野村)
山本1号(塩崎)
端山1号(塩崎)
▽三塁打 間瀬
大久保
▽2時間20分

1回戦

横浜市 (三菱重工横浜)
0 0 0 3 2 0 0 1 0 | 6
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
熊本市 (ニコニコドー)

Table with columns for [横浜市] and [熊本市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
2412172
投手回安責
小山田
▽本塁打 田中1号(杉尾)
▽三塁打 田中
生沼
▽二塁打 清家
▽2時間10分

1回戦

1回戦

大阪市 (大阪ガス)
0 0 0 0 1 2 0 0 0 0 0 1 | 4
1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 3
東京都 (プリンスホテル)

Table with columns for [大阪市] and [東京都], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
85420113
投手回安責
萩原野谷
長松
▽本塁打 小川1号(萩原)
中西1号(石井文)
折原1号②(石井文)
内田1号(末木)
▽3時間59分

1回戦

太田市 (富士重工業)
0 1 0 2 0 0 0 0 0 | 3
1 0 4 1 0 0 2 1 X | 9
富士市 (大昭和製紙)

Table with columns for [太田市] and [富士市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
3001140
投手回安責
飯野
▽本塁打 村田1号②(金沢)
▽三塁打 福本
木村
▽二塁打 原田
▽2時間27分

1回戦

姫路市 (新日鉄広畑)
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
0 3 0 1 0 0 0 0 X | 4
浜松市 (河合楽器)

Table with columns for [姫路市] and [浜松市], listing players and their statistics (打安点).

振球機盗失残併
6210040
投手回安責
足達島
陽高
▽本塁打 村瀬1号(島沢)
▽2時間17分

1回戦

2 回戦

仙台市 (日本たばこ)

0 1 1 0 2 0 1 0 0 | 5
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1

推薦・浜松市 (ヤマハ)

Table with columns for [仙台市] and [ヤマハ], listing players and scores.

振球機盗失残併
8 5 1 1 0 1 1 1
投手 回 安責
郭 9 141

▽本塁打 寺嶋1号

(西村) 曲山2号
(西村) 林1号
(高久)▽二塁打
山本 中村2 金指
山2 原野 内藤
▽2時間42分

2 回戦

和光市 (本田技研)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2

浜松市 (河合楽器)

Table with columns for [和光市] and [浜松市], listing players and scores.

振球機盗失残併
6 4 1 2 0 9 0
投手 回 安責
中屋 9 52

▽本塁打 上中1号②
(中屋)▽二塁打 山田 荻原▽2時間54分

2 回戦

松山市 (NTT四国)

0 0 1 1 0 0 1 0 0 | 3
0 0 0 2 0 0 5 0 X | 7

東京都 (熊谷組)

Table with columns for [松山市] and [東京都], listing players and scores.

振球機盗失残併
8 2 2 1 0 1 4 1
投手 回 安責
渡邊 6 117
滝下 2 10
土田 1 00

▽本塁打 黒木▽二塁打
佐藤和▽3時間3分

2 回戦

長野市 (NTT信越)

1 0 0 0 0 0 2 0 | 3
5 0 0 0 1 0 3 1 X | 10

横浜市 (三菱重工横浜)

Table with columns for [長野市] and [横浜市], listing players and scores.

振球機盗失残併
2 8 5 1 0 9 1
投手 回 安責
小山田 9 63

振球機盗失残併
8 4 1 1 1 6 1
投手 回 安責
手沢 2 41
北高 2 21
野島 1 20
西田 1 54
村井 1 00

▽本塁打 土居1号
(小山田) 田中2号③
(北沢) 横井1号②
(小山田)▽三塁打
田中▽二塁打 高本
土居▽2時間23分

2 回戦

鈴鹿市 (本田技研鈴鹿)

0 0 0 1 2 1 0 3 1 | 8
4 1 0 3 0 0 0 1 X | 9

川崎市 (東芝)

Table with columns for [鈴鹿市] and [川崎市], listing players and scores.

振球機盗失残併
7 4 3 0 2 7 0
投手 回 安責
三原 7 105
保戸 2 20
菊池 1 21

▽本塁打 鈴木1号③
(鈴木) 杉山3号(三原) 岡崎1号(三原)
▽三塁打 鈴木(東) 四條 大久保
壘崎▽3時間11分



優勝を喜ぶ川崎・東芝のナインと応援団

2 回戦

門真市 (松下電器)

1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 2 0 0 0 0 X | 2

名古屋市 (NTT東海)

Table with columns for [門真市] and [名古屋市], listing players and scores.

振球機盗失残併
5 3 3 1 0 8 0
投手 回 安責
潮崎 7 22
伊藤 1 10

▽二塁打 奥代 松本
畑山 古田▽2時間2分

2 回戦

富士市 (大昭和製紙)

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2

堺市 (新日鉄堺)

Table with columns for [富士市] and [堺市], listing players and scores.

振球機盗失残併
14 4 1 0 2 1 2 2
投手 回 安責
金沢 16 91

▽三塁打 佐藤▽二塁打
▽4時間19分

2 回戦

白老町 (大昭和製紙北海道)

5 0 1 0 0 0 0 0 0 | 6
0 0 1 0 0 0 0 1 0 | 2

大阪市 (大阪ガス)

Table with columns for [白老町] and [大阪市], listing players and scores.

振球機盗失残併
2 3 1 1 1 5 1
投手 回 安責
渡邊 9 71

▽本塁打 平1号④
(萩原) 酒井2号(渡部)▽二塁打 高木 竹村▽2時間32分



橋戸賞の東芝・高見捕手と保戸田投手

準々決勝

東京都 (熊谷組)

1	0	4	0	1	0	1	1	2	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

仙台市 (日本たばこ)

【東京都】	打安点	【仙台市】	打安点
⑤	山岩 2 1 1	⑧	野下山 3 1 0
②	森黒 5 4 1	④	原山曲 2 1 0
⑦	藤和村 4 0 1	③	山曲 2 1 0
⑨	藤和村 4 0 1	⑤	林 4 1 0
③	山向大 2 1 2	⑦	寺嶋 4 0 0
H	山向大 0 0 0	⑥	嶋原 4 1 0
3	大島 0 0 0	H	嶋原 3 0 0
⑨	大島 4 2 0	②	正川 1 0 0
R	大島 2 1 0	H	正川 1 0 0
7	藤原 4 0 0	①	柳崎 1 0 0
⑥	尾里 4 0 0	H	柳崎 1 0 0
⑧	高野 4 1 2	1	波加 1 0 0
④	高野 3 1 0	H	波加 1 0 0
①	鈴木哲 4 2 1	1	及川 1 0 0
	341310	H	高橋 1 0 0

振球機盗失残併	2 1 1 5 0 1 3 1	振球機盗失残併	8 4 1 1 0 9 0
投手回安責	鈴木哲 9 6 0	投手回安責	柳崎 2 1/2 5 5
▽本塁打	森山1号	投手回安責	柳崎 2 2/3 4 1
	(柳畑) 向山1号	投手回安責	柳崎 1 1/2 4 1
	(柳畑) 宮里1号	投手回安責	柳崎 1 1/2 1 0
	崎▽二塁打	投手回安責	柳崎 1 1/2 1 2
	高野▽2時間43分		

準々決勝

横浜市 (三菱重工横浜)

2	1	0	0	0	0	3	0	4	10
3	1	0	0	6	0	1	0	×	11

名古屋市 (NTT東海)

【横浜市】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑥	松生 4 2 1	⑤	辻 5 1 1
④	下沼口 5 3 1	⑥	井上 4 1 0
⑨	坂白 3 0 0	④	松本 4 2 2
H	白木 1 0 0	⑧	森本 4 0 0
1	山木 1 0 0	⑦	森本 3 2 0
H	山木 4 1 2	⑨	湯之田 5 1 1
⑦	清小 3 0 1	③	今野 3 1 2
⑧	清小 5 2 2	②	今野 2 1 1
⑤	望田 5 2 0	①	山本 0 0 0
③	望田 1 0 0	1	山本 0 0 0
②	南井 1 1 0	1	上原 341111
H	石井 1 1 1		
2	筒石 0 0 0		
①	小田 1 1 0		
H	山田 1 1 0		
1	岡田 1 0 0		
1	吉里 0 0 0		
1	岡田 3 1 2		
H	岡田 3 1 2		

振球機盗失残併	4 4 2 0 2 8 0	振球機盗失残併	2 6 3 0 0 8 0
投手回安責	小田 1 2 2	投手回安責	今野 6 0 4 9 6
	小田 3 3 2	投手回安責	山本 2 1/2 4 4
	吉里 3 2 4	投手回安責	上原 2 1/2 1 0
	木 1 3 1		
	木 2 1 0		

▽本塁打 清家1号②
(今野) 松本1号②
(小山田) 細谷1号②
(今野)▽三塁打 生沼
▽二塁打 井上 松本
古田 松下 生沼
▽2時間46分

準々決勝

堺市 (新日鉄堺)

0	0	0	0	0	2	1	0	3
1	2	0	1	1	2	0	0	7

川崎市 (東芝)

【堺市】	打安点	【川崎市】	打安点
③	石原 3 0 0	田淵 4 2 1	
H	石原 1 0 0	前南 4 1 0	
3	杉本 1 0 0	⑥	鈴木 5 2 1
⑥	樋井 4 1 1	⑦	福本 2 0 1
6	井上 1 0 0	⑦	波本 0 0 0
⑦	保場 4 3 1	③	清水 3 1 0
⑤	藤原 5 0 0	③	吳 0 0 0
②	藤原 3 1 0	④	梁原 3 2 1
1	藤原 0 0 0	⑤	清水 3 2 1
H	藤原 1 0 0	5	吉高 0 0 0
④	浦東 3 1 0	②	吉高 3 2 0
⑨	浦東 3 1 0	①	高菊 3 1 2
1	浦東 0 0 0		30137
H	浦東 1 1 0		振球機盗失残併
2	浦東 2 1 1		3 4 5 0 0 8 0
⑧	浦東 0 0 0		投手回安責
①	浦東 0 0 0		菊池 9 10 3
1	浦東 0 0 0		
H	浦東 1 1 0		
1	浦東 1 0 0		
1	浦東 0 0 0		
9	浦東 2 0 0		

振球機盗失残併	3 5 1 1 0 1 1 1	振球機盗失残併	4 5 1 0 1 1 1 0
投手回安責	野小 10 4 3	投手回安責	鈴木哲 8 5 4
	野小 1 1 0	投手回安責	鈴木哲 1 1 1
	野小 2 2 1		
	野小 1 1 0		
	野小 2 2 1		
	野小 1 1 0		
	野小 1 1 0		
	野小 1 1 0		
	野小 1 1 0		

準決勝

浜松市 (河合楽器)

0	1	3	0	0	0	0	0	4
0	1	1	1	0	2	0	0	5

白老町 (大昭和製紙北海道)

【浜松市】	打安点	【白老町】	打安点
⑧	牛尾 4 1 0	④	高木 5 0 0
⑥	盛瀬 3 0 0	⑥	鈴木 2 1 0
④	村尾 3 0 0	H	山本 1 0 0
⑤	鈴木 3 1 1	R	社 0 0 0
R	中尾 0 0 0	⑦	酒井 3 0 0
④	西原 3 1 1	⑤	酒井 2 1 0
⑨	西原 4 1 2	⑨	酒井 1 0 0
④	西原 3 1 0	②	酒井 2 0 0
1	清水 3 1 0	⑧	平川 3 2 1
H	清水 1 1 0	③	横山 3 0 0
R	清水 1 1 0	3	鈴木 1 1 0
②	上尾 0 0 0	H	新阿 0 0 0
①	安徳 4 1 0	①	阿加 0 0 1
1	内田 1 0 0	1	藤川 3 0 0
H	谷松 0 0 0		297 5
H	谷松 1 0 0		
6	黒田 1 0 0		

振球機盗失残併	4 3 2 0 3 5 1	振球機盗失残併	3 6 2 1 1 8 1
投手回安責	徳永 2 2/3 1 2	投手回安責	加藤 3 5 3
	竹ノ内 1 1/2 3 1	投手回安責	浅川 6 2 0
	谷津田 1 1/2 0 0		
	谷津田 3 3 2		
	▽本塁打 阿相1号(竹ノ内)2号②(平田)		
	▽二塁打 鈴木哲▽2時間46分		

準決勝

東京都 (熊谷組)

0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
0	0	0	0	0	1	1	0	3	5

名古屋市 (NTT東海)

【東京都】	打安点	【名古屋市】	打安点
⑤	森山 4 1 1	⑤	辻 3 0 0
②	山岩 5 1 0	⑥	井上 3 1 1
2	森黒 0 0 0	④	上田 4 0 0
⑦	藤和 4 3 0	⑦	松本 3 1 0
③	藤和 2 0 0	⑧	森本 4 1 0
⑨	向清 4 2 1	⑨	森本 3 1 1
⑥	向清 3 0 0	③	湯之田 4 1 3
6	尾里 1 0 0	②	湯之田 2 1 0
⑧	尾里 4 2 0	①	湯之田 2 0 0
④	高野 3 0 0		286 5
①	高野 4 0 0		振球機盗失残併
1	鈴木哲 0 0 0		5 3 3 0 0 4 1
	349 2		投手回安責
	振球機盗失残併		上原 9 9 2
	4 5 1 0 1 1 1 0		▽本塁打 森山2号③
	投手回安責		(上原) 湯之田1号
	谷津田 8 1/2 5 4		(鈴木哲)▽二塁打
	鈴木哲 1 1 1		井上▽2時間23分

準決勝

白老町 (大昭和製紙北海道)

0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
2	2	2	1	0	0	0	0	×	7

川崎市 (東芝)

【白老町】	打安点	【川崎市】	打安点
④	高山 2 0 0	⑨	前南 5 1 1
H	高山 1 0 0	⑧	田淵 4 2 1
4	社 2 0 0	⑥	鈴木 4 0 0
⑥	鈴木 4 1 1	⑦	福本 4 2 1
⑦	阿酒 2 0 0	⑦	波本 0 0 0
⑦	阿酒 3 2 1	③	清水 4 1 1
⑤	阿酒 4 2 0	④	清水 3 1 0
⑨	阿酒 4 2 0	⑤	清水 3 2 1
⑧	阿酒 4 2 1	②	清水 3 2 1
③	鈴木 3 0 0	①	清水 3 1 1
2	山崎 1 0 0		33127
②	H 北 0 0 0		振球機盗失残併
H	横川 1 0 0		4 6 2 1 0 10 1
2	H 3 横 2 2 0		投手回安責
H	3 横 2 2 0		三原 9 12 3
①	H 1 1 0		
1	H 1 1 0		
1	H 1 1 0		
H	1 1 0		
1	大崎 0 0 0		
	37123		
	振球機盗失残併		
	8 2 0 0 0 9 0		
	投手回安責		
	手部 2 5 4		
	渡林 0 2		
	小川 4 1/2 6 1		
	大崎 1 1 0		

▽本塁打	前田1号
	(波部) 阿相3号
	(三原)▽二塁打
	南淵 酒井 福本
	横川▽3時間1分



ドーム元年。新設の東京ドームに舞台を移し76万人以上が入場した

川崎市 仙台市 君津市 東京都

Table listing names and numbers for川崎市 (Kawasaki), 仙台市 (Sendai), 君津市 (Kimitsu), and 東京都 (Tokyo). Includes sub-headers like (東芝), (日本たばこ), (新日鉄君津), (プリンスホテル).

推薦・浜松市 仙台市 和光市 横浜市

Table listing names and numbers for 推薦・浜松市 (Recommended - Hamamatsu), 仙台市 (Sendai), 和光市 (Wakko), and 横浜市 (Yokohama). Includes sub-headers like (ヤマハ), (NTT東北), (本田技研), (三菱重工横浜).

札幌市 日上市 東京都 横須賀市

Table listing names and numbers for 札幌市 (Sapporo), 日上市 (Nishimatsuyama), 東京都 (Tokyo), and 横須賀市 (Yokosuka). Includes sub-headers like (北海道殖産銀行), (日立製作所), (熊谷組), (日産自動車).

白老町 太田市 東京都 富士市

Table listing names and numbers for 白老町 (Shirao), 太田市 (Maebashi), 東京都 (Tokyo), and 富士市 (Fujinomiya). Includes sub-headers like (大昭和製紙北海道), (富士重工業), (NTT東京), (大昭和製紙).

浜松市 鈴鹿市 堺市 三原市

Table for Hamamatsu City (浜松市) with columns for names and numbers.

Table for Suzuka City (鈴鹿市) with columns for names and numbers.

Table for Sakai City (堺市) with columns for names and numbers.

Table for Mihara City (三原市) with columns for names and numbers.

長野市 京都市

Table for Nagano City (長野市) with columns for names and numbers.

Table for Kyoto City (京都市) with columns for names and numbers.

神戸市 松山市

Table for Kobe City (神戸市) with columns for names and numbers.

三原市

Table for Mihara City (三原市) with columns for names and numbers.

名古屋市 大阪市

Table for Nagoya City (名古屋市) with columns for names and numbers.

Table for Osaka City (大阪市) with columns for names and numbers.

姫路市 熊本市

Table for Himeji City (姫路市) with columns for names and numbers.

Table for Kumamoto City (熊本市) with columns for names and numbers.

名古屋市 真門市

Table for Nagoya City (名古屋市) with columns for names and numbers.

廣島市

Table for Hiroshima City (廣島市) with columns for names and numbers.

熊本市

Table for Kumamoto City (熊本市) with columns for names and numbers.

熊本市

Table for Kumamoto City (熊本市) with columns for names and numbers.

決勝

東京都 (プリンスホテル) 8
 0 1 3 2 0 0 0 1 1
 0 1 0 0 2 0 0 0 0
 白老町 (大昭和製紙北海道) 3

【東京都】	打安点振球	【白老町】	打安点振球
⑨7高木	4 1 0 0 0 0	④高木	5 3 0 0 0 0
④5足田	4 3 0 0 0 1	⑥社平	1 0 0 0 0 0
⑧3石山	3 1 2 1 0	⑧藤井	3 0 0 2 1
⑤3山下	4 2 2 2 0	③酒井	4 0 0 2 0
DHD	4 1 0 3 0	⑦藤井	3 0 0 1 1
④3西庄	1 1 1 0 0	DHD	1 1 1 0 0 1
③4住吉	3 1 0 1 0	H5H	2 1 0 0 0 0
⑦9照井	2 0 0 1 0	H5H	4 0 0 1 0
H9H	2 1 1 0 1	H5H	0 0 1 0 1
H9H	1 0 0 1 0	H5H	1 0 0 1 0
②2清今	0 0 0 0 0	②2横新	1 0 0 1 1
⑨2瀬戸	5 3 1 0 0	H5H	1 0 0 0 0
⑥高桑	5 1 0 0 0	H5H	1 0 0 0 0
	3915792		285195

横併残盗失	4 0 10 2 2	横併残盗失	4 0 7 1 1
投手	回	投手	回
末近	2	末近	2
橋本	3	橋本	3
	4		4
	142 1 3 0		156 2 0 4
	142 6 0 0		135 1 1 2
			133 5 1 2
			1 0 0 0 0
			3 1 1 0 0

▽本塁打 瀬戸山1号 (渡部) 西庄1号 (窪田)
 ▽二塁打 足立 石井 鈴木 高木 (東) 瀬戸山
 ▽3時間34分



黒獅子旗を高々と掲げ場内一周してファンに応えるプリンスホテル・ナイン

延長13回決勝スクイズ

準決勝の門真市・松下電器と東京都・プリンスホテルの試合は文字通り手に汗握るスリリングな緊迫戦だった。

東京が2回、山下、瀬戸山の適時打で2点をあげると、3回からリリーフの門真・潮崎が東京打線を抑える一方、門真は3回に佐藤、広岡の二塁打で1点、回のつまった8回には南谷の犠飛で同点とした。

潮崎は鋭いシンカーを武器に力投、東京の橋本、竹田の2、3番手もていねいに投げて延長戦へ。

10回、門真は一死満塁の絶好のサヨナラ機を迎えた。門真、東京両ベンチから同時に監督が出て、代打は山尾、投手は白井に代った。

この大会幸運児だった南谷を代えたのが門真にとって裏目だったのか、ラッキーボーイ白井はフォークボールで投ゴロに仕上げ投一捕一塁とわたる併殺。門真は11回、12回にも得点圏に走者を送り東京をおびやかしたが、東京の必死の守りにサヨナラのホームを踏めなかった。

13回、東京は代打の西庄が四球 (代走・今



サイクル安打の熊谷・佐藤が智山戦でサヨナラの生還

井)を選び、戸崎は左中間を破る二塁打で二・三塁。門真は満塁策をとったが、瀬戸山はスクイズのフェイントで、代った木村恵をおびやかし0-3から1-3になったあとの5球目を一塁線にころがすスクイズを決め決勝点をあげた。満塁での策が明暗をわけたが、ワンチャンスをものにした東京の粘り強さはすごかった。



東京対門真。延長13回プリンスは一死満塁に瀬戸山がスクイズ。今井が決勝のホームイン

絶妙継投で反撃の芽つぶす

打の白老町・大昭和製紙北海道、守の東京都・プリンスホテルとみられた一戦だったが、東京が15安打を放つ猛攻で快勝した。

東京は2回、瀬戸山がこの大会チーム初本塁打を左翼席に打ち込んで先制した。白老もその裏、阿相の右犠飛で同点としたが東京は3回、疲れから球に切れを欠く渡部を攻め、



初優勝にプリンスホテル選手が石山監督を胴あげ

足立の二塁打や山下、住吉の連打、照井の適時打に重盗をからめて3点。4回にも高桑、足立の安打と石井の二塁打などで2点を加え主導権を握った。

3回からリリーフの東京・近藤は初登板だったが、シュートを武器に好投、5回味方の失策で2点を失ったものの、強打の白老打線を抑えた。さらに6回から橋本が伸びのある速球で好リリーフ。このリレーに白老打線は好機でのひと押しを封じられ、持ち味を出すことができなかった。

胸に熱く…選手との一体感

東京都・プリンスホテル
石山建一監督



昭和40年早大卒。日本石油入りして都市対抗優勝。49年早大監督に就任、国土計画に入社。59年からプリンスホテル野球部監督。平成元年インターコンチネンタル大会の全日本監督。

選手1人々が、その場その場で最大限の力を出してくれた結果だ。この喜びは選手時代に自分が経験した優勝とは一味違うものだ。

昨年のチームからエースと3番、4番の投打の主力がプロ入りで抜け、東京都予選でもやっとの思いの第3代表。初めは記念大会に出場できてよかったと思っただけだった。

ひとつは勝ちたいと思ったが、都市対抗で、初めてベンチ入りした投手の白井弘泰が好投して勝ち、次も若い橋本武広が5回から

のロングリリーフを1安打で締めて勝った。チーム全体にグーッと盛りあがるものを感じたのはこの試合だった。

派手なゲームはでないけど、守りを固めてしのぐ野球。これまでのプリンスホテルの展開とは異質だったが、選手がよく耐えた。

なかでも準決勝の松下電器戦は一生忘れられないだろう。3回から出てきた潮崎哲也君が評判通りのピッチングで、速球とシンカーの切れ味が素晴らしく、8回同点にされ延長戦に入ってもなかなか攻略できなかった。

そして10回、それまでの試合に好締めくくり役をしてくれた竹田彰君だったが一死満塁と攻め寄せられた。白井は経験はとほしいが、この大会のラッキーボーイ。「オマエで勝って来たんだ。悔いの残らないよう思い切って投げてこい。結果はオレの責任だ」と送り出すと絵に書いたような投ゴロでホームゲッツー。13回に戸崎秀伸君の二塁打などで満塁としたとき、打者の瀬戸山満年が「スクイズしましょう。やるときだけサインを出してください」。ベンチと選手の心の結びつきを感じ、決勝点を取ったとき「優勝しなければ」の思いが胸に熱く浮かんできた。



大垣対光。小森の安打で吉竹本塁を突くがアウト

4回の根負け悔やむ佐々岡

注目の速球派の1人、広島市・三菱重工広島佐々岡投手（NTT中国から補強）は、準決勝で白老・大昭和製紙北海道に4回3点を奪われ敗退した場面をふり返って「根負けしてしまった」と悔んだ。

白老はこの回、酒井が二塁打。佐藤耕の投前バントを佐々岡が三塁に悪送球、先取点を奪われ、そのあと佐藤真にファールで粘られたあげく、左翼席に打ち込まれた。



大会をわかせた剛腕。堺市・新日鉄堺の野茂投手。打者に背中をむける独特なフォームで快投、小野賞

2ラン=ソロ=1点差

ソロ本塁打と2ランの差が勝負をわけ、大会屈指の好投手、東京都・NTT東京の与田が1回戦で姿を消した。広島市・三菱重工広島戦は、与田、佐々岡と本格派同士の対決。東京が3回、平塚の本塁打で先制した。広島は4回まで6三振、与田に完全に抑えられていたが、5回先頭の岩野が四球で初走者となると続く河井は初球を左中間に逆転本塁打。

両速球投手はその後も互いにゆずらぬ投げ合いを演じ、打線は広島が4安打、東京3安打を放っただけ。結局この1点差で試合が決まったものの、見応えのある投手戦だった。

捕球がっちり！転倒失神

超ファインプレーでピンチを切り抜け、サヨナラ勝ちの陰の殊勲者となったのが門真市・松下電器の桑原中堅手。準決勝の大垣市・西濃運輸戦の8回、大垣が同点に追いついたなお二死満塁。大垣のDH伊東の一打は快音を残して右中間に。走者一掃の逆転打とみられたが、7回から守備固めで守りについてきた桑原は背走に背走、最後はジャンプ一番、この大飛球をキャッチ。勢いあまって一回転、頭を痛打、なかなか起きあがれなかったがボールは離さず、これが9回サヨナラ勝ちに結びついた。



第60回大会を記録して行われた都市対抗祝賀会

その裏！ 逆転サヨナラ

土壇場の9回裏、2点差をはね返し歓喜の逆転サヨナラ勝ちを演じたのが東京都・熊谷組。

2回戦の郡山市・ヨークベニマル戦は4-4の同点で迎えた9回表、郡山が根本の左翼本塁打と近内通の適時打で2点をあげた。さしもの東京もここまでと思われたが、その裏敵失と四球で無死一・二塁とし、一死後佐藤和が中越三塁打して同点。郡山はここで満塁策をとったが木村が高々と中犠飛、佐藤和が勇躍ホームを踏んだ。

殊勲のこの三塁打は、佐藤個人にとっても史上2人目のサイクル安打を達成した記念すべきもの。佐藤は第1打席で右翼に快打、これは三塁打性の当りだったが、二塁を回ったところで前走者が三塁に止っているため、戻ろうとしてタッチアウト、二塁打となった。そのあと安打、本塁打と続け、第4打席は凡退したが、大事な場面で打ち、逆転勝ちと記録樹立の「両手に花」。

久保田監督は「いったん相手に行った波をよく引き戻してくれた。一度死んだのだから、これで選手も思い切りよくやってくれるだろう」と語ったが、次の準々決勝の堺市戦では野茂投手に抑えられ、屈辱のコールド負けで、まさしく天国から地獄。

元全日本主将の心意気

1回戦の名古屋市・NTT東海戦で劇的なサヨナラ本塁打を放った堺市・新日鉄堺の筒井は「責任を果たせてほっとした」。

住友金属の4番打者だが、予選で敗退、補強されて3番。

剛腕・野茂が速球とフォークで名古屋から13三振を奪ったが、粘り強い名古屋は7回に



準優勝した白老町・大昭和製紙北海道の応援団。マーチングバンドに乗ってフラッグ隊が整然と行進

同点に追いついた。

9回先頭打者として打席についた筒井は、それまでの4打席にいずれも凡退していただけに「野茂があればだけ投げているんだ。ここでなんとかしなければ…」と外角速球をジャストミート。本人が「まさか入るとは」と思った当りはグリーンと伸びて左翼席へ。さすが元全日本主将の貴禄。

白老打線、野茂を打ち崩す

大会切っ手の剛腕・野茂投手（堺・新日鉄堺）を打ち崩した白老・大昭和製紙北海道のバッティングには目を見張るものがあった。

両者が対戦したのは準決勝。野茂は1回戦の名古屋・NTT東海戦はやや固さがあったか9安打3点をゆるしたが13奪三振。2回戦の浜松市・ヤマハ戦では3安打2点ではやり13三振を奪った。準々決勝では6回からリリーフ、東京都・熊谷組に8回コールド勝ちまでの3回で3安打5三振。持ち前の剛速球に加え、鋭い切れ味のフォークボールで評判どおりの快投をみせていた。なによりも打者に背番号を見せつけるほど大きく体をひねっての独特のピッチング・フォームはファンをわき立たせたが、白老は制球力をやや欠く野茂に襲いかかった。

1回四死球などで一・二塁とすると酒井が左中間席に豪快な3ラン。4回にも内野安打と振り逃げなどで一・三塁とし佐藤真が初球の直球を狙い打ってまたも左中間3ラン。

疲れがあったとはいえ、野茂の速球に少しも負けず打ち返した白老打線は迫力があり、4回65球でKOした。堺・中川監督は「ボールが先行したのが痛かったが、野茂の若さが出た」と敗戦の弁を語った。



東芝対長野。9回東芝は丹波が左中間にトドメの3点本塁打。投手・西島



シルクハットと燕尾服。華やかに応援するプリンスホテルのチアガール。応援団コンクールも優勝した

見せた好守、浜松外野陣

大会初日の第2試合で対戦した浜松市・河合楽器と加古川市・神戸製鋼はきわどい試合で浜松の逃げ切り勝ち。

1回浜松はトップの牛尾が中前打したのを皮切りに、加古川の江坂から村瀬、鈴木智、福永が3連続長短打。すばやく3点のリードを奪った。

しかし2回以降は加古川の小刻みな継投に5安打と抑えられた。

一方加古川は2回、山口が二塁打し、一死一・三塁から併殺の間に1点を返したものの速球に力のある平田を打ちあぐみ、中盤はチャンスがなかった。やっと8回、四球と鈴木が二塁打で一死二・三塁と好機をつくり、敵失に恵まれて1点。なおも二・三塁と逆転機だったが、中馬の中飛でホームを突いた鈴木は中堅手、二塁手の好返球に刺された。

1点を追う加古川は最後までくじ下がり、9回には陽が左中間二塁打。二死後9番の中村謙が左前安打を放ち、陽が二塁から一気にホームに突入したが、今度は左翼手、並木の絶好のバックホームにタッチアウト。劇的な幕切れで試合が終了。

それにしても浜松外野陣が終盤で演じた好守は素晴らしく、加古川・荒井監督も「8、9回のクロスプレーで好返球するあたり、河合さんはうちより上でした」と脱帽した。



加古川対浜松。9回陽が本塁をついたがタッチアウト

MEMO

◇サイクル安打 東京都・熊谷組の佐藤和弘外野手が、2回戦の郡山市・ヨークベニマル戦の第1打席で右翼二塁打、第2打席で二塁内野安打、第3打席右中間本塁打、第5打席で中越え三塁打を放って達成した。第49回大会で名古屋市・三菱名古屋の北村照文選手が記録して以来史上2人目。

◇大会通算1400号本塁打 東京都・熊谷組の佐藤和弘外野手が2回戦の郡山市・ヨークベニマル戦で郭投手から右中間スタンドに打ち込み記録。

◇三重殺 1回戦の浜松市・ヤマハと藤沢市・いすゞ自動車戦の4回、浜松は無死一・二塁に金指の当たりは痛烈な一直。捕球した一塁の内野手がベースを踏み、二塁をカバーした遊撃手・田村に送球して完成した。

1回戦

東芝 (推薦・川崎市)									
0	0	3	0	0	0	0	1	3	7
0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
長野市 (NTT信越)									

【東芝】	打安点	【長野市】	打安点
⑧ 前田	2 0 0	⑧ 石田	4 0 0
⑥ 田淵	5 1 1	⑦ 土田	4 0 0
③ 南丹	5 2 5	⑥ 横山	4 2 0
D 福植	2 0 0	⑤ 中井	4 2 2
⑨ 本田	3 1 0	⑤ 横山	3 0 0
9 田邊	0 0 0	H 高橋	1 1 0
④ 葛小	4 0 0	④ 藤嶋	4 0 0
⑦ 葛小	1 0 0	⑨ 藤嶋	3 1 0
R 7 梁	2 0 0	② 常	2 0 0
⑤ 藤原	4 3 0	H 関	0 0 0
② 藤原	2 0 0	D 佐藤	0 0 0
2 高見	0 0 0	H D 藤木	2 0 0
	30 7 6		1 0 0

振球機盗失残併	3 7 3 2 0 6 0	振球機盗失残併	4 0 1 0 1 4 1
投手	9	投手	2 1/2
三原	6 2	沖田	2 1/2
		手島	6 2/3
		由	3 3

▽横井1号② (三原) 丹波1号③ (西島) 壘打 吉沢 丹波▽2時間17分

1回戦

浜松市 (河合楽器)									
3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
加古川市 (神戸製鋼)									

【浜松市】	打安点	【加古川市】	打安点
⑧ 牛尾	4 1 0	③ 浦宮	3 0 0
⑨ 西村	5 1 0	H 9 能勢	1 0 0
③ 源瀬	4 2 0	④ 若狭	3 2 0
⑤ 鈴木	3 1 2	R 能勢	0 0 0
D 福永	4 1 1	5 渡部	0 0 0
⑦ 並木	4 1 0	⑧ 鈴木	2 1 0
⑥ 盛水	3 1 0	⑤ 日中	4 0 0
④ 清安	3 0 0	⑦ 馬嶋	3 0 0
② 安間	4 1 0	3 嶋	0 0 0
	34 9 3	D 4 山	4 1 0

振球機盗失残併	3 6 1 0 2 1 1 2	振球機盗失残併	3 3 1 2 0 7 1
投手	9	投手	4 2/3
平田	8 1	H 塚田	1 1 0
		H 川原	0 0 0
		H 中村	1 0 0
		② 中村	4 2 0
			32 8 0

▽三塁打 鈴木智 安間 投 手 回 安責
▽二塁打 能勢 山口 坂 陽 4 2/3 7 3
鈴木 村瀬 陽 山 崎 1 1/2 0 0
▽2時間31分 千々松 3 2 0

1回戦

東京都 (プリンスホテル)									
1	1	2	0	0	1	0	0	1	6
0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
仙台市 (JT)									

【東京都】	打安点	【仙台市】	打安点
⑦ 高足	5 1 1	⑧ 渡屋	2 0 0
④ 田立	4 2 0	H 山	1 0 0
⑧ 田立	4 2 0	8 藤	0 0 0
⑤ 石山	2 2 2	H 8 藤	1 0 0
D 山住	4 1 2	④ 山	5 3 0
③ 吉井	4 0 0	⑦ 瓶	5 2 0
⑨ 照宮	1 1 0	⑦ 野	4 1 1
H 7 庄	2 0 0	⑤ 嶋	3 0 0
H 7 柳	1 0 0	③ 田	1 0 0
② 小瀬	4 3 0	H 3 川	2 1 2
⑥ 高桑	2 1 1	H 3 義	1 0 0
	34 13 6	H 藤	1 0 0

振球機盗失残併	3 5 4 1 0 10 0	振球機盗失残併	3 6 1 1 3
投手	7 3	投手	2 0 0 1 2 1
吉田	3 3/4	柳	2 2/3
白井	4 2 0	畑	5 4
末木	1 1 0	倉	8 2
竹田	1 1/2 1 0	大	0 0

▽三塁打 藤沢 高木▽二塁打 照井 石井
山下 三瓶 足立 原野▽3時間7分

1回戦

豊田市 (トヨタ自動車)
4 0 0 2 3 4 0 | 13
0 0 1 0 0 2 0 | 3
京都市 (日本新薬)

【豊田市】 打安点
⑧ 高 瀬 530
④ 吳 430
⑨ 成 瀬 221
H 9 7 横 井 213
7 岡 本 000
③ 関 511
D 宮 市 521
⑦ 山 孝 321
R 8 寺 山 000
② 古 中 413
⑤ 杉 山 100
5 杉 山 110
⑥ 蛭 301
振球機盗失残併 351611

振球機盗失残併
2 4 2 2 1 7 1
投手 回 安責
投 鈴 口 1 2 2
植 崎 1 2 0

▽本塁打 横井1号③(遠野) 太田代1号②(樋口)
二塁打 間瀬 寺坂 吳 成瀬 宮市2
▽2時間28分

1回戦

高知市 (四国銀行)
0 0 0 0 1 2 0 2 0 | 5
0 1 0 0 0 0 0 1 4 | 6
門真市 (松下電器)

【高知市】 打安点
⑧ 田 中 410
④ 岡 410
⑤ 菜 師 412
⑦ 三 好 531
③ 西 511
D 宮 本 200
H D 井 上 100
⑨ 森 田 300
② 宮 本 400
⑥ 町 田 410
振球機盗失残併 3684

振球機盗失残併
134 1 1 1 9 0
投手 回 安責
投 橋 谷 8% 83
山 本 % 20

▽本塁打 菜師神1号②(潮崎) 西原 田中▽2時間39分

1回戦

札幌市 (NTT北海道)
0 0 0 3 0 0 0 0 1 | 4
3 0 0 0 1 0 0 5 X | 9
横浜市 (日本石油)

【札幌市】 打安点
⑧ 小 林 200
H 9 石 谷 212
④ 中 田 410
⑦ 山 藤 410
H 横 遺 100
⑨ 8 沢 田 300
H 大 池 111
② 本 村 320
H 長 岡 100
③ 井 山 310
D 岡 井 311
⑤ 寺 春 320
⑥ 田 300
振球機盗失残併 33104

振球機盗失残併
6 6 2 0 0 1 0 0
投手 回 安責
投 藤 野 6% 34
小 林 今 野 % 22

▽本塁打 井城1号(秋村) 大村1号(吉沢)
二塁打 横山▽3時間16分

1回戦

光市 (新日鉄光)
0 0 0 0 0 2 0 0 0 | 2
1 0 2 0 0 0 0 0 X | 3
大垣市 (西濃運輸)

【光市】 打安点
⑥ 村 上 420
⑧ 文 幸 200
H 8 真 村 200
④ 内 上 422
③ 久 布 300
D 最 田 410
② 久 原 300
⑨ 梅 上 300
⑤ 竹 原 300
⑦ 浜 村 300
振球機盗失残併 3152

振球機盗失残併
5 1 1 1 1 4 1
投手 回 安責
投 石 川 2% 43
一 倉 5% 40

▽本塁打 松本1号(石川) 内布1号②(上原)
二塁打 村上 上文
▽2時間17分

1回戦

千葉市 (川崎製鉄千葉)
0 0 0 0 0 0 0 2 3 | 5
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
熊本市 (NTT九州)

【千葉市】 打安点
③ 海 老 沢 522
④ 宮 下 530
D 飯 塚 500
⑧ 齊 藤 312
⑦ 高 山 420
⑥ 5 辻 高 200
② 柿 藤 310
⑤ 小 岩 410
H 加 瀬 200
6 加 瀬 100
振球機盗失残併 35115

振球機盗失残併
4 3 1 1 0 7 0
投手 回 安責
投 崎 川 6% 20
川 辺 2% 00

▽本塁打 海老沢1号②(江口) 加瀬 宮下3 柿藤▽2時間33分

1回戦

横須賀市 (日産自動車)
0 0 0 0 0 0 2 1 0 0 0 0 0 | 3
0 0 1 1 0 1 0 0 0 0 0 0 1 | 4
白老町 (大昭和製紙北海道)

【横須賀市】 打安点
⑧ 田 中 510
H 8 村 田 100
⑦ 小 日 300
H 7 原 直 310
D 松 井 500
⑨ 松 鶴 401
③ 平 野 611
⑤ 高 橋 310
R 八 松 000
② 尾 邊 310
D 曾 田 410
⑥ 石 川 100
H 6 松 本 201
② 山 部 200
H 5 阿 望 300
振球機盗失残併 4563

振球機盗失残併
6 3 4 2 0 7 1
投手 回 安責
投 手 保 5% 63
秋 石 原 7% 31

▽本塁打 佐藤耕1号(久保) 秋石 原▽3時間50分

1回戦

千葉市 (NTT関東)
1 2 3 1 0 0 0 0 0 | 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
姫路市 (新日鉄広畑)

【千葉市】 打安点
⑧ 小 笠 原 411
⑥ 小 関 200
H 6 野 村 100
④ 4 野 村 410
⑤ 4 杉 渡 000
D 5 杉 渡 411
⑨ 野 村 312
⑦ 中 大 川 422
② 3 11
③ 100
② 420
振球機盗失残併 3397

振球機盗失残併
7 3 4 1 0 6 1
投手 回 安責
投 手 秋 沢 9 60

▽本塁打 小笠原1号(豊田) 太田1号(豊田)
二塁打 安齊 杉本▽2時間50分

1回戦

日立市 (日立製作所)
1 1 3 1 2 0 0 2 1 | 11
1 1 1 0 1 0 0 0 5 | 9
大阪市 (大阪ガス)

【日立市】 打安点
⑥ 森 森 531
④ 森 森 500
H 4 森 森 100
⑨ 森 森 000
② 森 森 521
D 森 森 532
③ 森 森 521
5 森 森 212
⑧ 森 森 542
⑤ 3 森 森 321
⑦ 森 森 000
7 森 森 400
振球機盗失残併 421710

振球機盗失残併
5 7 1 3 1 1 2 0
投手 回 安責
投 向 田 2% 73
秋 山 6% 96

▽本塁打 河西1号(田崎) 畑山1号④(秋山)
二塁打 和久井3 鈴木 俊 内田 河西 畑山 中村 森田
▽3時間27分

1回戦

東京都 (NTT東京)
0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1
0 0 0 0 2 0 0 0 X | 2
広島市 (三菱重工広島)

【東京都】 打安点
⑧ 長 四 410
④ 6 壁 水 200
③ 壁 水 400
⑤ 真 為 310
⑦ 7 守 永 200
R 7 森 矢 100
D 野 本 400
⑨ 平 塚 311
⑥ 藤 田 200
H 中 野 100
4 山 田 000
② 内 山 200
H 関 田 100
2 関 田 000
振球機盗失残併 2931

振球機盗失残併
9 4 0 3 0 5 0
投手 回 安責
投 与 田 8 42

▽本塁打 平塚1号(佐々岡) 河井1号②(与田)
二塁打 関田▽2時間20分

2 回戦

日立市 (日立製作所)									
0	0	0	1	0	1	0	0	1	3
1	0	2	3	4	0	0	0	×	10
広島市 (三菱重工広島)									

【日立市】	打安点	【広島市】	打安点
⑥森田	4 1 1	⑧植田	5 3 3
④田永	3 0 0	⑨谷井	5 3 2
H 永元	1 0 0	④松野	4 0 1
4 秋葉	0 0 0	④横井	0 0 0
H 秋葉	1 0 0	④小岩	5 2 2
⑨岩松	4 1 0	⑦若河	5 2 0
②鈴木	4 3 2	⑥若松	4 3 1
D 鈴木	4 1 0	⑥山口	2 0 0
⑦河野	4 0 0	⑥岡口	1 0 0
⑧久野	3 1 0	⑤岡光	2 0 0
③久野	4 1 0	⑤岡圭	2 1 1
⑤富中	2 1 0	②岡村	0 0 0
H 徳原	1 0 0	②徳原	0 0 0

振球機盗失残併	4 1 1 0 2 8 2	振球機盗失残併	4 4 2 0 2 7 1
投手	2 2 3 3 4	投手	7 7 2
回	6 3 2 2 3	回	7 7 2
安責	6 3 2 2 3	安責	7 7 2
▽本塁打	岩野1号(向田) 鈴木俊1号 2号	▽本塁打	岩野1号(向田) 鈴木俊1号 2号
(山下) 三塁打	河井 河井 植田 若松	(山下) 三塁打	河井 河井 植田 若松
岩野	河井 森田	岩野	河井 森田
▽2時間	50分	▽2時間	50分

2 回戦

浜松市 (ヤマハ)									
0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
1	4	0	0	1	2	0	1	×	9
堺市 (新日鉄堺)									

【浜松市】	打安点	【堺市】	打安点
④山本	4 0 0	⑥西浦	3 0 1
⑥山中	4 1 0	④東靖	4 3 2
⑧中藤	4 1 0	④本井	0 0 1
⑨中内	4 1 2	⑨本井	3 2 1
⑦中内	2 0 0	⑦本井	1 0 0
③中内	0 0 0	⑤浦馬	4 2 3
②中内	3 0 0	③浦馬	3 2 0
⑤中内	3 0 0	③浦馬	3 1 1
H 高角	2 0 0	⑦米松	2 0 0
5 高角	1 0 0	⑦米松	1 0 0
D 高角	0 0 0	⑦米松	1 0 0
HD 高角	1 0 0	②米松	3 0 0
HD 高角	2 0 0	②米松	4 3 0

振球機盗失残併	1 3 1 0 0 0 2 1	振球機盗失残併	4 4 3 0 0 6 0
投手	1 3 1 0 0 0 2 1	投手	9 9 3 2
回	5 5 7 3 1 1	回	9 9 3 2
安責	5 5 7 3 1 1	安責	9 9 3 2
▽本塁打	浦東靖1号②(西村) 筒井2号(西村)	▽本塁打	浦東靖1号②(西村) 筒井2号(西村)
中村2号②(野茂) 二塁打	馬場2号(中山) 井上	中村2号②(野茂) 二塁打	馬場2号(中山) 井上
▽2時間	31分	▽2時間	31分

2 回戦

郡山市 (ヨークベニマル)									
0	3	0	1	0	0	0	0	2	6
2	0	0	1	1	0	0	0	3	7
東京都 (熊谷組)									

【郡山市】	打安点	【東京都】	打安点
④菱山	3 0 0	⑥森山	4 1 0
④菱山	5 2 0	④森山	5 1 0
⑥菱山	4 2 1	⑦佐藤	5 4 4
③林本	5 1 0	⑦佐藤	2 0 0
⑦近内	5 1 0	⑦佐藤	1 0 0
⑨近内	3 1 0	③吹山	3 0 1
⑤近内	2 2 1	⑨吹山	3 0 0
D 近内	3 1 1	⑤吹山	0 0 1
HD 近内	1 0 0	⑤吹山	3 2 0
HD 近内	1 1 0	②吹山	4 1 0
HD 近内	4 1 3	②吹山	2 0 1
HD 近内	3 6 1 2 6	②吹山	1 0 0

振球機盗失残併	6 6 3 1 1 1 2 0	振球機盗失残併	6 7 2 1 1 9 1
投手	8 8 9 5	投手	3 3 4 1 2 0
回	8 8 9 5	回	3 3 4 1 2 0
安責	8 8 9 5	安責	3 3 4 1 2 0
▽本塁打	石井1号③(谷津田) 佐藤和1号	▽本塁打	石井1号③(谷津田) 佐藤和1号
(郭) 根本1号(下山) 三塁打	佐藤和	(郭) 根本1号(下山) 三塁打	佐藤和
二塁打	佐藤和 大島	二塁打	佐藤和 大島
▽2時間	59分	▽2時間	59分

準々決勝

東京都 (プリンスホテル)									
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浜松市 (河合楽器)									

【東京都】	打安点	【浜松市】	打安点
⑦高木	3 1 0	⑧牛尾	3 0 0
④高木	2 1 0	⑨東原	0 0 0
⑧高木	4 1 0	⑨東原	2 0 0
⑤高木	3 0 0	H 西上	1 0 0
D 高木	4 0 0	④尾村	0 0 0
③高木	4 1 0	③尾村	4 0 0
⑨高木	3 1 1	⑤上瀬	4 1 0
②高木	3 1 0	D 上瀬	4 0 0
⑥高木	3 0 0	⑥上瀬	4 0 0
⑥高木	2 9 6 1	⑦上瀬	3 1 0

振球機盗失残併	3 2 2 2 0 5 1	振球機盗失残併	1 1 3 1 0 0 5 0
投手	5 5 3 3 0	投手	9 9 6 1
回	3 3 0 3 0	回	9 9 6 1
安責	3 3 0 3 0	安責	9 9 6 1
▽本塁打	照井 盛	▽本塁打	照井 盛
鈴木智	▽2時間	鈴木智	▽2時間
24分		24分	

準々決勝

大垣市 (西濃運輸)									
0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
門真市 (松下電器)									

【大垣市】	打安点	【門真市】	打安点
④比嘉	4 3 0	⑧広岡	2 0 0
⑥比嘉	2 1 1	⑧広岡	1 0 0
⑦比嘉	3 1 1	⑤桑原	0 0 0
③比嘉	4 1 0	⑤桑原	4 1 0
⑤比嘉	4 1 0	③南宇	4 2 1
D 比嘉	4 0 0	D 南宇	4 2 1
②比嘉	4 0 0	④木村	3 0 0
⑨比嘉	2 0 0	⑨木村	4 2 1
9 比嘉	2 0 0	②木村	3 1 0
9 比嘉	0 0 0	⑥佐原	2 0 0

振球機盗失残併	5 1 2 0 0 7 2	振球機盗失残併	6 3 1 0 1 6 0
投手	7 7 6 2 1	投手	5 5 4 1 1
回	7 7 6 2 1	回	5 5 4 1 1
安責	7 7 6 2 1	安責	5 5 4 1 1
▽本塁打	松本2号(石田) 二塁打	▽本塁打	宇田
中本2号	比嘉	中本2号	比嘉
▽2時間	30分	▽2時間	30分

準々決勝

白老町 (大昭和製紙北海道)									
0	0	0	3	0	0	1	1	0	5
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
広島市 (三菱重工広島)									

【白老町】	打安点	【広島市】	打安点
④高木	5 2 1	⑧植田	4 0 0
⑥高木	5 0 0	④植田	4 2 0
⑧高木	4 1 0	⑨富野	3 1 0
③高木	5 2 0	③富野	4 2 0
⑦高木	3 1 1	R 富野	0 0 0
D 高木	4 1 0	⑦富野	4 4 1
RD 高木	0 0 0	D 富野	4 0 0
HD 高木	1 0 0	⑤若金	3 1 0
⑨高木	4 2 2	H 若金	1 0 0
⑤高木	2 1 0	⑥若金	3 0 0
⑤高木	1 1 0	H 若金	0 0 0
②高木	3 2 0	②若金	3 0 0

振球機盗失残併	6 4 1 1 0 1 0 1	振球機盗失残併	8 1 1 0 2 8 2
投手	8 8 1 0 1	投手	6 6 1 1 3
回	8 8 1 0 1	回	6 6 1 1 3
安責	8 8 1 0 1	安責	6 6 1 1 3
▽本塁打	佐藤真1号②(佐々岡) 二塁打	▽本塁打	佐藤真1号②(佐々岡) 二塁打
高木2号	酒井	高木2号	酒井
▽2時間	33分	▽2時間	33分

準々決勝

堺市 (新日鉄堺)									
1	1	0	0	1	2	0	5	10	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京都 (熊谷組)									

【堺市】	打安点	【東京都】	打安点
⑥桶井	4 0 1	⑥森山	3 0 0
④桶井	4 1 3	H 森山	1 1 0
⑨桶井	4 1 1	④山沢	3 0 0
H 桶井	1 0 0	④山沢	1 0 0
⑤桶井	4 1 0	⑦山藤	4 2 0
D 桶井	4 3 0	③山藤	4 0 0
③桶井	2 0 0	⑨山藤	3 2 0
H 桶井	1 0 0	⑨山藤	2 0 0
⑥桶井	1 1 0	⑤山藤	1 0 0
⑦桶井	2 1 0	⑤山藤	1 0 0
R 桶井	1 1 2	②山藤	2 0 0
②桶井	2 2 2	⑧山藤	2 0 0
②桶井	3 1 0	H 山藤	1 0 0

振球機盗失残併	5 2 4 0 0 5 1	振球機盗失残併	1 0 3 0 1 2 7 0
投手	5 5 2 4 0 5 1	投手	5 5 2 4 0 5 1
回	5 5 2 4 0 5 1	回	5 5 2 4 0 5 1
安責	5 5 2 4 0 5 1	安責	5 5 2 4 0 5 1
▽本塁打	筒井3号(鈴木) 浦東靖2号③(下山)	▽本塁打	筒井3号(鈴木) 浦東靖2号③(下山)
二塁打	久保 馬場	二塁打	久保 馬場
▽2時間	15分	▽2時間	15分

準決勝

東京都 (プリンスホテル)										
0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
門真市 (松下電器)										

【東京都】	打安点	【門真市】	打安点
⑦高木	5 1 0	④広岡	6 3 1
④高木	4 1 0	④広岡	3 1 1
⑧高木	6 1 0	H 5 広岡	2 0 0
⑤高木	4 0 0	③木村	5 0 0
⑨高木	4 0 0	③木村	4 1 0
H 高木	0 0 0	⑨木村	5 1 0
R 高木	0 0 0	⑦木村	4 1 0
③高木	2 0 0	②木村	5 1 0
H 高木	3 1 0	②木村	5 2 0
D 高木	5 2 1	⑧木村	0 0 0
②高木	4 2 2	⑧木村	1 0 0
⑥高木	6 1 0	H 木村	0 0 0

振球機盗失残併	1 1 7 4 0 3 1 2 1	振球機盗失残併	6 5 4 5 0 9 0
投手	2 2 3 3 1 1	投手	2 2 2 2 2 2
回	2 2 3 3 1 1	回	2 2 2 2 2 2
安責	2 2 3 3 1 1	安責	2 2 2 2 2 2
▽本塁打	山下2 佐藤2 広岡 戸崎	▽本塁打	山下2 佐藤2 広岡 戸崎
▽2時間	26分	▽2時間	26分

準決勝

白老町 (大昭和製紙北海道)									
3	0	0	3	1	0	0	0	0	7
0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
堺市 (新日鉄堺)									

【白老町】	打安点	【堺市】	打安点
④高木	3 0 0	④浦東	4 2 1
⑥高木	3 0 0	⑥浦東	3 1 0
⑧高木	3 1 0	H 3 浦東	1 0 0
③高木	4 3 4	⑨井上	4 0 0
⑦高木	4 0 0	⑨井上	4 0 0
D 高木	2 0 0	⑤馬場	4 1 0
RD 高木	1 0 0	⑤馬場	4 2 0
HD 高木	1 0 0	D 馬場	3 0 0
⑨高木	4 2 3	⑦西米	0 0 0
⑤高木	3 0 0	⑧西米	3 1 1
5 高木	1 0 0	②井田	1 0 0
②高木	3 0 0	H 井田	1 0 0
②高木	3 2 6 7	④井田	0 0 0

振球機盗失残併	1 0 2 1 2 2 1 2	振球機盗失残併	6 0 0 0 1 4 0
投手	7 7 6 1	投手	4 4 6 0 0
回	7 7 6 1	回	4 4 6 0 0
安責	7 7 6 1	安責	4 4 6 0 0
▽本塁打	酒井1号③(野茂) 浦東靖3号(渡部) 三塁打	▽本塁打	酒井1号③(野茂) 浦東靖3号(渡部) 三塁打
二塁打	酒井	二塁打	酒井
▽2時間	22分	▽2時間	22分

東京都

(プリンスホテル)

Table listing names and numbers for Tokyo (Princess Hotel) section.

郡山市

(ヨークベニマル)

Table listing names and numbers for Joze City (York Benimaru) section.

千葉市

(NTT関東)

Table listing names and numbers for Chiba City (NTT Kanto) section.

横浜市

(日本石油)

Table listing names and numbers for Yokohama City (Japan Petroleum) section.

推薦・川崎市

(東芝)

Table listing names and numbers for Recommended Kawasaki City (Toshiba) section.

日立市

(日立製作所)

Table listing names and numbers for Hitachi City (Hitachi) section.

和光市

(本田技研)

Table listing names and numbers for Wakuhou City (Honda) section.

横須賀市

(日産自動車)

Table listing names and numbers for Yokosuka City (Nissan) section.

白老町

(大昭和製紙北海道)

Table listing names and numbers for Shiraoi Town (Daishowa) section.

仙台市

(JT)

Table listing names and numbers for Sendai City (JT) section.

東京都

(熊谷組)

Table listing names and numbers for Tokyo (Kumagumi) section.

藤沢市

(いすゞ自動車)

Table listing names and numbers for Fujisawa City (Isuzu) section.

札幌市

(NTT北海道)

Table listing names and numbers for Sapporo City (NTT Hokkaido) section.

千葉市

(川崎製鉄千葉)

Table listing names and numbers for Chiba City (Kawasaki Steel) section.

東京都

(NTT東京)

Table listing names and numbers for Tokyo (NTT Tokyo) section.

長野市

(NTT信越)

Table listing names and numbers for Nagano City (NTT Shinetsu) section.

都市対抗は私の人生だ

熊谷組 古田昌幸



都市対抗野球は、私の野球人生の全てといえる。もっといえ、都市対抗あつての私の人生だ。

私は昭和31年熊谷組に入社した。立教の先輩の大沢貞義さんから誘われ、当時野球部長だった、時岡周次東京支店長にお逢いしたが「この方ならまかせてだいじょうぶ」と直感、入社させて頂いた。それ以来、選手、監督兼任を43年まで勤め、いったんユニホームを脱いだが48年から部長、監督、内野手として復帰、51年までグラウンドに立った。その後も大会運営にたずさわり、都市対抗とは一生の縁を持つ。

17年間の現役生活で3回の優勝を味ったが、なかでもやはり印象深い優勝は昭和41年の第37回大会だ。ふつつうなら10年連続出場て表彰されるのに、私はなぜか11年連続出場のこの大会の開会式で表彰され試合に臨んだ。

苦戦の連続で、初戦の2回戦、三菱重工神戸戦ではやっとの思いの逃げ切り、次の拓殖銀行戦も、相手のミスで挙げた1点を守り切つての辛勝。準々決勝でぶつかつた東芝戦では6回の二死一塁で私が右翼フェンス直撃の三塁打を放ち、相手の連携ミスでホームイン、やっと同点とし延長戦。10回に東芝に1点を奪われたがその裏、代打の鈴木正臣、主将の川崎俊治が安打した一死一・二塁に打席に立ち、1-0からの内角速球を左翼席に打ち込むことができた。

準決勝の日本石油戦も、1-1で迎えた9回裏、一死から私が平松政次投手の速球を右翼線二塁打した。二塁から戻って4番に代え勝負をかけて鈴木代打を審判に告げたが凡退。平松君は後勝を敬遠して捕手の河野愿と勝負にきた。私は二塁走者だったから球筋がよくわかり、いい球は「打て、打て」と叫んだが2-1と追い込まれた。次の4球目は速球がまん中に来た。河野のバットの出がよく見えた。打つた。その瞬間、ホームランとわかる当りだった。

連続サヨナラ勝ちでの決勝進出。

住友金属戦も7回に逆転したのに、8回に同点本塁打され、またも延長戦。10回表だった。無死満塁と攻めたてられ、ここで投手を大櫃昭彦に代えた。延長で1点勝負だし「もうだめかな」の思いが頭をかすめた。でも「うちはまだ裏が残っている」と自分を励まして大櫃に全てをまかせたが、初球に度胸よく内角に落ちるゆるい球を投げ込み、気分った打者は三ゴロ併殺打。次打者も左飛にうちとつて大ピンチをのがれた。その裏、うちは電電東京から補強の福岡詳悟君と投手の大櫃が安打して二死一・三塁に、やはり補強の谷本良樹君が右翼線に決勝打、3連続サヨナラ勝ちで3度目の黒獅子旗を手にした。

いま思い出しても、苦しい場面々々で力を発揮してくれた選手たちの姿が鮮明に頭に浮んでくる。私自身、われながら大きな仕事をよくできたと思うし、この年は生涯最良の年だったと思う。

実は大会が始まる前、東保秀喜さんに「古ちゃんは年をとつても守備は相変わらずだけど、バッティングは少し落ちたんじゃない」といわれ、カチンときて「よし見ている」と奮起したのが、この結果に結びついたとも思える。それに当時、東松山工場長で仕事が忙しかつたのに、足繁げく練習を見に来てくださった先輩の櫛田由美彦さんが、ことあるごとに「そんなことで勝てるか」「それでも練習か、やめちまえ」「ガラガラしやがって。オレがいいというまで、全員クラウンドを走つてろ」と頭からどなりつける。それが大きな反発材料になったのも事実だ。

選手、監督を通じ、他人にいけない苦しさもあつたが、苦勞しないで過ごしたのなら意味はないと思う。活躍の場を与えてくれた都市対抗の恩は忘れられない。

(現在、土地興業保険事業部長)

日本社会人野球協会発足のころ

岩 崎 恒



もう60年も経ったのか。社会人野球協会が都市対抗野球とともに歩んできた道のりを振り返ると、協会発足時に、故小川正太郎さんの下で、いささかのお手伝いをした私にとっては、今日の隆盛を喜ぶとともに、往時への郷愁を感じずにはおられない。当時運動部勤務3年目の私は、アマ野球の担当記者として、小野三千磨、小川正太郎両先輩の下で、東京六大学野球の取材を通して野球の何たるかを懇切に教えて戴いたことを懐しく思い出す。神宮球場が返還されるまでの六大学野球は、後樂園や上井草球場などを転々、特に春の上井草球場では吹き荒れる風がネット裏の記者席に舞い込み、Yシャツの襟が球場の赤土を吸い込んで真赤になることもしばしば。“何とひどい球場だ”と嘆いたことも今では懐しい思い出だ。

そんな中で、何かにつけて進駐軍にお伺いを立てなければならなかった当時の事情が都市対抗を存続するためには社会人野球協会設立が急務との気運につながり、小野、小川両先輩を中心に関係者の間で着々準備が進められていた。そして設立された事務所は、有楽町の毎日新聞旧館六階、エレベーター前の小さな一室だった。机1つに椅子が4、5脚。窓際に本棚を並べるとそれだけでもう一杯のささやかな事務所だった。そんな小さな部屋で小川さんとともに規約作りや全国組織のために活動したのは土井、川瀬（慶大）坪井（東大）成田（法大）早速（立大）ら六大学野球出身の諸先輩。今なら笑い話だが規約に盛り込まれた“義務と権利”の、どちらを優先するのかで何時間も討議したことを思い出す。

こうして曲りなりにもスタートした協会の仕事のなかで、重要な部分を占めていたのは県予選での審判の割振りだった。勤務の合間を縫って六大学出身の諸先輩は、あち

こちの予選へ審判として出張した。それでも人が足りず、私も狩り出されて、記者と審判を兼ねて、地方へ出かけることもしばしばだった。

小川さんは地方連盟からのこんな依頼をテキパキ処理、そして感謝された。病身の体で、よく続くなとまわりが心配するほど頑張られた。やがて毎日新聞がプロ野球オリオンズを創立して私はアマ野球からプロ野球に担当が代った。当時毎日のプロ野球記者はラグビーの北野孟朗（慶大）さんだけで、私を加えてたった2人。小野、小川両先輩も大事な試合にはプロにかり出された。堀浩、鈴木美嶺君らが入社して、毎日の野球取材陣は強化され、私はプロ専属となって都市対抗の本大会以外で協会のお手伝いをする機会は少なくなったが、協会がスタートするまでの小川さんの激務ぶりを知るものとしては、今日の協会の隆盛は小川さんあってこそと改めて感じずにはおられない。

実は東京運動記者クラブのチームが、昭和26、7年のころ、都市対抗の東京都予選に2回出場したことがある。小野さんが監督だった。最初のときは山之内製紙に私が完投して勝った。新聞記者チームが、都市対抗であげた歴史に残る1勝と自慢できる。朝日の好村三郎さんや共同通信の中村精吉さんらが元気にプレーしていた。が、2回戦で当時強かった新東宝に私は連続8安打され、10点以上を奪われて本当なら7回コールドゲームだった。それを小野さんが「この試合は9回までやれ」。8回に私が二塁打して1点をあげ零敗をまぬがれたのだが、うれしさのあまり二塁でかくし球にあいタッチアウト。よき時代の都市対抗の歴史のひとつコマとして、いまでもなつかしく思い出す。

（元毎日新聞社運動部記者）

私と都市対抗野球

鈴木美嶺



毎日新聞社の運動部記者として、私が都市対抗野球大会と報道の面でつながりを持ったのは、昭和25年から昭和52年にかけての27年間であった。運動部一筋の記者生活であったから、これだけ長い間都市対抗野球と取り組むことができたのだが、“生涯一野球記者”をめざしていた私にとっては、都市対抗野球の歴史の一翼をになえたという、自分なりの誇りも感じている。

あるいは、自己満足にすぎない誇りかも知れないが、私が都市対抗野球の報道という面で、新生面を切りひらいたと思っているのは、“黒獅子の目”というコラムを創設して、長く書きつづけたということである。都市対抗野球の担当記者になってから5年ぐらいたった頃であった。大会の報道は試合を正面から取り組むのが本筋だが、都市対抗のもうひとつの顔を試合にからませて書けないものか——大会がここまで発展するまでの波乱曲折、あるチームが、ある都市が全盛を迎えるまでの先駆者たちの情熱と努力、野球人たちの興奮や感傷の交錯するグラウンド裏の人間模様などなど、あれこれ織り込んで歴史を伝えていきたいものだが——と考えたのがはじまりであった。

それには、都市対抗の優勝旗“黒獅子”に変身して、第1回から大会を眺めつづけた“目”を通した語り口でつづるのが最適と思いついたのであった。「私（黒獅子）はあの夏、カンカン帽にステテコのファンが両手にビールのコップ、口にタバコの箱をくわえてスタンドを駆け上がるのを見た。あの夏もきょうのように白い雲がムクムクと青空にわきあがるのを見た」といった調子で、昔と今をくらべていく手法である。

たしか、そのときの運動部長は故藤岡端氏であったと思うが、私の企画が認められて、都市対抗の夏がくると、運動面に“黒獅子の目”というコラムが登場するようになっ

ていった。運動部員諸氏の御理解もあり、このコラムの担当者は私というのが公認の形になって、私はくる夏もくる夏も“黒獅子の目”を書きつづけていった。妙なもので、大会がはじまると私は“黒獅子”になり切ってしまうのだった。大会創始者の故橋戸碩鉄氏とヒザをまじえて野球談義をまじえたり、大会初期のヒーロー、故宮武三郎投手とも談笑したりした。昔の人だけでなく、現在につながる大会役員諸氏、審判委員、応援団とも話し合っ、いろいろな人の泣き笑いを書きつづけていった。

大会が終わると「もうひとつの都市対抗が書けたらうか」、「懐古趣味に走り過ぎたのではないか」、「感傷にふけり過ぎたのではないか」といつも反省はするのだが、翌年の夏がくるとまた“黒獅子”になり切って、コラム書きに没頭する私であった。かれこれ20年はつづけただろうと思う。そういう点で都市対抗野球は、野球記者としての私に、この上ない楽しみを与えてくれたと感謝している。それだけに私にとって最後の“黒獅子の目”になった昭和52年8月3日付けのコラムの結びは、私が学んだ旧制第八高等学校で別れのときに歌う寮歌の一節を引用するなど、ひどく感傷的だった。

「いつもそうだが、決勝は別れの日だ。生い立ち、境遇、年齢、人生観。それぞれ違うひとたちが、都市のため、チームのため、自分のため、白球を追って、くる夏もくる夏も全精魂を傾ける。それだけになお決勝は残酷だ。——年は行き星は移りなば 若き血潮はもえざらん この世の春はかえるとも 我が青春をいつか見ん ああ高殿に友と来て 今宵は別れの宴（うたげ）なり 面（おもて）は笑みて歌えども 心に泣ける我を見よ——」

（元毎日新聞社運動部記者）

黒獅子旗 “奇談”



都市対抗野球大会は、戦後の混乱のなか、昭和21年、4年ぶりに復活した。しかし、優勝旗「黒獅子旗」は行方不明のままの再開であった。昭和17年の第16回大会で優勝を果たした全京城が、朝鮮半島の京城に持ち帰り、遠く京城の地にあったことはわかっていたものの、終戦時の大混乱のなかで、黒獅子旗の無事を望むのは無理と、大会関係者は半ばあきらめていた。

物質欠乏のなかでの大会再開であったから、新しく黒獅子旗を作製することもできなかった。

優勝した岐阜市・大日本土木の村瀬保雄主将には、閉会式で“賞状”だけが手渡された。ところが9月下旬、毎日新聞社丸亀通信部から「黒獅子旗が帰ってきた」との知らせが、同東京本社に届いた。全京城の3番打者だった秋山光夫中堅手が持ち帰っていたのだった。秋山氏は法大時代から強打の右翼手として活躍、卒業して京城電気株式会社に入社、都市対抗にもしばしば出場した。

全京城というチームは、京城の実業団リーグの優勝チームを主体に、他チームの優秀選手を加えて編成されたチームで、第16回大会では、京城電気株式会社が主体になっていた。このため黒獅子旗は同社に保管されて終戦を迎えたのである。

終戦直後の昭和20年9月14日、京城電気は進駐軍に接収されることになった。秋山氏はこの日「なんとしても黒獅子旗を日本に持ち帰ろう」と心に決めた。同じ全京城の選手だった山本清三郎氏（後に門司鉄道局）とも相談、秋山

氏がひそかに腹に巻きつけて日本に引きあげることにしたのであった。

途中で所持品検査にあい、没収されることも予想される情況下。秋山氏は「私は元全京城チームのプレーヤーであるから、このペナントを持っている。私が獲得したものであるから故国に持ち帰るのだ」という意味の英語をくり返しくり返し頭に刻み込んだ。

10月13日、秋山氏は黒獅子旗を腹にしっかりと巻きつけて京城を出場した。14日に釜山に到着。幸いなことに心配した荷物検査もなく、同日午後乗船し、無地に出航許可が出て15日、郷里の丸亀にたどりついた。

黒獅子旗は丸亀野球界の長老、白井貞次郎氏宅にあずけられたままになっていた。

復活都市対抗大会が大盛況に終って、当時の丸亀市長の三原勝英氏は、秋山氏が大事に持ち帰った黒獅子旗が白井氏宅にあずけられているとの話を耳にし、同市長が丸亀通信部に連絡、秋山氏の手から毎日新聞社に返還された。

小野三千磨さんが使者となり、10月岐阜・大日本土木に黒獅子旗を届け、同社応接室で改めて授与式が行われた。

汗と涙の人間ドラマは、この黒獅子旗にさらに刻まれていったが、老朽化したこともあり、第45回大会を機に、二代目の黒獅子旗が新調され、初代黒獅子旗は野球体育博物館（当時は後楽園球場前、現在は東京ドーム内）に収められ展示されている。

表彰者

〔橋戸賞〕

都市対抗生みの親、橋戸碩鉄氏をたたえ、最高殊勲選手に贈られる。

<第10回大会から設定>

- 10回 井野川 利 春(門司鉄道局)捕手
- 11回 角 地 孫之助(八幡製鉄)投手
- 12回 土 井 寿 蔵(藤倉電線)投手
- 13回 吉 田 正 男(藤倉電線)投手
- 14回 野 村 武(全京城)投手
- 15回 中止
- 16回 該当者なし
- 17回 中 原 宏(大日本土本)投手
- 18回 村 瀬 保 雄(大日本土本)遊撃手
- 19回 宮 崎 要(西日本鉄道)二塁手
- 20回 荒 巻 淳(星野組)投手
- 21回 高 橋 久 雄(全鐘紡)左翼手
- 22回 松 井 実(全鐘紡)遊撃手
- 23回 松 井 実(全鐘紡)遊撃手
- 24回 黒 柳 巽(大昭和製紙)投手
- 25回 井 原 数 己(八幡製鉄)三塁手
- 26回 松 本 豊(全鐘紡)遊撃手

- 27回 藤 田 元 司(日本石油)投手
- 28回 島 津 四 郎(熊谷組)投手
- 29回 伊 藤 正 敏(日本石油)投手
- 30回 西 三 雄(丸善石油)投手
- 31回 高 林 恒 夫(熊谷組)左翼手
- 32回 杉 本 和喜代(日本石油)投手
- 33回 佐々木 吉 郎(日本石油)投手
- 34回 堤 亨(積水化学)投手
- 35回 田 中 章(日本通運)投手
- 36回 小弓場 保(電電近畿)投手
- 37回 古 田 昌 幸(熊谷組)二塁手
- 38回 平 松 政 次(日本石油)投手
- 39回 神 部 年 男(富士鉄広畑)投手
- 40回 若 宮 秀 雄(電電関東)投手
- 41回 安 田 猛(大昭和製紙)投手
- 42回 佐々木 恭 介(新日鉄広畑)一塁手
- 43回 新 美 敏(日本楽器)投手
- 44回 宇賀山 徹(日本鋼管)一塁手

- 45回 柳 俊 之(大昭和北海道)投手
- 46回 丹 利 男(電電関東)投手
- 47回 樋 野 和 寿(日本鋼管)三塁手
- 48回 増 岡 義 教(神戸製鋼)投手
- 49回 黒 紙 義 弘(東芝)投手
- 50回 大 町 定 夫(三菱重工広島)投手
- 51回 杉 本 正(大昭和製紙)投手
- 52回 竹 舂 和 也(電電東京)投手
- 53回 石 井 毅(住友金属)投手
- 54回 宮 崎 剛(東芝)二塁手
- 55回 若 山 哲 男(日産自動車)一塁手
- 56回 島 田 行 雄(日本生命)外野手
- 57回 岡 田 邦 彦(日本石油)投手
- 58回 劉 秋 農(ヤマハ)投手
- 59回 高 見 泰 範(東芝)捕手
- 60回 瀬戸山 満 年(プリンスホテル)捕手

〔小野賞〕

都市対抗の育ての親、小野三千麿氏の功績をたたえ、すばらしい活躍をしたチーム、監督、選手に贈られる。

<第27回大会から設定>

- 27回 日本鋳業日立チーム
- 28回 村 上 峻 介(日鉄二瀬)投手
- 29回 増 山 桂一郎(日本石油)監督
- 30回 富士鉄釜石チーム
- 31回 大 沢 貞 義(熊谷組)監督
- 32回 大 工 勝(富士鉄広畑)投手
- 33回 今 西 良 雄(日本石油)外野手
- 34回 積水化学チーム
- 35回 田 中 公 雄(北海道拓殖銀行)投手
- 36回 大分鉄道局チーム
- 37回 平 松 政 次(日本石油)投手
- 38回 日本楽器チーム
- 39回 後 藤 晃 吾(八幡製鉄)投手
- 40回 佐 藤 昭(電電関東)投手
- 41回 三菱重工神戸チーム
- 42回 三 沢 淳(新日鉄広畑)投手
- 中 山 拓 郎(新日鉄広畑)捕手

- 43回 細 川 昌 俊(西濃運輸)外野手
- 44回 内 藤 博(日本鋼管)遊撃手
- 45回 山 口 高 志(新日鉄堺)投手
- 46回 大昭和製紙北海道チーム
- 47回 日本鋼管チーム
- 48回 藤 井 栄一郎(丸善石油)投手
- 49回 本田技研鈴鹿チーム
- 50回 三菱重工工業広島チーム
- 51回 札幌トヨペットチーム
- 52回 工 藤 真(東京ガス)投手
- 53回 明治生命チーム
- 54回 東鉄チーム
- 55回 北海道拓殖銀行チーム
- 56回 スリーボンズ・チーム
- 57回 大阪ガス・チーム
- 58回 川 島 勝 司(ヤマハ)監督
- 59回 三菱重工工業横浜チーム
- 60回 野 茂 英 雄(新日鉄堺)投手

〔若師子賞〕

新人で最も目覚ましい活躍をした選手に贈られる

<第44回大会から設定>

- 44回 中 山 俊 之(大昭和北海道)投手
- 45回 工 藤 博 義(新日鉄八幡)左翼手
- 46回 丹 利 男(電電関東)投手
- 47回 後 藤 寿 彦(広島マツダ)三塁手
- 48回 林 博 之(熊谷組)投手
- 49回 山 本 文 博(新日鉄室蘭)遊撃手
- 50回 中 屋 恵久男(熊谷組)三塁手
- 51回 辻 野 聖 一(札幌トヨペット)一塁手
- 52回 黒 田 光 弘(リッカー)一塁手
- 中 西 清 起(リッカー)投手
- 53回 野 口 恭 弘(ヤマハ発動機)外野手
- 54回 小 川 隆(新日鉄名古屋)外野手
- 55回 岩 切 利 浩(新日鉄大分)投手
- 56回 真 壁 久(NTT東京)外野手
- 57回 若 井 基 安(日本石油)内野手
- 鈴 木 慶 裕(日本石油)外野手
- 58回 葛 城 弘 樹(東芝)二塁手
- 59回 平 田 幸 夫(河合楽器)投手
- 野 茂 英 雄(新日鉄堺)投手
- 60回 中 本 浩(松下電器)外野手

〔久慈賞〕

久慈次郎氏の敢闘精神をたたえ敢闘賞として力いっぱいプレーをした選手に贈られる。

<第18回大会から設定>

- 18回 中原 宏 (大日本土本) 投手
- 19回 永利 勇吉 (星野組) 捕手
- 20回 大道 信敏 (大昭和製紙) 遊撃手
- 21回 櫛田 由美彦 (熊谷組) 捕手
- 22回 野口 勝美 (南海土建) 中堅手
- 23回 野見山 博 (日鉄二瀬) 投手
- 24回 種田 吉富 (全鐘紡) 捕手
- 25回 大館 盈六 (全藤倉) 遊撃手
- 26回 山本 治 (鐘淵化学) 投手
- 27回 大沢 貞義 (熊谷組) 投手
- 28回 堀本 律雄 (日本通運) 投手
- 29回 井 洋雄 (日鉄二瀬) 投手
- 30回 出沢 政雄 (富士鉄釜石) 一塁手
- 31回 松浦 三千男 (松下電器) 投手
- 32回 鬼頭 忠雄 (新三菱重工名古屋) 投手
- 33回 鬼頭 忠雄 (日本通運名古屋) 投手
- 34回 佐藤 進 (富士鉄室蘭) 投手
- 35回 近藤 重雄 (コロムビア) 投手
- 36回 清沢 忠彦 (住友金属) 投手
- 37回 清沢 忠彦 (住友金属) 投手
- 38回 中野 孝征 (日本楽器) 遊撃手
- 39回 堀内 嗣郎 (河合楽器) 一塁手
- 40回 石幡 信弘 (富士重工業) 投手
- 41回 橋谷 健 (三菱重神戸) 投手
- 42回 久玉 清人 (丸善石油) 投手
- 43回 池田 善吾 (三菱自動車川崎) 投手
- 44回 須藤 和彦 (日産自動車) 捕手
- 45回 萩野 友康 (新日鉄八幡) 投手
- 46回 加藤 英美 (大昭和北海道) 投手
- 47回 千藤 和久 (北海道拓殖銀行) 投手
- 48回 伊藤 友幸 (熊谷組) 三塁手
- 49回 木田 勇 (日本鋼管) 投手
- 50回 中尾 孝義 (熊谷組) 捕手
- 51回 樋口 博美 (札幌トヨペット) 投手
- 52回 黒紙 義弘 (東芝) 投手
- 53回 田村 忠義 (日本鋼管福山) 投手
- 54回 渡辺 剛 (新日鉄名古屋) 投手
- 55回 前川 善裕 (日本鋼管) 外野手
- 56回 菊池 総 (東芝) 投手
- 57回 杉山 孝一 (NTT北陸) 外野手
- 58回 菊池 総 (東芝) 投手
- 59回 上原 勝男 (NTT東海) 投手
- 60回 渡部 勝美 (大昭和北海道) 投手

〔応援団コンクール〕

<第34回大会から設定>

	最優秀賞	優秀賞	敢闘賞	特別賞	努力賞
34回	河合楽器	日本石油	リッカーマシン	トヨタ自動車	
35回	北海道拓殖銀行	日本通運	松下電器	河合楽器	
36回	松下電器	全鐘紡			四国電力 日立製作所
37回	オール常磐	松下電器		日本石油	北海道拓殖銀行
38回	日本石油	日立製作所	日本楽器		北海道拓殖銀行
39回	河合楽器	日本石油	富士鉄広畑		
40回	河合楽器	富士重工業 日産自動車	大昭和製紙	電電関東	盛岡鉄道局
41回	本田技研	大昭和製紙	三菱重工業	オール常磐	
42回	日立製作所	三協精機 新日鉄広畑	盛岡鉄道 丸善石油		
43回	三菱自動車川崎	本田技研	日本楽器 日立製作所		住友金属
44回	日産自動車	日立製作所 日本鋼管	T D K		大昭和製紙北海道
45回	東 芝	東京ガス	大昭和製紙北海道	新日鉄グループ	
46回	大昭和製紙北海道	大 丸	東京ガス	電電関東	本田技研
47回	北海道拓殖銀行	日本鋼管	新日鉄グループ	本田技研鈴鹿	熊 谷 組
48回	熊 谷 組	松下電器 神戸製鋼		本田技研	
49回	本田技研鈴鹿	熊 谷 組 東 芝	東京ガス		
50回	熊 谷 組	東芝府中 日本楽器	日産自動車		三菱重工業広島
51回	川崎製鉄千葉	新日鉄釜石	大昭和製紙 札幌トヨペット	プリンスホテル	
52回	東京ガス	東 芝 新日鉄広畑	電電東京		岩手銀行
53回	日産自動車	住友金属 明治生命	日本鋼管福山		北海道拓殖銀行
54回	東 芝	新日鉄グループ	日本通運		
55回	熊 谷 組	日産自動車 北海道拓殖銀行	日本鋼管 新日鉄大分		
56回	川崎製鉄神戸	東 芝 岩手県経済連	日本生命	スリーボンド	
57回	大阪ガス	日本石油 プリンスホテル	川崎製鉄千葉	NTT北陸 国鉄名古屋	
58回	プリンスホテル	東 芝	王子製紙 ヤマハ	ヨークベニマル	
59回	東 芝	熊 谷 組	大阪ガス 松下電器	NTT東海	
60回	プリンスホテル	松下電器	大昭和製紙北海道	熊 谷 組	

第25回大会表彰者

◇北海道連盟◇

砂沢文雄 中村重一郎 東島一隆 水谷喜久男(故人) 高橋正道 広瀬誠一 上野貞吉 法師浜直吉 梅川吉三郎 内山哲郎 種田憲三 高野理吉 岡村次郎 杉村麟太郎 森元康 吉田道政 高野一甫 小笠原竹二郎 森一光 岩城隆平 多田米朗 鈴木美晴 遠藤一二 定岡芳徳 西条雅介 二宮博 坂田全 今野良雄 加藤二郎 西村元次郎 護摩堂武男 吉田忠雄 田中正男 友田宏一 斎藤徹郎 小林健造 進藤民男 広川政敏 後藤七郎 川越利彦 結城蔵 福田幸作 伏見滋夫 高山卯三郎 山崎英三 田辺与治 能登喜代治 東島寿 相沢長紀 塩田誠 永沢富士雄 伊予田四郎 横島唯男 猿田興平

◇東北連盟◇

半沢正次郎 岩淵徳四郎 長谷川平八 毛利理惣治 千葉時夫 佐々木実 松浦忠也 伊沢平太郎 坂本徳蔵 柴田清次 佐藤勝夫 石井冬雄 伊藤勝三 三浦次郎 和賀政男 永井初太郎 芳賀堅之助 森川弥春 田中肇 万屋徳太郎 花岡五郎 宇津橋孝一 富樫定雄 緑川大二郎 志田豊治 郡珂道雄 川村庄治 長谷川礼治 加賀谷幸次郎 高橋政泰 山中寿雄 佐藤敬治 長沢雄二 金田一啓郎 村松武雄 昆徳治 庄司広志 郷右近統 島功一 岩崎唯夫 岩崎惣助 鈴木清二 鈴木礼治 山本祐二郎 菊地栄一 佐藤忠治 佐々木弥蔵 高橋淳 長沢正夫 長沢常人 斎藤一雄 長野茂 渡辺力 海野典 海野篤之 上野由三 松島七郎 菅野正司 坂本徳治 高橋常雄 秋元治 大槻寅市 人首敬行 本間喜三郎 福西健次郎 清野武輝 羽田善衛 須田剛 八島米雄 五十嵐俊太郎 野口主 大西勝幸 渡辺勇七 小松仁朗 道仏訓 海野重寛 阿部泰雄 高谷昌三 西谷憲一 成田義三郎 千葉正時 秋元久夫 奈良助一 大下常吉 広島清美 渋谷行彦 工藤武 鈴木清助 植尾東平 武田健 須佐吉徳 土田静雄 藤田茂男 永田貞介 芳賀三郎

◇関東連盟◇

青山武雄 南安男 永沼和雄 木根淵良一 町田三男 中村秀雄 土田豊 町野久 渡辺三男 久保谷八郎 菅野禎助 土井寿蔵 恒川通順 小沢忠雄 東浦照一 伍東実 林好雄 田坂得多 畑寅一 小川利雄 米久保庄内 吉田正男 岩崎鶴雄 大松仁 吉村国造 井上等 榎本茂 木村三郎 矢吹栄孝 宮武三郎 小島正 向山敏治 古谷倉之助 川上隆也 大室政右 宇橋爲人 平野久一 大石紀一 内田孝司 佐野政市

鈴木秀雄 一色直文 山口久像 須藤五郎 青木綿太郎 加藤新一郎 田辺八郎 吉相金次郎 犬飼清一郎 瀬戸松寿 笠井儀郎 野本義郎 山崎正 長峰一郎 掛飛吉恭 太田武 瀬戸利夫 松井芳衛 梶ヶ谷忠良 渡辺斉 鈴木徳二 海上欽治 浜田三一 田中義高 小原高四郎 臼井莊一 内山忠雄 平野喜太郎 鈴木実 岩井一 飯塚達夫 大野利夫 鈴木三郎 笹治桂蔵 柴田正美 井上直吉 春日恒徳 船津祐一 岡田勝一 発生川一郎 金井祐一 鈴木慶次 鈴木久八郎 小平春省 茂木六郎 町井健祐 森泉由一 中島泰治 吉井徳一 鈴木秋三 野口晴吾 新井静次 栗原源一 金塚俊一 矢崎拾 池田喜作 小林三郎 塚田敬五郎 遠藤昇 細谷作幸 伊藤正光 菊地親雄 柴田竜雄 小沢利行 島田栄太郎 染野三郎 大塚茂利 佐藤秀太郎 小沼繁雄 国方久男 三輪野英夫 樫村俊男 鎌田諄二 棚橋勇 外山開郎 中村城三 千葉忠也 島田雄寿 宮本岩次郎 小野春吉

◇東海北陸連盟◇

武田可一 伊藤十郎 佐藤義孝 松井徳三 伊藤行忍 青木鼎吉 河合健児 友松清 長谷川弘 榊原明一 大沢薫 富田重則 久米良治 狩野勉 小池栄一 芦原正吉 伊藤真光 巢山恒雄 木田五郎 伊藤茂 寺本勝次 宮地定一 手島秋一 川本高男 村瀬保夫 渡辺栄 小西宇吉 池田茂雄 丸山歳夫 向井保

◇中部連盟◇

古橋貞治 奥源録 川口莊次郎 奥村庄兵衛 灘谷万太郎 古川寿一 渡辺正彦 菊島友重 石川関雄 小宮清治 奥村寛義 萩原義栄 児平未男 田中国平 宮下晴吾 舟木茂 村田貞夫 二木茂益 小沼義雄 落合英雄 臼井達 栗田八郎 清水五郎 宮崎良勝 田子二郎 山崎正計 志賀五作 神村佐一 池田平八郎 鳴海軍次 古川喜代司 外島喜代記 池田美代吉 佐藤一男 松原賢治 皆川登良夫 片山源四郎 小野寺稔 井筒藤作 西山藤一郎 竹内政二 入沢藤英 阿部英夫 仁木毅 阿部留治 遠藤正平 市嶋正男 鈴木治七 赤沼良雄 鈴木幸蔵 本間庄一郎 山崎精一 猪俣幸作 八百板静志 菊部徳一 小林弘一 清野準一 平沢祿郎 田辺政敏 有賀公三 石田保夫 郷豊 萩原清治 石月静敏 佐野善次郎 井上幾太郎 渡辺茂雄 高木七太郎 大地忠雄 稲森鎌一 大川福雄 久保田喜延 高田豊次 佐伯秀隆 野田喜能 浅井礼三 清水鶴太郎 村秀三 細正信 高島正雄 小幡元信 宮崎一郎 五十嵐吉吉

◇近畿連盟◇

長浜俊二 水野利八 梅田三次郎 棚橋朝太郎 町田重信 井口新太郎 藤村嘉夫 峰須

秀夫 浅本俊一 西山昌扶 弘世正方 皆岡秀雄 松井実 小川登 豆谷松晴 西尾善紀 山本清美 中村雄次郎 小林政綱 琴野治 玉沢福三郎 小幡周正 村井正夫 西田善一 泉谷勝造 井狩貞之 奥村悦造 加藤吉兵衛 三輪竹男 川村貞男 河野善茂 黒田真一 高瀬二郎 遠藤保男 塚本久一 三段信雄 田口辰治 村井竹之助 沢田薫 永田三郎 鳥丸満男 井上信一 村上彦次 山下甲子雄 前田宗冬 大村和 鈴木忠三 阿部嘉次 亀井重清 住野啓三 出来助三郎 丹羽新八 岡司栄三郎 村齐英一 八木宣雄 高木秀一 持明院基治 横山健一 太田嘉兵衛 大西荒夫 中島駒二郎 赤堀秀雄 野田健志

◇四国連盟◇

後藤二郎 辻栄次郎 松本正彰 岩田春男 矢野信男 木村薫 宇野利秋 尾茂田叶 栗原久芳 香西茂 多田羅弘 浅田忠雄 山中正三 山谷精一 秋山光雄 藤野定男 多田羅正平 丸吉幸久 佐々木義行 多田公孝 稲原幸雄 今谷直行 滝巖 仁木島一 小寺善二郎 松田速男 升田実 立市栄 小川正 立本義雄 田所緑 兼子隆雄 藤井一郎 新居良一 瀬山実 小倉尚直 北島誠一 新開豊茂 岸本守夫 大島茂治 松村謙一 坂東重康

◇中国連盟◇

山田彦男 八百野唯夫 安井重松 新見武 古満支次郎 須山昌二 石田幸一 川上滝郎 岡賢六 森井政一 吾郷徳二 木村安定 石飛三郎 北井善衛 竹内京三 中村晃 細川孝一 富田重隆 伊木寿晴 岡村武夫 山根利重 岡本利之 伊藤隆 小幡昇 江藤健三 梅本秋光 堀山研作 高田常夫 宇多村俊一 片岡一人 河村善作 久野久夫 丹羽吉夫 安達多喜之助 和田定 津下仙太郎 牧野直隆 藤本久治 堀井顕一 児玉利雄 植村俊二 日下輝国 鈴木一良 池田立人 小野敏夫

◇九州連盟◇

有田富士夫 荒牧富造 提水流慶蔵 久礼春夫 加藤己佐久 大岡虎雄 豊田一枝 鬼塚格三郎 荒井念 馬場徳徳 猪俣秀正 増田稔 大庭種雄 阿部好春 酒井安夫 杉谷彦三郎 青木尚彦 田村正夫 川島勝之 坂本隆博 高木茂 中村民雄 中原千勝 高野文男 猪方茂 大田黒辰彦 松浦五郎 松尾五郎 松本明 実方盛次 宮口虎彦 幸田栄四郎 小岸田俊雄 鎮守芳雄 時任重 折田力 児玉実俊 山下良雄 橋口通世 上村哲二 西尾淳純 安藤茂三郎 有村増蔵 山口孝一 熊谷与信 井上靖 小吉寅文 猿川満 鎌田高生

◇大会顧問、審判員◇

藤田重次郎 島崎新太郎 小野三千磨 林辰男 中沢不二雄 弓館芳夫 山岡謙太郎 永田庚二 早速益夫 中村峯雄 片田宣道 由家応道 金原祐之助 伊丹安広 西村成敏 二神 武 錢村辰巳 成田理助 石井順一 本田竹蔵 鈴木関太郎 桜井寅二 山脇正勝 土生谷幸治 小川正太郎 川瀬 進 国宗

新 島津雅男 石橋五郎 島田晴任 久保田信一 藤田信男 岡田源三郎 布谷武三 齋木正治 夫馬 勇
◇故人◇
清水準二 花生博隆 訖摩治利
◇多年に亘る功勞者◇
天野貞祐 高田五郎 本田弘敬 田辺宗英 都築俊三郎 島田善介 泉谷祐勝 海老原進

一 飛田忠順 桜井弥一郎 松本滝蔵 寛元貞 谷沢梅雄 西尾守一 柳田周蔵 高橋一 手塚寿恵雄 秋山如水 久保田高行 広瀬謙三 飯田次男 松内則 三杉立直雄 江藤震一 好村三郎 中村清吉 寛 金芳 綿貫惣司 小沢正二 鶴沢七郎 神田順治 相田暢一 平井治一 坪井忠郎

第30回大会表彰者

◇大会顧問審判◇

宮原 清 佐伯達夫 藤田重次郎 島崎新太郎 小野三千磨 (故人) 中沢不二雄 桜井弥一郎 (故人) 弓館芳夫 (故人) 久慈次郎 (故人) 橋戸頑鉄 (故人) 山岡謙太郎 永田庚二 坪井忠郎 泉谷祐勝 早速益夫 中村峯雄 片田宣道 由家応道 金原祐之助 伊丹安広 二神 武 石井順一 提水流慶蔵 (故人) 寛 元貞 海老塚進一 本田竹蔵 鈴木関太郎 桜井寅二 土井谷幸二 成田理助 小川正太郎 川瀬 進 石橋五郎 藤田信男

◇北海道連盟◇

砂沢文雄 東島一隆 中村重一郎 森 一光 多田栄郎 遠藤一二 定岡芳徳 岡村次郎 神村佐一 鈴木美晴 今野良雄 田中正男 永島盛義 前田 彰 川崎信一 須川泰男 梅川吉三郎 高橋正道 高山卯三郎 永沢富士夫 東島 寿 能登谷喜代治 塩田 誠 小林 寛 内藤勇八 小笠原竹次郎 杉村麟太郎 斎藤徹郎 谷口 博 細谷良彦 小沢正一 掛飛吉康 森元 康 清野米治 荻野一郎 今井哲夫 山本 弘 米沢俊彦 清水清 宮坂寿美雄 西村忠恵 志田二郎 渡辺多一 福田幸作 清田康司 金子定平 高野一馬 倉田繁雄 広川正敏 西村元次郎 護摩堂武男 進藤民男 後藤七郎 吉田忠雄 小林健造

◇東北連盟◇

阿部来太郎 半沢正二郎 毛理惣治 鎌田利一郎 石田 雄 今野三郎 大岡 武 長谷川平八 松浦忠也 佐々木実 佐藤勝夫 坂本徳蔵 石井冬雄 小林正 遠藤男 松原貞策 高口昌二 千葉正時 奈良助一 京極基平 和賀政男 永井初太郎 三浦次郎 田中 肇 万屋徳太郎 宇津橋孝一 川村庄治 高橋政泰 長谷川礼治 永田貞介 花岡五郎 緑川大二郎 佐藤敬治 梅津弘正 鈴木清助

須佐吉徳 工藤 武 武田 健 土田静雄 藤田茂男 榎尾東平 後藤 清 小野盛男 鈴木精三 吉川貞治 大内恒三 大築英四郎 菅原正作 佐藤永治 牧 一夫 海野篤之 上野由三 高橋常雄 入島米雄 松島七郎 坂本徳治 高橋賢重 長沢雄二 金田一哲郎 村松武雄 昆 徳治 郷近統 岩崎惣助 鈴木清二 渡辺 力 長沢正夫 菊地栄一 斎藤一雄 畑中荘吉 荒川容一 庄司広志 海野 典 島 功一 鈴木礼治 佐々木弥蔵 長沢常人 佐藤忠治

◇関東連盟◇

南 安男 永沼和雄 中村秀雄 青山武雄 土井寿蔵 米久保庄内 伍東実 向山敏治 古谷倉之助 武井 良 平野久一 大室政右 内田孝司 水越康治 笹治桂蔵 井上直吉 柴田正美 岡田勝一 鈴木慶次 鈴木久八郎 中島泰治 鈴木秋三 新井静次 栗原源一 河内佐介 和田信雄 山口久蔵 吉相金次郎 福田 一 小笠原洪一 八林茂樹 太田 武 柿島利彦 鈴木 茂 青島嘉夫 河村 貢 藤田幸治 池田喜作 島田米太郎 外山開郎 伊藤正光 鈴木徳二 小林金市 平野喜太郎 福井信吉 小原高四郎 臼井荘一 内山忠雄 鈴木 実 飯塚達夫 大野利夫 鈴木三郎 町井健祐

◇中部連盟◇

井上幾太郎 斎藤喜次郎 萩原清治 久保田喜延 高木七太郎 大地忠雄 稲森隼一 佐伯秀隆 高田豊次 野田嘉納 浅井礼三 長橋 徹 遠藤 清 斎藤 清 稲川豪一 石坂光雄 郷 豊 玉木 之 片山源四郎 皆川登良夫 鈴木幸蔵 橋本喜代治 西山藤一郎 神村佐一 山崎誠一 永戸真吾 鈴木治七 八百板静志 市島正男 本間庄一郎 赤沼良雄 井筒健吾 平沢録郎 佐藤一男 荻部惣一 島岡喜勇作 有賀公三 奥村英三 児平未男 小沼義雄 宮崎良助 二木茂益 田子一郎 百瀬和夫 土肥省三 安川但馬

◇東海北陸連盟◇

伊藤十郎 (故人) 狩野勉 武田可一 寺本勝次 富田重朗 松井徳三 長谷川宏 小西宇吉 藤井利一 中島数美

◇近畿連盟◇

井口新次郎 三輪竹男 牧野直隆 村橋堅作 久保田信一 布谷武三 鈴木忠三 皆岡秀雄 松井 実 山本清美 豆谷松春 西尾善紀 琴野 浩 大槻守治 米谷道雄 長谷川六郎 加藤吉兵衛 中力 功川村貞男 三輪 健 高瀬二郎 井上信一 永田三郎 中村新一 沢田 薫 前田宗冬 小幡周正 西田善一 村井正夫 泉谷勝三 井狩貞之 奥村悦造 中西秀三 関司栄三郎 村斎英一 高木秀一 八木宣雄 持明院基治 横山健一 太田嘉兵衛

◇中国連盟◇

江藤健三 梅本秋光 宇田村俊一 久野久夫 佐藤義孝 古満友次郎 石田幸一 川上滝郎 森井政一 石飛三郎 北井善衛 竹内宗三 入沢茂吉 安達多喜之助 本田竹蔵 藤本久治 植村俊二 児玉利雄 目下輝国 鈴木一良 池田立人 八百野唯夫 三浦芳郎 森永肅雄 中岡静秋 田中 明 原 道義 新見武 中村 晃 伊藤 陸

◇四国連盟◇

福原幸雄 小寺善二郎 松村謙一 立石 栄 今谷直行 瀬山 実 滝 巖 坂東重康 立本義雄 小川 正 小倉尚直 新居良一 仁木島一 田所 緑 新開豊茂 藤井一郎 兼子隆雄 大島茂治 岸本守夫 比島誠一 石丸脩二 片山正典 姫田綾太郎 津田 一 栗原久芳 丸吉範昌 多田羅正平 山中正三 多田羅弘 佐々木義行 山谷清一郎 田村富治 佐藤嘉男 秋山光夫 香西 茂

◇九州連盟◇

有田富士夫 荒牧富造 大田黒辰彦 加藤己佐久 鬼塚格三郎 馬場俊徳 久保山一郎 大庭種雄 田村正夫 川島勝之

第40回大会表彰者

◇本部◇

石井順一 片田宣道 林 辰男 村瀬保夫 手塚寿恵雄 永田庚二 藤田信男 坪井忠郎

大飯勲夫 中島治康 島崎新太郎 二神 武 梅田三次郎 由家応道 寛 元貞 中島 茂 鶴沢七郎 飯田次男 西村成敏 早速益夫

土生谷幸治 大館盈六 佐伯達夫

◇北海道連盟◇

砂沢文雄 森 一光 東島一隆 多田米郎
定岡芳徳 岡村次郎 遠藤一二 中村重一郎
中川雄三 高橋新平 細谷良彦 川崎信一
須川泰男 川崎一夫 齊藤徹郎 杉村麟太郎
倉田繁雄 広川正敏 高野一馬 高橋正道
西村元次郎 梅川吉三郎 下河原清 町谷俊
信 根岸幸男 小野秀夫 田畑義秋

◇東北連盟◇

海野篤之 上野由三 海野重寛 野口 主
高橋政泰 長谷川礼治 熊谷敏雄 和賀政男
田中 肇 加賀谷幸次郎 阿部来太郎 岩渕
徳四郎 長谷川平八 松浦忠也 伊沢平太郎
松村多利治 長沢雄二 長沢正夫 長沢常人
佐々木弥蔵 昆 徳治 及川武雄 齊藤一雄
齊藤 茂 鈴木清助 武田 健 工藤 武
藤田茂男 大築英四郎

◇関東連盟◇

高田五郎 時岡収次 小川正太郎 中村峯雄
青山武雄 成田理助 松尾俊治 別府隆彦
中村秀雄 東保秀喜 藤田重次郎 土井寿蔵
川瀬 進 鈴木美嶺 大沢貞義 南 安男
藤田繁雄 深井安太郎 福村 晃 山本英一
郎 相田暢一 柴田茂子 河合シズ 吉井
滋 鈴木新太郎 都築俊三郎 佐藤茂美 伊
丹安広 桜井隆信 久田泰輔 清水芳一 郷
司 裕 勝田 興 大谷信明 渡辺福太郎
真田幸一 菅 大一 山川脩司 向山敏治
小島寿一郎 法月 稔 上松幸三 山口久像
小笠原洪一 吉相金次郎 田村 稔 掛吉

泰 山下臣司 増山桂一郎 宮原 実 鈴木
徳二 鈴木三郎 大野利夫 中村保正 長田
直喜 高橋倉吉 板倉義和 鈴木秀一 高橋
賢重 島田米太郎 中山正夫 外山開郎 宮
本一夫 笹治桂蔵 柴田正美 鈴木秋三 岡
田勝一 新井静次 内島 勇 鈴木国夫 石
島貞雄 春日恒徳 鈴木久八郎 栗原源一
井上直吉 片桐三次 杉田一郎 橋田長一郎
松島 言 鳥居光男 南 武男 藤田 武
町田幸久 曾根田育男 清水隆子 小林紀一
郎 渡辺信雄 奥平 保 稲葉誠治

◇中部連盟◇

郷 豊 井上幾太郎 齊藤善次郎 久保田
喜延 稲森謙一 齊藤了英 高木七太郎 中
村修治 皆川登良夫 中村宗平 奥村栄三
二木茂益 小沼義雄 臼井 達 島原平八郎
高橋輝夫 細 正信 高島正雄 太田武保
奥 源録 榎本秀雄 灘谷満太郎

◇東海北陸連盟◇

安保正敏 川島定市 松井徳三 武田可一
伊藤真光 伊藤行忍 富田重朗 山本恒雄
滝本弘行 長尾芳夫 渋谷繁男 滝 光三
稲垣貞二 水谷至郎 坂井豊司 狩野 勉
大沢 薫 井出 等 長谷川弘 武内昭三
久野平八郎 服部 力 深野昭二 川島秀雄
豊田時雄 宮崎博作 寺本勝次 牧田太郎
林 敏 藤井利一

◇近畿連盟◇

牧野直隆 井口新次郎 本田親喜 久保田信
一 三輪竹男 米谷道雄 小西正一 成田敬
二 中村道一 森寅之助 西田善一 村井正

夫 手島進 井上信一 高瀬二郎 永田三郎
峯本三一 八木昌男 西井福男 五十嵐義臣
石割正義 村斉英一 園司正治 吉田 茂
佐野重保 高山義三 園司栄三郎 森下 弘

◇中国連盟◇

吉田勝太 塩見 釧 池田立人 藤本久治
藤原幸男 大野仁之助 中川武喜 浅原幸雄
泉 豊 浜田圭司 長尾敏明 竜田 章
岸本芳雄 塩之井力 藤原義一 三浦芳郎
内藤光男 中岡静秋 山田敏夫 円光寺芳光
山中 吾 神田 隆 須原 正 梅本秋光
波佐間厚 新屋信太郎

◇四国連盟◇

稲原幸雄 小寺善二郎 瀬山 実 瀧 巖
松村謙一 石丸脩二 田所 緑 岡本太郎
吉本寛司 堤 哲哉 大島茂治 新開豊茂
小倉尚直 新居良一 笠屋良雄 薫 文也
加藤順二 浜松由雄 岡本正次 三本二郎
林 省司 栗原久芳 丸吉範昌 多田羅弘
杉山富雄 岡村重男 秋山光夫 尾崎 守
原田 勉 中井登一 植田 稔 北村 正
溝渕峯男 入交太兵衛 畠中源太郎 島崎美
寿 酒井兼久

◇九州連盟◇

荒牧富造 大田黒辰彦 加藤己左久 安藤二
郎 大岡虎雄 国方 博 山本数己 畑間正
夫 大庭種雄 坂本隆博 上田正明 内田洋
喜智 島村武彦 柴田百門 姫野良平 安部
未喜 沖 誠哉 森川義雄 橋本俊吉

第50回大会表彰者

◇特別表彰者◇

佐伯達夫 斎藤了英 時岡収次 中原哲男
水野 勲 建内保興 海野篤之 井口新次郎
中村峯雄 牧野直隆 加藤喜作 三浦芳郎
土井寿蔵 村瀬保雄 小川正太郎 本田竹蔵

◇北海道連盟◇

安藤喜春 遠藤一二 遠藤良二 小野秀雄
小原正己 鎌田 明 倉田繁雄 定岡芳徳
品田米太郎 多田米郎 田畑義秋 高橋新平
高橋正道 高梨英夫 竹田光男 奥矢武男
東島一隆 東島 寿 西村博司 細谷良彦
三上重男 大越一弥 森 一光 高村 巖
佐藤健治

◇東北連盟◇

佐々木弥蔵 金田一哲郎 長沢常人 藤原良
二村松 昇 高橋孝造 佐々木勲 武田 健
柿崎義一 松原貞策 松浦忠也 遠藤 勇
米沢礼三 高橋政泰 長谷川礼治 古城次郎
橋本 章 海野重寛 高橋常雄 須田文男
出沢政雄 蔵本 勇 高橋邦男

◇関東連盟◇

成田理助 南 安男 中村秀雄 大館盈六
山脇正勝 大沢貞義 古田昌幸 別府隆彦
中川政直 佐久間芳克 向山敏治 小島寿一
郎 法月 稔 嶋田善一郎 矢部隆治 山口
久像 鈴木 茂 下田理一 若原正蔵 太田
武 弓削 靖 串村俊平 高瀬正二 山田浩
蔵 吉相金次郎 大木康司 板倉義和 和田
博 鈴木基之 小林金市 福永健司 小林紀
一郎 大木 英 芝崎新六 奥平 保 外山
開郎 島田米太郎 鈴木哲致 神田昌男 小
川 清 松島 言 鳥居光男 石井混祐 町
田幸久 藤田 武 佐田一郎 笹治桂蔵 栗
原源一 鈴木慶次 江原康雄

◇中部連盟◇

河合 滋 酒沢成治 皆川定之 山県将泰
太田元比呂 金丸英男 榎本秀雄 小林喜也
佐野且太郎 白倉良造 奥村英三 小沼義雄
二木茂益 田子一郎 十肥省三 吉田吉平
橋本喜代治 皆川登良夫 赤沼良雄 中村修
治 島原平八郎 福田勤太郎 武内宗八 細
正信 牧野友昭

◇東海北陸連盟◇

田口利八 斎藤 晶 野村治保 野崎忠義
高橋 醇 鈴木 寿 川島広之 山本 勇
広瀬稔行 水谷勝吉 松井徳三 小久保功
村上八郎 長澤道守 都築 忠 武田可一
中尾正治 服部 力 八木 巧 由里武彦
堀場克己 辻保 昌 鶴田辰夫 手嶋 康
柴田 守

◇近畿連盟◇

梅田三次郎 遊津 孟 本田親喜 長浜俊三
町田重信 伊達正男 田中勝雄 森寅之助
久保田信一 鈴木忠三 中村雄次郎 米谷道雄
磯川昌三 小西正一 中村道一 大槻守治
広瀬 明 仁木 安 池西増夫 中西 明
三宅享次 永田三朗 井上信一 西嶋実夫
土井 洋 清水一夫 八木昌男 大村一彦
三輪 武 林才一郎 松尾 進 谷川俊彦
萩原達夫 西田善一 小幡周正 中西秀三
村井正夫 寄本重吉 西 直彦 河合貞雄
小槻敬一 安井敏和 本城祥一 柴田次男
村斎英一 富田仁義雄 佐野重保 吉田 茂
石割宏和 五十嵐義臣

◇中国連盟◇

池田立人 藤本久治 泉 豊 藤原幸男
大熊 宏 竜田 章 松永芳一 藤原義之
藤原義一 長尾敏明 岸本芳雄 加藤綾雄
川中 宏 秦野讓二 波佐間厚 原田知一
木下英己 浜田圭司 円光司 芳光 山中 悟
須原 正 内藤光男 浅海郁男 脇田文雄
柳田哲夫

◇四国連盟◇

小寺善二郎 今谷直行 石丸脩二 瀧 巖
瀬山 實 吉本憲司 後藤二郎 平田陽一郎
重松豊一 阿部洋三 平川恵一郎 武田喬之
岩川圭一 大西 至 中川善介 西森善男
森隆重 山崎通雄 松田正二 丸吉範昌 森

田明義 尾崎 守 三角和則 網野久昭 稲
原幸雄

◇九州連盟◇

馬場俊徳 鎮守芳雄 濃人 渉 新留国良
国方 博 山本数巳 沖 誠哉 後藤晃吾
瀬藤宣彦 伊達義城 長嶺俊一 林 幸義
村上峻介 荒牧富造 太田黒辰彦 畑中秀俊
柴田百門 熊谷与信 角野信男 玉井清重
河内義夫 国場幸輝

◇協会参与◇

石井順一 林 辰男

◇資格審査室◇

藤田信男 永田庚二 手塚寿恵雄 坪井忠郎
鶴沢七郎 相田暢一

◇理事◇

大館勲夫 山本英一郎 大神田正俊 東保秀
喜

◇審判部◇

郷司 裕 山川脩司 飯田勝太郎 渡辺福太
郎 真田幸一 日下部郁郎 勝田 興 福村
晃

◇学識経験者◇

中島治康 鈴木美嶺 松尾俊治 大谷信明
稲葉誠治 吉田昌泰 吉井 滋 増山桂一郎
加藤毅康 鈴木年男 大島 宏

◇都市対抗顧問◇

寛 元貞 二神 武 早速益夫 牟田正孝
土生谷幸治 久保田高行 都築俊三郎

第60回大会表賞者

◇特別表彰者◇

稲原幸雄 松井徳三 長澤正夫 池田立人
山本英一郎 島原平八郎 東保秀喜 石井藤
吉郎 酒澤成治 服部 力 五十嵐義臣 笹
治桂蔵 河合 滋 大本栄一

◇日本野球連盟◇

篠原一豊 古田昌幸 松永怜一 齊藤信太郎
杉山幸一 相田暢一 増山桂一郎 青池 清
大神田正俊 郷司 裕 山根眞樹生 吉井
滋 秋山 忠 中川政直 井籠重慶 鈴木美
嶺 鈴木義信 池田善吾 山中正竹 佐竹政
和 吉松俊一 西大立目永 松尾俊治 端詰
英一 山川脩司 布施勝久 田中美一 村山
貞夫 西宮 勲 清水幹裕 山崎紀典 鈴木
康夫 松本吉永

◇毎日新聞社◇

玉井清重 奈良井輝 丸谷 亘 相沢裕文

◇北海道連盟◇

中原哲男 小野秀夫 宮嶋 勲 多田栄郎
小原正己 高橋新平 佐藤健治 遠藤良二
品田栄太郎 鎌田 明 見野 全 堺 安史
高村 巖 秋田谷昭夫 小西 力 三澤辰年
音尾正明 小林征志 柳 俊之 松原三郎
島津行高 沖野 博 山沢 実 土田圓吉
中川睦夫 中田邦雄 小林吉隆 田畑義秋
奥矢武男 大越一弥

◇東北連盟◇

柿崎義一 久保皓正 高橋政泰 山本昌三郎
岩見 茂 土田静雄 武田 健 工藤 武
横倉信夫 桜井直一郎 矢野浩一 本間喜三
郎 鈴木一平 森下 博 遠藤 勇 米澤禮
三 雁部昭八 藤原良二 高橋孝造 渡辺哲
夫 村松 昇 山口光夫 工藤博伸 石川富
喜蔵治 鎌田一己 五十嵐徳治 菅野 広
木村 稔 秋元一二三 長澤常人

◇関東連盟◇

向山敏治 加藤友康 工藤忠房 稲葉誠治

加藤 弘 本多秀男 田中正延 法月 稔
大木康司 神崎芳明 奥平 保 外山開郎
石井滉佑 佐田一郎 佐田武夫 田村 稔
大島 宏 大場幸夫 木村尚夫 永井 肇
田浦正昭 石田 宏 井上利男 板倉義和
小林紀一郎 程塚孝作 神田昌男 大越裕二
鈴木慶次 河本昭人 西村守正 力村周一郎
小暮昇吾 富田勝彦 朝井貞一郎 田中徹雄
小島寿一郎 鈴木基之 大木 英 山口武平
鈴木哲致 阿久津正明 栗原源一 菅沼正直
西見一郎 江部 努 入江 浩 岩本光弘
山本裕司 吉野和男 相沢芳夫 大和田博
芝崎新六 立花留治 鳥居光男 粒楽佳夫
江原康雄

◇中部連盟◇

川井祐一 日下部郁郎 若木辰男 太田元比
呂 井上嘉男 牧野平吉 陣野原力 高田登
安藤春喜 川島勝司 坂保精治 坂保富雄
小林喜也 皆川登良夫 橋本喜代治 中村修
治 星野竹次郎 玉木淳之 奥村英三 小沼
義雄 田子一郎 土肥省三 浅田一三 清水
潤一 関美喜男 福田勘太郎 武内宗八 牧
野友昭 高橋輝夫 増山通雄

◇東海北陸連盟◇

鷹田国雄 柴田 守 清水紀良 武内昭三
山口 弘 鬼頭忠雄 藤村哲也 小島幸和
高木栄一 鈴木徳義 堀場克己 小久保功
八木 巧 手島 康 由里武彦 伊藤清一
木村重雄 池原正治 野崎忠義 望月伸一
阿波隆一 大嶽恒雄 川島広之 高橋 保
広瀬稔行 水谷勝吉 中尾正治 林 教雄
益成徳治 山口敏樹

◇近畿連盟◇

小泉 昭 小西正一 仁木 安 永田三郎
井上信一 三輪 武 河合貞雄 村斎英一
富田仁義雄 国賀敏男 船所幸弘 川崎 孝
福島敦彦 木村春夫 小松 博 小熊俊夫
米谷道雄 本田親喜 津江彰三 中西秀三
木村新太郎 南喜右衛門 本城祥市 笛村治

男 安井敏和 柴田次男 平野大州 遠山隆
夫 奥村久嗣 佐野重保 吉田 茂 中西
明 三宅享次 津田浩嗣 岡本好二 岸野金
治 小林 勉 大橋慶三 榎根清一 木嶋一
黄 桃田晴彦 中西則夫 辻喜正 鈴木忠三
海德敬次郎 大村一彦 松尾 進 吉田龍男
鹿多証道 春名正己 前田利昌 桐田立名
松田庫次郎 高野邦啓 浜崎健一 片岡成夫
広沢亘治 生越芳明 東 優孝 南垣 勇

◇中国連盟◇

藤本久治 藤原幸男 藤原義一 長尾敏明
大熊 宏 龍田 章 岸本芳雄 泉 豊
藤原克也 畑 啓允 渡辺 誠 西田信義
井上 守 杉本房二 山中 悟 八百野唯夫
木本朝彦 広瀬宗平 佐々木新 竹田義信
小坂庸夫 角原 豊 波佐間厚 川中 宏
秦野讓二 西下寿彦 林博太郎 黒紙公直
溝部 眸 田中博隆

◇四国連盟◇

住友俊一 小寺善二郎 吉本憲司 今谷直行
大島茂治 林 義一 片山正典 吉村真一
岩川圭一 森 隆重 吉岡 昂 西本 武
浜田富夫 細田 虔 阿部洋三 森 健三
須ノ内文三 窪田欣也 後藤二郎 福谷 祥
岡田英津也 光山忠彦 尾崎 守 竹口栄二
郎 松元謙仁 小西康雄 網野久昭 松田正
二 林 省司

◇九州連盟◇

水野 勲 福嶋一雄 大田黒辰彦 隠岐誠哉
滝口 寛 小林全一 堀川康明 畑中秀俊
谷村豊秋 河内義夫 尾籠親志 神納 豊
児島武久 木下政治 橋本俊吉 橋本純一
西田二比古 金子正昭 川田安彦 坂本隆博
上田正明 杉 勝 鈴木正武 松尾 忠
川端 勲

10年連続出場表彰選手

- 26回 吉村英次郎（日本石油）
- 30回 上沖啓之（大昭和製紙）秋山光男（熊谷組）
- 37回 古田 昌幸（熊谷組）
- 39回 西村博司（拓殖銀行）宮地昭雄（住友金属）
- 40回 山下晏嗣（日本生命）村浜 忠（新日鉄広畑）
- 41回 佐藤 昭（日本通運）
- 42回 下田鎮男（松下電器）長井征一（電電近畿）高畑武雄（日本生命）
- 43回 三田 晃（大昭和北海道）岡庭 巖（河合楽器）小弓場保（日本生命）後藤晃吾（新日鉄八幡）瀬藤宜彦（新日鉄八幡）
- 44回 中川隆道（日本通運）加嶋和彦（日本生命）
- 45回 河本昭人（本田技研）篠田 豊（三菱名古屋）和田弘久（電電近畿）
- 46回 池ヶ谷勝（大昭和北海道）佐藤文夫（電電近畿）富永 重善（電電東京）今村信彦（西濃運輸）柴田昌邦（西濃運輸）江藤 米（西濃運輸）利光高明（日本生命）伊藤義城（電電九州）
- 47回 山田智千（日立製作所）岡安 豊（日立製作所）伊藤友幸（熊谷組）内藤博（日本鋼管）祖父江伸介（西濃運）清水正輝（大丸）
- 48回 赤平繁夫（盛岡鉄道局）斎藤 寛（盛岡鉄道局）有本 勲（鷲宮制作所）鈴木政明（大昭和製紙）中井元二（西濃運輸）林 教雄（西濃運輸）鈴木憲行（日本生命）長嶺俊一（電電九州）
- 49回 幡野正秋（三協精機）林 伸男（西濃運輸）土佐秀夫（新日鉄広畑）林 幸義（九州産交）
- 50回 松田修二（西濃運輸）佐竹政和（日本生命）
- 51回 内田正美（電電東京）森 二郎（電電東京）長嶋頭彦（大昭和製紙）細川昌俊（西濃運輸）野村 茂（日本生命）永野隆雄（新日鉄広畑）中山拓郎（新日鉄広畑）
- 52回 高梨英夫（大昭和北海道）工藤 真（東京ガス）村上忠則（大昭和北海道）高岡茂夫（拓殖銀行）藤村雅美（大阪ガス）尾形正己（新日鉄広畑）
- 53回 渡辺 茂（東京ガス）中沢邦男（日本鋼管）鈴木徳義（新日鉄名古屋）岡田和久（日本生命）田村忠義（日本鋼管福山）山内 明（日本鋼管福山）六条誠一（日本鋼管福山）
- 54回 池田勝之（東京ガス）園田信雄（東京ガス）樋口義一（日本鋼管）中本龍児（ヤマハ発動機）矢田秀典（ヤマハ発動機）吉田秀雄（新日鉄名古屋）小坂登（新日鉄名古屋）赤井淳二（日本生命）
- 55回 前村泰正（本田技研鈴鹿）佐藤公弘（新日鉄釜石）望月伸一（日本通運）前川善裕（日本鋼管）山本宗三郎（河合楽器）井尻 陽（日本生命）川辺邦好（三菱重工神戸）松隈憲治（住友金属）内山田慶弘（日本鋼管福山）
- 56回 江藤 梓（三菱重工三原）後藤寿彦（三菱重工三原）内山仁志（日本楽器）花野 巧（日本生命）大須賀康治（三菱重工川崎）佐名木睦夫（日本鋼管福山）藤山澄夫（日本鋼管福山）八木孝治（日本通運）
- 57回 伊藤由紀夫（日本通運）小林 貢（神戸製鋼）宮崎 剛（東芝）武智勇治（東芝）山本秀樹（日本楽器）松浦伸生（日本鋼管福山）森 明彦（日本生命）山岡政志（日本石油）原 邦彦（松下電器）
- 58回 山本文博（北海道拓殖銀行）柿沼章文（日本通運）太田健次（ヤマハ）西条明博（N T T信越）島田行雄（松下電器）佐藤 清（日本生命）渡辺一治（日本鋼管福山）白石則幸（日本鋼管福山）石元治三（N T T四国）
- 59回 小林 彰（N T T北海道）武居邦生（ヤマハ）湯之戸孝修（N T T東海）大木二郎（松下電器）羽二生俊之（N K K）若松 茂樹（三菱重工広島）
- 60回 福本勝幸（東芝）梁原修志（東芝）若槻弘之（新日鉄君津）内田敏弘（日本生命）高橋修二（住友金属）田中祐二（住友金属）滝下茂信（N T T四国）
- ## 20年連続出場特別表彰選手
- 58回 鈴木 政明（プリンスホテル）

回	年 昭和	優勝チーム	スコア	準優勝チーム	出場チ ーム数	主な出来事
1	2	①大連満州倶楽部	3-0	全大阪	12	神宮外苑球場で誕生。東京に初の地下鉄が開通
2	3	①大連実業団	1-0	東京倶楽部	13	決勝は投手戦。アムステルダム五輪で日本活躍
3	4	②大連満州倶楽部	5-0	名古屋鉄道局	14	黒獅子旗3度海を渡る。株大暴落、世界恐慌へ
4	5	①東京倶楽部	10-5	名古屋鉄道局	15	東京が悲願達成。全国ヘラジオ中継開始
5	6	②東京倶楽部	12-6	全横浜	15	東京六大学出身メンバーで連覇。
6	7	①全神戸	1-0	大連満州倶楽部	16	無欲の勝利。水泳日本、ロス五輪で大活躍
7	8	③東京倶楽部	6-5	全京城	16	東京倶楽部最多優勝。早慶戦でリング事件
8	9	①全大阪	7-6	八幡製鉄	16	打倒東京に浪華の意地。ペープ・ルース来日
9	10	④東京倶楽部	3-0	川崎コロムビア	16	推薦制やめ予選導入。国会議事堂完工
10	11	①門司鉄道局	5-1	大連満州倶楽部	20	初の関門越え。橋戸賞制定。2・26事件ばっ発
11	12	①八幡製鉄	3-1	東京倶楽部	14	東京倶楽部最後の年。盧溝橋事件、日中戦争へ
12	13	①東京・藤倉電線	4-1	全京城	16	後楽園に移る。藤倉、初出場優勝。東京五輪返上
13	14	②東京・藤倉電線	3-0	庄内・田村駒	14	家族的野球で連覇。殊勲賞設定。双葉山69連勝
14	15	①全京城	4-0	大連実業団	16	戦時色濃い中、14年目の初優勝。紀元2600年式
15	16	戦火拡大で中止			17	予選終了後、本大会中止命令。太平洋戦争突入
16	17	②全京城	12-6	大阪・大同製鋼	16	外地チーム最後の年。橋戸賞なし。東京初空襲
戦争で3年間中断						
17	21	①岐阜・大日本土木	3-0	桐生・全桐生	16	4年ぶりの復活。選手ら米持参で駆けつける
18	22	②岐阜・大日本土木	8-2	高砂・鐘紡高砂	19	節電で試合開始サイレン使えず。久慈賞制定
19	23	①福岡・西日本鉄道	8-1	別府・星野組	20	九州勢同士の決勝初対決。進駐軍人の観戦多数
20	24	①別府・星野組	8-2	吉原・大昭和製紙	20	火の玉投手の荒巻大活躍。社会人野球協会発足
21	25	①大阪・全鐘紡	6-1	東京・熊谷組	19	補強制度を採用。プロ野球2リーグに分かれる
22	26	②大阪・全鐘紡	3-2	大阪・南海土建	20	全鐘紡黄金時代。初の大阪同一地区決勝を制す
23	27	③大阪・全鐘紡	11-5	二瀬・日鉄二瀬	19	全鐘紡史上初の3連覇。企業チーム全盛時代へ
24	28	①吉原・大昭和製紙	3-0	大阪・全鐘紡	20	背番号制を採用。優勝チームが初のハワイ遠征
25	29	②八幡・八幡製鉄	5-2	東京・全藤倉	25	第3代表から奇跡の快進撃。17年ぶりV奪還
26	30	④大阪・全鐘紡	5-1	高砂・鐘淵化学	25	ナイター開始。慶大三羽ガラスでV4タイ達成
27	31	①横浜・日本石油	3-2	東京・熊谷組	25	新人・藤田投手が快刀乱麻の活躍。小野賞制定
28	32	①東京・熊谷組	4-0	浦和・日本通運	25	全試合無失点の初V。世界大会でも初優勝飾る
29	33	②横浜・日本石油	4-0	二瀬・日鉄二瀬	25	第1日第1試合で奇跡の大逆転。日石の黄金期
30	34	①松山・丸善石油	6-4	釜石・富士鉄釜石	30	四国勢の初優勝。四国ブーム。岩戸景気に沸く
31	35	②東京・熊谷組	3-2	門真・松下電器	25	延長10回逆転サヨナラでV2。新安保条約成立
32	36	③横浜・日本石油	4-2	名古屋・新三菱重工	25	史上最長延長12回の決勝戦。ソ連の有人衛星成功
33	37	④横浜・日本石油	12-0	名古屋・日本通運	25	日石、決勝戦最大得点差で圧勝。キューバ危機
34	38	①京都・積水化学	4-3	室蘭・富士鉄室蘭	25	応援団コンクール開始。黒獅子旗初の京都入り
35	39	①浦和・日本通運	2-0	川崎・コロムビア	32	沖縄から琉球煙草初参加。日通の継投策ビタリ
36	40	①大阪・日電近畿	4-0	和歌山・住友金属	30	4強に東日本勢残らず。関西対決で日電が初V
37	41	③東京・熊谷組	4-3	和歌山・住友金属	31	逆転の熊谷の勢い、決勝でも衰えずV3
38	42	⑤横浜・日本石油	6-0	浜松・日本楽器	31	日石は19歳。平松の力投で史上初のV5達成
39	43	①姫路・富士鉄広畑	1-0	浜松・河合楽器	31	準決勝で日石・秋元、幻の本塁打。明治百年祭
40	44	①千葉・日電関東	2-1	太田・富士重工業	36	記念大会に初のナイター開会式。人類月に立つ
41	45	②富士・大昭和製紙	3-0	神戸・三菱重工神戸	31	史上初の決勝再試合。安田投手の大昭和に球運
42	46	②姫路・新日鉄広畑	6-2	松山・丸善石油	32	山中一三沢の必勝リレー奏功。ドル・ショック
43	47	①浜松・日本楽器	4-0	川崎・三菱自動車川崎	32	新美投手踏ん張り、5年前の夢達成。札幌五輪
44	48	①川崎・日本鋼管	11-2	横須賀・日産自動車	32	初の神奈川決戦にハガネ打線が爆発。石油危機
45	49	①白老・大昭和製紙北海道	4-0	北九州・新日鉄八幡	32	二代目・黒獅子旗、初めて津軽海峡を渡る
46	50	②千葉・日電関東	3-0	白老・大昭和製紙北海道	32	18歳・丹投手、最年少の橋戸賞。沖縄で海洋博
47	51	②川崎・日本鋼管	1-0	札幌・北海道拓殖銀行	31	新鋭が古豪を打倒の戦国大会。ロッキード事件
48	52	①神戸・神戸製鋼	3-0	東京・熊谷組	32	下剋上の混戦続く。神戸粘りの初V。王756号
49	53	①川崎・東芝	4-0	川崎・日本鋼管	32	初の川崎市決戦。投打に充実した東芝が初制覇
50	54	①広島・三菱重工広島	6-4	東京・熊谷組	32	大会半世紀。金属バットを採用、アーチ乱舞
51	55	③富士・大昭和製紙	8-3	札幌・トヨペット	32	29回目出場の常連、10年ぶりのV。
52	56	①東京・日電東京	3-2	川崎・東芝	32	きびしい練習で鍛えた雑草軍団が初優勝。
53	57	①和歌山・住友金属	5-4	福山・日本鋼管福山	32	ベテランと若手の力で初制覇。五百円硬貨発行
54	58	②川崎・東芝	8-3	東海・新日鉄名古屋	32	またも名古屋の悲願ならず。東芝、優勝のV2
55	59	①横須賀・日産自動車	10-9	川崎・日本鋼管	32	劇的な逆転で初優勝。ロス五輪野球で金メダル
56	60	①大阪・日本生命	4-3	川崎・東芝	32	日生、鮮やかな逆転で悲願の初優勝
57	61	⑥横浜・日本石油	9-7	金沢・NTT北陸	32	古豪復活、史上最多、6回目の全国制覇の快挙
58	62	②浜松・ヤマハ	4-3	川崎・東芝	32	創業百年、社名変更に花添え、15年ぶりV2
59	63	③川崎・東芝	3-2	名古屋・NTT東海	32	東京ドーム元年。接戦制した東芝が3回目のV
60	平成1	①東京・プリンスホテル	8-3	白老・大昭和製紙北海道	32	平成元年に結成11年目の悲願達成

◇都市対抗野球60回の歴史◇
(丸囲み数字は優勝回数)

〔記録集〕

◇試合◇

◇最短時間 1時間9分=16回 大阪市・大同製鋼 3-1名古屋市・東邦瓦斯

◇最長時間 5時間27分=33回 東京都・ニッポンビール1-0大阪市・電電近畿=延長22回

◇延長戦 22回=33回 東京都・ニッポンビール1-0大阪市・電電近畿

◇無安打勝利=42回 大阪市・電電近畿1-0大阪市・日本生命

◇最多安打 36本=22回 大阪市・全鐘紡(21本)15-8高砂市・鐘淵化学(15本)

延長戦(14回)37本=20回 大阪市・日本生命(20本)11-10函館市・太平洋倶楽部(17本)

◇最少安打 1本=25回 川崎市・トキコ(1本)1-0高砂市・鐘淵化学(0)

◇攻撃の部◇

◇最多得点

(チーム) 27点 東京都・全藤倉=19回 東京27-0富山市・全富山

(個人) 5点 久礼(京城・全京城)=3回 京城22-4札幌市・札幌局

(インング) 13点 大宮・全大宮=8回 大宮21-6仙台市・仙鉄局

◇最多安打

(チーム) 27本 東京・全藤倉=19回 東京都27-0富山市・全富山

(個人) 6本 長沢新平(大連・満俱)=3回 大連14-5横浜市・全横浜

(インング) 8本 八王子市・リッカー=31回 八王子市19-5大津市・東洋レーヨンの5回 浜松市・ヤマハ=58回 浜松市12-11門真市・松下電器の1回

◇全員安打

神戸市・全川崎(13本)=13回 対八幡製鉄 高砂市・鐘淵化学(14本)=18回 対愛知産業 高砂市・鐘淵化学(12本)18回 対全大阪

東京都・全藤倉(16本)=20回 対新潟ク 名古屋市・三菱重工名古屋(12本)=36回 対いすゞ自動車

千葉市・電電関東(10本)=46回 対丸善石油

◇個人連続安打

(1試合) 6本 長沢新平(大連・満俱)=3回 対全横浜(6打席)

(連続試合) 8本 黒江透修(東京都・熊谷組)=35回 対室蘭市・富士鉄室蘭(4打席 4安打) 対東京都・電電東京(5打席 4安打)

◇最多四球

(チーム) 19 吹田市・大鉄吹田=8回 東京・東京倶楽部15-10大鉄吹田

(個人) 6 布谷(東京市・東京倶楽部)=10回 対仙鉄局

◇最多打点

(チーム) 26 東京都・全藤倉=19回 東京27-0富山市・全富山

(個人) 7 小林(東京・全藤倉)=19回 対全富山

◇最多二塁打

(チーム) 8 大阪・全鐘紡=21回 大阪市・全鐘紡14-4横浜市・金港倶楽部

(個人) 4 平部(大阪・全鐘紡)=21回 対金港倶楽部

◇最多三塁打

(チーム) 3本(多数あり)

(個人) 2本(多数あり)

◇1試合最多本塁打

(試合) 10本 57回大会の広島・三菱工広島 対川崎・日本鋼管(各5本) 広島市14-7川崎市

(チーム) 6本 和光市・本田技研 58回大会の和光市11-1北九州市・新日鉄八幡

(個人) 3本 杉山孝一(金沢市・NTT北陸=新日鉄名古屋から補強)=57回 金沢8-5浜松市・河合楽器 金久保孝治(川崎市・日本鋼管)=57回 広島市・三菱重工広島14-7川崎市

(インング) 3本 大阪・全鐘紡(石川、川上、池西)=34回大会の羽幌町・羽幌炭砒戦

富士市・大昭和製紙(中本龍児、佐々木正行、山本秀樹)=50回大会の浦和市・日本通運戦 松山市・電電四国(松浦清英、藤本英夫、楠瀬隆章)=51回大会の郡山市・ヨークベニマル戦 大阪市・日本生命(大西慶典、早瀬万豊、赤井淳二)=55回大会の川崎市・三菱自動車川崎戦 八王子市・スリーポンド

(有国雅己、四ヶ所重喜、沖泰司)=56回大会の浜松市・河合楽器戦 郡山市・ヨークベニマル(曲山義和、林仲秋、近内一雅)=57回大会の松山市・NTT四国 名古屋市・国鉄名古屋(松本安司=三菱名古屋から補強、湯之戸孝修=NTT東海から補強、坂野彰宏)=57回大会の東京都・NTT東京戦 川崎市・東芝(高見泰範、泉水稔、菊池総)=58回大会の郡山市・ヨークベニマル戦

◇満塁本塁打 第8回大会で大宮市・全大宮の富田平三が仙台市・仙鉄局戦で記録(ランニング)して以来、60回大会で大阪市・大阪ガスの畑山俊二(住友金属から補強)が日立市・日立製作所戦で記録するまで計25本。

◇3試合連続本塁打 新留国良(福岡市・西日本鉄道)=20回

細川昌俊(大垣市・西濃運輸)=43回

佐々木正行(富士市・大昭和製紙)=50回

若松茂樹(日本鋼管福山=三菱重工広島から補強)=53回

筒井大助(新日鉄堺=住友金属から補強)

浦東 靖(新日鉄堺)=60回

◇大会最多本塁打

(大会総数) 95本=58回

(チーム) 12本 富士市・大昭和製紙=51回 (個人) 4本 新留国良(福岡市・西日本鉄道)=20回 中尾孝義(東京・熊谷組=プリンスホテルから補強)=50回 若松茂樹(福山市・日本鋼管福山=三菱重工広島から補強)=53回 佐藤清(大阪市・日本生命)=56回

金久保孝治(川崎市・日本鋼管) 杉山孝一(金沢市・NTT北陸=新日鉄名古屋から補強)=57回

◇サイクル安打 北村照文(名古屋市・三菱名古屋)=49回 東京都・電電東京戦で記録 第1打席・左本塁打 第2打席・左越二塁打 第3打席・右中間三塁打 第4打席・三遊間安打

佐藤和弘(東京都・熊谷組)=60回 郡山市・ヨークベニマル戦で記録 第1打席・右翼線二塁打 第2打席・二塁内野安打 第3打席・右中間本塁打 第5打席・中越三塁打

◇最多盗塁

(チーム) 12 京城・全京城=3回 京城22-4札幌市・札幌鉄道局 釜石市・釜石製鉄=12回 釜石市19-1大宮市・大宮ク

(個人) 5 内藤博(川崎市・日本鋼管) 44回の神戸市・小西酒造戦で記録

◇最多犠打 (チーム) 7 下関市・林兼商店=4回 大阪市・全大阪4-2下関市

◇最多三振 (チーム) 21 吉原市・大昭和製紙=29回 吉原市2-2松山市・丸善石油(延長15回) 17 松山市・丸善石油=49回 東京・東京ガス5-1松山市

(個人) 6 安藤治久(吉原市・大昭和製紙) 29回の松山市・丸善石油戦(延長15回)

5 鶴田(大阪市・全大阪) 2回の長野市・長野保線戦

◇最多犠打 (チーム) 7 下関市・林兼商店=4回 大阪市・全大阪4-2下関市

◇最多三振 (チーム) 21 吉原市・大昭和製紙=29回 吉原市2-2松山市・丸善石油(延長15回) 17 松山市・丸善石油=49回 東京・東京ガス5-1松山市

(個人) 6 安藤治久(吉原市・大昭和製紙) 29回の松山市・丸善石油戦(延長15回)

5 鶴田(大阪市・全大阪) 2回の長野市・長野保線戦

◇最多犠打 (チーム) 7 下関市・林兼商店=4回 大阪市・全大阪4-2下関市

◇最多三振 (チーム) 21 吉原市・大昭和製紙=29回 吉原市2-2松山市・丸善石油(延長15回) 17 松山市・丸善石油=49回 東京・東京ガス5-1松山市

(個人) 6 安藤治久(吉原市・大昭和製紙) 29回の松山市・丸善石油戦(延長15回)

5 鶴田(大阪市・全大阪) 2回の長野市・長野保線戦

大会	本数						
1回	1	16回	5	31回	10	46回	28
2回	1	17回	4	32回	10	47回	32
3回	4	18回	12	33回	10	48回	21
4回	4	19回	11	34回	19	49回	23
5回	3	20回	27	35回	15	50回	62
6回	3	21回	16	36回	18	51回	57
7回	2	22回	19	37回	29	52回	52
8回	2	23回	8	38回	43	53回	47
9回	2	24回	9	39回	17	54回	46
10回	1	25回	20	40回	28	55回	78
11回	3	26回	16	41回	28	56回	74
12回	8	27回	16	42回	33	57回	83
13回	3	28回	19	43回	29	58回	95
14回	4	29回	11	44回	34	59回	55
15回	大会中止	30回	20	45回	24	60回	56

計1410本

◇節目の本塁打◇

号数	氏名	チーム	相手	大会
1	三宅大輔	東京倶楽部	仙鉄局	1回
50	谷 義夫	愛知産業	全神戸	17回
100	大道信敏	大昭和製紙	星野組	20回
150	種田吉富	全鐘紡	岡山鉄道局	24回
200	朝比奈三郎	大昭和製紙	日鉦日立	27回
250	越野正憲	電電近畿	いすゞ自動車	30回
300	三本豊次郎	積水化学	河合楽器	34回
350	稲垣 孝	日本通運	日本熱学	37回
400	中野孝征	日本楽器	日立製作所	38回
450	鈴木憲行	日本生命	富士重工業	40回
500	古川勇一	電電北海道	三協精機	42回
550	江口明信	日鉦佐賀関	電電東京	44回
600	中村安男	東 芝	新日鉄八幡	45回
650	前川善裕	日本鋼管	電電東京	47回
700	日高明彦	新日鉄釜石	熊谷組	49回
(以下金属バット)				
750	川辺邦好	新日鉄広畑	大昭和製紙	50回
800	高尾康平	日本鋼管	電電信越	51回
850	西条明博	北陸銀行	電電関東	52回
900	松本芳一	三菱重工神戸	明治生命	53回
950	伊藤由紀夫	日本通運	新日鉄堺	54回
1000	渡辺和生	川崎製鉄水島	岩手銀行	55回
1050	三好利幸	N T T 四国	日本楽器	56回
1100	清水義之	スリーポンド	河合楽器	"
1150	松本安司	国鉄名古屋	N T T 東京	57回
1200	杉山孝一	N T T 北陸	日本石油	"
1250	武田正人	N T T 四国	三菱重工神戸	58回
1300	加藤健二郎	J R 東海	ヤマハ	59回
1350	阿相信義	大昭和北海道	河合楽器	"
1400	佐藤和弘	熊谷組	ヨーククベニマル	60回
1410	西庄昭彦	プリンスホテル	大昭和製紙北海道	"

◇投手◇

◇完全試合 村上峻介(二瀬町・日鉄二瀬)
=28回 二瀬町1-0高砂市・鐘化カネカロン

◇無安打無得点

市田(大阪市・中山製鋼)=14回 大阪2-0京都市・京都協会

岡本教平(川崎市・トキコ)=25回 川崎1-0高砂市・鐘淵化学

◇最多奪三振 17 松沼博久(東京都・東京ガス)=49回 東京5-1松山市・丸善石油
なお、延長戦(15回)では29回大会で西五十六(松山市・丸善石油)が吉原市・大昭和製紙戦で残した21がある。

◇毎回奪三振

山本光一(吉原市・大昭和製紙)=26回

吉原7-1千葉市・専売公社千葉

平松政次(横浜市・日本石油)=38回 横浜3-0八幡市・八幡製鉄

新美 敏(浜松市・日本楽器)=43回 浜松12-2名古屋市・三菱名古屋

松沼博久(東京都・東京ガス)=49回 東京5-1松山市・丸善石油

◇3試合連続完封

西村一孔(東京都・全藤倉)=25回 東京7-0富士市・本州製紙 東京5-0函館市・大洋倶楽部 東京3-0吹田市・大鉄吹田 佐々木吉郎(横浜市・日本石油)=33回

横浜3-0京都市・日本新薬 横浜1-0大阪市・日本生命 横浜12-0名古屋市・日本通運名古屋

◇連続無失点

佐々木吉郎(横浜市・日本石油)43イニング=33回 5試合に登板

◇最少投球数

井 洋雄(二瀬町・日鉄二瀬)77球=27回 二瀬4-0室蘭市・富士鉄室蘭

◇最多投球数

永易将之(大阪市・電電近畿)270球=33回 東京都・ニッポンビール1-0大阪(延長21回 1/3)

◇連続奪三振

松沼博久(東京都・東京ガス)7=49回 東京5-1松山市・丸善石油

◇守備◇

◇最多失策

(チーム)10 東京・東京倶楽部 10回大会の仙台市・仙台鉄道局戦 大宮市・大宮倶楽部 12回大会の釜石市・釜石製鉄戦

(個人)4 藤原好二塁手(名古屋市・名鉄局)3回大会の大連市・大連満倶戦 加藤三塁手(新京・新京満洲国)11回大会の東京・東京倶楽部戦(延長12回) 辻本遊撃手(大阪市・電電近畿)30回大会の神戸市・川崎重工戦

北海道

昭和44年、安藤喜春（沼津東高）の率いる“7人の侍”が、温暖の静岡県富士市から雪に覆われた火山灰地の白老町に着いた。28歳の青年監督・安藤の胸は大志に燃えていた。

安藤と一緒に三田晃（成器商）米倉守信（東京農大）もいた。それより5年前、やはり富士から高梨英夫（千葉・大多喜高）齊藤勲（柳井商工）が、また、安藤より遅れ我喜屋優（沖繩・興南高）村上忠則（津名高、現日産自動車監督）らも移ってきた。

移籍7ヵ月後、初の都市対抗キップを握って1勝。48年には、中山俊之（北海道産業短大・巨人）の好投でベスト8進出と、着々と階段を上った。そして45回大会、安藤の大志が成就する。拓銀から千葉和久（中京高、現東京・小石川支店次長）、電電北海道から柳俊之（芝工大、岩見沢支店総務課長）の両エース、それに日比野勇（北海学園大、現NTT北海道監督）上原哲朗（札幌大）の電電勢を補強。

新日鉄八幡との決勝戦を制し、その力を出し切らせ、新調の黒獅子旗が初めて津軽海峡を渡った。北海道が野球界で大旗を手にしたのはこれが最初。

翌年は単独チームで準優勝。5連投の加藤英美（室蘭大谷高）に久慈賞、大昭和は北の地にも確固たる地位を築いた。

安藤はのち富士に帰り、51回大会で黒獅子旗。いまま、休部から復活した新生チームの指揮をとる。見野全（近大）は現在、白老町長。

第47回大会で北海道拓殖銀行が西村博司（明大・札幌東支店長）監督のもと、補強の有沢賢持（北日本学院高・ヤクルト）竹内昭文（法大、現法大監督）高岡茂夫（法大、現監督）らの活躍で準優勝。さらに4年後、初優勝の札幌トヨベツ（札幌市）が王子製紙から補強の樋口博美（帯広三条高、現監督）の力投で決勝進出、安藤の富士市・大昭和に敗れ白獅子旗。監督の宮崎一夫（逗子開成高・毎日）はいま、札幌第一高の監督。

大昭和製紙北海道が戦後のけん引車なら、戦前は函館大洋倶楽部が道内野球界のリード役を担っていた。明治40年、当時の北海道師範（現北海道教育大）を出た先生たちが集まって結成。こととして83年の歴史を有し、活動中の社会人野球では最古のチーム。「北海道の社会人野球のルーツです」と日本野球北海道連盟函館支部長でオーシャンOBの若山英夫（中大）。大手漁業会社がバックアップ、

盛岡中一早大と名捕手として名をはせた久慈次郎や鉄腕・橋本隆造（早大）を加え、大正年間には東京六大学チームが対戦のため続々と函館を訪れている。

都市対抗には第2回大会に初出場。戦前に10回、戦後も第25回大会を最後に5回の計15回出場。久慈は昭和14年8月19日、札幌で札幌倶楽部との試合中、相手捕手の送球をこめかみに受けて4日後に42歳の生涯を閉じる。8年後に「久慈賞」が生まれた。

巨人で名一塁手として鳴らした永沢富士夫（函館商）、片岡博国（早大・毎日）もOB。俳優、益田喜頓（函館商・北海中）もプレーしている。

第1回大会に出たのが札幌ワゴナー（札幌市）。監督兼エース、4番の大黒柱が砂沢文雄（法大）。砂沢は仙台一中時代に剛球投手として鳴らし、第2回全国中等学校野球大会の東北予選で、久慈の盛岡中と対戦して以来、久慈と永遠のライバルとなる。中村重一郎（小樽高高）、矢村五郎（北海中）らで臨んだ大会は、砂沢が投打に活躍して全神戸に3-2で勝利。のち砂沢は北海道社会人野球連盟理事長として「北海道に黒獅子旗を」と悲願をかけるが、大昭和北海道の初Vの5年前に世を去った。

戦後、クラブチームの札幌スターズ（札幌市）が、札幌ワゴナー以来、24年ぶりにベスト4入り。立役者は三井砂川からの補強投手、岩佐守（東大）。

砂沢の願いをかなえそうになった最初のチームは富士鉄室蘭（現新日鉄室蘭）。34回大会で、エースで5番を打った佐藤進（北海高・国鉄）が大活躍。決勝で積水化学（京都）に惜しくも逆転負けしたが、道球界に展望をもたらす白獅子旗だった。高屋敷日出夫（北海高）、青柳和（千葉商）が上位を打って佐藤を援護した。小野秀夫（立大、日本野球連盟理事）は、マネジャー、監督としてチームの土台づくりに当たった。戦前には、北海中一立大で名捕手として売った水谷喜久男が率いた札幌鉄道局（現JR北海道）小樽協会（小樽市）も東京六大学首位打者の川崎信一（立大）を加え出場した。

プロで成功した選手に、電電北海道からヤクルト入りした若松勉（北海高）、王子製紙苫小牧からロッセに進んだ高沢秀昭（苫小牧工）、富士製鉄室蘭から大洋入りの稲川誠（立大）らがいる。

青森

大正8年、青森営林局の職員で発足したのが青森林友。昭和13年まで、都市対抗2次予選の東北大会に6度出場。うち3回、決勝までコマを進める活躍で、林業が盛んな秋田、岩手、それに地元の野球少年の人気を呼んだ。第13回大会。林友は青森初の都市対抗出場を遂げた。高瀬忠一（岩手・福岡中）がエースに成長し、新人の亀一三（盛岡商）、滝川善三郎（福岡中）、小島進（青森商）、五代儀多一（秋田・鷹巣農林）、松本美佐男（青森商）、菅原好次（仙台育英中）らの打棒もふるった。

投手陣の中にはプロ野球のライオン（後朝日軍）に入り、45勝した福士勇（青森商）もいた。「後樂園では、開幕第一戦で前年覇者の東京・藤倉が相手。足が地に着かないまま試合が始まり、8-0で敗れた」と半世紀前を回想するのは、1番打者だった柿崎（旧姓千葉）正時。18回大会で天覧ホームを打った小田野柏（福岡中）のスタートも青森林友だった。監督の坂幸（八戸中）は青森空襲の犠牲となった。

山形

「選手層の薄さか悩みの種なんですよ」。山形ハッピー、電電東北でプレーして現在、社会人野球の審判員を務める横倉信夫（山形工）は険しく、遠い2度目の山形勢球宴出場への思いを語る。

都市対抗出場は第21回のたった1回だけ。その歴史的チームが山形ハッピー。

当時、山形ハッピーはミシンを製造していたが物資不足の時代とあって作れば売れた。野球好きだった社長、原田孝太郎が、東京・荏原中で野球部に在籍していた息子・孝一（現社長）の協力を得て2年後に実現させた。

孝一と同級生で巨人入りした渡部弘、小松末広らを誘い、さらに渡部らの人脈を通して、巨人一山口工作などに籍を置いた水野忠彦（長野商、水野製作所専務）、巨人一いすゞでプレーした今泉勝義（日大三中）、東都のリーディングヒッターから国鉄入りした荻島秀夫（中大）、主将を務めた戸田吉蔵（専大・巨人）、南海にいた富村幸夫らプロ野球経験者がドッと加入。地元の山形クラブから投手の大内恒三（山形東一早大、山形マツダ社長）、外野手の船山昭司（米沢高専）ら当時の県内を代表する選手が加わった。

秋 田

東北屈指の野球県。秋田中（高）と秋田商がライバル意識をたぎらせたのも、好選手を生んだ要因となっている。しかし、有力な企業が少ないこともあって、高校球児、大学の俊英は他県に流出。真夏の球宴に初名乗りをあげるのは昭和38年と、東北ではしんがり。

秋田の一番乗りを果たしたのは帝国石油（秋田市）。昭和32年、小出敏造（明大、帝石監督、本社総務部長付）川上英俊（学習院大）の2人の大学出身投手を擁して県予選に初参加。翌年には、伊藤俊成（秋田高、秋田トヨベツ）の加入などでチーム力を強化。6年後に二次予選決勝進出を果たした。仙鉄局と初代表の座をかけた試合は、斎藤誠（酒田東、資材部購買課長）が左翼席にサヨナラ本塁打。伊藤、捕手の鈴木美德（秋田商一社長室秘書課長）、中軸の栗林芳光（大曲高、会社員）らが小躍りした。

帝石に刺激を受け、36年創部のTDK、39年創部の秋田相互銀行（現秋田あけぼの銀行）も奮起。その後各2回ずつ出場する。TDKは浅井治彦（専大）一岡本隆（秋田一早大）のバッテリーと、大昭和白老から移籍した野村稔（静岡・榛原高）ら投手陣が活躍。

秋田相銀は、主戦の石崎透（秋田中央一東洋大、現監督）ら地元の子園出場組を多く採用した。熊谷和秋、石井靖（ともに秋田商）や佐藤純一（大曲）、堀井政志（秋田商）ら粒ぞろいの選手ばかりだった。初出場の監督、佐藤伸一（秋田商）は横手支店長、2度目の監督、山中寛（横手）は飯島支店長。

このほか、現衆議院議員の佐藤敬治（東大）、佐藤敬夫（成蹊大）はともにクラブチームの出身者。敬治の球を受けた捕手の緑川大二郎（東大）は大館商工会議所会頭を務めるなど、選手を辞めてからの活躍が目ざましい。

岩 手

「釜石の人たちは野球が大好きで、随分と応援してもらい可愛がっていただきました」。昭和63年11月29日、東北の雄・新日鉄釜石が休部に追い込まれたとき、OBの山田久志（能代高一阪急）は思い出を語り、惜しんだ。

山田は、42年釜石に入社。下手投げを始め、日が浅い山田を釜石の監督、中谷正人（立命館大、現本社安全健康管理室長）は、徹底的に鍛え込んだ。新人の年、第38回大会で日本生命を3安打完封のデビュー。翌39回大会は、八幡製鉄戦で7回まで無失点の好投も、8回に本塁打を浴び敗戦。最後となる40回大会も初戦敗退。

都市対抗18回出場、東北きっての名門チーム釜石の誕生は昭和7年。当時、仙台鉄道局が強くなり予選のカベを破れなかったが、12回大会で念願の初出場。エースは沢藤光郎（盛岡商一近鉄）。

25回大会で小武方信一（岩手高一南海）、岩本義行（明大、元東映監督＝水沢駒形から補強）の活躍でベスト4入りしたが、釜石の名をより輝かしいものにしたのが、30回大会の準優勝。吉本和夫（中大）、黒田幸夫（平田高）、斎藤辰雄（早大）、佐藤圭一（中大）らに、常磐炭礦勢を加え戦力充実。連日の逆転劇が強烈な印象を与え、東北初の白獅子旗とともに小野賞が贈られた。福田保監督（中大）のさい配も的中した。釜石は51回大会にベスト4入り。日高明彦（名電工、のち最後の監督）や早瀬修（仙台育英高）、伊藤仁（東大）、長田裕（明星高）ら脂が乗り切った選手が大暴れ。監督の佐藤幸雄（花巻商）は「全員野球の勝利」と酔った。

日本野球連盟岩手県支部長の長沢正夫（盛岡中）は釜石の休部を「岩手の野球の火が消えた」と表現。

盛岡鉄道局も岩手を代表するチームだった。初出場は戦後の第19回大会で、釜石から移った沢藤と白坂長栄（福岡中、現阪神球団）らの活躍で、前年優勝の大日本土木を倒した。39回大会にエースで出た泉沢彰（花巻商）は、いま、西武球団の教育指導担当。

岩手銀行も45回大会を皮切りに3回出場。小笠原敬二（慶大）、木村吉則（立大）の好投で計2勝をマーク。56回には、岩手県経済連が初出場。細越賢也（黒沢尻工）、玉田美千男（亜大）らの活躍で初戦突破、農協パワーを見せつけた。通信機械会社の花巻市・谷村新興も46、47回大会に連続出場。荒川博・元巨人コーチの実弟、荒川富男（早大）が監督だった。

宮 城

「仙鉄局は、野球をやっている地元少年たちのあこがれでしたよ」。ヤクルト打撃コーチの佐藤孝夫（白石高）は、プロ入り前の青春の1ページを回想する。

佐藤は入ってすぐ仙鉄局のリードオフマンとなり、白石高のエースで同期入局の佐藤公男（大洋）とともに都市対抗を目指す。だが、年配の選手ばかりで予選敗退。

戦前、仙台鉄道局は東北の雄として君臨した。第1回大会で12チームの一角に加わり、5回連続出場、中堅手でトップを打った大岡武（東北学院中）は、83歳になっても往時を鮮明に覚えている。

戦前12回出場するが、実績は1回戦突破止まり。戦後、高橋正巳（仙台育英高一日本ハム）、太田敏之（塩釜高一阪急）らがプロ入り。分割民営化に伴い、盛岡、秋田局と合体し、62年からJR東日本東北となる。

戦後台頭したのが電電東北（現NTT東北）。滝川中で別所毅彦（南海一巨人）の球を受けた小林章良が基礎を築き、雁部昭八（宮城水産高）が監督となった昭和40年に花開く。エースは杉山喜代美（野辺地高）。黒田重信（太田高）、永井勝明（駒大）らの打線が彩山を援護し、2回目の出場で球宴初勝利を飾った。門屋省吾（芝工大）が逆転2ランを放ちヒーロー。

38回大会出場のエースだった熊谷猛郎（気仙沼高）は現在、母校の監督を務めている。大石正行（横手高）は、いまNTT秋田支社勤務。

43回大会で後楽園2勝目を記録。エースは現NTT東京監督の森二郎（駒大）。山内茂（東北高）も計4回出場するが、勝ち星に恵まれなかった。その後を佐藤公弘（国士館大）一小窪敬一（関東学院大）が引き継いだ。

創部9年目の日本たばこ（今年からJTに名称変更）いきなり2勝し、ベスト8入り。古溝克之（福島商一阪急）、佐藤誠一（宮城工一日本ハム）がプロに進んだ。



福島

昭和20—30年代、富士鉄釜石（現新日鉄釜石）と東北の覇を争った常磐炭礦（湯本町、現いわき市）に出沢政雄（小諸商）が入ったのは25年。朝鮮特需で、「黒ダイヤ」は掘れば売れた。第23回に初出場。初戦の相手が、のち石炭にとって代わりエネルギー革命の旗手となる日本石油。出沢は二塁打2本を放ち、7—6のサヨナラ勝ちに貢献。

出沢が監督時代に入った近藤功（平工高）は、計10回出場。168センチと小柄ながら、下手から繰り出す速球に威力があり、釜石の準優勝にも貢献した。

出沢は休部中、磐城高の監督を務め、青木稔を育てた。青木は投手兼遊撃手として夏の甲子園で2勝をマーク。法大を経て復活のオール常磐の内野手。磐城高が夏の甲子園で準優勝（昭和46年）した時の監督、須永憲史（日大）もオール常磐の外野手時代に出沢の教えを受けた。

出沢と一緒に活躍した仲間に蔵本光夫（呉港中）、勇の兄弟がいる。光夫は北斗クラブの総監督、勇はトヤ野球クラブの監督として野球との縁が続く。プロ184勝の小野正一は常磐時代、内野の控えて出番がなかった。阿部良男（宮城水産高一西鉄）、矢部祐一（田村高一巨人）らがプロへ。

福島から最初に都市対抗に出たのは、第7回大会（昭和8年）の福島倶楽部。福島師範出の小柴由三（現姓・上野）、福島中OBの三木茂らが中心だった。

戦後の18回大会、郡山から出た今泉産業に、のち青山学院大の監督を30年間務める近藤政雄（和歌山商）がいた。

近藤はヨークベニマルの創部に協力するが、「大高社長（善兵衛）が中学生時代、我々の練習をよく見ていました。その縁で選手を送り出したんです」と話す。ヨークベニマル初代表の監督、小野寺克男（宮城農）も一時、常磐炭礦にいた。現監督、先崎史雄（磐城高一立大）は、須永の時の準優勝メンバー。

会津坂下町から3回出場の高橋伸銅は、紺野幸次、石幡信弘の福島商OBに、プロ経験者の笠原正幸（函館工—巨人）、吉田勉（大村中—巨人）らで作った。

栃木

都市対抗の原点はクラブチーム、それを見事に実践したのは49回大会に出場を果たした全足利クラブ。足利市役所職員を中心にしたチーム。昭和31年の新潟コンマーシャル以来、21年ぶりのクラブチーム出場。同チームで選手、監督、部長を歴任してきた大越裕二の夢が実った。昭和31年の創部に力を入れた東両毛通運社長、長竹寅治（前市長）のまいた種は、22年後にして花開いた。マウンドを死守したのが監督兼任の宇田川次夫（足利工）。

17度目の県予選優勝で2次予選（北関東大会）に進み、宇田川の投球と五十部光則（国士館大）田代賢司（足利工）粕谷宏（宇都宮農）小林喜義（足工大付）らの打線の爆発で快挙を達成した。

終戦直後の20、21回に鹿沼市の古沢建設が連続出場している。のちパ・リーグ審判部長を務めた道仏訓や藤咲徳生、長武男（栃木商—国鉄）らもいた。

茨城

「ニココー」「ニッセイ」と地元が呼ぶ、日鉦日立と日立製作所が、しのぎを削り、県下の社会人野球をリードしてきた。日鉦が先んじて第11回大会に初出場。国方久男（慶大）がトップを打ち、エース・三輪野英夫（水戸工）関川隆治（松本中）らが主力。

遅れを取った日立は戦後、26回大会が初出場。エースは下手投げの蒲池信二（東大、現専務）。日本ビール時代の24回大会で熊谷組から補強出場、好投した実績を持つ。4番はのち監督となる田中督三（明大）

日鉦は立大で長島茂雄らを育てあげた砂押邦信（立大、現サンコー相談役）を監督に迎えた。砂押は中村修一郎（松商学園—国鉄）、宇塚裕一（立大）を鍛え、翌春入社した嵯峨健四郎（秋田商—東映）、伊藤秀司（立大）らを育て、19年ぶり復活を果たす。第1回の小野賞を受け、「北関東の暴れん坊」の異名もつけられた。全国に名を売った日鉦は、その後三平晴樹（秋田高一毎）、西崎若三（立大）、長島秀和（明大）らを入れ、北関東の常勝チームとなる。日立は38回大会で、村井俊夫（明大）、松井副武（御坊商工）両投手、山田智千（現監督、御所工）、日鉦からの補強の高島導宏（中大—南海）らの活躍でベスト4入り。

45年から5年連続出場の黄金期を築いたのが監督の神田昌男（宇都宮工）。高田新次（東海大）、佐藤博（酒田商—ヤクルト）の2本柱に、山田、小野寺重之（明大、現国分工場

課長）、岡安豊（日大三高）、内田睦雄（東海大）らで「ダイナマイト打線」を組んだ。

日鉦の休部3年後、鹿島臨海工業地帯に進出した住友金属鹿島製鉄所がチーム結成。松本桂一（下関西高、現副部長）が熱心に選手を集め、54回大会初出場。「ニッセイ」「スミキン」時代に移った。

群馬

「70年近く野球に携わっているが、まだやり残していることがある。それは都市対抗制覇」。第1回からの関係者で現関東連盟顧問の笹治桂蔵は、83歳の今なお全国制覇への意欲を持ち続けている。

最初のチャンスは、復活の17回の全桐生。第13回センバツで準優勝した桐生中メンバーの青木正一、皆川定之、それに三輪裕章（ともに阪神）や、稲川豪一（東急）、小暮英路（西鉄）、中村栄（国鉄）らでかため、監督は稲川東一郎。選手の大半は稲川が桐生中監督時代の門下生。全大阪を破って波に乗り決勝進出。岐阜市・大日本土木と優勝を競ったが敗れた。

2度目の優勝のチャンスが訪れたのは40回記念大会の太田市・富士重工。「思い出深い大会でした」と振り返るのは同チームの選手、主将、監督、副部長を歴任してきた栗原源一（前橋中＝日本野球群馬連盟理事長）。石幡信弘（福島商）前原昭一郎（桐生工、現オール太田クの監督）が活躍、天覧試合となった準々決勝でも日本生命を降し、準決勝も富士市・大昭和製紙を退け、決勝進出。千葉市・電電関東との黒獅子旗争いは、6回に1点を先取り、9回を抑え切れれば初優勝までこぎつけたが、逆転のサヨナラで無念の涙をのんだ。石幡は久慈賞を獲得、その後大洋入り。

富士重工の現監督、茂木啓司（旧姓奥村、松商学園）、茂木の前任、野中宏一（桐生工）は当時から好守好打ぶりが光っていた。前橋工時代、甲子園で活躍した向田佳元（早大）、全日本入りの名手、村田博幸（日大）らが後に続いた。

19回大会に前橋市から山藤商店が出ている。立大出身の田部輝男（西鉄）らプロ経験者が多かった。25回大会には、江原康雄（高崎商）が指揮した高崎鉄道局が出場。新井茂（藤岡高）、渡辺光明（作新学院）はプロに進む。現JR高崎駅長、野沢次夫（高崎工）は翌年入社、3回とも予選決勝で負ける悔しい思いを持つ。

千葉

JR千葉駅長の板倉義和（印旛高）は、千葉鉄道局時代に剛球投手でならし、都市対抗は補強で出ている。

戦前の伊藤健太郎（千葉中―東鉄―巨人）、小川善治（千葉商―明大―小口工作―ヤクルト）、牧野宏（成田高一―法大―日石）らアマ球界にも傑出した選手を輩出したが、有力選手は大学やプロ、首都圏の企業チームに流出。

社会人野球“不毛の地”と呼ばれるほどの時期もあったが、京葉工業地帯の埋め立てが進み、企業進出が図られるようになった30年以降、急速に野球どころの真価を発揮し始めた。宮武三郎（慶大）率いる千葉日本専売公社が、県予選初参加の26回大会で千葉勢初の本大会出場を果たしたのを皮切りに、川崎製鉄千葉、電電関東（現NTT関東）らが相次いで参加。

こうした上げ潮ムードに乗って昭和40年、駒大の控え捕手だった佐藤文夫が電電関東入り。駒大先輩の藤巻健三監督（八日市場局次長）のもとで頭臨的なリードふりが買われて4年後、主将に。その年の第40回大会で、劇的なサヨナラ勝ちで優勝、念願の黒獅子旗を千葉に持ち帰った。中軸の黒崎勝利（宇都宮工、松戸局）、代打サヨナラ安打を放った太田垣亘彦（芝浦工大）ら打線の活躍はもちろんだが、新人の若宮秀雄（日大、市川局）と補強投手を巧みにリードした佐藤のインサイド・ワークが光った。若宮は5勝をあげ橋戸賞に輝いた。

佐藤は、監督就任2年後の46回大会、エースの中後政行（安房水産高）と、新人の丹利男（北茨城高、現コーチ）の2本柱を、前回同様に巧みにリードして持ち味を発揮させ、2度目の大旗。打の中心として、決勝戦で2ランを打った関東孝雄（仙台育英、日本通運）はのち中日入り。

電電打倒に執念を燃やしたのが川崎製鉄千葉の元監督、川嶋宏（成田高）。昭和31年に田中実（千葉一中）監督で発足以来、55年によく川嶋の手で初出場に結びつけた。左腕・青木彰（黒沢尻高）、大野雄次（君津商―大洋）らの活躍でベスト8進出。このとき捕手、のち監督の鬼嶋一司（慶大）は東京六大学の審判員。

59回大会に門川純（立大―新日鉄八幡）率いる新日鉄君津が初出場を遂げ、「新3強」の時代を迎えた。

埼玉

「今でも鮮明にあの試合は思い出せます」。東京都八王子市の頼明館高校で、77歳の喜寿を迎えたばかりの前川八郎（国学院大）は遠く目をはせた。

クラブ野球全盛時代の第9回大会で、東京鉄道局の選手を集めた全大宮が、埼玉県勢としては初のベスト4に勝ち進んだ。準々決勝、エース・前川は3―3で迎えた9回2死満塁に、タイムリーヒットを打たれ、サヨナラ負け。前川はプレートにうずくまり泣いた。

この監督が藤本定義（早大）。のちに巨人、大映、阪急、阪神と歩き、31シーズン歴任の最長記録をつくる。国鉄スワローズ監督、ロッテ球団代表、川崎球場社長を今年3月まで務めた西垣徳雄（法大）、学習院大監督で東都リーグ優勝を果たした島津雅雄（早大）、国鉄総監督を務めた楠見幸伸（慶大）らがいいた。伊藤健太郎（千葉中）も前川と一緒に巨人入り。南安男は、鉄人。第2回大会に松本機関庫の投手として初登場、8回に全大宮から再登場し、3年連続出場。その後姿を消したものの、第16回、戦後再開の17回には、東鉄局の投手で再登場。翌18回には東京・全藤倉の補強投手で出場と47歳まで現役で活躍。その後、裏方の世話をやいていた。

都市対抗史上ただ1本の天覧ホームランを打ったのが小田野柏（岩手・福岡中）。豊岡物産（埼玉県豊岡町）の4番・左翼手で出場。左翼席へソロ本塁打した。

浦和市・日本通運が埼玉県に初めて黒獅子旗をもたらしたのは、35回大会。稲葉（旧姓・高塚）誠治が、愛知産業、トキコ、慶大監督を経て、日通に招かれた。稲葉は20歳投手、田中章（千葉経済高）と3年目の佐藤昭（一関一高）を巧みにつなぎ、決勝で川崎市・コロムビアと対戦した。

7回まで0か並ぶ投手戦は、8回、一死二塁の好機をつかむや、好投の田中に代え、代打策をとったのが的申して先制。さらに走者三塁の加点機に近藤良輔（慶大、のち3代目監督）が、スリーバントスクイズの奇襲を決めて2点目。その裏から佐藤を投入して逃げ切る稲葉用兵が見事に決まった。

稲葉は定年退職後、プリンスホテルに招かれ、監督を経て現部長。

佐藤は40回大会に電電関東の補強投手として2度目の優勝を味わい、小野賞を受賞。1回戦で先制本塁打した竹之内雅史（鎌倉学園）は西鉄入り、現ダイエー・コーチ。

昭和31年、野球部を創設した時、招かれたのが藤田宗一監督（法大）、古谷夫夫コーチ（宇都宮実―現宇都宮学園）と初岡栄治主将（専大）の3人。第28回大会は初出場で決勝進出の快進撃。熊谷組に敗れたが、立大を出

たての堀本律雄投手の鉄腕が冴（さ）えた。5試合を投げ切り、久慈賞。同時期の妻島芳郎（日大二高―大毎）、渋谷誠司（弘前商―現・弘前実―国鉄）ら創部以来20人を超す選手がプロ入りした。金田留広（愛知学院大―東映）、いま西武の守りのキーマン・辻発彦（佐賀東―西武）、勝呂博憲（千葉商―巨人）ら選手だけでなく、平光清（慶大）、前田亨（熊本工）のセ、パの審判、田中美一（立大）のアマチュア野球審判を生んでいる。

昭和35年創部の和光市・本田技研。初代監督の千々岩雄平（神戸大）は、いま鈴鹿サーキットの本田ランド社長。電電中国、河合楽器を経て入社した河本昭人（久賀高、のち2度監督、現副部長）が投手の軸となり38回大会に初出場。元監督の條原一豊（立大、日本野球連盟理事）は中国に野球を指導。

黒田正宏（法大、現西武コーチ）、中沢春雄（立大―近鉄）がいた41回大会でベスト8入り。伊東昭光（帝京高―ヤクルト）、広瀬哲郎（駒大―日本ハム）のドラフト1位選手をそろえた60年には、秋の日本選手権で優勝。

山梨

「チームを持とうとする企業もあったが、相手が昭和、ヤマハ、河合といった全国屈指の強豪を相手にしなければ、考えるとやめてしまう」

日本野球連盟山梨県支部の理事長、保坂富雄（日川高）は、社会人野球大国、静岡と予選地区を1にする山梨の悲哀を、こんな言葉で表現する。県内で活動するチームは8つ、いずれもクラブチーム。都市対抗に代表を送り出していない3県のうちのひとつ。

そんな中で、山梨のチームから、静岡県のチームに補強されて後樂園の舞台を踏んだ男がいる。いま、富士吉田市内で土木建設業を営む高村和男（谷村工商）だ。第27回大会で大昭和製紙に補強された。高村が加入していた桂クラブは、大正4年の創部。早実―早大で野球に打ち込んだ故奥源禄がふるさとに帰って結成した、県下最古のチーム。参議院議員の故安田敏雄（都留中）は昭和初期に中堅手で活躍。戦前、投手で活躍した灘谷満太郎（大連商）は戦後、谷村工商の監督となり、22年に甲子園出場を果たす。

東京

落合博満(中日)、石毛宏典(西武)のプロ野球1億円コンビは、都市対抗野球大会をバネに育った。落合(秋田工)が府中市・東芝府中入りしたのは昭和49年。後、同チームの監督になる尾崎清士(専大)は振り返る。「ライトの防球ネットを軽々と越した打球が、相次いで民家の屋根を直撃する。やむなくネットを15メートルかさ上げした」

石毛(駒大)はプリンスホテル入り。54年に落合が去った東芝府中に、補強されて臨んだ同年の初大会(50回)の第1打席で、バックスクリーン左へ2点本塁打。大試合に強い片りんを見せている。

この時準々決勝で熊谷組に敗れるが、石毛の同僚、中尾孝義(専大・プリンスホテル)が補強でいた。中尾は4本塁打、16打数6安打と打ちまくり久慈賞を受けた。

戦前のスーパースターは宮武三郎(高松商一慶大)と吉田正男(中京商一明大)が双壁(へき)。宮武はセンバツ準優勝、夏の甲子園で優勝。神宮でも38勝、長島茂雄(立大・巨人)に破られるまで最多の7本塁打。投打に傑出した力を発揮した。昭和6年の第5回大会、東京倶楽部から初出場。

吉田は、昭和14年、藤倉電線入りするや、いきなり優勝して橋戸賞。愛知商でセンバツ優勝、慶大で名遊撃手で鳴らした大館盈六も戦後の藤倉電線で活躍、25回大会で久慈賞。

26回大会で3試合連続完封をやったのけた18歳の紅顔投手、西村一孔(都留高)も話題を集めた。30年代活躍したニッポンビールの北川芳男(佐原一高、のち国鉄)、城之内邦雄(同、巨人)は速球投手。ルーキーで熊谷組2度目の優勝に貢献、橋戸賞を受けた高林恒夫(立大、同)はいま、神田神保町の書店主。阪神の抑えのエース、中西清起(高知商一リッカー)も補強出場、若武者ぶりを発揮。東京ガスの松沼博久(東洋大)は49回大会で17奪三振の大会記録を作って西武入りした。

初期の主役、東京倶楽部には、水上義信(早大)、伊丹安広(同)、片田宣道(立大)、永井武雄(慶大)ら六大学卒のキラ星が並ぶ。水上は延長25回の死闘、中京・明石戦の主審。伊丹は母校監督、神宮球場長。

東京六大学の主将チーム、東京倶が隠忍3年の後、初の黒獅子旗を手にしたのは第4回大会(昭和5年)。主将の石井順一(早大)は、万余の観衆に向かって感激のあいさつを行った。

「久しく待ち受けた栄冠は、ついに東京市の代表チームに帰した。市民よ、この栄光の背後には選手の血と汗とが塗られていることを思うと共に、われらは市民の力ある後援を感謝します……」

あれから59年。石井は90歳を迎えたいまもバット製造会社の現役社長として一筋の人生を歩む。「当時、プロ野球もなく、大学を出た選手は会社で野球を楽しんでいた。都市対抗が始まるというので、ボクがあちこち会社を回って選手を集めて東京倶楽部を結成した。練習場は深川にあった藤倉電線球場。軍隊に入っていた選手も快く出してくれた、まだのんびりした時代」と記憶をたどる。

第1回大会のエース・新田恭一(慶大)はゴルフスイング打撃理論で有名で、松竹監督・巨人コーチを歴任。初優勝のときの2番、遊撃・横沢三郎(明大)は、のちパ・リーグ審判部長。

12回大会を制したのは、藤倉電線。土井寿蔵(和歌山中、横浜高商一慶大)の左腕がさえ、俊足の恒川道順(明大)、菊谷正一(立大)、田坂茂多(長崎高商)らの打線も強力。4試合、失点3の土井が橋戸賞を受けた。

戦後、東京のリーダー役は熊谷組。28回大会で大沢貞義監督、古田昌幸二塁手の立大コンビ、日大で完全試合達成の下手投げ島津四郎、東京ガスから本田有隆投手(横浜高商、現関電常務)を補強。相手に1点もやらなかった。森永勝也(専大、のち広島監督)が4番を打った。

3度目の優勝は古田プレーイングマネジャーの鬼神の働きがもたらした。3試合連続サヨナラ勝ちの立て役者となり橋戸賞。関連会社の部長と日本野球連盟理事。東京の“ムシ”だ。

52回大会で初Vを果たした電電東京は闘将が多い。猛練習でスター軍団の東芝を倒して栄冠をつかんだ富永重善監督(立大、現NTT鹿兒島支社課長)は「人間の強さ、弱さが勝敗の分かれ目」が口ぐせ。富永の後任、森二郎(駒大)もその伝統を継いでいる。

球宴で活躍したあと母校に戻り、若獅子を育てる指導者、また審判としてアマ球界に貢献する人も多い。 昨年の大会に門下生38人を送り出した駒大監督、太田誠(駒大)は、電電東京時代の30回大会を皮切りに計6回出場、33回大会で歴史に名を残す。ニッポンビールに補強され、大阪市・電電近畿と延長22回、5時間27分の熱戦に終止符を打つサヨナラ本塁打を放った。いまも、最長時間、回数とも大会記録として残る。 慶大監督の前田祐吉(慶大)も、ニッポンビール時代、選手、監督として6回出た。ソウル五輪全日本監督の鈴木義信(元東芝監督)、東京ガス監督に返り咲いた松田俊夫は教え子。

立大の指揮をとる横川賢次(立大、旧姓・加藤)もサッポロビールから4回連続出場。別府隆彦(明大・大和証券)、東大・坂本二

朗(東大・協和醸造)、法大・竹内昭文(法大・北海道拓銀)、早大・石井連蔵(早大・日本鋼管)と東京六大学の現監督はすべて社会人出身者。プリンスホテル監督の石山建一(早大)も早大監督の経験者。

第1回大会で東京倶楽部から出場、仙台市・仙鉄局戦に都市対抗第1号本塁打(ランニング)を記録した三宅大輔(慶大)は指導者として名を成した。東京倶楽部の一塁を守った森茂雄(早大)は、初代の阪神監督をやり、戦後早大監督をつとめ、広岡達朗(前西武監督)、末吉俊信(毎日)、石井藤吉郎(大昭和製紙・日本野球連盟理事)ら多くの人材を送り出した。

アマ球界トップの審判に、都市対抗経験者が多い。日本野球連盟副会長の山本英一郎(慶大)は、球史に輝く唯一の完全試合の球審をつとめた。「日鉄・村上峻介(人吉中)、鐘化・山本治(慶大)が速いテンポで投げ合った。7回ごろからスタンドが騒がしくなり、初めて『完全』が進行中とわかり、落ち着かなくなつた。村上君が見事に完成させたとき、どっと疲れが出た」と思い出す。

今春のセンバツ優勝戦で球審をつとめた布施勝久(明大)は、大和証券監督として後楽園初出場に導き、審判に転じた。布施の先輩、郷司裕(明大)は、昭和天皇が観戦された第40回記念大会で、太田市・富士重工対大阪市・日本生命の天覧試合の球審をつとめている。



神奈川

第57回大会で19年ぶりの黒獅子旗を手にした横浜市・日本石油の名野球部長だった建内保典・日本石油会長は「これで胸のつかえがとれた」と胸中を明かした。名門復活を果たして監督の磯部史雄（法大、産業燃料部課長）は「過去がおもしろになっていた」と言った。それほど、歴史は栄光に満ちている。

最多優勝6回の、最初の1ページを記した殊勲者は藤田元司（慶大、現巨人監督）。27回大会で決勝戦の7回まで29回無失点、快速球がさえわたって橋戸賞を受けた。好投を引き出したのは、日本鋼管（現NKK）から補強の宮原実。

宮原は、新人の藤田に「おれは大学で5回も優勝したキャッチャーだ。言う通りに投げれば間違いない」と暗示をかけた。「頼りがいがあった」と、当時監督の増山桂一郎（慶大、現アーバネット顧問）。

増山2度目の優勝（29回大会）は、初戦の門真市・松下電器戦が大変だった。長島康夫（米子東商）に抑えられ、9回二死まで0-1のピンチをひっくり返した。橋戸賞は専大からの新人投手、伊藤正敏（岡山支店長）。

32、33回大会の連覇の指揮は井上茂（立大、東京支店長）がとった。V3は橋戸賞を受けた杉本和喜代（明大、日本鋼管）の働きと、トップ北崎健二（早大、日石商事）、今西良雄（高松支店長）、枝松道輝（岡山支店次長）の立大コンビらの活躍だった。

V4はもう、佐々木吉郎（秋田商一大洋）のひとり舞台。松下電器を4安打完封（奪三振12）で出発した無失点の旅は、決勝戦の名古屋市・日通名古屋まで続いた。180センチ、80キロの体から繰り出す剛球で快刀乱麻、当然のごとく橋戸賞。

佐々木の再現を演じたのが、5年後の平松政次（岡山東商）。初戦の北九州市・八幡製鉄を3安打、新記録の16奪三振で完封。2回戦も3安打、12奪三振の連続完封。準々決勝で高梨英夫（大多喜高・大昭和自老）に本塁打を打たれ初失点、準決勝を1失点で完投。浜松市・日本楽器との決勝も5安打シャットアウト。

18年間の低迷のあと、V6を達成し、橋戸賞の岡田邦彦（駒大、現コーチ）や今季日本ハム入りした鈴木慶裕（亜大）らナインは豪州へ遠征。その応援ツアーの中に吉村英次郎（早大、関星海運会長）がいた。吉村は創部（25年）に尽力、主将エースとして黎（れい）明期を支えた。

ヤクルトの荒井幸雄（横浜商）はOB。

日本鋼管（現NKK）は日石に1年遅れの第24回大会に初出場。

東京六大学勢を補強し、チーム力の強化を

はかった。慶大色の日石と“ハマの早慶戦”とうたわれた定期戦は、市民ファンを二分した。

初めて頂点に立ったのは44回大会。田浦正昭監督（慶大、本社建設鋼材部長）が「補強でバランスがとれた」と語ったように、オール川崎の力を発揮。三菱自動車川崎の鈴木博昭（大宮商、中日）が2本塁打の19打数9安打、いすゞの福岡克彦（神奈川大）が首位打者。これには鋼管の4番・宇賀山徹（慶大、本社ガス営業室長）も奮起して2本塁打を含む猛打を発揮して橋戸賞。内藤博（横浜商大高）も、神戸市・小西酒造戦で大会記録に残る5盗塁。

投手陣も負けじと、古屋英雄（明大、のち監督）、上岡誠二（慶大、現NKK監督）が好投。念願の黒獅子旗を握った。日本鋼管のV2は3年後。前川善裕（本社第2流通加工部）、樋野和寿（明大、京浜製鉄所）、いすゞの福岡を加えた強力打線。梶間健一（鉾田一高、ヤクルト）に、東芝のエース・大田垣耕造（青学大、現東芝監督）を補強した投手力で本命視されていたが、2回戦（電電東京）の引き分け再試合を福岡の4打点のバットで制し、準々決勝は延長12回、補強した垣野多鶴（東海大、現三菱自動車川崎監督）の同点打から林竜郎（亜大）のサヨナラ打に結びつける冷や汗の勝利。苦闘の優勝だった。監督の飯田修（早大、四国支店長）は数年後、手腕を見込まれ、母校の指揮をとった。

高橋直樹（早大一東映）、小川邦和（早大一人）、木田勇（横浜商大高一日本ハム）らがプロに進んだ。

その後、川崎市の東芝が台頭。49回大会の決勝は東芝と日本鋼管の同一都市対決となり、東芝が黒紙義弘（亜大、現コーチ）の左腕がさえ4-0と完封、V1。監督の鈴木義信（慶大、開発営業部長）は、精神面の強化とともに、専属トレーニングコーチを採用するなど、アイデアを駆使、新しい指導者像を生み出した。

54回大会で橋戸賞男の宮崎剛（専大）、武智勇治（駒大）、川端順（法大、広島）らの働きで2度目の優勝。宮崎の父要（慶大）も西日本鉄道時代の19回大会で橋戸賞を受賞、史上初の親子二代橋戸賞。

東京ドーム元年の59回大会で3たび黒獅子旗。菊池総（明大）、高見泰範（愛知工大、橋戸賞）とベテラン、若手の力がかみ合った。

石油（日本石油）、鉄（日本鋼管）、電機（東芝）に続いて黒獅子旗を手にしたのは自動車。いすゞ自動車が、名手、荻田久徳（法大、東急）らの力で戦後復活の初出場以来、7回出るがベスト8が最高。ようやく横須賀

市・日産自動車が55回大会で優勝。監督の田中久幸（芝工大、九州地区担当課長）がうまく人の和を結集させた。捕手の村上忠則（津名高、現監督）は、富士市（大昭和製紙）、白老町（大昭和北海道）に続く3チームにわたる優勝となった。3番を打った大野久（東洋大）は翌年阪神入り、阪神のエース格、池田親興（法大）もOB。

三菱自動車川崎も、昭和40年代から力をつけ、本大会の常連。43回大会で久慈賞を受けた池田善吾（芝工大）の力投で準優勝。金沢次男（佐竹高、現日本ハム）、巨人コーチの滝安治（関東学院大）らプロ入りする選手が多い。

全国一の子選激戦区、大会をリードする神奈川。その歴史はクラブチームと、コロムビアが築いた。第1回大会から8回連続の全横浜は、市内にあった20余のクラブチームの選抜軍。法大初優勝のエースだった鈴木茂、瀬木嘉一郎（早大）、富士川二郎（千葉医科大）、中島博（横浜高商）らで臨んだ第5回大会で準優勝。戦後、全横浜を受け継ぐのは金港倶楽部。横浜スタジアム社長を務めた山口久像が、生糸業者がつくった横浜蚕糸倶楽部（第16回大会出場）を前身に結成した。後年、巨人で活躍する南村不可止（佑広・早大）が中心を打ち、復活の17回大会から5回連続出場。日本野球連盟神奈川支部会長の田村稔（法大）もここから出場した。

川崎市・コロムビアは3回目の出場となった第9回大会で若林忠志の好投で準優勝。

川崎トキコは25回大会で、岡本教平（掛川西）が、史上2人目のノーヒット・ノーランを達成。28回大会、コロムビアに補強されて活躍した鈴木隆（中大、現大洋スカウト）は、第3回世界野球大会に選ばれて活躍した。前支部長の小笠原洪一は、トキコの元野球部長。

鎌倉老童軍という異色チームは、鎌倉在住の野球好き文士を集め、作家の久米正雄（元毎日新聞学芸部長）が総監督を務めた。

静 岡

昭和22年春。静岡県・吉原町の大昭和製紙鈴木工場で、浅井礼三（早大）に「おい、野球をやろう」と専務の斉藤了英（早大、現名誉会長）が声をかけた。この会話が“東海の暴れん坊”の異名をとる大昭和製紙野球部の誕生につながる。

6年後の第24回大会で、2回目の決勝進出を果たした大昭和は、4連覇を狙う全鐘紡と対戦。斉藤自ら監督としてベンチ入りの大昭和は、石井藤吉郎（日本野球連盟理事）、荒川宗一（現帝京大監督）、吉江英四郎ら早大勢。応援団も早大の応援団長だった山田一郎（広沢虎造の長男）が指揮し、鐘紡は元慶大団長の高橋高見（前ミネベア会長）。後楽園は超満員となった。

黒柳巽（享栄商）が小気味よい速球に、タテのカーブで無類の好投。北川桂太郎（島田商）、遠井敏夫（早大）の安打で得点、黒柳が1安打投球で全鐘紡を3-0と完封。ついに“鐘紡城”を攻略、14年ぶりに東日本に大旗をもたらす歴史的勝利を飾った。黒柳を助けた小川俊男（立大）や朝比奈三郎（島田商）を加えベテランが主力で逆転を得意とした。

大昭和が急速に力をつけた背景に、日本軽金属の存在があった。巨人で沢村栄治の球を受けた中山武（享栄商）を監督に招き、両者は角逐を繰り返し、30年の代表決定戦で、ホーク判定を不服とする日軽金から退場し放棄試合の大トラブル。大昭和初Vに補強で貢献した主将の日下部郁郎（法大）も止めることができなかった。43年には大昭和の4番、捕手の中村允昭（青学大、現新日軽取締役）が日軽金に移籍。両チームの試合は、警察官が警戒するものものしき。

40回大会に高田登（沼津市立）の指揮で2度目の出場。その後も2回出場するが、アルミ不況で50年休部、佐藤竹秀（静岡高一近鉄）、稲葉光雄（清水工一中日）、渡辺秀武（富士高一巨人）をプロに送り出し、好投手だった戸塚隆（専大）は池新田高監督として甲子園を目指している。

大昭和は45年、2回目の王者となる。橋戸賞は安田猛（早大-ヤクルト）。小田義人（早大-ヤクルト）、小松健二（近大-阪急）の新人が打ちまくった。

51回大会で大昭和は3たび優勝。杉本正（御殿場西高一現中日）、鈴木政明（勝山高）の投に、山本秀樹（名城大、現ヤマハ）、高林勝（東京農大）らが活躍。翌56年12月に休部するも、60年に復活。

遠州・浜松でも打倒・大昭和を目標に旗印を揚げたチームがあった。日本楽器、（現ヤマハ）と河合楽器。

河合の初代監督、高林哲夫（浜松工）は、

当時を「大昭和には王者の貫禄があり、戦う前から圧倒されていた」と述懐する。

一方、日楽の基礎づくりに苦勞した元監督の酒沢成治（育英商-阪急）も「技術差もあったが、それ以上にウチの選手に大昭和コンプレックスがあり、大昭和の強さを知らない人を入れた方がいいと考えて、阪急から森口哲夫（福島商）、浜田耕二（境高）らを連れてきた。また、河合と定期戦を組み、レベルアップを図ったが、なかなか勝てなかった」と振り返る。

初出場は河合が先で第34回大会。社長の河合滋（日本野球中部連盟会長）が選手集めの先頭に立ち、一枝修平（明大-中日）、堀内嗣郎（法大、現財務課長）、小島友宏（駒大）らを春に加えたのが実った。大昭和のエース・金沢宏（早大）、日軽金の主戦・渡辺秀武（富士高）を補強して臨み、ベスト4進出。

日楽も元立大監督の辻猛（立大）を迎えた40年に念願の初出場。2年後の38回大会準優勝。打ちまくった中野孝征（作新学院-国鉄）が久慈賞。左腕・仲子隆司（佐久間高）の力投も光った。

負けじ、と河合が翌39回大会で準優勝。松井副武（御坊商工）、広畑良幸（橋本高）がよく投げ、堀内（久慈賞）と上垣内誠（東洋大-広島）が快打を連発。ヤクルト元監督の武上四郎（中大）はこの前年プロ入り。

黒獅子旗を最初につかむのは日楽で43回大会。このとき29歳だった監督、川島勝司（中大）の回想。「投手に新美敏（PL学園-日拓、現広島コーチ）と池谷公二郎（静岡商-現広島コーチ）の2本柱。打線も河合、大昭和勢を加えて充実。優勝のムードがあった」。新美が期待通りの力投で橋戸賞。事実上の決勝戦と川島がいう、日立製作所との準々決勝は、2-2で迎えた9回、代打の植松清春（中大、河合）が左中間に決勝本塁打。あとは楽だった。

日楽はヤマハと社名変更の58回大会で2度目の優勝。劉秋農（台湾・輔仁大）が橋戸賞ピッチング。武居邦生（国士館大）も個人最多本塁打を11本に伸ばした。

長 野

35回大会で34年ぶり2勝目を記録したのが三協精機（諏訪市）。野瀬昌三（明大）を監督に創部の三協は、高山久男（旧姓・望月、明大）の指揮のもと、29年のセンバツ優勝投手の光沢毅（飯田長姫高一明大、現常任顧問）、村上唯三郎（早大、駒ヶ根工場総務課長）らの力で戦後の長野勢初勝利。

機動力と守りを重視した光沢野球が花を開くのは、42回大会。補強投手の美川信吾（三池工、電気化学）が活躍、打線も幡野正秋（神奈川大、精密部品加工業）、鈴木一比古（明大、料理店経営）、内田俊雄（亜大、現亜大監督）、柳瀬整（東洋大）をそろえ、ベスト4進出。これが長野勢として最高の成績となる。オイルショックの影響を受け、54年に休部。玉井信博（東洋大-巨人）伊藤宏光（大同工-阪神）はOB。

三協精機のあと台頭したのがNTT信越（長野市）。初出場するとき3番打者は関美喜男（徳高、日本野球連盟長野支部理事長）。監督の林今朝雄（法大）は川崎トキコの元エース。

2度目の出場は柳沢敏幸（小諸商、現監督）佐藤公弘（国士館大、のちNTT東北監督）が中心。58回大会でベスト8進出。柳沢が監督に昇格し、松沢浩史（愛知学院大）横井信一（法大）藤嶋一利（中大）らの活躍で、前年優勝の日本石油と大昭和製紙を連破しての8強入りだった。

第2回大会に出た松本機関庫のエースは、のちの東鉄で活躍する南安男。13回大会に、法律書を出版する長野法令（長野市、現第一法規）が出場。監督は現第一法規会長の田中重弥（長野商）だった。長野保線は第4回大会でベスト8。奥村英三（新潟商）、池田平八郎（高田中）、川瀬宏（長野工）らが中心。



新潟

「新潟勢が都市対抗で勝ったのはわずか2回。そのうえ、41回大会に、電気化学（青海町）が出場して以来、出ていないんですから…」と日本野球連盟新潟県支部理事長の皆川登良夫（新潟中）。

2勝のうち、最初の1勝は皆川が中堅手の新潟鉄道局が、第11回大会で挙げた。水島安正（宇都宮工）のドロップがさえた。捕手は小林正（長野商）。3番を打った和賀政男（秋田中）、遊撃は大塚礼治（同）だった。本大会の舞台は踏んでいないが、阪急の今井雄太郎（中越高）も3年間、新鉄局で投げた。

新潟勢のもう1勝は第20回大会の新潟クラブ。篠崎倉庫（神戸市）を7-1と圧倒。チームを率いたのが、阿部宏（新潟中一日大）で、エースは早大で主将兼投手で活躍した石黒久三（長岡中）。捕手は、鈴木治七（新潟中一日大）。

クラブチーム、新潟コンマーシャルも有名。大正の初期、新潟商のOBを集めて結成。橋本喜代治は、初出場（第8回大会）の主将で現日本野球連盟新潟支部長。戦前2回、戦後3回の計5回出場したが、いずれも強豪チームとぶつかり、勝利を飾ることが出来なかった。伊狩研治郎（旧姓・磯野）、西山藤一郎らが初期の中心選手。

新潟交通（新潟市）が第30回大会に初出場。チームを率いたのは、松本商（現松商学園）主将の佐藤茂美。佐藤はのちに神宮球場長。左腕・大塚栄治（日大）、駿足好打の松野五男（新田高）らが出たが、勝てなかった。

電気化学（青海町）は監督の久保山誠（鳥栖工）のもと、美川信吾（三池工）、望月彦男（東海一高）の投の両輪、尼崎光太郎（PL学園）、天本彦文（柳川商）の打者がチームを引っ張った。

石川

第57回大会でNTT北陸（金沢市）が、上原勝男（興南高）一下野博樹（福井工大）のバッテリーと、新座良一（駒大）らの活躍で準優勝したのは記憶に新しい。だが、都市対抗初出場はそれほど古くはなく、39年に電電北陸（現NTT北陸）が当時石川、福井、滋賀の3県で構成していた北陸予選で東洋レーヨン滋賀（大津市）の15年連続出場を阻んだのが最初。

電電富山（現NTT富山）から転勤してきた野崎昭三（不二越工、旧姓高森）が監督。

39年から3年連続出場。後楽園初勝利のエースは清水紀良（七尾高、現東海北陸野球連盟理事）。

40年代に入って、西川物産（金沢市）が台頭した。関西六大学の有力選手を入社させ、44年都市対抗に初出場。しかし、不況で間もなく休部。

西川物産からは山川猛（駒大一阪神）、NTT北陸からは高橋里志（敦賀工高一近鉄）、上照（金沢高一中日）、笠間雄二（金沢高阪神）らがプロ球界に進んだ。

福井

福井県のチームはこれまで都市対抗の本大会に1度も出場したことがない。予選（東海北陸）に出場したのも昭和47年のオール武生（たけふ=武生市）が最後。

戦前、県内で活動していたのが、福井商OBが中心となった「FB（ふくいベースボール）クラブ」、武生中OB中心の「オール武生」などのクラブチーム。県野球連盟監査役の小西宇吉（武生中）は、軍隊を除隊して武生市の実家に戻り、オール武生に捕手として加わった。

終戦直後、都市対抗を目指し、県内の中等学校野球経験者を集めてオール福井（福井市）が結成された。私財を投じてこのチームを維持し続けたのが、現北信越軟式野球連盟会長の牧田太郎。

選手の中に、強肩捕手の伊原徳栄（敦賀商一名古屋鉄道局、現敦賀市民生児童委員協議会連合会長）がいた。

昭和20年、30年代にはオール福井のほか安田商店、丸岡同志クラブ、オール武生、大野大喜クラブ、敦賀セメントといったチームがあった。安田商店には長谷川良平（愛知・半田商工一広島）、大野大喜クラブには笠原和夫（早大一南海）らが在籍していたことも。

富山

「電電公社（現NTT）としては一番出世だった」。昭和30年に初出場した「富山電電」（現NTT富山）の監督だった日本野球中部連盟、同富山県支部各理事長、島原平八郎（神通中=現富山中部高）、は胸を張る。田子糸治（高岡北部高=現伏木高）稲垣忠通（富山中部高）ら大量9人を補強してチーム力をつけた。

都市対抗で長野、新潟と信越予選を組んでいた富山からは、戦前富山紡績（現東洋紡）が2回出場。戦後の立ち上がりも早く、復活の21年、富山商でバッテリーを組んでいた裏浦登志雄投手と井上喜一捕手（富山県野球協会副理事長）を柱とする全富山が後楽園にコマを進めた。

33年、不二越は橋戸賞を受賞した宮崎要（慶大）を監督に招請。富山県勢の都市対抗初勝利を飾った。この時、北陸銀行から外野手として補強された滝外喜夫（滑川高）が優秀選手に選ばれた。

滋賀

昭和12年、滋賀県勢として初めて都市対抗に出場したのは、その前年に創設したばかりの晴嵐会。旭ペンベルグ（現旭化成）大津工場の社員が中心で、主将の捕手・藤原包徳（宇治山田商）を軸にまとまっていた。広瀬習一（大津商一巨人）と森井茂（宇治山田商一名古屋、広島）がプロ入りしている。

戦後の23年、長浜市で織物業を営む大塚産業が、都市対抗に出場した。中心は、慶大のエースだった大島信雄。大島のほか増山桂一郎（慶大一大映）万谷勘一（敦賀商一阪急）坂井豊司（県岐阜卓商一広島）らレギュラー8人がプロ入りした。

1時代を築いたのが東洋レーヨン。25年“和製ペープ”の異名をとった田中勝雄監督のもと佐竹治（早大）、山田良治（大津商）らの活躍で3位。以後14年連続出場し、37年には小田実監督（関大、現東レ取締役）の熱血指導で4位に食い込んでいる。西園寺昭夫と島田雄二（ともに熊本工）は、そろって東映に入団。しかし、繊維業界の不況を受け、43年の出場を最後に休部。

長い空白期を経た湖国球界に新勢力が興る。55年創部のIBM野洲。鴨田勝雄（法大）を監督に引き、その年、東レ以来19年ぶりの後楽園出場。まさに、花形産業・コンピューター企業の勢いを象徴している。

愛 知

東海の都市対抗の草分けとなったのが大正10年に創部した名古屋鉄道局（現JR東海）。大正15年、故伊藤十郎（早大、初代東海北陸連盟理事長）が5代目監督に就任、第1回大会から10年連続出場。2年連続準優勝を果たした。この第一期黄金時代の柱となったのが、武田可一投手（名古屋商）。9年にルース、ゲーリッグらと対決した剛腕である。清田重雄（福井工）も活躍した。捕手の喜多村保（松阪工）、武田と同期の遊撃手・渡部吉三郎（早稲田工手）は「可（ベク）さんのボールは低い球でもホップするほど速かった。」と述懐する。

「武田の名鉄局を倒せ！」が合言葉だったが、その一番手となったのが第10回大会に初出場した全名古屋。伊藤真光（同志社大）らが主力。第16回大会に東邦瓦斯のエースとして大阪・大同製鋼戦で1時間9分の最短試合時間記録を作った松井徳三（同志社大、現日本野球連盟副会長）も“打倒武田”を胸に全名古屋で投げている。

戦後は21年から東邦商OBの久野欽平、長尾芳夫（慶大）や渋谷繁男（半田商、現東海北陸連盟常任理事）らを主力とする愛知産業が7年連続代表になった。

低迷していた名鉄局が大脇照夫監督（滝高、元国鉄）のもとで再建に取り組み、好守の植田利幸（愛院大、現JR東海監督）を中心に50回大会に20年ぶりに復活した。第1回に出場した中で、半世紀が過ぎて都市対抗に返り咲いたのは名鉄局ただ1チームだ。

昭和30年代に入って名古屋市からは新三菱重工（現三菱名古屋）、日通名古屋、電電東海（現NTT東海）が頭角を現した。新三菱は第31回大会に猛練習でしぼり抜いた中島位政監督（愛知商）のもとで黄獅子旗（3位）を獲得。主戦投手は後に監督、野球部長を歴任する鈴木寿（中央大）。

さらに左腕の鬼頭忠雄（向陽高、岡崎出張所長）を擁してひのき舞台で準優勝。鬼頭の女房役は現在野球部長の川島広之（中京高一慶大、勤労部長）。主砲は花井弘（東邦高）。

第33回は日通名古屋が鶴田辰夫監督（東邦高、輸送調整所長）で旋風を巻き起こした。西村充孝（愛知商一明大）が投げ抜き、長谷川清（西陵高、後の監督）らの活躍で初出場。新三菱から補強の鬼頭がマウンドを踏み、ルーキーの捕手山本勇（県岐阜商、現三菱名古屋監督）、恩田祐男、坂東彦彦（ともに県岐阜商）三菱勢の活躍で準優勝。鬼頭は2年連続久慈賞に輝いた。

59回大会で名古屋市へ26年ぶりに白獅子旗を持ち返ったNTT東海の山口敏樹監督（福岡大）も実力主義だった。久慈賞に輝いた上

原勝男（興南高、NTT北陸）、松本安司（岐阜第一高、三菱名古屋）、古田敦也（立命館大、トヨタ自動車）ら補強選手の力を最大限に引き出した。準決勝では10年連続出場のNTT東海助監督・湯之戸孝修（近大）がサヨナラ3ラン。

それより5年前の第54回大会で東海市の新日鉄名古屋が白獅子旗を獲得した。敗色濃厚の1回戦の9回裏、前田泰弘（名院大、サンジシ醸造）の逆転3ランでひっくり返して勢いに乗った。柘植康之監督（東邦高、日鉄商事課長）のさい配も切れ味をみせ、久慈賞を受けた渡辺剛（新居浜商）が熱投。第57回大会で4ホーマーを放って久慈賞に輝いた杉山孝一（岐阜南）はいまも主砲として活躍。13年連続出場の鈴木徳義（木更津中央高）が現監督として再起に燃えている。

三 重

三重県の球史の先駆けとなったのが昭和25年にスタートした三重交通だった。手島秋一監督（早大）の情熱が当時の社長を動かし、労使一体となつてのちの監督、深野昭二（松阪商）、楠彰（四日市高）、藤井宣雄（日大）、水谷勝吉（桑名高）ら有力選手を補強した。3年目には早くも初出場。初戦にサヨナラ勝ちしてムードは一気に盛り上がり、黄獅子旗を獲得した。

このとき熊谷組を完封したのが強館大洋、近鉄を経て入社したばかりの服部力（宇治山田商、法大）。服部はのちに監督を務めたあと、法大監督に転向。36年、三重交通監督に復帰すると、後楽園にも3回出場した。速球派の伊藤孝憲（津高、三交百貨店）強打の東田正義（御所工高、西鉄）らは服部が育てた選手だ。現在は東海北陸連盟の理事長。

ついで、本田技研鈴鹿が名乗りをあげた。初代監督の大塚勝秋（現本田技研熊本野球部副部長）2代目監督の藤村哲也（現副部長）はともに法大出身。藤村が率いた第49回には本格派の名和克巳（木更津中央高、3代目監督）主将の高橋隆（法大、現監督）羅本新二（中京商一ヤクルト）を中心にベスト4。

19回大会を皮切りに戦後3回出場したのが東洋紡富田（四日市）。主戦投手は藤井嗣久（浜松商）。26回大会で三塁手でトップを打った脇村春夫（東大）は現在、東洋紡本社の取締役経営企画室長。

岐 阜

戦後の都市対抗の幕開けに輝かしい1ページを残したのが第17、18回に2連覇の金字塔を打ち立てた岐阜市・大日本土木。岐阜商OBの村瀬保夫（早大）を中心に、戦地から帰った奥村辰一（中大、元同社取締役）、加藤春雄（明大、近鉄）、国枝利通（明大、現中日屋内練習場管理人）らの岐阜商出身者で戦力を固め、鉄腕・中原宏（享栄商、南海）も加わってチームを結成、第17回は、中原が決勝で全桐生を完封して橋戸賞をに輝いた。

翌第18回は昭和天皇、皇后両陛下が観戦された歴史的な年だった。推薦出場の大日本土木は開幕戦の天覧試合となり、主将の村瀬が選手宣誓をした。この年は準々決勝で“火の玉投手”の荒巻淳（大分経専、毎日）を擁する別府星野組、準決勝で投手の葛文也（現池田高監督）がいた全徳島を相次いで倒しV2。5連投の中原がこの年にできた久慈賞を受け、村瀬に橋戸賞が贈られた。大日本土木はその後、プロから引き抜かれる選手が続出。わずか4年間で流星のように姿を消す。

その後、岐阜市・川島紡績がチーム結成と同時に晴れ舞台を踏み、5回出場した。岐阜商出身の森武雄（早大、岐阜カントリー支配人）が選手兼監督を務め、後輩の西松定一（明大）、坂井豊司（阪急、岐阜関スポーツランド支配人）らの強打者と、のちに同社取締役になった荻本伊三武、阪急から入部した森弘太郎の一宮中OB、現巨人コーチの山内一弘（愛知・起工高）らが原動力となった。

続いて「トラック輸送」の西濃運輸が登場した。初代野球部長を務めた田口利夫（慶大、現代表取締役会長）が35年に創設した。初代監督には中京商監督の押田司（中京大、本社グループ企画室長）が招かれ、現野球部長の高橋保（旧姓武田、中京大、岐阜日野常務取締役）、出井鉦一（愛知大、水都タクシー取締役）、重松省三（松山商大、大洋スカウト）、辻恭彦（享栄商、阪神）らの活躍で3年目に初出場。柴垣旭延（中大、現享栄高監督）が監督初陣の第43回は、柴田昌邦（愛院大、自営）の快速球がさえ、細川昌俊（東洋大、四国西濃取締役）の猛打などで黄獅子旗（3位）を獲得。3試合連続ホーマーと打ちまくった細川が小野賞を受けた。

京 都

「優勝旗が重たくて手がしびれました」。積水化学の投手で主将だった竹村弘（関大）は京都にただ1度もたらされた黒獅子旗の感触を今もしっかり覚えている。第34回大会だった。竹村はこの時、主戦の堤亨（関学）を救援して優勝に貢献した。

長慎一（立命）や南勝美（城東工高）、日本新薬から補強の堀田明（関大）らの活躍も光った。監督の浜田一男（城東工高）が「新宿では朝から晩まで練習。1日7時間もノックバットを振るった」とすさまじい猛練習だった。橋戸賞受賞の堤は静岡で会社を経営、浜田は積水化成工業の東京部、竹村は大阪本社でそれぞれ部長職にある。

阪急で通算187勝をあげた足立光宏（大阪西高）、小林繁（鳥取・由良育英）は大丸のOB。清水正輝（関学）は40年代のエース。現在、心齋橋店の家庭用品部長で、夏の甲子園の審判も10年になる。長沢和雄（関大）は46回大会（50年）でベスト4に進出した時の4番打者。この大丸を育てたのは、日本野球近畿連盟副会長の五十嵐義臣（京大中退）。

23年に野球部長となり、溝部武夫（郡山中一阪神）、安井健太郎（日大一近畿グレートリング）らプロ野球経験者と坂元一（専大・常磐炭礦）を中心に活動再開。翌年には京都一商（現西京商）から松井俊雄、京都二商（廃校）から森健次、木寺健、岩木益三らの精鋭を補強して第20回大会に初出場。翌年も連続出場し、全京都から補強した保井浩一郎（平安中一東映）の活躍もあって黒獅子旗を京都にもたらした。

五十嵐を助けて苦勞を共にしてきたのが、現理事長の村齋英一（平城実業）と理事の富田仁義雄（立命高商）。村齋は京都二商が準優勝した時の監督であり、富田は京都市役所の監督を経験している。

奈 良

現在、近畿で唯一加盟チームのない県だが、1度だけ都市対抗の晴れ舞台を踏んだチームがある。昭和22年、県北部の八木町（現在の橿原市）に、旧制畷傍（うねび）中学OBを中心とした軟式野球の強豪、全八木チームがあった。軟式にあきたらず、監督の安井奈良治郎（竜谷大）、主将の遊撃手山上嘉俊（畷傍中）が「硬式をやってみよか」と仲間呼びかけ、翌23年の都市対抗県予選に参加した。関学大の外野手、大谷忠が急造投手となり、

捕手の伊藤正弘（昭和高商）の好リードで県代表となり、近畿二次予選には藤原康芳遊撃手（早大一大丸）、大竹淳平外野手（畷傍中一満川）らを補強、中大和（なかやまと）地域から名を取り「中和（ちゅうわ）クラブ」を作った。チームにそろいのユニホームはなく、安井が紙を切って「YC」を組み合わせたマークを作り、それを白い練習着に張りつけたものだった。

積水化学奈良工場が30年に入り、地元出身の元プロ野球選手、田原康行投手（御所実一阪急）、島田順介外野手（奈良商工一近鉄）、谷口藤一郎内野手（一条高一近鉄）らを集めてチーム強化に乗り出した。現在、奈良中央信用金庫魚町支店長の増田義章投手（畷傍中）は「38年に京都市から都市対抗に出場して優勝した積水化学チームのかかなりの数が奈良工場のメンバーだった」と自慢げだ。

兵 庫

第6回大会に全神戸が優勝した。強豪に次々と当たり、試合のたびに帰り支度をして出掛けた。気がついたら日本一に。捕手の小柴重吉（神戸高商一阪神）はこう述懐する。

奇跡の優勝、といわれたが、木村秀一（関学）が直曲球を巧みに投げ分けた好投があった。

このチームを率いたのが39歳のプレーイングマネージャー、加藤吉兵衛遊撃手（早大）。さらに慶大出の町田重信と梶上初一両外野手がいて陣容からいえば東京俱などにヒケを取っていなかった。町田は戦後、全鐘紡の牧野直隆（現日本高校野球連盟会長）に招かれ、監督として全鐘紡の3連覇にも貢献している。

全神戸のあと神戸税関、大鉄鷹取などが出ているが、神戸税関では稲原幸雄（関学、現日本野球四国連盟会長）はじめ亀山利雄（日大）、尾西東治郎（市岡市）、大鉄鷹取に津田保久（神港商）、住友徳雄（村野工）らが出た。

センバツの審判副委員長、永田三郎（早大、アレン商会会長）が神戸全川崎から都市対抗に初陣したのが第13回。

戦後復活の第17回は各企業から選手が集まって“全神戸”を結成して臨んだ。監督は川崎重工業の高瀬二郎（法大）で、神戸税関の川村貞男（和歌山中）と川崎重工業の鈴木忠三（法大）をバッテリーに、永田が4番を打ってベスト4入り。

第26回に都市対抗史上初の2打席連続本塁打を放った西井福男（八尾高）ら強打者が育

った川崎重工業、榎原好（法大一毎日オリオンズ）江田貢一（伊丹中一松竹ロビンス）両投手がいた篠崎倉庫、溝崎圭一郎（明石高）の神戸製鋼、磯野伸也（神大）、一岡四郎両投手（同大）の三菱重工神戸、若林栄作投手（県尼崎高）の小西酒造などが争い合って、入れ替わり出場したが、本大会での活躍はいま一つだった。

この壁を打ち破ったのが東西の六大学野球で活躍した2人の投手。東大から川崎重工業に入った橋谷健は第41回に三菱重工神戸に補強され、決勝進出の立役者になり、久慈賞を受賞。増岡義教（同大）はパームボールを武器に三菱重工神戸から神戸製鋼に補強されて優勝投手となり橋戸賞を受けた。この時の神鋼は清水一夫（報徳学園一中大）に鍛えられ、小林晋也（京産大一阪急ブレーブス）が打線の軸だった。

36年ぶりに黒獅子旗を兵庫県に持ち帰った富士鉄広畑のエースは神戸年男（高砂高）、主将は村浜忠三塁手（三原高）と中央球界では無名の選手が主力だった。

2回目は、三沢淳（江津工一中日）と中山拓郎（滝川高）の18歳バッテリーが活躍、佐々木恭介一塁手（柏原高一近鉄）が橋戸賞を、若いバッテリーは小野賞を手にした。2度の優勝に導いた荻原達夫（中大、現富士物産専務）は「初優勝は無欲の勝利、2回目は有力選手を入社させ、狙った優勝」と振り返る。

弓岡敬二郎（東洋大姫路高一オリックス）、正田耕三（市和商高一広島）両内野手の波いプレーはいかにも広畑タイプ。今年から監督の尾形正巳（山崎高）は昨年まで17年連続で都市対抗に出た。

この広畑の好敵手が高砂市の鐘淵化学。第18回の時に創部、いきなり本大会で準優勝。阪急にいた尾西信一（桐生高工）や田尻稷（日大）らが活躍。山根俊英（鳥取農専一大洋コーチ）も。第26回も速球投手、山本治（明石高一慶大）が久慈賞の力投を見せたがまたも準優勝。大河賢二郎（高松高一商大一尽誠学園監督）、谷脇一夫（高知商一高知商監督）、玉田光男（宇部商一宇部商監督）、桑原秀範（広島商一法大一堀越高監督）、北原光広（倉敷商一法大一神港学園監督）と多くの高校野球指導者が出ている。

阪神の藤村富美男の次男藤村正美と函館オーシャンの佐藤平七の息子、佐藤治夫（ともに法大出）をはじめ、谷村智啓（報徳学園高一関学大一現オリックスコーチ）井本隆（伊野商一近鉄）もOB。

一時代を作ったのは山陽特殊製鋼。元広島の高岡富夫（呉二中、現浜田運送専務）を監督に第33回から3年連続で本大会に出場。

大 阪

「補回（延長戦）の大接戦に大阪の制覇成る」。大阪毎日新聞（現毎日新聞大阪本社）に4段抜きの大見出しが躍った。第8回大会決勝は大阪市・全大阪と八幡市・八幡製鉄で行われ、延長10回、大阪市がサヨナラ勝ちで初優勝を飾った。

優勝まで4試合を投げ抜いたのは伊達正男（早大）。6年春のリーグでは早慶戦に3連投して優勝を飾り、「伊達の3連投」と話題を呼んだ。

全大阪は昭和9年、それまで1、2番コンビの日本生命、川瀬進（慶大）、弘世正方（早大）の両選手が召集されたのに伴い、三塁手に現日本高校野球連盟会長の牧野直隆（慶大）、遊撃手は岐阜商（現県岐阜商）の監督も務めた久保田信一（明大）、中堅手に村井竹之助（早大）を、二塁手、三原脩（早大）の4人を加えた。一気に若返った個性あふれる全大阪を主将の長谷川信義（明大）が社交性豊かな明るい性格でうまくまとめた。監督は市岡中から早大へ進み、和製ペープの異名をとった田中勝雄だった。「伊達君から担ぎ出したと思うが、佐伯達夫（早大、前日本高校野球連盟会長）から“君がやれ”と言われたのを覚えている。私はベンチで座っているだけだった」と90歳で今なお元気で田中は回想する。

全大阪は慶大系のダイヤモンドクラブ所属の永井武雄（慶大）、早大系のスタークラブの三田村住一（早大）のバッテリーで準優勝した第1回大会から第11回大会まで連続出場。戦後最初の第17回大会に復活、翌18回大会は伊達がチームを率い、花形スターの別当薫（慶大）、笠原和夫（早大）、藤田宗一（法大）らを擁し、優勝候補の筆頭。しかし、準決勝で別当投手を温存したのが裏目に出て敗れた。全鐘紡、日本生命など企業チームの台頭で姿を消したが、その人脈は関西のアマチュア野球の本流を歩んでいる。

戦後の大阪で今なお残る球史をつくり上げたのは全鐘紡である。第21回大会に初出場で初優勝して以来、3連覇を達成した。この記録はいまだ破れず、都市対抗の金字塔としてそびえ立っている。

創部したのは牧野直隆（慶大・現日本高校野球連盟会長）。昭和9年、慶大を卒業、鐘紡に入社した牧野は人事部に配属され寮生1000人がいた寄宿舎の舎監となり寮生の希望者を募って野球部を発足させた。戦後、中国・上海から淀川工場次長で戻った牧野が監督兼二塁手で本格的にスタートした。

鐘紡から鐘化が分離独立したのを機に25年春、鐘紡淀川野球部は全鐘紡野球部と改称され、慶大から高橋久雄、岩中英和、吉岡宏の3人が入部。武藤絲治（いとじ）社長も、野

球部支援に心血を注いだ。

日本生命に勝って大阪市代表となった全鐘紡は補強選手制度を十分に生かした。山村吉隆（慶大）が主力の投手陣に日本生命の片山公三（早大）一皆岡秀雄（明大）のバッテリー、松井実遊撃手（海草中）を加え、黒獅子旗を目指した。打線は絶好調、打ち勝って決勝戦へ進んだ。相手は東京都・熊谷組で史上初の東京一大阪決戦となったが、16年ぶりに大阪へ黒獅子旗を持ち帰った。

続く第22回大会は同じ大阪市代表の南海土建との決勝になった。南海土建は、森下整鎮遊撃手（八幡高）、井上慎一投手（田川高）ら翌年南海入りした若手選手がそろっていた。大阪市代表が決まった時、南海土建が補強を辞退したため、全鐘紡は日本生命から松井、皆岡らを補強した。松井は遊撃手で好守をみせ、ピンチにはマウンドにも立った。決勝戦では3-2と1点リードの8回表一死二・三塁の場面に強心臓で切り抜け、橋戸賞の栄冠に輝いた。

全鐘紡は翌27年、第23回大会は推薦で出場できたにもかかわらず、推薦を辞退し、大阪市予選に出場するという作戦をとった。日本生命を倒せば松井、皆岡らが補強できるからだ。この年、平古場昭二（慶大）、栄屋悦男（近大）の両ルーキーが入社、松井ら補強選手を加えた陣容は、最強を誇った。9番打者の志賀良宏（徳島大）が打率7割で首位打者賞、山村投手の弟で4番、山村博敏（早大）が7打点で生還打賞を獲得した。橋戸賞は松井の史上初の2年連続受賞となった。

マネジャーだった広瀬明（旧制郡山中）はいま、全鐘紡野球部史の作成に意欲を燃やす。1年置いた第26回大会は種田吉富（慶大）が本塁を死守、新加入の多湖隆司、山下新造、平出昌雄の慶大三羽ガラスのヤングパワーで4回目の優勝、松本豊遊撃手（慶大）が橋戸賞に輝いた。

しかし、全国的な繊維不況は全鐘紡として例外ではなく44年春、解散し「強者の時代」は去った。日本野球連盟技術指導委員で報徳学園、慶大、中山製鋼監督を務めた福島敦彦（慶大）、審判の本郷良直（慶大）もOB。

日本生命野球部は昭和4年創部。大阪の企業チームではきっての名門だ。早大で活躍した水上（のち雨宮）義信が中心となって伊達正男（早大）らを勧誘、チームの基礎をつくった。昭和23年、川瀬進監督（慶大）が率いて復活。

ライバルの全鐘紡が先に黄金時代を築いた「火花散るライバル意識とはあのことでしょ。だからジャッジにととも気を使いました」明大卒業後、審判一筋で現在、日本野球大阪

府支部長の小西正一は日本生命と全鐘紡との激しい競合時代を回想する。

日本生命は国賀敏夫（関学）ら好選手を集め都市対抗の出場を重ねはしたが、勝ち進めず、33回大会に藤江清監督（法大）が率いてベスト4に残ったのが最高。36回大会には出場4回目の電電近畿（現NTT関西）が先んじて黒獅子旗を手に入れた。

電電近畿は米谷道雄（早大）が監督として基盤を固め、池西増夫（関大）が激しい指導で鍛え上げたチームだった。若い井上弘昭（北陽一中日）、浜口春好（海南）が主軸を打ち、日本生命から補強の小弓場保（橋本高）が力投、橋戸賞を獲得した。

日本生命の初優勝はそれから20年後の56回大会、31回目の挑戦で実った。捕手兼任、監督の佐竹政和（関大）が勝負への執着心を植え付け、早瀬万豊（関大）が力投、松下電器から補強の島田行雄（近大）が打ち、橋戸賞を獲得。

31回大会門真市・松下電器が決勝に進出、27年の野球部創設からチームを率いる仁木安（浪商一阪急、現日本野球近畿連盟理事）は松下幸之助社長（当時）から「2位になったということはまだ先に目標があるということや」とねぎらいを受け、チャレンジ精神を再びかき立てた。この時の主将、森川教幸（立教）は現野球部長。松下電器からは福本豊、加藤秀司、山口高志（いずれも阪急）、福岡納（阪神）らがプロに進んだ。

鳥 取

「自信を持って投げ込んだ初球のカーブを狙い打たれ、さすが、ペープ山下実（慶大-阪急）だと唇をかんだのを思い出す」。第8回大会初出場の米子市・米子鉄道局（現JR西日本米子支社）のエース・中村晃は78歳のいまも、山下の痛烈な打球を忘れない。

米鉄局野球部は昭和4年に創部された。米子中（現米子東高）主将で卒業したばかりの中村を中心に、米子中、鳥取中（現鳥取西高）などの野球部員でチームを編成、審判を務めた大鉄局監督の藤本定義（巨人、阪神監督）が中村を大鉄局に呼び寄せた。中村は第4回大会に全大阪から出場。翌年に実家へ帰って、米鉄局チームの強化に全力を挙げ、第8回大会から3年連続出場の功労者となった。

58年、米子市に王子製紙米子が創部され、鳥取に再び社会人チームができた。「なんとか鍛えて、夢の都市対抗へ」。斉木博行監督（米子工高）は燃える。

和歌山

住友金属が悲願の黒獅子旗をつかんだのは第53回大会。出場14回目、創部32年目のことだった。

5連投に耐えた石井毅（元西武）島田宗彦（阪神）は54年に春夏の甲子園で箕島高（和歌山）が連覇の偉業を成し遂げた時の黄金のバッテリー。

宙に舞った山中正竹監督（日本野球連盟技術委員）は法大時代、リーグ最多記録の48勝を挙げて神宮をわかせたエース。栗山和行も箕島高での52年センバツ、明大時代の全日本大学選手権に続き社会人で3度目の日本一を味わった。三好一幸も東海大相模高時代の45年夏の甲子園での全国制覇メンバーである。優勝の味を知る男たちがチームを頂点へ引きあげた。

住友金属野球団が本拠地を大阪製鋼所から現在の和歌山製鋼所に移したのは昭和40年。大阪時代に、全日本メンバーとして世界選手権にも出場した左腕の名投手・河合貞雄（慶大、日本野球連盟理事）をはじめ、神宮のスター選手だった山口欣二（早大）永野元玄（慶大）らの活躍で3度の都市対抗出場経験を持つ。しかし、住金の名を球史に強烈に刻み込んだのは、和歌山へ移った年、第36回大会から2年連続の決勝進出だった。

酒井汪監督（慶大、ワコースチール常務）に率いられた住金は、白獅子旗に終わったが、連続「久慈賞」に輝き“悲運のエース”といわれたのが左腕・清沢忠彦（慶大）。この時の主将で大活躍した宮地昭雄（県和歌山商）は補強を含め連続13回の都市対抗野球出場。

47年から10年間監督をつとめ土台をしっかりと築きあげたのが、現日本野球連盟技術指導委員長で、ロス五輪では全日本監督として金メダルをもたらした松永伶一（法大）である。

岡山

第23回大会、岡山鉄道局（現JR西日本岡山支社）が初出場、そのとき助監督だったのが池田立人（日本野球中国連盟理事長）。

池田は、広島工出身。国鉄に入社し、徳島鉄道時代は二塁手の控えて都市対抗に出場。岡鉄局へ移り、25年、岡山東商、関西など地元の高校出身を中心に硬式野球部を再組織した。

27年、優勝間違いないといわれた全広島を降した勢いで勝ち進み、初出場を果たした。立役者は落ちる球を巧みに使ったエース、藤原幸男（北神商＝現兵庫商高）。

連続出場の翌24回大会はベスト4に進出。快進撃は地元を大いにわかせた。

27回大会に玉野市・三井造船が出場したあと、倉敷レイオン（のちにクラレ岡山）が49年に解散するまで14回出場、岡山の“顔”となった。クラレは米子鉄道局の本田竹蔵（関大）を監督に招き、関西を中心に好選手を集めた。初出場の第28回はベスト8に進出、4番打者はのちに代打男で有名になった麻生実男（盈進商＝大洋一産経）。

クラレはベスト8が3回で頂点には立てなかったが、好選手を輩出した。その代表は門田博光（天理高＝オリックス）。さらに得津高宏（PL学園高＝ロッテ）、外山義明（天理高＝ヤクルト）、片岡新之介（芝浦工大＝西鉄＝阪神＝阪急＝広島）、平野光泰（明星高＝近鉄）をプロに送った。広島前二軍監督の藤井弘（盈進商＝現盈進高）も初期のOB。解散時のメンバーで竹中円（萩高）は三菱重工神戸の監督で都市対抗出場を目指し、吉田和幸（駒大）は神戸製鋼、後藤哲夫（興譲館高）は新日鉄室蘭の監督を務めた。

第39回大会には倉敷市・三菱重工水島が出場、エースはヤクルト二軍コーチの松岡弘（倉敷商高）。55回大会初出場の川崎製鉄水島の渡辺和生（青学大）は大会通算1000号本塁打を記録。

島根

島根で社会人野球が初めて行われたのは昭和7年7月17日、松江球場落成式の日である。都市対抗の第1回から連続出場している全大阪＝全神戸が新装の球場に8000人の観衆を集めてはつらつとしたプレーを展開した。これを機に松江銀行（現山陰合同銀行）の全松江クラブが8年に誕生した。和田は三塁を守り、エースは松江商を卒業したばかりの石

飛三郎（島根県高野連顧問）。

昭和8年の山陰予選は松江球場で行われ、公式記録員は山内以九士（本名育二、元パ・リーグ記録部長）。松江市内の呉服商「越後屋」の長男の山内は、松江中から慶大に進み、野球部に在籍したが、スコアラーに専念。昭和15年、日本野球規則の編集に尽力、“記録の生き字引”と言われた。

戦後、島根には全松江、全出雲、中国電力、山陰合同銀行、全大社、滝川産業、全大田、鏡山クラブ、亀山クラブ、七尾クラブが続々結成され、島根県予選を戦った。

山陰合同銀行の三塁手だった景山一功朗（ひころう）が松江クラブの再編成を図った。38年の中国予選で倉岡山と対戦、米沢茂行（松江農林高）が好投したがサヨナラ負け。監督だった佐藤良源（元島根県高野連理事長）は今でも大魚を逃した悔しさを語る。

山口

徳山市野球場が1万8000人のファンで埋まった。10年前、広島カーブのストッパー、津田恒実（南陽工高）が協和発酵でデビューしたときのこと。津田を当時の工場長、河盛好昭（現KFエンジニアリング社長）が「ぜいうちへ」と説得に成功。その津田が昭和54年5月に徳山球場で登板した。「外野席を初めて開放しました」と元新日鉄光監督だった秦野譲二（現日本野球連盟山口支部理事）。

県下の草分けは下関市に本社があった大洋漁業。関門海峡をはさんで門司鉄道局、八幡製鉄、星野組など6チームが西日本社会人リーグを結成した。

戦後の第18回大会に晴れ舞台へ。外野手の矢野純一（明大）がよく打った。

25年春に「全下関」が発足した。大洋漁業でプロに行かなかったメンバーを中心にしたクラブチーム。面田実、引地信之ら若手の活躍で22回大会では本大会に出場したが、プレーイングマネージャーだった有村家斉（立大）や引地が大洋球団入りしたためにわずか2年間で火は消えた。二塁手だった静間孝生は、その後、母校の下関商で監督を務めた。

24年には、防府市で協和発酵、岩国市で東洋紡岩国（51年廃部）、宇部市でも宇部興産（36年同）が産声を上げた。中でも東洋紡岩国は第29回、30回と本大会に出場。審判長を長く務め、徳山大会の運営に力を注ぐ波佐間厚（現中国連盟理事長）の「早く黒獅子旗を見たいですね」には実感がこもる。



広島

都市対抗の歴史の中で広島県勢の優勝はたった1度。しかも50回大会まで待たなければならなかった。この年初出場した三菱重工広島は粘りの野球で21回大会の大阪市・全鐘紡以来29年ぶりに初出場優勝を果たした。新日鉄光から補強の大町定夫（柳井商高、現阪神二軍マネージャー）が5試合すべてに先発、「橋戸賞」を手にする活躍をしたほか佐々木幸治（法大、現監督）、若松茂樹（東洋大）、松山商で全国優勝を経験した大森光生（明大、現助監督）、近鉄からのドラフト一位指名を付けて入社した2年目、金光興二（法大）らを軸にチームが一丸となった。

監督だった迫田守昭（慶大、現三菱重工広

島製作所鉄構部営業課長）の手で中国路に黒獅子旗が翻ったのも初めてのことだった。

戦前は全呉の全盛時代。第1回大会に出場した。全呉は呉工廠の中にある総務、会計、造機、組立など10部からピックアップされた選手で毎年選抜チームをつくった。全呉の外野手として都市対抗に計3回出場した高辻矯司（早大）は「メンバーに入るのが大変でしたよ」と言う。戦後は三浦芳郎（明大）が社会人野球復興の先頭に立ち、51年まで日本野球連盟広島支部長を務めた。

終戦直後の17回大会に出場したのは鯉城園。娯楽施設を営んでいた会社が野球好きの集まりをバックアップ、会社名がそのままチーム名になった。門前真佐人（阪神）平柳敏男（阪神）濃人渉（金鯱-太洋-西鉄）に

戦前、プロ球界で活躍していた広島県出身選手がズラリ。

広島クラブの三塁を守った円光寺芳光（広島商高、現飲食店経営）は、広島商、広島鉄道管理局（現JR西日本）の監督になり、広島商では32年夏の甲子園で全国制覇を成し遂げた。

40年代に入ると電電中国（現NTT中国）三菱重工三原、日本鋼管福山（現NKK）が台頭。日本鋼管福山は50年から13年連続で後樂園の土を踏んだ。柱になったのは投の田村忠義（広陵高）、打の山内明（盈進高）。53回大会田村が「久慈賞」に輝いた。このほか広島マツダはたった1度の出場ながら角三男（三菱重工三原-巨人-日本ハム）ら補強選手の頑張りで準決勝まで勝ち進んだ。

海外

「アメリカ遠征を終え7月21日に横浜港に復港すると、満鉄の人が出迎えてくれた。1週間後に満州俱樂部が上京、君の入社辞令を持ってくる。それと同行してくれ、といわれた。そこで私は初めて都市対抗野球大会を知った」。昭和2年の第1回大会を制した大連満州俱樂部の4番打者・芥田武夫（旧姓・氷室=早大、のち近鉄監督、同球団社長）は入社から10日余で臨んだ都市対抗の思い出を、こう回想している。

満俱には、東京六大学出の花形選手がそろっていた。1番に木原慶二（明大）、2番に正田捨三（法大）、3番・二神武（立大）、投手に児玉政雄（早大）、竹中二郎（立大）。数少ない“地元”大連商出身で外野手が出場した宗正要（84）=東京在住=は「中沢さん（不二雄監督=明大、のちパ・リーグ会長）が、頻りに東京へ選手集めに行っていた」と記憶をたどる。好選手を集めたうえ、大連実業団と“大連の早慶戦”と呼ばれた定期戦をやり、日本国内チームを招待し、米國艦隊や米大学チームとの試合で腕を磨いた満俱。決勝で全大阪を破って初代王者についた。満俱に続いて大連実業団が第2回大会で黒獅子旗を握った。立役者になったのが左腕・谷口（岩瀬）五郎（早大）。谷口は釜山商業を出て満鉄に入ったが、のち実業団に移った。谷

口の剛速球と左腕独特のシュートがさえ、東京倶楽部を3安打完封して優勝、再びアカシア並木の大连へ大旗を持ち帰った。打の中心は安藤3兄弟の長兄忍（明大、東急総監督）だった。

翌年の第3回大会は、満俱が巻き返し2度目の優勝。慶大から浜崎真二投手（阪急、国鉄監督）、明大から永沢武雄二塁手を加えて充実。大連市V3を達成、国内ファンを齒ぎりさせた。

満州（現在の中国東北部）の野球の歴史は古い。日露戦争後、ポーツマス条約によって日本はロシアの鉄道を引き継ぎ、撫順・煙台などの炭鉱経営権を手にした。その経営母体として明治39年に南満州鉄道株式会社（満鉄）が誕生。その3年後満鉄の社員と若葉会（見習社員）とで野球の試合が行われている。大正元年には、大連市の製油会社、商社の支店、両替店で働く人たちが実業団チームが結成され、大正3年には満鉄勢の満俱が発足。両者は互いに火花を散らし、満州球界をリードしていった。

満俱の育ての親が、満鉄理事の猪子一到（京大）。三高時代は名遊撃手として鳴らし、自らプレーし、資金集めや選手のスカウト活動をやり、名投手・岸一郎（早大）を入社させている。昭和27年、近鉄球団社長に就任する。

同チームには神宮の大スター、ペープ山下実（慶大、阪急監督）や戸倉勝城（法大、阪急監督）がまた実業には三拍子も四拍子もそろった天才・田部武雄（広陵中-明大、沖繩で戦死）や広島商、阪神、広島監督を歴任した名将・石本秀一（広島商）、好投手近藤金光（早大）らがプレーしている。

「春残雪の夕まぐれ バットの響雲を衝き 秋銀草の朝まだき…」の満俱部歌の作詞者は満鉄本社文書課長の山田潤二。のち毎日新聞専務、毎日球団社長を務める。満俱のマネージャー・佐野博はいま、パ・リーグ総務部長。

朝鮮半島のチームも強かった。14回大会で悲願の黒獅子旗を手にしたのが全京城。野村武史（岐阜商、のち毎日、船橋市議）の投球がさえわたった。

全京城は再開の16回大会も制した。秋山光夫（法大）がよく打った。秋山は終戦直後の20年、黒獅子旗を腹に巻いて京城を脱出。復活の17回大会の覇者となった岐阜市・大日本土木には、約2ヵ月遅れで手渡された。

台湾からも、第4回大会から16回大会にかけて12回代表を送り込んだ。台北交通団が2度ベスト4入り。剛球投手の渡辺大陸（明大、大洋監督）がいた。

香 川

35回大会に初出場した高松市・四国電力のエースは佐々木辰夫（新居浜工）。

翌年の第36回大会にも連続出場した四国電力は、電電東京を再試合で8-6に降した後、日本石油を時間切れ寸前の延長13回二死後、岩崎賢次（多度津工）の快打、好走でサヨナラ勝ちする殊勲の連続でベスト8へ進出。全国で唯一の電力チームによる快進撃に後樂園はわいた。投げては国鉄四国（現JR四国）から補強された白石静生（鳴門高-広島-阪急）、打者では島谷金二（高松商-中日-阪急）、越智功（今治北高）らが活躍した。渋谷幸春（鳴門高-中日-日本ハム）鶴飼克雄（同大-日本ハム）のプロ選手を生んだが、オイルショックの影響などで13年間の野球部史を閉じた。

ついで四国の雄となったのは丸亀市・大倉工業。野球部生みの親は松田正二（現会長）だ。第38回大会に創部5年目で悲願の初出場を果たした。主将の網野久昭は現役引退後、坂出商監督として母校をセンバツベスト4へ導いた。村上義則（小豆島高-中日）、仁科時成（岡山・山陽高-ロッテ）、藤岡貞明（福岡第1高-大洋）をプロ球界に送り込んだが、57年3回目の出場を果たした後休部。「かつて四国のリーダーだったことを思うと寂しい」と尾崎守（日本野球連盟香川支部理事長）は嘆く。休部中の四国電力では松元謙仁（高松商）、大倉工業では小西康雄（池田高）が審判員として社会人の球界を支える。

徳 島

徳島から初めて都市対抗に出場したのは徳島鉄道。徳島商出身の大和孝（関学大）、小松親之や撫養中（現鳴門高）で鳴らした立本義雄-松田速馬のバッテリーをはじめ、県内の有望な高校生を集めて第10回大会に名乗りをあげた。

戦後になると全徳島が活躍する。徳島新聞の総務局長兼営業局長だった稲原幸雄（徳島商-関学大、日本野球四国連盟会長）がオーナー兼監督となり、林義一（明大）、葛文也（同志社大）、平井=旧姓生田=正明（明大）、大島茂治、岸本守ら徳島商の後輩と徳島中（現城南高）OBの片山=旧姓大平=正典（同志社大）、笠屋義雄（法大）らの精鋭を集めて戦後復活最初の第17回大会に出場してベスト8に進出。葛は一時東急でプレーした後、池田高の監督となり、甲子園で春夏合わせて3回優勝している。

第21回大会（25年）に出場した四国日通は渡辺光夫（徳島商、満俱）が絶妙の制球で好投。第27回大会は、後に阿波銀行の副頭取となった今谷直行（撫養中）が監督で若田信義、坂東喜久夫、坂東重康ら徳島商勢を中心とした阿波商業銀行（現阿波銀行）が出場。徳島県から最後の都市対抗出場となったのが、第32回大会の東邦レーヨン。栗橋孝（鳴門高）、猪尾恒朗（徳島工）、田野勲（池田高）らがハツラツとしたプレーで健闘した。

高 知

高知県勢としては過去7回の都市対抗出場を果たしているが、白星はわずかに1個。第24回大会に出場した高知市・土佐電鉄が前橋市・大生相互銀行から奪ったものだ。その時のエース、弘瀬昌彦（高知商）は現在、高知市内の「弘瀬鮮魚店」の経営者である。打者では香西誠一（丸の内高）らが活躍した。アキレスけんを痛めた岡村孝雄監督（南満工専、阪急、広島）に代わり、四国予選、後樂園で指揮をとったのが久米滋三・現土佐電鉄社長（福島商）。39年部活動の幕を閉じた。

高知県初の都市対抗出場チームはセンバツで準優勝した高知商のエース、広瀬誠次（高知商、現明徳義塾高職員）を擁して乗り込んだ四国銀行。広瀬を救援したのは岡崎敏彦（現姓長尾、丸の内高、現四国ビジネスサービス）。その後、田辺英朗（専大）、秋田学（土佐）、刈谷精一（高知商）、楠瀬隆章（法大）、麻岡正男（大商大）らがチームの土台をつくり、また中心選手として活躍した。39年のセンバツ準優勝投手、山本智久（池田高）は現在も現役でチーム引っ張る。

四国銀行から丸善石油に補強され、準優勝の原動力となったのが弘田澄男（高知高、ロッテ、阪神）現阪神コーチ。

愛 媛

“野球王国”といわれる愛媛だが、社会人野球では丸善石油（現コスモス石油）がただ1度頂点を極めただけ。昭和25年、矢野信雄（法大）が初代監督となり、好打好守の中山豊男（松山高商）、木村薫（北子中=現松山北高）を中心にスタート。30年代に入り谷井昭三（明大）、山本（旧姓河西）三郎（関大）、篠崎治郎（明大）、矢形勝洋（関学、オリックス球団専務）といった大学の花形選手や村上公博（新居浜工）、西五十六、三雄兄弟（大成高）らを加え、監督に明大の岡田悦哉=現、英津也（中日二軍監督）を迎えるなど精力的な補強活動をした。

28回大会に愛媛県勢として初出場、いきなりベスト8に進出。翌年も2年連続ベスト8で自信をつけた丸善は、30回記念大会に3年連続出場し、“三度目の正直”で優勝を果たす。西弟は5試合すべてに登板、打っても活躍して橋戸賞と打撃賞をダブル受賞した。現在西武球団のスカウト。

石油業界を襲った不況で休部するが44年に復部し、42回大会では久慈賞を受けた久玉清人（防衛大）の力投で準優勝した。

愛媛に初めて誕生した社会人チームは伊予鉄道。松山商OBの後藤（旧姓北川）二郎、高橋佳文や田中佳太郎（今治中、伊予鉄道相談役）らが中心だった。昭和の初めに事業不振で解散したが、後藤はその後伊予銀行の監督、日本野球連盟愛媛県支部長を務め、社会人野球の発展に尽くした。

23年からは林義一（明大、大映）の大王製紙と樋笠一夫（陸軍士官学校、巨人）の大西製紙が対抗。続いて倉屋西条が渡辺省三（平壤工、阪神）-木織武美（尾道商、阪急）のバッテリーで全盛期を築く。丸善の後は電電（NTT）四国が台頭。見兼敏茂監督（八幡浜商）の下、岩城真一（志度高）、松田正和（高松商）らの強打で34回大会に初出場以来、昨年まで15回出場の強豪にのし上がった。



福岡

「八幡は、強くないといかんです」というのは新日鉄八幡（元八幡製鉄）の18代目に当たる現監督、瀬藤彦彦（小倉高）だ。戦前は、同じ北九州市内にある門司鉄道局（現JR九州）と覇を競い合った。第11回、25大会で優勝、準優勝を1回ずつ記録。

新日鉄八幡は、大正13年に産声をあげた。八幡製鉄所内の各職場から選抜し、全製鉄野球団として活動を始めた。初代監督に稲垣重穂（法大）を迎えて陣容が整ってきた。歴代監督の中には荒牧（旧姓加藤）富造、加藤喜作兄弟（広陵中）、大岡虎雄（豊国中一大映一松竹）ら一世を風靡した名が並ぶ。

第1期の黄金時代は昭和10年代。第11回大会で北九州へ黒獅子旗を持ち帰った。初優勝より劇的だったのは第25回大会。戦後の石炭ブームで日鉄二瀬（二瀬町＝現・飯塚市）など強豪の前にやっと第3代表の座を確保。福島一雄（早大）、畑間正夫（明大）両投手の力投と国方博二塁手（明大）、井原数己三塁手（鹿児島商）の活躍で優勝、井原は橋戸賞を受けた。福島は現在、九州連盟の理事長。

第45回大会は左腕の萩野友康投手（慶大）を中心に新人、工藤博美外野手（折尾高）の好打で準優勝。

門鉄局は、九州で最古の社会人野球チーム。大正9年に正式に野球部として誕生した。翌10年からは八幡製鉄と定期戦を始めた。創部当時に名三塁手として登場したのが荒牧富造だ。大正14年に八幡製鉄へ移り、福島の前の理事長として社会人に力を注いだ。

門鉄は第10回大会には3度目の挑戦で頂点に立ち、九州へ初の大旗をもたらした。当時の井野川利春（明大）捕手は監督を兼ねていた。投手陣の好リードが光り、その年に制定された橋戸賞を手にした。その後、プロ野球の審判員としても名を残した。

打倒門鉄、八幡をめざしたのが、福岡西日本鉄道（のちの西鉄球団）。初出場にもかかわらず第19回大会で黒獅子旗を手にした。本大会の5試合は9人の不動のメンバーで1人の交代もなく戦う。

監督は二塁手を兼ねていた宮崎要（慶大）。その統率力が認められ橋戸賞が贈られた。エース武末悉昌（大連高商－西鉄）は第1次予選直前に急性たんのう炎の診断。さらしを巻いて腹の痛みを抑えての力投でもあった。翌年連覇をめざして本大会に臨んだ準決勝で大昭和製紙に不觉を取った。このときは新留国良（鹿児島商－西鉄）が4試合で4本塁打を記録。この大会から新設された「本塁打賞」を獲得した。

このころ黒ダイヤモンドに乗って炭鉱チームの台頭がめざましい。日鉄二瀬を筆頭にし

て志免鉱業、日鉄嘉穂、三井田川、三井山野、日炭高松などがあり、隣接の佐賀、長崎各県を含めると11チームにのぼった。23回大会には日鉄二瀬が2度目の本大会挑戦で準優勝。

監督は、濃人渉（広陵中－中日）。在籍10年間で寺田陽介（博多工－南海）、吉田勝豊（武雄高－東映）、古葉竹識（専大－現大洋監督）、江藤慎一（熊本商－中日）らをプロ球界に送り出した。

第28回に村上峻介（人吉中）が1回戦で鐘淵化学（高砂市）を相手に1－0の初の完全試合を達成した。日炭高松もユニークなチーム。西鉄、南海で活躍した深見安博（中大）を監督に迎えて2度本大会に出場した。このチームからは高校野球指導者への転身組が目につく。末武幸雄（福岡大）は九州高野連理事長、喰田孝一（東筑高）が母校の監督として高校球界をリードしている。

このほか東洋高圧大牟田、権藤博（鳥栖高、現近鉄コーチ）が4年間活躍したプリチストン久留米、ダイエーの原田賢治（対馬高）の育ったあけぼの通商クラブと、すでに解散したチームの中から人材が巣立っていった。

大分

すい星のように登場したのが別府市の星野組だ。戦後間もないころ頂点を極めた。今は新日鉄大分だけが唯一のチームとして残り、ライバルの大分鉄道管理局が国鉄の統廃合で消え、日本鉱業佐賀関が一昨年、休部している。

星野組は昭和21年に軟式チームから硬式に衣替えした。オーナーの故岡本忠雄は豊富な資金を蓄え、火の球投手といわれた荒巻淳（大分経専－毎日オリオンズ）、永利勇吉（立大－阪急）らを集めた第18回大会に初出場。監督は小嶋仁八郎（中大）。西本幸雄（立大－毎日オリオンズ）がオール京都から呼ばれた19回大会は、今久留主淳、功兄弟（いずれも嘉義農林－毎日オリオンズ）らも加わり決勝戦までコマを進め、捕手の永利勇吉が久慈賞。

3回目の挑戦となった第20回大会は快進撃、黒獅子旗を手にした。25年にはプロ野球の2リーグ分裂で荒巻や西本、今久留主兄弟のほか東口清美（津中）、小俣秀夫（早大）、白川一（鹿児島商）らが毎日に入団、関口清治（台北工、のち近鉄監督）も西日本入りし、星野組は消えた。

打倒星野組をめざしたのは別府市で土建業をしていた植良組。巨人軍から白石敏男（広陵中、のち広島監督）、神主打法の岩本義行（明大）のほか阪急にいた志手清彦（大分商）らという強力メンバー。また星野組の軟式チーム時代に活躍した橋本俊吉（大分商・日本野球連盟大分県支部理事）らがクラブチーム大分実業をつくった。いずれも星野組を倒せず、歴史の幕を閉じた。

その後、大分鉄道管理局が産声を上げた。さらに日本鉱業佐賀関、新日鉄大分という企業チームが覇を競い合った。大分鉄道管理局は現在九州連盟理事で当時監督だった沖誠哉（中津中）の指揮下、第36回大会ベスト4入り。小野賞がチームに贈られた。

また日本鉱業佐賀関は4回目の本大会となった第48回大会で藤沢公也投手（八幡浜高－中日）を中心にベスト4へ進出。新日鉄大分も第55回大会でベスト8入り。岩切利浩投手（宮崎工高）は若獅子賞を手にした。

佐賀

現在、佐賀に社会人のチームはないが、戦後間もなく石炭ブームに乗って後樂園をわかせたチームがあった。

初めて本大会に足跡を残したのは杵島炭鉱。23回から2年連続の出場を果たした。主砲は松尾五郎（佐賀商－阪神）で弓削辰巳（鹿児島商－元鹿児島鉄道局監督）、大田敏行（鹿児島高－中日）、日本ハムのスカウト瓜生勝（豊国中）らがその顔ぶれ。当時の県支部長で同行したのは大田黒辰彦（早大、現九州連盟理事）。

大田黒は佐賀中から早大に進み、卒業後、藤倉電線に入り第12、13回大会と連覇を果たした時のマネジャー。黒江透修（鹿児島商－巨人）も在籍した。

唐津市出身で忘れてならないのは本塚忠助（唐津中－門鉄－南海）。中学時代は投手、速球に威力があったが制球力がなく門鉄入りして内野手に転向した。無類の強肩と俊足が目をついた。木塚の中学の先輩では下尾勝馬（早大－満洲重工業－西日本）、戸川須賀男（満鉄－朝日軍）、林茂（杵島炭鉱－西日本）らがプロ野球の創成期を支えた。

異色の人材に原貢がいる。鳥栖工から隣接の福岡・東洋高圧大牟田に入り、内野手として7年間在籍したうち本大会に3回出場。三池工高の指導に当たり第47回の夏の甲子園で全国制覇を果たした。原辰徳（巨人）の父。

長 崎

唯一、活躍を見せている三菱重工長崎の部史が長崎県の社会人野球史といえる。大正3年ごろ、早くも前身の三菱長崎造船所内に愛好会のようなものが誕生。大正7年には正式な野球部が産声を上げた。晴れ舞台に登場するまでは、半世紀以上を待たなければならない。その間けきを縫って県勢で初めて本大会へ出場したのが全佐世保。第27回大会のこと。高校を卒業したばかりの弘川義彦（伊万里商高一親和銀行）や西町吉生（佐世保北高—西肥バス）らが加わった。大洋松竹ロピンスにいたことのある浮田逸郎（佐世保北高）が監督。3年後の第30回大会には日鉄北松が会場した。元大映の大庭宏（佐世保北高）の力投で代表権を握った。三菱重工が初出場の夢を引き寄せたのは創部から57年ぶりの第46回大会。初戦に完敗したが、入部2年目の山口圭一（福岡大）は「感激を十分味わった」という。3回目の第52回大会で悲願の初勝利を挙げた。大会史の中で県勢が記した貴重な1勝。

熊 本

すっかり九州の旗頭になった。ニコニコド一、NTT九州、本田技研熊本と、3チームがしのぎを削る。最初に産声を上げたのは熊本鉄道局。熊本機関庫が中心となってスタート。都市対抗の誕生とともに野球部が正式に発足した。

昭和10年に巨人と対戦、柏木実投手（済済養）が好投し、打線も佐々木一正（唐津中）が中前適時打を放って完封勝ち。

元巨人軍監督、川上哲治（熊本工）の郷里だったことから武宮敏明（熊本工）、田中資昭（日大）らが巨人入り。後藤次男（のち阪神監督）も大学（法大）に戻り、戦後は戦力が大幅にダウンした。

熊本オオツカは、熊本市内で映画館を営んでいた大塚勇一郎がオーナーのチームで、初戦に熊谷組（東京）を5—4で降して大きな話題となった。32回大会で電電九州（現NTT九州）が晴れ舞台へ。森田政一（鹿児島商）の好きい配で予選3試合を粘り強く勝ち抜いた。エースの山本勲介（済済養）を肩の故障で欠き宮本義隆投手（鎮西学院）を中心に、打線も原口利也（鹿児島商）、安河内徹（福岡工高）らが働いた。左腕の伊達義城（宮崎本庄高）は息の長い投手だった。

九州産交の初代監督は、西田宏城（九州学院高）。林幸義（熊本工）、小林浩二（大牟

田南高）、岩永太（宮崎本庄高）らが集まったうえ江口明信（中大）、長丸誠一（関東学院大）らの新人が入部、第41回大会には本大会の代表権を得た。

強力なライバルの出現で電電九州も43、44回大会と、いずれも連続でベスト8入り。中原敬（鹿児島商—広島）、外木場義郎（出水商—広島）らプロ球界にも人材を送り出した。真弓明信（柳川商—阪神）は新人の47年に遊撃手で出場している。

宮 崎

宮崎は社会人野球不毛の地なのだろうか。企業はもとよりクラブチームもいまはない。歴史をめぐって見ても、華やかな足跡を残したチームが見当たらない。県民は、郷土出身の福良淳一（延岡工高—大分鉄道管理局—オリックス）、西村徳文、森田芳彦（いずれも福島高—鹿児島鉄道管理局—ロッテ）、矢野秀人（都城高—NTT東京）らを熱心に応援するしかない。

野球に力を注ぐ企業がなく、高校時代に将来有望とされた選手は隣接の鹿児島や大分へ出向くしかない。森田は第54回大会と翌年に九州産交（熊本市・解散）に補強されて本大会へ出場した。さらにロス五輪の日本メンバーに選ばれた。福良も大分鉄道局（解散）で花を咲かせた。

鹿 児 島

鹿鉄局の前身である鹿児島鉄道の創部は古く、第4回大会に本大会へ出場した。4番を打った鎮守芳雄（鹿児島商）はその後、門鉄へ移り、第10回大会に門鉄が優勝したときのマスクをかぶった。

戦後の26年に鹿児島市電が誕生。2強時代に入り、互いにしのぎを削った。監督の折田力（拓殖大）は鹿児島市出身で高島屋東京店のころプレーヤーだったが、大リーグの解説書などを読みあさり、「生きたルールブック」ともいわれた。さらに個性を重視した指導法は定評があり、野母得見（川辺高—南海）と鶴狩道旺（伊集院高—西鉄）の2人のエースをプロ球界に送り出した。

鹿鉄局の初勝利は5度目の第37回。2勝目は第54回大会で、熊谷組から。監督は米盛司

郎（玉竜高）。一昨年、分割・民営化のおおりをうけて輝く伝統に幕を引いた。

当時、活躍した選手のうち渡辺和広（福島高）、水流勝、福々野毅（いずれも鹿児島商）がJR九州へ移籍、晴永清徳（鹿児島高）がニコニコドーの新転地で中心メンバーとして張り切る。

沖 縄

沖縄の選手として本大会に初登場したのは安仁屋宗八（沖縄高—琉球煙草、現広島コーチ）だ。第34回大会に大分鉄道局の補強選手としてマウンドに立つ。安仁屋は金田季春投手（佐伯鶴城高）から「お前の投げ方ならいいシュートになるからマスターしろ」とアドバイスされ、カミソリ・シュートをマスターして武器に沖縄からプロ入り第1号。

南国の地に初めて産声を上げたのは全那覇。市内のクラブチームから選手を集めて編成し第23回大会の南九州予選に初めて参加した。

その後、琉球煙草や琉球電電、琉球石油などにチームが出来た。中でも琉球煙草は35回大会に沖縄勢として初出場。投手陣には那覇高時代、春のセンバツに出場したことのある嘉数（旧姓坂元）信一や琉球石油から補強の藤吉昇（沖縄工高）らが含まれていた。

2度目の挑戦は第40回記念大会の琉球生命、さらに本土復帰を記念して43回大会に出場した全那覇は、電電九州と顔を会わせた。身長182cm、体重105kgの巨漢、上原繁（糸満高）や興南高が夏の甲子園でベスト4へ進出したときの主力選手の金城勉（沖縄大）らを中心にした打線。投手陣は右本格派の安谷屋里吉（琉球大）を擁して期待を集めながら零敗。白星どころかまだ本大会で1点も刻んでいない。

本土復帰後、4チームは全部解散した。全那覇が出場したとき外野手だった上原義則（興南高）らが全沖縄を結成した。その後、勤務先の強力で琉球銀行クラブが出来た。上原は監督として強化に努め九州地区予選に毎年顔を出している。沖縄県野球連盟会長としてアマ野球を支えたのは国場幸輝。



あとがき

1927年（昭和2年）に神宮の森で誕生した都市対抗野球大会が、1989年（平成元年）60回目の大会を迎えました。人間でいえば還暦に当たる、この大きな節目の記念行事の一環として、日本野球連盟と毎日新聞社が都市対抗野球大会60年史を編さんいたしました。

基本的には東京日日新聞当時の毎日新聞に掲載された記事をもとに、可能な限り正確な記録を網羅することを目指しました。さらにより見やすくするため、インング、テーブルの記載に工夫を加えました。しかし、創成期、終戦直後の混乱期など、記録、写真とも十分とはいえない面もあります。さらに充実させるために、資料などお持ちの方は、毎日新聞社東京本社運動部（東京都千代田区一ツ橋1-1-1、電話 03-212-0258）にご連絡いただければ幸いです。

各大会ごとのテーブルについても、できる限り試合順に並べる努力をいたしましたが、それぞれの記録のサイズが違うこともあり、紙面のつごうで順序が異なっているところもあります。

都道府県の球宴 人物マップは、60回大会を前に毎日新聞運動面に連載されたものを一部手直したものです。原則として敬称は略させていただきました。

不幸な戦争による中断もありましたが、この輝かしい都市対抗野球大会の歴史は、日本の社会情勢、経済の推移を、そのまま反映させてきたことを、改めて痛感いたしました。

編さんに当たり多くのご協力をいただいた日本野球連盟、各地方連盟をはじめとする関係者の方々に、厚くお礼を申し上げます。

戸田 駿

60年史編さん委員

小野 秀夫	有馬 寧雄
篠原 一豊	二階堂昭雄
服部 力	石渡 明
松本 吉永	三浦 拓也
	戸田 駿

都市対抗野球大会60年史

1990年（平成2年）1月
発行 日本野球連盟
毎日新聞社
レイアウト K2
印刷 製本 (株)高速オフセット
非売品 ©毎日新聞社1990

都市対抗野球大会出場チーム、優勝チーム・準優勝チーム一覧表

Table with 16 columns representing years from 1901 to 2016. Rows list participating teams and their locations, such as 北海道 (Hokkaido), 青森県 (Aomori Prefecture), 宮城県 (Miyagi Prefecture), etc.

第二次世界大戦による中止

Table with 32 columns representing years from 1917 to 2016. Rows list participating teams and their locations, including 大分県 (Oita Prefecture), 福岡県 (Fukuoka Prefecture), 佐賀県 (Saga Prefecture), etc.

